独立行政法人国立文化財機構年報

平成１９年度

平成19年度 年報 目次

Ⅰ　19年度自己点検評価報告書

19年度年度計画（自己点検評価報告書処理番号付）…… 1

ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために

とるべき措置…… 21

１．歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承…… 21

２．文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信…… 39

３．我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与…… 99

４．文化財に関する調査及び研究の推進…… 120

５．文化財の保存・修復に関する国際協力の推進…… 356

６．情報発信機能の強化…… 372

７．地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上…… 438

（受託事業）…… 456

ⅱ．業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置…… 501

ⅲ．予算、収支計画及び資金計画…… －

ⅳ．その他主務省令で定める業務運営に関する事項…… 514

19年度自己点検評価報告書（調査研究）一覧…… 517

Ⅱ　施設概要…… 523

Ⅲ　財務諸表…… 528

Ⅳ　評価

１．文部科学省独立行政法人評価委員会評価…… 567

２．独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価…… 630

Ⅴ　日誌…… 655

Ⅵ　運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図…… 672

附属資料：　事業実績統計表 …… 715

平成19年度

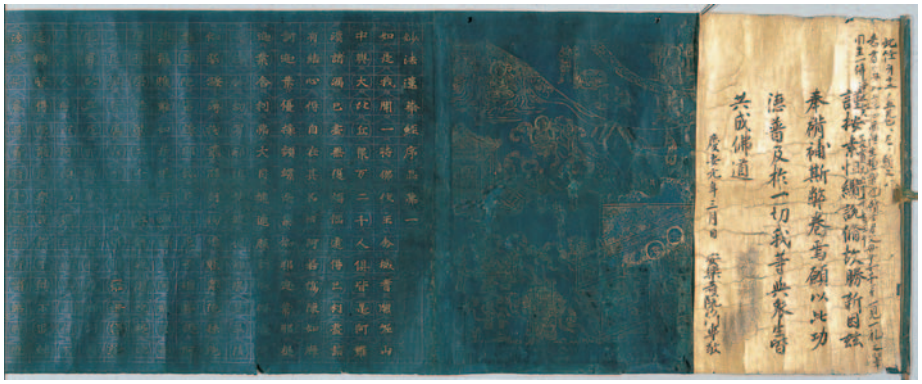
新収品図版［東京国立博物館］

購　入

北野天神縁起絵巻（建治本）断簡

（重要文化財）雨下猛虎図鐔　奈良利寿作

寄　贈



一字宝塔法華経巻第一

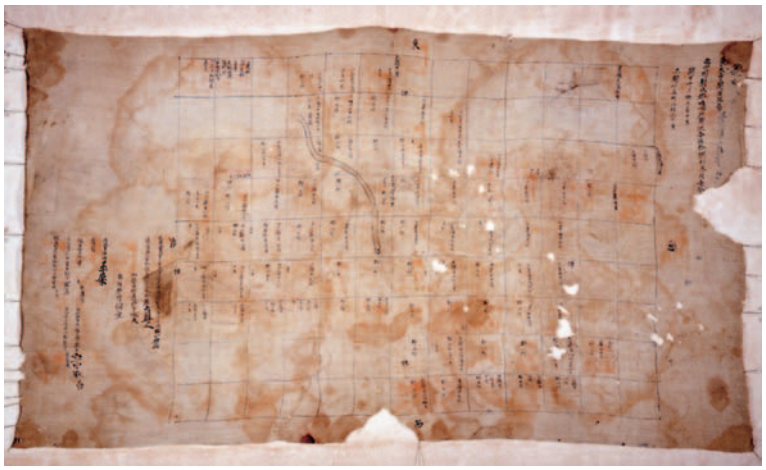
白磁扁壺

円形切子碗

平成19年度

新収品図版〔奈良国立博物館〕

購　入

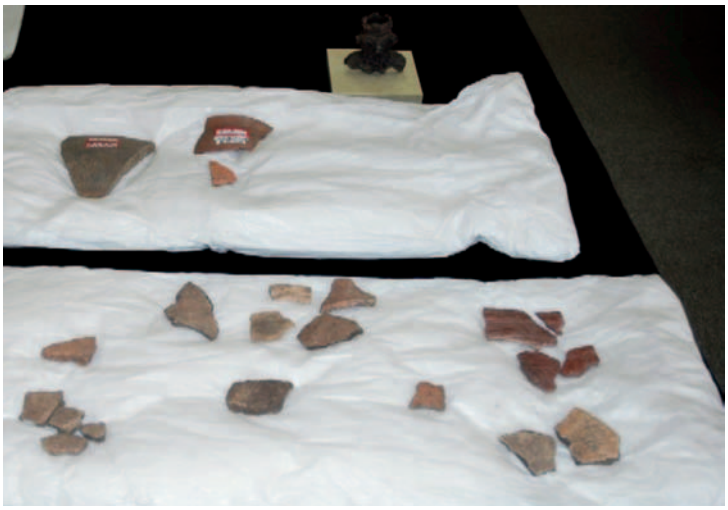


越中国射水郡鳴戸村墾田図

戒壇院厨子扉絵図像

寄　贈

銅板押出如来倚像



縄文時代遺物ほか

平成19年度

新収品図版〔京都国立博物館〕

購　入

西行物語絵巻

貫之集巻下断簡（石山切　をむな）

ＩＨＳ花入籠目文蒔絵螺鈿書見台

寄　贈

鳥花山水図　陳箴筆

御所人形　見立龍退治

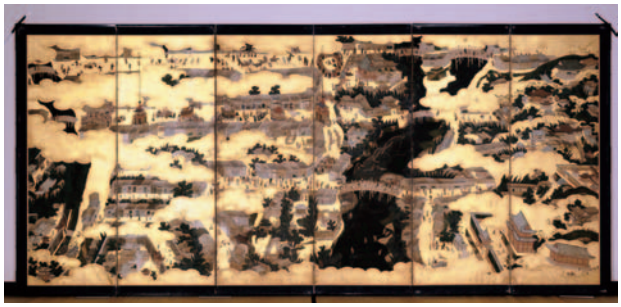
平成19年度

新収品図版〔九州国立博物館〕

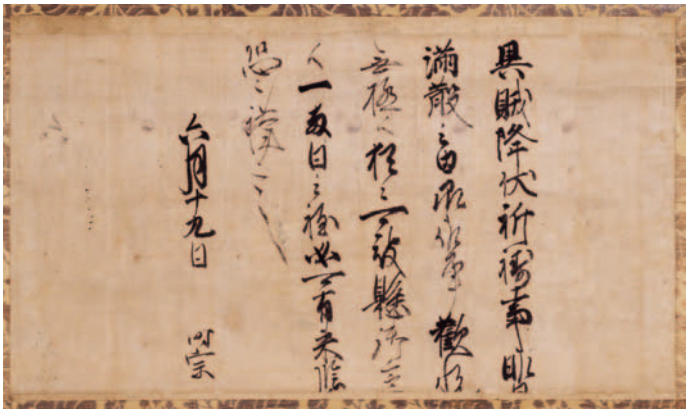
購　入

（重要文化財）銅鐘　金ノ承安六年ノ銘アリ

（重要文化財）亀甲地螺鈿鞍



洛中洛外図屏風



（重要美術品）北条時宗書状

彫唐津茶碗

Ⅰ　19年度自己点検評価報告書

19 年度年度計画（自己点検評価報告書処理番号付）

報告書処理番号	19 年度計画
	平成 19 年度独立行政法人国立文化財機構に係る年度計画 独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規定により、平成 19 年 4 月 1 日付け 19 庁財第 4 号で認可を受けた独立行政法人国立文化財機構中期計画に基づき、平成 19 年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。 **Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置** **1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承**
0101-0104	(1)-1　適時適切な収集 各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していくよう取り計らう。
0101	（東京国立博物館） 日本を中心として広く東洋諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。
0102	（京都国立博物館） 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。
0103	（奈良国立博物館） 仏画、仏像、経典・仏教関係書跡等、仏教工芸、仏教考古資料の中から重点的に購入する。
0104	（九州国立博物館） 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。
0201-0204	(1)-2　寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用や、相続税の猶予措置の創設を手始めとする税制面での環境整備を進めるなど、積極的に働きかける。
0201	（東京国立博物館） 平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、寄託品数 2,400 件を目標とする。
0202	（京都国立博物館） 平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、寄託品数 6,000 件を目標とする。
0203	（奈良国立博物館） 平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、寄託品数 1,960 件を目標とする。
0204	（九州国立博物館） 文化交流展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、寄託品数350件を目標とする。
0301-0304	(2)-1　収蔵品の管理・保存 収蔵品の適正な管理に努めるとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。
0301	（東京国立博物館） 1)　本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。 2)　列品存在確認作業（棚卸）を継続して計画的に実施する。 3)　歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進める。 4)　収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 5)　収蔵品の生物被害を防止するため、統合的有害生物防除管理手法の徹底を図る。 6)　展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。
0302	（京都国立博物館） 1)　平常展示館建替事業（百年記念館（仮称））の一環として建設された東収蔵庫を活用し、収蔵品の保存環境の

	充実を図る。
	2) 特別展示館（重要文化財　旧帝国京都博物館）の耐震調査を実施し、地震対策を検討する。
0303	（奈良国立博物館）
	1) 文化財保存修理所を円滑に運用するため、文化財の積極的保存を図る。
	2) 収蔵庫及び展示場の適正な温湿度管理の徹底を図る。
	3) 本館及び仏教美術資料研究センターの耐震調査を進める。
0304	（九州国立博物館）
	1) IPM（総合的有害生物管理）導入により、文化財の生物被害防止を図る。
	2) 全館的視野にたった陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。
	3) 博物館科学・保存修復諸室を円滑に運用し、文化財の積極的保存を図る。
0301-0304	(2)-2 保存環境の調査研究の実施
	保存カルテの作成及び空調稼働時と休止時の変化が文化財の保管状況に与える影響の調査研究を進める。
0301	（東京国立博物館）
	1) 美術、工芸、考古、歴史資料及び民族資料の保存カルテを年 500 件程度作成する。
	2) 収蔵庫、展示室の温湿度など保存環境に関する年次報告を整備する。
	3) 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。
0302	（京都国立博物館）
	収蔵品の保存カルテを年 100 件程度順次作成する。
0303	（奈良国立博物館）
	収蔵品の各部門の保存カルテを年 100 件程度作成する。
0304	（九州国立博物館）
	1) 収蔵品の保存カルテを年 200 件程度作成する。
	2) 館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。
0401-0404	(3)-1 収蔵品の修理
	修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。
0401	（東京国立博物館）
	1) 国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。
	2) 作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、70 件程度の本格修理を実施する。
	3) 保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る。（100 件程度）
0402	（京都国立博物館）
	1) 修理が必要な収蔵品のうち、緊急性の高いものについて修理する。（10 件程度）
	2) 文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る。（250 件程度）
0403	（奈良国立博物館）
	1) 修理が必要な収蔵品のうち、緊急性の高いものについて修理する。（4件程度）
	2) 文化財保存修理所の積極的活用を図る。
	3) 修理部門工房を文化財保存修理所に移設統合し、効率的な運用を図る。
	4) 修理資料のデータベース化の調査を実施する。
0404	（九州国立博物館）
	1) 文化交流展示室に陳列するために必要な文化財のうち、緊急性の高いものについて修理する。（8 件程度）
	2) 博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。
	3) 修理資料のデータベース化の調査を実施する。
0401-0404	(3)-2 科学的な技術を取り入れた修理
	伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。
0401	（東京国立博物館）
	1) 紙本作品の繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
	2) 修理前あるいは修理中に、蛍光 X 線分析、X 線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
0402	（京都国立博物館）
	1) 紙本作品の繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
	2) 修理前あるいは修理中に、X 線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
0403	（奈良国立博物館）
	1) 紙本作品の繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
	2) 修理前あるいは修理中に、X 線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
	3) 古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品の X 線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。
0404	（九州国立博物館）
	1) 紙本作品の繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

2)　修理前あるいは修理中に、顕微鏡、デジタルスコープによる観察を行い、蛍光X線分析、X線回折、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1) 展示の充実

東京、京都、奈良、九州4館の特色を生かし、再度、国立博物館を訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。

0501-0504　①　平常展

展観事業の中核と位置づけ、特集陳列等の充実を図る。また、作品キャプションについては全てに英語訳を付するとともに、時代背景等をわかりやすく伝えるために展示テーマごとの解説の充実を図り、その外国語訳に努める。

0501-1　(東京国立博物館)

ア　定期的な陳列替の実施（年200回程度）

イ　陳列総件数　約6,000件

ウ　「仏像の道　インドから日本へ」の新たな陳列を企画実施する。

エ　東洋館平常展のリニューアルを引き続き検討する。

オ　本館「日本美術の流れ」をはじめとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。

カ　外国語パンフレットをよりわかりやすくリニューアルする。

1)　特集陳列

○新収品

・平成18年度新収品（6月19日～7月16日）

○日本美術

・水滴―動物や野菜をかたどった水入れ(4月10日～7月1日)
・黒田記念館　黒田清輝の作品Ⅰ(4月10日～5月6日)
・屏風(4月24日～6月3日)
・能「杜若」の面・装束(4月24日～6月17日)
・海外所在の日本美術品修復(5月15日～5月27日)
・琉球の工芸(5月29日～9月17日)
・根来塗―朱漆の美(6月12日～9月17日)
・天皇の書―宸翰からみる書風の変遷―(6月19日～8月19日)
・能「加茂」の面・装束(6月19日～8月19日)
・天皇の書―宸翰からみる書風の変遷―(6月19日～8月19日)
・親と子のギャラリー「博物館のおもちゃ箱」(7月3日～9月24日)
・板碑 ―中世の供養塔―(7月10日～10月28日)
・黒田記念館　黒田清輝の作品Ⅱ(11月4日～12月2日)
・キリシタン(8月21日～9月30日)
・能「山姥」の面・装束(8月21日～10月21日)
・東洋の名品―唐物(9月11日～10月8日)
・アイヌの祈り（9月19日～12月16日)
・描くやきもの・・・奔放なる鉄絵の世界(9月26日～12月16日)
・寛永の三筆とその書流(10月10日～11月18日)
・歌舞伎衣裳（10月23日～12月24日)
・舞楽装束(12月26日～20年2月17日)
・正月展(仮)（20年1月2日～1月27日)
・アイヌの文様(20年1月2日～3月30日)
・甦る天平の宝－正倉院宝物模造(20年1月2日～2月24日)
・高野コレクション(20年1月22日～3月2日)
・館蔵能面名品撰(20年2月5日～3月2日)
・近代洋画の黎明―お雇い外国人が伝えたもの(20年2月5日～3月16日)
・保存修復展（20年2月13日～3月23日)
・能「箙」の面・装束（20年2月19日～4月6日)
・お雛様と人形（20年2月26日～4月6日)
・絵巻（20年3月11日～4月6日)
・桜（20年3月25日～4月6日)

○考古相互貸借

・考古相互貸借(仮称)(12月11日～20年2月3日)

○歴史資料

・日本の博物学　雛形に学ぶ(4月24日～6月3日)
・日本の博物学　古写真―記録と記憶―(6月5日～7月1日)
・日本の博物学　博物図譜-真の姿を探る-(7月3日～8月26日)
・日本の博物学　災害と情報(8月28日～10月8日)
・日本の博物学　江戸をみる-徳川将軍家と江戸城-(10月10日～11月11日)

	・日本の博物学　日本を歩く-蝦夷・北海道編-(11 月 13 日～12 月 16 日) ・日本の博物学　「文化財－調査と保護－」(20 年 1 月 2 日～2 月 17 日) ・日本の博物学　「東京帝室博物館歴史部の変遷」(20 年 2 月 19 日～3 月 30 日) ○東洋美術 ・15・16 世紀インドネシア半島のやきもの(19 年 3 月 6 日～5 月 27 日) ・拓本の世界―３館所蔵善本碑帖展―高島菊次郎中国碑コレクション(4 月 17 日～7 月 1 日) ・朝鮮王朝の生活の美(5 月 22 日～7 月 16 日) ・クメール王国のやきものと金属器(5 月 29 日～8 月 26 日) ・バティック―インドネシアの更紗(5 月 29 日～8 月 26 日) ・敦煌出土裂Ⅰ　幡と夾纈平絹(5 月 29 日～8 月 26 日) ・古代中国の貨幣(6 月 5 日～9 月 2 日) ・高島菊次郎氏寄贈中国書画―槐安居コレクション―(7 月 3 日～9 月 2 日) ・朝鮮の団扇と扇子（7 月 18 日～9 月 2 日) ・敦煌出土裂Ⅱ　描絵平絹・綾(8 月 28 日～11 月 18 日) ・インドの細密画(8 月 28 日～11 月 18 日) ・イカット(8 月 28 日～11 月 18 日) ・漢時代の明器―ミニチュア模型にみる 2000 年前のくらし―（9 月 4 日～12 月 2 日) ・中国書画精華(9 月 4 日～10 月 28 日) ・高麗翡色青磁の誕生(9 月 4 日～12 月 2 日) ・墨蹟―流れ圜悟を中心に―(10 月 30 日～12 月 27 日) ・西アジアのガラス器（11 月 20 日～20 年 1 月 27 日) ・カシミヤ･ショール(11 月 20 日～20 年 1 月 27 日) ・古代中国の鏡(12 月 4 日～20 年 3 月 2 日) ・吉祥―歳寒三友（20 年 1 月 2 日～1 月 27 日) ・山本達郎氏寄贈東南アジア彫刻コレクション(20 年 2 月 13 日～5 月 5 日) ・西アジア遊牧民の染織(20 年 2 月 13 日～5 月 5 日) ・端物切本帳(20 年 2 月 13 日～5 月 5 日) ・封泥(20 年 3 月 4 日～6 月 1 日) ○保存科学 ・保存修復展（20 年 2 月 13 日～3 月 23 日) ○親と子のギャラリー ・博物館のおもちゃ箱（7 月 3 日～9 月 24 日) ・版でつくる（11 月 27 日～12 月 24 日)
0501-2	2)　文化庁関係企画 ・「新指定品展」(仮称)（4 月 24 日～5 月 6 日)
0501-3	3)　その他企画 ・「博物館に初もうで」(20 年 1 月 2 日～1 月 27 日)
0502	(京都国立博物館) ア　定期的な陳列替の実施（年 50 回程度) イ　陳列総件数　約 1,600 件 ウ　時機に応じた京都文化を中心とした独創的な特集陳列を企画し、実施する。 エ　活発な収集を通じ、常に新しい資料の発掘に努め、平常展の充実を図る。 オ　特集陳列 京都文化の真髄を伝える宮廷・古社寺伝来の文化財を中心に展示する。 ・「新収品展」(6 月 20 日～7 月 29 日) ・「後宇多法皇入山 700 年記念　大覚寺の名宝」(8 月 8 日～9 月 17 日) ・「能楽と美術」(10 月 11 日～11 月 11 日) ・「館蔵品のはじまり－京都博物館からの贈りもの－」(11 月 21 日～12 月 24 日) ・「社寺伝来の名刀」(20 年 1 月 2 日～2 月 11 日) ・「清水隆慶－老いらくのてんごう－」(20 年 1 月 2 日～3 月 30 日) ・「雛まつりとお人形」(20 年 2 月 23 日～3 月 30 日)
0503	(奈良国立博物館) ア　定期的な陳列替の実施（年19回程度) イ　陳列総件数　約600件 ウ　活発な収集と新しい資料の発掘により平常展の充実を図る。 ・西新館　考古・絵画・書跡・工芸部門の平常展示 ・本館（1～13室）　彫刻部門の平常展示 ・本館（14室・15室）　中国青銅器の平常展示 ・「注目の逸品」を適時選定する。 エ　特別陳列により平常展の充実を図る。

	独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「文化庁新収品展」（仮称）（7月14日～8月19日） ・「おん祭と春日信仰」（仮称）（12月1日～20年1月14日） ・「お水取り」（20年2月2日～3月16日） オ　親と子のギャラリー ・「色と彩」（仮称）（7月14日～8月19日）
0504	（九州国立博物館） ア　定期的な陳列替の実施（年110回程度） イ　陳列総件数　約1,200件 ウ　平常（文化交流）展の部分的なリニューアルによって充実を図る ・関連展示室7「遣唐使とシルクロード」内の遣唐使船積荷模型展示コーナーをより広く改造し、来館者に快適なものにする。 ・関連展示室6「かね・すず・たいこ」内に仮面を中心とする展示を行う。 エ　特集陳列により、独創的なテーマおよび地域に密着したテーマを掘り下げる（日程はいずれも予定）。 ・「インドの工芸（仮称）」（関連展示室9　7月3日～9月24日） ・「タイの工芸（仮称）」　（関連展示室9　9月26日～12月23日） ・「異界の妖精　アジア民族（仮称）」（関連展示室9　20年1月1日～3月31日） ・「修理仏画御披露目陳列（仮称）」（関連展示室11　10月11日～11月18日） ・「朝鮮通信使（仮称）」（関連展示室11　11月20日～12月24日） ・「はなやかな騎馬文化の世界　笹塚・双六古墳出土品重要文化財指定記念（仮称）」 （基本展示室Ⅱテーマ　6月19日～1月7日） ・「斐世清がみた日本（仮称）」（基本展示室Ⅱテーマ　20年1月8日～3月31日） ・「水中考古学（仮称）」（場所・時期とも未定） ・「東シナ海をめぐる交易（仮称）」（場所・時期とも未定） ・「九州の近世陶磁（仮称）」（場所・時期とも未定） オ　他国語対応のガイドブックの作成 ・英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のガイドブックを作成する。
0601	②特別展 海外展「醍醐寺展」（ドイツ連邦共和国国立芸術展覧会ホール・20年3月7日～7月6日） 1100年余りに及ぶ長い歴史を持つ真言密教の寺である醍醐寺に焦点をあて、絵画、書跡、彫刻、工芸といった多様な分野にわたる代表的な寺宝200件余りを選定してドイツ・ボンにおいて展示する。これにより、日本仏教ないし密教の歴史と多様な日本仏教美術の姿を広くヨーロッパの人々に紹介し、日本の古代文化の優れた一面を理解いただこうとするものである。
0601	（東京国立博物館） 目標入場者数　97万人
0601-1	ア　「レオナルド・ダ・ヴィンチ―天才の実像」（19年3月20日～6月17日） 目標入場者数50万人 ルネサンスの巨匠、レオナルド･ダ･ヴィンチの傑作「受胎告知」（フィレンツェ・ウフィツィ美術館蔵）を日本で初公開し、あわせてレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿の写しやそれらをもとに制作されたさまざまな模型や映像などを展示することにより、レオナルド･ダ･ヴィンチの芸術と科学に関する広範な試みを紹介する。
0601-2	イ　足利義満六百年遠忌記念「京都五山　禅の文化」展（7月31日～9月9日） 目標入場者数10万人 五山とは中国にならって禅宗の大寺五つを選んで格付けた制度であり、京都五山は五山の上の南禅寺、および第一位天龍寺以下相国寺、建仁寺、東福寺、万寿寺をいう。鎌倉時代から室町時代にかけて、朝廷や幕府の庇護を受けて繁栄をきわめ、中国風の禅文化が興隆した。京都五山の禅の文化が生み出した禅僧の肖像、墨蹟、水墨画、仏像など、ふだん拝観できない宝物の数々を展示する。
0601-3	ウ　大徳川展（仮称）（10月10日～12月2日）　目標入場者数25万人 徳川家康からはじまる江戸幕府15代の将軍それぞれにスポットをあて、肖像画や武器・武具・衣装などの遺品によって各将軍の個性と業績をたどるとともに、将軍家や御三家に伝わった宝物を一堂に集め、江戸の武家文化を形成した徳川家のすべてを紹介する。尾張徳川家に伝来した「源氏物語絵巻」も特別出品される。
0601-4	エ　宮廷のみやび―近衞家1000年の名宝（20年1月2日～2月24日） 目標入場者数12万人 近衞家は藤原北家の流れを汲み、五摂家の筆頭で公卿第一の名門。その当主で、内閣総理大臣であった近衞文麿が設立した陽明文庫には、千年あまりにわたって伝えられた宝物が収蔵されている。陽明文庫のコレクションを中心に、明治の初年に宮廷に献上された宝物などを含めた近世までの近衞家の名宝を一挙に公開する。
(0601-5)	
0602	（京都国立博物館） 目標入場者数　9万人
0602-1	ア　「金峯山埋経一千年記念　藤原道長　－極めた栄華・願った浄土－」（4月24日～5月27日） 目標入場者数　2万人

	金峯山埋経１千年を記念し、金峯山経塚からの出土品を中心に、道長が極めた栄華と、願った浄土の様相、さらには末法思想の展開を同時代の美術、工芸品及び考古遺品等から探る。
0602-2	イ　「狩野永徳」（仮称）　（10 月 16 日～11 月 18 日）目標入館者数　７万人 桃山時代を代表する画家、狩野永徳の遺作を中心に、彼を陰で支えた父・松栄や弟・宗秀、後継者である息子の光信・孝信、弟子である山楽らの作品や資料をテーマ別に展示し、永徳やその周辺画家たちの活動の実体を明らかにすると同時に、狩野派画家の魅力を紹介する。
(0602-3)	
0603	(奈良国立博物館) 目標入場者数　22万人
0603-1	ア　「神仏習合」(4月7日～5月27日)　目標入館者数　3万人 近年の研究成果を踏まえつつ、「神仏習合」のはじまりから本格的展開までを紹介する。仏像、仏画、工芸品等、約200件を展示する。
0603-2	イ　「院政期の絵画」(9月1日～9月30日)　目標入館者数　1万人
0603-3	ウ　「第59回正倉院展」(予定)　目標入場者数　18万人 奈良時代の優れた文化財を鑑賞するまたとない機会として、正倉院に保管される聖武天皇御遺愛の品々や、東大寺大仏開眼会で用いられた法具・調度・楽器などの宝物から約70数件を借り受け、公開展示する。
0604	(九州国立博物館) 目標入場者数　38万人
0604-1	ア　「未来への贈りもの―中国泰山石経と浄土教美術」 （4月10日～6月10日）目標入場者数　10万人 末法の世の中にあって、経典を後世の人々へ伝えようとする思いは、国と時代、方法の違いはあっても同じだった。今から約千五百年前の中国と約千年前の日本の作品を中心に、贅と美を尽くした仏教芸術の精華を一堂に会する。
0604-2	イ　「日本のやきもの」(7月7日～8月26日・予定) 目標入場者数　5万人 世界最古の土器の一つである縄文土器から現代の伝統陶芸にいたるまでの、日本の陶磁器の各時代、各地域の名品を展覧し、世界に誇る日本陶磁の技と美を紹介するものである。文化庁の海外展事業の一環として、ポルトガルに送り出す前に公開する。
0604-3	ウ　「西本願寺展（仮称)」(9月22日～11月18日・予定)目標入場者数　15万人 浄土真宗本願寺派の本山である西本願寺は、平成 23 年（2011 年)、宗祖親鸞聖人 750 回大遠忌法要を迎える。そこで、九州国立博物館開館２周年を記念する展覧会として、西本願寺にゆかりの美と文化遺産を、従来にない規模で紹介する。
0604-4	エ　「京都五山　禅の文化（仮称)」(20年1月1日～2月24日・予定) 目標入場者数　8万人 足利義満遠忌 600 年を記念し、鎌倉時代から室町時代にかけて華開いた京都の禅文化を紹介するもの。京都五山をはじめ五山派の禅宗寺院にのこる優品を展示し、日本文化史上、京都五山が果たした大きな役割を示す。東京国立博物館との共同主催。
0701-0704	③展覧会広報活動の取組み 法人としての広報活動を展開する。 ・法人概要、年報を作成する。 ・法人ウェブサイトを運用する。
0701	(東京国立博物館) 平常展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 1)　「東京国立博物館ニュース」の発行・配付（年６回） 2)　ウェブサイトのリニューアル及びウェブサイトによる情報提供（更新年 300 回以上） 3)　広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等 4)　年間スケジュールリーフレットの制作・配付 5)　「総合案内パンフレット」（7 か国語）「フロアガイド」（4 か国語）等パンフレットの制作・配付 6)　マスコミ媒体と連携した広報活動の展開 7)　電子メールマガジンの配信 8)　モバイルサイトの開発を検討する
0702	(京都国立博物館) 1)　「博物館だより」の発行・配布（年４回） 2)　「News Letter」（英文）の発行・配布（年４回） 3)　年間スケジュールリーフレット「催事案内」の発行・配布 4)　特集陳列チラシの作成・配布 5)　ウェブサイトによる情報提供（日本語、英語）（常時更新） 6)　モバイルサイトによる情報提供（常時更新） 7)　「展示案内」リーフレット（6 カ国語）の作成・配布 8)　マスコミ媒体と連携した広報活動の展開
0703	(奈良国立博物館) 1)　平常展の魅力に重点化した博物館だよりを発行する。（年４回）

	2) 電子メールサービスによる展覧会及びイベント情報の発信。 3) メディア及び公共交通機関との協力による広報の充実を図る。 4) 年間スケジュールリーフレット「催事案内」の発行・配布 5) 特集陳列チラシの作成・配布 6) ウェブサイトによる情報提供（日本語、英語）（常時更新）
0704	（九州国立博物館） 1) 外国語のガイドブックを刊行する。 2) 特別展の実施に伴う広報・宣伝材料の制作 3) マスコミ媒体と連携した広報活動の展開 4) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」の発行（年 4 回） 5) ウェブサイトによる情報提供（日本語・英語）（常時更新） 6) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開 7) 九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動の展開
0801	④黒田記念館所蔵作品の公開機会拡大 （東京国立博物館） 特集陳列「黒田記念館　黒田清輝の作品」を開催(4 月 10 日～5 月 6 日、11 月 4 日～12 月 2 日)し、所蔵作品の公開機会を拡大する。
0901-0904	(2)　日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業に重点化する。
0901	①　学習機会の提供 （東京国立博物館）
0901-1	1) ナショナルセンターとしてふさわしい教育普及事業を実施する。 ・先導的事業のモデル化及び実践 ・「みどりのライオン」プロジェクトの実施 「みどりのライオン」プロジェクトを通して、表慶館を教育普及センターと位置づけ、日本の歴史・文化及び東洋文化の理解促進を図る。
0901-2	2) 学校との連携事業を推進する。 ・スクールプログラム（鑑賞支援・就業体験）の実施 ・全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施 ・全国歴史教育研究協議会（日本史・世界史）との連携事業の実施 ・教員内見会の実施
0901-3	3) 文化財を分かりやすく理解するための講座・講演会等を実施する。 4) 列品解説・月例講演会・テーマ講演会・連続講座等を実施する。
0901-4	5) 東京藝術大学との連携事業を継続して実施する。
0901-5	6) キャンパスメンバーズ（大学会員制度）による大学との連携を継続して実施する。
0902	（京都国立博物館） 1) 小・中学生向け作品解説シート（博物館ディクショナリー）を毎月継続して作成し、京都市内の小中学校に全校配布する。 2) 博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、充実を図る。 3) 教員及び外国人からモニターを委嘱し、提言を受けるとともに学校教育への博物館利用を図る。 4) 展示・収蔵品に関連する土曜講座を開催する。 5) 夏期講座を開催する。 6) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。 7) 京都橘大学との連携事業を継続して実施する。 8) キャンパスメンバーズ（大学会員制度）を継続し、大学との連携を図る。
0903	（奈良国立博物館） 1) 奈良県内小中学校 220 校にメールマガジンを配信する。 2) 奈良市内小学校 5 年生を対象に生涯学習授業を実施する。 3) 教員向けの講座を開き博物館理解促進を図る。 4) 展示品に関するサンデートークを随時実施する。 5) 特別展等に際してシンポジウム及び講座を開催する。 6) 夏期講座を開催する。 7) 特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 8) 放送大学の面接授業を実施する。（約150名） 9) 奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。 10) キャンパスメンバーズ（大学会員制度）を拡充し、大学との連携を図る。
0904	（九州国立博物館）
0904-1	1) 博物館における体験型事業の充実を図る。 ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットの開発

	・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供 ・博物館科学施設等において、博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発 ・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発
	2) 家族向けに平常展を利用した PDA（携帯情報端末）によるプログラムを開発する。
0904-2	3) 学校教育との連携事業を実施する。 ・ジュニア学芸員(高校生)事業の実施 ・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置 ・博物館の理解促進を図るため、社会体験活動の場の設置
	4) シンポジウムを開催する。
	5) 特別展記念講演会を開催する。
0904-3	6) ギャラリートークを随時実施する。
	7) 文化施設等へ講師を派遣する。
	8) 展示をより理解するための講座を開催する。
	9) 近隣大学等と文化財保存技術に関する共同研究を計画する。
	10) 放送大学の面接授業を実施する。(5 人)
	11) 近隣大学との連携を図るため、キャンパスメンバーズ（大学会員制度）を導入する。
1001-1004	②－1 ボランティア活動の支援
1001	(東京国立博物館)
	1) 各種教育普及事業の補助活動の充実を図る。
	2) ボランティア自身による自主的な企画立案による活動の充実を図る。
	3) 各種解説ツアーを実施する。
1002	(京都国立博物館)
	1) 大学（京都橘大学）との学術交流による解説ボランティアを実施する。
	2) 調査研究ボランティアを募集し、各種事業活動の充実を進める。
1003	(奈良国立博物館)
	1) ボランティアを受け入れ、展示解説、インフォメーション、学習普及事業補助等の充実を図る。
	2) ボランティアに対する指導助言体制を充実するとともにボランティアに対する研修の充実を図る。
	3) ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
1004	(九州国立博物館)
	1) ボランティアを受け入れ、展示解説、教育普及、館内案内、外国語通訳、IPM（総合的有害生物管理）及びイベントの充実を図る。
	2) ボランティアに対し継続的な基礎研修・専門研修を実施する。
	3) ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。
1101-1104	②－2 博物館支援者の増加 企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。
	1) 「友の会」等の会員制度によるリピーターの養成に努める。
	2) 「友の会」会員を対象とした事業を実施する。
	3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。
	4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。
1101	(東京国立博物館)
	1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。
	2) 地域、企業との連携・拡充を図る。
1102	(京都国立博物館)
	1) 支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。
	2) 企業等との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。
1103	(奈良国立博物館)
	1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。
	2) 地域、企業との連携・拡充を図る。
1104	(九州国立博物館)
	1) 賛助会員制度を設置し、会員の獲得に努める。
	2) 財団や近隣地域等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。
1201-1204	(3) 快適な観覧環境の提供 ① 観覧環境の整備プログラム等の策定
1201	(東京国立博物館)
1201-1	1) 18 年度に作成した点字解説等を配布する。
1201-2	2) 多国語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。
1201-3	3) より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。
1201-4	4) 4 カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語）パンフレットを継続して制作する。 英語版パンフレットに関しては、より分かりやすい内容に改めたものを配布する。順次、中国語・韓国語パンフレットについても配布を検討する。日本語パンフレットついては、内容を再検討する。

1201-5	5) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。
1202	（京都国立博物館）
	1) 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを推進する。
	2) 6カ国語（日本語、英語、仏語、中国語、韓国語、西語）リーフレットを継続して制作する。
	3) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。
1203	（奈良国立博物館）
	1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。
	2) 7カ国語（日本語、英語、独語、仏語、西語、中国語、韓国語）リーフレットを継続して制作する。
	3) 混雑が予想される展覧会について、陳列品の配置や音声ガイドの解説場所等の工夫を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。
1204	（九州国立博物館）
	1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。
	2) 7カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）リーフレットを継続して制作する。
	3) 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。
1301-1304	② 一般入館者の満足度調査及び専門家の批評聴取
	一般入館者、専門家を対象に満足度調査を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるほか、必要なサービスの向上に努める。
	（東京国立博物館・京都国立博物館・九州国立博物館）
	入館者のニーズを引き出すため入館者調査を実施し、その結果を改善に生かす。
	（京都国立博物館・奈良国立博物館）
	特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。
1401-1404	③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実
	ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。
1401	（東京国立博物館）
	1) ミュージアムショップの改装に当たって、企画・デザインに協力する。
1402	（京都国立博物館）
	1) オリジナルグッズを開発し、サービス向上に努める。
	2) レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。
1403	（奈良国立博物館）
	1) オリジナルグッズを開発し、サービス向上に努める。
	2) レストランメニューを改善し、サービス向上に努める。
(1404)	
	3 我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化
1501-1504	(1) 調査研究の成果の発信
1501	（東京国立博物館）
	1) 博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。
	2) 国際的な講演・研究集会を開催する。
	3) 紀要・図版目録等を刊行する。
	4) 修理報告書を刊行する。
	5) 法隆寺献納宝物調査概報を刊行する。
	6) 研究誌「MUSEUM」（年6回）を刊行する。
1502	（京都国立博物館）
	1) 平安仏教とその造形（仮題）に関するシンポジウムを開催し、その報告書を刊行する。
	2) 特別展覧会「狩野永徳」に因む国際シンポジウムを開催（11月3日）する。
	3) 研究紀要「学叢」を刊行する。
	4) 社寺調査報告書を刊行する。
	5) 文化財修理報告書を刊行する。
1503	（奈良国立博物館）
	1) 研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、ウェブサイトで公開する。
	2) 正倉院展に因むシンポジウムを開催する。
	3) 国際的な講演・研究集会を開催する。
	4) 文化財修理報告書刊行のため、資料整理等を実施する。
	5) 調査、研究活動実績をパネル等で公開する。
1504	（九州国立博物館）
	1) 研究紀要「東風西風」の刊行
	2) 国際的な講演・研究集会の開催
	3) 文化財修理報告書刊行及び教育普及事業活用のための資料整理等
	4) 保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。

1601-1604	(2) 海外研究者の招聘
1601	（東京国立博物館）
	1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。(7 人程度)
	2) 外国人研究員・外国人研修生を受け入れる。(2 人程度)
	3) 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(7 人程度)
1602	（京都国立博物館）
	1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を推進する。(5 人程度)
	2) 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(1～2 人)
	3) 諸外国における国際会議へ積極的に参加する。
1603	（奈良国立博物館）
	1) 国際交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。
	2) 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を推進する。(6人程度)
	3) 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(6 人程度)
1604	（九州国立博物館）
	1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。(5 人程度)
	2) 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(1 人程度)
	3) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに海外博物館等との交流並びに調査を実施する。
1701-1703	(3) 保存修理者への研修プログラム
1701	（京都国立博物館）
	修理事業者を対象とした特別展覧会開催に合わせた研修会を開催する。
1702	（奈良国立博物館）
	修理事業者と協力し研修会を開催する。
1703	（九州国立博物館）
	1) 修理事業者を対象とした研修会を開催する。
	2) 修理業者と協力し、研修会を開催する。
1801-1804	(4) 収蔵品の貸与
1801	（東京国立博物館）
	1) 国内の博物館等で開催する展覧会へ収蔵品を約 1,000 件貸与する。
	2) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き約 80 件を長期貸与する。
	3) 海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ約 60 件を貸与する（海外交流展出品作品を含む）
	4) 韓国国立中央博物館の平常展示のため、引き続き 95 件を長期貸与する。
	5) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。
	6) 収蔵品貸与拡充の一環として、特別協力を行う。 富山市佐藤記念美術館開催「東京国立博物館広田不孤斎コレクション 茶の湯の名品」 （11 月 10 日～12 月 24 日）
	7) 東京国立博物館が収蔵する台湾・東南アジア・大洋州の民族資料約 2000 件を九州国立博物館に管理換し、一層の活用を図る。
1802	（京都国立博物館）
	国内外の博物館等へ収蔵品を貸与する。(約 160 件)
1803	（奈良国立博物館）
	国内外の博物館等へ収蔵品を貸与する。(約100件)
1804	（九州国立博物館）
	収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。
1901-1904	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進
	公私立の博物館・美術館が開催する展覧会及び運営等の援助・助言をする。
1901	（東京国立博物館）
	公立の博物館・美術館等が開催する展覧会に対する指導、助言等を行う。新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。
1902	（京都国立博物館）
	公立の博物館・美術館等が開催する展覧会の企画・展示等に協力する。
1903	（奈良国立博物館）
	公立の博物館・美術館等が開催する展覧会に対する指導、助言等を行う。 「国宝 鑑真和上展」(福岡市博物館 7月14日～9月2日)
1904	（九州国立博物館）
	公私立博物館・美術館等対する指導・助言等を行う。
	4 文化財に関する調査及び研究の推進
	(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進
	文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基

	盤の形成に寄与する。
	① 文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。
2001 2001-1～3	ア 文化的景観に関するケーススタディーとして高知県四万十川流域の調査研究を行うとともに、文化庁が実施する文化的景観の分布調査に協力し、景観の体系化や保護策に関する研究を行う。
2002	イ 民俗技術に関して、都道府県・市町村における保護の現状に関して調査を行い、資料を収集する。 （Ⅰ4(1)④と一体で実施）
	② 我が国の有形文化財及びそれに関わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。
2003	ア 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、報告書を平成19年度に刊行することを目指して、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究し、美術史研究の資料学的基盤を整備、確立して、国内外の研究交流を行う。
2004	イ 我が国における近現代美術の歴史を解明するために、報告書を平成20年度に刊行することを目指して、日本の近現代美術に関する研究資料を収集、整理し、総合的な視点に基づく研究手法を開発するとともに、多様化する現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を形成する。
2005	ウ 美術の創作のプロセスを解明して、美術や文化財に対する理解を深めるために、報告書を平成22年度に刊行することを目指して、文化財に関する諸分野と連携しながら、基礎的なデータを収集、蓄積し、制作過程や技法、材料の歴史的変遷を明らかにする調査研究を行う。
2006	エ 日本の歴史、文化の源流等の実態を探るため、古都所在寺社が所蔵する歴史資料・書跡資料等に関する調査結果の報告書及びデータベースを作成することを目指し、今年度は興福寺、東大寺、唐招提寺、薬師寺等の所蔵資料の原本調査、記録作成を行うとともに、調査成果の一部を公表する。
2007 2007-1～2	オ わが国の文化財建造物の保存・修復・活用に向けた歴史的建造物、伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する基礎データを蓄積し、分析・研究を行うとともに、古代建築の今後の保存と復原に資するため、古代建築の諸構法についての再検証を行い、得られた成果を整理するとともに、一部の公開を図る。
2008 2008-1	③ 平成22年度に無形文化財の伝承実態に関する報告書を刊行することを目指し、19年度は、無形文化財に関する既存の音声・映像記録の情報を集積しデータベースの構築に努めるとともに、それを一般に公開する鑑賞会を実施する。さらに能楽における小道具、文楽における下座の実態調査、全国の歌舞伎関係資料の調査を実施する。また伝統芸能のなかで、伝承の変化の著しい謡曲、講談の記録作成を行う。 伝統芸能以外の分野においては、工芸技術を中心に基本文献や映像資料等の収集を行う。 また、無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、近隣諸国との研究交流を実施する。
2002	④ 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等について考察し、平成22年度に報告書を刊行することを目指して、平成19年度は、無形民俗文化財の現在における伝承実態、伝承組織、公開のあり方等について、現地調査公開実態調査等を実施し、データの蓄積を図る。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、「無形民俗文化財の映像記録作成」小協議会を実施し、その成果を『無形民俗文化財映像記録作成の手引き』（仮称）としてまとめて刊行し、関係機関に配布する。 （Ⅰ4(1)①イと一体で実施）
	⑤ 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。
2009～2015 2009-1～5 2013-1～6	ア 平城京跡及び飛鳥・藤原京跡について、古代都城の実体解明のため本年度は以下の地区の発掘調査を実施する。 （平城京跡）平城宮跡東院地区・東方官衙地区、興福寺大乗院、西大寺旧境内ほか （飛鳥・藤原京跡）藤原宮跡朝堂院地区、石神遺跡、甘樫丘東麓遺跡ほか
2016～2018	イ 出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施することを目的として、平成19年度及び平成19年度以前の発掘により出土した出土遺物（木製品・金属製品・土器・土製品・木簡・瓦等）の分類分析研究及び保存処理を実施するとともに遺構の研究を行う。そしてその成果の一部を『平城宮大極殿の復原に関する調査研究1』等として刊行する。
2019	ウ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡（唐三彩窯跡及び生産品）に関する河南省文物考古研究所との共同研究、隋唐墓に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日本の古代都城並びに韓国古代王京に関する韓国国立文化財研究所との共同研究を協定に基づいて実施する。
2020	エ 平安時代以降の発掘庭園を中心にした調査・研究を行う。平成19年度は平安時代前期の遺構について情報収集・調査を行うとともに、研究会を行う。
2021	オ 飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史研究の一環として、鏡や梵鐘を中心とした工芸品の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺出土部材の研究を行う。
	⑥ 遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修復・整備に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。
2022	ア 遺跡の保存・整備・活用に関する研究の一環として遺跡の保存・整備計画段階から整備後におけるまでの遺跡の公開・活用に関する調査研究を行うとともに、遺構の露出展示を伴う整備例の資料収集とデータベース化を

	進める。
2023	イ　遺構の安定した公開･展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術ならびに監視技術の開発的研究の一環として、遺跡の水分状態や石材の劣化状態を把握する技術の応用研究、平城宮跡遺構展示館等における遺構安定化薬剤の実地試験に取り組む。
2024	ウ　平城宮跡、藤原宮跡について、公開活用及び整備の具体的方策を研究し、文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関して、専門的・技術的な援助・助言を行う。また、研究成果を『遺跡の管理運営体制および整備活用手法に関する類例調査報告書』として刊行する。文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 (2)　文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。
2025	①　光に対する物性を利用した高精細デジタル画像を形成する手法に関し、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現し、公開することを目指して、調査・研究を行う。
2026	②　可搬型蛍光X線分析装置による彩色文化財の材質調査を推進するとともに、有機染料分析のための光学的調査方法の基礎的検討を行う。また、文化財の材質構造に関する調査・助言を行う。
	③　遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。
2027	ア　遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究等の一環として、官衙関連遺跡および豪族居宅遺跡の資料収集を行い、官衙や豪族居宅と認定するための指標、およびそれらの遺跡の発掘調査において抽出すべき基本的属性について調査研究を進め、収集し属性分析した資料をデータベース化し、順次一般公開する。
2028	イ　地方官衙遺跡と豪族居宅遺跡に関する研究集会を実施し、全国におけるこの種の遺跡調査の質的向上を図る。
2029	ウ　遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法を研究し、全国の遺跡調査の質的向上と発掘作業の効率化に資するべく、機器の更新と実地テストを通じたデータの収集と分析をおこなう。
2030	④　遺跡出土木材、木造建築物、木造美術工芸品などの年輪年代測定を実施し、考古学、建築史学、美術史、歴史学研究に資する。とりわけ、当研究所で開発したマイクロフォーカスX線CTやデジタル画像による非破壊年輪年代測定法は、非破壊を原則とする文化財調査にとって理想的な調査手法であるので、これを積極的に活用して実施事例の拡充を図る。また、非破壊年輪年代測定法の対象範囲をさらに広げるべく新規の技術開発についても取り組み、知的財産権を確保する。これらの上記研究成果を、国内外で開催される学会、学術論文、各種報告書などに発表する。
2031, 2031-1	⑤　動植物遺存体による環境考古学的研究の継続を行うと共に、第一次中期計画の成果品である動物骨格図譜、『動物考古学の手引き』のさらなる追加・補遺編の編集を行う。また、各種計測機器、マイクロスコープを活用して実験品や出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術の研究を推進する。さらに中国、韓国の縄文から弥生時代に併行する時期の遺跡の発掘に積極的に参加して、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の指導、東アジア世界の中での農耕・牧畜の起源とその伝播に関する比較研究を行う。 (3)　科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。
2032	①　生物被害を受けやすい木質文化財（寺社等建造物、彫刻など）の劣化診断や被害防止対策の確立のため、調査研究を行う。最終年度に報告書を刊行する。
2033	②　環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行う。最終年度に報告書を刊行する。
2034, 2035	③　韓国と日本国内の石造・木質文化財調査を行い、磨崖仏などの劣化要因究明及び修復材料・技術の開発を日韓共同で行う。文化財防災情報システムから地震や台風など過去の災害を対象に調査を行う。また、システムを活用して防災体制の整備に役立てる。
2036	④　考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーX線CT・CR法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。 ア　考古遺物の完全非破壊非接触分析法としてのレーザーラマン分光法の応用をめざし、標準試料および考古遺物のラマンスペクトルの収集蓄積ならびにデータベースの構築を継続するとともに、短波長レーザーの応用可能性の検討をおこなう。 イ　高エネルギーX線CT法およびX線CR法を応用し、考古遺物の内部構造ならびに材質推定法の基礎的研究をおこなう。 ウ　繊維製遺物や漆製遺物などの有機質遺物の分析法の実用化とデータベース作成をおこなう。 エ　木製遺物に対する超臨界溶媒乾燥法の基礎的研究と実用化をめざし、強化含浸薬剤の検討ならびに乾燥条件の基礎データの集積と検討をおこなう。 オ　遺跡および遺物の保存修復の現状と課題を広く検討するため、保存科学研究集会を開催する。
2037～2039	⑤　文化財修復材料の現地試料収集及び自然科学的な分析などの調査を行う。建造物文化財などの修復に使用された合成樹脂の劣化状態を調査する。今までの漆の研修を受講した海外の文化財保存担当者を対象に、帰国後の保存修

	復活動などについてのシンポジウムを開催し、研修効果の評価を行う。在外の日本古美術品を対象に事前調査及び修復を行い、修復後、展示活用する。さらに、専門家を現地に派遣して修復を行う。
2040, 2040-1	⑥　ドイツ技術博物館との共同研究に関する打ち合わせ及び欧米での修復事例調査を行う。船の科学館・手宮機関車庫などでの劣化調査、かかみがはら航空宇宙博物館・大樹町航空宇宙実験施設での測定データの回収と評価、日本航空協会所蔵の青焼き図面の劣化調査と資料収集を行う。
2041, 2042 2041-1～3 2042-1～7	(4)　我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
	(5)　有形文化財に係る調査研究
	①　収集・保管のための調査研究の実施 次に掲げる収集・保管に関わる研究を実施し、有形文化財にかかる保存に寄与する。
	(東京国立博物館)
2101	1)　特別調査法隆寺献納宝物（第 27 次)「聖徳太子絵伝」第 2 回
2102	2)　特別調査「書跡」第 4 回（17 年度写経 1 回、18 年度写経 2 回実施）
2103	3)　特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神図屏風を中心に
2104	4)　応挙館障壁画の復元に関する調査研究
2105	5)　館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究
2106	6)　館蔵博物図譜の調査研究（研究成果公開促進費補助金〈継続〉申請中）
2107	7)　日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金・申請中）
2108	8)　江戸幕府旧蔵資料の総合的研究（科学研究費補助金）
2109	9)　日本古代手工業史における埴輪工人編制の変遷と技術移転からみた古墳時代政治史の研究（科学研究費補助金）
2110	10)　書画料紙の加工法及び保存に関する基礎的研究（科学研究費補助金・申請中）
2111	11)　ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究
2112	12)　文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築（科学研究費補助金・申請中）
2113	13)　環境保存に関する研究
2114	14)　耐震性の高い展示手法に関する研究
2115	15)　大型油彩画のロール状保存と木枠に張り込まない展示手法法の開発に関する調査研究
(2116－2119)	
	(京都国立博物館)
2120	1)　近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究
2121	2)　平安仏教とその造形に関する調査研究
2122	3)　江戸時代京焼の技術基盤に関する研究（科学研究費補助金）
―	4)　五山禅宗寺院に伝わる典籍の総合的な調査研究－建仁寺両足院所蔵本を中心に－（科学研究費補助金）
―	5)　近世漆工芸基礎資料の研究－高台寺蒔絵を中心に－（科学研究費補助金）
2123	6)　仏教における衣服の寄進と再利用に関する基礎的研究－袈裟、打敷、幡－（科学研究費補助金）
2124	7)　日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金　申請中）
2125	8)　建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究　（科学研究費補助金　申請中）
―	9)　仏像における玉眼技法の誕生とその前提としての水晶加工技術に関する基礎的研究（科学研究費補助金　申請中）
2126	10)　修復文化財に関する資料収集及び調査研究
2127	11)　永徳に関する調査研究（客員研究員）
2128	12)　近世絵画に関する調査研究（客員研究員）
2129	13)　文化財情報に関する調査研究（客員研究員）
2130	14)　訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）
2131	15)　彫刻に関する調査研究（客員研究員）
(2132－2141)	
	(奈良国立博物館)
2142	1)　南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施
2143	2)　大和古代寺院出土遺物の研究を帝塚山大学考古学研究所との共同研究として実施
2144	3)　仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究）
2145	4)　仏教美術写真収集及びその調査研究
2146	5)　我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究
2147	6)　当館所蔵品についての調査研究（客員研究員）
2148	7)　統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金申請）
2149	8)　古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程（科学研究費補助金申請）
―	9)　日本国内における仏教美術の基礎的調査研究並びに海外の博物館美術館との研究交流（研究助成申請）

—	10）仏教美術とその周辺領域を含めた図書の整備・調査研究（研究助成申請）
—	11）密教工芸の材質研究（研究助成申請）
—	12）文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究（研究助成申請）
(2150)	
	（九州国立博物館）
2151	1） 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究
2152	2） 文化財の材質・構造等に関する共同研究（客員研究員）
2153	3） 博物館における文化財保存修復に関する研究（客員研究員）
2154	4） 彩色水浸文物の保存科学的研究 ―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存―（科学研究費補助金）
2155	5） 弥生時代後期～古墳時代の墳墓大量出土ベンガラについての基礎的研究（科学研究費補助金）
2156	6） 室町時代の中国文物の受容に関する調査研究（科学研究費補助金）
2157	7） 日本近世宗門改制度に関する基礎的研究（科学研究費補助金）
—	8） 高度デジタル化技術を駆使した文化財の保存と活用－九州における文化財情報の新基盤－（科学研究費補助金・申請中）
—	9） 九州地域における文化財の保存と活用のための基盤調査（科学研究費補助金・申請中）
2158	10） VR 画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金・申請中）
—	11） 中世東アジアの工芸技術に関する比較研究（科学研究費補助金・申請中）
—	12） 我が国の文化財保存修理システム構築のための基礎的研究（科学研究費補助金・申請中）
—	13） 中世日本の国際貿易の展開と文化的価値体系の比較史的研究（科学研究費補助金・申請中）
2159	14） 博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金・申請中）
—	15） 銅鼓絵画の人類考古学的研究－鼓面裏に絵画を持つ特異なヘーガーⅣ式銅鼓を中心に－（科学研究費補助金・申請中）
2160	16） 博物館における X 線 CT スキャンデータの活用（科学研究費補助金・申請中）
2161	17） 古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－（科学研究費補助金・申請中）
—	18） 16 世紀日本絵画における粉本使用の基礎調査（科学研究費補助金・申請中）
—	19） 五胡十六国時期を中心とする中国北方地区の墓制に関する基礎的研究（科学研究費補助金・申請中）
—	20） 九州遺跡 GIS データベース（科学研究費補助金・申請中）
2162	21） 超高精細大容量画像の安全・ダイナミック表示総合システムの開発（科学技術振興機構）
(2163－2164)	
	② 公衆への観覧を図るための研究 次に掲げる公衆への観覧を図るための調査研究を実施し、有形文化財の活用を図る。
	（東京国立博物館）
2165	1） 博物館環境デザインに関する調査研究
2166	2） 博物館美術教育に関する調査研究
2167	3） 博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金）
—	4） 博物館おけるイベントの教育普及的効果に関する分析と実践的イベント論の構築（科学研究費補助金・申請中）
—	5） 日本の伝統文化のための視聴覚機器の利用方法に関する研究（科学研究費補助金・申請中）
	（京都国立博物館）
2168	1）妙心寺本坊、塔頭（麟祥院及び衡梅院）に所蔵されている文化財の調査研究により、特別展覧会「妙心寺展」（仮称）の開催に反映する。
2169	2）輸出漆器に関する調査研究により、特別展覧会「蒔絵 ～マリー・アントワネットも愛した日本の漆工芸～」（仮称）の開催に反映する。
2170	3）本満寺境内蓮乗院廟の発掘調査に伴う出土品の整理により、特別展覧会「日蓮展」（仮称）の開催に反映する。
	（奈良国立博物館）
2171	1）平安仏教とその造形に関する調査研究成果の一部を「院政期の絵画」展に反映させる。
2172	2）南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を「神仏習合」展並びに特別陳列「おん祭と春日信仰（仮称）」及び「お水取り」に反映させる。
2173	3）我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部で、平常展の充実を図る。
2174	4）仏教美術の光学的調査研究成果を蓄積し、一部を親と子のギャラリー「色と彩（仮称）」に反映させる。
	（九州国立博物館）
2175	高齢者・障害者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改修方
2176	策についての調査研究
	5 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進 文化財の保存・修復に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 (1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や

	共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。
2201	① 世界遺産委員会や無形遺産委員会等の国際会議に出席して情報を収集するとともにヨーロッパ連合内の文化財保護制度等の調査を行う。アジア地域の文化財保護機関と連携して国際ワークショップを開催し、報告書をまとめる。また、国際協力に関する国内ワークショップを開催する。
	② 文化財の保存修復事業及び国際共同研究事業を以下のように実施する。
2202, 2203	ア カンボジア・アンコール遺跡群のタ・ネイ遺跡及び西トップ寺院遺跡において建築史的、考古学的、保存科学的調査を実施する。タイ・スコータイ遺跡及びアユタヤ遺跡では、生物被害に関する保存科学的調査研究を行う。ベトナム・ミソン遺跡では、環境計測を実施する。
2204, 2205 2204-1～2	イ 龍門石窟の文化財保存に関する保存科学的現地調査を実施する。西安唐代陵墓石彫像の保存修復事業を西安文物保護修復センターと共同で実施する。また、敦煌莫高窟壁画保存と制作技法に関する現地調査及び研究を実施し、報告書を作成する。
2206 2206-1～3	ウ アフガニスタン（主としてバーミヤーン）及びイラクの文化財保存修復協力事業を実施し、また、あわせて周辺地域の文化財調査研究を実施し、西アジア諸国等における文化財の保存協力事業に役立てるとともに、これらの成果について報告書を作成する。
	(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。
2207 2207-1～7	ア 中国、アフガニスタン、イラク等の考古学、建造物保存専門家及び歴史資料保存専門家養成研修を国内並びに現地で実施する。
2208	イ 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力を行う。
	6 情報発信機能の強化
	以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。
	(1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。
2209, 2210	① ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。
2211～2215	② 文化財に関する専門的アーカイブの拡充を図る。
2216	③ 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実するよう努める。
2217	④ 文化財情報電子化の研究に基づき、データベースの充実を図る。
	(2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成 18 年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。
2218～2223	① 定期刊行物の刊行 ○『東京文化財研究所年報』 ○『東京文化財研究所概要』 ○『東文研ニュース』 ○『美術研究』（年 3 冊） ○『日本美術年鑑』（年 1 冊） ○『無形文化遺産研究報告』 ○『無形民俗文化財研究協議会報告書』 ○『保存科学』（年 1 冊） ○『奈良文化財研究所紀要』 ○『奈良文化財研究所概要』 ○『奈文研ニュース』 ○『埋蔵文化財ニュース』
2224～2226	② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等 ○国際シンポジウムの開催（年 1 回） ○公開学術講座（オープンレクチャー）（年 1 回） ○公開講演会（年 4 回）（飛鳥資料館特別展に伴う講演会（年 2 回）を含む） ○現地説明会（年 5 回）
2227, 2228	③ ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保
2229～2232	(3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

	○黒田記念館における作品の展示公開 常設展（毎週木曜日、土曜日の午後開館） 共催展の開催（1回） 年間目標入館者数　10,200人 ○平城宮跡資料館における展示・公開 常設展（月曜日、年末年始休館　無料公開） 発掘速報展（年1回） 年間目標入館者数　　72,500人 （Ⅰ6(5)と一体で実施） ○飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催 常設展示（月曜日、年末年始休館　有料公開） 特別展示（年2回） 企画展の開催（年1回） 年間目標入館者数　　55,400人 ○藤原宮跡資料室における展示・公開 常設展（土・日曜日、祝日、休日、年末年始休館　無料公開） 年間目標入館者数　3,800人
2233～2235	(4)　文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。 ○　平城宮跡解説ボランティア事業の運営 ○　各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援
2230	(5)　奈良県の「平城遷都1300年記念事業」に向け最新の調査・研究に基づく平城宮跡資料館の展示リニューアル、及び古代都城等に関する国際共同研究の成果の展示・公開について検討を始める。 （Ⅰ6(3)と一体で実施）
	(6) 文化財情報の公開促進 文化財に関する情報を積極的に発信し、国内外における日本文化への理解を深める。
2301-2304	①　ウェブサイト等による情報の発信 ウェブサイトのアクセス件数が増加するよう内容の充実を図る。
2301	（東京国立博物館） 携帯電話端末用ウエブサイトによる情報提供サービスを開始する。
2302	（京都国立博物館） 1)　携帯電話端末用ウェブサイトの充実を図り、利用者の拡大とサービスの向上を図る。 2)　学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開する。
2303	（奈良国立博物館） 当館保有の文化財の写真並びに研究成果の公開の充実を図る。
2304	（九州国立博物館） ウェブサイトで提供する情報の充実を図り、利用者から意見を吸い上げられる体制を検討する。
2401-2404	②－1　デジタル化の推進 1)　収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2)　収蔵品の国宝について、5か国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（e国宝）の提供を継続して行う。
2401	（東京国立博物館） 1)　収蔵品等の写真の高精細デジタル化を実施する（4×5フィルム3,000枚。マイクロフィルム20,000枚）。 2)　収蔵品のうち、国指定文化財を新規撮影し、高精細デジタル画像化を図る。 3)　収蔵品の基本情報のデータ化・文書記述言語（XML）化を約30万字実施する。 4)　法隆寺献納宝物について、5か国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）の説明を付したデジタル高精細画像（「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」）等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。
2402	（京都国立博物館） 1)　収蔵品のデジタルデータを作成する。（約2,500件） 2)　当館所蔵の指定文化財の画像を高精細画像化し、ウェブサイト上で公開する。
2403	（奈良国立博物館） 1)　ウェブサイトに掲載中の写真検索システムの個別データを約2,000件追加更新する。 2)　当館所蔵の指定文化財の画像を高精細画像化し、ウェブサイト上で公開する。 3)　デジタル高精細画像を活用し、有料画像提供の推進を図る。
2404	（九州国立博物館） 収蔵品のデジタルデータを作成する。（600件）

2501-2502	②－2　博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化 美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。
2501	（東京国立博物館） 1)　収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備する。（約3,000件） 2)　資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システムを運用し、機能とサービスの充実を図る。 3)　法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。 4)　図書資料の良好なコレクション構築のために収集方針を策定する。 5)　資料館の有効活用へ向けた利用計画を策定する。
2502	（京都国立博物館） 1)　収蔵品・出品作品等の写真撮影及び社寺調査等での写真撮影並びに関連データを整備する。（約 5,000 件） 2)　観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。
2503	（奈良国立博物館） 1)　古写真・ガラス乾板等を登録整備する。 2)　収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備する。（約3,000件） 3)　西新館の観覧者向け図書コーナーの充実を図る。 4)　蔵書検索システム及び所蔵写真検索の充実を図る。
2504	（九州国立博物館） 1)　収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備する。（約600件） 2)　海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。 3)　博物館資料（収蔵品、図書、写真など）の横断的データベースの効率的な運用を検討し、実施する。
	7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上 我が国の文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。
2601～2605 2602-1～2 2603-1～2	(1)　地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。 埋蔵文化財保護行政に資する調査研究を行うとともに、地方公共団体等への協力・助言・専門的知識の提供等について管理・調整する。また、これまで蓄積した調査・研究の成果を活かし、他機関等との共同研究及び受託事業を実施する。 (2)　文化財に関する高度な研究成果をもとに地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修、保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようにする。 また、東京芸術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。
2606	①　埋蔵文化財担当者研修 一般研修 1 課程、専門研修 12 課程、計 13 課程実施 研修人数のべ 170 人
2607	②　博物館・美術館等の保存担当学芸員研修を行う。 ○　期間 2 週間、受講生 25 名程度
2608, 2609	③　東京芸術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携 大学院教育の推進 ○　東京芸術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学） ○　京都大学：文化・地球環境学（文化財調査法論、環境考古学論） ○　奈良女子大学：比較文化学（文化史論）
	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1　業務の効率化
2700	(1)　各施設の共通的な事務の一元化による業務の効率化 財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を図る。
2800	(2)　省エネルギー、リサイクルの推進 1)　光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。 （年間 1.03%減少） 2)　廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。（一般廃棄物排出量を年間 1.03%減少）
2901-2906	(3)　施設有効使用の推進 博物館 4 施設

1) 講座・講演会等を開催する。
2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

文化財研究所2施設

セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を図る。

3000 (4) 民間委託の推進

（東京国立博物館）
・電気設備保守業務及び機械設備保守業務の一部を外部委託
・資料館業務の一部外部委託を継続して実施

（京都国立博物館）
・図書館業務の外部委託
・看視案内業務、インフォメーション業務及び設備管理業務の一部業務委託
・通用門の受付・案内・警備業務、及び清掃業務の外部委託

（奈良国立博物館）
・館の警備、清掃業務について外部委託を推進
・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。

（九州国立博物館）
・建物設備の運転・管理業務の外部委託
・警備業務・看視案内業務の外部委託

（東京文化財研究所・奈良文化財研究所）
・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間委託をさらに積極的に進める。
・所の警備・清掃業務について民間委託を推進する。
・来所者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。

3100 (5) 一般競争入札の推進

一般競争入札を推進することにより、経費の効率化を図る。

3200 2 事業評価の実施及び職員の意識改善

理事長のリーダーシップのもとに、事業を推進する。

1) 外部有識者による、年度を通しての事業評価を行い、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。
2) 各種研修・講習会を通じて、職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図るとともに、職員を外部の研修に派遣し、その資質の向上を図る。

3300 3 機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。

機構が管理する情報の安全性向上の方策について検討する。

3400 4 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律（平成18年法律第47号）」「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006（平成18年7月7日閣議決定）」を踏まえ、人件費の抑制を図る。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 予算

別紙のとおり

2 収支計画

別紙のとおり

3 資金計画

別紙のとおり

Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

3500 (1) 近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。
3600 (2) 各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。
3700 (3) 非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について検討する。

2 施設・設備に関する計画

別紙のとおり

予算

（単位：百万円）

区　　分	金 額
収入	
運営費交付金	9,042
施設整備費補助金	711
展示事業等収入	1,098

受託収入	26
計	10,877
支出	
管理経費	2,527
うち人件費	773
うち一般管理費	1,754
業務経費	7,613
うち人件費	2,787
うち調査研究事業費	1,449
うち情報公開事業費	161
うち研修事業費	23
うち国際研究協力事業費	314
うち展示出版事業費	163
うち展覧事業費	2,591
うち教育普及事業費	125
施設整備費	711
受託事業費	26
計	10,877

収支計画

（単位:百万円）

区　　分	金　額
費用の部	8,763
経常経費	8,763
管理経費	2,040
うち人件費	773
うち一般管理費	1,267
業務経費	6,273
うち人件費	2,787
うち調査研究事業費	1,047
うち情報公開事業費	116
うち研修事業費	16
うち国際研究協力事業費	227
うち展示出版事業費	118
うち展覧事業費	1,872
うち教育普及事業費	90
受託事業費	26
減価償却費	424
収益の部	8,763
運営費交付金収益	7,215
展示事業等の収入	1,098
受託収入	26
資産見返運営費交付金戻入	87
資産見返物品受贈額戻入	337

資金計画

（単位:百万円）

区　　分	金 額
資金支出	10,877
業務活動による支出	8,339
投資活動による支出	2,538
資金収入	10,877

業務活動による収入	10,166
運営費交付金による収入	9,042
展示事業等による収入	1,098
受託収入	26
投資活動による収入	711
施設整備費補助金による収入	711

施設・設備に関する計画

（単位 ： 百万円）

施設・整備の内容	予定額	財　源
京都国立博物館 平常展示館建替工事(19 年度～23 年度)	685	施設整備費補助金
文化財最先端研究設備整備 文化財大型資料用非破壊蛍光 X 線分析装置	26	施設整備費補助金

ｉ．　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 0101

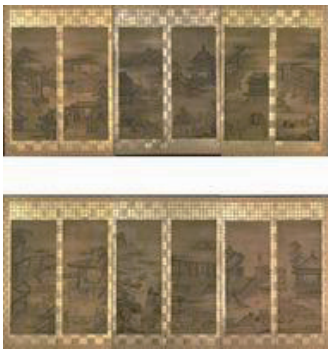
中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－1　適時・適切な収集

事業概要	平常展の展示品と研究資料の充実を図るため、文化財を購入する。

担当者	担当部課	文化財部列品課	事業責任者	列品課長　谷　豊信

実績･成果	・国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき、優れた作品13件を購入した。 ・運営費交付金に加えて、寄付金2,100万円を得ることができ、4億2,275万円を収蔵品購入にあてることができた。 内訳：絵画 6 件 書跡 1 件　刀剣 1 件　陶磁 1 件 染織 2 件　考古 1 件　東洋考古 1 件 決算額　4 億 2,275 万円



購入品　帝観図押絵貼屏風

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・「帝鑑図押絵貼屏風」（絵画）は、狩野山楽による水墨画作品の基準作例として知られているもので、日本絵画史を研究するうえで重要な作品である。当館の絵画収蔵品の質をより一層高めるものであり、専門家の評価も高い。 ・「古筆手鑑　毫戦帖」（書跡）は、奈良時代から江戸時代まで、名物切れ多数を含む筆跡 207 枚を収めたもので、高い展示効果が期待される。 ・「パディ・イン・ヘルのミイラ包み布」（東洋考古)はわが国唯一のミイラ包み布であり、展示効果も高い。当館の古代エジプト美術には、彩色の図像と古代文字の銘文を兼備する大型の作品が欠けていたが、購入によりその欠を補うことができた。 ・寄付金の一部(2,100 万円)による購入も行うことができた。寄付金による購入は、国の時代には、難しかったことであり、独立行政法人制度の特色を生かしたものである。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	収蔵品件数	112,439 件	－	－	
	うち国宝	87 件	－	－	
	うち重要文化財	619 件	－	－	
	購入件数	13 件	－	－	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 0102

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－1 適時適切な収集

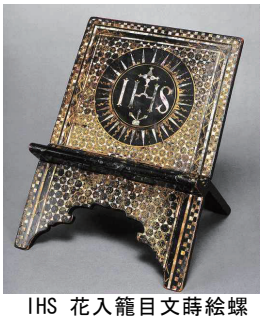
事業概要	京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	列品管理室長 若杉準治

実績･成果

・国民共有の貴重な財産として、また博物館活動の基本をなすものとして、永く後世に伝えられるべき優れた文化財 36 件を購入した。
内訳：絵画 7 件 書跡 1 件 陶磁 3 件 金工 1 件
漆工 5 件 染織 17 件 考古 2 件

決算額 2 億 2,866 万 5000 円



IHS 花入籠目文蒔絵螺鈿書見台

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

各分野にわたってバランスよく収集できた。
・IHS 花入籠目文蒔絵螺鈿書見台は、当館の漆工の展示の核の一つである南蛮漆器の中で、欠けていた形式のもので、今後の展示の充実が期待できる。
・染織は近世の服飾について、公家、武家、町方、遊里と、それぞれに異なる形式の作品を広く収集できた。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
収蔵品件数	6,386 件	－	－
うち国宝	27 件	－	－
うち重要文化財	177 件	－	－
購入件数	36 件	－	－

中期計画期間における進捗状況

中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 0103

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－1 適時・適切な収集

事業概要	収集方針に沿って、各分野にわたる優れた仏教美術品を中心に、年度単位で収集すべき文化財を調査選定し、外部有識者の意見を踏まえ、優先度の高いものから収集する。なお、国立博物館が保管すべきと考えられる、特に優れた文化財の収集も視野に入れる。

担当者	担当部課	学芸課企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生

実績･成果

・購入 2 件
内訳
書跡 1 件
越中国射水郡鳴戸村墾田図＝麻布 一舗
絵画 1 件
戒壇院厨子扉絵図像 一巻
計 2 件の文化財を購入し、新たな館蔵品とした。

決算額 1 億 1,500 万円

越中国射水郡鳴戸村墾田図

戒壇院厨子扉絵図像

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・越中国射水郡鳴戸村墾田図は、かつて東大寺に伝来し、現在正倉院宝物となっている 17 点の東大寺開田地図と一連の遺品で、明治初年の皇室への献納以前に寺外に流出した。民間の所蔵に帰した奈良時代の麻布製荘園図は、本品以外に額田寺伽藍並条里図（現・国立歴史民俗博物館蔵、国宝）が知られるのみで、その資料的価値はきわめて高い。本品が館蔵品に加わったことは、仏教美術を専門とし、毎年正倉院展を開催する当館にとって、今後の調査研究、展示構成を行う上で重大な意義をもつ。
・戒壇院厨子扉絵図像は、東大寺戒壇院にかつて安置され、今日では失われた厨子の扉絵を写した白描図像である。奈良時代最盛期の絵画の姿を伝える重要作品として以前から著名であったが、長らく個人の所蔵に帰し、公開される機会も皆無であった。今回館蔵品に加わったことで、この方面の調査研究の著しい進展と、当館が最も力を入れている南都の仏教美術に関する展示の一層の充実が期待できる。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
収蔵品件数	1,794 件	－	－
うち国宝	12 件	－	－
うち重要文化財	99 件	－	－
購入件数	2 件	－	－

中期計画期間における進捗状況

中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 0104

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－1 適時・適切な収集

事業概要	日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。

担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	資料登録室長 小林公治

実績･成果

・国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき優れた作品 42 件を購入した。
（うち重要文化財 2 件）

（内訳）絵画 7 件 彫刻 2 件 書跡 2 件 陶磁 10 件
漆工 15 件 染織 1 件 考古 3 件 金工 2 件
（うち 20 件は日本および琉球、残りは中国・朝鮮・東南アジア、ガンダーラなど）

決算額 9 億 6,519 万円

（購入品）
重要文化財「亀甲地螺鈿鞍」

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・当館の収蔵品はきわめて少ないため、各分野で重要な作品の収集に努めた。その結果、重要文化財 2 件（金の年号を持つ銅鐘、亀甲地螺鈿鞍）および重要美術品 1 件（北条時宗書状）を新たに収蔵品に加えることができた。なかでも各地の彫刻・考古・染織などを含む東南アジア美術コレクション一括（350 件）は、わが国とアジア諸国との歴史的つながりを考える上で欠かせないものであり、また当館の当該分野における収蔵品の欠を補う上でも大きな意味を持つものである。
・聖エウスタキオ広場図蒔絵プラークは、江戸時代に京都の工房で作られ、長崎を経由してヨーロッパへもたらされた輸出用漆器の優品であり、肖像蒔絵プラケットとあわせ、ヨーロッパ世界とわが国との関わりを示す重要な作品である。楽浪郡から出土したとみなされる彩漆耳杯は、きわめて保存がよく、今後の研究によって制作技法などの解明が進むことが期待される。
・質の高い文化財を確保し、更なる収蔵品の充実を図る観点から、引き続き文化庁購入品の法人への長期貸与を要望したい。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
収蔵品件数	333 件	－	－
うち国宝	3 件	－	－
うち重要文化財	24 件	－	－
購入件数	42 件	－	－

中期計画期間における進捗状況

中期目標に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0201

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－2 寄贈・寄託品の受け入れと活用

事業概要	平常展の展示と研究に必要な作品の寄贈あるいは新規寄託を受け、寄託の継続にも努力する。

担当者	担当部課	文化財部列品課	事業責任者	列品課長 谷 豊信

実績･成果

・作品の寄贈は 26 件であった。
・新規寄託は 17 件であった（内、重文 1 件)。
・寄託取り下げは 44 件(内国宝 1 件、重文 6 件)あり、寄託総数は 2,743 件（国宝 53 件、重文 264 件）となった。
・登録美術品については、増減がなかった。

寄贈品 男神坐像

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・文化財のご寄贈は、所有者の意思によるものであり、毎年、ご寄贈のお申し出があることは、文化財保存のため当館が努力していることが高く評価されていることの表れと考えられる。
・個人収集家・社寺などに働きかけた結果、17 件の新規寄託があり、平常展と研究の充実をはかることができた。一方、社寺の宝物館建設や、経済事情に伴うと推定される個人収集家の引き上げの動きは変わっておらず、19 年度は 44 件の寄託品を所有者に返還した。また寄託品を購入したことによる減少や、九州国立博物館への移管による減少が 1 件ずつあり、寄託品の総数は減少した。目標は達成しているが、今後も寄託品の数と質を維持していくために、より一層所蔵者に寄託を働きかける必要がある。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
新規寄贈品件数	26 件	－	－
寄託品件数	2,743 件	2,400 件	A
うち新規寄託品件数	17 件	－	－
登録美術品件数	3 件	－	－

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 0202

中項目	1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－2 寄贈・寄託品の受入と活用

事業概要	平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	列品管理室長 若杉準治

実績･成果

・寄贈（新規） 30 件
・寄託（新規） 117 件

・新規寄贈品のうち、重要美術品 2 件を含む刀剣類 10 件の寄贈を受けたことは特筆される。
・新規寄託品の受入について、前年度 104 件から増加し、展観事業の充実につながった。

寄贈品 鳥花山水図 陳箴筆

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・京都を中心に活動する古美術商思文閣の 70 年を記念しての寄贈など、当館を支えてこられた方々からの貴重な作品の寄贈があった。
・重要美術品を含む数多くの貴重な刀剣の寄贈があり、収蔵品がより充実した。
・新規の寄託品は 117 件に及び、特別展覧会「ヨーロッパ陶磁」展や「河鍋暁斎」展に関連する作品の寄託があり、展覧会の充実につながった。
・国宝・聚光院障壁画の寄託は、寺院での保存が困難な状況であることから、複製を制作して、原本を博物館での保存公開としたもので、京都の寺院の文化財の保存と活用という当館の設立以来の活動が評価されたものである。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
新規寄贈品件数	30 件	－	－
寄託品件数	6,154 件	6,000 件	A
うち新規寄託品件数	117 件	－	－

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 0203

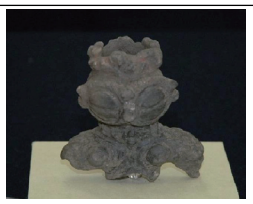
中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

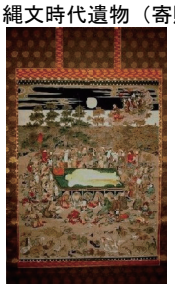
事業名	(1)−2 寄贈・寄託品の受入と活用

事業概要	・寄贈 仏教美術作品のうち、当館の収蔵品で不足している分野の資料の補充を図り、陳列に相応しい作品の寄贈を働きかけ、寄贈申し出に際しては、迅速かつ柔軟な対応に努める。 ・寄託 普段からの諸社寺との交流や、特別展を通して密接な関係を有する所蔵者に働きかけ、文化財の保存と公開の両立を図りつつ、新たな寄託品の受入に努める。

担当者	担当部課	学芸課企画室	事業責任者	企画室長 稲本泰生

実績･成果	・寄贈については、押出仏（一面）、縄文時代遺物等（一括）、計 2 件の受け入れを行った。寄託については、13 件の返却に対し、113 件（うち重要文化財 4 件。1 件はのちに購入）を新規に受入れた。 ・また前年度に寄贈を受けた大型コレクションの全容を紹介する特別陳列「古玩逍遥－服部和彦氏寄贈仏教工芸展」を開催した。


縄文時代遺物（寄贈）


涅槃図（寄託）

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・寄贈については、服部和彦氏の大型コレクションの一括寄贈を受けた前年度に比べると量的には減少したものの、技法・図像面で稀少価値をもつ飛鳥～奈良時代の押出仏が館蔵品に加わるなど、質の高い内容を維持することができた。また先年購入した一括コレクションと一連の品であった縄文時代遺物等（54 点一括）を受け入れたことは、同コレクションを散佚させることなく、当館においてその一体性を保持しえた点で意義深い。 ・特別陳列「古玩逍遥」を開催し、前年度に一括で受け入れた寄贈品の速やかな活用・公開を行った。個人コレクションの形成過程を紹介し、寄贈者の顕彰を行うことで、文化財所有者及び来館者に対し、文化財寄贈の意義を広く示すことができた。 ・新規寄託品は 4 件の重要文化財を含み、さらに 1 件が年度内に新指定を受けるなど、きわめて質の高い内容であった。鎌倉時代の大仏殿様四天王像の新出資料で、鮮やかな彩色がのこる現光寺四天王像など、当館の展示活動の充実に多大な貢献をなす作品も多い。 ・東京大学東洋文化研究所から102件の貴重書の寄託を受け、当館書跡部門の手薄な分野であった漢籍・版本の収蔵品を、著しく充実させることができた。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
新規寄贈品件数	2 件	−	−
寄託品件数	2,057 件	1,960 件	A
うち新規寄託品件数	113 件	−	−

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 0204

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(1)－2 寄贈・寄託品の受入と活用

事業概要	文化交流展示に必要な文化財の寄贈を受け入れる。併せて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、寄託品数350件を目標とする。

担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	資料登録室長 小林公治

実績･成果

寄贈 10 件
（内訳 彫刻 1 件、建築 1 件、金工 1 件、刀剣 3 件、
染織 1 件、考古 1 件、歴史資料 1 件、民族資料 1 件）
顕著な分野としては、紺糸威桶側二枚胴具足はじめとする刀剣・刀装具多数が挙げられる。そのほか、清朝官服に関わる染織品（文官五品補子）、刺繍冊架図（韓国アジア民族造形学会）など特色ある寄贈があった。

（新規寄託品）鎮墓獣（個人蔵）

新規寄託 214 件
（内訳 絵画 45 件、書跡 27 件、金工 1 件、刀剣 1 件、
陶磁 106 件、漆工 3 件、染織 18 件、考古 5 件、
歴史資料 7 件、民族資料 1 件）
漢代並行期（1-3 世紀）の灰釉陶から紹治年間（1841－1847）の染付におよぶ多種多様（白釉、青磁、勝釉、緑釉、鉄絵、三彩、五彩など）なベトナム陶磁多数の寄託を受けた。またわが国にはあまり紹介されていないベトナム螺鈿漆器についても寄託を受けることができ、ベトナム文化理解への具体的な手がかりが増えつつある。
重要美術品 1 件を含む高麗・朝鮮王朝仏画 8 件の寄託を受けた。
収蔵品にない高麗・朝鮮王朝仏画 8 件（重要美術品 1 件を含む）の寄託を受けることができたため、当該分野の展示を充実させることができた。
寄託中の東南アジア美術コレクション一括（350 件）などを購入することができたため、昨年度と比べて寄託品数が大きく減少した。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

（寄贈）
・甲冑を初め刀剣刀装具については、当館にほとんど収蔵作品がなかったため、その欠を埋めることができた。刀剣類については手入れが必要なものが多いため、計画的に手当をして順次陳列をする予定である。
（寄託）
・漢代並行期から 19 世紀におよぶベトナム陶磁約 100 点によって、中国文化の周縁部に位置するベトナムにおける陶器からの影響を受けてきたベトナム陶磁の流れを理解しまた展示することができる。
・大幅な高麗・朝鮮王朝時代の仏画多数の寄託を受け、これまで展示の機会の少なかった分野の展示が充実するとともに、研究が大きく進展するものと期待される。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
寄贈品件数	10 件	－	－
寄託品件数	1,091 件	350 件	A
うち新規寄託品件数	214 件	－	－

中期計画期間における進捗状況

中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0301-1

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	（2）適切な管理・保存 (1/2)

事業概要	1) 後代に伝えるべき文化財を保管するため､セキュリティ機能と保存環境を完備した収蔵環境を整える。 2) 旧資料部関係品（歴史資料・和書）を整理し、列品に編入する作業を実施する。 3) 収蔵品の適正な管理・列品存在確認作業に役立てるため、新手法を開発する。

担当者	担当部課	文化財部列品課	事業責任者	列品課長 谷豊信

実績･成果	1) 昨年度改修した本館地下特８収蔵庫の環境を整備し、耐震強度が万全ではなく、保存環境も当館内では必ずしも上位にあるとは評価されていなかった東洋館収蔵庫から､展示中の作品を除く寄託品および絵画・書跡・陶磁・漆工・染織の主要収蔵品を特８収蔵庫に移動した。 2) 本年度も歴史資料と和書についての整理・登録作業を行ない、年度末に和書 1,036 件を列品に登録した。 3) IC タグ・バーコードなどを利用した収蔵品管理システム構築の研究を行ない、20 年度に予定されている実証実験の準備を行った。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	1) 特８収蔵庫は、耐震・保存環境とも、現東洋館の収蔵庫より優れており、東洋館収蔵庫から特８収蔵庫への寄託品と主要列品の移動は、収蔵品保管の点で大きな改善といえる。 2) 歴史資料・和書の列品化という目標は、着実に実現している。 3) 人員削減が進められつつあるなか、収蔵品管理に機械力を導入して効率化を図ることは、文化財管理の万全を期するうえで不可避である。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	―	―	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0301-2

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	（2）適切な管理・保存 (2/2)

事業概要	4) 収蔵品の適正な管理に努めるとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。 5) 保存カルテの作成及び空調稼働時と休止時の変化が文化財の保管状況に与える影響の調査研究を進める。

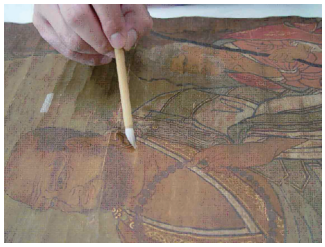
担当者	担当部課	文化財部保存修復課	事業責任者	保存修復課長 神庭信幸

実績･成果

温湿度計のメンテナンス

4)・収蔵庫及び展示室など 347 地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など33地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測した。環境評価に基づき、除加湿器の設置、フィルターの交換などの措置を講じた。
・収蔵庫など475地点における生物生息状況を冬季と夏季の2回にわたり調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。
・展示場及び収蔵庫における地震対策として、特にガラス器や土器などの考古遺物の展示固定方法について検討を加え、転倒による破損を防ぎ、かつ外観を損なわない展示支持具の製作を行った。
・他館への貸与に関し、展示・保存環境について東文研と協力して調査に当たった。
5)・本格修理のための列品調査で 179 件、対症修理を実施する際に 822 件、列品貸与の際に作成する点検調書として 683 件、合計 1,725 件の保存カルテを作成した。
・収蔵庫、展示室など 159 箇所の温湿度に関し、その状態から 3 段階に環境を分類（クラスⅠ、Ⅱ、要注意）した 18 年度年次報告書を作成した。
・列品の貸与・返却及び借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し、海外 9 件（韓国中央博物館、レオナルド・ダ・ヴィンチ作「受胎告知」など)、国内 4 件（奈良）の計 13 件の輸送を調査した。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）



本格修理における剥落止め

4)・目標「収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたって調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う」に対して、6 建築物内部及び外気に関して温湿度と空気環境の調査、データの解析と必要な対処、データ蓄積を行い、十分に目標を達成している。
・目標である「収蔵品の生物被害を防止するため、統合的有害生物防除管理手法の徹底を図る」に対して、全館的な生物生息調査の実施、効果的な防虫薬剤の設置などにより徹底した日常管理を行うことにより、生物被害は未然に防止され、目標を達成している。
・目標「展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る」に対して、展示場の考古遺物の転倒防止対策を実施し、改善が図られていることから、目標は達成している。
5)・目標「美術、工芸、考古、歴史資料及び民族資料の保存カルテを年 500 件程度作成する」については、列品を取り扱うあらゆる機会を利用してカルテ作成を行い、目標値を超える件数を実現している。
・目標「収蔵庫、展示室の温湿度など保存環境に関する年次報告を整備する」については、18 年度年次報告書を作成し、詳細に報告しているので目標を達成している。
・目標「輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する」については、13 件の輸送を調査し、各輸送工程の問題点について詳細な検討を加えているので、十分に目標を達成している。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
保存カルテ作成件数	1,725 件	500 件	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 0302

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(2)　適切な管理・保存

事業概要	・平常展示館建替事業の一環として建設された東収蔵庫を活用し、収蔵品の保存環境の充実を図る。 ・特別展示館の耐震調査を実施し、地震対策を検討する。 ・収蔵品の保存カルテを作成する。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	列品管理室長　若杉準治

実績･成果	・東収蔵庫の温湿度管理を徹底し、概ね温度 18～22℃、湿度 55～60％を安定維持できており、収蔵品について適切な管理・保存が行われている。 ・特別展示館の耐震調査を実施した。 ・収蔵品の保存カルテを年 140 件作成し、収蔵品の保存状況についての情報の蓄積が進んだ。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・空調設備機器については予防的なメンテナンスときめ細かな運転監視を行い、展示室、収蔵庫の温湿度環境の適正管理を行っている。 ・特別展示館については、近い将来発生が予想される花折断層地震へ対応すべく耐震診断を行った。診断の過程で追加調査が必要となったため、最終的な結果については 20 年 5 月末に得られる予定である。 ・収蔵品の保存カルテについて、目標以上に作成することができ、館蔵品の保存状況をより把握できるようになった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	保存カルテ作成件数	140 件	100 件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 0303

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(2)　適切な管理・保存

事業概要	収蔵品の適正な管理に努めるとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。

担当者	担当部課	学芸課保存修理指導室	事業責任者	保存修理指導室長　鈴木喜博

実績･成果	・重要文化財である仏教美術資料研究センターの耐震調査を実施。 ・館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管及び展示にかかわる箇所を中心に防虫トラップを定期的に設置し回収した。11 月より始め、本年 1 月より定期的に実施し始めている。 ・トラップ回収にあたり、20 年 2 月に当番制を定めた。 ・2 週間毎に収蔵庫および周辺の清掃を研究員が実施することを定めた。 ・特別展開催中に展示室内および特定の展示ケース内の温湿度調査を実施し、展示環境の安定に努めた。 ・調査はデジタル計測器を主とし、毛髪計測定器を従として計測の精度を増すようにした。

防虫トラップ

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・規定の場所 150 箇所に予め設置した防虫トラップを回収し、あわせて同じ場所に新しい防虫トラップを設置し回収した。外部業者に防虫トラップの調査を委託し、データの蓄積を開始した。蓄積は数回に限らず、3 年間継続して実施し、館内の状況を把握したいと考えている。 ・収蔵庫の清掃は必要に応じて行い、年末には必ず実施してきたが、19 年度から始めた防虫トラップ調査と対応して、定期的な清掃を行う予定である。 ・特別展開催中、温湿度計測は毎日実施され、学芸課研究員が展示作品の状態確認とともに計測し、数値を記帳し、日々の変化に気付くように努めた。 ・デジタル計測では、一定時間毎の計測が可能なシステムを構築しており、手動によるデータ収集を通して、一日のデータをパソコン上で確認できる体制を敷いた。これによって、一日の展示環境の変化が分かるようにし、環境の安定に努めた。 ・データロガの計測では今後無線ランを導入し、パソコン上での環境の変化が直ちにわかるシステム構築が必要であるが、まだ実験段階の状況にあり、一般化されていない。さらに検討していく必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	保存カルテ作成件数	103 件	100 件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 0304

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(2) 適切な管理・保存

事業概要	① IPM（総合的有害生物管理）導入により、文化財の生物被害防止を図る。 ② 全館的視野にたった陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。 ③ 博物館科学・保存修復諸室を円滑に運用し、文化財の積極的保存を図る。 ④ 収蔵品の保存カルテを年 200 件程度作成する。 ⑤ 館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。

担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	環境保全室長 今津節生

実績･成果	①収蔵庫・展示室等 250 ヵ所に粘着トラップを設置し定期的モニタリングを実施し害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期発見対処した。文化財搬入に際し、殺虫殺黴処理を実施した。ボランティア活動との連携により IPM 活動の普及に努めた ②常設展示室 70 箇所、特別展示室 30 箇所に温湿度計を設置して、環境データを解析した。 ③展示品を中心として､X 線 CT スキャナ装置や三次元計測装置を用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は予防的保存に役立てると共に展示に反映した。 ④保存カルテ 文化交流展示室の露出展示資料や寄贈資料および修理資料を中心に 252 件を作成した。 ⑤収蔵庫 26 箇所に温湿度計を設置して環境データを解析した。また、空気質を調査して館内汚染物質の軽減を図り、収蔵環境の改善を行った。

X 線 CT スキャナ装置による漆器の調査

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・市民協同型 IPM 活動に関する科学研究費により、ボランティア活動へのさらなる指導支援をすすめることができた。 ・環境データを解析しながら外気の環境変化に合わせて微調整することで、極めて安定した展示環境を維持することができた。その結果±1℃、±5%RH の展示環境を達成した。 ・展示品・収蔵品を中心に X 線 CT 装置や三次元計測装置を実施した。研究成果として当館紀要に公表した。 ・収蔵庫環境は外気の環境変化に合わせて微調整することで、±1℃、±2%RH の安定した保存環境を達成した。 ・開館 3 年目で展示・収蔵環境の安定化をほぼ達成した。今後は安定化を維持したままで、より一層の効率化をはかりながらエネルギーの削減に寄与したい。

定量的評価 中期計画での数値目標、その他もなるべく数値化記載	項目	実績	目標値	評価
	保存カルテ作成件数	252 件	200 件	A
	CT スキャン調査	35 件	―	―
	三次元計測	20 件	―	―
	殺虫殺黴処置	5 件	―	―

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0401-1

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(3)　計画的な修理　(1/2)

事業概要	修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。 1)　国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 2)　作品の応急修理に積極的に取組み、劣化の予防に努め、70 件程度の本格修理を実施する。 3)　保存修復関係資料(前年度修理実施分)のデータベース化を図る。(100 件程度)

担当者	担当部課	保存修復課	事業責任者	保存修復課長　神庭信幸

実績･成果	1)修理計画立案に向けて、修理候補作品の選定のために新たに指定・未指定合わせて 179 件の作品の調査を実施した。これまで調査を終えたものと合わせ約2,000件の作品が今後の修理計画に反映される。調査には必要に応じX線透過撮影、光学実体顕微鏡なども使用した。指定品については、国宝絵画 1 件について具体的な修理計画の策定を開始した。 2)作品の応急（対症）修理を 897 件実施。本格修理を 101 件（内 84 件は完了、17 件は次年度継続）実施した。 3)データベース構築のために 18 年度本格修理 97 件（内 58 件は修理完了、内 39 件は修理継続）の修理内容についてデジタル化を実施した。18 年度に実施した本格修理に関して、東京国立博物館文化財修理報告書Ⅷを刊行した。 浮世絵の本紙に対する対症修理

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	1)目標「国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する」について、調査が完了した 79 件の指定品の中から、国宝 1 件について具体的な修理計画を策定した。また、約 2,000 件の調査完了作品の中から修理計画の立案を実施しており、目標を達成している。 2)目標「作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、70 件程度の本格修理を実施する」について、平常陳列、列品貸与、特別展などの機会に応急（対症）修理を積極的に実施して作品の劣化予防と安全確保を行い、かつ劣化が著しい作品については修理計画に従って本格修理を実施しており、目標を達成している。 3)目標「保存修復関係資料（前年度修理実施分）のデータベース化を図る（100 件程度）」について、本格修理に関する修理記録の電子化を行なった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	本格修理件数	101 件	70 件	A
	応急修理件数	897 件	－	－
	保存修復関係資料のデータベース化	97 件	100 件	B

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

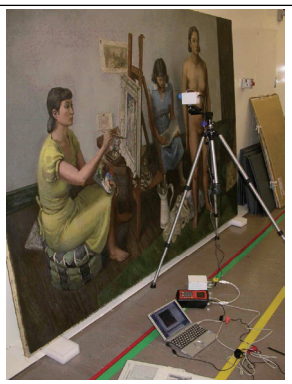
【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0401-2

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(3)計画的な修理 (2/2)

事業概要	伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。

担当者	担当部課	保存修復課	事業責任者	保存修復課長 神庭信幸

実績･成果	1)絵画、書跡などの本紙あるいは敷き紙などについて、植物繊維の同定を 37 件実施し、本紙の保存に関して検討を行った。 2)修理前あるいは修理中に実施した科学的調査は 24 件である。内訳は、X 線透過撮影は TJ-5641 漆塗鞘鉄剣、J-39135 東大寺山古墳鉄製品など 18 件（絵画 3 件、民族 3 件、東洋考古 2 件、考古 2 件、東洋彫刻 2 件、彫刻 1 件、漆工 1 件、その他 4 件)、蛍光 X 線分析及び赤外線撮影は K-39054 紙扇、H-4370 黒漆根古志形鏡掛など 6 件（絵画 1 件、漆工 2 件、その他 3 件）である。  油彩画顔料の蛍光 X 線分析

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	1)目標「紙本作品の繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる」については、特に浮世絵本紙の保存と敷き紙の変色の原因などについて検討を行い、マット取替えや本紙保存に役立てた。 2)目標「修理前あるいは修理中に、蛍光 X 線分析、X 線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる」については、修理前に調査結果を確認しながらの仕様検討を行い、結果として的確な修理仕様と修理処置がなされている。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 0402

中項目	1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と次代への継承

事業名	(3)　計画的な修理

事業概要	・修理が必要な収蔵品のうち、緊急性の高いものについて修理する。 ・文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る。 ・科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	列品管理室長　若杉準治 保存修理指導室長　山本英男

実績･成果	・中国絵画を中心に、計画的に修理し、未表装のものや大破のため公開困難であった作品の公開が可能になった。 ・従来展示の機会が少なく、破損したままであったヨーロッパ陶磁を、展覧会を機に修理し、今後の活用にそなえることができた。 ・文化財保存修理に関係する資料の保存活用のために資料のデータベース化を推進した。 ・紙本作品については、すべてにおいて繊維同定、紙質検査を実施し、補修紙の作製等、修理方針策定に役立てた。また、必要に応じてＸ線透過撮影を実施した。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・中国絵画を中心に 15 件の修理を行った。 ・文化財保存修理関係資料について、目標値を上回る件数のデータベース化ができた。 ・科学的な調査によって貴重な情報を得ることができ、より良い修理に結びつけることができた。このような調査は修理方針策定に重要であり、今後も継続して行って行く必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	収蔵品修理件数	15 件	10 件	A	
	文化財保存修理所修復資料のデータベース化	2,377 件	250 件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 0403

中項目	1　歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(3)　計画的な修理

事業概要	展示に資するため、館蔵品の修理を実施する。

担当者	担当部課	学芸課保存修理指導室	事業責任者	保存修理指導室長　鈴木喜博

実績･成果

・国民共有の財産として長く後世へ伝えられるべき館蔵品のうち、10 件を修理した。
　内訳　彫刻１件　絵画２件　工芸１件　書跡２件　考古資料４件

・本修理のうち古墳出土における馬具類（鉄製）については、錆による損傷が甚大であったため、X線透過撮影を行い、内部の保存状態を確認する作業を行った。また修理前の実測図の作成は保存上困難であったので､今回は修理中の新知見を加えた復元図面を修理後に作成し、展示等に活かすこととした。

修理風景

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・絵画部門「絹本着色春日社寺曼荼羅」は折皺による損傷が進んでおり、良好な状態にある彩色も剥落する危険があったので、解体修理を実施し、毎年の春日信仰展で常時展示できるようにしたい。
・彫刻部門「十一面観音像」は最近寄贈を受けた南北朝時代の小品であり、全面解体修理を実施し、後補部分は取り除き、展示可能となるようにする修理である。
・工芸部門「多宝塔」は接合個所の緩みを緊結する修理である。
・考古資料「二塚古墳出土品」のうちの鉄製品 3 件などを選び、劣化防止を中心とし、劣化防止対策を中心とした修理である。
・書跡部門は最近購入した奈良時代の荘園図の保存箱を新調する修理である。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
修理件数	10 件	4 件	A

中期計画期間における進捗状況

中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 0404

中項目	1 歴史・伝統文化の保存とその継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

事業名	(3) 計画的な修理

事業概要	① 文化交流展示室に陳列するために必要な文化財のうち、緊急性の高いものについて修理する。(8 件程度) ② 博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。 ③ 修理資料のデータベース化の調査を実施する。 ④ 紙本作品の繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 ⑤ 修理前あるいは修理中に、顕微鏡、デジタルスコープによる観察を行い、蛍光 X 線分析、X 線回折、X 線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。

担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	保存修復室長 藤田励夫

実績･成果	①修理 22 件（絵画 3、書跡 1、彫刻 1、建築 1、刀剣 8、漆工 3、考古 2、歴史資料 3) ②保存修復施設 1～3 は国宝修理装潢師連盟が使用し、館所蔵品の他当館経費以外では国指定重要文化財を含む 5 件、施設 4 は(財)美術院が使用し九州沖縄地区の重要文化財含む木像彫刻 2 件の修理を実施。新たに整備した施設は、(株)芸匠が使用し国庫補助による重要文化財(考古資料)他 2 件の修理を開始した。 ③デジタル化した表具裂による仮想の取り合わせを進めるために、表具裂のデジタル化をさらに進めた。 ④⑤修理指針の検討のための調査について、絵画の彩色の蛍光 X 線分析や、生物被害等による劣化損傷状態調査を実施した。次年度以降の考古資料保存処理、修理に向けて X 線 CT スキャン及び精密三次元画像取込計測装置等による調査を開始した。

ハンディ型蛍光 X 線分析装置を用いた彩色顔料の非破壊調査

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・保存修復諸室のうち、既設の 1～4 については、設備の整備をさらにすすめ、順調な修理事業をすすめることができた。 ・新たに、工芸資料のための保存修復施設 2 室の整備をすすめ、うち 1 室においては修理事業を開始することができた。残り 1 室についても年度内に調整整備が完了する予定であり、今後の修理事業への有効活用が期待される。 ・デジタル化した表具裂データを増やしたことで、より適切な裂の選定を的確に行うことができるようになった。 ・多様な絵画や古文書に対応できるよう、より多くの表具裂のデジタル化を行う必要がある。 ・地域の文化財関係者からの要請に応え、保存修復諸室を活用した実技指導研修を充実する必要がある。

定量的評価 中期計画での数値目標、その他もなるべく数値化記載	項目	実績	目標値	評価
	修理件数	22 件	8 件	A
	修復施設の活用（補助事業等）	8 件	―	―
	科学的調査	10 件	―	―
	表具裂データー	11 件	―	―

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0501-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実 ①平常展 (1/3)

事業概要	展観事業の中核と位置づけ、特集陳列等の充実を図る。また、作品キャプションについては全てに英語訳を付するとともに、時代背景等をわかりやすく伝えるために展示テーマごとの解説の充実を図り、その外国語訳に努める。

担当者	担当部課	文化財部展示課	事業責任者	展示課長 谷豊信

実績･成果	・本館、平成館、法隆寺宝物館、東洋館において、日本の考古、美術、工芸、民族資料、歴史資料および東洋の考古、美術、工芸に関する平常展示および特集陳列を行った。 ・19 年度はあらたに、本館 1 階特別第 5 室(470 ㎡)に「仏像の道」と題する常設展示を設けた。インドで生まれた仏像が、中央アジア、中国、朝鮮半島を経由して日本にもたらされた歴史を、実物の作品で示している。 ・展示趣旨や展示品に関する日本語・英語の解説パネルも増やした。「仏像の道」の展示室には、当館ではじめて日・英・中・韓の四つの言語による解説パネルを設置した。 ・法人の考古資料相互貸借事業経費により、山梨県立考古博物館および長野県立歴史館からの借用品によって、特集陳列「中部日本の縄文土器」を開催した。 ・また文化庁と共同で「新指定文化財展」、東京文化財研究所と共同で「海外所在文化財修理展」を開催した。

仏像の道 展示風景

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	外国人を含む多数の観覧客に、日本美術を鑑賞し、日本文化への理解を深める場を提供するとともに、収入増加に貢献している。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	平常展入場者数	334,297 人	―	―
	陳列替回数	319 回	200 回	A
	陳列総件数	10,223 件	6,000 件	A
	特集陳列実施回数	84 回	―	―
	外国語パネルの設置	95%	80%	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0501-2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)展示の充実 ①平常展 (2/3)

事業概要	2) 文化庁関係企画 特別展観「平成 19 年度新指定国宝・重要文化財」 平成 19 年に新たに指定される国宝・重要文化財を展示する。

担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	特別展室主任研究員 竹内奈美子

実績･成果	特別展観「平成 19 年度新指定国宝・重要文化財」 1)開会期間 4 月 24 日～5 月 6 日(13 日間) 2)会場 本館 特別第 1・2 室 3)主催 文化庁 東京国立博物館 4)陳列品総件数 作品 30 件(うち国宝 2 件、重要文化財 28 件)、写真パネル 2 件 5)入館者数 集計なし 6)入場料金 平常展料金 7)担当 特別展室主任研究員 竹内奈美子 ・絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料の各分野の有形文化財の中から、今年度新たに国宝（土偶 北海道著保内遺跡出土ほか）、重要文化財（紙本着色地獄草紙断簡ほか）に指定された作品を展示。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・本展は、新たに国宝・重要文化財に指定された作品をいち早く国民にお披露目する企画として重要な位置を占め、多くの来館者からも好評を得ている。 ・事前広報をもう少し活発に行う必要がある。 ・来館者から会期の延長を求める意見もあり、会期に関しては今後検討する必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0501-3

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)展示の充実 ①平常展 (3/3)

事業概要	3) その他の企画 「博物館に初もうで」 ・新春特別展示「子年に長寿を祝う」の実施。新年の干支である「ねずみ」にちなんだ作品ならびに「長寿」「吉祥」「儀礼」などをキーワードにして、関連する作品を展示。 ・各種新春イベントの実施。

担当者	担当部課	展示課・事業企画課・渉外課	事業責任者	事業部長 松本伸之

実績･成果	・新春特別展示「子年に長寿を祝う」の実施 平成 20 年 1 月 2 日～1 月 27 日（23 日間） 総入館者数：28,609 人 ・新春イベント 獅子舞（東都葛西囃子睦会）1 月 2・3 日 和太鼓演奏（和太鼓御響）1 月 2・3 日 江戸の遊芸（昔昔亭笑海）1 月 2 日 クラリネットコンサート（アマトゥール）1 月 3 日 いけばな（池坊・蔵重伸氏）1 月 2～14 日 寛永寺との関連事業（寛永寺根本中堂特別参拝） 1 月 2・3 日 新春東博寄席（金原亭馬生ほか）1 月 6 日 ・「博物館に初もうで」は、平成 14 年度から開始され新春総合企画として定着。家族連れをはじめ、若年層から年配層まで幅広い層に対して博物館に親しむ機会を提供し、博物館の普及広報に大きな役割を果たした。

新春イベント和太鼓演奏

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・新年の干支である「ねずみ」にちなんだ作品や「長寿」「吉祥」「儀礼」などに関連する作品を展示した新春特別展示「子年に長寿を祝う」は、お正月にふさわしい展示として概ね好評を得た。 ・来館者調査においても 75.6%の方から「満足している」との回答を得るなど好評であった。 ・各種新春イベントは、日本人のみならず海外からの来館者からも大変好評だった。 ・「博物館に初もうで」は、今年で 5 回目となるが、ナショナルセンターとしてよりふさわしい新春総合企画の立案も検討する必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 0502

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実 ① 平常展

事業概要	展観事業の中核として位置づけし、特集陳列等の充実を図る。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	企画室長 赤尾栄慶

実績･成果

・定期的な陳列替の実施（53 回）
・陳列総件数 1,611 件
・時期に応じつつ、京都文化を中心とした独創的な特集陳列等を企画し、実施する。
・活発な収集を通じて、新たな資料の発掘に努め、平常展の充実を図る。
・特集陳列の企画を実施（7 件）
特集陳列「新収品展」(6 月 20 日～7 月 29 日)
特集陳列「後宇多法皇入山 700 年記念 大覚寺の名宝」(8 月 8 日～9 月 17 日)
特集陳列「能楽と美術」(10 月 11 日～11 月 11 日)
特集陳列「館蔵品のはじまり―京都博物館からの贈りもの―」(11 月 21 日～12 月 24 日)
新春特集陳列「社寺伝来の名刀」(20 年 1 月 2 日～2 月 11 日)
新春特集陳列「仏師 清水隆慶―老いらくのてんごう―」(20 年 1 月 2 日～3 月 30 日)
特集陳列「雛まつりとお人形」(20 年 2 月 23 日～3 月 30 日)
・修理完成記念特別展示を実施
「重要文化財 紅地束熨斗文様振袖」(4 月 11 日～5 月 13 日)

特集陳列「雛まつりとお人形」

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・定期的な陳列替（53 回）を実施し、陳列総件数も 1,611 件の実績を残した。
・作品の収集については、購入 36 件、寄贈 30 件と積極的な収集に努めた。
・特集陳列を 7 回実施し、展示の充実を図った。「後宇多天皇入山 700 年記念 大覚寺の名宝」では、当該寺院の全面的な連携協力によって、展示の内容を充実させた。「雛まつりとお人形」に関しては、「京の雛めぐり」を実施し、京都文化博物館・博物館さがの人形の家・宝鏡寺門跡と共同開催し、他機関との連携にも努めた。
・友禅史会所蔵で長らく寄託を受けていた作品を、篤志家のご寄付と住友財団の助成金によって修理し、修理完成記念特別展示として公開した。
・展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置については、平常展示においては、各分野毎の日本語、英語解説パネルを設置していたが、特集陳列については設置していなかったため、19 年度より全ての特集陳列において英語解説パネルを設置するよう改善した。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
平常展入場者数	165,080 人	－	－
陳列総件数	1,611 件	1,600 件	A
陳列替回数	53 回	50 回	A
特集陳列実施回数	7 回	－	－
外国語パネルの設置	100%	80%	A

中期計画期間における進捗状況

順調に成果が上がっている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 0503

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　　①平常展

事業概要	当館は、国内唯一の仏教美術を専門とする博物館であり、収蔵するきわめて質の高い文化財を活用するために特に平常展を重視し、テーマ性を設けて幅広い年齢層を対象とする魅力ある展示を実施する。またより多彩な観点から文化財の魅力を伝え、より深みある情報提供を行うために、時機に応じて特別陳列などの企画展示を開催する。

担当者	担当部課	学芸課企画室	事業責任者	企画室長　稲本泰生

実績･成果	・年度を通じた平常展の開催 本館　　「仏教美術の名品」（彫刻部門）、「中国古代青銅器」 西新館　「仏教美術の名品」（考古・工芸・絵画・書跡部門） ・特集陳列の実施（4 件） 「塑像と塼仏」（4 月 17 日～、本館） 「僧侶の道具」（6 月 9 日～7 月 8 日、西新館） 「奈良で甦る縄文の世界－小野忠正コレクション」 （12 月 8 日～20 年 2 月 11 日、西新館） 「涅槃」（20 年 2 月 14 日～3 月 16 日、西新館） ・正倉院展の会期にあわせた関連展示の実施 「文化財の燻蒸装置」（10 月 27 日～11 月 12 日、西新館ピロティ） ・企画展示の実施（計 5 回） 「古玩逍遥－服部和彦氏寄贈仏教工芸展」（6 月 9 日～7 月 8 日、西新館） 「文化庁購入文化財展　新たな国民のたから」（7 月 14 日～8 月 19 日、西新館） 「新指定　平城宮の木簡」（7 月 14 日～8 月 19 日、西新館） 「おん祭と春日信仰の美術」（12 月 8 日～20 年 1 月 20 日、東新館） 「お水取り」（20 年 2 月 2 日～3 月 16 日、東新館） ・親と子のギャラリーの実施 「仏さまの彩り」（7 月 14 日～8 月 19 日、東新館）

「仏教美術の名品」（本館）

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・西新館平常展では前年度末に完成した壁付新ケースを活用した展示の充実が行われ、前年度にリニューアルされた本館平常展と併せ、仏教美術に関しては国内外いずれをとっても他に類をみない、高水準の展示を行うことができた。また平常展における英文の作品解説を増加させ、外国人来館者に対するサービスをより向上させることができた。 ・特別陳列「古玩逍遥」では前年度に寄贈を受けた個人コレクションの全容を紹介し、また「文化庁購入文化財展」では文化庁が新規に購入した作品をまとめて展示し、文化庁・国立博物館における文化財収集活動の意義を広く示すことができた。親と子のギャラリー「仏さまの彩り」は作品展示のみならず、高精細デジタル画像で作品の細部を同時に見られる展示を行い、また刺繍の体験コーナーを設置するなどして、子供にも分かりやすい展示を実現して好評を博した。 ・正倉院展の関連展示「文化財の燻蒸装置」で、国内における文化財専用燻蒸装置の第一号である正倉院事務所旧蔵の燻蒸装置を展示し、文化財保存活動の意義を、多数の正倉院展来館者に示すことができた。 ・本館回廊部分にスポット照明設備がないため、非常に質の高い仏像彫刻を展示しているにも関わらず、その魅力を十分に引き出しきれていない。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	平常展入場者数	131,336 人	－	－
	陳列替回数	21 回	19 回	A
	陳列総件数	928 件	600 件	A
	特集陳列等実施件数	10 回	－	－
	外国語パネルの設置	56%	80%	B

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 0504

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実 ① 平常展

事業概要	① 定期的な陳列替（年110回程度）、陳列総件数（約1,200件）を実施する。 ② 平常(文化交流)展の部分的なリニューアルによって充実を図るとともに、特集陳列により、独創的なテーマおよび地域に密着したテーマを掘り下げる。 ③ 他国語対応として、英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室ガイドブックを作成する。

担当者	担当部課	企画課	事業責任者	文化交流展室長 河野一隆

実績･成果

・文化交流展示室では、当館のテーマである日本の文化交流を重視する観点から、計画的に 375 回に亙る展示替えを行い、来館者にもきめ細やかな展示情報の提供を行った。
・特定のテーマを掘り下げた特集陳列を実施した。(5 回)
「王塚古墳と北部九州の王たち」(6 月 20 日～20 年 3 月 31 日)
「新指定重要文化財 笹塚古墳出土品と双六古墳出土品」
(7 月 2 日～10 月 9 日)
「東アジア紙文化財保存修理シンポジウム(第 2 回)記念
－文化をつたえる紙の路－」(8 月 20 日～10 月 8 日)
「釈迦誕生図―受け継がれる朝鮮仏画の名品―」
(10 月 10 日～11 月 8 日)
「朝鮮通信使―江戸時代の平和外交―」
(11 月 20 日～20 年 1 月 6 日)
・来館者の興味を呼び起こすような内容の深い展示を提供すると同時に、リーフレットを作成し、関連したシンポジウムも開催した。

「王塚古墳と北部九州の王たち」文様の華麗さで、全国的にも著名な桂川王塚古墳出土品(重要文化財)を中心に、弥生･古墳時代の出土品を公開した文化交流展室第 3 室「倭人伝の世界」開催の特集陳列

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・国宝・重文を含む多数の優れた文化財による展示、特定の動線を持たない、体験的な展示を多数盛り込んでいる、露出展示品と観覧者の距離が大変近い、といった当館ならではの文化交流展の特徴が理解され、団体来館者によるリピーターも定着し、好評を博している。
・シアター4000 の新映像コンテンツ「じろじろぞろぞろ 南蛮屏風」および関連展示室内装飾古墳バーチャルシアターで新作映像を公開した。
・375 回の陳列替を行い、いつでも新鮮な展示を提供すると同時に、5 回にわたる特集陳列を実施し、より掘り下げたテーマについて来館者の興味を深めることができた。
・遣唐使船積荷模型の体験コーナーが、開館当初以来、大好評につき非常に混雑していたが、入口を広くして鑑賞し易いように改造し、来館者サービスを向上した。
・展示環境（導線等）について、来館者から意見が寄せられているところであるが、継続的な課題として今後も検討を続ける必要がある。
・増え続ける外国からの来館者、とくに韓国からの来館者に対し、単に日本語解説の翻訳ではなく、日本文化を理解するための必要な情報を供給するガイドブックが必要と考える。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
平常展入場者数	341,282 人	－	－
特集陳列	5 回	－	A
作品への外国語キャプション	100%	－	A
時代背景の外国語パネル（音声ガイドで対応を含む）	63%	80%	B
陳列替回数	375 回	110 回	A
陳列総件数	2,012 件	1,200 件	A

中期計画期間における進捗状況	おおむね、目標値を達成できているが、異文化圏からの観覧者対応に一層のサービスが必要。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0601-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (1/5) 「レオナルド・ダ・ヴィンチ―天才の実像」

事業概要	傑作「受胎告知」(フィレンツェ・ウフィツィ美術館蔵)を中心に、レオナルド･ダ･ヴィンチの芸術と科学に関する広範な試みを紹介する。

担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	事業企画課長 井上洋一

実績･成果

・開会期間 19 年 3 月 20 日～6 月 17 日 (79 日間)
・会場 第 1 会場：本館特別 5 室
第 2 会場：平成館 特別展示室第 1～4 室
・主催 「イタリアの春 2007」実行委員会、東京国立博物館、朝日新聞社、NHK、NHK プロモーション
・陳列品総件数 101 件
・入館者数 79 万 6,004 人(目標 50 万人)
・入場料金 一般 1,500 円 大学生 1,200 円 高校生 900 円
中学生以下無料
・アンケート結果 満足度 66.9%

・ルネサンスの巨匠、レオナルド･ダ･ヴィンチの傑作「受胎告知」(フィレンツェ・ウフィツィ美術館蔵)を日本で初公開し、あわせてレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿の写しやそれらをもとに制作されたさまざまな模型や映像などを展示することにより、レオナルド･ダ･ヴィンチの芸術と科学に関する広範な試みを紹介した。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・第 1 会場には《受胎告知》1 点のみを展示。世界の至宝である《受胎告知》を多くの来館者（796,004 人）にご覧いただけた。大空間の中で来館者が徐々に名画に近づき、高低差の付いた動線を進むことでさまざまな視点から名画を鑑賞できるような会場設計に努めた。
・第 2 会場ではレオナルドの芸術と科学に関する考えを来館者によりわかりやすくするために模型や映像を多用した展示を行った。
・本展を通し、イタリア政府との国際的文化交流が深まるとともに、作品の移動、展示ケースの製作、照明等において多国間（イタリア・アメリカ・ドイツ・イギリス・日本）研究協力が実現し、それぞれの研究面においても大きな成果を得た。
・開催までの準備期間が極めて短かったために、カタログ、会場解説等により噛み砕いた解説が不足した。
・来館者が心地よく美術を鑑賞できる空間作りもあわせて考えなければならない。特に混雑対策については引き続き十分考えなければならない。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	
入場者数	796,004 人	500,000 人	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 0601-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　②特別展 (2/5) 足利義満六百年遠忌記念「京都五山　禅の文化」展

事業概要	鎌倉時代から室町時代にかけて、朝廷や幕府の庇護を受けて繁栄をきわめ、中国風の禅文化が興隆した京都五山（南禅寺、天龍寺、相国寺、建仁寺、東福寺、万寿寺）ゆかりの作品を展示し、京都五山の禅の文化の精華を示す。京都五山をまとめてとりあげる初めての試みである。

担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	出版企画室長　浅見龍介

実績･成果	・開会期間　7 月 31 日～9 月 9 日(37 日間) ・会場　平成館　特別展示室第 1～4 室 ・主催　東京国立博物館　日本経済新聞社 ・陳列品総件数　232 件 （うち国宝 8 件、重文 109 件、重要美術品 8 件） ・入館者数　10 万 8,917 人(目標 10 万人) ・入場料金　一般　1,500 円　大学生・高校生　900 円 中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度 70.7% ・南禅寺、天龍寺、相国寺、建仁寺、東福寺の本山ならびに諸塔頭、各地の美術館・博物館、大徳寺や円覚寺といった他派寺院の協力も得て、禅僧の肖像画・肖像彫刻、袈裟、墨蹟、水墨画、仏画、仏像など、ふだん拝観できない宝物、各地に散在する京都五山ゆかりの名宝を一堂に展示した。その結果、出品総件数 232 件に占める国宝・重要文化財の数は半数を超える 117 件となり、たいへん充実した内容となった。	

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・出品交渉先が多く、交渉に時間がかかったが、本展に必要不可欠な名品はほぼもれなく展示することができ、展示作品については「とても充実してよかった。禅宗の貴重な文化財が楽しめた。」など多くの好評意見が寄せられ、アンケートの満足度は 70.7 パーセントに達した。 ・事前調査や情報収集の結果、未紹介・初公開の作品を少なからず取り込むことができ、学術的にも成果があった。 ・仏画、仏像の照明については好評意見が寄せられた。 ・絵画、書跡などの展示ケースのガラスに反射する光で、作品が見づらいとの意見もあり、展示ケースのガラスに低反射フィルムを貼るなどの対策が今後必要である。 ・展示作品が充実していたわりに、入館者数は伸びなかった。その分、じっくり作品を見ることができよかったという意見も多く、レオナルド展より満足度は高くなった。しかし広報戦略については、ポスター・チラシの制作時期が遅かったことなど、反省すべき点もある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	108,917 人	100,000 人	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 0601-3

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　②特別展等　(3/5) 「大徳川展」

事業概要	将軍家・御三家や東照宮などに伝わる徳川家ゆかりの宝物を初めて一堂に集め、江戸の武家文化を形成した徳川家の全貌を紹介する。

担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	上席研究員　松原茂

実績･成果	・開会期間 10 月 10 日～12 月 2 日(42 日間) ・会場　平成館 特別展示室第 1～4 室 ・主催　東京国立博物館、徳川記念財団、徳川黎明会、水府明徳会、 テレビ朝日、朝日新聞社、博報堂 DY メディアパートナーズ ・陳列品総件数　308 件（うち国宝 15 件、重文 58 件） ・入館者数　42 万 5492 人(目標 25 万人) ・入場料金　一般 1,500 円 大学生 1,200 円 高校生 900 円 中学生以下無料 ・アンケート結果　満足度 70.4% ・徳川家康からはじまる江戸時代の徳川家の歴史を、歴代将軍の肖像画や所用の武器・武具あるいは遺愛の品々によってたどるとともに、将軍家・御三家や東照宮などに伝わるゆかりの宝物を一堂に集めて展示し、江戸の武家文化を形成した徳川家の全貌を紹介した。将軍家・尾張・紀伊・水戸の各徳川家に伝えられた名宝が揃って展示される、初めての機会となった。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・将軍家、御三家や東照宮などに伝わるゆかりの宝物が初めて一堂に集まるという魅力が十分に伝わり、予想を大きく上回る観客動員があった。 ・江戸時代の武家文化を形成した徳川家の全貌を紹介するという主題のため、出品作品は多岐にわたることとなったが、3 つのテーマに分けて展示を構成することで、全体としては簡潔で分かりやすい内容にまとめることができた。 ・茶入など、各家に分けられて伝わり、公開される機会の少ない名品を、再び一緒に鑑賞していただく機会とすることができた。 ・アンケート結果によれば、「混雑していて展示が見えなかった」「途中休憩用のイスをもっと多く置いて欲しい」などの声が多数寄せられており、予想を超える混雑に会場レイアウトが対応できていなかった。 ・キャプションの文字の大きさや添付位置などについても同様で、混雑が予想を上回っており、開会後一部改訂を行ったものの、「文字をもう少し大きく」「もう少し高い位置に」などの意見が多かった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	425,492 人	250,000 人	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0601-4

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展 (4/5) 陽明文庫創立 70 周年記念特別展「宮廷のみやび―近衛家 1000 年の名宝」

事業概要	藤原北家の流れを汲み、五摂家の筆頭で公卿第一の名門、近衛家の当主で、内閣総理大臣であった近衛文麿が設立した陽明文庫のコレクションを中心に、明治の初年に宮廷に献上された宝物などを含めた近世までの近衛家の名宝を一挙に公開する。

担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	文化財部長 島谷弘幸

実績･成果	・開会期間 20 年 1 月 2 日～2 月 24 日(46 日間) ・会場 平成館 特別展示室第 1 室～4 室 ・主催 東京国立博物館 財団法人陽明文庫、 NHK、NHK プロモーション ・陳列品総件数 214 件（うち国宝 12 件、重文 41 件） ・入館者数 15 万 7,718 人(目標 12 万人) ・入場料金 一般 1,400 円 大学生・高校生 900 円 中学生以下無料 ・アンケート結果 満足度 78.3% ・藤原道長自筆の日記などにうかがわれる宮廷貴族の生活、近衛信尹・信尋・家熙ら、近世の近衛家の文化的営為、近衛家収集の書跡・絵画・茶道具・刀剣・人形など、多方面にわたる近衛家の活動、近衛家伝来の品々により、みやびな公家文化の粋を紹介した。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・本展は、陽明文庫に収蔵される 20 万点におよぶ作品、ならびに宮内庁三の丸尚蔵館に献納された旧近衛家コレクションを加えた、陽明文庫の全貌を俯瞰する初めての試みであり、その企画意図は一般に好評をもって迎えられ、真冬にも関わらず多数の入場者を集め、15 万人を超えた。 ・藤原道長の自筆の日記(国宝 御堂関白記)や古筆を集成した「大手鑑」(国宝)、「和漢抄」(国宝)など書道関係者の注目を集める名品がそろい、見ごたえのある展示内容であった。 ・人形や立花、茶道関係の作品も多く、バラエティに富み、魅力的な展示構成であった。 ・書家として習練を積むための「臨書」の実相を、原本と臨書作品を対にして展示するなど、立体的な展示手法がわかりやすく好評であった。 ・書の読み下し表記について来館者からさまざまなご意見があった。今後よりわかりやすい表記に努めたい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	157,718 人	120,000 人	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0601-5

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　②特別展　(5/5) フィラデルフィア美術館「池大雅・徳山玉瀾展」特別協力

事業概要	江戸時代、わが国の文人画（南画）の大成者として名高い池大雅とその妻玉瀾の書画作品を大規模かつ集約的に紹介する。

担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	平常展室主任研究員　松嶋雅人

実績･成果	・開会期間　5 月 1 日～7 月 22 日(66 日間) ・会場　フィラデルフィア美術館（米国） Dorrance Special Exhibition Galleries, first floor ・主催　フィラデルフィア美術館 ・陳列品総件数　209 件（うち国宝 2 件、重文 10 件） ・入館者数　6 万 5,995 人 ・入場料金　一般　15 ドル ・当館は特別協力として、日本国内における作品の出品交渉・借用・返却、輸出入業務とそれらに関する連絡調整を行い、また作品に随伴し、現地での作品点検、陳列・陳列替・撤収の各作業に従事し、指導と助言を行った。 ・本展は大阪市立美術館も協力し、当館と共同して業務にあたった。 ・会期中、国際シンポジウムが開催され、松原茂上席研究員が研究発表を行い、米国における江戸時代の文人とその書画についての理解を深め、好評を博した。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・予想を上回る入場者数であったと主催者から報告があった。とくに、ニューヨークタイムズ紙をはじめ、各種マスコミに積極的に紹介されたことで、本展には米国内の注目と高い関心が向けられた。 ・本展を通し、両館の友好関係の促進と米国内における当館の信用の向上に繋がると同時に、国際交流面での当館の内実的発展に寄与するものとなった。 ・出品件数 209 件、内訳は、米国内 84 件、日本国内 125 件。日本国内 125 件のうち、国宝 2 件、重要文化財 10 件を含み、規模と内容において日本の文人画（南画）の海外展としては過去に例を見ないものとなった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	65,995 人	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 0602-1

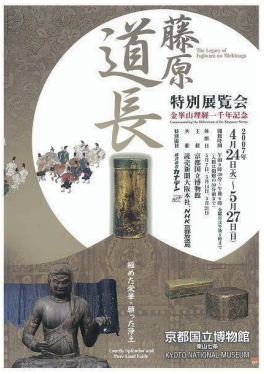
中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　②特別展等（1/3） 特別展覧会　金峯山埋経一千年記念「藤原道長―極めた栄華・願った浄土―」

事業概要	平安時代を代表する貴族藤原道長（966-1027）が大和金峯山に参詣した寛弘四年（1007）からちょうど一千年を経たことを記念し、金峯山経塚出土品を中心に、平安時代中期の山岳信仰や美術に関する作品をあつめ、時代の美意識を理解していただく。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	考古室長　宮川禎一

実績･成果	・開催期間　4 月 24 日～5 月 27 日(32 日間) ・会　　場　特別展示館 ・主　　催　京都国立博物館 ・陳列品総件数　146 件（うち国宝 28 件、重要文化財 70 件） ・入場者数　3 万 7,411 人(目標 2 万人) ・入場料金　一般 1,200 円、大高生 800 円、中小生 400 円 ・アンケート結果　満足度 91% ・金峯山経塚からの出土品を中心に、道長が極めた栄華と、願った浄土の様相、さらには末法思想の展開を、同時代の美術、工芸品及び考古遺品等から探り、理解を深めることができた。



特別展覧会「藤原道長」ちらし

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・藤原道長の仕えた一条朝の宮廷のありかたを示すため、道長の「御堂関白記」（自筆本）をはじめ藤原実資の「小右記」（古写本）、藤原行成の「権記」（古写本）などを展示した。また 10～11 世紀の対外交渉を示す、清涼寺の阿弥陀如来立像納入の宋版画などを借用展示した。また、定朝様が確立する以前の仏師康尚の時代の仏像を八体展示した。 ・陽明文庫所蔵の「御堂関白記」と金峯神社所蔵の金銅藤原道長経筒を中央室に展示し、旅程の地図などの補助パネルをあわせて掲示し、一千年前の道長の金峯山参詣がいかなるものであったかを具体的かつ詳細に理解していただいた。 ・同聚院の不動明王坐像や子島曼陀羅・道長自筆の法華経など一条朝の作品で道長にゆかりの深い作品を一堂に展示することができた。 ・絵画や彫刻などの作品ジャンルにとらわれずに文書や典籍・考古遺物など多くの分野の作品から平安中期、藤原道長の時代を多角的に展示できた。 ・副題の「極めた栄華」にあたるような美しい衣装や平安貴族の華麗な暮らしの様子を示す作品を想像してこられた観客には、やや地味な印象を与えたかもしれない。 ・貴族の日記など古文書の展示では内容解説パネルをより多く加えて、来館者の深い理解への補助としたかった。今後の展示で改善したい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	37,411 人	20,000 人	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画の方針に沿って、顕著な成果をあげている。

【書式A】　施設名 京都国立博物館　処理番号 0602-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　②特別展等（2/3） 特別展覧会「狩野永徳」

事業概要	桃山時代を代表する画家、狩野永徳の画業を回顧する史上初の試み。国宝・重要文化財指定の代表作はもちろんのこと、新たに発見された作品も多数展示することによって、永徳の画業の全貌を明らかにした。と同時に、華やかでスケール感豊かな桃山絵画の魅力を紹介した。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	保存修復指導室長　山本英男

実績･成果

・開催期間　10 月 16 日～11 月 18 日(30 日間)
・会　　場　特別展示館
・主　　催　京都国立博物館、毎日新聞社、NHK 京都放送局、
　　NHK きんきメディアプラン
・陳列品総件数　71 件
　（うち国宝 5 件、重要文化財 8 件、重要美術品 4 件）
・海外からの出陳件数　3 件
　（メトロポリタン美術館・ホノルル美術館・フランクロイド・ライト財団）
・入場者数　23 万 656 人(目標 7 万人)
・入場料金　一般 1,400 円、大高生 900 円、中小生 500 円
・アンケート結果　満足度 83%
・狩野永徳の作品を中心に、父・松栄や弟・宗秀、後継者である息子の光信・孝信、弟子である山樂らの作品や資料をテーマ別に展示し、永徳やその周辺画家たちの活動の実体を明らかにすると同時に、狩野派画家の魅力を紹介した。

特別展覧会「狩野永徳」プレちらし

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・史上初の大回顧展ということもあり、さまざまなメディアで取り上げられた。その結果、わずか一か月（実質 30 日）の開催期間にもかかわらず、膨大な数の入館者を記録した（一日平均 7,700 人）。
・これまで遺作が極端に乏しいとされてきた永徳であったが、このたびの調査によって数多くの注目すべき永徳画ないしは永徳筆の可能性を多分にもつ作品を出陳することができた。これにより、今後の永徳研究、桃山絵画研究に新たな筋道を提示した。
・水墨画・扇面・風俗画・肖像画・金碧画・金碧大画というように、ジャンルごとに陳列することで、その特色や魅力をより明瞭に把握できるように工夫した。また永徳の弟子たちの作品も一部加えることによって、永徳の個性がいっそう際立つように配慮した。
・一日平均入場者数 7,700 人という数値は、当館の特別展示館の規模を考えた場合にはほぼ最大限の数値であり、さまざまな努力（入退館時間の延長・民間会社による入場者の誘導・展示ケースの移動など）を試みたにもかかわらず、つねに 1～2 時間くらいの待ち時間を生じた。それを少しでも解消するには、説明文（題箋）の簡潔化や展覧会期間を延ばすなどの措置が考えられるが、前者ではサービス不足の指摘を受ける可能性があり、後者では作品の展示期間の制限があるため、すぐさま実行に移すには問題が多い。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
入場者数	230,656 人	70,000 人	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画の方針に沿って、顕著な成果をあげている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 0602-3

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (3/3) 特別展覧会 修好通商条約締結 150 周年 「憧れのヨーロッパ陶磁―マイセン・セーヴル・ミントンとの出会い」

事業概要	米欧 5 ヶ国との通商修好条約締結という日本の実質的開国を象徴する出来事から、150 年という節目の年に、ヨーロッパ陶磁という素材を通して、日欧の文化交流の歴史を辿る展覧会を実施する。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	企画室主任研究員 尾野善裕

実績･成果	・開催期間 20 年 1 月 5 日～3 月 9 日(56 日間) ・会 場 特別展示館 ・主 催 京都国立博物館、読売新聞大阪本社、讀賣テレビ ・陳列品総件数 175 件 ・入館者数 5 万 9,267 人(目標 3 万人) ・入場料金 一般 1,200 円、大高生 800 円、中小生 400 円 ・アンケート結果 満足度 91% ・マイセン・セーヴル・ミントンといった、ヨーロッパを代表するメーカーの製品を多数含め、陶磁器を中心に 175 件を展示した。

特別展覧会「憧れのヨーロッパ陶磁」ちらし

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・日欧の文化交流史に対する理解を促進する観点から、原則として江戸・明治時代に日本へもたらされたヨーロッパ陶磁を展示した。併せて、ヨーロッパ陶磁との影響・摸倣関係にある日本・中国陶磁を展示した。 ・作品の展示に併せて、実際のヨーロッパ陶磁の使用状況をイメージすることができるよう、輸入代理店から提供（協力）を受けたマイセン磁器を用いてコーディネートしたテーブルセットを 3 卓展示した。 ・会期中に、関連の普及啓発事業として、内外の講師による土曜講座を 6 回実施した。展示に対しての理解促進の一助として、図録を作成し販売すると同時に、業者による音声ガイドシステム（当館監修）を導入した。 ・会期中、会場内にセットしたチェンバロのミニ・コンサートを 9 回実施し、観覧客へのサービス向上と併せて、会場の雰囲気の盛り上げにも務めた。 ・読売新聞大阪本社に共催を依頼し、資金面・広報面での全面的な協力をえた。 ・英国総領事館・フランス大使館・ドイツ連邦共和国総領事館から後援を受けると共に、ヨーロッパ陶磁の輸入代理店からの協賛を受け、展示・広報の充実を図った。予算要求していた平常展示館の建て替え工事が認められなかったことに伴い、現存展示室の有効利用を図るべく急遽企画・立案した展覧会だったため、資金面でも準備時間の面でも大変厳しい条件での開催であったが、全 6 章構成のうち丸々1 章分を長年にわたる当館の社寺などの調査で見いだされた作品で構成したほか、各章に研究面での新知見を盛り込むことができた。特に、日本の中でも京都という土地柄に着目し、ヨーロッパ陶磁との関わりを取り上げた点は、共催新聞社以外の新聞紙面でも取り上げられ、一定の評価をえることができた、と自負している。 ・国立博物館が、東洋古美術だけを扱う専門館ではないことをアピールすべく、ポスター・チラシのデザインに特に配慮したほか、会場内のしつらえについても、従前の展覧会と異なる雰囲気を出すべく、特に配慮したところ、アンケートで高い満足度を獲得することができた。 ・年度当初計画の中になかった展覧会であったが、1 月～3 月という客足の鈍る時期の開催であったことに加え、会期中に例年にないほどの頻繁な降雪に見舞われたにも関わらず、目標に設定した 3 万人以上という少なからざる観客を動員することができた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	59,267 人	30,000 人	A	

中期計画期間における進捗状況	・中期計画の方針に沿って、顕著な成果をあげている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 0603-1

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　　②特別展等 (1/3) 神仏習合展

事業概要	近年の研究成果を踏まえつつ、「神仏習合」の始まりから本格的な展開を紹介し、新資料を多く含む彫刻・絵画・工芸品等、約 200 件を展示した。

担当者	担当部課	学芸課保存修理指導室	事業責任者	保存修理指導室研究員　谷口耕生

実績･成果

・開会期間　4 月 7 日～5 月 27 日（45 日間）
・会　　場　東西新館
・主　　催　奈良国立博物館、朝日新聞社
・陳列品総件数　205 件（うち国宝 18 件、重文 91 件）
・入場者数　4 万 493 人　（目標 3 万人）
・観覧料金　一般 1,000 円、高･大生 700 円、小･中生 無料
・アンケート結果　満足度 77%

・古来、日本人は山や河あるいは雷など、あらゆる自然現象の中に神の存在を見いだしてきた。しかし、大陸から仏教が伝来すると神と仏は互いに影響し合い、融合しながら「神仏習合」という新たな信仰世界を生み出していった。本展覧会では、「神仏習合」のはじまりから本格的展開までを、数多くの名品とともにさまざまな角度から紹介した。

神仏習合チラシ

神仏習合展会場内

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・出陳品 205 件のうち、国宝 18 件、重要文化財 91 件を数え、質量ともに過去に行われた神道美術に関する展覧会を凌駕する内容を提示することができた。
・寺の本尊あるいは神社の御神体として門外不出だった仏像や神像を数多く出陳し、普段触れる機会の少ない神仏習合美術への人々の関心を高めることができた。
・展覧会カタログは、会期中に当初印刷分が売り切れ、増刷分も含めて会期終了時に 6,000 部をほぼ売り切った。
・会期中に 4 回の公開講座を実施し、いずれの回も満員に近い聴講者が集まった。
・事前調査を踏まえた新資料を紹介し、展覧会カタログに 10 編の論考を盛り込むなど、多くの学術上の成果を得た。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	
入場者数	40,493 人	30,000 人	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 0603-2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　　②特別展等 (2/3) 院政期の絵画展

事業概要	日本絵画史上最も美しい絵画が生み出された時代といわれる院政期に焦点を当て、この時期に制作された仏画や絵巻の名品の数々とともに、美しい彩色・文様が施された仏像や工芸品もあわせて展示し、同時代の美意識を広く紹介する。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	学芸課長　梶谷亮治

実績･成果	・開会期間　9 月 1 日～9 月 30 日（26 日間） ・会　　場　東西新館 ・主　　催　奈良国立博物館、読売新聞大阪本社 ・陳列品総件数　125 件（うち国宝 49 件、重文 57 件） ・入場者数　2 万 2,696 人（目標 1 万人） ・観覧料金　一般 1,000 円、高･大生 700 円、小･中生 無料 ・アンケート結果　満足度 84% ・平安時代後期から鎌倉時代初期、いわゆる院政期の絵画は、仏教思想を基調としつつ、院や女院の美意識とも関わり、多彩な展開をとげた。本展覧会では、すぐれた仏画や絵巻物および白描図画などの絵画を中心として、当代を代表する優品を一堂に紹介した。

美麗展チラシ

美麗展会場内

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・出陳品 125 件のうち、国宝 49 件、重要文化財 57 件を数え、質量ともに史上空前の規模で院政期絵画の名品の数々を展示することができた。 ・通常出陳の機会が少ない仏画・絵巻・装飾経などの名品を一堂に集めることで院政期の美意識を明らかにするという内容について、観覧者から高い評価を得た。 ・入場者数は目標の 1 万人を大きく上回り、2 万 2,696 人を数えた。 ・展覧会目録は 3,937 冊を売り上げ、入館者 5.66 人に 1 人という高率で購入された。 ・会期中に展覧会のテーマに関わる第一線の研究者を招いて 3 回の公開講座を実施するとともに、会期中に関連テーマによる公開講座を 3 日間に渡って開催し、院政期絵画の啓蒙に努めた。 ・4 週間の会期を前期・後期の 2 期に分け、前期に来館した観覧者に後期の割引を適用するというサービスを実施した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	22,696 人	10,000 人	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 0603-3

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実 ②特別展等 (3/3) 第 59 回正倉院展

事業概要	聖武天皇の遺愛品、大仏開眼会におけるさまざまな献納品、東大寺で用いられた仏具、楽器、染織品のほか、遊戯具、文房具など、正倉院宝物の全体像が見渡せる内容となっている。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	学芸課長 梶谷亮治

実績･成果	・開会期間 10 月 27 日～11 月 12 日 (17 日間) ・会 場 東西新館 ・主 催 奈良国立博物館 ・陳列品総件数 70 件 (うち初出陳 17 件) ・入場者数 24 万 8,389 人 (目標 18 万人) ・観覧料金 一般 1,000 円、高･大生 700 円、小･中生 400 円 ・アンケート結果 満足度 68% ・昭和 21 年から開始され、国民的行事として定着している恒例の正倉院展は、正倉院宝庫の宝物点検の際に宮内庁より貸与を受け、当館にて公開展示するものであり、奈良時代の優れた文化財を鑑賞するまたとない機会として例年多数の入館者があり、その中には固定的ファンも多い。

正倉院展チラシ

正倉院展会場内

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・一日の平均入場者数は過去最高となり、混雑が懸念されたが、オータムレイトチケットの販売、入場制限、休日における団体客の制限、係員の配置等により、大きな問題を生ずることはなかった。 ・一日平均では過去最高の入場者数であったが、事前から十分な環境への対策を練り、温湿度の変化やホコリの影響等を最小限に抑えることができた。また、混雑の予想されるケースには結界を用い、観客の体温をガラスケースに伝えない工夫をこうじた。 ・読売新聞社の特別協力により広報・宣伝活動が順調に進み、また NHK や ABC、諸ラジオ放送などの協力も得ることができ、正倉院展の注目度をあげるのに貢献した。 ・展示宝物 70 件のうち 17 件が初出陳であり、新資料を提供することができたほか、近年始められた染織品の保管方法などを公開した。 ・展覧会開催中に、公開講座、正倉院シンポジウムを開催したほか、連日ボランティアによる出品宝物の解説 (30 分) が行われ、鑑賞の手引きとして好評を博した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	248,389 人	180,000 人	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

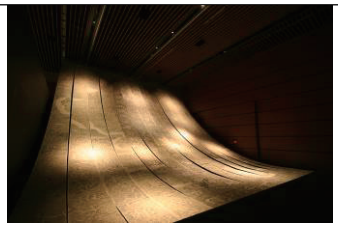
【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 0604－1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	（1） 展示の充実 ② 特別展等（1/4） 「未来への贈りもの―中国泰山石経と浄土教美術」

事業概要	「末法思想」と「浄土教」をテーマに、考古・工芸・彫刻・絵画・書跡の多彩な分野にわたる文化財を展示することにより、末法の世の中にあって、経典を後世の人々へ伝えようとする思いは、国と時代、方法の違いはあっても同じだったことを表現するため、今から約千五百年前の中国と約千年前の日本の作品を中心に、贅と美を尽くした仏教芸術の精華を一堂に会する。

担当者	担当部課	企画課	事業責任者	研究員 松川博一

実績･成果	・開会期間 4 月 10 日～6 月 10 日（61 日間） ・会 場 特別展室 ・主 催 九州国立博物館、読売新聞西部本社、FBS 福岡放送 ・陳列品総件数：118 件(うち国宝:15 点、重要文化財:50 点) ・入場者数：7 万 7,380 人（目標入場者数 10 万人） ・入場料金 一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円 ・アンケート結果 満足度 85.0% ・第一章「中国摩崖石経の世界」、第二章「末法の到来と浄土教」、第三章「法華経信仰と装飾経の美」、第四章「九州の経塚遺宝」の構成からなり、展示作品は考古・工芸・彫刻・絵画・書跡の多彩な分野にわたる。 ・記念講演会「安道壹と摩崖石刻経」、伎楽公演「三蔵法師求法の旅」、天台宗開宗 1200 年記念 天台声明公演、観覧ツアー「井上拓歩が語る中国石経の旅」を企画実行した。	 **大集経 巻八・海慧菩薩品 山東省鉄山摩崖刻経、中国・北周時代・大象元年(579)、個人蔵**

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・ 中国の末法思想を伝える壮大なスケールの摩崖刻経拓本からはじまり、日本での末法思想や浄土思想を背景として貴族社会で開花した浄土教美術、さらに地方、特に九州の霊峰などに埋納されていた経塚遺物を展示できたことで「末法思想」および「浄土信仰」の広い展開を紹介することができた。日本だけでなく中国も含めた「末法思想」をテーマとした本格的な展覧会としては本展が初めてのものである。 ・ 展示手法については、エントランスホールをはじめ広い空間を使ったダイナミックな展示や鏡による演出効果を狙った展示、デジタル技術を使ったメッセージ性の高い展示など、これまでにない取り組みを行った。 ・ 来館者の展示室での滞在時間が長く、リピーターも多かったとの報告もあり、観覧者の満足度は高かったと分析できる。 ・ 展覧会タイトルは、来館者に対して展覧会のメッセージを伝える上ではよかったが、抽象的なために展覧会の具体的な内容や展示物をイメージさせることができず集客に結びつかなかった。 ・ 広報展開、特にテレビによる広報が弱く、集客に影響した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	77,380 人	100,000 人	B	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、ほぼ順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 0604－2

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　　②　特別展等（2/4） 「日本のやきものー選び抜かれた名宝 120 点」

事業概要	世界最古の土器の一つである縄文土器から現代の伝統陶芸にいたるまでの、日本の陶磁器の各時代、各地域の名品を展覧し、世界に誇る日本陶磁の技と美を紹介するものである。文化庁の海外展事業の一環として、ポルトガルに送り出す前に公開する。

担当者	担当部課	企画課	事業責任者	企画課長　伊藤嘉章

実績･成果	・開会期間　7 月 7 日～8 月 26 日（49 日間） ・会　　場　特別展室 ・主　　催　文化庁、九州国立博物館 ・陳列品総件数：138 件（うち重要文化財：24 件、重要美術品：1 件） ・入場者数：5 万 986 人（目標入場者数　5 万人） ・入場料金　一般 1,200 円、高大生 800 円、小中生 400 円 ・アンケート結果　満足度 87.3% ・「誕生ー原始･古代のやきもの」「発展ー中世のやきもの」「爆発ー桃山の茶陶」「飛翔ー伊万里の磁器」「洗練ー鍋島の精華」「風雅ー都のやきもの 京焼」「独創ー近現代のやきもの」という 7 章構成。 ・講演会「桃山の茶陶」林屋晴三東博名誉館員、「華やか名江戸の陶磁」伊藤嘉章九博企画課長。 ・展示の中に教育普及的要素を三つのテーマで導入した。 ・会期中に三種類のワークショップを実施した。

「日本のやきもの」展会場
第一室

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・文化庁がポルトガルで開催する日本陶磁展の国内展として共同で開催。 ・日本陶磁の全体像を示すという大規模な展覧会であり、分野に特化し、その全体像という九博としては最初の展覧会となった。 ・作品の質、展示構成などから入館者の満足度は高いものがあった。 ・特別展と教育普及の連携を強めることで、観客の満足度を増すことができた。 ・広報力がマスコミとの共催展に較べて低下し、入館者数は前年度に較べて伸び悩みとなった。共催展以外の今後の展覧会広報について課題を残した。 ・カタログの購買率が約 5.7%に上ったことからも来館者の本テーマへの関心の高さが伺える。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	50,986 人	50,000 人	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 0604－3

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展等（3/4） 「本願寺展―親鸞と仏教伝来の道」

事業概要	浄土真宗本願寺派の本山である西本願寺は、平成23年（2011年）、宗祖親鸞聖人750回大遠忌法要を迎える。そこで、九州国立博物館開館2周年を記念する展覧会として、西本願寺にゆかりの美と文化遺産を、従来にない規模で紹介する。

担当者	担当部課	企画課	事業責任者	資料管理室長 伊藤信二

実績･成果	・開会期間 9 月 22 日～11 月 18 日（53 日間） ・会 場 特別展室 ・主 催 浄土真宗本願寺派、九州国立博物館、 筑紫女学園、西日本新聞社 ・陳列品総件数：132 件 （うち国宝:4 件､重要文化財:24 件） ・入場者数：19 万 7,697 人（目標入場者数 15 万人） ・入場料金 一般 1,300 円、高大生 1,000 円、 小中生 600 円 ・アンケート結果 満足度 89.9% ・第 1 章「親鸞聖人の事蹟と信仰」、第 2 章「本願寺歴代の肖像と聖教」､第 3 章「ゆかりの至宝－名筆・茶の湯・茶の湯」、第 4 章「大谷探検隊と仏教伝来の道」の 4 章で構成され、出陳作品は絵画・書跡・工芸・考古などからなる。 ・五木寛之氏による記念講演会「親鸞の悲しみ」、記念シンポジウム「シルクロード―共存の道～大谷探検隊からのメッセージ」、落語・節談説教「落語のルーツは浄土真宗のお説教!?」､「宗祖降誕奉讃法要」や「雅楽コンサート」などを実施した。

「松桜孔雀図」
江戸時代・17 世紀、京都・本願寺

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・浄土真宗本願寺派の本山として古今にわたるあつい信仰を集めてきた本願寺（西本願寺）ゆかりの文化遺産を、九州において初めて本格的に紹介することが出来た。 ・親鸞聖人と歴代門主にまつわる肖像画・絵伝、教義を記した典籍類をはじめ、「国宝三十六人家集」に代表される雅やかな古筆や殿舎・書院の壮麗な障壁画、さらに本願寺第二十二世の大谷光瑞師が組織した探検隊の収集品など、幅広い分野にわたる文化財を紹介することが出来た。 ・共催の西日本新聞社・筑紫女学園大学などと連携し多彩な関連事業を展開することで、展示に加え様々な側面から有機的に展覧会を構成することが出来た。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	197,697 人	150,000 人	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 0604－4

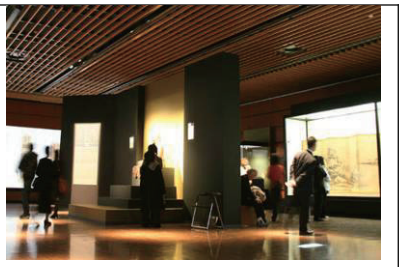
中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実 ② 特別展等 (4/4) 「京都五山 禅の文化展」

事業概要	足利義満遠忌600年を記念し、鎌倉時代から室町時代にかけて華開いた京都の禅文化を紹介するもの。京都五山をはじめ五山派の禅宗寺院にのこる優品を展示し、日本文化史上、京都五山が果たした大きな役割を示す。東京国立博物館との共同主催。

担当者	担当部課	企画課	事業責任者	学芸部長 小松大秀

実績･成果	・開会期間 20 年 1 月 1 日～2 月 24 日（48 日間） ・会 場 特別展室 ・主 催 九州国立博物館、西日本新聞社、TVQ 九州放送、日本経済新聞社 ・陳列品総件数：205 件（うち国宝 6 件、重要文化財 102 件、重要美術品 11 件） ・入場者数：17 万 1,336 人（目標入場者数 8 万人） ・入場料金 一般 1,300 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円 ・アンケート結果 満足度 76.4% ・彫刻、絵画、書跡、工芸など多彩な分野からなる作品を、特別展示室および文化交流展示室（9A、9B 室）を会場として展示した。 ・会期中、記念講演会として「京都五山と禅宗文化」（講師：有馬頼底氏）、「対談 禅文化と京都を語る」（真野響子氏、三輪館長）を実施、その他茶会や座禅会などの関連イベントを催した。



「京都五山 禅の文化」展
特別展示室第三室

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・ 京都五山に伝わる彫刻、絵画、書跡、工芸品を通して、中世禅文化について総合的に展示、紹介することができた。九州初公開の文化財も多く、観覧者の満足度は高かった。 ・ 特別展示室に加え文化交流展示室の一部を会場としたことで、来場者の多い文化交流展で特別展出陳作品を見ていただくことができた。そのことにより、特別展の入場者増にもつながった。 ・ 特別展示室から文化交流展示室内会場へ誘導するサインが少なく、混乱を招いた。 ・ 教育普及活動の一環として、通常のキャプションのほかに、クイズ形式の「禅問正解」や「コラム」を設置した。また、「禅僧の一日」というコーナーを設け、禅僧の生活を再現した。これらの活動は、作品をわかりやすく伝え、展示内容に対する興味を高めることに貢献した。 ・ 新聞、TV など広報活動を幅広く展開したことで、多数の来館者を獲得、目標を大幅に超える結果を得た。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	入場者数	171,336 人	80,000 人	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0701

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実 ③展覧会広報

事業概要	平常展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。 展覧会ごとにその内容と学術的意義を踏まえ、想定する対象層に応じた広報計画を策定・展開することで来館者の増加を図るとともに、平常展広報をとおして館の活動を広く周知する。

担当者	担当部課	広報室	事業責任者	広報室長 立道惠子

実績･成果

1)東京国立博物館ニュース第 682 号～687 号(隔月刊、発行部数 3 万部)を発行。入館者への無料配布、定期郵送のサービス（6 冊 1000 円：送料と事務費購読者負担）を継続。
2)ウェブサイトによる情報提供。
・随時更新に努めた。・サイト内検索システムの導入。
3)広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等
・一例として「博物館に初もうで」(20 年 1 月 2 日～1 月 27 日)
チラシ 日本語 9 万部 英語 1 万部、ポスターB1 120 部 B2 1600 部、DM 発送 1,772 件、交通広告、JR・東京メトロ・京成電鉄など主要 62 駅に掲出。

高田馬場駅(松林図屏風／博物館に初もうでポスター掲出)

4)年間スケジュールリーフレット（東京国立博物館展示と催し物案内）を制作、配布した。
5)総合パンフレット(7 か国語＝日･英･独･仏･中･韓･西)、本館・東洋館フロアガイド(4 か国語＝日･英･韓･中)を改訂増刷、新たに応挙館のパンフレットを制作した。
6)マスコミ媒体と連携した広報活動の展開
・18 年度に引き続き、「月刊うえの」「月刊書道界」「展覧会ガイド」「にっぽにあ」等に加え「かぞくのじかん」の連載ページを新たに確保し、マスコミ媒体との連携による広報を行なった。
・プレスリリースを 262 社に送付。定期情報：月 1 回 臨時情報：3 回
・マスコミ対応 取材･撮影･写真貸出し等 約 410 件
掲載(新聞･雑誌･インターネット等) 約 530 件
7)電子メールマガジン配信回数 57 回、登録者数 16,758 名
メールマガジン利用者の利便性を高め、かつウェブサイト上での友の会・パスポートの申し込みを可能にすることで利用者の利便性を高めるシステムの来年度導入を目指して試験的導入をした。
8)モバイルサイトの開発を検討した。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・東京国立博物館ニュースでは特集陳列を 48 件紹介するなど、引き続き平常展広報の充実を図った。
・「大徳川展」ではウェブサイトで入場待ち時間を掲出したが、状況に対応して 1 日に数回更新することで、できるだけ適切な情報を迅速に伝えることができた。
・新春特別公開「松林図屏風」のポスターを製作し「初もうで」のポスターの一部と駅連貼りをしたところ、「松林図屏風」を展示する国宝室には 14 日間でのべ 23,673 人が訪れるなど効果があった。
・モバイルサイトの開発は、実現に向けて引き続き検討を重ねていく必要がある。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
東京国立博物館ニュースの発行	6 回	6 回	A
ウェブサイトの更新	4,547 回	300 回	A
電子メールマガジン配信	57 回	－	－
電子メールマガジン登録者数	16,758 人	－	－

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 0702

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

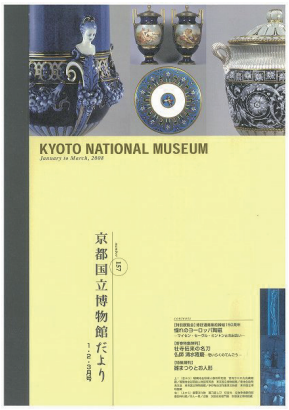
事業名	(1) 展示の充実 ③ 展覧会広報

事業概要	平常展示・特集陳列と特別展覧会に関する情報を国の内外に発信する。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	企画室長 赤尾栄慶

実績･成果

メールマガジン新規発刊（6 月）
6 月より運用を開始し、第 11 号まで刊行した。
加入者数 2,358 人
「博物館だより」の発行・配布（4 回）
「News Letter」の発行・配布（4 回）
「年間スケジュール」リーフレットの作成・配布
「展示案内」リーフレット（6 ヶ国語）の作成・配布
特集陳列リーフレットの作成・配布（7 回）
ウェブサイトによる情報提供（日本語・英語）
モバイルサイトによる情報提供
マスコミ媒体と連携した広報活動の展開（4 回）
映像ブースの活用



「博物館だより」157 号

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・新たにメールマガジンでの広報を実施し、1 ヶ月ごとの平常展示などの情報を発信し、好評を得ている。
・「博物館だより」については、英文の「News Letter」も発刊している。「年間スケジュール」「展示案内（6 ヶ国語)」については、滞りなく予定通り作成・配布した。
・特集陳列では、毎回リーフレットを作成して鑑賞の便を計るとともに、その概要については英文のパネルでも表記し、外国人にも理解しやすいように努めた。
・特集陳列に関しては、特別展と会期の近いものを除いて、その度ごとに記者発表を行い、広報・情報発信に努めた。特別展と会期の近い特集陳列では、特別展の記者発表の際に兼ねて広報を行った。
・特集陳列リーフレットのうち、「新春特集陳列」リーフレットに関しては、近隣の社寺の地図を付すとともに、リーフレット配布については所載の社寺の協力を得て、幅広く配布を行った。
・ホームページなどを通じて、国の内外に情報発信を行った。
・ハイアットリージェンシー京都のロビー・京都駅地下街・太秦映画村などに設置してある京都市内観光用映像ブースに平常展の作品を紹介し、観光客の誘致にも努めた。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
博物館だよりの発行	4 回	4 回	A
News Letter の発行	4 回	4 回	A
展示案内リーフレットの作成	6 ヶ国語	6 ヶ国語	A

中期計画期間における進捗状況

新たにメールマガジンを発信し、順調に計画を実施・達成している。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 0703

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1) 展示の充実 ③展覧会広報

事業概要	来館者等への展示品、展覧会及び博物館に関する様々な情報を広く国民に提供し、国立博物館に対する理解の促進を図るため、広報活動を展開する。

担当者	担当部課	総務課渉外室	事業責任者	渉外室長 植田義雄

実績･成果

・奈良国立博物館だより 年 4 回発行
・奈良国立博物館リーフレット（7 ヶ国）発行
日本語 10 万部、英語 1 万部、韓国語 8 千部、中国語 5 千部
仏・独・西語各 2 千部
・奈良国立博物館展示案内を年 2 回発行
・電子メールマガジンによる博物館情報を配信
配信回数 14 回、登録者数 3,413 人
・屋外大型液晶ディスプレイを館入口道路沿いに設置
平常展展示文化財を画像と音声で紹介
・特別展「神仏習合」「美麗 院政期の絵画」では、東大寺や興福寺など近隣社寺に、割引チラシを設置
・特別展「正倉院展」では、正倉院宝物のみならず大型減圧燻蒸殺虫装置を展示し広報展開を実施
・「日本美術の流れ リレ・ネットワーク」に協力し、会員向け広報展開を実施

屋外大型液晶ディスプレイ

燻蒸殺虫装置

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・電子メールマガジンの登録者数は昨年度より増加した。また配信回数も昨年度より増加し、展覧会情報や平常展作品紹介、イベント及び講演会のお知らせを配信した。今後も登録者数の増加と定期的な配信を実施する。
・屋外大型液晶ディスプレイは、当館と隣接している世界遺産の東大寺・春日大社・興福寺を結ぶ道路沿いに設置し、同所を訪れる観光旅行者などに平常展作品を中心に映像で紹介している。ディスプレイを見て立ち寄る観覧者もおり、当館の存在を広くアピールすることができた。
・東大寺や興福寺及び薬師寺などの協力のもと、同所に特別展割引チラシと専用看板を設置できた。奈良を訪れる観光旅行者に、開催中の特別展を広くアピールできた。
・大型減圧燻蒸殺虫装置は、宮内庁正倉院事務所で正倉院宝物の虫害防除として長年貢献した装置であり、正倉院展と同時期に展示することで、入場者の増加及び文化財保存に関する技術を広報することができた。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
博物館だより発行	4 回	4 回	A
電子メールマガジン登録者数	3,413 人	－	－

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 0704

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(1)　展示の充実　　③　展覧会広報

事業概要	①　外国語のガイドブックを刊行する。 ②　特別展の実施に伴う広報・宣伝材料の制作 ③　マスコミ媒体と連携した広報活動の展開 ④　「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」の発行（年 4 回） ⑤　ウェブサイトによる情報提供（日本語・英語）（常時更新） ⑥　地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開 ⑦　九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動の展開

担当者	担当部課	企画課 広報課	事業責任者	文化交流展室長　河野一隆 企画課長　伊藤嘉章 広報課長　石橋和夫

実績･成果	① 外国語ガイドブックの刊行に向けて、来館者動向の調査を、九州大学金大雄研究室と共同して実施した。ただ、刊行にまではいたっていない。 ② 4 回の特別展では、ポスター･チラシを制作。うち 2 回の展覧会では先行チラシ、本チラシと複数制作するとともに、広報資料を制作し、チラシとともに関東・関西圏の雑誌、メディア約 300 媒体と九州圏内の情報誌約 150 媒体に送付した。 ③ イベントや特集陳列の開催など 70 件のリリースを記者クラブに資料提供した。また、特別展の開催に関する記者発表や、プレスプレビューを実施した。 ④ 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を 4 月 1 日、7 月 1 日、10 月 1 日、1 月 1 日の 4 回発行した。 ⑥ 地元の市、商工会、観光協会等と例月の協議会を開催し、情報を交換した。 ⑦ 九州観光推進機構を通じ、東アジアの旅行業者等に随時情報を提供した。

季刊情報誌
アジアージュ

「京都五山ー禅の
文化展」ポスター

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・九州大学金大雄研究室との共同で行った来館者動向調査は、実際の来館者の動きをよく捉えたものとなり、今後の文化交流展室の展示活動に大きな指針を与えるものとなった。 ・共催展では特別展案内のチラシを時期に分けて二種類制作し、より細かな広報活動が可能となった。 ・積極的な広報活動により、地元の新聞、テレビをはじめ、全国向けの雑誌等においても展覧会の情報が数多く取り上げられた。 ・地元への情報提供等を通じて、近隣市町村や最寄り駅を有する私鉄の沿線からの来館者とリピーターの確保につなげることができた。 ・中国、韓国を中心に東アジアからの来館者が増え、韓国から修学旅行生が来館するケースも見られた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	「九博季刊情報誌アジアージュ」の発行	4 回	4 回	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0801

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	（1）展示の充実　④黒田記念館所蔵作品の公開機会の拡大

事業概要	黒田記念館関係作品を、黒田記念館以外の東京国立博物館の展示施設で展示し、公開機会の一層の拡大を図る。

担当者	担当部課	文化財部展示課	事業責任者	展示課長　谷豊信

実績･成果

・本館平成館 1 階企画展示室において、黒田記念館絵画作品の特集陳列を 2 回実施した。
・特集陳列「黒田記念館 黒田清輝の作品 Ⅰ」（4 月 10 日～5 月 6 日）では、代表作である重要文化財「湖畔」をはじめ、フランス留学から晩年までに制作された作品 22 件を展示した。
・特集陳列「黒田記念館 黒田清輝の作品 Ⅱ」（11 月 6 日～12 月 2 日）では、「赤髪の少女」をはじめ、フランス留学時代の作品を中心とする 22 件を展示した。

重要文化財　湖畔　黒田清輝筆

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

2 回あわせて 8 週間、黒田作品を黒田記念館以外の場で展示することにより、黒田作品の公開を拡大した。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
黒田記念館作品の展示	44 件	―	―
特集陳列観覧者数	47,931 人	―	―

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0901-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (1/5)

事業概要	1) ナショナルセンターとしてふさわしい教育普及の先導的事業の実施 ナショナルセンターとしてふさわしい事業として、先導的事業のモデル化と実践と「みどりのライオン」プロジェクトを実施する。

担当者	担当部課	教育普及課	事業責任者	教育普及室長 小林牧

実績･成果

・先導的事業のモデル化及び実践
1)親と子のギャラリー
平常展示の一環として、教育普及的な手法（興味深いテーマ構成、やさしい解説、図版・映像の利用など）を用いた特集陳列を実施。
①「博物館のおもちゃ箱」7 月 3 日～9 月 24 日(75 日間)本館 14 室
②「版でつくる」11月27日～12月24日 (20日間) 本館特別2室
2)体験型プログラムの実施
展示に関連したハンズオン体験コーナーを設け、ワークショップなども実施。「遊ぶ」「作る」などの体験を通して、伝統文化に対する理解と鑑賞を深める新しいプログラムを開発した。
・「みどりのライオン」プロジェクト
みんなで楽しむ教育普及スペース・表慶館「みどりのライオン」を開設。パネル展示により館全体のガイダンス機能をもたせると同時に、各種レクチャーや体験型プログラム、制作工程模型展示などを、一般から学校団体まで幅広い層に向けて展開。博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育普及活動を実施した。

表慶館「みどりのライオン」ならせる銅鐸の展示

ワークショップ「具合せをつくってみよう」

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・先導的事業のモデル化及び実践
親と子のギャラリーによる教育普及的手法を盛り込んだ展示と、それに関連した体験型プログラムの組み合わせにより、来館者の作品へのアプローチが容易になった。また、作品に対して、複数の視点からの理解・鑑賞の可能性を示唆することができた。この結果、来館者の幅広いニーズに応え、それぞれのレベルでの伝統文化理解と鑑賞を深める一助となり、博物館における先導的教育普及事業をモデル化し実践することができた。
・「みどりのライオン」プロジェクト
教育普及事業を実施する恒常的なスペースとして、表慶館に設けた「みどりのライオン」は多くの来館者に利用され、歴史と伝統文化の理解の促進に寄与した。とくに学校団体での利用が多く、適切かつ十分なプログラムの提供が可能になったと同時に、集合場所、荷物の預り、昼食場所の提供など、学校団体へのサービスの面で、著しい向上がはかられた。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
表慶館「みどりのライオン」入館者数	130,490 人	―	―
ワークショップ、体験型プログラムのべ参加者数	129,277 人	―	―

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0901-2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (2/5)

事業概要	2)学校との連携事業の推進 スクールプログラム、全国高等学校美術・工芸研究会との連携事業、全国歴史教育研究協議会（日本史・世界史）との連携事業、教員内見会を実施する。

担当者	担当部課	教育普及課	事業責任者	教育普及室長 小林牧

実績･成果

・スクールプログラム（児童・生徒対象）
小・中・高等学校での団体来館者に向けて、ガイダンス、鑑賞プログラム、体験型プログラムなどを提供。伝統文化の理解促進に寄与した。
就業体験の受け入れを行い、児童・生徒にキャリア学習の機会を提供するとともに、博物館および文化財保護の意義についての普及にも寄与した。
・高等学校との連携事業
高等学校の単位制授業に教育プログラムを提供した。（共催：国立西洋美術館、東京国立近代美術館）
・教員研修（教員対象）
7 月 25 日～27 日 全国高等学校美術･工芸教育研究会の会員研修会への協力 講演 2 件（共催：東京芸術大学）
教員特別鑑賞会・ガイダンスの実施
5 月 12 日 平常展と表慶館「みどりのライオン」、10 月 12 日 「大徳川展」、3 月 28 日 「薬師寺展」の計 3 回実施。
・インターンシップ
博物館研究員の養成を目的として、大学院生を対象とした、インターンシップを実施。
・ 大学生および教育関連機関等の見学対応

スクールプログラム受講風景

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・スクールプログラムでは、児童・生徒の鑑賞体験を深め、伝統文化の理解を促進することができた。同時に、公共施設におけるマナーを習得させ、博物館および文化財保護に関する意識を高めることもできた。美術作品を鑑賞し、伝統文化に触れる機会を得ることは、児童・生徒にとって将来の大きな糧になると同時に、博物館にとっては、来館者層の拡大と将来のリピーターの養成につながるものである。
・教員に対する研修を行うことによって、学校教育の現場における鑑賞教育のよりよい展開と伝統文化に対する理解を促進することができた。
・インターンシップを通して、将来の有望な博物館研究員の養成に寄与した。
・全国歴史教育研究協議会（日本史・世界史）との連携事業は、先方の都合により本年度は実施しなかった。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
スクールプログラム受講者数	125 校 4,840 人	―	―
教員内見会参加者数	820 人	―	―
インターンシップ受け入れ	12 大学 20 人	―	―

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0901-3

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (3/5)

事業概要	3)文化財を分かりやすく理解するための講座・講演会 4)列品解説・月例講演会・テーマ講演会・連続講座などの実施 来館者が文化財を分かりやすく理解するための講座･講演会･列品解説･講座などを実施する。

担当者	担当部課	教育普及課	事業責任者	教育講座室長 白井克也

実績･成果

月例講演会 実施回数 12 回
聴講者のべ人数 1,304 名（一回平均 109 名）
平均満足度 82.4%
テーマ講演会 実施回数 4 回（京都五山 禅の文化展にて実施）
聴講者のべ人数 908 名（一回平均 227 名）
平均満足度 69.3%
記念講演会 実施回数 8 回
(特別講演会含)聴講者のべ人数 2,558 名（一回平均 320 名）
連続講座 実施回数 3 日（特別展「宮廷のみやび展」にて実施）
聴講者人数 874 名 平均満足度 77.4%
公開講座 実施回数 2 回 参加者数 98 名
イブニングレクチャー 実施回数 5 回 聴講者のべ人数 419 名（一回平均 84 名）
平均満足度 71.8%
その他解説等 9 回 参加者数 1,852 名
列品解説 実施回数 42 回 聴講者のべ人数 2,531 名（一回平均 60 名）
教育的イベント 坐禅会、お茶会（特別展「京都五山展」にて実施） コンサート（特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ展」、「宮廷のみやび展」にて実施） 保存修復見学ツアー
板碑ツアー 上野の山でライオンめぐり（台東区との連携事業）56 回
参加者数 1,501 名

記念講演会の様子

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・多様な講座・講演会等により、文化財に対する理解と親しみを促進した。
・外国博物館との人的交流を生かした博物館交流セミナーを新設し、館々交流の成果を還元するとともに、博物館事業への理解を促した。
・夜間開館時を利用して金曜日夕方にイブニングレクチャーや列品解説を開催し、新たな来館者層の開拓に努めた。
・受講者募集においてインターネットによる応募や、1 件 2 名のペア受講券の導入などを試行した。潜在的な来館者層に訴えるこれらの試みにより、学生やサラリーマンなど、現役世代の受講を促すことに成功した。
・恩賜上野動物園、国立科学博物館、台東区などとの連携事業は、文化財を多様な視点から見ることを促し、当館のみでは果たしえない内容となった。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
講演会等 参加者数	11,361 人	10,915 人	A
講演会等 実施回数	144 回	―	―
うち講演会 参加者数	4,770 人	―	―
実施回数	24 回	―	―
うち連続講座 参加者数	288 人	―	―
実施回数	3 回	―	―
うち公開講座等参加者数	2,369 人	―	―
実施回数	16 回	―	―
うち列品解説 参加者数	2,531 人	―	―
実施回数	42 回	―	―

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0901-4

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (4/5)

事業概要	5)東京芸術大学との連携事業 東京芸術大学大学院 1 年生 9 名による、展示室内でのギャラリートーク及び所蔵品の制作工程模型作成とそれに係るギャラリートークを行なう事で観覧者の鑑賞を助ける。

担当者	担当部課	教育普及課	事業責任者	ボランティア室長 鷲塚麻季

実績･成果

・展示室内において陳列品を前に、その概要を平易な言葉で20分程度解説することにより、これまで当該作品になじみの薄かった来館者の鑑賞の補助ができた。
ギャラリートーク回数 54回
参加者数 1,294名

・法隆寺献納宝物の押出仏阿弥陀如来及び僧形像の制作工程模型を作成し、その過程で得られた新知見をまじえ、表慶館「みどりのライオン」体験の間においてギャラリートークの方法で観覧者に解説することにより平常展示鑑賞の補助とした。
表慶館「体験の間」に於ける陳列期間
20年2月26日～6月1日
ギャリートーク回数 5 回
参加者数 109 名

ギャラリートークの様子

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)

・ギャラリートーク実施者にとって、参加者にわかりやすい内容や話し方を工夫することが貴重な経験となり、参加者は作品鑑賞の理解を深めることができた。
・制作工程模型の作成は、古典的技法を追体験することにより、制作者自身が新知見を得ることができ、その説明を受けた観覧者が作品の制作に関して疑問を解く手がかりを得ることができた。
・総じて東京芸術大学との連携事業において、模造の制作・ギャラリートークを行うことで、学生の学習意欲を喚起し（当館の所蔵作品における新知見を見出す等)、発表する機会を提供した。その結果として博物館の事業および文化財について、来館者に対し多角的な視点での鑑賞・理解を一層深めることにつながった。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	
講演会等のうち 学生ボランティアによるギャラリートーク				
参加者数	1,403 人	―	―	
実施回数	59 回	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 0901-5

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供 (5/5)

事業概要	6)キャンパスメンバーズ キャンパスメンバーズ（大学会員制度）による大学との連携を継続して実施する。

担当者	担当部課	教育普及課	事業責任者	教育普及室長 白井克也

実績･成果

キャンパスメンバーズ会員校へのサービスとして博物館セミナーと教育連携事業を開催した。

・博物館セミナー 3 回実施（9 月 7 日、18 日、21 日 計 6 時間）
第 1 回
博物館における情報管理 情報管理室長 田良島哲
みどりのライオンプロジェクト 教育普及課長 加島勝
参加者 28 名

第 2 回
国際交換展ができるまで 教育講座室長 白井克也
国際展の現状と課題 国際交流室長 鬼頭智美
参加者 18 名

第 3 回
文化財の地震対策 保存修復課長 神庭信幸
東京国立博物館の歴史 情報課長 高橋裕次
参加者 12 名

・連携教育事業 6 日間
（9 月 11・12・13・14・19・20 日 計 25.5 時間）
参加校 成蹊大学 大正大学 桜美林大学 武蔵野美術大学より、都合 7 名

博物館セミナーの様子

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・博物館セミナーでは、大学における博物館学の学習に資するように、企画展の開催までの業務、文化財情報の管理、地震対策など、博物館の現場ならではのトピックを取り上げ、受講者に提供した。
・博物館セミナーは受講者の学習に役立つのみならず、未来の文化財保護を担う大学生に対し、博物館のメッセージを直接伝える場としても有効であった。
・教育連携事業では、博物館事業の諸側面に関して、少人数に対する講義・実習を行い、博物館と文化財へのさらなる愛着や理解を促進した。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	
キャンパスメンバーズ加入校	22 校	―	―	

中期計画期間における進捗状況

中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 0902

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供

事業概要	日本及び東洋の文化財に対する理解の促進と教育普及を行う。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	企画室長 赤尾栄慶

実績･成果

・土曜講座を土曜日の午後に開催（45 回）
＊土曜講座 1600 回記念特別講座 （5 月 19 日）
・夏期講座「文化の波及と変容」を実施(8 月 1 日～3 日)
・小・中学生向け作品解説シート（博物館ディクショナリー）を毎月発行（12 回）
・博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載し、充実を図る
・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座を担当
・キャンパスメンバーズを継続し、大学との連携を図る
・京都橘大学との連携を行い、解説ボランティアによる展示解説を実施
・教員及び外国人モニターを委嘱し、学校教育への利用や提言を受ける
・「留学生の日」（10 月 8 日）を実施
・「少年少女博物館くらぶ」（20 年 3 月 2 日）を実施

土曜講座 1600 回記念特別講座

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・土曜日の午後に実施している「土曜講座」が 5 月 19 日に 1600 回を迎えたことを記念して、作家の永井路子氏に記念講座を依頼し、多数の聴講者を得て好評を博した。
・夏期講座の見学会については、環境省京都御苑管理事務所の協力を得て、「京都御苑閑院宮邸跡」「旧九条家遺構拾翠亭」の見学会を実施し、好評を得た。
・博物館ディクショナリーを館内で配布することに加えて、各号ごとに京都市内の小中学校約 250 校に配送した。
・京都大学大学院人間・環境学研究科の学生 4 名（1 名が新規入学者）の指導を行った。
・キャンパスメンバーズを継続し、大学との連携の増加に努めた。(6 校増)
・京都橘大学との連携を行い、解説ボランティアを 10 月 18 日から 11 月 9 日までの毎木・金曜日に実施した。
・教員及び外国人モニターを委嘱し、種々提言の聴取に努めた。
・「留学生の日」に平常展の観覧無料を実施し、茶菓の接待も行った。また秋の特別展の招待券をプレゼントし、日本文化への理解促進を図った。
・小中学生を対象とした「少年少女博物館くらぶ」を実施した。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
講演会等 参加者数	4,489 人	5,181 人	B
実施回数	48 回	－	－
うち土曜講座 参加者数	4,329 人	－	－
実施回数	45 回	－	－
うち夏期講座 参加者数	160 人	－	－
実施回数	3 日	－	－
キャンパスメンバーズ加入校	21 校	－	－

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 0903

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ①学習機会の提供

事業概要	学校・社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会・ギャラリートーク等の学習機会を提供する。

担当者	担当部課	学芸課教育室	事業責任者	教育室長 西山厚

実績･成果	・今年度から奈良市の小学 5 年生を対象に世界遺産学習を実施。初年度の今年は 30 数校から 2 千を超える児童が来館し、講堂と展示室で奈良の歴史と文化について学んだ。 ・この事業を進めるため、奈良市に世界遺産学習検討委員会が発足し、当館が指導的役割を果たしている。 ・奈良市教育委員会と連携し、教員向けの講座を実施した。 ・特別展等に際して公開講座やシンポジウムを、毎月第 3 日曜にはサンデートークを、夏には夏季講座を開催した。また、文化財修理に関する座談会を開催した。 ・奈良女子大学及び神戸大学と連携講座を継続して実施し、また放送大学の面接授業を実施した。 ・奈良県内の小中学校にメールマガジンを配信して当館の活動を広報し、キャンパスメンバーズ（大学会員制度）をさらに拡充した。

世界遺産学習

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・2 千人を超える小学校 5 年生に、奈良の歴史と文化の素晴らしさを伝えることができた。 ・世界遺産学習等を通し、奈良市の行政と連携することができた。 ・教員向けの講座は、例年を大幅に上回る参加者があり、博物館への理解を促進できた。 ・奈良女子大学及び神戸大学との連携講座、放送大学の面接授業、奈良県内の小中学校へのメールマガジン配信、キャンパスメンバーズ（大学会員制度）の拡充など、教育現場とのつながりをさらに深めることができた。 ・奈良市内には 48 の小学校があるが、世界遺産学習への参加校は、初年度は約 7 割にとどまった。

定量的評価

項目		実績	目標値	評価
講演会等 参加者数		2,949 人	3,542 人	B
実施回数		30 回	－	－
うち特別展等講座 参加者数		1,943 人	－	－
実施回数		15 回	－	－
満足度		87%	－	－
うち夏季講座 参加者数		358 人	－	－
実施回数		3 日	－	－
満足度		84%	－	－
うちサンデートーク参加者数		648 人	－	－
実施回数		12 回	－	－
小中学校へのメールマガジンの配信		220 校	220 校	A
放送大学面接授業		150 人	150 人	A
キャンパスメンバーズ加入校		20 校	－	－

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 0904－1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供 (1/3)

事業概要	① 博物館における体験型事業の充実を図る。 ② 家族向けに平常展を利用したPDA（携帯情報端末）によるプログラムを開発する。

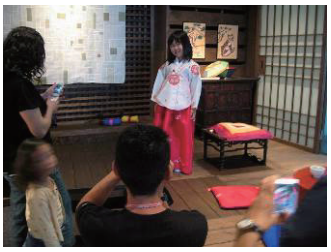
担当者	担当部課	①交流課、展示課 ②展示課	事業責任者	①主任研究員 永井真佐美 展示課長 赤司善彦 ②展示課長 赤司善彦

実績･成果

①-1 体験学習ゾーン「あじっぱ」において、子供・大人を対象に博物館学芸員の仕事の一部を体験してもらうワークショップ「なりきり学芸員」を、教育普及ボランティアとの協働で、毎週 1 回実施することができた。また、アジアの文化に直接触れる体験展示「あじ庵」を半期ずつ「韓国」･「タイ」をテーマに実施した。

①-2 特別展と連動し、こどもガイドを 2 冊、ワークショップを 5 回、「日本のやきもの」展での「やきもの占い」、「京都五山禅の文化」展での「禅問正解」といった参加型プログラムを実施した。また、文化交流展示での体験型展示の充実を図った。

② PDA（携帯情報端末）を利用した展示ガイダンスシステムのプログラム開発にあたっては、設計段階から来館者の展示品に対する関心や、展示室での行動、コンテンツ満足度等に関する研究を徹底的に行う必要がある。
今年度、九州大学大学院芸術工学府 金大雄研究室との共同研究により、ガイダンスコンテンツ設計・評価のための基礎調査を実施した。
・6 月 19 日～7 月 19 日に、日本人 1,187 名、外国人 384 名の来館者アンケート（展示解説機器についての意識調査）を実施。また、11 月 3 日～21 日の間で、音声解説機器の利用者行動データを取得した。



「あじ庵」での韓国体験展示

アンケート調査の状況

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

①-1 来館者に学芸員の楽しさを味わってもらうことができた。アジア各国の文化と日本文化との比較を、来館者に直接体験で感じていただくことができた。

①-2 特別展で陳列された展示作品の魅力を違った形で引き出すことができ、子供も楽しめるプログラムとなり、入場者の新たな確保につながった。

②については以下のとおりである。
・来館者の音声ガイド機器の利用形態と意識が概ね把握できた。
・来館者がどのような解説コンテンツを求めているのかが理解できた。
・利用者行動データのうち、中国人来館者のデータ量が少なかった。
・解説コンテンツの制作・更新・提供・評価の一連のプロセスを標準化するための方策及び容易な導入（費用効果・満足度アップ）の方策を改善しながら進めていく必要がある。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
なりきり学芸員	45 回	－	－
あじ庵の展示替	2 回	－	－
特別展ワークショップ	5 回	－	－
文化交流展示遣唐使船拡充工事	1 回	－	－
基礎調査アンケート	1,481 名	－	－
追跡調査（外国人）	102 名	－	－

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 0904－2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供 (2/3)

事業概要	③ 学校教育との連携事業を実施する。 ④ シンポジウムや特別展記念講演会を開催する。

担当者	担当部課	交流課 企画課	事業責任者	主任研究員 永井真佐美 文化交流展室長 河野一隆

実績･成果

③の実績
- 学校貸出キット「きゅうぱっく」完成・運用
- 中学生の職場体験（7 校 40 名）
- 高校生のジュニア学芸員活動（8 回 7 校 21 名）
- 博物館実習（8 月 6 日～8 月 17 日、8 月 20 日～8 月 31 日 各 10 日 24 名）
- インターンシップの受け入れ(20 年 3 月 4 日～3 月 9 日 3 名)
- 筑紫女学園大学との連携によるガムランワークショップ(7 回)
- 福岡教育大学との連携による「掛け軸」ワークショップ（8 月 4 日・8 月 5 日）
- 教育センター専門講座（6 月 19 日）
- 「日本のやきもの」教員対象内覧会（7 月 9 日）
- 「東大史料編纂所展(仮称)」出品予定の一部資料を県内高校教員に学芸員が解説

④ 特別展では複数回の講演会を実施した。外部講師によるより親しみやすい内容のものと、館内研究者による学術的な色彩の濃いものという二種類の形態とし、様々な層の要望に対応できるものとしつつある。

高校生のジュニア学芸員活動

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

③について
- 中学生の職場体験は、警備や総合案内、清掃のスタッフの協力も得て、館全体の取り組みとして定着しつつある。
- 高校生のジュニア学芸員活動は、博物館の活動を学校に理解してもらうきっかけになっただけでなく、高校生自身の職業観の育成につながった。
- 福岡教育大学との連携による「掛け軸」ワークショップでは、館内の学芸員との連携が必要であることを痛感した。
- 学校貸出キット「きゅうぱっく」は、学習指導要領に対応した完成度の高いものになったが、運用に関してはまだ検討が必要である。
- 博物館実習は館独自の日誌と評価表を作成したことで、事務処理がスムーズになった。

④ PDA の導入には到っていないが、展示解説機器と来館者動向の調査の結果、客観的なデータを取得することができ、展示解説機器の使用対象を絞り込むことが出来た。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
講演会等 参加者数	4,168 人	5,255 人	B
実施回数	61 回	－	－
うちミュージアム講座 参加者数	640 人	－	－
〃 実施回数	11 回	－	－
うち特別展記念講演会 参加者数	1,892 人	－	－
〃 実施回数	7 回	－	－
うちシンポジウム 参加者数	316 人	－	－
〃 実施回数	1 回	－	－

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 0904－3

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ① 学習機会の提供 (3/3)

事業概要	⑤ ギャラリートークを随時実施する。 ⑥ 文化施設等へ講師を派遣する。 ⑦ 近隣大学等と文化財保存技術に関する共同研究を計画する。 ⑧ 放送大学の面接授業を実施する。(5人) ⑨ 近隣大学との連携を図るため、キャンパスメンバーズ（大学会員制度）を導入する。

担当者	担当部課	展示課 企画課 総務課	事業責任者	研究員 森井啓次 企画課長 伊藤嘉章 総務課長 浅井浩文

実績･成果	⑤毎週火曜日（火曜休館の週はお休み）に研究員によるミュージアムトークを実施した。(月 3～4 回で 15 分～30 分程度) 1 回の参加人数は平均 30 名程度となっている。 講師の調整は担当研究員が行っているが会場の案内や資料印刷などはボランティアの手による。一般の聴講だけでなく、展示解説ボランティアの学習の場ともなっており、博物館事業として定着してきた。 ⑧放送大学の面接授業を当館で実施した。講師には、5 人の研究員を派遣している。(参加者数：34 人) ⑨大学・専門学校・高校合わせて 21 校の教育機関が入会した。また、会員校に対し特別展の出張講義を実施した。

ミュージアムトーク実施状況

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	⑤・滞りなく定期的に実施されており（月 3～4 回)、一定数の聴講を得ている。 ・全研究員が担当し、キャプションだけでは伝えられない情報を来館者に対して伝えることができている。 ・開催の告知方法（現在公式 HP と 4 階インフォメーションのみ）を充実させる必要がある。 ・聴講者数の増加（50 名程度）させる方法を考える必要がある。 ⑧放送大学の面接授業は好評を博した。今後も継続して実施していく。 ⑨19 年度に制度を発足させることができ、大学・専門学校・高校合わせて 21 校の教育機関に入会いただくことができた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	講演会等のうち ミュージアムトーク 参加者数 〃 実施回数 放送大学面接授業の実施（参加者数） キャンパスメンバーズ加入校	 1,320 人 42 回 34 人 21 校	 － － 5 人 －	 － － A －	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1001

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)歴史・伝統文化の理解促進 ②－1 ボランティア活動の支援

事業概要	各種教育普及事業の補助活動の充実を図ることで来館者の生涯学習機会の増大及びサービスの向上を図る。またボランティア活動を支援しボランティア自身の自主的な企画立案による活動の充実と生涯学習機会の増大を図る。

担当者	担当部課	教育普及課	事業責任者	ボランティア室長 鷲塚麻季

実績･成果

1)各種教育普及事業の補助活動の充実
- 表慶館みどりのライオン「体験の間」等で実施するハンズオン体験コーナーにおける来館者の作業補助に当たることで参加者の平常陳列に対する関心を高めることができた。
  ハンズオン体験コーナー利用者数（4月17日～20年3月31日現在） 35,451人
- 就業体験の受け入れ
  近年増加する需要に対して、生徒の活動の補助を行なうことに貢献し、ボランティア自身も新鮮な活力を得られた。
- 各種イベントの補助
  通常の活動時間外の各種イベントでも補助に当たり、博物館の活用範囲の拡大に努めた。 補助回数 8回

2)ボランティア自身による自主的な企画立案による活動の充実
- ボランティアによる自主的な企画
  来館者の希望にそったわかりやすい内容の各種ガイドツアーを実施することができた。また、一部の活動はボランティア間の連絡調整役も担った。
  「たんけんマップ」発行部数 13,350部
  ボランティア広報（季刊） 3号

3)各種解説ツアーの実施
- 12種類のガイドツアー等を実施することで来館者の作品鑑賞の手助けを行うことができた。
  実施回数 476回
  参加人数 9,514 人

「留学生の日」の茶会の様子

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）
- 各種教育普及事業の補助、ボランティア自身による自主的な企画立案による活動、各種解説ツアーの実施により、来館者の生涯学習機会の増大に寄与し、来館者へのサービスの向上をはかることができた。
- 各種ボランティア活動を通じてボランティアを育成し、相互協力により教育普及活動の充実が図られてきている。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
ボランティア数	162 人	－	－
うち生涯学習ボランティア	153 人	－	－
うち東京芸術大学学生ボランティア	9 人	－	－

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 1002

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②−1 ボランティア活動の支援・資質向上

事業概要	日本及び東洋の文化財に対する理解の促進と教育普及を図る。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	企画室長 赤尾栄慶

実績･成果

・大学（京都橘大学）との学術協定に基づき、学生が解説ボランティアとして活動した。
10 月 18 日から 11 月 9 日までの毎木・金曜日に、1 日 3 回、考古・陶磁・彫刻の展示作品について、当館職員による事前講習ののち、来館者に解説を行った。

・調査・研究支援ボランティアの募集と各種事業活動の充実を進めた。当館職員が行う収蔵品調査、社寺調査等の調査・研究業務の補助として、調査作品の計測、調書の作成、撮影等を行った。また、展示替えの際、作品の移動、収納等の作業の補助を行った。

解説ボランティア

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・大学（京都橘大学）との連携を行い、10 月 18 日から 11 月 9 日までの毎木・金曜日に、平常展示館 1 階の考古・陶磁・彫刻の展示作品について、午後 1 時、2 時半、4 時からの 3 回の解説を行った。
・調査・研究支援ボランティアの募集を行い、社寺調査をはじめとした各種の調査研究活動に参加し、活動のスムーズな実施と充実を図った。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	
ボランティア数	23 人	−	−	

中期計画期間における進捗状況	計画通りに実施し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 1003

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)　歴史・伝統文化の理解促進　　②－１ボランティア活動の支援・資質向上

事業概要	教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。

担当者	担当部課	学芸課教育室	事業責任者	教育室長　西山厚

実績･成果	・学習機会の増加に対応するため、ボランティアを増員した〈現在 96 名〉。 ・毎日 14 名平均のボランティアが、展示室等で来館者への解説・質問への回答等の活動を続けている。 ・展示替えや特別展等の開催にあたり、ボランティア研修をおこない、来館者に正しい情報を伝えられるよう指導助言した。 ・ボランティアの相互交流と自己研修に資するため、ネットワークの構築に協力し、さまざまな情報を提供した。 ・正倉院展の際に、講堂でボランティアによる解説（コンテンツは教育室で作成）をおこなった。 ・小学 5 年生による世界遺産学習の開始に伴い、「世界遺産のあるまち奈良」のコンテンツを教育室で作成、ボランティアへ研修をおこなった。今年度は 30 数校、2 千余人の児童が来館、ボランティアが対応した。

展示室内ボランティア

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・学習機会の増加に伴い、ボランティアを増員した〈現在 96 名〉。 ・毎日 14 名平均のボランティアが来館者に対応し、好評を得ている。 ・ボランティア相互のネットワークを構築した。 ・世界遺産学習を体験した小学校及び児童からボランティアへの感謝が相継いでいる。 ・新人ボランティアへの研修システムが十分には機能しておらず、ベテランボランティアとのレベル差を埋めるのに時間がかかる。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	ボランティア数	96 人	－	－	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 1004

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②―1 ボランティア活動の支援・資質向上

事業概要	① ボランティアを受け入れ、展示解説、教育普及、館内案内、外国語通訳、IPM（総合的有害生物管理）及びイベントの充実を図る。 ② ボランティアに対し継続的な基礎研修・専門研修を実施する。 ③ ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。

担当者	担当部課	交流課	事業責任者	主任研究員 糸井 茂

実績･成果	〈活動実績〉 ①展示解説ボランティア→文化交流展示室で解説 ②教育普及ボランティア→「あじっぱ」で来館者対応 ③館内案内ボランティア→館内・バックヤードの案内 ④外国語通訳ボランティア→英語、中国語、韓国語で館内・バックヤードの案内 ⑤環境ボランティア→IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援 ⑥イベントボランティア→正月、七夕イベント等の企画・立案・実施 ⑦学生ボランティア→春・夏休みのイベント企画・立案・実施(大宰府市民吹奏楽団との共催コンサート実施) ⑧出前講座の実施→4 回 ⑨活動実績報告書の刊行 （対応来館者数）展示解説(6,332 人)、館内案内(6,684 人) バックヤードツアー(3,443 人) 〈研修会〉 ①全体研修会→17 回 ②班別（部会別）研修→105 回 ③グループ研修→54 回

人と自然の博物館における出前講座

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	① 開館当初に館が提案したボランティア活動をベースに来館者サービスの視点に立った活動に変化してきた。 ② グループ研修では、研修が達成されていないボランティアのサポートをボランティアが行った。 ③ 第 2 期ボランティアの実習を第 1 期ボランティアが行った。 ④ ボランティアと館で工夫して出前講座を 4 回実施した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	ボランティア数	293 人	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1101

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②―2 博物館支援者の増加

事業概要	友の会等の会員制度の活動の活性化を図り、賛助会制度の継続・拡充、地域や企業との連携を推進する。

担当者	担当部課	営業開発部渉外課	事業責任者	渉外課長 庄司幸浩

実績･成果

1)友の会・パスポート・平常展割引パス 会員数

種別		19 年度	(参考) 18 年度
友の会（1 万円）		1,341 人	1,379 人
パスポート	一般	1 万 5,232 人	1 万 8,742 人
	※（4,000 円）	1 万 5,232 人	4,401 人
	(3,000 円)	―	1 万 4,341 人
	学生	803 人	1,193 人
	※（2,500 円）	803 人	448 人
	(2,000 円)	―	745 人
平常展割引パス（2,000 円）		39 人	14 人

（注）※印は、料金改正（18 年 10 月 1 日～）以降の数字

・「友の会」「パスポート」について、新たにオンラインによる申し込み受付を開始した。(利用者 6 名)

2)賛助会 ① 会員数

	19年度	(参考)18年度
特別会員	16団体	17団体
維持会員	24団体・個人123人	22団体・個人108人

② 会員対象の特別鑑賞会等の実施 特別展内覧会 4 回 事業報告会 1 回

3)地域、機関との連携

①上野のれん会、上野法人会、台東区および台東区所管財団法人、上野の山文化ゾーン協議会、東京都、財団法人東芝国際交流財団、株式会社東京美術、三菱商事株式会社等と連携し、さまざまな事業を行った。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

1)・「友の会」「パスポート」のオンライン申込みサービスにより、さらに申込者の利便性を高めた。
・友の会会員向けの旅行会においては、正倉院展の期間が早々には決まらなかったため、最少催行人数での開催となった。好評な旅行会であったが、さらに自由行動時間を増やすなど、より会員のニーズを考慮した旅程を計画する必要がある。

2)・団体維持会員・特別会員については厳しい状況が続いている。企業等に対する積極的なアプローチを考えていきたい。
・個人の維持会員数は前年度同様、順調に伸びている。

3)・地域との連携事業を進めるためには、相互の資源を活かしあえる企画を、展示計画と連動させつつ早期に立てることが重要である。
・地域との連携においては、お互いの資源を活かしたより質の高い事業が企画、展開できるようになってきている。
・企業との連携・拡充を今後さらに推進していくためには、企業側にも魅力となるような工夫を図っていく必要があると思われる。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
友の会会員数	1,341 人	―	―
パスポート会員数	16,035 人	―	―
賛助会員 特別会員数	16 団体	―	―
維持会員数	24 団体 123 人	―	―

中期計画期間における進捗状況

中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 1102

中項目	2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2)　歴史・伝統文化の理解促進　　②－2　博物館支援者の増加

事業概要	企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。

担当者	担当部課	総務課 学芸課	事業責任者	総務課長　大西真一 企画室長　赤尾栄慶

実績･成果

・支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。
・企業との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。
・「友の会」事業を継続して実施した。
　会員数　3,224 人

バロックコンサート

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・支援団体（社団法人清風会）が行う鑑賞会（5 回）・見学会（4 回）・会報（4 回）に協力し、活性化を図った。
・企業との連携によるオペラコンサート（2 回）を実施し、バロックコンサートやバレンタインコンサート、更には落語家の桂米朝氏の米朝事務所の制作協力による「らくご博物館」（4 回）を実施した。合わせて、特別展などの広報を行った。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	
友の会会員数	3,224 人	－	－	

中期計画期間における進捗状況	計画に従って、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 1103

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②－2 博物館支援者の増加

事業概要	会員制度である友の会・賛助会の継続及び拡充を図る。 また、地域や企業との連携及び拡充を図る。

担当者	担当部課	総務課渉外室	事業責任者	渉外室長 植田義雄

実績･成果

・友の会
会員数 2,439 人（一般 2,215 人、学生 206 人、家族 18 人）
・賛助会
特別支援会員 5 団体
特別会員 1 団体
一般会員（個人）25 人、(団体) 14 人
・特別展「神仏習合」「美麗 院政期の絵画」実施につき、企業から協力金獲得。
・図録の低廉化を目的に、親と子のギャラリー「仏さまの彩り」図録に企業広告枠を設け、7 社の広告を掲載した。(図録は 200 円で販売)
・奈良の観光イベント「ライトアッププロムナード・なら 2007」、「なら燈花会」に協力。
・大和郡山市の協力により「博物館で金魚すくい」を入館者無料で実施。

賛助会芳名板

博物館で金魚すくい

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・友の会会員数は、18 年 10 月の料金改定に伴う使用条件変更の影響もなく順調に伸びている。今後も広報活動を積極的に行う。
・賛助会を従来の特別及び一般会員に、特別支援会員（100 万円以上）を追加し、より多額の支援を獲得する体制となり、民間企業などに賛助会制度を積極的に広報した結果、5 団体が特別支援会員になった。
・図録への企業広告掲載は初の試みであり、図録の低廉化を実現するとともに、企業などと新たな連携の構築ができた。
・特別展実施につき企業から協力金として外部資金を獲得できた。企業の社会貢献活動と当館展示で相乗効果が図れるような協力体制の実現を目指す。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
友の会会員数	2,439 人	－	－
賛助会数（総数）	45 会員	－	－

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 1104

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(2) 歴史・伝統文化の理解促進 ②―2 博物館支援者の増加

事業概要	① 賛助会員制度を設置し、会員の獲得に努める。 ② 財団や近隣地域等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

担当者	担当部課	総務課 交流課 広報課	事業責任者	総務課長 浅井浩文 事務主査 元永行英 広報課長 石橋和夫

実績･成果	① 他館を参考として最適な会員制度設計を模索している。 ② 友の会会員数 167 人 ③・九州国立博物館振興財団と共にシンポジウムを実施した。また、九州の多様な自治体や、地域の団体等と協力をして各種イベントを開催した。 ・財団や近隣地域等と連携したイベントについて、記者クラブへの情報提供を行った。

朝鮮通信使 400 周年記念イベントに係るセレモニー

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	① ・賛助会員制度においては、種々検討を行ったが、当館の運営上の諸課題（福岡県、九州国立博物館振興財団など）により実施設計に至っていない。新しい収入確保のために制度作りに努めたい。 ② ・九州国立博物館振興財団と連携して「朝鮮通信使 400 周年記念国際シンポジウム」を開催することにより、開館前から支援をいただいている財団との協力体制を強化した。 ・九州国立博物館を愛する会と共催で第 12 回九博デー「文化を未来につたえるために･･･」を開催して、地域の支援団体との連携を強化した。 ・地元の福岡女子大学と連携して、館内のカフェにおいて定期的にコンサートを開催して、地元の教育機関との連携を図るとともに、来館者サービス及び施設の有効利用を促進した。 ・内容を勘案したうえで、自治体や文化団体等が主催するイベントを開催して、各団体との連携を強化するとともに、来館者サービス及び施設の有効利用の促進を図った。またそれらを PR することにより、来館者の拡大を図った。 ・博多山笠や九州のひなまつりの展示等を通して、地域の代表的なお祭りを来館者に紹介した。 ・地元の新聞、テレビで数多く取り上げられた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	友の会会員数	167 人	―	―	
	パスポート会員数	3,252 人	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1201-1

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3)快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境提供 (1/5)

事業概要	1)18 年度に作成した点字解説等を配布する。 18 年度に作成した点字による本館「日本美術の流れ」展パンフレットを視覚障害のある来館者に配布する。

担当者	担当部課	教育普及課	事業責任者	ボランティア室長 鷲塚麻季

実績･成果	・ 視覚障害のある方に本館「日本美術の流れ」展を理解してもらうために、よりわかりやすい解説を盛り込んだ点字版パンフレットを配布した。配布部数9部。 ・ 本年度、あらたに10部を増刷した。

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	・ 視覚障害のある方が展示を理解するための有効な手段として利用された。 ・ 当館のバリアフリー化の促進に寄与した。 ・ 今後広報の方法を検討し、より多くの方々に利用してもらえるようにしたい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	配布部数	9 部	―	―	
	増刷部数	10 部	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1201-2

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

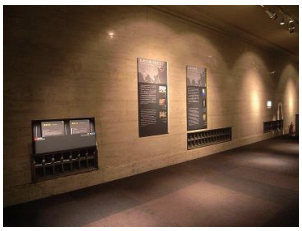
事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供 (2/5)

事業概要	2) 多国語による案内及び誘導サイン等の整備 多国語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。

担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	デザイン室長 木下史青

実績･成果

- 本館特別5室・特集陳列『仏像の道ーインドから日本へー』の展示解説において、通常の和文・英文表記に加え、韓国語と中国語表記による解説を製作した。
- このような4カ国語による作品の個別解説は、当館の平常展示においては初の試みとなるものである。
- 通常のような展示ケース内での題箋・解説の掲出方法とは異なり、展示室内で持ち歩くことが可能な解説ボードに個別解説を集約させた。このことにより、展示形式上の情報の煩雑さを解消することができた。



本館特別 5 室[仏像の道]
解説ボード（韓国語、中国語）

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

- 館内の基本的な総合案内サインでは 4 ヶ国語表記がなされている。また多国語による総合案内マップも館内各所において無償提供されているため、お客様への基本情報の提供は達成されている。
- 5 ヶ所の展示館相互を連携した案内サインについては、日本語・英語表記による案内サインは既に充実されているが、韓国語・中国語表記については、未だ整備されていないため、今後の計画的な充実が望まれる。
- 館内の展示案内、展示テーマ解説、個別の展示解説については、日本語・英語表記によるものは順次提供されているが、ハングル・中国語については、パンフレットではこれまでも提供されてきたが、展示室内では今年度実施された「仏像の道」が初の試みとなった。
- 今回の韓国語・中国語解説は、当該語圏からの来館者へはおおむね好評と思われるため、次年度以降も館内で連携して実施を続けることが望まれる。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1201-3

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供 (3/5)

事業概要	3) より快適な観覧環境を構築するため、展示照明の整備 より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。

担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	デザイン室長 木下史青

実績･成果

今年度は集中的に本館特別5室の展示照明の整備を行った。

- 本館特別5室で実施された特集陳列『仏像の道ーインドから日本へー』の展示照明において、充分な展示照明が無かった展示室に新たな展示照明システムを設置した。
- その結果、窓からの自然光採光による照明が前提に設計されている、わが国でも稀有な天井高を持つこの大展示室の空間に、新たな展示の可能性を拓くことができた。
- また、彫刻作品をより効果的に見せる新設計のカッタースポット（フレーミングスポットライト）照明器具を新たに導入した。
- さらに同展示においてEL板（エレクトロルミネッセンス照明パネル）照明による館内の仏像展示案内サインシステムを設置した。

■本館特別 5 室[仏像の道]
天井から 4,000㎜×4,000㎜ 角のライティング・ダクトを 4 箇所設置し、カッタースポットライト約 50 灯による展示照明が行われている。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

- 今回本館特別 5 室に、建築構造・設備・展示・照明の研究成果に基づき、より快適な観覧環境を構築するための展示照明を整備することができた。
- EL 板（エレクトロルミネッセンス照明パネル）照明による館内の仏像展示案内サインシステムを導入するなど新たな試みを展開した。
- 予算との問題もあるが、今後も全館的視野で継続的により快適な観覧環境の構築をめざし展示照明を順次整備する必要がある。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況

中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1201-4

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供 (4/5)

事業概要	4)4 カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語）パンフレットの制作 「日本美術の流れ」展示に関する 4 カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語）パンフレットを継続して制作する。英語、中国語、韓国語パンフレットに関してはより分かりやすい内容に改めたものを配布し、日本語パンフレットに関しては内容を再検討する。

担当者	担当部課	教育普及課・展示課・事業企画課	事業責任者	教育普及室長 小林牧

実績･成果	・ 「日本美術の流れ」展示のテーマ解説および主な展示作品の解説をまとめたパンフレットを日・英・中・韓の4ヶ国語で作成。作品の展示替えに応じて、「日本美術の流れ」パンフレットの4ヶ国語版を年間、計39回更新・制作（第89号－127号）した。 ・ 外国人に「日本美術の流れ」を理解してもらうために、よりわかりやすい解説を盛り込み、カラー図版を多用した英語、中国語、韓国語カラーパンフレットを制作した。 ・ 日本語パンフレットに関しては、現行のものを配布しながら、内容に関する検討を継続して行った。

カラーパンフレット
英語版

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・ 展示を理解するための有効な手段として、外国からの多くの来館者に利用された。 ・ ナショナルセンターとして、日本の伝統文化の理解促進に寄与した。 ・ 英語、中国語、韓国語によるカラーパンフレットは、より基礎的な情報で構成したため、わかりやすいと好評を得た。また、内容が作品の展示替えに左右されないので、長期間にわたって配布できるようになった。 ・ 日本語パンフレットに関しては、外国語によるカラーパンフレットと同内容では、内容的に来館者の満足が得られない面があるため、引き続き内容を再検討することとした。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	「日本美術の流れ」更新・制作回数	39 回	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1201-5

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供 (5/5)

事業概要	5) 特別展において音声ガイドを活用した情報提供の推進 音声ガイドを観覧者に提供し、特別展の趣旨・展示構成・主な展示作品の理解を増進することにより、観覧環境を快適にする。

担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	特別展室長 救仁郷秀明

実績･成果	下記の特別展で実施 ・特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ―天才の実像」 148,540 件 ・足利義満六百年遠忌記念「京都五山 禅の文化」展 19,688 件 ・「大徳川展」 57,681 件 ・陽明文庫創立 70 周年記念特別展「宮廷のみやび―近衞家 1000 年の名宝」30,532 件 貸出数：計 25 万 6,441 台

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	・音声ガイドについては、展示の趣旨や作品の理解の増進に役立っているが、一方では、会場が混雑している場合には、混雑を助長しているとして貸出禁止を求める意見もアンケートには多く寄せられている。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	音声ガイド貸出件数	256,441 件	―	―	

中期計画期間における進捗状況	

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 1202

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供

事業概要	・平常展示館建替に伴う先行工事の着手及び特別展示館の保全業務 ・施設のバリアフリー化 ・リーフレット、音声ガイドを活用した情報提供の推進

担当者	担当部課	総務課、学芸課	事業責任者	総務課長 大西真一 学芸課長 森田 稔

実績･成果	・平常展示館の建替に伴う先行熱源設置工事が計画され、まもなく開始される予定である。 ・特別展示館の屋根補修及び外壁補修を実施した。 ・特別展示館耐震診断業務を実施した。 ・平常展示館身障者用トイレの手すりを改修した。 ・東の庭のベンチ、藤棚、散策用スロープを修復した。 ・６ヶ国語の「展示案内」リーフレットを制作した。 （日本語 30,000 部、英語 20,000 部、韓国語 16,000 部、フランス語 10,000 部、中国語 5,000 部、スペイン語 10,000 部） ・展示テーマごとに外国語（英語）パネルを設置した。 ・特別展覧会において音声ガイドによる情報提供を実施した。 特別展覧会「藤原道長」: 4,596 台貸出 特別展覧会「狩野永徳」: 40,557 台貸出 特別展覧会「憧れのヨーロッパ陶磁」: 5,191 台貸出 ・特別展覧会「狩野永徳」において、観覧時間の延長、入館待ち時間をきめ細かく情報提供するなど、観覧者の便を図った。 ・当館職員並びに売店、レストラン従業員、京都古文化保存協会学生ボランティアを対象として「マナー講習会」を開催した。 ・東山消防署の協力により、消防訓練を実施し、また、普通救命講習及び AED の取扱い講習会を開催した。

マナー講習会

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・平常展示館の建替に伴う先行熱源設置工事が開始される予定である。 ・特別展示館については、近い将来発生が予想される花折断層地震へ対応すべく、耐震診断を行い、また、屋根を補修し、豪雨による漏水の予防対策を施した。さらに、外壁補修を実施し、壁材剥落による観覧者への危害予防と、文化財の保全を図った。 ・施設のバリアフリー化のため、平常展示館身障者用トイレの手すりを車椅子利用者がより使いやすいものに改修した。また、東の庭のベンチ、藤棚、散策用スロープを修復し、東の庭の観覧環境を改善した。 ・特別展覧会「狩野永徳」において屋外での入館待ちが生じたため、日よけテントの設置、自動販売機の増設等を行い、入館待ちのお客様に十分配慮した。 ・６ヶ国語の「展示案内」リーフレットについては、内容が平常展示館に関するものが中心となっており、平常展示館建替に伴い掲載内容について検討する必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	音声ガイド貸出件数	50,344 件	－	－
	リーフレット	6 ヵ国語	6 ヵ国語	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 1203

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ①快適な観覧環境の提供

事業概要	より良い観覧環境を提供するため展示施設の計画的な整備、展示解説の充実や見やすい表示等、利用者サービスの向上に努める。

担当者	担当部課	総務課渉外室	事業責任者	渉外室長 植田義雄

実績･成果

・重要文化財である仏教美術資料研究センターの耐震調査を実施
・「正倉院展」では入場待ち列用テントを設営、看護師の館内常駐を実施
また混雑緩和のため、定期的な入場制限・11 月 3 日は団体入場禁止・混雑状況をホームページなどに発表・陳列品の配置と音声ガイド解説場所の考慮など実施
・AED（自動体外式除細動器）を展示館本館及び新館に 1 台ずつ設置
・毎月 22 日の「夫婦の日」割引（11 月 22 日は無料）導入 409 組が利用（19 年 6 月～）
・特別展「神仏習合」で割引チラシ、「美麗 院政期の絵画」で後期再観覧半額券、「正倉院展」でオータムレイト券を実施
・現金支払い不要の PiTaPa（関西私鉄共通の電子マネー）に加加盟し、チケット購入時の利便性を高め、利用者サービス向上につなげた。

入場待ち列用テント

ＡＥＤ

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・仏教美術資料研究センターの耐震調査を実施した結果、X･Y いずれの方向とも耐震要素となる壁量が不足しており、地震の震動及び衝撃に対して倒壊または崩壊する危険性が高いと判断された。よって 20 年度において補強案を策定することとした。
・「正倉院展」での入場待ち列用テントは、天候対策及び人員誘導に非常に役立ち、観覧者の不満解消につながった。また、例年最も混雑する 11 月 3 日の団体入場禁止を各旅行会社へ協力依頼・オータムレイト券（閉館 1 時間 30 分前以降に販売する割引券）の実施等により、観覧者の分散化が図れ、正倉院宝物の保護と快適な観覧環境の実現に努めた。
・利用者が安心できる取組みの一環として AED2 台を設置した。また職員に緊急時の対処方法の講習を実施し危機意識を高めた。
・新たに「夫婦の日割引」を 6 月から導入し、400 組を超える利用があり入館者増加につながった。今後も実施中の割引制度「子供といっしょ割引」及び「レイト割引」とあわせて広報する。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
音声ガイド貸出件数	37,110 件	―	―
リーフレット	7 カ国	7 カ国	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 1204

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ① 快適な観覧環境の提供

事業概要	① 快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。 ② 7カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）リーフレットを継続して制作する。 ③ 特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。 ④ 外国語のガイドブックを刊行する。

担当者	担当部課	総務課 企画課	事業責任者	総務課長 浅井浩文 企画課長 伊藤嘉章

実績･成果	① 開館以来、1階エントランスホールでは、元々自動販売機コーナーを予定していたスペースを応急仮設で救護室として利用していたが、正式な救護室として施設整備を行った。具体的内容は引き戸設置、空調設置、照明増設、手洗い器設置である。また、併せて水飲み器（2台）を来館者の目につきやすい場所に移設した。 ② 前年度の内容を改善及び更新した上で、引き続き7カ国語のリーフレットを制作した。翻訳等は、財団法人東芝国際交流財団からの助成金を頂き実現したものである。 ③ 特別展ごとに展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを作成した。「京都五山 禅の文化展」では17万1,336人の入館者に対して2万4,204台の貸出し実績と好評を博した。 ④ 外国語ガイドブックの刊行に向けて、来館者動向の調査を、九州大学金大雄研究室と共同して実施した。ただ、刊行にまではいたっていない。

7カ国語のリーフレット

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	①・救護室として本来あるべき内容（個室化、各設備の充実）に整備したことにより、利用者が安心して休める空間を提供できた。 ・4階にある救護室は入り口に階段があるため、車椅子利用者の入室が難しい。今後、段差解消の対策が必要になる。 ② 前年度に引き続き内容の改善等を行い、7カ国語のリーフレットを作成した。 ③ 特別展では毎回音声ガイドを実施することは定着しており、今後はその内容をより高めることを目指している。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	音声ガイド貸出件数	74,367件	―	―	
	うち特別展	62,661件	―	―	
	うち文化交流展示	11,706件	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1301

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	（3）快適な観覧環境の提供 ②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善

事業概要	来館者からの意見・満足度を聴取し、展示等に反映するほか、来館者のプロフィールを分析することにより、今後の戦略策定に役立てる。また、外部有識者などの専門家から意見を聴取し、博物館運営全体の改善に役立てる。

担当者	担当部課	総務企画課	事業責任者	総務企画課長 山内浩一

実績･成果

来館者からの意見聴取
・18年度に引き続き、来館者満足度調査を実施
（スタッフ呼び込みによる任意記入方式）
11月24日～12月8日（計4日間、997件）
・特別展等アンケート（任意記入方式） 計 6 回
レオナルド・ダ・ヴィンチ展
京都五山 禅の文化展
大徳川展
宮廷のみやび展
新規特集陳列「仏像の道」
新春企画「博物館に初もうで」

来館者満足度調査の様子

専門家からの意見聴取
・東京国立博物館評議員会（開催回数 1 回）
ミュージアムショップのオリジナルグッズについての助言があり、新規グッズの開発に着手

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・18 年度より実施している来館者満足度調査によって、東京国立博物館のロイヤルティが高い来館者像が分かりつつある。今後は、継続的に調査を実施するとともに、初めて来館する人がどのようにして来館を決定しているのかを探り、若年層など新たな来館者を開拓していくことを目指したい（新規来館率 20.7%）。
・特別展ごとに集計している来館者調査については、来館者満足度調査との統合を視野に、効率的な運用ができるよう見直しを図りたい。
・有識者からの意見聴取については、新法人が設立された年ということもあり、選定に時間がかかり、意見を聴取する機会をあまり設けることができなかった。しかし、有識者からの意見は、直接運営を改善することに結びつくことも多く、大変有意義であるので、20 年度は意見聴取の機会を増やし、より運営に結びつけていきたい。
・特別展アンケートでは、混雑のためかダヴィンチ展を始め、軒並み満足度が低かった。この結果を踏まえ、次年度以降の展覧会では、混雑対策など積極的に実施していきたい。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
来館者満足度（全体）	85.5%	―	―
ダヴィンチ展満足度	66.9%	―	―
京都五山展満足度	70.7%	―	―
大徳川展満足度	70.4%	―	―
宮廷のみやび展満足度	78.3%	―	―
仏像の道満足度	70.9%	―	―
博物館に初もうで満足度	75.6%	―	―

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 1302

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ② 満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善

事業概要	一般入館者の満足度調査及び専門家の批評聴取を行う。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	企画室長 赤尾栄慶

実績･成果	・入館者アンケートを実施 平常展満足度 72% 回答数 848 件（とても良い 45%、良い 27%、普通 14%、あまり良くない 4%、良くない 4%） 特別展覧会「藤原道長」満足度 91% 回答数 729 件（良い 62%、まあまあ良い 29%、どちらともいえない 4%、あまり良くない 2%、良くない 1%） 特別展覧会「狩野永徳」満足度 83% 回答数 3,719 件（良い 59%、まあまあ良い 24%、どちらともいえない 5%、あまり良くない 3%、良くない 4%） 特別展覧会「ヨーロッパ陶磁」満足度 91% 回答数 724 件（良い 61%、まあまあ良い 30%、どちらともいえない 4%、あまり良くない 2%、良くない 1%） ・特別展等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・平常展及び特別展についての入館者アンケートを実施した。特に回答する必要のある場合は、電話等で回答し、特別展に関しては、アンケートの結果を事後検討会で報告し、今後の検討材料とした。アンケートの満足度では、非常に高い評価を得ている。 ・2006 年秋の特別展「京焼―みやこの意匠と技―」及び 2007 年春の特別展「金峯山埋経一千年記念 藤原道長―極めた栄華・願った浄土―」に対する専門家の評を「博物館だより」（年 4 回発行）に掲載した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	平常展満足度	72%	―	―	
	藤原道長展満足度	91%	―	―	
	狩野永徳展満足度	83%	―	―	
	ヨーロッパ陶磁展満足度	91%	―	―	

中期計画期間における進捗状況	順調に成果が上がっている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 1303

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ②満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善

事業概要	一般入館者及び専門家を対象に満足度調査を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるほか、必要なサービス向上に努める。また特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。

担当者	担当部課	総務課渉外室	事業責任者	渉外室長 植田義雄

実績･成果	・平常展アンケート（全開館日） 回答数 975 件（良い 66%、普通 11%、良くない 3%） ・英語版平常展アンケート（全開館日） 回答数 84 件 ・特別展アンケート 「神仏習合」 回答数 172 件（良い 77%、普通 13%、良くない 4%） 「美麗 院政期の絵画」 回答数 82 件（良い 84%、普通 13%、良くない 1%） 「正倉院展」 回答数 865 件（良い 68%、普通 17%、良くない 12%） ・特別展及び特別陳列について、専門家からの展覧会評を「博物館だより」に 4 回掲載

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・平常展アンケートの回答数が昨年度より減少した。アンケートに協力いただけるようアンケート記入場所を分かりやすくする。 ・「正倉院展」アンケート結果のうち、「良くない」の回答率が昨年度（17%）より減少した。「良くない」回答理由で最も多かった混雑について、今年度は団体規制や混雑状況表示により観覧者の分散化を図ったことが、減少した一因と考えられる。今後もアンケート結果を反映させ、満足度向上に努める。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	平常展満足度	66%	―	―	
	神仏習合展満足度	77%	―	―	
	院政期の絵画展満足度	84%	―	―	
	正倉院展満足度	68%	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 1304

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ② 満足度調査及び専門家からの批評聴取による管理運営の改善

事業概要	① 入館者のニーズを引き出すため入館者調査を実施し、その結果を改善に生かす。 ② 九州大学との共同研究（ユニバーサル・ミュージアム・プロジェクト）を立ち上げ、ユニバーサルデザインに配慮した、誰もが快適に利用できる博物館を目指し、各種調査およびクオリティカルテによる空間評価を実施し、問題解決のための提案を行うことを目的とした共同研究である。

担当者	担当部課	広報課 総務課	事業責任者	広報課長 石橋和夫 総務課長 浅井浩文

実績･成果	①毎日、任意で入館者にアンケート調査を実施し多数の意見、要望が寄せられた。 ②モニターを活用し、空間評価調査を実施する。まず日頃から問題意識をもち生活している生活者の代表として調査会社にモニター登録している人の中から、さまざまな意見を抽出した。これらの意見をもとに調査手法を構築し、次年度以降に観光的に訪れる来館者や非健常者を対象とした調査を実施し、多様な来館者の九州国立博物館に対する評価を明らかにする。その後、評価結果を踏まえ改善計画へと結びつける。 ③外国語ガイドブック作成に向けた調査を行った。

モニター調査報告書（表紙）

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	① 寄せられた意見、要望のうち可能なものについては改善を図った。 ② 通常のアンケートとは異なるデータを採取でき、新たに気づかされる問題点が多々あった。これを受けて、来館者の満足度を高めるために改善しなければならない点があるため、早急に改善したい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	未来への贈り物展満足度	85.0%	―	―
	日本のやきもの	87.3%	―	―
	本願寺展	89.9%	―	―
	京都五山展	76.4%	―	―

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1401

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

事業概要	ミュージアムショップやレストラン等の利用者サービスの向上に努める。 また、ミュージアムショップの改装に当たって、企画・デザインに協力する。

担当者	担当部課	営業開発部渉外課	事業責任者	渉外課長 庄司幸浩

実績･成果	・ミュージアムショップについて、ショップを運営する東京国立博物館運営協力会(以下「協力会」という。)と、「ミュージアムショップグッズ開発等会議」を開催し、商品の充実及びオリジナル商品の製作について協議・検討を行った。 ・新たな絵はがき作成について、3年計画中2年目の今年度は、24種類を作成した。 ・協力会と協議しながら、ショップの来店者数調査及びアンケート形式による「ミュージアムショップ意識調査」を実施し、今後の商品の充実や改善を図るための基礎データを得た。 ・協力会のミュージアムショップ改装計画に、博物館のデザイン室が企画・監修として参加し、「和」の雰囲気をアピールすることを基本として、お客様の立場に立ったディスプレイ、空間デザイン等を構築し、リニューアルオープンした。 ・レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスの実施、季節毎にメニューを変える等サービスの向上に努めた。 ・カフェの「アジアンカフェ」では、店内を改装し、メニューに軽食を加える等の見直しを行い、より手軽にご利用いただけるようリニューアルオープンした。 ・お客様から要望の多い、「手軽に飲食できる場所を増やして欲しい」等のご意見をふまえ、「ミュージアムカフェ設置検討委員会」を設置し、検討を行った。

改装したミュージアムショップ

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・ミュージアムショップの来店者数調査及び意識調査を行ったことにより、今後の商品の充実や改善を図るための基礎データを得る事が出来たため、来年度以降に活用することが出来る。 ・ミュージアムショップのリニューアルにより、お客様からは「商品陳列がわかりやすくなり、商品を見ながらゆっくり買い物ができるようになった」など好意的な意見が多く寄せられている。 ・今後も、ミュージアムショップやレストランと連携協力を図りながら、利用者のニーズをより適切に反映できるよう努めていく必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
			―		

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 1402

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ ミュージアムショップやレストラン等の改善

事業概要	ミュージアムショップ、レストランの質、サービス向上を図る

担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 大西真一

実績･成果

・当館の観覧者サービスの一環として欠かせないものとしてミュージアムショップやレストランがある。これらの運営は、当館が主体となって運営すべきであるが、人員や財源等の問題から長年に亘って外部業者に委託を行っている状況にある。

ミュージアムショップ

【ミュージアムショップ】
・絵はがき販売総数は 288 種類におよび、そのうち当館所蔵品をデザインとして監修した絵はがき数は 124 種類に上っている。
・オリジナルグッズの新規制作である和服柄のハンカチを小袖風に折りたたんだものは、一般観覧者に好評であった。
・展覧会ごとに関連グッズや関連書籍等を取り揃え、利用者へのサービスを行った。
・博物館に足を運ぶことが出来ないお客様には、通信販売でも対応した。
【レストラン】
・季節に応じたメニュー（おぜんざい）を取り扱うことで利用者へのサービスを図った。
・新メニュー（カツサンド・ピザトースト）を増やす等、利用者の要望に応えた。
・これらは、レストランを利用した人達のアンケート調査を元に改善したものである。
・利用者と直に接するミュージアムショップやレストランの従業員を対象とした接客研修を行った。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・博物館のミュージアムショップやレストランは、利用者にとって快適に過ごせる時間と空間、さらにやすらぎの場でもあるので、より充実を図っていく必要がある。
・オリジナルグッズは現在 5 種類あるが、ワンコイン料金(500 円、100 円等)の商品を拡充し、利用者の利便性を向上させていくことを検討する。
・京博は外国人の来館者も多いので、今後、和風を基調とした商品を拡充させるなど、ニーズに対応していきたい。
・特別展覧会には、図録を発行するが、季節に応じた特集陳列等の小規模な展示についてもカタログ発行要望が多く寄せられている。価格設定を安くするなどして対応可能かどうか検討していきたい。
・レストランメニューに、京都で取れる食材（京都ブランド）を使用した京ならではの料理を、利用者に提供する新規メニューの開発を検討したい。
・レストランにおいて、京博の名物オリジナルメニューを開発するなど、館外へのアピールを図りたい。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 1403

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ ミュージアムショップやレストラン等の改善

事業概要	ミュージアムショップやレストラン利用者へのアンケート調査を実施し、調査結果を踏まえ、関係者とも協議し、利用者サービスの向上に努める。

担当者	担当部課	総務課渉外室	事業責任者	渉外室長 植田義雄

実績･成果	・レストランメニューをリニューアル（セットメニューの充実） またレストランメニューの一部につき学割制を明記した。 ・昔なつかし駄菓子屋さんコーナーを、夏休みに合わせ子供等の入館者増加を目指し、入場無料ゾーンの地下回廊で実施 ・「正倉院展」では常設のレストラン及びミュージアムショップ以外に、敷地内に飲食店及びおみやげ店が出店

昔なつかし駄菓子屋さん

敷地内出店及び休憩所

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・レストランは昼食時利用が多いことを考慮して、セットメニューを充実させた。また、セットメニューの一部を学割（高校生以下）にし、利用者サービスに努めた。 ・オリジナルグッズの新規開発は、昨年度開発したグッズ 4 点の売れ行き状況を観測中のため、今年度は実施しなかった。今後も利用者のニーズに合うグッズの調査及び開発を目指す。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 1404

中項目	2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

事業名	(3) 快適な観覧環境の提供 ③ ミュージアムショップやレストラン等の改善

事業概要	展示内容に関連したミュージアムショップやレストランの運営に努めた。

担当者	担当部課	広報課	事業責任者	広報課長 石橋和夫

実績･成果	文化交流展の展示替えに合わせて、ミュージアムショップの商品陳列を見直し、レストランでは特別展に関連したメニューを提供した。 ○特別展関連メニュー ・「未来への贈りもの」では、現代を生きる私たちが忘れかけている季節感のある素材を活かした未来に残したい２つの料理を提供した。（春野菜のトマトスープパスタ、野菜カレー五穀入りライス添え） ・「本願寺展」では、京都にちなんだ料理を提供した。（京風 松花堂弁当、京風 にしんそば） ・「京都五山 禅の文化」では、京都にちなんだ料理を提供した。（京風 松花堂弁当、京風 にしんそば、山椒風味白タンタン麺、抹茶クリームぜんざい） ・「国宝 大絵巻展」では、絵巻をイメージさせる料理を提供した。（春のおすすめランチ、日向金柑のムース糸島ジェラートと共に）

季刊情報誌アジアージュに掲載した「本願寺展」に関連したメニュー

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	展示内容に関連づけて、ミュージアムグッズや食事の面でも多様な楽しみの機会を提供できた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1501-1

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(1)　収蔵品等に関する調査研究成果の発信（1/3）

事業概要	1)　博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る博物館のホームページ上に設けた情報アーカイブを運用し、博物館の所蔵する文化財や、その調査研究に関する情報を積極的に発信し、さらに内容の充実につとめる。

担当者	担当部課	事業部情報課	事業責任者	情報課長　高橋裕次

実績･成果	・「情報アーカイブ・ウェブサイト」を運用し、研究員の調査研究成果の一部を公開するとともに、科研の研究成果公開促進費によるデータベースの公開につとめた。 ・収蔵品の画像検索については、「東京国立博物館ウェブサイト」において機能を改善した上で運用を開始した。また、学芸業務支援の目的で構築中の「列品管理プロトタイプデータベース」についても、同ウェブサイトにおいて運用を開始し、随時その機能の充実につとめた。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・情報アーカイブ・ウェブサイトによって、調査研究に関する情報を公開していくための下地作りが出来上がり、一部公開を始めた。 ・さらに情報の公開を促進するためには、これまでに発信している博物館の収蔵品に関する情報についても、東京国立博物館ウェブサイトあるいは、情報アーカイブ・ウェブサイトのどちらがより効果的であるかなど、その内容に応じて個別に検討する必要があると思われる。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1501-2

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	（1）収蔵品等に関する調査研究成果の発信　(2/3)

事業概要	2)国際的な講演・研究集会の開催 海外の研究者による公開講座「博物館交流セミナー」を開催する。

担当者	担当部課	教育普及課	事業責任者	教育講座室長　白井克也

実績･成果	・海外の研究者による公開講座「博物館交流セミナー」を2回開催した。 アルベルト・ルツ博士（スイス・リートベルク美術館長） 「リートベルク美術館における日本美術展示」 10月10日（水）　参加者37名 ジョン・T・テラモト氏（インディアナポリス美術館主任研究員）、木下史青（当館デザイン室長） 「展示デザインのボキャブラリー　アメリカで日本美術を語る」 11月20日（火）　参加者61名

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	外国博物館との人的交流を生かした博物館交流セミナーを新設し、館々交流の成果を来館者に還元するとともに、博物の事業への理解を促した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	実施回数	2 回	―	―	
	参加者数	98 名	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1501-3

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(1)　収蔵品等に関する調査研究成果の発信　(3/3)

事業概要	3）紀要・図版目録等の刊行 4）修理報告書の刊行 5）法隆寺献納宝物特別調査概報の刊行 6）研究誌「MUSEUM」（年 6 回）の刊行 研究員の調査研究成果、収蔵品の紹介等の文字情報と新規に撮影した作品の魅力を伝える図版を掲載した、博物館の情報発信としての出版物の刊行

担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	出版企画室長　浅見龍介

実績･成果	以下の出版物を刊行した。 ・　東京国立博物館研究誌『MUSEUM』607－612 号 ・　『東京国立博物館修理報告書Ⅷ』 ・　『東京国立博物館紀要 43 号』 ・　『法隆寺献納宝物特別調査概報XXⅧ』 ・　寄贈品図録『広田コレクション　鑑賞陶器編』 ・　寄贈品図録『山本達郎氏寄贈品目録　アジアの石彫・絵画』 ・　特集陳列「黒田記念館　黒田清輝の作品Ⅰ」「黒田記念館　黒田清輝の作品Ⅱ」リーフレット ・　特集陳列「高島菊次郎氏寄贈中国書画　槐安居コレクション」リーフレット ・　特集陳列「海外の日本美術品の修復」リーフレット ・　特集陳列「西アジアのガラス器」リーフレット ・　特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」リーフレット

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・『MUSEUM』607－612 号掲載論文 28 本のうち 20 本が当館研究員の執筆であり、研究員の研究成果の発信を着実に積み重ねることができた。 ・611 号は「『みどりのライオン』の開設と博物館教育」という特集号を組み、当館の教育普及事業の紹介と今後の方向を示した充実した内容になった。 ・『紀要』は木下史青「東京帝室博物館・復興本館の昼光照明計画に関する館史資料について」と松嶋雅人「長谷川等伯―信春時代における諸問題」を掲載。木下論文は当館ひいては日本の博物館の歴史を掘り起こすもの。松嶋論文は、長谷川等伯の能登在住時代の画業をまとめたもの。いずれも学界に寄与するところが大きい。 ・『法隆寺概報』は国宝聖徳太子絵伝の 1・2 面の細部写真と詳細な場面解説、江戸時代の模本写真等を掲載し、従来図様が明瞭でなかった絵伝の画像を示す画期的な報告で、今後の聖徳太子研究の基礎資料となるだろう。 ・原稿の遅延等により出版計画の変更をせざるを得ない状況も一部にあった。定期刊行物の出版の時期をずらすなど出版計画の見直しを図り円滑な出版を目指す。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価
	出版件数	11 件	―	―
	研究誌『MUSEUM』の発行	6 回	6 回	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 1502

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(1)　収蔵品等に関する調査研究成果の発信

事業概要	調査研究成果の発信

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	学芸課長　森田　稔

実績･成果	・「平安仏教とその造形」に関しては、シンポジウム「仏師康尚の時代」を開催(5 月 14 日)し、120 名の参加者を得て、活発な討論がなされた。また、報告書を刊行した。 ・大東急記念文庫所蔵の「曼荼羅集　玄証本」を採録・翻刻した「図像蒐成XI」を刊行 ・国際シンポジウム「狩野永徳研究の現状と課題」を 11 月 3 日に国立京都国際会館にて開催し、海外からのパネリスト 2 名を含む研究者 4 名の発表があり、285 名の参加者を得て活発な討論がなされ、盛況を博した。 ・研究紀要「学叢」第 29 号を刊行した。 ・「平成十二年度　京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書　3」を刊行した。 ・社寺調査報告書は刊行準備中。

国際シンポジウム
「狩野永徳研究の現状と課題」

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	当館における調査研究活動について、その成果を各種刊行物の発行、シンポジウムの開催等により、広く発信できた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	順調に成果が上がっている。

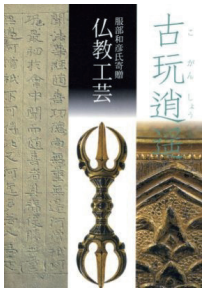
【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 1503

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(1)　収蔵品等に関する調査研究成果の発信

事業概要	調査研究の成果を展覧会目録や研究紀要の刊行、シンポジウムの開催やインターネットを活用して広く発信する。

担当者	担当部課	学芸課企画室	事業責任者	企画室長　稲本泰生

実績･成果	・展覧会目録の刊行（計 7 冊） 『神仏習合－かみとほとけが織りなす信仰と美』(特別展図録) 『古玩逍遥－服部和彦氏寄贈仏教工芸』(特別陳列図録) 『仏さまの彩り』(親と子のギャラリー図録) 『美麗　院政期の絵画』(特別展図録) 『第 59 回正倉院展』(特別展図録) 『 The 59th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録) 『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録) ・展覧会・展示リーフレットの刊行 「文化庁購入文化財展　新たな国民のたから」 「新指定　平城宮の木簡」 「文化財の燻蒸装置」 ※以上刊行物は全て作品解説付き、展覧会担当研究員の総論や各論を掲載 ・研究集会、シンポジウムの開催 国際研究集会「東アジアの墓葬と画像」(7 月 21 日) 正倉院学術シンポジウム「守る・伝える　正倉院宝物」(11 月 11 日) ・ホームページ上で研究紀要『鹿園雑集』のバックナンバーを公開 ・文化財保存修理所で修理した文化財を写真パネル等で展示 ・読売新聞「鹿園観照－奈良国立博物館で見る名宝」で、展示作品の定期的な紹介	 古玩逍遥図録

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・特別展、特別陳列等の開催に伴って展覧会目録等を刊行し、作品解説を付すにとどまらず、展覧会の企画・開催によって得た最新の調査研究の成果を発表することによって、充実した内容であるとの評価を多数得た。 ・親と子のギャラリー「仏さまの彩り」図録では、広告掲載の試みを初めて行って低価格による販売（200 円）を実現し、幅広い読者を獲得することができた。 ・国際研究集会及び正倉院学術シンポジウムでは、国内外の第一線で活躍する研究者を招聘して研究発表・討論を一般公開で行い、文化財に関する調査研究の拠点としての当館の機能を、広く示すことができた。 ・新聞紙上に展示品・所蔵品についての解説や研究成果の発表を行い、当館の活動を広く一般にアピールできた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
		－	－	－	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 1504

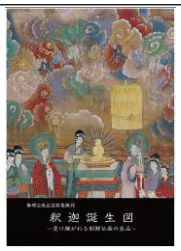
中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信

事業概要	① 研究紀要「東風西風」の刊行 ② 国際的な講演・研究集会の開催 ③ 文化財修理報告書刊行及び教育普及事業活用のための資料整理等 ④ 保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。

担当者	担当部課	文化財課 博物館科学課 交流課	事業責任者	研究員 東 昇 保存修復室長 藤田励夫 事務主査 元永行英

実績･成果	①研究紀要「東風西風 2007(第 3 号)」を刊行した。 ②「第 2 回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム―文化をつたえる紙の路―」を国宝修理装潢師連盟と主催し、中国 22 人、韓国 28 人、タイ 3 人、英 2 人、米 1 人、国内 260 人、計 316 人の参加を得、同時に修復施設内にてワークショップも実施し、中国、韓国の修理技術者の研修を実施した。日中韓の修理技術者、研究者が一同に会し紙文化財の修理についての理解と研鑽を深めた。 　また、学術文化交流協定締結を記念した国際博物館シンポジウムや締結館の館長等を招へいして会議を開催した。 ③修理完成記念特集陳列「釈迦誕生図」 ④地域の大学と連携し保存修復諸室を活用し、国宝修理装潢師連盟の協力を得て短期インターン研修を実施した。保存修復活動に関連する映像記録を作成しボランティア研修や一般講座への活用をはかった。 ⑤学術文化交流協定を締結している、南京博物院（中国）・国立扶餘博物館（韓国）・国立公州博物館（韓国）から研究者を招へいして、日本・中国・韓国　学術文化交流協定締結記念国際シンポジウム「百済と古代東アジアの国際交流」を開催した（参加者数 270 人）。 ⑥学術文化交流協定締結記念国際シンポジウムの開催に併せて、国立扶餘博物館長・国立公州博物館長・南京博物院考古研究所副所長を招へいして会議を開催し、協定を踏まえた交流促進を図った。



釈迦誕生図
図録表紙

日本・中国・韓国　学術文化交流協定締結記念国際シンポジウム

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・東アジア紙文化財保存修理シンポジウムは国内外から大変多くの専門家が集い、充実した内容により大きな成果を得ることができ、紙文化財についての保存修理において、ナショナルセンターとしての役割を果たすことができた。 ・「アジア民俗造形学会シンポジウム」「東アジア紙文化財保存修復シンポジウム」「朝鮮通信使 400 年記念国際シンポジウム」を開催してナショナルセンターとしての活動を推進した。 ・修理資料を特集陳列として公開し、図録を公刊することができた。 ・各地の博物館・文化財保存機関からの調査依頼を受けて、科学的調査に関する 10 件の調査を実施した。その結果、西日本地域の博物館活動全体の活性化に寄与することができた。 ・保存修復活動の一環として、「南蛮屏風」を高精細大型スキャナで撮影し、高精細画像を 4000 本シアターで公開することによって教育普及活動に反映させた。

定量的評価 中期計画での数値目標、その他もなるべく数値化記載	項目	実績	目標値	評価
	国際シンポジウム（参加者）	586 人	―	―
	修復活動に関連する映像記録	3 件	―	―
	主な国際シンポジウムの開催	4 回	―	―
	学術交流に基づく会議	1 回	―	―

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1601

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(2) 海外研究者の招聘

事業概要	海外の主要博物館・美術館との連携強化と積極的な交流により、日本の伝統文化の国内外における理解促進と普及につとめ、またナショナルセンターとして、博物館業務についての海外先進事例の集積と普及を行う。

担当者	担当部課	事業企画課	事業責任者	国際交流室長 鬼頭智美

実績･成果

1） 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進した。
ヨーロッパ、北米、中国、韓国より計 10 名の研究者を招へいし、展覧会事業の推進および学術交流を行った。

2） 外国人研究員・外国人研修生 2 名を受け入れた。
韓国 国立中央博物館より研究員 1 名を受け入れた（19 年 4 月 1 日～12 月 30 日）。ニュージーランド ウェリントン・ヴィクトリア大学より研修生 1 名を受け入れた（20 年 1 月～2 月）。

3） 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣した。
当館研究員延べ 22 名をヨーロッパ、北米、インド、中国、韓国へ派遣して、展覧会事業の推進および学術交流を行った。

・これらの交流活動により、欧米の主要博物館との連携を構築、強化し、また当館収蔵品とその保存・活用についての意見交換を行うことができた。また、アジア国立博物館協会設立に参加し、アジア全体の主要機関との連携の基礎を築いた。
・さらに、長年懸案となっていた中国の上海博物館との定期学術交流についての協約書を締結することができ、来年度より定期的かつ計画的な学術交流をより安定した形で進めることとなった。

アジア国立博物館協会理事会
（於：韓国国立中央博物館）

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・欧米およびアジア(特に東アジア)の主要館との連携は順調に強化されている。
・定期学術交流として、中国・上海博物館が加わり、韓国の国立中央博物館とともに、アジアにおけるわが国の研究交流の基点となることが期待される。
・来年度以降に、ヨーロッパ(ロシア等)、アメリカで所蔵品による展覧会を開催することが決定しており、準備も具体化している。こうした展覧会は、日本の伝統文化普及に資するものとして重要であり、開催地での日本美術への関心が高めることができると思われる。
・招へい者によるセミナーを 3 回開催し、特に展示デザインと収蔵品活用について海外での先進事例を研究者および専門家に紹介し、各分野での研究推進に寄与した。また、保存分野においても専門家の招へいにより、特に考古分野の収蔵品保存・修理についての新知見を得ることができた。
・今後、予算および人員が充当されれば、アジアのより広い範囲および南米等の地域での日本文化普及事業、あるいは、各国の博物館職員を対象として博物館における展示技術、保存修復および教育普及等収蔵品の保存と活用分野における研究会／研修の開催が検討課題となろう。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
海外研究者の招へい	10 人	7 人程度	A
海外への研究者派遣	22 人	7 人程度	A
外国人研究員・外国人研修生の受け入れ	2 人	2 人程度	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 1602

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(2)　海外研究者の招聘

事業概要	海外研究者の招聘と国際交流

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	学芸課長　森田　稔

実績･成果	海外から招聘　7 名 海外へ派遣　 21 名 国際会議　　9 名 ・海外から招聘した研究者は、中国から 2 名、アメリカから 2 名、ロシアから 1 名、英国から 1 名、オランダから 1 名となった。中国からの 2 名は、近現代の洋画と紙の保存修復が専門であり、アメリカからの 2 名は国際シンポジウム発表者であった。 ・海外に派遣した職員のうち、2 名は韓国国立中央博物館の依頼に応じて、特別展に協力するために派遣されたものであり、大きな国際交流に結びついた。 ・国際会議に延べ 21 人参加し、発表も行った。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	海外の優れた研究者の招へい及び当館職員の海外博物館等への派遣を通じて国際的な学術交流が活発となり、当館の調査研究活動の活性化に寄与した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	海外からの研究者招聘	7 人	5 人程度	A	
	海外への研究員の派遣	21 人	1～2 人	A	

中期計画期間における進捗状況	順調に成果が上がっている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1603

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(2)　海外研究者の招聘

事業概要	国際交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。

担当者	担当部課	学芸課企画室	事業責任者	企画室長　稲本泰生

実績･成果	・国際交流協定を結んでいる 4 機関との間で以下の研究員の招聘及び派遣を行い、文化財の調査研究を実施した。 中国・上海博物館（研究員 3 名を 10 日間招聘。当館からは 3 名を 10 日間派遣） 中国国家博物館（研究員 2 名を 1 ヶ月間招聘） 中国・河南博物院（研究員 2 名を 1 ヶ月間招聘、当館から研究員 2 名を約 1 ヶ月間派遣） 韓国国立慶州博物館（研究員 2 名を各 1 ヶ月間招聘、当館から研究員 1 名を 3 週間派遣） ・前述のうち中国国家博物館・信立祥氏には国際研究集会で研究発表を、慶州博物館・咸舜燮氏には 3 月に当館研究員を対象に講演を行っていただいた。 ・文化庁事業により研究者の招聘をし、国内各地で文化財調査、博物館等施設の視察を行っていただき、当館研究員との間で情報交換等を行った。 「外国人芸術家招へい事業」 中国・陝西歴史博物館長・成建正氏 「在外日本古美術品に係る博物館・美術館研究協力事業」 サンフランシスコ・アジア美術館研究員 1 名 「アジア諸国博物館・美術館研究協力事業」 韓国・通度寺博物館から 1 名、中国・漢陽陵博物館から 1 名

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・中国・河南博物院との交流が本格的に開始され、将来の共同調査や展覧会開催に向けた実りある調査・情報交換を行うことができた。 ・その他 3 機関との交流、及び文化庁主催の各種招聘事業においても、諸外国の主要博物館との友好関係を強化し、当館の今後の調査研究・展示活動を充実させる上で有効な成果をあげることができた。 ・当館からの研究員派遣では、派遣先で文化財調査を行うことによって、仏教美術に関する当館の調査研究・展示活動を広くアジア的視野に立って展開する上で、貴重な情報の収集を行うことができた。 ・中国・隋唐時代の主要文物を多数所蔵する陝西歴史博物館の館長を招聘し、平成 22 年度に開催を予定している平城遷都 1300 年記念特別展に対する助力を得る上で、特に有意義な交流を行うことができた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	海外の研究者の招聘	9 人	6 人程度	A	
	職員の海外への派遣	6 人	6 人程度	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 1604

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(2)　海外研究者の招聘

事業概要	①　海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。(5 人程度) ②　当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(1 人程度) ③　国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに海外博物館等との交流並びに調査を実施する。

担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　　浅井浩文

実績･成果	・海外研究者の招へい　38 人（目標 5 人程度） ・海外への研究員派遣　43 人（目標 1 人程度） ①・文化庁アジア諸国博物館・美術館研究協力事業により、韓国学中央研究院、中国国家図書館、上海博物館の研究員を招へいした。 ・JICA 草の根技術協力事業により、タイの研究員を 3 人招へいした。 ・第 2 回東アジア紙文化財修理シンポジウムに、中国の研究者 21 人、韓国の研究者 6 人の計 27 人を招へいした。 ②当館研究員 1 人を韓国国立公州博物館へ派遣した。 ③日中韓学術文化交流協定締結館会議を開催した。 （中国南京博物院、韓国国立公州博物館、韓国国立扶餘博物館、九州国立博物館）

日中韓学術文化交流協定締結館会議の開催

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・文化庁アジア諸国博物館・美術館研究協力事業により 3 名受け入れたほか、JICA 草の根技術協力事業等、外部資金を活用して積極的に海外の研究者との交流を促進することができた。 ・国際シンポジウムの開催により、中国、韓国の研究者と専門的な意見交換を行うことができた。 ・当館研究員 2 名を韓国国立公州博物館に派遣し、研究交流を行うことができた。 ・日中韓学術文化交流協定締結館会議を開催し、学術文化交流協定を締結した韓国扶餘国立博物館、韓国公州国立博物館、中国南京博物院との間で連携推進の施策に関して協議することができた。 ・今後とも外部資金等を活用して、計画的に進めていきたい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	海外の研究者招へい	38 人	5 人程度	A	
	当館職員の海外博物館等への派遣	43 人	1 人程度	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 1701

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施

事業概要	・修理技術者への指導・助言 ・修理技術関係者を対象とした特別展覧会開催に合わせた研修会の開催 ・インターンシップ実習生の受入

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	保存修理指導室長 山本英男

実績･成果	・毎月 1 回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また、2ヶ月に1回修理事業者と当館との定例会議を開催した。 ・当館にて開催の特別展覧会において修理技術関係者に対する研修会を実施した。 参加者 「藤原道長」展 45名 「狩野永徳」展 69名 「ヨーロッパ陶磁」展 31名 ・伝統保存技術者育成を目的としたインターンシップ制度により、実習生を受け入れた。 実習生 1名（1大学）

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	・文化財保存修理所巡回によって、修理技術者へ専門的立場から指導・助言を行うことで双方の見識にプラスとなった。 ・18 年度から締結している国宝修理装潢師連盟、文化財修復大学院生インターンシップ協議会、加盟会社、加盟大学及び京都国立博物館との大学院生のインターンシップ実習生派遣に関する協定により、19 年度は 1 名の実習生を修理工房にて受け入れ、研修を行った。協定の趣旨により、継続した事業として実施していくことが必要である。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	特別展覧会時の研修会参加者	のべ 145名	―	―	
	インターンシップ実習生	1名	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 1702

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施

事業概要	文化財保存修理所と協力し研修を開催及び実施する。

担当者	担当部課	学芸課保存修理指導室	事業責任者	保存修理指導室長 鈴木喜博

実績･成果

・当館文化財保存修理所で活躍してきた工房（美術院、文化財保存）の代表者が昨年と今年に続いて定年を迎えられるので、これまでの修理の経験に基づいて、若手技術者に対する研修会を兼ねた座談形式の講演会を企画し、あわせて一般の方々にも聴講可能な公開講座とした。
・内訳
8 月 4 日「座談：文化財修理 40 年―絵画書跡―」
講師：田畔徳一前文化財保存代表取締役
参加者数 80 人
20 年 3 月 15 日「座談：文化財修理 40 年―彫刻―」
講師：松永忠興美術院研究部長
参加者数 76 人
いずれも司会進行：鈴木喜博保存修理指導室長

座談 文化財修理 40 年－絵画書跡－

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・文化財保存修理所は施設上一般者の見学が難しいので、地下回廊での写真パネル展示、修理報告（紀要）等で修理所活動の内容の公開につとめてきた。今年度は新たに修理技術者による一般講演会を実施した。
・講演では若手技術者に研修の企画意図が伝わるように、保存修理指導室長との座談形式を採用し、かつ、演題の内容が技術者の言葉を通してわかりやすく語られるように努めた。
・またスライドの使用（パワーポイント）にあたっては、修理技術者の負担を軽減するように、スライド作製および編集は、工房からの資料提供を得て、当館保存修理指導室が担当した。
・一般の方々に理解しやすいようにできるだけ多くのスライド資料を収集する事に努めた。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 1703

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施

事業概要	① 修理技術者等を対象とした研修会を開催する。 ② 修理技術者と協力し、研修会を開催する。

担当者	担当部課	博物館科学課	事業責任者	①課長 本田光子(a, e) 保存修復室長 藤田励夫(b, c) 環境保全室長 今津節生(d) ②研究員 志賀智史

実績･成果	① a 6 月 2 日,8 月 4 日,10 月 6 日,12 月 1 日,20 年 2 月 24 日、ミュージアム IPM 研究会第 1～5 回 参加者数延 300 名 b 9 月 8 日 東アジア紙文化財保存修理シンポジウム c 9 月 9 日 紙文化財修理ワークショップ d 9 月 9 日 文化財の科学的調査ワークショップ e 10月30日 「美術工芸品の保存状態―カビ除去セミナー」 ② a 8 月 20～24 日 文化財保存修復研修（地元大学の文化財保存技術専攻学生 4 名対象） b 20年2月13日,19日 古文書保存基礎講座（地元の博物館文化財関係者25名対象）

古文書保存修復研修風景

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・ 当館施設の機能や利点を活かし専門的な研修会をきめ細かく開催することができ、修理技術者や保存技術者の研鑽を深めることができた。 ・ 装潢修理技術者の協力による普及活動は、今年②a については 3 回目、②ｂについては 2 回目をむかえ、紙文化財の保存については地域に定着した活動と、ナショナルセンターの役割を果たしている。 ・ 当館施設の機能や利点を活かし、装潢修理技術者の協力を得て、地域の博物館・文化財関係者への個別具体的な専門研修ができた。 ・ 文化財諸分野の保存修復活動について、地元博物館・文化財関係者へのさらなる研修プログラムが必要である。 ・ 文化財保存についての普及のためにも、学生研修の対象を専攻生以外広げる必要があるかもしれない。

定量的評価 中期計画での数値目標、その他もなるべく数値化記載	項目	実績	目標値	評価	
	研修会等開催回数	11 回	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1801

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(4)　公私立の博物館等への貸与の推進

事業概要	公・私立の博物館等に対し展示等の充実に寄与するため平常展・特別展に収蔵品を貸与する。

担当者	担当部課	文化財部列品課	事業責任者	列品課長　谷豊信

実績･成果

・国内の公立・私立の博物館が実施した特別展および平常展示に、列品および寄託品を多数貸与した。
・貸与に当たっては、先方の施設および責任体制の確認、作品の保存状況の確認、先方の事前調査への対応、作品が輸送・展示に耐えるかの判定、希望が重複した場合の調整、引渡し時および返却時の状況確認を行った。
・特色ある短期の貸与としては、富山の広田展と考古相互貸借事業による貸与をあげることができる。
・長期貸与のなかで特筆すべきは、17 年度以来継続している長崎歴史文化博物館に対するキリシタン関係遺物貸与である。同館への貸与品と、九州国立博物館への長期管理換品、そして当館での展示品とがそれぞれ一定の質を保つよう、調整している。

「東京国立博物館広田不孤斎コレクション　茶の湯の名品」（富山市佐藤記念美術館）へ貸与

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・多数の博物館等の特別展に指定品を含む当館の収蔵品および寄託品を貸与し、他館の特別展の充実に貢献した。
・本年度は昨年度より貸与件数が減少した。しかし貸与先の数はほぼ同じであり、1 会場当たりの貸与件数が減少したのである。展覧会経費が削減されているという声はしばしば聞くところであり、展覧会規模の縮小によるものではないかと推測する。
・東京国立博物館収蔵の民族資料のうち約 2,000 件を九州国立博物館に管理換する方向で、九博と準備を行なったが、本年度は九博側の受け入れ態勢が整わず、実施にいたらなかった。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
貸与件数	1,302 件	－	－
うち国内の貸与件数	1,118 件	1,000 件	A
うち長崎歴史文化博物館への貸与	80 件	80 件	A
うち韓国国立中央博物館平常展への貸与	95 件	95 件	A
うち海外の貸与件数	184 件	60 件	A
貸与先施設数	137 件	－	－
九州国立博物館への管理替	1,086 件	約 2,000 件	C

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 1802

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(4) 公私立の博物館等への貸与の推進

事業概要	国内外の博物館等へ収蔵品を貸与する。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	列品管理室長 若杉準治

実績･成果	・60 機関に対し 171 件の貸与を行った。(うち海外 1 機関 3 件) (館蔵品についての貸与件数) ・特別観覧件数 6,786 件

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	・公私立博物館、美術館からの要請により、当館の展示計画との調整を行ったうえで、積極的に収蔵品の貸与を行い、各博物館、美術館の展示の充実に寄与した。 ・「@KYOTOMUSE Digital Archives」(artize.net) を介したデジタル画像の提供事業を継続的に行っている。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	貸与件数 うち海外への貸与件数	171 件 3 件	160 件 ―	A ―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1803

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(4)　公私立の博物館等への貸与の推進

事業概要	収蔵品の保存状態にも留意しつつも、館外からの要望に真剣に耳を傾けつつその意義を考え、可能なかぎりその要望に応え、文化財の出品に協力し、普及をはかる。

担当者	担当部課	学芸課列品室	事業責任者	列品室長　岩田茂樹

実績･成果	・館蔵品・寄託品の貸出は、展覧会にして 37 件、展示会場にして 34 館（巡回展があるため）、作品件数にして 137 件である。 貸与先内訳 外国 2 館、国立 9 館、公立 22 館、私立 4 館 貸与文化財内訳 館蔵品 87 件（絵画 22 件、彫刻 4 件、書跡 5 件、工芸 8 件、考古 48 件） （うち海外への貸与 2 件） 寄託品 50 件（絵画 25 件、彫刻 8 件、書跡 6 件、工芸 2 件、考古 9 件） （うち海外への貸与 2 件） 「毘沙門天立像」 八幡市立松花堂美術館 「石清水八幡宮展」に貸与

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・展覧会の意義と貸出希望のあった作品の保存状態を充分に吟味しつつ、慎重に検討した結果、目標を上回ることができ、公私立博物館・美術館における公開の機会拡大に貢献した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	貸与件数	137 件	100 件	A	
	うち海外への貸与件数	4 件	－	－	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 1804

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(4) 公私立の博物館等への貸与の推進

事業概要	収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。

担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	研究員 市元塁

実績･成果	国内 28 機関、海外 5 機関に、東京国立博物館からの長期管理換品を含む所蔵品、借用品などを貸与した。 島根県立古代出雲歴史博物館、大阪市立東洋陶磁美術館、MOA、五島美術館など、九州沖縄管内に留まらず、各地の機関からの借用要請に協力した。 なかでも、アメリカ合衆国内のフィラデルフィア美術館における池大雅展（重要文化財「陸奥奇勝図巻」)、フリーア美術館における西暦1600年を巡る特別展(唐船南蛮船図屏風)、ポルトガル・ポルトのソアレス・ドス・レイス美術館における日本のやきもの展（重要文化財「緑釉四足壺」）や大韓民国の国立済州博物館における琉球王国展（進貢船模型）や琉球風俗図などは、それぞれの展覧会の核となるものとして出品を強く要請された。 （貸与）（フリーア美術館） 南蛮図屏風（唐船南蛮船図屏風のうち、当館蔵）

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・2005 年の開館以来、北は北海道から南は沖縄にいたる各地の機関などからの長期管理換品、借用品などを大量にお預かりしている九州国立博物館は、できるだけ他館の事業に協力することにしている。 ・アメリカ合衆国・大韓民国・ポルトガルの代表的な機関における特別展への出品は、当館の国際的認知度を上げるのに大いに役だった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	貸与件数	127 件	―	―	
	うち海外への貸与件数	18 件	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 1901

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	（5）公私立博物館等に対する援助・助言

事業概要	国内の公私立博物館・美術館等、及び海外の美術館・博物館等が開催する展覧会に対する援助・助言等を行う。また、文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業に協力し、調査や助言を行う。

担当者	担当部課	文化財部	事業責任者	文化財部長　島谷弘幸

実績･成果	文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力（48 件） 文化財の展示にかかる指導助言（12 件） 講演会やセミナー等における講演等での協力（39 件） 作品の展示・保存環境についての調査・指導（25 件）

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・国内・海外の博物館・美術館からの要望に応じ、展覧会での展示方法や作品調査にかかる指導・助言を行い、また講演会等における発表や講師での協力をした。 ・これにより各機関の展示企画を充実させ、調査研究活動に貢献するとともに、日本文化の紹介を通じて国際交流の発展にも寄与した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	公私立博物館・美術館への援助・助言	124 件	40 件	A	

中期計画期間における進捗状況	順調に成果が上がっている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 1902

中項目	3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(5) 公私立博物館等に対する援助・助言

事業概要	公私立博物館・美術館等が開催する展覧会の企画・展示等に協力する。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	学芸課長 森田 稔

実績･成果	文化財の展示、修理にかかる指導助言（11 件） 講演会、セミナー等における講演等での協力（9 件） 地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力（29 件） 文化財の調査にかかる指導助言（32 件） ・新潟県立近代美術館における京都国立博物館所蔵「国宝との出会い展」（仮称）の企画に協力した。 ・宮内庁所蔵の「春日権現験記絵」の修理に関する指導・助言を行った。 ・文化庁のセミナーや放送大学の番組制作に協力するとともに、京都市については生涯学習振興財団の講座の講師を派遣し、協力を行った。 ・京都府や滋賀県の教育委員会や文化財保存修復学会が行う審議会や委員会に出席し、助言などを行った。 ・文化庁や宮内庁をはじめ、大学の科学研究費による調査に参加し、文化財の調査にかかる指導助言を行った。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	多くの機関から要望のあった講演会講師や展示・修理等についての指導助言を積極的に行ったことで、各機関とのつながりが深まった。今後も、各機関の要望に応じ、積極的に協力していく。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	公私立博物館・美術館等への援助・助言	81 件	12 件	A	

中期計画期間における進捗状況	順調に成果が上がっている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 1903

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(5)　公私立博物館等に対する援助・助言

事業概要	国内の公私立博物館・美術館等、及び海外の美術館・博物館等が開催する展覧会に対する援助・助言等を行う。「鑑真和上展」「石山寺展」の企画・展示等の協力を行う。

担当者	担当部課	学芸課企画室	事業責任者	企画室長　稲本泰生

実績･成果	・「国宝　鑑真和上展」(福岡市博物館) 及び「石山寺の美　観音・紫式部・源氏物語」(新潟三越美術特別会場、石山寺・新潟日報社主催) において学術協力を行い、出陳作品の選定・集荷・陳列・保存・返却の助言ならびに補助、目録の編集協力を行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。 ・海外展「観音菩薩」(スイス・リートベルク美術館、19 年 2 月 18 日～4 月 9 日) を日本側主催者として開催し、今年度は現地に 2 名の研究員を派遣して撤収作業を指導し、国内での作品返却までの作業を完了した。 ・文化庁主催海外展「悟りの世界」(米国・ジャパンソサエティギャラリー、19 年 3 月 28 日～6 月 17 日) の展示・撤収指導に各 1 名の研究員を派遣した。 ・20 年度にドイツ・国立芸術展覧会ホールで行われる「醍醐寺展」(日本側の主催者は醍醐寺・東京国立博物館・当館、20 年 4 月 25 日～8 月 24 日) の準備を共催者とともに行い、国内での集荷作業までを完了した。

定性的評価 (目標に対する成果の達成状況)	・「鑑真和上展」「石山寺展」への協力を通して、関西地区所在の仏教関連文化財の他地域における紹介・普及に、多大な貢献を果たすことができた。 ・両展への協力を通して、特別展等、将来の当館の事業に対して協力を得る際に不可欠である唐招提寺及び石山寺との信頼関係を、より強固なものとすることができた。 ・日本美術に関する海外展に主催者・協力者として積極的に関与し、海外における日本の文化財の公開及び日本文化の紹介・普及に多大な貢献を果たすことができた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	公私立博物館・美術館等への援助・助言	5 件	5 件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 1904

中項目	3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

事業名	(5)　公私立博物館等に対する援助・助言

事業概要	公私立博物館・美術館等に対する指導・助言等を行う。

担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長　浅井浩文

実績･成果	・公私立博物館及び教育委員会等で開催された研究集会・講演会において指導・助言を行った。(38 件) ・当館研究員が日頃の研究や成果に基づき指導・助言を行い目標を大幅に上回る件数を実施した。 ・近代遺産保存に関する講師（佐賀市歴史民俗館） ・考古学に関する講演の講師（広島大学） ・「紙の文化財」保存修復コースにおける講師（東京文化財研究所） ・勝負砂古墳発掘の技術に関する指導（岡山大学） ・大涅槃像修復に関する指導（佐賀市教育委員会） ・松浦市海底遺跡調査に関する指導（長崎県松浦市教育委員会） ・在外日本古美術品の修復に関する指導（東京文化財研究所） 当館の概要に関する説明

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	九州の各地方公共団体（教育委員会等）はもとより他県の要請にも応じ、文化財の科学的分析調査や修復指導等目標を超える実績を上げることができた。今後も職員の専門性や業務量を勘案しつつ協力していくよう努める。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	公私立博物館・美術館等への援助・助言件数	38 件	12 件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式B】
（様式１）

No. ２００１

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ４（１）①）	文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。

【事業名称】	文化的景観に関する調査研究（Ⅰ４（１）①ア）

【事業概要】
文化的景観の概念整理など基礎的な研究に資するために、ケーススタディとして高知県四万十川流域の文化的景観の調査研究を行うとともに、景観の体系化や保護策に関する研究を行う。

【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　内田和伸

【スタッフ】
高瀬要一、平澤毅、惠谷浩子、宮城俊作（奈良女子大学）

【年度実績概要】
平成 18 年度からの５カ年計画の中で、現地調査などを含め具体的に取り組む文化的景観の調査研究対象を四万十川流域とし、高知県内同流域の調査を行った。この四万十川流域の自治体では、文化的景観保存活用事業として国の補助事業が開始され、“四万十川流域の文化的景観”として同時に重要文化的景観の選定を受けるべく準備を進めており、この調査は、それらに対する調査協力の意味も持っており、四万十市・梼原町については平成 18 年度から、四万十町については平成 19 年度から、それぞれ四万十川流域の文化的景観の保存活用事業に関わる受託調査も実施してきた。

四万十市は、四万十川の河口部を含む下流域から中流域に位置する。この四万十市については、河川地区では四万十川で行われる伝統漁法の風景、洪水時には水面下に没することがある沈下橋の景観などの現地調査を行った。また、最河口部の下田地区は陸運が盛んになる前、流域の物資が舟運によって集積した集落であり、民家の亀甲積みの石垣や煉瓦塀などに栄えた頃の面影をみることができ、かつて河口部で堆積した砂利を用いたバラスブロックが作られ、現在も町中の塀に多く残り、独特な景観を呈していることを確認し、それらの景観保全に留意した保存計画を提案した。

四万十町は、四万十川中流部に位置する町であり、水量の豊富なことから陸運が発展する近代までは河川交通の中継点として栄えた集落もある。当町の調査では、舟運の安全を祈願した四万十川最大の中州・三島や、本流に堰を設けて河岸の台地上で灌漑をした水路、国有林の伐採で栄えた集落などに重点を置いた現地調査を実施した。

梼原町は、四万十川最大の支流、梼原川の中・上流部に位置する山間の町である。本町の河川地区には小規模な沈下橋が多く分布する。調査の結果、沈下橋が架けられる前は一本橋があり、出水で流されるたび橋桁に橋板を戻すことになるが、戻しやすい水量を計る計り石なども多く残されており、川と生活の関わりが確認できた。また、棚田オーナー制度発祥の地となった神在居の棚田の現地調査も行った。

【実績値】
報告書：３件（①②③）
論文数：３件（④～⑥）　　発表数：３件（⑦～⑨）
文化的景観の景観地区件数：四万十市７件、四万十町６件、梼原町５件

【備考】
〈報告書〉
①『四万十川流域の文化的景観保存活用事業報告書　四万十市』2008.3
②『四万十川流域の文化的景観保存活用事業報告書　四万十町』2008.3
③『四万十川流域の文化的景観保存活用事業報告書　梼原町』2008.3
〈論文〉
④内田和伸「四万十川流域の文化的景観」『奈良文化財研究所紀要 2007』2007.6
⑤平澤毅「文化遺産としての遺跡・庭園・公園の概念に関する比較考察」『遺跡学研究』第４号 2007.11
⑥惠谷浩子「農村地域における景観形成に関わる住民の意識と行動の構造化」『ランドスケープ研究』vol.70　No.5　2007
〈発表〉
⑦平澤毅「文化遺産としての遺跡・庭園・公園の概念に関する比較考察」、日本造園学会大会　2007.5
⑧惠谷浩子「農村地域における景観形成に関わる住民の意識と行動の構造化」、日本造園学会大会　2007.5
⑨平澤毅「文化遺産としての風景の保存」、第101回奈良文化財研究所公開講演会、2007. 10

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２００１

1．定性的評価

観点	適時性	発展性				
判定	A	A				

備考　適時性：四万十市・四万十町・椿原町で国庫補助事業が行われるのに合わせ、調査研究を進めた。
忘れられつつある景観構成要素の再発見と価値付けが流域のまちづくりに資する。
発展性：多様な文化遺産へ研究対象が広がる。

2．定量的評価

観点	論文数等	発表件数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	四万十川流域の現地調査などによって、重要文化的景観としての選定に向けて必要な調査方法、保存計画の立て方など具体的な内容に関するノウハウを蓄積することができた。また、四万十川流域というまとまった地域でありながら、上流、中流、下流の３市町の文化的景観の保存活用事業の調査を受託することによって、河川部から都市部、農村部、森林部、高原部に到るまでの様々な文化的景観を対象にすることができ、研究の対象が広まった意味も大きい。よって、Ａと評価した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の予定通り事業を実施でき、順調であった。次年度においては、文化的景観の全般に関しての概念整理や体系化、それに応じた保護策などについても研究を進めたい。

【書式B】
(様式1)

№. ２００２

業務実績書

中期計画の項目 （Ｉ４（１）①) （Ｉ４（１）④)	文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図り、「無形民俗文化財の映像記録作成ガイドライン(仮称)」等の指針を作成し公表する。

【事業名称】	民俗技術に関する調査・資料収集（Ｉ４（１）①イ） 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（Ｉ４（１）④)

【事業概要】
風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等についての全国的調査研究を行い、その成果をデータベースとして構築する。さらに研究協議会の開催を通じて各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図り、「無形民俗文化財映像記録作成の手引き」等の、具体的保護施策の実施に資する指針を作成し公表する。さらに、韓国等との研究交流を積極的に実施し、無形遺産分野における国際協力体制の充実を図る。
また、文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった民俗技術に関する基礎的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に資するデータを提供する。

【担当部課】	無形文化遺産部	【事業責任者】	無形民俗文化財研究室長 宮田繁幸

【スタッフ】
俵木悟（無形文化遺産部）、大島暁雄、服部比呂美（客員研究員）

【年度実績概要】
無形民俗文化財の伝承実態の調査として、千葉県南房総市の重要無形民俗文化財「白間津のオオマチ行事」について、とくに子どもたちの踊りであるささら踊りの伝承過程を調査し、現地の保存会と協力して踊りの練習用 DVD を作成した。その他、同じ南房総市の川口のみのこ踊りも調査を行った。また、中国地方の神楽の公開のあり方についての調査として、広島県安芸高田市の神楽門前湯治村にある「神楽ドーム」での定期公演等を調査した。
公開の実態調査としては、北海道・東北、近畿・東海・北陸、中国・四国、の各ブロック別民俗芸能大会、「伝統文化こども教室」フェスティバル IN なら等の公開確認調査を実施した。
都市における民俗技術の定着と展開については、庄内地方の三月節供で雛人形に供えられる「飾り物」の実態調査を行った。調査の結果、鶴岡市や酒田市では、上級武士や都市町人が近世前期には上方や江戸から贅を尽くした雛人形を買い求め、この人形に高い装飾性をもった雛菓子や、雛菓子を模した押絵が供えられ、その伝統は現在も引き継がれていることが明らかになった。こうした雛菓子は、主に上級武士や豪商の求めに応じた菓子職人とその系譜を引く現在の職人によって製作され、押絵や傘福、御殿毬などとともに、生活と関わりながら飾り物が根付いた実態が明らかになってきた。
無形民俗文化財研究協議会は、その第 2 回を「市町村合併と無形民俗文化財の保護」をテーマとして、2007 年 12 月 7 日に開催した。その成果は報告書として刊行し、関係者に配布するとともに、HP 上で広く一般に公開している。また、「無形の民俗文化財映像記録作成」小協議会を 5 回開催し、その検討の成果を『無形民俗文化財映像記録作成の手引き』として刊行し、関係機関に配布した。

【実績値】
論文等掲載数 1 件(1)
研究会等発表件数 1 件(2)
＜参考指標＞
報告書刊行 2 件(3,4)

【備考】
1 俵木悟「無形の民俗文化財の映像記録作成への提言」 『民俗文化財―保護行政の現場から―』 岩田書院 07.10
2 宮田繁幸「日本における無形民俗文化財の保護－その現状と課題－」 文化資源シンポジウム「地方文化からの観点」 国立台北芸術大学文化資源学院 07.12.08
3 『第 2 回無形民俗文化財研究協議会報告書』 2008.3
4 『無形民俗文化財映像記録作成の手引き』 2008.3

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２００２

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	論文等掲載数	研究会等発表件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	無形民俗文化財研究協議会では、長年懸案となっていた市町村合併の無形民俗文化財の保護に与える影響をテーマとして取り上げ、時宜に適ったテーマとして大きな反響を得た。実地調査としては、無形民俗文化財の伝承状況の調査の一環として、単なる学術的な調査にとどまらず、地元の保存会と協力して祭礼の踊りの後継者育成のためのビデオ作成を試みるなど、伝承に実質的に貢献する、応用性のある試みも行った。また、過去５年度にわたり継続してきた「無形の民俗文化財映像記録作成」小協議会の検討の成果をまとめ、『無形民俗文化財映像記録作成の手引き』を刊行し、関係者に配布することができた。これも継続的な研究の成果であると同時に、実際に映像記録作成事業の現場で役立ててもらうことが期待できるという点で、応用性ある成果と言える。以上の状況を総合的に判断して、Aと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通りに実施されており、目的を順調に達成した。調査研究活動については、今後もこのペースを維持し、協議会についても、緊急の課題に対応するという視点からはもちろんのこと、実際の保護施策の現場で役立つ、実践的なテーマを積極的に取り上げていきたいと考えている。さらに、映像記録作成の手引きの刊行が実現されたので、今後は作成された記録の活用を目指して、記録の所在情報のデータベース化に取り組んでいくつもりである。

【書式B】
（様式1）

№. ２００３

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ１（１）②i）	我が国の有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。 ｉ日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性の解明

【事業名称】	東アジアの美術に関する資料学的研究（Ⅰ4（１）②ア）

【事業概要】
日本を含む東アジア地域の美術を対象に、人とモノとが複雑に絡み合って多様に展開する価値形成のしくみを解明することを目指す。研究にあたっては、より質の高い資料の提示が求められる時勢に対応して、新しい技術、精度、信頼性、網羅性など必要な条件を満たすこれからの美術資料のあり方や可能性を探り、資料の収集・蓄積・公表等においてそれを具体的に実現することに留意している。

【担当部課】	企画情報部	【事業責任者】	文化形成研究室長　塩谷　純

【スタッフ】
中野照男、勝木言一郎、山梨絵美子、田中淳、津田徹英、綿田稔、皿井舞、江村知子（以上、企画情報部）、相澤正彦（客員研究員）

【年度実績概要】
（1）情報資料の収集のための調査
黒田清輝「湖畔」（東京国立博物館蔵）の制作地である箱根での取材調査（田中）。狩野正信「周茂叔愛蓮図」「山水人物図」（九州国立博物館蔵）、雲谷派「山水図屏風」（萩美術館蔵）の作品調査（綿田）。
（2）美術史研究のためのコンテンツの形成
2010 年度に『日本絵画史年紀資料集成（15 世紀）』を刊行すべく、古美術展カタログ等に散在する情報を抽出して統合するための仮登録作業を継続しておこなっている。事業の発展性を考慮し、絵画に限らず 15 世紀の年紀を有するものすべてを登録することを旨としたため、今年度は約 2600 件（うち絵画は約 500 件、ともに重複データをふくむ）の情報を集めた（綿田）。
（3）研究会の開催
折々の総合研究会、企画情報部研究会において研究経過・成果を発表したほか、オープンレクチャーを本研究と関連させ、「人とモノの力学」というテーマのもと 11 月 2・3 日に開催、また同テーマで国立台湾大学芸術史研究所の陳芳妹氏を招へいし、1 月 15 日に「淡水鄞山寺に造られた神聖空間と民族相互認識の問題―社会芸術史の探究」の演題で講演会を開催、18 世紀末から 19 世紀初頭にかけて台湾へ移住した漢民族、とりわけ福建省西山区の客家汀州を出身とする人々の表象についての理解を深めた。10 月 12 日には『美術研究作品資料 5　黒田清輝《湖畔》』刊行のための研究協議会を荒屋鋪透氏（ポーラ美術館）、植野健造氏（石橋美術館）、金子一夫氏（茨城大学）、鈴木康弘氏（箱根町教育委員会）、渡邉一郎氏（修復研究所 21）を交えて開催した。
（4）報告書の刊行
黒田清輝の代表作《湖畔》について、度重なる調査や収集資料をふまえ画家とモデル、創作のプロセス、評価の変遷などの面から多角的にとらえなおした研究成果報告書『美術研究作品資料 5　黒田清輝《湖畔》』を出版刊行した。

【実績値】
学会誌等への掲載論文数 7 件（①～⑦）
学会等での発表件数 7 件（⑧～⑭）
報告書刊行件数 1 件（⑮）

【備考】
①皿井舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（上）」　『美術研究』392　2007.9
②皿井舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（中）」　『美術研究』393　2008.1
③綿田稔「自牧宗湛（上）」　『美術研究』393　2008.1
④綿田稔「自牧宗湛（中）」　『美術研究』394　2008.3
⑤江村知子「研究資料　曽我物語図屏風について」　『美術研究』394　2008.3
⑥田中淳「序論　黒田清輝《湖畔》を語るために」　東京文化財研究所編『美術研究作品資料 5　黒田清輝《湖畔》』　中央公論美術出版　2008.3
⑦山梨絵美子「黒田清輝《湖畔》のモデルをめぐって」　東京文化財研究所編『美術研究作品資料 5　黒田清輝《湖畔》』　中央公論美術出版　2008.3
⑧綿田稔「宗湛の研究」　総合研究会　東京文化財研究所　2007.7.10
⑨塩谷純「《悲母観音》の生命誌」　東京国立博物館月例講演会　東京国立博物館　2007.8.11
⑩中野照男「敦煌文書の真贋をめぐって」　企画情報部研究会　東京文化財研究所　2007.9.26
⑪江村知子「光琳の目と手」　第 41 回オープンレクチャー　東京文化財研究所　2007.11.2
⑫山梨絵美子「矢代幸雄と美術研究所」　第 41 回オープンレクチャー　東京文化財研究所　2007.11.3
⑬勝木言一郎「訶梨帝母（鬼子母神）の図像をめぐる“オリジン”・“オリジナル”・“オリジナリティ”」　総合研究会　東京文化財研究所　2008.1.8
⑭綿田稔「聚光院問題を考える」　企画情報部研究会　東京文化財研究所　2008.2.27
⑮『美術研究作品資料 5　黒田清輝《湖畔》』　東京文化財研究所　2008.3

（様式2）

自己点検評価調書

No. 2003

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	論文等掲載数	発表件数	報告書刊行数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今年度は「人とモノの力学」というテーマで、恒例のオープンレクチャーに加え、東アジアの美術という視点から台湾の研究者を招き、日本人研究者の見落としがちな前近代の台湾についてのケーススタディを行えた。また一つの作品をめぐり、その制作から評価の変遷に至る多角的な研究を盛り込んだ報告書『美術研究作品資料5　黒田清輝《湖畔》』を刊行するなど、美術品をめぐる価値形成の解明に十分な成果を得られたため、A と判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度は美術史研究のためのコンテンツ形成として『日本絵画史年紀資料集成（15 世紀）』刊行に向けてのデータ入力を重点的に進めたが、絵画に限らず工芸や彫刻、建築といった他ジャンルも視野に入れているため、進度にやや遅れはあるものの汎用性があり、かつ堅実なデータベースが構築されつつある。次年度もその精度を維持しつつ 15 世紀の年紀資料を収集・整理し、さらに新たなコンテンツとして黒田清輝宛のフランス語書簡の整理・翻訳を進めることにしたい。

【書式B】
（様式1）

№. ２００４

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）②ⅱ）	我が国の有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。 ⅱ　我が国における近現代美術の歴史の解明

【事業名称】	近現代美術に関する総合的研究（Ⅰ４（１）②イ）

【事業概要】
多様化する現代美術の動向の調査研究を含め、日本近代美術の研究資料のあり方、研究の手法の開発、研究成果の公開の仕方を研究し、文化財行政に寄与することを目的としている。そのため、具体的には、第１にこれまで未公開の基礎資料の収集整理の上、データ化等の公開にむけた調査研究を行う。第２に資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開を進める。

【担当部課】	企画情報部	【事業責任者】	近現代視覚芸術研究室長　田中　淳

【スタッフ】
山梨　絵美子、塩谷　純（以上、企画情報部）、青木　茂（客員研究員）

【年度実績概要】
本年度の事業実績は下記の２項である。
1　未公開資料の収集整理とデータ化にむけた調査研究。本年度は、下記の４件の調査研究を行うことができた。
（1）黒田清輝宛フランス語書簡の再調査をおこない、特に封筒等の情報を加味して、差出人、差出日時等の調査をすすめた。
（2）平成 18 年２月に黒田清輝夫人の御遺族から寄贈を受けた黒田清輝関係写真等の資料をデータ化し保存し、同時に平成１９年１０月に同氏より写真等の資料105 件の追加寄贈があり、これの整理と調査をすすめた。
（3）笹木繁男氏主宰現代美術資料センター寄贈資料のうち、作家別資料のデータ化をすすめた。
（4）平成２０年３月３日から８日まで、海外の文化財アーカイブ調査のためロバート・ウィット・ライブラリー（ロンドン）等において調査し、担当者との協議を行った。

2　資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開を進める。
（1）平成 18 年度に刊行した『黒田清輝著述集』の一部をＰＤＦ版によりホームページ上で公開することができた。黒田宛フランス語書簡については、翻刻と和訳作業をすすめることができた。（2）黒田清輝関係写真等 208 件を整理し、黒田記念館において特集陳列「写された黒田清輝」として公開し、あわせて追加資料のデータ目録化をすすめた。（3）作家別資料についてはファイリング作業を継続し、あわせて保存公開のための基礎データ 4,071 件を入力することができた。また、中期計画にあげた報告書『昭和期美術展覧会の研究』（平成２０年度刊行）のために、当研究所において昨年度につづき平成 19 年 5 月 17 日に研究協議会を開催し、後に国内諸機関の研究者 28 名に執筆依頼した。平成 19 年 12 月 27 日には研究会を開催した。発表者、及び発表題名は下記のとおりである。①喜夛孝臣（早稲田大学會津八一記念博物館）「矢部友衛とプロレタリア美術運動」、②足立　元（東京芸術大学大学院）「翼賛漫画の系譜」、③敷田弘子（東京芸術大学大学美術館）「新しい生活をつくる―合理的であること、最小限であること」

【実績値】
研究会等発表　３件（①～③）
論文数　　３件（④～⑥）

【備考】
①田中淳　アジアのモダニズムの一側面―「仁丹」広告が伝えること　第 60 回美術史学会全国大会　九州大学　07.5.25
②田中淳　黒田清輝の生涯と芸術－画家がいる『場所』から　東京国立博物館　07. 11. 10
③田中淳「日展１００年」を見るために－「洋画」の変遷を中心に　広島県立美術館　08. 2. 24
④田中淳「展覧会評　昭和前期をめぐる三人の画家たち」　『美術研究』393 号、08.1　pp.61-78
⑤山梨絵美子「日本近代絵画にみる農耕主題とその背景」　『田園讃歌』展図録　埼玉県立近代美術館等　07.10　pp.144-149
⑥塩谷純「川端玉章の研究（一）」　『美術研究』392 号、07.9　pp.43-66

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２００４

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	研究会発表数	論文掲載数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	未公開資料の収集調査とデータ化については、黒田清輝宛フランス語書簡、寄贈資料である黒田清輝関係写真、現代美術資料の調査とデータ化を進めることができ、ことに黒田関係写真の一部については、展示公開することができた。 また、中期計画にあげた報告書『昭和期美術展覧会の研究』については、研究協議会を開催して、構成内容を決め、各諸機関の専門家に執筆依頼をすることができ、研究会を開催して一部の執筆者の研究発表と討議を行うことができた。これをもとに、次年度の報告書刊行にむけて、準備を整えることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	全般的に中期計画のとおり実施しており、順調に進捗していると判断した。

【書式B】
（様式1）

№. ２００５

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（1）②iii）	我が国の有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。 iii 美術や文化財に対する理解を深めるための美術の創作のプロセスの解明

【事業名称】	美術の技法・材料に関する広領域的研究（Ⅰ４（1）②ウ）

【事業概要】
この研究では、文化財にかかわる諸分野との提携によって、美術作品の多角的研究を目指す。具体的には美術作品が基盤としている材料や用いられた技法、制作の過程・作品の成り立ち、生成されてから今日にまでそれがどのように受容され、あるいは伝来してきたか等を、関係の文献史料や、あるいは直接、作品に対しての科学的・光学的手法（X線透過撮影、蛍光X線非破壊分析、赤外線撮影など）による分析をも援用しながら解明し、美術作品を考究していくことを目的としている。

【担当部課】	企画情報部	【事業責任者】	広領域研究室長 津田徹英

【スタッフ】
中野照男、田中淳、塩谷純、綿田稔、山梨絵美子、勝木言一郎、皿井舞、江村知子（以上、企画情報部）

【年度実績概要】
本年度の実績は以下の通りである。

（1）作品・関係資料の調査・研究：本年度は以下の作品・関係資料の調査を行った。
ア）安城市歴史博物館一時寄託『親鸞聖人絵傳』巻子本断簡の調査
イ）東京・個人蔵菩薩立像(脱活乾漆造、天平時代)の調査ならびにX線透過撮影
ウ）東京・高円寺蔵 阿弥陀如来坐像(木造 江戸時代)の調査
エ）奈良文化財研究所架蔵貴重書『十六羅漢記』(中世写本。「久寿二年丈六金色阿弥陀仏像支度注文案」「同年丈六像座飾支度殊」「仏の法量」を収録する)の原本閲覧調査
オ）アメリカ・サンスランシスコ東洋美術館蔵梵天・帝釈天像(脱活乾漆造、天平時代)の調査ならびに関係資料の閲覧

（2）彩色関係データ（語彙・史料編）の集積とホームページによる公開
美術工芸品の彩色を考えてゆくうえで、史料にあらわれた関係語彙とその使用例を総覧することを目的に彩色関係資料データベース（語彙・史料編）のデータ集積を行った。集積に際しては公刊史料（活字本）をもとに、その中から彩色関係の語彙の抽出につとめ、分類し、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙データベースをホームページにおいて公開するとともに、逐次、更新し精度を上げることに努めた。

【実績値】
彩色関係資料データベース 入力件数 2,100 件
論文掲載数 ２件 (① ②)
発表件数 ２件 (③ ④)

【備考】
①Tetsuei Tsuda “Nondestructive Investigation of the Polychromy of Japanese Sculptures (Yasuhiro Hayakawa, Tetsuei Tsuda, and Sadatoshi Miura)”, *Scientific Research on the Sculptural Arts of Asia: Procedings of Third Forbes Symposium at the Freer Gallery of Art*, pp159-164 07.7
②津田徹英「X線透過撮影による仏像の調査」『文化財と科学技術―東京文化財研究所のしごと(日本の美術492)』至文堂 pp.45-47 07.4
③津田徹英「近江の仏像 五大明王」大津市歴史博物館 07.12.1
④津田徹英「平安末期の在地造像をめぐる小考」企画情報部研究会 東京文化財研究所 07.12.26

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２００５

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	論文掲載数	発表件数	データ集積数			
判定	A	A	A			
備考						

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	美術や文化財に対する理解を深めるための美術の創作のプロセスの解明を行うべく、実作例と史料の双方からアプローチを行っている。計画２年度としては十分な成果を得られたため、Ａと判断した

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	全般的に計画通りに進捗したと考える。次年度以降も一層の深化が期待でき、計画的に調査研究・史料収集・データ整理を継続したい。

【書式B】
（様式１）

№ ２００６

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）②ⅳ）	古都所在寺社所蔵の歴史資料・書跡資料等に関する原本調査を通じた日本の歴史、文化の研究。

【事業名称】	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究（Ⅰ４（１）②ｴ）

【事業概要】
古都に所在する寺社、特に南都の興福寺、東大寺、薬師寺、唐招提寺や、京都の高山寺、滋賀の石山寺など、世界文化遺産に登録されているような大寺社を主たる調査研究対象として、それら古寺社が所蔵している古文書、古記録、聖教、経巻、板木などの歴史資料や書跡資料を継続的に、かつ悉皆的に整理、写真撮影、調書作成などの調査を行い、現存資料の実態の究明、把握に努め、その調査成果を目録、データベース等の方法により公開し、重要資料については、翻刻を行い紹介する。また書跡資料の記載内容の分析から、各寺社伝来の文化財の歴史的性格と個別的特徴を研究し、日本の歴史、文化の研究に資する。調査にあたって撮影した写真は焼き付けを作成し、研究者などの研究に供する。
本研究は、以下の如き理念を持っている。日本の古都においては、記念工作物等、建造物、史跡等の文化遺産自身が、多くの歴史資料等を所蔵している。それらの資料を継続的・悉皆的に調査研究することは、文化遺産を総合的に調査研究するために、さらには、それが所在する古都、ひいては日本文化の歴史的特質を究明するために必須の作業である。そのため、着実に中断なく、精確に全容を把握する調査を意図している。したがって調査研究の方法は、その改良も試みているが、根本的には独創性などの新規な観点のみでなく、精確なデータの提供を意図している。

【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	主任研究員　吉川 聡

【スタッフ】
高瀬要一、渡辺晃宏、馬場 基、市 大樹、山本 崇、浅野啓介、古藤真平、綾村 宏（客員研究員）

【年度実績概要】
本年度は、興福寺・薬師寺・東大寺・唐招提寺・高山寺・氷室神社大宮家所蔵の書跡資料・歴史資料調査をおこなった。興福寺調査は、従来把握されていなかった函の調査を進め、かつ、調書を作成した函の目録刊行を準備中である。本年度は、東金堂文書函等の調書を作成した。東金堂文書函は、近代に東金堂の天井裏から発見された鎌倉時代から室町時代にかけての東金堂関係文書であり、極めて興味深い内容を有している。また、第 89 函 65 号の、文書が板に挟んである資料を『奈良文化財研究所紀要 2008』に報告した。写真撮影は、東金堂関係文書等をブローニー版で撮影し、第 89 函をマイクロフィルムで撮影している。薬師寺は、第 31 函～第 53 函の調書作成をおこなった。写真は第 24 函を撮影している。
東大寺は、東大寺図書館収蔵庫第４号室収蔵の新修東大寺文書聖教の調査を、科学研究費補助金も充当して実施した。主に中村準一寄贈文書を調査し、第 35 函・43 函・44 函・56 函・75 函・93 函・98 函の目録データをパソコンに入力し、一部写真撮影をおこなった。幕末の興福寺の動向が判明する日記などを見いだすことができた。唐招提寺所蔵資料については、惣倉所在の近代書類を調査し、かつ、唐招提寺弁天堂の弁才天板絵・墨書銘の調査・写真撮影をおこなった。
また、京都の高山寺の調査を実施し、第 309 函・310 函の調査目録を、高山寺典籍文書綜合調査団編『高山寺経蔵典籍文書目録』完結篇(汲古書院、2007 年)の一部として刊行した。さらに、氷室神社大宮家文書について、奈良市教育委員会との間で共同研究の協定書を締結し、共同研究として、未成巻文書の調書作成・写真撮影を行い、成巻文書 1 巻～10 巻のデータベースを作成・公開した。
奈文研所蔵の資料については、「関野貞日記」の翻刻作業を進めているところである。
その他、調査協力の依頼を受けて、滋賀県石山寺聖教調査や、文化庁依頼の醍醐寺聖教調査などに協力した。また文部科学省科学研究費「カンボジアにおける中世遺跡と日本人町の研究」に協力し、カンボジアのアンコール・ワットに残る 17 世紀前期の日本人墨書銘を調査・報告した。

【実績値】
論文等数：３件(論文２件①②、発表件数１件③)
収集資料点数
興福寺：調書作成資料点数 256 点、写真撮影資料点数 397 点
薬師寺：調書作成資料点数 569 点、写真撮影資料点数 115 点
東大寺：調査及びデータ入力資料点数 1962 点、写真撮影資料点数 734 点
唐招提寺：調査及びデータ入力資料点数 92 点、写真撮影資料点数 3 点
大宮家文書：データ入力資料点数 208 点

【備考】
①吉川 聡「文書の挟み板」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6
②吉川 聡「日本人墨書の研究」『カンボジアにおける中世遺跡と日本人町の研究』文部科学省科学研究費補助金成果報告書 2008.3
③吉川 聡「中世の奈良と大乗院」文化講演会「大乗院文化サロン」2007.11
「大宮家文書データベース」（奈良文化財研究所ホームページ上で公開開始）

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２００６

1．定性的評価

観点	正確性	適時性	継続性	発展性		
判定	A	A	A	A		

備考　正確性：調査における作成調書・データベースの内容
適時性：現在本調査をおこなう意義
継続性：本調査研究を書跡資料所蔵機関との協力により、持続的、悉皆的におこなっている意義
発展性：調査研究の成果が、所蔵者、研究者やその他の人々に取り役に立つかの視点

2．定量的評価

観点	調査対象箇所数	論文等数	発表件数	データ入力件数		
判定	A	A	A	A		

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	興福寺、東大寺、唐招提寺、薬師寺の調査は計画通り実施した。高山寺も調査を実施し、その成果を公表することができた。また氷室神社大宮家文書も、奈良市教育委員会と共同研究の形で調査を実施することができ、大宮家文書データベースの一部を公開することができた。以上の進捗状況を総合的に判定してＡとした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、堅調に実現できたと考える。氷室神社大宮家文書を奈良市教育委員会との共同調査の形で実施したが、今年度はまだ緒に就いたばかりで、今後も共同研究を推進する必要があるだろう。他の寺社の調査研究は、今後もこのペースで進める必要がある。成果の公表についても、目録等を積極的に刊行していく必要があるだろう。

【書式B】
（様式1）

№. ２００７

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（1）②v）	歴史的建造物の保存・修復・活用に関し重点物件に係る調査・研究を通じた基礎データの収集整理・公開

【事業名称】	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究（Ⅰ４（1）②オ）

【事業概要】
わが国の文化財建造物の保存・修復・活用に向けた歴史的建造物、伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する基礎データを蓄積し、分析・研究を行うとともに、古代建築の今後の保存と復原に資するため、古代建築の諸構法についての再検証を行い、得られた成果を整理するとともに、一般公開を図る。

【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	建造物研究室長　窪寺茂

【スタッフ】
島田敏男、箱崎和久、清水重敦、黒坂貴裕、金井健、西田紀子、大林潤、粟野隆、番光、崔ゴウン（日韓文化交流基金フェロー）、村田健一（文化庁）、田中泉・金子隆之・山田　宏・山下秀樹（以上、奈良県教育委員会）、春日井道彦・加藤雅大（以上、文化財建造物保存技術協会）、木村勉（長岡造形大学）、黒田龍二（神戸大学）、清水真一（東京文化財研究所）、田中淡・福田美穂・山岸常人（以上、京都大学）、冨島義幸（滋賀県立大学）、鳴海祥博（和歌山県文化財センター）、藤井恵介（東京大学）、藤田盟児（広島国際大学）、渡邊晶（竹中大工道具館）

【年度実績概要】
研究所が保管する建造物の基礎データとして、過去の建造物修理時に撮影された約3万枚の建造物写真乾板と、重要文化財の建造物修理時に作成された現状変更説明資料がある。これらは文化財建造物の保存修理を推し進めるうえで有効性の高い一次資料であり、この事業では、これらを公表する作業（デジタルデータ化及びデータ化）を近年継続している。写真乾板についてはデジタル化し、現状変更説明については 1965 年～1967 年分と 1968 年～1970 年分とに分けて資料をデータ化し、それぞれ本文編と図版編とに分けた出版物を刊行した。

古代建築の技術に関する研究では、昨年度に引き続き、日韓古代寺院建築の発掘遺構資料を可能な限り収集し、発掘遺構と上部構造の関係の再考を進め、研究成果を 2008 年 3 月 21 日に開催した第2回研究集会で発表したうえ、研究協力者との間で討議をおこなった。また、現在工事中の平城宮第一次大極殿正殿復原施工に関する技術面での援助・助言をおこなうとともに、扁額意匠設計に向けた研究をおこなった。

伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する研究では、まず、現在文化財として未指定物件である出雲大社境外諸社殿について、昨年度に引き続き 10 棟の調査をおこない、全 12 棟の調査（調書作成・実測・写真撮影）を完了させたほか、文献調査などにより出雲大社における造営遷宮の実際とそのあり方についての分析をおこなった。この調査成果としての報告書は 2008 年度の刊行を予定している。また、受託事業として高知県中芸地区森林鉄道遺構調査をおこない、260 件にのぼる物件調査を実施し、成果を報告書に取り纏め刊行した。また、京都府近代和風建築総合調査も受託事業として実施し、今年度分として選定した 153 件の各種建築の現地調査等をおこない、平成 20 年 3 月 24 日開催の同調査委員会において一年間の成果を報告した。これらの受託業務については別紙参照（№7-1、7-2）。

このほか、海外関係事業では、カンボジア・西トップ寺院遺跡の現地調査に参加し、アフガニスタン・バーミヤーン寺院遺跡石窟調査では、成果を報告書として取り纏めた（報告書刊行・東文研担当）。また、昨年度刊行したベトナム・ドゥオンラム村集落調査報告書の英語版を刊行するための英訳作業のほか、日中韓文化財研究所でおこなおうとしている建築遺産に関する共同研究に向けた準備会議を北京・奈良において実施した。

【実績値】
論文等数 11 件（公刊図書 5 件①～⑤、論文等 7 件⑥～⑭）　学会等発表件数 2 件（⑬～⑭）
保管建造物関係資料整理：写真乾板デジタル化 1121 枚、現状変更資料入力 1965～1970 年分
古代建築研究資料収集（図面・写真等画像）：国内資料 90 点、韓国資料 200 点、中国資料 6 点　扁額資料収集：53 件
研究会等開催件数 3 件：日中韓文化財研究所共同研究準備会議 2007.9.3～9.6、扁額復原所内検討会 2007.11.1、古代建築の技術に関する研究集会 2008.3.21
保管建造物資料の外部者利用数：乾板写真 4 件 31 枚、建造物保存図 3 件 42 枚

【備考】
①中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会『高知県中芸地区森林鉄道遺産調査報告書』2008.3 ②奈良文化財研究所『重要文化財建造物現状変更説明 1968～1970（本文編）』2007.8 ③奈良文化財研究所『重要文化財建造物現状変更説明 1968～1970（図版編）』2007.8 ④奈良文化財研究所『重要文化財建造物現状変更説明 1965～1967（本文編）』2008.2 ⑤奈良文化財研究所『重要文化財建造物現状変更説明 1965～1967（図版編）』2008.2 ⑥山下ほか3名「扁額の意匠と構造－平城宮第一次大極殿正殿扁額の復原考察－」 ⑦清水重敦ほか2名「古代寺院建築における特異な基壇・平面とその構造」 ⑧窪寺茂「日中韓文化財研究所による建築遺産に関する共同研究の動向」 ⑨大林潤「境外社の造替と建築形式－出雲大社境外社の調査より－」 ⑩島田敏男「西トップ寺院の建築調査」 ⑪西田紀子「高知県中芸地区の森林鉄道遺産」（⑥～⑪『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6 ⑫清水重敦ほか1名「出土部材から見た山田寺建築」『奇偉荘厳　山田寺』飛鳥資料館 2007.10 ⑬清水重敦「山田寺金堂復元案批判」『日本建築学会大会学術講演梗概集』2007.9⑭窪寺茂ほか1名「バーミヤーン石窟寺院遺構の保存に向けた調査報告（2）」『日本建築学会大会学術講演梗概集』2007.9

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２００７

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A

備考
適時性、効率性、正確性は受託調査・保管資料のデータ化に関するもの、独創性、発展性は古代建築の技術に関する研究に関するもの、継続性は保管資料のデータ化に関するものを主な対象とした観点

2．定量的評価

観点	調査対象箇所数	資料収集数	論文等発表数			
判定	A	A	A			

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	古代建築の技術に関する研究などでの資料収集数やそのデータ化、受託調査における調査対象件数・棟数など、定量的側面の成果が十分達成できたと同時に、今年度における調査研究成果を十分に上げることができた。この今年度の業務達成度は、次年度計画の進展を図るうえでも大きいと考える。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業のうち、古代建築の技術の研究では、従来の研究視点とは異なる内容で行っており、古代建築研究に関する新たな研究手法、方向性を提示しつつあると考える。研究所保管資料の公開に向けた年度計画の進捗も順調に進んでおり、外部利用者の便宜を図ることができつつあると考える。また、受託事業は設定された計画と期待された調査水準を実現しており、歴史的建造物の保存・修復・活用に向けた働きかけができていると考える。今後もこのペースを維持し、次年度計画の達成に向けた努力を行いたい。

【書式B】
（様式1）

№. ２００８

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ４（１）③）	我が国の古典芸能及び伝統的工芸技術等の無形文化財の伝承実態を把握するとともに、その伝承・公開の基礎となる技法・技術を明らかにする。

【事業名称】	無形文化財の保存・活用に関する調査研究（Ⅰ４（１）③）

【事業概要】
わが国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成をおこなう。
また、無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、アジア地域を中心とした諸外国の関係機関との具体的交流を推進するための協議を行う。

【担当部課】	無形文化遺産部	【事業責任者】	部長　宮田繁幸

【スタッフ】
鎌倉惠子、高桑いづみ、飯島満、俵木悟（以上無形文化遺産部）、福岡裕子、森下愛子（以上、客員研究員）

【年度実績概要】
文化財保護委員会が作成した音声資料の調査を行い、上方寄席囃子の林屋トミの記録について、第２回無形文化遺産部公開学術講座で発表した。また、部所蔵のSPレコードを公開鑑賞する会を開催した。
東京都在住の個人が所有する鼓胴について調査を行い、その成果を『鍼仙』に発表した。また、八代藩旧蔵、長州藩旧蔵、愛媛県村上水軍博物館所収などの龍笛・能管について調査を行った。村上水軍博物館所有の能管についてはX線撮影もおこなった結果、龍笛と能管の中間的な形状をしていることが判明した。
奈良県生駒市宝山寺、及び財団法人観世文庫が所蔵する世阿弥自筆能本について調査を行い、世阿弥の作曲法、記譜法について考察をした。成果は『無形文化遺産研究報告』で公表した。
無形文化遺産部所蔵の音声資料、昭和期の歌舞伎写真を整理し、所蔵一覧等を『無形文化遺産研究報告』に概説した。また、長く雑誌『演劇界』のグラビアを担当していた写真家梅村豊氏(1923－2007)撮影の写真およびネガの寄贈を受け、その整理を開始した。
人形浄瑠璃文楽技芸員重要無形文化財保持者吉田簔助氏、人形浄瑠璃文楽囃子方望月太明藏社中藤舎秀左久氏、同社中望月太明吉氏から聞取り調査をおこない、『無形文化遺産研究報告』で公表した。
工芸技術に関しては、葛布製造の現状、民平焼の「土型」について調査研究を行い、それぞれ『無形文化遺産研究報告』で公表した。
近年の伝承に変化が著しい宝生流と喜多流の謡曲、及び連続口演の機会が激減している講談について、昨年度にひきつづき、実演記録作成を行った。
また無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、中国成都市で行われた無形文化遺産保護条約臨時政府間会合に出席し、情報収集を実施した。

【実績値】
論文等掲載数　3件（1～3）
発表件数　3件　（4～6）

＜参考指標＞
記録作成数　39 件（謡曲 29　講談 10）
公開講座の開催　1件　SP レコード鑑賞会の開催　1件

【備考】
1高桑いづみ「『過渡期の鼓胴その後』再び」　『鍼仙』560号　pp.6-7　07.9
2高桑いづみ「世阿弥自筆本の節付を考える一「難波梅」から「盛久」「江口」まで」『無形文化遺産研究報告』2　pp.265-286　08.3
3鎌倉惠子「〔聞書き〕〔聞書き〕人形浄瑠璃文楽の裏方―囃子の世界を中心に―　吉田簔助師　藤舎秀左久師　望月太明吉氏に聞く」　『無形文化遺産研究報告』2　pp. 194-212　08.3
4高桑いづみ「安国寺納入品・龍笛の歴史的位置づけ」　公開講演会　鞆の浦歴史民俗資料館　07.6.23
5飯島満「文楽―音の記録―」　藝能史研究会第 31 回東京例会　国立能楽堂大講義室　07.12.1
6飯島満「無形文化財『上方寄席下座音楽』の位置」　第２回無形文化遺産部公開学術講座　大阪文楽劇場小ホール　07.12.12

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２００８

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	論文等数	発表数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	プロジェクト２年目で、文化財保護委員会作成資料の調査、選定保存技術の調査を継続し、新たに管楽器の調査に着手した。このうち文化財保護委員会に関しては調査結果の一部を公開学術講座で公表した。いずれも他の機関が行っていない調査で独創性が強く、楽器を所蔵する博物館に貢献するなど公共性も高い。今後も、この調査を継続する予定である。以上の観点を総合してＡと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究は、その進捗度、内容において順調に実施できた。

【書式B】
（様式１）

№. ２００９

業務実績書

中期計画の項目（Ｉ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	平城宮跡　東院地区（第４２１次）の発掘調査（Ｉ４（１）⑤ア）

【事業概要】
平城宮跡東院地区で実施した本調査は、東院地区中枢部の遺構配置やその変遷といった実態を解明する目的で実施した。平成 18 年度からはじまった５カ年計画の第２年度目にあたる。

【担当部課】	都城発掘調査部　平城地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二

【スタッフ】
小池伸彦、深澤芳樹、島田敏男、城倉正祥、森川 実、林 正憲、馬場 基、山本 崇、金井 健、牛嶋 茂、中村一郎、鎌倉 綾（以上、奈良文化財研究所）、杉本和樹（西大寺フォト）

【年度実績概要】
平城第 401 次調査（平成 18 年度）の成果をうけ、調査対象地は、復原公開されている東院庭園の北西、東院南門（推定建部門）の北方とし、調査区は、旧調査区に東接する国有地内に、昨年の調査区と一部重複させて設定した。

調査面積は 1560 ㎡。調査期間は、平成 18 年 4 月 2 日から 10 月 10 日まで。調査成果の概要は、紀要および現地説明会、速報展示などで公表した。第 421 次調査では、奈良時代に属する少なくとも５時期の遺構を検出した。

Ⅰ期（奈良時代前半）に属する主な遺構は、南北塀 SA19055 と、それにとりつく門 SB19056 であり、18 年度調査で推定した東院西半区画の東限を、ほぼ推定通り確認した。　奈良時代半ば以降、東院は、東西を二分せず全体を広く区画して用いられ、建物も大規模になる傾向が認められる。Ⅱ期に属する遺構は、調査区南端で検出した、桁行 11 間梁行１間以上の掘立柱東西棟建物 SB19040、桁行９間以上梁行２間の南北棟建物 SB19035、東西３間南北３間の総柱建物 SB19043 である。Ⅲ期（奈良時代半ば～後半）に属する遺構は、桁行９間梁行４間で四面庇をもつ掘立柱東西棟建物 SB19080 が注目され、その柱穴は、１辺 1.5m～２m深さ約 1.5m と宮内でも屈指の大規模なものであった。

続くⅣ期・Ⅴ期の遺構は、東院区画を考える上で重要な成果をもたらした。Ⅳ期（奈良時代後半）の遺構として、東院中枢部を囲む回廊 SC19050 の西南隅を検出した。回廊は、既調査区の成果とあわせ、東西・南北とも 27m分検出しており、さらに調査区外へ続く。Ⅴ期（奈良時代末期）の主要な遺構は、桁行９間梁行３間分検出した北庇をもつ掘立柱東西棟建物 SB19090 である。建物の中軸が東院南門の東西方向の中軸線上に位置し、かつ門の北およそ 500 尺に位置するなど、東院の建物群の計画的な配置の様が窺われる。

以上、本調査の成果は、東院の区画変遷をほぼ解明したことといえる。変遷の概要は、西半部に官衙的な建物を配する段階（奈良時代前半）から、東院全体を広く区画する段階へ（奈良時代半ば以降）と概括され、奈良時代末期には、東院南門の中軸線を意識する、より計画的に配置された建物群が出現する。なお、単廊 SC19050 の検出は特筆される成果といえ、東院の中枢部を本調査区北東に推定する説は、これによりさらに確実になった。

【実績値】
論文等件数６件（論文１件①、解説３件②③④、その他２件⑤⑦）
発表件数３件（記者発表１回②、現地説明会１回③、速報展示１回⑥）
出土品　軒瓦 43 点、道具瓦２点、丸瓦・平瓦・磚類 5059 点 379.88 kg、凝灰岩 51 点 55.36 kg、土器整理用コンテナ 12 箱
記録作成数　実測図等 66 枚、写真（４×５）113 枚

【備考】
①金井健・山本崇・森川実・林正憲ほか「東院地区中枢部の調査－平城第 421 次・423 次」『奈良文化財研究所紀要 2008』（予定）
②奈良文化財研究所「東院地区中枢部の調査―平城第 421 次―」記者発表資料、2007. 8
③奈良文化財研究所「東院地区中枢部の調査―平城第 421 次現地説明会資料―」2007. 9
④奈良文化財研究所「平城宮跡東院地区中枢部の調査　平城第 421 次調査」現地説明会資料添付図版（A4 カラーリーフレット）、2007. 9
⑤金井健「平城宮東院地区の調査（平城第 421 次）」『奈文研ニュース』No. 26、2007. 9
⑥速報展示「平城宮跡東院地区中枢部の調査（平城第 421 次調査）」2007. 11. 13～12. 16、平城宮跡資料館
⑦山本崇「平城宮跡東院地区中枢部の調査（平城第 421 次調査）『奈文研ニュース』No. 27、2007. 12

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２００９

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：発掘調査成果の公開を現地説明会、速報展示等により行った
発展性：新たな調査成果をうけ、平城宮および東院成立過程を考究する基礎データを提示できた
継続性：５カ年計画の中で継続的に調査を行い、調査面積の蓄積のみならず、より集約的効率的な成果の検討を行った
正確性：検出遺構・出土資料の正確な検討、資料化による貢献を行った

2．定量的評価

観点	発掘調査箇所数	論文数				
判定	A	A				

備考
発掘調査箇所数：年度計画に従い調査を行った

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査によって東院地区西部の遺構変遷を総括でき、また調査成果を現地説明会および紀要で公開できたので、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画に従い発掘調査が行われ、着実に成果をあげてきている。

【書式B】
（様式１）

№.　２０１０

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	平城宮跡　東院地区（第４２３次）の発掘調査（Ⅰ４（１）⑤ア）

【事業概要】
本調査は平城宮跡東院地区中枢部において平城第４２１次調査に続く調査で、平城宮東院中枢部の遺構配置やその変遷などの実体解明を目的に発掘調査を行った。

【担当部課】	都城発掘調査部　平城地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二

【スタッフ】
西口壽生、粟野隆、和田一之輔、石村智、浅野啓介、牛島茂、杉本和樹、中村一郎

【年度実績概要】
調査区は、第 401 次調査区の北側で、かつ第 381 次調査区の東側で、東西 30m、南北 45mの調査区を設定した。調査面積は 1379 ㎡（このうち未発掘区は 1025 ㎡）である。調査は平成 19 年の９月 25 日から開始して、平成 20 年の３月３日に終了した。現地説明会を１月 19 日に実施した。

掘立柱建物１３棟、石組溝８条、礫敷などを検出した。遺構は建物の柱穴の重複関係、及び石組溝・礫敷と建物の柱穴の重複関係などから、大きく５時期にわけられる。それぞれの時期において、場所を違えて大規模な建物が造り替えられている。とりわけ重要な点は、奈良時代後半の短い期間に前代の建物をほぼ全面的に改作している点である。また、大規模な総柱建物や石組溝が多いという特徴は、建物外を礫敷で舗装することとあわせて、内裏をはじめとした宮殿の様相に類似している。今後の調査において、建物配置だけでなく、舗装や排水施設など生活空間全般を検討する上での足がかりを得たこととなる。また、Ⅴ期の建物の抜取穴から地覆石が出土していることは当該期ころに基壇建物があったことを示唆する。

さらに、Ⅱ期の建物 SB19100・19101 及びⅤ期の建物 SB19116 が東に続く可能性があることから、各時期にわたって本調査区の一段高い東側に東院地区中枢部の主要施設があることが推定できる。特にⅢ期の回廊 SC19112・19113 が区画の北西部を形成し東に続くということは、まさに東院中枢部の北西隅をとらえたといえるであろう。 現地説明会には８００人が来場した。

【実績値】
論文等数４件（論文１件③、解説等３件①②④）
発表件数２件（記者発表１回、現地説明会１回）
出土品　土器コンテナ４０箱、瓦５８４kg、磚２８kg（緑釉を含む）、凝灰岩５７kg、柱根１点、緡銭１点
記録作成数　７１枚、写真（４×５）８５枚

【備考】
①平城宮跡東院地区中枢部（平城第 423 次）の調査　記者発表資料　2008・１
②平城宮跡東院地区中枢部（平城第 423 次）の調査　現地説明会資料　2008・１
③西口壽生・粟野隆・和田一之輔・浅野啓介「東院地区中枢部の調査　平城第 423 次」『奈良文化財研究所紀要 2008』（予定）
④平城宮跡東院地区中枢部の調査（平城第４２３次調査）『奈文研ニュース』（予定）

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０１０

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：東院中枢部の区画が確認できた
発展性：石組溝・礫敷・土坑など生活空間全般を考える足がかりができた
継続性：既調査区との関係を明確にできた

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東院地区中枢部の建物変遷や生活空間にかかわる基礎的資料を得ることができた。また、調査成果を一般に公開することもできたので、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通り行われており、目的を順調に達成した。

【書式B】
（様式1）

№. ２０１１

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	平城宮跡　東方官衙地区（第４２９次）の発掘調査（Ⅰ４（１）⑤ア）

【事業概要】
本調査は、平城宮跡中枢部の１つ東区朝堂院地区と東院地区の間に位置する東方官衙地区において、遺構の広がり、区画単位の解明及び遺構深度などの実態を解明する目的で実施した。昨年度からはじまったこの地区における調査の第２回目である。

【担当部課】	都城発掘調査部　平城地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二

【スタッフ】
渡辺晃宏、今井晃樹、大林潤、城倉正祥、加藤雅士、石村智、中村一郎

【年度実績概要】
昨年度の調査区の南側を調査対象とし、南北 96m、東西 129m、調査面積 1314 ㎡の調査区を設定した。調査は平成 20 年１月１１日より開始した。
昨年度に実施した第 406 次調査では基幹排水路 SD2700 をはさんで東西にならぶ２つの官衙区画を確認した。このうち東側で発見された区画は東西 51m、南北 120m 以上の規模をもつ築地塀の囲いがあり、その中に基壇をもつ礎石建物が配置されていることをあきらかにした。東側の区画の東側には南北にとおる基幹排水路 SD3410 も検出した。さらに西側にも官衙区画が存在し、南北棟の礎石建物が検出された。
本調査区は 406 次調査の成果をふまえ、官衙がさらに南方へどのように展開するかを解明することを目的とした。
406 次調査で検出した２本の基幹排水路 SD2700、 SD3410 は本調査区内に南行することがあきらかになった。ただし、本調査区の南端で従来知られていない東西方向の溝が確認され、地形から考えて SD2700 は本調査区の南端あたりで東折し、SD3410 に合流すると考えられる。
この SD2700 をはさんで東西に２つの官衙区画を確認した。東区画では築地塀本体は残存しておらず、区画の正確な規模を解明することはできなかったが、東西両側の基幹排水路の存在と 406 次調査の成果から推算すると、区画の東西幅は 50mほどとなる。遺構の残存状況がわるいため、区画の南北規模は不明である。区画内には掘立柱建物が数棟検出され、全体として何度かの建て替えがあったことをあきらかにした。
SD2700 の西側では築地塀の存在を示す雨落溝を検出し、区画の東西幅がおよそ 51m であることがわかった。区画内には総柱の礎石建物が２基確認され、いずれも東西５間、南北２間以上の東西棟建物である。建物の構造から高床式の倉庫であったと推測できる。
東西２つの区画は規模がほぼ近似するものの、区画内の建物の様相がことなっており、機能がことなると予想される。２つの官衙の機能や役所名の特定は今後の調査研究をまって判断したい。
また、SD2700 が南へ続かず調査区南端で東折することは、この東西溝の南側に朝堂院東門から東にのびる宮内通路の存在を示唆する。
以上の成果は、東方官衙地区における官衙の配置や規模を把握するだけでなく、東方官衙全体の構造を解明するうえでも重要な資料となる。

【実績値】
論文等数３件（論文１件①、解説等２件②③）
発表件数２件（記者発表１回、現地説明回１回）
出土品　土器 58 箱　軒丸瓦 59 点　軒平瓦 42 点　鬼瓦８点　木製品 33 箱　金属製品５点
実測図 60 枚　写真（４×５）80 枚

【備考】
①渡辺晃宏、今井晃樹、大林潤、城倉正祥、加藤雅士、石村智、中村一郎「平城第 429 次　東方官衙地区の調査」『奈良文化財研究所紀要 2008』（予定）
②奈良文化財研究所「平城第 429 次　東方官衙地区の調査　記者発表資料」2008.3
③奈良文化財研究所「平城第 429 次　東方官衙地区の調査　現地説明会資料」2008.3

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０１１

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：東方官衙の配置・規模を確認し、調査成果を即座に公開した
発展性：来年度にこの南で調査を予定しており、本調査成果を発展させることができる
継続性：周辺地域での調査成果を総合する
正確性：充実した測量機器と出土遺物の専門的研究に支援された調査を実施した

2．定量的評価

観点	論文等	発表件数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東方官衙地区における官衙配置や規模のほかに通路の存在を示唆する遺構の検出により、東方官衙全体の構造を解明する資料を得ることができた。また、その成果も一般に公開する役割も充分に果たしたとみて、A とした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は当初の計画どおり実施することができた。また、次回の調査に必要な資料の提示とともに、今後解明すべきあらたな課題をも明確にすることができた。中期計画の目標は充分に達成している。

【書式B】
（様式1）

№. ２０１２

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	旧大乗院庭園（第４２４次）の発掘調査（Ⅰ４（１）⑤ア）

【事業概要】
奈良文化財研究所では、(財) 日本ナショナルトラストからの委託を受け、復元整備の基礎データを得るため、平成 7 年度より継続的に旧大乗院庭園の発掘調査を行ってきた。本調査は、その成果に基づく西小池復原整備工事に伴う補足調査である。
発掘は西小池南西の旧建物基礎内部（西調査区）及び、西小池の南池東岸部分（東調査区）の 2 箇所である。調査期間は 2007 年 9 月 10 日から 9 月 19 日まで、調査面積は 27.8 ㎡である。

【担当部課】	都城発掘調査部　平城地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二

【スタッフ】
城倉正祥、島田敏男、牛島茂、中村一郎

【年度実績概要】
西調査区は 390 次調査で検出した鎌倉～室町時代のＳＢ8983 の西側の続きを確認することを主目的として調査したが、近代に標高 89.5m まで大きく削平されていた事が判明、顕著な遺構は検出できなかった。
東調査区は、310 次・352 次調査の土層観察用畔部分だが、西小池南側が大池方向と池尻方向の二股に分かれる岬に位置するため、汀線と護岸状況の確認を目的として調査した。基本層序は、上から表土、現代盛土、近代客土、堆積土、護岸時の盛土となっている。堆積土の上面で土坑を検出、土坑からは近世前半の軒平瓦が出土した。
堆積土を除去すると、調査区のほぼ中央で護岸の基底石を確認し、汀線を確定できた。護岸は、径約 20～30ｃｍ大の礫を積み上げているが、大型礫の下には小礫が大量に確認でき、裏込めをしながら比較的急傾斜で礫を積み上げた事がわかる。一方、池底には、径 5～10ｃｍほどの小礫を敷いているが、敷石面は基底石から 1.5m ほど続いたところで途切れ、そこから急激に池底に向って深くなっている。
今回の調査では、西小池南西の旧建物基礎内が近代に大きく削平されていた状況、及び西小池東岸の汀線と護岸状況を確認した。昨年度までの調査成果と合わせることで、西小池の全体像が明らかになった。

【実績値】
発表件数１件（論文①）
出土品　土器類１箱　軒平瓦２点　丸瓦８点　平瓦 121 点　鉄板１点　鉄パイプテント支脚１点　竜一銭銅貨１点　貝１点　蓋板１点
記録作成数　遺構実測図３枚　写真 31 枚（4×5）

【備考】
論文　①城倉正祥「旧大乗院庭園（424 次）の調査」『奈良文化財研究所紀要 2008』（予定）

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０１２

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：復原整備のための基礎データの取得
継続性：13 年にわたる発掘調査成果の蓄積
正確性：西小池の汀線及び護岸状況に関する知見

2．定量的評価

観点	論文等数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	現在進められている旧大乗院庭園西小池部分の復原整備事業のための補足調査により、西小池の汀線及び護岸状況に関する基礎データを得ることができた。これまでの発掘調査成果も踏まえた上で、いかにして考古学的な成果と庭園研究の成果を総合し、復原整備を進めていくかが今後の課題といえる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	13 年にわたる継続的な調査によって旧大乗院庭園に関する膨大な考古学的成果を得ることができた。これらの成果を総括すべく、発掘調査報告書の刊行へ向けた作業が必要である。

【書式B】
（様式1）

№. ２０１３

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建築物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	藤原宮跡大極殿院南門発掘調査　（Ⅰ４（１）⑤ア）

【事業概要】
奈良県高市郡明日香村から橿原市にかけての「飛鳥・藤原」地域は、我が国古代国家成立期の歴史的な舞台であり、６世紀末から８世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心地であった。この地域の地下には、現在も宮殿や豪族の居館、寺院や墳墓など様々な遺跡が眠っている。本研究は、こうした遺跡の発掘調査を通じて、古代国家の具体的な歴史像を復元すべく、学際的な調査研究をおこなうものである。その成果は、遺跡発掘調査説明会や報告書類、展示室などで広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。
藤原宮跡は、我が国初の本格的都城をそなえた宮殿遺跡であり、平成 11 年度から中枢部の実態解明のための計画調査を実施している。

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長　巽淳一郎

【スタッフ】
箱崎和久、高田貫太、松村恵司、中川あや、丹羽崇史、長谷川透、玉田芳英、番　光、青木　敬、竹本 晃、井上直夫、岡田　愛

【年度実績概要】
藤原宮大極殿院南門は、1934～1943 年にかけて日本古文化研究所（以下、古文化研）による発掘調査が行われた。1940 年の調査では、東西に列をなす石材を 11 個確認し、それを基壇の北辺と判断、門基壇の規模を東西 100 尺程、南北 50 尺程と推定した。しかし、礎石などは確認されず、南門の具体的な構造も不明であった。今回の調査は、南門基壇の正確な規模やその築成方法、南門自体の規模や構造、大極殿院回廊との関係、儀式用施設の有無などを明らかにすることを目的とした。調査総面積は、1560 ㎡、調査期間は平成 19 年 4 月 1 日～11 月 12 日。
調査の成果として、まず大極殿南門基壇の規模を確定した。1940 年に古文化研が確認した基壇外装と判断される石材列を再検出し、石材が抜き取られた部分についても基壇外装の据付掘形や抜取溝を検出した結果、基壇の規模は、東西 39.1m×南北 14m となり、古文化研の調査で推定した南門基壇の規模よりも大きくなることが判明した。また、次のような南門基壇の築成方法を明らかにすることができた。① 藤原宮全域を大規模に整地する。② 南門の位置を決定し基壇の規模よりも一回り広く掘り込む。深さは少なくとも 1m 以上。③ 掘込の中に、橙色粘質土・灰色粘質土・黒褐色砂質土など性質の異なる土を交互に敷いて、版築工法で搗き固める(掘込地業)。さらに、地業上にその範囲よりも広く、整地土を敷いて搗き固める。④ 基壇部を築成し、礎石を据え、門の建物を築く。切石を用いて基壇外側を整え(基壇外装)、あわせて階段を設ける。⑤ 基壇外周に拳大の礫を敷く。藤原宮の建物において大規模な掘込地業を確認したのは、古文化研が大極殿で確認したのに続き 2 例目で、南門が入念に築成されていたことがうかがえ、天皇の儀式空間である大極殿院の真南に開く門としての重要性を示している。さらに、南面西回廊 1 間目の範囲において地鎮遺構を確認した。藤原宮期の整地土に土坑が掘り込まれ、その中に富本銭 9 枚、水晶原石 9 点をおさめた須恵器平瓶が埋納されていた。また、日本の都城、宮殿遺跡における最古の地鎮具である。
2007 年９月８日に現地説明会をおこない、1,030 人の見学者があった。

【実績値】
論文等数６件（論文１件①、その他４件②③④⑤⑥）
発表件数３件（現地説明会１回、報道発表２回）
出土品　軒瓦 116 点、丸平瓦(整理箱)280 箱、土器(整理箱)27 箱、木製品 5 点、金属製品 16 点、石製品 10 点
記録作成数　遺構実測図 71 枚、遺構写真(4×5)　74 枚

【備考】
① 高田貫太・青木敬・箱崎和久・豊島直博・松村恵司「大極殿院南門の調査－第 148 次」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6
② 奈良文化財研究所「飛鳥藤原第 148 次調査　記者発表資料」2007.9
③ 奈良文化財研究所「飛鳥藤原第 148 次調査　現地説明会資料」2007.9
④ 奈良文化財研究所「飛鳥藤原第 148 次調査記者発表資料　藤原宮大極殿院南門の調査－宮造営に関わる地鎮遺構を発見－」2007.11
⑤ 高田貫太「藤原宮大極殿院南門の調査－第 148 次調査」『奈文研ニュース』26、2007.9
⑥ 高田貫太「藤原宮大極殿院出土の地鎮具」『奈文研ニュース』28、2008.3

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０１３

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	独創性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考　適時性：藤原宮中枢部(大極殿院)の全体解明への寄与。
発展性：大極殿院の造営過程を復元するための手がかりを得た。
独創性：掘込地業など南門基壇の詳細な築成方法を明らかにした。並びに、藤原宮造営時の地鎮遺構を確認した。
継続性：計画調査の継続。

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査では、藤原宮大極殿院南門の全体像を明らかにするとともに、造営時の地鎮遺構を確認するなど注目すべき新たな知見を数多く得ることができた。また、調査成果の一般への公開も適切に行いえたので、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年初当初の計画通りに実施されており、かつ目的を順調に達成した。

【書式B】
（様式1）

№. ２０１４

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建築物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	石神遺跡（第20次）発掘調査（Ⅰ４（１）⑤ア）

【事業概要】
奈良県高市郡明日香村から橿原市にかけての「飛鳥・藤原」地域は、我が国古代国家成立期の歴史的な舞台であり、６世紀末から８世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心地であった。この地域の地下には、現在も宮殿や豪族の居館、寺院や墳墓など様々な遺跡が眠っている。本研究は、こうした遺跡の発掘調査を通じて、古代国家の具体的な歴史像を復元すべく、学際的な調査研究をおこなうものである。その成果は、遺跡発掘調査説明会や報告書類、展示室などで広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。
石神遺跡は、飛鳥の宮殿遺跡として重要な遺跡の一つであり、この遺跡の実態解明のため、昭和56年度より継続的に計画調査を実施している。今回は、第20次調査となる。

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長　巽淳一郎

【スタッフ】
黒坂貴裕、次山　淳、小田裕樹、関広尚世、丹羽崇史、井上直夫、岡田　愛

【年度実績概要】
石神遺跡は7世紀中頃には外交上の饗宴施設であったと考えられている。第14次調査までに、大規模な建物群をともなう石神遺跡の中心部分を発掘し、その北限施設と南北規模を明らかにした。この成果をふまえて、今回の調査では遺跡の範囲を明らかにすることを主な目的として、北限施設の延長を想定し、第14次調査区の東側について発掘調査を実施した。調査面積は484㎡。調査期間は平成19年10月1日ー平成20年2月14日である。
調査の結果、遺跡南限から全長200mを超えて延びる石組基幹水路の一部を確認し、14次調査区の北限施設の延長がこの基幹水路を越えて、新たに検出した南北方向の建物付近で止まることを明らかにした。この建物付近では同じく南北方向の時期を違える塀を2条確認した。これにより、石神遺跡中心部東限施設の有力な候補を見つけることができた。これまでに推定されている西限から本調査区の東限候補施設まで約130mである。また、今回の調査では、石組溝の接合部にコウヤマキを用いた木樋を組み込む遺構を確認し、また石組暗渠と石組溝の詳細な記録をおこなったことで、古代土木技術についての知見を深めた。
次年度以降は、今回の調査で得られた東限施設の延長と周辺の様相を明らかにすることで、石神遺跡の全体像を明らかにし、その範囲を確定することができるという見通しを得た。
平成19年12月15日に現地説明会を行い、867名が来場した。

【実績値】
論文等数4件（論文1件①、その他3件②③④）
発表件数3件（現地説明会1回、報道発表1回、講演1回⑤）
出土品　丸・平瓦 17㎏、土器（整理箱）40箱、金属製品、石製品、銭貨2点
記録作成数　遺構実測図36枚、遺構写真（4×5）28枚

【備考】
① 黒坂貴裕・関広尚世「石神遺跡の調査－第150次」『奈良文化財研究所紀要2008』2008.6
② 奈良文化財研究所「石神遺跡の調査－石神遺跡第20次調査記者発表資料」2007.12
③ 奈良文化財研究所「石神遺跡の調査－石神遺跡第20次調査現地説明会資料」2007.12
④ 黒坂貴裕「石神遺跡の調査（飛鳥藤原第150次）」『奈文研ニュース』27、2007.12
⑤ 黒坂貴裕「石神遺跡」飛鳥京観光協会 2008.2

（様式2）

自己点検評価調書

No. 2014

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考　適時性…学術的問題点と成果公開への取り組み
　　発展性…影響性、今後の調査への見通し
　　継続性…計画調査の継続
　　正確性…飛鳥の都市構造復元に関わる数値・データ

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査では、計画調査の目的である石神遺跡中心区画北辺および東辺の状況を明らかにするとともに、南北基幹水路の状況を確認することができた。また、調査成果の一般への公開も適切に行いえたので、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通り実施されており、課題であった石神遺跡東限施設の有力な候補を検出することで、次回の調査方針を固めることができ、石神遺跡全体像の解明に向けて、目的を順調に達成した。

【書式B】
（様式1）

№. ２０１５

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建築物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	甘樫丘東麓遺跡発掘調査　（Ⅰ４（１）⑤ア）

【事業概要】
奈良県高市郡明日香村から橿原市にかけての「飛鳥・藤原」地域は、我が国古代国家成立期の歴史的な舞台であり、６世紀末から８世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心地であった。この地域の地下には、現在も宮殿や豪族の居館、寺院や墳墓など様々な遺跡が眠っている。本研究は、こうした遺跡の発掘調査を通じて、古代国家の具体的な歴史像を復元すべく、学際的な調査研究をおこなうものである。その成果は、遺跡発掘調査説明会や報告書類、展示室などで広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。
甘樫丘は、『日本書紀』に飛鳥時代の豪族蘇我氏が邸宅を設けたという記述があり、甘樫丘東麓遺跡は、その関連遺跡としての重要性が高く、2007 年度より継続的に計画調査を実施している。

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長　巽淳一郎

【スタッフ】
関広尚世、豊島直博、次山　淳、黒坂貴裕、小田裕樹、市　大樹、番　光、石田由紀子、青木　敬、井上直夫、岡田　愛

【年度実績概要】
甘樫丘は飛鳥側の西に位置する丘陵で、東麓にはいくつかの谷地が入り込む。遺跡は谷地の一つで、2006 年度の造園修景に先立つ確認調査によって７世紀の建物群の存在が明らかになった。2007 年度には初めて面的な学術調査に着手し、石垣、掘立柱建物群、炉などを確認した。2008 年度の調査区は昨年度の調査区に隣接し、確認調査で検出した建物群の規模と年代、谷地奥側における遺跡の広がりを把握することが目的である。調査面積は 950 ㎡。調査期間は 2007 年 11 月 12 日～2008 年４月 28 日。
調査区内では、過去の試掘調査で確認したものも含めて、５棟の掘立柱建物を検出した。このうち２棟は７世紀中頃、残る３棟が７世紀後半のものである。また、隣接する昨年度の調査区で確認した総柱建物も７世紀中頃のものであることが確定した。年代の手がかりとなったのは調査区北東隅で確認した土坑で、７世紀中頃の土器が一括で出土している。土坑との重複関係から建物群の年代を限定することが可能となった。
７世紀中頃の建物は、倉庫と考えられる総柱建物と小規模な掘立柱建物である。つまり、今回の調査区内には居住空間が見あたらない。未発掘部分に居住空間が広がる可能性があり、今後は谷の入り口に近い部分の調査が重要性を増したといえよう。いっぽう、７世紀後半の建物群は区画塀に囲まれ、計画的に配置されている。その性格を解明することが新たな課題である。
建物群の時期が定まったことにより、この谷に蘇我氏の邸宅と関連する遺構の存在する可能性は高まったといえよう。居住空間の有無を含め、引き続き遺跡の全体像を明らかにするための調査が必要である。
2008 年３月 29 日に現地見学会を実施し、2,100 人の見学者があった。

【実績値】
論文等数４件（論文１件①、その他３件②③④）
発表件数２件（現地見学会１件、報道発表１件）
出土品　土器（整理箱）２０箱
記録作成数　遺構実測図８枚他

【備考】
①豊島直博「甘樫丘東麓遺跡の調査－第 151 次」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6
②奈良文化財研究所「甘樫丘東麓遺跡の調査（飛鳥藤原第 151 次調査）記者発表資料」2008.3
③奈良文化財研究所「甘樫丘東麓遺跡　飛鳥藤原第 151 次調査現地見学会資料」2008.3
④豊島直博「甘樫丘東麓遺跡の調査（飛鳥藤原第 151 次）」『奈文研ニュース』28、2008.3

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０１５

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：蘇我氏邸宅推定地の解明に向けた調査。
発展性：次年度以降の調査への見通しが得られた。
継続性：計画調査の継続による遺跡全容の解明。

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本調査では、計画調査の目的である甘樫丘東麓遺跡における土地利用と遺構の広がりについての知見を得るとともに、出土土器の分析から建物群の年代を推定する手がかりを得ることができた。また、調査成果の一般への公開も適切に行いえたので、総合的にAと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本調査研究は、年度当初の計画通り実施されており、目的を順調に達成した。

【書式B】
（様式1）

№ ２０１６

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	平城京跡出土遺物の調査研究 （Ⅰ４（１）⑤イ）

【事業概要】
本年度の発掘調査による平城宮・京跡の木製品・金属製品・石製品・土器・土製品・瓦磚類・木簡などの整理、分析研究、出土遺構の整理・分析研究、出土遺構の図面及び写真作成、分析研究を年間を通じて実施し、昨年度以前の調査において出土した遺物について、報告書刊行またはその準備作業としての再調査を行う。また、出土遺物の科学的保存処理を継続して実施する。

【担当部課】	都城発掘調査部　平城地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二

【スタッフ】
小池伸彦、和田一之輔、城倉正祥、西口壽生、神野恵、森川実、加藤雅士、深澤芳樹、今井晃樹、林正憲、渡辺晃宏、馬場基、山本崇、浅野啓介、島田敏男、金井健、大林潤、栗野隆、牛嶋茂、中村一郎

【年度実績概要】
・本年度の発掘調査による出土遺物について
平城宮・京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・土器・土製品・瓦磚類・木簡などの整理、分析研究、出土遺構の整理、分析研究、出土遺構の図面・写真作成、分析研究、及び出土遺物の科学的保存処理は、発掘調査研究の基礎作業であり、年間を通じて発掘調査と併行して遅滞なく実施した。そのうち、平城宮跡東院地区の発掘調査の成果については、文化財情報課と協力して、発掘調査速報展「平城宮跡東院地区中枢部の調査」を実施した（平成19年11月13日から12月16日まで）。
・平成18年度以前の出土遺物について
コンピュータ処理などによるデータ化を目指して、各発掘調査資料・遺物などの再整理・分析を重点的に実施した。特に、第一次大極殿院に係るデータについて、『平城宮発掘調査報告（第一次大極殿院）』の刊行に向けて基礎的分析作業を引き続き実施した。平成18年度に西大寺食堂院跡で出土した木簡を始めとする遺物の整理・分析を継続して進めた。本年5月に重要文化財に指定された平城宮跡内裏北外郭官衙の土坑SK820出土木簡について、文化財情報課と協力して『地下の正倉院展―平城宮木簡の世界』を平城宮跡資料館において実施した（平成19年10月23日から12月16日まで）。なお、木器・木簡や金属器などの科学的保存処理事業については、埋蔵文化財センターと共同で遂行した。
・報告書などの刊行について
西大寺食堂院跡出土木簡、及びここ数年の間に平城京跡で出土した木簡を合わせて、『平城宮発掘調査出土木簡概報(38)』を編集・刊行した。

【実績値】
論文数等計3件（報告書等1件①、論文1件②、解説1件③）

【備考】
①『平城宮発掘調査出土木簡概報(38)』2007.11
②大林潤・渡辺晃宏・今井晃樹・神野恵・小池伸彦「西大寺食堂院跡の発掘調査」日本考古学協会『日本考古学』24、2007.10所収
③『地下の正倉院展―平城宮木簡の世界』2007.10

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０１６

1．定性的評価

観点	継続性	発展性	適時性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
継続性：厖大な歴史資料の基礎的分析研究
発展性：新たな資料提示方法の追究
適時性：新出土資料についての知識供与による文化財活用
正確性：蓄積されている資料の正確な資料化による貢献

2．定量的評価

観点	論文等数					
判定	A					

備考

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平城宮・京で出土した考古・文献資料を整理・分析研究し、それぞれの研究に東アジア的視点で検討を加えたことなど、総合的に見てAと判断した。

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	これまでの研究を基礎にして、さらに新しい方法を加味・活用して、研究を深化した。

【書式B】
（様式1）

№. ２０１７

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建築物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等　（Ⅰ４（１）⑤イ）

【事業概要】
本年度の発掘調査による飛鳥・藤原京跡出土の木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品・瓦塼類、木簡などの整理、分析研究、発掘遺構の図面および写真資料の整理・作成、分析作業は年間を通じて実施し、合わせて前年度までの発掘調査成果を報告書等で公開するための基礎的整理・分析・復原研究を行う。また、出土遺物の保存処理を継続的に実施する。

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長　巽淳一郎

【スタッフ】
松村恵司、村上　隆、豊島直博、廣瀬　覚、長谷川透、玉田芳英、小田裕樹、丹羽崇史、関広尚世、青木　敬、次山　淳、中川あや、高田貫太、石田由紀子、箱崎和久、黒坂貴裕、番　光、市　大樹、竹本　晃、井上直夫、岡田　愛

【年度実績概要】
①本年度の発掘調査による出土遺物・遺構について
本年度、飛鳥・藤原京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体・土器・土製品・瓦塼類・木簡などの整理、分析研究、発掘遺構の図面および写真資料の整理・作成、分析作業、および出土遺物の保存と保存処理は、発掘調査研究の基礎作業であり、年間を通じて野外での発掘調査と平行して、各整理室において計画的に遅滞なく実施した。成果の一部は、『奈良文化財研究所紀要 2008』等で公表した。
②前年度までの出土遺物・遺構について
発掘調査成果を、計画中の『藤原京左京六条三坊発掘調査報告』等の報告書で公開するための基礎的整理・分析・復原研究、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。また、平成 19 年２月に重要文化財に指定された山田寺出土品について、指定品管理用の登録台帳の作成をおこなうとともに、重要文化財指定を記念して飛鳥資料館において開催された『奇偉荘厳山田寺』展に協力した。藤原京条坊に関連する発掘成果をデータ化する作業は、前年度に引き続いて実施した。木簡については、2005・2006 年度に石神遺跡・藤原京から出土した木簡を、『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報（二十一）』に取りまとめ、『飛鳥藤原京木簡　二』を出版するための資料整理を実施した。
③韓国との共同研究について
韓国との古代都城に関する共同研究に関連して、研究員を派遣し、国立加耶文化財研究所において威安城山山城出土木簡の調査、同現地見学、国立扶余文化財研究所・国立扶余博物館において扶余王興寺址現地見学・出土資料見学等を実施した。2006 年度より開始した国立慶州文化財研究所との発掘調査交流では、研究員１名を派遣し、慶州四天王寺址および月城垓子の発掘調査に参加するとともに、帯金具の比較研究を目的とした資料調査をおこなった。慶州からは２名の研究員を受け入れた。

【実績値】
論文等数６件(公刊図書４件①②③④、その他２件⑤⑥)

【備考】
①奈良文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報(二十一)』2007.11
②飛鳥資料館『奇偉荘厳　山田寺』飛鳥資料館図録第 47 冊、2007.10
③飛鳥資料館『飛鳥の考古学 2007』飛鳥資料館カタログ第 19 冊、2008.1
④奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6
⑤長谷川透「石神遺跡出土の鋸」『奈文研ニュース』25、2007.6
⑥中川あや「日本一の巨大瓦」『奈文研ニュース』26、2007.9

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０１７

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	独創性	発展性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：新出土資料の迅速な公開と活用。
継続性：膨大な歴史資料の基礎的分析研究および保存。
独創性：新たな資料分析方法の追究。
発展性：蓄積された歴史資料の正確な資料化。

2．定量的評価

観点	論文等数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	出土遺物・遺構についての整理調査を、野外での発掘調査と併行して遅滞なく実施し、合わせて韓国との共同研究も計画どおりに実施することができた。また、調査成果の一般への公開も適切に行いえたので、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	報告書作成のための遺物整理作業を、ほぼ予定通り進めることができた。

【書式B】
（様式1）

№. ２０１８

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建築物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	古代瓦に関する研究集会の開催（Ⅰ４（１）⑤イ）

【事業概要】
飛鳥白鳳期の古代瓦を、実物を見ながら議論し、造瓦技術の変遷と伝播を明らかにする研究集会である。

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二

【スタッフ】
中川あや　高田貫太　石田由紀子

【年度実績概要】
飛鳥白鳳期の古代瓦のうち、藤原宮式軒瓦および本薬師寺式軒瓦の展開について検討する研究会である。
11 回目の今回は、藤原宮式軒瓦および本薬師寺式軒瓦の展開をテーマとして、2008 年２月２日・３日に平城宮跡資料館において開催した。成果に関しては、発表要旨によって公開した。
近年蓄積されつつある藤原宮跡出土軒瓦のありかたを中心に、各生産地（大和・四国東部・淡路）、および同笵瓦が分布する地域（山背・近江・丹波・摂津・河内・和泉・尾張）の様相、また、藤原宮式軒瓦と意匠を一部共有し、製作時期が重複する本薬師寺創建軒瓦、各地（紀伊・山背）における本薬師寺式軒瓦の様相、藤原宮式軒瓦との時間的前後関係が注目される九州の老司式軒瓦についての報告がなされた。
報告を踏まえた討議では、① 藤原宮式軒瓦の属性（本薬師寺式軒瓦の位置づけ）の検討、② 藤原宮式軒瓦の生産・供給体制の再整理、③ 藤原宮式軒瓦・本薬師寺式軒瓦の地方における展開、などの論点を中心に議論をおこなった。研究集会を通じて、近年の資料の蓄積や新出資料による新たな知見が得られるとともに、丸・平瓦も含めた総合的な検討の必要性も今後の課題として浮き彫りになった。

【実績値】
参加人数：205 名
発表件数：11 件（うち紙上報告３件）
外部招聘者：９名
研究報告資料数：１件（①）

【備考】
①奈良文化財研究所『飛鳥白鳳の瓦づくりＸＩ－藤原宮式軒瓦の展開－発表要旨』2008.2

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０１８

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性			
判定	A	A	A			

備考
適時性…全国的な瓦研究の原状に即した研究課題の設定。近年蓄積された資料の分析。
独創性…報告と実物観察の組み合わせをセットにした具体性の高さ。
発展性…今後の課題への明確な見通し。

2．定量的評価

観点	参加者数	発表件数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	飛鳥白鳳期の古代瓦に関する研究会を継続的に実施するなかで、研究報告と実物観察という会の運営方法が定着し、今回の研究会では、藤原宮式軒瓦研究の現状と、具体的な課題を明らかにすることができた。また、報告数・参加者数も適切であるため、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	瓦の製作技法ならびに瓦当文様を総合的に検討し、蓄積された新資料への対応などから独創性、発展性に加えて適時性を提示することができたので、順調であると判断した。

【書式B】
（様式1）

№. ２０１９

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国･韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究（Ⅰ４（１）⑤ウ）

【事業概要（全体計画を含む）】
A：漢長安城桂宮発掘調査報告書の作成、唐大明宮太液池発掘調査出土品の整理、漢魏洛陽城跡の共同発掘調査を実施し日本の都城との関連を追究し、調査・研究の成果を公刊する。
B：朝陽地区隋唐墓出土副葬遺物を共同で整理し比較研究をおこない、日本都城成立期の交流を考察しその成果を公表する。
C：鞏義市黄冶唐三彩窯跡及び製品の共同研究を実施し、日本の奈良三彩との関連を考察し、成果を公刊する。
D：日本と韓国の都城・王京形成の共同研究を実施し、古代における両国の文化交流を跡付ける。

【担当部課】	都城発掘調査部	【事業責任者】	所長　田辺征夫

【スタッフ】
A：山崎信二・小池伸彦他 11 名（王巍・銭国祥他）B：小林謙一・金田明大他 9 名（王晶辰、田立坤他）C：巽淳一郎・西口壽生他 6 名（孫新民・趙志文他）、D：巽淳一郎・次山淳他 24 名（李柱憲・兪洪植他）

【年度実績概要】
A：漢長安城桂宮の日本語版発掘調査報告書作成については、2007 年に出版された中国語版発掘調査報告書『漢長安城桂宮』の翻訳作業を進め、本格的な編集作業のための準備に取りかかった。報告書は 2009 年度に刊行する計画である。唐長安城太液池については、4 名の研究員を西安市に派遣し太液地出土の陶磁器、石造物、瓦磚類、金属製品を調査し、写真撮影を実施した。
　漢魏洛陽城については、延べ 4 名の研究員を派遣し調査研究方針について協議した。その後、日中共同発掘調査の申請が中国国務院により批准されたことを受けて、中国社会科学院考古研究所との間で日中共同発掘調査協議書を取り交わし、2008 年度の洛陽城宮城跡における具体的な共同発掘調査計画を協議した。また、共同発掘調査のために測量等の関連する準備作業をおこなった。
B：遼寧省朝陽地区隋唐墓出土副葬品に関する共同研究の 2 年目である。秋には 5 名の研究員を派遣し、中山營子墓、八里堡唐墓、師範学校 2 号墓、韓貞墓、左才墓などから出土した陶磁器、陶俑、銅帯金具、銅鏡など多数の副葬品の調査・写真撮影等を実施した。また、3 月にも研究員を 8 名派遣し韓相墓、勾竜墓、楊律墓出土土器、陶俑、銅鏡などの副葬品を調査・写真撮影等するとともに、2008 年度の共同研究計画について協議した。秋には遼寧省文物考古研究所研究員 5 名および遼寧省文化庁文物処処長を招聘し、学術交流を深めた。なお、国内では天理大学所蔵陶俑の調査をおこない、遼寧省で調査した出土品との比較研究を進めた。
C：5 月と 12 月に鞏義市白河水地河地区における河南省文物考古研究所主導の窯跡発掘調査に研究員を計 8 名派遣、調査面積は 1200 ㎡で今年度が最終。新たに窯跡 3 基、廃棄物土坑・溝・竈・道路等の遺構 40 基余を検出し、北朝青磁、唐三彩、窯具など大量の遺物が出土。特筆すべき成果は唐三彩大型馬俑の発見で、懸案であった鞏義窯での大型俑生産を実証した。また、唐青花の発見により鞏義窯による唐青花生産を実証、北魏青磁と白磁の大量出土により早期白磁の起源問題への手懸りを得た。10 月には中国側 5 名を招聘し、関連遺跡遺物の調査及び、趙志文「河南鞏義黄冶・白河窯跡 2005・2006 年度発掘成果報告」・賈連敏「近年の河南省考古重要新発見」成果報告会を開催、学術交流を深めた。
D：前年度までの共同研究成果を『日韓文化財論集Ⅰ』（学報第 77 冊）として出版、また、韓国語版を国立文化財研究所より同時出版した。本書には、都城制・庭園史・考古資料・古建築・遺跡整備等に関する 12 篇の論文を収録した。2008 年 3 月には、次年度以降の共同研究についての協議を主目的として研究者を派遣し、威安城山山城出土木簡、扶余王興寺址発掘調査現場等を調査・見学し、意見交換をおこなった。
　国立慶州文化財研究所との発掘調査交流では、当研究所より中川あやを 2 ヶ月間派遣し、慶州四天王寺址・月城垓子の発掘調査参加、資料調査等を実施した。慶州からは、李柱権学芸研究官、兪洪植研究員が来日、延べ 2 ヶ月間滞在して飛鳥甘樫丘東麓遺跡、平城宮第二次朝堂院東方官衙地区の発掘調査参加、都城関連遺跡・古代寺院遺跡の視察を行なった。

【実績値】
論文等数 6 件（①～⑥）

【年度決算見込額】

【備考】
①今井晃樹「太液池遺跡の遺物調査」『奈文研ニュース』2007.12
②奈良文化財研究所『日韓文化財論集Ⅰ』奈良文化財研究所学報第 77 冊　2008.3
③韓国国立文化財研究所『韓日文化財論集Ⅰ』2007．12
④中川あや「日韓発掘調査交流の成果」『奈良文化財研究所第 18 回総合研究会資料』2008･1
⑤中川あや「日韓発掘調査交流を終えて」『奈文研ニュース』28、2008.3
⑥中川あや「慶州・四天王寺の発掘調査」『奈良文化財研究所紀要 2008』（予定）

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０１９

1．定性的評価

観点	独創性	発展性	適時性			
判定	A	A	A			

備考
独創性：最新情報提供による古代史の再検討
発展性：日本文化の源流を探る基礎的研究
適時性：成果報告書の刊行及び刊行準備

2．定量的評価

観点	成果報告	論文件数	発表件数			
判定	A	A	A			

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	中国および韓国で、遺跡・遺物を共同で調査し、相互の研究を向上させ、またその研究成果を公刊したので、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通りに実施、成果をあげることができ、次年度には発掘調査にある程度長い期間参加する準備ができたため。 国際共同研究は都城発掘調査部が担当し、4本の研究を総合的に組み立て、古代史の解明に資する成果の達成を目指す。

【書式B】
（様式１）

№. ２０２０

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並び瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	庭園に関する調査研究（Ⅰ４（１）⑤エ）

【事業概要】
平安時代以降の発掘庭園を中心にした調査・研究を行う。特に、平安時代前期の遺構について情報収集・調査を行うとともに、研究会を行う。

【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　内田和伸

【スタッフ】
高瀬要一、平澤毅、粟野隆、惠谷浩子、宮城俊作（奈良女子大学）

【年度実績概要】
古代庭園に関する研究の５カ年計画全体では、平安時代の庭園を対象にして情報収集を図るとともに、今年度は、平安時代前期の庭園に主眼をおいた研究会を実施した。報告内容は、①嵯峨院（大覚寺）、②冷泉院、③斎宮邸宅、④賀陽親王邸宅・初期高陽院、⑤平安京の貴族邸宅と庭園―前期を中心として―、⑥奈良時代の宮殿・邸宅と庭園、⑦寝殿造邸宅と庭園、である。これらの実例をもとに論議し、平安時代前期庭園の検出遺構の構造や意匠上の特徴などについて検討を深め、問題点を整理した。また、昨年度開催した研究会の報告書『平安時代庭園に関する研究Ⅰ』を編集・発行した。

また、奈良時代前半の大極殿前庭にある塼積擁壁や大極殿院、朝堂院の設計に関し、思想的な側面からの研究も行い、平安時代以降における庭園造営のあり方や苑池と儀礼との関係などを探る新たな視角を提示する試みも行った。

このほか、文化遺産部の遺跡整備研究室と合同で、「宮中儀礼の復興による文化遺産の活用」に関する講演会を開催し、庭の機能や朝庭遺構の活用のあり方などについても考える機会を設けた。また、和歌山県海南市の琴の浦・温山荘庭園のコンクリートを利用した造形意匠に関し、近代庭園における位置付けの基礎調査を実施した。

【実績値】
研究集会等開催数：1回（古代庭園研究会）、参加者：大学教員ら 26 名
刊行図書：１件（①）　論文等数：１１件（②～⑫）　講演会発表回数：７回（⑬～⑲）　研究発表回数：５回（⑳～㉔）

【備考】
〈図書〉
①『平安時代庭園に関する研究１』2007.10 奈良文化財研究所
〈論文〉
②高瀬要一「平安時代庭園の現状」『平安時代庭園に関する研究１』2007.10 奈良文化財研究所、③内田和伸「平安時代庭園発掘調査の概要」『平安時代庭園に関する研究１』2007.10 奈良文化財研究所、④内田和伸「平城宮第一次大極殿および朝堂院の設計思想について」『ランドスケープ研究』vol.70No.5 日本造園学会 2007.5、⑤内田和伸「平城宮第一次大極殿院の設計思想」『遺跡学研究』第４号 2007.11 日本遺跡学会、⑥内田和伸「日韓宮殿の設計思想について」『韓日文化財論集』Ⅰ2007.12 韓国国立文化財研究所、⑦内田和伸「平城宮第一次大極殿院と高御座の設計思想」『古代日本の構造と原理』2008.1 青木書店、⑧内田和伸「平城宮の復元と年中行事の復興について～古代の思想と整備活用のあり方～」『埋文ニュース』第 130 号 2008.3.奈良文化財研究所、⑨平澤毅「名勝庭園の歴史と展望」『日本庭園学会誌』第 17 号日本庭園学会 2007.8、⑩平澤毅「文化的資産としての近代の庭園及び公園の保護」『日本庭園学会誌』第 18 号日本庭園学会 2007.10、⑪平澤毅「文化遺産としての遺跡・庭園・公園の概念に関する比較考察」『遺跡学研究』第４号日本遺跡学会 2007.11、⑫粟野隆「コンクリートの庭園利用の系譜および造園意匠からみた温約荘庭園の造園史的位置付けに関する基礎調査」2008.3(財)琴の浦温山荘、⑬粟野隆「庭園スタイルの模倣と創造－苑池の空間デザインと古代日韓」『韓日文化財論集１』韓国文化財研究所 2007.12
〈講演発表〉
⑭内田和伸「平城宮の復元と宮中儀礼の復興について」奈良市国際交流協会総会講演 2007.7.4、⑮内田和伸「宇宙をかたどる宮殿～大極殿院の設計思想」朝日カルチャー奈良「大極殿とは何かⅡ」2007.7.14⑯内田和伸「奈良時代の庭園文化」奈良女子大学市民講座 2007.11.17、⑰内田和伸「平城宮の復元と宮中儀礼の復興について」宮中儀礼の復興と文化遺産の活用講演会 2008.3.29、⑱平澤毅「文化遺産としての風景の保存」第 101 回奈良文化財研究所公開講演会 2007.10、⑲粟野隆「縄文・弥生時代における“場としての庭”」日本庭園学会 2008.2.17

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０２０

1．定性的評価

観点	独創性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			

備考
独創性：大極殿前庭を含む大極殿院の設計について、今までない思想的な側面（『易』、天文、暦、陰陽五行などの術数）から研究した。
適時性：上記では平城宮第一次大極殿が復元される遷都 1300 年を前に研究成果をアピールできた。
発展性：平安時代前期庭園では遺構の理解が深まり、近代庭園ではコンクリートの位置付けを明らかにしつつある。

2．定量的評価

観点	論文数	発表数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	大極殿院や朝堂院の朝庭のデザインに関しては等閑に付されがちであったが、井戸の位置や、施設の尺長などの規模に用いられる数字、用いられた軒瓦の文様、宝幢の意味などを思想的な側面からの分析し、古代の宮殿設計の思想的背景、朝庭のデザインの解釈に新たな展開を見せることができた。このような視点は今後の古代の苑池の研究にも展開可能であり期待できる。コンクリートを用いた近代庭園についても来年度は実測調査が予定されており、実態調査を踏まえた研究が期待できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り事業を実施できた。特に大極殿院や朝堂院の朝庭の研究に関しては、論文数、発表件数ともに多く、思想的側面から遺構遺物を捉えるという新たな展開が図れたものと判断できた。発掘庭園の苑池での分析にもこのような視点を導入することが可能であり、次年度以降平安時代の庭園の研究についてもさらに研究を深めていくべきと判断される。「宮中儀礼の復興による文化遺産の活用」に関する講演会は活用を念頭においたものであるが、儀礼は古代苑池の理解を深めるものとして有効であり、次年度以降の展開が期待される。

【書式B】
（様式1）

No. ２０２１

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並び瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	飛鳥地域の歴史に関する調査研究（Ⅰ４（１）⑤オ）

【事業概要】
山田寺出土展示部材の経年変化の計測研究
アジア史の中の飛鳥文化の研究として飛鳥地方壁画古墳の研究
飛鳥時代の工芸技術の研究として飛鳥・奈良時代の金工品の研究

【担当部課】	飛鳥資料館	【事業責任者】	学芸室長：杉山洋

【スタッフ】
加藤真二、西田紀子

【年度実績概要】
出土部材展示の経年変化の研究：当館では1982年に出土した山田寺東回廊の出土部材を、保存処理後に復元展示している。日本においてはこうした出土建築部材の出土処理後の展示公開は当館が初めてであり、木材の経年変化の遺跡研究が必要とされてきた。そのために展示後にセンサーを設置し、計測を続けてきている。

当館の研究の中には飛鳥時代の工芸技術の研究が含まれている。高松塚古墳出土海獣葡萄鏡をはじめとして、飛鳥時代は日本の歴史において鏡が主要な遺物として再登場してくる時代に当たっている。これら唐式鏡を全国的にまとめて研究することが当館の研究目的に含まれている。今年度は当該研究として、延岡市教育委員会所蔵の鏡８面を借用して、写真撮影・実測・拓本という基本的な調査とともに、蛍光X線分析を行った。

壁画古墳の研究としては、飛鳥地方の壁画古墳についての資料を収集すると共に、特に中国における壁画古墳の現状と、その保存に関する資料収集を行った。

【実績値】
研究図録刊行　１冊

【備考】
「延岡市教育委員会蔵鏡の研究」飛鳥資料館研究図録第１０冊　2008.3

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０２１

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：研究課題の必要性と緊急性
独創性：基礎実験と現地における暴露試験および手法
発展性：遺跡をとりまく環境の多様性への対応
継続性：基礎データの収集

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	A	A				

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当初の研究計画通り、金工品の調査を進め研究図録を刊行することができた。また壁画古墳の研究は春期特別展示として成果を公開することができた。山田寺の出土部材についても、継続的な調査を推進し、保存内容についての問題点を見いだすこともなく、順調に継続展示が進行している。以上の進捗状況を総合的に判定してAとした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の予定とおり遂行したことから、当事業は順調であると判定した。

【書式B】
（様式１）

№ ２０２２

業務実績書

中期計画の項目（Ｉ４（１）⑥）	遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修復・整備に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。

【事業名称】	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究（Ｉ４（１）⑥ア）

【事業概要】
遺跡の保存・整備・活用に関する研究の一環として、遺跡の保存・整備計画段階から整備後におけるまでの遺跡の公開・活用状況や、遺構の露出展示を伴う整備例の調査研究を行い、収集した資料のデータベース化を開始する。

【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	遺跡整備研究室長　　山中　敏史

【スタッフ】
高瀬　要一、内田　和伸、平澤　毅、黒崎　直（客員研究員）

【年度実績概要】
1．今年度は主に遺跡の公開・活用面に関する調査研究活動の一環として、保存された遺跡の管理や活用がどのようになされているかについて情報収集を行った。
2．2008年１月25・26日に、「遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度」のテーマで第２回遺跡整備・活用研究集会を平城宮跡資料館講堂にて開催した。
　発表内容は、遺跡や文化財施設等における管理・活用に関して平成15年度に導入された指定管理者制度の内容と課題に関する講演が２件、指定管理者となっている立場からの現状報告が４件、指定管理者を導入する立場からの実態報告が２件であり、各発表の後、総合討議をおこなった。研究集会参加者の92%からアンケートを回収し、そのうちの96%から有意義であったとの回答を得た。
3．研究集会開催後は、来年度にこの研究集会の報告書を刊行する準備として総合討議の内容の整理等をおこなった。
4．昨年度の研究集会「遺跡の教育面に関する活用」の報告書を編集・刊行した。
5．遺構の露出展示に関する整備状況についての情報収集を継続するとともに、データベース化を進めるにあたっての項目の見直しや露出展示における問題点の把握と今後のあり方について検討を始めた。
6．本研究室の前身である旧文化遺産研究部遺跡研究室がまとめた大規模遺跡の整備・管理・活用に関する調査研究成果について、今後の遺跡整備事業における参考資料として情報提供をすべく、独立して起動するデータベース形式でファイルを収納したＣＤを制作・発行した。
7．文化遺産部の景観研究室と共同で、「宮中儀礼の復興による文化遺産の活用」に関する講演会を2008年3月29日に平城宮跡資料館講堂にて開催した。

【実績値】
研究集会等開催数：1回（講演・報告資料集１件①）、参加者数：地方自治体職員・大学教員・大学院生など約100名。
刊行図書数：１件（②）
発行ＣＤ数：１件（③）
講演会開催数；１回（④）、参加者数；地方自治体職員・市民など50人。
論文等数；４件（論文５件⑤～⑧、発表４件⑨～⑪）。

【備考】
①遺跡整備・活用研究集会（第２回）「遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度」講演・報告資料集 2008.1
②奈良文化財研究所『遺跡の教育面に関する活用　－平成18年度　遺跡整備・活用研究集会（第１回）報告書－』2008.1
③遺跡整備研究室『大規模遺跡の整備・管理・活用に関する調査（平成13年度～平成17年度）　大規模遺跡の整備・管理・活用に関するデータベース』2008.3
④内田和伸「平城宮の復元と宮中儀礼の復興について」『宮中儀礼の復興による文化遺産の活用』講演会 2008.3
⑤内田和伸「高松塚古墳の仮整備」『文化庁月報』第466号 2007.7
⑥平澤毅「文化遺産としての遺跡・庭園・公園の概念に関する比較考察」、『遺跡学研究』第4号 2007.11
⑦内田和伸「日韓宮殿の設計思想について 」『韓日文化財論集Ⅰ』2007.12
⑧内田和伸「平城宮の復元と年中行事の復興について～古代の思想と整備活用のあり方～」『埋蔵文化財ニュース』130 2008.3
⑨内田和伸「平城宮第一次大極殿および朝堂院の設計思想について」日本造園学会平成19年度全国大会 2007.5
⑩内田和伸「平城宮の復元と宮中儀礼の復興について」奈良市国際交流協会総会講演　2007.7
⑪平澤毅「遺跡の個性の理解と応用」第32回全国遺跡環境整備会議、2007.11

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０２２

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	論文等数	研究会等の開催数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	遺跡整備に関する情報の収集・整理・公開に関する検討を様々な観点から進めることができた。特に、遺跡の適切な保存管理・公開活用を考える上で重要な運営体制等の検討に関連して、指定管理者制度の遺跡への適用について検討した研究集会は、指定管理者制度導入以来最初の指定替えがされる時期になっていること、これまで「遺跡」を中心的テーマとした指定管理者制度に関する検討がほとんどされてこなかったこと、指定管理者制度適用の検討の背後にあるのは遺跡の保存管理・公開活用の本質的な在り方であること、などから遺跡整備を包括的に検討していく上で極めて有効な機会のひとつとなったと評価できる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り事業を実施できた。特に、第2回を迎えた研究集会については、参加者の評価も高く、さらに充実を図っていくべき事業であると判断される。また、関連する調査研究成果についても、学会等を通じて数多く公表することができた。これらの成果を踏まえつつ、今後も遺跡整備に関する情報の収集・公開の内容・方法等の質を向上し、遺跡整備を検討・実施していく上での課題を見極めて、その解決策等について引き続き検討を図っていく。

【書式B】
（様式１）

No. ２０２３

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ４（1）⑥）	遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修復・整備に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。

【事業名称】	遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究（Ⅰ４（1）⑥イ）

【事業概要】
遺構の安定した公開･展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術ならびに監視技術の開発的研究の一環として、遺跡の水分状態や石材の劣化状態を把握する技術の応用研究、平城宮跡遺構展示館等における遺構安定化薬剤の実地試験に取り組む。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　肥塚隆保

【スタッフ】
高妻洋成 、降幡順子、脇谷草一郎（企画情報部）

【年度実績概要】
アコースティックエミッション法を高松塚古墳の石室解体において、把持・移動および搬送時の微小破壊のモニタリングに応用したところ、解体・搬送時には石室石材の破壊は生じていないことを確認することができた。
昨年度試作した打音試験装置にさらなる改良を加え、打撃力の異なる打撃装置を試験した。また、エコーチップ試験装置およびコンクリートハンマー試験装置との相関性についても検討をおこない、おおむね良好な相関を持つこととそれぞれの試験法についての特徴を把握することができた。
ガランドヤ古墳および宮畑遺跡において比抵抗測定法を用いた遺跡の地中における水分状態を測定し、遺跡の保存整備に有効なデータを提示した。また、宮畑遺跡においては土壌のコンシステンシー（含水比、塑性限界、液性限界）についての測定もおこない、遺構が安定な状態を保つことのできる含水比を設定することが可能となった。

【実績値】
論文等数： 8件（①～⑧）
発表件数： 5件

【備考】
① 脇谷草一郎・高妻洋成・降幡順子・肥塚隆保「イースター島モアイ像の保存科学的研究 2―溶出実験による石造文化財保存処理法の評価―」『日本文化財科学会第 24 回大会研究発表要旨集』pp.74-75、2007.6
② 脇谷草一郎・長尾かおり・高妻洋成・降幡順子・肥塚隆保「妻木晩田遺跡における保存科学的研究―土質遺構の露出展示にむけた環境調査―」『日本文化財科学会第 24 回大会研究発表要旨集』pp.284-285、2007.6
③ 高妻洋成・降幡順子・脇谷草一郎・肥塚隆保「石造文化財へのアコースティックエミッション法の応用」『日本文化財科学会第 24 回大会研究発表要旨集』pp.330-331、2007.6
④ 高妻洋成「音波による石造文化財の劣化評価」『第 31 回文化財の保存および修復に関する国際研究集会』pp.50-52、2008.2
⑤ 高妻洋成「高松塚古墳石室石材の運搬」『文化庁月報』No.466、pp.12-13、2007.7
⑥ 肥塚隆保・建石徹「高松塚古墳の石室解体の実施」『文化庁月報』No.467、pp.12-15、2007.8
⑦ 肥塚隆保・高妻洋成・降幡順子・建石徹・田辺征夫「国宝高松塚古墳壁画保存修理のための石室解体」『2007 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム』pp.153-158、2007.11
⑧ 肥塚隆保・高妻洋成・降幡順子「石室解体と輸送」『月刊文化財』532 号、pp.22-37、2008.1

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２０２３

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	S	S	S	S	S	
備考						

2．定量的評価

観点	発表件数	論文等数				
判定	S	S				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	調査研究事業を当初計画どおり順調に達成することができたことから、総合的評価としてSと判定した。遺跡保存に関する調査法については、フィールドにおける試験を重ねるとともに、新たな手法の開発がさらに必要である。次年度には、これらの点にも取り組む予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の計画どおり実施できたことから、順調であると判定した。 次年度はこのペースを維持しつつ、遺跡保存に関する調査法についてフィールドにおける試験を重ねるとともに、新たな手法の開発に取り組む予定である。

【書式B】
（様式1）

№. ２０２４

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ４（1）⑥）	遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。また、これに関連して、平城宮・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査研究を行い、文化庁が行う平城宮及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。

【事業名称】	第一次大極殿復原整備研究（Ⅰ４（1）⑥ウ）

【事業概要】
平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査研究のため、文化庁の行う平城宮跡第一次大極殿院地区の復原整備計画に沿った実践的調査研究を実施するとともに、「宮跡整備構想」に基づく具体的整備方針の再検討を目指し、情報収集や調査・分析を行う。文化庁がおこなう平城宮跡第一次大極殿院復原に関して、専門的・技術的な援助・助言を行うため、第一次大極殿院復原設計計画に沿った実践的研究及び第一次大極殿院正殿の復原施工段階における実践的研究を行うものとし、復原に関する資料の整理、新たに行うべき調査研究の計画案などを提示するとともに、文化庁記念物課や文部科学省文教施設企画部の主催する会議等に参画し、専門的・技術的な援助・助言をおこなう。

【担当部課】	都城発掘調査部　平城地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二

【スタッフ】
島田敏男、渡辺晃、深澤芳樹、西口壽生、金井健、大林潤、栗野隆、箱崎和久、黒坂貴裕、窪寺茂、清水重敦、内田和伸、杉山洋、千田剛道、西田紀子、今西康益、桑原隆佳

【年度実績概要】
上記スタッフによって、宮跡の管理・活用を検討するワーキンググループを構成し、ワーキンググループ内で検討会をおこないながら、今後の宮跡の管理・活用についての調査研究をおこなった。今年度は主として、宮跡管理・活用・整備のためのゾーニング、導線計画について検討をおこなった。実施した調査研究項目は、①平城宮跡内における中核施設の位置付けの検討、②中核施設の施設・設備に関する検討、③中核施設を軸とした導線計画の検討、④中核施設以外のゾーニング、⑤宮跡全体の管理・活用方法、⑥宮跡内における調査研究の今後、についてである。そして、昭和53年に策定された「基本構想」の見直案を検討した。
同時に、今年度は文化庁において『特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進プラン（仮称）』策定作業をおこなっており、その計画策定に協力するとともに、文化庁と共催でその検討委員会を開催した。
また、文化庁がおこなう第一次大極殿正殿の復原に対しての専門的・技術的協力として、扁額についての研究会を開催するとともに、施工に際しての助言をおこなった。
なお、一昨年来おこなってきた、遺跡の管理活用に関する類例調査の成果を、『遺跡整備調査報告書　管理運営体制および整備活用手法に関する類例調査』として、刊行した。

【実績値】
刊行図書　『遺跡整備調査報告書　管理運営体制および整備活用手法に関する類例調査』
論文　『奈良文化財研究所紀要　2007』所収　１篇
文化庁事業への協力
- 特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡の保存整備に関する検討委員会　共催　５回
- 大極殿復原事業に関する連絡会議　出席１１回
- 大極殿復原に関する扁額研究会　開催　２回

大極殿正殿復原事業にかかる指導・助言　２３回

【備考】
『遺跡整備調査報告書　管理運営体制および整備活用手法に関する類例調査』
渡邊晃宏／山下秀樹／窪寺茂／清水重敦「扁額の構造と意匠－平城宮第一次大極殿扁額の復原考察－」『奈良文化財研究所紀要2008』（予定）

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０２４

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
適時性：検討成果を進行中の平城宮第一次大極殿復原工事に生かす
独創性：研究成果が実行可能かを検証しながら、建物を建設する
発展性：全国の解体修理・復原工事に生かす
継続性：計画段階から実施
正確性：各専門分野の研究の総合化

2．定量的評価

観点	協力回数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	出土遺物、および建造物に関する広汎な研究を、第一次大極殿の復元にあたって細部にいたるまで積極的に活用したので、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究事業は、継続的におこなっているもので、研究の段階も順調に進み、同時に文化庁事業への協力も順調におこなっており、今後もこのペースを維持しつつ、研究内容の向上に努めたい。

【書式B】
（様式1）

№. ２０２５

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ4（2）①）	光に対する物性を利用した高精細デジタル画像を形成する手法に関する調査・研究を行い、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現することを目指す。

【事業名称】	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究（Ⅰ4（2）①）

【事業概要】
本研究では、前の中期計画５カ年中に開発した高精細デジタル画像形成の手法を用い、着色仏画・彩色壁画・油彩画・日本画・漆絵などの美術品を対象とし、それぞれについて、1）光に対する物性の検討、2）光物性の画像化に関わる技術開発、3）形成画像の汎用的な活用法（表示・出力）に関する条件整備を行い、広範な文化財研究を支援するために不可欠な研究画像を形成し、それらを応用・利用する方法を探ることを目的とする。

【担当部課】	企画情報部	【事業責任者】	文化財アーカイブズ研究室長　山梨絵美子

【スタッフ】
中野照男、皿井舞、江村知子、城野誠治、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

【年度実績概要】
1　他機関との共同研究：本研究は、先の中期計画において開発した画像形成技術を用いた画像の汎用的な活用・運用を行う方法・技法の研究に重点を置いている。平成 17 年度に行った奈良国立博物館との薬師寺蔵「吉祥天像」の共同研究の報告書、および平成 18 年度から彦根城博物館と共同で行った国宝「彦根屏風」の調査報告書を刊行した。平成 17 年度に國立故宮博物院（台湾）との共同研究として行った孫過庭筆「書譜」の成果については、平成 20 年度に刊行することを目指して編集会議を行った。また、写真画像の撮影、保存の試みのひとつとして、黒田清輝遺族より寄贈された関連資料のうち、当時の写真をその質感を再現すべくデジタル撮影および出力を行った（成果は「写された黒田清輝」にて展示）。
2　今年度の他機関との共同調査研究作品：宮内庁三の丸尚蔵館（「春日権現験記絵巻」07.4.9～20、11.27～12.17）、奈良国立博物館（「天台高僧像」　07.9.10～14）、彦根城博物館（「彦根屏風」　07.11.6～15）、國立故宮博物院（孫過庭筆「書譜」　08.1.28 ～2.1）
3　高精細デジタルコンテンツとしての形成画像とその多目的利用：脆弱な材料で構成されている我国の貴重な文化財を間近で精査・鑑賞する機会は限定されている。文化財の高精細な画像や特殊撮影画像を公開し、多目的な利用に供することは、文化財への理解を深め、実物の保存と共に活用の道を開く有効な方法である。デジタルコンテンツの多目的利用の一環である画像展示を以下の場所で実施した。
・黒田記念館特集展示
①黒田清輝筆「智・感・情」「湖畔」ほかの画像展示　黒田記念館（07.4～）
②「写された黒田清輝」　黒田記念館（07.11.15～）
・国宝「彦根屏風」　特殊撮影画像展示（07.9.28～10.26 「よみがえった国宝・彦根屏風と湖東焼の精華」、彦根城博物館）

【実績値】

学術雑誌等への掲載論文数	5件（①～⑤）
学会研究会等での発表件数	2件（⑥⑦）
画像展示の件数	3件

【備考】
①城野誠治「光学的手法による国宝・彦根屏風の調査」　『国宝　彦根屏風』（08.3）pp121－124
②江村知子「彦根屏風の表現について」『国宝　彦根屏風』（08.3）pp145－160
③城野誠治「光学的手法による国宝・吉祥天像の調査」『国宝　吉祥天像』（08.03）pp93-95
④早川泰弘・城野誠治「吉祥天像のＸ線透過画像について」『国宝　吉祥天像』（08.03）pp74-75
⑤城野誠治「2006 年の写真の進歩　文化財」「日本写真学会誌」2007 年 70 巻 3 号 pp170-171(07.7)
⑥城野誠治「高精細画像で見た彦根屏風」（シンポジウム「よみがえった国宝・彦根屏風」07.10.20）
⑦山梨絵美子「桂ゆきを中心に～絵画概念を超えて～」江東区男女共同参画推進センター（07.12.1）

（様式2）

自己点検評価調書

No. 2025

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	調査箇所数	論文数	発表数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年は高精細画像データを印刷媒体においてより正しく再現することに努め、昨年度よりもよい成果を得ることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	書籍、展示などの媒体による高精細画像公開については比較的安定した方法を確立することができた。今後も積極的な成果公開に努めたい。

【書式B】
（様式1）

No. ２０２６

業務実績書

中期計画の項目（Ｉ４（２）②）	小型可搬型機器の開発研究及び応用研究を行い、文化財の材質調査をその場で行えるようにする。また、有機化合物の物質同定を目的とした新規手法の検討及びその応用研究を行い、金属文化財や顔料など無機化合物に関する元素同定及び構造解析法手法の確立等を目指す。

【事業名称】	文化財の非破壊調査法の研究（Ｉ４（２）②）

【事業概要】
文化財の材質調査をその場で行うことを目的に、小型可搬型機器の開発研究およびその応用研究を行う。金属文化財や顔料などの無機化合物に対して、その場での元素分析および構造解析手法の確立を行う。また、染料など有機化合物の物質同定を目的とした新たな非破壊調査法の調査･研究を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】
早川泰弘、佐野千絵、木川りか、吉田直人、犬塚将英　（以上、保存修復科学センター）

【年度実績概要】

５年計画の第２年度として、下記の２点に重点をおいて研究を実施し、以下の成果を得た。

⑴ 可搬型機器による彩色文化財の材質調査とデータ解析

ポータブル蛍光Ｘ線分析装置を博物館・美術館等に持ち運び、絵画あるいは建造物などの彩色に関する材質調査を行い、その材料や技法を明らかにする研究を推進した。透過Ｘ線撮影、高精細画像撮影、あるいは反射分光法など様々な調査手法によって得られたデータと蛍光Ｘ線分析によって得られたデータを相互に関連付けられるような研究展開を図った。

⑵ 有機染料分析に関する検討とその応用

ファイバー送受光型紫外・可視反射スペクトル測定システムによる染料の非破壊分析に関する研究を引き続き行った。基礎的課題としては、平面資料測定を想定した分析精度、および顕微鏡と組み合わせることによる微小試料の分析可能性について検討した。また、応用事例として、江戸中期に作成された絵図資料の彩色に用いられた染料の非破壊分析を行った。

【実績値】
論文等数　２件（①、②）
発表件数　２件（③、④）

【備考】
①早川泰弘　「蛍光X線分析による国宝吉祥天像の彩色材料調査」　『保存科学』 47、pp.27-36、 08.03
②吉田直人　「ファイバー送受光型分光光度計による平面文化財資料の反射スペクトル測定における誤差に関する考察」　『保存科学』 47、pp.187-196、 08.03
③早川泰弘、佐野千絵、三浦定俊、太田彩　「伊藤若冲「動植綵絵」の彩色材料調査」　日本文化財科学会第24回大会、奈良教育大学 07.6.2-3
④吉田直人　「顕微反射スペクトル測定による微小試料の染料分析」　日本文化財科学会第24回大会、奈良教育大学 07.6.2-3

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０２６

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	学術雑誌等への掲載論文等数	学会研究会等での発表件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	基礎研究の確実な遂行のための情報収集、基礎研究の実施、ならびに各博物館・美術館などと共同した作品調査研究の実施、および速やかな研究成果公開を果たし、高い調査研究水準を保つことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	研究計画の第２年度として、基礎的研究の進展および多くの作品調査を実現し、今後の研究活動を進めていく上で重要な成果を得た。速やかな成果公開も果たし、包括的に調査研究を進めた。

【書式B】
（様式1）

№. ２０２７

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ４（2）③）	遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。

【事業名称】	遺跡データベースの作成と公開（Ⅰ４ ⑵ ③ア）

【事業概要】
遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究等の一環として、官衙関連遺跡および豪族居宅遺跡の資料収集を行い、官衙や豪族居宅と認定するための指標、およびそれらの遺跡の発掘調査において抽出すべき基本的属性について調査研究を進め、収集し属性分析した資料をデータベース化し、順次一般公開する。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	文化遺産部　遺跡整備研究室長　山中敏史

【スタッフ】
森本晋、清野陽一（京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程）

【年度実績概要】
①各地の官衙関連遺跡および豪族居宅遺跡等の発掘調査資料の収集・整理・分析については、平成17年度以前刊行の報告書を中心に、めくり作業を行い、国府・郡衙・城柵遺跡やその他の官衙関連遺跡・豪族居宅遺跡等の資料を収集整理した。官衙関連遺跡については、とくに中国地方以西の地域のデータ収集と近畿地方以北のデータの補訂作業を重点的に進めた。
②官衙関係遺跡データベースについて、建物データなどの新たな属性項目をデータベースのフィールド項目として増加し、一部に改訂を加えた。また、市町村合併に対応して、遺跡所在地の変更作業をほぼ完了した。
③これまで未公開であった中国地方以西の官衙関連遺跡のデータとともに、それ以東の地域の遺跡データについても新項目の追加による補訂作業をおこない、全国の主要官衙関係遺跡データを奈良文化財研究所ホームページで全面的に公開した。
④豪族居宅遺跡の属性分析や資料収集等の成果については、論文にまとめた。
⑤新たに寺院遺跡データベースの作成計画を立て、データベース構造などについての検討に着手した。

【実績値】
データベース入力・補訂件数：遺跡マスタ約370件、文献データ約2,800件、建物データ約4,600件
スキャナ取り込み・貼り付け図面件数：約5,500件
公開データ数：遺跡マスタ約1,000件、文献データ約10,200件、建物データ約12,300件等
論文等数：論文１件（①）

【備考】
① 山中敏史「地方豪族居宅の建物構造と空間的構成」『古代豪族居宅の構造と機能』2007.12

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０２７

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	独創性	正確性
判定	A	A	A	S	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	収集資料数	データベース入力件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	全国の主要官衙関係遺跡について、新たな属性項目も加えてデータベースを作成し、一般公開することができたので、Aと評価した。これにより、各地における官衙関係遺跡の調査等において、建物遺構等の評価をより客観的かつ効率的に進めるうえで欠かせない基礎データの共有化が実現したと言える。今後は、官衙か否かのグレーゾーンにある遺跡や、最近の新出資料や新報告資料の追加を図るとともに、このデータベースを基礎として、新たに寺院遺跡データベース作成に取り組みたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	官衙関連遺跡のデータベースの作成を順調に進めることができた。そして、官衙関係建物遺構の属性分析を進め、データベース項目に盛り込むことによって、遺跡調査における新たな指標を示すことができた。また、豪族居宅遺跡関係については、貴族邸宅も含めて建物の属性分析を進め、研究報告をまとめることによって、そうした遺跡の属性分析法についても新たな視角を提示できたと考える。今後は、官衙関係遺跡の新出資料の追加および末端官衙関係遺跡データの入力を継続し、このデータベースを充実させるとともに、新たに寺院遺跡データベースの構築にも着手していきたい。

【書式B】
（様式1）

No. ２０２８

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（2）③）	遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。

【事業名称】	古代官衙・集落に関する研究集会の開催 （Ⅰ４（2）③イ）

【事業概要】
地方官衙遺跡と集落遺跡に関する研究集会を実施し、全国におけるこの種の遺跡調査の質的向上を図る。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	文化遺産部　遺跡整備研究室長　山中敏史

【スタッフ】
松本建司、志賀崇（京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程）、清野陽一（京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程）、

【年度実績概要】
① 12月14･15日の両日にわたって、「古代地方行政単位の成立と在地社会」のテーマで研究集会を開催した。
② 研究報告は、考古学サイドから３本、歴史地理学サイドから２本、文献史学サイドから２本の計７本。
③ 研究集会参加者は、158名であった。
④ 国・郡（評）・里（五十戸）制の成立過程について、木簡や文献史料、官衙遺跡の様相などからアプローチするとともに、古墳時代における在地勢力基盤と郡域との関係、国郡域の成立と土器流通との関係、国郡界線のあり方などについて探り、国郡里制の成立の画期や、在地社会におけるそれら地方行政単位成立の意味について検討し、問題点を整理した。
⑤ 出席者の90%からアンケートを回収し、そのうちの97%から、たいへん有意義または有意義であったとの回答を得た。
⑥ 昨年度開催した研究集会の報告・討議の内容を掲載した論文報告集『古代豪族居宅の構造と機能』を刊行した。

【実績値】
参加者数：158人（地方自治体職員・大学教官・大学院生など）
報告者数：７人
研究報告要旨・資料集数：１件（①）
刊行図書数：１件 （②）

【備考】
① 奈良文化財研究所『古代官衙・集落研究会　古代地方行政単位の成立と在地社会　研究報告資料』2007.12
② 奈良文化財研究所『古代豪族居宅の構造と機能』2007.12
③ アンケート集計表
④ 研究集会参加者名簿

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０２８

1．定性的評価

観点	継続性	独創性	適時性	発展性	効率性	正確性
判定	S	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	参加者数	参加者満足度				
判定	S	S				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	参加者が100名の目標値を大幅に超え、アンケート回答者の97%から研究集会の内容が有意義であったとの評価を得たこと、昨年度集会の論文報告集を計画どおり刊行できたことから、全体としてAと評価した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	当初の計画どおり研究集会を実施し、昨年度の研究集会報告論文集も予定期日までに刊行でき、業務を順調に実現できた。今後は、こうした成果を活かし、官衙関係遺跡データベースの充実なども図り、情報の共有化を進めていきたい。

【書式B】
（様式1）

№ ２０２９

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ4（2）③）	遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。

【事業名称】	遺跡の測量・探査技術の有効利用法の研究 （Ⅰ4（2）③ウ）

【事業概要】
遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法を研究し、全国の遺跡調査の質的向上と発掘作業の効率化に資するべく、機器の更新と実地テストを通じたデータの収集と分析をおこなう。本事業は、現在の遺跡調査の実態に鑑み、従前の方法との乖離を埋めつつ、そうした技術の有効利用法を研究・提示することで、当該分野における指針としての役割を果たすことを目的としている。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	遺跡・調査技術研究室長 小澤毅

【スタッフ】
金田明大、西村康（客員研究員）

【年度実績概要】
関連機関の要請に応えるかたちで、平城宮東方官衙地区・石神遺跡・藤原宮跡・喜光寺（奈良県）、七ツ壇古墳群（福島県）、太閤堤・笠置城（京都府）、徳島城本丸・芝生城（徳島県）、瓦塚瓦窯（茨城県）、梶栗浜遺跡・大内氏館・凌雲寺（山口県）、赤穂城（兵庫県）、西都原古墳群（宮崎県）、中張窪石切場・伊豆山経塚（静岡県）、美山薩摩焼窯（鹿児島県）において、各種の手法による文化財探査を実施した。
また、三次元計測技術の応用研究を継続しておこない、三次元デジタイザおよびデジタル写真を用いた遺構・遺物の計測を実施した。とくに遺物の記録に関しては、中国遼寧省唐代墳墓出土資料の計測を実施した。
海外の学会では、CAA（ドイツ）、ISAP（スロバキア）で遺跡探査に関連した発表をおこない、CIPA（ギリシャ）では次回の京都大会開催について意見交換と情報収集をおこなった。一方、国内の学会としては、第2回ＤＤＣＨ（文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ）を主催し、国内外から 90 名を超える参加者を得た。また、日本遺跡探査学会でも発表をおこなった。
このほか、国内では測量外注過程における研修を実施し、国外ではベトナム・タンロン皇城遺跡で、基準点測量および現地の研究者を対象とした測量研修をおこなった。

【実績値】
発表件数： 4件（ＣＡＡ、ＩＳＡＰ、第2回ＤＤＣＨ、日本遺跡探査学会）
刊行図書数： 1件（①）
論文等数： 3件（②～④）
遺跡探査実施件数： 18 件
三次元計測資料数： 52 点
遺跡測量実施件数： 1件
測量研修実施件数： 2件

【備考】
① 『台帳の利活用法と土器の洗浄法』埋蔵文化財ニュース第 132 号、2008.3
② Nishimura Yasushi, Kaneda Akihiro: “Geophysical Survey at Tokushima Castle in Japan”,ISAP2007, 2007.9
③ 金田明大 「瓦礫に花を咲かせましょう」第1回文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ、2007.9（online）
④ 西村康・金田明大 「徳島城本丸地区の探査」日本文化財探査学会研究発表要旨集、2007.6

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０２９

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性		
判定	A	S	A	S		

備考
適時性：技術革新が進行するなかで的確な指針を欠く現況の改善
発展性：全国の遺跡調査への応用性と影響力
効率性：時間的投資・人的投資の効率化
継続性：事業中断以前を含めたデータの継続的収集

2．定量的評価

観点	遺跡探査実施件数	学会等発表件数	測量研修件数			
判定	S	S	A			

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	長い年月にわたり収集したデータやノウハウの蓄積を生かして、外部からの要請にも応えながら、数多くの実地調査と研究を積み重ねることができた。年度当初の目標値を超える遺跡探査実施件数や学会等発表件数とあわせて、総合的評価をＳと判定する。測量・探査ともに、遺跡調査への応用に関して地方公共団体や国外からの期待も大きく、今後、ナショナルセンターとして的確な役割を果たしていくことが必要である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	測量･探査関係業務の中断をへて昨年度から新たに立ち上げた本事業だが､すでに機器の導入や更新ができた分野については、テストや実際の運用を含めて、計画どおりの順調な進展を見せている。今後も事業を円滑に推進するために、RTK 対応可能の GPS や三次元レーザスキャナなど、現在の技術水準に適合した必要機材の早期導入を望みたい。機材の充実度で、韓国の国立文化財研究所など先進諸国に大きく立ち後れている現状が懸念される。

【書式B】
（様式1）

№. ２０３０

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ4 (2) ④）	木質古文化財の年輪年代測定法等を進め、考古学・建築史・美術史の研究に資する。

【事業名称】	年輪年代学研究 （Ⅰ4 (2) ④）

【事業概要】
遺跡出土木材、木造建築物、木造美術工芸品などの年輪年代測定を実施し、考古学、建築史学、美術史、歴史学研究に資する。とりわけ、当研究所で開発したマイクロフォーカス X 線 CT やデジタル画像による非破壊年輪年代測定法は、非破壊を原則とする文化財調査にとって理想的な調査手法であるので、これを積極的に活用して実施事例の拡充を図る。また、非破壊年輪年代測定法の対象範囲をさらに広げるべく新規の技術開発についても取り組み、知的財産権を確保する。これらの上記研究成果を、国内外で開催される学会、学術論文、各種報告書などに発表する。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	年代学研究室長 光谷拓実

【スタッフ】
大河内隆之、 伊東隆夫（客員研究員）、藤井裕之（客員研究員）、児島大輔（日本学術振興会特別研究員）

【年度実績概要】
考古学関連 7府県下9遺跡から出土した木材試料の年輪年代調査を実施した。なかでも、青森市新田(1)遺跡出土の井戸枠の年輪年代調査では、調査対象とした 30 点の部材の中に樹皮直下の木材組織を残すものがあり、1372 年に伐採されたヒバ材が井戸枠に使用されていたことが明らかになった。
建築史関連 国宝1棟・重文2棟を含む7府県下8棟の建造物に対して、年輪年代調査を実施した。特筆すべきは、長野県大桑村の池口寺薬師堂解体修理にともなう年輪年代調査である。調査対象とした 17 点の部材の中に面皮つきの板材が含まれており、1289 年に伐採されたヒノキ材が用いられていることが明らかになった。
美術史関連 国宝3点・重文1点を含む6府県下の 26 躯の木彫像ならびに4点の工芸品に対して年輪年代調査を実施した。特筆すべきは、滋賀県栗東歴史民俗博物館に寄託されている重文善勝寺千手観音立像の年輪年代調査である。従来、美術史的な所見から 10 世紀末～11 世紀初期の造像と見られていたところ、年輪年代調査によって 1010 年を上限とする 11 世紀初期のものであることが明らかになり、造像時期を絞り込むことになった。
埋没樹幹関連 滋賀県甲南町で発見されたヒノキの埋もれ木に対して年輪年代調査を実施し、664 年に伐採されたヒノキ樹幹であることが明らかになった。甲賀杣の存在を示す資料として貴重な成果である。
技術開発・国際協力関連 当研究室で世界に先駆けて開発したマイクロフォーカス X 線 CT 装置を用いた非破壊による年輪年代測定技術は、文化財における年輪年代調査の可能性を拡大する画期的なものとして、海外の研究者からも高く評価されている。ウィーン天然資源・応用生命科学大学との共同研究として、世界遺産に指定されているオーストリアのハルシュタットから出土した青銅器時代、鉄器時代、およびラテン時代の木製品 30 点に対して、当研究所にて非破壊年輪年代調査を実施した。

【実績値】
論文等数： 4件（①～④、うち1件は原著論文査読あり）
発表件数： 4件（⑤～⑧、うち1件は国際学会）

【備考】
① 光谷拓実・大河内隆之「年輪年代法による興福寺国宝板彫十二神将像の年代調査」『奈良文化財研究所紀要 2007』pp.40-41、2007.6
② 大河内隆之「年輪年代学におけるデジタル画像技術の活用」『埋文写真研究 2007』Vol.18、pp42-49、埋蔵文化財写真研究会、2007.7
③ 大河内隆之「國學院大學神道資料館蔵木造僧形坐像の非破壊年輪年代測定」『館報』Vol.8、pp. 6‐7、國學院大學神道資料館、2008.1
④ Kaori Saito, Takumi Mitsutani et al.: “Discriminating the Indistinguishable Sapwood from Heartwood in Discolored Ancient Wood by Direct Molecular Mapping of Specific Extractives Using Time-of-Flight Secondary Ion Mass Spectrometry”, Analytical Chemistry, Volume 80, pp.1552-1557, March 2008（査読あり）
⑤ 大河内隆之「マイクロフォーカス X 線 CT による木造彫刻の非破壊年輪年代測定」日本文化財科学会第 24 回大会、奈良教育大学、2007.6
⑥ 藤井裕之ほか「近世民家の用材とその樹種―大和・国中地方の一事例から―」日本文化財科学会第 24 回大会、奈良教育大学、2007.6
⑦ Takayuki Okochi, Takumi Mitsutani.: “Nondestructive dendrochronological study using micro-focus X-ray computed tomography for the analysis of a wooden sculpture of a seated monk housed in Kokugakuin University Shinto Museum”, The First Asia Dendrochronology Conference and Workshop, Bangkok, Thailand, September 2007
⑧ 光谷拓実「中尊寺金色堂、経蔵、および古文化財の年輪年代調査」文化財の解析と保存への新しいアプローチ国際シンポジウム、早稲田大学、2007.9

（様式2）

自己点検評価調書

No.　２０３０

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性	独創性	効率性	正確性
判定	S	S	S	S	S	S

備考
適時性: 考古学・建築史・美術史等に関連した木材から得られた年輪年代情報を、速やかに多くの研究者に提供した。
継続性: 各地域・各年代にわたる年輪データを継続的に集積している。
発展性・独創性: マイクロフォーカスX線CTによる非破壊年輪年代測定の技術は、当研究室で開発した独創的な技術であり、オーストリアとの国際共同研究へと発展した。
効率性: 年輪年代測定対象に応じて、年輪読取機による計測手法、デジタル画像計測手法、マイクロフォーカスX線CTによる非破壊年輪計測手法などを適材適所で選択し、効率的かつ効果的に研究を遂行した。
正確性: １年単位の精度で年代確定可能であるという年輪年代法の正確性は、本年度の研究においてもいかんなく発揮された（新田(1)遺跡、池口寺薬師堂の事例など）。

2．定量的評価

観点	論文等数	発表件数				
判定	S	S				

備考
論文等数は昨年度実績を上回り、発表件数も昨年度実績を維持している。

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	定性的評価における６項目、および定量的評価における２項目がいずれもSであることから、Sと判断した。とりわけ、オーストリアとの国際共同研究という年度当初の目標以上の成果へと発展したことに対しては、Sの自己点検総合評価に十分値するものと自負する。なお、当初計画に掲げている新規技術の知的財産権の確保については、特許出願をすでにおこなっており、現在、特許庁による審査待ちの状態である。この点については、審査期間が長期化している日本の特許制度下では当研究室の努力では如何ともしがたく、ひきつづき特許庁による審査結果を待つことにしたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
達成	当該年度における調査研究事業は、その進捗度からみて順調に実施できたと考えられる。さらに、当研究室で開発したマイクロフォーカスX線CTを用いた非破壊年輪年代測定技術が国際共同研究へと発展し、これは中期計画の当初目標以上の成果が達成されたものと判断される。本年度の目標達成に満足することなく、ひきつづき中期計画の遂行に邁進したい。

【書式B】

（様式1）

No. ２０３１

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ４ (2) ⑤)	遺跡出土の動植物遺存体や古土壌の考古科学的分析により、過去の生業活動の解明と環境復元を行う。

【事業名称】	動物遺存体による環境考古学研究 (Ⅰ 4 (2) ⑤)

【事業概要】

遺跡における古環境復元の研究法を確立する。とくに日本および周辺国各地の遺跡から出土した動物遺存体、および水洗選別で得られる植物遺存体の同定を行い、その歴史的意義を探る。また、動物骨、人骨にみられる傷跡から、その目的と使われた利器を推定する。骨角器とその製作の際に生じた廃材、素材、未成品、そして破損品の研究を通じて、骨角器の製作技法の復元的研究を行う。全国各地の遺跡から出土した動物遺存体の出土例のデータを収集する。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	環境考古学研究室長 松井章

【スタッフ】

橋本裕子（客員研究員）、丸山真史（京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程）、菊地大樹（京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程）、ルブナ・オマル（京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程）、廣藤紀子（京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程）、納屋内高史（京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程）、永井理恵（奈良教育大学）、樋廻理恵子、藤田芙美

【年度実績概要】

前年度に引き続き、韓国慶南考古学研究所が発掘した金海ヘヒョンニ貝塚の報告書作成のための指導、協力をおこない、3回韓国を訪問。12月1日から2月末日まで、研究員チョン・テジョン氏を貝塚研究の研修のため奈文研に受け入れた。金海貝塚の出土動物遺存体の整理によって、前1世紀には石器はほとんど用いられず、金属器に置き換わっていたこと、それにもかかわらず、金属器自体の出土がほとんど見られないことを明らかにすることができ、今後の日本の弥生文化との対比に大きな成果となる。7月に中国河南省で開催された考古科学国際会議に出席し、居徳遺跡出土の動物骨、人骨に見られる傷跡について発表をおこない、河南省出土の動物遺存体と骨角器の観察をした。その結果、青銅器時代の利器の鋭さを確認し、鉄器と遜色ないことがわかった。9月には米国オレゴン州のコロンビア川河畔のサンケン・ビレッジ遺跡の発掘に参加。水漬けのドングリ貯蔵穴を発掘し、縄文文化のそれとの共通性を論じる資料を得た。

中期計画の成果品『動物考古学の手引き』とその英文編 "*Fundamentals of Zooarchaeology in Japan and East Asia*"は、学術振興会科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を受け、『動物考古学—*Fundamentals of Zooarchaeology in Japan*』として、日英併記で京都大学学術出版会から公刊することができた。

大分県埋蔵文化財センターが発掘した大友宗麟館跡から出土した動物遺存体および骨角器の分析、報告を行い、従来、民俗例でしか知られていなかった、衝を使わず鼻を挟む棒の締め付けの強弱で意志を伝える馬具、オモゲーが、中世に鹿角製品として存在したことを証明した。また、同様の馬具が2年前に調査した英国シェットランド諸島の泥炭切り出しに従事していたポニーにも使われていたことを見出し、ユーラシア大陸の東西端で同様の馬具が使われていたことを明らかにできた。

【実績値】

標本作製（収集）数：魚類96点、鳥類20点、哺乳類7点

論文等数：著書1件（①）、論文4件（②③）、報告書12件、その他11件

発表件数：7件（International Conference of Zooarchaeology（中国鄭州）、第56回埋蔵文化財研究集会（和歌山海南市民会館）、東北文化研究室シンポジウム『ゴミの文化学–過去と現在–』（東北大学）、岩手県埋蔵文化財公開講座（岩手県民会館）、カリフォルニア大学バークリー校公開シンポジウム『縄文と環太平洋文化圏の考古学』④、『Society For American Archaeology 』2件（カナダバンクーバー）⑤⑥

【備考】

①松井章『動物考古学 Fundamentals of Zooarchaeology in Japan』京都大学学術出版会、pp.1-312、2008.2
②松井章「縄文人の食物利用」『季刊考古学』100、雄山閣、pp.32-35、2007.8
③松井章 「アメリカオレゴン州サンケン・ビレッジ遺跡」『考古学研究』216、2008.3
④松井章「東アジアの中の縄文—日本・韓国・中国の貝塚遺跡を中心として—」『縄文と環太平洋文化圏の考古学』カリフォルニア大学バークリー校公開シンポジウム、2008.3.21
⑤Matsui, A., and Peter Bleed 'Jomon Ecological Style, Agricultural origins, and the Delayed Appearance of Agriculture in Japan' *Society For American Archaeology*, 2008.3.27
⑥Maruyama, M., and A. Matsui 'Higashimyo Site, Saga City: Excavation and Findings' *Society For American Archaeology*, 2008.3.28

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０３１

1．定性的評価

観点	独創性	発展性	継続性			
判定	S	S	S			

備考
独創性：全時代をカバーする動物利用の歴史の解明。動物遺存体による日本文化史の構築
発展性：動物考古学から考古学全般、歴史学、民俗学、部落史、生物学への発展
継続性：現生動物骨格標本の追加による充実化、全国各地の遺跡出土動物遺存体の出土報告の追加

2．定量的評価

観点	論文数等	発表件数				
判定	S	S				

備考
論文等公刊件数：28 件
学会発表等件数：7 件

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	定性的評価は、第１期の中期計画の成果を、加筆、増補して『動物考古学』（京大出版会）として刊行することができたことが特筆でき、世界で初めての動物考古学の基本を網羅した教科書として、これから世界中で長く使い継がれるだろう。定量的評価も、論文数、学会発表など、英語文献、英語発表を含む多数の業績を挙げた。以上のことから、総合的に S と評価するのが妥当と考える。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順 調	第１期の中期計画の成果を、科学研究費（研究成果公開促進費）によって日英併記で公刊することができた。これは日本国内だけでなく、東アジア全体での唯一の教科書、概説書として広く、長く使い継がれるものと思われる。また、韓国金海ヘヒョンリ貝塚、中国各地の新石器時代から鉄器時代にかけての遺跡から出土した動物遺存体および骨角器の研究から、日本における縄文時代から弥生時代、古墳時代への骨角器の製作技法の変遷、系譜を明らかにできる目途がついてきた。

【書式B】
（様式1）

No. ２０３２

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（３）①）	生物被害を受けやすい木質文化財（社寺等建造物、彫刻など）の劣化診断や被害防止対策を確立する。

【事業名称】	文化財の生物劣化対策の研究（Ⅰ４（３）①）

【事業概要】
歴史的建造物や彫刻等、屋外環境に近い空間にある文化財は、生物被害を受けやすい環境にあるが、その劣化の早期検出や被害防止対策について、研究はまだ十分な状況とはいえない。本プロジェクトでは、特に屋外に近い環境に置かれた文化財の生物劣化対策を確立することを目標に、生物による被害の現況について集約し、早期発見のためのシステム作りや劣化の防止手法の開発など、保存科学的研究を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　石崎武志

【スタッフ】
木川りか、佐野千絵、山野勝次（客員研究員）、犬塚将英、吉田直人、（以上、保存修復科学センター）
トム・ストラング（カナダ保存研究所）

【年度実績概要】
（1）屋外等で使用する防黴剤についての検討
高松塚古墳の発掘・解体に伴い、取合部や断熱覆屋内で使用される木質系材料・土嚢などについて、現場作業に支障のない防黴処置について方法を検討し、実際に施工を行った（奈良文化財研究所との共同作業）。その結果、発掘・解体作業中、高湿度環境のなか、とくに作業環境の木質系材料などが黴に汚染されることなく、全工程の作業を終えることができた。
（2）歴史的建造物の仏像胎内納置物の殺菌処理の検討
歴史的建造物に安置される仏像の修理に伴い、胎内納置物を再びおさめる際にできるだけ菌の少ない状態で納めるため、殺菌燻蒸のあと、ＨＥＰＡフィルターを通して清浄空気を導入する方法を試行し、無事作業を完了した。
（3）歴史的建造物の黴の被害の調査と対策
歴史的建造物の地下の黴被害について調査をした結果、地下外壁部での水漏れが原因であることがわかった。建物周りの調査の結果、雨どいや空調機のユニットの排出水などが地下にしみこむ構造になっていることが明らかとなり、施設改善につながった。
（4）害虫侵入早期検出のための基礎研究
害虫侵入の早期検出手法について検討するにあたり、木質文化財の劣化診断についての研究会を行った。
研究会テーマ：　「木質文化財の劣化診断」　　平成 19 年 11 月 19 日（月）東京文化財研究所
害虫や菌類などの被害につねにさらされている歴史的建造物、彫刻など、屋外環境や開放空間にある木質文化財について、生物被害の劣化診断について、実践面のみならず理論的な面からも議論を行う。募集 50 名に対して、参加者 62 名。
＜プログラム＞

文化財建造物の劣化診断と維持管理　－診断例とその対策、今後期待される技術－	藤井　義久（京都大学大学院農学研究科）
木彫像内部の生物被害を見る　－文化財用Ｘ線ＣＴによる非破壊劣化診断－	鳥越　俊行（九州国立博物館）
温度による殺虫処理が木質文化財に与える影響の評価	Tom Strang (Canadian Conservation Institute)

【実績値】
論文数　2件　　(①, ②)
学会研究会等での発表件数　2件　　(③, ④)
研究会　1回

【備考】
①高松塚古墳発掘/石室解体作業に伴う取合部・断熱覆屋使用木材等の防カビ対策：ＤＤＡＣの検討（木川りか、間渕創、高妻洋成、降幡順子、肥塚隆保)『保存科学』47　pp. 21-28, 08. 3
②コンクリート壁面における付着真菌の累積挙動（間渕創、佐野千絵)、『保存科学』47　pp. 197-202, 08. 3
③キトラ古墳保存覆屋内の環境について(2)-土壌水分量推移と環境管理（佐野千絵、犬塚将英、間渕創、木川りか、吉田直人、森井順之、加藤雅人、降幡順子、石崎武志、三浦定俊）　日本文化財科学会第 24 回大会　奈良教育大学　07.6.2-3
④キトラ古墳のバイオフィルムから分離されたバクテリア・菌類に対するケーソンＣＧ相当品（抗菌剤）の効果（木川りか、佐野千絵、立里臨、喜友名朝彦、小出知己、杉山純多）　文化財保存修復学会第 29 回大会　静岡市民文化会館　07. 6. 16-17

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０３２

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	論文数	研究発表件数	研究会			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	現場調査、基礎研究の確実な実施、専門研究者間の交流、速やかな研究成果公開を果たし、本課題について必要不可欠な調査研究を実施することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本課題において重要な劣化診断について専門研究者との交流・情報収集を行うとともに、必要不可欠な調査と対策について現場での検討を行った。またそれに付随する基礎研究も併行し、その成果についても速やかに公開した。

【書式B】
（様式1）

No. ２０３３

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（３）②）	環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究および実践を行い、文化財を取り巻く保存環境の現状を把握し、改善することに資する。

【事業名称】	文化財の保存環境の研究（Ⅰ４（３）②）

【事業概要】
文化財を大切に保存し次世代に継承していくためには、文化財施設内の温湿度や空気環境を良好に保つ必要がある。しかし、現在の博物館、美術館では様々な問題を抱えている。さらに、空調設備のない神社・仏閣、倉などの施設や古墳などの環境は、より屋外環境に近く、その温湿度の変動は大きい。この５カ年のプロジェクトでは、文化財を取り巻く保存環境の現状を把握し改善することを目的として、様々な文化財を取り巻く環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究を行う。また、地方公共団体等が設置する文化財の収蔵・公開施設に対して、その依頼に応じて環境調査を行い、専門的・技術的な援助・助言を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】
佐野千絵、犬塚将英、早川泰弘、木川りか、吉田直人（以上、保存修復科学センター）、三浦定俊（副所長）、カリル　マグディ（外国人特別研究員、客員研究員）、小椋大輔、三村衛（以上、京都大学）、白石靖幸（北九州市立大学）

【年度実績概要】
本年度は、文化財施設内の温湿度解析の対象として、施設の耐震工事を計画している石水博物館千歳文庫を選択し、熱・換気回路網計算プログラムを用いて温湿度解析を行い、実測した温湿度データとの比較を行った。今回作成した計算モデルから得られた計算結果と実測結果は概ね対応したが、一部湿度に関して値の変動が、実測より大きくなる部分が見られた。これは、壁面の吸放湿性能をモデル化していないためと考えられる。今後、壁面の吸放湿性能をモデルに組み込むことにより、解析精度を上げていく予定である。
平成20年3月3日に開催した「金属試験片曝露による環境モニタリング」の研究会では、東大名誉教授の増子昇氏が「金属の錆び生成について」、東文研名誉研究員の門倉武夫氏が「金属片曝露による文化財影響試験の歴史」というテーマで講演を行った。これらの講演と空気モニタリングのための曝露試験の海外の状況などの情報をもとに、空気汚染物質による文化財への影響調査手法などの討論を行った。
建築材料の物性測定および環境の解析手法に関しては、客員研究員のカリル　マグディ氏をドレスデン工科大学に派遣して、プラーグ研究員と共同研究を行った。

【実績値】
論文等数　3件（①、②、③）
発表件数　3件（④、⑤、⑥）
研究会　1回

【備考】
①犬塚将英、龍泉寺由佳、石崎武志「石水博物館千歳文庫内の温湿度解析」『保存科学』47　pp.69-78, 08.3.
②犬塚将英、新田建史、石崎武志「静岡県立美術館における温熱環境の測定Ⅱ」『保存科学』47　pp.203-208, 08.3
③Magdi Khalil and Takeshi Ishizaki, Moisture Characteristic Curve of Tuff Bressia Stone 『保存科学』47　pp.11-20, 08.3.
④犬塚将英、新田建史、白石靖幸、石崎武志　静岡県立美術館における温熱環境の測定とシミュレーション解析、文化財保存修復学会第29回大会　静岡市民文化会館　07.6.16-17
⑤犬塚将英、石崎武志　コンピューターシミュレーションによる展示・収蔵施設の温湿度解析、文化財保存修復学会第29回大会　静岡市民文化会館　07.6.16-17
⑥松尾隆士、田中享二、石崎武志　コンクリート補強された煉瓦造建造物に見られる白華現象の低減方法の提案とその効果の検証　日本建築学会大会　福岡大学　07.8.29-31

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０３３

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	学術雑誌等への掲載論文等数	学会研究会等での発表件数	研究会			
判定	A	A	A			
備考						

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	美術館・博物館での環境調査、海外の研究者との情報交換、研究会の実施、学会や紀要での研究成果公表など予定通り実施し、高い調査研究水準を保つことができた。

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	2年目として、環境のシミュレーションに関する現地調査および基礎的な研究も行い、研究は予定通り進んでいる。

【書式B】
（様式1）

No. ２０３４

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４ (3) ③）	屋外文化財の保存・修復の手法を確立する。また、文化財の防災についてその予防と被災後の情報収集を行い、文化財防災のネットワーク化の一層の推進を図る。

【事業名称】	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（Ⅰ４（3）③）

【事業概要】
屋外に位置する美術工芸品、文化財建造物等は、周辺環境の変化が大きな劣化要因となる。本研究では、周辺環境が文化財に及ぼす影響を評価し、予測手法の確立や新たな保存修復技法や材料の開発を目的とする。また、石造文化財の保存修復に関して韓国・国立文化財研究所との共同研究を行う。詳細には双方で対象を設け（日本側：臼杵磨崖仏（大分県臼杵市）、韓国側：弥勒里石仏）、現地観測や修復材料の試験などを行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	副センター長　　川野邊　渉

【スタッフ】
早川　典子、森井　順之（以上、保存修復科学センター）、朽津　信明（文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】
石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について、周辺環境の観測を行った。また、その結果に基づいて劣化要因を解明し、その影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を試みた。
今年度の主な成果は次の通りである。
(1) 臼杵磨崖仏では今後の修復事業のために、劣化機構の把握を目的とした気象や岩体水分などの長期連続観測を実施している。特に今年は、ホキ2群の凍結劣化対策として寒冷時の覆屋閉鎖実験を実施し、その効果について評価を行った。また、植物繁茂を制御するための紫外線灯照射実験および照射後の植物除去実験を、臼杵磨崖仏・古園石仏群にて実施した。
(2) 木造建造物の腐朽に関して、富貴寺（豊後高田市）を対象に、腐朽菌や藍藻類の生息分布の調査およびその周辺環境に関する調査を行った。
(3) 今年度の大韓民国・国立文化財研究所との共同研究は、2007（平成19）年10月18日、東京文化財研究所・地下会議室にて研究報告会を開催した。また、研究報告会にあわせて韓国側研究員が来日し、石塔寺（滋賀県東近江市）の三重石塔をはじめとする近畿地方の石塔群について、その残存状況と周辺環境に関する現地調査を共同で実施した。

【実績値】
論文数　　3件（①～③）
発表件数　　4件（④～⑦）
報告書刊行数　1件（⑧）

【備考】
①朽津信明　「文化財石材の硬さに関する研究」　日韓共同研究報告書2007、pp.1-5、08.3
②森井順之　「臼杵磨崖仏における凍結破砕防止策について」　日韓共同研究報告書2007、pp.54-59、08.3
③早川典子・川野辺渉　「臼杵磨崖仏における表面処置について」　日韓共同研究報告書2007、pp.60-63、08.3
④森井順之　「臼杵磨崖仏における凍結破砕防止策の検討（2）―冷風浸入制御のための実験―」　日本文化財科学会第24回大会、奈良教育大学、07.6.2-3
⑤森井順之　「磨崖仏の凍結防止策の検討」　2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム　国立中央博物館（大韓民国）　07.11.1-2
⑥早川典子・川野辺渉　「臼杵磨崖仏における表面処置について」　国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告会2007　東京文化財研究所　07.10.18
⑦MORII Masayuki “Conservation Project of Usuki Stone Buddha in Japan” International Symposium on Conservation of Stone Cultural Properties, Kongju University (Korea), 07.11.23-24
⑧『日韓共同研究報告書2007』　東京文化財研究所／大韓民国文化財庁国立文化財研究所　70p　08.3

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０３４

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	報告書刊行数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	屋外に位置する美術工芸品、文化財建造物等の周辺環境の継続的な調査を実施し、文化財に影響すると思われる事象の予測手法の確立や新たな修復材料の開発に関しての情報収集、研究が実施され、より高い研究水準を保つことが出来た。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	第二年次として、重要な調査結果を継続して収集することが出来、また、各地の研究者との連携も可能となり、今後の研究を進める上で、重要な成果を得た。次年度以降も今年度の成果を元にさらに調査研究を発展させることが可能となった。

【書式B】
（様式1）

No. ２０３５

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４ (3) ③）	屋外文化財の保存・修復の手法を確立する。また、文化財の防災についてその予防と被災後の情報収集を行い、文化財防災のネットワーク化の一層の推進を図る。

【事業名称】	文化財の防災計画に関する調査研究（Ⅰ４（3）③）

【事業概要】
阪神淡路大震災などの大地震で被害を受けた文化財は数多く、また、1998（平成 10）年の台風 7 号による倒木の被害を受けた室生寺五重塔など、自然災害による文化財の被害の甚大さは記憶に新しい。本研究は、地震や台風などの自然災害から文化財を守るために必要な情報を、地理情報システム（GIS）を用いてデータベース化し、それを分析することで災害予測を行う。また、災害時の文化財救済活動や被災文化財の応急修復方法の確立も目的としている。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	副センター長　　川野邊　渉

【スタッフ】
中山　俊介、森井　順之、加藤　雅人（以上、保存修復科学センター）
二神　葉子（文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】
本年度は、能登半島地震、三重県中部地震、新潟県中越沖地震と大地震が立て続けに生じ、多くの家屋が倒壊するなど被害が甚大であった。これらの大地震により、その地域にある文化財は例外なく多くが被災した。
(1) 大地震発生後すぐ、強い震度地域に位置する建造物文化財の抽出を、東京文化財研究所で開発した GIS による文化財防災情報システムを用いて行った。発表する震度速報値を用いることで、比較的短時間で被災が予測される建造物文化財の抽出を行うことができた。
(2) 能登半島地震および新潟県中越沖地震により被災した文化財について現地調査を実施した。能登半島地震では主に輪島で、漆芸品の損傷状態の調査を実施、応急処置方法に関する助言を行った。新潟県中越沖地震では、2004 年の新潟県中越地震で被害を受けた長岡市の博物館を訪れ、2004 年の教訓を受け強化された耐震対策の実効性を確認した。
(3) 文化財防災情報システムを運用するにあたり、地震や台風など新しい災害情報や文化財の修復履歴などを簡単入力できるツールを開発した。また、地方公共団体で発行する防災地図とのカップリングにより浸水や地すべり危険区域を表示可能としたことで、様々な災害に対応できるように改良した。
(4) 第３回文化財の防災計画に関する研究会の講演録を編集し、報告書として刊行した。

【実績値】
発表件数　　1 件（①）
論文数　　1 件（②）
報告書刊行数　1 件（③）

【備考】
①二神　葉子「文化財ハザードマップについて―海外の事例を中心に」ミュージアム 21 研究会　国立民族学博物館　08.1.28
②森井　順之、青木　繁夫「6.6 文化財の強風被害（「６章　強風災害」より）」　『風工学ハンドブック―構造・防災・環境・エネルギー（日本風工学会編）』　pp.233-234　朝倉書店　07.4
③『文化財の防災計画に関する研究　第３回研究会―震災から美術工芸品をまもる―』　東京文化財研究所　56p　08.3

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０３５

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	報告書刊行数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	能登半島地震など2007年内に起きた大型地震の際に当システムを用いて災害範囲を推定できるなどの成果をあげ、文化財に関する各種データを有機的に当システムに取り込むことにも成功し、さらに有用性が向上していることが確認できた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	第２年次として、システムの運用に関する経験を蓄積すると同時に改良を進めることができた。将来における一般化に際して必要とされる貴重なデータを得られた。

【書式B】
（様式１）

No. ２０３６

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（3）④）	考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーX線 CT・CR 法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的研究を実施する。

【事業名称】	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究（Ⅰ４（３）④）

【事業概要】
考古資料の材質・構造の調査法に関して、１）考古遺物の完全非破壊非接触分析法としてのレーザーラマン分光法の応用をめざした標準試料および考古遺物のラマンスペクトルの収集蓄積ならびにデータベースの構築、短波長レーザーの応用可能性の検討、２）高エネルギーX線 CT 法およびX線 CR 法を応用した考古遺物の内部構造と材質推定法の基礎的研究、３）有機質遺物の分析法の実用化とデータベース作成、４）木製遺物に対する超臨界溶媒乾燥法の基礎的研究と実用化をめざした強化含浸薬剤の検討ならびに乾燥条件の基礎データの集積と検討、５）壁画古墳の保存に関する課題を広く検討するための保存科学研究集会の開催、に取り組む。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　肥塚隆保

【スタッフ】
高妻洋成、降幡順子、脇谷草一郎（企画情報部）

【年度実績概要】
１）標準資料および考古遺物のラマンスペクトルの収集をおこなった。
２）考古遺物のX線 CT 撮影、オートラジオグラフィおよびX線 CR 撮影をおこない、基礎的なデータを収集した。
３）昨年に引き続き、シンクロトロン顕微赤外分析法による出土絹繊維の埋蔵中の劣化について分析を進めた。
４）本年度は、強化含浸に用いる薬剤にリグノクレゾールを選択し、含浸濃度の違いと木材への吸着性について検討をおこなった。その結果、濃度を上げることで木材への吸着量も増大することが明らかとなった。
５）高松塚古墳の石室解体に関する報告をおこなうとともに、全国に存在する装飾古墳の保存についても言及し、問題点の共有とその解決方法に関する議論をおこなった。また、高松塚古墳の石室解体時に用いた治具などの公開・展示を実演をまじえておこなった。

【実績値】
発表件数： 13 件（文化財保存修復学会大会３件、日本文化財科学会大会７件、東アジア文化遺産保存国際シンポジウム３件）
論文等数： 22 件（①～㉒）
研究集会参加者数：126 名、発表件数 11 件

【備考】
① 肥塚隆保「日本の古代ガラス」『ガラスの百科事典』pp.40-45、2007.10
② 肥塚隆保「鉛バリウムガラスから発見された青色顔料」『ガラスの百科事典』pp.126、2007.10
③ 肥塚隆保「飛鳥時代に始まった鉛ガラスの製造」『ガラスの百科事典』p.58、2007.10
④ 肥塚隆保「イメージングプレートを利用した古代ガラスの識別」『ガラスの百科事典』p.114、2007.10
⑤ 降幡順子・田村朋美・肥塚隆保「イメージングプレートを用いた日本出土ガラス小玉の調査」『2007 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム』pp.291-292、2007.11
⑥ 橋本英将・植田直見・塚本敏夫・高妻洋成・大河内隆之・松尾昭子「鷹島海底遺跡出土大刀の構造復元ー「蒙古襲来」の考古学的検討へ向けて」『2007 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム』pp.33-38、2007.11
⑦ 片岡太郎・栗本康司・高妻洋成「リグノフェノールおよびセルロース誘導体を用いた出土木材の保存処理法の開発」『2007 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム』pp.297-298、2007.11
⑧ 片岡太郎・栗本康司・高妻洋成「セルロース誘導体を用いた出土木材の保存処理」『日本文化財科学会第 24 回大会研究発表要旨集』pp.258-259、2007.6
⑨ 片岡太郎・栗本康司・高妻洋成「リグノフェノールを用いた出土木材の保存処理Ⅲー材内における存在状態ー」『日本文化財科学会第 24 回大会研究発表要旨集』pp.260-261、2007.6
⑩ 片岡太郎・芦谷辰矢・黒田健一・栗本康司・高妻洋成「出土スギ材リグニンの化学構造の解析」『日本文化財科学会第 24 回大会研究発表要旨集』pp.262-263、2007.6
⑪ 高妻洋成・肥塚隆保・降幡順子・脇谷草一郎「クスノキ製刳り抜き井戸の真空凍結乾燥法による保存処理」『奈良文化財研究所紀要 2007』p.35、2007.6
⑫ 佐藤昌憲・後藤卓真・小滝雅也「ナノファイバー薄膜を用いる微量天然染料の分光学的測定」『日本文化財科学会第 24 回大会研究発表要旨集』pp.98-99、2007.6
⑬ 赤田昌倫・後藤卓真・佐藤昌憲・奥山誠義「出土絹製遺物の顕微赤外分析による研究」『日本文化財科学会第 24 回大会研究発表要旨集』pp.100-101、2007.6
⑭ 奥山誠義・佐藤昌憲・赤田昌倫・後藤卓真・森脇太郎・池本夕佳「出土有機質遺物に対するシンクロトロン顕微赤外分光法の応用～繊維資料を中心に～」『日本文化財科学会第 24 回大会研究発表要旨集』pp.206-207、2007.6
⑮ 奥山誠義・佐藤昌憲・今津節生・赤田昌倫・佐藤卓真「出土繊維製品の保存と再分析における前処理」『文化財保存修復学会第 29 回大会研究発表要旨集』pp.54-55、2007.6
⑯ 佐藤昌憲・奥山誠義・赤田昌倫・後藤卓真「顕微赤外分析法による出土植物繊維の材質同定」『文化財保存修復学会第 29 回大会研究発表要旨集』pp.56-57、2007.6
⑰ 佐藤昌憲「顕微赤外分析による出土繊維や漆などの材質同定」『奈良文化財研究紀要 2007』pp.32-33、2007.6
⑱ 降幡順子・肥塚隆保・中村大介「兵庫津遺跡出土青花（染付）磁器の自然科学的調査」『文化財保存修復学会第 29 回大会研究発表要旨集』pp.310-311、2007.6
⑲ 肥塚隆保・高妻洋成・降幡順子・山崎修・松本岩雄「重要文化財島根県加茂岩倉遺跡出土銅鐸の保存修理ー保存科学調査からー」『日本文化財科学会第 24 回大会研究発表要旨集』pp.270-271、2007.6
⑳ 高妻洋成・肥塚隆保・降幡順子・山崎頼人「小郡市寺福童遺跡４より出土した銅戈の保存修理」『奈良文化財研究所紀要 2007』p.34、2007.6
㉑ 肥塚隆保・高妻洋成・降幡順子「重要文化財加茂岩倉遺跡出土銅鐸の保存修理」『奈良文化財研究所紀要 2007』pp.36-37、2007.6
㉒ 降幡順子・脇谷草一郎・高妻洋成・肥塚隆保「国宝唐招提寺金堂顔料分析調査」『奈良文化財研究所紀要 2007』pp.38-39、2007.6

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０３６

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	S	S	S	S	S	
備考						

2．定量的評価

観点	発表件数	論文等数	研究集会参加者数			
判定	S	S	S			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	調査研究事業を当初計画どおり順調に達成することができたことから、総合的評価としてＳと判定した。保存・修復に関する実践的研究においては、超臨界点溶媒乾燥法の開発について、さらに薬剤含浸の検討を進める必要があり、次年度はこの点に関して重点的に取り組む予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の計画どおり実施できたことから、順調であると判定した。 次年度はこのペースを維持しつつ、とくに保存・修復に関する実践的研究においては超臨界点溶媒乾燥法の開発について、さらに薬剤含浸の検討を進める予定である。

【書式B】
(様式1)

No. ２０３７

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（３）⑤）	伝統的修復材料や合成樹脂などの物性、製作技法、利用技法に関する調査・研究をもとに、修復材料・技法の評価及び開発を行う。また、海外の文化財保存担当者を対象に、日本の修復材料の使用法や修理技術に関する研修などを行い本国での基本的な作品の取り扱いや保存処理に反映させる。

【事業名称】	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究（Ⅰ４（３）⑤）

【事業概要】
本プロジェクトでは、文化財修復材料について、製造法・適用法などを調査研究し、適正な文化財修復を行うための基礎を築くことを目的とする。
伝統的修復材料に関しては、製法・使用技法・材料物性などを研究することにより、伝統技術を記録し、その有効性を科学的に検証する。一方、近年、文化財修復に使用されるようになった合成樹脂に関して、その使用事例を再確認する。さらに、これらの調査や研究から得られた結果をもとに、現在の環境も踏まえ、より文化財修復に適した、技術や材料を開発することをも目的とする。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター 副センター長　川野邊渉

【スタッフ】
北野信彦、早川典子、加藤雅人　(以上、保存修復科学センター)

【年度実績概要】
・伝統的修復材料に関して、調査研究を行った。具体的には、建造物などに使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験を開始した。また、紙に関しては、収集した試料の繊維組成分析を行い、適切な紙を選ぶための基礎データを集積した。古糊に関しては各工房の使用状況について引き剥がし試験をもとに評価した。

・また、本年より、本研究所が携わった修復事業のうち、研究所が所蔵する資料を分類整理し、目録を作成し始めた。また、ネガフィルムなどの資料に関しては、デジタルデータ化を進めた。

・「漆芸品に用いられた金属の劣化」というテーマで第一回 伝統的修復材料および合成樹脂に関する研究会を開催した。
日時：平成20年2月27日 13:00～17:00
会場：東京文化財研究所 地階セミナー室
講演：
北野信彦（東京文化財研究所）
高橋隆博（関西大学）
北村昭斎（漆芸品修復技術者（重要無形文化財保持者））
成瀬正和（宮内庁 正倉院事務所）
佐野千絵（東京文化財研究所）

【実績値】
発表件数　2件（①、②）
論文掲載数　2件（③、④）
研究会開催数　1件
報告書発行数　1件（⑤）

【備考】
①早川典子、中右恵理子、木川りか、沖本明子、川野邊渉「絵画表面に用いる修復材料の基礎的研究　−壁画修復を中心に−」文化財保存修復学会第29回大会　静岡市民文化会館　07.6.17
②北野信彦 「出土資料である漆芸品に用いられた金属の劣化と保存処理」 第1回伝統的修復材料および合成樹脂に関する研究会『漆芸品に用いられた金属の劣化』　東京文化財研究所　08.2.27
③Noriko Hayakawa, Rika Kigawa, Tomoyuki Nishimoto, Kurara Sakamoto, Shigeharu Fukuda, Takayuki Kimishima, Yasuhiro, Wataru Kawanobe “Characterization of furunori (aged paste) and preparation of a saccharide similar to furunori” Studies in Conservation 52 (3)　07.10
④早川典子、中右恵理子、木川りか、沖本明子、川野邊渉「絵画表面に用いる修復材料の基礎的研究　−壁画修復を中心に−」『文化財修復学会誌』 53　2008.3
⑤『伝統的修復材料および合成樹脂に関する研究』　90p　08.3

(様式2)

自己点検評価調書

No. ２０３７

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	発表件数	論文数	刊行書発行数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	建造物などに使用する屋外漆塗装の耐候性、紙の分析手法、古糊の基本物性など、文化財の修復材料に関して有益な基礎的知見を収集することができた。本研究所が携わった修復事業のうち、研究所が所蔵する資料を分類整理し、目録作成を開始した。これにより成果の公開が容易になると考えられる。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本プロジェクトで実行してきた手法の有効性が明らかになってきており、それに伴い重要な知見も蓄積されつつあることから、計画の実施状況は順調である。次年度以降も引き続き、基礎的知見の収集と資料目録化を推進する予定である。

【書式B】
(様式1)

No. ２０３８

業務実績書

中期計画の項目 (Ⅰ 4 (3) ⑤)	伝統的修復材料や合成樹脂などの物性、製作技法、利用技法に関する調査・研究をもとに、修復材料・技法の評価及び開発を行う。また、海外の文化財保存担当者を対象に、日本の修復材料の使用法や修理技術に関する研修などを行い本国での基本的な作品の取り扱いや保存処理に反映させる。

【事業名称】	国際研修「漆の保存と修復」(Ⅰ 4 (3) ⑤)

【事業概要】
海外の美術館・博物館の保管する漆芸品は、乾燥した環境と保管状況の違いから塗膜の剥落や木地の割れなどの損傷を持つ作品が多い。そのため海外の日本美術品保管担当者や学芸員から漆芸品の保存と修復についての問い合わせが増加している。それらの疑問や問い合わせは、海外において日本の修復材料・技法に関する学習や作品の取り扱いに関しての経験が少ないためといえる。文化財研究所は、ICCROM と共同で１０カ国１０人の参加者を募り国際研修会を開催し、漆芸品の保存と修復についての研修を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター 副センター長　川野邊渉

【スタッフ】
北野信彦、早川典子、加藤雅人　(以上、保存修復科学センター)

【年度実績概要】
研修日程：2007（平成 19）年 9 月 10 日より 9 月 14 日まで
研修場所：東京文化財研究所、青森県（弘前市、八戸市）、岩手県（二戸市、平泉町）
研修対象：国際研修「漆の保存と修復」の受講者 12 名
研修内容： 報告および講演：9 月 10 日、11 日
報告 1： Suzanna SHAW, National Gallery of Victoria (Australia)
報告 2：Chenkyo Tshering DORJI, Freelance, Emeritus Professor (Bhutan)
報告 3： Balazs LENCZ, Hungarian National Museum (Hungary)
報告 4： Francesco CIVITA, Stibbert Museum (Italy)
報告 5： Mitra ETEZADI, Cultural Institute of Bonyad Museums (Iran)
報告 6： Margarita KIRCHNER, Arquinfad (Spain)
報告 7： Ya Hui LIU ZHOU, National Art Museum of Catalonia (Spain/Taiwan)
報告 8： Somtawin Pom NILVILAI, Bureau of the Royal Household (Thailand)
報告 9： Jurgen HUBER, The Wallace Collection (UK/Germany)
報告 10： Julia HUTT, Victoria & Albert Museum (UK)
報告 11： Brenda KENEGHAN, Victoria & Albert Museum (UK)
報告 12： Melissa CARR, Private conservator (USA)
講演：川野邊渉（東京文化財研究所）
スタディーツアー：9 月 12 日～14 日
弘前市（漆工房）、八戸市（八戸市博物館、八戸市縄文学習館）、二戸市（浄法寺町 滴生舎など）、平泉町（中尊寺）

【実績値】
報告者数　12 名
報告書発行数　2 件 (①、②)

【備考】
①『-Evaluation seminar, 2007- International course on conservation of Japanese lacquer』 90p 08.3
②『Textbook “Japanese lacquer ~Basics~”』 110p 08.3

(様式2)

自己点検評価調書

No. ２０３８

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	受講者数	刊行書発行数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	過去４回行われた国際研修「漆の保存と修復」の受講者から参加者を募り評価セミナーを行った。過去の受講者がそれぞれの職場で、本研修で得られた知識や経験がどの様に文化財の保存・修復・活用に利用できたかを講演して意見交換することにより、本研修の効果を確認すると共に、次回以降の研修をより充実させるための有効な意見が得られた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	評価セミナーで行い得られた意見から、本研修は、その効果が高く、海外における日本の文化財の保存・修復・活用および日本文化の理解に寄与していることが確認できた。また、今回得られた意見をもとに、次回以降、より充実した研修の開催が可能であることから順調に計画は進行している。

【書式B】
(様式1)

No. ２０３９

業務実績書

中期計画の項目 (Ⅰ4 (3) ⑤)	伝統的修復材料や合成樹脂などの物性、製作技法、利用技法に関する調査・研究をもとに、修復材料・技法の評価及び開発を行う。また、海外の文化財保存担当者を対象に、日本の修復材料の使用法や修理技術に関する研修等を行い本国での基本的な作品の取り扱いや保存処理に反映させる。

【事業名称】	在外日本古美術品保存修復協力事業（Ⅰ４（3）⑤）

【事業概要】
海外の美術館、博物館が所蔵する評価の高い作品の修復に協力し、併せて対象作品を所蔵している博物館等と共同で、保存修復に関連する研究を行う事業である。平成３年度から絵画を対象に事業を進めてきたが、平成９年度から工芸品など欧米の修復技術で修復の困難な分野にも協力対象を拡げた。
この事業により修復した作品の公開によって、わが国の修復技術に対する理解が深まり交流が促進されている。本事業の立案のために、欧米の美術館、博物館にて作品調査のほかに修復技術に関する討議を行い、併せて輸送手続きに関する協議を行っている。当研究所は修理内容の検討、修理作品の写真記録の作成および整理・保存、輸送手続きに責任を持って当たっている。
この修復協力事業によって修理された作品の公開展示回数が増すことは当然であるが、修復協力事業が契機となって所蔵の日本古美術品に対する関心が新たに高まりつつあり、欧米諸国では日本古美術品を所蔵する博物館の間でネットワークが構築されつつある。さらに、文化財保存の専門家の交流も促進され、わが国の文化財修復技術の普及と理解に対し効果をあげている。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター　副センター長　　川野邊　渉

【スタッフ】
中山　俊介、北野　信彦、加藤　雅人（以上、保存修復科学センター）、佐野　智典（管理部）、中野　照男、津田　徹英、塩谷　純、綿田　稔、江村　知子、城野　誠治、勝木　言一郎、皿井　舞（以上、企画情報部）、清水　真一、稲葉　信子（以上、文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】
平成19年度は、11館11点の作品を修復した（うち4点が18年度からの継続、2点が海外での修復（◆印））。
＜絵画＞
1)「日吉山王祭礼図屏風」　６曲１双　ヒューストン美術館
2)「多武峯維摩会本尊図」　１幅　キンベル美術館
3)「釈迦十六善神像」　１幅　オーストラリア国立美術館
4)「花鳥図屏風（波月等薩筆）」　６曲１双　ヴィクトリア国立美術館
5)「阿弥陀三尊来迎図」　１面　チューリッヒ・リートベルグ美術館　（2年計画の2年目）
＜工芸品＞
1)「花卉螺鈿ライティングビューロー」　１基　クラコウ国立美術館　（2年計画の2年目）
2)「楼閣山水螺鈿簞笥」　１基　キョッソーネ東洋美術館　（2年計画の2年目）
3)「源氏九曜紋蒔絵箔箱」　１合　フレンツ・ホップ美術館
4)「楼閣山水蒔絵箱」　１合　オーストリー応用美術博物館（2年計画の1年目）
5)◆「花樹鳥獣蒔絵螺鈿洋櫃」　１基　ケルン東洋美術館　（3年計画の2年目）
6)◆「月琴」　１挺　ウィーン国立民族学博物館

平成19年度、絵画の事前調査ではローマ国立東洋美術館3点、キョッソーネ東洋美術館3点、アシュモリアン博物館10点、ビクトリア&アルバート美術館7点、ベルン歴史博物館2点、イェール大学美術館10点、ブルックリン博物館6点、バンクーバー博物館1点、グレーター・ビクトリア美術館2点の調査を行った。また、工芸品はビクトリア&アルバート美術館5点、アシュモリアン博物館9点、市立ヴェルケ・メディジチ博物館9点、フラノフ城9点、レドニッチェ城9点、ムラビア美術館3点の調査を行った。また、平成18年度修復完了品を東京国立博物館において展示し、その修復成果を一般に披露した（平成19年5月15日～27日）。

平成18年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。

【実績値】
事前調査事業件数　　2件
修復件数　　11件
報告書刊行数　　1件（①）

【備考】
①『在外日本古美術品保存修復協力事業報告書　平成１９年度　（絵画／工芸品）』　229ｐ　　東京文化財研究所　　08.3

(様式2)

自己点検評価調書

No. ２０３９

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	調査件数	修復件数	報告書刊行数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今年度は１１館、１１点の作品の修復を実施した。海外においても、修復家を派遣し、修復作業を実施したとともに海外の修復家、学芸員などを対象にしたワークショップを開催した。このように海外における日本絵画や工芸品を修復したり、ワークショップを開催することによりその技術、取扱い方法を伝えるだけでなく再び展示することができるようになりその価値を高めることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度も引き続き、事前調査を実施しており、来年度、再来年度に向けて、修復する候補作品を抽出している。今後はより広範囲な美術館、博物館から、収蔵庫に眠っている価値ある日本絵画と工芸品を修復し、再度展示可能な姿にするべく努力を重ねる。また、海外において修復技術を伝えることにもなお一層の努力を傾注する。

【書式B】
（様式1）

No. ２０４０

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ4（3）⑥）	近代の文化遺産に特徴的な鉄、コンクリート、プラスチックなどの複合素材および技法について国際共同研究を実施し、その成果をもとに国内所在の近代文化遺産の保存修復に関する手法を開発する。

【事業名称】	近代の文化遺産の保存修復に関する研究（Ⅰ４（3）⑥）

【事業概要】
近代の文化遺産は、絵画、彫刻、木造建造物など従来の文化財とは、規模、材質、製造方法などに大きな違いがあるため、その保存修復方法や材料にも大きな違いがある。本研究では、近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。具体的には、大型構造物の劣化機構の解明とその修復方法の立案、航空機、船舶、鉄道車両などの保存修復上の問題点とその解決方法の究明を目指している。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	近代文化遺産研究室長　　中山　俊介

【スタッフ】
川野邊　渉、森井　順之、高橋　真実子、高尾　曜（以上、保存修復科学センター）、朽津　信明（文化遺産国際協力センター）、横山　晋太郎、長島　宏行（以上、客員研究員）

【年度実績概要】
今年度は近代化遺産の利活用に関する手法や問題点をテーマとして研究を行った。イギリスから航空機担当の主任学芸員兼主任技術者を、また、以前、海から引揚げられた旧日本軍機の修復作業を担当された方、日本航空協会からは、所沢の航空発祥記念館に所蔵されている、91 式戦闘機の保存修復に携わっておられる方などを招いて、それぞれの立場から航空機の保存と活用に関する検討会を平成 20 年 1 月 25 日に東京文化財研究所地階セミナー室にて実施した。さらに、ドイツ技術博物館の修復責任者を招いて、設計図面などに多く使われている青図の再発色に関する、双方の研究結果に関して検討会を平成 20 年 3 月 4 日に開催した。また国内における実地調査を平成 20 年 3 月 5 日から 7 日にかけて実施した。加えて、同修復責任者と、共同で研究している合成樹脂の劣化に関する検討会も実施した。
屋外展示されている鉄道車両や航空機などの金属を主体とする文化財の防錆対策のために各種サンプルを作成し小樽市総合博物館、船の科学館、かかみがはら航空宇宙科学博物館、大樹町多目的航空公園、海上自衛隊鹿屋航空基地での曝露実験も継続して実施している。これらの地点では、試料の受けた紫外線量をはじめ、温度、湿度などの測定も行い、これらの塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。屋外展示航空機の環境測定も継続している。

【実績値】
論文数　　4件（①～④）
発表件数　　2件（⑤～⑥）
報告書刊行数　3件（⑦～⑨）

【備考】
①中山俊介　「日本における鋼船の保存に関する問題点」　近代化遺産の修復のための問題点、pp.38-42、08.3
②中山俊介　「鉄道文化財の利活用について」　鉄道遺産の活用、pp.6-10、08.3
③中山俊介　「路面電車の運用と文化財の保存」　鉄道遺産の活用、pp.43-50、08.3
④中山俊介　「初代南極観測船“宗谷”の文化財的価値及び保存修復に係る調査研究」　初代南極観測船“宗谷”の文化財的価値及び保存修復に係る調査研究　報告書　08.3
⑤中山俊介　「航空機の保存と活用」　近代の文化遺産の保存修復に関する研究会、東京文化財研究所、08.1.25
⑥中山俊介　「Country Report –Japan-」　BIG STUFF '07　Beyond Conservation – Industrial Heritage Management　Deutsches Bergbau Museum(Germany)　07.9.12
⑦『近代化遺産の修復のための諸問題』　東京文化財研究所　　48p　08.3
⑧『鉄道遺産の活用』　東京文化財研究所　　96p　08.3
⑨『初代南極観測船「宗谷」の文化財的価値及び保存修復に係る調査研究　報告書』　東京文化財研究所　　107p　08.3

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０４０

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	論文数	発表件数	報告書刊行数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	近代文化遺産の保存と活用について、各種の調査及び関係する専門家を招いた研究会を開催した。今後の修復材料の開発、修復技法の開発に関する重要な成果を得る事が出来た。また、現地調査や研究会を通じて近代文化遺産の重要性を多くの方々に認識いただいた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	第二年次として、継続している現地調査から重要な調査結果を収集することが出来、また、研究会を通じて多くの研究者との連携も可能となり、今後の研究を進める上で、重要な成果を得た。次年度以降も今年度の成果を元にさらに調査研究を発展させることが可能となった。

【書式B】
（様式1）

No. ２０４１

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ４（4））	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化保護政策上、重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【事業名称】	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力（Ⅰ４（4））

【事業概要】
キトラ古墳：石室内の環境調査と壁画の取り外し作業を実施
高松塚古墳：石室解体のための発掘と環境・生物および壁画の養生・修理に関する調査・研究を実施

【担当部課】	副所長・保存修復科学センター（東文研） 都城発掘調査部（飛鳥藤原地区）、埋蔵文化財センター、文化遺産部（奈文研）	【事業責任者】	副所長　三浦定俊（東文研） 副所長　巽淳一郎（奈文研）

【スタッフ】
石﨑武志、佐野千絵、木川りか、吉田直人、犬塚将英、間渕創、川野辺渉、北野信彦、森井順之、加藤雅人（以上、東文研）
松村恵司、廣瀬覚、内田和伸、井上直夫、中村一郎、豊島直博、岡田愛、加藤雅士、石田由紀子、玉田芳英、村上隆、高橋克壽、肥塚隆保、高妻洋成、降幡順子、脇谷草一郎、高瀬要一（以上、奈文研）
宮原晋一（奈良県教育委員会）、岡林孝作（奈良県立橿原考古学研究所）、相原嘉之、長谷川透（明日香村教育委員会）、花谷浩（出雲市教育委員会）高橋克壽（花園大学）片山一道（京都大学大学院理学研究科）

【年度実績概要】

キトラ古墳

平成 19 年度は東西壁の無地部分の剥ぎ取りをワイヤソー、バンドソーにて行った。天井は無地部分、朱線部分、星宿部分の劣化が著しい箇所を優先的にヘラによる剥ぎ取りを行った。平成 20 年 1 月には日像の剥ぎ取りを行った。

環境ステーションによる保存施設内外の環境データ計測を継続して行った。また保存施設内では浮遊菌調査を約２回／月で実施し菌種と汚染状況を把握し、施設の清浄化を監視した。

この他、発掘調査報告書の編集、刊行を行った。これは平成 14 年度から 16 年度の３ヶ年に渡る調査の正式報告書であり、遺構、遺物の記載をはじめ、関連調査として金属製品や人骨、漆喰、石材等の分析を行い、キトラ古墳について総合的な考察を加えたものである。また、壁画についてはフォトマップを提示した。

高松塚古墳

平成 19 年度は 4 月初めから石室解体が始まったが、石室が不安定であったために支保工の設置など万全の対策を講じながら、解体作業と並行して石室細部の調査を行った。その結果、石材接合部に厚く塗られた目地漆喰や小口部の合欠、天井石と南北壁石の側面に穿たれた梃子穴、床石面の水平を出すために使用されたと思われる水準杭の痕跡などが見つかった。また、最終的に床石下の版築や地山面の状況を確認し、古墳構築過程の全容を解明する上で重要な成果を得た。

外気の温度、湿度変動の影響を受けて壁画に結露や乾燥の問題が生じる事を防ぐため、石室上部に内部断熱覆屋および空調設備を設置した。内部断熱覆屋内の設定温湿度は、壁画のある石材の取上が終了する 6 月 26 日までは、10℃、90%に設定したが、その後状況に応じて温湿度を変えた。 8 月 21 日に床石の取り上げが完了したので、 9 月 7 日に内部断熱覆屋内の空調を止めた。

石室解体作業に際して、現地にて壁画の養生作業を行った。搬入された壁画に対しては経過観察を行い、修理に必要な損傷図面の作成を順次始めた。また漆喰面を広く覆っている黒いかび及びバイオフィルムによる汚れの除去方法の開発評価を行った。

解体に際して予め取り外した遊離石材を含浸強化し、破片同士の接合および整形処置を行なった。また、いくつかの石材には石材を破断する大きな亀裂を有するものもあり、ワイヤーとターンバックルおよびコーナー部の保護金具などを用いた実験をおこない、保護拘束具を試作した。

石室解体・搬出作業開始に伴い、微生物による汚染の状態や分布を正確に把握するため、試料のサンプリングを行い、重要度の高い試料から順次直接顕微鏡観察、微生物分離・同定作業などを進めた。微生物分離・同定作業は現在まだ進行中であるが、菌類の詳細な同定結果により、その由来や生理的性状などについて推定する際に有効な情報が得られつつある。

【実績値】
キトラ古墳：論文数１編①
高松塚古墳：論文数２編②ー③

【備考】
①佐野千絵、犬塚将英、間渕創、木川りか、吉田直人、森井順之、加藤雅人、降幡順子、石﨑武志、三浦定俊：キトラ古墳保護覆屋内の環境について(3)ーカビ点検報告記録の解析ー、保存科学、47 号、135-172（2008）
②松村恵司：石室解体修理事業に伴う発掘調査、月刊文化財、532 号、16-21（2008）
③高松塚古墳石室解体時の壁画保存のための温湿度環境の制御（小椋大輔、犬塚将英、鉾井修一、石崎武志、北原博幸、多羅間次郎）、保存科学、47 号、1-10（2008）

（様式2） 自己点検評価調書 No. ２０４１

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	援助・助言実施件数					
判定	A					
備考						

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	キトラ古墳、高松塚古墳ともに、今後、古墳壁画の保存を進めていく上で重要な資料を得た。

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	高い調査研究の水準で事業を進めることができた。

【書式B】
（様式1）

№. ２０４２

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ４（4））	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【事業名称】	外部機関の要請に基づく文化財の保存修復に関する実践的研究 （Ⅰ４（4））

【事業概要】
国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査及び研究を実施する。

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長 肥塚隆保

【スタッフ】
高妻洋成、降幡順子、脇谷草一郎（企画情報部）、岡村道雄（企画情報部）

【年度実績概要】
奈良県黒塚古墳より出土した鉄製品（東棺外鉄製品一括）の保存修理にともなう事前調査ならびに保存修理を実施し、報告書を作成した。
秋田県漆下遺跡より出土した漆関連遺物について、X線 CT による撮影、FT-IR 分析、X線透過撮影をおこない、縄文時代の漆工芸技術に関する情報を収集し、年次報告書を作成した。
群馬県万蔵寺廻り遺跡より出土した炭化糸に対して、X線 CT による撮影、FT-IR 分析、X線透過撮影、顕微鏡観察をおこない、糸巻きの構造および糸に関する考古学的な情報を収集し、報告書を作成した。
長野県社宮司遺跡より出土した六角木幢の保存処理を継続し、年次報告書を作成した。
大分県日田市のガランドヤ古墳の保存整備事業にともない、古墳周囲の環境および石室内の環境を調査するために、気象観測ステーションを設置し、気象観測を開始した。また、石室周囲の土中の水分状態等を調査するため、比抵抗映像法による測定をおこない、保存処置に関する重要な情報を提示した。

【実績値】
報告書数： 5 件 （① ～ ⑤）
調査・処理点数： 22 点（重要文化財黒塚古墳出土鉄製品の事前調査と保存修理：東棺外鉄製品一括 1 点、漆下遺跡漆関連遺物の調査：20 点、万蔵寺廻り遺跡出土炭化糸の調査：1 点）

【備考】
① 重要文化財奈良県黒塚古墳出土品事前調査ならびに保存修理報告書
② 秋田県漆下遺跡出土漆関連遺物分析調査年次報告書
③ 群馬県万蔵寺廻り遺跡出土炭化繊維遺物の分析調査年次報告書
④ 長野県千曲市社宮司遺跡出土の六角木幢保存修復委託事業年次報告書
⑤ 史跡ガランドヤ古墳の保存整備に伴う環境調査報告書

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２０４２

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	S	S	S	S	S	
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
S	受託期間内において、本年度の計画を予定どおり遂行し、良好な成果を挙げることができたことから、総合的評価として S と判定した。継続事業については、今後、計画どおりに遂行する予定である。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	受託期間内において、本年度の計画を予定どおり遂行したことから、当事業は順調であると判定した。継続事業については、今後、計画どおりに遂行する予定である。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2101

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 1) 特別調査法隆寺献納宝物 (第 29 次)「聖徳太子絵伝」第 3 回

【事業概要】
聖徳太子の事績を描いた日本最古の遺品である「聖徳太子絵伝」(もと法隆寺絵殿の障子絵) の制作について、本紙 (立涌文綾)、彩色など、彩作当初 (1069 年) の姿がどのようなものであったかを、肉眼観察および科学的な分析によって調査研究する。科学研究費補助金 (基盤研究 A) による「法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究」とリンクさせる。

【担当部課】	文化財部	【事業責任者】	上席研究員　松原　茂

【スタッフ】
島谷弘幸 (文化財部長)、松原茂 (上席研究員)、原田一敏 (上席研究員)、澤田むつ代 (上席研究員)、田沢裕賀 (列品課列品室主任研究員)、救仁郷秀明 (事業企画課特別展室長)、松嶋雅人 (展示課平常展室主任研究員)、行徳真一郎 (保存修復課保存修復室主任研究員)、沖松健次郎 (事業企画課出版企画室主任研究員)、小山弓弦葉 (展示課平常展室研究員)、神庭信幸 (保存修復課長)、和田浩 (保存修復課環境保存室研究員)、小林達郎 (文化庁文化財部美術学芸課文化財調査官)、若杉準治 (京都国立博物館学芸課列品管理室長)、谷口耕生 (奈良国立博物館学芸課保存修理指導室研究員)、中野照男 (東京文化財研究所企画情報部長)、村重寧 (早稲田大学文学学術院教授)、東野治之 (奈良大学文学部教授)、三浦定俊 (東京文化財研究所副所長)、早川泰弘 (東京文化財研究所保存修復科学センター分析科学研究室長)

【年度実績概要】
5 年計画の第 3 年目。10 面のうち第 5 面と第 6 面について、外部の研究者も交え、絵画および染織の専門家が肉眼および拡大写真による入念な調査を行い、まず現状の図様が聖徳太子の事蹟のどの場面をどのように表しているのかを検討し、内容を特定した。その成果を、10 月 29 日より公開したミュージアムシアターのコンテンツ「聖徳太子絵伝」に反映した。また、第 1 年度に調査した第 1･2 面について、図様の紹介と内容の検討を詳細に示した概報を公刊した。科研の補助金により、第 1 面から第 6 面までの各面を 32 分割 (レンズの収差を補正するため、実際は各面 153 カット) で撮影した高精彩デジタル画像を連結して 6 面分の大画像を製作した。18 年度までにデジタル化した X 線写真を同様に連結し、第 1～10 各面の大画像を製作した。

【実績値】

調査および検討会		5 回 (内 4 回は科研費による)	
収集資料点数	デジタル高精細画像	924 点	(科研費による)
	デジタル高精細連結大画像	6 点	(科研費による)
	デジタル X 線連結大画像	6 点	(科研費による)
	4×5 スチール写真画像	50 点	(科研費による)
調査概報の刊行		1 冊	

聖徳太子絵伝第 5.6 面

【備考】

【書式B】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2101

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

「法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝」の調査研究の成果として、17 年度に調査した第 1,2 面の調査概報を刊行する作業の中で、調査方針の再検討とその方法を確立し、それにしたがって調査を進めることができた。科学研究費補助金によって、外部研究者の補充ができ、調査研究の正確性が増した。

２．定量的評価

観点	調査回数	収集資料数	調査概報			
判定	A	A	A			

備考

科学研究費補助金を活用して、調査検討会を 6 回開催し、充実した調査および内容の検討ができた。また、デジタルによる新規撮影が順調に進んだ。さらに、昭和 40 年代に分割撮影した X 線写真（17～18 年度にデジタル化）を連結し、デジタル撮影の全図と対照できるようにした（一部 20 年度に継続)。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	法隆寺献納宝物の「聖徳太子絵伝」は、美術史上重要な作品であるにもかかわらず、従来、10 面からなる特大画面の詳細な図版が公刊されていなかった。19 年度から始まった概報公刊が寄与するところは大きい。顔料分析に充分な時間が割けなかったのが今後の課題である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	5 年計画の中で、調査研究は順調に進んでいる。概報の公刊が 2 年ずつずれるのは当初からの予定である。今後もこのペースを維持しつつ、さらに顔料分析など科学的な調査の充実をはかりたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2102

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展、海外展の事前調査の実施 2) 特別調査「書跡」第 4 回（17 年度写経 1 回、18 年度写経 2 回実施）

【事業概要】

東京国立博物館における文化財の中の書跡の特別調査。17 年度、18 年度の写経に続き、19 年度は古文書の特別調査を東京・京都・奈良の国立博物館と文化庁の書跡担当者が共同して実施し、今後の展示や研究の進展の向上に結びつけることを目的とする。

【担当部課】	文化財部	【事業責任者】	文化財部長　島谷弘幸

【スタッフ】

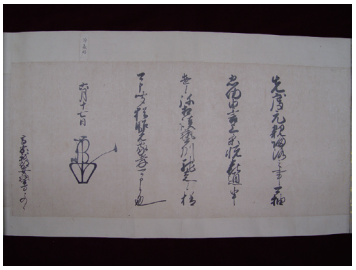
東京国立博物館：島谷弘幸（文化財部長）、松原茂（上席研究員）、高橋裕次（情報課長）、田良島哲（情報課情報管理室長）、富田淳（列品課列品室長）、丸山猶計（事業企画課特別展室研究員）、高梨真行（列品課列品室研究員）
京都国立博物館：赤尾栄慶（学芸課企画室長）、羽田聡（学芸課企画室研究員）
奈良国立博物館：湯山賢一（館長）、西山厚（学芸課教育室長）、野尻忠（学芸課情報サービス室研究員）
九州国立博物館：藤田励夫（博物館科学課保存修復室長）、東　昇（文化財課資料管理室研究員）
文化庁：池田寿（文化財部美術学芸課主任文化財調査官）、横内裕人（同文化財調査官）

【年度実績概要】

東京国立博物館所蔵の書跡作品から古文書 22 件の調査を実施した。各文書の形状、奥書、書写年代、紙質などを調査。

【調査作品実績】

B-1253 土佐家文書　10 巻
B-1721 諸寺院文書　2 巻
B-1755 古文書　2 巻
B-1773 里見家伝来文書　1 巻
B-1799 古文書　20 通
B-1943 豊臣秀吉宛行書　1 巻
B-2060 香宗我部文書　6 巻
B-1861～1875 白河結城家旧蔵文書　計 15 通
計　列品 22 件　57 点　古文書総数　約 300 通



B-2060 香宗我部文書 6 巻 の内の第 3 巻「将軍足利義昭御内書」

【備考】

【書式B】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2102

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	B	A	B	A	

備考

すでに、4 回を数えているが、法人化以前においては、企画されなかった共同調査である。調査時代については、個々の機関、あるいは個人において進められていたものであるが、個人や機関で得た知見を共有することによって、研究のいっそうの進展が見込まれる。

２．定量的評価

観点	調査作品数					
判定	A					

備考

【調査作品実績】に掲げたように、年度計画に策定することで、計画的に B-1253 土佐家文書 10 巻、B-1721 諸寺院文書 2 巻、 B-1755 古文書 2 巻 、B-2060 香宗我部文書 6 巻など都合 22 件で、古文書総数約 300 通におよぶ調査が出来た。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化庁ならびに国立博物館の専門研究者が一堂に集まり、調査を行い、新知見も得られた。各機関の研究者が集まることで、最新の研究結果を反映させた知見を共有でき、今後の研究および陳列に寄与する点が多い。20 年度以降も継続する。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ 17 年度、18 年度に引き続き比較的堅調に実現できたと考える。 調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、目録作成やデータベースの公開や展示に力を注ぎたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2103

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	（5）有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ 収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 3）特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神屏風を中心に

【事業概要】

尾形光琳の「紅白梅図屏風」（MOA 美術館蔵）の金地が金箔ではなく、金泥によるものだという調査結果が注目されている。これをうけて、当館が収蔵する光琳の「風神雷神図屏風」をはじめ、各派各時代の金地屏風を、同条件の下で調査し、金地についての客観性のあるデータを蓄積することを目的とする。

【担当部課】	文化財部	【事業責任者】	上席研究員　松原　茂

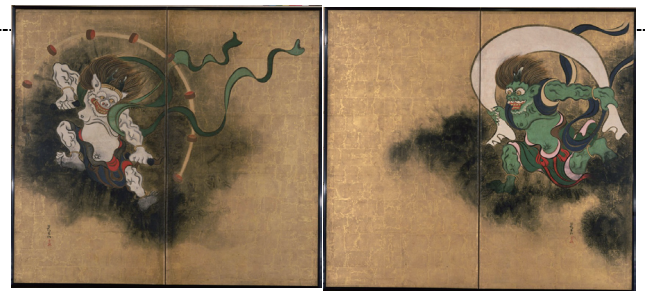
【スタッフ】

松原茂（上席研究員）、田沢裕賀（列品課列品室主任研究員）、救仁郷秀明（事業企画課特別展室長）、松嶋雅人（展示課平常展室主任研究員）、和田浩（保存修復課環境保存室研究員）

【年度実績概要】

偏りのないデータを収集するために、調査対象とすべき金地屏風を選定し、18 年度に試験的な調査を試み、19 年度は本格的な調査に入る予定であったが、一部科学分析のサンプル調査を行った結果、より客観性のあるデータを蓄積するため、18 年度に引き続き、調査対象とすべき金地屏風の選定見直しと、データの評価の方法論について検討を行った。

【実績値】



風神雷神図屏風　尾形光琳筆

【備考】

【書式B】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2103

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	B	A	B	C	

備考

本調査は、現在注目されている金地作品の箔使用に関する調査で、多くのサンプルからデータを集めることで、各時代のさまざまな流派の絵画制作上の特徴をより客観的に研究する基礎調査としてきわめて重要なものである。19 年度は、作品の選定、サンプルの収集法など、調査方法について統一的かつ組織的な調査体制を組むことが出来なかった。

２．定量的評価

観点	調査作品数					
判定	C					

備考

他の業務との組織的調整がうまくいかず、計画的に調査を組むことが出来なかった。そのため、客観的なサンプリング調査となるような量のデータを集めるにいたらなかった。20 年度には、他業務との調整を図り、十分な作業時間を確保することで、調査を計画的に実施したい。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	各派・各時代の屏風のサンプルを均等に集めるための作品選定および、どこに客観性の基準を設定するかの方法論の確立に時間を費やしている。20 年度は、再度方法論を確立しつつ、計画的な調査を行い、実績を上げたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	予定の作業が充分にこなせず、成果が出せなかった。担当者がそれぞれ大きな展覧会準備にかかわっており、時間的な余裕がなかったことも事業の進展に支障をきたしている。業務を整理し、時間を有効に活用できるよう、綿密な計画を立てる必要がある。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2104

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	（5）有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ｖ修復文化財に関する調査研究 4）応挙館障壁画の復元に関する調査研究

【事業概要】
大日本印刷株式会社の特別協力を得て、応挙館の一の間、二の間の障壁画をすべて、デジタル画像処理によって複製するための調査研究を行い、その成果として複製を完成させ、応挙館の室内空間を復元することによって、一般に公開する。
とりはずした障壁画については、必要な修理を行い、随時、平常展において一般公開する予定である。

【担当部課】	文化財部	【事業責任者】	上席研究員　松原　茂

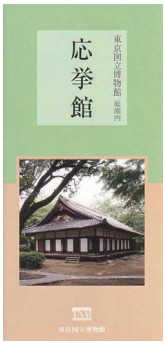
【スタッフ】
神庭信幸（保存修復課長）、田沢裕賀（列品課列品室主任研究員）、救仁郷秀明（事業企画課特別展室長）、松嶋雅人（展示課平常展室主任研究員）、須賀信介（研究支援者・経理課係長（設備担当））

【年度実績概要】
大日本印刷株式会社の特別協力を得て、応挙館の一の間、二の間の障壁画をすべて、デジタル画像処理によって複製するための調査研究を行い、その成果として全画面の複製を完成させた。これによって応挙館の室内空間が復元されることによって、一般に公開することが可能となった。
複製画製作にあたり行った調査研究の成果をパンフレットにまとめ、来館者に供することができた。
とりはずした障壁画については、必要な修理を行い、随時、平常展において一般公開するため、適切な修理方法を調査検討した。

【実績値】
複製画　水墨画 50 枚
デジタル撮影のための応急修理　水墨画 2 枚
応挙館紹介パンフレット　30,000 枚

複製画

応急修理



パンフレット

【備考】

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2104

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

高度な複製技術により、文化財保存の観点から全体像を把握することが困難であった応挙館の室内空間の本来の絵画表現を考察することができることとなった。この調査研究により、建築物に付随する障壁画の保存と公開について、汎用できる方法論とデータを得ることができた。

２．定量的評価

観点	複製数	応急修理件数	パンフレット配布数			
判定	A	B	A			

備考

応挙館の室内全体が原画の調査研究をもとに、緻密に校正を経た 50 枚の複製画によって復元されたことで、応挙館を一般に公開することが容易となった。また参考資料（パンフレット）を作製したことで、一般の観覧者が、室内空間の全体像をより的確に把握することが可能となった。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究を重ねたことにより、すべての障壁画の複製画を完成し、応挙館室内の復元が完成したことで、当初の室内の画面構成を一望することが可能となった。このことにより、今後の複製画製作の重要な指針を得ることができた。 さらに、とりはずした障壁画の修理実施の方針を立てる上で、重要な参考資料とすることができる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業によって、複製画が完成し、応挙館室内の復元が完成した。 今後は、とりはずした障壁画の修理実施のため、適切な修理方法を決定するため、調査研究をさらに進めていく。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2105

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 5) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究

【事業概要】

東京国立博物館が所蔵する漢籍・洋書に関する書誌学的調査である。これらは、博物館草創期の明治時代初期に、文部省より引き継いだ江戸幕府旧蔵資料を中心とする資料群よりなっている。また洋書にはドイツ人医師シーボルトより献納された数百冊を含んでいる。詳細調査を実施し、その学術的意義を明らかにする。

【担当部課】	情報課	【事業責任者】	情報課長　高橋裕次

【スタッフ】

田良島　哲（情報課情報管理室長)、松田　清（当館客員研究員・京都大学大学院人間・環境学研究科教授)

【年度実績概要】

19 年度は、東京国立博物館の所蔵する洋書のうち、シーボルト献納本など、江戸時代の蘭学研究上に重要なオランダ関係の洋書に焦点をしぼって、その詳細調査を行った。これによって得られた書誌情報をもとに、その学術的意義を明らかにした。研究成果は、20 年度に東京国立博物館研究誌『MUSEUM』にて報告予定である。

【実績値】

調査件数　約 95 件、調書作成点数　95 点、写真撮影点数　40 点、データ入力点数　95 点、
報告書作成件数　85 件

【備考】

【書式B】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2105

（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

本調査は江戸幕府旧蔵資料の総合的研究と並行して行っており、シーボルト献納本などについて、洋書としての位置づけがより明確になったことが大きな成果である。今後は、イギリス、フランス、ロシアなどの洋書について、引き続き、詳細調査を実施する予定である。

２．定量的評価

観点	調査件数	調書作成点数	写真撮影点数	データ入力点数	報告書作成	
判定	A	A	B	A	A	

備考

明治初期以来、博物館に収蔵されるにいたった洋書のうち、オランダ関係の資料、とくにシーボルト献納本について、詳細調査を行い、合計約 100 点の書誌データを収集し、1 点ごとの写真撮影（部分）を実施した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	シーボルトが献納した洋書のうち、オランダ関係について、その全貌を把握することができた。今後は、イギリス、フランス、ロシアなどの洋書について、引き続き、詳細調査を実施する予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	これまで東京国立博物館の所蔵する漢籍・洋書については、悉皆調査が行われたことがなく、その存在はあまり知られていなかった。本研究では、帝室博物館の時代に所蔵していた漢籍・洋書のまとまりとしての意義を重視している。調査では、漢籍・洋書の全体のリストを作成し、将来的には、画像データベースを情報アーカイブで公開することを目標としたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2106

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 6) 館蔵博物図譜の調査研究（研究成果公開促進費補助金）

【事業概要】

当館が所蔵する江戸時代末から明治時代前期頃に制作された 70 件 400 冊の博物図譜の画像をデータベース化するものである。

【担当部課】	東京国立博物館所蔵博物図譜データベース作成委員会	【事業責任者】	情報課長　高橋裕次

【スタッフ】

丸山士郎（列品課主任研究員）

【年度実績概要】

東京国立博物館所蔵の博物図譜資料のうち、『植物集説』61 冊、『随観写真』10 冊、『四季草木図譜』35 冊、『阿波産志』57 冊、『成形図説』20 冊、『産物図』105 枚など 49 件について、デジタル画像化、資料中の注記・留書きのテキスト化を行った。なお、これまでの科研の補助金による研究の成果は、東博のウェブ上で情報アーカイブにて公開中である。

【実績値】

調査件数　71 件、作品点数　30,400 点、写真撮影点数　30,400 点、データ入力点数　30,400 点、
公開件数　30,400 件

なお、本館 16 室において 7 月 3 日(火)～8 月 26 日(日)の期間に下記の展覧会を実施した。

歴史を伝えるシリーズ　特集陳列「博物図譜－ものの真の姿を探る－」　展示作品　計 25 件

【備考】

【書式B】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2106

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

検索は各頁に描かれた図の名称のみならず、産地、日付、方言、画家等の注記についても検索可能としたため、多岐にわたる研究資料として活用できる。さらに、大英博物館やライデン国立民族博物館などの、海外にある同様の図譜との比較研究を可能にするデータベースにすることを目標としている。

２．定量的評価

観点	調査件数	調書作成点数	写真撮影点数	データ入力点数	公開件数	
判定	A	A	A	A	A	

備考

これまでに岩崎灌園『本草図譜』78 冊、『本草図説』50 冊、関根雲停『博物館禽譜』3 帖、服部雪斎『農作物・果樹類図』、中島仰山『博物館写生図』、『博物館獣譜』2 冊、『博物館虫譜』5 冊、『田中房種博物図譜資料』、武蔵石壽『目八譜』、堀田正敦編『禽譜』、『鳩小禽等図』、関根雲亭『魚譜』、『緑猗軒動物図』、『博物館動物図譜』、馬場仲達『蟲譜』･『貝譜』･『舶上画譜』などをデータベース化しており、日本でも有数の博物図譜データベースとなっている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本データベースは、博物館の情報アーカイブで公開している。月ごとの利用者は 50～100 人前後で、検索実行回数は月に 5000 回ほどに及んでおり、その内容は、学術振興会の実地検査においても、高い評価を得ている。今後は、展覧会において、小中学生などの見学者が増加しているのを反映して、より使いやすいデータベースへの改良を図る方針である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業の内容は、高い水準を維持しており、比較的堅調に実現できたと考える。20 年度以降は、博物図譜資料のうち、江戸時代の狩野派の絵師による動植物画をはじめ、内国博覧会関係資料や、シーボルト献納本をはじめとする西洋の博物図譜についても対象に加えていく予定である。今後もこのペースを維持しつつ、目録作成やデータベースの公開に力を注ぎたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2107

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 7) 日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究 (科学研究費補助金)

【事業概要】

日本に現存する仏像、神像等の木彫像の樹種について調査研究し、今後の日本の文化、歴史の理解を深めることを目的として実施する。

【担当部課】	文化財部	【事業責任者】	特任研究員　金子啓明

【スタッフ】

東京国立博物館：浅見龍介（事業企画課出版企画室長)、丸山士郎（列品課列品室主任研究員)、和田浩（保存修復課環境保存室研究員)

森林総合研究所：能城修一（木材特性研究領域樹種識別担当チーム長)、藤井智之（多摩森林科学長)

【年度実績概要】

日本の木彫像を所蔵する各地の寺院、神社等に赴き実地調査した。19 年度は特に広島県、南九州の神社等に保管の神像を中心に調査研究し、併せて関連の仏像についても調査した。調査により美術史的基礎データ、写真データ、樹種の科学的識別のための木片資料の収集を実施した。

【実績値】

調査作品件数
　全 59 件
　　神像 42 件　仏像 17 件
写真データ　690 点、
木片資料　　84 点

野原八幡宮(熊本)僧形八幡坐像

【備考】

【書式B】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2107

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考

神像彫刻は非公開のものが多く、調査の許可を得るまでに時間がかかるため、調査日程に非効率なところがある。さらに、早い段階での所蔵者との交渉が必要である。

２．定量的評価

観点	調査作品件数	写真データ	木片資料			
判定	A	A	A			

備考

神像彫刻は非公開のものが多く、神像調査の 42 件は異例の数字といえる。また、各像について詳細な写真データと、木片資料が得られた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	神像彫刻については所蔵者が非公開とする作例が多く、美術史的調査が充分には行き届いていない。また、樹種の科学的識別についてはほとんど実施されていない状況にある。今回は地域を限定し、地元研究者との連携を深めることにより、これまで調査が充分でない作品について実地調査し、木片資料を得ることが可能となった。ただし、資料の科学的な樹種識別検査については、時間的制約もあって 20 年度の課題とすることとなった。20 年度では樹種同定の成果を出すことが必要である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	実地調査については調査対象、方法、協力体勢を調整することで、従来困難であった神像彫刻等の調査について成果をあげることができた。20 年度もこのペースを維持しつつ、樹種識別の成果を確実に出すことに力を注ぎたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2108

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 8) 江戸幕府旧蔵資料の総合的研究（科学研究費補助金）

【事業概要】

江戸幕府旧蔵資料のうち、教育機関である紅葉山御文庫、昌平坂学問所、医学館、和学講談所、開成所などに収蔵されていた 1 万 2 千余部、15 万冊におよぶ図書、美術品、歴史資料等の総合的研究である。

現在、国立公文書館、宮内庁、国会図書館、東京大学、東京国立博物館などに分蔵されている資料群について、リストを作成し、これらの資料の成立、伝来、相互の関連など、その全貌を明らかにする。

【担当部課】	情報課	【事業責任者】	情報課長　高橋裕次

【スタッフ】

丸山士郎（列品課列品室主任研究員)、小宮木代良（東京大学史料編纂所助教授)、佐々木利和（国立民族学博物館先端人類科学研究部教授)

【年度実績概要】

本研究で得られた所在情報と資料群ごとの詳細調査をもとに、江戸幕府旧蔵資料全体における形成過程，伝来，資料の相互の関連を解明し、分散に至る以前の状況について復原考察を行った。また全貌を明らかにすることで、江戸幕府旧蔵資料における学術的・歴史的価値を明確にした。19 年度の報告書を刊行した。

【実績値】

調査件数　約 130,000 件、調書作成点数　約 130,000 点、写真撮影点数　約 3,000 件、
データ入力点数　約 120,000 点、報告書作成件数　約 120,000 件、収集資料点数　約 120,000 点
論文掲載数　高橋裕次「帝室博物館蔵書の変遷と、森鴎外の『発見』について」(『MUSEUM』610 号、平成 19 年 10 月）所載　1 篇

【備考】

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2108

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

これまで江戸幕府旧蔵資料の研究については、各所蔵機関や小規模な資料群単位での目録刊行、調査・研究、公開にとどまっているのが現状である。本研究は、資料群の成立、伝来、相互の関連などを検討し、その全貌を明らかにする総合的な研究として行うものである。

２．定量的評価

観点	調査件数	調書作成点数	写真撮影点数	データ入力点数	報告書作成	収集資料点数	論文掲載数
判定	A	A	B	A	A	A	A

備考

明治初期に博物館が所蔵していた幕府旧蔵資料を含む約 15 万点の調査であり、厖大な資料のため、すべての撮影には及んでいない。但し、『博物館書目』など基礎資料については、そのほとんどについて撮影を行った。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	江戸幕府旧蔵の書物類の調査に関して、質量ともに成果を上げることができた。今後は、書物以外の江戸幕府旧蔵資料と、関連する資料も調査対象に加え、実物の比較や分析など、総合的に研究することで、江戸幕府旧蔵資料から、学術資料のあり方など江戸幕府の新たな側面を明らかにしていく必要がある。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究は、これまでまとまったかたちでは知られていない、江戸幕府が旧蔵していた資料の全体像を明らかにすることを目的としている。そのデータを公開することは、江戸幕府研究のみならず、日本の近世・近代史、美術史、建築史など諸分野に対して貢献することになる。その重要性を考え、将来的には、江戸幕府旧蔵資料の詳細なデータを情報アーカイブで公開することを目標としたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2109

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 9) 日本古代手工業史における埴輪生産構造の変遷と技術移転から見た古墳時代政治史の研究（科学研究費補助金）

【事業概要】

東京国立博物館および日本各地における古墳時代中期の古墳出土埴輪群の調査・研究を実施し、今後の博物館所蔵埴輪資料の編年的および技術的系譜に関する位置づけの向上に寄与することを目的とした。

【担当部課】	保存修復課	【事業責任者】	保存修復課保存修復室長　古谷　毅

【スタッフ】

犬木努(大阪大谷大学 文学部准教授)

【年度実績概要】

19 年度は最終年度として、九州・東海・中部・関東地方の主要古墳を調査した。

対象資料は、大分県・広島県・三重県・岐阜県・静岡県・群馬県などの古墳時代前期末頃から中期中葉の典型例の調査を実施し、資料収集を行った。ほかに、古墳時代中期の基準資料である東京国立博物館所蔵の群馬県赤堀茶臼山古墳出土埴輪の整理および調査・分析を進めた。

また、研究課題・調査研究方法を明確化・向上させるために、19 年 4･8 月と 20 年 3 月に岐阜県大垣市・大分県大分市・三重県松阪市において、日本古代史研究者を交えて研究会を行った。

このほか、これまでに収集した調書・写真・実測図などの資料の比較・検討も進めた。

【実績値】

・調査回数　6 回　・調査件数　600 件

・研究会発表件数「古墳時代中期における埴輪群の構成と生産」　1 回

・論文掲載数　「弥生･古墳時代における手工業生産の展開と特質」1 篇

・収集資料点数　埴輪資料：調書作成資料点数　約 600 点

写真撮影資料点数　約 800 点(1,620 カット)

【備考】

・東広島市教育委員会『第 12 回 安芸の国まほろばフォーラム資料集』2007 年 12 月、掲載

・國學院大學文学部　『平成 19 年度國學院大學文学部共同研究シンポジウム　生産と権力、職掌と身分-社会層形成の歴史学研究　発表要旨集』2008 年 2 月、掲載

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2109

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

近年、史跡整備等の大規模発掘調査が増加したが整備優先の事業が多く、出土埴輪群の構成・技術的系譜等に関する調査例は少ない。このような資料を悉皆的に調査・記録し、客観的に比較・検討することで技術的構成・系譜が明らかになり、博物館資料等の断片的な発掘調査による埴輪群の技術的位置づけが可能となる。また、既調査資料の研究・活用範囲を拡大することが出来る。

２．定量的評価

観点	調査回数	調査件数	研究会発表件数	論文掲載数	収集資料点数	
判定	A	A	C	B	A	

備考

19 年度、また、調査回数・調査件数・収集資料数も効率的に実施し、成果を上げることが出来たが、論文等の発表はやや低調に終わった。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	評価判定の理由は、18 年度までの進捗・精度に改良・改善を加えながら、今年度計画に反映させ、資料分類・調査項目等の調査回数・精度や調書・写真撮影方法などの改善を実施したことが挙げられる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、18 年度までの進捗・精度水準から向上しながら、堅調に実現できたと考える。 しかし、研究成果公開については、19 年度は科学研究費補助金最終年度で研究成果報告書を刊行・公開したが、今後は論文等の発表機会を増やすとともに、データベース化や成果のさらなる普及・公開に努めたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2110

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	（5）有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 10）東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究（科学研究費補助金）

【事業概要】

国内外に所蔵される東アジアの書道史に関わる作品について、1 点ごとに詳細な書誌や伝来などの情報と、デジタル画像を収集する。さらに、科学機器を用いて、料紙の技法、変遷、使用法を実証するとともに、時代による書風の特徴やその変化などを調査研究する。また、作品の修理にともなうカルテなどの情報から、さらに詳しい分析を行う。これらによって、書の作品の存在意義を、料紙と書風という二つの側面から科学的に解明し、料紙と書風の相関関係をも考察する。

【担当部課】	文化財部	【事業責任者】	文化財部長　島谷弘幸

【スタッフ】
東京国立博物館：島谷弘幸（文化財部長）、松原茂（上席研究所）、神庭信幸（保存修復課長）、高橋裕次（情報課長）、富田淳（列品課列品室長）、和田浩（保存修復課環境保存室研究員）、丸山猶計（事業企画課特別展室研究員）
京都国立博物館：赤尾栄慶（学芸課企画室長）

【年度実績概要】

東京国立博物館・陽明文庫・泉屋博古館などに収蔵されている作品で、装飾料紙を用いた写経・古筆・典籍を中心に、一部古文書なども含め、展示履歴などによって把握できる情報をもとに、調査対象となる作品のリスト作成と調査対象の絞り込みを行った。19 年度の主な調査対象は、写経と古筆であり、作成したリストをもとにデジタル写真撮影と、作品の筆跡および料紙に関する基礎調査を実施した。また、入木道関係の古文献資料のデジタル化を行った。

【実績値】
研究会など発表件数
- 島谷弘幸　「文化財の保存と活用―料紙を中心として―」国宝修理装潢師連盟定期研修会
- 島谷弘幸　「爛熟期のかなの展開」　現代書道研究所於オリンピック記念青少年センター
- 陽明文庫創立 70 周年記念　特別展「宮廷のみやび－近衛家 1000 年の名宝－」関連講座　計 10 回

論文掲載数　「宮廷のみやび」展の図録に掲載した料紙関係論文　計 3 件
調査件数　50 件、調書作成点数　35 点、写真撮影点数　150 点、データ入力点数　300 点、
文献資料のデジタル化　10 件

泉屋博古館調査風景

【備考】

【書式Ｂ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2110

（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考

展覧会において多数の作品が館内に集まっているときに、調査が実施できると効率が良いが、展覧会の会期中は、作品のほとんどが展示されており、また調査を行う時間を確保するのが困難であるのが現状である。

２．定量的評価

観点	調査件数	調書作成点数	写真撮影点数	データ入力点数	資料のデジタル化	研究会等の発表件数	論文掲載数
判定	A	A	A	A	A	A	A

備考

調査対象となる博物館には書跡関係資料が大量にまとまっているため、調査の時間が確保できれば、より充実した内容の調査が可能である。さらに、図版目録などの作成を念頭においた詳細な調査を進めていきたい。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東アジアの書道史に関わる膨大な資料を有する博物館の特徴を生かした調査を実施している。光学顕微鏡などの科学機器を用いた客観的なデータを広く収集して、調査の内容をさらに充実したものにすると同時に、その成果を特集陳列などで公開していく方針である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今後は、東博内や国内にとどまらず、中国、韓国など、これまでの東博の国際交流の実績を反映して、海外においても、東アジアの書道史に関わる資料の調査を継続的に行っていく必要がある。また、国際シンポジウムなどを開催することを目標に、所在情報や、調査方法について、中国や韓国の博物館と相互に連絡を取り合っていきたいと考えている。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2111

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 11) ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究

【事業概要】

1992 年～2000 年に東京国立博物館で実施したパキスタンにおける考古学調査の成果を総括し、最終的に調査報告書を作成する。

【担当部課】	展示課	【事業責任者】	展示課主任研究員　小泉惠英

【スタッフ】

望月幹夫（上席研究員）

【年度実績概要】

1995～1999 年に実施したザールデリー遺跡の発掘調査を踏まえ、その成果の一部を「ガンダーラの仏伝美術と転輪聖王」として発表した（『ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡展』＜2007.12＞）。

また、同遺跡の発掘調査報告書の執筆を現在進行中であり、本成果を元にした平常展示の活性化ならびに特別展のプランを計画中である。

【実績値】

論文掲載数　　『ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡』所載　　1 篇

【備考】

『ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡』所載論文（「ガンダーラの仏伝美術と転輪聖王」）

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2111

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	B	B	B

備考
当館の実施した初の本格的な海外調査で考古学的な成果も大きなものであり、遺物の研究を継続的に実施した。

２．定量的評価

観点	論文掲載数					
判定	A					

備考
最終報告作成に向けて、順調に成果をあげている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
B	研究内容は、独創性に富むが、報告作成に向けての準備にやや遅れが出ており、20 年度での調整が必要なため、B 評価とした。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	作品研究についての継続的な調査は実施された。報告書作成準備についても進行中であるが、当初計画よりもやや遅れが出ており、20 年度での調整が必要である。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2112

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅳトータルケアシステム構築に向けた応用研究の実施 12)文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築（科学研究費補助金）

【事業概要】

保存と公開という博物館の使命を持続的なものとするためには、あらゆるリスクを予測し、リスクを回避するための対策を事前に講じることによって、高い安全性に裏付けられた活動へと博物館を質的に転換する必要がある。そのためには、従来行われてきた基礎研究及び個別的対処を統合し、機動的かつ実効的な臨床保存学を確立する必要がある。その具体的な方法論としてトータルケアシステムの構築について研究を行う。

【担当部課】	保存修復課	【事業責任者】	保存修復課長　神庭信幸

【スタッフ】
塚田全彦（環境保存室長)、土屋裕子（保存修復室主任研究員)、和田浩（環境保存室研究員）

【年度実績概要】

東京国立博物館が所蔵する文化財コレクションに対して、基礎研究に留まらず、臨床研究としての保存科学を実践するため、10 年度からさまざまな手段、方法論、処置法、装置類（コンサーヴェーション・ツール）を開発・整備してきた。それらは測定（Measure)、分析（Analysis)、改善(Improve)、管理（Control）という４つの段階に分類される。これまでに開発した保存管理手法は、1)履歴・環境情報の収集と解析に時間を要する、2)将来予測と改善策の立案が困難であり、その結果として正確かつ円滑な実践を阻害する。本年度は履歴・環境情報の収集と解析に関して、データの意味づけ、保管・活用の仕方について、実践を通じた研究を行った。

【実績値】

研究会発表件数
公開シンポジウム「博物館の役割と未来」　1 回
「博物館環境のマネージメント」
2007 東アジア文化遺産保存シンポジウム　2 回
「臨床保存の意味と意義－予防保存の最先端－」
「An approach to Preventive Conservation at the Tokyo National Museum」

論文掲載数
2007 東アジア文化遺産保存シンポジウム要旨集　2 篇所載

公開シンポジウム 10 月 28 日

【備考】

- 神庭信幸：臨床保存の意味と意義－予防保存の最先端－、公開シンポジウム「博物館の役割と未来」、2007 年 10 月 28 日、東京国立博物館
- 神庭信幸、和田浩、土屋裕子、塚田全彦：臨床保存の意味と意義－予防保存の最先端－、2007 東アジア文化遺産保存シンポジウム、2007 年 11 月 1 日、ソウル

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2112

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

作品の履歴及び環境の情報の収集と解析に関して、実践を通じた研究を行った。当初の計画に従い、所定の成果を得ることができている。

２．定量的評価

観点	研究会発表件数	論文掲載数				
判定	A	A				

備考

韓国ソウルで開催された東アジア文化遺産保存シンポジウム、文化財保存修復学会公開シンポジウム「博物館の役割と未来」において成果の公表を行い、活発な質疑応答を行った。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	保存と公開を実践しつつ、その安全性あるいは適格性をより向上させるために、現状の解析と改善を具体的に実施した。臨床保存学の具体的な機能が明確化できたと言える。今後は現在の実践をより制度の高いものにすると同時に、将来予測に立脚した現状判断が可能なようにシステムの確立を目指したい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、目録作成やデータベースの公開に力を注ぎたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2113

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ｉ保存環境の調査研究等の実施 13) 環境保存に関する研究

【事業概要】

東京国立博物館における文化財の保存環境及び展示環境について調査研究し､今後の環境の向上に結びつけることを目的として実施する。

【担当部課】	保存修復課	【事業責任者】	保存修復課長　神庭信幸

【スタッフ】

塚田全彦（環境保存室長)、和田浩（環境保存室研究員）

【年度実績概要】

ホルムアルデヒドなどのアルデヒド類、酢酸などの有機酸や大気汚染物質である窒素酸化物などに関して、博物館内の空気成分の調査研究を実施し、現状の正確な把握を目指した。その結果、一部の測定箇所を除き空気成分は比較的良好な状態にあるが、一部アルデヒド類の濃度に関して危険性が高い箇所があることが確認された。温湿度に関しては、測定結果に対応した湿度分布地図を作成し、注意を要する区域の視覚化を行った。輸送中の梱包ケース内の振動・衝撃について、実際の輸送に関して調査を行い、得られた結果を解析して問題点を明らかにした。また、湿度調節装置ＲＫ2 の能力評価と使用方法の最適化についてさまざまな実験を行い、平成館大型展示ケースの相対湿度調節に関する研究（グラスバウ･ハーン社及び販売代理店アクタス社との共同）を実施した。

【実績値】

研究会発表件数

文化財保存修復学会第 29 回大会　2 回

「相対湿度の安定化とポータブル除加湿器の効果」

「文化財の海外輸送時に計測された各行程別の振動・加速度特性」

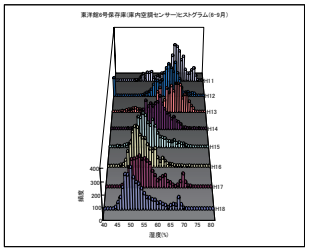
2007 東アジア文化遺産保存シンポジウム　1 回

「A long-term measurement of a museum environment」

論文掲載数

文化財保存修復学会第 29 回大会要旨集　2 篇所載

2007 東アジア文化遺産保存シンポジウム要旨集　1 篇所載



収蔵庫内の相対湿度の改善

【備考】

- 和田浩、塚田全彦、神庭信幸：相対湿度の安定化とポータブル除加湿器の効果、文化財保存修復学会第 29 回大会研究発表要旨集、2007 年 6 月 16 日、静岡
- 神庭信幸、和田浩、塚田全彦、高木雅広、今北憲（アイティエコ（株））：文化財の海外輸送時に計測された各行程別の振動・加速度特性、文化財保存修復学会第 29 回大会研究発表要旨集、2007 年 6 月 16 日

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2113

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

温湿度、生物生息、振動・衝撃、空気成分に関する計測と、その結果に対応した環境整備を実施した。当初の計画に従い、所定の成果を得ることができている。

２．定量的評価

観点	研究会発表件数	論文掲載数				
判定	A	A				

備考

文化財保存修復学会第 29 回大会（静岡)、2007 東アジア文化遺産保存シンポジウム（ソウル）において研究成果を公表し、活発な質疑応答を行った。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財を取り巻くさまざまな環境因子について、現実的な状況を具体的かつ正確に把握することが可能になり、事業の改善に役立てながら文化財の安全の確立に寄与している。今後は更なる調査の実施と、現象のメカニズムの解明にも発展させていきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、目録作成やデータベースの公開に力を注ぎたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2114

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	（5）有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅰ保存環境の調査研究等の実施 14）耐震性の高い展示手法に関する調査研究

【事業概要】
考古・工芸分野の器物の展示手法を中心に、地震による転倒などに関する安全性の見直しを行う。

【担当部課】	保存修復課	【事業責任者】	保存修復課長　神庭信幸

【スタッフ】
塚田全彦（環境保存室長）、和田浩（環境保存室研究員）

【年度実績概要】
東洋館展示室におけるエジプトのレリーフ像、西アジアのガラス製品の展示、及び平成館考古展示室における縄文時代の尖頭土器の展示に関して、安全な展示を目指して器物の支持具としての保存安定台の製作を研究し、実際に製作して適用した。

【実績値】
ガラス製品の展示具検討・製作　7 件
考古時展示具検討・製作　12 件
エジプト・レリーフ展示具検討・製作　1 件

不安定なガラス器具の展示支持具

【備考】

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2114

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
作品を保全するために安全な展示は欠くことができない。一方見やすい展示デザインの追及も必要である。転倒防止のための支持具は両者を併せもつものを目指して検討・製作を行った。当初の計画に従い、所定の成果を得ることができている。

２．定量的評価

観点	展示具検討・制作件数					
判定	A					

備考
作品ごとに形状や状態が異なることから、それぞれの状態に合わせながらの製作になる。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	転倒を防止する保存安定台を展示室に設置して、安全性の向上を図ることができた。こうした取り組みに関し、今後は検討過程や結果を他館や関連分野の研究者にも公開できるように改善していきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、目録作成やデータベースの公開に力を注ぎたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2115

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 vi 収蔵品について、科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究の実施 15) 大型油彩画のロール状保存と木枠に張り込まない展示手法の開発に関する調査研究

【事業概要】

大型油彩画を数多く扱うルーブル美術館及びフランスの保存専門家と共同で、科学的な裏づけに基づき、木枠に張り込むことなく、同時に絵具にかかる負担を最小限に抑えながら、場所をとらないようにロール状に巻いて保存する方法の開発と、必要に応じて安全に展示する方法の開発である。

【担当部課】	保存修復課	【事業責任者】	保存修復課長　神庭　信幸

【スタッフ】

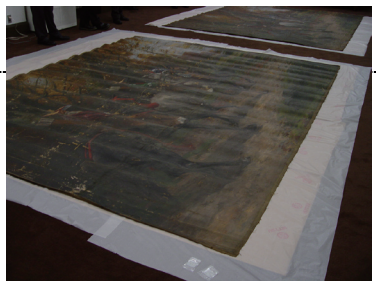
塚田全彦（環境保存室長)、土屋裕子（主任研究員)、木島隆康（東京藝術大学大学院教授)、山梨美子（東京文化財研究所企画情報部文化財アーカイブス研究室長)

【年度実績概要】

・パリ・ルーブル美術館収蔵庫視察（ロール状で保存する油彩画の例の研究)
・大型カンバスを支持体とする油彩画の修理および保存を専門とするフランスの技術者との打ち合わせ
・「武士の山狩」2 枚の光学調査（普通光、斜光線、紫外線蛍光、赤外線反射写真撮影）およびそのデータ整理

【実績値】

写真撮影　32 カット×４種類の光学調査＝128 枚



開いた時の様子。筒状に巻かれていた。
（東京国立博物館）

【備考】

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2115

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

作品の光学的調査、ルーブル美術館及びフランスでの専門家との協議などを通じて、ロール状にした保管管理の可能性についての実現性が高まった。当初の計画に従い、所定の成果を得ることができている。

２．定量的評価

観点	写真撮影件数					
判定	A					

備考

大型の画面であるため、作品を安全に設置して撮影できる環境を整え、その上で写真撮影を実施した。赤外線写真の撮影により作品の製作に係る情報を得ることができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本格修理に必要な検討をルーブル美術館等の専門家と行い、修理設計に必要となる種々の情報を得ることが出来た。また、事前調査も予定通り進行している。調査検討結果に基づき、修理設計を行う予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、目録作成やデータベースの公開に力を注ぎたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2116

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 ・国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究　－館史資料の分析を中心に－（科学研究費補助金）

【事業概要】

東京国立博物館では、2,046 件が館史資料として登録されている。内容は日本における博物館の歴史そのものであり、昭和 25 年(1950)に文化財保護法が施行され、文化財保護委員会が設置されるまで、日本の文化財保護行政の中心に位置した博物館のあり方を検討する際の貴重な資料である。本研究では、これらの資料について調査を実施し、その細目などを明らかにして、今後の博物館学研究の指針となるべき資料を整理、分類、分析し、研究の成果を一般に公開していくことを目標とする。

【担当部課】		【事業責任者】	列品課主任研究員　丸山士郎

【スタッフ】
東京国立博物館：島谷弘幸（上席研究員)、高橋裕次（情報課長)、白井克也（教育普及課教育講座室長)、鬼頭智美（事業企画課国際交流室長)、木下史青（事業企画課デザイン室長)
九州国立博物館：伊藤嘉章（企画課長)

【年度実績概要】

東京国立博物館が保管している、列品録、列品台帳、収蔵品目録を中心に、館蔵品の収蔵にかかわる経緯等の調査を実施した。また、京都国立博物館保管の関連資料の調査を実施した。

【実績値】

調査件数　5 件、調書作成件数　5 件、文献資料のデジタル画像化　815 件、データ入力点数　815 件（文字数　約 24,000 字)、写真撮影点数（確認中）

【備考】

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2116

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	B	

備考
　列品録、列品台帳の調査はデジタル画像で行っているが、一部不鮮明なところもあり、原本との照合が必要である。

２．定量的評価

観点	調査件数	調書作成点数	写真撮影点数	データ入力点数	資料のデジタル化	
判定	A	A	A	A	A	

備考
　資料のデジタル画像化とともに、文字データの作成も順調に進んでいる。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	東京国立博物館にしかない資料の調査を実施している。これまでに知られていない資料の存在をうかがわせる記述があるので、所在調査を進める必要がある。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画した資料の調査は順調に進んでいる。未紹介資料なども調査し、今後の図版目録の刊行などに役立てていきたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2117

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 ・東京国立博物館所蔵写真資料の調査研究（研究成果公開促進費補助金）

【事業概要】

東京国立博物館が所蔵する江戸時代末から大正時代にかけて撮影された 20,000 点余りにのぼる写真資料の画像データベースを作成し、各分野に寄与できる研究資料としてウェブ上で一般に公開することを目的とする。

【担当部課】	列品課	【事業責任者】	列品課列品室長　富田　淳

【スタッフ】

冨坂賢（保存修復課保存修復室主任研究員)、藤瀬雄輔（展示課映像作製室員)、石澤舞（列品課列品室事務補佐員）

【年度実績概要】

『東京帝室博物館美術課列品写真目録』(大正8年)、『幕末明治期写真資料目録1～3』に従い、写真資料の撮影およびデータ入力を行った。撮影は写真資料の体裁、装丁を明らかにするため、全紙撮影、台紙の裏面、アルバム等では表紙、見返し、白紙を含む全頁撮影を原則とし、データは画像番号、名称、撮影者、法量、品質形状、技法、時代、員数、墨書等、備考について作成した。

【実績値】

写真撮影およびデータ作成資料点数　約 4,200 点
（内訳）壬申検査関係写真　約 450 点
ウィーン万博出品写真　約 500 点
臨時全国宝物取調局撮影写真　約 1,500 点
風景写真　約 100 点
文化財写真　約 1,650 点
公開画像　約 8,400 画像

「紹興蘭亭」 安村喜当撮影　明治時代

【備考】

「東京国立博物館情報アーカイブ」(http://webarchives.tnm.jp/archives/)、「東京国立博物館所蔵古写真 WEB データベース」(http://dbs.tnm.jp/db/kaken/oldphotos.html) 参照。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2117

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

東京国立博物館所蔵の写真資料は、以前より外部の機関や研究者から利用の要望があるにもかかわらず、画像を簡便に確認するすべがなかった。ウェブ上で公開を始めたことは、「紫禁城写真展」(東京都写真美術館・20 年 3 月 29 日～5 月 18 日)の開催にあたり、大きな役割を果たした。

２．定量的評価

観点	撮影数	データ作成数	公開画像件数			
判定	A	A	B			

備考

撮影・データの作成については、当初の計画を充分に達成できた。作業手順の関係から、ウェブ上でのアップは年度明け早々を予定している。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ウェブ上での画像データベースの公開が、「紫禁城写真展」の実現に大きく寄与した。しかしデータベースの公開そのものが必ずしも広く一般に周知されていない面があり、HP 等での分かりやすい案内が必要となろう。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	写真資料の調査研究事業は、当初の計画に従って進捗し、画像データベース公開による成果も少しずつみられるようになりつつある。 調査研究については、20 年度もこのペースを維持しつつ、撮影を進め、あわせて諸データを整理して、より完備されたデータベースとして公開したい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2118

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 ・東京国立博物館所蔵古地図の調査研究（研究成果公開促進費補助金）

【事業概要】

東京国立博物館が所蔵するおおむね江戸時代以降の古地図について､詳細な画像データ及び地図に関する書誌的データを整備し、インターネットを通じて公開を図る。

【担当部課】		【事業責任者】	情報管理室長　田良島　哲

【スタッフ】

冨坂賢（保存修復課保存修復室主任研究員)、佐々木利和（国立民族学博物館先端人類科学研究部教授）

【年度実績概要】

江戸時代から明治時代初期の古地図約 250 枚について、詳細なデジタル画像データ及び原資料を確認しながらの、書誌的データの作成をおこなった。おおむね目標どおりのデータを作成できた。

【実績値】

データ作成：当館所蔵の歴史資料、和書に属する古地図約 250 枚の画像データ及びそれぞれに関する名称、員数、寸法等の書誌的情報

作成したデータベースの例

【備考】

東京国立博物館　古地図データベース　http://dbs.tnm.jp/db/kaken/oldmaps.html

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2118

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考 幅広い利用が可能な資料について、最小限の経費・人員で必要な情報作成を行うことができた。						

２．定量的評価

観点	データ化件数					
判定	A					
備考 目標どおりの件数についてデータ化ができた。						

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	これまで十分な情報が作成されていなかった当館蔵の古地図に関するデータ作成を必要最小限の経費で実施し、広く公開を進めることができた。20 年度経費の見込みが立てば、19 年度までに行えなかった大型の地図等についてもデータ作成を進めたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	おおむね当初目論んでいたペースで情報の蓄積が進んでいる。作成手順の改善を図るとともに、20 年度以降も経費の許す範囲で積極的にデータ作成を進める。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2119

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 ・特別展の事前調査

【事業概要】
特別展の出品作品を選定し、展覧会全体の構成・章立て・コンセプトを策定するために、出品候補作品およびそれを所蔵していると予想される社寺の所蔵品をできるかぎり数多く、また輸送に際しての作品保全のため、展示手法の検討のため調査が必要な出品作品を、特別展の準備期間中に調査する。また、各博物館・美術館等でも同様の目的で調査を行う。

【担当部課】	事業部	【事業責任者】	事業部長　松本伸之

【スタッフ】
救仁郷秀明（特別展室長)、竹内奈美子（同主任研究員)、丸山猶計（同研究員）

【年度実績概要】
足利義満六百年遠忌記念「京都五山　禅の文化展」、「大徳川展」、陽明文庫創立 70 周年記念特別展「宮廷のみやび―近衞家 1000 年の名宝」（以上、19 年度事業)、平城遷都 1300 年記念「国宝　薬師寺展」、尾形光琳生誕 350 周年記念「大琳派展－継承と変奏－」、「スリランカ文化遺産展」（仮称)、無相大師 650 年遠諱記念 特別展「妙心寺」（仮称）（以上、20 年度事業)、平城遷都 1300 年記念　興福寺中金堂修復記念「国宝　阿修羅展」（仮称)、自主企画展「東洋の染付」（仮称）（以上、21 年度事業）のため、出品候補作品を調査した。

【実績値】
出品候補作品　約 660 件

【備考】

【書式B】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2119

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考 最小限の時間・人員による調査で特別展を実施すべく努力している。						

２．定量的評価

観点	調査作品件数					
判定	A					
備考 それぞれの特別展のコンセプトにあったより質の高い作品をリストアップするために､各所蔵先との連絡調整を密にして多くの作品の事前調査を行うことができた。						

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	限られた時間的制約の中での調査ではあるが、新発見の作品など新知見も得られており、概ね成果が認められるといえる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	特別展の事前調査は、作品の所蔵者ならびに共催者との良好な関係を築きながら、順調に成果を上げている。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2120

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4.　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ⅳ京都文化を中心にした文化財の調査研究 1)　近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究

【事業概要】

近畿（特に京都）地区社寺の所蔵する文化財について網羅的に調査し、新資料の発掘に努めるとともに既知の資料についても再評価し、寄託等の推進、また、展覧会の開催により博物館活動の活性化を推進する。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	学芸課長　森田　稔

【スタッフ】

淺湫　毅（主任研究員)、尾野善裕（主任研究員)、久保智康（工芸室長)、永島明子（研究員)、山内麻衣子（研究補佐員)、大原嘉豊（研究員)、西上　実（上席研究員・美術室長)、羽田　聡（研究員)、山本英男（保存修理指導室長)、若杉準治（列品管理室長)、比嘉飛鳥（技術補佐員）

【年度実績概要】

京都における浄土宗の本山の一つである百万遍知恩寺において、諸堂安置の仏像、工芸品、展示収蔵庫及び土蔵保管の絵画、書跡、工芸品について調書を作成し、写真撮影を行った。(延べ 5 日間)

本調査の成果は近く予定される法然上人に関する展覧会の出品資料の選定の候補でもある。

【実績値】

調査資料件数　230 件

（絵画　70 件、　彫刻　70 件、　書跡　50 件、　工芸品　40 件）

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2120

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

四年後に計画されている浄土宗関係の特別展を見据えた調査ということで適時性があり、今後この成果を利用しつつ、継続的に関連寺院の調査を計画しており発展性がある。また短期間に学芸研究員全員が参加する形式の、分野の枠を越えた総合的、悉皆的な調査は学術的な正確性を持つと同時に効率性が高く、当館独自のもので独創性も高い。

２．定量的評価

観点	調査資料件数					
判定	A					

備考

短期間で寺院の堂舎、宝蔵、展示収蔵庫等に保管される文化財すべての調査（調書の作成と写真撮影）を完了しておりA評価とする。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財を多く所蔵する本山クラスの寺院の文化財を限られた日数で調査できたこと、また、寺院との良好な関係を構築したこと、将来の展覧会の資料を得たことから判断した。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	従来の形式を崩さず、新たな対象寺院を採りあげ充分な成果を上げた。 今後も展覧会を見据えつつ、調査を継続する。

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2121

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ⅴ平安仏教とその造形に関する調査研究 2) 平安仏教とその造形に関する調査研究

【事業概要】
平安仏教の美術・造形にかかわる作品や図像及び関連資料を収集、整備する。
報告書の刊行、シンポジウム（研究座談会）の開催により、成果を公開する。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	上席研究員・美術室長 西上 実

【スタッフ】
西上 実（上席研究員・美術室長）、若杉準治（列品管理室長）、山本英男（保存修理指導室長）、山下善也（主任研究員）、大原嘉豊（研究員）、赤尾栄慶（企画室長）、羽田 聡（研究員）、淺湫 毅（主任研究員）、久保智康（工芸室長）、尾野善裕（主任研究員）、山川 暁（主任研究員）、永島明子（研究員）、難波洋三（情報管理室長）、宮川禎一（考古室長）、中村 康（文化財管理監）、金井杜男（調査員）

【年度実績概要】
平安仏教の美術・造形にかかわる作品や図像及び関連資料を収集、整備し、報告書を刊行した。
シンポジウム（研究座談会）「仏師康尚の時代」を開催した。

【実績値】
シンポジウム参加者 120 名
仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書第 35 冊「研究発表と座談会 仏師康尚の時代」
仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書「図像蒐成 XI」

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2121

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

平安仏教の美術について多面的に調査研究し、多岐にわたる資料を収集した。

また、時機をとらえたシンポジウム（研究座談会）を開催した。

２．定量的評価

観点	シンポジウム参加者数					
判定	A					

備考

シンポジウム（研究座談会)「仏師康尚の時代」を開催し、120 名の参加者を得て活発な討論がなされた。参加者数が 120 名と 90 名（過去 5 回の平均値）を大きく上まわったことから、A 評価とした。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	4 カ年の継続事業のうち、3 年次の事業計画について達成できた。 本調査研究の蓄積は、当館の展観事業に大いに資するものである。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	多岐にわたる分野の資料について収集・整備ができ、また、研究資料を広く公開することで、仏教美術研究の発展に資することができた。20 年度は、本研究事業の最終年度であることから、一層充実した内容の事業としたい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2122

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財に係る調査研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 3)　江戸時代京焼の技術基盤に関する研究

【事業概要】

江戸時代の京焼について、特に京都の社寺伝来品を中心に、文献資料・考古資料・伝世資料を総合的に調査し、京都の伝統産業の一つである京焼の技術系譜を明らかにする。本研究は、18 年度で科学研究費補助金の交付は終了しているが、19 年度は主に蓄積された研究成果の公表を図る。

【担当部課】	学芸課工芸室	【事業責任者】	工芸室長　久保智康

【スタッフ】

尾野善裕（主任研究員)、谷口愛子（調査員）

【年度実績概要】

京焼の技術の影響下に成立した三田焼について、研究紀要『学叢』に研究論文１篇を掲載したほか、陶工の尾形乾山についてなど京焼に関する小論考３篇を雑誌（『淡交』『茶道雑誌』）に投稿した。また、文化財としての京焼に関する普及啓発の一環として、博物館支援団体などが主催する講演会へ出講した。そのほか、京焼陶工との交友について記述のある建仁寺塔頭所蔵の日次記を調査した。

【実績値】

講演会件数　合計 3 回
- 「仁清と仁和寺」　清風会総会
- 「京焼に見る食の器」　野村美術館講演会
- 「京焼・清水焼の歴史と技」　和座季楽セミナー

論文等掲載数　全 4 篇
- 「三田焼三輪明神窯の開窯とその戦略」『学叢』第 29 号　京都国立博物館
- 「京焼き「本質」と「定義」」『淡交』No.756　淡交社
- 「「ぼんぼん」育ちの尾形乾山」『茶道雑誌』第 72 巻第 2 号　河原書店
- 「『陶工必用』にみる尾形乾山の育ち」『茶道雑誌』第 72 巻第 3 号　河原書店

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2122

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
科学研究費補助金の交付は 18 年度で終了しているが、19 年度最初の論文掲載誌（『学叢』）は 5 月に刊行されており、迅速な成果の公表ができたと考えている。

２．定量的評価

観点	講演会件数	論文等掲載数				
判定	A	A				

備考
当初の予定以上の講演会に出講し、また、論文投稿を積極的に行い、調査・研究の成果について公表できた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年度当初に計画していたのは、『学叢』への論文投稿 1 篇と講演会 1 回であったが、随時依頼を受けて実施した結果、当初予定の倍以上の数をこなす一方で、京焼研究に新たな視点を提示できたと考えている。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	単なる調査報告の水準にとどまらず、新たな研究の視点の提示など、質的にも一定の水準の成果を、当初予定以上公表することができた。文化財に対する普及啓発は、重要な博物館の使命の一つであり、特に年度計画には挙げていないが、今後も他の業務の支障とならない範囲で、実施に努力したい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2123

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財に係る調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 6)　仏教における衣服の寄進と再利用に関する基礎的研究―袈裟、打敷、幡― (科学研究費補助金)

【事業概要】

染織品は本来の形状そのままで現代に伝えられているわけではない。とりわけ中世から近世の衣服の場合は、袈裟・打敷・幡といった、宗教空間で用いる品に仕立て替えられていることが極めて多い。そして、そのような場合にはしばしば、寄進に関わる銘文が記されることがあり、規準作の少ない染織品において、重要な作例となっている。しかしながら衣服本来の姿ではなく、仕立て替えられた形状であることから、これらのみを体系的に取り上げる研究は、現在までほとんど行われていない。本研究は、衣服が再利用されたという点に積極的に注目し、作例の所蔵調査を行うとともに、共通調書を作成し写真資料を収集し、データベースを構築するという、基礎的作業を中心に、銘文の解析によって、寄進という宗教的行為の実態について考察するものである。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	主任研究員　山川　暁

【スタッフ】

【年度実績概要】

本年度も、尼門跡寺院を中心に、再利用された染織品の所蔵調査、実見による調書作成、重要作例の写真撮影を行った。尼門跡寺院は皇室関係の寺院であるため、明治時代の廃仏毀釈の影響が比較的少なく、まとまった数の打敷が伝えられている。また寄進階層が皇室・公家に限定されているため、寄進銘文の解析も可能である。これまで調査を依頼することが極めて難しい寺院群でもあったので、一部の寺院の打敷のみではあるが、このたび悉皆調査をおこなえたことにより、多くの新資料に接することができた。また今年度は、妙心寺の諸塔頭の染織品についても、特別展覧会の事前調査にあわせて実見し、調書の作成、写真撮影を行った。

【実績値】

調査件数　86 件

調書　　86 枚

データベース　24 件

写真（カラーポジ）　74 枚

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2123

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	B	A	A	B	A	

備考

基礎研究であるため、適時性という観点ではB判定とした。

また研究の実施は寺院側の状況に大きく左右されるため、効率性という観点においてもB判定とする。

２．定量的評価

観点	調査件数	調　書	データベース	写　真		
判定	A	A	B	A		

備考

月に一度以上は調査日を設けるよう心がけた。打敷の調査および調書の作成は、法量計測が複雑なこともあり、一日に5～10枚程度であった。カラーポジ写真はすべて京都国立博物館の資料室に寄贈し、博物館の写真アーカイブの充実を図るとともに、研究者が広く利用できるよう配慮した。

データベースへの入力は、いまだ全件には及ばないが、今後も少しずつ増やしていく所存である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	科学研究費を得ることにより、日頃の業務内ではなかなか手が届かない基礎作業に向き合う時間と金銭的裏づけを得て、個人的な研究においても、また博物館のアーカイブの充実においても、重要な成果が得られたと考える。調査で得た知見については、2009年度に開催される他機関の展覧会図録への執筆を二件すでに依頼されており、この課題の着目点が注目された結果と理解している。なお本課題への補助は本年度で終了であるが、個人的な研究は引き続き行っていく。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	科学研究費補助金による最終年度の調査研究については当初の計画どおり実施でき、当課題の研究目的はほぼ達成されている。 今後も継続的に調査研究を進め、成果について、データベース化による蓄積、また、公開していくことに努めたい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2124

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財に係る調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 7) 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察 (科学研究費補助金)

【事業概要】

先史時代より明治時代に至るまでの、樹木を素材・主題とした美術工芸遺品を通じて、従来蓄積されてきた歴史学の諸成果をフィードバックしながら、日本の木の文化を、他の東アジア諸国との比較史的視座を援用しつつ、跡づけることを目的とする。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	館長　佐々木丞平

【スタッフ】

佐々木丞平（館長）、西上　実（上席研究員・美術室長）、若杉準治（列品管理室長）、山本英男（保存修理指導室長）、大原嘉豊（研究員）、赤尾栄慶（企画室長）、羽田　聡（研究員）、淺湫　毅（主任研究員）、中村康（文化財管理監）、久保智康（工芸室長）、尾野善裕（主任研究員）、山川　暁（主任研究員）、永島明子（研究員）、森田　稔（学芸課長）、難波洋三（情報管理室長）、宮川禎一（考古室長）、山下善也（主任研究員）

【年度実績概要】

事業初年度にあたるため、実施のための準備作業を行った。その概要は以下の通りである。

これまで京都国立博物館が収集してきた京都社寺の所蔵品に関するデータの再整理を、事業目的に即してデータベース化していった。

また、事業目的に即した社寺調査を行ための機材及び調査先の選定準備を行った。必要備品としては、表面からの目視からだけでは不可能なデータの収集を可能にするファイバースコープ、デジタルカメラ等を予定しており、順次購入・整備を進めた。

社寺調査の候補目的地として、仏像の用材樹種及び様式の東西の変化地点にあたる静岡県に焦点をあて、臨済寺・穂建寺に事前調査を実施した。

研究分担者は、各自事業目的にそって個人研究を遂行した。この個人研究に際しては、調査も実施し、専門の撮影技師が同行し、大判カメラでの撮影を行なうとともに、デジタルカメラによる撮影も行なった。

二か月に一度程度、研究の進捗状況について内部で実施報告を行った。

【実績値】

調査実績データベース化　827 点
調査機材整備　3 件（予定　50 万円以上備品　3 件）
共同調査のための事前予備調査　2 件（目標　1 件）
個人研究出張調査　4 件

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2124

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	継続性
判定	S	A	A	B	A	B

備考

適時性については博物館事業における公開性及び緊要性を増す環境問題と絡む点、独創性・発展性については適時性での理由をもとにした人文系では先駆的総合研究である点、効率性・継続性に関しては各研究分担者の本務である博物館事業との兼ね合いにおける時間的投資量という観点から、正確性についてはデータの収集という点から、それぞれ評価を下した。

２．定量的評価

観点	調査実績 データベース化	調査機材整備	共同調査のための事前予備調査	研究分担者による個人研究（出張調査）	
判定	B	A	A	B	

備考

事業初年度として、目標は概ね達成されている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	19 年度は、事業初年度ということもあり、事業準備と運営を軌道に乗せることに重点がおかれた。その目標はほぼ達成されたが、20 年度以降はより研究を深め成果の公表につなげる努力がより必要と考えている。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	全研究職員を研究分担者とする競争的資金の導入によって、館全体の研究を活性化している点で意義が深いと思量するが、緊密な研究上の連携を更に行う必要がある。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2125

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財に係る調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 8)　建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍書類の調査研究 (科学研究費補助金)

【事業概要】

建仁寺の塔頭である両足院に所蔵される五山文学関係をはじめとした典籍類を順次、悉皆調査し、法量・装訂・時代などについて書誌学的調査を行い、善本の解題を付した総目録の作成を目指すものである。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	企画室長　赤尾栄慶

【スタッフ】

赤尾栄慶（企画室長)、羽田　聡（研究員)、山本英男（保存修理指導室長)、西上　実（上席研究員・美術室長)、金　文京（京都大学)、梶浦　晋（京都大学)、井上　進（名古屋大学)、藤本幸夫、(麗澤大学)、山城喜憲（慶應大学)、住吉朋彦（慶應大学)、堀川貴司（鶴見大学)、柳田征司（奈良大学)、川本慎自（東京大学)、宇都宮啓吾（大阪大谷大学)

研究協力者：興膳　宏（京都大学名誉教授)、米谷　均

【年度実績概要】

未調査分を勘案して、約 30 箱の調査、すなわち調査員一人あたり年間 3 箱の調査を目指す。これを達成するために 1 週間規模の調査を 3 回程度実施し、書名・法量・装訂・外題・首題・尾題・版式・行数・訓点・奥書・刊記などの書誌学的調査と内容に関する調査を実施し、それぞれを調書に記入する。年 2 回程度の研究打合会を行う。

18 年度までの 3 カ年にわたる科学研究費・基盤研究（B）「五山禅宗寺院に伝わる典籍の総合的な調査研究―建仁寺両足院所蔵本を中心に―」の研究成果報告書を作成する。

【実績値】

第 70 箱から第 100 箱までの調査を終え、平成 16―18 年度までの 3 カ年にわたる科学研究費・基盤研究（B）「五山禅宗寺院に伝わる典籍の総合的な調査研究―建仁寺両足院所蔵本を中心に―」の研究成果報告書を作成した。

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2125

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考 両足院所蔵の典籍類の書誌学的な悉皆調査は、はじめてである。						

２．定量的評価

観点	調査箱数					
判定	A					
備考 予定通りに調査が出来た。						

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年度予定の箱数を調査した。20 年度も年間 30 箱のペースを守りたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	最終年度の 22 年度には、全体 180 箱すべての調査が終了する予定である。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2126

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ｖ修復文化財に関する調査研究 10）修復文化財に関する資料収集及び調査研究

【事業概要】
文化財保存修理所において修復が行われている文化財に関して情報を収集する。

【担当部課】	学芸課保存修理指導室	【事業責任者】	保存修理指導室長　山本英男

【スタッフ】
山本英男（保存修理指導室長)、淺湫　毅（主任研究員)、伊東史朗（調査員）

【年度実績概要】
文化財保存修理所の工房に搬入される新規修理作品に関して、データを収集し、データベースに登録した。
過去の修理作品に関してもデータの更新、整理作業を行なった。
毎月行っている文化財保存修理における修理工房の巡回時のほか、適宜工房において、修復中にしか得ることの出来ない情報（作品の構造や使用材料、内部納入品や銘文など）を収集し、分析を行なった。
『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 3 号に掲載する 13 年度修理作品のデータを整理するとともに、同年の修理で発見された銘文の解読作業を行なった。
また、これらの業務に調査員伊東史朗氏の協力を得た。

【実績値】
19 年度は 102 件の新規修復文化財の搬入があり、これらの作品に関してデータを収集するとともに、データベースへの登録を行なった。
過去のデータに関して 2,377 回追加、更新を行なった。
修理所の巡回を 11 回行なった。
20 年 3 月に『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告書』第 3 号（13 年度分）を発行した。

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2126

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考 限られた期間中にあらゆる側面からの調査を行い、データ収集に努めた。						

２．定量的評価

観点	データ収集件数	データ追加更新件数				
判定	A	A				
備考 目標件数は達成されている。						

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存修理所で行われる修理作品より得られる情報はおおむね収集できた。 また、その成果を報告書に反映した。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	19 年度収集された情報をさらに充実させる為、他年度と関連づけながらさらなる情報の収集をはかりたい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2127

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 11）永徳に関する調査研究（客員研究員）

【事業概要】

京都国立博物館が行う特別展覧会の事前調査および出陳作品の選択。

社寺調査への参加と協力。

【担当部課】	学芸課美術室	【事業責任者】	上席研究員・美術室長　西上　実

【スタッフ】

山本英男（保存修理指導室長)、奥平俊六（客員研究員）

【年度実績概要】

狩野永徳展に関わる事前の作品調査に参加・協力し、出品作品の決定にも関与した。

また、永徳展の開催を広く一般に知らせる目的で、『別冊太陽』145 に、永徳に関わる一文（実績値参照）を寄稿した。

さらに、百万遍知恩寺の社寺調査に協力した。

【実績値】

奥平俊六「桃山風俗画の誕生と展開」(『別冊太陽』145、平凡社、2007 年)

山本英男　特別展覧会「狩野永徳」図録所載「狩野永徳の生涯」、同作品解説等

山本英男　「大徳寺に伝来する織田信長像」(『紫野』31、大徳寺)

特別展覧会「狩野永徳」　入場者数 230,656 人

【備考】

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2127

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

特別展覧会開催のための作品調査を積極的に行い、また、出陳作品の選定には充分な検討を行い、特別展覧会に大きな貢献があった。

また、作品調査で得られた収集データについては、今後の館の展観事業に有効である。

２．定量的評価

観点	論文発表件数					
判定	A					

備考

特別展覧会「狩野永徳」の広報に協力し、入場者数の増加につながった。また、一般の人への博物館事業に対する理解が深まった。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	特別展覧会「狩野永徳」について、その準備を円滑かつ迅速に遂行しえた。 また、限られた時間内で社寺調査を円滑に行うことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	展覧会を開くにあたり、その準備としての作品調査を行い、数多くのデータを蓄積した。このデータは将来、別の展覧会を行う際にきわめて有効になるものと思われる。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2128

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ⅳ京都文化を中心にした文化財の調査研究 12）近世絵画に関する調査研究（客員研究員）

【事業概要】

京都文化の一端を明らかにすることを目的として、客員研究員である同志社大学教授狩野博幸氏により、京都を中心とした近世絵画に関する作家研究、作品研究を実施する。

【担当部課】	学芸課美術室	【事業責任者】	上席研究員・美術室長　西上　実

【スタッフ】

山下善也（主任研究員)、狩野博幸（客員研究員）

【年度実績概要】

狩野博幸客員研究員が、洛中洛外図、伊藤若冲、曾我蕭白をはじめとした自身の近世絵画研究をいっそう深化させ、それを通じ、京都国立博物館館蔵品・寄託品の価値をさらに明らかにするとともに、館員における調査研究の諸活動に対し指導・助言を行った。また、それを基礎とした同客員研究員の著作活動を通じて、一般の人々の文化に対する興味を喚起し、ひいては博物館に対する理解を深めた。

【実績値】

狩野博幸客員研究員による著作

『荒ぶる京の絵師　曾我蕭白』臨川書店　2007 年

アートセレクション『狩野永徳の青春時代　洛外名所遊楽図』小学館　2007 年

『異能の画家　伊藤若冲』(共著) 新潮社　2008 年

狩野博幸客員研究員による監修

『特別展覧会　絵画の冒険者 暁斎　Kyosai』展図録　京都国立博物館　2008 年（刊行予定）

山下善也「探幽絵画にみる叙情－林鵞峰『富士石記』を起点に」(「美術フォーラム 21」第 16 号、醍醐書房)

山下善也　国際シンポジウム参加及び発表、大和文華館での講演会

【備考】

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2128

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
館研究員の調査・研究活動に対して、客員研究員がさまざまな視点からの指導・助言を行うことは、研究員の活動を活性化させ、今後の館運営にも大きな効果が認められるところである。

２．定量的評価

観点	著作数	監修数				
判定	A	A				

備考
活発な著作活動等により、博物館事業に対する貢献が顕著である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	次々と発表される著作は、数々の初紹介作品の収録、新知見の提起など刺激に満ちあふれ、京都の近世絵画の魅力をあますところなく伝えており、研究の社会への還元が十二分になされている。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査活動、著作活動の活発さはいうまでもなく、京都国立博物館の諸活動に対する指導・助言等など、その実質的な貢献はきわめて大きいものがある。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2129

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ⅱ 博物館情報学を構築する為の研究 13）文化財情報に関する調査研究（客員研究員）

【事業概要】

京都国立博物館における文化財情報について調査研究し、今後の博物館情報学の発展ならびに京都国立博物館の情報環境の向上に結びつけることを目的として実施する。

【担当部課】	学芸課情報管理室	【事業責任者】	情報管理室長　難波洋三

【スタッフ】

西浦嘉博（情報管理室員）、山田奨治（客員研究員）

【年度実績概要】

京都国立博物館における次代の文化財情報システム（以下のシステムを内包する。収蔵品管理システム、展示支援システム、写真画像管理システム、特別観覧管理システム、寄託品管理システム、資料受入システム、住所管理システム）を構築する為、文化財メタデータ及び画像情報、データベース概念、操作インターフェース、処理速度、通信環境等を総合的に分析し、一部のシステム環境並びにデータベース通信試験環境の構築について、客員研究員の山田奨治氏のご助力をいただいた。また、当館の次期システム構築研究会議をおこない、当館の情報技術へ第三者的な視点から、山田客員研究員より提言をいただいた。

【実績値】

構築システム

・収蔵品管理システム（試験構築）

・住所管理システム（試験構築）

収集データ件数

・文化財メタデータ　27,148 件、

・文化財写真画像情報 138,452 件

収蔵品管理システム(試験構築)

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2129

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考

文化財情報システムを有効に活用するための業務を確実におこなっており、今後も最新の技術を取り入れたシステム構築に取り組む。

２．定量的評価

観点	収集データ件数					
判定	A					

備考

文化財情報システムを運用に供することができるよう収集データの充実に努めている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	総合的文化財情報管理システムの構築・発展は、文化情報の情報発信基地としての機能を要求される博物館にとって、適時性・発展性に富んだものと考える。かつ、内包する情報を有効に活用する為に、その正確性と効率性も同様に要求される成分である。当館の特色を十二分に生かしつつ、最新の技術を取り入れ、試験構築とは言え、実体性のあるシステムの構築に取り組んだ本業務は、次代への博物館情報学の継続発展を担った有意義なものであり、総合的な意味合いにおいてＡと評価するに足るものと考える。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度・従来の水準を維持し推移できたものと考える。調査研究については、今後も 19 年度と同程度の成果を得るよう努力し、システム構築やデータベースの構築・公開に力を注ぎたい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2130

(様式１)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 14) 訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）

【事業概要】

館蔵品の『春記』及び寄託品である『新編諸宗教蔵総録』(高山寺蔵) の紙背にある『春記』の訓点についての調査研究

【担当部課】	学芸課美術室	【事業責任者】	上席研究員・美術室長　西上　実

【スタッフ】

赤尾栄慶（企画室長)、羽田　聡（研究員)、宇都宮啓吾（客員研究員）

【年度実績概要】

館蔵品の『春記』及び寄託品である『新編諸宗教蔵総録』(高山寺蔵) の紙背にある『春記』の訓点を調査し、その成果を「院政期訓点資料研究の一問題―真言宗における教学的交流を巡って―」(『日本語の研究』第4巻1号　2008.1.1) という論文に反映させた。

【実績値】

「院政期訓点資料研究の一問題―真言宗における教学的交流を巡って―」(『日本語の研究』第 4 巻 1 号 2008.1.1)

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2130

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考 当該文献に関しては、はじめて訓点資料としての観点より取り上げた。						

２．定量的評価

観点	論文掲載数					
判定	A					
備考 予定通りに調査が出来、それを論文に反映させた。						

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	院政期の訓点資料でもある館蔵品の『春記』紙背にある仏典の訓点などを調査し、訓点の系統から、それらの伝来などを考察したもので、教学的交流にも目を向けた内容として評価できる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	着実に館蔵品の調査に基づいて、論文を作成しており、今後とも館蔵の書跡の訓点調査を新たな観点から調査することは、展示公開事業にも大いに裨益する。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2131

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 15）彫刻に関する調査研究（客員研究員）

【事業概要】

当館に保管および寄託される仏像を中心とした彫刻作品の調査、研究

【担当部課】	学芸課美術室	【事業責任者】	上席研究員・美術室長　西上　実

【スタッフ】

淺湫　毅（主任研究員)、井上一稔（客員研究員）

【年度実績概要】

当館が保管、あるいは当館が社寺より寄託を受けている彫刻作品の調査および写真資料の収集を、新たに行なった。

社寺、個人宅など、館外に所在する彫刻作品の調査・撮影を行なった。

上記調査作品の関連文献、史料の収集および研究を行なった。

これらの調査に際し、客員研究員の井上一稔氏の協力を得た。

過去の研究データに基づき特別展覧会および特集陳列、平常陳列の作品選定、展示、解説を行なった。

【実績値】

特別展覧会『藤原道長』を開催し（展覧会副担当)、図録に概説および作品解説の執筆を行なった。
同展出品作品の調査および写真撮影を展覧会会期中に行なった。
特集陳列『清水隆慶』を開催し、調査による新発見の作品を含めて展示し、解説の執筆を行った。
将来の特別展準備のための調査を妙心寺塔頭（妙心寺展）および本圀寺、頂妙寺（日蓮展）で行なった。
知恩寺において社寺調査を行ない、彫刻作品の調査を担当した。
その他、八坂神社、勝持寺、増上寺、建穂寺において彫刻作品の調査を行なった。このうち八坂神社、増上寺の調査結果は 20 年 5 月発行の『学叢』（京都国立博物館発行）に掲載する予定である。

論文　「木造不空羂索観音坐像・木造十一面観音坐像　京都・金戒光明寺蔵」(『学叢』29 号）他 3 篇
研究会発表　「金戒光明寺の文殊菩薩騎獅像について」(『戒律文化研究会第 6 回学術大会』)

【備考】

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2131

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

彫刻作品の調査の成果を、特別展覧会、特集陳列等の展示により公開できた。次年度以降の展観事業の準備として継続的に調査・研究を行っている。

２．定量的評価

観点	論文数					
判定	A					

備考

計画的に調査を行い、論文に反映させることができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館の所蔵、寄託作品に関する情報は順調に得られており、館外での作品調査に際しても重要な情報が収集された。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究によって得られた情報を将来の展覧会に生かせるよう、さらなる情報の収集を図りたい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2132

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 ・建仁寺本坊所蔵典籍の調査・研究

【事業概要】

近年、建仁寺本坊では、第二次世界大戦から閉じられたままの土蔵が開けられ、なかには膨大な数の典籍が収蔵されていることが判明した。

本事業では、これらが調査された形跡がないことにかんがみ、まずは全体像を把握するための調査と、目録づくりをすることを目的とする。最終的には、建仁寺本坊においてこれらの典籍がどのように集積されたのかを研究する。

【担当部課】	学芸課美術室	【事業責任者】	上席研究員・美術室長　西上　実

【スタッフ】

羽田聡（研究員）

【年度実績概要】

1 月に一度、建仁寺本坊の土蔵におもむき、

①典籍の入った箱に通し番号をつけ、一つずつ別室へ運び出す。(写真①：典籍の入った土蔵内部)

②箱内部の典籍を取り出し、ホコリをはらい、全ての調書を作成する。(写真②：調査風景（ホコリを払った典籍)

③重要と認められるものについては、デジタルカメラで撮影する。

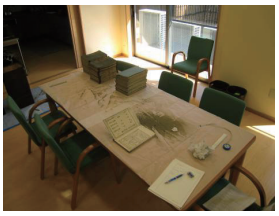
④土蔵内部のホコリをはらい、箱を元に戻す。

という方法で所蔵典籍の調査をおこなった。

【実績値】

調査実施回数	12 回
調査資料点数	約 200 点
調書作成点数	約 200 点
撮影資料点数	約 20 点

①典籍の入った土蔵内部



②調査風景(ホコリを払った典籍)

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2132

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	独創性	発展性	継続性	正確性		
判定	B	A	A	A		

備考

本事業は、調査を維持するという継続性が第一に求められる。ここで得られた成果があらたな寄託品へとつながる可能性もあり、また、集積されたデータは将来的には博物館の有する文化財情報に寄与するという応用性も持ちあわせる。

２．定量的評価

観点	調査実施回数	調査資料点数	調書作成点数	撮影資料点数		
判定	A	A	A	A		

備考

19 年度、建仁寺本坊の所蔵する典籍については、全体の 10 分の１程度の調査を終えた。複数冊で１点というものもあるので、冊数ベースで考えると、実際に調査した典籍はかなりの数にのぼる。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ほかの事業と兼ね合いながらも、建仁寺本坊の所蔵する典籍については、全体のおよそ 10 分の１の調査を終えた。20 年度は、これまでの悉皆調査と並行して、ある程度、全体像の把握をするようつとめたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	建仁寺本坊所蔵典籍の調査・研究事業は、ほかの事業と兼ね合いながらも、おおむね計画通りに実施されたと考える。20 年度は、現状の維持につとめるとともに、ある程度、全体像の把握をする作業にも着手したい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2133

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 ・古写経の書誌学的研究

【事業概要】

中国・韓半島・日本で書写された古写経の書誌学的研究に関する論文を発表し、機会があれば、国際会議に出席し、発表を行う。

【担当部課】	学芸課美術室	【事業責任者】	上席研究員・美術室長　西上　実

【スタッフ】

赤尾栄慶（企画室長）

【年度実績概要】

古写経の書誌学的研究に関する論文は、2 編で、韓国と中国で出版されたものであり、国際会議は、イギリスと韓国で開催されたものに参加した。

【実績値】

(学会発表)

・「Prinate Dunhuang-related collections in Japan」2007 年 5 月 17 日　A Hundred Years of Dunhuang, 1907-2007　The British Academy, British Museum and British Library

・「日本の古写経の調査・研究について」2008 年 2 月 21 日　古代韓日言語比較研究　韓国・ソウル大学

(論文 2 編)

・「中・韓・日の古写経にみる見返し絵（扉絵）について」　特別展「写経変相図」345ｐ―349ｐ 2007 年 7 月　韓国国立中央博物館

・「京都国立博物館蔵大谷探検隊帯来写本介紹」　『転型期的敦煌学』33ｐ―40ｐ 2007 年 11 月 上海古籍出版社

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2133

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考 国際的な見地から、論文や学会発表を行っている。						

２．定量的評価

観点	学会発表	論文掲載数				
判定	A	A				
備考 学会発表はいずれも高い評価を得、論文は韓国・中国で掲載された。						

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	論文や学会発表が、いずれも国際的な視野に立っている。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	学術的な国際交流を視野に入れつつ、研究成果を発表している。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2134

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 ・日本の漆芸品にかかる調査研究

【事業概要】

日本の漆芸品（国の内外の伝世品、出土品）を調査し、関連する文献を読解して、日本の漆工芸の歴史をより広く深く考察し、平常展示の内容の拡充を図るための研究

【担当部課】	学芸課工芸室	【事業責任者】	工芸室長　久保智康

【スタッフ】

永島明子（研究員）

【年度実績概要】

16 年度～17 年度科学研究費助成金（基盤研究 B)「近世漆工基礎資料の研究―高台寺蒔絵を中心に―」(16320024　研究代表者小松→永島）において調査の機会を得た高台寺蒔絵の新資料や、15 年より日野町の委嘱を受けて調査を進めていた「日野椀」に関わる研究、さらに、同年に当館で一括寄託を受けた個人所蔵の近世の漆絵の伝世品百余点、16 年に京都市埋蔵文化財研究センターで調査をし、その後借用して展示の機会も得た中世の漆絵椀数十点、18 年度早々に調査の機会を得た妙法院の所蔵品、当館に寄託を受けている高台寺をはじめとする社寺や個人の所蔵品の調査に基くデータ、過去の社寺調査で閲覧の機会を得た漆器のデータなど、本年度に限らない漆芸品の調査、採寸、写真撮影によるデータの蓄積に基き、漆絵と蒔絵の関連性など日本の漆芸史の流れを再考した。その内容は平常展示における作品の選択、配列、解説に反映されたほか、土曜講座に活用され、作品購入候補の判断においても参考とされた。また、当館研究紀要や日野町史の紙上で公表されたほか、日野町の依頼により第 3 回日野町町民大学講座において講演を行い、日野町民に地元の漆器について知ってもらう機会が得られた。さらに、20 年度秋に開催を予定されている輸出漆器の特別展覧会の準備においても、特にその第二章を構成する上で、本年度の調査研究が基礎となった。

【実績値】

論文掲載　・「日野椀」日野町史編さん委員会編『近江日野の歴史』第五巻文化財編　2007 年 3 月
・「漆絵椀から蒔絵椀へ－小倉本就寺蔵「太閤膳」の調査報告および高台寺蒔絵様式の成立と流行に関する一考察―」『学叢』第 29 号　京都国立博物館　2007 年 5 月

撮影数　4800 カット以上

【備考】

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2134

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	B	A	A	B	A	

備考

本研究は、日々の調査や研究の蓄積から、帰納的に新見地に至るかどうかわかるものであるため、適時性や効率性の面からは特段優れているとは言いがたいが、古社寺の集中する関西圏、ことに京都という未調査作品の宝庫をフィールドとし、個々の作品を入念に調査して進められる研究であるため、独自性、正確性は高いと言える。今後もますますデータの充実が期待され、発展性も高いと言えるだろう。

２．定量的評価

観点	撮影数	論文掲載数				
判定	A	A				

備考

調査対象作品の所蔵者は 30 箇所以上、デジタル画像の撮影数は 4800 カット以上。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	日本を中心とした漆工芸の作品をまとめて鑑賞できる日本でも数少ない展示施設として、当館が、多様かつ上質な作品の観覧を可能とし、併せてその文化的・歴史的背景をより深く理解できるような場であり続けるために、最も重要となる地道な調査活動の蓄積とそこから得られた新知見の公表を実現しているため。旅費や撮影費の確保、資料読解や考察のための時間の確保、効率的なデータ整理のための機器や人員の配備が課題である。今後も引き続きデータの蓄積に努め、機会あるごとに新知見を国の内外に伝えられるよう努めて行きたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	京都文化を中心にした漆芸品という文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究を進めている。研究内容は当館における講座や展示のみならず執筆物で公表されているが、たとえば業績評価の場面などでもその内容を理解した上で評価がなされることがないので、今後はより多くの人の関心と批評を得ることが課題といえよう。また地道な研究活動に不可欠な時間を確保できるよう、不必要な事務書類の省略・簡便化にも努めたい。20 年度以降も精力的に調査をこなし、収集・保管・公衆への観覧に活かして行きたい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2135

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 ・中・近世の金属工芸品の製作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究（トヨタ財団研究助成）

【事業概要】

中世・近世の交易の要であった中国の江南、韓国の嶺・湖南、日本の瀬戸内という 3 地域において、製作あるいは受用された金属工芸品を調査して、製作技術・意匠・用途などの地域間交流の実態を解明し、それを惹起した地域相互の文化認識のあり方、それらを媒介した人や組織などを解明する。

【担当部課】	学芸課工芸室	【事業責任者】	工芸室長　久保智康

【スタッフ】

羽田聡（京都国立博物館研究員）、王牧（中国浙江省文物鑒定中心研究員）、崔應天（韓国国立中央博物館アジア部長）、金恩愛（韓国 AMORE MUSEUM 学芸員）、塚本麿充（大和文華館学芸員）、上里隆史（法政大学沖縄文化研究所研究員）、三笠景子（東京国立博物館研究員）、多比羅菜美子（根津美術館学芸員）

【年度実績概要】

国内では、東京国立博物館・愛知県美術館などに所蔵される唐物銅器の基準作について調査を進めた。また新潟県伊達八幡館遺跡、埼玉県大山遺跡・大光寺裏遺跡から出土した銅器の調査を行い、成果の一部を著述した。とくに前者については、その重要性から 19 年度新潟県指定文化財となり、自治体の文化財保護行政にも貢献できた。国外では、韓国国立中央博物館で、元から博多に 1323 年頃に航行し、韓国新安沖で沈没した遺跡の引き揚げ金工品を調査した。国立海洋遺物展示館の新安船金属工芸シンポジウムに招聘され、調査成果を発表した。さらに平常展示において、特集展示に活用した。

【実績値】

研究会発表件数	新安船出土金属工芸シンポジウム（於韓国木浦） 発表テーマ「14 世紀日本の金属工芸と新安船遺物」	1 回
論文掲載数	『木村定三コレクション名作選』所載	1 篇
平常展示の特集	「平安時代の鏡」「中世武士の装い」「社寺伝来の名刀」	3 回

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2135

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

本テーマは、工芸的観点から日・中・韓の地域間比較を行う点で適時性が高く、従前金工品を射程に置いたものはなかったので、独創性・発展性が高い。3 カ国の若手研究者により推進され、効率性・正確性の万全である。

２．定量的評価

観点	研究会発表件数	論文掲載数	平常展示の特集			
判定	A	A	A			

備考

研究会発表は 1 件だったが、韓国に於いて行われたシンポジウムできわめて大きな注目を集めた。論文・展示については、今後研究の進捗に応じて充実させていきたい。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	国内外の関係作品の調査を積極的に行い、その一部は県指定文化財となるなど、自治体の文化財保護行政にも貢献できた。国内外の研究者と協力体制を構築できた。また研究発表、著作、平常展示の特集展示などで成果を公表できた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究は 19 年秋から開始したもので、研究参加者との意思統一を十分図ることができ、また韓国でいち早く調査とその成果を発表できて、順調なスタートが切れた。20 年度は本格的調査を実施して、研究を深め、その成果を地元に還元していきたい。また展覧会についても、構想を練っていきたい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2136

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 ・古代中世山林寺院の調査・研究

【事業概要】

仏像、仏画、仏具など仏教美術への理解を促進すべく、それらが需用された「場」としての古代中世山林寺院について調査し、空間論的な検討を行う。

【担当部課】	学芸課工芸室	【事業責任者】	工芸室長　久保智康

【スタッフ】

【年度実績概要】

摂関期の仏教信仰を主導した延暦寺・神護寺と、同時期の地方山林寺院遺跡（福井県文殊山、富山県上黒川宗教遺跡群、静岡県岩室寺跡・久能山など）における建物跡の踏査、伝存美術工芸品についての調査・研究と執筆を行った。また講演会において成果を発表した。

【実績値】

講演会・研究会発表件数	講演会（福井県鯖江市、静岡県袋井市）　2 回
論文掲載数　1 篇	・「道長の時代における在地仏教－山林寺院と工芸にみる－」『藤原道長』所載
著作数　2 篇	・「延暦寺の文化財」『古寺巡礼　京都 12　延暦寺』淡交社（共著）
	・「山林密教寺院・神護寺の文化財」『古寺巡礼　京都 15　神護寺』(共著)

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2136

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

古代中世山林寺院というテーマ自体、事業責任者が牽引してきたもので、近年各方面で注目されてきた。更にモノとしての美術工芸品の研究を組み合わせたもので、適時性以下、いずれの観点からも高い評価を与えうる。

２．定量的評価

観点	講演会・研究会発表件数	論文掲載数	著作数			
判定	A	B	A			

備考

一般の聴講者、読者を対象として、複数回の講演、著作をなしえた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	19 年度当初に開催した特別展覧会『藤原道長』、19 年度内に出版された普及書、古寺巡礼シリーズの『延暦寺』『神護寺』と、福井・静岡での講演会に関係させ、調査研究を促進し、成果をいち早く公開できた。今後も各地の自治体、研究者との交流を深め、生産的な調査・研究に努める。また各地での展覧会など、文化財公開に協力する。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画の一環として、有形文化財の理解を、その存在環境という視点で進めることができた。研究成果をさらに公開すべく活動していきたい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2137

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 ・仏教工芸の調査・研究

【事業概要】

京都の社寺に伝来する工芸品の調査を進め、従来から評価の高い鎌倉時代以前の工芸品に加え、室町時代以降江戸時代に至る工芸品にも目を配り、その存在意義を明らかにして評価を高める。また経典や疏、密教儀軌、図像などを検討することにより、それらの仏教工芸作品が生み出された思想的背景について分析する。

【担当部課】	学芸課工芸室	【事業責任者】	工芸室長　久保智康

【スタッフ】

尾野善裕（主任研究員）、山川暁（主任研究員）、永島明子（研究員）

【年度実績概要】

特別展覧会の準備に伴う妙心寺関係寺院、日蓮宗関係寺院の事前調査、社寺総合調査としての知恩寺の調査を行った。また各方面からの依頼に伴い、延暦寺、仁和寺、妙法院、石清水八幡宮、三重県亀山市内諸寺院、福井県永平寺など各地の寺院所蔵工芸品の調査を行った。またその成果をまとめ、執筆を行った。さらに、中国における学会発表、国内での講演会、土曜講座等で成果を発表し、平常展示において特集展示に活用した。

【実績値】

講演会・研究会発表件数	遣隋使・遣唐使シンポジウム（於中国杭州）　1回 発表テーマ「東アジアにおける＜唐鏡＞の存在形態とその意味」 講演会（富山県富山市）　1回 土曜講座（京都国立博物館）　2回
論文掲載数　2篇	・「道長の時代における在地仏教－山林寺院と工芸にみる－」『藤原道長』所載 ・『乱世を生きる－真盛上人－』越前市武生公会堂記念館　所載
著作数　3篇	・「延暦寺の文化財」『古寺巡礼　京都 12　延暦寺』淡交社（共著） ・「山林密教寺院・神護寺の文化財」『古寺巡礼　京都 15　神護寺』（共著） ・「妙法院・三十三間堂の宝物」『古寺巡礼　京都 18　妙法院・三十三間堂』淡交社（共著）
平常展示の特集	「仏教の工芸」　1回

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2137

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

工芸の全分野をカバーするメンバー構成は全国的にもほとんどなく、きわめて高い水準の社寺調査を推進してきた。周囲からの期待も大きく、依頼調査もできる限り応じてきた。適時性以下の各観点で高い評価を与えうる。

２．定量的評価

観点	講演会・研究会発表件数	論文掲載数	著作数	平常展示の特集		
判定	A	A	A	A		

備考

業務多忙な中で、発表・論文・著作とも最大限の成果を出している。各分野が 1～2 ヶ月毎に行う特集展示でも成果が充分活かされている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	寺院所蔵工芸品について積極的な調査活動が展開できた。また特別展覧会『藤原道長』や、論文・著書、講演会、土曜講座、特集展示等で多くの成果を発表することができた。20 年度以降も、より正確かつ積極的な調査を展開し、成果をさまざまな形で公表したい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	有形文化財の掘り起こしに努め、展覧会や研究発表・講演・土曜講座などで積極的に公表することができた。研究成果をさらに公開すべく活動していきたい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2138

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 ・特別展の事前調査

【事業概要】

京都国立博物館の自主企画、特別展覧会「絵画の冒険者 暁斎　Kyosai」(20 年 4 月 8 日～5 月 11 日開催)の展示内容を充実したものにすることを目的として、国内外に所在する河鍋暁斎作品の事前調査、関連文献の調査を実施する。

【担当部課】	学芸課美術室	【事業責任者】	上席研究員・美術室長　西上　実

【スタッフ】

山下善也（主任研究員)、狩野博幸（客員研究員・同志社大学教授)

【年度実績概要】

山下善也主任研究員のニューヨーク出張に合わせて、メトロポリタン美術館所蔵の河鍋暁斎作品の集中的な調査、山下善也主任研究員・西上実上席研究員・狩野博幸客員研究員 3 名により、河鍋暁斎の曽孫が館長をつとめる埼玉県蕨市の河鍋暁斎記念美術館を訪問し、同館所蔵の全暁斎作品の集中的な調査を実施するとともに、東京・千葉・福岡・熊本・兵庫・京都など各地に所蔵される暁斎作品を随時調査した。それとともに、暁斎に関する文献調査・取材調査を実施した。以上により、展覧会の骨格作り、肉付けを着実に進めることができ、展覧会を具体化するための準備を行うことができた。

【実績値】

6 月 6 日～7 日、山下善也主任研究員が、ニューヨーク・メトロポリタン美術館にて、同館所蔵の河鍋暁斎作品 50 件余を集中的に調査。

7 月 27 日～28 日、山下善也主任研究員、西上実上席研究員、狩野博幸客員研究員の 3 名が、埼玉県蕨市の河鍋暁斎記念美術館にて、同館所蔵の河鍋暁斎作品約 200 件を集中的に調査。

その他、福岡市博物館、高津古文化会館、京都文化博物館等の所蔵機関、東京・兵庫・京都等の個人宅にて、山下善也主任研究員、狩野博幸客員研究員が、所蔵される河鍋暁斎作品の調査を随時実施した。

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2138

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	B	

備考
20 年に予定されている特別展覧会の作品調査について、国内外で積極的に行い、充分な成果を得ることができた。

２．定量的評価

観点	調査作品数					
判定	A					

備考
限られた日程、人員で集中的に調査を実施できたことは高く評価できる。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	暁斎作品の新発見 11 件、それを含めて初公開 22 件ということを実現したのも、積み重なる調査研究があったからにほかならない。暁斎は、幕末・明治期の狩野派作家であり、この成果を、20 年度以降の狩野派研究に反映させることができる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、集中的な事業実施が可能になったことから、順調だったといえる。 このペースを堅持するとともに、調査手法等を深化させ、関連の研究調査に成果をいかしていきたい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2139

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 ・宸翰（天皇の書）の歴史学的見地からみた調査・研究

【事業概要】

宸翰（天皇の書）は、京都国立博物館の書跡部門における館蔵品および寄託品をふくめた収蔵品において、質・量ともに他館に誇るべき大きなコレクションを形成している。

本事業は、これまで書道史の側面から語られることの多かった宸翰について、「その発生から多様化までを歴史学に立脚して解釈する」という問題意識のもと、収蔵品を中心に調査･研究することを目的とする。また、将来的にはこの成果を取り入れた特別展覧会の開催も目的とする。

【担当部課】	学芸課美術室	【事業責任者】	上席研究員・美術室長　西上　実

【スタッフ】

羽田聡（研究員）

【年度実績概要】

宸翰とひとくちにいっても、内容的には日記・文書・詠草・懐紙・経典から画賛や額字まで多様性があり、また、時代による幅がかなりある。したがって 19 年度は、いわゆる宸翰様が大成した鎌倉時代末期から南北朝時代をとりあげ、光厳天皇から後円融天皇にいたる北朝天皇宸翰の重点的な情報収集、ならびに調査を行った。調査の方針としては、一点ごとに調書を作成し、デジタルカメラで撮影のうえ、本文をテキストデータとして入力した。

調査に基づく研究の成果としては、学校法人立命館および妙満寺より寄託されている重要文化財「法華経要文和歌懐紙（光厳天皇宸翰をふくむ)」の伝来、および作成当初のすがたについて、新たな知見を得たため、その成果を研究会で発表し、論文として公刊した。付け加えておくと、こうした成果を個人コレクターに報告したところ、関連作品を所蔵していたことを知り、これを新たに寄託品として加えることができたことからすれば、収蔵品の増加という博物館の根幹事業たりうる部分にもつながった。

【実績値】

研究会発表　羽田聡「法華経要文和歌懐紙の伝来と復元―立命館本を中心に―」
（日本文化史研究会、2007 年 7 月 3 日）　1 回
論文掲載数　羽田聡「法華経要文和歌懐紙の伝来と復元―立命館本を中心に―」
（『アート・リサーチ』第 8 号、2008 年 3 月）　1 篇
調査資料点数　約 30 点
調書作成点数　約 30 点
撮影資料点数　約 100 点

【備考】

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2139

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性	正確性	
判定	B	A	A	A	A	

備考

本事業は、宸翰を歴史学の見地から見直す、というこれまでの解釈にとらわれない発想や着想に基づいているため、応用性が見込まれる。また、継続的に調査・研究を行うことで、将来的には展覧会の開催という公共性および公開性という側面も視野にいれている。

２．定量的評価

観点	調査資料点数	調書作成点数	撮影資料点数	研究会発表回数	論文掲載数	
判定	A	A	A	A	A	

備考

当館に収蔵される北朝天皇宸翰については、ほぼ調査を終え、詳細な調書を作成した。また、調査したものについては、本文を解読のうえ、テキストデータとして入力し、撮影した画像とともに保管する作業もあわせて行った。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ほかの事業と兼ね合いながらも、当館に収蔵される北朝天皇宸翰については、ほぼ調査を終え、詳細な調書を作成し、データの収集および蓄積につとめた。寄託品の増加という側面ももちあわせているので、20 年度は、博物館外の関連作品も視野にいれ、調査・研究を継続するようつとめたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本事業において、北朝天皇宸翰を重点的に調査するという 19 年度の計画は、ほかの事業と兼ね合いながらも、滞りなく実施されたと考える。20 年度は鎌倉時代末期における持明院統、具体的には伏見・後伏見・花園天皇の宸翰を重点的に調査し、状態の維持につとめるとともに、成果を講座あるいは誌上で公開することも考えるようにしたい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2140

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財に係る調査研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 ・特別展覧会開催に向けての在日ヨーロッパ陶磁の調査研究

【事業概要】

20 年 1～3 月に予定されている特別展覧会『憧れのヨーロッパ陶磁』に向けて、江戸・明治時代のうちに日本へもたらされたヨーロッパ陶磁と、その影響関係下にある東洋陶磁の作品を実地に調査し、特別展覧会の内容充実を図る。

【担当部課】	学芸課工芸室	【事業責任者】	工芸室長　久保智康

【スタッフ】

尾野善裕（主任研究員）、谷口愛子（調査員）、森下愛子（調査・研究支援ボランティア）

【年度実績概要】

東京国立博物館・愛知県陶磁資料館（産業技術総合研究所寄託品）・大阪府教育委員会・京都工芸繊維大学美術工芸資料館・京都府立総合資料館・昭和美術館・大阪市文化財協会が所蔵するヨーロッパ陶磁と関連東洋陶磁を合計 100 件以上調査し、調書を作成した。

調査成果については、特別展覧会に併せて刊行した図録の記述や特別展覧会関連土曜講座に反映させ、成果の公開にも努めた。

【実績値】

調書作成件数　約 100 件

調査成果掲載図書　1 冊　（特別展覧会『憧れのヨーロッパ陶磁』図録）

講座開催回数　1 回

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2140

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	B	

備考

日本の開国を象徴する修好通商条約締結 150 周年の本年に、日欧の文化交流を主題とした本調査を実施したことは、時宜の上から適切であったと考えている。

２．定量的評価

観点	調書作成件数	調査成果掲載図書	講座開催回数			
判定	A	A	A			

備考

調査の成果を特別展覧会刊行図録に反映することができた。「京都伝来の阿蘭陀焼」と題して実施した土曜講座では、会場定員の 9 割に達する聴講者を得ることができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年度当初に計画していなかった事業であるが、調査成果を反映させた展覧会では 59,000 人の来館者があり、共催新聞社以外の紙面でも視点を評価する好意的記事が複数掲載された。図録に若干の誤植等があったため、定性的評価の正確性についてＢとしたが、他の展覧会図録と較べれば決して多くはなく、全体評価に関わるほどの瑕疵ではないと考える。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ヨーロッパ陶磁という一見無関係にも思われるような対象の中にも、京都文化との密接な関わりがあることを示すことができ、中期計画に対して順調に成果をあげることができた。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2141

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5)　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ｖ修復文化財に関する調査研究 ・敦煌写本の保存と修理

【事業概要】
有形文化財のうち、紙の文化財に関する修理・保管についての国際的な交流を行う。

【担当部課】	学芸課美術室	【事業責任者】	上席研究員・美術室長　西上　実

【スタッフ】
赤尾栄慶（企画室長）

【年度実績概要】
国内外の紙の文化財の修理に関する交流や提言を積極的に行う。

【実績値】
IDP（国際敦煌項目）の国際会議の報告書に小論を発表した。

(論文発表)
・「古文書修復―以李柏文書的修復為中心―」　『融摂与創新：国際敦煌項目第六次会議論文集』99ｐ―100ｐ
2007 年 5 月　中国国家図書館善本特蔵部・英国図書館敦煌項目編　中国・北京図書館出版社

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2141

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	B	A	A	A	

備考
敦煌写本の修理に関しては、国際的な見地から発言を行い、指導も行っている。

２．定量的評価

観点	論文掲載数					
判定	A					

備考
敦煌写本の研究・修理などでは世界最大かつ最も権威のある組織の国際敦煌項目（IDP）の報告書に掲載された。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	敦煌学の研究者や保存修理部門の関係者から高い評価を得た。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今後とも、紙の文化財の修理に関する指導及び提言を行い、国際交流の機会があれば、積極的に参加する。

【書式B】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 2142

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 vi 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究 1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施

【事業概要】

近隣社寺へ奈良国立博物館に対する積極的な協力の働きかけを行って所蔵文化財の調査研究等を行い、その成果を事業（展示等）に反映させる。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	学芸課長 梶谷亮治

【スタッフ】

奈良国立博物館学芸課上席研究員鈴木喜博他 13 名

【年度実績概要】

・室生寺、海住山寺、現光寺など近隣社寺から新規に寄託品を受け入れ、平常展の活性化につなげた。
・東大寺戒壇堂四天王像（国宝）及び法華堂執金剛神像（国宝）の彩色調査、X 線調査に基づく構造分析・作図、成分分析などを継続的に進めてより精度の高い資料を集積し、成果公刊に向けた準備を行った。
・特別展「神仏習合－かみとほとけが織りなす信仰と美」、同「美麗　院政期の絵画」出陳の近隣社寺所蔵品を事前調査（前者の実施は前年度）し、その成果を展示及び展覧会図録に反映した。
・春日若宮おん祭に関する文化財調査を実施し、その成果を特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に反映した。

【実績値】

・社寺調査対象数　約 20 件

【備考】

【書式B】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 2142

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

南都諸社寺等に所蔵される文化財の調査は、奈良に立地する当館の基本的不可欠な作業の一つであると位置づけられる。こうした調査を通じて、近隣社寺との交流・信頼関係が一層深まりつつあり、今後の当館の企画・事業に好影響が期待される。

２．定量的評価

観点	社寺調査数					
判定	A					

備考

展覧会企画に沿った調査研究が中心になっており、その点では必要十分な条件を満たしている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	室生寺・海住山寺・現光寺などから新たな寄託品を受け入れたことで平常展が一層活性化した。東大寺戒壇堂四天王像（国宝）及び法華堂執金剛神像（国宝）の調査は 20 年度にその成果を公刊できる予定である。特別展「神仏習合」、同「美麗　院政期の絵画」に出陳した近隣社寺所蔵品の事前調査の成果は展示及び展覧会図録に反映され、高い評価を得た。春日大社の若宮おん祭に関する文化財調査の成果は特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に反映された。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	仏教美術と奈良の文化を調査研究展示活動の主眼としている当館にとって、近隣社寺の宝物調査は必須の事業である。19 年度も東大寺や春日大社を初めとする社寺の宝物調査を行うことにより、展覧会を活性化させ、学術的成果をあげることもできた。

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2143

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 2) 大和古代寺院出土遺物の研究を帝塚山大学考古学研究所との共同研究として実施

【事業概要】

以前に奈良国立博物館主体で発掘調査を行った斑鳩地域の古代寺院の遺物について、分類、実測図作成などの整理作業を通じた出土遺物の研究を目的として実施する。

【担当部課】	学芸課工芸考古室	【事業責任者】	資料室長　吉澤　悟

【スタッフ】

岩戸晶子（奈良国立博物館学芸課教育室)、森郁夫（帝塚山大学教授)、甲斐弓子（非常勤講師)、ほか大学院生 3 名

【年度実績概要】

法隆寺賢聖院等出土の瓦器埦片、瓦片、陶磁器片などの洗浄及び接合作業を行い、加えて可能な限り実測図の作成を行った。さらに、瓦器埦に関しては器形による分類作業を通してこれら出土器の年代判定の基準を得るための試みを行った。

【実績値】

整理作業を行った遺物はコンテナ 13 箱（破片が多く数量は数えるのは不可能)

【備考】

【書式B】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 2143

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

瓦器の研究は、昨今の中近世土器研究において注目されているもので、特に中世法隆寺の歴史に直接関わる資料として大きな学術的価値をもつ。その整理に着手したことは向後研究の方向性を定めるためにも有意義であると思われる。

２．定量的評価

観点	資料整理数					
判定	A					

備考

埋蔵文化財行政で処理する量に比べれば、量としては多くないものの、博物館と大学とが教育的配慮のもとに行う調査研究としては適切かつ有益な作業であった。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	法隆寺の中世の土器について、まだ未報告である資料を中心に整理作業を行った。帝塚山大学の学生が実際の作業を担当し、効率よく作業を遂行できた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本事業は奈良国立博物館で初めて外部との共同研究を行ったもので、長年、整理作業が行われなかった遺物について、外部との協力によって完遂した事業である。本事業の成果を公表することで、新たなデータを提示でき、研究に寄与できると考えられる。

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2144

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 viii 仏教美術の光学的調査研究 3) 仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究）

【事業概要】

東京文化財研究所との間で締結した協定書に基づき､両機関の共同研究として仏教美術作品の光学的調査を実施し、使用材料、製作過程等について検討するとともに、高精細デジタルコンテンツを作成する。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	学芸課長　梶谷亮治

【スタッフ】

奈良国立博物館：中島博（情報サービス室長)、稲本泰生（企画室長)、宮崎幹子（研究員)、谷口耕生（研究員)

東京文化財研究所：山梨絵美子（文化財アーカイブズ研究室長)、早川泰弘（分析科学研究室長)、皿井舞（研究員)、城野誠治（専門職員)

【年度実績概要】

奈良国立博物館において国宝吉祥天画像（奈良・薬師寺蔵）および国宝聖徳太子及び天台高僧像（兵庫・一乗寺蔵）についてそれぞれ、①高精細デジタルカメラによるフルカラー画像の作成、②可視光励起による蛍光画像の作成、③反射近赤外線画像の作成、④透過近赤外線画像の作成、⑤蛍光エックス線分析、⑥軟エックス線照射による透過画像の作成、等の調査を実施した。さらに国宝吉祥天画像については、薬師寺・東京芸術大学・東京国立博物館所蔵の明治・大正期における模写の調査を実施するとともに、昭和 32 年の修理記録を精査し、修理以前の状態および修理時の改変点について確認した。これらの成果に基づき、奈良国立博物館と東京文化財研究所においてそれぞれ研究会を数回開催し、成果発表に向けての検討を重ねた。

国宝聖徳太子及び天台高僧像の調査風景

【実績値】

作品調査実施回数　2 回（それぞれ 1 週間実施）
研究会開催件数　3 回（奈良国立博物館で 2 回、東京文化財研究所 1 回）
論文掲載数　2 本（報告書「国宝 麻布著色吉祥天像」）
調査作品数　2 件 4 点
・国宝　吉祥天画像（薬師寺蔵）　1 点
・国宝　聖徳太子及び天台高僧像のうち善無畏・慧文・灌頂像（一乗寺）　3 点

【備考】

【書式B】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 2144

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考

古文化財、特に著色絵画に対する高精細デジタル撮影、蛍光エックス線撮影をはじめとする光学的調査はこの共同研究を嚆矢としており、今後の調査法のモデル的ケースと位置づけられる。またその結果従来の見解を書き換える成果も期待される。

２．定量的評価

観点	調査実施回数	研究会開催数	論文掲載数			
判定	A	B	A			

備考

国宝吉祥天画像の調査研究の成果として、詳細な画像データ、蛍光エックス線調査データ、画像についての美術史的見解を考察した論文等を掲載した報告書を出版することが出来た。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	最新鋭の光学機器を用いた調査の実施により、従来は不明だった文化財の材質や構造を明らかにすることができ、また文化財の保存・修理を将来行う上での指針となる詳細な現状記録を残すことができた。特に 19 年度は天平仏画と平安仏画の代表作について詳細な調査を実施し、共同研究のメンバー以外にも当該作品の修理に携わった研究者などを招聘して調査を実施することができた。ただし調査データの解析にあたっては、未だデータの蓄積が十分でないために判断を保留せざるを得ない部分もあり、聖徳太子及び天台高僧像全 10 幅のうち未調査幅を中心に 20 年度以降も同様の調査を重ねていくことで、分析の精度を高めていきたい。また調査前・調査後の検討会をより綿密に行う一方、現在は 1 週間程度かかる 1 回あたりの調査実施期間を圧縮して作品への負担を軽減したい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、目録作成やデータベースの公開に力を注ぎたい。

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2145

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 4) 仏教美術写真収集及びその調査研究

【事業概要】

館蔵品および館外から借用した仏教美術作品を新規撮影し、これを登録管理し、必要に応じて利用できる体制を整える。特にカタログや美術書では見ることのできない作品の側面、裏面、内側などの撮影を多数行い、制作技法や構造理解に資する貴重な写真を蓄えることを主要な目標とした。

【担当部課】	学芸課資料室	【事業責任者】	資料室長　吉澤　悟

【スタッフ】

森村欣司（奈良国立博物館学芸課資料室員）

【年度実績概要】

新規に撮影したカラーポジおよび白黒フィルムを数多く蓄積することができた。その中には、移動の困難な仏像の多面的な写真やX線写真など貴重な資料が多く含まれている。また、劣化しているポジフィルムの再撮影、ガラス乾板のデジタルデータ化作業も同時に推進した。ガラス乾版は、過去に奈良国立博物館が行った三重県朝熊山経塚の貴重な発掘現場写真が含まれており、学術的な活用が期待されるものも少なくなく、新規撮影の写真は、データベースに登録し、検索利用を可能とした。さらに別途、公開用台紙を作成し、一般の閲覧に供している。

【実績値】

撮影した写真枚数は以下の通り

カラーポジ（４×５）	3,407 枚、	カラー35 ㎜	423 枚
モノクロ（４×５）	3,158 枚、	Ｘ線	147 枚

公開台紙配架数　カラー　679 枚、モノクロ　1,159 枚

【備考】

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2145

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	B	B	A	A	A	

備考

この研究作業は、継続性の高いものであり、短期的な画期性を期待すべきでなく、間断なく質の高い資料を蓄積できた点を評価したい。

２．定量的評価

観点	撮影数					
判定	A					

備考

写真枚数は、必ずしも多ければ良いわけではないが、質や継続性を勘案しても、19 年度は十分な量をこなしていると考える。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	過去 5 年間の平均撮影枚数は約 7 千枚であるのに対して、19 年度はこれを越えている。撮影枚数は目標数値とすべき性格ではないものの、十分な実績であると言える。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	昨今の写真デジタル化の勢いを鑑みた場合、機材と人材の確保を含めた長期的展望が必要であると思われる。

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2146

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ⅶ我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 5) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究

【事業概要】
仏教美術の専門館であり、日本仏教美術に関するもののみならず、広くアジアを視野に入れた展示を構成している奈良国立博物館の特長に鑑みて、中国や朝鮮半島における文化財とわが国の文化財の比較研究を実施する。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	学芸課長　梶谷亮治

【スタッフ】
奈良国立博物館学芸課上席研究員鈴木喜博他 13 名

【年度実績概要】
・中国上海博物館における仏教美術の調査、碑林博物館及び陝西歴史博物館における唐代文物の調査、敦煌莫高窟及び楡林窟における壁画の調査、蘭州博物館及び麦積山における仏教美術の調査等
・中国河南博物院における仏教美術を中心とした調査
・韓国国立慶州博物館における新羅文物の調査、国立中央博物館における三国時代から高麗時代仏教美術を中心とした調査等
・学術交流協定を結んでいる中国・上海博物館に 1 名、同・河南博物院に 2 名、韓国・国立慶州博物館に 1 名を派遣した。また上海博物館から 3 名、河南博物院から 2 名、中国国家博物館から 2 名、慶州博物館から 2 名の研究員を受け入れた。
・特別展「神仏習合－かみとほとけが織りなす信仰と美」では、中国・韓国における神仏習合の様相にも注目して中国で制作された関連作品の展示を行い、展覧会図録にも調査研究の成果を反映させた。
・特別展「第 59 回正倉院展」では、東アジア文化圏の中で正倉院宝物の意義を考察し、展示及び展覧会図録に反映した。また正倉院宝物の源流をシルクロードに探る取材のため研究員を派遣し、パネル展示や連載記事に協力した。
・20 年度春季特別展「天馬－シルクロードを翔ける夢の馬－」開催のため中国・米国・英国・イタリアに各 1 名の研究員を派遣し、中国で制作された関連作品を中心に、出陳に向けた事前調査・資料収集を行った。

【実績値】

研究員の派遣	6 人	研究員の受入	9 人
研究発表回数	4 回	図録作成数	1 部（正倉院展）

【備考】

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2146

（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

我が国の仏教美術を研究する上で、中国・韓国をはじめとする海外の仏教文化研究は必要不可欠である。そのために数箇所の研究機関と学術交流協定を基軸として効率的に調査研究を進め、その成果を当館の特別展等に反映させるように努めている。

２．定量的評価

観点	研究員派遣人数	研究員受け入れ人数	研究発表回数	図録作成数		
判定	A	A	A	A		

備考

展覧会企画に沿った調査研究ができ、その点では必要十分な条件を満たしている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	上海博物館（中国）・河南博物院（中国）・国立慶州博物館（韓国）の三館と研究員の交流を行うことで、広くアジア諸国を視野に入れた調査研究を行うことができた。特別展「神仏習合」では、神仏習合をわが国だけの現象ととらえることなく、中国で制作された関連作品の展示を行い、高い評価を得た。「第 59 回正倉院展」においても、正倉院宝物の源流をシルクロードで調査した成果をパネル展示などに活用した。また中国・米国・英国・イタリアでの調査は、20 年度特別展「天馬」の内容を充実させることになった。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	わが国とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究は次第に蓄積を増しており、こうした成果によって 20 年度特別展「天馬」の内容を充実させることができた。21 年度以降も中国との交流をメインテーマとする複数の特別展を計画中で、今後も引き続き調査研究を続けていく必要がある。

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2147

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 6) 当館所蔵品についての調査研究（客員研究員）

【事業概要】

従来からの収蔵品について継続的に調査研究を実施する。なお、新収蔵品については具体的な公開等を見越して重点的にこれを行う。調査研究の成果は、展覧会、印刷物、インターネット等を通じて公表し、広く斯界の学術的発展に資する。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	学芸課長　梶谷亮治

【スタッフ】

奈良国立博物館学芸課上席研究員鈴木喜博他 13 名

【年度実績概要】

・18 年度に寄贈を受け、新収蔵品となった個人コレクションの仏教工芸品に対する調査研究を重点的に行い、その成果を特別陳列「古玩逍遥－服部和彦氏寄贈仏教工芸展」で公表した。展示に併せて制作した図録は特別陳列の図録であるとともに、当該コレクションの総合目録としても有用であると高評価を得た。
・17 年度に購入し、新収蔵品となった個人コレクション整理・調査研究を進め、その成果を平常展考古部門の特集展示「奈良で甦る縄文の世界－小野忠正コレクション」に反映させた。
・五條市猫塚古墳出土品に関して、細かな観察に基づく再検討を実施した。
・特別展「神仏習合－かみとほとけが織りなす信仰と美」、同「美麗　院政期の絵画」開催に向けて行った関連収蔵品調査（前者の実施は 18 年度）の成果を展示及び展覧会図録に反映した。

【実績値】

図録作成数　　1 部（特別陳列古玩逍遥）

【備考】

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2147

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

収蔵品の調査研究は各部門による定期的継続的な点検調査を通して、平常展をはじめとして新たな成果を公開している。また、新収蔵品等についても集中的な調査を実施しており、この成果を公開しているのは前述の通りである。

２．定量的評価

観点	図録作成数					
判定	A					

備考

調査研究成果について、上質の図録として発表することができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新収蔵品となったふたつの個人コレクションの調査研究を進め、特別陳列「古玩逍遥」及び特集展示「奈良で甦る縄文の世界」に反映させた。前者の図録は当該コレクションの総合目録としての意義も有する。また事前調査としての様々な館蔵品調査の成果は、特別展「神仏習合」及び特別展「美麗　院政期の絵画」に反映され、高い評価を得た。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	従来からの収蔵品及び新収蔵品についての調査が継続的に実施され、その成果は評価の高い展覧会を生み、また展覧会図録等の出版物やインターネット等を通じて公表された。

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2148

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 7) 統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金）

【事業概要】

日本の瓦生産において大きく影響を与えた朝鮮半島の様相を日本の様相と比較検討すべく､今回は道具瓦－鬼瓦と鴟尾－を取り上げた。これまで文様研究ばかりであった統一新羅期の鬼面瓦について集成を行い、データを採取して、基礎的資料を作成する。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	研究員　岩戸晶子

【スタッフ】

なし

【年度実績概要】

・11 月に韓国国立慶州博物館・中央博物館へ赴き、調査協力の依頼を行ったうえ、各担当者と具体的な調査の進め方について打ち合わせをおこなった。
・12 月には中央博物館所蔵の鬼瓦資料について調査を行なった。
・2 月・3 月には韓国国立慶州博物館で主に雁鴨池遺跡出土の鬼瓦について悉皆調査に着手し、出土したうちの約 1／3 についてデータ採取、実測図作成などの作業を完了した。

【実績値】

韓国国立中央博物館では 15 点、韓国国立慶州博物館では 126 点の調査を実施した。

【備考】

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2148

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

韓国における古代瓦の考古学的研究はまだ端緒についたばかりであり、特に道具瓦については殆ど行われて折らず、研究テーマ自体もユニークである。韓国国立博物館とのこれまでの学術交流や、当館が国立慶州博物館で開催した展覧会担当者として培った人的つながりから、今回の調査研究が可能となった。

２．定量的評価

観点	調査点数					
判定	A					

備考

韓国国立中央博物館では年間限度点数を調査し、韓国国立慶州博物館でも当初予定を上回る点数の調査を行ったため。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	海外での調査は困難な問題が多いが、現在まで韓国側と適宜相談しながら順調に調査を進めている。20 年度は国内にある統一新羅資料も調査を進めたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	日本との比較等を韓国研究者と意見交換しながら進めていく必要があり、それによって考古学的成果だけでなく、人的交流の成果も期待できる。 また、学史的に貴重でありながら、これまで未公表であった資料の公開にも寄与し、将来的には当館の展示にもその成果を反映させることが期待できる。

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2149

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 8) 古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程（科学研究費補助金）

【事業概要】

本研究は、日本の国家形成をみる上で基点となる古墳時代中期に焦点をあて、外来的な文化要素を徹底して検討することを目的としている。ケース・スタディとして奈良県五条猫塚古墳の出土品を選定しており、その再整理と詳細検討を行う中から生じた問題を、他の地域や遺跡出土の資料に当てはめ、新たな視点から外来的要素の発現メカニズムを探る計画である。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	資料室長　吉澤　悟

【スタッフ】

研究分担者：岩戸晶子（当館　工芸考古室員)、魚津知克（追手前大学講師）

研究協力者：岩本崇（日本学術振興会 PD)、加藤一郎（宮内庁書陵部)、阪口英毅（京都大学文学部)、川畑純（京都大学大学院)、初村武寛（京都府立大学大学院生）

【年度実績概要】

19 年度は、まず五条猫塚古墳の出土品について、実測図の作成とX線撮影をすすめた。金銅装の甲冑や帯金具、鉄製の挂甲、鉄鏃、鍛冶工具などは当古墳の特徴的な遺物であり、従来よりこれらに外来的要素が強くみられると評価されていたものである。今回の作業にあたっては、甲冑や鉄製武具、埴輪などそれぞれの遺物を専門的に研究している大学研究者、大学院生の精鋭を集めてチームを組み、整理作業をすすめながら、各メンバーと資料の性質に関する討論を重ねた。

【実績値】

五条猫塚古墳の武具、農耕具、埴輪ほかの実測図、計 456 枚

同　X線撮影　214 枚

小検討会　期間中 2 回、全体会議 1 回開催。その他、韓国人研究者を交えての討論を 1 度行った。

【備考】

【書式B】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 2149

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

近年の韓国研究者による古代日韓交流研究会の資料には五条猫塚古墳の資料が引用されている。今回の整理作業で見出された情報はこれを補完したり部分修正する強力なものがある。海外からも嘱望されている研究であり、時宜や発展性に叶った内容と思われる。

２．定量的評価

観点	資料化数	検討会				
判定	A	A				

備考

単年度で行った研究用の実測や撮影の量は、これまでに例のない数である。検討会は、夏期に野外調査に従事するメンバーが多い都合上、限られた日数しか確保できなかったが、韓国研究者との意見交換もでき、有意義であったと考える。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当研究の初年度の成果としては、一次資料を十分に獲得したという点で相応の評価が得られると思われる。20 年度はさらにこれを継続する一方、内外メンバーで検討する機会をさらに増やし、情報の精度と的確性を確保することが望まれる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本研究は、古代東アジアの対外交流史において重要な位置を占めるものと考えている。特に仏教美術を専門とする当館の活動においては、中国や韓国からもたらされた外来文化の受容形態を考える本研究は基幹的な役割を果たすはずである。本研究は 3 ヶ年の時限をもってなされるが、その成果は中・長期的な活動において発展的に継承されるべき内容である。19 年度、精鋭メンバーを招集し、重要な基礎情報を蓄積できたことは、向後の発展性につながる大きな成果であり、初年度実績としては「順調」であると言い得るであろう。

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2150

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ 収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 ・特別展の事前調査

【事業概要】

20 年 4 月開催予定の特別展「天馬ーシルクロードを翔ける夢の馬ー」の出陳作品および企画上の重要作品について、国内外の作品調査を行う。

【担当部課】	学芸課資料室	【事業責任者】	資料室長　吉澤　悟

【スタッフ】

奈良国立博物館学芸課工芸考古室長　内藤　栄

奈良国立博物館学芸課企画室員　永井洋之

【年度実績概要】

世界各地の博物館やコレクター所蔵品、出土品などから天馬に関係する作品を網羅的に調べ上げ、諸専門家たちとの討議や海外調査などを行い、出陳可能作品の選定と出品交渉を行った。

【実績値】

調査の成果は特別展「天馬」の出陳作品に反映されており、また途中経過的な知見は「奈良国立博物館だより」に寄稿している。

特別展「天馬」の出品件数は 164 件、うち海外作品は 31 件を占める。

【備考】

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2150

（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考

従来、あまり研究の行われていない分野について、現存作品を前提に調査を行った。展覧会のためのみならず、美術考古部門の研究においても有益な資料を獲得し得たと考える。

２．定量的評価

観点	出品件数					
判定	A					

備考

天馬に絞った作品を集めることは、時代、国、作品材質やテーマなどが多岐にわたるため大変な作業を伴ったため。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	天馬のような特定の意匠を追って諸外国から作品を集める展覧会は、これまでに例がなく、企画としてもユニークである。一方、経済性の面では限界があることも認識された。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	館で独自に展覧会を企画する力があるかどうかは、博物館のあり方や将来性を問う一つの指標であると思われる。調査を行い、その成果を展覧会に反映させるプロセスを踏んだ当該事業はおおむね目標を達成したと思われる。また、仏教美術以外の面でも展覧会を企画・開催できることを示した点で、当館の裾野を広げることに繋がったと思われる。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2151

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ix 日本とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究 1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究

【事業概要】

JICA 草の根技術協力事業「文化財の保存と観光資源としての利活用」として、タイにおいて、文化財の保存活用センターとしての役割をになう博物館としての立場から専門家派遣、研修生受入を実施。

【担当部課】	企画課	【事業責任者】	企画課長　伊藤嘉章

【スタッフ】

今津節生（環境保全室長)、原田あゆみ（企画課研究員)、赤司善彦（展示課長）

【年度実績概要】

九博は JICA の草の根技術協力事業として「文化財の保存と地域の活性化」をテーマにタイ・バンコク国立博物館と共同研究を行った。7/23～31 に研究員 3 名を派遣し、日本での文化財の保存と、地域活性化としての文化財活用について発表を行った。9/2～22 にはバンコク国立博物館の研究員 3 名を受け入れ、日本の博物館における文化財保存と平常展示、特別展示による活用の状況についての研修を行った。

この事業は 20 年度以降も継続され、その成果を明らかにするものとして、数年後にタイにおいて日本文化を紹介する展覧会の開催を計画。その予備調査としてタイ・バンコクの博物館・美術館の状況調査を実施した。

【実績値】

7/23～31 タイへの研究員 3 名　派遣

9/2～22　バンコク国立博物館の研究員 3 名を受け入れ。研修の実施。

【備考】

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2151

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

本事業は、文化財が持つ様々な可能性という面に着目し、その保存と活用が単に文化財を守るという意味を超えた役割を果たしうるということを示すものである。日本国内で行うこうした文化財の「活用」を交流によって伝えることが、アジア諸国における文化財行政について新たな展開を促すものとなる。

２．定量的評価

観点	招聘者数	滞在日数				
判定	A	A				

備考

招聘は文化財保存・活用の現場に携わる方々とし、実質的な研修を行った。その滞在日数も実質的かつ参加型の研修を多方面から行いうるものとして３週間弱という日程とし、効果を挙げている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財の保存と活用というテーマ設定は、従来の枠を越えた取り組みであり、国立博物館が海外に対して大きな貢献をするひとつの道が出来上がった点は大きく評価される。20 年度以降については、これを進めるとともに、その成果を両国での開催の展覧会によって形としていくことを目指すことが重要と考えられる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	博物館が主体となる文化財を通した交流では、従来は一方的な方向となることが多かったのに対して、双方向を企図し、それに向けて順調に進展をしつつある。今後については、文化財保存と活用を示すための展覧会の実施等に向けて、博物館以外の協力体制をも模索しながら、より大きな成果を目指すものとする。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2152

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	（5）有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ｖ修復文化財に関する調査研究 2）文化財の材質・構造等に関する共同研究（客員研究員）

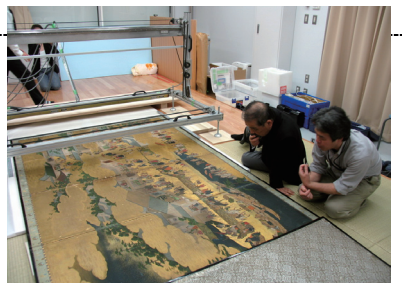
【事業概要】
絵画などの平面文化財について､科学情報を持った超高精細デジタル画像の取得と解析に関する共同研究を京都大学との共同で実施した（JST 地域研究開発資源活用促進プログラム)。
彫刻・漆器・陶磁器などの立体的な文化財について、大型 X 線 CT スキャナを用いた文化財の保存・活用に関する構造調査を実施した（科学研究費基盤研究 C）。

【担当部課】	博物館科学課	【事業責任者】	環境保全室長　今津節生

【スタッフ】
鳥越俊行（博物館科学課研究員）

【年度実績概要】
超高解像度大型スキャナ画像の取得と高解像度データを活用した教育番組製作を行った。作品は南蛮図屏風を素材にして「ぞろぞろじろじろ」と題して子供が興味をもつ番組作りを行い、博物館に設置した超高精細デジタルシアター（シアター4000）で一般公開した。また、共同研究機関である京都大学から九州国立博物館内に超高解像度大型スキャナを移設して機器の立ち上げを行った。
大型 X 線 CT スキャナを用いて、九州国立博物館が所有する文化財、特別展で借用した文化財、修復する文化財を中心として、断層像、三次元像などの画像データを取得して文化財の構造調査を実施した。さらに、文化財保存への多角的活用法について検討した。

【実績値】
京都大学から超高解像度大型スキャナを移設して機器の性能および安全検査を実施した。また、京都大学の指導のもと 4 点の絵画作品について高精細画像を取得した。
大型 X 線 CT スキャナを用いて、展示・収蔵品を中心に、35 件の文化財について非破壊構造調査を実施した。
また、多様な材質の測定が行えるように装置の改良を行った。
なお、保存修復学会には約 800 名の研究者が参加した。また、『進化する博物館』にてパネル展示した。参加者は約 10,000 人であった。本館シアター4000 にて常時番組を公開している。


大型X線CTスキャナ撮影風景

【備考】

【書式B】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2152

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考

最先端デジタル計測技術の文化財への応用として、高い独創性・正確性・発展性を有し、十分に成果が認められる。また、デジタル記録を進めることで将来の利活用が大いに期待できる。効率性については概ね成果が認められるが、今後一層の設備的投資ををしながら進めてゆきたい。

２．定量的評価

観点	高精細画像取得数	非破壊構造調査数	保存修復学会参加者数			
判定	A	A	A			

備考

大型 X 線 CT スキャナを中心に非破壊構造調査の運用を効率的に開始した。超高解像度大型スキャナについては性能および安全性の検査を中心に実施した。保存修復学会（800 人参加）にて研究発表した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	大型 X 線 CT 装置、精密三次元計測装置、超高精細大型スキャナなどによって取得した科学情報を持った高精細デジタル情報は、文化財の保存と活用に極めて有効な方法であり、本研究の独創性・適時性は高く発展性も大きい。しかし、高精細デジタル化技術は最新の高度技術であり、目的達成のためには他の研究機関との共同研究が不可欠である。これまでも、京都大学工学部との共同研究を進めているが、20 年度はさらに共同研究を深化させ、効率的・正確性を追求した高精細デジタル情報の取得と活用をおこなえるように改善を進めてゆきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化財の材質・構造の研究に高精細デジタル技術を活用して効率的・正確性を追求することは今後の文化財保存や展示の向上にむけた重要課題である。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2153

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	（5）有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ｖ修復文化財に関する調査研究 3）博物館における文化財保存修復に関する研究（客員研究員）

【事業概要】

当館文化財保存修復施設の機能と利点を活かし、西日本地域の大学で文化財保存修復を学ぶ学部生・大学院生を対象とした研修を実施する。

【担当部課】	博物館科学課	【事業責任者】	研究員　志賀智史

【スタッフ】

篠崎悠美子（別府大学教授）、藤田励夫（保存修復室長）、松尾かをる（研究補佐員）、田畔徳一（国宝修理装コウ師連盟九州支部長）、鈴木　裕（国宝修理装コウ師連盟九州支部技師長）、中村隆博（国宝修理装コウ師連盟九州支部技師）

【年度実績概要】

別府大学篠崎悠美子教授を客員研究員とし、保存修復施設を利用し、地域の大学との協業を果たすことを目的とした短期インターンシップ研修プログラムを17,18年度の実績を踏まえ検討、改善した。

成果は8月7日から5日間にわたり国宝修理装こう師連盟の協力を受け、別府大学と吉備国際大学の学生4名に対して、装こう技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」として開催した。

19 年 8 月 20 日から 24 日までの 5 日間に、障壁画下貼り作製に関する講義と実習を通して、文化財保存修復についての理解と研鑽を深める。

研修風景

【実績値】

研修開催実績　17 年度より 19 年度で 3 回目
研修参加学生　岡山吉備国際大学　2 名
　　別府大学　2 名

【備考】

【書式B】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2153

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

文化財を伝えるため、修復技術者の育成は必要不可欠である。その内容は公共性が高いため、適時性と発展性､効率性はA判定とした｡このような研修を行っている機関は極めて少ないため独創性はA判定とした。今年度で3回目となるため､継続性はA判定とした。大学で文化財保存の講義のある中四国九州の大学に募集を行っており、正確性はA判定とした。

２．定量的評価

観点	参加者数					
判定	A					

備考

参加者数は少ないものの、実習形式であり適切な数である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	少数の研修生で毎年継続することに意味のある事業である｡20年度以降も実施する予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	博物館における文化財保存修復のあり方について、一定の方向性が示せたのではないかと考える。対象を大学・大学院で文化財保存修復を学ぶ学生に限定すべきかどうかは20年度以降の検討課題である。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2154

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 4) 彩色水浸文物の保存科学的研究　―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存― (科学研究費補助金)

【事業概要】

中国江蘇省泗水の前漢墓から発見された彩色水浸文物の保存を通して、文化財保存に関する国際的な研究交流と技術開発を行うと共に、文化財保存技術に関する日本の技術を中国に移転することで、九州国立博物館による国際的な研究交流に貢献する。

【担当部課】	博物館科学課	【事業責任者】	環境保全室長　今津節生

【スタッフ】

三輪嘉六（館長）、鳥越俊行（博物館科学課研究員）、西浦忠輝（教授）、伊藤幸司（研究員）、沢田正昭（教授）、ANDRAS　MORGOS（教授）、張　金萍（研究員）

【年度実績概要】

南京博物院（中国側）では実際に文物の保存処理をおこない、九州国立博物館では彩色顔料の材質分析や彩色技法の研究、サンプルによる保存処理を実施した。特に、世界的に見ても例がない赤・白・黄・青などの彩色を残した泗水王陵出土水浸木製文物の保存について研究開発をおこなった。

また、本研究の成果を国際博物館学会文化財保存会議、水浸考古遺物保存部会 International　Council of Museums、Committee for Conservation、 Wet Organic Archaeological Materials (ICOM-CC, WOAM) で研究発表した。

【実績値】

学会研究発表

国内学会　　文化財保存修復学会第 29 回大会　1 回

国際学会　　ICOM-CC, WOAM　　1 回

【備考】

【書式B】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2154

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考

文化財保存を通じた具体的な国際貢献として国際性・適時性に富む研究であり、中国側の評価も高く十分な成果が認められる。研究成果の技術移転を通じて今後の発展性も高く、十分に成果が認められる。

２．定量的評価

観点	学会発表回数					
判定	A					

備考

世界の専門研究者が集まる国際博物館会議文化財保存水浸考古遺物部会で研究発表を行った(アムステルダム、150 名参加)。また、国内では文化財保存修復学会で研究発表を行った（静岡、600 名参加)。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	発見間もない貴重な文化財を日中の研究協力によって保存方法を開発し技術移転しようとする点において、適時性、独創性、発展性において目標を達成した。実際の保存処理は中国で実施しているので今後はさらに効率的な研究をおこなえるように改善を進めてゆきたい。20 年度は中国側研究者を短期間招聘して、さらに効率的な研究を実施したい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通りに実施されており当該年度計画を 100%達成して順調に研究を進めている。 本研究は文化財の保存技術の向上や国際貢献に結びついた研究として、中期計画にそった研究内容である。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2155

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 5) 弥生時代後期～古墳時代の墳墓大量出土ベンガラについての基礎的研究 (科学研究費補助金)

【事業概要】

弥生時代後期～古墳時代の墳墓から大量に出土するベンガラについて、形態分類や組成分類を行い、編年と地域性を検討することを目的として実施する。

【担当部課】	博物館科学課	【事業責任者】	研究員　志賀智史

【スタッフ】

なし

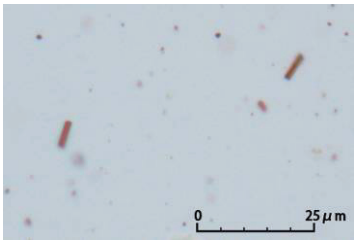
【年度実績概要】

19 年度は近畿地方と東海地方他の教育委員会を訪問し、該当資料の調査を行った。採取した資料は約 30 遺跡分となった。18 年度の調査結果と総合すると、近畿地方北半と九州地方北部では使われていたベンガラの種類が大きく異なることが明らかとなった。この成果は今年度の発掘調査報告書として纏めている。また、20 年度の日本文化財科学会第 25 回大会で研究発表する予定である。

【実績値】論文 2 件

・志賀智史 2008「中島笹塚古墳群出土赤色顔料とその関連資料の微視的・科学的調査」『東谷・中島地区遺跡群 9　中島笹塚古墳群・中島笹塚遺跡(1ー8 区)』財団法人とちぎ生涯学習文化財団　埋蔵文化財センター

・志賀智史 2008「塩田北山東古墳出土赤色顔料の微視的・科学的調査」『塩田北山東古墳発掘調査報告書』神戸市教育委員会



近畿地方で特徴的なパイプ状ベンガラ(神戸市塩田北山東古墳第1主体出土)

【備考】

【書式B】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2155

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

既発掘の資料を用いることから適時性はＡとした。これまで同様な視点での分析調査例はほとんど無く、今後東日本や諸外国の事例との比較検討も必要であることから独創性と発展性はＡとした。文献をもとに各地の資料を効率的に収集し調査を行っていることから効率性と正確性はＡとした。

２．定量的評価

観点	論文発表数					
判定	B					

備考

年間の論文数としては平均的な数である。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	機器分析結果を元に考古学的な検討をおこなうという独創的な研究であり、今後関連資料の調査や諸外国の事例との比較研究が可能などの発展性が認められるためＡとした。20 年度以降も関連する資料の調査を行う予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	19 年度の成果をさらに発展させるため、20 年度以降の科学研究費補助金についても継続して申請したい。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2156

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 6) 室町時代の中国文物の受容に関する調査研究（科学研究費補助金）

【事業概要】

室町時代の美術制作に大きな影響を与えた中国から請来された文物に対する認識の基盤を解明することを目的として実施する。

【担当部課】	企画課	【事業責任者】	研究員　畑靖紀

【スタッフ】

なし

【年度実績概要】

室町時代の中国文物に対する認識の基盤を解明しようとする本調査研究では、当時の中国文物受容の枠組みを規定した足利将軍家の評価・意義付けを主要な課題として 3 つの観点から考察し、下記の成果を得た。

(1) 後花園天皇(1419－1470)の室町殿行幸を記録した『室町殿行幸御餝記』(永享 9 年、1437) の記載を考察して会所の唐物飾りの組み合わせを分析し、その陳列方法および陳列装置との関わりを研究した。とくに附書院に飾られた文房具などに関して、中国の文献資料と比較研究する方法で、その成り立ちについて具体的な知見を得ることができた。

(2) 現存する中国美術・工芸のうち日本で唐物飾りとされたものと同種の作品を調査して、その基礎的なデータを収集した。特に東京国立博物館および九州国立博物館が所蔵する中国絵画などを詳細に観察し、特に室町時代の美術に大きな影響を与えた中国・宋時代の美術に関する具体的な知見を得ることができた。

(3) 足利将軍家による中国文物受容の枠組みを相対化する試みとして、山口・大内氏の様相を現存作品や文献資料から考察した。特に大内氏のもとで制作活動を繰り広げた画家・雪舟(1420－1506?)を対象に、破墨山水図（東京国立博物館蔵）や唐土勝景図巻・国々人物図巻（ともに京都国立博物館蔵）を調査して基礎的なデータを収集し、当時の政治的な文脈との関係から制作意義を考察した。

【実績値】

論文掲載数　　展覧会カタログ『京都五山禅の文化展』　1 回
『国華』第 1347 号　1 回　(計 2 回)

調査風景

【備考】

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2156

（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
定性的評価については、国際性・オリジナリティ・多様性・人的投資・基礎性・達成値の観点から、充分な成果が認められると判定される。

２．定量的評価

観点	論文掲載数					
判定	A					

備考
定量的評価については、目標値である「論文掲載数」１回をこえる実績値をのこし、充分な成果と判定される。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的評価については特に国際性とオリジナリティの観点から、定量的評価については国際シンポジウムの成果から、別記の総合的判定が妥当であると評価される。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究は、研究内容の水準を保ちつつ、順調に遂行できたと考える。 科学研究費による本事業については、今後も外部資金などを積極的に活用する方法により、調査研究を継続してゆきたいと考える。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2157

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 7) 日本近世宗門改制度に関する基礎的研究（科学研究費補助金）

【事業概要】

九州国立博物館における文化財の収集･保管に関する調査研究を行い、文化財の保存や展示の向上に結びつけることを目的として実施する。近世九州におけるキリスト教信者を摘発する宗門改制度の資料調査を実施し、幕藩体制における意義を分析する。

【担当部課】	文化財課	【事業責任者】	研究員　東　昇

【スタッフ】

なし

【年度実績概要】

本研究では近世日本における宗門改制度の意味と役割について検討した。本研究課題は、近世を通じて、全国で、ほぼすべての人々が共通に経験した唯一の制度といえる宗門改制度が、幕藩体制の中でどのような意義を持つか分析するものである。

18 年度に引き続き、最大のキリスト教信者が存在した九州地域を中心に資料調査を実施した。長崎歴史文化博物館をはじめ、九州大学附属図書館記録資料館九州文化史研究部門、九州大学付属図書館六本松分館檜垣文庫、天草アーカイブズ、西南学院大学博物館、八代市博物館、大村市立史料館、奄美市立奄美博物館で調査を実施した。また九州地域の比較研究地域として、京都府立総合資料館、愛媛県立図書館、今治市関前支所で調査を実施した。

対象とする資料も、文献資料のみではなく、制度に関わる道具である踏絵や宗門手札、カクレキリシタンが所持していたメダイ、十字架などのモノ資料も調査することができた。特にカクレキリシタンの多い、長崎県の外海歴史民俗資料館、五島観光歴史資料館、堂崎天主堂資料館、五島市奈留のカクレキリシタン関係者からの聞き取り、及び資料調査を体系的に実施した。また昨年度に調査した文化期の天草崩れに関して、上田資料館所蔵の上田家文書と関係の深い崎津村文書（九州文化史研究部門）の宗門改帳、上田家日記の一部（檜垣文庫）を確認し、調査することができた。

【実績値】

研究会発表件数　　九州文化史研究会　　1 回

収集資料点数：主な撮影資料　関前村文書 7,294 枚、崎津村文書 3,958 枚、檜垣文庫 1,012 枚、外海歴史民俗資料館 70 枚、五島観光歴史資料館 57 枚、堂崎天主堂資料館 91 枚、五島市奈留のカクレキリシタン関係者 275 枚、奄美 54 枚

【備考】

【書式B】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2157

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

本研究は長崎県で世界文化遺産候補運動が盛んになり適時性があることをはじめ、文書史料と歴史資料の両方を対象とする独創性、これまでの調査成果をふまえた発展、効率、正確性など、いずれも十分に評価要件を満たしている。

２．定量的評価

観点	研究会発表件数	収集資料点数				
判定	A	A				

備考

研究発表する機会が少ない人文系研究の中で、1 回でも公に発表できたことは評価できる。また約 1 万 3 千点を超える資料収集は、個人研究としては大変膨大な数量であり調査成果として評価できる。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画的に資料調査を行い、多くの画像資料、データを効率よく収集する事ができた事が評価できる。20 年度以降、調査成果を報告していきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、研究成果の公開に力を注ぎたい。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2158

(様式 1)

業務実績書

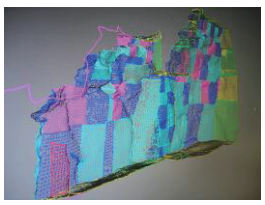
中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 10) VR 画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金）

【事業概要】
本研究の目的は、日本列島に分布する装飾古墳を対象とし、現状記録写真の撮影と VR 画像を作成することで、装飾古墳の記録・保存・管理のモデル事業を展開し、博物館や web 上で展示・公開するためのデジタルアーカイブを構築する。

【担当部課】	企画課	【事業責任者】	文化交流展室長　河野一隆
【スタッフ】　赤司善彦（展示課長）			

【年度実績概要】
日本列島に約 600 基存在する装飾古墳は、約半数が福岡県・熊本県を中心とする北部九州に所在する。この研究では、写真測量技術を応用して壁画に影響を与えることなく VR 画像を作り出し、装飾古墳の石室全体を客観的に記録するための方法を開発した。これにより、石室と壁画の記録方法が従来の実測図の作成と比べて飛躍的にスピードアップしただけでなく、壁画とカビ等の汚損や石室の崩壊などの石室内における位置関係を 3 次元的に記録できるようになり、装飾古墳の保存のために蓄積するデータの基盤が確立した。また、この方法で製作した VR 画像データは、通常は内部に立ち入れない装飾古墳を博物館で展示することにも活用できる。VR 画像は文化財の保存・普及に新しくかつ最適な記録手段であることを提言したい。


VR 画像作製状況

また、熊本県釜尾古墳・福岡県王塚古墳を対象として、4×5 フィルムおよび 6×6 フィルムによる写真撮影を実施した。両古墳とも、現時点での鮮明な記録写真が無く、50 枚以上の良好な文様の全体およびアップの撮影に成功し、装飾古墳の現状を記録した貴重な資料となった。また、30 年以上前の装飾古墳の写真のデジタル化などのデジタルアーカイビングも積極的に進めた。

これらの成果の一部を､10 月 2 日～20 日に当館ミュージアムホールで開催した｢進化する博物館－デジタル・アーカイブの可能性を探る～ 迫真のアンコール遺跡 尊顔とバイヨン寺院展」でパネル・映像展示し、シンポジウムでも公表した。

【実績値】
○VR 画像作製・・・福岡県内の 6 古墳(久留米市内 3 古墳(下馬場古墳・前畑古墳・寺徳古墳)、うきは市内 2 古墳(塚花塚古墳・重定古墳)、筑紫野市内 1 古墳(五郎山古墳))、
○高精細写真撮影実施・・・2 古墳(桂川町王塚古墳・熊本市釜尾古墳)で 50 カット以上
○デジタル化装飾古墳画像・・・150 カット
（以上のデータ容量 DVD10 枚ほど）
○これらの成果の一部を公表した「進化する博物館－デジタル・アーカイブの可能性を探る～ 迫真のアンコール遺跡 尊顔とバイヨン寺院展」の入場者数・・・2 週間で入場者 2 万人を数え、今年度の当館の特別展以外のイベントでは、最高を記録した。

【備考】

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2158

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

本研究は、今まで誰も試みられたことが無い独創的なものであり、19 年度の実績からも効率的に正確に記録作業が進められることは実証されている。

２．定量的評価

観点	撮影件数	入場者数	デジタル化件数			
判定	A	A	A			

備考

撮影件数、デジタル化件数とも目標どおりの実績を残している。また、これらの成果の一部を公表したデジタルアーカイブのイベントおよび研究会は、2 週間で入場者 2 万人を数え、今年度の当館の特別展以外のイベントでは、最高を記録した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	19 年度の事業は、福岡県内をフィールドとしたもので、いわば研究のモデルケースであったが、予想以上の成果を挙げ、トラブルも無かった。20 年度はフィールドを熊本県に移して、研究方法のシステム化と普及を進めることにしたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	全国的にも焦眉の課題である装飾古墳の保存・管理のための研究基盤の確立のために、研究方法の有効性の確認と九州以外への普及を目指して展開していきたい。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2159

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅰ保存環境の調査研究等の実施 14) 博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究 (科学研究費補助金)

【事業概要】

九州国立博物館では文化財環境の保全については IPM（総合的有害生物管理）による体制で生物被害対策など一連の活動を行なっているが、その根幹となる日常管理の一部に、ボランティアや NPO 法人による市民の直接参加をすすめるための基礎研究を行なう。

【担当部課】	博物館科学課	【事業責任者】	博物館科学課長　本田光子

【スタッフ】

三輪嘉六（館長）、今津節生（環境保全室長）、藤田励夫（保存修復室長）、鳥越俊行（博物館科学課研究員）、志賀智史（博物館科学課研究員）

【年度実績概要】

市民による IPM 活動のモデル構築の一環として、5 回にわたり、「市民協同型 IPM 研究会」を開催した。一般公開は 1 回とし、基本的には九州国立博物館ボランティアや地元 NPO 法人等既に何らかの IPM 活動経験者に絞り、実践的なテーマで 4 回実施した。その結果、同研究会参加者の中から、今後の研究活動の実質的作業を進める市民グループが形成される地盤が整ってきた。

こうした活動の指針となる関連機関の IPM に関する取り組みについてヒヤリング調査を実施し、さらに IPM 活動の実務に深い関心を寄せる市民に対して、より実務的な研究会（IPM 活動ワークショップ）を開催した。20 年度においては、このワークショップ参加者の中から、ワーキンググループを形成し市民レベルでの実践的研究活動母体へと指導育成していくことを目指している。

【実績値】

- 市民協同型 IPM 研究会（5 回：目標 5 回）を開催し、
  うち 4 回研究発表
  参加者　延 320 名（目標 220 名　毎回 30×4、100×1）
- 関連機関のヒヤリング調査（8 機関）
- ワークショップの開催（2 回：目標 1 回）
  受講者（50 名：目標 40 名）
- 研究発表　文化財保存修復学会　6 月 16 日～17 日　（4 件：目標 4 件）

ワークショップ風景

【備考】

【書式B】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2159

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

文化財保護活動への市民の直接参加は、極めて時勢に適ったテーマであり、しかも、文化財保護の枠組みの中で比較的浸透の遅い IPM 活動をこれまでと違った観点から取り組んでいるので、適時性・独創性は S とした。発展性、効率性、正確性については、今後の成果をみなければ評価の難しいところであるが、現時点で、新しい活動の展開がみえてきたこと、研究の一部がすでに的確、正確な内容で業務に反映されていること。などから、発展性、効率性、正確性においては A とした。

２．定量的評価

観点	研究会開催回数	研究会参加者数	ヒアリング回数	ワークショップ開催回数	ワークショップ受講者数	研究発表件数
判定	A	A	A	A	A	A

備考

市民ボランティア、地元 NPO 法人など対象の研究会、ワークショップとも、熱心な参加者（延 320 名)、受講者（延）50 名により各回充実した内容であった。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究会などへの参加者数などからみても、テーマおよびその実践当初計画の社会的妥当性が確認できる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	博物館における IPM 体制維持のためのボランティアの導入（直接参加型市民活動）を着実に進めることができた。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2160

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 vi収蔵品について、科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究の実施 16) 博物館における X 線 CT スキャンデータの活用（科学研究費補助金）

【事業概要】

九州国立博物館において、X 線 CT を用いて文化財の内部構造調査を行い、文化財の健康状態や制作技法を理解し、得られた成果を展示に活用することを目的とする。

【担当部課】	博物館科学課	【事業責任者】	研究員　鳥越俊行

【スタッフ】

臺信祐爾（文化財課長)、今津節生（環境保全室長)、河野一隆（企画課文化交流展室長)、市元塁（文化財課研究員)、楠井隆志（展示課主任研究員)、松川博一（展示課研究員)

【年度実績概要】

九州国立博物館の展示に借用する文化財を中心に､1 年間で約 300 件の CT 調査を実施した｡得られた成果は､常設展での展示の際に活用している。また、春の特別展で借用した善導大師像(博多善導寺)の調査で、頭部に人の歯が納入されていることが初めて明らかになった。

外部との連携としては、泉屋博古館の所有する中国青銅器のコレクションについて事前調査を行った。この成果を元に、20 年度から九州国立博物館で中国古代青銅器の展示に合わせ CT による調査を実施することとなった。

調査の成果は、日本文化材科学会と文化財保存修復学会で発表した。また、2007 東アジア文化遺産保存国際シンポジウムでも発表を行った。

【実績値】

調査件数　約 300 件

日本文化材科学会での発表　　2 件

文化財保存修復学会での発表　2 件

2007 東アジア文化遺産保存国際シンポジウムでの発表　1 件

【備考】

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2160

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	B	

備考

効率性では、測定データの取扱についてまだ改良の余地がある。また、得られたデータは不定形で複合材質のものが多いため、データの取扱について改善する余地がある。

２．定量的評価

観点	調査件数	学会発表件数				
判定	A	B				

備考

保存修復学会には約 800 名の研究者が参加した。また 2007 東アジア文化遺産保存国際シンポジウムには日本・韓国・中国を中心に約 200 名の研究者が参加した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財用の X 線 CT としては、世界的で最も優れた装置の一つであり、研究者の間からその有用性について高い評価をいただいた。20 年度は、より幅広い他機関との連携を目指しデータの活用を進めたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
ほぼ順調	九州国立博物館では展示に際し文化財を常に借用するため､CT 装置で文化財所蔵者と共同調査し成果を上げることで、他の博物館との連携が進みつつある。20 年度は、得られた成果を本博物館の展示へ公開し観覧者に供したい。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2161

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 17) 古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－（科学研究費補助金）

【事業概要】

本研究の目的は古代東南アジアの三尊像図像の基礎データを集積･分析し、もって三尊像図像の成立と展開を解明するための端緒とすることである。

【担当部課】	企画課	【事業責任者】	研究員　原田あゆみ

【スタッフ】

なし

【年度実績概要】

古代東南アジアの三尊像図像の成立と展開について明らかにするための基礎データを構築しようとする本調査研究では、上座仏教下にあって判然としなかった大乗仏教の図像を掘り起こすことを主要な課題として、下記の成果を得た。

（1）ミャンマーを初年度の調査実施国とし、ピューおよびモン関係の図像について、エーヤーワディー河中流・下流域、およびタトン周辺の遺跡および博物館の資料を調査した。特に、これまで日本では知られることのなかったモンの作例を実見することができ、比較研究する上で有益な資料を得ることができた。

（2）現在知りうる限りの、日本国内に保管される古代東南アジアの三尊像図像について、その基礎的なデータを収集した。特に東京国立博物館および福岡市美術館が保管する作例などを詳細に観察し、具体的に図像の規範性について考察することができた。

（3）図像受容の枠組みを相対化する試みとして、図像に変化が起こる 8 世紀後半から 9 世紀、そして上座仏教が広まった 11 世紀から 13 世紀までの図像の様相を現存作品や文献資料から考察した。三尊像図像の変容については、ベンガル湾地域－ミャンマー－タイ内陸部が有機的につながりつつ、基層部分の個別性を浮き彫りすることができた。

【実績値】

研究会報告数　1. The Bayon　尊顔とバイヨン寺院展開催記念シンポジウム講演「交流する東南アジア世界」
2. 東南アジア彫刻史研究会発表「今夏のミャンマーのモンとピューの遺跡の調査報告」

論文掲載数　1.「九州国立博物館所蔵 モン・クメールの青銅製仏像について」九州国立博物館紀要『東風西声』第 3 号

ミャンマー調査 2007.8.13.

【備考】

【書式B】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2161

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

定性的評価については、国際性・オリジナリティ・多様性・人的投資・基礎性・達成値の観点から、充分な成果が認められると判定される。

２．定量的評価

観点	研究会報告数	論文掲載数				
判定	A	A				

備考

東南アジア関係の資料紹介展開催記念シンポジウム（10 月 20 日）では、本調査を受けて、ベンガル湾地域－ミャンマー－タイ内陸部に存在した交易ルートの有機的なつながりについて紹介できた。また、東南アジア彫刻史研究会(10 月 21 日)では、調査報告の場を得ることができ、多分野の研究者との意見交換ができた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	現地調査と研究者間の意見交換を実施しつつ、今後の調査研究につなげるための情報公開、基礎データの収集整理を行うことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、順調に遂行できたと考える。20 年度は調査成果の比較検証、考察のためのスケジュールを考慮し、19 年度の情報ネットワークをさらに深めていきたい。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2162

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 vi収蔵品について、科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究の実施 21) 超高精細大容量画像の安全・ダイナミック表示総合システムの開発 (科学技術振興機構)

【事業概要】

京都大学との共同研究によって､文化財のデジタル化に適用する入力装置及びソフトウェア開発を目指した研究開発をおこなう。入力装置は三次元を含む多目的スキャナを開発し、ソフトウェア及び文化財コンテンツを開発する。

【担当部課】	博物館科学課	【事業責任者】	環境保全室長　今津節生

【スタッフ】

赤司善彦（展示課長)、藤田励夫（保存修復室長)、井手亜里（教授)、大島　寧（部長）

【年度実績概要】

デジタルアーカイブが文化財保存に必要かつ有効な手段であると一般的にも認識され、国内外様々な分野からのデジタル化依頼が活発化してきている。文化財や知的財産のデジタル化には、セキュリティ対策が重要事項であることから、本課題である「安全」かつ「ダイナミック」で、新規性に富んだ展示手法の提案・確立に対する要求も多く集まり、研究開発を完成域に到達させなければならない。

19 年度は、入力装置は三次元を含む多目的スキャナを完成域に、またソフトウェア及び文化財コンテンツ開発については、入力装置とマッチした、新しいコンテンツ開発に必要な装置を完成させた。また、大型入力装置を九州国立博物館に常設して、画像入力のための実験を実施した。

【実績値】

学会研究発表

国内学会　　文化財保存修復学会第 29 回大会　1 回

【備考】

【書式B】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2162

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考
世界最先端の超高画質デジタル撮影技術を文化財へ応用する独創的な研究であり、研究の発展性・正確性に関して十分に成果が認められる。将来の継続性については、今後の効率性は質・内容を考慮しながら十分に検討を重ねる必要があるが、概ね成果が認められている。

２．定量的評価

観点	学会発表件数					
判定	A					

備考
学会発表件数としては適切であり、保存修復学会には約 800 名の研究者が参加した。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	デジタルアーカイブが文化財保存に必要かつ有効な項手段であることは一般的にも認識され、国内外様々な分野からのデジタル化依頼が活発化してきている。文化財や知的財産のデジタル化には、セキュリティ対策が重要事項であることから、本課題である「安全」かつ「ダイナミック」で、新規性に富んだ展示手法の提案・確立に対する要求は大きい。本研究の独創性・適時性は高く評価され、発展性も大きい。19 年度には大型平面スキャナを九州国立博物館に設置したので、効率性、正確性も追求できる環境が整った。20 年度はさらに効率的・正確性を追求したな研究をおこなえるように改善を進めてゆきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化財保存におけるデジタルアーカイブの有効活用は、今後の文化財保存や展示の向上にむけた重要課題である。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2163

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅱ 日本及び東洋全般にわたる文化財の調査研究 ・近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）

【事業概要】

日本の近代史の展開に大きな意味を持った工芸の展開について､その展開の契機となった内国勧業博覧会の出品作を中心とした基礎資料を整備する。

【担当部課】	企画課	【事業責任者】	企画課長　伊藤嘉章

【スタッフ】

三笠景子（東京国立博物館文化財課列品室研究員)、小川幹生（名古屋市博物館学芸課学芸員)、土井久美子（大阪市立美術館学芸課学芸員)、高橋美奈子（山種美術館学芸部長)

【年度実績概要】

調査方針の検討と現状の情報整理のために、研究協力者による研究会を数次開催した。工芸の分野別によるデータ整理の分担及び、情報収集、整理作業について協議するとともに、これまでの調査成果を共有することとした。関連すると思われる近代工芸を所蔵する機関・個人について、作品の調査を実施した。国会図書館の所蔵する近代新聞･雑誌資料から、関係記事について収拾した。内国勧業博覧会出品が明らかな作品について新たな撮影を実施した。

【実績値】

研究会開催
第一回・・・写真帖データ、褒章授与人データの複合
　　データベースによりデータ化。
第二回・・・第一回に、帝室博物館購入データを加えて
　　データ化を進めている。

【備考】

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2163

（様式２）

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

本研究は、今後の研究の基礎となるデータを集成するものであり、従来の文字情報のみに頼るものから、実際の作品にまで迫ることを目的とすることに独創性がある。これによって価値観というものも研究の中に持ち込むことが可能となる。

２．定量的評価

観点	研究会開催回数					
判定	A					

備考

研究協力者による研究会を開催し、第一回については写真帖データ、褒章授与人データの複合データベースによりデータ化し、第二回についてはこれに加えて、帝室博物館購入データを加えてデータ化を進めている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	従来、別個に存在していたデータを有機的に結合させ、さらに実作品との結合を進めている。帝室博物館購入品を加えたことにより、現存品についての検討も踏まえる必要が生れ、これにより近代における工芸の位置づけの展開も検討の対象となってきている。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現時点で、データ化が進みつつある。今後としてはその成果を暫時公開することで、より多くの情報を得る方策を考える必要がある。これにより多角的な研究の展開が可能となっていく。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2164

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ①収集・保管のための調査研究の実施 ⅲ収蔵品の調査研究、特別調査、特別展・海外展の事前調査の実施 ・特別展の事前調査

【事業概要】
九州国立博物館における文化財の収集･保管に関する調査研究を行い、文化財の保存や展示の向上に結びつけることを目的として実施する。

【担当部課】	企画課	【事業責任者】	文化交流展室長　河野一隆

【スタッフ】　伊藤嘉章(企画課長)、赤司善彦(展示課長)、河野一隆(文化交流展室長)、森井啓次(展示課主任研究員)、楠井隆志(展示課主任研究員)、金井裕子(企画課研究員)、および展示担当者全員

【年度実績概要】
当館の文化交流展示室のコンセプトであり特色でもある、日本の文化形成の歴史を交流の視点から実物資料によって示すという歴史展示を実施しつつ、より深く掘り下げた研究成果を特集陳列という形で公表した。その主なものとして、九州以外の地域の博物館で保管・展示されてきた九州出土考古資料の里帰り陳列(「重要文化財　王塚装飾古墳出土品と北部九州の王たち」)や、修復が完成した作品の御披露目を契機とする朝鮮仏画展(「釈迦誕生図－受け継がれる朝鮮仏画の名品－」)などであり、来館者からおおむね好評を博した。また、特集陳列以外でも展示テーマ別のワーキンググループを招集して、展示意図が来館者に伝わっているか、分野ごとに活発な議論を行っていくと同時に、展示についての研究会を開催した。この中で、従来まで取り上げられていない新規テーマの開拓と展示に結実させるための作品調査、展示業者との共同研究という形で実施した分かり易く洗練された演出手法の研究、新たな特集陳列の企画立案などが提言された。また、各ワーキンググループで、展示テーマと展示作品とが歴史展示として整合しているかの見直しを行い、展示内容を不断に問題提起していく中で展示を高めていくための会議を積み重ねることができた。

特集陳列：王塚古墳と北部九州の王たちの展示風景

【実績値】
特集陳列として「王塚古墳と北部九州の王たち」(6 月 20 日～20 年 3 月 31 日)、「新指定重要文化財　笹塚古墳出土品と双六古墳出土品」(7 月 2 日～10 月 9 日)、「第 2 回　東アジア紙文化財保存修理シンポジウム記念－文化をつたえる紙の路－」(8 月 20 日～10 月 8 日)、「釈迦誕生図―受け継がれる朝鮮仏画の名品―」(10 月 10 日～11 月 8 日)、「朝鮮通信使―江戸時代の平和外交―」(11 月 20 日～20 年 1 月 6 日)に開催した。また、各ワーキンググループは、年度後半から各 5 回実施し、丹青社・展示 JV との展示改善のための共同研究会を 1 回開催した。

【備考】

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2164

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考
九博の展示の柱のひとつ文化交流展示について、各テーマ毎にワーキンググループを組織した。これにより各テーマ内での展示の方向性を定め、より分かりやすく意味のある展示になるよう努めた。

２．定量的評価

観点	特集陳列回数	ワーキング実施回数			
判定	A	A			

備考
特集陳列回数、ワーキング実施回数とも適切であり、ワーキンググループには 20 名の研究員が参加し、それぞれに数次に渡り、内容の検討を行っていった。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	開館後に現れてきた問題点の整理と、その改善を目的としてワーキンググループを編成したことで、文化交流展示がさらに充実したものとなった。展示計画をより長期的視野に立って作成することにより、20 年度の特集陳列の増加といった効果も現れた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	従来の国立博物館とは違う歴史博物館としての展示は、実際の運用の中で問題点も明らかとなってきた。テーマ会議を行うことで、展示の内容をより充実させることが可能となり、あわせてより楽しく分かりやすい博物館に向けて、展示研修などの企画も始まり、より充実したものとなっている。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2165

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財に係る調査研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ⅰ有形文化財の展示デザインシステムを構築するための応用研究 1) 博物館環境デザインに関する調査研究

【事業概要】
東京国立博物館における文化財の展示環境について調査研究し、今後の展示環境の向上に結びつけることを目的として実施する。

【担当部課】	事業企画課	【事業責任者】	デザイン室長　木下史青

【スタッフ】
矢野賀一（デザイン室研究員）

【年度実績概要】
展示のデザインのクオリティの向上を成立させるための設計技術や、デザインを実現・維持するための現場監理・物品管理に関する技術について、過去の事例や、他館における具体的な事例を調査した。
また以上の技術・手法を、当館においてどのようなシステムで導入・実施が可能かを整理し、実現可能なものについては館内の展示において実施した。
① 本館特別 5 室「仏像の道」(写真)
- 免震装置付展示ケース、天井吊展示照明システム、建築空間を生かした環境照明等の手法
- LED カラーチェンジ照明システム

② 特別展
- 光ファイバー、LED 照明システムの展示照明への応用技術の開発
- 新規調光システムによる展示デザインへの導入

本館特別 5 室「仏像の道」

【実績値】
研究会発表件数
美術解剖学会　1 回
日本写真学会･画像保存セミナー　1 回
論文掲載数
『昭和初期の博物館建築』(共著) 所載　1 篇
『表現 Human Contact』 NO. 2　1 篇
『東京国立博物館紀要』43 号　1 篇
岩波ジュニア新書 571『博物館へ行こう』　1 篇
他館調査　森美術館、サントリー美術館、上海博物館、韓国国立中央博物館、メトロポリタン美術館等

【備考】

【書式B】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2165

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考

博物館における展示・公開は技術的な裏づけの調査研究に基づき、時代にあった見せ方と見え方の評価が求められる。またデザインのクオリティの向上を成立させるための設計技術や、デザインを実現・維持するための現場監理・物品管理に関する技術について、他館における具体的な事例調査を行った。

２．定量的評価

観点	研究会発表件数	論文掲載数				
判定	A	B				

備考

研究・調査によって明らかになった技術・手法を、特に重文指定である本館の建築においてどのようなシステムで導入・実施が可能かを整理し、研究会・論文等で発表した。また実現可能なものについては館内の平常展・特別展において実施し、継続的に調査を行っている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	特集陳列「仏像の道」が質の高い展示システムを導入することにより実現可能となった。さらに照明器具の問題点について製造メーカーと協同で改良を進めている。具体的には 20 年度予定の特別展・平常展への導入・実施に向け、デザインを進めている。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究事業は、その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、独創的アイデアの創出と技術開発および館内展示システムの充実に力を注ぎたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2166

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財に係る調査・研究 ②公衆への観覧を図るための調査研究 ⅲ博物館教育理論の構築に関する研究 2) 博物館美術教育に関する調査研究

【事業概要】
当館表慶館に教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」を開設し、その経緯と開設後の活動の成果を報告し、これに博物館美術教育に関する論考を合せ、東京国立博物館美術誌『MUSEUM』に「みどりのライオン」の開設と博物館教育を特集した。

【担当部課】	教育普及課	【事業責任者】	教育普及課長　加島勝

【スタッフ】
小林牧（教育普及室長)、鈴木みどり（教育普及室主任研究員)、白井克也（教育講座室長)、神辺知加（教育講座室研究員)、鷲塚麻季（ボランティア室長)、藤田千織（ボランティア室研究員)

【年度実績概要】
・当館表慶館に教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」を開設した。
・東京国立博物館美術誌『MUSEUM』に「「みどりのライオン」の開設と博物館教育を特集掲載した。
掲載した論考は以下の通り。
加島勝「「表慶館みどりのライオン　みんなで楽しむ教育スペース」の開設について」
小林牧「みどりのライオン　教育普及活動について」
鈴木みどり「デンバー美術館の教育普及事業―ミュージアム・エデュケーションからミュージアム・エクスペリエンスへ―」
藤田千織「博物館における鑑賞補助ツールの役割―「親と子のギャラリー」を例に」
神辺知加「「子供のための文化史展」について―東京国立博物館の教育普及事業史研究　敗戦直後―」

【実績値】
論文掲載数　『MUSEUM』No.611　所載　5 篇
研究会発表件数　美術史学会東支部例会　1 回

【備考】

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2166

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」の開設した年度内にその経緯を『MUSEUM』誌上に報告し、また関連する博物館教育の研究論文を同誌にあわせて掲載したことは、今後、内外の博物館教育研究に寄与するところがきわめて大きい。

２．定量的評価

観点	論文掲載数	研究会回数				
判定	A	A				

備考

これまで『MUSEUM』誌において博物館教育に関する論文は、個別的に掲載されることはあっても、特集号が組まれることはなかった。博物館教育関連論文５篇を掲載した同誌特集号によって、当館の博物館教育に関する情報がまとまって発信できた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	当館表慶館に教育普及事業を専門に行なうスペース「みどりのライオン」を開設したことは博物館美術教育を推進する上でも大きな成果といえよう。また、各研究員が研究し、ここで実施された学校対応やファミリープログラム等のさまざまな教育普及活動は、概ね好評をいただいている。その活動の成果を東京国立博物館美術誌『MUSEUM』に報告したことで、博物館美術教育に関する情報を広く内外に発信できたと思う。したがってＡと判定した。今後さらに研究を続け、博物館美術教育に関する情報発信を精力的に行っていきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	博物館美術教育に関する調査研究は、教育普及課の研究員を中心に概ね研究計画にそったかたちで順調に進められていると考える。今後も有形文化財を活用しながら博物館美術教育理論の構築ならびに実践的プログラムの開発に取り組んでいきたい。

【書式B】　施設名 東京国立博物館　処理番号 2167

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ⅲ博物館教育理論の構築に関する研究 3) 博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金）

【事業概要】
博物館教育・普及事業の事例分析を通して、日本の伝統文化に関する博物館における先駆的教育・普及理論を構築し、実践的プログラムを開発する。

【担当部課】	事業企画課	【事業責任者】	事業企画課長　井上洋一

【スタッフ】
加島勝（教育普及課長)、小林牧（教育普及室長)、鈴木みどり（教育普及室主任研究員)、白井克也（教育講座室長)、神辺知加（教育講座室研究員)、鷲塚麻季（ボランティア室長)、藤田千織（ボランティア室研究員)、鬼頭智美（国際交流室長)、遠藤楽子（広報室研究員)、田沢裕賀（列品室主任研究員)、高梨真行（列品室研究員)

【年度実績概要】
①文献資料の収集・データベース化。
②アンケート調査の実施。今回は、ヨーロッパ・アジア・オセアニア諸地域から選んだ博物館・美術館（495館）に対して教育・普及事業に関するアンケート調査（教育普及担当者数・事業予算・プログラムの内容等）を実施。
③現地調査の実施。今回はこの分野において積極的に教育普及理論や伝統文化をテーマにした事業を展開しているフランス、オーストリア、ギリシャ、スイス、スペインの博物館・美術館を訪問し、直接教育普及担当者にインタビューを行い、各教育プログラムの理論とその実践活動について調査を行った。また、シカゴ、ウィーンで行われた国際学会にも参加。こうした現地調査等で得られたデータをもとに研究会で討議、分析を行った。

【実績値】
研究会　7回
論文掲載数　　『MUSEUM』No.611　所載　　5篇

【備考】

【書式B】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2167

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

本研究において現代的な教育普及事業のあり方について多方面から有益な情報を得るとともに、その情報をもとに研究会等での討議・分析を行い、その成果を実際の当館の教育普及事業に反映させている。

２．定量的評価

観点	研究会回数	論文掲載数				
判定	A	A				

備考

月に 1～2 回のペースで研究会を開催し、現地調査の事例報告・分析等を中心に行ってきた。また、当館招へい海外研究者を交えての意見交換も行った。掲載論文に関しては、当館の事業ともリンクし『MUSEUM』に教育普及特集が組まれ、5 篇の論考が掲載された。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	アンケート、研究会等の実施に関しては概ね良好。現地調査に関しても順調で、海外における博物館教育に関する国際学会等にも出席。参考とすべき先進的な教育・普及プログラムに関する多くの情報を入手でき、さらに研究者間の交流も深めることが出来た。したがって A と判断した。20 年度は各研究者から得た情報も参考にしながら現地調査を展開する予定である。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本事業は、研究スタッフの協力の下、概ね研究計画にそったかたちで順調に進められていると考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ、日本の伝統文化に関する博物館における先駆的教育・普及理論を構築し、実践的プログラムを開発すべく努力したい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2168

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ⅳ京都文化を中心とした文化財の調査研究 1) 妙心寺本坊、塔頭に所蔵されている文化財の調査研究

【事業概要】

21 年 3 月 24 日（火）から同年 5 月 10 日（日）まで開催される「開山無相大師 650 年遠諱記念　妙心寺」展を視野に入れつつ、妙心寺本坊および山内塔頭、妙心寺派末寺に所蔵される文化財を調査することを目的とする。あわせて、博物館の有する文化財に関する情報を豊富にし、調査に基づく研究の成果を講座あるいは誌上で公開し、広く還元することも目的とする。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	学芸課長　森田　稔

【スタッフ】

羽田　聡（研究員）、山下善也（主任研究員）、赤尾栄慶（企画室長）、大原嘉豊（研究員）、西上　実（上席研究員・美術室長）、山本英男（保存修理指導室長）、若杉準治（列品管理室長）、淺湫　毅（主任研究員）、尾野善裕（主任研究員）、久保智康（工芸室長）、永島明子（研究員）、山内麻衣子（研究補佐員）、山川　暁（主任研究員）

【年度実績概要】

18 年度より本坊および麟祥院、龍安寺の調査に引きつづき、19 年度は、

19 年 3 月 6 日（火）～7 日（水）　衡梅院（平均参加人数 8 名）
同年　5 月 18 日（金）　隣華院（参加人数 11 名）
20 年 1 月 30 日（水）　退蔵院（参加人数 8 名）
同年　3 月 14 日（金）　東京・麟祥院（古文書の調査、参加人数 1 名）
同年　3 月 26 日（水）　妙心寺本坊（古文書の追加調査、参加人数 1 名）

の調査を行う。

調査に基づく研究の成果としては、本坊および退蔵院の所蔵する重要文化財「花園天皇宸翰消息」が当館所蔵のものと本来は一具であったことが判明したので、これらの位置付けや重要性について論文を執筆した（20 年 5 月刊行予定）。

【実績値】

論文掲載数　羽田聡「京都国立博物館所蔵「花園天皇宸翰消息」について」(『学叢』第 30 号、20 年 5 月)
（予定）　1 篇
調査参加人数　平均 9 名（古文書のみの単独調査をのぞく）
調査資料点数　絵画約 100 点　書跡約 80 点　工芸約 50 点
調書作成点数　絵画約 50 点　書跡約 45 点　工芸約 30 点
撮影資料点数　絵画約 300 点　書跡 100 約点　工芸約 150 点

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2168

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	B	A	A	A	A

備考

展覧会という公共性および公開性の高さにも結びつく本事業は、過去三カ年にわたり、関係作品の分野の担当者が調査に参加する形で継続的に行われてきた。また、将来的には博物館の有する文化財情報への寄与という応用性も持ちあわせる。

２．定量的評価

観点	調査参加人数	調査資料点数	調書作成点数	撮影資料点数	論文掲載数	
判定	A	A	B	A	A	

備考

調査には所蔵作品に関係する分野の担当者が毎回参加している。目下、展覧会の開催という時間的な制約があるため、全作品の調書を作成するにはいたっていないが、重要度の高い作品を優先して調査し、それらに関してはおおよそ調書の作成、および撮影を行った。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	時間的な制約があるなかで、調査には展覧会に関わる全分野の担当者が参加のうえ、重要度の高い作品から優先的に調査し、それらに関しては調書の作成、および撮影を行った。20 年度は、展覧会を視野に入れたリスト作成、講座などでの公開といった点にも 19 年度の成果を活用していきたい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	妙心寺本坊および山内塔頭に所蔵される文化財の調査研究事業は、18 年度の水準を維持しつつ、関係分野の担当者が参加のもと、計画通り実施されたと考える。20 年度は情報の蓄積・公開・活用という観点にたってこの事業をとらえ、状態の維持につとめるとともに、展覧会を視野に入れた公開および活用についても具体的な方法論を構築したい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2169

（様式 1）

業務実績書

中期計画の項目	4 文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	（5）有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ⅳ京都文化を中心にした文化財の調査研究 2）輸出漆器に関する調査研究

【事業概要】

京都国立博物館およびサントリー美術館で開催予定の特別展覧会「japan　蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」の準備のための調査研究

【担当部課】	学芸課工芸室	【事業責任者】	工芸室長　久保智康

【スタッフ】

永島明子（研究員）

【年度実績概要】

輸出漆器展に出陳予定の作品の調査、採寸、写真撮影を行い、あわせて、日本の漆器が国外で受容されていたその文化的背景を理解するために、文献の解読を進めた。

19 年度は国内に所蔵されている作品を中心に調査した（サントリー美術館、神戸市立博物館、南蛮文化館、京都市内個人、大阪市立美術館、九州国立博物館、東京芸術大学美術館等)。

最終目的は 20 年度秋の展覧会であるが、副次的に 19 年度の土曜講座、外部機関のシンポジウムなどでも成果を活かすことができた。

また、作品の購入により、当館収蔵品を拡充することもできた。

【実績値】

研究発表　お茶の水女子大学第 9 回国際日本学シンポジウム「日本学研究の対話と深化Ⅱ」
（テーマ：ヨーロッパにおける日本美術史の成立と発展－フランス及びイギリスの主要な日本美術コレクションの果たした役割－）1 回
論文掲載　「お茶の水大学比較日本学研究センター研究年報第 4 号」所載 1 篇
論文名「英仏の主要な蒔絵コレクションの成立と日本美術史上の役割について―マリー・アントワネットのコレクションを中心に―」
調査資料　約 200 点
購入資料　3 点

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2169

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	B	A	

備考

輸出漆器の研究はここ 10 余年で格段に充実したが、これを特集した大型展は世界でも例がない。日本では「鎖国」の時代を通じて日本の漆器が輸出されていた事実も、ルイ 14 世をはじめとする歴史上の大人物たちがそれを蒐集していた事実も、一般には知られていない。担当者が専門に研究してきたテーマでもあり、機が熟した現在において、日本の国立博物館における大規模な特別展としてこのテーマをとりあげられることは、歴史的に見ても適時性、独創性、発展性、正確性については申し分がない。実現を見るのは 20 年度の秋であるが、順調に進んでいるので A とした。効率性については、人員配置と予算の問題から最善の体制とはいえないため B とした。

２．定量的評価

観点	研究発表数	論文掲載数	調査資料件数	購入資料件数		
判定	A	A	A	A		

備考

展覧会の準備であるため、研究発表数や論文掲載数はこの事業の評価基準としてなじまないが、副産物として公表の機会があったので A とした。調査件数は 200 点を超え、展覧会準備のおかげで購入の機会を得た作品を博物館の収蔵品とすることができたので、それらもあわせて A とした。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	日本の蒔絵が、いわゆる鎖国期を通じて海外へ輸出され人気を博した事実を多くの人に知ってもらう機会を作ることができた。 また、個々の作品の比較により、国内の伝世品のみでは知ることのできない漆器の歴史を編むことができ、20 年度の、世界でも初めての輸出漆器を概観する展覧会に活かすことができる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	展覧会に出陳を予定している作品の 9 割 5 分は 19 年度までに調査をすすめることができた。 20 年度は残りの作品を早々に調査し、図録原稿の執筆につとめ、国外十数ヶ所の所蔵者を含めた各所蔵者との連絡を密にして、より精度の高い情報による魅力的な展覧会を完成できるよう努力したい。

【書式B】　施設名 京都国立博物館　処理番号 2170

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ⅳ京都文化を中心にした文化財の調査研究 3) 本満寺境内蓮乗院廟の発掘調査に伴う出土品の整理

【事業概要】

京都文化を中心とした文化財の調査・研究を行い、その成果の一部を研究紀要や展覧会などにより公開することを目的として実施する。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	学芸課長　森田　稔

【スタッフ】

尾野善裕（主任研究員)、清水愛子（調査員)、橘　倫子（調査員)、鶴岡典慶（京都府教育庁）

【年度実績概要】

社寺調査の一環として 16 年に行われた本満寺境内蓮乗院廟の発掘調査に伴い出土した文化財の整理、調査を行った。

その成果について、研究紀要『学叢』第 29 号（19 年 5 月発行）に調査報告「本満寺境内所在　蓮乗院廟発掘調査報告」としてまとめた。

【実績値】

調査報告書　「本満寺境内所在　蓮乗院廟発掘調査報告」研究紀要『学叢』第 29 号（19 年 5 月発行）

【備考】

【書式B】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2170

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考 社寺調査の一環として行い、時機を得た調査となっている。						

２．定量的評価

観点	調査報告書					
判定	A					
備考 調査報告をまとめて、紀要である『学叢』に掲載した。						

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	上記の項目については、その成果を当館の研究紀要である『学叢』第 29 号（19 年 5 月発行）に、調査報告として「本満寺境内所在　蓮乗院廟発掘調査報告」としてまとめた。また石廟（霊屋）の解体修理を指導した京都府教育庁文化財保護課の担当者に「附編　蓮乗院廟の霊屋建築について」として、一文を寄稿してもらったことも評価できる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	2009 年秋に開催予定の特別展覧会「日蓮と法華の名宝―華ひらく京都町衆文化―」にも関連した事業であることから、その成果を展覧会で公開できる可能性がある。

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2171

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財に係る調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ｖ平安仏教とその造形に関する調査研究 1) 平安仏教とその造形に関する調査研究成果の「院政期の絵画」展への反映

【事業概要】

院政期は、我が国の絵画史のなかでももっとも美しい作品を生み出した時代であり、多くの分野にわたり様々な形式の作品が伝存しているが、その概要を調査し成果を「院政期の絵画」展に反映させる。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	学芸課長　梶谷亮治

【スタッフ】

奈良国立博物館学芸課上席研究員鈴木喜博他 13 名

【年度実績概要】

・展覧会を前提とした作品の構成の考察及びリストアップ
・作品所在の確認及び作品の現状・状態等の把握
・研究動向の確認
・文献等による調査研究、及び実地調査
・該当作品の展覧会への出品の依頼等

【実績値】

- 調査作品数　約 120 件
- 図録作成数　　1 部

【備考】

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2171

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

平安仏画のみをテーマとした調査研究はかつて当館が企画実施しているが、これに関連する絵巻等の同時代絵画を加えたものは今回が初度であり、当代の絵画を展望する上で画期的なテーマと評価される。

２．定量的評価

観点	調査数	図録作成数				
判定	A	A				

備考

平安後期、院政期の絵画は多くが国宝や重要文化財に指定されていて、実際に全貌を把握することはきわめて困難なこととされていたが、当館の従来の実績を背景にいずれもスムーズに実施することが出来た。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	院政期絵画は、作品の希少性からみて実際に実物に接する機会がきわめて少なく、したがって実物に即した研究も困難が多い。そうした中でこの度は多数の作品に接することが出来たことは評価できる。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現時点では、十分な調査研究が実施できたと考える。

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2172

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 vi 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究 2) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の「神仏習合」展並びに特集陳列「おん祭と春日信仰の美術」への反映

【事業概要】

近隣社寺へ奈良国立博物館に対する積極的な協力の働きかけを行って所蔵文化財の調査研究等を行い、その成果を事業（展示等）に反映させる。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	学芸課長　梶谷亮治

【スタッフ】

奈良国立博物館学芸課上席研究員鈴木喜博他 13 名

【年度実績概要】

・室生寺、海住山寺、現光寺など近隣社寺から新規に寄託品を受け入れ、平常展の活性化につなげた。
・東大寺戒壇堂四天王像（国宝）及び法華堂執金剛神像（国宝）の彩色調査、X 線調査に基づく構造分析・作図、成分分析などを継続的に進めてより精度の高い資料を集積し、成果公刊に向けた準備を行った。
・特別展「神仏習合－かみとほとけが織りなす信仰と美」、同「美麗　院政期の絵画」出陳の近隣社寺所蔵品を事前調査（前者の実施は前年度）し、その成果を展示及び展覧会図録に反映した。
・春日若宮おん祭に関する文化財調査を実施し、その成果を特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に反映した。

【実績値】

・社寺調査対象数　約 20 件
・図録作成数　2 部（神仏習合展、特別陳列おん祭と春日信仰の美術）

【備考】

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2172

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

南都諸社寺等に所蔵される文化財の調査は、奈良に立地する当館の基本的不可欠な作業の一つであると位置づけられる。こうした調査を通じて、近隣社寺との交流・信頼関係が一層深まりつつあり、今後の当館の企画・事業に好影響が期待される。

２．定量的評価

観点	社寺調査数	図録作成数				
判定	A	A				

備考

展覧会企画に沿った調査研究が中心になっており、その点では必要十分な条件を満たしている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	室生寺・海住山寺・現光寺などから新たな寄託品を受け入れたことで平常展が一層活性化した。東大寺戒壇堂四天王像（国宝）及び法華堂執金剛神像（国宝）の調査は 20 年度にその成果を公刊できる予定である。特別展「神仏習合」、同「美麗　院政期の絵画」に出陳した近隣社寺所蔵品の事前調査の成果は展示及び展覧会図録に反映され、高い評価を得た。春日大社の若宮おん祭に関する文化財調査の成果は特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」に反映された。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	仏教美術と奈良の文化を調査研究展示活動の主眼としている当館にとって、近隣社寺の宝物調査は必須の事業である。19 年度も東大寺や春日大社を初めとする社寺の宝物調査を行うことにより、展覧会を活性化させ、学術的成果をあげることができた。

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2173

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 vii 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 3) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の平常展への反映

【事業概要】

仏教美術の専門館であり、日本仏教美術に関するもののみならず、広くアジアを視野に入れた展示を構成している奈良国立博物館の特長に鑑みて、中国や朝鮮半島における文化財とわが国の文化財の比較研究を実施する。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	学芸課長　梶谷亮治

【スタッフ】

奈良国立博物館学芸課上席研究員鈴木喜博他 13 名

【年度実績概要】

・中国上海博物館における仏教美術の調査、碑林博物館及び陝西歴史博物館における唐代文物の調査、敦煌莫高窟及び楡林窟における壁画の調査、蘭州博物館及び麦積山における仏教美術の調査等
・中国河南博物院における仏教美術を中心とした調査
・韓国国立慶州博物館における新羅文物の調査、国立中央博物館における三国時代から高麗時代仏教美術を中心とした調査等
・学術交流協定を結んでいる中国・上海博物館に 3 名、同・河南博物院に 2 名、韓国・国立慶州博物館に 1 名を派遣した。また上海博物館から 3 名、河南博物院から 2 名、中国国家博物館から 2 名、慶州博物館から 2 名の研究員を受け入れた。
・特別展「神仏習合－かみとほとけが織りなす信仰と美」では、中国・韓国における神仏習合の様相にも注目して中国で制作された関連作品の展示を行い、展覧会図録にも調査研究の成果を反映させた。
・特別展「第 59 回正倉院展」では、東アジア文化圏の中で正倉院宝物の意義を考察し、展示及び展覧会図録に反映した。また正倉院宝物の源流をシルクロードに探る取材のため研究員を派遣し、パネル展示や連載記事に協力した。
・20 年度春季特別展「天馬－シルクロードを翔ける夢の馬－」開催のため中国・米国・英国・イタリアに各 1 名の研究員を派遣し、中国で制作された関連作品を中心に、出陳に向けた事前調査・資料収集を行った。

【実績値】

研究員等の派遣　6 名
研究員等の受入　9 名

【備考】

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2173

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

我が国の仏教美術を研究する上で、中国・韓国をはじめとする海外の仏教文化研究は必要不可欠である。そのために数箇所の研究機関と学術交流協定を基軸として効率的に調査研究を進め、その成果を当館の特別展等に反映させるように努めている。

２．定量的評価

観点	研究員派遣数	研究員受入数				
判定	A	A				

備考

展覧会企画に沿った調査研究ができ、その点では必要十分な条件を満たしている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	上海博物館（中国）・河南博物院（中国）・国立慶州博物館（韓国）の三館と研究員の交流を行うことで、広くアジア諸国を視野に入れた調査研究を行うことができた。特別展「神仏習合」では、神仏習合をわが国だけの現象ととらえることなく、中国で制作された関連作品の展示を行い、高い評価を得た。「第 59 回正倉院展」においても、正倉院宝物の源流をシルクロードで調査した成果をパネル展示などに活用した。また中国・米国・英国・イタリアでの調査は、20 年度特別展「天馬」の内容を充実させることになった。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	わが国とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究は次第に蓄積を増しており、こうした成果によって 20 年度特別展「天馬」の内容を充実させることができた。21 年度以降も中国との交流をメインテーマとする複数の特別展を計画中で、今後も引き続き調査研究を続けていく必要がある。

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2174

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 viii 仏教美術の光学的調査研究 4) 仏教美術の光学的調査研究成果の親と子のギャラリー「仏さまの彩り」への反映

【事業概要】
仏教美術を中心とする当館の収蔵品、寄託品の中から、美術的、歴史的に貴重なものを選び、最新の光学機器をもちいて高精細デジタル画像を作成する。

【担当部課】	学芸課	【事業責任者】	学芸課長　梶谷亮治
【スタッフ】 奈良国立博物館学芸課上席研究員鈴木喜博他 13 名			

【年度実績概要】
19 年度は「仏さまの彩り」というテーマのもとに、彩色表現の豊かな以下の作品について、高精細デジタルカメラによる撮影をおこなった。

①刺繍釈迦如来説法図、②絵因果経、③戒壇院厨子扉絵図像（以上当館）、④倶舎曼荼羅（奈良・東大寺蔵）、⑤二河白道図（愛知・蓮光寺蔵）、⑥六道絵のうち人道不浄相（滋賀・聖衆来迎寺蔵）。

この撮影によって得られた高精細デジタル画像から、肉眼では見ることの難しい彩色技法の細部まで閲覧できるデジタルコンテンツを作成した。展示では、会場内に設置した大型ディスプレイにデジタルコンテンツを表示し、作品とあわせて鑑賞できるようにした。

【実績値】
高精細デジタル画像（およびデジタルコンテンツ作成）撮影件数：6 件
図録作成数　1 部

【備考】

【書式B】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2174

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

仏教美術は当館の専門分野であるが、彩色技法そのものをテーマとした展示はこれまでなされておらず、また 18 年度に続いて最新の光学機器を調査・展示に活用して作品の新しい鑑賞方法を提示したことは、古美術を専門とする博物館ではあまり例のないことであり、評価される。

２．定量的評価

観点	撮影件数	図録作成数				
判定	A	A				

備考

デジタル画像の撮影及び図録作成は、奈良時代から鎌倉時代まで、各時代を代表する仏教美術の名品を取りあげることができた。夏休みということもあり多くの入館者を迎え、新聞等マスメディアでも大きく取りあげられた。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	最新の光学機器を用いた撮影を実施することにより、肉眼では見ることの難しい作品の細部をデジタル画像によって記録することができ、彩色技法についても新たな知見が得られた。通常の展示では、作品を保護するために照度を落としたり、期間を限定するなど、観覧者にとっては必ずしも充分な環境とはならない場合が多いが、デジタル画像を展示にも活用することによって、作品の鑑賞を更に深める機会を提供することができた。 こうしたデジタル画像は、作品の専門的な調査や、復元的な考察を深める際にも参考になるものであり、また作品の現状を詳細に記録するという意味でも、保存上大きな意義を見出せる。しかしながら、デジタル技術の進歩や変化は昨今著しく、技術の選択やデータの解釈にあたっては、関連情報の収集に努めながら今後とも慎重におこなう必要がある。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	仏教美術を専門とする当館にとって、収蔵品や寄託品、あるいは奈良にゆかりの深い作品の調査をおこない、その成果を分かりやすく観覧者に提供することは必須の事業であり、充分な成果をあげることができた。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2175

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ⅰ有形文化財の展示デザインシステムを構築するための応用研究 ・高齢者・障害者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改修方策についての調査研究

【事業概要】

多様なニーズを持った来館者に快適な鑑賞のための環境を提供するため、設備・方法・演出・サインなどの研究と実験を行い、展示をより洗練し、分かり易いものに高める。

【担当部課】	企画課	【事業責任者】	企画課長　伊藤嘉章

【スタッフ】

ユニバーサルミュージアムプロジェクト(UMP)　伊藤嘉章（企画課長）・安藤英崇（総務課施設係員）

共同研究会　企画課・展示課・丹青社・トータルメディア

【年度実績概要】

九州国立博物館は、開館 3 年目に突入して平常展(文化交流展示)が安定するにつれて、多様なニーズを持った来館者にどのように対応するかが急務の課題となってきた。この回答として、18 年度からユニバーサルミュージアムプロジェクト(UMP)を立ち上げ、展示室だけでなく、館内に掲示する簡潔で分かり易いピクトグラムやサインの開発と実践とを徐々に進めてきている。また、学芸側で作品をさまざまに演出したいとの要望が上がってきたことから、文化交流展示室の展示工事を行った丹青社・トータルメディアと共同研究会を立ち上げ、展示の実践作業・設備上の課題を洗い出すと同時に、解決に向けての問題整理を行った。また、障がい者を対象とする展示案内の実験や外国人利用者のための解説内容の見直しや意見聴取(インターン学生による)を実施した。

盲導犬による展示室の案内

【実績値】

丹青社・トータルメディアと共同研究会については、11 月 2 日に実施し、主として企画課・展示課研究員とが参加し、展示の設備・作業上のさまざまな問題についての洗い出しを行った。また、不定期だが、視覚障がい者を受け入れ、盲導犬による展示室の案内も行った。

【備考】

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2175

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

館全体での快適性の確保を目指したプロジェクトと、文化交流展室の展示を基本とした展示研究という二つのプロジェクトにより、九博への来館者に対するよりよい環境を作るよう努めた。

２．定量的評価

観点	検討会	館外参加				
判定	A	A				

備考

検討会は二つのプロジェクトをあわせて月一回程度行った。これに館外の参加者を加えることで、より客観的な判断が可能となっている。さらに学芸分野に限らず、より広範な内容での改善に向けての運営を行った。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	UMP では九博の観覧環境の改善に向けた資料作りとして、来館者の側に立った状況把握を調査した。展示研究では、九博方式の展示に対して、より理解を深め、展示意図を伝わりやすくするための展示方法について検討を行っている。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	新しい館としての九博の観覧環境、さらには展示について、客観的な評価も含めて検討を加える段階に達した。新規来館者とともにリピーターをも意識した九博像の構築に向けて、基礎的なデータを集めつつあり、展示研究に代表される活動によって、効果的な対応を進めつつある。

【書式B】　施設名 九州国立博物館　処理番号 2176

(様式 1)

業務実績書

中期計画の項目	4　文化財に関する調査及び研究の推進

【事業名称】	(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 ②公衆への観覧を図るための研究 ⅰ有形文化財の展示デザインシステムを構築するための応用研究 ・高齢者・障害者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改修方策についての調査研究

【事業概要】
展示内容に対する理解度と満足度を向上させる。

【担当部課】	展示課	【事業責任者】	展示課長　赤司善彦

【スタッフ】
赤司善彦（展示課長）・伊藤嘉章（企画課長）・永野間一成（総務係長）・吉田公子（事務補佐員）、九州大学大学院芸術工学府　金大雄研究室

【年度実績概要】
(高齢者)
展示解説キャプション　文化交流展示での開館時にデザインした解説題箋は、文字が小さく読みにくいというご指摘が数多く寄せられていた。そこで、展示作品との兼ね合いを勘案しながら、倍以上の大きさで新たに追加し、これをケースのガラス面上方に貼付した。展示作品の観覧をじゃましないように、透過フィルムに出力して貼付したが、背景によっては、黒文字が見にくいなどの問題があったため、白文字も用意した。その結果、概ね好評ではあったが、来館者は展示資料が台に置いてある場合には、目を上げないことが多いため、解説文に気づかれないこともあることが判明した。こうした来館者の行動をふまえて、新たな試行をしなければならない。
(障害者)
目の不自由な方へのアプローチとして、触る資料を充実させ、事前に申し込みを受けて、ワゴンで対応するようにした。結果、感激されたという声をたくさん頂戴した。今後は盲人協会等の団体との連携を深めてよりサービスを向上する必要がある。

(外国人)
外国人への展示解説は英中韓の 3 カ国語としている。解説題箋に全てを網羅することはできないので、無料での音声ガイドを提供している。今後、サービスを向上するために、音声ガイドの来館者評価をおこなった。評価システムの研究は、九州大学大学院芸術工学院の金大雄研究室との共同研究として実施した。

- アンケート調査　外国人 384 名のデータを回収できた。内容は博物館の利用実態、展示の理解度、音声ガイド機器について、解説コンテンツの満足度、今後のニーズ等について分析することができた。
- 追跡観察調査　外国人来館者の個人と団体客を対象に、行動パターン、解説機器の個別展示ケースの滞在時間等について、赤外線送受信機によるログデータ取得と、調査員による観察を組み合わせて実施した。

その結果、1 解説につき約 45 秒前後の時間が望ましい。目をひく展示物や参加型展示での関心が高い。音声ガイド有りのサインがわかりにくい。といったことが判明した。

【実績値】
アンケート調査サンプル数　1,856 件

【備考】

【書式B】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2176

(様式２)

自己点検評価調書

１．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	

備考

音声ガイド等の機器類に対する来館者の利用実態や評価について調査した例はあまり知られていない。数多く展示作品情報の中から、文化的背景のちがう国の来館者に適切な解説情報を提供することが、来館者の満足度を向上させるのに必要なことである。その点で本研究は大いに注目できる。

２．定量的評価

観点	アンケート調査サンプル数					
判定	A					

備考

日本人の来館者 1,481 名、外国人 384 名から有益なデータが得られた。来館者のニーズを知る上では、十分な量のデータが得られている。

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	九州大学の研究者との活発な論議をベースに、有効なアンケート調査や来館者行動把握調査が実施でき、今後の魅力あるコンテンツ制作につなげるための研究を行うことができた。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究は中期計画に沿った内容として遂行できたと考える。 当研究は来館者のニーズを知るだけではない。20 年度以降この成果を活かした新しい音声ガイドコンテンツを制作することにしたい。

【書式B】
（様式1）

No.　２２０１

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ５（1））	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な情報収集を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国に於いて文化財の保存修復事業を推進する。

【事業名称】	文化財保存施策の国際的研究（Ⅰ５（1）①）

【事業概要】
日本国内における文化財保護政策・施策の充実に、また日本が行う国際協力事業の円滑な実施に必要とされる、文化財の概念やその保護の理念、保護のための各種施策に関する国際情報を収集し分析、報告する。また文化遺産に関する国際ワークショップを国内外で開催してこれら情報の共有の場を提供することにより専門家国際ネットワークの構築を図り、文化遺産分野での日本の国際貢献、日本からの情報発信に寄与する。これらの事業により得た国際情報は、国際情報データベースに蓄積、また国際資料室に配架して公開する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	国際企画情報研究室長　稲葉信子

【スタッフ】
清水真一、岡田健、山内和也、朽津信明、二神葉子、芹生春菜、江草宣友、廣野幸、今井健一朗、谷口陽子、宇野朋子、岩出まゆ、有村誠、影山悦子（以上、文化遺産国際協力センター）、前田耕作、ウーゴ・ミズコ（以上、客員研究員）

【年度実績概要】
１．文化財保存施策に関する国際情報の収集・分析、活用
本年度は、自然保護との連携がよく進み、独自の取り組みを進めていると考えられる北欧を対象に調査を行った。国内において資料収集、分析を行うほか、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドから専門家を招聘して、これらの国における文化財保護の現状と問題点、今後の方針、環境・自然保護関係省庁との連携、都市計画・農林水産・開発関係省庁との連携、国際協力などについて情報交換を行うほか、日本の文化財保護の現場を訪問して日本人専門家との意見交換の機会を提供した。環境保全、特に地球温暖化問題についての取り組みがこれら各国の主要な政策課題となる中で、文化遺産保護分野がこれにどのように対処しているかについて貴重な情報が入手できた。
２．文化遺産国際ワークショップの開催
アジア文化遺産国際会議：中央アジアの専門家をウズベキスタン共和国に招聘し、「中央アジアの文化遺産と日本の貢献」をテーマとした専門家会議を開催した（日時：2008 年 3 月 12～16 日、場所：タシュケント市及びサマルカンド市）。
国際文化財保存修復研究会：上記会議が外国人専門家・機関を主たる参加者として国際的な連携の構築を目指しているのに対し、本研究会は、日本国内への国際情報の発信と、国際協力に関する国内専門家の情報交換・連携強化を目的として国内向け一般公開の研究会として開催している。本年度は、「保存処置後のモニタリング」をテーマに開催した（日時：2007 年 12 月 6 日、場所：東京文化財研究所セミナー室）。

【実績値】
国際ワークショップ開催件数：　2 件
報告書刊行件数：　2 件（①, ②）
外国人招へい者数：　アジア文化遺産国際会議：9 人　国際文化財保存修復研究会：2 人
国際ワークショップのうち一般公開分（国際文化財保存修復研究会）参加者数：　93 人
国際ワークショップのうち一般公開分（国際文化財保存修復研究会）参加者満足度：　100%

【備考】
①国際文化財保存修復研究会報告書「保存処置後のモニタリング」08.03
②「Strategy Development & Needs Assesment」 08.03

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２２０１

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	ワークショップ開催件数	参加者数	満足度	報告書刊行件数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存施策に関する調査研究事業は予定通り終了し、日本の文化財保護施策の策定に有効な情報を収集し、国際情報データベースの充実に貢献した。国際・国内ワークショップも所定の成果をあげ、国際情報の交換、専門家ネットワークの構築、国内外への情報発信に貢献した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	調査研究、国際・国内ワークショップとも、これまでの成果をもとに、それらを着実に発展させる形で実現できたと考える。調査研究については、今後もこのペースを維持しつつ事業を進め、国内の文化財保護施策の充実に貢献する。国際ワークショップについては今後とも国際的に時宜を得たテーマの開発に力を注ぎ、専門家ネットワークの構築、国内外への情報発信に貢献する。

【書式B】
（様式1）

No.　２２０２

業務実績書

中期計画の項目（Ｉ５（1））	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な情報収集を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国に於いて文化財の保存修復事業を推進する。

【事業名称】	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究（Ｉ５（1）②ア）

【事業概要】
アジア諸国では、煉瓦、土、石など、各地の遺跡に共通して用いられている材料が認められる。本研究では、地域で区切って研究を行うのではなく、各文化財に共通して用いられている素材を調査・研究することから、その素材で形作られた多くの文化財の保存修復に寄与することを目的とする。具体的には、材料の物性とその劣化に関する基礎的な研究を行うことから、それぞれの材料が劣化しにくい条件を考察し、材料に対して、あるいは遺跡の環境に対して、材料劣化を起こしにくい条件を与えることで、文化財の保存修復に貢献する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	主任研究員　朽津信明

【スタッフ】
清水真一、二神葉子、宇野朋子（以上、文化遺産国際協力センター）、鉾井修一（客員研究員）

【年度実績概要】
素材の劣化に関する基礎的研究として、表面粗さ計を開発し、屋外において文化財が劣化した場合に表面に形成される凹凸が、どの程度であるかを定量化できるシステムを確立した。また、エコーチップ試験器を用いて石材の硬さを計測する方法を確立し、石材の表面がどの程度弱っているかを定量化できるようにした。さらに接触角計を用いることにより、合成樹脂を用いて石材を撥水処理した場合の、得られる撥水効果を定量的に評価する方法を確立した。

こうした基礎研究を受けて、カンボジア・アンコール遺跡群のタ・ネイ遺跡において、砂岩の表面に蘚苔類が繁茂する部分とそうでない部分の石材の劣化状況を系統的に調査し、蘚苔類が繁茂する部分はそうでない部分に比べて表面硬度が低下していることを明らかにした。このことから、蘚苔類が繁茂しにくいような環境を遺跡に与えることが、遺跡保存には有効な可能性が指摘された。また、タイ・スコータイ遺跡においては、遺跡の撥水処理を行う際に、得られる効果に表面粗さの違いがどのように影響を与えるかに関する現地実験を開始した。これにより、石材の撥水処理を行う際の適切な下準備の行い方や、処理を一度行った後に、次に再処理を行う必要が生じるまでの期間などについて、適切に言及できるようになると期待される。さらに、タ・ネイ、スコータイ両遺跡において、遺跡周辺の温度・湿度・風速・風向・日射などの各種環境データを計測し、それぞれの遺跡において生物繁茂に影響を与える気象条件について解析した。その結果、生物繁茂に日射は必要であるが、東南アジアの通常の環境では、日射が大きい方が水分蒸発が盛んとなるため水分不足を生みやすく、一般に日射が少ない方が生物繁茂が顕著な傾向が認められた。こうした解析が、遺跡で今後適切に生物繁茂を軽減していく方向を検討することに貢献すると期待される。

【実績値】
報告書刊行　1冊　（①）
論文掲載数　2編　（②、③）
学会発表数　3件　（④、⑤、⑥）

【備考】
①『アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究　平成19年度成果報告書』08.03
②朽津信明「茨城県つくば市周辺の中世石造美術の硬さについて 」　『考古学と自然科学』56　pp.1-11　07.12
③朽津信明「カンボジア・タ・ネイ遺跡における蘚苔類の繁茂と砂岩の風化」『保存科学』47　pp. 111–120　08.03
④朽津信明、宇野朋子「石造五輪塔表面の生物繁茂と環境条件との関係について」　日本文化財科学会第24回大会　奈良教育大学07. 6. 3
⑤朽津信明、二神葉子「風化に伴う岩石表面の凹凸状態の計測」日本応用地質学会平成19年度研究発表会　大阪市立大学07. 10. 11
⑥鉾井修一・宮内真紀子・宇野朋子・小椋大輔・川本伸一 「スコータイ遺跡における仏像の保存に関する研究　その 2　含水率変動の影響を考慮した藻類の成長モデルの作成」日本建築学会大会　福岡大学　07.08

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２０２

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	報告書刊行数	論文掲載数	学会発表数			
判定	A	A	A			
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	報告書刊行、論文数、学会発表件数ともに、計画通りの数字が得られたことからＡと判断した。また、順調にデータが蓄積されていることから、次年度にも同等の成果が期待される。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り、順調にデータが蓄積されている。次年度以降もさらに継続してデータを増やす予定である。

【書式B】
（様式1）

No. ２２０３

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ５（1））	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。

【事業名称】	アンコールワット遺跡群西トップ寺院の調査（Ⅰ５（1）②ア）

【事業概要】
カンボディア王国アンコール遺跡群において、現地のＡＰＳＡＲＡ機構と共同研究を行い、文化遺産の保護と人材育成に貢献する。

【担当部課】	飛鳥資料館	【事業責任者】	学芸室長・杉山洋

【スタッフ】
肥塚隆保、高妻洋成、降幡順子、豊島直博、和田一之輔、林正憲、石村智、窪寺茂、島田敏男、清水重敦
（企画調整部、文化遺産部、都城発掘調査部、埋蔵文化財センター）

【年度実績概要】
平成18年度から新たな中期計画に基づき西トップ寺院を対象とした共同研究を継続した。
本年も第二次５カ年計画に沿って、アンコール・トム内西トップ寺院で調査を行った。まず6月18日から21日までユネスコ主催の第16回国際調整委員会技術委員会に出席し、森本氏と現地調査員ソバナラ氏が発表を行った。今年度から各国の調査団の活動は事前に小冊子としてまとめられより詳細にそれぞれの調査成果を知ることができるようになった。7月3日から7日まで安田センター長と岡村企画調整部長を現地にご案内し、今後の調査計画や事業の進め方についてご指導を頂戴した。今年度最初の調査は7月17日～27日に豊島氏と石村氏のご協力で実施した。今年度から中央祠堂群の地下構造の把握を目的として、中央祠堂の周囲にトレンチを入れた。7月の調査では中央祠堂北西に東西方向のトレンチを設定した。今次の調査によってははっきりとした掘り込み地形は確認されず、上下２層の整地土層を確認した。8月15日から2日間には、文部科学省副大臣池坊保子副大臣と、青木保文化庁長官、佐々木丞平理事長を現地にご案内し、西トップ寺院などの現状と今後についてご説明した。11月26日から28日まで現地で第17回国際調整委員会が開催され、当研究所の活動を紙上報告した。12月には17日から27日まで本年度第2回目の現地調査を林氏と石村氏のご協力によって行った。今回は西トップ寺院中央祠堂の北東に南北方向のトレンチを入れ、当該地区における中央祠堂群の地下構造について調査を行った。その結果、7月の調査と同様の２層の整地層が確認され、前回の調査と同様な状況が確認された。調査成果の詳細については『奈良文化財研究所年報２００８』を参照願いたい。この調査に併行して科学研究費補助金によるソサイ窯跡の調査も行い、上記両氏のご協力を得て窯体の検出を行った。12月には森本氏によって西トップ寺院のフランス所蔵資料の調査が行われた。
1月21日から26日には建築班として島田氏と清水氏にご参加いただいて、西トップ寺院における図面の作成と、今後の建築班調査の方向性について意見交換を行った。2月には大阪大谷大学の中村浩教授を中心とする調査団によるクナ・ポー窯跡調査に協力すると共に、プノンペンにおいて在プノンペン日本大使館を訪れ、当研究所の諸事業への理解と協力を要請した。3月7日から12日には山田文化財情報課長に現地をご視察いただき、今後における当該事業の情報発信のあり方や、飛鳥資料館企画展示におけるカンボジア事業の紹介に関する調整を行った。
本年は以上のような調査研究活動を行ったが、特筆すべき外部からのご協力があった。高松塚古墳の石室解体で研究所事業にご協力いただいた（株）タダノと飛鳥建設株式会社からカンボジア事業へのご協力の申し出があり、1月31日に（株）タダノ志度工場において、調査用車両3台の贈呈式が挙行された。当該車両は2008年4月には現地に到着の予定で、本車両を使用することによって、調査研究活動が飛躍的に進展すると共に、今後の事業展開にも多大の貢献が予想される。

【実績値】
発表件数：２件（①～②）

【備考】
①国際調整委員会　ソキメック　ホテル 2007.6.18-21
②国際調整委員会　ソキメック　ホテル 2007.11.26-28

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２０３

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	今年度も当初予定した調査予定を順調に進行することができるとともに、中央塔に関する様々な事実を明らかにすることができた。招聘事業も確実に進行し、相手国文化財保護機関からも一定の評価を得ることができた。以上の進捗状況を総合的に判定してＡとした。

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の予定とおり遂行したことから、当事業は順調であると判定した。

【書式B】
（様式1）

No.　２２０４

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ５（1））	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な情報収集を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国に於いて文化財の保存修復事業を推進する。

【事業名称】	龍門石窟及び陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究（Ⅰ５（1）②イ）

【事業概要】
中国龍門石窟の保存に協力するため、龍門石窟研究院との緊密なパートナーシップを構築し、龍門石窟の現状を詳細に調査し、保存修復の方法についての研究と具体的な処置、人材の養成などを実施する。陝西省所在の唐時代の乾陵、橋陵、順陵に附属する石彫像の保存修理に関して、科学的研究と保存修理作業を行うと共に、石彫像保存地区の保存計画策定の研究を行う。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　岡田健

【スタッフ】
清水真一、朽津信明、谷口陽子、杉崎佐保恵（以上、文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】
1)龍門石窟人材養成
11 月 19 日から 12 月 16 日の日程で、龍門石窟研究院保護センター高東亮研究員と李建厚研究員の 2 名を招へいし、石質文化財の修理技術、撥水材料を塗布した後の効果の評価方法、修理作業終了後の環境のモニタリングなどについて、東京文化財研究所保存修復科学センターの研究員をはじめ、西浦忠輝氏（国士舘大学教授）、沢田正昭氏（国士舘大学教授）、山路康弘氏（別府大学客員研究員）など外部専門家による講義を行い、大阪城石垣修復現場、福島県入水三十三観音摩崖仏、神奈川県箱根石仏、修理施行会社の工場を視察させ、周到な内容による研修を実施した。最後に成果報告書をまとめ、研修を終了した。
2)石造文化財の保存修復に関する研究会の開催
西安文物保護修復センターと共同で「石造文化財の保存処理技術に関する研究会―石造文化財の保存修復と展示方法/保存処置に際しての接合部分及び表面の化粧方法」をテーマとし、日中専門家による研究会を開催した。
日中双方の保護修復、地質、考古学などの専門家 20 人以上が参加し、西安文物保護修復センターの研究員による作業報告と、国内外での石造文化財修復に豊富な経験を持つ海老澤孝雄氏（(株)ざエトス）の事例報告を聞き、参加者による討論と意見交換を行った。龍門石窟研究院石窟保護センターの研究員 2 名が西安市に出張し、参加した。
【主催】東京文化財研究所・西安文物保護修復センター
【日程】平成 19 年 10 月 11 日～13 日　(3 日間)
第 1 日（11 日）　乾陵視察
第 2 日（12 日）　研究会
第 3 日（13 日）　秦兵馬俑坑、漢陽陵地下博物館視察
【研究会内容】
1)プロジェクト報告
「順陵石彫像の整備作業について」（西安文物保護修復センター　李衛）
「乾陵西門獅子像の復元修復作業について」（西安文物保護修復センター　甄剛）
2) 事例報告
「石造文化財の保存修復と展示方法」（海老澤孝雄）
「保存処置に際しての接合部分及び表面の化粧方法」（海老澤孝雄）

【実績値】
研究会の開催　1回（①）

【備考】
①研究会資料集 07.10.11-13

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２０４

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	研究会開催					
判定	A					
備考						

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	毎年段階的に研究テーマを発展させており、着実に成果を上げているため、Aと判定した。龍門石窟、陝西省で実施されている石造文化財保存修理事業はともに次年度が最終年度となり、今年度の研究の成果が現場で発揮されることが期待できる。龍門石窟研究院と西安文物保護修復センターの研究交流もさらに促進されつつある。

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	その進捗度、従来の水準を維持しつつ比較的堅調に実現できたと考える。

【書式B】
（様式1）

№. ２２０５

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ5（1））	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な情報収集を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国に於いて文化財の保存修復事業を推進する。

【事業名称】	敦煌壁画の保護に関する共同研究（Ⅰ５（1）②イ）

【事業概要】
敦煌壁画に関して、敦煌研究院と共同で調査研究を行う。これは、近年のシルクロード各地における各国・各研究機関の専門家による壁画を中心とした文化財研究の進展を念頭に置きつつ、壁画の制作材料と技法を古代のシルクロードを通じた文化交流、技法・材料の移動という観点から研究し、敦煌壁画を総合的に理解しようとするものである。具体的な研究項目としては、1)壁画制作技法・制作材料に関する光学的方法及び分析的方法を用いた総合研究、2)放射性炭素年代測定法による主要窟の年代同定に関する研究、3)日中の若手研究者育成、を実施している。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　岡田健

【スタッフ】
山内和也、朽津信明、谷口陽子、宇野朋子、高林弘実、大竹秀実、津村宏臣（以上、文化遺産国際協力センター）、籾井基充（実践女子大学）、中村俊夫（名古屋大学）、齋藤努（歴史民族博物館）

【年度実績概要】
1）合同調査：5月14日～6月7日の日程で、前年度に引き続き第285窟東壁・北壁・天井の壁画に対する写真撮影による光学調査、第268･272･275窟からの^{14}C年代測定に供する試料17点の採取を行った。
2）初期窟の光学調査：6月26日～6月28日の日程で、第285窟の材料・技法の特徴の位置づけを莫高窟初期壁画の中で明確にするためのデータを得ることを目的として、莫高窟に現存する最古の洞窟とされる第272・275窟壁画の一部について、敦煌研究院保護研究所のメンバーが光学調査を行った。
3）合同調査：8月19日～9月14日の日程で、第285窟正壁・南壁を対象として肉眼観察によって確認できる亀裂・剥落といった物理的損傷を記録することを主眼とした壁画の保存状態の調査、第285窟壁画に使用されている色料についてのデジタル顕微鏡・携帯型蛍光X線分析装置・携帯型ラマン分光計を用いた非接触分析調査、さらに詳細な分析研究を行うための微小試料の採取を行った。
4）合同調査：12月9日～14日の日程で、第285窟北壁の題箋部分の紫外線蛍光写真撮影、第285窟内部の測量を行った。敦煌研究院が実施した地理情報システムGISに関する研究会に参加し、敦煌莫高窟の保護におけるGISの活用に関する研究を行った。この成果をもとに、敦煌研究院保護研究所王小偉研究員の研修プログラムを作った。
5）敦煌派遣研修：5月14日～9月15日の日程で、日本から大学院博士後期課程在籍の学生3名を敦煌に派遣した。
6）敦煌研究員の来日研修： 1月15日～3月8日の日程で、王小偉研究員・李燕飛研究員の2名が来日し、研修を実施した。王研究員は、同志社大学文化情報学部及び東京文化財研究所において、同志社大学文化情報学部津村宏臣専任講師（東京文化財研究所客員研究員）の指導のもと、地理情報システムGISの研修を受けた。李研究員は、国立歴史民俗博物館において、齋藤努准教授の指導のもと、鉛同位体比分析の研修を受けた。
7）報告書の作成：東京文化財研究所と敦煌研究院両者共同の2007年度成果報告書を編集し、発行した。

【実績値】
報告書　1冊（①）

【備考】
①報告書「敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2007」08.3　159p

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２０５

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	報告書作成					
判定	A					
備考						

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	シルクロード沿線の壁画研究が注目される中、近年開発が進んでいる可搬型観測機器の導入、積極的な外部研究機関との連携などが実現し、調査による新たな発見に基づく研究方法の改善、科学的分析手法の確立も順調に行われているため、A と判定した。敦煌研究院との研究者同士の意思疎通も順調に図られていて、研究の一層の発展が期待できる。

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	これまでの経験を生かしつつ、堅調に実現できたと考える。研究の進展とともに研究項目が増えており、人員配置、報告書への反映の仕方など、改善すべき点を見直しつつ、次年度へ向けて順調に作業を進めている。

【書式B】
（様式1）

No. ２２０６

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ５（1））	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な情報収集を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国に於いて文化財の保存修復事業を推進する。

【事業名称】	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（Ⅰ５（1）②ウ）

【事業概要】
西アジア諸国の文化財の保護・保存・修復に関する協力・支援事業の一環として、とくに内戦・紛争によって破壊の危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化財の調査研究を行い、それに基づいて文化財保護支援事業の優先順位を定め、破壊された文化財の保存・修復事業を通して、関連する分野の技術移転を図るとともに、当該国から強い要請を受けている人材育成を行い、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、あわせて周辺地域（特に中央アジア）の文化財の調査研究を実施する。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】
稲葉信子、山内和也、朽津信明、岩出まゆ、宇野朋子、谷口陽子、有村誠、影山悦子（以上、文化遺産国際協力センター）、前田耕作、岩井俊平、西山伸一（以上、客員研究員）、岡村道雄、井上和人、窪寺茂、森本晋、石村智、脇谷草一郎（以上、奈良文化財研究所）、中村俊夫（名古屋大学）、金原正明（奈良大学）、佐々木達生、佐々木花江（以上、金沢大学）、野上建紀（有田町歴史民俗資料館）、木口裕史、中野広行（以上、株式会社パスコ）、島馨、馬貴臣（以上、応用地質株式会社）

【年度実績概要】
1. アフガニスタン（バーミヤーン）
1−1. 第8次ミッション派遣（2007年6月9日～7月15日）
①アフガニスタン専門家研修事業：ワークショップの開催（6月25日～30日）及び現場での共同作業を通じての人材育成・技術移転。
②バーミヤーン遺跡の考古学的調査：文化的及び考古学的地区と保護されるべき考古遺跡を特定し、保護するためにガリーブ・アーバード地区及びガーズィー・ダウーティー地区の4つの調査区で試掘調査、そして、カクラク谷の中上流で分布調査を実施した。
③バーミヤーン地域の古環境の復元のための調査（金原正明・奈良大学教授との協力）
④外部機関・団体との共同研究：バーミヤーン遺跡保存事業を円滑かつ効率的に実施するために下記の4機関と共同研究を実施。
　④−1. 金沢大学との共同研究：バーミヤーン遺跡出土陶器の研究
　④−2. 株式会社パスコとの共同研究：バーミヤーン石窟遺構の現状記録調査のための研究
　④−3. 株式会社応用地質との共同研究：バーミヤーン遺跡保存のための崖崩壊予測および地下探査に関する研究
　④−4. 名古屋大学年代測定総合研究センター：バーミヤーン仏教壁画の年代測定
⑤バーミヤーン仏教壁画の保存：Ⅰ窟、N(a) 窟における保存修復作業を実施
1−2.「バーミヤーン遺跡保存に関する第6回専門家作業グループ国際会議及び国際シンポジウム」開催（ユネスコと共催）及び参加
1−3.『アフガニスタン文化遺産調査資料集』の出版
2. イラク文化財専門家研修事業：バグダード国立博物館等から専門家1名を日本に招へいし、ユネスコ日本信託基金による人材育成プロジェクトとタイアップして東京・奈良文化財研究所、静岡県埋蔵文化財調査研究所で、木製品の保存修復の理論と実践に関する研修を実施。
3. タジキスタン：タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民俗学研究所と文化遺産の保護に関する合意書締結（2008年3月10日）。

【実績値】
招へい専門家：1名
派遣職員数：12名
報告書作成：6件（①～⑥）
学会発表件数：1件（⑦）
ワークショップ開催：1件

【備考】
①概報第2巻『バーミヤーン遺跡保存事業概報−2006年度（第6・7次ミッション）−』
②同英語版『Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2006 −6th and 7th Missions− 』
③概報第3巻『バーミヤーン仏教石窟調査概報−2006年度−』
④別冊第2巻『アフガニスタン・カーブル市南部の文化的記念物および考古遺跡の調査』
⑤同英語版『Documenting the Cultural Heritage of Kabul, Survey Project in the Kabul Region Afghanistan funded by UNESCO in 2006』
⑥別冊第3巻『バーミヤーン遺跡保存のための環境調査報告−2005～2006年−』
⑦山内和也、有村誠　アフガニスタン、バーミヤーン遺跡保存事業−2007年度の成果−　『平成19年度考古学が語る古代オリエント　第15回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会　08.3.16

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２０６

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	招へい者数	職員派遣数	報告書作成数	発表件数	ワークショップ開催	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	アフガニスタンやイラクにおいては治安等の問題があり、職員の派遣が難しいといった様々な問題が存在するものの、招へいして研修を実施する（イラク）など、事態に柔軟に対応しながら、全体的に計画に沿って事業が実施されており、かつ、成果も上がっていることから、Aと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	治安情勢等の様々な問題に配慮しながら、全体としては計画に沿って事業が実施されていることから、「順調」と判断した。

【書式B】
（様式1）

No. ２２０７

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ５（2））	諸外国に於ける文化財の保存・修復に関する技術移転、文化財保存担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材は教育手法に関して研究開発を行う。

【事業名称】	諸外国の文化財保存修復専門家養成（Ⅰ５（2）ア）

【事業概要】
文化遺産の保存修復を実施するためには、経験豊かな修復専門家の関与が必要不可欠である。しかし紛争や治安の不安定な状態が長期間続いた国々では、文化遺産を保存・修復する人材が決定的に不足しており、その養成が緊急的課題になっている。そのため諸外国における専門家の研修を実施する際の教材として使用することを目的にし、「水浸木材」をテーマにした DVD 映像と、過去の保存・修復や研究事例の極端に少ない「樺皮仏典文書」をテーマにしたテキスト及びＤＶＤ映像を作成した。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】
山内和也、谷口陽子、宇野朋子、大場詩乃子、坂本雅美、広野幸（以上、文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】
諸外国における専門家の研修を実施する際の教材として使用することを目的にした。

「水浸木材の保存」は遺跡などから出土した木質遺物の変形を防止し、形状を保ちながら後世に残すための保存修復処置の方法を DVD15 分程度にまとめた。実際の修復現場で行われている一般的な複数の手法と手順を映像としてまとめたものを英語と日本語のナレーションで作成した。研修対象者に説明し、英語・日本語の言語での説明以外に、映像として残すことで水浸木材の修復処置方法を的確に分かりやすく説明することが可能になり、利用しやすくなった。

「Conservation Manual for Birch Bark Fragments」は過去の保存・修復や研究事例の極端に少ない「樺皮仏典文書の修復」をテーマにテキスト及びＤＶＤ映像を作成した。「樺皮文書」は西アジア近辺で発見され、諸外国で保存・修復、また保管管理されているケースがあるが、修復処置方法や劣化の機構は解明されていない部分が多い。住友財団助成金によりアフガニスタン・バーミヤーン出土の樺皮文書断片の保存・修復処置を行ったことから、断片の調査記録の方法、最小限の介入を目的とした修復方法や処置と暫定的な保管方法などを事例的に説明することを目的とした。このＤＶＤではバーミヤーン出土の樹皮仏典文書の出土状況を導入として「記録方法」「修復処置のためのテスト」「マウント方法」などの解説を動画で説明することで作業内容を分かりやすく説明することを目的とした。英語のナレーションを入れ、14 分ほどの映像でまとめた。

「Conservation Manual for Birch Bark Fragments」のテキストは、ＤＶＤ映像だけでは含められなかった詳細等を記述し、また適度に簡潔にすることで参照しやすくした。参考文献や使用した道具類の入手先を掲載することで参考にしやすくなったと考える。修復事例や研究報告が未だ少ない樺皮文書の修復処置事例として、文化財の保存修復に関わる専門家の研修や同様の文化財を取り扱う担当者への解説として効率的な活用が可能となった。

【実績値】
①② ＤＶＤ編集　各１巻（全２巻）
③ テキスト作成　１冊

【備考】
①文化遺産国際協力センター編集　「水浸木材の保存」ＤＶＤ
②文化遺産国際協力センター編集　「Conservation Manual for Birch Bark Fragments」ＤＶＤ
③文化遺産国際協力センター編集　「Conservation Manual for Birch Bark Fragments」テキスト

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２０７

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	DVD作成数	テキスト作成数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画通りにDVDとテキスト作成が出来たので、Aと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	樺皮仏典文書のDVDとテキストが完成し、当初の計画通り順調に進行している。次年度もそれぞれのテーマごとに引き続き製作していく予定である。

【書式B】
（様式1）

№. ２２０８

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ５（２））	諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。

【事業名称】	国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力（Ⅰ５⑵イ）

【事業概要】
ユネスコアジア文化センター（ACCU）および国際協力機構（JICA）などでは、例年、アジア・太平洋地域諸国の文化遺産保護専門家育成のためのいくつかの研修を計画しており、当研究所はそれらの協力依頼に積極的に対応しているところである。研修は、いうまでもなく、文化遺産に関する、きわめて専門的な内容におよび、当研究所の各専門領域の研究員が講義に参画している。

【担当部課】	企画調整部・文化遺産部・都城発掘調査部	【事業責任者】	企画調整部長　岡村道雄

【スタッフ】
安田龍太郎、光谷拓実、窪寺茂、杉山洋、島田敏男、清水重敦、大林潤、井上和人

【年度実績概要】
ユネスコアジア文化センター（ＡＣＣＵ）が実施した研修への協力
①「文化遺産の保護に関する研修２００７―木造建造物の保存と修復」（長期集団研修１４名）（9／１８～１０／１９）
②「ベトナム　ドンラム村保存事業に伴う専門家育成研修（個人研修3名）（8／２８～9／２７）
③「文化遺産の保護に資する研修２００７」（個人研修2名）（１１／２６～１２／２１）

①は木造文化財の保存と修復に係わるさまざまな技術や考え方を研修したもの。研修への参加者はアジア・太平洋地域諸国の若い世代の専門家であった。
②の研修参加者は、近年、日越協力事業として成果をあげつつある、ベトナム国ハタイ省ドンラム村の伝統的村落保存事業に関わる現地の専門化を育成するために実施した研修。
③の研修参加者２名はモルジブ国立言語・歴史研究センターに所属している。博物館における資料保管法、収蔵システム、管理システム、展示方法などの諸課題につき、必要な知識・技術を習得することによって、今後モルジブ国の博物館運営や文化遺産に寄与することを目的としたものであった。

【実績値】
研修生数
① １４名
② ３名
③ ２名

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２０８

1．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ＡＣＣＵの期待する要求に充分に応じることができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当研究所の保有する諸専門知識、研究員はＡＣＣＵ等の希望する文化遺産保護人材育成事業に着実に貢献しつつあるので、今後とも全面的に協力していくことが可能である。

【書式B】
（様式1）

No. ２２０９

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ６（1））	文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。

【事業名称】	情報システムの整備（Ⅰ６（1）①）

【事業概要】
文化財関係の情報を収集し、積極的に発信するために、ネットワーク環境におけるセキュリティの強化及び高速化を進めるなど、情報基盤の整備・拡充を図る。

【担当部課】	企画情報部	【事業責任者】	情報システム研究室長　勝木言一郎

【スタッフ】
綿田稔，江村知子（以上企画情報部），横山隆史（管理部 LAN 委員），俵木悟（無形文化財部 LAN 委員），吉田直人，加藤雅人（以上保存修復科学センターLAN 委員），二神葉子（文化遺産国際協力センターLAN 委員）

【年度実績概要】

1．システム管理

所内におけるシステムの運用については、システム管理者がシステム全体の日常的な運用をはじめ、保守契約等の協議、メールアカウントの管理を行った。また LAN 委員会の協議を経て、中長期的な更新計画を策定した。とくに平成 19 年度は研究活動及び日常業務が遅滞なく円滑に遂行されるように、スパムメール対策を講じた。

2．ネットワーク環境の整備

現在のユーザー環境を維持しつつ、より効率的運用ができるよう、下記の通り、ネットワーク環境を整備した。

・ファイヤーウォールの更新
・スパム対策システムサーバの導入
・ルータの更新

3．情報セキュリティ

東京文化財研究所ネットワークシステム管理規則、東京文化財研究所広報委員会規則、東京文化財研究所 LAN 委員会細則を整備し、所内の情報セキュリティの強化を図った。また情報セキュリティに関するポリシーおよび運用手順の策定に向け、引き続き関連情報を収集した。国立文化財機構情報システム部門連絡会に参加し、国立博物館や文化財研究所におけるシステム管理について情報を収集した。

【実績値】

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２２０９

1．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	情報システムの整備についてはネットワーク環境の更新に伴い、セキュリティの強化及び高速化が図られた結果、適時性、効率性、継続性、正確性が向上したと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	情報システムの整備についてはセキュリティの強化及び高速化を図るに当たり、現在のユーザー環境を維持しつつ、より効率的な運用ができるよう、ネットワーク環境の段階的な更新を進めた。

【書式B】
（様式1）

№. ２２１０

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ６（1））	文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてデータベースの充実を図る。

【事業名称】	ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実（Ⅰ６（１）①）

【事業概要】
コンピュータウイルスをはじめとする様々な脅威から研究所の情報を守り、正確な情報を発信して行くため、ネットワークのセキュリティを強化する。また、文化財情報の電子化によるデータベース及びホームページに掲載された情報の所内外への提供を推進するため、サーバ機器・ネットワークといった情報基盤システムの整備・充実を行う。

【担当部課】	管理部文化財情報課	【事業責任者】	課長　山田 耕一

【スタッフ】
太田 仁 ほか１名

【年度実績概要】
昨年策定した情報セキュリティ・ポリシーに沿って、ネットワークの安全に努めた。
ファイアーウォール・グループウエア(サイボウズ)のバージョンアップを行ない、Web 用 のウイルス対策にサーバを更新した。
また、 例年通り PC 用のウイルス対策ソフトの更新も行なった。

【実績値】

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２１０

1．定性的評価

観点	効率性	継続性				
判定	A	A				
備考 継続性：適切に機器及びソフトを更新した。 効率性：グループウエアを更新した。						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年度を通じて、システムの障害が発生することなく、安全な運用ができているので、総合的に判断してA と評価した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	情報漏洩・ウイルス感染もなく、機器及びソフトの更新がなされ、安全に運用できたので、順調と判定した。

【書式B】
（様式1）

No. ２２１１

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ６（1））	文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークやセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。

【事業名称】	専門的アーカイブの拡充（Ⅰ６（1）②）

【事業概要】
企画情報部では1）受入した文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録・管理、2）閲覧室で月・水・金の週3回一般利用者へ所蔵資料を提供、3）データベースや検索システムの構築・運用を通常業務としている。過去五カ年で定まった文化財関連資料の公開機関としての周知をふまえ、今期五カ年では提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの拡充を図る。また、上記アーカイブのための資料収集及び作成には画像形成技術の開発が必要不可欠である。画像形成部門では、常に技術の進歩をみる写真機材及び設備の整備が必須であり、本プロジェクトでは継続的なこれらの更新を行うことによって、世界最先端の研究活動を支援することをも目的とする。

【担当部課】	企画情報部	【事業責任者】	文化財アーカイブズ研究室長　山梨絵美子

【スタッフ】
中野照男、勝木言一郎、皿井　舞、江村知子、中村節子、中村明子、井上さやか（以上、企画情報部）

【年度実績概要】
（1）資料閲覧室運営
従来どおり文化財に関する文字資料及び画像資料の収集、管理、公開、データベースの構築・運用を基本に、より充実した文化財に関するアーカイブの形成を試みた。デジタルコンテンツ作りでは、『美術研究』総目次のデータ化と、文化財年表作成の資料として『日本美術年鑑』（朝日新聞社）のデータ化を継続した一方、利用頻度が高まるにつれ、劣化が進む資料類や機器類の保護対策として、資料については引き続きデジタル化をすすめ、また順次機器の更新を行った。また、国内外の関連機関との協力関係構築への取り組みとして他機関の資料収集・整理・公開システムを調査し、さらに有効なシステム構築のための協議を行った。
（2）画像情報室
従来に引き続き、他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。また、黒田清輝遺族から寄贈された資料写真を整理し、第一次寄贈写真のデジタル化を完了。風合いを再現した出力を試み、その成果を黒田記念館での特集展示「写された黒田清輝」で公開した。画像資料の作成・整理については、写真管理検索システムへの４×５カラーフィルムの登録、戦前の撮影調査票一覧のデータ化、写真原板検索システムの外部公開を開始した。昨年度より継続の尾高鮮之助、和田新撮影フィルムについては文化遺産国際協力センターの協力を得て、画像をデジタル化した。また、デジタルアーカイブで公開中の『紅白梅図屏風』の画像の冊子体での提供を開始した。

企画情報部にて作成・更新中のデータベース（35 種）
・所蔵和漢書ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(2006 年度まで)　・受入和漢書ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(2007 年度分)　・所蔵洋書ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・所蔵簡易図書ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・売立目録ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・所蔵美術館博物館収蔵目録ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・和雑誌誌名ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・所蔵洋雑誌誌名ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・所蔵中国雑誌誌名ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・所蔵韓国雑誌誌名ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・所蔵和雑誌巻号ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(2002 年まで)　・所蔵洋雑誌巻号ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(2005 年まで)　・所蔵和雑誌巻号ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(2003 年以降)　・所蔵洋雑誌巻号ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(2006 年以降)　・所蔵中国雑誌巻号ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・所蔵韓国雑誌巻号ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・所蔵地方公共団体刊行報告書ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・所蔵香取秀真資料関係ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・展覧会ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(2002 年まで)　・展覧会ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(2003 年以降)　・近現代作家名ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・近現代展覧会開催情報ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(1944 年以降)　・写真原板ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・ｷｬﾋﾞﾈｯﾄ写真ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・古美術文献目録ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(明治～1965 年)　・近現代美術文献目録ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(1959～1990 年)　・美術館博物館名ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・東京文化財研究所年表ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・所蔵古美術展図録目次ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(1989～2001 年)　・美術研究総目次ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・所蔵近現代図録目次ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(1948～1990 年)　・撮影調査票ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・古美術展覧会開催情報ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(1944 年以降)　・物故記事ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ　・美術懇話会・開所記念展覧会出品目録ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ

研究資料検索システムにて提供中のデータベース（ I→イントラネット　O→インターネット）
・**I／O** 美術関係図書データ　・**I** 古美術文献データ　・**I／O** 伝統芸能関係図書データ　・**I** 近現代美術文献データ
・**I／O** 保存修復関係図書データ　・**I／O**『保存科学』所載文献データ(2007.5 外部公開開始)　・**I／O** 売立目録データ
・**I／O** 伝統芸能関係三雑誌所載文献データ　・**I／O** 展覧会カタログデータ　・**I／O** 近現代美術展覧会開催情報データ
・**I／O** 和雑誌データ　・**I／O** 伝統楽器情報データ　・**I／O** 写真原板データ　(2007.6 外部公開開始)

【実績値】
通常フルカラー画像撮影件数　３５６０件　特殊画像撮影件数　１４５０件　デジタル画像撮影の全体にしめる割合　99%
図書受入数　和漢書　914 件　洋書　0 件　展覧会図録・報告書等　864 件　雑誌　1,488 件　受入総数　3,266 件
目録所在情報　目録所在情報の種類　35 種　目録所在情報作成件数　32,484 件
目録所在情報収録件数　648,759 件　目録所在情報公開件数　528,039 件
イントラネットで公開中の目録累計数　１３種
資料閲覧室の利用状況　公開日総数　１４０日　利用者年間合計　1,120 人　平成１８年度の利用者数との対比　194 人増

【備考】
所内イントラネットによる目録の公開　http://www2.tobunken.go.jp

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２１１

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	文献資料受入件数	画像資料収集件数	データベース公開件数	閲覧室利用者数		
判定	A	A	A	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	定性的にも定量的にも目標値を満たし、閲覧室利用者の増加に見られるように国民の文化財理解にも資することができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今後は、国内外の関連機関の調査、協議をさらに進め、当研究所の持つ文化財アーカイブの特色を活かした資料収集および公開を進めていきたい。

（様式 1）　　No. ２２１２

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ６（1））	文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークやセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。

【事業名称】	東京文化財研究所七十五年史編纂事業（Ⅰ６（1）②）

【事業概要】
昭和 29 年 7 月に当所の前身である東京国立文化財研究所が設立されて以来、当所の歴史を概観するものは「20 年のあゆみ」が刊行されている他は、各年度の事業を記した概要、年報が刊行されているのみで、まとまった所史は編纂されていない。本事業は、東京国立文化財研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が昭和 5 年 6 月に設立されてから平成 17 年で 75 周年を迎えたのを機に、当所の歴史を跡づけ、さらには国立博物館との統合を迎える平成 18 年までの記録を残すことを目的として、資料収集及びそのデータ化を図り、所史を編集する。

【担当部課】	企画情報部	【事業責任者】	文化財アーカイブズ研究室長　山梨絵美子

【スタッフ】
永井義美（管理部）、飯島満（無形文化遺産部）、佐野千絵（保存科学部）、川野邊渉（修復技術部）、岡田健（文化遺産国際協力センター）、中野照男、塩谷純、中村節子、中村明子、井上さやか（以上、企画情報部）

【年度実績概要】
『東京文化財研究所七十五年史　資料編』を刊行し、本編（沿革編および調査研究編）の原稿作成、校正を進めた。また、その一部を研究等に資するデジタル・コンテンツとして公開に向けて編集し、ホームページ上での公開に向けて加工を進めた。

『東京文化財研究所七十五年史　資料編』

【目次】東京文化財研究所七十五年のあゆみ／東京文化財研究所　略年表／科学研究費研究課題一覧／受託研究一覧／特別研究一覧／アジア文化財保存セミナー／アジア文化財保存修復研究会・国際文化財保存修復研究会／在外日本古美術品保存修復協力事業／開所記念展覧会／黒田清輝展巡回記録／美術部・情報資料部夏期学術講座／近代の文化遺産の保存修復に関する研究会／芸能部公開学術講座／美術部公開学術講座・オープンレクチャー／文化財の保存及び修復に関する国際研究集会／能楽技法講座／文化財保存修復研究協議会／民俗芸能研究協議会／漆の保存修復国際研修／紙の保存修復国際研修／資料保存地域研修／連携大学院教育／博物館学実習／海外学術調査員および研究者のための保存修復講座／保存担当学芸員研修／開設期の公文書／東京文化財研究所所蔵作品一覧／戦前期撮影調査票一覧／東京文化財研究所所蔵　拓本総目録／東京文化財研究所所蔵　龍門石窟造像銘記拓本目録／和田新調査撮影記録／尾高鮮之助調査撮影記録／矢代幸雄収集西洋美術関係図版目録／美術懇話会主催展観及び講話等／美術懇話会会員名簿／東洋美術国際研究会会員名簿／『美術研究』総目次／『美術研究』掲載図版総目次／『保存科学』総目次／『芸能の科学』総目次／東京文化財研究所所蔵　“Bulletin of Eastern Art”総目次／東京文化財研究所所蔵刊行物一覧／歴代名誉研究員一覧／職員名簿／東京文化財研究所所蔵資料統計／閲覧者数統計／機構の変遷／定員構成の変遷／予算／土地建物の変遷／関係法規（抜粋）

【実績値】
刊行物数：１件

【備考】
『東京文化財研究所七十五年史　資料編』　08.03 刊行　総ページ数 905 ページ　600 部

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２１２

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	独創性	効率性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	刊行物数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	計画通り刊行することができたのでＡと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平成２１年度の刊行をめざして、『東京文化財研究所七十五年史　本編』の作成にとりかかる。また、『資料編』に掲載された目録等を加工してウェブ上で公開していきたい。

【書式B】
（様式1）

No. ２２１３

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ６（1））	文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。

【事業名称】	無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（Ⅰ６（1）②）

【事業概要】
無形文化遺産部が所蔵する音声・画像・映像資料のデジタル化。平成 18 年度からの中期計画では、平成 17 年度に終了した中期計画の事業案策定後に購入あるいは寄贈を受けたアナログ資料を中心に、これまで収集蓄積してきた分野を補完する資料の媒体転換を重点的に実施する。併せて、既にデジタル化を済ませた音声資料に関しては、インデックス付与を含む整理を推進する。この事業は、将来的には所蔵資料のデータベース公開と音声・画像等の配信をめざすものである。

【担当部課】	無形文化遺産部	【事業責任者】	無形文化遺産部長　宮田繁幸

【スタッフ】
飯島満、鎌倉惠子、高桑いづみ、俵木悟、佐竹悦子、角美弥子、綿貫潤（以上、無形文化遺産部）

【年度実績概要】
２００６年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープ約８００本（４トラック録音約３００本を含む）のデジタル化に本格的に着手した。これらは、無形文化遺産部がこれまでに収集蓄積してきた分野を補完する資料を数多く含むものである。
今年度は、昨年度に引き続き、資料的な価値が高く、なおかつ資料の絶対数が少ない古曲（河東節・一中節・宮薗節・荻江節）のデジタル化を進めたが、これらに加え、旧芸能部の時代には収集実績の比較的少なかった新内節や諸芸（舌耕芸など）の分野に範囲を広げ、２６１枚のＣＤを作成した。また、中世近世芸能を中心に、インデックス付与済みＣＤ６１枚を作成した。
所蔵画像資料のデジタル化については、データベースの作成に着手しており、これまでに五代目尾上菊五郎写真、五代目菊五郎以外の明治大正期の歌舞伎絵はがき・ブロマイドの所蔵一覧を公表してきたが、本年度は、主に昭和２０年代に撮影された歌舞伎舞台写真１０８０点の所蔵一覧を作成し、公表した。今年度所蔵を公表した舞台写真は、市販目的というよりも記録を目的に撮影されたとおぼしきものが多く、戦後の歌舞伎を知るうえで、非常に貴重な資料である。
このほか、無形文化財関連のＤＶＤ１９０枚を登録した。これらは、昭和３０年代にさかのぼる映像を含む貴重な資料である。

【実績値】
作成資料［CD］３２２枚　　［DVD］１９０枚

【備考】
作成資料一覧
作成実数３３

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２２１３

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	資料作成数					
判定	A					
備考						

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	新たに寄贈された資料を中心に、劣化が懸念される貴重なアナログ資料の媒体変換を行うとともに、デジタル化しただけでは一般の利用には供しがたい音声資料へのインデックス付与も着実に実施している。また、専門の研究者も少なく、現存資料の確認すら十分に行われていない古曲などに加え、これまで収集実績の乏しかった分野の資料整理も併せて遂行している。以上の状況を総合的に判断して、Aと判定した。

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	事業は、従来の水準を維持している。また、所蔵資料の内、写真資料については、将来的なデータベース公開へ向けて、所蔵一覧の作成を着実に進めている。以上により、事業の進捗状況を順調と判定した。

【書式B】
（様式1）

№. ２２１４

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ６（1））	文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。

【事業名称】	国際資料室の整備（Ⅰ６（1）②）

【事業概要】
本プロジェクトは、国際資料室に配置する外国の文化財や文化財保存修復事業に関する蔵書・資料の質及び量を充実させ、国際文化財保存修復協力センターでの関連の研究や事業に利用するとともに、国内外の関連分野の専門家が閲覧・利用できるようにする。同時に、資料のデータベース化を行い、利用者の便を図る。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	主任研究員　二神葉子

【スタッフ】
清水真一、稲葉信子、岡田健、山内和也、朽津信明（以上、文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】
1　資料の収集とデータベース化
今年度はインド、インドネシア、中国などの文化財に関する資料及び世界遺産、保存科学、文化財保護制度などに関する書籍 900 点（和漢書 273 点、洋書 627 点）、雑誌 590 点の資料を収集し、データベース化した。また、関野克・元東京文化財研究所長旧蔵資料約 300 点を受け入れた。

2　『国際資料室蔵書目録』の作成
2008（平成 20）年 3 月に、今年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した 900 点（和漢書 273 点、洋書 627 点）の資料、及び国際資料室で所蔵する雑誌 414 種類を掲載した『国際資料室蔵書目録』を発行した。

【実績値】
目録作成数　1 件（①）

【備考】
①『国際資料室蔵書目録』　08.3　152p

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２１４

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	目録作成数					
判定	A					
備考						

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	調査研究業務に必要な資料を効率的に多数収集し、データベース化している。内容は外国の調査地で収集した資料や、文化財保護制度に関する外国語文献など独創的である。次年度以降も、本センターの他事業との連携をいっそう強化し、資料の収集を実施する。

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	資料の収集は例年の実績を堅持し、順調に実施することができた。今後も、書籍に限定せず会議資料や機関のパンフレット、地図など、多様な資料の充実に努めたい。

【書式B】
（様式1）

No. ２２１５

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ6（1））	文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。

【事業名称】	文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（Ⅰ６（1）②）

【事業概要】
世界各地の文化財およびその保存修復に関する情報を収集・整理し、調査研究に活用するとともに、関連分野の専門家に対して効果的に発信していくことを目的にデータベースを作成する。
また、文化遺産国際協力センターでこれまでに実施してきた事業の成果をデータベース化して公開する。
さらに、ウェブサイトを利用してセンターの事業について広報を行う。

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	主任研究員　二神葉子

【スタッフ】
清水真一、稲葉信子、岡田健、山内和也、朽津信明（以上、文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】
1　情報の収集とデータベース化
平成 13 年度から収集を行っている世界各国の文化財保護に関連する法令について、引き続き法令を収集するとともに、日本の文化財保護法で用いられている分類を手がかりとして、昨年度に引き続き各国の法令が対象とする文化財による分類を行い、データベース化を実施している。
また、今年度は平成 13 年度に引き続き、本研究所所長などを務められ、日本の文化財保護行政に深く関わられた関野克氏旧蔵資料約 300 点を博物館明治村から受け入れ、整理・分類の上データベース化した。この成果は、「関野克資料目録　2」として印刷・出版した。
さらに、今年度はアフガニスタンについて、カーブルからバーミヤーンにかけての地域の衛星画像（CORONA、Quickbird および ALOS）を収集した。
2　情報の発信
これまでに和訳した世界各国の文化財保護に関連した法令の条文について PDF 化を行い、ウェブサイトに公開している。さらに、文化遺産国際協力センターが遺跡保存に関する現地機関との共同研究を行っているカンボジアの、文化財保護に関する法令を網羅的に収集、和訳し、「文化財保護関連法令集　カンボジア」として印刷・出版した。さらに、当センターの活動について紹介するパンフレットを作成した。このほか、文化遺産国際協力センターのウェブサイトで、最新の出版物の目次やプレスリリース等を掲載することで、研究成果を公開している。

【実績値】
報告書作成数　2件（①, ②）
データベース作成数　1件
パンフレット作成数　1件（③）

【備考】
①「文化財保護関連法令集　カンボジア」08.03　95p
②「関野克資料目録　2」08.02　35p
③「Japan Center for International Cooperation in Conservation」（英語版パンフレット）08.03

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２１５

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	独創性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	出版物作成数	データベース作成数				
判定	A	A				
備考						

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存修復国際協力に関する関野克資料の収集・データベース化や、文化財保護に関する法令の収集・翻訳、さらに出版は他に例がない事業であり独創的であり、当該分野への貢献度を高く評価するものである。また、研究成果の発信も速やかに実施している。これらの事業を来年度以降も引き続き行っていく。

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	文化財保存修復および国際協力に関する資料の蓄積、および本センターの調査研究成果の発信を順調に実施することができた。次年度以降も当該年度の水準を維持し、文化財保護関連法令集のシリーズ化など、いっそうの資料収集・整理、成果発信を実施していきたい。

【書式B】
（様式1）

No. ２２１６

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ 6 (1)）	文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてデータベースの充実を図る。

【事業名称】	文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実（Ⅰ 6（1）③）

【事業概要】
文化財に関する資料・図書を計画的に収集・整理し、外部の研究者および一般の利用者に積極的に公開・提供するための方策を検討し、実施する。

【担当部課】	管理部文化財情報課	【事業責任者】	課長　山田 耕一

【スタッフ】
太田 仁 ほか 5名

【年度実績概要】
遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集・整理を行った。また、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。
図書館システムを導入するとともに、本庁舎をはじめ、藤原地区・飛鳥資料館にも自動寄出返却装置を設置して利用の便宜を図り、さらに所外への目録(OPAC)では、これまで公開を控えていた分野の所蔵情報も公開し、一般利用者へのサービスを向上させた。

【実績値】

平成19年度受入資料数		目録所在情報		利用者サービス	
購入図書	2,986 冊	目録所在情報収録件数	307,275 件	一般利用者数	352 人
寄贈図書	11,162 冊	目録所在情報公開件数	297,783 件	一般利用者利用冊数	2,835 冊
写真資料	4,829 点			直接来館者複写件数	764 件
				ILL による複写件数	618 件

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２１６

1．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性	独創性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：文化財関係資料の所外への公開
効率性：図書館システム導入による貸出処理の簡素化
継続性：資料の継続的収集、公開
独創性：文化財関係資料を重点的に収集

2．定量的評価

観点	資料・図書の受入数	目録所在情報作成件数	資料閲覧室等の利用者数			
判定	A	A	A			

備考

・平成18年度受入資料数	・目録所在情報作成件数 8,565 件	・一般利用者利用冊数 1,129 冊
購入図書 1,905 冊	・目録所在情報公開件数 325,243 件	・直接来館者複写件数 775 件
寄贈図書 10,589 冊	・目録所在情報収録件数 325,243 件	・ILLによる複写件数 401 件
写真資料 15,177 点	・一般利用者数 220 人	

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	図書館システムを導入することにより公開性・効率性が向上し、また文化財に関する資料の継続的収集についてもこれまで通り収集できている。あわせて、利用者数・利用冊数・複写件数ともに増加が認められる。これらの結果を総合的に判断して、Aと評価した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	資料・図書の収集・整理については、寄贈資料の比重が高いため多少の変動が生じるのは止むを得ぬところであるが、一定の水準は確保できたと考える。一方、利用者数と所外からの複写依頼は著しく増加しているので、順調と判断した。

【書式B】
（様式1）

No. ２２１７

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ６（１））	文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推 進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてデータベースの充実を図る。

【事業名称】	文化財情報電子化の研究に基づき、データベースの充実（Ⅰ６(１)④）

【事業概要】
文化財情報の電子化及びシステムの構築に関する研究を行い、文化財の特性に対応したシステムによるデータベースの構築を継続、データの拡充を行う。一般に公開するデータベースへとデータを提供するとともに、内部の業務用データベースのデータ拡充もあわせて行う。

【担当部課】	企画調整部	【事業責任者】	文化財情報研究室長　森本晋

【スタッフ】

【年度実績概要】
文化財情報の電子化及びシステム構築については、研究会等においてそれらの研究成果を公表するとともに、所外の研究状況 について情報を収集し、今後のシステム構築、改良等の検討材料とした。10月には地理情報システム学会大会において「遺跡情報モデルを対象とした地理情報応用スキーマの実装」と題して、遺構情報の分析に関する研究成果を発表した。
また、11月に第12回となる遺跡GIS研究会を開催し、セル・オートマトン、博物館資料の情報モデル、デジタル測量調査、インタラクティブなヴァーチャル・リアリティについて研究発表が行われた。
文化財情報の電子化として、全文、木簡、図書、抄録、写真、遺跡、航空写真等の各データベースにおいて、データの更新ならびに追加入力を行い、データの充実に努めた。また、業務用のデータベースについては、各担当で作成したデータの追加を行った。
なお、データベースへの入力に際しては、事前のデータ整理が必要である。本年度も個々のデータについて広い範囲の文献や参考書目等の調査を行いながらデータの拡充を行った。
写真データベースの基礎となる写真の電子化に関しては、35mm、ブローニ、4×5、8×10、ガラス乾板、奈文研が発注した空中写真について電子化を継続した。航空写真データベースにおいては、入力の基礎となる原フィルムからのマイクロフィルム作成、マイクロフィルムからの電子画像の作成を継続して行った。

【実績値】
データベースの件数　平成19年度末　（　）内は平成18年度末の値
全文119,648（41,820）、木簡152,352（150,243）、図書298,341（325,009）、抄録49,476（43,829）、写真180,204（160,020）、遺跡383,816（363,876）、航空写真1,130,890（1,103,718）

【備考】
地理情報システム学会第16回研究発表大会
第12回遺跡GIS研究会

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２１７

1．定性的評価

観点	継続性	正確性	独創性	発展性	適時性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	総じて事業は順調かつ効率的に進捗していることから総合評価をAにした。

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各データベースにおいて、着実にデータの充実が進んでいる。システムの改良を行いつつ、新規入力のみならず、既存データの更新も推進し、全体として当初計画通り進捗しているので、順調と判定した。

【書式B】
（様式1）

No. ２２１８

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ６（2））	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成17年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【事業名称】	『東京文化財研究所年報』・『東京文化財研究所概要』・『東文研ニュース』の刊行（Ⅰ６（2）①）

【事業概要】
『年報』『概要』『ニュース』など広報三誌の編集・刊行は、研究所が進める広報活動の中核に位置づけられる。それらの目的は、媒体に応じて、調査・研究、国際協力の推進、調査研究成果の発信、協力・助言など、研究所が担うさまざまな活動を、対外向けに情報発信することにある。またそれらのデータはホームページ上でもPDFファイル形式でも配信されている。

【担当部課】	企画情報部	【事業責任者】	情報システム研究室長　勝木言一郎

【スタッフ】
中野照男，山梨絵美子，塩谷純，田中淳，津田徹英，綿田稔，皿井舞，江村知子、城野誠治，中村節子，中村明子，井上さやか，鳥光美佳子
（以上、企画情報部）

【年度実績概要】

1．『年報』2006年度版の刊行

2006年度が第2期中期計画第1年に当たることにあわせ、『年報』の装丁を改めた。その構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。

2．『概要』2007年度版の刊行

2007年度の組織改編に伴い、『概要』の構成を、組織、職員一覧、各部・センターの紹介、研修・助言・指導、大学院教育・公開講座、情報発信、刊行物、資料に改めた。またその文章は従来通り、日英2カ国語併記とし、図版を多用した。

3．『東文研ニュース』の刊行

研究所の研究活動のうち速報性と公共性の高い記事、文化財の研究方法や研究所の歴史などを一般向けに解説したコラム、そして刊行物の案内などを四半期ごとに掲載した。また、『東文研ニュースダイジェスト』（『ニュース』英語版）を刊行し、海外の読者向けに情報発信を進めた。平成19年度の実績は下記の通りである。

No.29　全16頁　記事18件　図版18件　コラム2件　　No.30　全16頁　記事20件　図版23件　コラム2件
No.31　全16頁　記事24件　図版18件　コラム2件　　No.32　全20頁　記事21件　図版32件　コラム2件
TOBUNKENNEWS DIGEST　全16頁

4．『所蔵目録』の刊行

蔵書目録データ17,412件の入力・校正を行い、『東京文化財研究所所蔵目録7　外国語雑誌編』を刊行した。
収録内容は、欧文439種、中文130種、韓文41種である。

【実績値】
刊行物数　『東京文化財研究所年報』2006年度版　1,000部（①）
『東京文化財研究所概要』2007年度版　4,000部（②）
『東文研ニュース』第29号・第30号・第31号・第32号　3,000部（③-⑥）
『東京文化財研究所所蔵目録7　外国語雑誌編』（⑦）

【備考】
①『東京文化財研究所年報』2006年度版　2007年5月31日発行
②『東京文化財研究所概要』2007年度版
③『東文研ニュース』第29号　2007年5月31日発行
④『東文研ニュース』第30号　2007年8月31日発行
⑤『東文研ニュース』第31号　2007年11月30日発行
⑥『東文研ニュース』第32号　2008年2月28日発行
⑦『東京文化財研究所所蔵目録7　外国語雑誌編』

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２２１８

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	刊行物数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『年報』『概要』『ニュース』の刊行に際し、いずれも紙面の内容を見直し、その充実を図った。またそれらの配布先を検討したほか、一般向けへの配布を拡大した。こうした結果、広報企画事業の適時性、独創性、発展性、効率性、継続性、正確性が改善された。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	『年報』『概要』『ニュース』の刊行に際し、いずれも紙面の内容を見直し、その充実を図ったこと、そしてそれらの配布先を検討したほか、一般向けへの配布を拡大したことから、東京文化財研究所における広報活動の事業展開が拡充された。こうした実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると判断した。

【書式B】
（様式1）

No. ２２１９

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ６（2））	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成 17 年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【事業名称】	『平成 18 年版　日本美術年鑑』・『美術研究』の刊行（Ⅰ６（2）①）

【事業概要】
各年の美術活動と美術研究、批評の状況を記録するために、昭和 11 年以来刊行を続けている「日本美術年鑑」を年 1 冊刊行するとともに、昭和 7 年 1 月以来、日本・東洋の古美術、日本の近代・現代美術等に関わる研究論文・図版解説・書評、展覧会評、研究資料、研究ノート等を掲載する「美術研究」を年 3 冊刊行する。

【担当部課】	企画情報部	【事業責任者】	近・現代視覚芸術研究室長　田中淳

【スタッフ】
中野照男、田中淳、山梨絵美子、勝木言一郎、津田徹英、塩谷純、綿田稔、皿井舞、江村知子（以上、企画情報部）、相澤正彦、青木茂（以上、企画情報部客員研究員）

【年度実績概要】
①『平成 18 年版　日本美術年鑑』
2005（平成 17）年美術界年史、美術展覧会（企画展、作家展、団体展）、美術文献目録（定期刊行物所載文献、美術展覧会図録所載文献（企画展、作家展））、物故者
②『美術研究』392 号
（論　　文）皿井舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（上）」
（論　　文）江村知子「根生いの分限、絵描きへの道―尾形光琳を取り巻く環境と作品制作について―」
（論　　文）塩谷純「川端玉章の研究（一）」
（論　　文）蔵屋美香「絵画の下半身―一八九〇年～一九四五年の裸体画問題―」
（展覧会評）戸田禎佑「浦上玉堂展」
③『美術研究』393 号
（論　　文）勝木言一郎「古代の日本における阿弥陀浄土図の受容とその位相―法隆寺金堂壁画第六号壁と当麻曼荼羅をめぐる受容の本質とその言説の形成を中心に―」
（論　　文）皿井舞「醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（中）」
（論　　文）綿田稔「自牧宗湛（上）」
（展覧会評）田中淳「昭和前期をめぐる三人の画家たち―小島善三郎・鶴岡政男・靉光―」
（書　　評）津田徹英「根立研介『日本中世の仏師と社会―運慶と慶派・七条仏師を中心に―』」
④『美術研究』394 号
（論　　文）綿田稔「自牧宗湛（中）」
（論　　文）相澤正彦「土佐光吉と大画面絵画」
（論　　文）張辰城（石附啓子訳）「朝鮮後期古董書画収集熱の性格―金弘道の《布衣風流図》と《士人肖像》に対する検討―」
（研究資料）江村知子「土佐光吉筆「曽我物語図屏風」について」

【実績値】
『日本美術年鑑』刊行数　1点　（①）
『美術研究』刊行数　　3点　（②～④）

【備考】
①『平成 18 年版　日本美術年鑑』東京文化財研究所　08.3
②『美術研究』392 号　東京文化財研究所　07.9、　③　『美術研究』393 号　08.1、　④　『美術研究』394 号　08.3

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２１９

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	正確性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	刊行物件数	配布部数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	広く文化財、美術史研究の情報を調査収集、データ化した『日本美術年鑑』は、計画通り刊行できた。しかし、情報量の増大にともなう編集作業の増大は、情報のより精査が必要になっている点、及び編集作業の効率化を次年度にむけた改善点としてあげたい。また、『美術研究』においては、研究論文だけではなく、書評、展覧会評、研究ノートなど、将来の研究成果を見据えた萌芽的な研究をも掲載するようにしたことなどで、各号が質量ともに充実する傾向にあることを評価したい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画にあげた実施状況は、順調である。『日本美術年鑑』については、情報の調査収集と編集作業の効率化にむけて、あらためて問題点を改善し、次年度にむけて改善したいと考えている。

【書式B】
（様式1）

No. ２２２０

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ６（2））	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成 17 年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画の年度平均以上確保する。

【事業名称】	『無形文化遺産研究報告』・『無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行（Ⅰ６（2）①）

【事業概要】
無形文化遺産部スタッフによる業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』及び民俗文化財保護行政担当者、無形民俗文化財保存関係者、研究者の参加を得て開催する無形民俗文化財研究協議会の事例報告・総合討議を内容とする『無形民俗文化財研究協議会報告書』を刊行する。

【担当部課】	無形文化遺産部	【事業責任者】	部長　宮田繁幸

【スタッフ】
高桑いづみ、飯島満、俵木悟、鎌倉惠子（以上、無形文化遺産部）
大島暁雄、深津（福岡）裕子、森下愛子、服部比呂美（以上　客員研究員）
埋忠美沙（アシスタント）

【年度実績概要】
『無形文化遺産研究報告』第２号は以下の内容で刊行し、関係者に配布した。
「無形文化遺産保護における国際的枠組み形成２」宮田繁幸、「「土型」の保存とその公開について―伝統的陶芸芸術の公開と普及の方法―」森下愛子、「染織工芸技術の変遷―葛布の製作技法と用途を事例として―」深津裕子、「国立音楽大学附属図書館寄贈　竹内道敬旧蔵音盤目録（2）」飯島満、「東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵　歌舞伎舞台写真目録―昭和―」梅忠美沙、「世阿弥自筆本の節付けを考える―「難波梅」から「盛久」・「江口」まで―」高桑いづみ、「庄内地方における雛祭りの飾り物―雛菓子と押絵雛菓子―」服部比呂美、「無形民俗文化財の「変化」を考える―特に文化財指定との関係で―」大島暁雄、「〔聞書き〕人形浄瑠璃文楽の裏方―囃子の世界を中心に―」鎌倉惠子
『第２回無形民俗文化財研究協議会報告書』は以下の内容で刊行し、関係者に配布した。
テーマ「市町村合併と無形民俗文化財の保護」：
Ⅰ序にかえて
Ⅱ趣旨説明
Ⅲ報告
1 木村弘樹「市町村合併による民俗芸能の保護と継承―相模原市内の一人立ち三匹獅子舞を中心に―」
2 千田和文「市町村合併と保存会活動―盛岡市の事例を中心に―」
3 寺田昭士「町村合併と無形民俗文化財の保存と活用―とくに学校教育において―」
4 戸田剛「市町村合併と民俗芸能の伝承―「合併から政令市へ」浜松市を例に―」
5 須田弘宗「市町村合併が綾子舞の保存振興に与えた影響」
Ⅳ総合討議
Ⅴ参考資料
Ⅵアンケート集計結果
Ⅶあとがき

【実績値】
刊行数　　2件　（1）
配布部数　1014 部（『無形文化遺産研究報告』594 部、『無形民俗文化財研究協議会報告書』420 部）（2）

【備考】
1　『無形文化遺産研究報告』08.03・『無形民俗文化財研究協議会報告書』08.03
2　配布先リスト

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２２２０

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	刊行数					
判定	A					
備考						

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	『無形文化遺産研究報告』：昨年度より、報告書名を『芸能の科学』から左記に改め、第2号を刊行した。誌名の変更からも明らかなように、対象を芸能に限定することなく、無形の文化財全般に広げることとなった。本号においても、無形の文化財に関する論考や報告、資料紹介等々に加え、海外での無形文化遺産保護に関わる動向をも含まれており、幅広い内容の報告書となった。本誌は、将来の無形文化遺産全般の保護行政や研究に資する報告書となることをめざしているが、その目的に適うものとなっている。 『無形民俗文化財研究協議会報告書』：当研究所でおこなった無形民俗文化財に関する研究協議会の報告書で、会場での研究報告や総合討議の様相を掲載したものである。今後もこれまでの研究を踏まえながら、協議会をおこない、報告書の刊行を見る予定である。 以上を総合的に判断して、Aと判定した。

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	両誌ともに、年度当初の計画通り、年1回の刊行がなされており、目的を順調に達成した。今後もこのペースの維持をめざす。そして「無形文化遺産研究報告」は、内外の無形文化遺産保護行政担当者や研究者の要望を視野に入れた研究誌として、内容の充実を図ることとする。「無形文化財研究協議会報告書」は、今後も協議会の内容を掲載するものとして、刊行を続けてゆくこととなる。

【書式B】
（様式1）

No. ２２２１

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ６（２））	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成１７年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【事業名称】	『保存科学』 ４７号の出版（Ⅰ６（２）①）

【事業概要】
保存修復科学センター・文化遺産国際協力センターで行われた文化財の保存・修復に関する調査・研究に基づく資料の作成・公開を目的とし、年１回研究論文集『保存科学』を刊行する。様々な文化財の科学的調査結果や基礎研究に関する論文、受託研究に関する研究報告・修復処置概報などの活動報告を掲載する。また、より一層の研究成果の公開につとめるため、『保存科学』掲載論文の電子化（画像ファイル化）を行い、最終的にインターネット上での全文掲載による公開を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　　石﨑　武志

【スタッフ】
川野邊渉（保存修復科学センター副センター長）、清水真一（文化遺産国際協力センター長）、木川りか（編集担当）

【年度実績概要】
保存修復科学センター長、副センター長、文化遺産国際協力センター長、東京国立博物館文化財部保存修復課長・神庭信幸氏、東京藝術大学大学院美術研究科教授・稲葉政満氏の５名からなる編集委員会によって編集を行った。
平成 19 年度は、25 件の研究論文・報告を掲載した『保存科学』第 47 号を発行した。論文題目を以下に記す。

1. 高松塚古墳石室解体時の壁画保存のための温湿度環境の制御
2. Moisture Characteristic Curves of Tuff Breccia Stone
3. 高松塚古墳発掘・石室解体作業に伴う取合部・断熱覆屋使用木材等の防カビ対策：ＤＤＡＣの検討と施工
4. 蛍光Ｘ線分析による国宝吉祥天像の彩色材料調査
5. 桃山文化期の輸入漆塗装の流通と使用に関する調査
6. 元興寺五重小塔の外観塗装材料に関する調査
7. 石水博物館千歳文庫内の温湿度解析
8. バーミヤーン仏教壁画の材質分析(3)－ガスクロマトグラフィ／質量分析法を使用した有機物の分析：Ｂ(d)窟－
9. 敦煌莫高窟第 285 窟壁画に使用された彩色材料の非接触分析
10. 敦煌莫高窟第 53 窟の窟内環境－温湿度実測調査と気流解析－
11. カンボジア・タ・ネイ遺跡における蘚苔類の繁茂と砂岩の風化
12. 高松塚古墳発掘・解体作業に伴う生物調査の概要について
13. キトラ古墳の微生物等の状況報告(2007)
14. キトラ古墳保護覆屋内の環境について(3)－カビ点検報告記録の解析－
15. ガス電子増幅フォイルを用いた文化財のＸ線透過撮影のための検出器の開発Ⅱ
16. 文化財の透過Ｘ線撮影における蛍光増感スクリーンの特性
17. ファイバー送受光型分光光度計による平面文化財資料の反射スペクトル測定における誤差に関する考察
18. コンクリート壁面における付着真菌の累積挙動
19. 静岡県立美術館における温熱環境の測定Ⅱ
20. 文化財保護施設におけるジクロロボス蒸散殺虫剤の使用について
21. 重要文化財八窓庵中柱の修復
22. バーミヤーン仏教壁画の保存修復(3)－Ⅰ窟およびＮ(a)窟における保存修復
23. 我が国の文化遺産国際協力事業の動向－財源別に整理した事業実績の集計－
24. 展示公開施設の館内環境調査報告－平成 18 年度－
25. 25 年目を迎える保存担当学芸員研修

【実績値】
刊行物刊行数　　1 件
印刷部数　700 部：　　配布部数　　585 部

【備考】
1. 『保存科学』第 47 号、08.3
2. 配布先リスト

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２２１

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	発行部数	刊行数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	論文、報告数は25件、全ページ数261ページとなり、多くの報文、報告を掲載できた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	論文、報告の査読および出版作業を順調に行うことができた。

【書式B】
（様式1）

No. ２２２２

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ６（２））	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成 17 年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画の年度平均以上確保する。

【事業名称】	第３０回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書の刊行（Ⅰ６（２）①）

【事業概要】
東京文化財研究所では昭和 52 年から文化財の保存・修復に関する国際研究集会を行っている。平成 18 年は無形文化遺産部が担当し、「無形文化遺産の保護―国際的協力と日本の役割―」と題して 2 月 14 日から 3 日間行った。平成 19 年度はその報告書を刊行する。

【担当部局】	無形文化遺産部	【事業責任者】	部長　宮田繁幸

【スタッフ】
鎌倉惠子、高桑いづみ、飯島満、俵木悟（以上無形文化遺産部）

【年度実績概要】
下記の内容の報告書を刊行した。

刊行に当たって　鈴木規夫（東京文化財研究所）

基調講演

1　日本の無形文化遺産保護と無形文化遺産保護条約　宮田繁幸（東京文化財研究所）

2　ユネスコ無形文化遺産保護条約　―その採択（2003）から第１回政府間委員会開催（2006.11）まで　愛川紀子（ユネスコ）

セッションⅠ：各国の無形文化遺産保護の現状と課題Ⅰ

中国の無形文化遺産保護の国際的重要性　白庚勝（中国・中国民間文芸家協会）

日本の無形文化遺産―古典芸能の伝承と将来　飯島満（東京文化財研究所）

セッションⅡ：各国の無形文化遺産保護の現状と課題Ⅱ

無形文化遺産の保護と人間文化財：経験と挑戦　イム・ドンヒ（韓国・東国大学）

日本における『無形文化財』の保護の現状と課題―工芸技術を中心として―　佐々木正直（文化庁伝統文化課）

インドネシアの無形文化遺産の保護：システム、計画、活動と問題　ガウラ・マンチャチャリタディプラ（インドネシア・文化専門家）

セッションⅢ：各国の無形文化遺産保護の現状と課題Ⅲ

日本の無形民俗文化財の保護　菊池健策（文化庁伝統文化課）

フィリピン：無形文化遺産の保護について　ヘスス・ペラルタ（フィリピン・国家文化芸術委員会）

近年のヴェトナムにおける無形文化遺産の保護とコミュニティの関与　グウェン・キム・ズン（ヴェトナム・文化情報省文化遺産部）

セッションⅣ：国際的協力における日本の経験

伝統芸能の保護と映像記録の役割　福岡正太（国立民族学博物館）

無形文化遺産とコミュニティのキャパシティビルディング　大貫美佐子（財団法人ユネスコ・アジア文化センター）

東京文化財研究所の無形文化遺産保護のための取り組み　俵木悟（東京文化財研究所）

【参考資料】討論・シンポジウムプログラム・発表者一覧・組織委員会メンバー・無形文化遺産条約全文

【実績値】
報告書刊行数　1 件
配布部数　561 件

【備考】
1　第 30 回文化財の保存・修復に関する国際研究集会　「無形文化遺産の保護―国際的協力と日本の役割―」　08.03
2　配布先リスト

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２２２２

1．定性的評価

観点	適時性	発展性				
判定	A	A				
備考						

2．定量的評価

観点	報告書刊行数	配布件数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	事業の結果を総合的に評価し、Aと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り進捗した。

【書式B】
（様式1）

No. ２２２３

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ６（2））	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成１７年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の説明・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【事業名称】	研究報告書、年報、研究論文集、図録等の刊行(Ⅰ６（2）①)

【事業概要】
研究報告書、紀要、研究論文集、図録等の刊行

【担当部課】	奈良文化財研究所	【事業責任者】	所長　田辺征夫

【スタッフ】

【年度実績概要】
(紀要等)『奈良文化財研究所紀要 2007』2007 年 6 月、3,000 部
『奈良文化財研究所概要』2007 年 6 月、4,500 部
(ニュース)『奈文研ニュース』No.25 号、2007 年 6 月、3,000 部、『奈文研ニュース』No.26 号、2007 年 9 月、3,000 部
『奈文研ニュース』No.27 号、2007 年 12 月、3,000 部、『奈文研ニュース』No.28 号、2008 年 3 月、3,000 部
『埋蔵文化財ニュース』130 号(宮中儀礼の再現・復興による文化遺産の活用)、2008 年 3 月、3,200 部、『埋蔵文化財ニュース』131 号(高松塚古墳)、2008 年 3 月、3,500 部、『埋蔵文化財ニュース』132 号(台帳の利活用法と土器の洗浄法)、2008 年 3 月、3,500 部、『埋蔵文化財ニュース』133(2006 年度埋蔵文化財関係統計資料)号、2008 年 3 月、3,500 部
(研究報告書、研究論文集等)
『平安時代庭園に関する研究 1』2007 年 10 月、300 部
『古代豪族居宅の構造と機能』2007 年 12 月、1,000 部
『遺跡の教育面に関する活用―平成 18 年度遺跡整備・活用研究集会(第 1 回)報告書―』2008 年、1 月、600 部
『高知県中芸地区森林鉄道遺産調査報告書』(編集：奈良文化財研究所　発行中芸地区森林鉄道を保存・活用する会)、2008 年 3 月、500 部
『遺跡整備調査報告―管理運営体制および整備活用手法に関する類例調査―』2008 年 3 月、1,000 部
『日韓文化財論集Ⅰ』(奈良文化財研究所学報第 77 冊)2008 年 3 月、600 部
(史料等)『重要文化財建造物現状変更説明 1968―1970(本文編)』2007 年 8 月、500 部
『重要文化財建造物現状変更説明 1968―1970(図版編)』2007 年 8 月、500 部
『重要文化財建造物現状変更説明　1965―1967(本文編)』2008 年 2 月、500 部
『重要文化財建造物現状変更説明　1965―1967(編)図版』2008 年 2 月、500 部
『飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報(二十一)』2007 年 11 月、1,200 部
『平城宮発掘調査出土木簡概報(三十八)』2007 年 11 月、1,000 部
(図録、カタログ等)
『キトラ古墳壁画四神玄武』(飛鳥資料館図録第 46 冊)2007 年 3 月、4,000 部
『重要文化財指定記念　奇偉荘厳　山田寺』(飛鳥資料館図録第 47 冊)2007 年 10 月、4,000 部
『地下の正倉院展―平城宮木簡の世界―』2007 年 10 月、10,000 部、
『「とき」を撮す―発掘調査と写真―』(飛鳥資料館カタログ第 18 冊) 2007 年 7 月、2,000 部
『飛鳥の考古学 2007』(飛鳥資料館カタログ第 19 冊) 2008 年 1 月、2,000 部
(パンフレット)
『平城宮跡東院地区中枢部の調査　平城第 421 次調査』2007 年 9 月、2,000 部
『平城宮跡東院地区中枢部の調査　平城第 423 次調査』2008 年 1 月、2,000 部
『藤原宮大極殿院南門の調査(飛鳥藤原 148 次調査現地説明会資料』2007 年 9 月、7,000 部
『石神遺跡の調査　石神遺跡第 20 次調査現地説明会資料』2007 年 12 月、3,000 部
『甘樫丘東麓遺跡　(飛鳥藤原第 151 次)現地説明会資料』2008 年 3 月、7,000 部

【実績値】
新聞、雑誌等への寄稿および資料提供数、2,886 件

【備考】

（様式２）

自己点検評価調書

№. ２２２３

１．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：調査研究の実施状況
継続性：紀要、ニュース等の継続発行
正確性：調査報告書の調査データ

２．定量的評価

観点	紀要等刊行数	研究報告書、研究論文集刊行数	図録、史料等の刊行数	新聞、雑誌等への寄稿および情報提供数		
判定	A	A	A	A		

備考

３．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年次ごとの調査研究事業の報告である紀要等２点、ニュース２種(８点)、研究報告書・研究論文集７点、史料等６点、展示図録・カタログ５種点、パンフレット５点、合計３２点を刊行でき、研究成果を順調に刊行できたことで、Ａと判定した。次年度も、本年度にまして、多様な研究成果、特に継続的な調査研究の成果を、専門家だけでなく、一般向けにも分かりやすいような形で刊行できるように努力したい。

４．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	紀要、ニュース、研究報告書、研究論文集、図録、史料等の刊行は順調に実施している。

【書式B】
（様式1）

No. ２２２４

業務実績書

中期計画の項目（Ｉ６（２））	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成１７年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【事業名称】	第31回文化財の保存・修復に関する国際研究集会（Ｉ６（２）②）

【事業概要】
文化財はそれを取り巻く環境により様々な影響を受ける。ラスコー洞窟や高松塚古墳のカビ等発生の一つの要因は、壁画周囲の湿度が高かったことにある。これらの問題に対処するためには、劣化をひきおこす微生物への対策のみならず、周囲の温湿度や文化財に含まれる水分量など数多の環境要素の問題点を明確にすることが重要である。
今回の国際研究集会では、「文化財を取り巻く環境の調査と対策」をテーマに、様々な調査手法と評価法について、最新の研究成果をもとに討議し、文化財を取り巻く環境の調査と対策について詳細に検討する。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　石﨑　武志

【スタッフ】
佐野千絵、犬塚将英、吉田直人、木川りか、早川泰弘（以上、保存修復科学センター）、三浦定俊（副所長）

【年度実績概要】
海外から７名、国内から８名の研究者による講演があった（2008 年２月 5-7 日、於：地下セミナー室、参加者 74 名）。総合討議で、文化財保存のための経験交流や協力体制についての意見交換を行った。回収率 46 %、満足度 97 %。

環境変動と野外遺跡の成立と保存ー中国敦煌莫高窟を例としてー	福田正己（アメリカ、アラスカ大学）
ラスコー洞窟：その保存の困難さ	Isabelle Pallot-Frossard（フランス、歴史記念物研究所）
韓国百済王朝　武寧王陵の保存に関する地質工学的研究	徐　萬哲（韓国、国立公州大学）
高松塚古墳墳丘部の熱水分特性調査と冷却	石﨑武志
文化財保存計画策定のための環境計測	Vinod Daniel（オーストラリア、オーストラリア博物館）
ラスコー洞窟：微生物活動のモニタリング	Genevieve Orial（フランス、歴史記念物研究所）
高松塚古墳・キトラ古墳石室の微生物調査：漆喰壁画の生物劣化にかかわる原因究明の一里塚	杉山純多（東京大学名誉教授）木川りか
高松塚古墳の石室解体過程における温湿度環境の制御	小椋大輔（京都大学）犬塚将英
高松塚古墳墳丘部の原位置土質特性と安定解析	三村　衛（京都大学）
壁画／絵画の診断と保存のための非接触調査法	Mauro Bacci（イタリア、イタリア電磁気学研究所）
音波による石造文化財の劣化評価	高妻洋成（奈良文化財研究所）
フマユーン廟赤砂岩の物性に対する気象の影響とその解析	Rudolf Plagge（ドイツ、ドレスデン工科大学）
建造物部材でのカビ発生率の予測解析	John Grunewald（ドイツ、ドレスデン工科大学）/発表　Rudolf Plagge
ラスコー洞窟内の微気象変化とその解析	Delphine Lacanette（フランス、ボルドー大学）

【実績値】
海外から招聘の講演者８名（発表論文数９件）
国内から招聘の講演者７名（発表論文数５本）

【備考】
第３１回文化財の保存および修復に関する国際研究集会　ファーストサーキュラー、セカンドサーキュラー、プレプリント
ファーストサーキュラー配布先リスト
アンケート集計表

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２２４

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性	継続性	正確性	
判定	A	A	A	A	A	
備考						

2．定量的評価

観点	開催回数	印刷物数				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	高松塚古墳保存のための解体が終了した直後の非常に適時性の高いプログラムで、発表内容と網羅性について評価が高かった。発表件数、発表人数、招聘対象国の選定などいずれも適しており、今後の研究交流体制など発展性が高かった。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順　調	いずれも高い水準で実施でき、順調と判断した。

【書式B】
（様式1）

No. ２２２５

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ６（2））	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成17年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【事業名称】	平成19年度オープンレクチャー（Ⅰ６（2）②）

【事業概要】
美術史研究の成果を一般に公表することを目的とする。

【担当部課】	企画情報部	【事業責任者】	企画情報部長　中野照男

【スタッフ】
勝木言一郎、山梨絵美子、塩谷純、田中淳、津田徹英、綿田稔、皿井舞、江村知子（以上、企画情報部）

【年度実績概要】
企画情報部では、研究成果を広く公表するためにオープンレクチャーを毎年秋に開催しており、本年で41回目を迎えた。昨年度同様、今年度も金曜日と土曜日の午後、2日間連続で開講し、聴講者の便宜を図るように努めた。今回も昨年度に引き続き「人とモノの力学」をテーマに掲げた。個々の講演内容は以下の通りである。なお、この講座は、上野の山文化ゾーン連絡協議会が主催して毎年秋に開く「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムとしても企画されている。

今回は2日間でのべ276人の参加があり、参加者にアンケートを実施したところ、166人から回答を得た（回収率：60.1%）。結果は、「たいへん満足した」が105人、「概ね満足した」が60人、「不満が残った」が5人、したがって回答者の99%が満足感を得たことがわかった。

第1日目：2007年（平成19）11月2日（金）午後1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室
「光琳の目と手」　江村知子（東京文化財研究所）
「矢代幸雄の琳派観」中部義隆（大和文華館学芸部次長）

第2日目：2007年（平成19）11月3日（土）午後1:30～4:30、東京文化財研究所セミナー室
「矢代幸雄と美術研究所」　山梨絵美子（東京文化財研究所）
「黒田清輝のフランス体験―芸術家村グレーから黒田記念館へ」荒屋鋪透（ポーラ美術振興財団ポーラ美術館）

【実績値】
参加者数：276人
満足度　：99%（回収率60.1%）

【備考】
アンケート集計表

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２２５

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、時宜に適応しながら、公表することができ、その参加者数も満足度も目標値を満たしたので、Aと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当初の計画通り、進捗した。次年度以降も文化財に関する調査・研究に基づく成果・新発見を、公開講演というかたちで開催していきたい。

【書式B】
（様式１）

№. ２２２６

業務実績書

中期計画の項目 （I6 (2)）	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成１７年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【事業名称】	公開講演会、現地説明会等の開催（I6 (2) ②）

【事業概要】
文化財に関する調査・研究に基づく成果について、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。

【担当部課】	管理部文化財情報課、管理部業務課	【事業責任者】	文化財情報課長　山田耕一、業務課長　東博信

【スタッフ】
永井あつ子、桑原隆佳、今西康益、飯田信男、石田義則、井手真二

【年度実績概要】
Ⅰ．公開講演会等
１．第１００回公開講演会　　平成１９年6月１６日（土）　　参加者数　２３０人
演 題 ・ 講演者　「阿倍山田道と古代の道路」　　奈良文化財研究所長　田辺征夫
「西大寺伽藍に迫る－最新の発掘調査成果から－」　都城発掘調査部　林　正憲
「年輪年大学とデジタル画像」　埋蔵文化財センター　大河内隆之
ｱﾝｹｰﾄ結果＝回収数１５３人・回収率６６．５％：満足度A＝１５３人(100%)/B＝０人(0%)/C＝０人(0%)
２．第１０１回公開講演会　　平成１９年１０月２０日（土）　　参加者数　２２０人
演 題 ・ 講演者　「版築の話」　　奈良文化財研究所長　田辺征夫
「キトラ古墳壁画の保存」　埋蔵文化財センター　降幡順子
「文化遺産としての風景の保存」　文化遺産部　平澤　毅
ｱﾝｹｰﾄ結果＝回収数１５０人・回収率６８．２％：満足度A＝１４７人(98%)/B＝３人(2%)/C＝０人(0%)
３．飛鳥資料館特別講演会　　平成１９年１０月２８日（日）　　参加者数６０人
演 題 ・ 講演者　「山田寺の発掘調査と重要文化財指定」　　文化庁主任文化財調査官　土肥　孝
ｱﾝｹｰﾄ結果＝回収数４９人・回収率８１．７％：満足度A＝４８人(98%)/B＝０人(0%)/C＝１人(２%)
４．飛鳥資料館特別講演会　　平成１９年１１月３日（土）　　参加者数７４人
演 題 ・ 講演者　「山田寺の建築を再考する」　　元奈良国立文化財研究所長　鈴木嘉吉
ｱﾝｹｰﾄ結果＝回収数５８人・回収率７８．４％：満足度A＝５８人(100%)/B＝０人(0%)/C＝０人(0%)
Ⅱ．発掘調査現地説明会等
１．平城第４２１次(東院地区中枢部)発掘調査　　平成１９年9月１日（土）
参加者数　７５０人　報告者　山本　崇　調査面積　１，５６０㎡
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数２５２人・回収率３３．６%　満足度A＝１４５人(57.5%)／B＝１０２人(40.5%)／C＝５人(2.0%)
２．飛鳥藤原第１４８次(藤原宮大極殿院南門)発掘調査　　平成１９年9月８日（土）
参加者数　１，０７３人　報告者　高田　貫太、箱崎　和久　調査面積　１，５６０㎡
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数３０９人・回収率２８．８%　満足度A＝１７７人(57.3%) ／B＝１２７人(41.1%) ／C＝５人(1.6%)
３．飛鳥藤原第１５０次(石神遺跡第２０次)発掘調査　　平成１９年１２月１５日（土）
参加者数　８６７人　報告者　黒坂　貴裕　調査面積　約４００㎡
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数２０４人・回収率２３．５%　満足度A＝１１８人(57.8%) ／B＝８４人(41.2%) ／C＝２人(1.0%)
４．平城第４２３次(東院地区中枢部)発掘調査　　平成２０年1月１９日（土）
参加者数　８１９人　報告者　浅野　啓介　調査面積　１，３７９㎡
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数２３０人・回収率２８．1%　満足度A＝１４３人(62.2%) ／B＝８６人(37.4%) ／C＝１人(0.4%)
５．飛鳥藤原第１５１次（甘樫丘東麓遺跡）発掘調査　　平成２０年3月２９日（土）
参加者数　２，１００人　報告者　豊島　直博　調査面積　９５０㎡
６．平城第４２９次(東院朝堂院東方官衙地区)発掘調査　　平成２０年3月３０日（日）
参加者数　４５３人　報告者　今井　晃樹　調査面積　１，３１４㎡
ｱﾝｹｰﾄ結果=回収数９０人・回収率１９．９%　満足度A＝５３人(53.0%) ／B＝３７人(37.0%) ／C＝０人(0.0%)

【実績値】
Ⅰ 公開講演会等 年4回：参加者延数５８４人　回収数４１０人・回収率７０．２%：
A大変満足である：４０６人(99.0%)／Bおおむね満足である：３人(0.7%)／Cあまり満足でない：１人(0.3%)
Ⅱ 発掘調査現地説明会等　年6回：参加者延数６，０６２人　内ｱﾝｹｰﾄ実施回数5回：参加者延数３，９５２人　回収数１，０８５人　回収率２７．５%：
A大変満足である：６３６人（58.6%）／ Bおおむね満足である：４３６人（40.2%）／ Cあまり満足でない：１３人（1.2%）

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２２６

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：発掘調査等研究成果の適時適切な公開
独創性：公開内容の新規性及び卓越性
発展性：遺跡等の重要性の確認と社会への影響性
継続性：研究成果の継続的な社会復元

2．定量的評価

観点	開催回数	参加者数	参加者満足度			
判定	A	A	A			

備考
開催回数
公開講演会：年4回、現地説明会等：年6回
参加者数
公開講演会：年延３５０人以上、現地説明会：年延3，０００人以上
参加者満足度
現地説明会：８０%以上

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	公開講演会については、年4回実施し、発掘調査現地説明会等については、予定した回数を超える6回を実施し、いずれも多数の参加者があった。これらの参加者に対し行ったアンケートでは、公開講演会で９９．７%、発掘調査現地説明会等で９８．８%の「大変満足である」、「おおむね満足である」という結果を得ている。 これらの結果を総合的に判断して、Aと認めたものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	公開講演会、現地説明会等の開催事業は、開催回数、参加者数ともに、従来の水準を維持し、順調に実施できたと考える。 今後もこのペースを維持しつつ、調査研究の成果に基づく講演、現地説明会等の内容及び配付資料の充実、アンケート調査による参加者ニーズの把握等に力を注ぎ、さらに参加者数の増加と満足度の向上に努めたい。

【書式B】
（様式1）

No. ２２２７

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ６（２）	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成17年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【事業名称】	ホームページの運用（Ⅰ６（２）③）

【事業概要】
研究所の研究・業務などの広報活動の一環として、ホームページの運用を充実させる。

【担当部課】	企画情報部	【事業責任者】	情報システム研究室長　勝木言一郎

【スタッフ】
綿田稔，江村知子，中村明子（以上、企画情報部），横山隆史（管理部LAN委員），俵木悟（無形文化財部LAN委員），吉田直人，加藤雅人（以上、保存修復科学センターLAN委員），二神葉子（文化遺産国際協力センターLAN委員）

【年度実績概要】
１．ホームページの運用
東京文化財研究所のホームページは、研究所における情報発信機能の一翼を担う重要なメディアであり、また文化財研究のデジタル・アーカイブとしての役割を果たす。とくに平成19年度は、『活動報告』（日本語版・英語版）ページの新設、検索エンジンの導入、更新回数の増加など、ホームページの充実を図った。
平成19年度のホームページアクセス件数は1,526,409件に達し、平成18年度に比べ、約17万件増加した。

【実績値】
ホームページアクセス件数：1,526,409件

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２２７

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	正確性
判定	A	A	A	A	A	A
備考						

2．定量的評価

観点	ホームページアクセス件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ホームページの運用については、ホームページアクセス件数の飛躍的な増加が適時性、独創性、発展性、効率性、継続性、正確性の向上を裏付ける結果だと判断した。したがって実績の総合評価も十分な成果が認められると結論した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	ホームページの運用については、ホームページが研究所の広報活動の一翼を担うとともに、かつ文化財研究のデジタル・アーカイブとして多角的な情報発信を行ってきたことがホームページアクセス件数の飛躍的な増加に結びついた。こうした実績から、当年度における中期計画の実施状況は順調であると判断した。

【書式B】
（様式1）

No. ２２２８

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ6 (2)）	文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成 17 年度の実積以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【事業名称】	ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保（Ⅰ 6 (2) ③）

【事業概要】
研究所の事業・研究成果をはじめ、施設・案内など様々な広報をしているホームページであり、常に拡充を図っている。社会への広報の目安となるアクセス件数を把握し、より一層の情報提供に務めるものである。

【担当部課】	管理部文化財情報課	【事業責任者】	課長　山田耕一

【スタッフ】
太田 仁 ほか 1名

【年度実績概要】
今年度は新たな技術を導入することはなかったものの、サーバをダウンさせることもなく、安定して運用できた。その結果として、研究所として常に最新情報を公表し、現地説明会をはじめとする催しの集客に貢献した。
また、機関リポジトリを公開し、書籍以外での研究所業積の普及に努め、コンスタントに高いアクセス件数が維持できている。

【実績値】
アクセス件数： 923,466 件

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２２８

1．定性的評価

観点	適時性	効率性	継続性			
判定	A	A	A			

備考
適時性：データベースを含む文化財情報を公開、ホームページにより最新の文化財情報を提供
効率性：データベース及びホームページにより文化財情報への効率的なアクセスを提供
継続性：データベース及びホームページの情報を拡充

2．定量的評価

観点	アクセス件数					
判定	A					

備考
前中期計画中の平均ホームページアクセス件数： 368,000 件

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ホームページについては、安定した運用ができ、アクセス件数についても平均アクセス件数の倍以上のアクセスを得ることができているので、これらの結果を総合的に判断して A と評価した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	年度を通じて、安定してホームページを公開できた。今後も積極的に情報発信を続けたい。

【書式B】
（様式1）

No. ２２２９

業務実績書

中期計画の項目 （Ｉ６（3））	黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料館、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【事業名称】	黒田記念館における作品の展示公開（Ｉ６（3））

【事業概要】
当研究所は、黒田清輝の芸術を顕彰するために黒田記念館において作品や資料、研究成果を公開するとともに、地方文化の振興に資するために、昭和52年からの事業として「近代日本洋画の巨匠　黒田清輝」展を年1回地方において共催している。

【担当部課】	企画情報部	【事業責任者】	近現代視覚芸術研究室長　田中淳

【スタッフ】
中野照男、山梨絵美子、塩谷純、津田徹英、綿田稔、（以上、企画情報部）

【年度実績概要】
① 黒田記念館における作品の展示公開：毎週木・土曜日の午後1時から4時まで、無料で一般公開した。また「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の期間中、平成１９年１０月３０日から１１月４日まで、特別公開を行った。
総入館者数　13,707人（平成19年4月5日から平成20年3月29日まで）、公開日数：90日、一日平均：152人
② 平成20年2月22日から3月15日まで、来館者にアンケートを実施した。1,502人の来館者に対して、598人から回答を得た（来館者数の39.８%）。回答は、「満足した」及び「おおむね満足した」98.5%、「不満が残った」6人（0.4%）、その他であり、アンケート回答の98.５%が満足感を得たことになる。
③ 今年度は記念館2階の一室を会場に、「特集展示　写された黒田清輝」と題して、平成18年度に寄贈をうけた黒田清輝関係写真等から23点を選び、原寸大に複製した画像を展示公開した（会期：2007年11月15日から2008年5月17日まで）。
④ 平成19年度共催展
会場：平塚市美術館
会期：2007（平成19）年7月21日（土）から9月2日（日）
主催：東京国立博物館　東京文化財研究所　平塚市美術館
開催日数：38日　　入場者：12,746人
陳列点数：油彩・パステル画85点、素描62点、写生帖17冊、書簡4通、日記5冊、参考出品2点、記録写真16点（以上、黒田記念館所蔵作品）　その他油彩画1点、書簡1通を特別出品した。会期中の平成19年7月28日（土）、会場出口において来館者にアンケート調査を実施し、161人から回答を得た。（入館者数279人に対して、回収率57.７%）。満足度として「満足」、「おおむね満足」の回答が、100%をしめた。

【実績値】
黒田記念館入館者数：13,707人　　入館者の満足度：98.5%
共催展　　入場者数：12,746人　　入場者の満足度：100%

【備考】
黒田記念館　アンケート、同集計表
「特集陳列　写された黒田清輝」のための入館者配布用パンフレット
共催展　アンケート集計表

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２２２９

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	黒田記念館 入館者数	同館入館者 満足度	共催展入場者数	同入場者満足度		
判定	A	A	A	A		
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	黒田記念館における公開、共催展開催、いずれも評価できる内容であった。黒田記念館においては、今年度、特集陳列として「写された黒田清輝」を催した。これは、寄贈資料の公開と同時に、黒田清輝に関する調査研究、及び脆弱なオリジナル写真の保護を目的にした画像複製展示という新しい試みであり、高く評価できると考える。このような特集陳列を次年度においても試みたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	中期計画通り、進捗したと考える。次年度以降、作品等の資料の保存に留意しながら、公開を促進していきたい。

【書式B】
（様式1）

No. ２２３０

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ6(3)） （Ⅰ6(5)）	黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。 入館者については、前期中期計画の年度平均以上確保する。 奈良県の「平城遷都１３００年記念事業」に向け最新の調査・研究に基づく平城宮跡資料館の展示リニューアル、及び古代都城等に関する国際共同研究の成果の展示・公開について検討を始める。

【事業名称】	平城宮跡資料館における展示・公開(Ⅰ6(3)) (Ⅰ6(5))

【事業概要】
平城宮跡資料館において、常設展、速報展等を実施する。

【担当部課】	企画調整部	【事業責任者】	部長　岡村道雄

【スタッフ】
千田剛道、桑原隆佳

【年度実績概要】
展示：
平城宮跡資料館において、常設展、速報展等を開催した。常設展は通年開催し、速報展等は以下の 4 件開催した。
○特別企画展「地下の正倉院展―平城宮木簡の世界」(2007. 10.23～12.16)
重要文化財指定をうけた木簡を約 80 点を展示した。
○速報展「平城宮東方官衙の調査」(2007.6.1～7.1)
東方官衙地区の調査成果について、写真、図面、出土遺物を展示した。
○速報パネル展「西大寺薬師金堂の調査」(2007.8.7～9.14)
薬師金堂の調査成果を遺構の写真パネルを中心に展示した。
○速報展「平城宮跡東院地区中枢部の調査」(2007.11.13.～12.16)
東院官衙地区の発掘成果について、遺構写真、図面、出土遺物を展示した。
アンケート：
平城宮跡資料館において、入館者に対するアンケート調査をおこなった。
アンケート実施機関　2007 年 10 月 23 日(火)～12 月 16 日(日)
アンケート回収率

入館者数	回収数	回収率
14,849	825	5.56%

常設展に対する満足度

入館者数	回収数	回収率	満足度(普通以上)
14,849	825	5.56%	745(91.7%)

詳細：	とても良い	かなり良い	普通	あまり良くない	まったく良くない	無回答
	302(37%)	265(33%)	178(22%)	20(2.5%)	47(5.8%)	13(1.6%)

特別企画展「地下の正倉院展―平城宮木簡の世界―」に対する満足度

入館者数	回収数	回収率	満足度(普通以上)
14,849	825	5.56%	714(90.9%)

詳細：	とても良い	かなり良い	普通	あまり良くない	まったく良くない	無回答
	282(36%)	236(33%)	196(22%)	23(2.9%)	49(6.2%)	39(4.7%)

【実績値】

平成 19 年度の入館者数	入館者の満足度	公開日数	展示品貸し出し件数
85,486 人	91.7%	306 日	28 件

【備考】
展示に因んでカタログを作成した。
特別企画展『地下の正倉院展―平城宮木簡の世界』2007.10

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２３０

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	入館者数	入館者の満足度				
判定	A	A				
備考 年間目標入館者数 平城宮跡資料館　72,500 名						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展示内容および、速報展、特別企画展の実施などの順調な開催を評価し、A と判定した。 次年度においてもさらに、一般に分かりやすい展示をめざすとともに、速報展の一層の充実に努めたい。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	常設展、速報展ともに順調に実施できた。とくに速報展では、各発掘現場の調査成果を速報するようにつとめるという方針が軌道にのった。また、重要文化財指定をうけた平城宮木簡について、特別企画展として公開できたことも特筆される。 今後も調査研究の速報的な公開をめざして、努力したい。

【書式B】
（様式1）

№. ２２３１

業務実績書

中期計画の項目 （Ｉ６（３））	黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【事業名称】	飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催　（Ｉ６（３））

【事業概要】
特別展の実施：春期特別展「キトラ古墳壁画四神玄武」　2007年4月20日（金）～6月24日（日）
秋期特別展『奇偉荘厳　山田寺』　2007年10月19日（金）～11月25日（日）
企画展の実施：夏期企画展『ときを撮す』　2007年8月1日（水）～9月2日（日）
：冬期企画展『飛鳥の考古学２００７』　2008年1月4日～2月3日
巡回展：『絵で見る考古学』　2008年2月9日～3月2日
山田寺出土展示部材の経年変化の計測研究
アジア史の中の飛鳥文化の研究として飛鳥地方壁画古墳の研究
飛鳥時代の工芸技術の研究として飛鳥・奈良時代の金工品の研究

【担当部課】	飛鳥資料館	【事業責任者】	学芸室長：杉山洋

【スタッフ】
加藤真二、西田紀子

【年度実績概要】
春期特別展　「キトラ古墳壁画四神玄武」　2007年4月20日（金）～6月24日（日）
キトラ古墳壁画「玄武」特別公開　2007年5月11日（金）から27日（日）
玄武が特別公開されるのを記念して、古代における玄武の種々相を展示するよう計画した。
夏期企画展写真『ときを撮す』　2007年8月1日（水）～9月2日（日）
発掘調査に関連する写真資料を広くご紹介するため、このたび、飛鳥資料館では、奈良文化財研究所写真室でおこなう文化財写真業務の展覧会を企画した。
本企画展では、キトラ古墳や高松塚古墳の調査に用いた撮影機器の展示を交えつつ、当研究所が所蔵する写真資料についてご紹介した。
秋期特別展『奇偉荘厳　山田寺』　2007年10月19日（金）～11月25日（日）
山田寺後出土の遺物一括が平成19年度に新たに重要文化財に指定された。この新指定を記念して、これまで一堂に展示されることのなかった遺物を、できる限り多く展示するように試みた。さらに展示に当たっては当館第２展示室に復元した東回廊の中に順路を設け、回廊を通りながら出土部材を見学できるように考えた。
冬期企画展『飛鳥の考古学２００７』　2008年1月4日～2月3日
飛鳥において２００６年度中に発掘発見された注目すべき遺物遺構について展示を行った。
巡回展『絵で見る考古学』　2008年2月9日～3月2日
考古学イラストレーターとして著名な早川和子氏の作品展を開催した。

【実績値】
刊行図書　５冊
講演会　　６回

【備考】
刊行図書（５冊）「キトラ古墳壁画四神玄武」　飛鳥資料館図録第44冊　平成18年４月　「ときを撮す」　飛鳥資料館カタログ第18冊　平成18年８月　「奇異荘厳山田寺」飛鳥資料館図録第45冊　平成18年10月　「飛鳥の考古学2007」飛鳥資料館カタログ第19冊　平成20年１月
「延岡市教育委員会蔵鏡研究図録」飛鳥資料館研究図録第10冊　平成20年３月
講演会（５回）　「キトラ古墳壁画四神玄武」記念講演会　平成19年5月20日（日）奈良県立万葉文化館　企画展示室
白石太一郎氏（奈良大学教授）、川野邊渉氏（東京文化財研究所修復材料研究室長）
ギャラリートーク　8月18日（土）午後2時　井上直夫　中村一郎（奈良文化財研究所企画調整部写真室）
土肥　孝氏（文化庁主任文化財調査官）「山田寺の発掘調査と重要文化財指定」　10月28日（日）
鈴木嘉吉氏（元奈良文化財研究所所長）「山田寺の建築を再考する」11月3日（土）
ギャラリートーク　2月23日（土）午前11時・午後2時　２回　早川　和子氏　（イラストレーター）

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２３１

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	正確性			
判定	A	A	A			

備考
適時性…国民の文化財に関する適時的な興味への即応性
独創性…わかりやすい展示のための創意工夫
正確性…文化財の知識を正確な展示によって伝える

2．定量的評価

観点	論文等数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	展覧会を春夏秋冬の４回開催するとともに、巡回展も開催し、飛鳥の文化財を広く国民に開示するという目的を達成することができた。さらに定量的にも目標とする入館者数を大きく上回っている。こうした進捗状況を総合的に判定してAとした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	本年度の計画を当初の予定どおり遂行したことから、当事者は順調であると判定した。

【書式B】
（様式1）

No. ２２３２

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ６（3））	黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

【事業名称】	藤原宮跡資料室における展示公開　（Ⅰ６（3））

【事業概要】
都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）展示室において、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを実施し、展示公開の充実をはかる。

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長　巽淳一郎

【スタッフ】
松村恵司、村上　隆、豊島直博、廣瀬　覚、長谷川透、玉田芳英、小田裕樹、丹羽崇史、関広尚世、青木　敬、次山　淳、中川あや、高田貫太、石田由紀子、箱崎和久、黒坂貴裕、番　光、市　大樹、竹本　晃、井上直夫、岡田　愛

【年度実績概要】
藤原宮跡資料室では、常設展示を通年にわたり実施した。特に、奈良県・橿原市主催の『藤原京ルネッサンス』の期間中（2007 年 9 月 7 日～11 月 25 日）は無休とし、土・日開館（延べ 27 日間）をおこなった（期間中入室者 3,092 人）。また、申請のあった団体へは展示説明等の応対をした。

エントランス部分では、発掘調査成果を速やかに公開するため速報コーナーを設け、甘樫丘東麓遺跡（第 146 次）、石神遺跡（第 19 次）、藤原宮大極殿院南門（第 149 次）の発掘調査成果、および保存処理の終了した石神遺跡（第 18 次）出土鋸およびレプリカの展示、藤原宮大極殿院南門出土地鎮具の速報展示（2008 年 3 月 18 日～4 月 18 日）を行った。また、2007 年 11 月 1 日～12 月 27 日（48 日間）、高松塚古墳壁画の映像公開を実施した（期間中入室者 2,067 人）。

また、展示活用のために、石神遺跡（第 19 次）出土敷葉工法遺構の切り取り保存処理、藤原宮大極殿院南門出土地鎮具のレプリカ作成を実施した。

地方公共団体の博物館等の求めに応じ、各種展覧会への保管遺物ならびに模型・模造品等の出陳をおこなった。

【実績値】
平成 19 年度の入室者数 6,885 人、　開室日　272 日、　遺物貸出し件数 12 件、　所蔵品のレプリカ作成依頼 1 件

【備考】
① 奈良文化財研究所「藤原宮大極殿院南門出土地鎮具の内容物について」展示解説リーフレット、2008.3

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２２３２

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	継続性	発展性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：発掘調査・研究成果の速やかな公開。
独創性：展示における修復、模型製作。
継続性：常設展示、および速報展示の恒常化。
発展性：速報展示における展示方法・内容の工夫。

2．定量的評価

観点	入室者数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	常設展示とともに、エントランスでの速報展示コーナーが定着し、調査成果公開の速報性がより高まった。入室者数も適切であり、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	常設展示とともに、エントランスでの速報展示コーナーが定着し、調査成果公開の速報性がより高まった。入室者数も適切であり、総合的に順調と判断した。

【書式B】
（様式1）

№. ２２３３

業務実績

中期計画の項目 （I6（4））	文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。

【事業名称】	文化庁平城宮跡等管理事務所との連絡調整及び連携協力（Ｉ6(4)）

【事業概要】
文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に対する積極的協力を以下のとおり実施する。
○施設の公開・利用等に係る連絡調整及び連携協力
○各種行事、発掘調査等の連絡調整
○修繕等に係る相談、状況の把握、業者の紹介等

【担当部課】	管理部業務課	【事業責任者】	業務課長　東博信

【スタッフ】
今西康益、飯田信男、久保慶史、松本正典

【年度実績概要】
平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営に対し、積極的な協力を行った。

○宮跡利用申込みに対する連絡及び申込者との打合せ
○各種行事、発掘調査等に係る連絡調整
○宮跡内建物、工作物等の修繕に当たり、状況の把握、文化庁・業者との連絡調整、現場監理等
・都跡通りコンクリート柵修繕
・平城宮跡内松枯他伐採処分
・平城宮跡内東院庭園清掃
・平城宮跡内ポール修繕
・平城宮跡内朱雀門グレーチング修繕
・平城宮跡内東院庭園池循環設備修理
・平城宮跡内石垣修繕
・藤原宮跡車止め修繕

○住民等からの苦情対応・取次ぎ
・宮跡内水路、道路等の修理改善等
○平城宮跡内禁止行為への対応・異状報告
○所轄消防署との連絡調整
・平城宮跡内火災等対応調整
○放置車両・ホームレス対策・盗難のための警察署との打合せ
・平城宮跡内朱雀門グレーチング盗難
・藤原宮跡車止め盗難

【実績値】

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２２３３

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	継続性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：緊急性の高い連絡・修繕相談等へ適時に対応
独創性：宮跡内建物、工作物等の維持管理に寄与
発展性：専門知識を生かした協力による人的投資上の効率性
継続性：需要に応じた継続的な連携協力体制

2．定量的評価

観点						
判定						

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力・積極的支援については、国内外から同宮跡を訪れる視察者の連絡調整や研究所における研究成果をもとにした説明協力を実施した。 また、同宮跡で種々発生する事案について、文化庁平城宮跡等管理事務所は元より、関係機関と連絡を図り、事態の終息に寄与した。 この結果を判断して、A と認めたものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	施設の公開・利用等の連絡、各種行事・工事・発掘調査の連絡、修繕相談・状況の把握・業者の紹介等、各業務について積極的に協力できたと考える。 特に、修繕相談等は、緊急性の高い場合が多かったが、適時・的確に対応できた。 今後もこのペースを維持しつつ実施していきたい。

【書式B】

（様式1）

№. ２２３４

業務実績書

中期計画の項目 （Ｉ６（4））	文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。

【事業名称】	平城宮跡解説ボランティア事業の運営（Ｉ６（4））

【事業概要】

平城宮跡の来訪者に平城宮跡解説ボランティアが、平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説を行うことにより、 研究所の調査研究の成果を発信するとともに、平城宮跡の歴史や文化遺産に対する理解を深めてもらう。

年間約８万人に解説事業を行い、解説ボランティアについては、継続的に約１００名確保し、研修、学習会の実施や解説資料の配付等の積極的な活動支援を行う。

【担当部課】	管理部文化財情報課	【事業責任者】	課長　山田耕一

【スタッフ】

千田剛道、永井あつ子、桑原隆佳

【年度実績概要】

本年は平城宮跡を訪れた約７万９千人に案内・解説を行った。平城宮跡は小・中学校の校外学習の場としても活用され、その説明は解説ボランティアに依頼されることが多く、学校関係者等から高い評価を得ている。

この事業は、８年を超え定着してきているが更に充実させるため、解説を受けた来訪者にアンケート調査をおこなった結果、 ８８．５%が良かったと答えている。

解説ボランティアの活動支援として、解説のための専門研修（６日間)、「続日本紀」読書会（毎月１回） 等を実施し、解説資料の配付をおこなうなど積極的に支援した。

○アンケート調査集計表（回答５３９）

ボランティアの解説を受けられた方にお尋ねします。解説の満足度はいかがですか。

１	とてもよい	２４３（４５．１%）
２	かなりよい	１１６（２１．５%）
３	ふつう	１１８（２１．９%）
４	あまりよくない	１１（ ２．０%）
５	まったくよくない	５１（ ９．５%）

【実績値】

・解説ボランティア：１３１名
・ボランティア解説延べ人数：７９，０７４名
・各種ボランティアに対する学習会等

専門研修	６日間／年
平城宮跡クリーンフェスティバル	１日間／年
『続日本紀』読書会	１日間／月
清掃活動	３日間／年

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２２３４

1．定性的評価

観点	継続性	効率性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		

備考
継続性：ボランティア解説者の学習等により基礎的知識は十分な成果を認める。
効率性：ボランティア解説者の案内は十分に成果を認める。
発展性：ボランティア解説者の来訪者への影響は十分な成果を認める。
正確性：ボランティア解説事業の運営に十分な成果を認める。

2．定量的評価

観点	ボランティア登録者数	事業参加者数	参加者の満足度			
判定	A	A	A			

備考
ボランティア登録者数　：１００人
事業参加者数　　：４５，０００人
参加者の満足度　：８０％

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	ボランティア解説者の学習成果により、ボランティア解説を受けた方の満足度が８８．５％が良かったと答えていることから、総合的に判断してAと認めたものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	解説ボランティア事業は、ボランティアの更なる研修、事業参加者数の増加、ボランティアへの積極的な支援も順調に実現できたと考える。今後もこのペースを維持しつつ平城宮跡の公開活用に力を注ぎたい。

【書式B】

（様式1）

№. ２２３５

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ６（4））	文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。

【事業名称】	各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、学習会の実施等への支援（Ⅰ６（4））

【事業概要】
平城宮跡で活動しようとする各種ボランティア、また文化財関係のボランティアに対して要請があれば、平城宮跡（施設を含む）を活動の場所として提供することや、文化財に関する学習会等への講師の派遣をおこなう等の支援を行い、ボランティア団体の育成に寄与する。

【担当部課】	管理部文化財情報課	【事業責任者】	山田耕一

【スタッフ】
千田剛道、永井あつ子、桑原隆佳

【年度実績概要】
各種ボランティアに対する学習会等を実施した。
平成13年11月に設立された「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、活動機会、場所、講師等の派遣等、積極的な活動支援をおこなった。具体的には、平城宮跡の清掃活動への用具等の提供、歴史文化講演会への講師派遣、市民参加の平城宮跡クリーンフェスティバル、拓本づくり教室を行った。それらは新聞、テレビでも紹介され好評であった。
また、「特定非営利活動法人なら・観光ボランティアガイドの会」から朱雀門、東院庭園でボランティア解説をしたいと要請があり、活動場所の提供をおこなった。

【実績値】
・各種ボランティアに対する学習会等

専門研修	６日間／年
平城宮跡クリーンフェスティバル	１日間／年
『続日本紀』読書会	１日間／月
清掃活動	１１日間／年
NPO通歴史文化講演会	３日間／年
万葉集勉強会	１日間／月
拓本づくり教室・出前教室	１０日間／年

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２２３５

1．定性的評価

観点	継続性	適時性	効率性			
判定	A	A	A			

備考
継続性：各種ボランティアへの支援には、十分な成果を認める。
適時性：各種ボランティアへの支援は、学習会の実施等十分な成果を認める。
効率性：各種ボランティアへの場所の提供要請等には、十分な成果を認める。

2．定量的評価

観点	各種ボランティアに対する学習会等	参加者数	参加者の満足度			
判定	A	A	A			

備考
ボランティアに対する学習会実施回数：２回
参加者数：１５０人

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	「特定非営利活動法人平城宮跡サポートネットワーク」に対して、平城宮跡の清掃活動への用具等の提供、歴史文化講演会への講師派遣、市民参加の平城宮跡クリーンフェスティバル及び拓本づくり教室への場所提供等、種々の支援を行い、活動の活性化に貢献した。これらを総合的に判断して、Aと認めたものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	各種ボランティアの要請に対し、積極的に支援し、各事業が行われた。 今後も各種ボランティア育成に寄与したい。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2301

中項目	6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報の公開促進 ① 自主媒体の活用、マスメディアとの連携強化

事業概要	文化財に関する情報を積極的に発信し、国内外における日本文化への理解を深める。

担当者	担当部課	事業部情報課	事業責任者	情報課長 高橋裕次

実績･成果	・「東京国立博物館情報アーカイブ・ウェブサイト」をリニューアルし、運用を行った。研究員の調査研究成果の一部を公開するとともに、科学研究費による成果（データベース）の公開を開始した。 ・「東京国立博物館ウェブサイト」の「画像検索機能」を改善し、運用を開始した。検索対象画像をこれまでの約2万6千点から約5万点に拡充した。 ・将来的な収蔵品情報の外部への公開を見据えた「列品管理プロトタイプデータベース」の構築を進め、業務遂行上で列品情報を円滑に検索、取得できる機能を充実した。 ・携帯端末用のサイトについて検討を進め、運用にあたっては、外部のサーバーを使用する必要のあることが明らかとなったため、今後の実用化に向けて平成 20 年度に具体的な実験を行うことにした。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・情報アーカイブサイトの開設により、調査研究成果の公開が随時可能となり、文化財に関する情報発信が、より積極的に行えるようになった。 ・画像検索機能の改善により、館外からの画像利用の利便性が向上した。 ・列品管理プロトタイプデータベースの構築により、近い将来の列品情報の公開を行う基礎的な条件が整った。 ・今後、よりスムーズな情報の登載が行えるように、システムの改善に努める。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	ウェブサイトへのアクセス件数	5,504,468 件	1,928,966 件	A	
	検索対象画像の拡充	50,000 点	－	－	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2302

中項目	6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ① 自主媒体の活用、マスメディアとの連携強化

事業概要	・ウェブサイトによる情報提供サービスの充実 ・メールマガジンの刊行

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	情報管理室長 難波洋三

実績･成果	・携帯電話端末用ウェブサイトの充実を図り、利用者の拡大とサービスの向上に努めた。 ・学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開した。 ・京都国立博物館メールマガジンを創刊。加入者数は 2,358 件である。	
	特別展紹介・収蔵品データベース（モバイルサイト）	学叢 WEB 公開

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	・携帯電話端末用サイト内の特別展覧会、特集陳列、平常展示、各種講座・イベント等、各コンテンツを適宜更新し、モバイルユーザーに対して、最新の博物館情報が提供できるように努めた。 ・携帯電話端末用サイト内の収蔵品データベースの掲載データを追加し、アーカイブとしての充実に努めた。また、モバイル収蔵品データベースで実験提供中のモバイル版収蔵品画像の拡大機能は、引き続き㈱NTT ドコモの協力により、実証実験を兼ねた提供を行う。 ・学叢 WEB 公開は、在庫状況・販売現況及び学術的価値を総合的に判断しながら、適宜オンラインでの公開を促進し、大学・博物館等の研究活動に寄与している。 ・京都国立博物館メールマガジンの運用を開始し、11 号まで刊行。加入者は順調に増加している。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	ウェブサイトへのアクセス件数	733,885 件	521,965 件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 2303

中項目	6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ① 自主媒体の活用、マスメディアとの連携強化

事業概要	ウェブサイトをはじめ、研究紀要、展覧会図録、広報誌等の自主媒体を活用し、国内外に文化財の情報を発信する。

担当者	担当部課	学芸課情報サービス室	事業責任者	情報サービス室長 中島 博

実績･成果	・ウェブサイトへのアクセス件数 1,402,834 件 ・携帯電話用ウェブサイトを継続して作成し、手軽に博物館情報を入手できる環境を整えた。 ・研究紀要『鹿園雑集』9 号を刊行し、論文 3 本、国際研究集会の研究報告 2 本、作品研究 1 本、資料紹介 2 本、各種報告 5 本を掲載した。 ・ウェブサイトに研究紀要『鹿園雑集』9 号の PDF 版を掲載した。 ・展覧会図録を 6 冊刊行した。 ・広報誌「奈良国立博物館だより」(年 4 回刊行) の各号に、研究成果の一部を掲載した。

親と子のギャラリー
「仏さまの彩り」図録

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	・年度計画に示した、ウェブサイトへの研究成果の公開の充実に関しては、研究紀要の掲載により達成された。また、当館保有の文化財の写真公開の充実に関しては、19 年度はフィルムからのデジタル化に止まり、ウェブサイトへの掲載には至らなかった。 ・中期計画に示した、ウェブサイトへのアクセス件数の増加については、18 年度 124 万 9,608 件に対し、19 年度は 140 万 2,834 件であり、前年度実績を超えている。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	ウェブサイトへのアクセス件数	1,402,834 件	670,948 件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2304

中項目	6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ① 自主媒体の活用、マスメディアとの連携強化

事業概要	ウェブサイトで提供する情報の充実を図り、利用者から意見を吸い上げられる体制を検討する。

担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	研究員 東 昇

実績･成果	ウェブサイトで提供する情報の充実については、昨年度に引き続き、迅速な情報提供に努めている。また夜間、休日における情報掲載、訂正についてもできる限り即時対応している。 利用者からの意見吸い上げのために、ホームページ経由の問い合わせに対しては、適切に九博メールによる回答を実施している。 また特別展において「ブログるぽ」を毎回設定している。「ブログるぽ」は、WEB 上でブログ執筆希望者を募集し、実際に特別展を観覧した来館者に、撮影禁止の館内画像等を提供して、ブログを書いてもらう仕組みである。これら来館者のブログは九博 WEB 上に直接リンクしている。 九博ホームページ（トップ）

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・「ブログるぽ」は、現在のネット社会に柔軟に対応した内容であり、国内の美術館博物館でも先駆的事例である。昨年の「若冲展」を契機に開始し、展覧会ごとに徐々に認知度が高まりつつある。 ・ブログは、館による公式広報とは違う個人の率直な感想であるところから、来館者の反応ぶりを館としてもリアルタイムに把握することができる。来館前に他人の感想を知ることで展覧会への興味が増進し、それによってより多くの人々の来館を促す働きをすることが期待される。またブログを書いている人々にとっても、大きな露出効果があり、相互に有意義である。 ・情報掲載のタイミングに関しては、館内決裁手続きの関係上、イベント実施直前になってようやく担当部署に情報提供される場合がまま見られるため、関係部署と連携しより速やかに情報掲載を実施する必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	ウェブサイトへのアクセス件数	5,943,616 件	5,017,378 件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2401

中項目	6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報の公開促進 ②−1 デジタル化の推進

事業概要	デジタル化を推進し、情報の公開に努める。

担当者	担当部課	事業部情報課	事業責任者	情報課長 高橋裕次

実績･成果	1) 収蔵品等の写真の高精細デジタル化 ・所蔵品等の 4×5 カラーフィルムの高精細デジタル化を実施した。 ・所蔵品等のモノクロマイクロフィルムの高精細デジタル化を実施した。 ・カラーのデジタルデータについては、来館者をはじめとする幅広い利用者の求めに応じて、利用に供した。 ・マイクロフィルムについては、インターネットを通じた情報提供ができる環境構築の検討と準備を進めた。 2) 国指定文化財の新規撮影・高精細デジタル画像化 ・重要文化財のうち歴史資料「壬申検査関係資料」の一部である湿板写真と調査記録の図集について、高精細デジタル画像を作成した。 3) 収蔵品の基本情報のデータ化・文書記述言語 (XML) 化 ・明治時代の博物館所蔵図書の解説目録である「博物館書目解題略」のテキストデジタル化を実施した。 4) 法隆寺献納宝物のデジタル高精細画像等の提供 ・事業計画のとおり法隆寺献納宝物デジタルアーカイブの提供を継続した。

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	1) 収蔵品等の写真の高精細デジタル化 ・カラー画像については、日常的に行われている撮影によるフィルムのデジタル化をほぼ完全に行える体制が確立し、写真撮影から最短約 2 週間でフィルム及びデジタルデータの提供が可能となった。 ・18 年度から開始したマイクロフィルムのデジタル化については、印画紙の供給打ち切りといった社会的な情勢を考慮し、目標を大きく上回る枚数のデジタル化を行うことができた。 2) 国指定文化財の新規撮影・高精細デジタル画像化 ・18 年度に引き続き、通常の写真撮影の体制では作成困難な分野の重要文化財について、高精細画像を作成した。 ・画像を作成したのは、指定件数としては 1 件であるが、その中に写真約 100 枚、調査記録約 400 点の資料を含んでおり、画像数としては約 500 点に及ぶ。 3) 収蔵品の基本情報のデータ化・文書記述言語 (XML) ・博物館所蔵資料の来歴等を調査する上で必要な基礎的情報の蓄積の上積みを行うことができた。 4) 法隆寺献納宝物のデジタル高精細画像等の提供 ・法隆寺献納宝物デジタルアーカイブの提供については、これまで通りに実施することができた。今後はさらに利便性を向上させ、内容についても更新につとめていきたいと考えている。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
デジタルデータ作成件数	124,996 件	18,829 件	A
うち 4×5 フィルム	3,396 件	3,000 件	A
うちマイクロフィルム	121,600 件	20,000 件	A
高精細画像の作成	1 件 (500 点)	−	−
収蔵品の基本情報のデータ化	553,000 字	300,000 字	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2402

中項目	6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②－1 デジタル化の推進

事業概要	収蔵品のデジタルデータ化を推進する。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	情報管理室長 難波洋三

実績･成果	・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースへの登録を暫時行っている。 ・当館所蔵の指定文化財の画像を高精細画像化し、ウェブサイト上で公開する予定(館内試験公開段階：日英版)。重要文化財高精細画像データベース「KNM Gallery」。

公開収蔵品データベース

重要文化財高精細画像公開システム「KNM Gallery」

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム（館内研究・管理用）及び公開収蔵品データベース（一般公開）に暫時登録し、当館デジタルアーカイブ及び公開情報サービスに益する様、努めた。 ・当館所蔵の指定文化財を高精細画像化し、公開システムの構築及び六ヶ国語（日英韓中仏西）での提供を行う。現状で、日英版のシステム構築は終了（館内試験公開中)。韓国語、仏語、中国語、西語版は、20 年度前半に構築予定。画像コンテンツは、約 6 割が加工・登録済み。鋭意作業を進め、完全なシステム公開を早期に実現する。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	デジタルデータ作成件数	8,047 件	4,359 件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 2403

中項目	6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②－１ デジタル化の推進

事業概要	仏教美術を中心とした文化財に関わる情報資源の蓄積を図り、館内における調査研究に活用するとともに、広く一般への公開をおこなう。

担当者	担当部課	学芸課資料室	事業責任者	資料室長 吉澤 悟

実績･成果	・当館で調査研究および写真撮影をおこなった文化財の情報を、文化財情報システムへ登録し、データを 3,889 件更新した。 ・上記のうち公開準備のできたものを写真検索システムへ登録し、データを 2,018 件更新・公開した。 ・重要文化財を中心とした当館館蔵品の写真原板を 183 件デジタル化した。 ・当館所蔵のガラス乾版を 512 件デジタル化した。 ・西新館学習コーナーに国宝を高精細画像で閲覧できるシステム（5ヶ国語対応）を常時公開している。 ・重要文化財の高精細デジタルアーカイブの公開にむけて、テキストデータ、高精細画像データの整備をおこなった。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・館蔵品・寄託品、展覧会等で借用した文化財について写真撮影をおこない、その情報を文化財情報システムに継続して登録しており、情報の蓄積・公開が順調に進んでいる。 ・重要文化財の高精細デジタルアーカイブの公開にむけて、館蔵品情報のデジタル化につとめ、図版目録掲載の基本情報をデータベースに登録した。また、高精細画像データの整備も進めている。今後は解説文も含めた関連情報のさらなるデジタル化を図る。 ・19 年度デジタルデータ作成件数については、18 年度実績 3,830 件は上回ったものの、予算措置の図られた前中期目標期間の年間平均実績を上回るには至らなかった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	写真検索システム更新件数	2,018 件	2,000 件	A	
	デジタルデータ作成件数	4,584 件	8,471 件	C	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、やや困難な状況である。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2404

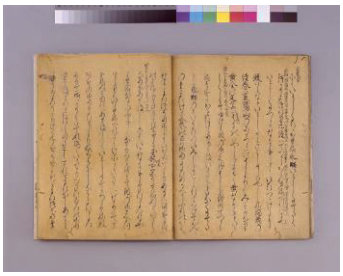
中項目	6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②―1 デジタル化の推進

事業概要	収蔵品のデジタルデータを作成する。(600 件)

担当者	担当部課	文化財課	事業責任者	資料管理室長 伊藤信二

実績･成果	新たに撮影した収蔵品・出品作品に関する写真を、順次 3 種類のデジタルデータ (300KB、2MB、120MB) に変換しており、3,295 件作成した。



(新規撮影写真)
国宝 栄花物語巻十四

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	デジタルデータ化することによって、カラーポジ複製を必要としない利用への対応が容易となり、カラーポジの劣化も防げるようになった。 また、学芸部内の調整を図り目標とする件数を大幅に上回る画像を作成することができた。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	デジタルデータ作成件数	3,295 件	1,890 件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2501

中項目	6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報の公開促進 ②－2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化

事業概要	調査研究や、博物館の事業・運営に有用な図書をはじめとする博物館関係資料を収集する。図書システムの運用によって、データ整備を実施するとともに、レファレンス機能を充実させ、サービスの向上をはかる。

担当者	担当部課	事業部情報課	事業責任者	情報課長 高橋裕次

実績･成果	・図書館システムを運用し、図書 4,013 冊、逐次刊行物 約 3,700 冊を新規整理した。 ・図書の遡及入力を 4,574 冊実施した。（うち洋書 2,800 冊を含む） ・雑誌類の合冊製本を 604 冊(うち考古学会寄贈分 364 冊)、修理製本を 46 件実施した。 ・図書のバーコードラベル貼付を約 5 万件実施し、併せてデータの確認・訂正作業を行った。 ・図書資料の良好なコレクション構築のために、新刊書を中心に古書など404冊（運営協力会補助分を含む）を購入し、当館に収蔵されていない図書の寄贈を受け入れた。また、17年度に寄贈を受けた考古学会雑誌のうち、19年度は外国語雑誌（未製本3,791冊）について製本可能なものを製本し、登録を行った。 ・宗像氏寄贈図書約 5,300 冊について、受入準備のためのリスト作成を行なった。 ・利用者用 OPAC（蔵書検索システム）および美術図書館横断検索（ALC）に加入し、図書約 136,000 冊、雑誌約 4,500 タイトルの OPAC 公開を行い、利用の促進につとめた。 ・館内の図書利用規定を整備し、図書館システムを利用した館内図書貸出を開始した。 ・法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施した。 ・資料館の今年度の資料館利用者は 3,134 人、閉架図書利用は 3,321 件である。 マイクロフィルム閲覧は 650 件で、今後のデジタル化により利用件数の増加が見込まれる。 ・資料館でのレファレンスサービスは 3,299 件であるが、DNP アーカイブコムによる画像の利用に関連して、作品や画像についての問い合わせが増加している。 ・マイクロフィルムを含む図書および写真カードのコピーサービスは、23,287 枚であった。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・日本・東洋の美術、歴史などの調査研究や、博物館の事業・運営に有用な博物館関係資料について、寄贈の受入、購入などによる収集につとめた。 ・図書のバーコードラベル貼付、データ整理を推進し、図書システムの機能を向上させたことで、図書検索の利便性と、貸出の円滑化によるサービスの充実をはかることができた。 ・視聴覚資料の閲覧を可能とするため、視聴覚資料の整理約 1,300 件を行なった。 ・レファレンス機能をさらに充実させるための努力を続けており、次年度には、諸機能の改善に見合った新しい利用案内を作成する予定である。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データの整備	3,642 件	3,000 件	A
新規図書整理	4,103 件	－	－
遡及入力	4,574 冊	－	－
雑誌合冊および修理製本	650 冊	－	－
受入準備のリスト作成	5,300 冊	－	－
視聴覚資料の整理	1,350 点	－	－
資料館利用者数	3,134 人	－	－

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

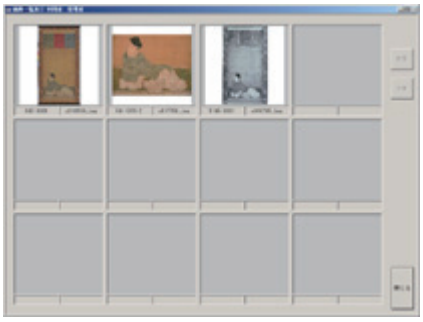
【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2502

中項目	6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②－2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化

事業概要	・収蔵品・出品作品等の写真撮影及び社寺調査等での写真撮影並びに関連データを整備する。 ・観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。

担当者	担当部課	学芸課	事業責任者	情報管理室長 難波洋三

実績･成果	・収蔵品・出品作品等の写真撮影及び社寺調査等での写真撮影並びに関連データを整備した。撮影した写真は暫時、写真画像管理システムに登録し、各種データベースへの二次提供を行った。 ・観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施した。
	
	写真画像管理システム
	観覧者向け参考図書コーナー

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・目標値をやや下回っているものの、収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備する事ができ、当館の関係資料の充実・及び関連データベースへの提供が実現できている。今後も継続して本事業を実施することにより、データの蓄積、提供に努めたい。 ・平常展示館において、観覧者向け図書閲覧コーナーサービスを継続提供し、観覧者へのサービス向上に努力した。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データの整備	4,256 件	約 5,000 件	B	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

(6) 文化財情報･研究成果の公表 ②-2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化(3/4 ページ目) 奈良国立博物館 (1/1 ページ目)

【書式A】 施設名 奈良国立博物館 処理番号 2503

中項目	6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②−2 情報、資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実

事業概要	館内外の展覧会事業や研究活動に必要な図書情報の収集、管理、提供を行う。

担当者	担当部課	学芸課資料室	事業責任者	資料室長 吉澤 悟

実績･成果	図書の収集は19年度において2,000冊の新規受入を果たし、また展覧会カタログの受入は471冊を数えた。これらは仏教美術資料研究センターにおいて随時データ入力し、検索利用に供している。これにより、同センターの保有する図書総数は63,452冊、展覧会カタログ9,847冊となった。一方、書架が飽和状態にある部門については、利用頻度で分別し、低い図書の別置場所を確保し、センターの利用空間を確保した。

定性的評価(目標に対する成果の達成状況)	・図書受入実績および登録、レファレンスに関して、昨年度と同等の成果を挙げている。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	収蔵品・出品作品等の写真撮影・関連データの整備	3,240件	3,000件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2504

中項目	6 情報発信機能の強化

事業名	(6) 文化財情報・研究成果の公表 ②−2 情報、資料の収集・蓄積、レファレンス機能の充実

事業概要	① 収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備する。(約600件) ② 海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。 ③ 博物館資料（収蔵品、図書、写真など）の横断的データベースの効率的な運用を検討し、実施する。

担当者	担当部課	文化財課 交流課	事業責任者	資料管理室長 伊藤信二 主任研究員 永井真佐美

実績･成果	①収蔵品・出品作品などの写真を 1,000 件超撮影し、写真データベースの充実を図った。 ②「あじっぱ」内の「あじ庵」や「たなだ」で活用するために、中国でのビデオや画像の撮影を行った。 ③博物館資料（収蔵品、図書、写真など）の横断的データベースは、稼働中の業務システムにおいて効率的に運用している。購入・寄託・寄贈や借用などにともなう新規の収蔵品や図書データは随時入力するとともに、既存データについても未記入項目の遡及入力を実施し充実を図っている。

「あじ庵」で使用予定の中国京劇の画像

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	① 収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データの整備については、目標を大きく上回り写真データーベースの充実が図れた。 ② 「あじっぱ」で教育普及事業として活用している海外調査でのビデオや画像等を、計画的に追加していく必要がある。 ③ 収蔵品登録業務に応じたデータの登録体制を整備する必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	収蔵品・出品作品等の写真撮影および関連データ整備件数	約 1,000 件	600 件	A	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式B】
（様式1）

№ ２６０１

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ７（1））	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

【事業名称】	無形文化遺産に関する助言（Ⅰ７（1））

【事業概要】
地方公共団体等の依頼に基づき、それらの実施する無形文化財・無形民俗文化財の調査・保存・修復・整備・活用などの事業に対し助言を行う。

【担当部課】	無形文化遺産部	【事業責任者】	無形文化遺産部長　宮田繁幸

【スタッフ】
鎌倉惠子、高桑いづみ、飯島満、俵木悟（以上、無形文化遺産部）

【年度実績概要】
平成19年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の指導・助言を実施した。
(1) 文部科学省（教育映画等審査に関して）に対する助言　8件
(2) 文化庁芸術文化課地域文化振興室に対する助言（文化芸術による創造のまち支援事業に関して）　26件
(3) 文化庁伝統文化課に対する助言（国際民俗芸能フェスティバルに関して）　2件
(4) 千葉県教育委員会に対する助言　2件
(5) 茨城県立歴史館に対する助言　2件
(6) 岩手県立博物館に対する助言　1件
(7) 静岡県教育委員会に対する助言　1件
(8) 福山市立鞆の浦歴史民俗資料館に対する助言　1件
(9) 今治市村上水軍博物館に対する助言　3件
(10) 下関市立調布博物館に対する助言　1件
(11) 日本芸術文化振興会に対する助言（劇場賞選考、運営計画、文化デジタルライブラリー関連）　3件
(12) 日本芸術文化振興基金に対する助言（助成事業に関して）　3件
(13) （財）伝統文化活性化国民協会に対する助言（伝統文化データベース、ふるさと文化再興事業、伝統文化こども教室関連事業に関して）　10件
(14) 全国民俗芸能大会に関する助言　6件
(15) 全国青年大会郷土芸能の部運営委員会での助言　2件
(16) 日本民俗学会に対する助言　2件
(17) 園田学園近松研究所に対する助言　1件

【実績値】
1　助言件数　74件

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２６０１

1．定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	助言件数					
判定	A					
備考 平成 13 年度～平成 17 年度年度平均助言数　64 件						

3．実績の総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、依頼を受けて行うものであり、あらかじめ個々の助言について予定することは出来ないが、本年度も各種委員会等への出席及び助言の依頼が前中期計画時の平均値以上寄せられており、無形文化遺産分野での様々な要望に的確に対応できたものと考える。以上の状況を総合的に判断して、A と判定した。

4．当年度における中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	例年通りの助言依頼に順調に対応できたと考える。

【書式B】
（様式1）

No. ２６０２

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ７（1））	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

【事業名称】	文化財の修復及び整備に関する調査・助言（Ⅰ７（1））

【事業概要】
地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業を援助・助言するために、文化財の修復及び整備に関する調査を行う。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター　副センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
中山　俊介、北野　信彦、加藤　雅人、早川　典子、森井　順之（以上、保存修復科学センター）

【年度実績概要】
・財団法人日本航空協会評議委員会　（川野邊　渉）
・有限責任中間法人国宝修理装潢師連盟資格試験委員会　（川野邊　渉）
・重要文化財富岡製糸場の修復方針に関する指導助言　（中山　俊介）
・重要文化財旧手宮鉄道施設(小樽市)の保存修復に関する指導助言　（川野邊　渉、中山　俊介）
・御料車及び１号機関車の搬出入方法に関する指導助言　（川野邊　渉、中山　俊介）
・所沢航空発祥記念館所蔵 91 式戦闘機胴体の保存修復に関する指導助言　（川野邊　渉、中山　俊介）
・第５福竜丸エンジンの保存修復に関する指導助言（川野邊　渉、中山　俊介）
・日本橋の修復に関する指導助言　（川野邊　渉、中山　俊介）
・福島市指定有形文化財「板倉神社所蔵資料ならびに什物」の修復に関する指導助言　（川野邊　渉）
・国宝高松塚古墳壁画の保存修復に関する指導助言（川野邊　渉、中山　俊介、北野　信彦、加藤　雅人、早川　典子、森井　順之）
・特別史跡キトラ古墳壁画の保存修復に関する指導助言　（川野邊　渉、北野　信彦、加藤　雅人、早川　典子、森井　順之）
・長崎県上五島町江袋教会の焼損部材の再使用に関する指導助言　（川野邊　渉、中山　俊介）
・熊野磨崖仏(豊後高田市)の保存整備に関する指導助言　（川野邊　渉、森井　順之）
・大韓民国に所在する鉄道文化財の保存修復に関する指導助言　（中山　俊介）
・江戸東京博物館「銀座煉瓦街遺構」の保存修復に関する指導助言　（朽津　信明、早川　典子、森井　順之）
・重蔵神社（輪島市）所蔵本殿内陣の扉の保存修復に関する指導助言　（森井　順之）
・日光二社一寺の保存環境モニタリングに関する指導助言　（森井　順之）
・重要文化財 0.5t 及び 3t スチームハンマーの修復後処置に関する指導助言　（森井　順之）
・京都市内出土の埋蔵文化財の保存処置及び各種分野に関する指導助言　（北野　信彦）
・日高遺構出土未炭化米の保存方法に関する指導助言　（北野　信彦）
・徳島大学構内遺跡出土漆器資料の材質・技法の調査に関する指導助言　（北野　信彦）
・松浦市鷹島海底遺跡出土資料の保存処置に関する指導助言　（北野　信彦）
・仙台城跡・春日社古墳出土の漆製品の保存処置に関する指導助言　（北野　信彦）
・重要文化財三ッ塚古墳出土「大修羅」の定期点検に関する指導助言　（北野　信彦）
・重要文化財島田神社本殿の解体修理中の取り外し部材に塗装されたベンガラの調査に関する指導助言　（北野　信彦）
・近代化遺産の修理等に係る指針策定に関する調査研究会において指導助言　（中山　俊介）
・国宝臼杵磨崖仏の保存修復に関する指導助言　（川野邊　渉、早川　典子、森井　順之）

【実績値】
指導助言実施件数　　27 件

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

№ ２６０２

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	重要文化財を含む各種文化財の保存修復に関して、それぞれの保有団体、所有者の方々あるいは修復を担当する団体に対して、指導助言を行った。またその過程において、私たちも、現地を調査する機会を得、更に知見を得ることが出来た。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度は、件数は27件と昨年よりも上回った。また、その内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得るように努力する。

【書式B】
（様式1）

№ ２６０３

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ7(1)）	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

【事業名称】	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言　（Ⅰ7(1)）

【事業概要】
地方公共団体等が行っている遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等について、依頼を受け専門委員会の委員になるなどして、必要な事項に関し援助・助言を行う。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【事業責任者】	所長　田辺征夫
【スタッフ】			

【年度実績概要】
地方公共団体等が行っている文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業に対し、各分野において専門的・技術的な援助・助言を実績値のごとく多数行っている。そのうち史跡整備、建造物修理、発掘調査、出土文字資料調査について、いくつかの事例を上げて、実績報告とする。

地方公共団体等がおこなう文化財建造物等の調査、修復、整備について、学術的、技術的側面からの具体的な援助・助言を現地等でおこなった。主なものには、調査関係として京都府近代和風建築総合調査、修復・整備関係として兵庫県史跡和田岬砲台、奈良市東大寺境内整備、奈良市特別史跡・特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園、奈良市名勝依水園庭園、京都市元離宮二条城建造物、名古屋市特別史跡名古屋城跡、奈良市史跡大安寺旧境内、奈良市国宝唐招提寺金堂、宮内庁正倉院正倉のほか、岩手県金ヶ崎町、長野県塩尻市の伝建群地区内整備などがある。このほか、奈良県橿原市文化財審議会、奈良市文化財保護審議会、奈良県立民俗博物館運営協議会などにおいて、専門的立場からの助言等をおこなった。

地方公共団体等による遺跡の発掘調査における調査方法や検出した遺構の性格、建物遺構の構造的特徴についての援助・助言、遺跡や名勝などの保存管理や整備事業に係る調査、価値評価、実施内容、構想・計画の立案などの援助・助言をおこなった。主なものには、岩手県盛岡市史跡志波城跡、宮城県東松島市赤井遺跡、福島県いわき市史跡根岸官衙遺跡群、須賀川市史跡上人壇廃寺、茨城県水戸市台渡里廃寺跡・大串遺跡、石岡市常陸国衙跡、群馬県伊勢崎市三軒屋遺跡、太田市天良七堂遺跡、埼玉県深谷市幡羅遺跡、東京都府中市武蔵国衙跡、長野県飯田市名勝天龍峡、佐久市西近津遺跡群、岐阜県関ヶ原町史跡関ヶ原古戦場、静岡県磐田市特別史跡遠江国分寺跡、三重県桑名市名勝諸戸氏庭園、明和町史跡斎宮跡、四日市市史跡久留倍遺跡、滋賀県大津市中路遺跡、京都府京都市方広寺旧境内、向日市史跡長岡宮跡、兵庫県朝来市史跡茶すり山古墳、上郡町史跡山陽道野磨駅家跡、奈良県奈良市特別史跡及び特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園・名勝旧大乗院庭園・名勝月瀬梅林、天理市史跡赤土山古墳、鳥取県鳥取市史跡栃本廃寺跡、倉吉市史跡伯耆国衙跡発掘調査、米子市坂長遺跡、広島県府中市備後国府跡、愛媛県松山市史跡久米官衙遺跡群、徳島県徳島市名勝阿波国分寺庭園、福岡県大刀洗町史跡下高橋官衙遺跡、宮崎県西都市史跡日向国府跡・日向国分寺跡などがある。

地方公共団体等が発掘調査を行った全国２５の遺跡から出土した木簡・墨書土器。漆紙文書などの出土文字資料約３００点について、その釈読・写真撮影などの調査・研究に関する援助・助言を行った。主なものには、奈良市平城京跡、兵庫県山野里宿遺跡、静岡県ケイセイ遺跡・鳥居松遺跡、滋賀県塩津港遺跡・六反田遺跡、秋田県払田柵跡、新潟県延命寺遺跡、熊本県花岡木崎遺跡などがある。

【実績値】
地方公共団体等の委員就任件数　99件
援助・助言実施件数（出張依頼を受けた件数）　417件　（委員会出席198件，審議会出席23件，指導50件，調査54件，講演40件，その他52件）

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２６０３

1．定性的評価

観点	継続性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			

備考
継続性：依頼機関への対応
適時性：実施業務に適時対応、社会的要請
発展性：的確な援助・助言による実施業務の順調な実現

2．定量的評価

観点	援助・助言実施件数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等が行っている遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等に関して、援助・助言を的確に行うことができたので、A と認めたものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現在、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・整備・復原事業や、建造物の調査、修理事業について、各担当機関から専門的な援助・助言を求められ、これに対応している状況である。不動産文化財に関する総合的な研究所という奈文研に対する社会的要求に、今後も的確に対応していく必要がある。

【書式B】
（様式1）

№. ２６０４

業務実績書

中期計画の項目（Ｉ７（1））	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

【事業名称】	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言（Ｉ７（1））

【事業概要】
平城宮跡の隣接地域や平城京の寺院跡などの重点地区内において、近年小規模開発が進んでいる。この開発に対して宮および宮周辺における奈良時代を含む土地利用の実態把握と遺構深度などを明らかにする目的で発掘調査を実施した。

【担当部課】	都城発掘調査部　平城地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二

【スタッフ】
小池伸彦、和田一之輔、城倉正祥、西口壽生、神野恵、森川実、加藤雅士、深澤芳樹、今井晃樹、林正憲、島田敏男、金井健、粟野隆、大林潤、渡辺晃宏、馬場基、山本崇、浅野啓介

【年度実績概要】
平城宮に密接に関連する平城京域発掘調査への援助・助言は、総数 4 件あり、主に開発行為に対する事前発掘調査である。発掘の総面積は 194.5 ㎡、調査期間は 2007 年 4 月 16 日～2007 年 11 月 13 日の間、延べ 73 日に及ぶ。

次数	調査地	調査原因	面積	期間	概要
422 次	西大寺薬師金堂	住宅建設	94.5 ㎡	2007.4.16～6.15	礎石据付穴を６基検出し、西大寺薬師金堂建物規模が確定し、西大寺における建物配置の計画性を明確にした。
425 次	法華寺	倉庫建設	12 ㎡	2007.8.30～9.7	法華寺近世の東北隅部において、濠と塀の区画施設を検出。
427 次	平城宮馬寮北方	住宅建設	8 ㎡	2007.10.12～10.22	中世の土坑を２基検出。
428 次	平城京右京三条一坊	住宅建設	80 ㎡	2007.10.22～11.13	中近世の堤、洪水砂を検出。

【実績値】
論文等数３件（論文①～③）
出土品　瓦磚など 372.66 ㎏、土器 11 箱、金属器・木器など 28 点
記録作成数　実測図 16 枚、写真（４×５）89 枚

【備考】
①林正憲「422 次　西大寺薬師金堂」『奈良文化財研究所紀要 2008』（予定）
②粟野隆「427 次　平城宮馬寮北方」『奈良文化財研究所紀要 2008』（予定）
③和田一之輔「428 次　右京三条一坊九坪」『奈良文化財研究所紀要 2008』（予定）

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２６０４

1．定性的評価

観点	継続性	適時性	正確性			
判定	A	A	A			

備考
継続性：データ収集のため規模の大小にかかわらず発掘を継続する
適時性：開発に対応する迅速性
正確性：文化財行政に協力する事前調査

2．定量的評価

観点	援助・助言実施件数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	緊急性を要する発掘調査に効率よく対応し、平城宮・京についての基礎資料を継続的に蓄積していることからＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城宮・京の構造や変遷を検討するために有効な基礎的データを得た。

【書式B】
（様式1）

№ ２６０５

業務実績書

中期計画の項目（Ｉ７（1））	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

【事業名称】	地方公共団体が行う飛鳥藤原地区の発掘調査への援助・助言　（Ｉ７（1））

【事業概要】
奈良県高市郡明日香村から橿原市にかけての「飛鳥・藤原」地域は、我が国古代国家成立期の歴史的な舞台であり、６世紀末から８世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心地であった。この地域の地下には、現在も宮殿や豪族の居館、寺院や墳墓など様々な遺跡が眠っている。本研究は、地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言を通じて、埋蔵文化財保護行政に貢献するものである。また、こうした遺跡の発掘調査を通じて、古代国家の具体的な歴史像を復元すべく、学際的な調査研究を行い、その成果は、遺跡発掘調査説明会や報告書類、展示室などで広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長　巽淳一郎

【スタッフ】
松村恵司、村上　隆、豊島直博、廣瀬　覚、長谷川透、玉田芳英、小田裕樹、丹羽崇史、関広尚世、青木　敬、次山　淳、中川あや、高田貫太、石田由紀子、箱崎和久、黒坂貴裕、番　光、市　大樹、竹本　晃、井上直夫、岡田　愛

【年度実績概要】
特別史跡藤原宮跡および飛鳥・藤原地域において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は、総数 12 件あり、主に特別史跡等の現状変更に対する事前調査である。

次数	調査地	調査原因	面積	期間	概　　要
149-1	本薬師寺	畦畔改修	270 ㎡	2007.5.21～6.7	立会調査。石敷・版築面の確認。
149-2	山田道	ポケットパーク建設	13 ㎡	2007.7.5	立会調査。遺構面に達せず。
149-3	山田寺	電柱建替	2 ㎡	2007.7.11～12	立会調査。
149-4	平吉遺跡北方	国営公園整備	202 ㎡	2007.9.3～9.21	発掘調査。飛鳥川氾濫原の確認。
149-5	藤原京横大路	建物建設	260.7 ㎡	2007.9.11～10.30	発掘調査。横大路南側溝の確認。（①）
149-6	藤原宮	藤原京ルネッサンス	5.76 ㎡	2007.9.5	立会調査。遺構面に達せず。
149-7	藤原京右京八条二坊	埋設管付替	80.75 ㎡	2007.11.20～12.6	発掘調査。石組溝等を検出。（②）
149-8	藤原宮	車留改修・埋設管付替	298.8 ㎡	2007.11.20～3.14	立会調査。
149-9	山田道	水路等改修	119.35 ㎡	2008.1.25～3.11	発掘調査。旧流路を検出。（③）
149-10	藤原宮	水路改修	240 ㎡	2008.1.30～2.21	発掘調査。掘立柱建物を検出。（④）
149-11	藤原宮	遊歩道改修	266 ㎡	2008.3.4～6	立会調査。遺構面に達せず。
149-12	藤原宮	多目的広場改修	709 ㎡	2008.3.25	立会調査。

【実績値】
論文等数５件（論文４件①②③④、その他１件⑤）
出土品　軒瓦・垂木先瓦 20 点、丸・平瓦コンテナ 40 箱、土器コンテナ 19 箱、金属製品２点、銭貨２点、石製品３点、加工木コンテナ（小）３箱、獣骨９袋、
記録作成数　実測図 57 枚、写真（４×５）49 点

【備考】
①番　光　「右京一条五坊の調査－第 149-5 次」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6
②丹羽崇史「右京八条二坊の調査－第 149-7 次」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6
③青木　敬「山田道の調査－第 149-9 次」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6
④石田由紀子「朝堂院東地区の調査－第 149-10 次」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6
⑤都城発掘調査部「飛鳥・藤原宮跡等の調査概要」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２６０５

1．定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				

備考
適時性：開発行為に対応する迅速性。地方公共団体の文化財行政に対する協力。
継続性：データ収集のため規模の大小にかかわらず調査を継続しておこなう。

2．定量的評価

観点	援助・助言件数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年間 12 件の案件に対して、迅速かつ適切に対処し、地方公共団体の行う埋蔵文化財行政に対して協力することができた。また、これらの調査を通して継続的に遺跡のデータを収集し蓄積をはかったことから、総合的にＡと判断した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。

【書式B】
（様式1）

№ ２６０６

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ7（2））	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、８０％以上の満足度が得られるようにする。また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。

【事業名称】	埋蔵文化財担当者研修（Ⅰ7（2）①）

【事業概要】
地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者に対する研修を実施する。
研修受講者のうち平均８０％以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と評価されるよう研修内容の充実を図る。

【担当部課】	企画調整部、管理部業務課	【事業責任者】	企画調整部長　岡村道雄、業務課長　東博信

【スタッフ】
小林謙一、今西康益、石田義則、井手真二
研修内容に応じ、研究所職員の適任者及び外部の学識経験者が講師を行っている。

【年度実績概要】
一般研修１課程、専門研修 12 課程の計 13 課程を実施し、延べ 155 名が受講した。
また研修受講者に対し、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立った』と思うか、思わないか」のアンケート調査を行った結果、１００％の者から『思う』の回答を得た。

		実施期日（日数）	定員	受講者数	満足度
一般研修	遺物観察調査課程	6月　4日～　6月２９日（２６日）	１６人	６人	100%
専門研修	文化財写真Ⅰ(基礎)課程	7月　9日～　7月２５日（１７日）	１０人	６人	100%
	文化財写真Ⅱ(応用)課程	7月２５日～　8月　8日（１５日）	１０人	６人	100%
	古代・中近世瓦調査課程	9月　6日～　9月１３日（　8日）	２０人	２０人	100%
	地方官衙遺跡調査課程	１０月　1日～１０月　5日（　5日）	１２人	１４人	100%
	保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程	１０月１６日～１０月２４日（　9日）	１０人	８人	100%
	保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程	１０月２４日～１１月　1日（　9日）	１０人	８人	100%
	報告書作成課程	１１月　7日～１１月１６日（１０日）	２０人	１８人	100%
	遺跡地図情報課程	１１月２７日～１１月３０日（　4日）	１６人	１５人	100%
	測量外注課程	１２月１０日～１２月１４日（　5日）	１０人	１４人	100%
	遺跡整備活用課程	1月１５日～　1月２５日（１１日）	１２人	１４人	100%
	竪穴建物遺構調査課程	2月　4日～　2月　8日（　5日）	１２人	１０人	100%
	地質環境調査課程	2月２１日～　2月２８日（　8日）	１２人	１６人	100%

計 13 課程　実施日数 132 日　受講者数/定員数 155 人/170 人　満足度 100%

【実績値】
実施課程数　13 課程
受講者数　155 人
受講者の満足度　100%

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２６０６

1．定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性		
判定	A	A	A	A		

備考
適時性：研修の需要・必要性、公共性、緊急性への対応
独創性：研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性
発展性：発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上
効率性：時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性

2．定量的評価

観点	研修実施回数	受講者数	受講者の満足度			
判定	A	B	A			

備考
実施課程数　13 課程
受講者数　170 人
受講者の満足度　80%以上

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本名年度の埋蔵文化財担当者研修は、当初予定した課程を全て実施している。 受講者は、当初予定した受講者数より、一割程度少ない受講者となった。 しかしながら、それら受講者に対し、アンケートをした結果、全ての受講者が、「有意義であった。」「役に立った。」と思っている旨回答を得ている。 これらのことから、総合的に判定し、Aと判定した。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	当年度は計画どおり１３課程の研修を実施し、受講者数は、年度計画の１７０人に対し１５５人であった。 研修受講者に対するアンケートでは、「今回受講した研修が『有意義だった』或いは『役に立った』」と『思う』との回答が１００%という結果であった。 研修の実施に当たっては、各課程の企画・運営について研修企画委員会を開催し、前回実施した研修結果の分析及び研修終了者のアンケート結果を基に、カリキュラム編成に係る意見交換を行い、研修内容の充実に努めており、今後も同様に対応していきたい。

【書式B】
（様式1）

No. ２６０７

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ７（２）２）	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお参加者などに対するアンケート調査を行い80%以上の満足度が得られるようにする。 また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間で実践的な連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。

【事業名称】	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修（Ⅰ７（２）②）

【事業概要】
近年、全国の博物館や美術館など文化財保存施設の多くにおいて、資料保存を担当する職員が配置されているが、専門教育を受けたものは少なく、また学ぶ機会も多くはないのが現状である。当研修は、資料保存担当者に、自然科学的見地からの文化財保存に関する基礎的かつ幅広い知識や技術の講義および実習を通じて学んでいただき、その資質の向上をもって文化財の保護に資することを目的とし、開催するものである。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター長　石﨑武志

【スタッフ】
佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英（以上、保存修復科学センター）

【年度実績概要】
昭和59年度の開始以来24回目となる「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を平成19年7月9日から7月24日の２週間実施した（参加者32名）。前半週では主に保存環境や生物被害対策に関する講義と実習を行い、後半週では、文化財の種類ごとの劣化と修復に関する講義を中心とするカリキュラム構成で研修を行った。保存環境実習の現場実践として行う「ケーススタディ」は横浜市歴史博物館で実施し、４人ずつ８班がそれぞれ実習テーマを設定し、温湿度や害虫管理などに関して調査を行い、結果を発表、質疑応答を行った。自然科学的な内容を主体とした研修であるため、人文系を専門とする者が多数を占める学芸員にとっては難解な面もあるが、講師の工夫により、体系的かつ実践的に理解していただくよう工夫しており、参加者からは好評を頂いた。
また、受講経験者を対象に、最新の保存技術に関する研究成果などに関する情報提供を目的として行う「保存担当学芸員フォローアップ研修」を10月29日に実施した（参加者62名）。今回のフォローアップ研修では、「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を過去に受講した方に勤務先での保存環境改善や総合的虫害管理（IPM）実践例を報告していただき、保存修復科学センターの研究職員が解説を行うという形をとった。その内容は、参加者にも共通した問題意識を内包したものであり、質疑応答では、それぞれの実情を反映した意見交換が活発に行われ、大変意義のあるものであった（満足度100%）
「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」は次年度で25回目という節目を迎えることから、これまでの研修内容などの変遷を総括した報告を『保存科学』第47号誌上に掲載した。

【実績値】
実施回数　1回
研修受講者数　32名
受講者の満足度　100 %（アンケート回収率　90 %）

【備考】
１．学芸員研修応募要綱
２．フォローアップ研修プログラム
３．吉田直人、佐野千絵、石﨑武志、三浦定俊　「25年目を迎える保存担当学芸員研修」『保存科学』第47号、pp. 253-261，08. 3

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２６０７

1．定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考						

2．定量的評価

観点	研修参加者数	研修参加者満足度				
判定	A	A				
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	結果を総合的に判断し、この判定とした。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	計画通り進捗している。次年度も同様に進めることが望ましいと判断した。

【書式B】
（様式1）

No. ２６０８

業務実績書

中期計画の項目（Ⅰ４（２））	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお参加者などに対するアンケート調査を行い80%以上の満足度が得られるようにする。 また東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間で実践的な連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。

【事業名称】	連携大学院教育　東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）（Ⅰ７（２）③）

【事業概要】
1995（平成7）年４月より東京藝術大学大学院と連携して大学院教育を行い、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学教室は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の二講座から成っている。各講座３名ずつの研究所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	副所長　三浦定俊

【スタッフ】
石﨑武志、早川泰弘、木川りか、川野邊渉、中山俊介（以上、保存修復科学センター）
鈴木規夫（所長）
松島朝秀（東京藝術大学非常勤助教）

【年度実績概要】
次に上げる講義と演習を各教官が担当した。
文化財保存学演習（中山）、保存環境計画論（三浦）、保存環境学特論（石崎、木川）、修復計画論（川野邊）、
修復材料学特論（中山、早川）
保存環境計画論では、文化財を劣化させる熱・水分・光・汚染空気・生物などが文化材の材質にどの様な影響をあたえるか、劣化を防ぐためにどうすれば良いか、また文化財の公開に関する法規制等の講義を行った。
保存環境学特論では、博物館展示室や収蔵庫などの室内におかれた文化財や、屋外に展示されている文化財の保存方法について、主に温湿度の制御や生物被害対策の最新の研究成果を中心に講義、実習を行った。
修復計画論では、合成樹脂の文化財への応用についてのこれまでの使用例を解説する講義と、合成樹脂を実際に用いて基礎的な実験を行い、その特性について学ぶ実習を行った。
修復材料学特論では、近代文化遺産の保存科学と文化財資料の保存修復作業およびそれに伴う各種分析等についての講義を行った。

【実績値】

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

№. ２６０８

1．定性的評価

観点	発展性	効率性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2．定量的評価

観点						
判定						
備考						

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究現場から得られる新しい情報を加えるなど、学生にとって有益で高い水準の内容の授業や演習を行うことができた。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	年度当初に予定した授業・演習計画通り、事業は進捗した。 今年度で三浦教官が退職するので、来年度は新たに佐野千絵室長を連携教員として予定している。

【書式B】
（様式1）

№. ２６０９

業務実績書

中期計画の項目 （Ⅰ7(2)）	文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、８０%以上の満足度が得られるようにする。また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する

【事業名称】	京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進　（Ⅰ7(2)③）

【事業概要】
大学院教育の豊富化、社会との連携強化、人材養成を図るため、京都大学大学院人間・環境学研究科及び奈良女子大学大学院人間文化研究科と協定を結び連携・協力し、文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた研究者及び技術者の育成を行っている。

【担当部課】	奈良文化財研究所	【事業責任者】	所長　田辺征夫

【スタッフ】
光谷拓実、山中敏史、肥塚隆保、松村恵司（京都大学客員教授）　　窪寺茂、松井章（京都大学客員准教授）
小林謙一、渡邉晃宏（奈良女子大学客員教授）　　次山淳（奈良女子大学客員准教授）

【年度実績概要】
それぞれ次の内容の講義を大学及び奈良文化財研究所において担当した。

●京都大学大学院人間・環境学研究科

山中敏史、松村恵司、窪寺茂（文化財調査論１）各種の遺跡・歴史的建造物・庭園などの不動産文化財や、遺跡から出土した各種考古遺物や伝世された古文書などの動産文化財を対象資料として取り上げ、それぞれの文化財資料の特性に応じた分析的調査研究法を追求し、文化財と諸環境との関わりについて考える。

山中敏史、松村恵司、窪寺茂（文化財調査論２）各種の遺跡・歴史的建造物・庭園などの不動産文化財や、遺跡から出土した各種考古遺物や伝世された古文書などの動産文化財を対象資料として、考古学・建築史学・庭園史学・地理学・文献史学などの諸分野における研究成果を総合化しながら、文化財の歴史的意義、文化財の保存と活用に関する諸問題について考察する。

光谷拓実、肥塚隆保、松井章（環境考古学論１）古代の人々はいかなる環境下で生活し、文化を築いてきたか、年輪年代学や考古学的分析手法を通して古環境の復元的研究を行う。年輪年代法では、古年輪の暦年標準パターンデータを使って、考古学、建築史、美術史などの歴史学の編年研究に資する方法について考察する。さらに埋没樹幹の年輪年代から過去の地震や火山噴火等の発生年代を明らかにし、自然災害史を紐解くと共に当時の人々の対応のあり方を追求し、災害予知に関する研究もおこなう。また、考古学分野では、遺跡から出土する動植物遺存体などを分類・分析する基本的技術を習得させ、動植物利用の実態や人類による自然への働きかけ（適応・改変・破壊）の様相や変化を探る。

光谷拓実、肥塚隆保、松井章（環境考古学論２）年輪年代法では、木質古文化財から多量の年輪データを収集し、年代を一年単位で割り出す際に基準となる古年輪の暦年標準パターンを作成する。これを使った歴史学への応用研究を行う。さらに埋没樹幹の年輪年代から過去の地震や火山噴火等の発生年代を明らかにし、災害予知に関する研究もおこなう。また遺跡から出土する動植物遺存体・木材・花粉などについて自然科学的手法も採用しながら分析し、遺跡出土遺存体の意義や、周辺の古環境復元や人類と環境との関わり方の様相や変化を明らかにする。

山中敏史、松村恵司、窪寺茂（文化遺産学演習１）文化財には、土地に構築された土地から切り離せない不動産文化財と、持ち歩ける動産文化財とがある。そうした各種文化財について、実際の資料整理や分析などの実習や文献の釈読作業などを通じて、調査分析方法を習得させ、文化財の歴史的意義についての理解を深めさせる。

光谷拓実、肥塚隆保、松井章（文化遺産学演習２）発掘された遺構や考古資料などの保存修復や活用のための理化学的方法や各種の自然科学的方法を駆使した文化財の分析技術を習得させるとともに、動植物遺存体などを主とした考古資料の調査や古環境復元を通じて、環境と人間との関わりを追究する。

●奈良女子大学大学院人間文化研究科

小林謙一（日本考古学の諸問題）日本の国家形成過程おいて重要な位置を占めると考えられる古墳時代を中心に、日本考古学の現在までの研究成果と課題について論じ、あわせてそれに関連する分野や韓国・中国考古学の成果にも言及する。

渡邉晃宏（歴史資料論）文献史料だけでなく多様な資料が歴史資料として注目されるようになってきた今日、従来の枠組みにとらわれない新しい歴史資料論が必要となってきている。中でも考古学による調査成果、特に木簡、漆紙文書、墨書土器などの出土文字資料が歴史資料に占める位置づけは格段に大きくなってきた。このような新しい歴史資料を視野に入れながら、新しい日本史の歴史資料論の構築を目指す。

次山淳（歴史考古学特論）平城宮・平城京における考古学的な調査研究成果を主な素材として、考古学の研究方法と、歴史考古学研究の現状および課題について古代を中心に論じる。奈良文化財研究所において実際に出土資料を手にしたり、遺構図を検討しながら、考古資料を歴史資料として活用するための、研究方法の資料への適用を具体的に検討する。また、文献史学、地理学、建築史学、美術史学、民俗学など関連諸分野の成果についても言及する。

【実績値】
受入学生数　京都大学　　修士・博士課程１０名　　奈良女子大学　博士課程３名

【備考】

（様式2）

自己点検評価調書

No. ２６０９

1．定性的評価

観点	効率性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			

備考
効率性：研究水準の社会的評価
適時性：時代の要請
発展性：若手研究者層の充実、人材確保

2．定量的評価

観点	受入学生数					
判定	A					

備考

3．総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材の育成を順調に行うことができたので、A と認めたものである。

4．中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	連携大学と協定を締結し、継続的に実施している。

【書式B】
（様式３）

№　２００１－１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ４（１）①）	文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。

【事業名称】	四万十市の文化的景観保全計画策定委託業務（Ｉ４（１）①ア）

【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　内田和伸

【スタッフ】
惠谷浩子、高瀬要一、平澤毅、栗野隆、宮城俊作（奈良女子大学）

【年度実績概要】

平成 18 年度からの５カ年計画の中で、現地調査などを含め具体的に取り組む文化的景観の調査研究対象を四万十川流域とし、高知県内同流域１市４町の調査をおこなった。１市４町は文化的景観保存活用事業として国の補助事業が開始され、“四万十川流域の文化的景観”として同時に重要文化的景観の選定を受けるべく準備を進めている。そのうち、四万十市・梼原町については平成 18 年度から、四万十町については平成 19 年度から、それぞれ四万十川流域の文化的景観の保存活用事業に関わる受託調査を実施してきた。

四万十市における調査において、河川地区では四万十川で行われる伝統漁法の風景、洪水時には水面下に没することがある沈下橋の景観などの現地調査をおこなった。最河口部の下田地区は、陸運が盛んになる前、流域の物資が舟運によって集積した集落である。民家の石垣や土台に亀甲積みの石積みが用いられたり、大阪で焼かれた煉瓦が塀に用いられるなど、栄えた頃の面影をみることができる。かつて河口部で堆積した砂利を用いたバラスブロックが作られ、現在も町中の塀に多く残り、河口部独特の景観を呈しており、保存計画を提案した。

【実績値】
『四万十川流域の文化的景観保存活用事業報告書』四万十市、2008.3
四万十市における四万十川流域の文化的景観７地区における景観構成要素各１式

【受託経費】
1,400 千円

【書式B】
（様式３）

№　２００１－２

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（１）①）	文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。

【事業名称】	四万十町の文化的景観の調査（Ｉ４（１）①ア）

【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　内田和伸
【スタッフ】 惠谷浩子、高瀬要一、平澤毅、栗野隆、宮城俊作（奈良女子大学）			

【年度実績概要】

平成 18 年度からの５カ年計画の中で、現地調査などを含め具体的に取り組む文化的景観の調査研究対象を四万十川流域とし、高知県内同流域１市４町の調査をおこなった。１市４町は文化的景観保存活用事業として国の補助事業が開始され、“四万十川流域の文化的景観”として同時に重要文化的景観の選定を受けるべく準備を進めている。そのうち、四万十市・椎原町については平成 18 年度から、四万十町については平成 19 年度から、それぞれ四万十川流域の文化的景観の保存活用事業に関わる受託調査を実施してきた。

四万十町は、四万十川中流部に位置する町である。水量の豊富なことから陸運が発展する近代までは河川交通の中継点として栄えた集落もある。舟運の安全を祈願した四万十川最大の中州・三島の調査、本流に堰を設けて河岸の台地上で灌漑をした水路の調査、国有林の伐採で栄えた集落の調査などをおこなった。

【実績値】

『四万十川流域の文化的景観保存活用事業報告書』四万十町、2008.3

四万十町における四万十川流域の文化的景観７地区における景観構成要素各１式

【受託経費】

1,400 千円

【書式B】
（様式３）

№　２００１－３

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（１）①）	文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。

【事業名称】	栫原町文化的景観保存調査委託業務（Ｉ４（１）①ア）

【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　内田和伸

【スタッフ】
惠谷浩子、高瀬要一、平澤毅、粟野隆、清水重敦、宮城俊作（奈良女子大学）

【年度実績概要】

平成 18 年度からの５カ年計画の中で、現地調査などを含め具体的に取り組む文化的景観の調査研究対象を四万十川流域とし、高知県内同流域１市４町の調査をおこなった。１市４町は文化的景観保存活用事業として国の補助事業が開始され、“四万十川流域の文化的景観”として同時に重要文化的景観の選定を受けるべく準備を進めている。そのうち、四万十市・栫原町については平成 18 年度から、四万十町については平成 19 年度から、それぞれ四万十川流域の文化的景観の保存活用事業に関わる受託調査を実施してきた。

栫原町は、四万十川最大の支流、栫原川の中・上流部に位置する山間の町である。河川地区には小規模な沈下橋が多く分布する。沈下橋が架けられる前は一本橋があり、出水で流されるたび橋桁に橋板を戻すことになるが、戻しやすい水量を計る計り石なども多く残されており、川と生活の関わりがわかる。棚田地区では、棚田オーナー制度発祥の地となった神在居の棚田を中心に調査をおこなった。森林地区では、地域の生業である林業の変遷等をまとめ、国有林を中心に価値付けをおこなった。高原地区では、四国カルストに位置する夏山冬里方式の放牧形態をとる牧場地の成立と現況を明らかにした。

【実績値】
『四万十川流域の文化的景観保存活用事業報告書』四万十市、2008.3
栫原町における四万十川流域の文化的景観５地区における景観構成要素各１式

【受託経費】
1,585 千円

【書式B】
（様式３）

№　２００７－１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）②ⅴ）	歴史的建造物の保存・修復・活用に関し重点物件に係る調査・研究を通じた基礎データの収集整理・公開

【事業名称】	高知県中芸地区森林鉄道遺産国指定物件調査（Ⅰ４（１）②オ）

【担当部課】	文化遺産研究部	【事業責任者】	建造物研究室長　窪寺茂

【スタッフ】
島田敏男・黒坂貴裕・栗野隆・西田紀子・大林潤

【年度実績概要】
今年度も昨年度に引き続き、森林鉄道本線部の悉皆調査をおこない、本線部における森林鉄道に関する遺構の位置の特定・規模の測量・写真撮影をおこない、本線部の現況を明らかにした。調査物件は 260 件にのぼり、当森林鉄道については、遺構の残存情況が頗る良いことがあきらかとなった。同時に、重要遺構については、調書作成・実測・大判写真撮影をおこない、その特徴を明らかにした。調査対象物件は、隧道６件、トラス橋４件、石造橋１件、コンクリート橋２件、橋遺構３件である。また、資料調査をおこない、森林鉄道建設の経緯および、森林鉄道建設に関わった技術者の系譜をあきらかにした。

さらに、今後の森林鉄道遺産の保存・活用を目指して地元がおこなった、シンポジウム等に参加し、地元の団体とともに、保存・活用の方策を検討した。

これら、調査・検討および、保存方策の検討の成果をまとめ、『高知県中芸地区森林鉄道遺産　調査報告書』として刊行した。

【実績値】
論文掲載数：１件（西田紀子「高知県中芸地区の森林鉄道遺産」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6）
刊行物：１冊（中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会『高知県中芸地区森林鉄道遺産調査報告書』2008.3）
収集資料点数：野帳８０枚、写真データ 800 点

【受託経費】
2,830 千円

【書式B】
（様式３）

№.　２００７－２

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ⅰ４（１）②ⅴ）	歴史的建造物の保存・修復・活用に関し重点物件に係る調査・研究を通じた基礎データの収集整理・公開

【事業名称】	平成 19 年度京都府近代和風建築総合調査事業（Ⅰ４（１）②オ）

【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	建造物研究室長　窪寺茂

【スタッフ】
清水重敦、島田敏男、金井健、大林潤、栗野隆、箱崎和久、黒坂貴裕、番光、西田紀子、チェ・ゴウン（日韓交流基金フェロー）、松本康隆（都城調査部派遣職員）

【年度実績概要】

本事業は、明治以降、昭和 20 年代までに建設された和風建築、すなわち近代和風建築につき、文化庁による国庫補助を得て都道府県単位で実施されている総合調査の一環で、京都府教育委員会を事業主体として平成 18 年度から３年間の計画で実施しているものである。本年度は、２年間にわたり計画されている二次詳細調査の１年目であり、京都府教育委員会より当研究所が受託調査研究として業務委託を受け、調査を実施した。

調査対象物件は、学識経験者により組織される京都府近代和風建築総合調査委員会での議論を経て決定された 200 件余りより、今年度分として 153 件を選定した。対象となる建造物は、住宅建築、宗教建築、商業建築、公共建築など多岐にわたるもので、当時建設された建造物のほぼすべての建築類型を網羅し、かつ、一部町村を除き、京都府内の市町村全域に分布している。

調査内容は、①建築的特徴を記録する調査票の作成、②建物平面図、配置図野帳の作成、③35mm カメラによる写真撮影、④大判及び中判カメラによる写真撮影、⑤関連調査、の５項目である。①の調査票は、主要な建造物１棟につき１枚ずつ作成したため、総数は 214 枚に及んだ。②の平面図は２階建て以上の建物については各階平面図を作成したため、総数は 367 枚に及んだ。③の 35mm カメラによる撮影枚数は、１棟につき 50 点程度を撮影している。④のうち、中判カメラ撮影は、１棟につき１ないし２枚を撮影し、大判カメラは代表的な建造物 18 棟を選定し、カラー及びモノクロの４×５判フィルムで撮影した。⑤の関連調査では、各建造物及び建設関係者の背景につき、文献等で追跡調査を実施した。

調査内容の概要につき、平成 20 年３月 24 日開催の京都府近代和風建築総合調査委員会において報告をおこなっている。

今年度の成果品として、以上の調査成果のうち①調査票及び②建物平面図、配置図等野帳を、委託者である京都府教育委員会に納入した。

【実績値】

調査件数：153 件、214 棟

収集資料：調査票 214 枚、平面図野帳 367 枚、配置図野帳 196 枚、35mm カメラ写真 11,450 点、中判カメラ写真 200 点、大判カメラ写真 25 点

発表資料：「京都府近代和風建築総合調査中間報告」（平成 19 年度京都府近代和風建築総合調査委員会報告資料）

発表論文等：清水重敦「京都府近代和風建築総合調査」（『奈文研ニュース』28 号、2008.3）

【受託経費】

2,605 千円

【書式B】
（様式３）

№.　２００８―１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（１）③）	我が国の古典芸能及び伝統的工芸技術等の無形文化財の伝承実態を把握するとともに、その伝承・公開の基礎となる技法・技術を明らかにする。

【事業名称】	文化遺産保護国際貢献事業　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（Ｉ４（１）③）

【担当部課】	無形文化遺産部	【事業責任者】	部長　宮田繁幸

【スタッフ】
鎌倉惠子、高桑いづみ、飯島満、俵木悟（以上無形文化遺産部）、星野紘、上野智子（以上客員研究員）

【年度実績概要】

本事業は、アジア地域を中心とする無形文化遺産の保護に関する海外研究機関との研究交流を通じて、既存保護事業の企画・実施・評価等の経験を共有するとともに、その分析を通じてよりよい保護事業のあり方を検討し積極的に提言し、将来的なアジアにおける無形文化遺産の国際的研究交流の基礎を構築する事を目指したものである。

今年度は、ユネスコの無形文化遺産保護条約政府間委員会や専門家会合及びアジア地域で行われたワークショップなどに出席して、各国の取り組み及び国際的な枠組み形成についての情報を積極的に収集するとともに、モンゴル、インドネシアについては、その保護の体制や現状について現地調査を実施した。

また、中国とヴェトナムから関係研究機関所属の専門家を招聘し、以下のように研究会を実施した。

「アジア無形文化遺産保護研究会」
日　時：平成20年3月13日
会　場：東京文化財研究所会議室
発　表：１　日本の無形文化遺産保護の現状　無形文化遺産部　宮田繁幸
２　中国における無形文化財保護の主なモデルー中国無形文化財保護の体系および現状ー　中国芸術研究院　苑利
３　東京文化財研究所の無形文化遺産保護のための取り組み　無形文化遺産部　俵木悟
４　モンゴルの研究交流協議についての報告　無形文化遺産部　飯島満
５　ヴェトナムにおける無形遺産保護の評価　ヴェトナム文化情報研究所　Bui Hoai Son

なお、この協議の内容は報告書にまとめ、刊行した。

【実績値】
報告書刊行数　1

【受託経費】
8,000 千円

【書式B】
（様式３）

№　２００９－１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	平城京左京二条三坊（第４２０次）の発掘調査（Ｉ４（１）⑤ア）

【担当部課】	都城発掘調査部　平城地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二

【スタッフ】
森川　実、牛嶋　茂

【年度実績概要】

店舗建て替えに伴う発掘調査。調査地はネッツトヨタの敷地内で、平城京の左京二条三坊六坪にあたる。調査地のすぐ西側では平城第164次調査が、東側では第215次調査が実施されており、今回はこれら既調査地の間で発掘調査をおこなうかたちとなった。

調査地付近では盛土が2.5mと厚く、この下位に耕作土・床土がある。床土の直下には洪水砂が、その下位に灰色粘土、暗褐色土が続く。遺構検出面は暗褐色土の上面（標高約61.9m）である。実質的な調査面積は約90㎡。

第420次調査で検出したおもな遺構は下記の通り。

SB9170　調査区の東壁に沿って南北に並ぶ３基の柱穴であるが、検出できたのはこの建物の西南隅に限られる。柱穴は3.0m（10尺）間隔で並び、中央の柱穴には柱根が、南端の柱穴には礎板が残っていた。

SB9171・9172　調査区の北半部～南半部で検出した４基の柱穴で、南北に並んでいる。一列の柱列を構成するようにもみえるが、真中の柱間隔がやや広く、この部分は5.6mである。一方、これ以外の柱間隔は4.8～5.0m（16尺に近似）で、京内の掘立柱建物の梁行に近い。そこで、今次調査では不明確な部分も多いが、柱穴を北側・南側で２基ずつまとめ、それぞれを掘立柱建物（東西棟）の一部と考えておきたい。

SB9173　調査区の南半において南北に並ぶ３基の柱穴で、東西棟建物の妻柱筋にあたると推定。ただし、建物が西へ延びるか、東へ展開するかは不明。柱穴の一部はSD9176に破壊され、このためSD9176より古い建物であるといえる。

SD9176　西排水溝に沿って延びる素掘りの南北溝。調査区の中央から南端にかけて検出。

SD9177　東西方向の流路で、調査区南端でその一部を検出。

今次調査では、近隣での調査と同様に掘立柱建物の一部を検出し、左京二条三坊六坪の南部の状況について知見をくわえることができた。

【実績値】

出土品　　土器コンテナ４箱、軒丸瓦１点、丸瓦 18 点、平瓦 113 点
記録作成　実測図６枚、写真（４×５）２枚
論文　　森川　実「左京二条三坊六坪の調査―第 420 次」『奈良文化財研究所紀要 2008』（予定）

【受託経費】

1,964 千円

【書式B】
（様式３）

№.　２００９－２

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	旧大乗院庭園（第４２４次）の発掘調査（Ｉ４（１）⑤ア）

【担当部課】	都城発掘調査部　平城地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二

【スタッフ】
城倉正祥、島田敏男、牛島茂、中村一郎

【年度実績概要】

本調査は、西小池復原整備工事に伴う補足調査で、調査地は西小池南西の旧建物基礎内部（西調査区）及び、西小池の南池東岸部分（東調査区）の２箇所である。調査期間は 2007 年９月 10 日から９月 19 日まで、調査面積は 27.8 ㎡である。そのうち、西調査区は 390 次調査で検出した鎌倉～室町時代のＳＢ8983 の西側の続きを確認することを主目的として調査したが、近代に標高 89.5ｍまで大きく削平されている事が判明、顕著な遺構は検出できなかった。

東調査区は、310 次・352 次調査の土層観察用畔部分だが、西小池南側が大池方向と池尻方向の二股に分かれる岬に位置するため、汀線と護岸状況の確認を目的として調査した。基本層序は、上から表土、現代盛土、近代客土、堆積土、護岸時の盛土となっている。堆積土の上面で土坑を検出、土坑からは近世前半の軒平瓦が出土した。

堆積土を除去すると、調査区のほぼ中央で護岸の基底石を確認し、汀線を確定できた。護岸は、径約 20～30ｃｍ大の礫を積み上げているが、大型礫の下には小礫が大量に確認でき、裏込めをしながら比較的急傾斜で礫を積み上げた事がわかる。一方、池底には、径 5～10ｃｍほどの小礫を敷いているが、敷石面は基底石から 1.5ｍほど続いたところで途切れ、そこから急激に池底に向って深くなっている。

今回の調査では、西小池南西の旧建物基礎内が近代に大きく削平されていた状況、及び西小池東岸の汀線と護岸状況を確認した。昨年度までの調査成果と合わせることで、西小池の全体像が明らかになった。

【実績値】

出土品　　土器類１箱　軒平瓦２点　丸瓦８点　平瓦 121 点　鉄板１点　鉄パイプテント支脚１点　竜一銭銅貨１点　貝１点　蓋板１点
記録作成　遺構実測図３枚　写真 31 枚（4×5）
論文　　城倉正祥「旧大乗院庭園（424 次）の調査」『奈良文化財研究所紀要 2008』（予定）

【受託経費】

1,099 千円

【書式B】
（様式３）

№　２００９－３

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	法華寺旧境内（第４２６次）の発掘調査（Ｉ４（１）⑤ア）

【担当部課】	都城発掘調査部　平城地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二

【スタッフ】
西口壽生、和田一之輔、栗野隆、浅野啓介、牛島茂

【年度実績概要】
法華寺旧境内に北接する一条条間路上に新築が計画された共同住宅に伴う事前調査として、一条条間路北側溝想定位置に南北６m、東西２mの調査区を設けて実施した。調査は2007年10月１日に地区設定し、上土除去、遺構検出、写真撮影、実測を経て、10月10日の器材撤収を以て終了した。調査地は2007年12月の第417次調査地の東約10mに位置する。結果、地表下約１mまでが近世の土器を含む包含層で、調査区北端に幅２m以上の近世の溝状土坑、南端には幅広く深い近世の弧状溝を検出した。北側溝については溝状土坑でその大半が壊されているために、溝南岸から約１m分を確認できたにとどまる。側溝南岸の位置が第417次調査よりも約0.5m北寄りになるものの、一連の溝であることに疑いはない。なお、南端の弧状溝には、緩傾斜面の北壁裾に幅狭く浅い溝が伴い腐朽した木製棒状品が遺存しており、近世集落を囲む環濠の西南隅部である可能性がある。

【実績値】
出土品　土器類10箱（整理箱）、木製品２点、中近世軒丸瓦11点、軒平瓦２点、丸平瓦160kg、隅木蓋瓦１点
記録作成　実測図１枚、写真（４×５）４点
論文　西口壽生「法華寺旧境内（一条条間路）（第426次）の発掘調査」『奈良文化財研究所紀要2008』（予定）

【受託経費】
411千円

【書式B】
（様式３）

№.　２００９－４

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	法華寺旧境内（第４３０次）の発掘調査（Ｉ４（１）⑤ア）

【担当部課】	都城発掘調査部　平城地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二
【スタッフ】 渡邊晃宏、今井晃樹、大林潤、加藤雅士、城倉正祥、石村智			

【年度実績概要】

調査地は、法華寺境内の北隣で、現在は畑として利用している。調査は、集合住宅建設に伴う事前調査としておこなった。南北６ｍ、東西11m のＬ字型の調査区を設定し、調査開始後、奈良時代後半の遺物を多量に含む土坑を検出し、遺構の範囲の確認と遺物の取り上げを目的として調査区を南北に拡張した。

基本層序は、上から耕作土、暗褐色土（床土）、暗茶褐土（近代包含層）、黄褐土（遺構検出面・地山）となる。地表面から地山直上まで深さは約 35cm。

主な検出遺構は以下のとおりである。

SB01　調査区東半で検出した掘立柱建物。建物の北西隅部分で、桁行２間以上、梁行２間以上。柱間は約３m（10 尺）等間。柱穴掘形の平面は隅丸方形で、一辺 1.0～1.3m。北東の１基は直径約 30cm の柱痕が残存する。

SK02　調査区の西寄りで検出した土坑。東西約 4.2m、南北 4.3m を検出。南は近代の落込みで破壊されており当初の平面形状は不明。深さ約 30cm。土坑は２段掘りで、上段は北にいくほど浅くなり、調査区の北端ではほとんど削平されている。下段は南北に細長い楕円形で、底は凹凸があり平坦ではない。埋土は暗茶褐色粘質土で、土器・瓦などの遺物と炭片を多量に含む。特に土器は状態の良いものが多く含まれている。

SB03　SK02 を取り除いた下で検出した掘立柱建物。柱穴２基を検出した。柱間は約 3m（10 尺）。西側の柱穴は長辺 0.75m の楕円形で、人頭大の礎盤石２石を残す。東側の柱穴は一辺 1.0m の隅丸方形で、柱や礎盤石は抜き取られていた。

SX04・05・06・07　SX04 はSB01 の西で検出した掘立柱の柱穴。掘形は隅丸方形で一辺 1.0m。SX05 は、SK02 の下で検出した柱穴。掘形は隅丸方形で一辺 0.85m。SX06・07 は、調査区西辺で検出した柱穴。いずれも隅丸方形で、一辺はSX06 が 1.1m、SX07 が 1.4m。

【実績値】

出土品	土器・保管用コンテナ 80 箱、瓦類・軒丸８点、軒平３点、施釉瓦３点、丸瓦・平瓦コンテナ 46 箱。金属器等・佐波理椀１点、沙波理金具１点、銅滓、鉄滓、鋳
記録作成	実測図面５枚、4×５写真 10 カット、35 ㎜写真約 230 カット
論文	奈良文化財研究所「小規模調査等の概要」『奈良文化財研究所紀要 2008』（予定） 2009 年発行の『奈良文化財研究所紀要』でより詳しい報告を行う予定である

【受託経費】

966 千円

【書式B】
（様式３）

No.　２００９－５

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	喜光寺旧境内（第４３３次）の発掘調査（Ｉ４（１）⑤ア）

【担当部課】	都城発掘調査部　平城地区	【事業責任者】	副部長　山崎信二
【スタッフ】 加藤雅士、城倉正祥、大林　潤			

【年度実績概要】

喜光寺南門復元工事に先立つ調査である。調査地は喜光寺の現境内の南辺、および喜光寺が奈良県から払い下げを受けた旧公園地上に位置する。調査区は南北 13.65m、東西 14.95m で、面積は 204.07 ㎡である。調査は平成 20 年 2 月 18 日に開始し、3 月 12 日に埋め戻しを完了した。

調査区内は現境内と旧公園地で様相が異なり、旧公園地に対応する部分では、耕作溝等を検出したものの、水田による削塀を受けており明瞭な遺構を確認することはできなかった。これに対し、現境内地ではおもに近世とみられる遺構をいくつか検出することができた。

主な遺構として、地表下の最も浅いところ 45cm で瓦窯を 1 基検出した。全長が復元 4.4m(検出は 3.8m)、峠の高さ 45cm の達磨窯で、床、ロストル、焚口などのほか、上部構造物の堆積を確認した。達磨窯の西では長さ 3.35m、幅 1.4m、深さ 0.5m の土坑も検出している。土坑の底面には 2 枚の炭層があり、その上層には瓦と達磨窯の上部構造物が堆積している。灰原として数回利用された後、窯の上部構造物が廃棄されたものと考えられる。これらは出土した瓦から、近世前半のものとみられる。この他に、廃棄土坑や達磨窯構築以前のものとみられる土坑を数基検出している。

中・近世では、寺院の部分的な瓦の需要に対し瓦屋が現地に赴き瓦を制作されていたと考えられており、境内で達磨窯が発掘される類例がいくつかある。今回検出した達磨窯や廃棄土坑も、そうした一例と考えられる。喜光寺は奈良時代に創建された歴史ある寺であるが、今回の調査は、その歴史のなかでも、比較的新しい一部分を明らかにすることができた。

【実績値】

出土品　窯壁・焼土プラスチックコンテナ 45 箱、瓦プラスチックコンテナ 31 箱、土器プラスチックコンテナ 2 箱
記録作成　遺構実測図 11 枚、写真（４×５）43 枚
論文　奈良文化財研究所「小規模調査等の概要」『奈良文化財研究所紀要 2008』(予定)
2009 年発行の『奈良文化財研究所紀要』でより詳しい報告を行う予定である

【受託経費】

2,659 千円

【書式B】
（様式３）

№　２０１３－１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建築物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	甘樫丘平吉遺跡北方の発掘調査（Ｉ４（１）⑤ア）

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長　巽淳一郎

【スタッフ】
玉田芳英、番　光、高田貫太、竹本　晃、青木　敬、井上直夫、岡田　愛

【年度実績概要】
過去の調査において建物群や炉を検出した甘樫丘平吉遺跡の北方地域において、国営公園整備にともない実施した事前調査。飛鳥川の氾濫原を確認し、古代の遺構は既に削平されている可能性が高いことが判明した。調査面積は202㎡、調査期間は2007年９月３日～９月21日。

【実績値】
論文等数１件（都城発掘調査部「飛鳥・藤原宮跡等の調査概要」『奈良文化財研究所紀要2008』2008.6）
出土品調査数　土器コンテナ１箱、垂木先瓦１点、軒丸瓦１点、丸・平瓦コンテナ１箱
記録作成数　実測図12枚、写真（４×５）４枚

【受託経費】
2,826千円（受託研究分）

【書式B】
（様式３）

№.　２０１３―２

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建築物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	藤原京横大路の発掘調査（Ｉ４（１）⑤ア）

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長　巽淳一郎

【スタッフ】
番　光、玉田芳英、高田貫太、竹本　晃、青木　敬、井上直夫、岡田　愛

【年度実績概要】

大和信用金庫八木支店建設に伴う事前調査。2007 年 7 月に橿原市教育委員会が行った試掘調査の結果を受け、遺構の詳細を解明するために実施した。調査地は、藤原京右京一条五坊北西坪にあたり、約 75m 西において、1992 年に橿原考古学研究所が、奈良地方法務局の建設に伴う新益京横大路関連条坊右京一条六坊の調査を行い、横大路南側溝を確認していることから、今回の調査地においても横大路南側溝の検出が期待された。調査面積は 260.7 ㎡、調査期間は 2007 年 9 月 11 日～10 月 30 日。

調査の結果、横大路南側溝を 1992 年の橿考研の調査から想定した位置で確認した。横大路南側溝は、新旧の２条が存在し、南側が古く藤原宮期であり、北側が新しく藤原宮期末～奈良時代であることを遺構の重複関係と出土土器から確認した。これは初めての検出例であり、この地では横大路南側溝が奈良時代に付け替えられ、道路の幅員を狭めた可能性が高いことを示している。藤原京期から奈良時代にかけての横大路のあり方とその性格に重要な知見を加えたと言える。また、横大路南側溝の南側においても東西溝２条とそれらにはさまれた整地層を検出した。これらは何らかの閉塞施設である可能性がある。さらに、右京一条五坊北西坪内でも藤原宮期の建物等を検出し、坪内の状況についても手がかりが得ることができた。

【実績値】
論文等数２件（番　光　「右京一条五坊の調査－第 149-5 次」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6、番　光　「横大路南側溝の調査（飛鳥藤原第 149-5 次）」『奈文研ニュース№27』2007.12）
出土品調査数　瓦 14 点、土器コンテナ 12 箱、金属製品２点、石包丁１点、加工木小型コンテナ５箱、動物骨９袋
記録作成数　遺構実測図 14 枚、遺構写真（４×５）10 点

【受託経費】
5,390 千円（受託研究分）

【書式B】
（様式３）

№　２０１３―３

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建築物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	藤原京本薬師寺跡の発掘調査（Ｉ４（１）⑤ア）

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長　巽淳一郎

【スタッフ】
丹羽崇史、次山　淳、黒坂貴裕、小田裕樹、関広尚世、井上直夫、岡田　愛

【年度実績概要】

本調査は、近畿農政局による埋設管付替工事に伴う事前調査である。調査地は、橿原市城殿町のポリテクセンター北側の南北道路上で、本薬師寺金堂跡より西二坊大路をはさんで南東約 180m の地点に位置する。調査対象域は、新規埋設管の掘形に合せた東西幅 1.7m・南北長約 60m にわたる範囲である。そのなかで調査不可能な場所が２ヶ所あるため、調査区を３区に分けて発掘を行い、北から順に北区、中区、南区とした。調査面積は計 80.75 ㎡である。調査期間は平成 19 年 11 月 20 日～12 月６日。

北区は耕作溝のほか、柱穴の可能性のある土坑を３基検出した。出土遺物は土師器、須恵器、弥生土器などである。中区は石組溝や礫の集積などを検出した。石組溝は中区中央部で検出し、幅約 30cm の東西溝で、側石は風化している。礫の集積は中区北側で検出し、軒丸瓦や土器が伴っている。石組溝は中世の遺物が出土した南北方向の溝によって一部壊されている。また、柱痕跡を伴う柱穴も１基確認している。出土遺物には、土師器、須恵器、瓦（軒瓦２点含む）のほか、銅銭（北宋 1056 年初鋳の嘉祐元寶）、羽釜、擂鉢、瓦器、青磁、弥生土器などがある。南区では、弥生時代後期～終末期と思われる流路を検出した。昭和 51 年の本薬師寺１次調査および平成８年の 1996－1 次調査で検出した流路の上流部分かと思われる。流路北側が南区から外れるため、幅は確認できなかった。なお、南区は八条大路の北端部と重なっているため北側溝の検出が期待されたが、確認できなかった。後世に削平されたものと考えられる。流路より弥生土器片（後期から終末期ごろ）が出土している。以上のように、本調査では石組溝や礫集積、柱穴のほか、弥生時代の流路を確認することができ、弥生時代、古代、中世を通じての当地の土地利用状況の変遷の一端を明らかにすることができた。また、古代の土器のほか軒瓦片２点が出土し、古代における本薬師寺の周辺部の状況を考えるうえでも重要な資料を得た。

【実績値】
論文等数１件（丹羽崇史「右京八条二坊の調査－第 149-7 次」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6）
出土品調査数　土器コンテナ２箱、瓦（軒丸瓦１点、軒平瓦１点、平瓦 54 点、丸瓦 12 点）、銅銭　１点、石製品　１点
記録作成数　実測図 14 枚、写真(4×5)　22 枚

【受託経費】
3,000 千円（受託研究分）

【書式B】
（様式３）

№.　２０１３―４

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建築物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	藤原京山田道の発掘調査（Ｉ４（１）⑤ア）

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長　巽淳一郎
【スタッフ】 青木　敬、豊島直博、市　大樹、石田由紀子、番　光、井上直夫、岡田　愛			

【年度実績概要】

過去の調査において、道路遺構等を検出した山田道において、大和平野国営東部幹線水路等改修工事（山田サイホン）にともなう発掘調査を実施した。調査面積は 119.35 ㎡、調査期間は平成 20 年１月 25 日から２月６日、および３月３日から 11 日。

調査の結果、戒下川と考えられる旧河道もしくは戒下川につながる水路と推定される近世から近代にかけての流路跡 SD380、ならびに SD380 西側肩部に設けられた木杭と礫を使用する、いわゆる「枠工法」の護岸跡を確認した。さらに、護岸の外側、流路に沿って幅 70cm ほど榛原石による敷石面を確認した。また、SD380 内に堆積する砂層中から、古代から近代にかけての土器・木製品・瓦をはじめとする遺物が多数出土した。

出土遺物では瓦の量が圧倒的に多く、平瓦・丸瓦・垂木先瓦がみとめられるが、このうち垂木先瓦は山田寺のもので、垂木先 E 種と分類されるものである。同じく山田寺に使用された四重弧文軒平瓦片も出土している。丸瓦・平瓦は厚手の古代の個体がまとまって出土しており、形態などの特徴からみると、これらの大半が山田寺で使用された瓦と推定される。今回出土した山田寺の瓦が使用された堂塔まで特定できる資料は少ないが、垂木先瓦 E 種は金堂周辺から集中的に出土していることから、今回出土の垂木先瓦も、金堂に使用された可能性が高い。土器は古代に属するものはごくわずかで、主に中世の瓦器椀片と土師質皿片が多い。これに近世・近代の磁器片が若干混じるため、SD380 の時期推定の根拠とした。木製品は護岸に伴う杭と不明木製品からなる。遺物包含層は相当量の水を含んだ砂層で、遺物量が比較的多く、有機物などが残存することから、流路堆積砂について水洗選別をおこない、微細遺物などの回収作業を実施した。

調査成果として、近世から近代にかけての小規模流路における護岸の構造を明らかにしたことがあげられる。確認された護岸の工法は、近世初頭に始まったと考えられる「枠工法」の可能性が高く、出土遺物からみたＳＤ380 の時期推定とも矛盾しない。

【実績値】

論文等数１件（青木　敬「山田道の調査－第 149－９次」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.６）
出土品調査数　土器等コンテナ１箱、重弧文軒平瓦１点、垂木先瓦１点、丸瓦 151 点、平瓦 504 点、木製品等１箱、榛原石２点
記録作成数　実測図４枚、写真（４×５）１枚

【受託経費】

3,000 千円（受託研究分）

【書式B】
（様式３）

№.　２０１３―５

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建築物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	藤原宮東方官衙地区の発掘調査（Ｉ４（１）⑤ア）

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長　巽淳一郎
【スタッフ】 石田由紀子、豊島直博、市　大樹、青木　敬、番　光、井上直夫、岡田　愛			

【年度実績概要】

本調査は、農業用水路の改修工事に伴うものであり、橿原市教育委員会の委託を受けて実施した。調査地は高殿集落の西約 60mを北流する水路と重複し、約 60m西に所在する朝集殿北半分から朝堂院東面回廊をはさんで朝堂院第四堂南半分と平行する位置にある。調査区は事前の協議に基づいて、長さ約 114m、幅約 1.5～2m で設定した。調査面積は、約 240 ㎡。調査期間は、2008 年 1 月 30 日から 2 月 21 日。

調査区は、農業用水路と重複するために流水による浸食およびしがらみや木杭による攪乱が著しいが、調査区北半部で藤原宮期の整地層を確認するとともに、掘立柱建物 3 棟、古墳周濠 1 条を検出した。このうち 1 辺 1.2m以上の大型の柱穴をもつ掘立柱建物 2 棟は藤原宮期のものである。特に、調査区北端から約 15m 南に位置する SB10750 は東西棟、南北棟いずれの可能性もあるが仮に東西棟とすれば妻部分となり、両面庇もしくは四面庇の建物に復元できる。また、藤原宮期の整地層の下層から古墳の周濠を確認した。周濠は緩やかな円弧を描いており、幅は不明、深さは 30～50 ㎝。埋土に円筒埴輪片、須恵器、土師器を含む。なお、調査区北端部付近は、五条大路南側溝の想定位置にあたるが、水路による攪乱が著しく遺構は確認していない。

本調査は、水路による攪乱や狭長な調査区という制約があったものの、藤原宮期の遺構を複数確認し、朝堂院東方官衙地区の新たな知見を得ることができた。特に、当該期の大型掘立柱建物を 2 棟検出したことにより、五条大路以南の土地利用の一端を知り得たのは重要な成果である。また、藤原宮期の整地層の下層から古墳周濠を検出したことから、藤原宮造営にともなって、古墳周濠を埋め立てるなど大規模な土地造成をおこなっていた可能性が高いことも判明した。

【実績値】

論文等数 1 件（石田由紀子「朝堂院東地区の調査」『奈良文化財研究所紀要 2008』2008.6）
出土品調査数　軒丸瓦 3 点、丸・平瓦整理箱 2 箱、土器類（土師器・須恵器・円筒埴輪）整理箱 3 箱、木製品 1 点、寛永通宝 1 点、石器剥片 1 点
記録作成数　実測図 13 枚、写真（4×5）12 点
本調査の調査成果は、2008 年度の橿原市の概報にも掲載する予定である。

【受託経費】

4,826 千円（受託研究分）

【書式B】
（様式３）

№.　２０１３―６

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（１）⑤）	平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査・研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建築物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。

【事業名称】	秋田県胡桃館遺跡出土遺材の調査研究（Ｉ４（１）⑤ア）

【担当部課】	都城発掘調査部　飛鳥藤原地区	【事業責任者】	部長　巽淳一郎

【スタッフ】
島田敏男、窪寺 茂、箱崎和久、黒坂貴裕、大林 潤、山本 崇、大河内隆之、中村一郎、清水重敦、金井 健、粟野 隆、番 光、西田紀子、渡辺晃宏、馬場 基、浅野啓介、市 大樹、光谷拓実、牛島 茂、井上直夫

【年度実績概要】

秋田県北秋田市に立地する胡桃館遺跡は、昭和 42～44 年度に発掘調査がおこなわれ、４棟の建物（B1～B3 建物、C建物）と２列の柵列（A2・A3）、３本柱群２組（A1）が、いずれも地上から１～２mほどが建ったままの状態で発見されたことで有名である。それらの出土建築部材は、主として調査後に建設された収蔵庫に保管されてきた。発掘調査の報告書では、発掘成果として建築的特徴や技術的な観点からの言及もあるが、部材自体の実測図や図面が掲載されていないため詳細が不明であった。一方、平成 17 年には建物の扉板から経典読誦に関する墨書が、当研究所の赤外線カメラ撮影で明らかになった。また年輪年代学の観点からは以前にも調査がおこなわれていたが、今回はそれらも再調査し、収蔵されている部材に関する整理作業と基礎データの収集を目的とする調査をおこなった。

調査は、建築・史料・年輪年代学・写真のスタッフが共同しておこなった。整理作業の結果、胡桃館遺跡の出土部材は 412 点におよぶことが判明した。これら全点について赤外線カメラによる調査をおこなったが、新たな墨書資料の発見にはいたらなかった。年輪年代学による調査では、全点のなかから 23 点の部材を選別し、分析をおこなった結果、900 年を上限とする伐採年が想定された。これは既研究成果と齟齬がなく、十和田火山の噴火（915 年）によって埋没したと考えられる遺跡の年代とも合致する。部材の整理の結果、出土した部材の大半は収蔵されているものの、B1 建物と B3 建物の柱や、B2 建物の土居などについては、一部を除いて収蔵されていないことが明らかとなった。部材の実測調査は、建物ごとに対象を選別しておこなった。その数は、A1 柱群が４点（全６点）、A2 柵列が４点（全 11 点）、B1 建物が 42 点（全 147 点）、B2 建物が 40 点（全 71 点）、B3 建物が１点（全１点）、C建物が 39 点（全 69 点）である。これらは実測とともに部材ごとの全景および細部の写真を撮影した。長さ 13mにおよぶ長大なC建物の土居の調査に当たっては、北秋田市教育委員会の協力を得て、収蔵庫外に搬出して調査と写真撮影をおこなうことができた。以上の成果を『胡桃館遺跡出土建築部材調査報告書』として刊行した。

【実績値】
論文等数３件（奈良文化財研究所編『胡桃館遺跡出土建築部材調査報告書』北秋田市教育委員会、2008.3、山本 崇「胡桃館遺跡の出土木簡」『鷹巣地方史研究』61 号、2007.10、箱崎和久「胡桃館遺跡埋没建物と部材の意義」『鷹巣地方史研究』62 号、2008.4）

【受託経費】
3,596 千円（受託研究分）

【書式B】
（様式３）

№.　２０３１―１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ⅰ４ (2) ⑤）	遺跡出土の動植物遺体や古土壌の考古科学的分析により、過去の生業活動の解明と環境復元を行う。

【事業名称】	東名遺跡出土動物遺存体調査（Ⅰ４ (2) ⑤）

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	環境考古学研究室長　松井章

【スタッフ】
丸山真史（京都大学大学院 人間・環境学研究科博士後期課程）、永井理恵（奈良教育大学）

【年度実績概要】

本年度の動物遺存体調査は、第２次調査において第２貝塚⑨区から出土した資料の一部について行った。対象としたのは破片点数にして 1100 点で、そのうち種類と部位が同定できたのは、魚類 81 点、爬虫類 31 点、鳥類 3 点、哺乳類 370 点の計 476 点である。今回は、水産資源の利用に注目して考察を行った。

当時の東名遺跡は河口付近に立地し、周辺は干潟のような環境であったと推定されている。魚類の主体は内湾および河口域に生息するスズキとボラ科であり、沿岸域や河口域を好むクロダイ属、コチ科、ニベ科、河川に生息するコイ科も少数出土している。このことから、主な漁撈活動の場は内湾や河口域であったと考えられる。また、ムツゴロウに近似するハゼ科も出土しており、干潟における活動も推察される。

スズキの歯骨 12 点から体長を復原した結果、平均 54.5㎝で 30 ㎝以下の個体が確認されなかった。また、ボラ科の資料を奈良文化財研究所の標本（体長 35.5㎝）と比較した結果、標本よりも大きな個体が多数確認された。このように、本資料の魚類は大型の個体が多い傾向にある。

有明海沿岸に所在する縄文時代の貝塚から出土する魚類には、一般に縄文時代貝塚から多く出土するマダイが少なく、スズキ、ボラ科、クロダイ属が多いという特徴がある。こうした傾向は本資料とも一致する。また、東名遺跡を含めた有明海沿岸の４遺跡からスッポンが出土しており、利用のあり方が注目される。このように、東名遺跡はその規模や資料の豊富さだけでなく、有明海沿岸における縄文時代の生業を復原するうえでも重要な遺跡であるといえる。

陸産動物ではニホンジカとイノシシが多く出土しており、同定できた資料 476 点の 73.1%を占める。また、この両者のほかにもアナグマやノウサギなど 10 種類が出土しており、縄文時代早期の段階から幅広い動物資源を利用していたことが確認された。今後は水産資源とともに陸産資源の考察をすすめ、より鮮明な生業の復原を試みる。

【実績値】
同定および計測を行い分析した動物骨： 約 1,100 点

【受託経費】
650 千円

【書式B】
（様式3）

№. ２０４０―１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ７（1））	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

【事業名称】	初代南極観測船“宗谷”の文化財的価値及び保存修復に係わる調査研究（Ｉ４（３）⑥）

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター　副センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
中山　俊介（保存修復科学センター）
飯沼　一雄（財団法人日本海事科学振興財団）

【年度実績概要】
平成19年に南極観測50周年を迎えたわが国の南極観測事業の初代南極観測船として、第１次観測から第６次観測に至るまで、南極まで観測隊員と物資を運んだ“宗谷”の文化財的価値を検証するとともに現在船の科学館に係留展示されている現状を把握し、今後の保存修復に関する方針を探るべく調査研究を実施した。

１．文化財的価値の検証
・当時の文化を伝える存在であること。
・物として稀少であること。
・文化だけでなく、技術的にも希少であること。

の３つをキーワードに検証を進めた。

２．現状把握
・上からの漏水及び下からの浸水を調査すべく通常は実施されない水中の外板板厚計測などを実施した。
・船内の各所を目視にて観察し、現状を把握した。

３．保存整備に係る事項の検討
・今後の保存方針について
・修復場所について
・今後の修復方針について

以上を通じて“宗谷”の価値と保存修復に関する方針について報告書を作成した。

【実績値】
受託事業報告書　１件
本事業は財団法人日本海事科学振興財団から受託した。

【受託経費】
4,095千円

【書式B】
（様式３）

№　２０４１－１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ４（４））	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化保護政策上、重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務・前期（Ｉ４（４））

【担当部課】	副所長・保存修復科学センター（東文研） 都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）、埋蔵文化財センター（奈文研）	【事業責任者】	副所長　三浦定俊（東文研） 副所長　巽淳一郎（奈文研）
【スタッフ】 石﨑武志、犬塚将英、木川りか、佐野千絵、吉田直人、間渕創、川野辺渉、森井順之、加藤雅人（以上、東文研） 松村恵司、内田和伸、廣瀬覚、肥塚隆保、高妻洋成、降幡順子、脇谷草一郎（以上、奈文研）			

【年度実績概要】

平成 19 年度は 4 月初めから石室解体が始まったが、石室が不安定であったために支保工の設置など万全の対策を講じながら、解体作業と並行して石室細部の調査を行った。その結果、石材接合部に厚く塗られた目地漆喰や小口部の合欠、天井石と南北壁石の側面に穿たれた梃子穴、床石面の水平を出すために使用されたと思われる水準杭の痕跡などが見つかった。墳丘部にあった地震による亀裂は石室にまでいたっていて、この亀裂にそって植物の根が伸長して石室外面を覆っていた。また多くの虫が石室の外面に生じた版築の亀裂や、石材接合部の隙間から見つかった。

石室上部に設置した内部断熱覆屋内の設定温湿度は、10℃、90%に設定していたが、６月 26 日に西壁石１の取り上げが完了し、床石のみになったので、発掘の作業性を考慮して、同日に 15℃、80%に変更し、さらに７月２日に 18℃、70%に設定値を変えた。８月 21 日に床石の取り上げが完了したので、９月７日に内部断熱覆屋内の空調を止めた。

石室解体作業に際する壁画の養生作業はまず、複数の石材にまたがって塗られている目地部分の漆喰を取り外し、別置保存を行った。次に隣接する石同士の縁を切る作業を行った。その後、石材の移動の際に漆喰と顔料の剥落を防止するための表打ちを２層行った。表打の行えない天井石と北壁に関してはMC水溶液の噴霧にて漆喰層の強化を行った。仮保存修理施設に搬送されてきた石材を順次、施設の前室にて付着している泥や黴等を可能な限りクリーニングを行い、作業室に搬入した。その後表打ちの除去を行い、漆喰層の状態を継続観察した。

微生物による汚染の状態や分布を正確に把握するため、石室解体・搬出作業にあわせて試料採取と、壁画や作業環境のカビ汚染状況の監視、壁画や目地などの目視調査を行った。試料採取後には、カビ等微生物の作業空間への飛散を防ぐため、直ちに汚染面の消毒作業を行った。

高松塚古墳石室の解体作業に際して、事前調査、解体準備、解体作業、搬送の各作業段階において、ハイビジョン撮影によるビデオ記録を作成した。また、取上前の事前調査において、各石材の表面含水比、強度、寸法・形状、亀裂状態などの詳細なデータを収集し、記録をおこない、解体作業を安全におこなうための重要な資料とした。

【実績値】

論文数４件

高妻洋成「高松塚古墳石室石材の運搬」、文化庁月報、No.466、pp.12-13、平成 19 年７月 25 日
松村恵司「高松塚古墳石室の発掘調査」、文化庁月報、No.466、pp.16-19、平成 19 年７月 25 日
肥塚隆保・建石徹「高松塚古墳の石室解体の実施」、文化庁月報、No.467、pp.12-15、平成 19 年８月 25 日
石﨑武志・木川りか「内部断熱覆屋と生物」、文化庁月報、No.467、pp.20-21、平成 19 年８月 25 日

【受託経費】

111,941 千円

【書式B】
（様式３）

№　２０４１－２

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ４（４））	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化保護政策上、重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務（Ｉ４（４））

【担当部課】	副所長・保存修復科学センター（東文研） 都城発掘調査部（飛鳥藤原地区）、埋蔵文化財センター（奈文研）	【事業責任者】	副所長　三浦定俊（東文研） 副所長　巽淳一郎（奈文研）

【スタッフ】
佐野千絵、木川りか、吉田直人、犬塚将英、間渕創、石﨑武志、川野辺渉、森井順之、加藤雅人、北野信彦（以上、東文研）
玉田芳英、村上隆、豊島直博、内田和伸、井上直夫、石田由紀子、肥塚隆保、高妻洋成、降幡順子、関広尚世（以上、奈文研）
宮原晋一（奈良県教育委員会）、相原嘉之、長谷川透（明日香村教育委員会）、花谷浩（出雲市教育委員会）高橋克壽（花園大学）片山一道（京都大学大学院理学研究科）

【年度実績概要】

平成 19 年度は東西壁の無地部分の剥ぎ取りをワイヤソー、バンドソーにて行った。天井は無地部分、朱線部分、星宿部分の劣化が著しい箇所を優先的にヘラによる剥ぎ取りを行った。平成 20 年 1 月には日像の剥ぎ取りを行った。天井剥ぎ取りの準備として、表打ちの実験、使用材料の選定、剥ぎ取り後の天井漆喰の処置方法の検討を行った。また、天井作業用にワイヤソー、バンドソーの改良を行い、天井模型を使用した剥ぎ取り実験を行った。展示のために「玄武」の修復を行い、平成 20 年度用に、子・丑・寅の修復を行っている。その他の漆喰片についても経過観察及び保存処置を継続中である。

環境ステーションによる保存施設内外の環境データ計測を継続して行った。平成 18 年度の暖冬の影響を受けて、平成 19 年度、石室内温度は高めとなる時期が長く、一時的に微生物活動に有利な条件となった。相対湿度については、石室内 95%以上、小前室 90%以上の剥落しにくい湿度で安定していた。相対湿度センサーの種類を変えた後、計測不良などの不具合は生じていない。土壌水分については、墳丘裾 0.5m下に設置されているセンサー以外の指示値は安定した状態にある。また保存施設内では浮遊菌調査を約２回／月で実施し菌種と汚染状況を把握し、施設の清浄化を監視した。

この他、発掘調査報告書の編集、刊行を行った。これは平成 14 年度から 16 年度の３ヶ年に渡る調査の正式報告書であり、遺構、遺物の記載をはじめ、関連調査として金属製品や人骨、漆喰、石材等の分析を行い、キトラ古墳について総合的な考察を加えたものである。また、壁画についてはフォトマップを提示した。今後刊行を予定されている高松塚古墳の報告書とともに、日本における大陸的な壁画古墳の報告書として重要なものとなるであろう。

【実績値】
報告書１件　『特別史跡キトラ古墳発掘調査報告』2008

【受託経費】
99,930 千円

【書式B】
（様式３）

№　２０４１－３

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ４（４））	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化保護政策上、重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務・後期（Ｉ４（４））

【担当部課】	副所長・保存修復科学センター（東文研） 都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）、埋蔵文化財センター（奈文研）	【事業責任者】	副所長　三浦定俊（東文研） 副所長　巽淳一郎（奈文研）
【スタッフ】 石﨑武志、犬塚将英、木川りか、佐野千絵、吉田直人、間渕創、川野辺渉、森井順之、加藤雅人、北野信彦（以上、東文研） 松村恵司、内田和伸、廣瀬覚、肥塚隆保、高妻洋成、降幡順子、脇谷草一郎（以上、奈文研）			

【年度実績概要】

石室の解体が終了したので空調施設を 10 月 1 日に撤去し、11 月に冷却管の撤去を行った。

仮設修理施設に搬送した壁画について経過観察を行い、生物被害の進行が沈静化するのを確認すると共に修理に必要な損傷図面の作成を順次始めた。11 面それぞれに７種類（漆喰層の欠失・漆喰層表層面の損傷･亀甲状の欠失・漆喰層の陥没・黒かびによる汚染・バイオフィルムによる汚染･流入土痕）の損傷を実物大のフォトマップの上に書き込み、データ化を行い、現在までに天３と東女子の損傷図面のデータ化が終了した。同時に漆喰面を広く覆っている黒いかびとバイオフィルムによる汚れの除去方法の開発評価を行った。

解体に際して予め取り外した遊離石材を含浸強化し、破片同士の接合および整形処置を行なった。また、いくつかの石材には石材を破断する大きな亀裂を有するものもあり、修理作業および保管において安定化させる必要があるので、保護拘束具の実験を行い試作した。また、高松塚古墳保存修理施設の床下に安置してあった凝灰岩切石の取り上げ作業において、ポリライトによる観察、表面含水比測定、針貫入試験、ハイビジョン撮影によるビデオ記録の作成を行った。

石室解体・搬出作業開始に伴い採取した試料に対して、重要度の高い試料から順次直接顕微鏡観察、微生物分離・同定作業などを進めた。肉眼ならびに実体顕微鏡による観察を行った結果、大多数の試料中には暗色系不完全菌類を中心とするカビや細菌（バクテリア）が含まれており、その細胞形態等から複数の微生物が混生している状態が観察された。また壁石間の小口面から採取した、黒褐色に着色した漆喰片土壌混合物や漆喰片にダニ等の微小動物が比較的多い傾向が認められ、壁石間の小口面、目地漆喰等の黒色部などは、微生物やダニ等のいわゆる“巣”となっていたと考えられた。微生物分離・同定作業は現在まだ進行中であるが、菌類の詳細な同定結果より、その由来や生理的性状などについて推定する際に有効な情報が得られつつある。

発掘成果については、図面・写真類の整理作業を進めたほか、拓本については裏打ち加工し、スキャナーによる取り込み、合成作業を行った。また取り上げた版築土に対しては、搗棒痕跡やムシロ目が明瞭に残るものなど優先順位の高いものから樹脂を含浸させ保存強化を行い、剥ぎ取り転写した版築層については木製板に貼り付け、展示・公開用のパネルとして仕上げた。

【実績値】

論文数４件

肥塚隆保・高妻洋成・降幡順子、「石室解体と輸送」、月刊文化財、No. 532、pp. 22-37、平成 20 年 1 月 1 日

肥塚隆保・高妻洋成・降幡順子・建石徹・田辺征夫、「国宝高松塚古墳壁画保存修理のための石室解体」、2007 東アジア文化遺産保存國際シンポジウム發表要旨輯、pp. 153-158、2007 年 11 月 1 日

木川りか、杉山純多、高鳥浩介、間渕創、佐野千絵、三浦定俊：高松塚古墳発掘・解体作業に伴う生物調査の概要について、保存科学、47 号、121－128（2008）

松村恵司、「高松塚古墳の発掘調査」、保存科学研究集会 2007 壁画古墳の保存に関わる諸問題 要旨集、pp. 8－16、平成 20 年２月 27・28 日

【受託経費】

78,543 千円

【書式B】
（様式３）

№.　２０４２ —1

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（4））	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【事業名称】	長野県千曲市社宮司遺跡出土の六角木幢保存修復委託業務（Ｉ４（4））

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　肥塚隆保
【スタッフ】 高妻洋成、降幡順子、脇谷草一郎（企画調整部）			

【年度実績概要】
長野県社宮司遺跡より出土した六角木幢の５ヵ年にわたる保存処理研究受託事業の４年度目である。本年度は、長野県社宮司遺跡より出土した六角木幢の真空凍結乾燥処理を継続し、年次報告書を作成した。

【実績値】
長野県千曲市社宮司遺跡出土の六角木幢保存修復委託事業年次報告書

【受託経費】
1,512 千円

【書式B】
（様式３）

№　２０４２ －２

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ４（4））	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【事業名称】	秋田県漆下遺跡出土漆関連遺物分析調査（Ｉ４（4））

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　肥塚隆保

【スタッフ】
高妻洋成、降幡順子、脇谷草一郎（企画情報部）、岡村道雄（企画調整部）

【年度実績概要】
秋田県漆下遺跡より出土した漆関連遺物について、X線 CT による撮影、FT-IR 分析、X線透過撮影をおこない、縄文時代の漆工芸技術に関する情報を収集し、年次報告書を作成した。

【実績値】
秋田県漆下遺跡出土漆関連遺物分析調査年次報告書

【受託経費】
530 千円

【書式B】
（様式３）

№　２０４２―３

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（4））	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【事業名称】	重要文化財奈良県黒塚古墳出土品事前調査ならびに保存修理（Ｉ４（4））

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　肥塚隆保
【スタッフ】 高妻洋成、降幡順子、脇谷草一郎（企画調整部）			

【年度実績概要】
奈良県黒塚古墳より出土した鉄製品（東棺外鉄製品一括）は錆着が激しく、出土時のままで保管されてきた。しかしながら、出土後、長期間を経過しているため、さらなる錆化とそれにともなう破損が進行しており、一刻も早い保存修理が必要である。同遺物の保存修理にともなう事前調査ならびに保存修理を実施し、報告書を作成した。

【実績値】
重要文化財奈良県黒塚古墳出土品事前調査ならびに保存修理報告書

【受託経費】
12,000 千円

【書式B】
（様式３）

№　２０４２―４

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ４（4））	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【事業名称】	史跡ガランドヤ古墳の保存整備に伴う環境調査（Ｉ４（4））

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　肥塚隆保
【スタッフ】 高妻洋成、降幡順子、脇谷草一郎（企画調整部）			

【年度実績概要】
大分県日田市のガランドヤ古墳の保存整備事業にともない、古墳周囲の環境および石室内の環境を調査するために、気象観測ステーションを設置し、気象観測を開始した。また、石室周囲の土中の水分状態等を調査するため、比抵抗映像法による測定をおこない、保存処置に関する重要な情報を提示した。

【実績値】
史跡ガランドヤ古墳の保存整備に伴う環境調査報告書

【受託経費】
1,964 千円

【書式B】
（様式３）

№.　２０４２ —5

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ４（4））	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【事業名称】	群馬県万蔵寺廻り遺跡出土炭化繊維遺物の分析調査（Ｉ４（4））

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　肥塚隆保
【スタッフ】 高妻洋成、降幡順子、脇谷草一郎（企画調整部）			

【年度実績概要】
群馬県万蔵寺廻り遺跡より出土した炭化糸に対して、X線 CT による撮影、FT-IR 分析、X線透過撮影、顕微鏡観察をおこない、糸巻きの構造および糸に関する考古学的な情報を収集し、報告書を作成した。

【実績値】
群馬県万蔵寺廻り遺跡出土炭化繊維遺物の分析調査年次報告書

【受託経費】
350 千円

【書式B】
（様式３）

№　２０４２－６

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ４（４））	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【事業名称】	徳島城本丸跡の石垣遺構等の科学的探査（Ｉ４（４））

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

【スタッフ】
金田明大、西村康（客員研究員）、西口和彦（兵庫県立考古博物館）

【年度実績概要】
徳島城本丸地区の埋没石垣の状況の把握を目的として、物理探査手法による探査をおこなった。
当地区の石垣は、詳細な表面観察によって、構築に時間差がある可能性が指摘されている。昨年度は、部分的にその検討をおこなうべく探査を実行し、蜂須賀氏入府以前の本丸が複数の区画に分割されていた可能性を示すことができた。
本年度の調査では、本丸地区全域を対象として電気・地中レーダの二つの手法をおこない、成果を統合した。
この結果、本丸西側においても、現在表面に存在する近世の石垣の裏に、古い段階の石垣が残存する可能性が高い部分が２箇所確認できた。
これにより、近世以前の徳島城は、本丸地区を中心としてより小区画の郭により構成され、蜂須賀氏入府後、新たな石垣の造成により、本丸地区が一つの広い区画に再整備された可能性が高まった。
石垣が現存するために、発掘調査などの手段で内部の構造を直接的に把握するのが難しい城跡において、物理探査的手法が効果を発揮することを示せた点で重要な成果と考える。

【実績値】
発表件数：　１件
取得データ：　２種（地中レーダ、電気）
対象面積：　約3,500 ㎡

【受託経費】
600 千円

【書式B】
（様式３）

№　２０４２－７

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ４（４））	高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。

【事業名称】	石岡市瓦塚瓦窯の探査　（Ｉ４（４））

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅

【スタッフ】
金田明大、西村康（客員研究員）、西口和彦（兵庫県立考古博物館）

【年度実績概要】
県史跡瓦塚瓦窯の範囲確認と詳細分布調査を目的として、物理探査手法による窯跡および周辺施設の探査をおこなった。
表面調査および既存の発掘調査における窯跡の遺存状況はきわめて良好であり、未知の窯跡の存在が期待された。そこで、今回は、埋没・遺存している窯の詳細を検討するために、磁気・電気・地中レーダと複数の探査手法を組み合わせて調査することとした。
その結果、既知の窯に加えて、新たに窯の可能性が高いもの４箇所、その可能性が指摘できるもの８箇所以上を明らかにすることができた。これにより、所期の目的は達成できたと考える。
本遺跡は日本でも有数の良好な遺存状態を残す遺跡であり、あわせておこなわれた地形調査の成果などと統合することにより、さらに検討をおこなっていく必要がある。
また、周辺には、ほかにも窯跡群や生産にかかわる付属施設が存在する可能性が高く、今後とも詳細な調査が必要である。

【実績値】
取得データ：　３種（磁気、電気、地中レーダ）
対象面積：　約 11,300 ㎡

【受託経費】
451 千円

【書式B】
（様式３）

No.　２２０４―１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ５（1））	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な情報収集を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国に於いて文化財の保存修復事業を推進する。

【事業名称】	陝西省唐代陵墓石彫像保護修理事業（Ｉ５（1）②イ）

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　岡田健

【スタッフ】
杉崎佐保恵（文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】
本事業は、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団からの受託による。
1)唐陵石彫像保存修復事業指導委員会・専門家委員会の開催
4 月 23 日から 26 日の日程で、西安市において第 3 回目の指導委員会・専門家委員会を開催した。日本からは、指導委員として渡邉幸夫（財団理事）、専門家委員として矢野和之（文化財保存計画協会）、西浦忠輝（国士舘大学教授）、根立研介（京都大学助教授）のほか、本事業への資金提供者である黒田哲也氏が出席した。
会議では、2006 年度に実施した乾陵北門、西門及び順陵陵園区の考古調査、乾陵及び順陵の環境整備作業、日中研究交流等についての報告が行われ、その成果について日中双方の専門家から高い評価を得た。併せて 2007 年度の作業計画の報告が行われ、専門家から各種のアドバイスを受けた。
2)中国側の来日研究
11 月 19 日から 12 月 16 日の日程で西安文物保護修復センター周偉強研究員、同甄剛研究員を招へいした。本事業が 2008 年度に最終年度を迎え、3 陵石彫像についての各種修復作業が本格的に行われるにあたり、石材の接着材料と技法、接着部位の化粧（仕上げ）方法をテーマとして、授業、現場視察、実習によって研修を実施した。
3)作業の進捗状況
2007 年度は、橋陵の地下埋蔵石造物に対する考古調査、順陵石彫像に対する三次元モデル作成の試験的研究と力学的分析に関する実験計画案の作成、順陵及び乾陵石彫像の修復作業、橋陵石彫像の劣化状態図作成等を実施した。
4)事業実施のための合意書の期間延長手続き
本事業は 2004 年から 4 年間の日程で実施される予定であったが、第 1 年目に実質 2 年間を費やしたため、結局期間が 5 年間になった。このため、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団と陝西省文物局が 2004 年に調印交換した事業合意書と、西安文物保護修復センターと東京文化財研究所が同時に調印交換した事業推進のための合意書をそれぞれ 1 年延長する必要が生じ、両方の合意書について西安文物保護修復センターと共同で更新作業を行い、いずれも 3 月までに手続きを完了した。

【実績値】

【受託経費】
1,778 千円

【書式B】
（様式３）

№　２２０４―２

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ５（1））	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な情報収集を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国に於いて文化財の保存修復事業を推進する。

【事業名称】	龍門石窟保護修復プロジェクト（Ｉ５（1）②イ）

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　岡田健

【スタッフ】
清水真一（文化遺産国際協力センター）、石﨑武志（保存科学修復センター）、津田豐（(株)ジオレスト）、中田英史（(有)ウッドサークル）、西浦忠輝（国士舘大学）

【年度実績概要】
ユネスコ／日本信託基金によって 2001 年 11 月から開始された中国龍門石窟保護修復プロジェクトに、ユネスコのコンサルタント兼プロジェクト専門家として参加している。

1）第 2 期の実施と第 5 年目契約、第 6 年目契約：2005 年 2 月 28 日と 3 月 1 日に北京で開催された専門家会議及び日本・中国・ユネスコ 3 者会議で決定承認された第 2 期計画案と予算案に基づき、開始される予定になっていた第 2 期作業は、2006 年度おいて何ら進捗を見せなかった。これは、施工設計案の作成の遅れと、第 2 期工事（潜渓寺洞上部整備工事）の請負業者の入札に関して、総額 10 万ドルを超える契約に関しては国際入札を原則とするユネスコに対して、文化遺産における施行について外国企業の参入を認めない中国政府の原則が対立し、業者入札を実施できない状態が続いていたためである。この問題については、2007 年 7 月になってユネスコパリ本部が中国国内業者だけによる入札を認めたため、ようやく進展をみた。コンサルタントとしては、2006 年 8 月に結んだ第 5 年目の契約が 2007 年 3 月 31 日に終了したのち、第 6 年目の契約を 2007 年 7 月から 2008 年 3 月 31 日を期間として結んだので、上記問題の推移に関しては関与する立場になかった。

2）第 2 期工事（潜渓寺洞上部整備工事）の実施：2007 年 8 月、洛陽市文物局が主催して入札が行われ、工事業者が選定されたが、洛陽市が業者と契約を行ったのは 11 月下旬になってからで、最終的に業者が潜渓寺洞での作業を開始したのは 12 月 25 日となった。工期は 120 日間を予定している。

3）専門家会議の実施：2007 年度は、1 月 29 日、30 日の日程で、北京の中国文化遺産研究院において、日中双方の専門家が参加して会議を開催した。この会議において、施工中の潜渓寺洞上部整備工事の技術的問題を討議するとともに、第 2 期の終了時期を 2008 年 9 月とすること。主に時間的理由により、試験洞窟 3 つのうち、潜渓寺洞について重点的な保護修復作業を行うこと。各窟壁面のクリーニングに関して龍門石窟研究院による計画案を再度検討すること。などが話し合われた。

【実績値】

【受託経費】
2,336 千円（20,000USD）

【書式B】
（様式３）

№.　２２０６―１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ５（1））	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な情報収集を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国に於いて文化財の保存修復事業を推進する。

【事業名称】	ユネスコ／バーミヤーン遺跡保存事業（Ｉ５（1）②ウ）

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】
稲葉信子、山内和也、朽津信明、岩出まゆ、宇野朋子、谷口陽子、影山悦子、有村誠（以上、文化遺産国際協力センター）、西山伸一、前田耕作、岩井俊平（以上、客員研究員）、岡村道雄、井上和人、窪寺茂、森本晋、石村智、脇谷草一郎（奈良文化財研究所）

【年度実績概要】
本事業は、二十余年にわたる内戦時に爆破、盗取によって破壊されたバーミヤーン遺跡の文化遺産の保存・修復に協力することによって、同文化遺産を保護するとともに、アフガニスタンの文化遺産を保護していく現地の人材を育成し、技術を移転することを目的としている。
本年度は平成 19 年 6 月 9 日～7 月 15 日に第８次ミッションを派遣し、壁画の保存修復、考古学調査を行なった。また、それぞれの活動を現地の専門家と一緒に作業することによって、人材育成・技術移転を図った。
①壁画の保存・修復：Ｉ窟、N(a)窟の保存修復
Ｉ窟においては、壁画の崩落を予防する目的で、壁画のグラウティング（モルタルによる注入接着）とエッジング（壁画の周縁をモルタルでとめる作業）を実施した。これにより、Ｉ窟に残存するすべての壁画の補強作業を終了することができた。
N(a)窟においては、壁画の微細な剥落の一因ともなっている壁画表面に付着するスス状の黒色物質の洗浄作業を実施した。また、壁画の機械的、化学的洗浄を安全に行うために、現在崩落の恐れのある壁画の周辺部について、Ｉ窟同様にグラウティングおよびエッジング処理を行った。
②考古学調査
考古学調査は、文化的および考古学的地区の範囲を確定すること、保護されるべき遺跡の位置と種類を特定することを目的に、試掘調査と遺跡の踏査を行った。試掘調査では、西大仏の南西にあたる地点で、仏教時代に遡る可能性のある遺構が発見された。同遺構は『大唐西域記』に記された「王城」と関連する可能性がある。また、バーミヤーン谷に隣接するカクラク谷において、遺跡の踏査を行い、石窟や望楼などを新たに確認した。

【実績値】
職員派遣数：7 名
報告書：①概報第 2 巻『バーミヤーン遺跡保存事業概報－2006 年度（第 6・7 次ミッション）－』及び同英語版
②『Preliminary Report on the Safeguarding of the Bamiyan Site 2006 －6th and 7th Missions－ 』
③概報第 3 巻『バーミヤーン仏教石窟調査概報－2006 年度－』
④別冊第 3 巻『バーミヤーン遺跡保存のための環境調査報告－2005～2006 年－』
発　表：⑤山内和也、有村誠「アフガニスタン、バーミヤーン遺跡保存事業－2007 年度の成果－」『平成 19 年度考古学が語る古代オリエント　第 15 回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会　08.3.16
報　告：⑥山内和也、有村誠「アフガニスタン、バーミヤーン遺跡保存事業－2007 年度の成果－」『平成 19 年度考古学が語る古代オリエント　第 15 回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会　pp.152-157　08.3.15.

【受託経費】
10,467 千円（90,000USD）

【書式B】
（様式３）

№.　２２０６―２

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ５（1））	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な情報収集を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国に於いて文化財の保存修復事業を推進する。

【事業名称】	タジキスタン共和国アジナ・テパ仏教寺院の保存修復事業（Ｉ５（1）②ウ）

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
有村誠（文化遺産国際協力センター）、岩井俊平、西山伸一（以上、客員研究員）

【年度実績概要】
ユネスコ文化遺産保存日本信託基金で行われている「タジキスタンの仏教遺跡保護プロジェクト」は、練り土、日干しレンガ、焼成レンガで構築された土構造物であるアジナ・テパ遺跡を保護することを目的としている。そのために、崩壊の危機に晒されている壁体を補強するとともに、ストゥーパの保存方法を検討し、遺跡の保存修復を行うことが計画されている。

1960 年代から 1970 年代にかけて行われた発掘調査以後、遺跡はその一部が埋め戻され、加えて大量の土砂が堆積し、さらには植物（雑草）によって遺跡が覆われている状態であった。そのため、発掘当初の壁、床面を明らかにするために、堆積した土砂を除去する清掃作業を行う必要があった。こうして 2006 年度のミッションでは、清掃作業が実施されたが、その過程において、過去の発掘調査が十分でなかったことが分かり、清掃作業に先立って、新たな考古学的な発掘調査が必要であることが判明した。東京文化財研究所は、寺院本来の姿を明らかにするための考古学的な発掘調査を行うことを目的とし、2007（平成 19）年 4 月に現地にミッションを派遣した。

今回のミッションでは、ストゥーパ周辺（塔院区）や寺院の外周において発掘調査を行い、塔院区の壁や床面の検出、および外壁の位置を確認し、寺院本来の姿を明らかにするデータを得ることができた。これらは、遺跡を保存修復する際に必要不可欠なものになると考えられる。今後も遺跡の全貌が明らかになるような限定的な発掘調査と清掃作業を、壁の補強など保存修復班が行う作業と歩調をあわせながら、実施していく必要がある。

【実績値】
職員派遣数：３名
学会発表：①山内和也、岩井俊平「タジキスタン、アジナ・テパ仏教寺院の保存事業－2007 年度の成果－」平成 19 年度考古学が語る古代オリエント　第 15 回西アジア発掘調査報告会　日本西アジア考古学会　08.3.16.
報　　告：②山内和也、岩井俊平「タジキスタン、アジナ・テパ仏教寺院の保存事業－2007 年度の成果－」『平成 19 年度考古学が語る古代オリエント　第 15 回西アジア発掘調査報告会報告集』日本西アジア考古学会　pp.158-1162　08.3.15.

【受託経費】
2,376 千円（24,881USD）

【書式B】
（様式３）

№　２２０６―３

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ５（1））	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な情報収集を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国に於いて文化財の保存修復事業を推進する。

【事業名称】	中国及び中央アジア各国におけるシルクロード広域の世界遺産登録推進運動の実態調査及び登録文化遺産または登録の可能性のある文化遺産の現状調査（Ｉ５（1）②ウ）

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	地域環境研究室長　山内和也

【スタッフ】
谷口陽子、高林弘実（以上、文化遺産国際協力センター）、青木繁夫（客員研究員）、籾井基充（実践女子大学）、ウブリ・マイマイティアイリ（新疆ウイグル自治区文物局）、王小偉（敦煌研究院保護研究所）

【年度実績概要】
本研究は、2006 年度に引き続き、現在、ユネスコ世界遺産センターおよび中国、カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、タジキスタンの５カ国を中心に推進されている「シルクロード」のユネスコ世界遺産への登録に関して調査を行うものである。今年度は、「中国新疆ウイグル自治区および中国西域の仏教ロード沿いに分布する仏教壁画を有する石窟の現地調査」として、関連する遺跡を調査し、研究・保存修復の現状を把握する。

本年度は、重要な仏教壁画を有する遺跡が分布する新疆ウイグル自治区のトルファンのベゼクリク千仏洞、クチャのキジル千仏洞、シムシム千仏洞、クムトラ千仏洞、クズルガハ千仏洞の石窟を対象に、新疆ウイグル自治区文物局および敦煌研究院との協力のもと、崖に開鑿されている石窟の状態、壁画の保存状況、彩色の詳細な状態調査を行った。あわせて、文化遺産国際協力センターが既に保存修復調査を実施している、敦煌莫高窟やバーミヤーン遺跡、アジャンター石窟など、シルクロードの壁画の比較のための彩色材料や技法の点からの観察、調査研究を行った。

キジル千仏洞の方形組上げ天井を持つ石窟の彩色など、膠着材や層構造の詳細な分析によって、技法や材料の広がりが明らかになりうる可能性も高いものもみられた。また、なかには、透明性の高い有機物からなる鮮やかな赤色など、比較的保存状態の良い色材が観察される場合もあり、今後、科学的な研究を行うことによって、シルクロードの壁画の技術を明らかにする鍵となるような、重要な成果が得られるのではないかと期待された。

【実績値】
職員派遣数：４名
報　告　書：①『シルクロード沿いの世界遺産登録に関する現地調査－中国新疆ウイグル自治区および中国西域の仏教ロード沿いに分布する仏教壁画を有する石窟の現地調査－』報告書および DVD 版

【受託経費】
2,088 千円

【書式B】
（様式３）

№　２２０６―４

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ５（1））	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存修復事業を実施するために必要な情報収集を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国に於いて文化財の保存修復事業を推進する。

【事業名称】	ユネスコ／バーミヤーン遺跡保存に関する第６回専門家作業グループ国際会議の開催（Ｉ５（1）②ウ）

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】
稲葉信子、山内和也、谷口陽子、岩出まゆ、宇野朋子、有村誠、影山悦子（以上、文化遺産国際協力センター）、前田耕作、岩井俊平（以上、客員研究員）

【年度実績概要】
東京文化財研究所・文化遺産国際協力センターは、「西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業」の一環として、また「ユネスコ文化遺産保存日本信託基金」による受託研究として「バーミヤーン遺跡保存事業」を実施している。2007（平成 19）年は、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業の第Ⅱ期の最終年にあたることから、これまでの活動の成果を検討・評価するとともに、つづく第Ⅲ期の具体的な活動計画を立案・作成することが必要となった。そこで、東京文化財研究所とユネスコが共催して、バーミヤーン遺跡保存事業に携わる国際専門家が集まり、上述の案件について話し合う会議を開催した。

平成 19 年 1 月 20 から 22 日にわたり、バーミヤーン遺跡保存事業に携わる国際専門家を招へいし、東京文化財研究所にて国際会議を開催した。会議は５つのセクションからなり、壁画の保存、考古学調査、大仏片の保存、バーミヤーンの長期的保存管理計画などに関する成果発表と議論が交わされた。会議の最終日には、会議中の議論をふまえて、バーミヤーン遺跡保存事業に関する提言がとりまとめられた。

また、この会議にあわせて、バーミヤーン遺跡保存事業の活動や成果を広く社会に公表する目的で、平成 19 年 1 月 22 日に公開シンポジウム「バーミヤーン遺跡保存の現在」を開催した。

【実績値】
招へい者数：８名

【受託経費】
4,279 千円（39,544USD）

【書式B】
（様式３）

№.　２２０７―１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ５（2））	諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材育成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材育成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。

【事業名称】	文化遺産保護国際貢献事業　専門家派遣：ベトナム・タンロン皇城遺跡の保存に関する活動計画案協議のための専門家派遣（Ｉ５（2）　ア）

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水　真一

【スタッフ】
稲葉信子、二神葉子、田代亜紀子、豊島久乃、青木繁夫（以上、文化遺産国際協力センター）井上和人（以上、奈良文化財研究所）、上野邦一（奈良女子大学）、坪井善明（早稲田大学）

【年度実績概要】
ハノイの国会議事堂建設予定地から発見されたタンロン皇城遺跡では、平成 14 年 10 月から発掘調査が実施され、その都城遺跡としての価値が明らかにされると同時に、日本政府とベトナム政府の間でその保存に関する協力体制が築かれつつある。本事業では、ベトナム側と、平成 19 年３月に立ち上げられたタンロン皇城遺跡保存に係る日越合同専門員会の日本側専門家により作成された支援活動案に関する協議をおこなった。また、帰国後の７月 30 日には報告会を開催し、タンロン皇城遺跡保存に関わる専門家間での情報共有をおこなった。

【実績値】
報告書：文化遺産国際協力センター　『タンロン皇城遺跡保存に関する活動計画案協議のための専門家派遣　報告』07.07

【受託経費】
720 千円

【書式B】
（様式３）

№　２２０７―２

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ５（２））	諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材育成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材育成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。

【事業名称】	文化遺産保護国際貢献事業　専門家派遣：ベトナム・タンロン皇城遺跡の保存に関する専門家派遣と研修事業（Ｉ５（２）ア）

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水　真一

【スタッフ】
清水真一、稲葉信子、二神葉子、田代亜紀子、豊島久乃、青木繁夫（以上、文化遺産国際協力センター）、井上和人、肥塚隆保、高妻洋成、小澤　毅（以上、奈良文化財研究所）、西村　康（ユネスコ・アジア文化センター遺産保護協力事務所）、上野邦一（奈良女子大学）、桃木至朗、蓮田隆志（以上、大阪大学）、西村昌也（関西大学）

【年度実績概要】
タンロン皇城遺跡は、平成 14 年 10 月にハノイの国会建設予定地で発見された。タンロン皇城遺跡の保存に関しては、日本とベトナム政府の合意のもと日越専門委員会が平成 19 年 3 月に設立され協力体制が築かれている。本事業は、協力事業の一環として、平成 18 年度草の根文化無償資金協力により供与された保存修復用機材および測量機材の効果的な活用のための研修を実施するものである。

平成 19 年 12 月に、保存修復・考古・歴史の分野の専門家を派遣して現地調査を行うとともに、コーロア遺跡センター及び機材の供与先であるベトナム社会科学院考古研究所の関係者と、研修に関する事前協議を行い、機材設置場所の設定や必要な設備の準備について打ち合わせを行った。さらに、上記機関の若手職員を中心とした約 20 名に対し、木質文化財の保存に関する事例紹介を行った。平成 20 年 2 月には、上記機関及び関連機関の職員に対して、保存修復用機材のうち環境観測機材について、及び測量機材に関する研修を実施した。

環境観測用機材（温湿度、風向風速、日照を自動計測、データを蓄積する機材）に関しては、供与された機材を遺跡内に設置するとともに、環境計測の基礎および蓄積されたデータの取得や処理の方法、機器のメンテナンス方法等機器の扱い方について研修を行った。このことにより、現地の担当者による気象観測データ取得が可能となり、今後の遺跡保存に関わる調査研究への活用が期待できる。

測量については、タンロン遺跡調査に携わる 20 名余りに、供与されたトータルステーション等の機材を用いてトラヴァース測量の実習研修を行った。同時に、発掘調査により検出した遺構及び遺構群の解析作業を行う方法や手順等について、発掘調査支援研修を行った。

【実績値】
・報告書：文化遺産国際協力センター『タンロン皇城遺跡の保存に関する専門家派遣と研修事業』　08.03

【受託経費】
4,391 千円

【書式B】
（様式３）

№.　２２０７―３

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ５（２））	諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材育成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材育成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。

【事業名称】	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（Ｉ５（２）ア）

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】
豊島久乃、田代亜紀子、谷口仁　(以上、文化遺産国際協力センター)

【年度実績概要】
本年度は、文化遺産国際協力に係わる諸課題について議論するための分科会を計 15 回、ワーキング・グループ会合を計 5 回開催すると共に、会員間の情報共有を促進するための場として研究会を 2 回、2 月には総会を開催した。また、コンソーシアム活動を広報するためにパンフレットの作成、シンポジウムの開催や公式ウェブサイトの拡充を行った。さらに、インドネシア、ベトナムへの調査団等派遣支援を行ったほか、協力相手国調査としてラオスおよびモンゴルでの現地調査を実施した。

Ⅰ. コンソーシアムの企画・運営
- 運営委員会を 1 回開催して、活動方針等を協議したほか、総会を 2 月に開催した。
- シンポジウム「文化遺産の国際協力と人材育成」を開催した。
- 企画分科会、東南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会を計 15 回開催した。
- 町並みワーキング・グループおよび経済開発協力との連携に関するワーキング・グループの会合を計 5 回開催した。
- 広報活動のため、パンフレット作成や、一般向けウェブサイトの拡充を行った。

Ⅱ. 情報共有と情報発信
- 会員専用コミュニティ・サイトを拡張し、日本の国際協力事業をとりまとめた「基礎情報データベース」(2007 年 12 月現在約 1200 件格納) を会員に向けて公開した。
- 研究会「自然災害による被災文化遺産に対する緊急支援」、「リビング・ヘリテージの国際協力」を開催した。
- 報告書『日本が実施している文化遺産国際協力事業一覧–JCIC-Heritage 基礎情報データベース 2007 年集計より–』を冊子にまとめ公開した。
- 報告書「リビング・ヘリテージの国際協力 – 町並み保存の現在と未来 –」 を公開した。
- 協力相手国の国際協力の状況を知るため、ラオスおよびモンゴルにて協力相手国調査を実施した。

Ⅲ. 文化遺産国際協力に関することがら
- インドネシア政府からの要請に基づき、ジャワ島中部で 2006 年 5 月に発生した地震による被害を受けたプランバナン遺跡群に関する修理設計計画策定支援のための調査団派遣支援（計 3 回）を行った。
- ベトナム政府からの要請に基づき、ハノイ市タンロン遺跡保存調査団の派遣支援（計 3 回）を行った。

【実績値】
運営委員会の開催：1 回、総会の開催：1 回、シンポジウムの開催：1 回
分科会の開催：　4 分科会(企画分科会、東南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会)　合計 15 回
ワーキング・グループの開催：　合計 5 回
研究会の開催　2 回
協力相手国調査実施数：　2 カ国　(ラオス、モンゴル)

『日本の実施している文化遺産国際協力事業一覧　–JCIC-Heritage 基礎情報データベース 2007 年集計より－』(2008 年 2 月)、
『リビング・ヘリテージの国際協力 – 町並み保存の現在と未来 - 』(2008 年 3 月)、
『文化遺産国際協力と人材育成　文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム報告書』(2008 年 3 月)、
『日本による文化遺産国際協力事業紹介』(2008 年 3 月)

【受託経費】
48,000 千円

【書式B】
（様式３）

No.　２２０７―４

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ５（２））	諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材育成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材育成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。

【事業名称】	文化遺産国際協力拠点交流事業　インドネシア・プランバナン遺跡群復興およびインド・アジャンター石窟壁画の保存修復に関する人材養成・技術移転（Ｉ５（２）ア）

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水　真一

【スタッフ】
＜インドネシア＞稲葉信子、二神葉子、岩出まゆ、豊島久乃、田代亜紀子（以上、文化遺産国際協力センター）、大和智（筑波大学）、花里利一（三重大学）、小野邦彦（サイバー大学）、箕輪親宏（独立行政法人　防災科学技術研究所）、近藤光雄、高品正行、野尻孝明、原光治（以上、財団法人　文化財建造物保存技術協会）
＜インド＞山内和也、宇野朋子、谷口陽子、前田耕作、高林弘実（以上、文化遺産国際協力センター）、籾井基充（実践女子大学）、大場詩野子（絵画保存修復専門家）、島津美子（オランダ文化遺産研究所）

【年度実績概要】
本事業は、各国の文化遺産保存の中核となる組織との交流を通して、文化遺産国際協力を効果的に行うために、現地で文化遺産の保護に携わる人材を養成することを目的としている。平成 19 年度事業は、被災した世界遺産プランバナン遺跡をフィールドとしてインドネシア歴史考古総局と実施する事業と、アジアの文化遺産の中でも保存修復が技術的に困難である土壁に描かれた壁画について問題意識・技術・知識・経験の共有をはかるためインド考古局と実施する事業からなる。

インドネシア歴史考古総局との事業においては、2006(平成 18)年 7 月、2007 年(平成 19 年)2 月に派遣された調査団の調査成果に基づき、プランバナン遺跡の６祠堂を中心に、より詳細な破損状況把握、建築構造解析、地震動計設置による地震観測などが実施された。それらデータを基に耐震対策を考慮した修理設計が調査団によって作成され、インドネシア政府およびユネスコに対して提出されるとともに、国立インドネシア大学においてもその内容が講義された。

インド考古局との拠点交流事業では、2006(平成 18)年 9 月 25 日から 10 月 3 日にかけて、アジャンター遺跡における保存修復の現状に関する予備調査と光学的手法による予備的調査等を実施した。アジャンター遺跡には、玄武岩からなる馬蹄形の渓谷に 30 におよぶ仏教石窟が開鑿され、壮麗な仏伝を中心とする仏教壁画と数多くの彫刻が残されている。本来の鮮やかな色調とは異なり、現在の壁画は黄変・暗色化が進んでおり、なんらかの対策が必要である。アジャンター遺跡の保存修復の現状に関して調査をするとともに、暗色化した壁画を赤外写真で撮影するなど予備的な調査を実施した。また、合意書締結のための準備としてインド考古局との意見交換を行った。

【実績値】＜成果物一覧＞
- 文化遺産国際協力センター　『ジャワ島中部地震被災文化遺産の保存修復に係る調査協力ー世界遺産プランバナン遺跡復興支援報告ー』　08.3
- 文化遺産国際協力センター　『世界遺産プランバナン遺跡修復協力事業報告』　08.3
- Japan Centre for International Cooperation on Cultural Heritage, *Assessment Report on Damaged Prambanan World Heritage Compounds, Central Java*,　07.6
- Japan Centre for International Cooperation on Cultural Heritage, *Survey Report and Restoration Plan on Prambanan World Heritage Temples*, 08.3
- Japan Centre for International Cooperation on Cultural Heritage, 'Historical Documents of Prambanan Temples', *Survey Report and Restoration Plan on Prambanan World Heritage Temples*, 別冊１　08.3
- Japan Centre for International Cooperation on Cultural Heritage, 'Collected Drawings of Prambanan Temples', *Survey Report and Restoration Plan on Prambanan World Heritage Temples*, 別冊２　08.3
- Japan Centre for International Cooperation on Cultural Heritage, 'Geometrically Modified Images of Prambanan Temples', *Survey Report and Restoration Plan on Prambanan World Heritage Temples*, 別冊３　08.3
- 文化遺産国際協力センター　『インド考古局とのアジャンター石窟壁画の保存修復に関する人材養成・技術移転業務報告書』　08.3

【受託経費】
25,000 千円

【書式B】
（様式３）

№　２２０７―５

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ５（２））	諸外国に於ける文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。

【事業名称】	日中韓共同によるシルクロード沿線の文化財保護修復技術人員の育成プログラム（Ｉ５（２）ア）

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	保存計画研究室長　岡田健

【スタッフ】
清水真一（文化遺産国際協力センター）

【年度実績概要】

本事業は、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団の依頼により、中国文化遺産研究院との共同で、2006-2010 年の 5 年間で、シルクロード沿線の文化財保護修復技術のレベルを引き上げることを目的として、新疆、青海、寧夏、甘粛、陝西、河南の 6 省・自治区からの研修生を対象に、土遺跡、古建築、考古現場、陶磁金属、壁画、紙類、紡織品の保護修復および博物館技術の 8 項目の専門分野について、トレーニングを行うものである。

1) 土遺跡保護専攻　期間：3 カ月（4 月 16 日～7 月 13 日）、研修生の人数：13 名

土遺跡保護専攻は 2006 年度から連続 3 年で同じメンバーが参加して実施される。第 2 年目の今年度は、陝西省韓城市梁帯村で 2004 年秋に大量に発見され 2006 年には早くも中国の全国重点文物保護単位に指定された西周末・東周早期墓群のうち、現在発掘作業が行われている大型墓を現場実習に使って実施した。日本からは 7 名の講師が現地へ赴き、中国側講師と共同で指導を行った。

2) 考古発掘現場保護専攻　期間：3 カ月（4 月 16 日～7 月 13 日）、研修生の人数：14 名

考古発掘現場保護専攻班は単年度の実施である。前期の理論講座に引き続き、土遺跡保護専攻班と同じ梁帯村の西周末・東周早期墓群の発掘現場から続々と出土する金属器、石製品、木質遺物の痕跡、馬骨などを対象に現場実習を行い、単なる研修にとどまらない実質的な作業成果を残した。日本からは(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所の専門家をはじめとする 9 人の講師が現地へ赴き、陝西省考古研究所をはじめとする中国側専門家と共同で指導を行った。

3) 紙の文化財保護専攻　期間：3 カ月（10 月 8 日～12 月 27 日）、研修生の人数：12 名

紙の文化財保護専攻班は単年度の実施である。中国文化遺産研究院の人材育成センターで実施した。日本からは(財)国宝修理装こう師連盟の技術者をはじめとする 12 名の講師がとして北京へ赴き、伝統的な保存修理技術のほか、現代科学によって解明された紙の文化財の材料や技法、欧米的な新しい保存方法などについて、中国国家図書館や故宮博物院をはじめとする中国側専門家と共同で指導を行った。

【実績値】

【受託経費】
11,729 千円

【書式B】
（様式３）

No.　２２０７―６

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ５（２））	諸外国に於ける文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。

【事業名称】	ユネスコ／日本信託基金　イラク博物館における修復研究室復興プロジェクト（Ｉ５（２）ア）

【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	センター長　清水真一

【スタッフ】
山内和也、宇野朋子、有村誠、谷口陽子（以上、文化遺産国際協力センター）、青木繁夫、西山伸一（以上、客員研究員）、肥塚隆保、高妻洋成、降幡順子、脇谷草一郎（以上、奈良文化財研究所）、西尾太加二、大森信宏（以上、静岡県埋蔵文化財調査研究所）

【年度実績概要】
本事業は、イラクの保存修復専門家を日本へ招へいし、文化財の保存修復に関する講義や実習を通じて、専門家の人材育成を行うことでイラクの文化財の保存に寄与することを目的としている。文化遺産国際協力センターは平成 17 年度よりユネスコ文化遺産保存信託基金及び運営費交付金による西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の一環として、イラクの保存修復専門家を招へいし、さまざまな文化財の保存修復研修を実施してきた。

本年度は、イラク国立博物館よりファーエザ・M・ジュマー（Faeza M. Jumaah）氏、タグリード・H・フゼール（Taghreed H. Khudhair）氏、ニネヴェ古物遺産局からスィナーン・A・ユーニス（Sinan A. Yunis）氏を招へいし、9 月 19 日から 12 月 13 日の 85 日間にわたり、東京文化財研究所、奈良文化財研究所、（財）静岡県埋蔵文化財調査研究所において研修を実施した。

今回の研修では、イラク国立博物館およびユネスコからの要望をもとに、木製品の保存修復についての実習を中心に、保存修復のための基礎講義やさまざまな保存修復に用いられる機器の使用についての実習を行った。研修の中では、東京、奈良の博物館、史跡、発掘現場などを見学し、日本での保存修復活動の現状の視察も行った。

また、「イラク・アフガニスタンの文化財保存の現状」と題して、イラク国立博物館や地方の博物館の状況、博物館保存研究室での活動と、今回の研修成果についての報告会を実施した。

【実績値】
招へい者数：３名

【受託経費】
7,869 千円（70,000USD）

【書式B】
（様式３）

№　２６０２―１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ７（1））	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

【事業名称】	関西大学博物館所蔵重要文化財縄文籠形土器の復元修理（Ｉ７（1））

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	保存修復科学センター　副センター長　川野邊　渉

【スタッフ】
北野　信彦（保存修復科学センター）、
犬竹　和（修復家）

【年度実績概要】
目的
　この籠形土器は、大正８年に大阪府藤井寺市国府遺跡から出土したものである。籠の中に粘土を押し付けて製作した貴重な土器で重要文化財に指定されている。側面の籠の圧痕から当時の編み物の高度な技術を垣間見ることができる。しかしながら出土したのは全体の３分の１程の破片のみで、残りは石膏で復元されていた。近年にいたって、使用された修復材料の経年変化による劣化が認められ、再修復を要する状態にあった。そこで、前年度の関西大学博物館所蔵縄文鉢形土器に引き続き、今回は本資料の再修復を行うこととなった。今回の再修復でも土器が展示や学術研究に活用されることを目的とし、石膏に代わる土器修復材料であり、質感・耐久性などにすぐれた補修用擬土を使用して修復した。

概　　要
◇修復対象　籠形土器
◇修復概要
1）解体およびクリーニング・・・劣化した石膏は超音波メスで除去。接着剤は有機溶剤を使用して除去し解体した。
2）土器の強化・・・劣化して脆弱になった土器破断面をアクリル樹脂で強化した。
3）接合・・・アクリル樹脂を使用して破片を接合した。
4）復元・・・補修用擬土を充填し、常温で乾燥後、整形し文様を施した。55℃の定温乾燥機に入れ樹脂を硬化させた。

【実績値】
受託事業報告書　　１件
本事業は関西大学から受託された。

【受託経費】
1,365 千円

【書式B】
（様式３）

№.　２６０２－２

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目 （Ｉ７（1））	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

【事業名称】	国指定重要文化財「八窓庵」中柱の修復に関する調査研究（Ｉ７（1））

【担当部課】	保存修復科学センター	【事業責任者】	副センター長　川野邊渉

【スタッフ】
森井順之　（保存修復科学センター）
楠京子（文化財保存）、　山路康弘　（別府大学）

【年度実績概要】
文化財建造物の多くを占める木造建造物の修復においては、強度的に再用不可能な部材は同質同形の部材によって置き換えることが通常の修復工事では行われている。本研究で対象とした八窓庵中柱に関しては、その性格上本茶室の性格に大きな意味を持ち、かつ虫損などによって弱っていたところを事故により破損したために通常の修復方法では再用できずまた同質同形材の入手も困難であった。そのため、残存部材の強化と接合、修復補彩を行うことで採用できる材料技法の開発を目的とした。

１．残存部材のクリーニングを行った。
２．同質の材料によって、減圧含浸の材料と条件を決定した。
３．上記の結果に基づき各部材の減圧含浸を行った。
４．表面に残存した合成樹脂を除去、乾燥後接合した。
５．不足部分を木材と人工木材を用いて成型した。
６．新補部分を周囲にあわせて補彩を行った。

【実績値】
受託事業報告書　　１件
当研究は札幌市から依頼された。

【受託経費】
2,226 千円

【書式B】
（様式３）

№　２６０３－１

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ７（1））	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

【事業名称】	「発掘調査のてびき」作成に係わる業務一式　（Ｉ７（1））

【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	センター長　安田龍太郎

【スタッフ】
山中敏史、小林謙一、小澤毅、金田明大、岡村道雄、深澤芳樹、松村恵司ほか

【年度実績概要】
本年度は、７月・10 月・1 月にそれぞれ２日間をあてて、奈良で３回の作成作業部会を開催した。前年度に引き続き、文化庁委員、地方公共団体委員、奈文研委員が一堂に会して『集落遺跡・調査編』の執筆内容および『整理・報告書編』の項目の検討を実施した。また、これらの作成作業部会の検討成果と事務局によるそのとりまとめを受けて、３月に東京で作成委員会を開催し、本年度の事業報告をおこなうとともに、それに対する指導と助言を受けた。
『集落遺跡・調査編』は、原稿の集約と編集・レイアウトを終了した。一方、『整理・報告書編』は構成の細部について検討をすすめるとともに、内容に関して項目ごとに討議を重ね、方向性をほぼ固めるにいたった。

【実績値】
作成部会開催件数：　３回
作成委員会開催件数：１回
実績報告書：　１冊（奈良文化財研究所『受託業務　「発掘調査のてびき」作成に係る業務　実績報告書』2008.3）

【受託経費】
6,299 千円

【書式B】
（様式３）

№　２６０３－２

業務実績書（受託事業）

中期計画の項目（Ｉ７（1））	地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。

【事業名称】	徳島市観音寺遺跡・敷地遺跡（阿波国府推定地）出土木簡の総合的研究（Ｉ７（1））

【担当部課】	都城発掘調査部　史料研究室	【事業責任者】	副部長　山崎信二

【スタッフ】
渡辺晃宏、馬場基、市大樹、山本崇、浅野啓介、中村一郎、高妻洋成、大橋育順（(財)徳島県埋蔵文化財センター）、和田萃（京都教育大学名誉教授）

【年度実績概要】
平成 17・18 年度の２カ年にわたって、観音寺遺跡出土木簡の総合的研究を実施したが、その後も木簡の出土があいついだため、従前の研究成果を受けて引き続きさらに２カ年の計画で標記の受託研究を実施することになった。今回は、観音寺遺跡だけでなく、関連する敷地遺跡の木簡も対象とし、２カ年で計 120 点の木簡について、最新の機器を用いた再解読を行ってその歴史的な評価を確定し、また貴重な史料群を後世に残すため、木簡ごとに最適な手法を選択した上で、科学的な保存処理を行うものである。初年度にあたる今年度対象としたのは 60 点である。

本年度実施した事業は下記の通りである。

① 現在の水漬け状態における釈文の再検討を、最新鋭の赤外線テレビカメラ装置を用いて実施し、現状の釈文案を作成した。釈読検討会は、これまで観音寺遺跡・敷地遺跡出土木簡の釈読に携わってこられた京都教育大学名誉教授の和田萃氏にもご参加いただき、従来の釈読を踏まえて実施した。
② 同上について、４×５モノクロ写真（ネガ）、４×５カラー写真（ポジ）、デジタルカメラによる赤外線撮影写真の３種類の撮影を行った。原版は、奈文研と(財)徳島県埋蔵文化財センターの双方に保管している。
③ ①②による水漬け状態における作業終了後、埋蔵文化財センター保存修復工学研究室において科学的な保存処理を実施した。保存処理方法は、木簡の現在の状況に応じて、真空凍結乾燥法と高級アルコール法の適切な方を選択して実施した。
④ 保存処理後、①と同じ要領で、再度釈読検討会を実施し、60 点の木簡について釈文を確定した。
⑤ 保存処理後の状態について、②と同じ要領で写真撮影を実施した。

以上の調査の結果、従来の釈読に加えて、今年度対象とした木簡についてもさらに読みを深めることができた。また、保存処理によってさらに墨痕が鮮明になる場合があり、最新の機器を使用したことや、これまで奈文研に於ける永年にわたる木簡解読技術の蓄積ともあいまって、従来明らかでなかった文字を解読することができ、従来の釈文を訂正すべき部分があることが明らかになった。

具体的な調査成果については、委託主体である(財)徳島県埋蔵文化財センターに業務完了報告書の形で報告し、今年度は特に公表には至っていない。平成 17・18 年度の２年間にわたって受託事業として調査を実施した 85 点の木簡、平成 20 年度に受託研究を実施する予定の 60 点の木簡とともに、最終的に４カ年にわたる調査成果を集成する形で、平成 20 年度末に(財)徳島県埋蔵文化財センターから報告書を公刊する予定である。

【実績値】
解読木簡点数 60 点、水漬け状態の写真撮影モノクロ 60 点・カラー60 点・赤外線デジタル 60 点、
保存処理後の写真撮影モノクロ 60 点・カラー60 点・赤外線デジタル 60 点
木簡の科学的保存処理 60 点

【受託経費】
1,200 千円

ⅱ．　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【書式A】　施設名：法人全体　処理番号：2700

中項目	Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(1)　共通的な事務の一元化による業務の効率化

事業概要	職員の意識改革を通じて、博物館への来館者や国民等へのサービスの向上を図ると同時に、業務の効率化を図る。

担当者	担当部課	総務企画課	事業責任者	総務企画課長　山内浩一

実績･成果	・国立博物館と文化財研究所の統合により、隣接する東京国立博物館と東京文化財研究所が協同して特集陳列「海外所在文化財修理展」や特集陳列「黒田清輝の作品Ⅰ・Ⅱ」を実施。 ・東京文化財研究所内に文化財保存修復科学センターを設置。国立博物館の保存修復担当者を併任させ、情報の共有化、サービスの向上、業務の効率化を図っている。 ・20 年 4 月に開始する人事システムを統合させる作業を実施した。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・東京国立博物館と東京文化財研究所との協力については、黒田記念館の管理を東京国立博物館に移したこともあり、積極的に実施している。ただし、東京文化財研究所の事業紹介や黒田清輝関連作品の展示の機会は増加したが、黒田記念館自体への来館者は減少しており、20 年度以降、対応を検討していく必要がある。 ・業務の効率化については、2 法人が統合した初年度であったこともあり、次年度以降引き続き実施していく。 ・職員の意識改革等に関していえば、18 年度に東京国立博物館で実施した業務改善プロジェクトも参考にしながら、本部・各施設においても実施していきたい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名：法人全体　処理番号：2800

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(2)　使用資源の減少

事業概要	1)　光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。（年間 1.03%減少） 2)　廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。（一般廃棄物排出量を年間 1.03%減少）

担当者	担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館営業開発部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課	事業責任者	事務局長　吉田　靖

実績･成果

・光熱水料の節減のため、エネルギー効率の良い機器への交換、より安価な供給契約への変更、日常の節電節水等の周知徹底、夏季の軽装等励行、冷暖房の省エネ運転等を引き続き行った。
・廃棄物削減については、コピー用紙は再生紙の使用、古紙の回収、所内LANの活用による回覧文書のペーパーレス化推進、ディスプレイ材料等の再利用徹底によるリサイクルの推進および経費の節減を図った。
・また、「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を定め、これを推進した。

使用資源の推移　（単位：千円）

事項	18 年度	19 年度	差額
電気料	397,511	397,304	△207
水道料	85,074	89,081	4,007
ガス料	108,538	114,008	5,470
計	591,123	600,393	9,270

事項	18 年度	19 年度	増減率（%）
一般廃棄物（kg）	230,892	224,274	△2.9
産業廃棄物（kg）	75,885	46,693	△38.5

※計量方式が異なっていたため、廃棄物については東京文化財研究所を除く。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	光熱水料は各施設で概ね減少傾向にあるが、東京国立博物館では 18 年度に比べ入館者が 35 万人以上も増加し、常時公開スペースも増えた影響で光熱水料が増加したこともあり、一律に減少とはならなかった。 ・一般廃棄物については、目標を大きく上回る減少率となった。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
光熱水料	1.6%増	年間 1.03%減	C
一般廃棄物排出量	2.9%減	年間 1.03%減	A

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 東京国立博物館 処理番号 2901

中項目	1 職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(3) 施設有効使用の推進

事業概要	パーティー、コンサート、撮影への施設利用（平常展入場券付として新たな入館者の開拓も兼ねる)、茶室の貸出等の促進による施設の有効利用を図る。

担当者	担当部課	営業開発部渉外課	事業責任者	渉外課長 庄司幸浩

実績･成果

施設名	平成 19 年度
講堂等	407 件（内 有償貸付 72 件）
茶室	334 件（内 有償貸付 134 件）
その他（本館・表慶館・ラウンジ・前庭）	144 件（内 有償貸付 144 件）
合 計	885 件 収入額 43,206 千円

入館者の拡大を目的とするコンサートとして
・ハーバード大学男性ア・カペラコーラスグループ「クロコディロス」公演
（6月24日 共催：(財) 東芝国際交流財団)
・「ファミリーコンサート」(7月22日 共催：東京クラリネットクワイアー)
・「ジェラール・プーレ ヴァイオリンリサイタル」(9月24日)
・「エレーナ・イオーノワ&ワレーリー・イスリャイキン オペレッタアリア コンサート」
（9月30日 共催：サロン・ド・ソネット)
等を、講演会として、
・「美と知の時代」を支えるミュージアム（4月22日)
・「東大寺講演会」(10月30日 共催：東大寺)
演芸として、
・「新春東博寄席」(20年１月6日)
など様々なイベントを実施した。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・コンサート等のイベントを、お客様に展示観覧と併せてコンサート等を楽しんでいただけるよう、開館時間中に実施するものを増やした。(18 件中 15 件を開館時間中に開催) ・表慶館における教育スペース「みどりのライオン」、また本館特別5室における特集陳列「仏像の道」のオープンに伴って、イベント会場として利用可能な施設が減少したことを機に、実施イベントについて広範な見直しを図り、平常展のみの期間および開館時間中に開催できるイベントに重点化を行った。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	
施設の有効利用件数	885 件	―	―	
うち有償利用件数	350 件	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 京都国立博物館 処理番号 2902

中項目	1 職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(3) 施設有効使用の推進

事業概要	施設の有効使用

担当者	担当部課	総務課	事業責任者	総務課長 大西真一

実績･成果

講堂等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。

平常展示館講堂（夏期講座）

平常展示館講堂
- 展覧会等に関する講演会（講座回数 45 回 聴講者数合計 4,329 名）
- 夏期講座（開催日 3 日間 申込者 196 名 当日参加者 160 名）
- イベント開催「京都・らくご博物館」（開催日 4 日 入場者数 703 名）
  ミュージアムコンサート
  バレンタインコンサート（開催日 1 日 入場者 112 名）

特別展示館
- バロックコンサート（開催日 1 日 入場者 224 名）
- チェンバロミニコンサート（開催日 9 日）
- スプリングオペラコンサート（開催日 2 日 入場者 366 名）

また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸し出しを積極的に行った。

外部使用件数		使用料
講堂	17 件（無料件数含む）	180 千円
研修室	17 件（ 〃 ）	12 千円
茶室	21 件（ 〃 ）	259 千円
旧管理棟	1 件	2,857 千円
計	56 件	3,308 千円

上記施設の利用案内は、主に博物館のホームページで発信するほか、当館のキャンパスメンバーズ校に対しては、募集要項において施設利用の割引を掲載するなど、有効利用の促進を図った。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

講堂の活用
- 昭和 48 年から毎週土曜日に開講の「京都国立博物館土曜講座」の会場として活用し、目標件数である 45 回をクリアーした。
- 土曜講座は、本年度開講 1600 回を迎え固定客も付き、当館の長寿看板講座の位置を築いている。
- 当館の恒例となっている夏期講座の講演会場として講堂を利用した。
- 特別展覧会開催に関連するコンサート会場として使用し、開催の都度、販売チケットが完売に近い状況である。
- 年 4 回、四季それぞれの時候にあわせた「京都・らくご博物館」の開催会場として活用し、毎回ほぼ満席の盛況にある。

特別展示館の中央ホール
- 特別展覧会のプレイベントとして、同館の中央ホールでバロックコンサートを開催したところ、超満員の盛況であった。
- 今回で 4 回目を迎えるオペラコンサートを本年も開催し、2 日間のオペラチケットは、開催 3 週間前には完売するなど、博物館の会場で実施することへの反響が高い。

旧管理棟等
- キャンパスメンバーズ加入校の資料館改修工事に伴い、同校の学術図書の保管場所として同工事が完成するまでの期間、当館の施設を有償で使用させた。
- 当館に茶室が設けられていることが徐々に浸透してきたのか茶道愛好家の利用が多くなってきた。

上記の施設は、どれにおいても老朽化が進み、施設有効利用を図るには、それぞれに補修工事を施す必要がある。このため、有効利用の促進を図るには相当の経費導入が不可欠である。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
施設の有効利用件数	56 件	―	―
うち有償利用件数	30 件	―	―

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 2903

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(3)　施設有効使用の推進

事業概要	公開講座等を開催し、施設の有効利用を図る。また日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当者	担当部課	総務課渉外室	事業責任者	渉外室長　植田義雄

実績･成果

・施設の利用
講堂：公開講座（15 回）、サンデートーク（12 回）、正倉院展ボランティア解説（17 日間計 79 回）、世界遺産学習（33 校）

・イベント等の実施（計 45 回）
敷地内：和太鼓演奏会、クラシックカーラリー
講堂：特別講座「香文化について」、雅楽の夕べ、クリスマスフルートコンサート、奈良博寄席、春日若宮おん祭りの舞楽、お水取り「講和」と「粥」の会
仏教美術資料研究センター：フォルテピアノコンサート
地下回廊：子供絵画展示会

クラシックカーラリー

奈良博寄席

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・「日本クラシックカーラリー2007 大和路・奈良」のメイン会場として敷地内貸与及び協力した。敷地内にラリー参加者のクラシックカーが一同に集結し、起点となるゲートなどが設置された。当日はカーラリー参加者のみならず、一般見学者及びマスコミ関係者が多数訪れ、施設の有効活用とともに、当館への注目を集める機会となった。
・重要文化財である仏教美術資料研究センターを結婚式会場として貸与した。結婚式会場としての貸与は昨年度に続き 2 回目であり、今後も当館の施設貸与事業に関する広報活動に力を入れていく。
・講堂で実施した落語イベントの新春寄席は、主催として初の試みであったが、参加者から非常に好評意見であったので、定期的な開催をめざし講堂使用率も高める。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価
施設の有効利用件数	122 件	―	―
うち有償利用件数	18 件	―	―

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】 施設名 九州国立博物館 処理番号 2904

中項目	1 職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(3) 施設有効使用の推進

事業概要	① 講座・講演会等を開催する。 ② 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。 ③ 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当者	担当部課	総務課、交流課	事業責任者	総務課長 浅井浩文 事務主査 元永行英

実績･成果	・文化交流展示室を分かりやすく紹介する講座の開催を行った。また、各特別展で関連する講演会を実施した。 ・ミュージアムホール・エントランスホール・研修室等において、各種団体主催のイベントを開催した。 ・希望団体等にはミュージアムホールや研修室の貸し出しを行った。 ・アジアをはじめとする海外のイベントにより、国際的な情報の発信を行う一方、「留学生の日」イベント等の開催を通して、日本文化を海外の方々へ向けて発信した。 ・ワークショップや、コンサートの開催等、従来にない取り組みを館内で継続的に実施し施設の有効活用を促進した。 ミュージアムホールの利用 73 件（内 有料 5 件） 研修室の利用 33 件（内 有料 21 件） その他(エントランスホール外)82 件（内 有料 2 件）

きゅーはくミュージアムコンサート

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・ 文化交流展示室を分かりやすく紹介するミュージアム講座を実施した。 ・ 特別展ごとに関連講演会を実施して、展示内容やその背景等を分かりやすく紹介した。 ・ 内容を勘案したうえで、ミュージアムホール・エントランスホール・研修室等において、各種団体主催の持ち込みイベントを実施し、来館者サービスを充実させるとともに、施設を有効に活用した。一方で、希望団体にはミュージアムホールや研修室の貸し出しを行った。 ・ 各種国際シンポジウム、韓国・カンボジア・インドなどに関するイベント、「留学生の日」イベント等の開催を通して、海外の情報を来館者に分かりやすく紹介するとともに、日本文化を海外の方々へ向けて発信した。 ・ ガムランワークショップや、コンサートの開催等、従来にない取り組みを館内で継続的に実施して、施設の有効活用を促進した。 ・ 屋外において足湯イベントや物産展等を開催して、施設の有効活用をはかった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	施設の有効利用件数	188 件	―	―	
	うち有償利用件数	28 件	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対し、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 2905

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(3)　施設有効使用の推進

事業概要	会議室、セミナー室等一般の利用に供することが可能な施設の有料貸付を実施し、施設の有効利用の推進を図る。

担当者	担当部課	東京文化財研究所管理部	事業責任者	東京文化財研究所管理部長 永井義美

実績･成果	・セミナー室・会議室等を活用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を、広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを毎年秋に開催。また、このレクチャーは、台東区との連携事業として「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムの一つとしても企画された。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・外部団体等に広く講演会・シンポジウム等の定期的な会場として提供することにより、一定の収益があった。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
	施設の有効利用数	266 件	－	－	
	うち有償利用件数	40 件	－	－	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 2906

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(3)　施設有効使用の推進

事業概要	会議室、セミナー室等一般の利用に供することが可能な施設の有料貸付を実施し、施設の有効利用の推進を図る。

担当者	担当部課	奈良文化財研究所管理部	事業責任者	奈良文化財研究所管理部長 西村博美

実績･成果

施設名	19 年度
平城宮跡資料館講堂	164 件（内　有償貸与　2 件）
平城宮跡資料館小講堂	168 件（内　有償貸与　5 件）
寄宿舎施設	1,471 件（内　有償貸与　56 件）
飛鳥資料館講堂	18 件（内　有償貸与　0 件）
その他（本庁舎・監理棟・収蔵庫等）	20 件（内　有償貸与　12 件）
合計	1,841 件（内　有償貸与　75 件）

① 調査研究成果を公表する場として、また、調査研究の進展に資することを目的として多岐にわたる各研究分野において、講習会・研究会・学会等を開催した。
② 広く国民に文化財への理解を求めるべく、セミナー及び一般参加型のイベント等を開催した。
③ 一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、HP 上での施設利用紹介等による積極的有効利用（貸付等）の促進を図った。
④ 奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。
⑤ 特別展示・企画展示期間において講演会を開催した。
・夏期企画展示（「とき」を撮すー発掘調査と写真ー）（約 30 名参加）
・秋期特別展示（2 日・134 名参加）
団体入館者の要望に応えて、大型モニター映像による集合解説を実施した。
（年間 15 回・1 回平均 30 名参加）
⑥ 上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館及び藤原宮跡資料室の各ミュージアムショップ（売店）の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	施設の有効利用及び調査研究の進展並びに行政サービスの向上を包括的に捉えて、事業運営の展開を図った。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	
施設の有効利用件数	1,841 件	―	―	
うち有償利用件数	75 件	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 3000

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(4)　民間委託の推進

事業概要	・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。 ・館の警備・清掃業務について民間委託を推進する。 ・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。

担当者	担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館営業開発部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課	事業責任者	事務局長　吉田　靖

実績･成果	・電気・機械等施設設備保守、清掃業務、警備業務、展示室監視、売札業務等については、大部分が民間委託を実施している。 ・来館者サービスに関するものでは、図書館業務、インフォメーション業務、電話案内業務などについて、民間委託を進めている。 ・各種事務補助作業等については、労働者派遣による民間委託を推進している。 ・また、複数の業務についての包括契約化、複数年契約、近隣の機関及び法人内同一地域での一括契約などにより、経費の効率化を図っている。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・可能な業務については、概ね民間委託が実施されている。 ・外部委託の増加に伴い、契約手続きや指導・監督の業務負担も増加するなど、人件費削減が求められている現状では、限られた職員での対応が困難な場合も生じてきている。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 3100

中項目	1　職員の意識改革、サービスの向上、業務の効率化

事業名	(5) 競争入札の推進

事業概要	一般競争入札を推進することにより、経費の効率化を図る。

担当者	担当部課	本部財務課（取りまとめ） 東京国立博物館営業開発部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所管理部、奈良文化財研究所管理部管理課	事業責任者	事務局長　吉田　靖

実績･成果	・法人の統合に伴い、一般競争契約の限度額を見直し国の規準と同額とした。 ・なお、基準額に達しない契約の場合も、可能なものについては一般競争入札を実施している。 ・また、複数の契約の内容をまとめて１件の契約とする包括契約の実施、近隣の他機関及び、法人内同一地域と共同で数量をまとめて発注し事務を分担する共同購入、単年度契約の複数年契約への変更などにより、経費の効率化を図っている。

一般競争入札件数

年度	18 年度	19 年度	増減
件数	59 件	98 件	39 件

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・一般競争契約限度額の見直しなどにより、前年度に対する一般競争入札の件数は大きく増加した。 ・総務省からの要請に基づき、「独立行政法人整理合理化計画」の一環として、随意契約の見直しを行い、随意契約によることがやむを得ないものを除き、20 年度から順次競争契約に移行する予定である。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して順調に成果を上げている。

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 3200

中項目	2　事業評価の実施、職員の理解促進、意識や取り組みの改善

事業名	2　事業評価の実施、職員の理解促進、意識や取り組みの改善

事業概要	事業評価を通した業務運営の改善、質的向上を図ると同時に、職員の意識改革を図る。

担当者	担当部課	総務企画課	事業責任者	総務企画課長　山内浩一

実績･成果	・19 年度より 2 法人が統合したことに合わせて、これまで博物館では「実績報告」という形で行っていた評価を研究所同様に「自己点検評価」と改め、職員個々人からの業務改善の意欲を促せるような仕組みに改めた。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・評価に関していえば、機構としては初であるが、事業年度終了後に実施するため、未だその効果や方法の是非は不明であり、次年度に改めて評価したい。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
		―	―	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果を上げている。

【書式A】　　施設名　法人全体　　処理番号　3300

中項目	3　情報の安全性向上

事業名	3　情報の安全性向上

事業概要	情報の安全性向上のための必要な措置を実施する。

担当者	担当部課	総務企画課	事業責任者	総務企画課長　山内浩一

実績･成果	・CIO の設置、CIO 補佐役の設置 　機構の情報化全体を指導統括する権限及び責任を有し、情報システムの管理運営に関する統括者として CIO を、また、CIO 及び各施設の長に対して、業務の改革や情報システムの分析・評価についての支援・助言を行う CIO 補佐役を設置した。 ・国立文化財機構情報システム管理・セキュリティ対策基本方針及び独立行政法人国立文化財機構情報システム管理規程の策定 　国立博物館と文化財研究所が統合したことにより、機構における情報化の推進及び情報システムの管理運用について必要な事項を新たに定め、電子情報の処理について適正かつ効率的な管理運用を図り、もって機構における業務の効率化及び情報セキュリティの確保を目的とした。 ・国立文化財機構情報システム部門連絡会の開催 　各施設情報システム部門担当職員が実務上の意見交換を行い、今後の円滑な情報の流通と業務の改善を図ることを目的に開催した。 ・情報化委員会の設置 　CIO は情報化担当等による情報化委員会を主催し、機構の情報化を推進するために設置した。 ・個人情報保護に関する教育研修の実施（東博） 　7 月 18 日に文部科学省大臣官房総務課情報公開・個人情報保護室個人情報保護専門官を講師に個人情報保護法の研修を実施し、職員の個人情報保護に対する意識を高めた。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・6 施設の情報担当者との連絡を密にして機構としての情報セキュリティポリシーとして、情報システム管理・セキュリティ対策基本方針と情報システム管理規程の策定を行い、情報の安全性向上に向けた取組みが実施できた。 ・引き続き、CIO を中心に情報化委員会、情報システム部門連絡会等において、機構の電子情報の処理について適正かつ効率的な管理運営に取組むこととしている。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	

【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 3400

中項目	4　人件費の削減

事業名	4　人件費の削減

事業概要	・「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成 18 年法律第 47 号）に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成 18 年度からの 5 年間において、5%以上の人件費削減を行う。 ・国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う。更に「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006」（平成 18 年 7 月 7 日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成 23 年度まで継続する。

担当者	担　当部課	本部総務企画課	事業責任者	総務企画課長　山内浩一

実績･成果

・人件費削減実績

	17 年度（A 分類実績ベース）	18 年度	19 年度	22 年度目標値（17 年度に比して△5.00%）
実績（千円）	2,886,652	2,789,361	2,773,689	2,742,319
前年度に対する削減率	－	△3.37%	△0.39%	―
17 年度に対する削減率	－	△3.37%	△3.91%	―

・人事給与事務を統一的に処理することができる人事給与システムの導入に取組み、20 年 4 月から稼働することができた。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・人件費は 18 年度と比較して約 1,600 万円減の 27 億 74 百万円となった。18 年度と比較すると 0.39%減にとどまっているが、これは 18 年度に大きく削減したことによるものであり、22 年度までの 5%削減という目標に向けて順調に進捗している。
・人事給与システムを導入したことにより、人件費の統一的な管理が可能となったことは、今後の人件費の削減に向けて有益である。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	
人件費削減率（17 年度比較）	△3.91%	17 年度決算額に比して 5 年間で 5%削減	―	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果をあげている。

ⅳ．　その他主務省令で定める業務運営に関する事項

【書式A】　施設名：法人全体　処理番号：3500

中項目	1　人事に関する計画

事業名	(1)　近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。

事業概要	近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。

担当者	担当部課	本部総務企画課	事業責任者	総務企画課長　山内浩一

実績･成果

〈事務系職員〉
・本部事務局及び各施設において、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び国立西洋美術館等との人事交流を実施し、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。
・また、東京都特別区及び新聞社との人事交流を実施し、職員の能力向上を図った。
〈研究系職員〉
・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を 8 名採用した。
・また、文化庁（13 名）との人事交流を行っている。

年度	本部・東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	年度計（人）
１４	14（東大）	12（京大）	5（阪大、京大、奈教大）	2（九大）	6（東大、医科歯科大、千葉大）	12（京大、阪大、京工繊大、日文研）	５１
１５	11（東大）	11（京大）	5（阪大、京大、奈教大）	2（九大）	6（東大、医科歯科大、千葉大）	13（京大、阪大、京工繊大、日文研）	４８
１６	12（東大）	11（京大）	6（阪大、京大、奈教大）	5（九大）	7（東大、医科歯科大、千葉大）	11（京大、阪大、滋賀大、京工繊大）	５２
１７	12（東大）	10（京大）	8（阪大、京大、奈教大、阪教大、奈女大）	6（九大、東大）	6（東大、医科歯科大、千葉大）	10（京大、阪大、滋賀大）	５２
１８	11（東大、西美）	10（京大）	6（阪大、京大、阪教大、奈女大）	6（九大、東大）	6（東大、医科歯科大、千葉大）	9（京大、阪大、滋賀大、滋賀医科大）	４８
１９	13（東大、医科歯科大、西美、政研大）	11（京大）	7（阪大、京大、阪教大、奈教大）	6（九大、東大、九工大）	5（東大、医科歯科大、千葉大）	7（京大、阪大、滋賀大、滋賀医科大）	４９

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

・　評価できる成果としては、事務系職員において、近隣大学等との交流数が平成 18 年度の 11 法人から今年度は 13 法人に増加し、他法人との交流の幅を拡大した。また、人事交流者数も平成 18 年度の 48 名から今年度は 49 名に増加し、優秀な人材を確保し、計画に対し順調に成果をあげている。
・　今後の課題としては、事務系職員において、他法人からの受け入れが交流の中心となっているが、今後は双方向の人事交流を増加させる必要がある。
・　研究職員については、文化庁との双方向の人事交流が行われているが、交流の多様化と交流先の拡大を図る必要がある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果をあげている。

【書式A】　施設名：法人全体　処理番号：3600

中項目	1　人事に関する計画

事業名	(2)　各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。

事業概要	各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。

担当者	担当部課	本部総務企画課	事業責任者	総務企画課長　山内浩一

実績･成果

機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修（3 件）を実施した。

また、他機関で実施する研修に積極的に参加した。

研修名称	日程	受講対象者	受講者数
新任職員研修会	7 月 17 日～ 7 月 19 日	18 年度以降の新任職員	23 人
接遇研修	7 月 17 日	18 年度以降の新任職員及び東京国立博物館職員（お客様対応を主な職務とするもの）	27 人
個人情報保護についての講演会	7 月 18 日	18 年度以降の新任職員及び本部事務局、東京国立博物館全職員及び近隣独立行政法人職員	約 100 人

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）

- 新任職員に対しては、機構職員としての必要な業務・組織等についての基礎的知識及び執務要領を修得させ、新任職員の資質の向上を図ることができた。
- 接遇研修の企画及び実施により、機構職員としての資質向上を図るとともに、修得した知識等（お客様からの苦情への対応方法等）を業務に反映させることができた。
- 「独立行政法人等の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する指針について」に基づき、保有個人情報の取扱いに従事する職員に対し、保有個人情報の取扱いについて、理解を深め、個人情報の保護に関する意識の高揚を図ることができた。

定量的評価

項目	実績	目標値	評価	
研修機会の提供	3 件	－	－	

中期計画期間における進捗状況

中期計画に対して、順調に成果をあげている。

【書式A】　施設名：法人全体　処理番号：3700

中項目	1　人事に関する計画

事業名	(3)　非公務員化のメリットを活かした制度の活用

事業概要	非公務員化のメリットを活かした制度の活用

担当者	担当部課	本部総務企画課	事業責任者	総務企画課長　山内浩一

実績･成果	・ 技術職員及び技能・労務職員について、特殊技術及び技能を持つ優れた人材を確保するため、機構独自で採用可能とする規定の整備を行った。 ・ 規定の整備後、初めて技術職員（写真技士）を京都国立博物館で１名、また労務職員（衛士）を奈良国立博物館で１名について独自の選考採用を実施した。

定性的評価（目標に対する成果の達成状況）	・ 18 年度までは、一般職員は「関東甲信越地区国立大学法人等職員採用試験」に基づき採用を行っていたが、規定の整備によって、19 年度より技術職員及び技能・労務職員についての採用を可能とした。 ・ 選考の方法等については、さらに検討し、改善していく必要性があると考える。 ・ 研究職員においても、人事の流動化を図りたいが、退職手当の通算の問題があるので、難しい状況にある。

定量的評価	項目	実績	目標値	評価	
			―		

中期計画期間における進捗状況	中期計画に対して、順調に成果をあげている。

19年度自己点検評価報告書（調査研究）一覧

頁番号	年度計画の記号	調査研究の名称	施設名	処理番号
120	Ⅰ 4 (1) ① ア	文化的景観に関する調査研究	奈良文化財研究所	※2001
122	Ⅰ 4 (1) ① イ	民俗技術に関する調査・資料収集　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究　（Ⅰ4（1）④と一体で実施）	東京文化財研究所	2002
124	Ⅰ 4 (1) ② ア	東アジアの美術に関する資料学的研究	東京文化財研究所	2003
126	Ⅰ 4 (1) ② イ	近現代美術に関する総合的研究	東京文化財研究所	2004
128	Ⅰ 4 (1) ② ウ	美術の技法・材料に関する広領域的研究	東京文化財研究所	2005
130	Ⅰ 4 (1) ② エ	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	奈良文化財研究所	2006
132	Ⅰ 4 (1) ② オ	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	奈良文化財研究所	※2007
134	Ⅰ 4 (1) ③	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	東京文化財研究所	※2008
136	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	平城宮跡東院地区（第４２１次）の発掘調査	奈良文化財研究所	※2009
138	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	平城宮跡東院地区（第４２３次）の発掘調査	奈良文化財研究所	2010
140	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	平城宮跡東方官衙地区(第４２９次)の発掘調査	奈良文化財研究所	2011
142	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	旧大乗院庭園(第４２４次）の発掘調査	奈良文化財研究所	2012
144	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	藤原宮跡大極殿院南門発掘調査	奈良文化財研究所	※2013
146	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	石神遺跡（第２０次）発掘調査	奈良文化財研究所	2014
148	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	甘樫丘東麓遺跡発掘調査	奈良文化財研究所	2015
150	Ⅰ 4 (1) ⑤ イ	平城京跡出土遺物の調査研究	奈良文化財研究所	2016
152	Ⅰ 4 (1) ⑤ イ	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	奈良文化財研究所	2017
154	Ⅰ 4 (1) ⑤ イ	古代瓦に関する研究集会の開催	奈良文化財研究所	2018
156	Ⅰ 4 (1) ⑤ ウ	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	奈良文化財研究所	2019
158	Ⅰ 4 (1) ⑤ エ	庭園に関する調査研究	奈良文化財研究所	2020
160	Ⅰ 4 (1) ⑤ オ	飛鳥地域の歴史に関する調査研究	奈良文化財研究所	2021
162	Ⅰ 4 (1) ⑥ ア	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	奈良文化財研究所	2022
164	Ⅰ 4 (1) ⑥ イ	遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究	奈良文化財研究所	2023
166	Ⅰ 4 (1) ⑥ ウ	第一次大極殿復原整備研究	奈良文化財研究所	2024
168	Ⅰ 4 (2) ①	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	東京文化財研究所	2025
170	Ⅰ 4 (2) ②	文化財の非破壊調査法の研究	東京文化財研究所	2026
172	Ⅰ 4 (2) ③ ア	遺跡データベースの作成と公開	奈良文化財研究所	2027
174	Ⅰ 4 (2) ③ イ	古代官衙・集落に関する研究集会の開催	奈良文化財研究所	2028
176	Ⅰ 4 (2) ③ ウ	遺跡の測量・探査技術の有効利用法の研究	奈良文化財研究所	2029
178	Ⅰ 4 (2) ④	年輪年代学研究	奈良文化財研究所	2030
180	Ⅰ 4 (2) ⑤	動物遺存体による環境考古学研究	奈良文化財研究所	※2031
182	Ⅰ 4 (3) ①	文化財の生物劣化対策の研究	東京文化財研究所	2032
184	Ⅰ 4 (3) ②	文化財の保存環境の研究	東京文化財研究所	2033
186	Ⅰ 4 (3) ③	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	東京文化財研究所	2034
188	Ⅰ 4 (3) ③	文化財の防災計画に関する調査研究	東京文化財研究所	2035
190	Ⅰ 4 (3) ④	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	奈良文化財研究所	2036
192	Ⅰ 4 (3) ⑤	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	東京文化財研究所	2037
194	Ⅰ 4 (3) ⑤	国際研修「漆の保存と修復」	東京文化財研究所	2038
196	Ⅰ 4 (3) ⑤	在外日本古美術品保存修復協力事業	東京文化財研究所	2039

頁番号	年度計画の記号	調査研究の名称	施設名	処理番号
198	Ⅰ 4 (3) ⑥	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	東京文化財研究所	※2040
200	Ⅰ 4 (4)	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	東京・奈良文化財研究所	※2041
202	Ⅰ 4 (4)	外部機関の要請に基づく文化財の保存修復に関する実践的研究	奈良文化財研究所	※2042
204	Ⅰ 4 (5) ① 1)	特別展調査法隆寺献納宝物（第29次）「聖徳太子絵伝」第3回	東京国立博物館	2101
206	Ⅰ 4 (5) ① 2)	特別調査「書跡」第4回（17年度写経1回、18年度写経2回実施）	東京国立博物館	2102
208	Ⅰ 4 (5) ① 3)	特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神図屏風を中心に	東京国立博物館	2103
210	Ⅰ 4 (5) ① 4)	応挙館障壁画の復元に関する調査研究	東京国立博物館	2104
212	Ⅰ 4 (5) ① 5)	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	東京国立博物館	2105
214	Ⅰ 4 (5) ① 6)	館蔵博物図譜の調査研究（研究成果公開促進費補助金）	東京国立博物館	2106
216	Ⅰ 4 (5) ① 7)	日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金）	東京国立博物館	2107
218	Ⅰ 4 (5) ① 8)	江戸幕府旧蔵資料の総合的研究（科学研究費補助金）	東京国立博物館	2108
220	Ⅰ 4 (5) ① 9)	日本古代手工業史における埴輪生産構造の変遷と技術移転からみた古墳時代政治史の研究（科学研究費補助金）	東京国立博物館	2109
222	Ⅰ 4 (5) ① 10)	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	東京国立博物館	2110
224	Ⅰ 4 (5) ① 11)	ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究	東京国立博物館	2111
226	Ⅰ 4 (5) ① 12)	文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築（科学研究費補助金）	東京国立博物館	2112
228	Ⅰ 4 (5) ① 13)	環境保存に関する研究	東京国立博物館	2113
230	Ⅰ 4 (5) ① 14)	耐震性の高い展示手法に関する研究	東京国立博物館	2114
232	Ⅰ 4 (5) ① 15)	大型油彩画のロール状保存と木枠に張り込まない展示手法の開発に関する調査研究	東京国立博物館	2115
234	Ⅰ 4 (5) ① ―	国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究―館史資料の分析を中心に―（科学研究費補助金）	東京国立博物館	2116
236	Ⅰ 4 (5) ① ―	東京国立博物館所蔵写真資料の調査研究（研究成果公開促進費補助金）	東京国立博物館	2117
238	Ⅰ 4 (5) ① ―	東京国立博物館所蔵古地図の調査研究（研究成果公開促進費補助金）	東京国立博物館	2118
240	Ⅰ 4 (5) ① ―	特別展の事前調査	東京国立博物館	2119
242	Ⅰ 4 (5) ① 1)	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究	京都国立博物館	2120
244	Ⅰ 4 (5) ① 2)	平安仏教とその造形に関する調査研究	京都国立博物館	2121
246	Ⅰ 4 (5) ① 3)	江戸時代京焼の技術基盤に関する研究（科学研究費補助金）	京都国立博物館	2122
―	Ⅰ 4 (5) ① 4)	五山禅宗寺院に伝わる典籍の総合的な調査研究―建仁寺両足院所蔵本を中心に―（科学研究費補助金）（18年度終了）	京都国立博物館	―
―	Ⅰ 4 (5) ① 5)	近世漆工芸基礎資料の研究―高台寺蒔絵を中心に―（科学研究費補助金）（18年度終了）	京都国立博物館	―
248	Ⅰ 4 (5) ① 6)	仏教における衣服の寄進と再利用に関する基礎的研究―袈裟、打敷、幡―（科学研究費補助金）	京都国立博物館	2123
250	Ⅰ 4 (5) ① 7)	日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金）	京都国立博物館	2124
252	Ⅰ 4 (5) ① 8)	建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍書類の調査研究（科学研究費補助金）	京都国立博物館	2125
―	Ⅰ 4 (5) ① 9)	仏像における玉眼技法の誕生とその前提としての水晶加工技術に関する基礎的研究（科学研究費補助金・不採択）	京都国立博物館	―
254	Ⅰ 4 (5) ① 10)	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	京都国立博物館	2126
256	Ⅰ 4 (5) ① 11)	永徳に関する調査研究（客員研究員）	京都国立博物館	2127
258	Ⅰ 4 (5) ① 12)	近世絵画に関する調査研究（客員研究員）	京都国立博物館	2128
260	Ⅰ 4 (5) ① 13)	文化財情報に関する調査研究（客員研究員）	京都国立博物館	2129
262	Ⅰ 4 (5) ① 14)	訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）	京都国立博物館	2130
264	Ⅰ 4 (5) ① 15)	彫刻に関する調査研究（客員研究員）	京都国立博物館	2131
266	Ⅰ 4 (5) ① ―	建仁寺本坊所蔵典籍の調査・研究	京都国立博物館	2132
268	Ⅰ 4 (5) ① ―	古写経の書誌学的研究	京都国立博物館	2133
270	Ⅰ 4 (5) ① ―	日本の漆芸品にかかる調査研究	京都国立博物館	2134

頁番号	年度計画の記号	調査研究の名称	施設名	処理番号
272	Ⅰ 4 (5) ① —	中・近世の金属工芸品の制作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化意識、交流媒体の研究（トヨタ財団研究助成）	京都国立博物館	2135
274	Ⅰ 4 (5) ① —	古代中世山林寺院の調査・研究	京都国立博物館	2136
276	Ⅰ 4 (5) ① —	仏教工芸の調査・研究	京都国立博物館	2137
278	Ⅰ 4 (5) ① —	特別展の事前調査	京都国立博物館	2138
280	Ⅰ 4 (5) ① —	宸翰（天皇の書）の歴史学的見地から見た調査・研究	京都国立博物館	2139
282	Ⅰ 4 (5) ① —	特別展覧会開催に向けての在日ヨーロッパ陶磁の調査研究	京都国立博物館	2140
284	Ⅰ 4 (5) ① —	敦煌写本の保存と修理	京都国立博物館	2141
286	Ⅰ 4 (5) ① 1)	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施	奈良国立博物館	2142
288	Ⅰ 4 (5) ① 2)	大和古代寺院出土遺物の研究を帝塚山大学考古学研究所との共同研究として実施	奈良国立博物館	2143
290	Ⅰ 4 (5) ① 3)	仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究）	奈良国立博物館	2144
292	Ⅰ 4 (5) ① 4)	仏教美実写真収集及びその調査研究	奈良国立博物館	2145
294	Ⅰ 4 (5) ① 5)	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	奈良国立博物館	2146
296	Ⅰ 4 (5) ① 6)	当館所蔵品のついての調査研究（客員研究員）	奈良国立博物館	2147
298	Ⅰ 4 (5) ① 7)	統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金）	奈良国立博物館	2148
300	Ⅰ 4 (5) ① 8)	古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程（科学研究費補助金）	奈良国立博物館	2149
—	Ⅰ 4 (5) ① 9)	日本国内における仏教美術の基礎的調査研究並びに海外の博物館美術館との研究交渉（科学研究費補助金・不採択）	奈良国立博物館	—
—	Ⅰ 4 (5) ① 10)	仏教美術とその周辺領域を含めた図書の整備・調査研究（科学研究費補助金・不採択）	奈良国立博物館	—
—	Ⅰ 4 (5) ① 11)	密教工芸の材質研究（科学研究費補助金・不採択）	奈良国立博物館	—
—	Ⅰ 4 (5) ① 12)	文化財の光学的調査と情報共有に関する基礎的調査研究（科学研究費補助金・不採択）	奈良国立博物館	—
302	Ⅰ 4 (5) ① —	特別展の事前調査	奈良国立博物館	2150
304	Ⅰ 4 (5) ① 1)	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	九州国立博物館	2151
306	Ⅰ 4 (5) ① 2)	文化財の材質・構造等に関する共同研究（客員研究員）	九州国立博物館	2152
308	Ⅰ 4 (5) ① 3)	博物館における文化財保存修復に関する研究（客員研究員）	九州国立博物館	2153
310	Ⅰ 4 (5) ① 4)	彩色水侵文物の保存科学的研究―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存―（科学研究費補助金）	九州国立博物館	2154
312	Ⅰ 4 (5) ① 5)	弥生時代後期～古墳時代の墳墓大量出土ベンガラについての基礎的研究（科学研究費補助金）	九州国立博物館	2155
314	Ⅰ 4 (5) ① 6)	室町時代の中国文物の受容に関する調査研究（科学研究費補助金）	九州国立博物館	2156
316	Ⅰ 4 (5) ① 7)	日本近世宗門改制度に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	九州国立博物館	2157
—	Ⅰ 4 (5) ① 8)	高度デジタル化技術を駆使した文化財の保存と活用―九州における文化財情報の新基盤―（科学研究費補助金・不採択）	九州国立博物館	—
—	Ⅰ 4 (5) ① 9)	九州地域における文化財の保存と活用のための基盤調査（科学研究費補助金・不採択）	九州国立博物館	—
318	Ⅰ 4 (5) ① 10)	VR画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金）	九州国立博物館	2158
—	Ⅰ 4 (5) ① 11)	中世東アジアの工芸技術に関する比較研究（科学研究費補助金・不採択）	九州国立博物館	—
—	Ⅰ 4 (5) ① 12)	我が国の文化保存修理システム構築のための基礎的研究（科学研究費補助金・不採択）	九州国立博物館	—
—	Ⅰ 4 (5) ① 13)	中世日本の国際貿易の展開と文化的価値体系の比較史的研究（科学研究費補助金・不採択）	九州国立博物館	—
320	Ⅰ 4 (5) ① 14)	博物館危機管理としての市民共同型IPMシステム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）	九州国立博物館	2159
—	Ⅰ 4 (5) ① 15)	銅鼓絵画の人類考古学的研究―鼓面裏に絵画を持つ得意なヘーガーⅣ式銅鼓を中心に―（科学研究費補助金・不採択）	九州国立博物館	—
322	Ⅰ 4 (5) ① 16)	博物館におけるX線CTスキャンデータの活用（科学研究費補助金）	九州国立博物館	2160
324	Ⅰ 4 (5) ① 17)	古代東南アジアにおける三尊像図像の研究―タイ・ミャンマーの図像を中心に―（科学研究費補助金）	九州国立博物館	2161
—	Ⅰ 4 (5) ① 18)	１６世紀日本絵画における粉本使用の基礎調査（科学研究費補助金・不採択）	九州国立博物館	—
—	Ⅰ 4 (5) ① 19)	五湖十六国時期を中心とする中国北方地区の墓制に関する基礎的研究（科学研究費補助金・不採択）	九州国立博物館	—
—	Ⅰ 4 (5) ① 20)	九州遺跡GISデータベース（科学研究費補助金・不採択）	九州国立博物館	—

頁番号	年度計画の記号	調査研究の名称	施設名	処理番号
326	Ⅰ 4 (5) ① 21)	超高精細大容量画像の安全・ダイナミック表示総合システムの開発（科学技術振興機構）	九州国立博物館	2162
328	Ⅰ 4 (5) ① —	近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）	九州国立博物館	2163
330	Ⅰ 4 (5) ① —	特別展の事前調査	九州国立博物館	2164
332	Ⅰ 4 (5) ② 1)	博物館環境デザインに関する調査研究	東京国立博物館	2165
334	Ⅰ 4 (5) ② 2)	博物館美術教育に関する調査研究	東京国立博物館	2166
336	Ⅰ 4 (5) ② 3)	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金）	東京国立博物館	2167
—	Ⅰ 4 (5) ② 4)	博物館におけるイベントの教育普及的効果に関する分析と実践的イベント論の構築（科学研究費補助金・不採択）	東京国立博物館	—
—	Ⅰ 4 (5) ② 5)	日本の伝統文化のための視聴覚機器の利用方法に関する研究（科学研究費補助金・不採択）	東京国立博物館	—
338	Ⅰ 4 (5) ② 1)	妙心寺本坊、塔頭（麟祥院及び衡梅院）に所蔵されている文化財の調査研究	京都国立博物館	2168
340	Ⅰ 4 (5) ② 2)	輸出漆器に関する調査研究	京都国立博物館	2169
342	Ⅰ 4 (5) ② 3)	本満寺境内蓮乗院廟の発掘調査に伴う出土品の整理	京都国立博物館	2170
344	Ⅰ 4 (5) ② 1)	平安仏教とその造形に関する調査研究成果の「院政期の絵画」展への反映	奈良国立博物館	2171
346	Ⅰ 4 (5) ② 2)	南都諸社寺に関する計画的な調査研究成果の「神仏習合」展並びに特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」への反映	奈良国立博物館	2172
348	Ⅰ 4 (5) ② 3)	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の平常展への反映	奈良国立博物館	2173
350	Ⅰ 4 (5) ② 4)	仏教美術の光学的調査研究成果の親と子のギャラリー「仏さまの彩り」への反映	奈良国立博物館	2174
352	Ⅰ 4 (5) ②	高齢者・障害者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改善方策についての調査研究	九州国立博物館	2175
354	Ⅰ 4 (5) ②	高齢者・障害者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改善方策についての調査研究	九州国立博物館	2176
356	Ⅰ 5 (1) ①	文化財保存施策の国際的研究	東京文化財研究所	2201
358	Ⅰ 5 (1) ② ア	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	東京文化財研究所	2202
360	Ⅰ 5 (1) ② ア	アンコールワット遺跡群西トップ寺院の調査	奈良文化財研究所	2203
362	Ⅰ 5 (1) ② イ	龍門石窟及び陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究	東京文化財研究所	※2204
364	Ⅰ 5 (1) ② イ	敦煌壁画の保護に関する共同研究	東京文化財研究所	2205
366	Ⅰ 5 (1) ② ウ	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	東京・奈良文化財研究所	※2206
368	Ⅰ 5 (2) ア	諸外国の文化財保存修復専門家養成	東京文化財研究所	※2207
370	Ⅰ 5 (2) イ	国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力	奈良文化財研究所	2208
372	Ⅰ 6 (1) ①	情報システムの整備	東京文化財研究所	2209
374	Ⅰ 6 (1) ①	ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実	奈良文化財研究所	2210
376	Ⅰ 6 (1) ②	専門的アーカイブの拡充	東京文化財研究所	2211
378	Ⅰ 6 (1) ②	東京文化財研究所七十五年史編纂事業	東京文化財研究所	2212
380	Ⅰ 6 (1) ②	無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	東京文化財研究所	2213
382	Ⅰ 6 (1) ②	国際資料室の整備	東京文化財研究所	2214
384	Ⅰ 6 (1) ②	文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究	東京文化財研究所	2215
386	Ⅰ 6 (1) ③	文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実	奈良文化財研究所	2216
388	Ⅰ 6 (1) ④	文化財情報電子化の研究に基づき、データベースの充実	奈良文化財研究所	2217
390	Ⅰ 6 (2) ①	『東京文化財研究所年報』・『東京文化財研究所概要』・『東文研ニュース』の刊行	東京文化財研究所	2218
392	Ⅰ 6 (2) ①	『平成１８年度版　日本美術年鑑』・『美術研究』の刊行	東京文化財研究所	2219
394	Ⅰ 6 (2) ①	『無形文化遺産研究報告』・『無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行	東京文化財研究所	2220
396	Ⅰ 6 (2) ①	『保存科学』４７号の出版	東京文化財研究所	2221
398	Ⅰ 6 (2) ①	第３０回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書の刊行	東京文化財研究所	2222
400	Ⅰ 6 (2) ①	研究報告書、年報、研究論文集、図録等の刊行	奈良文化財研究所	2223

頁番号	年度計画の記号	調査研究の名称	施設名	処理番号
402	Ⅰ 6 (2) ②	第３１回文化財の保存・修復に関する国際研究集会	東京文化財研究所	2224
404	Ⅰ 6 (2) ②	平成１９年度オープンレクチャー	東京文化財研究所	2225
406	Ⅰ 6 (2) ②	公開講演会、現地説明会等の開催	奈良文化財研究所	2226
408	Ⅰ 6 (2) ③	ホームページの運用	東京文化財研究所	2227
410	Ⅰ 6 (2) ③	ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保	奈良文化財研究所	2228
412	Ⅰ 6 (3)	黒田記念館における作品の展示公開	東京文化財研究所	2229
414	Ⅰ 6 (3)	平城宮跡資料館における展示・公開(Ⅰ６(５)と一体で実施)	奈良文化財研究所	2230
416	Ⅰ 6 (3)	飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催	奈良文化財研究所	2231
418	Ⅰ 6 (3)	藤原宮跡資料室における展示公開	奈良文化財研究所	2232
420	Ⅰ 6 (4)	文化庁平城宮跡等管理事務所との連絡調整及び連携協力	奈良文化財研究所	2233
422	Ⅰ 6 (4)	平城宮跡解説ボランティア事業の運営	奈良文化財研究所	2234
424	Ⅰ 6 (4)	各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、学習会の実施等への支援	奈良文化財研究所	2235
438	Ⅰ 7 (1)	無形文化遺産に関する助言	東京文化財研究所	2601
440	Ⅰ 7 (1)	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	東京文化財研究所	※2602
442	Ⅰ 7 (1)	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	奈良文化財研究所	※2603
444	Ⅰ 7 (1)	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言	奈良文化財研究所	2604
446	Ⅰ 7 (1)	地方公共団体が行う飛鳥藤原地区の発掘調査への援助・助言	奈良文化財研究所	2605
448	Ⅰ 7 (2) ①	埋蔵文化財担当者研修	奈良文化財研究所	2606
450	Ⅰ 7 (2) ②	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	東京文化財研究所	2607
452	Ⅰ 7 (2) ③	連携大学院教育　東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）	東京文化財研究所	2608
454	Ⅰ 7 (2) ③	京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	奈良文化財研究所	2609

※印は、関連受託事業有り。

頁番号	年度計画の記号	受託事業名	施設名	処理番号
456	Ⅰ 4 (1) ① ア	四万十市の文化的景観保全計画策定業務（受託）	奈良文化財研究所	2001-1
457	Ⅰ 4 (1) ① ア	四万十町の文化的景観の調査(受託)	奈良文化財研究所	2001-2
458	Ⅰ 4 (1) ① ア	梼原町文化的景観保存調査委託業務（受託）	奈良文化財研究所	2001-3
459	Ⅰ 4 (1) ② オ	高知県中芸地区森林鉄道遺産国指定物件調査（受託）	奈良文化財研究所	2007-1
460	Ⅰ 4 (1) ② オ	平成19年度京都府近代和風建築総合調査事業（受託）	奈良文化財研究所	2007-2
461	Ⅰ 4 (1) ③	文化遺産保護国際貢献事業　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	東京文化財研究所	2008-1
462	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	平城京左京二条三坊（第４２０次）の発掘調査（受託）	奈良文化財研究所	2009-1
463	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	旧大乗院庭園(第４２４次）の発掘調査（受託）	奈良文化財研究所	2009-2
464	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	法華寺旧境内（第４２６次）の発掘調査（受託）	奈良文化財研究所	2009-3
465	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	法華寺旧境内（第４３０次）の発掘調査（受託）	奈良文化財研究所	2009-4
466	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	喜光寺旧境内（第４３３次）の発掘調査（受託）	奈良文化財研究所	2009-5
467	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	甘樫丘平吉遺跡北方の発掘調査（受託）	奈良文化財研究所	2013-1
468	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	藤原京横大路の発掘調査（受託）	奈良文化財研究所	2013-2
469	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	藤原京本薬師寺跡の発掘調査（受託）	奈良文化財研究所	2013-3
470	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	藤原京山田道の発掘調査（受託）	奈良文化財研究所	2013-4
471	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	藤原宮東方官衙地区の発掘調査（受託）	奈良文化財研究所	2013-5
472	Ⅰ 4 (1) ⑤ ア	秋田県胡桃館遺跡出土遺材の調査研究（受託）	奈良文化財研究所	2013-6

頁番号	年度計画の記号	受託事業名	施設名	処理番号
473	Ⅰ 4 (2) ⑤	東名遺跡出土動物遺存体調査（受託）	奈良文化財研究所	2031-1
474	Ⅰ 4 (3) ⑥	初代南極観測船”宗谷”の文化財的価値及び保存整備に係わる調査研究（受託）	東京文化財研究所	2040-1
475	Ⅰ 4 (4)	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務・前期（受託）	東京・奈良文化財研究所	2041-1
476	Ⅰ 4 (4)	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務（受託）	東京・奈良文化財研究所	2041-2
477	Ⅰ 4 (4)	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務・後期（受託）	東京・奈良文化財研究所	2041-3
478	Ⅰ 4 (4)	長野県千曲市社宮司遺跡出土の六角木幢保存修復委託業務（受託）	奈良文化財研究所	2042-1
479	Ⅰ 4 (4)	秋田県漆下遺跡出土漆関連遺物分析調査（受託）	奈良文化財研究所	2042-2
480	Ⅰ 4 (4)	重要文化財奈良県黒塚古墳出土品事前調査ならびに保存修理（受託）	奈良文化財研究所	2042-3
481	Ⅰ 4 (4)	史跡ガランドヤ古墳の保存整備に伴う環境調査（受託）	奈良文化財研究所	2042-4
482	Ⅰ 4 (4)	群馬県万蔵寺廻り遺跡出土炭化繊維遺物の分析調査(受託)	奈良文化財研究所	2042-5
483	Ⅰ 4 (4)	徳島城本丸跡の石垣遺構等の科学的探査(受託)	奈良文化財研究所	2042-6
484	Ⅰ 4 (4)	石岡市瓦塚瓦窯の探査(受託)	奈良文化財研究所	2042-7
485	Ⅰ 5 (1) ② イ	陝西省唐代陵墓石彫像保護修理事業（受託）	東京文化財研究所	2204-1
486	Ⅰ 5 (1) ② イ	龍門石窟保護修復プロジェクト（受託）	東京文化財研究所	2204-2
487	Ⅰ 5 (1) ② ウ	ユネスコ／バーミヤーン遺跡保存事業（受託）	東京・奈良文化財研究所	2206-1
488	Ⅰ 5 (1) ② ウ	タジキスタン共和国アジナ・テパ仏教寺院の保存修復事業（受託）	東京文化財研究所	2206-2
489	Ⅰ 5 (1) ② ウ	中国及び中央アジア各国におけるシルクロード広域の世界遺産登録推進運動の実態調査及び登録文化遺産または登録の可能性のある文化遺産の現状調査（受託）	東京文化財研究所	2206-3
490	Ⅰ 5 (1) ② ウ	ユネスコ／バーミヤーン遺跡保存に関する第６回専門家作業グループ国際会議の開催（受託）	東京・奈良文化財研究所	2206-4
491	Ⅰ 5 (2) ア	文化遺産保護国際貢献事業　専門家派遣：ベトナム・タンロン皇城遺跡の保存に関する活動計画案協議のための専門家派遣（受託）	東京・奈良文化財研究所	2207-1
492	Ⅰ 5 (2) ア	文化遺産保護国際貢献事業　専門家派遣：ベトナム・タンロン皇城遺跡の保存に関する専門家派遣と研修事業（受託）	東京・奈良文化財研究所	2207-2
493	Ⅰ 5 (2) ア	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（受託）	東京文化財研究所	2207-3
494	Ⅰ 5 (2) ア	文化遺産国際協力拠点交流事業　インドネシア・プランバナン遺跡群復興およびインド・アジャンター石窟壁画の保存修復に関する人材養成・技術移転（受託）	東京文化財研究所	2207-4
495	Ⅰ 5 (2) ア	日中韓共同によるシルクロード沿線の文化財保護修復技術人員の育成プログラム（受託）	東京文化財研究所	2207-5
496	Ⅰ 5 (2) ア	ユネスコ／日本信託基金　イラク博物館における修復研究室復興プロジェクト（受託）	東京・奈良文化財研究所	2207-6
497	Ⅰ 7 (1)	関西大学博物館所蔵重要文化財縄文籠形土器の復元修理（受託）	東京文化財研究所	2602-1
498	Ⅰ 7 (1)	国指定重要文化財「八窓庵」中柱の修復に関する調査研究（受託）	東京文化財研究所	2602-2
499	Ⅰ 7 (1)	「発掘調査のてびき」作成に係わる業務一式（受託）	奈良文化財研究所	2603-1
500	Ⅰ 7 (1)	徳島市観音寺遺跡・敷地遺跡（阿波国府推定地）出土木簡の総合的研究（受託）	奈良文化財研究所	2603-2

Ⅱ　施設概要

【東京国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	120,258（黒田記念館、柳瀬荘含む）		
建　物		建築面積	21,896
		延面積	71,642
展示館	展示面積　計		18,235
	収蔵庫面積　計		8,815
	本館	建	6,602
		延	22,416
		展示面積	7,346
		収蔵庫面積	4,087
	東洋館	建	2,892
		延	12,531
		展示面積	3,409
		収蔵庫面積	2,293
	平成館	建	5,529
		延	19,393
		展示面積	4,471
		収蔵庫面積	2,119
	法隆寺宝物館	建	1,935
		延	4,031
		展示面積	1,462
		収蔵庫面積	291
	表慶館	建	1,130
		延	2,077
		展示面積	1,179
	黒田記念館	建	705
		延	1,958
		展示面積	368
		収蔵庫面積	25
	その他	建	3,103
		延	9,236

【京都国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	53,182		
建　物		建	11,742
		延	25,275
展示館	展示面積　計		5,087
	収蔵庫面積　計		3,874
	特別展示館	建	3,015
		延	3,015
		展示面積	2,070
		収蔵庫面積	803
	平常展示館	建	2,465
		延	8,642
		展示面積	3,017
		収蔵庫面積	1,163
	事務庁舎	建	980
		延	2,459
	管理棟	建	590
		延	1,954
	資料棟	建	414
		延	1,125
	文化財保存修理所	建	728
		延	2,856
	技術資料参考館	建	101
		延	304
	東収蔵庫	建	1,084
		延	1,996
		収蔵庫面積	1,412
	北収蔵庫	建	310
		延	682
		収蔵庫面積	496
	その他	建	2,055
		延	2,242

【奈良国立博物館】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	78,760		
建　物		建	6,769
		延	19,116
展示館	展示面積　　計		4,079
	収蔵庫面積　計		1,558
	本館	建	1,512
		延	1,512
		展示面積	1,261
	本館付属棟	建	341
		延	664
		展示面積	470
	東新館	建	1,825
		延	6,389
		展示面積	875
		収蔵庫面積	1,394
	西新館	建	1,649
		延	5,396
		展示面積	1,473
	仏教美術資料研究センター	建	718
		延	718
	文化財保存修理所	建	319
		延	1,036
	地下回廊	延	2,152
		収蔵庫面積	164
	その他	建	405
		延	1,249

【九州国立博物館】

土地・建物　　(㎡)

土地面積		160,715 〔法人　10,733 県　149,982〕
建　物		建　14,623
		延　30,675 〔法人　9,048 県　6,034 共用　15,593〕
展示館	展示面積　　計	5,444 〔法人　3,844 県　1,375 共用　225〕
	収蔵庫面積　計	4,518 〔法人　2,744 県　1,334 共用　440〕

【東京文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

土地面積	4,181
建　物	建　2,258.28
	延　10,622.56

【奈良文化財研究所】

土地・建物　　（㎡）

	土地面積	建物
本館地区	8,860.13	建　2,754.25 延　6,754.86
平城宮跡資料館地区	（文化庁所属の国有地を無償使用）	建　10,630.53 延　16,149.67
都城発掘調査部 （飛鳥・藤原地区）	20,515.03	建　6,016.41 延　9,477.43
飛鳥資料館地区	17,092.93	建　2,657.30 延　4,403.50

Ⅲ　財務諸表

目　　次

１．貸借対照表
２．損益計算書
３．キャッシュ・フロー計算書
４．行政サービス実施コスト計算書
５．利益の処分に関する書類
６．注記事項（重要な会計方針等）
７．附属明細書

貸　借　対　照　表

平成20年3月31日現在

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

科　　目	金　　額		科　　目	金　　額	
（資産の部）			（負債の部）		
Ⅰ　流動資産			Ⅰ　流動負債		
現金及び預金		2,489,903,954	運営費交付金債務		751,735,711
たな卸資産		46,264,587	預り寄附金		113,423,493
前払費用		23,766,949	未払金		1,804,716,760
未収金		553,356,474	未払費用		47,429,109
その他の流動資産		1,306,499	前受金		1,294,000
流動資産合計		3,114,598,463	預り金		122,046,057
Ⅱ　固定資産			その他の流動負債		2,414,600
1有形固定資産			流動負債合計		2,843,059,730
建物	56,836,261,907		Ⅱ　固定負債		
減価償却累計額	−10,907,217,358		資産見返負債		
減損損失累計額	−102,226,598	45,826,817,951	資産見返運営費交付金	2,111,482,529	
構築物	3,286,857,908		資産見返寄附金	42,366,939	
減価償却累計額	−1,109,306,654		資産見返物品受贈額	126,627,345	
減損損失累計額	−129,865	2,177,421,389	建設仮勘定見返運営費交付金	122,850,000	
機械・装置	175,585,296		建設仮勘定見返施設費	115,500,000	
機械・装置減価償却累計額	−71,982,113	103,603,183	資産見返負債合計	2,518,826,813	
車両運搬具	47,469,956		その他の固定負債		
減価償却累計額	−27,907,108	19,562,848	長期未払金	32,737,287	
工具器具備品	3,768,273,730		固定負債合計		2,551,564,100
減価償却累計額	−1,621,347,130	2,146,926,600	負債合計		5,394,623,830
収蔵品		95,898,214,485			
土地		44,410,675,104	（純資産の部）		
建設仮勘定		238,350,000	Ⅰ　資本金		
有形固定資産合計		190,821,571,560	政府出資金		104,713,813,740
2無形固定資産			資本金合計		104,713,813,740
ソフトウエア		104,728,657	Ⅱ　資本剰余金		
電話加入権		5,266,800	資本剰余金		95,688,890,152
無形固定資産合計		109,995,457	損益外減価償却累計額（−）		−12,365,408,604
3投資その他の資産			損益外減損損失累計額（−）		−103,255,271
保証金		929,000	資本剰余金合計		83,220,226,277
長期前払費用		152,674	Ⅲ　利益剰余金		
投資その他の資産合計		1,081,674	前中期目標期間繰越積立金		17,387,048
固定資産合計		190,932,648,691	積立金		287,274,512
			当期未処分利益 （うち当期総利益　413,921,747）		413,921,747
			利益剰余金合計		718,583,307
			純資産合計		188,652,623,324
資産合計		194,047,247,154	負債純資産合計		194,047,247,154

（注）運営費交付金から充当されるべき退職給付の見積額は2,762,965,033円であります。
（注）次期の運営費交付金から充当される賞与の見積額は247,728,018円であります。

損益計算書

（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

経常費用			
業務費			
人件費		3,109,929,613	
業務経費			
調査研究業務費	886,394,798		
情報公開業務費	140,693,477		
研修業務費	20,163,271		
国際研究協力業務費	248,341,623		
展示出版業務費	107,457,511		
展覧業務費	919,795,126		
教育普及業務費	70,325,617		
受託業務費	483,432,423		
その他業務費	847,893,859	3,724,497,705	
減価償却費		307,723,728	7,142,151,046
一般管理費			
人件費	845,992,229		
一般管理経費	1,035,295,211		
減価償却費	70,254,813	1,951,542,253	
財務費用		1,702,706	
雑損		310,334	1,953,555,293
経常費用合計			9,095,706,339
経常収益			
運営費交付金収益		7,009,718,063	
受託収入			
政府関係受託収入		463,978,902	
地方自治体・民間受託収入		65,023,116	
入場料収入		1,081,304,872	
展示事業等附帯収入		309,667,781	
財産利用収入		161,591,559	
寄附金収益		56,628,991	
施設費収益		7,401,450	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金戻入	308,617,185		
資産見返寄附金戻入	10,968,533		
資産見返物品受贈額戻入	39,755,321	359,341,039	
財務収益			
受取利息		38,131	
雑益		2,948,464	
経常収益合計			9,517,642,368
経常利益			421,936,029
臨時損失			
固定資産除却損			585,430
その他臨時損失			12,933,200
			13,518,630
臨時利益			
固定資産売却益			164,918
			164,918
当期純利益			408,582,317
前中期目標期間繰越積立金取崩額			5,339,430
当期総利益			413,921,747

キャッシュ・フロー計算書

（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務活動によるキャッシュ・フロー	
人件費支出	-3,854,465,681
業務支出	-4,929,666,768
科学研究費等支出	-285,812,413
運営費交付金収入	9,042,360,000
科学研究費等収入	314,068,269
展示事業等収入	1,085,573,635
財産利用収入	223,667,647
受託収入	582,062,400
寄付金収入	148,597,393
その他の業務収入	322,318,596
国庫納付金の支払額	-33,943,408
小計	2,614,759,670
利息の受取額	33,640
利息の支払額	-2,962,903
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,611,830,407
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	-2,546,139,001
無形固定資産の取得による支出	-28,132,532
固定資産売却による収入	3,284,068
その他投資活動による支出	-725,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	-2,571,712,465
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー	
リース債務の支払による支出	-20,241,290
Ⅳ　資金に係る換算差額	0
Ⅴ　資金増加額	19,876,652
Ⅵ　資金期首残高	2,470,027,302
Ⅶ　資金期末残高	2,489,903,954

（注記事項）

⑴　資金の期末残高の貸借対照表科目の内訳

現金及び預金勘定	2,489,903,954円
資金期末残高	2,489,903,954

⑵　重要な非資金取引

①現物寄附の受入

収蔵品	234,021,237
工具器具備品	666,981,089
合計	901,002,326

②現物出資の受入

現金及び預金	394,317,017	運営費交付金債務	8,769,080
たな卸資産	29,789,001	未払金	712,316,916
未収金	398,626,548	未払国庫納付金	33,943,408
前払費用	424,686	未払費用	29,505,482
その他の流動資産	170,026	預り金	12,311,384
建物	8,923,359,781	その他の流動負債	5,250
構築物（立木竹以外）	592,649,467	長期未払金	16,073,032
立木竹	86,161,000	前中期目標期間繰越積立金	20,065,213
機械設備	179,157,630		
車両運搬具	14,191,734		
工具器具備品	423,403,113		
土地	5,127,000,000		
収蔵品	2,662,116,421		
ソフトウェア	6,859,505		
電話加入権	2,696,400		
長期前払費用	115,438		

行政サービス実施コスト計算書

（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　業務費用		
損益計算書上の費用		
業務費	7,142,151,046	
一般管理費	1,951,542,253	
財務費用	1,702,706	
雑損	310,334	
臨時損失	13,518,630	9,109,224,969
（控除）		
受託収入	−529,002,018	
入場料収入	−1,081,304,872	
展示事業附帯収入	−253,219,652	
財産利用収入	−161,591,559	
寄附金収益	−56,628,991	
財務収益	−38,131	
雑益	−2,948,464	
資産見返寄附金戻入	−10,968,533	
臨時利益	−164,918	−2,095,867,138
Ⅱ　損益外減価償却相当額		
損益外減価償却相当額	2,545,338,061	
損益外固定資産除売却相当額	6,916,631	2,552,254,692
Ⅲ　損益外減損損失相当額		102,356,463
Ⅳ　引当外賞与見積額		4,460,192
Ⅴ　引当外退職給付増加見積額		−41,931,723
Ⅵ　機会費用		
国有財産無償使用の機会費用	137,930,694	
政府出資等の機会費用	2,291,602,905	2,429,533,599
Ⅶ　行政サービス実施コスト		12,060,031,054

（注記）

・国有財産無償使用の機会費用の計算方法については、国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管1号）を準用しております。

・政府出資等の機会費用の計算利率については、国債の利回り及び昨今の市場情勢を勘案し、1.275％としております。

利益の処分に関する書類

独立行政法人国立文化財機構　　（単位：円）

Ⅰ　当期未処分利益		413,921,747
当期総利益	413,921,747	
Ⅱ　利益処分額		
積立金		413,921,747
	413,921,747	

注記事項

Ⅰ．重要な会計方針

１．運営費交付金収益の計上基準

人件費のうちの役員給与、職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）及び減価償却費については、業務の実施が運営費交付金と期間的に対応しているため期間進行基準（一定の期間の経過を業務の進行とみなし、運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

人件費のうちの退職手当並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するものについては、業務達成基準（当該業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

また、人件費のうち公務災害補償費、財務費用、その他計画外の発生費用については、費用進行基準（発生費用の額を限度として運営費交付金債務を収益化する方法）を採用しております。

（会計処理の変更）

運営費交付金収益の計上基準については、独立行政法人国立博物館（以下「国立博物館」という。）と独立行政法人文化財研究所（以下「文化財研究所」という。）の統合に伴い、国立博物館が採用していた費用進行基準から期間進行基準、業務達成基準及び費用進行基準の併用に変更しました。

この変更により、従来と同一の方法によった場合と比較して、損益計算書に与える影響額は僅少であります。

２．減価償却の会計処理方法

⑴　有形固定資産

定額法により行っております。また、特定の償却資産（独立行政法人会計基準第86）の減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金を減額しております。

⑵　無形固定資産

定額法により行っております。なお、法人内利用のソフトウエアについては、法人内における利用可能期間（5年）に基づいております。

３．退職給付に係る引当金及び見積額の計上方法

職員の退職給付については運営費交付金により財源措置がなされるため、退職給付に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、自己都合退職金要支給額に基づき計上しております。

４．賞与に係る引当金及び見積額の計上方法

職員の賞与については運営費交付金により財源措置がなされるため、賞与に係る引当金は計上しておりません。

また、行政サービス実施コスト計算書における引当外賞与見積額は、6月に支給される賞与見積額に、その対象となる期間のうち前年度に属する月の割合（4／6）を乗じた額の前年度との差額に基づき計上しております。

５．たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品･･･最終仕入原価法を採用しております。

６．収蔵品の評価方法

国からの承継分については、承継時の物品目録上の価額をもって評価しており、新規取得分については取得時の価額をもって評価しております。

７．行政サービス実施コスト計算書における機会費用の計上方法

①国有財産無償使用の機会費用の計算方法

国の庁舎等の使用又は収益を許可する場合の取扱の基準（昭和33年1月7日付大蔵省管財局長通知蔵管第1号）を準用して算出しております。

②政府出資等の機会費用の計算に使用した利率

国債利回り1.275％で計算しております。

８．リース取引の処理方法

リース料総額が300万円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

リース料総額が300万円未満のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

９．消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっております。

Ⅱ．重要な会計方針の変更

１．業務費の人件費と一般管理費の人件費については、従前は独立行政法人化当初の部門名称により区分を行っていたため、事務担当部門については一般管理費の人件費に計上しておりました。これらの部門についても、業務内容には観覧者への対応業務や各種イベント等の実施業務などの渉外業務が含まれているため、当年度の統合に伴う組織の変更等を含めて見直しを行い、業務の内容に合わせて渉外業務担当の人件費を一般管理費の人件費から業務費の人件費に計上する変更を行っております。これにより、前事業年度までの方法に比べて、業務費の人件費が430,822,937円増加し、一般管理費の人件費が同額減少しております。

２．当事業年度より、独立行政法人会計基準（「独立行政法人会計基準の改訂について」（独立行政法人会計基準研究会、財政制度等審議会 財政制度分科会 法制・公会計部会 公企業会計小委員会 平成19年11月19日）及び「「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」に関するQ&A」（総務省行政管理局、財務省主計局、日本公認会計士協会 平成20年2月最終改訂）を適用しております。

独立行政法人会計基準の改訂にともなう重要な会計方針の変更と当該変更による財務諸表への影響は次のとおりであります。

⑴　引当外賞与見積額

当事業年度から財源措置が運営費交付金により行われるため引当金を計上していない賞与見積額を行政サービス実施コスト計算書に「引当外賞与見積額」として計上しております。これにより、前事業年度までの方法に比べて、行政サービス実施コストが4,460,192円増加しております。

⑵　資本及び純資産

当事業年度の資本については純資産として表示しております。これによる損益への影響はありません。従来の資本の部の合計に相当する金額は188,652,623,324円であります。

Ⅲ．固定資産の減損

１．減損の認識

⑴　減損を認識した固定資産の場所、用途、種類、帳簿価額等の概要

場所	用途	資産種類	帳簿価格	減損額
京都国立博物館	事務庁舎及び講堂、旧事務棟	建物・附属設備	110,181,216円	102,226,598円
		構築物	135,224円	129,865円

⑵　減損の認識に至った経緯

京都国立博物館の平常展示館建替工事にかかる事務所移転に伴い、今後も使用予定がないため、減損を認識しております。

⑶　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産ごとの内訳

用途	種類	損益計算書に計上した金額	損益計算書に計上していない金額
事務庁舎及び講堂、旧事務棟	建物・附属設備	0円	102,226,598円
	構築物	0円	129,865円

⑷　回収可能サービス価格

建物等については、建設工事デフレータにより測定しております。

Ⅳ．重要な債務負担行為

京都国立博物館設備改修工事　　448,350,000円

Ⅴ．その他独立行政法人の状況を適切に開示するために必要な会計情報

文化財研究所からの権利及び義務の承継

独立行政法人国立博物館法の一部を改正する法律の施行により、「独立行政法人国立博物館」を「独立行政法人国立文化財機構」に改め、「独立行政法人文化財研究所」は解散し、その一切の権利及び義務は、平成19年4月1日をもって機構が承継しており、差額の18,008,048,002円は政府出資金として処理しております。

承継した権利及び義務の内容は以下の通りです。

（単位：円）

権利（資産）		義務（負債及び利益剰余金）	
現金及び預金	394,317,017	運営費交付金債務	8,769,080
たな卸資産	29,789,001	未払金	712,316,916
未収金	398,626,548	未払国庫納付金	33,943,408
前払費用	424,686	未払費用	29,505,482
その他の流動資産	170,026	預り金	12,311,384
建物	8,923,359,781	その他の流動負債	5,250
構築物（立木竹以外）	592,649,467	長期未払金	16,073,032
立木竹	86,161,000	前中期目標期間繰越積立金	20,065,213
機械設備	179,157,630		
車両運搬具	14,191,734		
工具器具備品	423,403,113		
土地	5,127,000,000		
収蔵品	2,662,116,421		
ソフトウェア	6,859,505		
電話加入権	2,696,400		
長期前払費用	115,438		

文化財研究所の解散時の前中期目標期間繰越積立金残高3,978,257円に、18年度の未処分利益50,030,364円を加えた積立金54,008,621円のうち、統合法人の当中期目標計画期間の業務の財源として繰越の承認を受けた額は20,065,213円であり、差し引き33,943,408円については国庫に納付しております。

なお、上記繰越承認額20,065,213円は前中期目標期間繰越積立金として処理しております。

第１期　附属明細書

自：平成19年4月 1 日
至：平成20年3月31日

１．固定資産の取得及び処分並びに減価償却費（「第86特定の償却資産の減価に係る会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）及び減損損失の明細

２．たな卸資産の明細

３．有価証券の明細

４．長期貸付金の明細

５．長期借入金及び債券の明細

６．引当金の明細

７．法令に基づく引当金等の明細

８．保証債務の明細

９．資本金及び資本剰余金の明細

10．積立金の明細

11．目的積立金の取崩しの明細

12．運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

13．運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

14．役員及び職員の給与の明細

15．セグメント情報

16．関連公益法人等

１．固定資産の取得及び処分並びに減価償却費（「第86特定の償却資産の減価に係る会計処理」による損益外減価償却相当額も含む。）及び減損損失の明細

法人全体

（単位：円）

資産の種類		期首残高	承継額	当期増加額	当期減少額	期末残高	減価償却累計額		減損損失累計額			差引当期末残高	摘要
								当期償却額		当期損益内	当期損益外		
有形固定資産（償却費損益内）	建物	1,267,382,566	7,119,636	159,104,951	523,683	1,433,083,470	265,032,819	90,131,213	1,444,792	0	1,444,792	1,166,605,859	
	構築物	27,660,054	0	37,310,120	0	64,970,174	6,983,968	2,128,378	0	0	0	57,986,206	
	機械装置	0	319,725	0	0	319,725	143,876	143,876	0	0	0	175,849	
	車両運搬具	34,857,730	7,084,737	1,870,985	3,450,493	40,362,959	25,554,901	3,464,691	0	0	0	14,808,058	
	工具器具備品	1,906,960,131	21,164,016	211,744,076	48,174,451	2,091,693,772	1,075,550,564	252,023,711	0	0	0	1,016,143,208	
	計	3,236,860,481	35,688,114	410,030,132	52,148,627	3,630,430,100	1,373,266,128	347,891,869	1,444,792	0	1,444,792	2,255,719,180	
有形固定資産（償却費損益外）	建物	46,487,181,951	8,916,240,145	0	243,659	55,403,178,437	10,642,184,539	2,026,887,086	100,781,806	0	100,781,806	44,660,212,092	
	構築物	2,543,945,969	678,810,467	0	868,702	3,221,887,734	1,102,322,686	181,905,876	129,865	0	129,865	2,119,435,183	
	機械装置	0	178,837,905	0	3,572,334	175,265,571	71,838,237	71,838,237	0	0	0	103,427,334	
	車両運搬具	0	7,106,997	0	0	7,106,997	2,352,207	2,352,207	0	0	0	4,754,790	
	工具器具備品	1,170,537,114	402,239,097	24,990,000	1,080,436	1,596,685,775	545,796,566	261,229,185	0	0	0	1,050,889,209	
	計	50,201,665,034	10,183,234,611	24,990,000	5,765,131	60,404,124,514	12,364,494,235	2,544,212,591	100,911,671	0	100,911,671	47,938,718,608	
非償却資産	工具器具備品	62,321,683	0	17,572,500	0	79,894,183	0	0	0	0	0	79,894,183	その他有形固定資産含む
	収蔵品	91,280,570,982	2,662,116,421	1,973,563,082	18,036,000	95,898,214,485	0	0	0	0	0	95,898,214,485	
	土地	39,283,675,104	5,127,000,000	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	126,915,600	0	144,837,000	33,402,600	238,350,000	0	0	0	0	0	238,350,000	
	計	130,753,483,369	7,789,116,421	2,135,972,582	51,438,600	140,627,133,772	0	0	0	0	0	140,627,133,772	
有形固定資産合計	建物	47,754,564,517	8,923,359,781	159,104,951	767,342	56,836,261,907	10,907,217,358	2,117,018,299	102,226,598	0	102,226,598	45,826,817,951	
	構築物	2,571,606,023	678,810,467	37,310,120	868,702	3,286,857,908	1,109,306,654	184,034,254	129,865	0	129,865	2,177,421,389	
	機械装置	0	179,157,630	0	3,572,334	175,585,296	71,982,113	71,982,113	0	0	0	103,603,183	
	車両運搬具	34,857,730	14,191,734	1,870,985	3,450,493	47,469,956	27,907,108	5,816,898	0	0	0	19,562,848	
	工具器具備品	3,139,818,928	423,403,113	254,306,576	49,254,887	3,768,273,730	1,621,347,130	513,252,896	0	0	0	2,146,926,600	その他有形固定資産含む
	収蔵品	91,280,570,982	2,662,116,421	1,973,563,082	18,036,000	95,898,214,485	0	0	0	0	0	95,898,214,485	
	土地	39,283,675,104	5,127,000,000	0	0	44,410,675,104	0	0	0	0	0	44,410,675,104	
	建設仮勘定	126,915,600	0	144,837,000	33,402,600	238,350,000	0	0	0	0	0	238,350,000	
	計	184,192,008,884	18,008,039,146	2,570,992,714	109,352,358	204,661,688,386	13,737,760,363	2,892,104,460	102,356,463	0	102,356,463	190,821,571,560	
無形固定資産（償却費損益内）	ソフトウエア	140,413,969	1,136,144	28,132,532	0	169,682,645	68,611,480	30,086,672	0	0	0	101,071,165	
	電話加入権	4,914,000	0	0	0	4,914,000	0	0	2,343,600	0	0	2,570,400	
	計	145,327,969	1,136,144	28,132,532	0	174,596,645	68,611,480	30,086,672	2,343,600	0	0	103,641,565	
無形固定資産（償却費損益外）	ソフトウエア	0	5,723,361	0	1,151,500	4,571,861	914,369	1,125,470	0	0	0	3,657,492	
	電話加入権	0	2,696,400	0	0	2,696,400	0	0	0	0	0	2,696,400	
	計	0	8,419,761	0	1,151,500	7,268,261	914,369	1,125,470	0	0	0	6,353,892	
無形固定資産合計	ソフトウエア	140,413,969	6,859,505	28,132,532	1,151,500	174,254,506	69,525,849	31,212,142	0	0	0	104,728,657	
	電話加入権	4,914,000	2,696,400	0	0	7,610,400	0	0	2,343,600	0	0	5,266,800	
	計	145,327,969	9,555,905	28,132,532	1,151,500	181,864,906	69,525,849	31,212,142	2,343,600	0	0	109,995,457	
投資その他の資産	保証金	204,000	0	725,000	0	929,000	0	0	0	0	0	929,000	
	長期前払費用	0	115,438	152,674	115,438	152,674	0	0	0	0	0	152,674	
	計	204,000	115,438	877,674	115,438	1,081,674	0	0	0	0	0	1,081,674	

（注）当期承継額18,017,710,489は文化財研究所から承継した固定資産であります。

２．たな卸資産の明細

（単位：円）

種類	期首残高	承継額	当期増加額		当期減少額		期末残高	摘要
			当期購入・製造・振替	その他	払出・振替	その他		
貯蔵品等	10,413,438	29,789,001	28,081,045	0	17,611,886	4,407,011	46,264,587	
計	10,413,438	29,789,001	28,081,045	0	17,611,886	4,407,011	46,264,587	

（注）当期減少額その他は、経年等による売却可能性のないものについての評価替えによるものであります。

３．有価証券の明細

当該年度は有価証券を保有していないため、記載を省略しております。

４．長期貸付金の明細

当該年度は長期貸付金に関して該当がないため、記載を省略しております。

５．長期借入金及び債券の明細

当該年度は長期借入金及び債券に関して該当がないため、記載を省略しております。

６．引当金の明細

当該年度は引当金を計上していないため、記載を省略しております。

７．法令に基づく引当金等の明細

当該年度は法令に基づく引当金等を計上していないため、記載を省略しております。

８．保証債務の明細

当該年度は保証債務に関して該当がないため、記載を省略しております。

9. 資本金及び資本剰余金の明細

（単位：円）

区　　分		期首残高	承継額	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘　　要
資本金	政府出資金	86,705,765,738	18,008,048,002	0	0	104,713,813,740	
	計	86,705,765,738	18,008,048,002	0	0	104,713,813,740	
資本剰余金	施設費補助金	2,909,859,880	0	24,990,000	0	2,934,849,880	奈良文化財研究所施設整備費分
	目的積立金	469,592,463	0	0	0	469,592,463	
	運営費交付金	5,825,561,229	0	1,713,871,149	0	7,539,432,378	収蔵品購入
	寄附金等	25,000,000	0	21,000,000	0	46,000,000	寄附金による収蔵品の取得
	贈与	84,608,985,321	0	256,263,395	18,036,000	84,847,212,716	収蔵品寄贈受入等、減は計上額の修正
	収蔵品編入	115	0	1,038	0	1,153	一般物品から収蔵品への組み入れ
	損益外固定資産除売却差額	−141,281,807	0	−6,916,631	0	−148,198,438	出資資産等の除却
	計	93,697,717,201	0	2,009,208,951	18,036,000	95,688,890,152	
	損益外減価償却累計額	−9,820,515,295	0	−2,545,338,061	−444,752	−12,365,408,604	出資財産等の減価償却相当、減は除却分
	損益外減損損失累計額	−2,343,600	0	−100,911,671	0	−103,255,271	京都国立博物館旧事務棟分
	差引計	83,874,858,306	0	−637,040,781	17,591,248	83,220,226,277	

（注）資本剰余金については、従来無償譲与76,955,296,234円、寄附金等6,792,044,537円としていた区分について寄附金等25,000,000円、贈与84,608,985,321円に表示を見直しております。

また、少額であるため無償譲与に含めていた収蔵品編入115円を別の区分として記載しております。

10．積立金の明細

（単位：円）

区　分	期首残高	承継額	当期増加額	当期減少額	期末残高	摘要
通則法44条1項積立金	0	0	287,274,512	0	287,274,512	（注１）
前中期目標期間繰越積立金	2,661,265	20,065,213	0	5,339,430	17,387,048	（注２） （注３）
合　計	2,661,265	20,065,213	287,274,512	5,339,430	304,661,560	

（注１）通則法44条1項積立金の当期増加額は、平成18年度利益処分によるものです。

（注２）前中期目標期間繰越積立金の承継額は、文化財研究所の解散に伴い国立文化財機構が承継した額です。

（注３）前中期目標期間繰越積立金の当期減少額の内訳は次のとおりです。

ファイナンスリース損益にかかる取崩額	1,173,820
寄附金購入資産分にかかる減価償却相当分取崩額	180,646
受託研究費購入資産分にかかる減価償却相当分取崩額	3,984,964

11．目的積立金の取崩しの明細

（単位：円）

区　分		金　額	摘　要
目的積立金取崩額	前中期目標期間繰越積立金	1,173,820	ファイナンスリース損益にかかる取崩額
	前中期目標期間繰越積立金	180,646	寄附金購入資産分にかかる減価償却相当分取崩額
	前中期目標期間繰越積立金	3,984,964	受託研究費購入資産分にかかる減価償却相当分取崩額
	計	5,339,430	
その他	―――	―――	
	計	―――	
	合　計	5,339,430	

12. 運営費交付金債務及び当期振替額等の明細

⑴　運営費交付金債務の増減の明細

（単位：円）

交付年度	期首残高	交付金当期交付額	当期振替額					期末残高
			運営費交付金収益	資産見返運営費交付金	建設仮勘定見返運営費交付金	資本剰余金	小　計	
18年度	792,021,320	0	792,021,320	0	0	0	792,021,320	0
19年度	0	9,042,360,000	6,217,696,743	359,056,397	0	1,713,871,149	8,290,624,289	751,735,711
合　計	792,021,320	9,042,360,000	7,009,718,063	359,056,397	0	1,713,871,149	9,082,645,609	751,735,711

⑵　運営費交付金債務の当期振替額の明細

①平成18年度交付分

（単位：円）

区分		金額	内容
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	792,021,320	①業務達成基準を採用した経費：人件費のうちの退職手当並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア）損益計算書に計上した費用の額：792,021,320円 （調査研究事業費：356,712,199円、展覧事業費：359,331,415円、教育普及事業費：7,639,800円、その他業務費：68,337,906円） ③運営費交付金収益化額の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	0	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	792,021,320	
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	0	―
	資産見返運営費交付金	0	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	0	
費用進行基準による振替額	運営費交付金収益	0	―
	資産見返運営費交付金	0	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	0	
会計基準第80第3項による振替額		0	
合　計		792,021,320	

②平成19年度交付分　　（単位：円）

区　　分		金　額	内容
業務達成基準による振替額	運営費交付金収益	2,153,470,253	①業務達成基準を採用した経費：人件費のうちの退職手当並びに事業部門の経費及び管理部門の経費のうち特に指定するもの ②当該業務に係る損益等 ア）損益計算書に計上した費用の額：2,153,470,253円 （退職手当：352,155,000円、一般管理費：50,275,029円、 調査研究事業費：659,379,399円、展覧事業費：389,010,121円、 教育普及事業費：55,048,400円、その他業務費：35,743,094円、 情報公開事業費：160,945,175円、研修事業費：21,790,250円、 国際研究協力事業費：297,683,705円、展示出版事業費：131,440,080円） イ）固定資産の取得額：1,967,211,517円 （陳列品購入費：1,713,871,149円、一般管理費：2,096,009円、 調査研究事業費：152,679,987円、展覧事業費：61,507,582円、 情報公開事業費：23,876,665円、国際研究協力事業費：4,638,375円、 研修事業費：1,464,750円、展示出版事業費：7,077,000円） ③運営費交付金収益化額の積算根拠 業務等の達成度に応じて、財源として予定されていた運営費交付金の計画額を収益化
	資産見返運営費交付金	253,340,368	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	1,713,871,149	
	計	4,120,681,770	
期間進行基準による振替額	運営費交付金収益	4,063,671,838	①期間進行基準を採用した経費：人件費のうちの役員給与、職員給与、法定福利費並びに管理部門の経費（特に指定するものを除く）及び減価償却費 ②当該業務に係る損益等 ア）損益計算書に計上した費用の額：4,063,671,838円 （役職員給与：2,810,774,000円、法定福利費：356,085,010円、 一般管理費：896,812,828円） イ）固定資産の取得額：105,716,029円 （一般管理費：105,716,029円）
	資産見返運営費交付金	105,716,029	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	4,169,387,867	
費用進行基準による振替額	運営費交付金収益	554,652	①費用進行基準を採用した経費：人件費のうち公務災害補償費、財務費用、その他計画外の発生費用 ②当該業務に係る損益等 ア）損益計算書に計上した費用の額：554,652円 （雑損：51,680円、財務費用：502,972円） ③運営費交付金の振替額の積算根拠 経費等の全額を運営費交付金収益として収益化
	資産見返運営費交付金	0	
	建設仮勘定見返運営費交付金	0	
	資本剰余金	0	
	計	554,652	
会計基準第80第3項による振替額		0	
合　計		8,290,624,289	

⑶　運営費交付金債務残高の明細　　（単位：円）

交付年度	運営費交付金債務残高		残高の発生理由及び収益化等の計画
19年度	費用進行基準を採用した業務に係る分	0	―
	業務達成基準を採用した業務に係る分	751,735,711	①業務達成基準を採用した業務は、全ての業務である。 ②運営費交付金債務残高は、建物耐震調査費、アスベスト対策工事、ならびに陳列品購入等の、翌年度に執行予定の運営費交付金の計画額である。 ③翌事業年度に繰り越した運営費交付金債務残高については、翌事業年度において収益化する予定である。
	期間進行基準を採用した業務に係る分	0	―
	計	751,735,711	

13. 運営費交付金以外の国等からの財源措置の明細

施設費の明細　（単位：円）

区　　分	当期交付額	左記の会計処理内訳			摘　　要
		建設仮勘定見返施設費	資本剰余金	その他	
京都国立博物館平常展示館建替工事	122,901,450	115,500,000	0	7,401,450	
奈良文化財研究所文化財大型資料用非破壊蛍光X線分析装置	24,990,000	0	24,990,000	0	
合計	147,891,450	115,500,000	24,990,000	7,401,450	

14. 役員及び職員の給与の明細

区　分	報　酬　又　は　給　与		退　　職　　手　　当	
	支　給　額	支　給　人　員	支　給　額	支　給　人　員
役員	（　2,880）千円 68,504	（　2）人 4	（　0）千円 20,159	（　0）人 4
職員	（　453,127） 2,705,184	（305） 341	（　3,720） 331,234	（　32） 18
合計	（　456,007） 2,773,688	（307） 345	（　3,720） 351,393	（　32） 22

⑴　支給人員数は、平均人員数であります。

⑵　役員報酬基準の概要　　理事長　　994,000円（期末における金額）
理事1名　　843,000円（期末における金額）
理事2名　　922,000円（期末における金額）
その他諸手当については、独立行政法人国立文化財機構役員報酬規程に基づき支給しております。
非常勤役員の報酬は、120,000円を月額として支給しております。

⑶　役員退職手当基準の概要　　役員の退職手当は、独立行政法人国立文化財機構役員退職手当規程に基づき支給しております。

⑷　職員給与基準の概要　　職員の給与は、俸給及び諸手当としております。
俸給は、一般職の職員の給与に関する法律（昭和25年法律第95号）及び人事院規則を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員給与規程に基づき支給しております。

⑸　職員退職手当基準の概要　　職員の退職手当は、国家公務員退職手当法を準用し、独立行政法人国立文化財機構職員退職手当規程に基づき支給しております。

⑹　非常勤の役員及び職員に係るものは、上段括弧書外数で記載しております。

⑺　上記の金額には、法定福利費は含まれておりません。

⑻　中期計画における予算上の人件費には、非常勤の役員・職員に係る給与は含まれておりません。

15．セグメント情報（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）

独立行政法人 国立文化財機構

（単位：円）

区分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	計	共 通	合 計
Ⅰ事業費用，事業収益及び事業損益									
事業費用									
業務費	1,801,107,244	587,175,659	836,805,436	1,105,217,214	1,000,326,761	1,811,518,732	7,142,151,046	0	7,142,151,046
人件費	871,900,860	319,830,023	311,557,934	214,516,336	443,884,654	948,239,806	3,109,929,613	0	3,109,929,613
業務経費	864,720,872	262,063,954	508,696,595	678,926,375	554,570,208	855,519,701	3,724,497,705	0	3,724,497,705
調査研究業務費	197,890,758	42,818,515	45,028,133	193,936,705	78,330,856	328,389,831	886,394,798	0	886,394,798
情報公開業務費	0	0	0	0	44,998,071	95,695,406	140,693,477	0	140,693,477
研修業務費	0	0	0	0	2,154,237	18,009,034	20,163,271	0	20,163,271
国際研究協力業務費	0	0	0	0	188,156,330	60,185,293	248,341,623	0	248,341,623
展示出版業務費	0	0	0	0	18,554,149	88,903,362	107,457,511	0	107,457,511
展覧業務費	258,351,996	175,793,696	269,921,977	215,727,457	0	0	919,795,126	0	919,795,126
教育普及業務費	53,507,742	6,738,665	9,849,070	230,140	0	0	70,325,617	0	70,325,617
受託業務費	0	0	0	0	222,376,565	261,055,858	483,432,423	0	483,432,423
その他業務費	354,970,376	36,713,078	183,897,415	269,032,073	0	3,280,917	847,893,859	0	847,893,859
減価償却費	64,485,512	5,281,682	16,550,907	211,774,503	1,871,899	7,759,225	307,723,728	0	307,723,728
一般管理費	420,541,614	200,553,232	171,321,074	176,812,150	288,404,447	372,778,776	1,630,411,293	321,130,960	1,951,542,253
人件費	144,504,287	85,294,261	84,668,699	55,757,266	136,963,346	154,005,142	661,193,001	184,799,228	845,992,229
一般管理経費	254,542,353	108,158,074	68,603,534	105,221,646	151,418,770	214,402,500	902,346,877	132,948,334	1,035,295,211
減価償却費	21,494,974	7,100,897	18,048,841	15,833,238	22,331	4,371,134	66,871,415	3,383,398	70,254,813
財務費用	21,489	0	0	502,972	178,500	999,745	1,702,706	0	1,702,706
雑損	11,191	0	19,000	0	280,143	0	310,334	0	310,334
事業費用計	2,221,681,538	787,728,891	1,008,145,510	1,282,532,336	1,289,189,851	2,185,297,253	8,774,575,379	321,130,960	9,095,706,339
事業収益									
運営費交付金収益	1,657,061,095	550,186,116	705,378,494	900,268,511	1,030,828,470	1,849,566,369	6,693,289,055	316,429,008	7,009,718,063
受託収入	0	0	0	2,219,262	251,214,697	275,568,059	529,002,018	0	529,002,018
入場料収入	514,039,330	130,218,030	228,342,700	182,000,762	1,728,740	24,975,310	1,081,304,872	0	1,081,304,872
展示事業等附帯収入	129,771,217	64,034,431	50,368,751	17,455,831	12,924,990	32,781,619	307,336,839	2,330,942	309,667,781
財産利用収入	124,553,020	13,486,781	14,695,130	2,297,818	2,292,337	4,266,473	161,591,559	0	161,591,559
寄附金収益	3,296,855	27,830,603	15,736,533	220,000	9,000,000	545,000	56,628,991	0	56,628,991
施設費収益	0	7,401,450	0	0	0	0	7,401,450	0	7,401,450
資産見返負債戻入	85,071,888	15,465,350	34,599,748	217,937,498	680,168	2,202,989	355,957,641	3,383,398	359,341,039
財務収益	14,930	4,491	0	0	0	18,710	38,131	0	38,131
雑益	650,017	170,305	78,600	37,012	919,922	1,060,572	2,916,428	32,036	2,948,464
事業収益計	2,514,458,352	808,797,557	1,049,199,956	1,322,436,694	1,309,589,324	2,190,985,101	9,195,466,984	322,175,384	9,517,642,368
事業損益	292,776,814	21,068,666	41,054,446	39,904,358	20,399,473	5,687,848	420,891,605	1,044,424	421,936,029

（単位：円）

区　　分	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	計	共　通	合　計
Ⅱ総資産									
流動資産	1,072,492,885	262,711,928	280,987,276	520,604,090	275,513,186	387,447,942	2,799,757,307	314,841,156	3,114,598,463
固定資産	87,048,026,254	34,668,173,311	29,470,632,688	25,836,792,338	7,348,356,295	6,492,680,242	190,864,661,128	67,987,563	190,932,648,691
建物	15,892,447,499	2,595,066,983	5,567,277,824	13,278,543,064	4,428,966,042	4,006,325,912	45,768,627,324	58,190,627	45,826,817,951
収蔵品	43,346,332,476	22,477,330,098	19,447,050,151	10,532,647,189	0	94,854,571	95,898,214,485	0	95,898,214,485
土地	26,832,788,000	9,071,896,900	3,875,010,204	458,980,000	2,650,000,000	1,522,000,000	44,410,675,104	0	44,410,675,104
その他の固定資産	976,458,279	523,879,330	581,294,509	1,566,622,085	269,390,253	869,499,759	4,787,144,215	9,796,936	4,796,941,151
総資産	88,120,519,139	34,930,885,239	29,751,619,964	26,357,396,428	7,623,869,481	6,880,128,184	193,664,418,435	382,828,719	194,047,247,154
Ⅲ損益外減価償却相当額及び引当外退職給付増加見積額									
損益外減価償却相当額	800,652,288	154,835,435	271,534,959	685,037,589	302,902,174	326,855,352	2,541,817,797	3,520,264	2,545,338,061
損益外固定資産除売却相当額	0	1,112,361	0	0	5,804,270	0	6,916,631	0	6,916,631
損益外減損損失相当額	0	102,356,463	0	0	0	0	102,356,463	0	102,356,463
前中期目標期間繰越積立金取崩額	−8,334	180,646	0	1,182,154	458,385	3,526,579	5,339,430	0	5,339,430
引当外賞与増加見積額	1,293,121	76,792	1,040,444	1,080,236	−138,997	369,862	3,721,458	738,734	4,460,192
引当外退職給付増加見積額	36,241,336	34,090,463	−18,382,466	13,834,623	−18,060,650	−70,114,825	−22,391,519	−19,540,204	−41,931,723

（注）１．事業の種類の区分方法及び事業の内容

(1)　東京国立博物館

我が国を代表する博物館として、日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる文化財について収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

(2)　京都国立博物館

平安時代から江戸時代に至る京都文化を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

(3)　奈良国立博物館

仏教美術を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

(4)　九州国立博物館

日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財について、収集･保管･展示、調査研究、教育普及事業等を行っております。

なお、事業の実施に当たっては、福岡県等と連携協力を行っております。

(5)　東京文化財研究所

美術、伝統芸能並びに文化財の保存・修復に関する調査・研究等を行っております。

(6)　奈良文化財研究所

遺跡、建造物、庭園等の不動産的文化財に関する調査・研究等を行っております。

２．事業収益のうち国又は地方公共団体による財源措置等は、運営費交付金収益及び施設費収益であります。

３．事業費用のうち共通の項目に含めた配賦不能な金額は321,130,960円であり、全て本部事務局に係る費用であります。

４．総資産のうち共通の項目に含めた金額は382,828,719円であり、全て本部事務局に係る資産であります。

16．関連公益法人等

該当事項なし

平成19年度　　決算報告書

（単位：円）

区　　分	予　算　額	決　算　額	差　　額	備　　考
収　　入				
運営費交付金	9,042,360,000	9,042,360,000	0	
施設整備費補助金	710,555,000	147,891,450	−562,663,550	（注記）１
展示事業等収入	1,097,979,000	1,557,733,057	459,754,057	
受託収入	26,000,000	526,782,756	500,782,756	（注記）２
その他寄附金等	0	148,597,393	148,597,393	
計	10,876,894,000	11,423,364,656	546,470,656	
支　　出				
運営事業費	10,140,339,000	10,341,230,369	−200,891,369	
管理経費	2,527,446,000	1,987,649,696	539,796,304	
人件費	773,238,000	796,377,722	−23,139,722	
一般管理費	1,754,208,000	1,191,271,974	562,936,026	
業務経費	7,612,893,000	8,353,580,673	−740,687,673	
人件費	2,786,864,000	2,686,915,360	99,948,640	
調査研究事業費	1,449,150,000	1,261,079,499	188,070,501	
情報公開事業費	160,362,000	165,814,342	−5,452,342	
研修事業費	22,500,000	21,628,021	871,979	
国際研究協力事業費	314,289,000	248,855,808	65,433,192	
展示出版事業費	163,368,000	118,692,670	44,675,330	
展覧事業費	2,591,298,000	3,780,269,356	−1,188,971,356	（注記）３
教育普及事業費	125,062,000	70,325,617	54,736,383	
施設整備費	710,555,000	147,891,450	562,663,550	
受託事業費	26,000,000	486,175,423	−460,175,423	（注記）２
計	10,876,894,000	10,975,297,242	−98,403,242	

（注記）

１．施設整備費補助金は翌年度への繰越により当年度交付額が減少したものです。

２．受託収入及び受託事業費について、予算額と決算額の差異が多額になったのは、当初の受入見込みになかった受託発掘調査、受託調査研究の契約があったためであります。

３．展覧事業費の予算と決算額の差額が多額になったのは、前年度からの繰越額も含めて陳列品の購入を積極的に行ったためであります。

平成19年度（第１期）事業報告書
目　　次

１．国民の皆様へ

２．基本情報
⑴　法人の概要
⑵　本社･支社等の住所
⑶　資本金の状況
⑷　役員の状況
⑸　常勤職員の状況

３．簡潔に要約された財務諸表
①　貸借対照表
②　損益計算書
③　キャッシュ･フロー計算書
④　行政サービス実施コスト計算書
・財務諸表の科目

４．財務情報
⑴　財務諸表の概況
①　経常費用、経常収益、当期総損益、資産、負債、利益剰余金（又は繰越欠損金）、キャッシュ･フローなどの主要な財務データの経年比較・分析（内容・増減理由）
②　セグメント事業損益の経年比較・分析（内容・増減理由）
③　セグメント総資産の経年比較・分析（内容・増減理由）
④　目的積立金の申請状況、取崩内容等
⑤　行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析（内容・増減理由）
⑵　施設等投資の状況（重要なもの）
①　当事業年度中に完成した主要施設等
②　当事業年度において継続中の施設等の新設・拡充
③　当該事業年度中に処分した主要施設等
⑶　予算・決算の概況
⑷　経費削減及び効率化目標との関係

５．事業の説明
⑴　財源構造
⑵　財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明

独立行政法人国立文化財機構　平成19年度事業報告書

1．国民の皆様へ

独立行政法人国立文化財機構は、東京・京都・奈良・九州（太宰府）の国立博物館を設置・運営する独立行政法人国立博物館と、文化財に関する基礎的な調査研究及び先端的な調査研究を実施する独立行政法人文化財研究所の2法人が統合して設立された法人です。統一的なマネジメントの下で国の文化財保護行政を総合的に支え、社会の要請に機動的・効果的に対応することを目的として平成19年4月に設置されました。

歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と次代への継承、文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信及び文化財に関する調査・研究の推進等を任務としております。

統合初年度である19年度は、これまで両法人が実施してきた文化財の保存科学に関する調査研究及び修復業務について、統一的なマネジメントの下で体系的に実施するため東京文化財研究所に保存修復科学センターを設置しました。また、同研究所所属の黒田記念館を東京国立博物館へ所属を移して黒田清輝関連作品の公開機会の拡大を図りました。業務については、「レオナルド・ダ・ヴィンチ展」「狩野永徳展」「正倉院展」「本願寺展」などを実施して、大きな話題を呼び、4館で総入館者数約356万人の方にお越しいただきましたが、その一方で会場の混雑や入場規制による待ち時間などの課題も生じました。また、文化庁に協力して実施した高松塚古墳壁画の保存修復のための石室解体とそれに伴う発掘調査及び石室内カビ問題等の保存対策も社会の注目を頂きました。

財務面では、国からの運営費交付金による支出は毎年効率化係数により削減されており、極めて厳しい状況にあります。今後も不断の効率化による支出の削減に努めるとともに、一層の自己収入の増加を目指して外部資金の獲得などに取り組んでまいります。

今後の当法人は、国の文化財保護行政の土台をしっかりと支えていくという大きな使命を抱え、文化財の保存と活用、またそのための基礎研究と最先端の研究という、四つの大きな柱を機能させることを目標に、更なる活性化を推進すべく努力していく所存です。国民の皆様におかれましては、当法人の事業及び運営へのご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

２．基本情報

⑴　法人の概要

①　法人の目的

独立行政法人国立文化財機構は、博物館を設置して有形文化財（文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）第二条第一項第一号に規定する有形文化財をいう。以下同じ。）を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財（同項に規程する文化財をいう。以下に同じ。）に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的としております。（独立行政法人国立文化財機構法第三条）

②　業務内容

当法人は、独立行政法人国立文化財機構法第三条の目的を達成するため以下の業務を行います。

⑴　博物館を設置すること。
⑵　有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供すること。
⑶　前号の業務に関連する講演会の開催、出版物の刊行その他の教育及び普及の事業を行うこと。
⑷　第一号の博物館を文化財の保存又は活用を目的とする事業の利用に供すること。
⑸　文化財に関する調査及び研究を行うこと。
⑹　前号に掲げる業務に係る成果を普及し、及びその活用を促進すること。
⑺　文化財に関する情報及び資料を収集し、整理し、及び提供すること。
⑻　第二号、第三号及び前三号の業務に関し、地方公共団体並びに博物館、文化財に関する調査及び研究を行う研究所その他これらに類する施設（次号において「地方公共団体等」という。）の職員に対する研修を行うこと。
⑼　第二号、第三号及び第五号から第七号までの業務に関し、地方公共団体等の求めに応じて援助及び助言を行うこと。
⑽　前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

③　沿革

平成19年4月　独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合し、独立行政法人国立文化財機構として設立

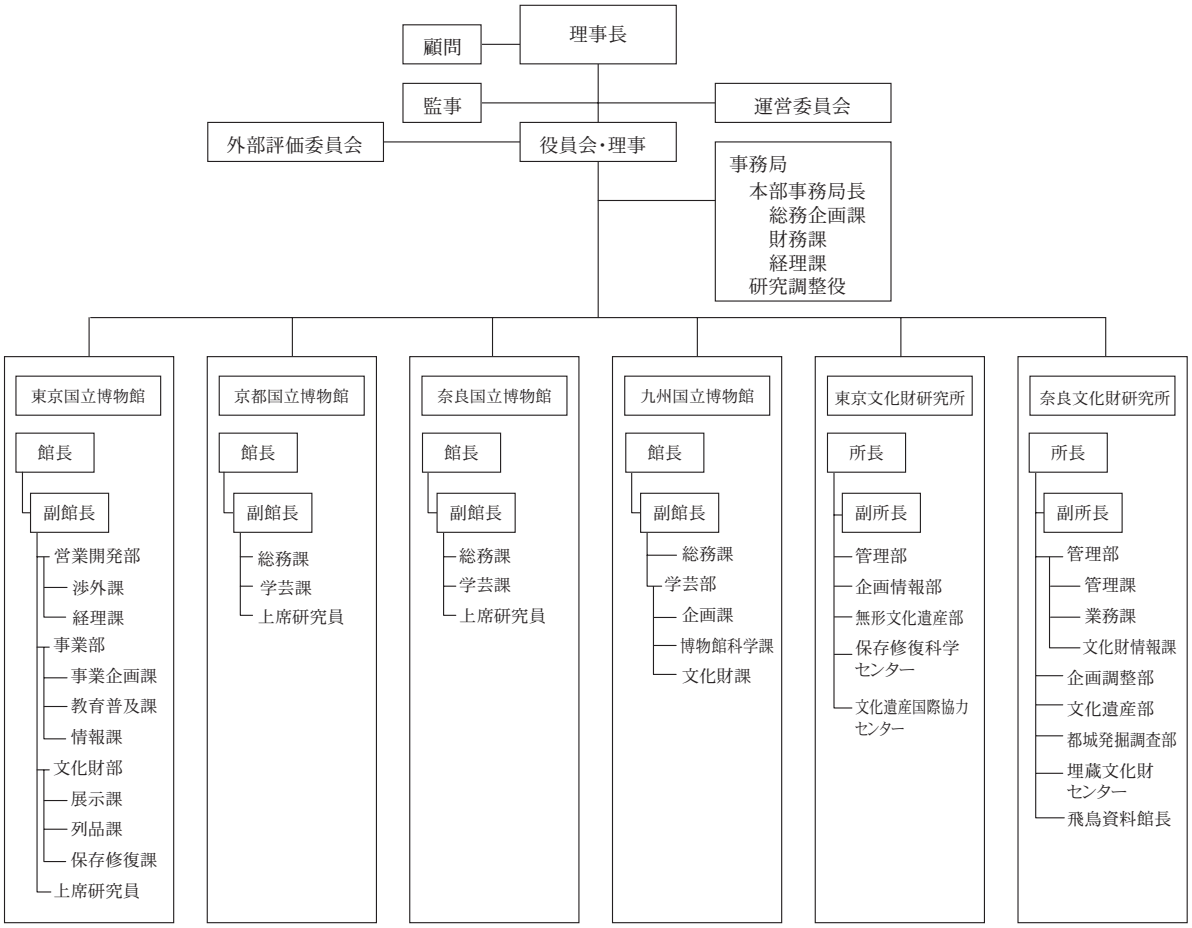
④　設立根拠法

独立行政法人国立文化財機構法（平成11年法律第178号）

⑤　主務大臣（主務省所管課等）

文部科学大臣（文化庁文化財部美術学芸課）

⑥　組織図（平成20年3月31日現在）



(2)　本社・支社等の住所

本社：東京都台東区上野公園13－9

支社：東京都台東区上野公園13－9（東京国立博物館）

東京都台東区上野公園13－43（東京文化財研究所）

京都府京都市東山区茶屋町527（京都国立博物館）

奈良県奈良市登大路町50（奈良国立博物館）

奈良県奈良市二条町2－9－1（奈良文化財研究所）

福岡県太宰府市石坂4－7－2（九州国立博物館）

(3)　資本金の状況　　（単位：百万円）

区分	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
政府出資金	86,706	18,008	0	104,714
資本金合計	86,706	18,008	0	104,714

(4)　役員の状況

役職	氏名	任期	担当	経歴
理事長	佐々木丞平	自　平成19年４月１日 至　平成21年３月31日		昭和45年４月　京都府教育委員会 昭和47年４月　文化庁入庁 昭和56年４月　京都大学 平成３年３月　京都大学文学部教授 平成12年４月　京都大学附属図書館長(併任) 平成12年11月　京都大学大学文書館長 平成17年３月　退職 平成17年４月　(独)国立博物館理事（(兼)京都国立博物館長) 平成19年３月　退職
理事	佐藤禎一	自　平成19年４月１日 至　平成21年３月31日		昭和39年４月　文部省入省 平成９年７月　文部事務次官 平成12年３月　退職 平成12年６月　文部省顧問 平成12年７月　日本学術振興会理事長 平成15年１月　ユネスコ日本政府代表部特命全権大使 平成18年10月　政策研究大学院大学理事（非常勤）
理事	鈴木規夫	自　平成19年４月１日 至　平成21年３月31日		昭和42年３月　東京書籍株式会社 昭和46年６月　サントリー美術館 昭和52年７月　文化庁入庁 平成13年４月　文化庁文化財部文化財鑑査官 平成16年３月　退職 平成16年４月　独立行政法人文化財研究所理事 平成17年４月　独立行政法人文化財研究所理事長 平成19年３月　退職（統合による旧法人役員身分の消滅）
理事	遠藤啓	自　平成19年４月１日 至　平成21年３月31日		昭和50年４月　文部省入省 平成13年１月　文化庁文化部長 平成14年８月　内閣府官房審議官（沖縄大学院大学担当） 平成17年５月　文部科学省　退職 平成17年５月　北海道大学理事・事務局長
監事	雪山行二	自　平成19年４月１日 至　平成21年３月31日		昭和51年４月　国立西洋美術館 平成４年９月　国立西洋美術館学芸課長 平成10年９月　退職 平成10年10月　愛知県美術館副館長 平成14年４月　横浜美術館長
監事	篠原啓慶	自　平成19年４月１日 至　平成21年３月31日		昭和38年４月　三菱工業株式会社入社 昭和44年10月　公認会計士芹沢政光事務所入所 昭和49年２月　監査法人中央会計事務所 昭和53年２月　税理士事務所を開設　現在に至る 昭和62年12月　中央監査法人代表社員就任 平成10年５月　同上役職を退任 平成13年４月　独立行政法人国立博物館監事

（注）経歴の具体的記載内容は、「独立行政法人等の役員に就いている退職公務員等の状況等の公表について」により公表されているものを参考とする。

(5) 常勤職員の状況

常勤職員は平成19年度末において344人（前期末比0人減少、0％減）であり、平均年齢は43歳（前期末42歳）となっている。このうち、国等からの出向者は15人、民間からの出向者は0人です。

３．簡潔に要約された財務諸表

① 貸借対照表

（単位：百万円）

資産の部	金額	負債の部	金額
流動資産		流動負債	
現金・預金	2,490	運営費交付金債務	752
未収金	553	未払金	1,805
その他	71	その他	286
流動資産合計	3,114	流動負債合計	2,843
固定資産		固定負債	
有形固定資産		資産見返負債	2,519
建物	45,827	その他の固定負債	33
収蔵品	95,898	固定負債合計	2,552
土地	44,411		
その他	4,686	負債合計	5,395
無形固定資産	110	純資産の部	
投資その他資産	1	資本金	104,713
固定資産合計	190,933	資本剰余金	83,220
		利益剰余金	719
		純資産合計	188,652
資産合計	194,047	負債純資産合計	194,047

② 損益計算書

（単位：百万円）

	金額
経常費用（A）	9,096
業務費	
人件費	3,110
業務経費	3,725
減価償却費	308
一般管理費	
人件費	846
一般管理経費	1,035
減価償却費	70
その他	2
経常収益（B）	9,518
運営費交付金収益等	7,010
受託収入	529
入場料収入	1,081
その他	898
臨時損益（C）	-14
その他調整額（D）	6
当期総利益（B－A＋C＋D）	414

③　キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	金額
Ⅰ業務活動によるキャッシュ・フロー（A）	2,612
人件費支出	-3,854
運営費交付金等収入	9,042
自己収入等	2,354
その他の支出	-5,252
その他収入	322
Ⅱ投資活動によるキャッシュ・フロー（B）	-2,572
Ⅲ財務活動によるキャッシュ・フロー（C）	-20
Ⅳ資金に係る換算差額（D）	0
Ⅴ資金増加額（又は減少額）（E＝A＋B＋C＋D）	20
Ⅵ資金期首残高（F）	2,470
Ⅶ資金期末残高（G＝F＋E）	2,490

④　行政サービス実施コスト計算書

（単位：百万円）

	金額
Ⅰ業務費用	7,013
損益計算書上の費用	9,109
（控除）自己収入等	-2,096
（その他の行政サービス実施コスト）	
Ⅱ損益外減価償却相当額	2,552
Ⅲ損益外減損損失相当額	102
Ⅳ引当外賞与見積額	5
Ⅴ引当外退職給付増加見積額	-42
Ⅵ機会費用	2,430
Ⅶ（控除）法人税等及び国庫納付額	0
Ⅷ行政サービス実施コスト	12,060

■　財務諸表の科目

①　貸借対照表

現金・預金　　：現金、預金

その他（流動資産）：たな卸資産、前払費用、未収金など

有形固定資産　　：土地、建物、機械装置、車両、工具、収蔵品など独立行政法人が長期にわたって使用または利用する有形の固定資産

無形固定資産　　：ソフトウエア、電話加入権など無形の固定資産

その他（固定資産）：有形固定資産以外の長期資産で、ソフトウエア、電話加入権など具体的な形態を持たない無形固定資産等が該当

運営費交付金債務等：独立行政法人の業務を実施するために国から交付された運営費交付金、施設費及び寄附金のうち、未実施の部分に該当する債務残高

未払金等　　：未払金で１年以内に支払期限が到来するもの、給与等に係る未払費用、前

受金など

その他（流動負債）：給与からの控除額に係る預り金など

資産見返負債　：固定資産（償却資産）取得額のうち未償却分に相当する額

その他（固定負債）：リース長期未払金など

政府出資金　：国からの出資金で、独立行政法人の財産的基礎を構成

資本剰余金　：国から交付された運営費交付金、施設費、または目的積立金、寄付金などを財源として取得した資産、寄贈により取得した資産で、独立行政法人の財産的基礎を構成するもの

利益剰余金　：独立行政法人の業務に関連して発生した剰余金の累計額

繰越欠損金　：独立行政法人の業務に関連して発生した欠損金の累計額

② 損益計算書

業務費　：独立行政法人の業務に要した費用

人件費　：給与、賞与、法定福利費等、独立行政法人の職員等に要する経費

減価償却費　：業務に要する固定資産の取得原価をその耐用年数にわたって費用として配分する経費

運営費交付金収益等：国からの運営費交付金、補助金等のうち、当期の収益として認識した収益

自己収入等　：入場料収入、展示事業付帯収入、受託収入などの収益

その他（収益）　：固定資産の減価償却額について資産見返勘定を取崩した資産見返負債戻入（収益）など

臨時損益　：固定資産の売却損益、災害損失等が該当

その他調整額　：前中期目標期間繰越積立金の取崩額が該当

③ キャッシュ・フロー計算書

業務活動によるキャッシュ・フロー：独立行政法人の通常の業務の実施に係る資金の状態を表し、サービスの提供等による収入、原材料、商品又はサービスの購入による支出、人件費支出等が該当

投資活動によるキャッシュ・フロー：将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表し、固定資産の取得・売却等による収入・支出が該当

財務活動によるキャッシュ・フロー：増資等による資金の収入・支出、債券の発行・償還及び借入れ・返済による収入・支出等、資金の調達及び返済などが該当

④ 行政サービス実施コスト計算書

業務費用　：独立行政法人が実施する行政サービスのコストのうち、独立行政法人の損益計算書に計上される費用

損益外減価償却相当額　：償却資産のうち、その減価に対応すべき収益の獲得が予定されないものとして特定された資産の減価償却費相当額（損益計算書には計上していないが、累計額は貸借対照表に記載されている）

損益外減損損失相当額　：独立行政法人が中期計画等で想定した業務を行ったにもかかわらず生じた減損損失相当額（損益計算書には計上していないが、累計額は貸借対照表に記載されている）

引当外賞与見積額　：財源措置が運営費交付金により行われることが明らかな場合の賞与引当金見積額（損益計算書には計上していないが、仮に引き当てた場合に計上したであろう賞与引当金見積額を貸借対照表に注記している）

引当外退職給付増加見積額：財源措置が運営費交付金により行われることが明らかな場合の退職

給付引当金増加見積額（損益計算書には計上していないが、仮に引き当てた場合に計上したであろう退職給付引当金見積額を貸借対照表に注記している）

機会費用　：政府から出資された土地・建物等の出資額及び政府から譲与を受け資本剰余金となっている収蔵品等の金額を市場で運用した場合に得られたであろう運用益相当額などが該当

４．財務情報（※経年比較の前年度比は、独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所の合算値（参考情報）との比較によるものです）

⑴　財務諸表の概況

①　経常費用、経常収益、当期総損益、資産、負債、キャッシュ・フローなどの主要な財務データの経年比較・分析

（経常費用）

平成19年度の経常費用は9,096百万円と、前年度比51百万円増（0.6％増）となっている。これは、展覧業務費が前年度比76百万円増（9.0％増）となったことなどが主な要因である。

（経常収益）

平成19年度の経常収益は9,518百万円と、前年度28百万円増（0.3％増）となっている。これは、博物館等に係る入場料収入が前年度比16百万円増（1.5％増）となったことが主な要因である。

（当期総利益）

上記経常収益の状況及び臨時損失として14百万円を計上した結果、平成19年度の当期総利益は414百万円と、前年度比77百万円増（22.7％増）となっている。

（資産）

平成19年度末現在の資産合計は194,047百万円と、前年度末比△391百万円減となっている。これは、主な要因は減価償却によるものである。

（負債）

平成19年度末現在の負債合計は5,395百万円と、前年度末比△713百万円減となっている。これは、平成19年4月に文化財研究所を統合した際、文化財研究所の固定資産の減価償却累計額を控除して承継されたこと等による資産見返運営費交付金の減△306百万円（△12.7％減）が主な要因である。

（業務活動によるキャッシュ・フロー）

平成19年度の業務活動によるキャッシュ・フローは2,612百万円と、前年度比62百万円増（2.4％増）となっている。これは、科学研究費等収入が107百万円増（51.8％増）となったことが主な要因である。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

平成19年度の投資活動によるキャッシュ・フローは△2,572百万円と、前年度比1,027百万円減（28.6％減）（支出額の減）となっている。これは、有形固定資産の取得による支出が前年度比1,016百万円減（28.5％減）となったことが主な要因である。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

平成19年度の財務活動によるキャッシュ・フローは△20百万円と、前年度比△2百万円増（10.8％増）（支出額の増）となっている。これは、リース債務の支払いによる支出が△2百万円増（10.8％増）となったためである。

主要な財務データの経年比較（国立文化財機構）　（単位：百万円）

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
経常費用	－	－	－	－	9,096
経常収益	－	－	－	－	9,518
当期総利益	－	－	－	－	414
資産	－	－	－	－	194,047
負債	－	－	－	－	5,395
利益剰余金（又は繰越欠損金）	－	－	－	－	719
業務活動によるキャッシュ・フロー	－	－	－	－	2,612
投資活動によるキャッシュ･フロー	－	－	－	－	−2,572
財務活動によるキャッシュ・フロー	－	－	－	－	−20
資金期末残高	－	－	－	－	2,490

〈参考情報〉主要な財務データの経年比較（国立博物館）　（単位：百万円）

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
経常費用	4,776	5,709	6,579	5,390	－
経常収益	5,081	5,414	6,486	5,780	－
当期総利益	314	−65	−84	287	－
資産	157,324	174,883	175,305	175,633	－
負債	2,437	5,148	4,827	4,762	－
利益剰余金（又は繰越欠損金）	750	187	21	290	－
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,518	1,956	1,298	2,642	－
投資活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0	0	－
財務活動によるキャッシュ・フロー	51	0	−13	−13	－
資金期末残高	3,267	3,789	2,672	2,076	－

〈参考情報〉主要な財務データの経年比較（文化財研究所）　（単位：百万円）

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
経常費用	3,555	3,565	3,684	3,655	－
経常収益	3,496	3,628	3,656	3,712	－
当期総利益	−31	86	−17	50	－
資産	19,859	19,527	19,212	18,806	－
負債	1,107	1,139	1,266	1,345	－
利益剰余金（又は繰越欠損金）	86	151	121	54	－
業務活動によるキャッシュ・フロー	−213	156	−74	−92	－
投資活動によるキャッシュ･フロー	0	0	0	0	－
財務活動によるキャッシュ・フロー	−1	−1	−4	−5	－
資金期末残高	984	1,024	866	394	－

（注１）当年度を含めて5年度の推移を記載する。
（注２）対前年度比において著しい変動が生じている場合は、その理由を脚注する。
（注３）各計数に重要な影響を及ぼす事象（会計方針の変更等）がある場合は、その旨脚注する。

② セグメント事業損益の経年比較・分析

（区分経理によるセグメント情報）

一般勘定の事業損益は422百万円、対前年度比△23百万円の減（△5.2%減）となっているが、これを施設毎に分析していくと、東京国立博物館においては、入場料収入の増加が主な要因となり、対前年度比169百万円の増（136.6%増）となっている。

京都国立博物館においては、入場料収入の減少が主な要因となり、対前年度比△15百万円の減（△41.8%減）となっている。

奈良国立博物館と九州国立博物館においては、入場料収入と展示事業等附帯収入の減少が主な要因となり、奈良国立博物館は対前年度比△56百万円の減（△57.9%減）、九州国立博物館は対前年度比△88百万円の減（△68.8%減）となっている。

東京文化財研究所においては、資産の所属換えによる減価償却費の減少が主な要因となり、対前年度比8百万円の増（67.1%増）となっている。

奈良文化財研究所においては、共同研究における研究分担金の増加が主な原因となり、△5百万円の減（△48.2%減）となっている。

事業損益の経年比較（一般勘定）　（単位：百万円）

国立文化財機構	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
東京国立博物館	－	－	－	－	293
京都国立博物館	－	－	－	－	21
奈良国立博物館	－	－	－	－	41
九州国立博物館	－	－	－	－	40
東京文化財研究所	－	－	－	－	20
奈良文化財研究所	－	－	－	－	6
共通	－	－	－	－	1
計	－	－	－	－	422

〈参考情報〉事業損益の経年比較（一般勘定）　（単位：百万円）

国立博物館	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
東京国立博物館	157	-265	-7	124	－
京都国立博物館	129	-8	-22	36	－
奈良国立博物館	17	-21	-8	97	－
九州国立博物館	該当なし	該当なし	-50	128	－
共通	2	-1	-6	2	－
計	305	-295	-93	387	－

〈参考情報〉事業損益の経年比較（一般勘定）　（単位：百万円）

文化財研究所	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
東京文化財研究所	-18	9	-20	12	－
奈良文化財研究所	-53	38	-69	11	－
共通	12	16	61	35	－
計	-59	63	-28	58	－

③　セグメント総資産の経年比較・分析

（区分経理によるセグメント情報）

一般勘定の総資産は194,047百万円、前年度比△391百万円の減（△0.2%減）となっている。これを施設毎に分析していくと、東京国立博物館においては、統合により黒田記念館にかかる資産の承継による増加等が主な要因となり、対前年度比3,625百万円の増（4.3%増）となっている。

京都国立博物館においては、平常展示館建替工事に伴う建設仮勘定の増加が主な要因となり、対前年度比308百万円の増（0.9%増）となっている。

奈良国立博物館と九州国立博物館においては、通常の減価償却費の計上による減少のみであり、奈良国立博物館は対前年度比△163百万円の減（△0.5%減）、九州国立博物館は対前年度比

△72百万円の減（△0.3％減）となっている。

東京文化財研究所においては、統合により黒田記念館にかかる資産の所属換えが主な要因となって対前年度比△3,821百万円の減（△33.4％減）、奈良文化財研究所においても、統合による各資産の減少が主な要因となり、対前年度比△355百万円の減（△4.9％減）となっている。

総資産の経年比較（一般勘定）　（単位：百万円）

国立文化財機構	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
東京国立博物館	－	－	－	－	88,121
京都国立博物館	－	－	－	－	34,931
奈良国立博物館	－	－	－	－	29,751
九州国立博物館	－	－	－	－	26,357
東京文化財研究所	－	－	－	－	7,624
奈良文化財研究所	－	－	－	－	6,880
共通	－	－	－	－	383
計	－	－	－	－	194,047

〈参考情報〉総資産の経年比較（一般勘定）　（単位：百万円）

国立博物館	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
東京国立博物館	92,158	91,664	84,744	84,496	－
京都国立博物館	34,001	34,094	34,493	34,623	－
奈良国立博物館	29,350	29,345	29,535	29,915	－
九州国立博物館	該当なし	該当なし	25,693	26,430	－
共通	1,815	19,780	840	169	－
計	157,324	174,883	175,305	175,633	－

〈参考情報〉総資産の経年比較（一般勘定）　（単位：百万円）

文化財研究所	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
東京文化財研究所	12,206	11,973	11,714	11,445	－
奈良文化財研究所	7,098	7,062	7,074	7,235	－
共通	555	492	424	126	－
計	19,859	19,527	19,212	18,806	－

④　目的積立金の申請、取崩内容等

当期総利益413,921,747円のうち、中期計画の剰余金の使途において定めた博物館・研究所業務に充てるため、198,444,365円を目的積立金として申請している。

当期利益のうち215,477,382円は、目的積立金の申請対象としていないが、このうち477,382円については、消費税の還付にかかる利息や国から承継した資産（車両）の売却に伴う収益など、法人の自己努力によらない分である。

215,000,000円については、17年度に購入した収蔵品の分割払いの財源に自己収入を充てたことによるもので、簿記上は「現金・預金」が「固定資産（収蔵品）」に変わるだけで費用が発生しないため、費用と収益が相殺されず見かけ上残る利益であり、目的積立金の申請対象にはならないものである。

なお、この場合の収蔵品購入の財源選択については、運営費交付金による取得を予定していたものであるが、前年度決算時において中期目標期間を超えた分割払いの場合の財源処理についての指導があり、19年度の支出分についても自己財源で処理することとなったものである。

⑤　行政サービス実施コスト計算書の経年比較・分析

平成19年度の行政サービス実施コストは12,060百万円と、前年度比△432百万円減（△3.5%減）となっている。これは、政府出資金等の機会費用の計算利率の低下による減少が主な要因である。

行政サービス実施コストの経年比較　（単位：百万円）

区分　国立文化財機構	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
業務費用	－	－	－	－	7,013
うち損益計算書上の費用	－	－	－	－	9,109
うち自己収入	－	－	－	－	-2,096
損益外減価償却相当額	－	－	－	－	2,545
損益外減損損失相当額	－	－	－	－	102
損益外固定資産除売却相当額	－	－	－	－	7
引当外賞与見積額	－	－	－	－	5
引当外退職給付増加見積額	－	－	－	－	-42
機会費用	－	－	－	－	2,430
（控除）法人税等及び国庫納付金	－	－	－	－	0
行政サービス実施コスト	－	－	－	－	12,060

〈参考情報〉行政サービス実施コストの経年比較　（単位：百万円）

区分　国立博物館	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
業務費用	3,829	4,659	5,086	3,973	－
うち損益計算書上の費用	4,788	5,710	6,606	5,492	－
うち自己収入	-959	-1,051	-1,520	-1,519	－
損益外減価償却相当額	1,444	1,492	2,008	1,881	－
損益外減損損失相当額	0	0	34	2	－
損益外固定資産除売却相当額	7	8	0	18	－
引当外賞与見積額	0	0	0	0	－
引当外退職給付増加見積額	-57	45	-20	112	－
機会費用	2,086	2,061	2,895	2,694	－
（控除）法人税等及び国庫納付金	0	0	0	0	－
行政サービス実施コスト	7,309	8,265	10,003	8,680	－

〈参考情報〉行政サービス実施コストの経年比較　（単位：百万円）

区分　文化財研究所	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
業務費用	3,302	3,235	3,139	2,930	－
うち損益計算書上の費用	3,556	3,565	3,686	3,662	－
うち自己収入	-254	-330	-547	-732	－
損益外減価償却相当額	426	429	420	424	－
損益外減損損失相当額	0	0	0	2	－
損益外固定資産除売却相当額	6	0	0	0	－
引当外賞与見積額	0	0	0	0	－
引当外退職給付増加見積額	-33	-21	-21	36	－
機会費用	417	382	449	420	－
（控除）法人税等及び国庫納付金	0	0	0	0	－
行政サービス実施コスト	4,118	4,025	3,987	3,812	－

(2) 施設等投資の状況（重要なもの）

①当事業年度中に完成した主要施設等

〈奈良文化財研究所〉

文化財大型資料用非破壊蛍光Ｘ線分析装置（取得原価　25百万円）

②当事業年度において継続中の主要施設等の新設・拡充

〈京都国立博物館〉

京都国立博物館平常展示館建替工事

③当事業年度中に処分した主要施設等

該当無し

(3) 予算・決算の概況

国立文化財機構　　（単位：百万円）

区分	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	差額理由
《収入》											
運営費交付金	－	－	－	－	－	－	－	－	9,042	9,042	
施設整備費補助金	－	－	－	－	－	－	－	－	711	148	次年度へ繰越
展示事業収入	－	－	－	－	－	－	－	－	1,098	1,558	
その他寄付金等	－	－	－	－	－	－	－	－	0	148	
受託収入	－	－	－	－	－	－	－	－	26	527	当初見込外契約の増加
計	－	－	－	－	－	－	－	－	10,877	11,423	
《支出》											
運営事業費	－	－	－	－	－	－	－	－	10,140	10,341	
・人件費	－	－	－	－	－	－	－	－	3,560	3,483	
・業務経費	－	－	－	－	－	－	－	－	6,580	6,858	
（一般管理費）	－	－	－	－	－	－	－	－	1,754	1,191	
（展覧事業費）	－	－	－	－	－	－	－	－	2,591	3,780	陳列品購入増加
（調査研究事業費）	－	－	－	－	－	－	－	－	1,449	1,261	
（教育普及事業費）	－	－	－	－	－	－	－	－	125	70	
（国際研究協力事業費）	－	－	－	－	－	－	－	－	314	249	
（情報公開事業費）	－	－	－	－	－	－	－	－	161	166	
（研修事業費）	－	－	－	－	－	－	－	－	23	22	
（展示出版事業費）	－	－	－	－	－	－	－	－	163	119	
受託事業費	－	－	－	－	－	－	－	－	26	486	当初見込外契約の増加
施設整備費	－	－	－	－	－	－	－	－	711	148	次年度へ繰越
計	－	－	－	－	－	－	－	－	10,877	10,975	

〈参考情報〉 国立博物館　　（単位：百万円）

区分	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	差額理由
《収入》											
運営費交付金	5,128	5,128	5,956	5,956	6,622	6,622	6,103	6,103	－	－	
施設整備費補助金	39	39	2,470	2,159	312	312	0	0	－	－	
展示事業収入	574	917	580	995	681	1,339	1,045	1,478	－	－	
その他寄付金等	0	41	0	51	0	51	0	51	－	－	
その他収入	0	51	0	0	0	0	0	0	－	－	
計	5,741	6,176	9,006	9,161	7,615	8,324	7,148	7,632	－	－	
《支出》											
運営費事業費	5,702	5,346	6,536	7,179	7,303	9,158	7,148	6,863	－	－	
・人件費	2,139	2,181	2,277	2,345	2,316	2,257	2,367	2,083	－	－	
・業務経費	3,563	3,165	4,259	4,834	4,987	6,901	4,781	4,780	－	－	
（一般管理費）	476	628	403	664	789	1,001	830	860	－	－	
（展覧事業費）	2,023	1,714	1,983	2,580	3,311	4,744	3,143	2,984	－	－	
（調査研究事業費）	483	407	448	573	771	1,039	692	868	－	－	
（教育普及事業費）	121	84	106	114	116	117	116	68	－	－	
（九州国立博物館（仮称）設立等準備事業費）	460	332	1,319	903	0	0	0	0	－	－	
施設整備費	39	39	2,470	2,159	312	808	0	518	－	－	
計	5,741	5,385	9,006	9,338	7,615	9,966	7,148	7,381	－	－	

〈参考情報〉 文化財研究所　　（単位：百万円）

区分	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	差額理由
《収入》											
運営費交付金	3,086	3,086	3,216	3,216	3,046	3,046	2,985	2,985	－	－	
展示事業等収入	21	42	21	41	21	43	42	63	－	－	
受託収入	29	188	27	257	27	475	26	627	－	－	
附帯収入	0	3	0	3	0	6	0	10	－	－	
その他寄付金等	0	8	0	8	0	18	0	8	－	－	
固定資産売却益	0	0	0	2	0	0	0	0	－	－	
計	3,136	3,327	3,264	3,527	3,094	3,588	3,053	3,693	－	－	
《支出》											
運営事業費	3,107	3,251	3,237	3,192	3,067	3,145	3,027	3,024	－	－	
・人件費	1,260	1,320	1,367	1,307	1,256	1,305	1,320	1,301	－	－	
・調査研究事業費	636	660	630	661	613	637	583	623	－	－	
・展示出版事業費	157	192	152	137	140	131	165	140	－	－	
・情報公開事業費	172	219	181	197	179	186	162	187	－	－	
・研修事業費	23	23	24	24	23	23	23	24	－	－	
・国際研究協力事業費	257	259	321	327	321	329	317	286	－	－	
・平城宮跡公開活用支援事業費	72	75	70	69	67	80	0	0	－	－	
・管理費	530	503	492	470	468	454	457	463	－	－	
施設整備費	0	0	0	14	0	36	0	516	－	－	
受託事業費	29	184	27	249	27	466	26	590	－	－	
附帯業務費	0	2	0	2	0	3	0	6	－	－	
その他寄付金	0	8	0	8	0	18	0	8	－	－	
計	3,136	3,445	3,264	3,465	3,094	3,668	3,053	4,144	－	－	

⑷　経費削減及び効率化目標との関係

当法人においては、当中期目標期間終了年度における一般管理費を、前中期目標期間の最終年度に比べて、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き5年期間中で一般管理費15%以上の削減を目標としている。

この目標を達成するため、具体的には下記の措置を講じる。

①　共通的な事務の一元化による業務の効率化

②　使用資源の減少

・省エネルギー（5年期間中1年に1.03%の減少）

・廃棄物減量化（一般廃棄物排出量を5年期間中5%減少）

・リサイクルの推進（古紙の回収、ディスプレイ材料の再利用徹底等）

③施設有効使用の推進

・施設の利用推進

④民間委託の推進

・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。

・各施設の警備・清掃業務について民間委託を推進する。

・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。

⑤競争入札の推進

・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

・包括契約、近隣他機関や法人内同一地域での共同購入及び複数年契約への変更等により、経費の効率化を図る。

国立文化財機構

（一般管理費全体で削減目標を定めているため区分は「一般管理費」のみ　（単位：百万円）

区分	前中期目標期間終了年度		当中期目標期間			
	金額	比率	平成18年度		平成19年度	
			金額	比率	金額	比率
一般管理費	1,455	100%	－	－	1,191	81.9%

※比率は対前中期目標終了年度

〈参考情報〉国立博物館

（一般管理費全体で削減目標を定めているため区分は「一般管理費」のみ）　（単位：百万円）

区分	前中期目標期間終了年度		当中期目標期間			
	金額	比率	平成18年度		平成19年度	
			金額	比率	金額	比率
一般管理費	1,001	100%	860	85.9%	－	－

※比率は対前中期目標期間終了年度

〈参考情報〉文化財研究所

（一般管理費全体で削減目標を定めているため区分は「一般管理費」のみ）　（単位：百万円）

区分	前中期目標期間終了年度		当中期目標期間			
	金額	比率	平成18年度		平成19年度	
			金額	比率	金額	比率
一般管理費	454	100%	463	102.0%	－	－

※比率は対前中期目標期間終了年度

５．事業の説明

⑴　財源構造

当法人の経常収益は9,518百万円で、その内訳は、運営費交付金収益7,010百万円（収益の73.6%）、受託収入529百万円（5.6%）、入場料収入1,081百万円（11.4%）、展示事業等附帯収入310百万円（3.2%）、財産利用収入162百万円（1.7%）、寄附金収益57百万円（0.6%）、施設費収益7百万円（0.1%）、資産見返負債戻入359百万円（3.8%）、雑益3百万円（0%）となっている。

⑵　財務データ及び業務実績報告書と関連付けた事業説明

ア　調査研究事業

調査研究事業は、文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究を通して、国内の機関との共同研究や研究交流を深め、種々の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与すること及び、文化財の調査手法に関する研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与することを目的としている。

事業に要した費用は、（平成19年度1,261百万円）となっており、その財源は、運営費交付金（平成19年度1,209百万円）、自己収入（平成19年度52百万円）となっている。

イ　情報公開事業費

情報公開事業は、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにすることを目的としている。

事業に要した費用は、（平成19年度166百万円）となっており、その財源は、運営費交付金（平成19年度160百万円）、自己収入（平成19年度6百万円）となっている。

ウ　研修事業

研修事業は、文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び、保存科学に関する保存担当学芸員研修等を行うことにより、文化財保護に必要な人材を養成することを目的としている。

事業に要した費用は、（平成19年度22百万円）となっており、その財源は、運営費交付金のみである。

エ　国際研究協力事業

国際研究協力事業は、文化財の保存・修復に関する国際研究協力に関する事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際研究協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与することを目的としている。

事業に要した費用は、（平成19年度249百万円）となっており、その財源は、運営費交付金（平成19年度242百万円）、自己収入（平成19年度7百万円）となっている。

オ　展示出版事業

展示出版事業は、文化財に関する調査・研究に基づく成果について刊行物を発行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供すること及び、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことを目的としている。

事業に要した費用は、（平成19年度119百万円）となっており、その財源は、運営費交付金（平成19年度111百万円）、自己収入（平成19年度8百万円）となっている。

カ　展覧事業

展覧事業は、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施するこ

と及び、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行うことを目的としている。

事業に要した費用は、（平成19年度3,780百万円）となっており、その財源は、運営費交付金（平成19年度2,713百万円）、自己収入（平成19年度1,067百万円）となっている。

キ　教育普及事業

教育普及事業は、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化への理解促進を図るための中心的拠点として相応しい事業を重点的に行うこと及び、教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努めることを目的としている。

事業に要した費用は、（平成19年度70百万円）となっており、その財源は、運営費交付金のみとなっている。

ク　受託事業

受託事業は、高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施することを目的としている。

事業に要した費用は、（平成19年度486百万円）となっており、その財源は、受託収入のみとなっている。

以上

Ⅳ　評価

１．文部科学省独立行政法人評価委員会評価

独立行政法人国立文化財機構の平成19年度に係る業務の実績に関する評価

全体評価

①評価結果の総括

厳しい財政事情の中にあって、4国立博物館、2文化財研究所のそれぞれが、最大限の力を発揮し大きな成果を上げていることを高く評価する。

国民にもっとも見える場としての展覧会では成果が出ており、また、研究成果の公表、子どもや市民への美術教育・啓発活動などの分野で努力と工夫が見られる。保存科学的分野では、高松塚・キトラ古墳に関わる本年度の困難な事業が無事に遂行されるとともに、他の事業においても十分な成果が上げられていることを評価する。さらに、文化財に関する高度な調査研究の成果を十分に生かして、我が国の文化財の保存活用についてのナショナルセンターとして地方公共団体、博物館、美術館等に対する支援を積極的に行うとともに、文化財の保存・修復に関する国際協力などアジアにおける我が国のナショナルセンター機能の強化という点にも積極的に取り組んでいると評価される。

＜参考＞

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置　Ａ

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置　Ａ

Ⅲ　財務・人事　Ａ

②評価結果を通じて得られた法人の今後の課題

独立行政法人になって以降、それぞれの国立博物館、文化財研究所が特徴を持ってより一層活発に活動し大きな成果を上げてきた。

平成19年度に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所との統合がなされ独立行政法人国立文化財機構となったことに伴い、黒田記念館関連作品の活用の促進などが達成されているが、統合後初年度でもあり統合効果はまだ十分に見えていないため、今後とも引き続き情報を共有して業務を効率的に遂行するとともに、活動のアピールを強化していくことも重要と考える。

③評価結果を踏まえて今後の法人が進むべき方向性

博物館、文化財研究所の交流の場をさらに広げ、各館、各研究所の共通項目についてはレベルの統一を図るとともに、特に弱い部分についてはお互いに協調してレベルアップを図る必要がある。

今後も一層、両法人が統合した国立文化財機構として、法人全体として、調査研究の成果や展示方法・展示構成の工夫等を共有して、更なる業務の質の向上・効率性の向上を図られたい。

また、アジアでの日本の文化的存在感、評価の要であることを強調すべきであり、そうした戦略性を持った事業プランを設定するなど工夫いただきたい。

④　特記事項

平成19年度の独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所との統合により、国民の共通財産である文化財の保存及び活用を一層効果的かつ効率的に推進することができる体制が整備されたことから、今後さらに組織の責任の下に関係部署間の一層の有機的な連携を図り、一層の成果を上げるとともに、それにより、我が国の文化財の保存活用についてのナショナルセンターとしての役割をなお一層果たしていくことを期待する。

文部科学省独立行政法人評価委員会 文化分科会
国立文化財機構部会委員名簿

（五十音順）

（委　　員）

河野　　栄子	ＤＩＣ株式会社社外取締役
○竹内　　順一	財団法人永青文庫館長、茨城県陶芸美術館館長

（臨時委員）

池上　　徹彦	宇宙開発委員会委員
吉川　　周平	京都市立芸術大学名誉教授
嶋田　実名子	花王株式会社コーポレートコミュニケーション部門ＣＳＲ推進部長
武田　佐知子	国立大学法人大阪大学理事・副学長
増澤　　文武	財団法人元興寺文化財研究所名誉研究員
宮島　　博和	公認会計士

○：部会長

独立行政法人国立文化財機構の平成19年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※						項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※					
	18年度		19年度	20年度	21年度	22年度		18年度		19年度	20年度	21年度	22年度
	博物館	研究所						博物館	研究所				
（大項目名）国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	A	A				（中項目名）文化財の保存・修復に関する国際協力の推進		A	S			
（中項目名）日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承	A		A				（小項目名）国際協力に関する研究基盤の整備		A	S			
（小項目名）収蔵品の収集	A		A				（小項目名）保存修復に関する技術移転の推進		A	S			
（小項目名）収蔵品の管理、保存	A		B				（中項目名）情報発信機能の強化		A	A			
（小項目名）収蔵品の修理、保存処理	A		A				（小項目名）情報基盤の整備充実		A	A			
（小項目名）収集、保管のための調査研究	A		－				（小項目名）調査研究成果の公開・提供		A	A			
（中項目名）文化財を活用した日本の歴史・伝統文化の国内外への発信	B		A				（小項目名）公開施設の運用		A	A			
（小項目名）展示の充実	S		S				（小項目名）情報発信機能の強化	B		A			
（小項目名）歴史・伝統文化の理解促進	A		A				（中項目名）地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		A	A			
（小項目名）展示、教育普及活動などの博物館活動のための調査研究	A		－				（小項目名）地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築		A	A			
（小項目名）快適な観覧環境の提供	B		A				（小項目名）中核的文化財担当者の研修・若手研究者の育成		A	S			
（中項目名）我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与	A		A				（大項目名）業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	A	A			
（小項目名）調査研究成果の発信			A				（小項目名）業務の効率化	A	（A）	A			
（小項目名）海外研究者の招聘			A				（小項目名）外部評価等の実施	A	（A）	B			
（小項目名）博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施			A				（小項目名）情報の安全向上	A		A			
（小項目名）収蔵品貸与の推進			A				（小項目名）人件費の削減	A	（A）	A			
（小項目名）公私立博物館・美術館等に対する援助・助言			A				（大項目名）財務・人事	A	A	A			
（中項目名）文化財に関する調査及び研究の推進		A	A				（小項目名）予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画	A	A	A			
（小項目名）調査研究の目的、内容の適切性		S	A				（小項目名）人事計画に関する計画	A	A	A			
（小項目名）調査研究の実施状況		S	A										
（小項目名）調査研究の成果の状況		A	A										

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

備考（法人の業務・マネジメントに係る意見募集結果の評価への反映に対する説明等）
本法人の業務・マネジメントに係る意見募集を実施した結果、意見は寄せられなかった。

【参考資料１】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較（過去5年分を記載）

（単位：百万円）

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
収入						支出					
運営費交付金	9,042					運営事業費	10,341				
施設整備費補助金	148					人件費	3,483				
展示事業収入	1,558					一般管理費	1,191				
受託収入	527					業務経費	5,667				
その他寄附金等	149					調査研究事業費	1,261				
						情報公開事業費	166				
						研修事業費	22				
						国際研究協力事業費	249				
						展示出版事業費	119				
						展覧事業費	3,780				
						教育普及事業費	70				
						施設整備費	148				
						受託事業費	486				
計	11,424					計	10,975				

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）

（単位：百万円）

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
費用						収益					
経常経費	9,095					運営費交付金収益	7,010				
人件費	3,956					受託収入	529				
一般管理費	1,035					展示事業等の収入	1,556				
業務経費	4,104					寄附金収益	57				
調査研究事業費	886					施設費収益	7				
情報公開業務費	141					資産見返負債戻入	359				
研修業務費	20					臨時利益	0				
国際研究協力業務費	248										
展示出版業務費	108										
展覧業務費	1,768										
教育普及業務費	70										
受託業務費	483										
減価償却費	378										
雑損等	2										
臨時損失	14										
計	9,109					計	9,518				
						純利益	409				
						目的積立金取崩額	5				
						総利益	414				

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）

（単位：百万円）

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	9,107					業務活動による収入	11,719				
投資活動による支出	2,575					運営費交付金による収入	9,042				
財務活動による支出	20					展示事業等による収入	2,677				
翌年度への繰越金	2,490					投資活動による収入	3				
						施設費による収入	0				
						固定資産売却による収入	3				
						財務活動による収入	0				
						前年度よりの繰越金	2,470				
計	14,192					計	14,192				

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）

【参考資料２】貸借対照表の経年比較（過去5年分を記載）

（単位：百万円）

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
資産						負債					
流動資産	3,114					流動負債	2,843				
固定資産	190,933					固定負債	2,552				
						負債合計	5,395				
						純資産					
						資本金	104,713				
						資本剰余金	83,220				
						利益剰余金	719				
						（うち当期未処分利益）	414				
						純資産合計	188,652				
資産合計	194,047					負債純資産合計	194,047				

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）

【参考資料３】利益（又は損失）の処分についての経年比較（過去5年分を記載）（単位：百万円）

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
Ⅰ　当期未処分利益					
当期総利益	414				
前期繰越欠損金	0				
Ⅱ　利益処分額					
積立金	216				
独立行政法人通則法第44条第3項により					
主務大臣の承認を受けた額	198				
業務拡充積立金	198				
施設改修積立金	0				

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）
平成19年度の当期総利益414百万円の主な発生要因については、展示事業等収入及び受託収入が多かったためである。なお、平成19年度利益処分額のうち業務拡充積立金198百万円については、主務大臣の承認を受けようとする額である。

【参考資料４】人員の増減の経年比較（過去5年分を記載）　（単位：人）

職種※	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
定年制研究職員	188				
任期制研究系職員	2				
再任用研究職員	1				
定年制事務職員	122				
任期制事務職員	0				
再任用事務職員	2				
定年制技能・労務職員	23				
任期制技能・労務職員	0				
再任用技能・労務職員	3				
指定職相当職員	3				

備考（指標による分析結果や特異的なデータに対する説明等）

Ｓ：特に優れた実績を上げている。（客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。）
Ａ：中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。
（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が100％以上）
Ｂ：中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。
（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70％以上100％未満）
Ｃ：中期計画の履行が遅れており、中期目標達成のためには業務の改善が必要である。（当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70％未満）
Ｆ：評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。
（客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評定を付す。）

独立行政法人国立文化財機構の平成19年度に係る業務の実績に関する評価

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

評　定
A

中項目の評価	評定
1．歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承	A
2．文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	A
3．我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与	A
4．文化財に関する調査及び研究の推進	A
5．文化財の保存・修復に関する国際協力の推進	S
6．情報発信機能の強化	A
7．地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上	A

【中項目評価】

1　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

評　定
A

評価のポイント

厳しい財政状況にあって、文化財の購入や寄贈・寄託による収蔵品の整備・充実は高く評価できる。

文化財の保存修理については、修理技術者との連携を積極的に図って実施されており、継続的に努力が図られていることは評価できる。

作品のメンテナンスやIPM（総合的有害生物管理）に対する取組みに関しては、各博物館の間で情報の共有を一層深めるとともに、ナショナルセンターとしての立場を踏まえ機構内で一定レベルの確保を図っていただきたい。

展示場、収蔵庫の老朽化対策や耐震対策は一部の施設では改善が図られているが、昨今の災害多発状況からすると急務と考える。耐震診断段階を終え、耐震免震工事を早急に実施していく必要がある。ナショナルセンターである博物館の急務として進めていくことを期待する。

<table>
<tr><th>中期計画</th><th>主な計画上の
評価指標</th><th>主な実績及び自己評価</th><th>評価委員会による評価
評価基準　SABCF</th></tr>
<tr>
<td>⑴－１体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。
（東京国立博物館）
日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
（京都国立博物館）
京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
（奈良国立博物館）
仏教美術を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。
（九州国立博物館）
日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古資料歴史資料等を収集する。

⑴－２収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</td>
<td>１．収蔵品の収集
○購入、寄贈・寄託の受け入れにより、体系的・通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。</td>
<td>主な実績
収蔵品　120,952件　（うち新収品972件　購入93件、寄贈68件、編入811件）
文化財購入費　17億3千万円
※18年度8億4千万円（8億9千万円増）
寄託品　12,045件　（うち新規寄託品461件）
※18年度12,415件（370件減）

【寄託件数】
東京国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>2,400件以上</td><td>1,680件以上
2,400件未満</td><td>1,680件未満</td><td>2,743件</td><td>A</td></tr>
</table>
</td>
<td>評定Ａ
コメント
文化財購入費に重点配分して、重要なものを購入した意義は大きいと考える。高額な文化財が多い中、購入費が17億3千万円では十分とは言えないが、新規の寄託品と寄贈品及び編入により収蔵品整備に努力していることは評価できる。高額な文化財の購入には、年度の分割払購入方式をとらざるを得ない場合も想定されるので、中期計画年度をまたぐ会計方式について検討する必要があると考える。
九博の高麗・朝鮮王朝時代、ベトナム陶磁の寄託は、九州国立博物館の立場をより一層明らかにする資料であり、今後ともアジア地域の収蔵品の充実を図ってほしい。
寄託・寄贈という収集方式は、日頃の館活動の成果が証明されたものであり、着実に前進していると高く評価したい。あわせてより一層、寄託・寄贈者への配慮を継続してほしい。寄贈者への感謝を表わす配慮（奈良博）や寄贈者の顕彰、特別陳列等、積極的な取り組みは評価でき、市民にとっても興味深い。寄託件数については目標を達成しているが、本来は件数より質を問うべきと考える。</td>
</tr>
</table>

京都国立博物館

A	B	C	実　績	定量的評価
6,000件以上	4,200件以上 6,000件未満	4,200未満	6,154件	A

奈良国立博物館

A	B	C	実　績	定量的評価
1,960件以上	1,372件以上 1,960件未満	1,372件未満	2,057件	A

九州国立博物館

A	B	C	実　績	定量的評価
350件以上	245件以上 350件未満	245件未満	1,091件	A

自己評価

19年度も展示や研究に活かせるような文化財の収集に努め、編入を除いて161件の新収品を得た。購入に関しては、寄附金活用を含め、18年度と比較して40件増の93件を購入した。

主な購入品としては、東大寺伝来「越中国射水郡鳴戸村墾田図」（奈良博）や狩野山楽筆「帝鑑図押絵貼屏風」（東博）、IHS花入籠目文蒔絵螺鈿書見台（京博）、重要文化財「亀甲地螺鈿鞍」（九博）がある。いずれも平常展の活性化や調査研究を行う上で、重要な役割を果たす文化財である。

寄贈については、個人収集家等へ積極的な働きかけを行った結果、68件の文化財を新規で寄贈いただくことができた。寄贈は個人収集家や社寺等のご厚志によるものであり、18年度にご寄贈いただいた方を顕彰した特集陳列「古玩逍遥－服部和彦氏寄贈仏教工芸展」（奈良博）などを通して、さらなる良好な関係の構築と積極的な働きかけに努めている。

寄託品については、九州国立博物館へ高麗・朝鮮王朝時代の仏画やベトナム陶磁など新規寄託が214件あり、今後、平常展の構成に重要な役割を果たすことが期待される。また、寺院での保存が困難との理由から京都国立博物館へ国宝・聚光院障壁画の新規寄託があったことは、文化財保存・継承の中心的拠点としての役割を果たしていることを示す事例であると考える。寄託品件数は18年度と比して370件減少している。この大部分は九州国立博物館において約350件の寄託品を一括購入し、1件として収蔵品に組み入れたことによるものである。

なお、国立博物館と文化財研究所の統合に伴い、黒田記念館関連作品809件を東京国立博物館の所蔵品として編入し、黒田記念館での公開を継続するとともに、平常展の中で特集陳列などに活用している。

<table>
<tr>
<td>⑵　国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。</td>
<td>２．収蔵品の管理、保存
○展示場、収蔵庫の老朽化対策や耐震対策を計画的かつ速やかに実施すること。
○保存環境の調査研究等を実施すること。</td>
<td>主な実績
・18年度に改修した本館地下特8収蔵庫への収蔵品の搬入（東博）
・特別展示館の耐震診断の実施（京博）
・定期的な防虫トラップの調査の開始（奈良博）
・生物モニタリングや清掃等によるIPM（総合的有害生物管理）活動の実施（九博）
■保存カルテ作成件数
<table>
<tr><th>全体</th><th>東京</th><th>京都</th><th>奈良</th><th>九州</th></tr>
<tr><td>2,220件</td><td>1,725件</td><td>140件</td><td>103件</td><td>252件</td></tr>
</table>
自己評価
19年度も18年度同様に展示施設、収蔵施設など建物の耐震診断を継続的に実施するとともに、温湿度管理や防虫対策など日常的な環境管理を行い、万全の体制を図っている。</td>
<td>評定Ｂ
コメント
展示場、収蔵庫の老朽化対策や耐震対策を進めてほしい。一部の施設では、耐震構造などの改善が図られ、また将来に向けて改築工事などの計画があり評価できるが、耐震対策が、昨今の災害多発状況からみて急務と考える。中国四川省やわが国の岩手宮城内陸地震の現状を踏まえれば、「耐震診断」段階を越えて、「耐震・免震工事」を早急に実施する必要がある。そのための「世論構築」の努力をもっとすべきであり、これこそナショナルセンターである国立博物館の責務でもある。
また、災害発生を想定した体制の再確認も必要である。
収蔵する文化財の保存上の調査とデータの集積を行う保存カルテ作成というのは、手間がかかるが将来に向けて大切な業務と考える。ただ計画と実施との関係がやや甘くなっていると考える。目標設定と計画を改めて見直し、引き続き積極的に実施していくべきである。
奈良博における防虫トラップ調査の実施などは、評価できる。しかし、一方、IPM（総合的有害生物管理）の実施が奨励、実施されて数年を経るが、学芸員の中に温度差があると見受けられた。少なくとも、ナショナルセンターであるべき本機構においては、研究員・学芸員に対してIPMが仕事の一部であることを組織として啓発・徹底していただきたい。</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>⑶　修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。</td>
<td>３．収蔵品修理、保存処理
○緊急性の高いものから計画的に修理を実施すること。
○外部の専門家と連携すること。
○科学的な保存技術を取り入れること。</td>
<td>主な実績
・計画的な本格修理及び必要に応じた応急修理を実施し詳細を修理報告書として刊行（統計表p. 45-p. 88参照）
・蛍光X線分析及び赤外線撮影などの科学的調査を実施（東博）
・20年度以降の修理指針の検討のため、絵画の彩色の蛍光X線分析や、生物被害等による劣化損傷状態を調査（九博）

【修理件数（本格修理）】
東京国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>70件以上</td><td>49件以上
70件未満</td><td>49件未満</td><td>101件</td><td>A</td></tr>
</table>
京都国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>10件以上</td><td>7件以上
10件未満</td><td>7件未満</td><td>15件</td><td>A</td></tr>
</table>
奈良国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>4件以上</td><td>2件以上
4件未満</td><td>2件未満</td><td>10件</td><td>A</td></tr>
</table>
九州国立博物館
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実　績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>8件以上</td><td>5件以上
8件未満</td><td>5件未満</td><td>22件</td><td>A</td></tr>
</table>
</td>
<td>評定Ａ
コメント
保存修復については、修理技術者との連携がより一層緊密となり、また発注に際しての施工者のチェックなどもなされており、評価される。
ただ、東京国立博物館における修理業務に関しては、統合後も東京文化財研究所と連携して実施しているものが見えてこない。もっと統合の効果を生かし積極的に連携していくことを期待する。
なお、その中にあって一部の修理現場の採光などについてもう少し科学的配慮を修理者に対して指導いただきたい。
また、評価のためには単に修理件数のみではなく、「本格修理」から「小規模の応急的措置」まで、「修理の質や内容」が判明するような統計をとる必要もあると考える。なお、修理に特化した外部資金導入についての検討を行う時期にきていると考える。</td>
</tr>
</table>

		自己評価 　収蔵品の本格修理は、148件実施し、18年度を24件上回った。これに加え、文化財の応急的な修理も併せて行い、収蔵品の保全を図っている。19年度は効率的な修理を行うため、奈良国立博物館において、修理工房を文化財保存修理所に移設統合させ、文化財の保存修理施設としての充実を図ることができた。	

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

評　定
A

評価のポイント

「レオナルド・ダ・ヴィンチ展」、「大徳川展」、「狩野永徳展」など特別展においては全般的に入場者が多く目標入館者数を大きく上回っており定量的評価の観点からは評価できるが、入場者多数の結果として、観覧者が展示物の全体から深く文化を考えるための十分な広さが確保できなくなっていた面もある。混雑緩和対策として例えば夜の開館延長日を増やすなど一層柔軟な対策を検討すべきである。平常展については質の高い収蔵品を中心に充実が図られているが、展示方法はもっと工夫できる余地もあり今後に期待したい。入館者については若者、特に高校生に的を絞ったキャンペーンを全館挙げて取り組み、マスコミなどを巻き込み広く国民運動化していくといった創意工夫が必要である。

児童から大人までの教育プログラムは充実しており参加者も多く高く評価できる。基本はいかに多くのリピーターを増やすかという点であるため、人数の確保の難しさはあると思うが継続して実施されることを期待する。「留学生の日」まで企画するきめ細かさは高く評価できる。もっとこうした活動を世間に知らしめるべきである。

施設のバリアフリー化については年々向上している。点字解説の配布、九州大学との共同開発などは画期的であり、高く評価される。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
⑴　展示の充実 展示については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとなるよう努力する。 また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本の歴史・伝統	1．展示の充実 ○国民のニーズや学術的動向を踏まえた質の高いものとすること。 ○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること。 (平常展) ○平常展を魅力あるものとし、再来館者を増加させること。 ○作品のキャプションについては、すべてに外国語訳を付すこと。	主な実績 19年度国立博物館入場者数合計355万7,664人 ※18年度364万5,003人（約8万8千人、2.4%減） ①平常展（入場者数97万1,995人） ※18年度114万7,784人（約17万6千人、15.3%減） ・「仏像の道」という名称の常設展示を本館特別第5室に新設（東博） ・特集陳列における外国語パネルの充実（京博） ・親と子のギャラリー「仏さまの彩り」におけるデジタル画像やワークショップを併設した分りやすい展示（奈良博） ・「王塚古墳と北部九州の王たち」などテーマ性に富んだ特集陳列の実施（九博） ②特別展（入場者数258万5,669人） ※18年度249万7,219人（約8万8千人、3.5%増）	評定S コメント 各館とも特別展の活性化と多様性は高く評価できる。東博の「大徳川展」、研究成果により新発見の作品も陳列した京博の「狩野永徳展」など大きな話題となる展覧会が多かったことは、法人化以降、法人化の効果を最大限実現すべく各館が意欲的に対応した結果と高く評価すべきである。 特別展の中心に据えられる作品に影響されるところが大きいが、展示効果という点では、東博のレオナルド・ダ・ヴィンチ展の「受胎告知」などは、見やすく快適な展示構成上の工夫がなされていたものであった。 また奈良博の「院政期の絵画展－美麗－」は、

文化及び東洋文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。

①平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国を博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80％以上設置する。

②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。

（東京国立博物館）
年3 ～4回程度
（京都国立博物館）
年2 ～3回程度
（奈良国立博物館）
年2 ～3回程度
（九州国立博物館）
年2 ～3回程度

○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パネル等を80％以上設置すること。

（特別展）
○我が国の博物館の中心的拠点にふさわしい質の高い展示とすること。
○特別展は年間次の回数実施すること。
・東京国立博物館
3～4回
・京都国立博物館
2～3回
・奈良国立博物館
2～3回
・九州国立博物館
2～3回
○個々の展覧会ごとに目標入館者数を定め、それを達成すること。
○黒田記念館の所蔵作品を東京国立博物館でも展示公開するなど公開機会を拡大すること。

●海外展
・「池大雅・徳山玉瀾展」（アメリカ・フィラデルフィア美術館）（6万5,995人）（東博）

③展覧会広報
・大徳川展におけるウェブサイトによる待ち時間情報の提供（東博）
・特集陳列におけるリーフレットの作成、記者発表の開催（京博）
・屋外大型液晶ディスプレイの設置（奈良博）

④黒田記念館作品の公開機会拡大
・東京国立博物館企画展示室において、黒田記念館をテーマにした特集陳列を2回開催（東博）

	総入場者数	平常展				特別展・共催展	
		入場者数	陳列件数	陳列替	特集陳列	入場者数	開催回数
全体	355万7,664人	97万1,995人	14,774件	768回	106回	258万5,669人	14回
東京	176万8,198人	33万4,297人	10,223件	319回	84回	143万3,901人	4回
京都	49万2,414人	16万5,080人	1,611件	53回	7回	32万7,334人	3回
奈良	44万2,914人	13万1,336人	928件	21回	10回	31万1,578人	3回
九州	85万4,138人	34万1,282人	2,012件	375回	5回	51万2,856人	4回

通常見ることの少ない当代を代表する優品を一堂に紹介し院政期の美意識を明らかにするもので本年度随一の特別展だった。

一方、特別展は全般的に入場者数が多かったため、その結果として展示場の広さが十分でないのか観覧するのにエネルギーをとられることが多かった。特別展の満足度については混雑に関連しているか否かの分析を深めてほしい。一方、京博・奈良博は比較的空いていることを特徴にするような施策（ゆったりできる環境等）の検討を望む。

平常展にもテーマを設定した東博の「仏像の道」は高く評価できる。しかも、キャプションも対象を若者層に焦点をあてている点が評価できる。

奈良博の「親と子のギャラリー」におけるデジタル化などの工夫は評価できる。

京博における「特集陳列」の記者発表やリーフレット作成は、今後他館でも手本になる試みである。ただし、他館では追従出来ないほどの展示作品の質の高さの割には、展示方式があまりに「平常」のままであるのが目立つため、予算や準備期間の制約はむろんあるだろうが、一層意識的に工夫いただきたい。例えば、国内の国宝のすばらしいものが多くあるが、会場内の全体的な採光の蛍光灯等の画像がガラスケースに反射し、観覧しにくいものもあり、会場の都合上やむを得ない場合もあるが、基本的な点での展示への配慮は確保すべく工夫する必要がある。

展示解説がどの館もますます分かりやすくなっており評価できる。なお平常展におけるボランティア解説員の一層の活用も検討いただきたい。

外国語パネルの設置については特別展を中心によく工夫を重ねていると思う。学芸員には負担だろうが、今後とも一層充実してほしい。

なお、各展覧会の入場者数データを年齢層・性別がわかるようにすれば、展示内容に反映できると考える。

③個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。
④黒田記念館については、東京国立博物館に所属を移し、所蔵作品を東京国立博物館でも展示するなど公開機会を拡大する。

⑵　歴史・伝統文化の理解促進
歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する。
①学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。
②－１教育普及活動の充実に寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。
②－２企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

⑶　快適な観覧環境の提供
国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要

【外国語パネルの設置】
東京国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	95%	A

京都国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	100%	A

奈良国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	56%	B

九州国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	63%	B

【特別展等入館者数】
東京国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
970,000人以上	679,000人以上 970,000人未満	679,000人未満	1,433,901人	A
レオナルド・ダ・ヴィンチー天才の実像（19.3.20～6.17）				
500,000人以上	350,000人以上 500,000人未満	350,000人未満	796,004人	A
足利義満六百年遠忌記念「京都五山　禅の文化」展（19.7.31～9.9）				
100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	108,917人	A
大徳川展（19.10.10～12.2）				
250,000人以上	175,000人以上 250,000人未満	175,000人未満	425,492人	A
陽明文庫創立70周年記念 特別展「宮廷のみやびー近衛家1000年の名宝」（20.1.2～2.24）				
120,000人以上	84,000人以上 120,000人未満	84,000人未満	157,718人	A
平城遷都1300年記念「国宝　薬師寺展」（20.3.25～6.8）［入場者数は20.3.31までのもの］				
－	－	－	51,999人	－

望を踏まえた管理運営を行う。
①施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。
②一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。
③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。

京都国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
90,000人以上	63,000人以上 90,000人未満	63,000人未満	327,334人	A
金峯山埋経1000年記念特別展覧会「藤原道長－極めた栄華・願った浄土－」（19.4.24 ～5.27）				
20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人未満	37,411人	A
狩野永徳（19.10.16 ～ 11.18）				
70,000人以上	49,000人以上 70,000人未満	49,000人未満	230,656人	A
修好通商条約締結150年記念「憧れのヨーロッパ陶磁－マイセン・セーヴル・ミントンとの出会い－」（20.1.5 ～ 3.9）				
－	－	－	59,267人	－

奈良国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
220,000人以上	154,000人以上 220,000人未満	154,000人未満	311,578人	A
神仏習合－〈かみ〉と〈ほとけ〉が織りなす信仰と美－（19.4.7 ～5.27）				
30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	40,493人	A
美麗　院政期の絵画（19.9.1 ～9.30）				
10,000人以上	7,000人以上 10,000人未満	7,000人未満	22,696人	A
第54回正倉院展（19.10.27 ～11.12）				
180,000人以上	126,000人以上 180,000人未満	126,000人未満	248,389人	A

九州国立博物館

A	B	C	実績	定量的評価
380,000人以上	266,000人以上 380,000人未満	266,000人未満	512,856人	A
未来への贈り物－中国泰山石経と浄土教美術－（19.4.10 ～6.10）				
100,000人以上	70,000人以上 100,000人未満	70,000人未満	77,380人	B

		日本のやきものー選び抜かれた名宝120点（19.7.7～8.26）				
		50,000人以上	35,000人以上 50,000人未満	35,000人未満	50,986人	A
		本願寺展ー親鸞と仏教伝来の道（19.9.22～11.18）				
		150,000人以上	105,000人以上 150,000人未満	105,000人未満	197,697人	A
		京都五山ー禅の文化展（20.1.1～2.24）				
		80,000人以上	56,000人以上 80,000人未満	56,000人未満	171,336人	A
		国宝　大絵巻展 京都国立博物館所蔵・寄託の名宝一挙大公開（20.3.22～6.1） ［入場者数は20.3.31までのもの］				
		―	―	―	15,457人	―
		自己評価 定量的な目標として掲げている特別展入場者数、平常展の陳列総件数、陳列替え回数については、いずれの館も目標を達成したが、外国語パネルの設置については、奈良博及び九博で目標（80％以上）を達成することができなかった。 19年度における国立博物館への入場者数は、九州国立博物館が開館後3年目に入り、16万人減と大幅に減少したこともあり、全体としても微減となった。平常展の入場者は、18年度は約114万8千人であったが、19年度は約97万2千人へと17万6千人、15.3%の減少となった。これは九州国立博物館において入場者数が減少したこと、東京国立博物館において18年度に開催された「マーオリ　楽園の神々」展（入場者数7万2,720人）が平常展料金で入場できることから平常展入場者数にカウントしていること、などが大きな要因と考えられる。 一方、特別展入場者数は18年度に引き続き増加しており、目標入場者数も九州国立博物館「未来への贈り物」展を除き、達成することができた。「レオナルド・ダ・ヴィンチ展」「大徳川展」（東博）、「狩野永徳展」（京博）等は目標を大幅に上回ったが、混雑等により快適な環境の提供という観点では課題が生じており、これに伴い、満足度も相対的には低下している。19年度も整理券の配布、ホームページ等での混雑時間の情報発信や奈良国立博物館における大型液晶ディスプレイによる案内表示など各館で工夫はしているが、この点は今後も課題として取り組んでいかなければならない。 海外展はメディアに取り上げられるなど評価も高く、日本文化の発信に貢献しており、継続的に実施していく方針である。 また、黒田記念館所蔵作品の特集展示を行い、黒田記念館での公開と合わせ公開の機会の拡大を図ることができた。				

	２．歴史・伝統文化の理解促進 ○講演会、ギャラリートーク等の参加者数の各館の年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること。 ○ボランティア活動を支援すること。 ○企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること。	主な実績 ①学習機会の提供 ・教育普及スペース「みどりのライオン」の設置（東博） ・スクールプログラムによる生徒・児童の受入れ（東博） ・土曜講座が累計1,600回を達成（京博） ・奈良市内の小学5年生を対象とした世界遺産学習を実施。2千人以上が参加（奈良博） ・学校への貸出しキット「きゅうぱっく」の作成、貸出し（九博） ②-１ボランティア活動の支援 ・ボランティアの協力による児童・生徒の就業体験の実施（東博） ・調査・研究支援ボランティアの協力による社寺調査の実施（京博） ・解説ボランティアの増員（奈良博） ・ボランティアの協力による出前講座の実施（九博） ■ボランティア人数 合計：574人／東博：162人／京博：23人／奈良博：96人／九博：293人 ②-２博物館支援者の増加 ・友の会会員､パスポート会員のオンラインによる申込受付開始（東博） ・賛助会芳名看板の設置（奈良博） ・パスポート会員（3,000円）の大幅な増加 1,312人→3,252人（九博）	評定Ａ コメント 学習機会の提供について、児童から大人までの教育プログラムは充実しており、メニューも多彩な上、参加者も多い。 特に東博「みどりのライオン」、奈良博「世界遺産プログラムによる小学生参加」、京博「土曜講座」､九博「中学生の職場体験」「高校生のジュニア学芸員活動」などは、新規・継続事業ともに充実してきた。基本は、いかに多くのリピーターを増やすかという点であるため、地味な活動であり人数の確保の難しさはあるとは思うが、継続すべきである。その点からすると、京博の土曜講座1600回達成は大きな成果と言える。 いずれにせよ注目すべきは、一過性の「イベント」とはせずに､「教育プログラム構築」という目標に向かっていることであるが、キーマンの学芸員の負担になっているのではないかと心配な点もある。 「留学生の日」まで企画するキメ細かさは､もっと社会に知らしめるべきである。効果の高い活動については、4館で情報の交換を行い4館同時企画なども検討すると、マスコミなどの注目を集められると思う。 ボランティア参加者の数からすると、対象として想定している観客が少なく「カラ振り」となっている面もあるが努力は評価する。継続は力である。ボランティアのインセンティブ向上の余地は大きい。 各館とも、大学との連携体制である「キャンパス・メンバーズ」の拡充も果たされ、他の公立・私立博物館・美術館の良き手本となっている。九博の自己評価にもあるように、PDA（携帯情報端末）の導入にむけてのプログラム開発が今後の新しい課題であることも明らかになった。実験段階を経て、各館共同開発の機運を盛り上げてほしい。

【講演会、ギャラリートークの参加者数（前中期目標期間の年間平均実績）】
東京国立博物館（10,915人）

A	B	C	実績	定量的評価
10,915人以上	7,641人以上 10,915人未満	7,641人未満	11,361人	A

京都国立博物館（5,181人）

A	B	C	実績	定量的評価
5,181人以上	3,627人以上 5,181人未満	3,627人未満	4,489人	B

奈良国立博物館（3,542人）

A	B	C	実績	定量的評価
3,542人以上	2,479人以上 3,542人未満	2,479人未満	2,949人	B

九州国立博物館（5,255人）

A	B	C	実績	定量的評価
5,255人以上	3,679人以上 5,255人未満	3,679人未満	4,152人	B

自己評価

各館共通に定量的な目標として掲げた講演会等参加者数は、東博を除き目標に達しなかった。

東京国立博物館においては、教育普及スペース「みどりのライオン」を表慶館に設け、児童・生徒を中心として、学習機会の提供の機会拡充に取り組むとともに、奈良国立博物館においては、奈良市内の小学5年生を対象とした講座を実施し、市内48の小学校のうち、30校以上から2千人以上の児童の参加を得るなど、新たな取組みを行った。

ボランティアについては、博物館において欠かせない存在であるので、ボランティアにとっても充実した活動となるよう協力して事業を実施している。19年度においても、児童・生徒の就業体験の実施（東博）や出前講座の実施（九博）など、様々な事業を実施することができた。

博物館支援者の増加に関しては、19年度は友の会・パスポート会員のオンライン申込（東博）等新たな試みを含め、支援者の増加に取り組んだ。しかし、賛助会員等企業からの寄附を求めることは次第に厳しくなってきているので、より積極的な支援者の増加方策を検討していく必要がある。

	３．快適な観覧環境の提供 ○施設のバリアフリー化を進めること。 ○利用者のニーズを踏まえ、入場料金や開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。 ○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等を改善すること。	主な実績 ・特別展における混雑対策の実施 ・ミュージアムショップ改修への協力（東博） ・平常展「仏像の道」において、韓国語、中国語の解説パネルを設置（東博） ・マナー講習会の実施（京博） ・オータムレイト割引、夫婦の日割引などの割引制度の整備（奈良博） ・救護室設備の整備（九博） ・点字解説の配布（東博） ・トイレ手すりの改修（京博） 自己評価 19年度は18年度に引き続き、特別展において、混雑することが多く、快適な観覧環境の提供という点では課題を残したが、新たにホームページ上等において、混雑する時間帯を標示したり、入場待ちのお客様のための日よけの設置など、各館の状況に応じて様々な工夫を行った。また、要望の多い整理券については、大徳川展（東博）において配布するなど一部で試みを行った。今後も引き続き検討を重ね、より来館者の視点に立った快適な観覧環境を提供していくよう努力していく必要がある。 施設のバリアフリー化については、これまで同様積極的に推進し、19年度は平常展の点字解説の配布（東博）や、トイレの手すりを車いすの方が利用しやすいように改修するなど、積極的に進めているが、未だ万全ではないので、今後も継続的に実施していく必要がある。	評定Ａ コメント 施設のバリアフリー化については年々向上している。点字解説の配布は画期的なものと思う。さらなる推進を望むのであればNPOをうまく活用して、評価を進め、改善計画を作ることを期待したい。九博のバリアフリー化における九州大との共同開発などは、高く評価される。京博は平常展示館建替後に期待したい。 混雑緩和対策については、夜の開館延長日を金曜、土曜の2日間に増やすなど柔軟性のある対策を検討すべきである。 多言語化は世界の博物館の趨勢であり、「言語による差別はしない」という観点から見れば、経費等の制約の中で努力しているが、充分に達成されたとは言い難い。平常展に韓国語・中国語の解説パネルを設置したのは、文化を発信という点では良かったと思う。 アンケートの実施手法やその結果の解析に、各館ともに独自の工夫を見せていることは評価できる。

3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

評　定
A

評価のポイント

多忙な中で質の高い定期刊行物の寄稿・編集・発行について実施されている。国際シンポジウムの内容も充実しており国立博物館としての調査研究成果の発信は確実に進展している。利用者や参加者からの評価をもっと反映し、さらなる工夫を期待する。奈良博において児童向け普及図録を民間企業との連携により販売価格の値下げを実現したことは、広く文化財普及に資するところが大きく評価できる。

インターネットによる研究成果の公表も定着しているが、ウェブ情報による多言語化はまだ努力の余地がある。

収蔵品の修復事業を対象とした研修プログラムについてはナショナルセンターとしての役割もあり、各館特色を生かして前進している。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
(1)　収蔵品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。	1．調査研究成果の発信 ○刊行物の発行、学会、インターネット､各種セミナー、シンポジウムを通じて研究成果を広く公表すること。	主な実績 出版物等を通した情報発信 ・『MUSEUM』（東博）､『学叢』（東博）､『紀要』（奈良博）や展覧会図録等を通して研究成果を発信 ・企業広告を募り、親と子のギャラリー「仏さまの彩り」図録を200円で販売（奈良博） シンポジウム等の開催 ・国際シンポジウム「狩野永徳研究の現状と課題」の開催（京博） ・「第2回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム―文化をつたえる紙の路―」の開催（九博） ・日本・中国・韓国学術文化交流協定締結記念国際シンポジウム「百済と古代東アジアの国際交流」の開催（九博） 自己評価 収蔵品等に関する調査研究成果の発信は出版物、インターネット、各種シンポジウム等を通して継続的に行っている。なお、国際シンポジウムにおいては､アンケートを取るなど､利用者からの意見を聴取している。19年度は絵本の作成、企業の協力による図録価格の引き下げなど、新たな試みも行った。また、国際シンポジウムも積極的に開催し、情報の発信とともに、国際交流の進展にも貢献した。	評定A コメント 調査研究成果の発信における活発な活動、特に展覧会図録など出版物や保存修復関係の研修や国際協力、各地方などへの指導・協力は努力しており評価できる。 シンポジウム等の開催、出版物の発行等により、文化財の国際的位置付けの確認を行っていることは重要である。 奈良博の児童向けの普及図録『仏さまの彩り』（頒布価200円）は、情報発信のあり方の良き手本となった。 6件行なわれたシンポジウムは内容も充実しており、国立博物館としての調査研究成果の発信として評価できる。昨年、強く要望していたナショナルセンターとしての役割の充実は、積極的な海外との交流状況を見ても、確実に進展している。

⑵　海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。	２．海外研究者の招聘 ○海外の優れた研究者を招聘し博物館活動に対する示唆を得ること。	主な実績 ・ヨーロッパ・アジアを初めてとして世界各国から64人の研究者を招聘し学術交流を図る ・国際交流協定を結んでいる中国の3国立博物館及び韓国・慶州博物館より研究者を招聘（奈良博） ・JICA草の根技術協力事業によりタイから3人の研究者を招聘（九博） 自己評価 海外からの研究者招聘は、18年度と比較して21人増の64人、海外への研究者の派遣は17人増の93人と積極的に交流を図った。また、アジア国立博物館協会（ANMA）による第1回理事会、定期大会に参加したが、第2回理事会・定期大会は2010年に日本で開催される予定であり、今後も積極的に寄与していく。 さらに、18年度に締結した協定をもとに中国、韓国を中心とした海外の博物館と交流を進めており、19年度は東京国立博物館と上海博物館との間で新たに学術交流協定を締結することができた。	評定Ａ コメント 積極的な海外との交流は評価できる。 アジア国立博物館協会（ANMA）における存在感を示すためにも、2010年定期大会開催に向けた準備をしっかりと進めてほしい。
⑶　博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。	３．博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムの検討、実施 ○博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施すること。	主な実績 ・インターンとして保存科学を専攻する大学院生の保存修復課への受入れ（東博） ・国宝修理装潢師連盟等との協定によるインターンシップの受入れ（京博） ・文化財保存修理所の修理技術者による一般向け講演会の実施（奈良博） ・東アジア紙文化財保存修理シンポジウム・ワークショップの開催（九博） ・修理技術者を対象とした研修会「ミュージアムIPM研究会」の開催（九博） ・文化財保存修復研修、古文書保存基礎講座等による博物館の文化財担当者への研修の実施（九博） 自己評価 博物館等関係者や保存修理技術者を対象とした研修を通して、我が国における文化財技術・保存のレベルアップを図ることができた。今後も文化財保護のナショナルセンターとして、継続的に研修等を通した支援を実施していく。	評定Ａ コメント 収蔵品の修復事業についてのナショナルセンターとしての役割も、各館の特色を生かして前進している。

<table>
<tr>
<td>⑷　収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。</td>
<td>４．収蔵品貸与の推進
○公私立博物館等に対する支援のため、収蔵品の貸与に関する情報を公開すること。</td>
<td>主な実績
・富山市佐藤記念美術館「広田不孤斎コレクション」展へ文化財を貸与（東博）
・フリーア美術館における西暦1600年を巡る特別展に「唐船南蛮船図屏風」を貸与（九博）

■文化財の貸与件数
<table><tr><th></th><th>合計</th><th>東京</th><th>京都</th><th>奈良</th><th>九州</th></tr><tr><td>件数</td><td>1,737件</td><td>1,302件</td><td>171件</td><td>137件</td><td>127件</td></tr><tr><td>館数</td><td>279館</td><td>149館</td><td>60館</td><td>37館</td><td>33館</td></tr></table>
自己評価
国内外の博物館等に積極的に文化財貸与を実施しており、貸与件数は18年度と比較して92件減の1,737件であったが、貸与先館数は15館増の279件と増加している。海外へもフリーア美術館の特別展への「唐船南蛮船図屏風」の貸与、ポルトガルのソアレス・ドス・レイス美術館における日本のやきもの展への重要文化財「緑釉四足壺」の貸与などそれぞれの展覧会において核となるような文化財を貸与することができた。
なお、収蔵品の貸与に関する情報については、公開する体制はまだ整っていない。収蔵品の管理・展示とも大きく関係するので全体として取り組んでいきたい。</td>
<td>評定Ａ
コメント
公私立館への貸与・公開は、十分実施されているが、ナショナルセンターとして引き続きさらなる推進を期待する。</td>
</tr>
<tr>
<td>⑸　公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期5年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。</td>
<td>５．公私立博物館・美術館等に対する援助・助言
○公私立博物館等に対する援助・助言の実績が前中期目標期間の実績を上回ること。</td>
<td>主な実績
・宮内庁所蔵の「春日権現験記絵」の修理に関する援助・助言の実施（京博）
・「国宝　鑑真和上展」（福岡市博物館）への学術協力、出品作品選定等の援助・助言の実施（奈良博）
・松浦市海底遺跡調査（長崎県松浦市教育委員会）に関する指導（九博）</td>
<td>評定Ａ
コメント
公私立博物館・美術館への助言・協力体制は前進している。地方の博物館への援助・助言は、地方財政の悪化による文化事業の予算削減という逼迫した状況下で期待が大きい。
松浦市海底遺跡調査について、九州という地を生かし、課題を抱える地方への指導は、新しい九博の地盤作りにも役立つものと評価される。</td>
</tr>
</table>

【公私立博物館に対する援助助言実績（前中期目標期間の年間平均実績）】

東京国立博物館（40件）

A	B	C	実績	定量的評価
40件以上	28件以上 40件未満	28件	124件	A

京都国立博物館（12件）

A	B	C	実績	定量的評価
12件以上	8件以上 12件未満	8件未満	81件	A

奈良国立博物館（5件）

A	B	C	実績	定量的評価
5件以上	3件以上 5件未満	3件未満	5件	A

九州国立博物館（12件）

A	B	C	実績	定量的評価
12件以上	8件以上 12件未満	8件未満	38件	A

自己評価

　文化財の保存、展示などの分野での地方の博物館等から国立博物館の援助・助言に期待される役割は大きいので、今後も積極的に援助・助言に取り組む。援助・助言の件数は18年度より100件増の248件と大幅に増加することができた。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

評　定
A

評価のポイント

最大の課題であったキトラ・高松塚古墳壁画の解体等に関わる困難な事業を東京・奈良の両文化財研究所の共同作業として無事に成し遂げた点を評価する。また、これらに関して、墳丘などの発掘や石室解体、絵画の取り外しなど、かつて無い文化財としての在り方を問われ、現在も大きな課題を残しているが、古墳自体を含め平成15年度以来、総合的な調査・研究がなされてきたことは高く評価できる。

また、上記の問題解決のために集中的に多くのメンバーと時間、費用等が費やされたにも関わらず、他の保存科学的調査・研究が継続され成果を得、光学的な先端技術が生かされていることも評価できる。平城宮跡発掘調査、古社寺調査、文化財の制作年代測定に資する年輪年代研究、動植物の遺存体研究などとともに、近代美術の基礎研究も行われており、従来からの継続研究と新規研究との調和も良く、高く評価できる。文化財研究の最前線として、国立文化財機構の担う責務は重大だが、十二分にそれに答えている。

なお、中期計画に盛られた目標以上に、調査研究の内容・範囲は多方面に渡っており、長期的な視野の地道な基礎的研究にかける時間が制約されているのではないかと懸念されるが、研究者の自立性・独自性の確保も大切であり、引き続き留意いただきたい。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
⑴　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 ①文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対	1．調査研究の目的、内容の適切性 ○中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。	主な実績 ・中期計画に示した課題を達成するために、毎年度ごとに研究目的・テーマを設定 ⑴　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 目的：文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。 主なテーマ： ・新たな保護対象の調査研究（文化的景観・民俗技術） ・新しい美術資料学の確立、近現代美術研究、技法材料の広領域研究 ・無形文化遺産研究 ・歴史資料・書籍資料等の調査 ・文化財建造物の保存・修復・活用の研究 ・平城京跡・飛鳥藤原京跡の発掘調査 ・出土遺物の分析とアジアの古代都城遺跡の調査研究 ・遺跡の保存、整備、活用の技術開発（平城宮跡、藤原宮跡の整備復原）	評定A コメント 文化財の活用と保護という相反する課題を常に抱える文化財機構において、その根幹となる「文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築」に取り組まれたことを評価したい。なかなか難しい課題であるが、これを契機に将来に向けて、より具体的かつ継続的な研究となることを期待する。 評価における定量的なものとして、展覧会の観覧動員数が常に挙げられるが、その根底にあ

象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。
②我が国の有形文化財及びそれに係わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。
ⅰ　日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性の解明
ⅱ　我が国における近現代美術の歴史の解明
ⅲ　美術や文化財に対する理解を深めるための美術の創作のプロセスの解明
ⅳ　古都所在寺社所蔵の歴史資料・書跡資料等に関する原本調査を通じた日本の歴史、文化の研究
ⅴ　歴史的建造物の保存・修復・活用に関し重点物件に係る調査・研究を通じた基礎データの収集整理・公開
③我が国の古典芸能及び伝統的工芸技術等の無形文化財の伝承実態を把握するとともに、その伝承・公開の基礎となる技法・技術を明らかにする。
④我が国の風俗習慣、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在

⑵　文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

目的	文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。
主なテーマ	・高精細デジタル画像の応用 ・文化財の非破壊調査法 ・遺跡調査の新たな指標・属性分析法の研究 ・遺跡の測量・探査技術の有効利用法の確立 ・年輪年代測定法による研究 ・動植物遺存体による環境考古学研究

⑶　科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進

目的	最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。
主なテーマ	・文化財の生物劣化対策 ・文化財の保存環境研究 ・周辺環境が文化財に及ぼす影響 ・考古資料の材質、構造の調査と保存、修復の研究 ・伝統的修復材料と合成樹脂の研究 ・在外古美術品保存修復協力事業 ・近代の文化遺産の保存修復に関する研究

⑷　国・地方公共団体の要請に応じた文化財の保存措置等のための調査・研究の実施

目的	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関して技術的に協力する。
主なテーマ	●高松塚古墳壁画 ・生物対策と保存修理 ・石室解体 ・壁画の保存修復および石材の保存修理 ●キトラ古墳壁画 ・生物対策と保存修理 ・壁画の取り外し ・手法の開発（ダイヤモンドワイヤーソー）

る展示・環境をどのように作り出すかということについては、従来我が国において希薄な部分であったとの見方がある。それを越えるものとして「博物館環境デザインに関する調査」を取り上げたことは高く評価したい。
　また、文化的営みの根幹ともなる本事業において、一般経済界や産業界にどのようにして関心を得るかは大きなテーマと考える。その一つとして「近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究」を挙げたことは、即上記の解決には跳ね返らないと思われるが、少しでも、その繋がりを引き立たせ、より発展させることにより、単に歴史的事実と言うことだけではなく、当時の産業界の世界、並びに文化的世界を提示することにより、現代の産業界の眼を引きつけるようなこととなることを期待する。
　海外の博物館が所蔵する日本古美術作品の修復に成果を挙げていることは、高く評価できる。特に事前調査や計画性にすぐれた能力を発揮している。
　近代文化遺産への保存修復にも着手している点は評価できる。
　各館とも高精細デジタル画像を利用した調査・研究を実施しており、関係スタッフが機構内はもとより、機構外部の専門家とプロジェクトチームを組むなど、研究体制が評価できる。
　研究項目の多様化は評価でき

における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図り、「無形民俗文化財の映像記録作成ガイドライン（仮称）」等の指針を作成し公表する。 ⑤平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。 ⑥遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関		⑸　有形文化財に係る調査研究 目的：①収集・保管のための調査研究　収集・保管に関わる研究を実施し、有形文化財にかかる保存に寄与する。 ②公衆への観覧を図るための研究　公衆への観覧を図るための調査研究を実施し、有形文化財の活用を図る。 主なテーマ： ①収集・保管のための調査研究 ・特別調査「古写経」（東博） ・近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究（京博） ・仏教美術の光学的調査研究（奈良博） ・博物館における文化財保存修復に関する研究（九博） ②公衆への観覧を図るための研究 ・特別展、共催展等の事前調査（4館） ・研究の成果をもとに凸版印刷と協同でミュージアムシアターを設置（東博） ・博物館美術教育に関する調査研究（東博） ・高齢者・障害者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改修方策についての調査研究（九博） 自己評価 文化財保護政策のニーズに沿った研究目的・テーマを設定することができたと考える。	るが、中には報告書などの「成果物」のない研究も含まれている。原因は、スタッフが展示関連事業に時間を余儀なくとられているためであり、研究と展示活動の調和や研究の公開性が求められる。 東博の漢籍・洋書の悉皆調査の着手は高く評価できる。 全般的には、網羅性をもって研究テーマが定められており、実際的な成果の活用もなされている。ただ、外部へのわかりやすい情報発信が一般人の理解を得るために必要であり、このドキュメントは将来への文化財であるという意識を忘れないでいただきたい。
	2．調査研究の実施状況 ○それぞれの調査研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実践的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。	⑴　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 主な実績 ・上記テーマ設定に従い、以下の調査・研究を実施 ①ア　文化的景観に関する調査研究（奈良文化財研究所） 高知県四万十川流域の四万十市・四万十町・椎原町では国庫補助事業により、四万十川流域の文化的景観について保存活用事業の調査をおこなっており、それに関わる調査をそれぞれ受託し、各報告書を作成した。 ・四万十市の文化的景観保全計画策定業務（受託） ・四万十町の文化的景観の調査(受託) ・椎原町文化的景観保存調査委託業務（受託） イ　民俗技術に関する調査・資料収集　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究　(14⑴④と一体で実施)（東京文化財研究所） 伝承実態の調査として、重要無形民俗文化財「白間津のオオマチ行事」等の現地調査を実施した。公開の実態調査としては、各ブロック別民俗芸能大会等の公開確認調査を実施した。民俗技術については、庄内地方の「飾り物」の実態調査を行った。無形民俗文化財研究協議会は、「市町村合併と無形民俗文化財の保護」をテーマに2007年12月7日に開催し、報告書を刊行した。また、『無形民俗文化財映像記録作成の手引き』を刊行し、全市町村に配布した。	評定A コメント 文化財に対する幅広い研究を行なっている状況は報告されているが、なぜ、そのテーマを選んで研究しているのか、基礎的な情報蓄積の到達点はどこで、何年くらいで到達するものなのか不明である。文化財の保存・修復においてもナショナルセンターとしての機能の充実を期待する。 マニュアルブックである『無形民俗文化財映像記録作成の手引き』を刊行し、全市町村への配布したことは、近年特に伝承上の困難に直面している無形文化財ということもあり時機に即したもので、この分野における機構の社会貢献は高く評価できる。

する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。 ⑵　文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。 ①光に対する物性を利用した高精彩のデジタル画像を形成する手法に関する調査・研究を行い、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現することを目指す。 ②小型可搬型機器の開発及び応用研究を行い、文化財の材質調査をその場で行えるようにする。また、有機化合物の物質同定を目的とした新規手法の検討及びその応用研究を行い、金属文化財や顔料など無機化合物に関する元素分析及び構造解析手法の確立等を目指す。 ③遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究会等		② ア	東アジアの美術に関する資料学的研究	東京文化財研究所
			作品をめぐる価値形成のメカニズムを解明すべく「人とモノの力学」というテーマで国立台湾大学芸術史研究所・陳芳妹氏の講演会を行った。また一つの作品をめぐり、その制作から評価の変遷に至る多角的な研究を盛り込んだ報告書『美術研究作品資料5 黒田清輝《湖畔》』を刊行した。さらに美術史研究のためのコンテンツ形成として『日本絵画史年紀資料集成（15世紀）』刊行に向けてのデータ入力を進めた。	
		イ	近現代美術に関する総合的研究	東京文化財研究所
			黒田清輝宛フランス語書簡、黒田清輝関係写真、現代美術資料等の未公開資料の整理データ化を進めるとともに、海外の文化財アーカイブ（ロンドン、ロバート・ウィット・ライブラリー）にて担当者と研究協議を行った。次に『黒田清輝著述集』（平成18年度刊行）の一部をPDF版にてホームページ上で公開するなど、研究成果の公開を進めるとともに。『昭和期美術展覧会の研究』（仮称、平成20年度刊行）のための研究協議会を開催した。	
		ウ	美術の技法・材料に関する広領域的研究	東京文化財研究所
			本研究は美術作品が基盤としている材料・技法・制作の過程等を文献史料あるいは作品に対しての科学的・光学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は天平時代の脱活乾漆像、江戸時代の木彫像、中世末期の絵巻断簡について調査するとともに、関連の平安末期の造像記録（中世写本）の調査を行った。また、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙の収集につとめ、データをホームページで公開し、逐次、その更新に努めた。	
		エ	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	奈良文化財研究所
			興福寺では中世東金堂関係文書等の調書を作成し、調査成果の一部を『奈良文化財研究所紀要2008』に報告した。薬師寺では、第31函～第53函の調書作成を継続中である。東大寺では新修第35函等の中村準一寄贈文書を調査した。唐招提寺では、惣倉所在の近代書類と、弁天堂の弁才天板絵を調査した。高山寺では調査成果の一部を公表した。さらに氷室神社大宮家文書調査を、奈良市教育委員会との共同研究として実施し、データベースを公開した。また、奈文研所蔵資料の「関野貞日記」の翻刻作業を進めている。	
		オ	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	奈良文化財研究所
			建造物調査として高知県中芸地区森林鉄道遺構調査、京都府近代和風建築総合調査、出雲大社境外諸社殿調査を実施し、森林鉄道遺構調査では調査報告書を刊行、その他の成果は『奈良文化財研究所紀要2008』に論文として掲載した。また、古代建築の技術に関する研究では、第2回研究集会を開催して研究成果発表と討議を行った。このほか、1965年～1970年分の「建造物現状変更説明」を刊行したほか、ガラス乾板写真のデジタル化等の作業を行った。	
			・高知県中芸地区森林鉄道遺産国指定物件調査（受託）	
			・平成19年度京都府近代和風建築総合調査事業（受託）	
		③	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	東京文化財研究所
			音声資料の調査を行い、無形文化遺産部公開学術講座で発表した。楽器については、	

研究を博物館の展示に生かす試みが始まっており、これから期待したい。

文化財の防災計画に関する調査研究は重要であり活動を望む。

本年度最も注目されたのは、高松塚古墳の壁画修理に関わる解体の一連のプロセスであったと思う。これは、2003年以来、従来とは異なる形で壁画のみではなく墳丘ならびにその中の石室を含み、あらゆる観点から、調査研究のメスが入れられ、最終的には壁画を切り離すこととなったが、古墳も含めて総合的な先端技術に根ざした調査がなされたものと考えられる。あわせて、解体・輸送においても、最先端技術と職人的技術の見事な統合により、寸分の狂い無く目的が達成されたことを高く評価したい。その成果は、東京・奈良の研究機関の総合的な実施の結果でもあり、かつ今まで地道に検討されてきた技術的成果、ワイヤーソー等の開発と同時に打音試験、エコーチップ試験やアコースティックエミッションなどによる検査、監視態勢によるものと考える。また、これらの事業の進行に際し、一般への公開を原則とし、終了後においても、公開講演や専門家を対象とした他の装飾古墳を含む研究会などの実施を通して、一般への理解を求めたことも評価できる。その中で、課題としてあげている発見後の生物劣化等によるその原因究明については、実施された修復技術を含め、

を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。
④木質古文化財の年輪年代測定法等を進め、考古学・建築史・美術史の研究に資する。
⑤遺跡出土の動植物遺体や古土壌の考古科学的分析により、過去の生業活動の解明と環境復元を行う。

⑶　科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。
①生物被害を受けやすい木質文化財（社寺等建造物、彫刻など）の劣化診断や被害防止対策を確立する。
②環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行い、文化財を取り巻

鼓胴・龍笛・能管について調査を行った。世阿弥自筆能本について調査を実施した。重要無形文化財保持者吉田簑助氏等からの聞取り調査をおこない、『無形文化遺産研究報告』で公表した。工芸技術に関しては、葛布製造の現状、民平焼の「土型」について調査研究を実施した。宝生流と喜多流の謡曲、及び講談について、実演記録作成を行った。

・文化遺産保護国際貢献事業　無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	東京文化財研究所

⑤　ア　平城宮跡東院地区（第421次）の発掘調査　奈良文化財研究所

本調査では、東院の区画変遷をほぼ解明した。変遷の概要は、西半部に官衙的な建物を配する段階（奈良時代前半）から、東院全体を広く区画する段階へ（奈良時代半ば以降）と概括され、奈良時代末期には、東院南門の中軸線を意識する、より計画的に配置された建物群が出現する。なお、奈良時代後半に属する単廊SC19050の検出は特筆される成果といえ、東院の中枢部を本調査区北東に推定する説は、これによりさらに確実になった。

- 平城京左京二条三坊（第420次）の発掘調査（受託）
- 旧大乗院庭園（第424次）の発掘調査（受託）
- 法華寺旧境内（第426次）の発掘調査（受託）
- 法華寺旧境内（第430次）の発掘調査（受託）
- 喜光寺旧境内（第433次）の発掘調査（受託）

平城宮跡東院地区（第423次）の発掘調査　奈良文化財研究所

掘立柱建物13棟、石組溝8条、礫敷などを検出した。特徴は奈良時代後半の短い期間に前代の建物をほぼ全面的に改作している点である。大規模な総柱建物や石組溝が多いという特徴は、建物外を礫敷で舗装することとあわせて、宮殿の様相に類似している。今後の調査において、建物配置だけでなく、舗装や排水施設など生活空間全般を検討する上での足がかりを得たこととなる。また、各時期にわたって本調査区の一段高い東側に東院地区中枢部の主要施設があることが推定できる。

平城宮跡東方官衙地区（第429次）の発掘調査　奈良文化財研究所

平城宮中枢部の1つ東区朝堂院と東院の間に位置する東方官衙地区を対象として発掘調査を実施した。この地区における官衙の配置や規模の概要を把握するために昨年度より、数年にわたり調査することを計画し、本調査はその第2回目となる。昨年度の調査区の南側を調査対象とし、南北96m、東西129m、調査面積1314㎡の調査区を設定した。調査は平成20年1月11日より開始した。

旧大乗院庭園（第424次）の発掘調査　奈良文化財研究所

西調査区は、390次調査で検出した鎌倉～室町時代のSB8983の西側の続きを確認することを主目的として調査したが、近代に標高89.5mまで大きく削平されている事が判明、顕著な遺構は検出できなかった。東調査区は、西小池南側が大池方向と池尻方向の二股に分かれる岬に位置するが、この部分の汀線及び護岸状況の詳細を明らかにすることができた。

生物劣化のみならず化学分野等を含む総合的な分析と解明を期待する。

こうした最も大きい重要な課題に取り組む中で、その他多くの研究がなされているが、展示されている山田寺の出土部材の経年変化の計測の継続は高く評価する。機構の基本である文化財の保存継承という点で、さらに一層、長期的安定性の追求を期待する。

年輪年代法については、長い研究成果が華を咲かせており、また、X線CTを用いた非破壊年輪年代測定法の開発は、現実に成果を上げており、仏像などの美術工芸品への応用が期待される。同時に我が国の歴史的資料に裏付けられたデータにより、国際的にもより信頼される結果となっているものと思われる。

あわせて、『動物考古学-*Fundamentals of Zooarchaeology in Japan*』が刊行されたことは、国際的にも高く評価され利用されるものと期待する。

考古学発掘調査に特化したイメージのある奈良文化財研究所の景観保存受託事業や近代和風建築調査は、今後の受託事業と社会貢献の進展を示唆する新しい典型になるのではないかと期待される。

く保存環境の現状を把握し、改善することに資する。
③屋外文化財の保存・修復の手法を確立する。また、文化財の防災についてその予防と被災後の情報収集を行い、文化財防災のネットワーク化の一層の推進を図る。
④考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーX線CT・CR法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。
⑤伝統的修復材料や合成樹脂などの物性、製作技法、利用技法に関する調査・研究をもとに、修復材料・技法の評価及び開発を行う。また、海外の文化財保存担当者を対象に、日本の修復材料の使用法や修理技術に関する研修等を行い本国での基本的な作品の取り扱いや保存処理に反映させる。
⑥近代の文化遺産に特徴的な鉄、コンクリート、プラスティックなどの複合素材及び技法について国際共同研究を実施し、その成果をもとに国内所在の近代文化

	藤原宮跡大極殿院南門発掘調査	奈良文化財研究所
	藤原宮の中枢施設である大極殿院南門の規模および構造、築成方法、大極殿院回廊との関係、儀式用施設の有無などを明らかにすることを目的とした発掘調査をおこなった。その結果、大極殿南門基壇の規模は、東西39.1m×南北14mとなり、従来の想定よりも大きくなることが判明した。また、基壇の詳細な築成方法を明らかにした。さらに、南面西回廊において地鎮遺構を確認した。日本の都城、宮殿遺跡における最古の地鎮具である。調査面積1560㎡、調査期間は2007年4月1日ー11月12日。調査成果は、論文、報道発表、現地説明会で公表した。	
	・甘樫丘平吉遺跡北方の発掘調査（受託）	
	・藤原京横大路の発掘調査（受託）	
	・藤原京本薬師寺跡の発掘調査（受託）	
	・藤原京山田道の発掘調査（受託）	
	・藤原宮東方官衙地区の発掘調査（受託）	
	・秋田県胡桃館遺跡出土遺材の調査研究（受託）	
	石神遺跡（第20次）発掘調査	奈良文化財研究所
	飛鳥の重要な宮殿遺跡の一つであり、7世紀中頃の外交上の饗宴施設と考えられている石神遺跡において、遺跡範囲確認を主な目的とした調査をおこなった。その結果、既調査成果である北限施設の、東限に推定される施設群を確認した。これにより、次年度以降の具体的な調査目的を固めることができた。調査面積484㎡、調査期間は平成19年10月1日ー翌年2月14日である。調査成果は、論文、報道発表、現地説明会、講演会で公表した。	
	甘樫丘東麓遺跡発掘調査	奈良文化財研究所
	甘樫丘東麓遺跡で950㎡の発掘調査をおこない、調査区内で5棟の掘立柱建物を確認した。そのうち2棟は7世紀中頃、残る3棟は7世紀後半のものである。前者は『日本書紀』に記された蘇我氏の邸宅と関わる可能性が高いが、倉庫や小規模な掘立柱建物である。今後は谷地における居住空間の有無、7世紀後半の建物群の性格を解明するため、遺跡の全体像を把握する調査が必要となった。	
イ	平城京跡出土遺物の調査研究	奈良文化財研究所
	発掘調査研究の基礎作業として、平城宮・京跡で出土した木製品・金属製品・石製品・土器・土製品・瓦磚類・木簡などの整理、分析研究、出土遺構の整理、分析研究、出土遺構の図面・写真作成、分析研究、及び出土遺物の科学的保存処理を、年間を通じて発掘調査と併行して実施した。また、第一次大極殿院に係るデータについて、『平城宮発掘調査報告（第一次大極殿院）』の刊行に向けて基礎的分析作業を引き続き実施した。	
	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	奈良文化財研究所
	本年度の発掘調査による飛鳥・藤原京跡出土の木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品・瓦塼類、木簡などの整理、分析研究、発掘遺構の図面および写真資料の整理・作成、分析作業は年間を通じて実施し、合わせて前年度までの発掘調査成	

遺産の保存・修復に関する手法を開発する。 ⑷　高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。 ⑸　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。 ①収集・保管に関する研究を実施し、有形文化財の保存に寄与する。 ⅰ　保存環境の調査研究等を実施することにより、収蔵品の保存環境の向上を図る。 ⅱ　日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域を中心に東洋全般にわたる各国固有の文化財の調査研究を実施する。			果を報告書等で公開するための基礎的整理・分析・復原研究を行った。また、出土遺物の保存処理を継続的に実施した。研究成果は、公刊図書等において公表した。韓国との共同研究では、研究員を相互に派遣し研究交流をおこなった。	
			古代瓦に関する研究集会の開催　奈良文化財研究所 飛鳥白鳳期の古代瓦を、実物を見ながら議論し、造瓦技術の変遷と伝播を明らかにする研究集会である。11回目の今回は、藤原宮式軒瓦および本薬師寺式軒瓦の展開をテーマとして、2008年2月2日・3日に平城宮跡資料館において開催した。成果に関しては、『飛鳥白鳳の瓦づくりXI－藤原宮式軒瓦の展開－発表要旨』によって公開した。研究集会を通じて、近年の資料の蓄積や新出資料による新たな知見が得られるとともに、丸・平瓦も含めた総合的な検討の必要性も今後の課題として浮き彫りになった。	
		ウ	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究　奈良文化財研究所 中国との共同研究では、漢長安城桂宮発掘調査報告書作成の準備、唐長安城太液池の出土遺物調査、漢魏洛陽城の日中共同発掘調査協議書締結と共同発掘調査の準備を実施した。遼寧省では引き続き朝陽地区隋唐墓出土品の調査を進め、河南省では鞏義窯の発掘調査に参加し出土品を調査した。また、中国側研究員を招聘し学術交流を深めた。韓国との共同研究では、『日韓文化財論集I』を刊行、慶州文化財研究所とは発掘調査交流を行った。	
		エ	庭園に関する調査研究　奈良文化財研究所 古代庭園に関する研究では『平安時代庭園に関する研究I』を発行した。古代の宮殿の朝庭部の研究では、奈良時代前半の大極殿前庭にある塼積擁壁とそれを含む大極殿院に関する研究を多数発表した。このほか、近代の庭園である和歌山県海南市の琴の浦・温山荘庭園の基礎調査を実施した。文化遺産部の遺跡整備研究室と合同で、「宮中儀礼の復興による文化遺産の活用」に関する講演会を開催した。	
		オ	飛鳥地域の歴史に関する調査研究　奈良文化財研究所 出土部材展示の経年変化の研究では1982年に出土した山田寺東回廊の出土部材を、展示後にセンサーを設置し、計測を続けてきている。 飛鳥時代の工芸技術の研究に関しては、継続して高松塚古墳出土海獣葡萄鏡をはじめとする唐式鏡を全国的にまとめて研究している。今年度は当該研究として、延岡市教育委員会所蔵の鏡8面を借用して種々の調査を行い、その研究成果をまとめた。壁画古墳の研究としては、飛鳥地方の壁画古墳についての資料を収集すると共に、特に中国における壁画古墳の現状と、その保存に関する資料収集を行った。	
	⑥	ア	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究　奈良文化財研究所 昨年度開催した研究集会「遺跡の教育面に関する活用」の報告書を刊行するとともに、研究集会「遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度」を開催した。遺構の露出展示に関する整備例の資料収集を継続しつつ、データベース化の課題を検討した。また、旧文化遺産研究部遺跡研究室がまとめた大規模遺跡の整備・管理・活用に関する調査研究成果をCDとして制作・発行した。そのほか、「宮中儀礼の復興による文化遺産の活用」に関する講演会を開催した。	

iii　収蔵品の調査研究を重視し、特に重要な項目については特別調査を実施する。また、特別展及び海外展実施に向けた事前調査を実施する。
iv　トータルケアシステム構築に向けた応用研究を実施し、有形文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する。
v　修復文化財に関する調査研究を実施し、補修紙製作、剥落止め等修復方針決定に寄与する。
vi　収蔵品について、科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究を実施し、文化財の適切な保存・展示・活用に反映させる。

②公衆への観覧を図るための研究を実施し、有形文化財の活用に寄与する。
i　有形文化財の展示デザインシステムを構築するための応用研究を実施する。
ii　博物館情報学を構築するための研究を実施する。
iii　博物館教育理論の構築に関する研究を実施し、有形文化財理解の推進に寄与する。
iv　京都文化を中心にした文化財の調査研究を

⑥	イ	遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究	奈良文化財研究所
		遺跡の保存・整備・活用について、保存・整備の工法を検討するためアコースティックエミッション法、比抵抗映像法、打音試験、エコーチップ試験、コンクリートハンマー試験法などの各種測定法をフィールドにおいて応用し、有用なデータを提示することができた。	
	ウ	第一次大極殿復原整備研究	奈良文化財研究所
		宮跡の管理・活用を検討するワーキンググループを構成し、ワーキンググループ内で検討会をおこないながら、今後の宮跡の管理・活用についての調査研究をおこなった。今年度は主として、宮跡管理・活用・整備のためのゾーニング、導線計画について検討をおこなった。また、昭和53年に策定された「基本構想」の見直案を検討した。なお、一昨年来おこなってきた、遺跡の管理活用に関する類例調査の成果を、『遺跡整備調査報告書　管理運営体制および整備活用手法に関する類例調査』として、刊行した。	

自己評価
19年度も18年度同様、様々な調査・研究を通して文化財に関する基礎的な情報を蓄積することができた。基礎的・体系的な調査・研究は、成果がすぐに出るものではなく、長期的な視野に立つことが欠かせないが、その中でも報告書の刊行や研究会・学会での発表を通じて、調査・研究の成果を広く、国民に還元するように努力している。今後もこれらの調査・研究を通じて、我が国における文化財に関する調査・研究の底上げを図っていきたい。

実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。
v　平安仏教とその造形に関する調査研究を実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。
vi　南都諸社寺等に関する計画的な調査研究を実施し、展覧会の活性化に反映させる。
vii　我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究を実施し、仏教美術の解説の充実を図る。
viii　仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術の解明に寄与する。
ix　日本とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究を実施し、これらの文化財の収集・保管・展示、教育普及事業等を展開する。

⑵　文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

主な実績

・上記テーマ設定に従い、以下の調査・研究を実施

		調査研究の名称	施設名
①		高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	東京文化財研究所
		平成17年度に行った奈良国立博物館との薬師寺蔵「吉祥天像」の共同研究の報告書、および平成18年度から彦根城博物館と共同で行った国宝「彦根屏風」の調査報告書を刊行した。また、黒田記念館での黒田清輝筆「智・感・情」「湖畔」ほかの画像展示（07.4～）、国宝「彦根屏風」 特殊撮影画像展示（「よみがえった国宝・彦根屏風と湖東焼の精華」07.9.28～10.26、彦根城博物館）などを行ったほか、写真画像の撮影、保存の試みのひとつとして、黒田清輝遺族より寄贈された関連資料のうち、当時の写真をその質感を再現すべくデジタル撮影および出力を行い、特集陳列「写された黒田清輝」にて展示した（黒田記念館　07.11.15～）。	
②		文化財の非破壊調査法の研究	東京文化財研究所
		ポータブル蛍光X線分析装置を用いて、絵画や建造物などの彩色調査を実施し、材料・技法を明らかにする研究を推進した。また、基礎的研究として、反射分光分析の測定精度および微小試料分析の可能性を検討した。また、他の調査手法によって得られたデータを相互に関連付けられるような研究展開を図った。	
③	ア	遺跡データベースの作成と公開	奈良文化財研究所
		官衙関連遺跡等の資料について、中国地方以西のデータ収集とデータベース入力を進めるとともに、建物遺構等の属性分析によって新たにデータ項目を追加・改訂したことに伴い、近畿以東の遺跡データについても補訂作業をおこなった。そして、全国の主要官衙関係遺跡のデータを奈良文化財研究所のホームページで一般公開した。また、豪族居宅建物の属性分析成果を論文としてまとめ刊行した。	
	イ	古代官衙・集落に関する研究集会の開催	奈良文化財研究所
		12月14･15日の両日に、「古代地方行政単位の成立と在地社会」のテーマで研究集会を開催した。木簡や文献史料、古墳分布や官衙遺跡の様相などから、国・郡（評）・里制成立の画期、地方行政単位成立の在地社会における意味について、7本の研究報告をおこない、討議をした。参加者は158名であった。また、昨年度の研究集会の報告・討議録を掲載した論文報告集『古代豪族居宅の構造と機能』を刊行した。	
	ウ	遺跡の測量・探査技術の有効利用法の研究	奈良文化財研究所
		国内各地および中国遼寧省で機器の実地テストを兼ねたデータの収集と分析をおこなった。本年度は、地中レーダ･磁気･電気の3種類の物理探査手法を組み合わせた18件の遺跡探査と、三次元デジタイザおよびデジタル写真などを用いた遺構・遺物の三次元計測を実施した。また、第2回DDCH（文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ）を主催したほか、国内外で研究発表と測量研修をおこなった。	

		④ 年輪年代学研究 — 奈良文化財研究所 7府県下9遺跡から出土した考古学関連の木材試料、国宝1棟・重文2棟を含む7府県下8棟の建造物、国宝3点・重文1点を含む6府県下の26躯の木彫像ならびに4点の工芸品に対して年輪年代調査を実施した。また、マイクロフォーカスX線CTを用いた非破壊年輪年代測定法の開発により、ハルシュタット出土木製品に対してオーストリアとの国際共同研究を実施した。以上の研究成果の一部を、論文等4件、学会発表等4件として発表した。 ⑤ 動物遺存体による環境考古学研究 — 奈良文化財研究所 現生動物骨格標本の標本作製は、魚類96点、鳥類20点、哺乳類7点と順調であった。韓国慶南考古学研究所が発掘した金海ヘヒョンニ貝塚の報告書作成のための指導、協力を継続。7月に中国河南省で開催された考古科学国際会議で発表。9月には米国コロンビア川河畔のサンケン・ビレッジ遺跡の発掘に参加。『動物考古学-Fundamentals of Zooarchaeology in Japan』を日英併記で京都大学学術出版会から刊行できた。 ・東名遺跡出土動物遺存体調査（受託） 自己評価 文化財の調査・研究において、新たな手法が開発されることによって、これまで知り得なかったことが明らかになることは少なくない。19年度も文化財に関する新たな手法について、継続的に研究を実施している。文化財の非破壊調査や年輪年代研究、動植物の遺存体の調査・研究等からは、製作時期の特定など、新たな知見を得ることが可能となっている。今後も調査・研究を継続的に実施し、新たな調査手法の開発を通して、調査・研究に新たな知見が得られるよう努めたい。	
		⑶ 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進 主な実績 ・上記テーマに従い、以下の調査・研究を実施 ① 文化財の生物劣化対策の研究 — 東京文化財研究所 主に屋外、あるいは屋外に近い環境にある文化財の生物劣化の診断や防止策について検討しており、本年度は、⑴高松塚古墳の解体に伴い、現場作業にあわせた防黴処置方法の検討、施工、⑵HEPAフィルターを利用する新たな殺菌処理による仏像の処理、⑶歴史的建造物の黴の調査と施設改善、⑷害虫侵入早期検出のため、木質文化財の劣化診断についての研究会の開催、などを行った。 ② 文化財の保存環境の研究 — 東京文化財研究所 文化財施設内の温湿度解析の対象として、施設の耐震工事を計画している石水博物館千歳文庫を選択し、熱・換気回路網計算プログラムを用いて温湿度解析を行い、実測した温湿度データとの比較を行った。今回作成した計算モデルから得られた計算結果と実測結果は概ね対応した。今後、壁面の吸放湿性能をモデルに組み込むことにより、解析精度を上げていく予定である。 「金属試験片曝露による環境モニタリング」の研究会を開催し、空気汚染物質による文化財への影響調査手法などの討論を行った。	

		③	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	東京文化財研究所	
			石造文化財や木造建造物などの屋外文化財について、周辺環境を観測した。それに基づいて劣化要因の解明と、修復材料・技法の開発・評価を試みた。臼杵磨崖仏では今後の修復事業のために、劣化機構の把握を目的とした微気象や岩体水分などの観測を続けている。凍結劣化対策として覆屋閉鎖実験を、生物制御のために紫外線灯照射実験を行った。富貴寺では、菌類の分布調査および環境測定を行った。また、韓国国立文化財研究所と研究報告会を行った。		
			文化財の防災計画に関する調査研究	東京文化財研究所	
			能登半島地震、三重県中部地震、新潟県中越沖地震などの発生後、文化財防災情報システムにより震災地域内の文化財建造物を抽出した。続いて現地調査を行い、応急処置方法に関して助言した。新潟県中越地震で被災した長岡市の博物館での耐震対策の実効性を確認した。本システムの運用にあたり、地震や台風などの災害情報や文化財の修復履歴などの入力方法を改良し、防災地図とのカップリングにより浸水や地すべり危険区域を表示可能とした。第3回文化財の防災計画に関する研究会の報告書を刊行した。		
		④	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	奈良文化財研究所	
			標準資料および考古遺物のラマンスペクトルのデータベース化をおこなった。考古遺物のX線CT撮影、オートラジオグラフィおよびX線CR撮影を実施した。シンクロトロン顕微赤外分析法による出土絹繊維の埋蔵中の劣化について解析を進めた。超臨界点溶媒乾燥について強化含浸に用いる薬剤にリグノクレゾールを選択し、含浸濃度の違いと木材への吸着性について検討をおこなった。装飾古墳の保存の問題について保存科学研究集会を開催した。		
		⑤	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	東京文化財研究所	
			伝統的修復材料に関して、調査研究を行った。紙に関しては、収集した試料の繊維組成分析を行い、適切な紙を選ぶための基礎データを集積した。また、本年より、本研究所が携わった修復事業のうち、研究所が所蔵する資料を分類整理し、目録を作成し始めた。また、ネガフィルムなどの資料に関しては、デジタルデータ化を進めた。「漆芸品に用いられた金属の劣化」というテーマで第一回 伝統的修復材料および合成樹脂に関する研究会を開催した。		
			国際研修「漆の保存と修復」	東京文化財研究所	
			今年度は平成19年9月10日より9月14日までこれまで当研究所の研修に参加した海外の漆の修復家や保存担当者12人を招き以前の研修の後、母国に帰国した後の状況に関する報告をしていただいた。その後、弘前市、八戸市博物館、八戸市縄文学習館、浄法寺、中尊寺などにおいて調査研究を実施した。		
			在外日本古美術品保存修復協力事業	東京文化財研究所	
			平成19年度は、11館11点の作品（絵画5点、工芸品6点）を修復した。うち4点（絵画1点、工芸品3点が18年度からの継続、2点（工芸品2点）を海外で修復した。絵画の事前調査ではローマ国立東洋美術館など、ヨーロッパで5館25作品、イェール大学美術館など北米地区で4館19点の調査を行った。工芸品はビクトリア＆アルバート美術館などヨーロッパで6館44点の調査を行った。また、平成18年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。		

⑥	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	東京文化財研究所
	今年度は近代化遺産の利活用をテーマとして研究を行った。航空機の保存に関する関係者を、海外、国内から招き、研究会を開催しそれぞれの立場から航空機の保存と活用に関する発表を行った。また、設計図面などに多く使われている青図の再発色に関する現地調査も加え研究を実施した。屋外展示されている鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。昨年度の研究会をまとめた報告書も刊行した。	
	・初代南極観測船“宗谷”の文化財的価値及び保存整備に係わる調査研究（受託）	

自己評価

我が国の有形文化財は紙や木など劣化しやすい材質で作られているものが多く、保存環境や修復に関する調査・研究は重要である。19年度は生物や環境からの影響による劣化診断と防止対策や地震や台風などの災害対策に関する研究を行い、文化財周辺の環境の調査や解析の手法を確立するための研究・実践などを含めて幅広く文化財の保存・修復に関する研究を実施することができた。また、海外において我が国の古美術品の修復を実施するなど国内からだけでなく、外国からも期待されている分野である。今後も先駆的な調査研究を継続的に実施し、我が国文化財の保存・修復のナショナルセンターとしての機能を強化していきたい。

⑷　国・地方公共団体の要請に応じた文化財の保存措置等のための調査・研究の実施

主な実績

・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施

調査・研究の名称	施設名
文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	東京・奈良文化財研究所
キトラ古墳では東西壁の無地部分、天井は無地部分、朱線部分、星宿部分の劣化が著しい箇所を優先的に剥ぎ取った。保存にかかわる環境の計測と制御を行った。この他、発掘調査報告書の編集と刊行を行った。 高松塚古墳では、国宝壁画の保存修理に向けて石室解体を無事に成功させた。解体作業と並行して石室細部の調査・壁画の養生作業・生物試料採取などを行い、石室の構築方法や壁画の保存環境を明らかにした。また、仮設修理施設に搬入された壁画の経過を観察し、損傷図面の作成を順次始めた。採取した試料に対する菌類の詳細な同定により、その由来や生理的性状などについて重要な情報が得られつつある。	
・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務・前期（受託）	
・特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務（受託）	
・国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務・後期（受託）	
外部機関の要請に基づく文化財の保存修復に関する実践的研究	奈良文化財研究所
平成19年度は、受託研究として、文化庁1件、地方公共団体4件（秋田県埋蔵文化財センター、日田市、徳島市、石岡市）および財団2件（長野県文化振興事業団、群馬県埋蔵文化財調査事業団）を実施した。	

		・長野県千曲市社宮司遺跡出土の六角木幢保存修復委託業務（受託） ・秋田県漆下遺跡出土漆関連遺物分析調査（受託） ・重要文化財奈良県黒塚古墳出土品事前調査ならびに保存修理（受託） ・史跡ガランドヤ古墳の保存整備に伴う環境調査（受託） ・群馬県万蔵寺廻り遺跡出土炭化繊維遺物の分析調査(受託) ・徳島城本丸跡の石垣遺構等の科学的探査(受託) ・石岡市瓦塚瓦窯の探査(受託) 自己評価 19年度は18年度に引き続き、文化庁の要請に応じて、高松塚古墳壁画及びキトラ古墳壁画の修復事業を実施した。高松塚古墳壁画は石室の解体等万全を期して実施することができた。キトラ古墳壁画についても同様に東西壁の無地部分のワイヤソー、バンドソーを用いたはぎ取りを行ったが、事前の実験や使用材の選定など万全を期して実施することができたと考える。今後も文化庁の要請に応じて、適宜協力して実施していきたい。	
		⑸　有形文化財に係る調査研究 主な実績 ・先述したテーマに従い、以下の調査・研究を実施 ① 収集・保管のための調査研究 博物館の事業を実施するにあたって、日々の研究は欠かせない。19年度は、有形文化財の研究として、京都国立博物館を中心に実施した日中韓の金属工芸品についての国際共同研究、奈良国立博物館における我が国における仏教美術の中国・韓国の影響について、学術協定をもとに国際交流を図りながらの調査・研究など、調査・研究の範囲に収まらない事業を展開している。 東京国立博物館 ・特別展調査法隆寺献納宝物（第29次）「聖徳太子絵伝」第3回 ・特別調査「書跡」第4回（17年度写経1回、18年度写経2回実施） ・特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神図屏風を中心に ・応挙館障壁画の復元に関する調査研究 ・館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究 ・館蔵博物図譜の調査研究（研究成果公開促進費補助金） ・日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金） ・江戸幕府旧蔵資料の総合的研究（科学研究費補助金） ・日本古代手工業史における埴輪生産構造の変遷と技術移転からみた古墳時代政治史の研究（科学研究費補助金）	

			・東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	
			・ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究	
			・文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築（科学研究費補助金）	
			・環境保存に関する研究	
			・耐震性の高い展示手法に関する研究	
			・大型油彩画のロール状保存と木枠に張り込まない展示手法の開発に関する調査研究	
			・国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究―館史資料の分析を中心に―（科学研究費補助金）	
			・東京国立博物館所蔵写真資料の調査研究（研究成果公開促進費補助金）	
			・東京国立博物館所蔵古地図の調査研究（研究成果公開促進費補助金）	
			・特別展の事前調査	
		京都国立博物館		
			・近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究	
			・平安仏教とその造形に関する調査研究	
			・江戸時代京焼の技術基盤に関する研究（科学研究費補助金）	
			・仏教における衣服の寄進と再利用に関する基礎的研究―袈裟、打敷、幡―（科学研究費補助金）	
			・日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金）	
			・建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍書類の調査研究（科学研究費補助金）	
			・修復文化財に関する資料収集及び調査研究	
			・永徳に関する調査研究（客員研究員）	
			・近世絵画に関する調査研究（客員研究員）	
			・文化財情報に関する調査研究（客員研究員）	
			・訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）	
			・彫刻に関する調査研究（客員研究員）	
			・建仁寺本坊所蔵典籍の調査・研究	
			・古写経の書誌学的研究	
			・日本の漆芸品にかかる調査研究	
			・中・近世の金属工芸品の制作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化意識、交流媒体の研究（トヨタ財団研究助成）	
			・古代中世山林寺院の調査・研究	

				・仏教工芸の調査・研究	
				・特別展の事前調査	
				・宸翰（天皇の書）の歴史学的見地から見た調査・研究	
				・特別展覧会開催に向けての在日ヨーロッパ陶磁の調査研究	
				・敦煌写本の保存と修理	
			奈良国立博物館		
				・南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施	
				・大和古代寺院出土遺物の研究を帝塚山大学考古学研究所との共同研究として実施	
				・仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究）	
				・仏教美術写真収集及びその調査研究	
				・我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	
				・当館所蔵品についての調査研究（客員研究員）	
				・統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金） ・古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程 （科学研究費補助金）	
				・特別展の事前調査	
			九州国立博物館		
				・日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	
				・文化財の材質・構造等に関する共同研究（客員研究員）	
				・博物館における文化財保存修復に関する研究（客員研究員）	
				・彩色水浸文物の保存科学的研究―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存― （科学研究費補助金）	
				・弥生時代後期～古墳時代の墳墓大量出土ベンガラについての基礎的研究 （科学研究費補助金）	
				・室町時代の中国文物の受容に関する調査研究（科学研究費補助金）	
				・日本近世宗門改制度に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	
				・VR画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金）	
				・博物館危機管理としての市民共同型IPMシステム構築に向けての基礎研究 （科学研究費補助金）	
				・博物館におけるX線CTスキャンデータの活用（科学研究費補助金）	
				・古代東南アジアにおける三尊像図像の研究―タイ・ミャンマーの図像を中心に― （科学研究費補助金）	
				・超高精細大容量画像の安全・ダイナミック表示総合システムの開発 （科学技術振興機構）	

		・近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金） ・特別展の事前調査	
		② 公衆への観覧を図るための研究 展示や教育普及等、文化財に関する基礎的な研究だけでなく、博物館から一般へのアウトプットについても調査・研究している。特に、東京国立博物館における環境デザインの研究は平常展「仏像の道」に反映され、奈良国立博物館における南都諸社寺の調査は特別展「神仏習合」等に反映されている。また、九州国立博物館ではユニバーサル・ミュージアム・プロジェクトを立ち上げ、観覧環境の改善について調査・研究を行っている。 東京国立博物館 ・博物館環境デザインに関する調査研究 ・博物館美術教育に関する調査研究 ・博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金） 京都国立博物館 ・妙心寺本坊、塔頭（麟祥院及び衡梅院）に所蔵されている文化財の調査研究 ・輸出漆器に関する調査研究 ・本満寺境内蓮乗院廟の発掘調査に伴う出土品の整理 奈良国立博物館 ・平安仏教とその造形に関する調査研究成果の「院政期の絵画」展への反映 ・南都諸社寺に関する計画的な調査研究成果の「神仏習合」展並びに特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」への反映 ・我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の平常展への反映 ・仏教美術の光学的調査研究成果の親と子のギャラリー「仏さまの彩り」への反映 九州国立博物館 ・高齢者・障害者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改善方策についての調査研究	

自己評価

博物館の調査研究は、展覧会の事前調査や収蔵品の調査研究など日常業務に密着したものが多く、論文や学会発表だけでなく、展覧会等でその成果を反映させるところに大きな特徴がある。

19年度における研究成果の展示への反映については、東京国立博物館において、継続的な法隆寺献納宝物の調査を凸版印刷と協同でミュージアムシアターとして公開したのをはじめとして、日頃の研究の成果が「狩野永徳」展（京博）や「美麗　院政期の絵画」展（奈良博）などの特別展等の事業に結びついている。このように、博物館において日常的な調査・研究活動は欠かせないので、今後も積極的に活動を行っていきたい。

主な実績

		学術雑誌等への論文掲載数	学会、研究会等での発表件数
⑴	文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進	70件	34件
⑵	文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進	17件	15件
⑶	科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進	37件	27件
⑷	国・地方公共団体の要請に応じた文化財の保存措置等のための調査・研究の実施	3件	—
⑸	有形文化財に係る調査研究	78件	62件
⑹	文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究	2件	6件

3．調査研究の成果の状況

○調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。

【学術雑誌等への掲載論文数】

A	B	C	実績	定量的評価
100件以上	100件未満70件以上	70件未満	207件	A

【学会、研究会等での発表件数】

A	B	C	実績	定量的評価
80件以上	80件未満56件以上	56件未満	144件	A

自己評価

展示、シンポジウム、研修等一般への研究成果の還元については、別項にゆずるが、論文や学会での発表を通して、専門家や研究者への研究成果の還元については、19年度も着実に成果をあげていると考える。定量的観点からも論文の発表件数、学会等での発表件数とも順調に成果を上げていると言える。

評定A

コメント

学術雑誌への寄稿と学会・研究会発表など、貢献度は著しい。調査研究した成果を発表していることは評価できる。

5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

評　定
S

評価のポイント

東アジアにおいて先進的でタイムリーな国際協力を、研究者相互の信頼関係を築きながら行っている。研究者自身もこうした信頼関係が文化財の保存・修復の国際協力に欠かせないことを十分認識し、確実に実施していることは高く評価できる。

自然界の中での遺跡、遺物の保存修復は困難なものであるが、遺物そのものの劣化状態などを定量化する方法などを研究し、世界的に重要な遺跡等に応用されたことは評価できる。今後のその効果がどうなるのか期待したい。

文化財修復の国際協力について「援助する当事国の国民による修復の実施」という基本理念を掲げ、技術移転を継続して実施していることは、世界の中で日本が、ひいては本機構が最も積極的に行っていることと思われ、文化財修復に関する国際協力において最も重要なことである。将来に向けてより一層、当事国からの評価を得るものと期待する。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
文化財の保存・修復に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 ⑴　文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワーク	1．国際協力に関する研究基盤の整備 ○情報の収集・分析及びその提供を行うこと。 ○国際協力のネットワークを構築すること。	主な実績 ・敦煌壁画・龍門石窟・唐代陵墓（中国） 11月19日から12月16日の日程で、龍門石窟研究院保護センターの研究員2名を招へいし、石質文化財の修理技術、撥水材料を塗布した後の効果の評価方法、修理作業終了後の環境のモニタリングなどについて、研修を実施した。10月11日から13日の日程で西安文物保護修復センターと共同で「石造文化財の保存処理技術に関する研究会―石造文化財の保存修復と展示方法/保存処置に際しての接合部分及び表面の化粧方法」をテーマとし、日中専門家による研究会を開催した。 年間を通じて3回のミッションを派遣し、敦煌研究院と共同で、莫高窟第285窟壁画に対する光学調査、肉眼観察による壁画の保存状態の調査、第285窟壁画に使用されている色料についてのデジタル顕微鏡・携帯型蛍光X線分析装置・携帯型ラマン分光計を用いた非接触分析調査、第285窟を含む主要研究対象窟での14C年代測定及び分析研究のための試料採取を行った。日中若手研究者の相互派遣研修を行った。敦煌莫高窟におけるGIS活用に関する研究を行った。2007年に成果報告書を編集、発行した。 ・タ・ネイ遺跡・西トップ寺院（カンボジア） ・プランバナン遺跡（インドネシア） ・アユタヤ遺跡、スコータイ遺跡（タイ） ・タンロン遺跡（ベトナム）	評定S コメント 文化財の保存・修復の国際協力とは、国家間や機関間の公式な協力体制のほかに、研究者同士の個人レベルの信頼関係が欠かせない。このことを十分認識し確実に実践している。 受託事業を含めて、アジア諸国、及び、ドイツ、北米などとも積極的な交流をはかり、日本のレピュテーション（評価・評判）を高めている点は高く評価できる。 自然の中での遺跡、遺物の保存修復は最も困難なものであるが、こうした中で、文化財表面の凹凸程度を定量化、石材の硬さを定量化する方法、さらに合

を構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。 （２）諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。 　また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。		文化財表面の凹凸程度を定量化できるシステムと、石材の硬さを定量化する方法、さらに合成樹脂による撥水処理効果を定量化する方法を確立した。こうした基礎研究を受けて、カンボジアのタ・ネイ遺跡において、砂岩の表面に蘚苔類が繁茂した部分がそうでない部分に比べて表面硬度が低下していることを明らかにした。また、タイ・スコータイ遺跡において、生物劣化防止のための撥水処理効果に関する現地実験を開始した。 　西トップ寺院では引き続き西トップ寺院での諸調査を行った。今年度からはテラス部の調査を終え、中央塔の周囲に調査区を設定し、基礎地業のあり方を明らかにすることを目指した。8月には中央塔の西側にトレンチを設定し、12月には同じく中央塔の東北部にトレンチを設定した。その結果、掘り込み地業の存在は確かめられなかったが、2層の整地層を確認することができ、12世紀頃に第一の整備が、14世紀頃に第二の整備が行われたと考えることができた。1月には建築班の調査が行われ、現状の図面作成を前提とした調査が行われた。こうした成果については6月と12月の国際調整委員会で発表するとともに、いくつかの国内の研究会で発表を行った。 ・バーミヤン遺跡（アフガニスタン） ・アジナ・テパ遺跡（タジキスタン） 　西アジア諸国の文化財の保護・保存・修復に関する協力・支援事業の一環として、とくに内戦・紛争によって破壊の危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化財の調査研究を行い、破壊された文化財の保存・修復事業を通して、関連する分野の技術移転を図るとともに、人材育成を行い、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指した。また、あわせて周辺地域（特に中央アジア）の文化財の調査研究を実施した。 ・学術交流、共同研究（ドイツ、北米、韓国、中国、台湾、ベトナム、中央アジア） ・文化財施策の国際的研究 　文化財保存施策の国際的研究について、以下の事業を実施した。 １．文化財保存施策に関する情報の収集分析：北欧の文化財保存施策についての調査を実施し、情報を収集し、分析した。 ２．国際ワークショップの開催：アジア各国の専門家を招へいしてアジアの文化財について考えるラウンドテーブル形式の国際会議を1回、国内外の専門家を講師とする一般公開の国内専門家向け研究集会を1回、計2回開催した。 ・文化遺産国際協力コンソーシアム ・アジア諸国の専門家ネットワーク 東京文化財研究所 陝西省唐代陵墓石彫像保護修理事業（受託） 龍門石窟保護修復プロジェクト（受託） ユネスコ／バーミヤーン遺跡保存事業（受託）※奈文研と共同 タジキスタン共和国アジナ・テパ仏教寺院の保存修復事業（受託） 中国及び中央アジア各国におけるシルクロード広域の世界遺産登録推進運動の実態調査及び登録文化遺産または登録の可能性のある文化遺産の現状調査（受託） ユネスコ／バーミヤーン遺跡保存に関する第6回専門家作業グループ国際会議の開催（受託）※奈文研と共同	成樹脂による撥水処理効果を定量化する方法を確立し、さらにそれらを国際的にも重要な遺跡で実施されたことを評価する。引き続き、その応用面からフィードバックされた効果の確認を期待する。 　また、国際協力の研究成果をワークショップで公開するなど、我が国で普及に努めていることも評価できる。 　奈文研『日韓文化財論集Ⅰ』の発行を評価したい。

<table>
<tr><td></td><td></td><td>自己評価
　文化財の保存・修復事業を通じた国際協力は、アジアを中心に19年度も順調に実施することができた。特にアフガニスタンやイラクなど破壊された文化財の修復事業においては、保存・修復事業を通して技術移転も進めるなど、自国民による文化財修復が行えるような体制を目指して支援をして成果を上げていると考えている。
　また、文化遺産国際協力コンソーシアムの運営に中心的な役割を果たし、情報の共有化、国際協力に向けた活動調査などを実施しており、今後の活動に向けたネットワークづくりができていると考える。</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>２．保存修復に関する技術移転の推進
○諸外国への技術移転を積極的に進めること。
○アジア諸国における専門的な人材の育成のための支援事業等を行うこと。</td><td>主な実績
・アフガニスタン、イラク等の専門家養成
　文化遺産の保存修復を実施するためには、経験豊かな修復専門家の関与が必要不可欠である。しかし紛争や治安の不安定な状態が長期間続いた国々では、文化遺産を保存・修復する人材が決定的に不足しており、その養成が緊急的課題になっている。そのため諸外国における専門家の研修を実施する際の教材として使用することを目的にし、「水浸木材」をテーマにしたDVD映像と、過去の保存・修復や研究事例の極端に少ない「樺皮仏典文書」をテーマにしたテキスト及びDVD映像を作成した。
・JICA, ACCU研修事業への協力
　2007年度は、ユネスコアジア文化センター（ACCU）が実施した三つの長期、短期研修について、当研究所が有する人材の知識、経験および設備などを有効に活用して、アジア・太平洋地域から来日した研修生に対して効果的な研修を実施した。
・ICCROM国際研修「漆」
・シルクロード文化財保護フェローシップ事業協力
<table><tr><td>東京文化財研究所</td><td><table><tr><td>文化遺産保護国際貢献事業　専門家派遣：ベトナム・タンロン皇城遺跡の保存に関する活動計画案協議のための専門家派遣（受託）※奈文研と共同</td></tr><tr><td>文化遺産保護国際貢献事業　専門家派遣：ベトナム・タンロン皇城遺跡の保存に関する専門家派遣と研修事業（受託）※奈文研と共同</td></tr><tr><td>文化遺産国際協力コンソーシアム事業（受託）</td></tr><tr><td>文化遺産国際協力拠点交流事業　インドネシア・プランバナン遺跡群復興およびインド・アジャンター石窟壁画の保存修復に関する人材養成・技術移転（受託）</td></tr><tr><td>日中韓共同によるシルクロード沿線の文化財保護修復技術人員の育成プログラム（受託）</td></tr><tr><td>ユネスコ／日本信託基金　イラク博物館における修復研究室復興プロジェクト（受託）※奈文研と共同</td></tr></table></td></tr></table>
自己評価
　ユネスコアジア文化センター（ACCU）への協力等を通して、アジア各国への技術移転を進めている。今後も長期的な視野に立った専門家の養成を継続的に実施していきたい。</td><td>評定Ｓ
コメント
　絶えず劣化する文化財の保存修復に関して、日本が持つ技術を移転するとともに専門的な人材を育てることは大変重要である。アジア諸国への継続的な技術移転、人材育成は日本のアジアにおける評価を高める活動であり、地球規模で考えても文化的意義が高い。受託研究のバランスも良い。
　特に以前から本機構、あるいは日本の文化財修復の姿勢として、国際協力の基本として“援助する当事国の国民による修復の実施”に向けての技術移転を掲げられているが、それが継続して実施されていることに敬意を表したい。国際協力における最も大事なことであり、世界の中で日本が最も積極的に行っているものと考えられ、将来に向けてより一層、当事国からの評価を得るものと期待する。</td></tr>
</table>

6　情報発信機能の強化

評　定
A

評価のポイント

高松塚古墳壁画の一件の影響もありホームページのアクセス件数、飛鳥資料館の入館者数は驚異的な増加であった。東京国立博物館に移管された黒田記念館のより一層の公開体制の拡大を期待する。

東京文化財研究所企画情報部が専門的アーカイブの拡充事業で実施している35種の更新中のデータベースなどは、我が国はもとより日本語を解する外国人研究家にとっても極めて有用なものであり、美術史学の発展に大いに貢献しており高く評価できる。

収蔵品のデジタル画像化は急務である。文化財機構全体の「作品悉皆目録」の公開を望む。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。 ⑴　文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。 また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。	1．情報基盤の整備充実 ○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。 ○文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。	主な実績 ・ファイヤーウォールの更新、スパム対策システムサーバの導入などネットワーク環境の整備を実施 ・専門的アーカイブの拡充 ・文化財関係資料の充実と文化財情報の電子化によるデータベースの充実 ・定期刊行物、ホームページの運用と広報誌 自己評価 ホームページのアクセス件数に関しては、18年度と比しても順調に延びており、調査・研究の成果に関する情報を積極的に国民に還元していると言える。同様にネットワーク環境の整備やアーカイブの整備を通して、研究成果の利用を促進している。また、刊行物についても例年通り発行しており、順調に研究成果の情報を公開することができたと考える。	評定A コメント ネットワークの重要性がしっかりと定着し、良き手本となっている。 引き続きデータベースの充実とその活用、多言語化を進めてほしい。

<table>
<tr>
<td>⑵　文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成17年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。</td>
<td>２．調査研究成果の公開・提供
○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行うこと。
○HPの充実を図り、HPアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保すること。</td>
<td>主な実績
・研究報告書、日本美術年鑑、美術研究、無形文化遺産研究報告、保存科学（47号）、年報等の刊行
・第31回文化財の保存・修復に関する国際研究集会の開催
・オープンレクチャーの開催
・発掘調査の現地説明会の開催と公開講演会の実施
・第31回文化財の保存・修復に関する国際研究集会の開催

【研究所 HPアクセス件数（前期中期計画期間年度平均件数1,122,695件）】
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>1,122,695件以上</td><td>1,122,695件未満
785,886件以上</td><td>785,886万件未満</td><td>2,449,875件</td><td>A</td></tr>
</table>
自己評価
19年度も研究報告書や年報等定期刊行物を通して、研究成果の公表を行っている。また、文化財の保存・修復に関する国際研究集会を通して、文化財の保存・修復の国際的な問題や取組みなどを検討する機会を設けるなど、研究成果を積極的に公表している。また、ホームページのアクセス件数も目標を達成し、オープンレクチャーや現地説明会などを通した一般への研究成果の公表にも力を入れており、今後も積極的に公表の機会を設けていきたい。</td>
<td>評定A
コメント
高松塚古墳壁画の件でマスコミを賑わせたためかホームページのアクセス数は驚異的である。
ユネスコの無形文化遺産保護条約の取組に、「先進国日本」の立場から積極的に貢献し、文化庁との協力体制を強化してほしい。</td>
</tr>
<tr>
<td>⑶　黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。

⑷　文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する</td>
<td>３．公開施設の運用
○黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示の充実を図ること。
○入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上を確保すること。
○文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動支援を行うこと。
○奈良県の「平城遷都1300年記念事業」にあわせ、平城京についてのこれまでの調査・研究成果を生かした展</td>
<td>主な実績
・黒田記念館・平城宮跡資料館・藤原宮跡資料室・飛鳥資料館の展示公開
・平城宮跡における解説ボランティア事業の運営と支援
・飛鳥資料館において、春期特別展示「キトラ古墳壁画四神玄武」等を開催
・朱雀門の解説ボランティアをしたいと申し出のあった地元NPO法人へ活動機会を提供
・平城宮跡における発掘調査を速報展「平城宮東方官衙の調査」（平城宮跡資料館）等で公開

【研究公開施設入場者数】
黒田記念館入館者数　（前期中期計画期間年度平均入場者数10,531人）
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>10,531人以上</td><td>10,531人未満
7,371人以上</td><td>7,371人未満</td><td>13,707人</td><td>A</td></tr>
</table></td>
<td>評定A
コメント
高松塚古墳、キトラ古墳など、人口に膾炙する状況がピークに達したということもあると思うが、藤原宮跡・飛鳥資料館の動員数の増加を評価する。
黒田記念館の一層の公開体制拡大を含めた公開施設の活用やボランティアへの活動支援を一層進めてほしい。</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。

⑸ 奈良県の「平城遷都1300年記念事業」にあわせ、平城京についてのこれまでの調査・研究成果を生かした展示・公開事業を行う。</td>
<td>示・公開事業を行うこと。</td>
<td>
平城宮跡資料館入場者数　（前期中期計画期間年度平均入場者数72,430人）
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>72,430人以上</td><td>72,430人未満
50,701人以上</td><td>50,701人未満</td><td>85,486人</td><td>A</td></tr>
</table>
藤原宮跡資料室入館者数　（前期中期計画期間年度平均入場者数4,486人）
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>4,486人以上</td><td>4,486人未満
3,140人以上</td><td>3,140人未満</td><td>6,885人</td><td>A</td></tr>
</table>
飛鳥資料館入館者数　（前期中期計画期間年度平均入場者数55,274人）
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>55,274人以上</td><td>55,274人未満
38,691人以上</td><td>38,691人未満</td><td>100,825人</td><td>A</td></tr>
</table>
自己評価
19年度も18年度に引き続き、施設の公開を通して、文化財研究所の研究成果を公開した。黒田記念館では、巡回展を行うとともに、東京国立博物館において所蔵作品の展示をするなど公開の機会拡大に努めている。また、飛鳥資料館ではキトラ古墳関連資料の展示公開を通じて、発掘の成果を公開している。いずれの施設においても目標値を上回っており、当初の目標は達成していると言える。今後も引き続き研究の成果を発信することにより、文化財研究所の事業内容を積極的に公開していきたい。
文化庁事業への協力としては、飛鳥資料館において「キトラ古墳壁画四神玄武」を開催するなど、積極的に協力している。また、ボランティアへの協力については、各種解説ボランティアを対象とした学習会を開催するほか、朱雀門の解説ボランティアの申し出に対して活動機会を与えるなど積極的に協力しており、評価できる。
平城京についての調査結果の公表については、平城宮跡資料館において、「平城宮東方官衙の調査」を展示するなど積極的に行っており評価できる。
</td>
<td></td>
</tr>
</table>

⑹ 文化財情報・研究成果などを広く公表すること等を通じて歴史・伝統文化に対する理解が深まるよう努める。

①ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内外に情報を発信する。ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。

②－１収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。

②－２美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。

４．情報発信機能の強化

○ウェブサイトのアクセスの年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ること。

○収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること。

○情報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。

主な実績

インターネットを利用した情報の発信

・モバイル版文化財情報データベースの拡充（京博）
・重要文化財高精細画像公開システム「KNM　Gallery」の整備と公開に向けた準備（図6-3、京博）
・ウェブサイトへの研究紀要の掲示（奈良博）
・特別展における「ブログるぽ」（館のWEB上でブログとリンクさせる仕組み）の設定（九博）

【博物館 ウェブサイトのアクセス年間平均件数（前中期目標期間の年間平均実績）】

東京国立博物館（1,928,966件）

A	B	C	実績	定量的評価
1,928,966件以上	1,350,276件以上 1,928,966件未満	1,350,276件未満	5,504,468件	A

京都国立博物館（521,965件）

A	B	C	実績	定量的評価
521,965件以上	365,376件以上 521,965件未満	365,376件未満	733,885件	A

奈良国立博物館（670,948件以上）

A	B	C	実績	定量的評価
670,948件以上	469,664件以上 670,948件未満	469,664件未満	1,402,834件	A

九州国立博物館(783,487件)

A	B	C	実績	定量的評価
783,487件以上	548,441件以上 783,487件未満	548,441件未満	5,943,616件	A

デジタル化の推進、レファレンスの充実

・継続的な文化財情報のデータベース化の推進
・OPACでの公開及び美術図書館横断検索（ALC）への参加による資料館所蔵の図書検索の利便性向上（東博）
・「あじっぱ」内の「あじ庵」や「たなだ」で活用する映像を撮影（九博）

評定A

コメント

データベースの拡充は多くの人に利用されていくと期待できる。また、九州国立博物館が行っている「双方向」システムの導入が今後は機構全体の課題になると思われる。

アクセス数は驚異的でさえある。むしろ目標数の設定を再検討しても良いのではないか。

収蔵品のデジタル画像化は急務である。文字情報のみでも検索機能を伴った機構全体の「作品悉皆目録」の公開を望む。

【収蔵品等に関する画像のデジタル化件数(前中期目標期間の年間平均実績／18年度実績)】
東京国立博物館（18,829件／4,472件）

A	B	C	実績	定量的評価
18,829件以上	13,180件以上 18,829件未満	13,180件未満	124,996件	A

京都国立博物館（4,359件／6,169件）

A	B	C	実績	定量的評価
4,359件以上	3,051件以上 4,359件未満	3,051件未満	8,047件	A

奈良国立博物館（8,471件以上／3,830件）

A	B	C	実績	定量的評価
8,471件以上	5,930件以上 8,471件未満	5,930件未満	4,584件	C

九州国立博物館(1,890件／1,986件)

A	B	C	実績	定量的評価
1,890件以上	1,323件以上 1,890件未満	1,323件未満	3,295件	A

自己評価
WEBサイトのアクセス件数については、4館とも目標を大幅に上回る件数を達成し、18年度と比較しても大幅に増加している。19年度は各館において写真・データをさらに整備し、文化財情報データベース（京博）などを通して、利用者が文化財に気軽に触れられるようなシステムを新たに構築するとともに、情報の発信についても「ブログるぽ」（九博）のように双方向で情報のやりとりが可能となるような新たな取組みが行われている。デジタル化については、18年度は予算の都合もあり、実施件数が中期計画期間中に達成すべき目標を下回る館が多かったが、19年度は文化財情報のデジタル化を推進し、奈良国立博物館を除き、目標を達成することができた。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

評　定
A

評価のポイント

地方公共団体からの多種多様な要請に対し、4博物館・2研究所ともに現地出張を含み着実に指導助言を行っていることは評価できる。地方公共団体の財政難や担当者の配置転換などの課題がある中で専門性を持った文化財機構からの助言は大いに役立つものであるため今後も継続して実施することを期待する。

単なる資格取得を目的とする「大学・学芸員実習」ではなく、保存活動に絞った専門的な実習受け入れや大学院生に対する授業を行っていることが高く評価できる。

組織統合により国立博物館の収蔵品の保存修復を発注する際のノウハウについても例示するなど、ナショナルセンターとしての役割のレベルアップを期待する。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
我が国の文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。 ⑴　地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。	1．地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制の構築 ○文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行うこと。	主な実績 協力・助言の積極的な実施 ・文化財公開施設の調査・支援 ・無形文化遺産の保存・伝承・活用等 ・文化財の修復・整備 ・文化財の発掘調査・史跡整備等の助言 研修実施 ・博物館・美術館の保存担当学芸員研修 ・文化財担当者を対象とした埋蔵文化財担当者研修 自己評価 文化財研究所は文化財に関する研究や保存・修復、発掘調査等のナショナルセンター機能を有している。19年度も地方公共団体等へ文化財の調査に関する援助・助言を534件実施し、地域における文化財行政に協力することにより我が国の文化財の保護に努めている。	評定A コメント 文化財調査に関する援助、助言の件数534件が、多いか少ないかは判断のつきにくいところだが、地方公共団体の予算の縮小と担当者の配置転換等の問題がある中で、専門性を持ったアドバイスを行う機関としての文化財研究所による助言は大いに役立つものであり、十分に機能を果たしていると言える。 博物館で収蔵品の保存修復を発注する際の基本理念、設計仕様などの例を地方公共団体、外郭団体等に例示し、地方における文化財の保存修復の適正化、レベルアップを図って欲しい。その分野でナショナルセンターとしての役割を期待したい。

<table>
<tr>
<td>⑵　文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当学芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80％以上の満足度が得られるようにする。
　また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。</td>
<td>２．中核的文化財担当者の研修・若手研究者の育成
○埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに、中核となる文化財担当者に、各種の研修を実施するとともに、参加者等に対するアンケート調査で80パーセント以上の満足度が得られるようにすること。
○連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与すること。</td>
<td>主な実績
埋蔵文化財研修の実施
・一般課程1課程、専門課程12課程、計13課程の実施（155名参加）
保存担当者研修の実施
・1回32名の参加者を得て実施、その後「保存担当学芸員フォローアップ研修」を実施（62名参加）
大学院教育の推進（連携大学院）
・東京芸術大学：システム保存学（文化財保存学演習、保存環境計画論、修復材料学特論等）
・京都大学大学院人間・環境学研究科：共生文明学（文化財調査法論、環境考古学論等）
・奈良女子大学大学院人間文化研究科：比較文化学（日本考古学の諸問題、歴史考古学特論等）

【埋蔵文化財研修　満足度％】
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>80％以上</td><td>80％未満64％以上</td><td>64％未満</td><td>100％
（アンケート回収率100％）</td><td>A</td></tr>
</table>
【保存担当学芸員研修　満足度％】
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>80％以上</td><td>80％未満64％以上</td><td>64％未満</td><td>100％
（アンケート回収率90％）</td><td>A</td></tr>
</table>
自己評価
　地方公共団体の文化財担当者や博物館・美術館の保存担当学芸員、東京芸術大学、京都大学等の大学院の学生を対象に、文化財の調査研究や保護について研修を実施することにより、将来的な文化財保護行政を担う人材の育成を図ることができていると考える。</td>
<td>評定Ｓ
コメント
　中核的文化財担当者の研修や若手研究者の育成に果たす役割は大きいと考えられる。また、保存に絞った高度な実習生の受け入れが高く評価できる。
　特に、目的意識を強く持った参加者に対しそれに十分応えられる内容の研修を継続的に実施していることは、高回収率のアンケート結果でも示されており高く評価できる。</td>
</tr>
</table>

独立行政法人国立文化財機構の平成19年度に係る業務の実績に関する評価

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

評　定
A

評価のポイント

一般管理費及び陳列品購入の影響を除いた業務経費が削減されている。また、施設の有償貸出による収入が増加している。

随意契約見直し状況については、一般競争入札ができない収蔵品購入を考慮すると一定の成果は上がっている。収蔵品購入は文化財機構の中心となる業務であり減少することはできないため、契約全体としてみると成果が表れてこないことから、一般競争入札の促進が数値として判明できる統計処置を検討していく必要がある。また、文化財修理における一般競争入札への推進は、ナショナルセンターの役割として地方に契約の在り方を示すためにも検討を進めていくことを期待する。

コンプライアンス体制については従来から整備に務めているが、財務に関する内部統制に関して体制の整備・強化が必要である。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
1　職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上に考慮する。また、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、さらに、外部委託の推進等により、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き5年期間中一般管理費15％以上、業務経費5％以上の業務の効率化を図る。さらに、法人統合のメリットも最大限に生かしつ	1．業務の効率化 ○中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き5年期間中一般管理費15％以上、業務経費5％以上の業務の効率化を図ること。 ○省エネルギー5年期間中、1年に1.03％減少を図ること。 ○施設の有効利用の推進を図ること。 ○民間委託の推進を図ること。 ○競争入札の推進を図ること。	主な実績 ・各施設の業務の一元化による効率化 ・省エネルギー、リサイクルの推進 ■光熱水量（千円） 事項 / 18年度 / 19年度 / 差額 電気料 / 397,511 / 397,304 / △207 水道料 / 85,074 / 89,081 / 4,007 ガス料 / 108,538 / 114,008 / 5,470 計 / 591,123 / 600,393 / 9,270（1.6％増） ■一般廃棄物（kg） 18年度 / 19年度 / 増減率（％） 230,892 / 224,274 / △2.9％	評定A コメント 一般管理費及び陳列品購入の影響を除いた業務経費が削減されている。 新年度においても人事給与システムの本稼働に伴う各施設の業務の一元化による効率化に期待している。ただ、博物館の活動が活性化されればされる程、エネルギーは負荷されることとなる中で、現段階において5年間で一般管理費15％以上、業務経費5％以上の削減という中期目標・中期計画が実現されることが予想されるが、一方、5年期間中5％の削減をする為に1年に1.03％（5％÷5）減少を図るというやり方は、余りにも数式

つ業務の効率化に務め、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、19年度一般管理費（物件費）の10％相当を統合後5年間で削減を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

⑴　共通的な事務の一元化による業務の効率化
⑵　使用資源の減少
・省エネルギー（5年期間中1年に1.03％の減少）
・廃棄物減量化（一般廃棄物排出量を5年期間中5％減少）
・リサイクルの推進
⑶　施設有効使用の推進
・施設の利用推進
⑷　民間委託の推進
・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。
・館の警備・清掃業務について民間委託を推進する。
・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。
⑸　競争入札の推進
・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

○保有固定資産の活用状況について、減損会計の情報（保有目的、利用実績など）を考慮し、十分な推進を図ること。
○官民競争入札等の推進を図ること。

施設有効利用の推進

以下のように施設の有効利用を図っている。京都国立博物館の事務施設等については平常展示館建替工事の地上建物であり、事務所移転に伴い今後も使用予定がないため、減損を認識している。

■施設の有効利用件数（有償利用件数）

合計	東博	京博	奈良博	九博	東文研	奈文研
3,358件 （541件）	885件 （350件）	56件 （30件）	122件 （18件）	188件 （28件）	266件 （40件）	1,841件 （75件）

■固定資産の減損

場所	用途	資産種類	帳簿価格	減損額
京都国立博物館	事務庁舎及び講堂、旧事務棟	建物・附属設備	110,181,216円	102,226,598円
		構築物	135,224円	129,865円

上記以外の保有固定資産については、国立博物館においては、収蔵・展示等に有効に利用されており、平成19年度は東京177万人、京都49万人、奈良44万人、九州85万人の入館者があった。また、東京、奈良の文化財研究所においては、調査研究等の用途に有効に利用されている。

・官民競争入札等の推進

公共サービス改革基本方針（19年12月）に基づき、21年10月からの民間競争入札を実施に向け、プロジェクトチームを立ち上げ検討を開始した。

だけの便法とも判断される。削減項目、削減方法を洗い出し、実現できるものはどんどん進めていくというやり方が望ましい。

光熱水量（特に水道料及びガス料）の増加については、特別展の夜間開館延長やイベント増によるものである。新年度は原油を始めとした資源等の価格の高騰が予想されるので、対応策を講じる必要がある。一般廃棄物の減量化は順調に推進されている。

施設有効利用の推進については、有償貸出による収入が増加している。増加理由は、民間企業等への貸出とのことであるが、新年度においても有効利用の努力を引き続きお願いしたい。

京都国立博物館において減損を認識したが、それ以外の保有固定資産は博物館については入館者の利用実績、文化財研究所については調査研究の用途に有効に利用されているとの報告があるため固定資産の減損は不要である。新年度においても、この利用実績を踏まえた保有固定資産の活用を期待している。

民間委託の推進については、経費削減を図るだけではなく、今後はサービスや安全面等の向上に結びつくものでなくてはならない。官民競争入札等の推進に当たってもそれらの点を十分検討する必要がある。

一般競争入札の推進については、随意契約の件数及び金額が70％超と高い。しかし、一般競

2　外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。

3　機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。

4「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」（平成18年法律第47号）に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間において、△5％以上の人件費削減を行う。また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」（平成18年7月7日閣議決定）に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。ただし、今後の人事院勧告を踏まえた給与改定分については削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額とし、退職金、福利厚生費は含まない。その際、役職員の給与に関し、

・民間委託の推進

電気・機械等施設設備保守、清掃業務、警備業務、展示室監視、売札業務等の大部分については民間委託を実施している。また、複数の業務についての包括契約化、複数年契約、近隣の機関及び法人内同一地域での一括契約などにより、経費の効率化を図っている。

・一般競争入札の推進

■随意契約見直し状況

区　分		平成18年度契約実績			平成19年度契約実績			備考
		契約総数（A）	随意契約件数（B）	割　合（C＝B/A）	契約総数（D）	随意契約件数（E）	割　合（F＝E/D）	
合計	件数	584	511	87.5％	397	284	71.5％	
	金額	4,302,360千円	2,708,393千円	63.0％	4,632,926千円	3,291,491千円	71.0％	

※少額随意契約は除く。

※電気料等の年間契約は、月毎の支払件数も含まれる。

○18年度に法人規程の予定価格の基準の見直しにより、19年度から国の基準額と同一とした。また競争性のある契約方式導入に向けて随意契約の見直し計画を作成し、検討を進めてきている。その結果、18年度の競争契約件数73件に対して19年度競争契約件数は113件と18年度に比べ約55％の増加となっている。

なお、金額ベースでは随意契約の割合が増加しているが、収蔵品の購入費を除くと18年度の2,004,568千円に対して19年度1,559,878千円と減少している。

しかし、18年度に策定した見直し計画と比較すると、随意契約の割合が高くなっている。これは、陳列品修理及びそれらに附帯する契約について、慎重な検討を要することから、19年度は見直しの途上であり従前の取扱いによったこと、また、ハードウェア、ソフトウェア保守等の1者に特定される契約を新たに行ったことなどによるものである。

○競争入札等に移行した事例

・複写機賃貸借及び保守業務一式（奈良博）、
・特別展に係る広告業務の請負一式（京博）、
・平城宮東院地区空中写真測量業務（奈文研）、
・図書貸出等業務（九博）、
・保全業務（昇降機設備等）一式（京博）

■情報公開の実施状況

総務省「随意契約見直し計画」に従い、平成19年4月1日以降の随意契約情報を、また、「独立行政法人整理合理化計画」（平成19年12月24日閣議決定）に従い、平成20年1月1日以降の契約に関する情報を当機構WEBサイトにて公開している。

争入札ができない収蔵品購入を考慮すると一定の成果は上がっていると考えられるが、一般競争入札の促進が数値として判明するような統計処置が必要だと考える。随意契約はコスト・パフォーマンス優先で残すべきものはそのまま継続した方がよいと考える。

一方、「随意契約の見直し計画」により随意契約から一般競争入札という流れがある。文化財を扱うだけに一般的な物品の購入や業務委託とは確かに異なるものであるが、地方においても一般競争入札の徹底が叫ばれ、文化財の修理などで実施されている例が増加している。保存修復の世界では、必ずしもそのための設計書や基準、仕様が十分な状況ではないところで、一般競争入札がなされている例が見受けられる。このような中にあって、文化財機構もその検討時期であるが、研究部門、保存修復部門のみならず、事務部門においても、ナショナルセンターの役割として、契約の在り方を地方に示し、指導する立場を取っていただきたいと考える。

<table>
<tr>
<td>国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。</td>
<td></td>
<td>
【一般管理費効率化率（対前年比）】
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>3.20％以上</td><td>2.24％以上
3.20％未満</td><td>2.24％未満</td><td>7.49％減</td><td>A</td></tr>
</table>
・非常勤職員の数を見直したことなどにより、前年度比7.49％減となった。

【業務経費効率化率（対前年比）】
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>1.03％以上</td><td>0.72％以上
1.03％未満</td><td>0.72％未満</td><td>7.74％増
（陳列品購入費を除いた場合6.06％減）</td><td>C
（A）</td></tr>
</table>
・特別展、自主企画展等の入場者増の対応として非常勤職員を採用したこと、陳列品の購入を18年度運営費交付金債務の繰り越し分も含めて実施し、18年度と比較して大幅に増加したことにより前年度比7.74％増となった。しかし、陳列品の購入費を除いたベースで、対前年度比6.06％の減となる。

【省エネルギー（対前年比）】
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>1.03％以上</td><td>0.72％以上
1.03％未満</td><td>0.72％未満</td><td>1.6％増</td><td>C</td></tr>
</table>
【法人統合による一般管理費の減額（対前年比）】
平成19年度一般管理費
<table>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>実績</th><th>定量的評価</th></tr>
<tr><td>2.09％以上</td><td>1.89％以上
2.09％未満</td><td>1.89％未満</td><td>4.96％減</td><td>A</td></tr>
</table>
・統合により新たに加えられた目標であるが、19年度は18年度に比して4.96％減少している。

自己評価
非常勤職員の数の見直しなどにより、管理経費は7.49％の減となった。反面、業務経費は7.74（6億円）の増となっているが、陳列品の購入費の増加分を除くと、6.06％（4億円）の減となっており、全体として効率化は達成できていると評価している。
一元化による業務の効率化に関しては、人事給与システムの導入に取組み、これまでは各施設が各自行っていた事務を統一的に行うことができるよう準備を進め、20年4月から
</td>
<td></td>
</tr>
</table>

		本稼働にこぎつけた。 省エネルギー、リサイクルの推進に関しては、光熱水量の節減に努めたが、展示スペースの増加分もあり、全体としては増加し、目標を達成できなかった。 一般廃棄物排出量に関しては、2.9％減となり、目標である1.03％減を達成することができた。 施設の有効利用に関しては、民間企業等への貸出を行い、541件の有償貸出を実施し、5,500万円の収入を得た。これは18年度の3,900万円と比較しても約1,600万円増加している。自己収入の大きな柱になりつつあり、今後も積極的に行っていきたい。 民間委託の推進に関しては、21年度に東京国立博物館等の施設管理・運営業務（展示事業の企画等を除く。）について民間競争入札（市場化テスト）が導入されることもあり、今後も継続して業務の効率化を図っていく必要がある。 一般競争入札に関しては、随意契約を見直した結果、18年度の73件から19年度は113件へと件数を増加させることができた。また、包括契約、共同購入、複数年度契約なども併せて実施し、効率化に努めている。	
	２．外部評価等の実施 ○事務事業改善のための外部評価及び職員の研修を実施すること。 ○コンプライアンス体制（倫理行動規程の策定、第三者を入れた倫理委員会等の設置、監事による内部統制についての評価の実施）を整備すること。	主な実績 事業評価 ・実績報告書作成時の自己点検評価の実施（年1回） ・外部評価委員会の開催及び外部評価報告の実施 平成18年度の外部評価報告で、専門分野ごとの組織のない機能別に再編成された組織での学芸部門における専門性の継承について指摘があったことを踏まえ、平成19年度に委員会を立ち上げ、平成20年4月に組織を改編した。 ・監事による業務・会計監査の実施（年1回） ・文部科学省独立行政法人評価委員会国立文化財機構部会による評価 ・総務省独立行政法人評価委員会による評価 ・博物館における評価を「実績報告」から「自己点検評価」へ改め、「評価」システムを明確化 ・監事による定期監事監査（1回）及び各施設の実地監査（各施設1回）を実施した。 ・接遇研修会、普通救命講習会、AED操作講習会等の研修を実施 職員の意識改革 ・18年度に実施した業務改善プロジェクトの結果を踏まえ、20年4月に組織改革を実施（東博） コンプライアンス体制の維持 ・競争的資金による公的研究費の管理体制（不正防止計画管理部署の設置、監査体制の整備、検収窓口の設置等）について規則を整備 ・研究員の行動規範について規則を整備 ・情報システム管理規程を制定し、情報セキュリティ体制整備の準備を行った。 ・随意契約見直し計画の制定、実施及び随意契約情報、競争契約情報の公開 内部統制の整備 従来より、研究職員の採用については公募により、委員会方式で選考し、収蔵品購入については外部委員による委員会の意見を聞いて、購入の是非、価格を決定するな	評定B コメント 法人統合に伴い評価システムを明確化することにより、外部評価の結果を反映して、学芸部門の組織改編を行う等、事務事業改善のための態勢を整備したことは評価できる。 東博において、独立行政法人化の際に、抜本的な組織改革が実施され、従来とは異なった成果と課題が生まれたことと思うが、今回、その上に立って組織改正に踏み切ったことは評価できる。このような態勢の中でさらに質的、効率的な組織を模索し、職員の意識改革の状況を把握した上で、他の施設に適用が可能か検討することが望まれる。 コンプライアンス体制及び内部統制については、従来から整備に努めていたと考えられる。19年度においてもパワーハラスメント全般に関する規則を整備する等、その充実を図っている

<table>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>ど、体制を整備し、適正な執行に努めているところであるが、パワハラに関する規則等が未整備であったので、ハラスメント全般に関する規則として19年度に制定した。

自己評価
19年度は統合の初年度であるが、博物館と研究所でそれぞれ別個に行ってきた評価の統一を図り、「自己点検評価」を明確に位置づけ、評価システムを明確化することができた。
職員の意識改革については、東京国立博物館において18年度に実施した業務改善プロジェクトチームからの提言を受けて、館内で検討を行い、20年4月より組織を改組した。このような取組みは職員の運営の向上だけでなく、職員の意識改革にも有効であると考える。
コンプライアンス体制の整備に関しては、19年度は国の指針等による必要最低限の整備は果たすことができた。今後は、整備された体制によるフォローアップを継続的に実施し、コンプライアンス体制の維持に努めていく必要がある。</td>
<td>が、実行プランが全般的に不完全である。また統合作業に追われ年度計画予算の移し替え作業を行わなかったことについては財務に関する内部統制を徹底すべきである。
具体的には、予算策定作業、予算統制に不備があったことや、問題が発見された際に上司に報告する体制の徹底がなされていないと考えられる。さらに、統合業務や日々の照会への対応に追われ上記の点が十分に対応できないということであれば、財務組織が脆弱（人が足りない）という問題点も考えられる。今後、その点について真摯に反省し体制の整備・強化を図っていただきたい。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>３．情報の安全向上
○機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとること。</td>
<td>主な実績
・情報システム管理規程を制定し、情報セキュリティ体制整備の準備を行った。

自己評価
情報セキュリティの整備は18年度からの懸案であったが、管理規程を制定し、20年度以降に具体的にセキュリティの強化を図っていくことが可能となった。
今後のセキュリティ強化内容
・情報格付け基準、インシデント対応手順などの具体の要項を作成していく予定</td>
<td>評定A
コメント
情報システム管理規程を制定したことは評価できるが、今後のセキュリティ強化実施について早急に整備していくことを期待する。</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>４．人件費の削減、給与体系の見直し
○平成18年度からの5年間において△5%以上の人件費削減を行う。
○また、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組むこと。</td>
<td>主な実績
・現業職職員の定年退職後不補充による人件費抑制
・人件費の統一的な管理を図るため、20年4月に開始する人事給与システムを統合させる作業を実施
【人件費削減率（対前年比）】
<table>
<tr><th></th><th>17年度
（A分類実績ベース）</th><th>18年度</th><th>19年度</th><th>22年度目標値
（17年度に比して△5.00%）</th></tr>
<tr><td>実績（千円）</td><td>2,878,750</td><td>2,789,361</td><td>2,773,689</td><td>2,734,812</td></tr>
<tr><td>前年度に対する削減率</td><td>－</td><td>△3.11%</td><td>△0.56%</td><td>－</td></tr>
<tr><td>17年度に対する削減率</td><td>－</td><td>△3.11%</td><td>△3.65%</td><td>－</td></tr>
</table>
</td>
<td>評定A
コメント
政府方針による人件費削減の達成については、創意工夫をお願いしたい。しかし、サービス及び調査研究体制の質を維持・向上させることも重要である。定年退職に伴う技術等の承継にも留意することが望まれる。質を落とさず、人件費を削減することが肝心でその点が心配される。ヒトは最も重要な経営資源であることから、人件費の枠いっぱいに使って目標を達成し</td>
</tr>
</table>

			ていただきたい。 　また、職員があまりに多忙で目標を持てないようであれば、機構のミッションを改めて確認し、かけがえのない素晴らしい職場であることを認識できるような何らかの体制づくりも必要と考える。 　研究者の育成やベテラン職員から若手への世代交代は、充実した日常生活があってこそ可能であると考えるため、インセンティブの低下を招くことのないようにしてほしい。 　なお、給与水準に関しては、対国家公務員指数で事務・技術職員、研究職員ともに国家公務員の水準を下回っている旨を国民に公表されている資料においても示しており、適切である。

A	B	C	実績	定量的評価
1.03%以上	0.72%以上 1.03%未満	0.72%未満	0.56%減	C

自己評価
　18年度から5年間で5%の人件費の削減が政府方針で決められている。19年度は対前年度比ではマイナス0.56%と一年あたりの削減率では、目標を下回っているが、17年度決算比では3.65%の削減となっており、中期計画の達成に対しては順調に進捗していると考えている。今後も退職者の不補充や民間委託の推進などにより継続的な業務の効率化を図り、人件費の抑制をしていく必要がある。

Ⅲ　財務・人事

評　定
A

評価のポイント

運営費交付金の削減が続く中で、展示事業等収入と受託収入の大幅な増額については高く評価できる。今後も積極的な外部資金の獲得を期待する。

任期付研究員制度の積極的な活用と人事交流の活性化を並行して進めていくことを期待する。人事交流については、特に管理部門を中心に民間との流動性を図るよう検討する必要がある。

中期計画	主な計画上の評価指標	主な実績及び自己評価	評価委員会による評価 評価基準　SABCF
管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。 また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、税制措置も活用した寄付金などの外部資金、施設使用料等の財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に努めることにより、計画的な収支計画による運営を図る。 1　予算（中期計画の予算） 別紙のとおり 2　収支計画 別紙のとおり 3　資金計画 別紙のとおり Ⅳ　短期借入金の限度額 短期借入金の限度額は16億円 短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。	1．予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画（中期計画Ⅲ） ○外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図ること。 ○適切な効率化を見込んだ予算による運営に努めること。 ○税制措置も活用した寄附金などの外部資金、施設利用等の財源多様化を図ること。 ○法人全体として積極的に自己収入の増加に努めること。 ○総利益を計上した場合には目的積立金を申請すること。	主な実績 （単位：千円） （収入）　予算額　決算額　差引増減額　備考 運営費交付金　9,042,360　9,042,360　0 施設整備費補助金　710,555　147,891　-562,664　次年度へ繰越 展示事業等収入　1,097,979　1,557,733　459,754 受託収入　26,000　526,783　500,783　当初見込外契約の増加 その他寄附金等　0　148,597　148,597 計　10,876,894　11,423,365　546,471 決算額の収入は予算額と比較して約6億835万円の増加であった（施設整備費補助金、受託収入を除く）。増加の主な理由は特別展における入場者数が目標値を超えたことによる。受託収入は予算額2,600千円に対して約5億783千円の増加となっている。予算額と決算額の差異が多額になっているのは、高松塚古墳・キトラ古墳関連の受託業務などを始めとして、当初の収入見込みになかった受託発掘調査、受託調査研究の契約があったためである。	評定A コメント 制度上、予算設定時に見込めない受託関係及び施設整備関係の乖離については、「主な実績及び自己評価」を見た限りでは特に問題点はないと判断する。 特別展における入場者数の増加が展示事業等収入の増加につながっている。これは役職員全員による営業努力と創意工夫を凝らした企画力によるものと考えられるので、今後も積極的な収入獲得を期待している。 統合作業に追われ年度計画予算の移し替え作業をしていないということについては真摯に反省し体制の整備・強化を図っていただきたい。 また、外部資金の獲得額は前年度を上回っており、積極的な導入に注力している。特に寄付金増には今後も継続できるようにしてほしい。

Ⅴ　重要な財産の処分等に関する計画
①　京都国立博物館新館の取り壊し予定。
②　奈良文化財研究所本館改築計画の実施に伴い取り壊し予定。

Ⅵ　剰余金の使途
決算において、剰余金が発生した時は、次の購入等に充てる。
1　文化財の購入・修理
2　調査・研究、出版事業の充実
3　展覧会の充実
4　入館者サービス、情報提供の質的向上
5　国際協力
6　老朽化対応のための施設設備の充実

Ⅶ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項
1　人事計画に関する計画
⑴　方針
①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。
②調査研究の機動的実施など研究を効率的かつ効果的に実施するため、任期付研究員制度を導入する。
③人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供に努める。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うた

（単位：千円）

（支出）	予算額	決算額	差引増減額	備考
運営事業費	10,140,339	10,341,230	−200,891	
管理経費	2,527,446	1,987,650	539,796	
人件費	773,238	796,378	−23,140	
一般管理費	1,754,208	1,191,272	562,936	
業務経費	7,612,893	8,353,581	−740,688	
人件費	2,786,864	2,686,915	99,949	
調査研究事業費	1,449,150	1,261,079	188,071	
情報公開事業費	160,362	165,814	−5,452	
研修事業費	22,500	21,628	872	
国際研究協力事業費	314,289	248,856	65,433	
展示出版事業費	163,368	118,693	44,675	
展覧事業費	2,591,298	3,780,269	−1,188,971	陳列品購入増加
教育普及事業費	125,062	70,326	54,736	
施設整備費	710,555	147,891	562,664	次年度へ繰越
受託事業費	26,000	486,175	−460,175	当初見込外契約の増加
計	10,876,894	10,975,297	−98,403	

決算額の支出は、予算額と比較して98,403千円の増となっている。大きく増減しているのは、一般管理費562,936千円の減少、施設整備費約562,664千円の減少、展覧事業費1,188,971千円の増加、受託事業費の460,175千円の増加である。これは施設整備費補助金の翌年度への繰越、展覧事業費は陳列品の購入を積極的に行ったこと、受託事業費は高松塚古墳・キトラ古墳関連の受託業務などを始めとして、当初の収入見込みになかった受託発掘調査、受託調査研究の契約が増えている事によるものである。一般管理費については、統合作業におわれ、年度計画予算の策定段階で一般管理費から展覧事業費へ移し換えるべき作業をしなかったことによる乖離が主な原因である。（移し換えた場合の一般管理費予算額は1,140,146千円）

外部資金の獲得状況
科学研究費補助金　283,970千円　（18年度　218,490千円）
研究助成金　39,395千円　（18年度　41,506千円）
寄附金　147,854千円　（18年度　50,186千円）
合計　471,219千円　（18年度　310,182千円）

<table>
<tr>
<td rowspan="2">め、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。

⑵　人員に係る指標
常勤職員については、その職員数の抑制を図る。
（参考１）
１）期初の常勤職員数
367人
２）期末の常勤職員の見込み
355人
（参考２）中期目標期間中の人件費総額見込額 14,343百万円
但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬（給与）、賞与、その他の手当の合計額であり、退職金、福利厚生費を含まない。
２　別紙のとおりの施設整備に関する計画に沿った整備を推進する。</td>
<td></td>
<td>○目的積立金の申請
当期総利益413,922千円のうち、中期計画の剰余金の使途において定めた博物館・研究所業務に充てるため、198,444千円を目的積立金として申請する。
当期総利益のうち215,477千円は目的積立金の申請対象としていないが、このうち478千円については消費税の還付にかかる利息や国から継承した資産（車両）の売却に伴う収益など、法人の自己努力によらない分である。215,000千円については、17年度に購入した収蔵品の分割払いの財源に自己収入を充てたことによるもので、簿記上は「現金・預金」が「固定資産（収蔵品）」に変わるだけで費用は発生していないため、費用と収益が相殺されず見かけ上残る利益である。

自己評価
法人全体で自己収入確保に努め、目標額を上回ることとなった。支出については、一般管理費は、統合作業におわれ、年度計画予算の策定段階で一般管理費から展覧事業費へ移し換えるべき作業をしていなかったことによる乖離が主な要因であり、速やかに財務組織体制等の強化を図っていきたい。その他、展覧事業費については、主なものは陳列品購入という特殊要因であり、おおむね妥当な運営状況であった。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>２.人事計画に関する計画（中期計画Ⅶ１）
○職員の能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度の検討・導入を図ること。
○任期付研究員制度の導入を図る。
○人事交流、職員の研修等に努めること。</td>
<td>主な実績
・特殊技術及び技能を持つ優れた人材を確保するため、技術職員及び技能・労務職員について、機構独自で採用可能とする規定を整備
・技術職員（写真技士）を京都国立博物館で1名、また労務職員（衛士）を奈良国立博物館で1名について独自の選考採用を実施
・任期付研究員制度により3名の研究員が在職（20.3.31現在）
・以下の人事交流の実施
事務系職員：東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び国立西洋美術館等との人事交流を実施
：東京都特別区及び新聞社との人事交流を実施
研究系職員：文化庁（13名）との人事交流の実施
・新任職員や職員を対象とした各種研修（3件）の実施。他機関で実施する研修に積極的に参加

自己評価
19年度は独立行政法人の特性を活かした人事制度として、技術職員・技能労務職員を機構独自で採用できるよう規定を整備し、採用することができた。今後も独法制度のメリットを活かした人事制度について取り組んでいく必要がある。
任期付研究員制度については、現在3名が在職しており、今後も制度の活用を図りたい。
人事交流については、事務系職員においては、大学法人や他の独法との間での交流だけでなく、地方公共団体や民間企業とも交流を図っており、今後も継続的に交流を進めていきたい。大学法人以外は、現在は受入が中心であるため、今後、相互交流を図ることを検討したい。研究系職員については、文化庁との人事交流は活発に行われているが、今後は大学等との交流の拡大が課題である。</td>
<td>評定Ａ
コメント
人材は育成に時間がかかるが、組織の大切なリソースである。この点を勘案しながら人件費の合理化を図ってほしい。
独自の選考採用、任期付研究員制度及び人事交流などをとおして、役職員の能力を高め活力のある組織作りを行ったことは評価される。今後も努力してほしい。
人事交流については、従前の国立機関内での人事交流を挙げているが、特に事務系職員の場合、従前の国家公務員では何の変化ももたらさないのではないかと思われることから、もっと刷新する手段としては、民間人の登用なども念頭に置くべきと思われる。</td>
</tr>
</table>

平成１９年度　入札・契約の適正化に係る追加評価

独立行政法人国立文化財機構

評価項目		評価結果	備考（実績等）
Ⅰ　契約に係る規程類、体制の整備状況等に係る評価			
1	契約方式、契約事務手続、公表事項等契約に係る規程類の適正性についての評価	*(項目別評価p47　評価委員会による評価欄)* *(略）一般競争入札の推進については、随意契約の件数及び金額が70%超と高い。しかし、一般競争入札ができない収蔵品購入を考慮すると一定の成果は上がっていると考えられるが、一般競争入札の促進が数値として判明するような統計処置が必要だと考える。*	*(項目別評価p48　主な実績及び自己評価欄)* *・一般競争入札の推進* *18年度に法人規程の予定価格の基準の見直しにより、19年度から国の基準額と同一とした。(略)「独立行政法人整理合理化計画」（平成19年12月24日閣議決定）に従い、平成20年1月1日以降の契約に関する情報を当機構ＷＥＢサイトにて公開している。* *(項目別評価p50　主な実績及び自己評価欄)* *(略）包括契約、共同購入、複数年契約なども併せて実施し、効率化に努めている。*
2	契約の適正実施確保のための取組（※１）についての評価	*(項目別評価p50　評価委員会による評価欄)* *(略）コンプライアンス体制及び内部統制については、従来から整備に努めていたと考えられる。*	*(項目別評価p50　主な実績及び自己評価欄)* *・収蔵品購入については外部委員による委員会の意見を聞いて、購入の是非、価格を決定するなど、体制を整備し、適正な執行を努めているところである。* *・競争的資金による公的研究費の管理体制（不正防止計画管理部署の設置、監査体制の整備、検収窓口の設置等）について規則を整備*
3	「随意契約見直し計画」の実施・進捗状況や目標達成に向けた具体的取組状況についての評価	*(項目別評価p47　評価委員会による評価欄)* *「随意契約の見直し計画」により随意契約から一般競争入札という流れがある。文化財を扱うだけに一般的な物品の購入や業務委託とは確かに異なるものであるが、地方においても一般競争入札の徹底が叫ばれ、文化財の修理などで実施されている例が増加している。保存修復の世界では、必ずしもそのための設計書や基準、仕様が十分な状況ではないところで、一般競争入札がなされているにあって、文化財機構もその検討時期であるが、研究部門、保存修復部門のみならず、事務部門においても、ナショナルセンターの役割として、契約の在り方を地方に指し示し、指導する立場を取っていただきたいと考える。*	*(項目別評価p48 主な実績及び自己評価欄)* *・一般競争入札の推進* *競争性のある契約方式導入に向けて随意契約の見直し計画を作成し、検討を進めてきている。その結果、18年度の競争契約件数73件に対して平成19年度競争契約件数は113件と18年度に比べ約55%の増加となっている。なお、金額ベースでは随意契約の割合が増加しているが、収蔵品の購入費を除くと18年度の2,004,568千円に対して19年度1,559,878千円と減少している。* *(項目別評価p50　主な実績及び自己評価欄)* *一般競争入札に関しては、随意契約を見直した結果、18年度の73件から19年度は113件へと件数を増加させることができた。また、包括契約、共同購入、複数年度契約なども併せて実施し、効率化に努めている。*
Ⅱ　個々の契約に係る評価			
	監事による個々の契約のチェックプロセスや第三者によるチェックプロセスを把握した上で行う、契約における競争性・透明性の確保の観点からの、特定の契約（※２）に対する監事等によるチェックプロセスについての評価	監査実施の基準を書面化し、監査手順を明確にしたうえで監査を実施するとともに、監査事項としては法人特有の業務の契約を抽出している。 また、19年度については500万円未満ではあるが、監事監査及び監査法人の監査で一部実績があるとの報告を受けたが、今後は前述の監査方針策定の中に盛り込むなど特定の契約について対応していくことが望まれる。	（確認した主な資料） 資料配付 ・独立行政法人国立文化財機構におけるコンプライアンス体制の整備状況 ・平成19事業年度の業務に係る監事監査の実施について 特定の契約の監査状況 ○　監事監査 予定価格500万円以上の契約については監査実績はないが、500万円未満の契約で高落札率、若しくは応札者数1の契約（３件、6,984千円）について監査を実施した。 ○　監査法人の監査 財務諸表監査の中で実施している。

※　　斜体部分はすでに提出している評価書に記載している事項
※１　契約事務の適正実施確保のためにとられている措置や体制（内部審査体制、外部審査体制、監事監査等）についての評価を記載（措置や体制がとられていない場合はその必要性について評価）
※２　関連公益法人との随意契約及び落札率が95%以上の契約（予定価格を公表していない場合は応札者が１者のみの契約）（500万円以上）を対象とする。500万円以上を対象としたときに該当する契約件数が多い場合は、契約金額上位30件程度が入る金額で下限を定める。

２．独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会評価

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会報告書

はじめに

独立行政法人国立文化財機構は19年4月に国立博物館と文化財研究所が統合され設立された。よって、19年度が統合後の中期計画の最初の評価の年ということになる。本委員会では、機構の自己点検評価を全体として適切に自己点検評価が行われているかをはじめとして、統合による事業の相乗効果、効率的な運営などについて、客観性のある評価に努めた。

ただし、「Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置」及び「Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画」に関しては、決算の途上であることから財務関係の資料がそろわなかったため、機構から示された一部の資料に基づいた評価となっている。評価スケジュールの前倒しも資料がそろわない要因ではあるが、今後迅速に決算処理を進めるなど一層の努力を要求したい。

また、評価スケジュールの前倒しについては、主として次年度概算要求との関係からと理解するが、法人が自ら点検評価し、それを外部の目で検証することは法人運営の改善のために大きな意義を有するものであり、独立行政法人の評価を担当する関係機関へは適正な自己点検評価が実施できる十分な期間確保を働きかける必要がある。

【総　評】

独立行政法人国立文化財機構の19年度の実績は全体として高く評価でき、自己点検評価も概ね適正に行われていると評価できる。しかし、数値目標として掲げられている数値の基準の説明が不十分なところなどより一層の工夫が必要と思われる。

なお、統合したことにより自己点検評価報告書の特に調査及び研究に係る事項を統一の様式で行っているが、「有形文化財の収集・保管・公衆の観覧にかかる調査研究」として行われている国立博物館の調査・研究の成果は、論文や学会等における発表だけでなく、収集・保管や展示等の博物館での日常業務や展覧会図録等の形でも示されるものであり、調査・研究に裏付けられた収集・保管・展示が博物館の本質である。このため、こうした特徴が十分反映されるよう自己点検評価報告書の書き方についても更なる検討が必要と思われる。

今後も、国立博物館と文化財研究所が統合したことにより、国立文化財機構が文化財についてのナショナルセンターにふさわしい存在となるとともに、質の高い運営を実施していくことを期待する。

Ⅰ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

収蔵品の整備、次代への継承については、概ね適正に行われており、自己点検評価も妥当であると評価する。

文化財の収集については、「東大寺越中国射水郡鳴戸村墾田図」等貴重な文化財を収集できたことは評価できる。今後も継続的に予算を確保するとともに、オークションに出品された「運慶作・大日如来坐像」など重要な文化財の散逸を防ぐためにも、文化庁に対して緊急的な予算を確保できるよう働きかけていく必要がある。また、黒田記念館関連作品が東京国立博物館に移管され、その後、公開の機会が拡大されたことは喜ばしい。なお、文化財の散逸の防止、適正な状態での管理のためにも寄

贈・寄託による機構における文化財の管理は重要であるが、これを促進するためにも篤志家の顕彰を継続してほしい。

文化財の保存・管理に関しては、京都や奈良で耐震診断が行われたことやIPM体制の整備など文化財を適正な状態で管理していると評価できる。今後は、耐震診断の結果を踏まえた耐震化に向けた予算措置が必要である。

文化財の修復については、適正に行われていると評価するが、保存カルテの作成状況については、作成件数だけでなく、必要な全体量に対する達成状況などその進捗状況を示してほしい。

2　文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信については､国内については概ね評価できるが、海外に対しては充分であるとは言えない。また、自己点検評価も概ね適正であるが、展覧会の質について、より踏み込んだ評価が必要である。

平常展に関しては、18年度に比べて入場者数が減少しており、児童・生徒へのアプローチによる入館者の裾野を広げる取組みが重要であり、特別展とのバランスも考えた取組みが必要である。収蔵品の増加による平常展の充実も入場者増加には重要である。また、東京国立博物館と一体的に運営されることとなった黒田記念館については、さらなる活用方策が必要である。

特別展については、「狩野永徳展」や「大徳川展」のように反響を呼んだ共催の展覧会だけでなく、奈良、九州で開催された自主企画展においても優れた企画があり、評価できる。ただし、自己点検評価でも反省点としてあげられているが、19年度も混雑した展覧会があり、さらなる混雑対策を図られたい。なお、入館者数の設定方法について、その設定基準が示されていないので、示す必要があると思われる。展覧会の図録は、研究成果を示す意義もあるので、4国立博物館のどこでも、過去の開催分も含め購入できるように工夫してほしい。

海外展については、ナショナルセンターとして一層の充実が必要である。ヨーロッパでは中国関連の展示が盛んとなっていることもあり、海外研究者との交流を通して、国を挙げての取組みに期待したい。

教育普及活動については、九州国立博物館をはじめ、各館とも充実した取組みがなされていると評価できるが、講演会等の参加者数は減少しており、広報活動などさらなる取組みが必要である。

快適な観覧環境はバリアフリー化をはじめ評価できるが、レストラン、ミュージアムショップの取組みは各館でばらつきがあるので、さらなる充実を期待したい。

博物館支援者の増加に関しては、具体的な数値目標を定めるなど、より積極的な取組みが必要である。

3　我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

博物館のナショナルセンターとしての取組みは評価できる。しかし、その活動内容が一般にはあまり伝わっていない。活動自体の意義・重要性をアピールしていくと同時に、活動内容を積極的に公表していくべきである。具体的には、ナショナルセンター活動に特化した広報媒体の作成や機構全体の活動を網羅したニュース等の作成、国内外の研究者や関係者が利用できるような情報の提供などが考えられる。他の博物館等との協力については、年度計画に盛り込むことが望まれる。

外国に対しては、研究発表や図録における外国語の充実、インターネットにおける外国語による情報提供の強化が望まれるが、特に研究論文はアブストラクトの英訳だけでも公開し、研究成果を積極的に公表してほしい。海外研究者との交流や国際会議などについては評価できるが、やはりその内容が周知されていないので、より積極的な広報が必要である。

文化財の貸与については、韓国国立中央博物館に対する長期貸与のように、海外への貸与をより充

実させてほしい。ただし、保険等リスクにどう対応するのか、その方針を明確化する必要がある。また、東京国立博物館から九州国立博物館への文化財の管理換が目標に達していないので、今後達成に向けて取り組む必要がある。

4　文化財に関する調査及び研究の推進

文化財に関する調査・研究は全体として適正かつ活発に行われていると評価する。しかし､博物館、研究所ともに自己評価が全て高くなっているが、自己評価の根拠がより明確になるよう一層の工夫が必要ではないだろうか。

博物館の調査研究に関しては、今回から研究所と様式を統一し、これまでと大きく変わったこともあり、評価の基準や記述にバラツキもあったようである。より適正な自己点検評価に向けて一層の努力を望みたい。

東京国立博物館における漢籍・洋書の悉皆調査や京都国立博物館における京都を中心とした近畿地区の社寺文化財の調査など、価値のある調査・研究を実施していることは評価できる。ただし、研究者が研究に割く時間が少ないという実状があるので、週に1日など研究に専念できる時間を設けることを望む。また、海外への情報発信が不足しているので、さらなる充実を期待したい。

研究所の調査研究に関しては、新しい文化的景観、無形民俗文化財の調査、都城調査などの基礎的な調査に大きな成果をあげており、さらに保存科学、年輪年代研究、環境考古学など先端研究への取組みにより文化財に関するナショナルセンターとしての機能を充実させていることは評価できる。また、文化財の防災に関する研究など時機にあった研究を実施している点を評価したい。

独自開発のマイクロフォーカスX線CT装置による非破壊年輪年代測定法は、世界最先端をゆく新技術とのことなので、知財権の獲得に留意されたい。

5　文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

国際協力の推進に関しては適正に実施していると評価できる。特にカンボジア、アフガニスタンにおける支援やバーミヤン等シルクロード周辺の遺跡修復の支援をしていること、在外古美術品の修復事業について評価したい。また、保存修復に関する国際協力は現地での修復に留まらず、保存修復の専門家の要請など長期的な視野に立った事業が評価できる。

ただし、他の事業同様に、成果に比して一般国民の認知度が低いので、継続的に広報・情報の発信を行うことが必要である。また、支援の受け手側の評価も聞きたい。

なお、四川の大地震に代表される被災文化財への修復に関して国立文化財機構が期待される役割は国内外問わず大きく、保存修復家の養成も含め、推進してほしい。

6　情報発信機能の強化

情報の発信機能については毎年度向上しており、評価できる。

インターネットによる情報の発信については、WEBサイトのアクセス件数も増加しており、積極的に公開していることは評価できる。

研究成果を画像データのデジタル化を推進していることは評価できるので、今後はさらに文献データのデジタル化を進めてほしい。デジタル化された画像データはインターネットを介して広く公開が進んでいるので、今後も継続的に公開を推進し、広く国民が利用できる環境を整えてほしい。

7　地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

大学院との連携や地方公共団体等の文化財担当者に対する研修は評価できる。ただし、地方公共団体の中には、機構がどのような協力ができるのか知らないことも多く、「敷居が高い」と感じている

場合も多いので、情報公開を積極的に行い、現状に満足せず、さらに事業を推進してほしい。そのための組織等の制度を整える必要がある。

Ⅱ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

業務の効率化については、決算関係の資料が整っておらず評価できないが、光熱水量費は18年度よりも増加しているので、担当役員を決めるなどして積極的に推進すべきである。民間委託、一般競争入札の推進は評価できるが、民間委託を実施するにあたっては、委託の適切性について充分検討した上で実施し、コストが増加しないよう配慮して決定されたい。

自己収入の増加方策に関しては、施設の有効利用の推進など評価できる。今後は施設のメンテナンスなど課題があると思うが、収入面からのみならず、社会とのつながりという面からも重要な事業となり得るので、積極的に推進されたい。また、有償利用が少ないので、その点を改善していく必要がある。

意識改革に関しては、博物館の評価を「自己点検評価」と改めたことは、評価できる。6施設が総合したにも関わらず、相乗効果が見えてこないことは今後の課題であるが、それぞれの施設の特性を活かし、互いに連携しながら意識改革を図ってほしい。

人件費の削減については、18年度と比較すると目標を達成していないが、中期計画の遂行に向けては、問題なく進捗していると評価できる。

今後は、経費削減も重要であるが、収入の増加や人員の効率的な配置をより図っていくことが重要である。

Ⅲ　予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

次年度は評価に間に合うように決算関係の資料が提供できるよう独立行政法人の評価を担当する関係機関とのスケジュール調整を含め、改善を図られたい。

自己収入が前年度実績と比較してほとんど増加しておらず、一層の努力を期待したい。

予算が年々減少しているが、人材の確保は長期的には重要であるので、研究員の確保を図られたい。

目的積立金の申請がなかなか認められない点に関しては、広く有識者にアピールし、インセンティブの働く予算制度となるよう積極的に働きかけるべきである。

Ⅳ　その他人事計画等

人事交流の実績等は示されているが、法人の人事計画の全体像が示されていないため、全体的な評価は困難である。

法人内の人事交流が進んでいることについては、評価できる。今後とも私立大学も含め、交流機関の多様化に努力されたい。

採用については、技能・労務系職員を機構独自に採用したことは評価できる。

人件費が削減されていく中で、そのことが単純な人員の抑制ではなく、将来ビジョンを明確にして、人事計画を国民に示してほしい。退職者を単純に不補充とするのではなく、職員の世代配置を見直すなどして、必要な分野は重点化することが重要である。

Ⅴ　国立文化財機構のナショナルセンターとしての取組について

国立文化財機構は、文化財の保存及び活用という同一の目的を有する国立博物館と文化財研究所を発展

的に統合し、統一的なマネジメントの下で文化財保護行政を総合的に支えることを任務とするものであり、我が国で唯一の文化財に関する総合的な機関である。言わば文化財保護のナショナルセンターとしての機能を持っており、日本の文化財保護行政にとって極めて重要な役割を果たすものである。

機構のナショナルセンターとしての役割についての評価は「博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与」や「文化財に関する調査及び研究の推進」などそれぞれの項目でも記述されているが、非常に重要な役割であるとの観点から一つの項目を立てて明記することとしたい。

総じて言えば、収集・保管、調査・研究、文化財の保存・修復に関する国際協力などを中心にナショナルセンターとしての取組が評価されるべきと考えるが、一方で、それらの取組を国民に周知する努力がさらに必要であろう。

また、海外展や調査研究成果の国外への発信等の海外への発信については、活発な活動を行っているが、今後一層の積極的な取組を求めたい。

更に地方の博物館や地方公共団体への協力に関しては、一定の成果は上がっているものの、機構からどのような協力が得られるのか周知が徹底せず、まだまだ「敷居が高い」と感じられているようである。機構として公私立博物館や地方公共団体に対し、どのような援助・助言が可能かより明確に示すことなど現状に満足せず、文化財保護のナショナルセンターとしてより積極的な取組を求めたい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

委員長	清水　眞澄	（成城大学学長）
副委員長	横里　幸一	（NHKプロモーション代表取締役社長）
委　員	稲田　孝司	（岡山大学名誉教授）
委　員	岡本　健一	（毎日新聞社客員編集委員）
委　員	小林　　忠	（学習院大学教授）
委　員	佐藤　　信	（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
委　員	酒井忠康	（世田谷美術館館長）
委　員	園田直子	（国立民族学博物館文化資源研究センター教授）
委　員	竹本幹夫	（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長）
委　員	玉蟲敏子	（武蔵野美術大学造形学部教授）
委　員	野口　　昇	（日本ユネスコ協会連盟理事長）
委　員	藤田治彦	（大阪大学大学院教授）
委　員	藤好優臣	（公認会計士）
委　員	森　　弘子	（福岡県文化財保護審議会専門委員）

独立行政法人国立文化財機構博物館調査研究等部会評価

部 会 長	小　林　　忠	（学習院大学教授）
	酒　井　忠　康	（世田谷美術館館長）
	藤　田　治　彦	（大阪大学大学院教授）
	森　　弘　子	（福岡県文化財保護審議会専門委員）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名
小林　忠

1　総合的な事項

博物館の展示に関しては、各館ともに見やすく、教育的な配慮の行き届いた工夫を凝らしていることを高く評価したい。展示空間のデザインや照明の適切などは、ひと頃と比べて各段に進歩している。寺社などの所蔵文化財に関して国立博物館として協力し、大きな成果を上げていることも評価される。

しかしながら、一寺社や一宗派の協力による展観は比較的労少なく大量の入場者を期待できるために、近年目立って機会が増えているように思われる。日本各地や各時代に焦点を当て全国的な視野や問題意識から新しい価値や問題点を掘り起こすような、意欲的な調査研究や、それに基づく斬新な展開を期待したい。

2　自己点検評価に関する事項

定性的評価および定量的評価ともに自己点検評価の点が甘すぎる。成果の実績を誇るとともに至らない反省点をこそ自己評価すべきである。その点で、東京国立博物館の「中期計画　4　文化財に関する調査および研究」は、金地屏風の客観的なデータを収集するという喫緊かつ重要な研究課題が館の日常業務の繁忙に追われて十二分に達成できなかった反省が示しており、好感を得た。学芸員への研究環境の整備、充実を配慮願いたい。

3　調査研究に関する事項

各国立博物館4館とも、繁忙を極める日常業務に加えて、収集、展示に直接関係する研究のみならず、基礎的、基盤的な研究にも意欲的に取り組んでいることを、敬意を以て高く評価する。

伝統ある3館と、新設の九州国立博物館が、それぞれの特性を活かし、国民の期待に応え、さらに未来を見据えた文化財に関する調査研究を強力に推進していくことを期待したい。

4　その他

国立博物館への国民の期待は極めて大きい。独立行政法人国立美術館とも緊密に連携、協力して、我が国の文化財の充実と安全、文化財教育のいっそうの発展を期待している。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名
酒井　忠康

１　総合的な事項

創意工夫を加えて成果の期待できる細やかな配慮が感じられた。いましばらく、こうした方向での進展を見守りたい。

２　自己点検評価に関する事項

概ね妥当な判断となっています。

３　調査研究に関する事項

研究発表に関しては、やや物足りない印象を受けました。欧文による海外への発信も大切です。

４　その他

長期的な視点からの、創造的な制度の見直しを期待したい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名
藤田　治彦

1　総合的な事項

東京、京都、奈良、九州の4国立博物館をあわせて（独）国立博物館が成立し、さらには（独）文化財研究所との統合により（独）国立文化財機構となって初めての外部評価、総合的な評価の実施であり、それに先立つ、自己点検評価など、これまでにない配慮が必要だったのではないかと想像する。組織改革の途上でのこの種の評価の実施はどの部局にとっても大きな負担であっただろうと思うが、有形文化財を収集・保管して国民および世界の人々への観覧に供するという4博物館の役割は、継続的かつ順調に果たされている。

2　自己点検評価に関する事項

自己点検評価報告書は全般的によくできており、各館における活発な活動が伝わる。ただし、業務実績書、自己点検評価調書ともに記入不足で、判断が困難な事業も含まれる。それらの事業の内容自体は優れたものである場合もあるのだが、それが適切に記述されなければ内容は伝わらない。かたちだけのものにならないよう、自己点検評価報告書のありかた、外部評価委員への送付の時期、日時を含む外部評価委員会の設定のしかた等、もう少し工夫ないし配慮が必要であろう。

3　調査研究に関する事項

東京国立博物館における漢籍・洋書の悉皆調査は非常に価値がある。将来的には情報アーカイブで公開を予定しているとのことだが、早期実現を期待したい。同館を中心とした、東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究も注目される。文化財のトータルケアシステム構築に向けた応用研究の実施も有意義である。

京都国立博物館における、京都を中心とした近畿地区の社寺文化財の調査は、長く行われているものだが、学術的にも、文化財の現状を把握し保存に役立てるという意味でも、極めて重要である。建仁寺土蔵の典籍の調査等がとくに注目される。

奈良国立博物館においては、日本における仏教美術の展開と、中国および韓国の仏教美術が及ぼした影響の研究が、両国との研究員の交流等も含めて、活発に展開されている。

九州国立博物館においては､有形文化財の保存修復に関する分析的かつ実践的研究が充実している。文献を重視した歴史的研究も行われつつあり、今後の進展が期待される。

4　その他

展覧会に関しては、海外における日本の文化の紹介にもさらに力を入れてほしいが、国内の展覧会は各館それぞれに充実し、入館者が極めて多いものもある。ただし、あまり入館者数に気をとられることなく、各館が一層独自性を発揮するべきだろう。4国立博物館はすべて「設置されている地方を代表する国立博物館」であり、「日本を代表する博物館」であり、「世界の主要博物館のひとつ」でもある。したがって、設置された土地だけに固執する必要はない。しかし、東京でも九州でも例えば近畿の社寺文化財等の展覧会が常時主体となるようなことになれば―京都と奈良は当然近畿の文化財を中心にしており―国全体としてのバランスに欠ける。関東・東北・北海道の文化財の調査・研究・保

存・展観をリードするのは、規模からしても、東京以東に国立博物館が開設されていない現状からしても、やはり東京国立博物館であろう。九州国立博物館は、地元福岡県を重視する十分な理由はあるが、九州には、大分、宮崎、鹿児島、熊本、長崎、佐賀と、多様かつ重要な歴史と文化があり、その役割も一層意識してほしい。四国や中国地方はどうなのだろうか。（独）国立博物館さらには（独）国立文化財機構の成立が、人員削減や経営の合理化といったことではなく、日本の博物館自らが、日本やアジア、あるいは東京、京都、奈良、九州（福岡）を中心としながらも、世界全体を国際的視野で見ることにつながる、といった積極的意味で考えられるようになると有意義であろう。1991年にヴェネツィアで開催されたケルト展のように、意外であると同時に十分な意味や背景があり、その後10年も20年も全世界に影響を与え続ける展覧会が、国立文化財機構の博物館から生まれることを期待している。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎博物館調査研究等部会

外部評価委員名
森　弘子

1　総合的な事項

近年の国立博物館は展示方法に飛躍的な進歩が見られる。高度な内容の展示にもかかわらず、見やすく、わかりやすく、時にはファンタスティックに人々の五感を刺激している。その裏には、職員のたゆまぬ調査研究と工夫があることが、説明によってよくわかった。ただ一般にはそうした様々な努力があることが周知されていない傾向にあると思われ、それが予算や人員の削減につながることが危惧される。この会議で説明されたような内容が、もっとひろくアピールされるよう努力されたい。裏の苦労を見せないのが美徳とされたのは過去のものとなった。そう言う意味では、こういう評価システムも有効であると考えられる。

2　自己点検評価に関する事項

自己点検評価が導入されて日が浅く、慣れておられないせいか、趣旨が職員に周知徹底されていないせいか、評価の基準が曖昧でA評価ばかりが目立つのは、自己評価の意味をなすのであろうか。また実績数値で示せるようなことと違い､研究における定性的評価項目の「適時性」「独創性」「発展性」などは、それがない研究に時間を割いて取り組む価値は最初からなく、職員が自信を持って取り組んでいる研究テーマに「A」でない自己評価などあり得ようはずもないと思われる。

小学校の外部評価もしているが、初年度は項目そのものが理解し難くまことに評価しにくいものであったが、評価にかかわる専門教員を配置し、評価項目・方法の研究、見直しが行われ、その徹底した説明がなされ、ようやくすっきりと評価ができるようになった。博物館の評価においても、真に評価の実が上がり業務に反映できるような「方法論」が研究されるべきではなかろうか。

3　調査研究に関する事項

非常に多岐にわたる研究が精力的に進められていることが評価できる。ただ一人でいくつもの研究テーマをかかえている研究員もあり、様々な業務があるなか、はたして研究の時間が十分に確保でき、研究の実績をあげることができるのか疑問に感じる点もある。それぞれの研究が何年計画のものであり、現在何年目であるのか、できればその年の中間報告なども記載されてはいかがであろうか。

海外や他館、大学など外部研究者と共同研究を行うことは幅広い視野から大きな成果が上げられ、また人的ネットワーク構築の上からも望ましいことであり､このような機会が増えればよいと考える。

科研費、企業からの研究助成費など外部資金の獲得にも努力されている。その方面への一層の働きかけ、また助成金の獲得を可能たらしめる研究テーマに期待したい。

いずれの研究も興味深いものであるが、九州の博物館の業務そのもの（保存・修復・展示など）に対する研究の数々が注目される。新しい博物館のあり方を模索するものであり、成果が広く共有されるものとなることを望むものである。また市民協同型IPMの活動に注目してきたが、さらにそのシステム構築に向けての基礎的研究が市民協同で進められており、一市民として興味深い。

4　その他

独法化以来、各館ともに非常によく努力され、その成果が着実にあげられていると感じられた。博

物館といえば、古くさい、暗い、堅い等といったイメージはいまや過去のものとなり、国民にとって親しみやすく、知的・文化的充足感を与えられる「場」となった。ことに九博はまちづくりの中核ともなり地域活性化と地方文化の底上げに大きな役割を果たしている。今後とも、それぞれの館の設立趣旨や法人の目的を尊重しながら、時代の要請に応えるとともに、不易に守らなければならないものはしっかりと守っていっていただきたい。

独立行政法人国立文化財機構研究所調査研究等部会評価

部会長	佐　藤　　信	（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
	稲　田　孝　司	（岡山大学名誉教授）
	岡　本　健　一	（毎日新聞社客員編集委員）
	園　田　直　子	（国立民族学博物館文化資源研究センター教授）
	竹　本　幹　夫	（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長）
	玉　蟲　敏　子	（武蔵野美術大学造形学部教授）
	野　口　　昇	（日本ユネスコ協会連盟理事長）

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名
佐藤　信

1　総合的な事項

基礎的な調査・研究や先端研究、他機関などとの共同調査・研究、研究成果の発信（報告書の刊行）、国際協力の推進などに、大変大きな成果を挙げているものと評価する。

大きな調査･研究成果をより多くの国民に理解してもらえるよう、さらに発信の努力をお願いしたい。

2　自己点検評価に関する事項

国立文化財機構として、自己評価のAとSをどうランク付けするのか、意思疎通していただきたい。

出来るだけ定量的評価を記載していただきたい。

この外部評価委員会以外の、受賞・書評・マスコミ評価・アンケートなどの評価を記載してほしい。

3　調査研究に関する事項

新しい文化的景観、無形民俗文化財の調査、都城調査などの基礎的な調査に、両研究所ならではの大きな成果を挙げていることを評価する。

保存科学、年輪年代研究、環境考古学などの先端的な研究に、両研究所ならではの大きな成果を挙げていることを評価する。

大きな調査・研究成果をより多くの国民に理解してもらえるよう、さらに発信の努力をお願いしたい。

4　国際協力の推進に関する事項

文化財の国際共同研究や保存修復のアジアへの国際協力は、非常に精力的に推進されたと評価する。

ただし、その成果はもっと広く国民に発信されてよいのではないか。また、相手国からの評価も聴きたい。

5　調査研究成果の発信に関する事項

専門的な報告書・研究紀要のみでなく、より多くの国民に調査研究成果を知ってもらえるような発信にも、工夫を願いたい。

高松塚・キトラ古墳についての一般向けのシンポジウム・講演などの企画を、さらにお願いしたい。

HP・データベースなどのアクセス件数をさらに増やす努力をお願いしたい。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

国、地方公共団体等に対する協力・助言の面で、両研究所の知的資産をよく活用していると評価する。

相手方の国・地方公共団体等からの評価・満足度について、報告書に記載できないものか。

7　その他

大学・大学院など高等教育への協力について、さらに柔軟に推進してほしい。

外部資金の獲得にも努力されているが、さらにその拡大を図っていただきたい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名
稲田　孝司

１　総合的な事項

平成19年度における東京・奈良両文化財研究所における調査研究事業は、高松塚古墳・キトラ古墳の壁画保存関連事業への協力で世間の大きな注目をあびたことに象徴されるように、困難な事業を計画以上の内容で達成したものが多い。ただ、高い評価を受けた事業も、研究所における永年の研究成果の積み重ねの上に成り立ったものであり、また脚光の当たりにくい研究分野との連携や、文化庁・地方公共団体等関連機関との密接な協力のもとで実現できた面が多いことも十分考慮し、今後とも基礎的・体系的な研究と先端研究とのバランスに配慮しつつ、研究所全体の総合力を発展させることが期待される。

２　自己点検評価に関する事項

事業は計画通りの成果を得ており、全体として報告書の評価は適切である。ただ、S評価の扱いでバランスを欠くようにみえるのが残念である。例えば、評価報告書では高松塚古墳・キトラ古墳保存対策事業（41）がAで、外部機関の要請の基づく文化財の保存修復に関する実践的研究（42）がSとされているが、あえて両者を比較しSとAで差をつけるのであれば、後述のように前者をS、後者をAとした方が大方の納得を得られるのではあるまいか。

３　調査研究に関する事項

基礎的・体系的な調査研究事業（整理番号１～24、28等）については、古代都城の発掘、寺社歴史資料等の調査、近現代美術に関する総合研究等、研究所が従来からもっとも得意としてきた分野の研究を系統的に深化させるとともに、文化的景観概念整理のための調査を展開して新しい行政課題に資するなど、着実かつ意欲的に研究業績を蓄積した。また、新たな調査手法の開拓や先端研究分野（25～40等）では、文化財の生物劣化対策や保存環境に関する研究、考古資料の材質・構造の調査法の開拓など、幅広い学問分野の手法を文化財の調査・保護に活用しつつ独自の成果を発展させた。文化財の防災に関する研究（34・35等）については，近年における災害多発の状況から見て時宜を得た課題だといえる。

４　国際協力の推進に関する事項

国際協力に関する事業（(19、38、39、43～50等）については、とりわけ各国の文化財保護政策・施策のあり方を系統的に比較研究してきた実績をもとに自然保護との連携を課題に取り上げたこと(43)、中国・韓国との共同調査で成熟した協力関係を発展させつつあること（19、46、47)、カンボジアやアフガンなど困難な状況下での支援を発展させたこと（44・45・48）等の成果がとくに注目される。文化財に関する国際協力は国の国際協力全般の中でもますます重要度を増す分野であり、研究所が関係諸国の言語に熟達した研究者を採用・育成する等の配慮を行っていることが評価されるとはいえ、人的資源の面で国の格別な支援が期待される。

5　調査研究成果の発信に関する事項

東京文化財研究所七十五年史の刊行（54）、無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（55）、カンボジアの文化財保護関連法令集の和訳・印刷（57）等は、東京文化財研究所の地道な調査研究成果を知ってもらう上で貴重であり、国際協力の推進に資する面もある。奈良における発掘調査現地説明会・公開講演会の開催には多数の専門家・愛好者の期待が集まっており、飛鳥資料館で入館者には飛躍的なのびがあった。研究成果を国民に還元し正当な事業評価を得るための情報発信は大いに期待するところだが、両研究所はあくまで調査研究機関であり、今後とも誇大な宣伝や過渡なパフォーマンスに流れることのない姿勢は貫いていただきたい。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

高松塚古墳・キトラ古墳の保存対策事業（32、41、受託事業41-1 ～3等）では、特筆すべき成果があった。平成19年4月以降、高松塚の石室解体作業が行われ、またキトラ古墳壁画の剥ぎ取り作業が行われる等、社会的に大きな注目をあびた事業であり、困難な条件を克服して成功裏に作業を推進し得たことにより、両研究所に対する社会的な認知度・信頼度は格段に高まった。壁画保存作業はなお継続しており、保存状況をこれからもなお慎重に見守る必要があることはもちろんだが、壁画を最終的に石室に戻すか否か等の恒久的保存策が検討される場合には、保存科学等の研究成果を踏まえ、技術的観点から研究所が適切な助言を行って国の施策に万全を期することが望まれる。

7　その他

平城宮跡の整備・管理が国営公園として国交省主体に行われることとなったが、奈良文化財研究所が文化庁・国交省と緊密に連携しつつ、その永年にわたる調査研究の成果を適切に国民に還元し、平城宮跡の研究・保存・活用を今後とも一体的に発展させられるよう尽力されることを願ってやまない。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名
岡本　健一

1　総合的な事項

国立博物館との統合後、はじめての委員会らしく、緊張感のある真摯な報告・審議がおこなわれた、と思う。ただし、従前とちがって、1件平均2分の説明で評価するのは、(事前に自己点検報告書を下読みするとはいえ)心苦しさを禁じ得ない。

2　自己点検評価に関する事項

前期の5年間を通じて「特A」は数えるほどしかなかった。突然の「Sの乱発／インフレ」に驚かされたが、担当者の熱意と精進の表れでもあろう。斯道奨励をかねて、許容範囲と考えたい。もちろん、私どもも、真に素晴らしい研究成果があがれば、率先して評価・顕彰する注意義務が負わされよう。

3　調査研究に関する事項

上で「Sの乱発／インフレ」と記したが、さすがに自信に満ちた報告揃いで、興味津々であった。とくに、独自開発のマイクロフォーカスX線CT装置による非破壊年輪年代測定法は、世界最先端をゆく新技術で、新しい地平を開けるという。知財権をしっかり獲得し、存分に成果をあげられたい。滋賀県で出土した伐採木の年輪から、「甲賀杣」のルーツが664年以前に遡ると判明したのも、目からウロコの発見である。それと対照的だが、伝統的な古文書学的方法による、古都大寺社の歴史資料の悉皆調査も、着実に進められている。「平成資財帳」ともいうべき長期プロジェクトの成就を祈りたい。

4　国際協力の推進に関する事項

東アジア古代都城の共同研究をはじめ、アンコールワット、シルクロード縁辺の遺跡（敦煌、バーミヤーンなど）の保存修復、在外日本古美術品の保存修復協力、さらに海外諸国の保存修復専門家の育成などの事業が、ひきつづき推進されている。

5　調査研究成果の発信に関する事項

調査・研究の成果は、現地説明会をはじめ報告書・講演会・学会発表・論文などのかたちで発信されている。ただし、部会で指摘されたように、「せっかく興味深いＳ級の研究成果がありながら、学会誌の狭い範囲にとどまって、マスメディアによって広く社会に周知されない」のは、勿体ない話である。所員の個人的な研究をふくめて、一般向きの面白い発見・解釈なら、積極的にメディアに広報してもいいのではないか。石神遺跡にかんする新説（中大兄皇子の東宮跡）が一部の新聞に載ったのは、学会誌発表から数ヶ月後。もちろん、ニュースを探索するメディア側の日常的な努力が肝要なのではあるけれど。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

今年度も文化財の調査・保存から出土文字の解読、学芸員の研修まで、多岐にわたる支援・助言がおこなわれている。

7　その他

昨夏、高松塚の解体が無事終わった。壁画剥離の機材を開発し、慎重な実験を重ねながら、国民環視のなかで苦心の解体作業を遂行されたことに、敬意を表する。壁画の再生に向けて一段の尽瘁を願います。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名
園田　直子

1　総合的な事項

各担当部課が、それぞれ多くの事業を実施しながらも、いずれにおいても成果をあげており評価できる。フォーマットの関係でやむを得ないのかもしれないが、各事業における充実度や到達度が明確な一方で、各担当部課間でどのような協力体制が築かれ、どのように相互に刺激しあっているのか、という関係がみえてこないのが残念である。総合的に活発な活動が展開されているだけに、この点が惜しまれる。

2　自己点検評価に関する事項

各担当部課が自己点検評価するにあたって、共通した基準ができていないのが気にかかる。同じ基準で「S」、「A」等の判断をするように見直すと、「S」評価の数が、相対的に増えると予想できる。

3　調査研究に関する事項

著書をはじめ、発表論文や報告集などの実績値が多いことが特筆でき、活発な研究活動が行われている。

保存に関連する事項に注目すると、AE法による石造文化財の劣化予知など新手法の開発研究とともに、小型可搬型機器での材質調査、非破壊年輪年代測定法など応用研究から実用化段階に入った調査法のさらなる展開を積極的に進めている。その一方で、文化財の生物劣化対策や保存環境に関する研究、周辺環境の文化財への影響評価をはじめ、文化財修復材料に関する研究など、先駆的な研究を継続実施しており、ナショナルセンターとしての役割を充分に果たしている。さらには、文化財保護法改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観や民俗技術、あるいは、近代の文化遺産の保存修復、文化財防災情報システムの構築といった、今後、重要性が一層増すことが予測できる分野の研究も併せて実行されている。

実施事業のなかでも高松塚古墳およびキトラ古墳の保存対策事業は、社会的にとくに注目されている。時間的制約が厳しいなか、継続的な調査を行い、保存修復手法を逐次開発し、保存対策を実行するのは、並大抵の努力では行えないものであり、関係者の方々のご尽力は大変なものであろう。キトラ古墳の正式報告書は作成されたようであるが、高松塚古墳においても、これら一大事業で開発した保存修復道具、技術、手法、調査結果の科学的検証と解析、そしてそこから見出された新しい知見や発見、これら保存対策事業の全般について、次世代のために記録を残しておくことは、日本の保存科学研究の発展にも直接的に寄与するものと考える。

4　国際協力の推進に関する事項

「漆の保存と修復」国際研修や、在外日本古美術品保存修復協力事業、ユネスコアジア文化センターへの研修協力は、継続的に実施している事業であり、このような機会を通じて、日本および日本の文化財に対する理解が、諸外国で高まると期待できる。

保存修復協力事業における国際協力は、アジアを中心に数多く実施されている。その内容は、現地での調査・実験にとどまらず、人材育成や研究会開催までと幅広い。外部の研究者や専門業者との協力体制もとれており、効率的な調査研究になっている。

5　調査研究成果の発信に関する事項

全般的にみて、適切に実行されている。（ただ内容が同じでも、別の事業としてあげられているものがある。たとえばネットワークのセキュリティ強化は、東京と奈良では、求められるセキュリティーレベルが異なるのであろうか。）

研究論文集、報告書、年報、図録等の刊行も活発に行われている。最近、日本からの情報発信が少ないとの意見が、海外の研究機関や研究者からよせられるようになっている。『保存科学』のようにアブストラクトだけでもよいので、是非、刊行物の外国語対応を積極的に進めていただきたい。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

地方公共団体等が実施する事業への援助・助言は、文化財、建造物・遺跡等の有形文化遺産のみならず、無形文化遺産も対象としており、各分野でバランスよく展開されている。

博物館・美術館等の保存担当学芸員研修や、埋蔵文化財担当者研修などを通じて、国内で各種文化財に関わる人びとの知識や技術の総合的なレベルアップに寄与している。さらには連携大学院教育で、次世代の人材育成に貢献している。

7　その他

特になし。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名
竹本　幹夫

1　総合的な事項

無形文化財保護という多様な分野の中で、バランスの取れた活動を展開しており、高く評価できる。とくに成果発表については、決して多いとはいえない専任スタッフ各位の非常な努力を認めうる。国際的なパートナーシップの確立についても着実な前進を続けており、今後も大きな成果が期待される。無形文化財は様々な分野で急速に消滅の危機を迎えており、その記録・保全・育成についての本研究所の任務はきわめて重要である。

2　自己点検評価に関する事項

すべての項目でA評価となっており、実績から見ても妥当とは思われるが、自己点検作業の本来の意味からすれば、現状に対する課題意識の低さともみなしうる評価内容ともいえる。すべての分野においてほとんどがA評価であるならば、自己評価としての意味はない。自己評価が低いからといって外部評価が低下するわけではなく、むしろそこに組織としての課題を見出して、適切なアドバイスを与えるのが外部評価委員会の務めであると考えたい。今後の自己評価のあり方について再考を促したい。

3　調査研究に関する事項

四国・中国地方の無形文化財調査について、とくに積極的かつ体系的な事業が行われたことが評価される。また全国規模での公開確認調査も高く評価される。近年の無形文化財の衰退には甚だしいものがあるので、非常勤の調査スタッフ増員などの手だてを講じて、今後もさらに積極的に調査活動を推進する必要がある。また過去の芸能記録の調査やデジタル化事業についても、十二分な成果をあげたと評価できる。ただしデジタル化事業は、[7その他] の項目で言及したような問題があるので、注意されたい。

4　国際協力の推進に関する事項

国際研究集会等を通じて、海外の研究機関・研究者との交流が推進され、またアジア地域における文化財保護の実態把握とアドバイスについても、成果があった。それらについての成果報告も着実になされており、とくに大きな問題は見出しがたい。わが国を含め、アジア地域は無形文化財の宝庫であるので、今後も積極的に国際協力の推進に努められたい。

5　調査研究成果の発信に関する事項

年間を通じて国際研究集会の開催や紀要・報告書の刊行を行っており、データベースによる情報発信も積極的で、いずれも評価できる。各研究員の成果発表が紀要に集中して外部の研究誌への投稿が少ないように見えるのは、研究所内での成果発表の機会が豊富にあることの裏返しなのであろう。なお舞台写真データなどで、権利処理の問題からか、目録のみでホームページ上での閲覧が出来ない形になっているのは惜しまれる。公共機関である本研究所に、研究用ホームページでの、舞台写真・映像を含むあらゆる研究情報の公開について、先鞭を付けていただきたい。

6　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

国公私立の諸機関・諸団体に対して年間を通して74件に上る指導・助言を行っており、研究所の社会事業として高く評価できる。委員会への出席や招聘のみならず、諸機関・団体からの研究所への直接の問い合わせについても､今後とも積極的に対応することが期待される。なお受託事業については、国際研究集会の開催という方法を通じて、社会連携事業としても十二分な成果を上げており、適正と認められる。

7　その他

多くの記録をデジタル・データ化する作業が業務の主要な柱の一つとなっているが、デジタル・データは永続性に大きな不安があり、数年を経ずして劣化もしくはOSとの不整合をきたすおそれすらある。デジタル・データの永続性の保証に関する研究を行うのでなければ、データ・バックアップ態勢確立のための予算の確保が必要不可欠となろう。これは本研究所のみの課題ではないが、比較的近い将来に、データの保全に関する不安が増大することが見込まれるので、デジタル化事業の不安要因として念頭に置いてほしい。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名
玉蟲　敏子

１　総合的な事項

・東京・奈良ともにそれぞれの事業計画の遂行が充実しており、評価される。

・特に奈文研の科学的諸技法の応用実施､東文研の情報発信能力の充実には目を見張るものがある。

２　自己点検評価に関する事項

A評価とS評価の基準について、担当者や分野によって認識がばらついている感があり、来年度に向けて問題を整理する必要がある。

３　調査研究に関する事項

順調に進んでおり評価できる。

４　国際協力の推進に関する事項

順調に進んでおり評価される。

展覧会だけではなくメディアを通じた、情報の周知は課題ではないか（5に通じる）

５　調査研究成果の発信に関する事項

東文研のホームページのアクセス件数の増加は、関心を持っている人の多数さを示しており、研究成果発信の受信者、理解者としても大いに期待できる。関心をつなげるよう、さらに内容を充実されたい。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

順調に進んでおり、評価できる。

７　その他

東京、奈良両研究所の活動の積極性と充実ぶりはよく理解できたが、限られた時間内での概要説明の方法は、一工夫が必要であろう。

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員評価書

◎研究所調査研究等部会

外部評価委員名
野口　昇

１　総合的な事項

平成19年度においても、東京・奈良の両文化財研究所が、有形・無形の文化財を対象として、多分野にわたる調査、研究、研修等の事業を積極的に推進されたことを高く評価したい。研究方法については、最先端の光学的手法、非破壊調査法等のさらなる前進が図られたこと、また地震・台風など自然災害から文化財を守るためのデータの収集・分析の事業も、時宜を得たものと評価し、今後その成果が広く活用されることを期待したい。

また、キトラ古墳壁画取り外し作業、高松塚古墳石室解体作業など、貴重な貢献がなされた。文化財保護の国際協力を含め、両研究所の諸事業は、国の行政施策を反映した極めて重要なものであることを再確認した次第である。

２　自己点検評価に関する事項

実績に照らし、適切になされていると思われる。

３　調査研究に関する事項

上記の通り、多分野にわたる調査研究が実施されていることを評価したい。なおユネスコの世界遺産登録で関心が高まっている「文化的景観」等については、今後、各国の事例との比較研究をさらに進めて、その成果を広く公開されることを期待したい。

また、「無形文化遺産条約」の発効に伴い、今後、日本からの「傑作宣言」に続く登録申請が重要な課題となると思われるが、両研究所の貢献が期待される。

４　国際協力の推進に関する事項

カンボジアのアンコール、タイのスコータイ、中国の龍門石窟、敦煌等の文化財保存に関し、有意義な国際協力が続けられているが、特にアフガニスタンのバーミヤン遺跡の調査研究や人材育成の事業は世界に誇り得るものと思われる。イラクの文化財保存については、現地の治安上の制約から日本での研修等に限られているのは止むを得ないことであろう。文化財保存の面での国際貢献は、今後益々重要になっていくものと思われる。この分野での活動のさらなる発展を期待したい。

５　調査研究成果の発信に関する事項

「年報」、「概要」「ニュース」の広報三誌は継続して刊行されている。「保存科学」、「美術年鑑」、「美術研究」等の刊行も順調に進んでいると思われる。このほか、無形文化の画像等のデジタル化が進められ、また、多様なデータベースが作成されていることを評価したい。なお、国民一般への広報や、海外への広報には、さらなる工夫や努力も必要と思われる。

６　国、地方公共団体等に対する協力・助言等に関する事項

国、地方公共団体等の要請に応じ、必要な協力や助言が提供されていると思われる。また、ACCUの研修事業への協力も評価したい。国の困難な財政状況を考えると、今後、受託事業の拡充がさらに重要になってくるように思われる。

7　その他

私見であるが、我が国は今後、日本からの文化発信能力を強め、広義の文化面での国際協力を一層強化すべきであると考えるが、両研究所は、このための重要な拠点の一つとしてその経験と知見を生かし、益々重要な役割を果たしていくことを期待したい。

この意味でも、関係の民間財団等をも取り込んだ「文化遺産国際協力コンソーシアム」の役割は重要であり、東文研がその運営にさらに積極的に取り組まれることを期待する。なお、今後、各国の文化遺産保存への協力事業が拡大していく中で、大学等との協力がさらに必要になっていくのではないかと考える。

Ⅴ　日誌

（法人全体及び六施設共通事項）

年	月	日	記　　事
19.	4.	1	第1回役員会（東京国立博物館）
19.	6.	6	文部科学省独立行政法人評価委員会文化分科会国立文化財機構部会（第48回）（東京国立博物館）
19.	6.	18	第2回役員会（東京文化財研究所）
19.	6.	18	第1回4国立博物館連絡協議会（東京文化財研究所）
19.	6.	18	平成18年度定期監査（東京文化財研究所）
19.	6.	20	文部科学省独立行政法人評価委員会文化分科会国立文化財機構部会（第49回）（奈良文化財研究所）
19.	6.	20	監査法人の監査結果（平成18年度）通知（文化財研究所分）
19.	6.	27	監査法人の監査結果（平成18年度）通知（国立博物館分）
19.	6.	29	独立行政法人文化財研究所の第6期事業年度財務諸表の承認の通知
19.	7.	12	健康管理のための講習会（東京）
19.	7.	17	平成19年度新任職員研修会（接遇研修及び個人情報保護に関する講演も同時実施）（東京）（～7月19日）
19.	8.	10	文部科学省独立行政法人評価委員会文化分科会国立文化財機構部会（第50回）（東京文化財研究所）
19.	8.	30	独立行政法人評価委員会総会（第28回）
19.	9.	7	第1回6施設連絡協議会（東京国立博物館）
19.	9.	7	第2回4国立博物館連絡協議会（東京国立博物館）
19.	9.	14	第3回役員会（京都国立博物館）
19.	11.	28	第1回研究・学芸系職員連絡協議会（東京国立博物館）
19.	11.	30	独立行政法人国立博物館の第6期事業年度財務諸表の承認の通知
19.	12.	12	第2回6施設連絡協議会（東京国立博物館）
19.	12.	25	第4回役員会（東京国立博物館）
20.	1.	10	健康管理のための講習会（東京）
20.	1.	11	第5回役員会（奈良文化財研究所）
20.	2.	18	第1回運営委員会（東京国立博物館）
20.	3.	5	第3回6施設連絡協議会（東京国立博物館）
20.	3.	14	第6回役員会（東京国立博物館）

（東京国立博物館）

年	月	日	記　　事
19.	4.	2	オルセー美術館館長来館
19.	4.	13	綿貫衆議院議員来館
19.	4.	16	安倍総理夫妻、イタリア　プローディ首相来館
19.	4.	22	「美と知の時代」を支えるミュージアム（平成館大講堂）
19.	4.	25	インド陸軍参謀総長一行来館
19.	4.	28	イタリア　トスカーナ州知事、家族政策担当大臣一行来館
19.	5.	2	小野晋也衆議院議員来館
19.	5.	7	水野清総務庁長官来館
19.	5.	8	鶴保庸介参議院議員来館
19.	5.	10	高円宮妃殿下　特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ　天才の実像」展お成り
19.	5.	10	韓国国立博物館視察訪問団一行来館
19.	5.	17	国際博物館の日記念講演会
			「東京国立博物館のはじまりの日々―博覧会・美術館・動物園」
19.	5.	18	平常展無料観覧日（国際博物館の日）
19.	5.	18	国際博物館の日記念イベント「博物館・動物園セミナー　上野の山でゾウめぐり」
19.	5.	25	中川昭一政務調査会長来館
19.	5.	26	フランス　ジェローム・モノ政治顧問館長来館
19.	5.	28	松島みどり外務大臣政務官来館
19.	5.	29	青木保文化庁長官視察
19.	5.	30	第1回鑑査会議（寄贈・編入・出品）
19.	6.	5	二井関成山口県知事来館
19.	6.	6	JET特別鑑賞会（平成館ほか）
19.	6.	17	皇后陛下　特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ　天才の実像」展行啓
19.	6.	23	ローナン・マギル　ピアノコンサート（平成館）
19.	6.	24	ハーバード大学　男声ア・カペラコーラスグループ
			「クロコディロス」公演（本館）
19.	7.	22	ファミリーコンサート（平成館大講堂）
19.	7.	30	特別展「京都五山　禅の文化」展開会式及び特別内覧会
			（会期7月31日～9月9日）

19.　8.　2　天皇皇后両陛下　特別展「京都五山　禅の文化展」行幸啓

19.　8.　3　ネグロポンテ米国務副長官夫人来館

19.　8.　3　夏休み子ども音楽会（東京文化会館ほか）

19.　8.　12　シンガポール大使来館

19.　8.　18　日本フルートコンベンション　ジャズ＆ラテンLIVE（平成館大講堂）

19.　9.　4　リトアニアユネスコ大使来館

19.　9.　5　タンザニア情報・文化・スポーツ省文化局長一行来館

19.　9.　6　遠山敦子元文部科学大臣来館

19.　9.　17　平常展無料観覧日（敬老の日）

19.　9.　20　第2回鑑査会議（寄贈・出品・修理）

19.　9.　24　ジェラールプーレ　ヴァイオリンリサイタル（平成館）

19.　9.　30　エレーナ・イオーノワ＆ワレーリー・イスリャイキン　オペレッタアリア
コンサート（平成館）

19.　10.　3　上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会「日本の文化による国際貢献」
平山郁夫（平成館大講堂）

19.　10.　9　特別展「大徳川展」開会式及び特別内覧会（会期10月10日～12月2日）

19.　10.　27　上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会
「日本原始・古代の鉄と国家」古谷毅（平成館大講堂）

19.　10.　27　外国人向観光体験コース（九条館、応挙館、本館）

19.　10.　30　常陸宮妃殿下　特別展「大徳川展」お成り

19.　10.　30　東大寺講演会（平成館大講堂）

19.　10.　30　綿貫衆議院議員来館

19.　10.　31　第3回鑑査会議（寄贈・購入）

19.　11.　3　デビット・ロックフェラー氏来館

19.　11.　10　上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会
「黒田清輝の生涯と芸術－画家のいる『場所』から」田中淳（平成館大講堂）

19.　11.　12　東京国立博物館の記念日祝賀会

19.　11.　17　留学生の日（本館ほか）

19.　11.　18　中国文化副大臣一行来館

19.　11.　20　天皇皇后両陛下　特別展「大徳川展」行幸啓

19. 11. 21 第1回有形文化財買取協議会

19. 11. 21 第4回鑑査会議（編入・出品・模造・修理）

19. 11. 23 外国人向観光体験コース（九条館、応挙館、本館）

19. 11. 24 渡海文部科学大臣夫妻来館

19. 11. 29 山東昭子参議院副議長来館

19. 12. 8 藤原真理チェロコンサート（平成館）

19. 12. 13 台東ファッションザッカ展（平成館）（～12月16日）

19. 12. 14 ナーランダ大学賢人会一行来館

20. 1. 2 平常展無料観覧日「博物館に初もうで」

20. 1. 6 新春東博寄席～上野の山で初笑い～（平成館大講堂）

20. 1. 7 特別展「宮廷のみやび　近衛家1000年の名宝」展開会記念式典及び特別内覧会
（会期1月2日～2月24日）

20. 1. 8 常陸宮同妃両殿下　特別展「宮廷のみやび　近衛家1000年の名宝」展お成り

20. 1. 13 三笠宮同妃両殿下、高円宮妃殿下　特別展「宮廷のみやび　近衛家1000年の名宝」展お成り

20. 1. 15 テロ対策訓練

20. 1. 21 第1回評議員会

20. 1. 26 ニューイヤーコンサート2008　綾乃ひびき

20. 2. 1 会計検査院一行視察

20. 2. 4 皇太子同妃両殿下　特別展「宮廷のみやび　近衛家1000年の名宝」展行啓

20. 2. 5 台東区の伝統工芸職人展（～2月11日）

20. 2. 6 第5回鑑査会議（購入）

20. 2. 8 皇太子殿下「子どものための友情の架け橋コンサート2008」行啓

20. 2. 9 韓国財務大臣一行来館

20. 2. 12 消防訓練

20. 2. 13 天皇皇后両陛下　特別展「宮廷のみやび　近衛家1000年の名宝」展行幸啓

20. 2. 13 山東昭子参議院副議長来館

20. 2. 15 皇太子殿下　特別展「宮廷のみやび　近衛家1000年の名宝」展行啓

20. 2. 18 秋篠宮同妃両殿下　特別展「宮廷のみやび　近衛家1000年の名宝」展お成り

20. 2. 18 第2回有形文化財買取協議会

20. 2. 20 桂宮殿下　特別展「宮廷のみやび　近衛家1000年の名宝」展お成り

20.　2.　21　高円宮妃殿下、典子女王殿下　特別展「宮廷のみやび　近衛家1000年の名宝」展お成り

20.　2.　22　豊田宗一郎トヨタ自動車会長来館

20.　2.　29　高田泰治フォルテピアノリサイタル（法隆寺宝物館）

20.　3.　5　ガマ・ポルトガル国会議長一行来館

20.　3.　8　東京のオペラの森2008　トークイベント「チャイコフスキー　その生涯」（平成館大講堂）

20.　3.　16　東京のオペラの森2008　木管の調べ（本館）

20.　3.　18　第6回鑑査会議（寄贈・編入・出品）

20.　3.　19　平成19年度　東博感謝会

20.　3.　20　ロマン・ギュイオ＆中島由紀　クラリネットとピアノのデュオコンサート（平成館）

20.　3.　20　外国人向観光体験コース（九条館、応挙館、本館）

20.　3.　21　東京のオペラの森2008　佐藤美枝子ソプラノリサイタル（平成館）

20.　3.　22　東京のオペラの森2008　秋場敬浩ピアノリサイタル（平成館）

20.　3.　23　東京のオペラの森2008　江口玲ピアノリサイタル（平成館）

20.　3.　24　特別展「国宝　薬師寺展」開会式及び特別内覧会（会期3月25日～6月8日）

20.　3.　25　石造バイラーヴァ立像展示記念式典　森元総理他

20.　3.　25　キューバ大使一行来館

（京都国立博物館）

年	月	日	記事
19.	4.	7	土曜講座（以後毎週土曜日実施）
19.	4.	12	鑑査会（以後毎月第2木曜日実施）
19.	4.	14	平常展無料観覧日（以後毎月第2，第4土曜日実施）
19.	4.	23	特別展覧会「金峯山埋経一千年記念　藤原道長－極めた栄華・願った浄土－」開会式及び特別内覧会（会期4月24日～5月27日）
19.	4.	27	「京都・らくご博物館【春】～春宵寄席～」（講堂）
19.	5.	18	国際博物館の日記念講演会（平常展無料観覧日）
19.	5.	19	土曜講座1600回記念・特別展覧会関連特別講座
19.	6.	18	普通救命講習
19.	6.	20	特集陳列「新収品展」（～7月29日）
19.	6.	26	文化財保存修理所運営委員会
19.	7.	11	第12回評議員会
19.	7.	12	消防訓練
19.	8.	1	夏期講座「文化の波及と変容」（～8月3日）
19.	8.	8	特集陳列「後宇多法皇入山700年記念　大覚寺の名宝」（～9月17日）
19.	8.	17	「京都・らくご博物館【夏】～納涼寄席～」（講堂）
19.	9.	15	バロック　コンサート（特別展示館）
19.	9.	17	平常展無料観覧日（敬老の日）
19.	10.	1	マナー講習会
19.	10.	8	留学生の日
19.	10.	9	産業医による職員対象の健康管理講習会
19.	10.	11	特集陳列「能楽と美術」（～11月11日）
19.	10.	15	特別展覧会「狩野永徳」開会式及び特別内覧会（会期10月16日～11月18日）
19.	10.	22	買取協議会
19.	10.	26	「京都・らくご博物館【秋】～栗名月の会～」（講堂）
			「狩野永徳」展入場者5万人セレモニー
19.	11.	3	国際シンポジウム「狩野永徳研究の現状と課題」開催
19.	11.	21	特集陳列「館蔵品のはじまり－京都博物館からの贈りもの－」（～12月24日）
19.	11.	24	関西文化の日（無料観覧日）（～11月25日）

20.　1.　2　新春特集陳列「社寺伝来の名刀」（～2月11日）

20.　1.　2　新春特集陳列「仏師　清水隆慶－老いらくのてんごう－」（～3月30日）

20.　1.　4　新春特別展覧会「修好通商条約締結150周年　憧れのヨーロッパ陶磁－マイセン・セーヴル・ミントンとの出会い」開会式及び特別内覧会（会期1月5日～3月9日）

20.　1.　11　チェンバロ　ミニコンサート（特別展示館）（～3月7日）

20.　1.　21　買取協議会

20.　1.　25　「京都・らくご博物館【冬】～新春寄席～」（講堂）

20.　1.　28　総合防火訓練

20.　2.　13　バレンタイン　コンサート（講堂）

20.　2.　23　特集陳列「雛まつりとお人形」（～3月30日）

20.　3.　17　第13回評議員会

20.　3.　21　スプリングオペラコンサート（特別展示館）（～3月22日）

（奈良国立博物館）

年	月	日	記事
19.	4.	6	特別展「神仏習合－〈かみ〉と〈ほとけ〉が織りなす信仰と美－」 開会式、特別招待日（会期4月7日～5月27日）
19.	4.	14	特別展「神仏習合－〈かみ〉と〈ほとけ〉が織りなす信仰と美－」特別鑑賞会
19.	4.	15	サンデートーク「奈良時代の神仏習合」
19.	4.	21	公開講座「神仏習合の論理と造像－インド・中国から日本へ」
19.	4.	28	公開講座「本地垂迹の美術」
19.	5.	5	平常展無料観覧日（こどもの日）
19.	5.	12	公開講座「黎明期の神像」
19.	5.	15	第1回陳列品鑑査会
19.	5.	18	平常展無料観覧日（国際博物館の日）
19.	5.	19	公開講座「中世神道と神道灌頂」
19.	5.	20	サンデートーク「聖地に宿る神仏」
19.	6.	8	特別陳列「古玩逍遥－服部和彦氏寄贈仏教工芸展－」プレスプレビュー （会期6月9日～7月8日）
19.	6.	17	サンデートーク「瓦経－土に刻まれたお経」
19.	6.	21	第1回評議員会
19.	6.	30	公開講座「密教法具入門」
19.	7.	10	青木文化庁長官視察
19.	7.	14	親と子のギャラリー「仏さまの彩り」（会期7月14日～8月19日）
19.	7.	14	特別陳列「文化庁購入文化財展　新たな国民のたから」「平城宮の木簡」 （会期7月14日～8月19日）
19.	7.	15	サンデートーク「近づいてみる色とりどりの世界」
19.	7.	21	国際研究集会「東アジアの墓葬と画像」
19.	7.	24	第2回陳列品鑑査会
19.	8.	1	奈良市教育委員会教職員研修
19.	8.	4	公開講座「座談　文化財修理40年－絵画・書跡－」
19.	8.	19	サンデートーク「モンゴルの月を仰いで－異文化交流の体験」
19.	8.	31	特別展「美麗　院政期の絵画」開会式、特別招待日（会期9月1日～9月30日）
19.	9.	4	第3回陳列品鑑査会、特別展「美麗　院政期の絵画」特別観賞会（9月5日まで）

19.　9.　8　賛助会員特別鑑賞会

19.　9.　15　公開講座「院政期の絵画　－色とかたち－」

19.　9.　16　サンデートーク「院政期の絵画・入門編」

19.　9.　17　平常展無料観覧日（敬老の日）

19.　9.　19　夏季講座「院政期絵画」（9月21日まで）

19.　9.　24　特別講座「香文化について」

19.　9.　27　秋季興福寺仏像仏画供養法要

19.　9.　29　公開講座「院政期の料紙装飾と文字の荘厳」

19.　10.　9　第4回陳列品鑑査会

19.　10.　17　第1回陳列品買取等協議会

19.　10.　18　国史館台湾文献館　林金田副館長来館

19.　10.　21　サンデートーク「仏像調査からわかること」

19.　10.　24　第1回陳列品買取等評価会

19.　10.　26　特別展「第59回正倉院展」開会式、特別招待日
（会期10月27日～11月12日）

19.　10.　27　公開講座「正倉院の文房四宝」

19.　10.　30　タクシーホテル関係者向け特別解説観覧「第59回正倉院展」

19.　11.　1　留学生の日「着物で正倉院展を見よう」

19.　11.　2　近藤元文化庁長官来館

19.　11.　2　賛助会員向け特別観覧「第59回正倉院展」

19.　11.　3　公開講座「正倉院事務所の仕事－受け継いできたもの、そして今」

19.　11.　9　なら燈花会in正倉院展2007（～11月10日）

19.　11.　9　雅楽の夕べ　管絃と舞楽

19.　11.　10　公開講座「シルクロードを駆け抜けた動物たち－正倉院宝物の動物文様」

19.　11.　10　陝西歴史博物館成建正館長招へい（～11月19日）

19.　11.　11　正倉院シンポジウム2007「守る・伝える　正倉院宝物」

19.　11.　17　平常展無料観覧日（関西文化の日）（～11月18日）

19.　11.　18　サンデートーク「法隆寺金堂西の間天蓋について」

19.　11.　22　平常展無料観覧日（いい夫婦の日）

19.　12.　7　特別陳列「おん祭りと春日信仰の美術」プレスプレビュー

（会期12月8日～20年1月20日）

19. 12. 16 サンデートーク「おん祭参観記」

19. 12. 22 高橋成典フルートコンサート

20. 1. 4 奈良国立博物館で初笑い

20. 1. 12 公開講座「社殿神楽と富田光美」

20. 1. 13 和太鼓演奏会

20. 1. 19 春日若宮おん祭の舞楽

20. 1. 20 サンデートーク「縄文との出会い」

20. 1. 25 消防訓練

20. 1. 30 福岡県議会文教委員会視察

20. 2. 1 特別陳列「お水取り」プレスプレビュー（会期2月2日～3月16日）

20. 2. 1 第5回陳列品鑑査会

20. 2. 3 平常展無料観覧日（節分の日）

20. 2. 5 第2回陳列品買取等協議会、第2回陳列品買取等評価会

20. 2. 16 お水取り「講話」と「粥」の会

20. 2. 17 サンデートーク「お水取り　存続の危機を超えて」

20. 2. 23 奈良市世界遺産学習実践研究会

20 2. 26 第6回陳列品鑑査会

20. 3. 2 公開講座「修二会について」

20. 3. 4 お水取り展観賞とお松明

20. 3. 11 第2回評議員会

20. 3. 14 燈火のあるカフェテラスライブ（～3月15日）

20. 3. 15 公開講座「座談　文化財修理40年　－彫刻－」

20. 3. 16 サンデートーク「仏教の説話絵」

20. 3. 21 第7回陳列品鑑査会

20. 3. 28 第3回陳列品買取等協議会、第3回陳列品買取等評価会

（九州国立博物館）

年	月	日	記　　事
19.	4.	1	文化交流展示室講座「文化交流展示室の歩き方」（以下、毎月開催、5月休講）
19.	4.	9	特別展「未来への贈りもの」開会式及び特別内覧会（会期4月10日～6月10日）
19.	4.	15	第34回きゅーはくミュージアムコンサート 「春爛漫ミュージアムジャズコンサート」
19.	4.	25	2007韓流文化フェスティバルin福岡「文化展示会」（～4月27日）
19.	4.	28	特別展「未来への贈りもの」関連講演会 （5月12日,5月19日,6月2日の合計4回実施）
19.	4.	29	九博ボランティア企画イベント「昭和からの贈りもの」（～5月5日）
19.	5.	3	第35回きゅーはくミュージアムコンサート「素敵な音楽物語Vol.2」
19.	5.	13	第6回九博朝日寄席「志ん生を語り継ぐ」
19.	5.	16	第1回陳列品鑑査会議
19.	5.	18	文化交流展（平常展）無料観覧日（国際博物館の日）
19.	5.	26	美術史学会全国大会（～5月27日）
19.	5.	28	普通救命講習
19.	6.	7	第1回買取協議会、買取評価会
19.	6.	9	ワークショップ「インドネシアのガムラン演奏体験」
19.	6.	10	印度仏教音楽の調べ　～こころがよろこぶおと～　コンサート
19.	6.	17	カンボジア観光大臣一行来館
19.	6.	24	第36回きゅーはくミュージアムコンサート「華麗なマリンバの音色に酔う」
19.	6.	30	第37回きゅーはくミュージアムコンサート「peace in love」
19.	7.	1	優優コンサート in きゅーはく
19.	7.	1	九博ボランティア企画イベント「親子で七夕まつり」
19.	7.	7	文化庁海外展記念「日本のやきもの」開会式及び特別内覧会 （会期7月7日～8月26日）
19.	7.	7	ワークショップ「インドネシアのガムラン演奏体験」
19.	7.	16	筑紫楽所「九州国立博物館公演」
19.	7.	21	第38回きゅーはくミュージアムコンサート・高崎裕士「和魂洋祭」
19.	7.	22	文化庁海外展記念「日本のやきもの」関連講演会 （8月4日,8月18日の合計3回実施）

19. 7. 28 山鹿の観光と物産展

19. 7. 29 太宰府市民吹奏楽団「まほろばコンサート」

19. 8. 1 絵本カーニバル「きゅうはくの絵本であそぼう」（～8月30日）

19. 8. 2 展示「博多祇園山笠飾り山」（～11月18日）

19. 8. 4 ワークショップ「つくってみよう☆わたしの掛け軸」（～8月5日）

19. 8. 6 第1回評議員会

19. 8. 18 第39回きゅーはくミュージアムコンサート
「大地からの贈り物」オカリナ＆ギターDuo

19. 8. 22 ミュージアムカフェ　ジャズ・ライヴ

19. 8. 24 アジア民族造形学会　創立10周年記念九州国際大会（～8月25日）

19. 8. 30 ピアノとヴァイオリンによる「小林正枝＆中島萌デュオコンサート」

19. 9. 1 やさしい能楽講座「能の世界へようこそ！」

19. 9. 1 福岡県江蘇省友好提携15周年記念展覧会「徐湖平中国画展」（～9月16日）

19. 9. 2 第40回きゅーはくミュージアムコンサート
「筑紫寿楽“和”　ジャズ　岩崎　大輔」

19. 9. 7 国際シンポジウム「第2回東アジア紙文化財修理シンポジウム」（～9月8日）

19. 9. 15 文化交流展（平常展）無料観覧日（敬老の日）

19. 9. 15 第7回九博朝日寄席「鮮やか！女流噺家三人衆」

19. 9. 16 第12回教育講座シリーズ・アジアージュ「王塚装飾古墳の謎」

19. 9. 21 特別展「本願寺展」開会式及び特別内覧会（会期9月22日～11月18日）

19. 9. 22 福岡県・インド デリー州友好提携記念事業「インドフェア」開催（～9月30日）

19. 10. 5 特別展「本願寺展」関連講演会（10月12日の合計2回実施）

19. 10. 7 第41回きゅーはくミュージアムコンサート「深沢功コントラバスコンサート」

19. 10. 23 「日替わり」足湯コーナー開設「温泉（ゆ）に浸り悠久の歴史に浸る」（～10月28日）

19. 10. 27 第13回教育講座シリーズ・アジアージュ
「北部九州地域における経塚と経筒」

19. 10. 28 特別展「本願寺展」落語のルーツは浄土真宗のお説教！？

19. 10. 31 天皇皇后両陛下文化交流展（平常展）等行幸啓

19. 11. 1 第2回陳列品鑑査会議

19. 11. 4 第42回きゅーはくミュージアムコンサート

「于波（ウハ）Fantastic Trio」

19.　11.　10　特別展「本願寺展」こころに響く浄土の調べ

19.　11.　11　第14回教育講座シリーズ・アジアージュ

「発掘調査からみた古代の大宰府」

19.　11.　18　国際シンポジウム「百済と古代東アジアの国際交流」

19.　11.　18　開館二周年記念「九博夜能」

19.　12.　2　国際シンポジウム「宗像・沖ノ島と関連遺産群　古代東アジアの交流」

19.　12.　4　九州地区伝統的工芸品のまつりを実施（～12月9日）

19.　12.　5　第3回陳列品鑑査会議

19.　12.　7　第2回買取協議会、買取評価会

19.　12.　8　ワークショップ「インドネシアのガムラン演奏体験」

19.　12.　9　第15回教育講座シリーズ・アジアージュ「朝鮮白磁の美と技」

19.　12.　11　American Winter Music Concert　ピアニスト　グスタボ・ロメロ

19.　12.　13　第16回教育講座シリーズ・アジアージュ「日本に伝来した朝鮮鐘」

19.　12.　15　国際シンポジウム朝鮮通信使400年記念シンポジウム「アジアのなかの日朝関係史」

19.　12.　22　「吉野ヶ里 Days in 九博」

19.　12.　24　第43回きゅーはくミュージアムコンサート「Christmas Special Live」

19.　12.　26　特別展「京都五山展」開会式及び特別内覧会（会期20年1月1日～2月24日）

20.　1.　3　九博ボランティア企画イベント「九博のお正月」（～1月5日）

20.　1.　6　九博朝日寄席「初笑い！　南喬・さん喬　二人会」

20.　1.　10　長崎の観光と物産展（～1月14日）

20.　1.　14　第44回きゅーはくミュージアムコンサート「悠久の響き～二胡のしらべ～」

20.　1.　14　特別展「京都五山展」関連講演会（1月14日，1月19日，1月20日，2月3日，2月9日の合計5回実施）

20.　1.　14　京都物産展

20.　1.　18　時空を翔るシルクロード・壱岐観光ＰＲ展

20.　1.　22　ひなの国フェスタ2008（～2月3日）

20.　1.　25　高島肇久外務省参与夫妻来館

20.　1.　31　第4回陳列品鑑査会議

20.　2.　10　第17回教育講座シリーズ・アジアージュ「九州陶磁の精華」

20.　2.　10　特別展「本願寺展」体験坐禅会（～2月11日）

20. 2. 11 第45回きゅーはくミュージアムコンサート
「日本の冬を奏でる～ ピアノと尺八の調べ ～」
20. 2. 12 防災訓練
20. 2. 13 第3回買取協議会、買取評価会
20. 2. 16 ワークショップ「インドネシアのガムラン演奏体験」
20. 2. 19 第5回陳列品鑑査会議
20. 2. 23 郷土芸能「九博で博多にわかば楽しみまっしょう」
20. 2. 27 第4回買取協議会、買取評価会
20. 3. 4 大川　建具・彫刻・創作家具「伝統と匠の技」展
20. 3. 7 第2回評議員会
20. 3. 13 駐福岡中国領事館武総領事一行来館
20. 3. 14 フォーラム「九州地域ブランドフォーラム」
20. 3. 16 第46回きゅーはくミュージアムコンサート「島風にのせて」金城安紀&カリー娘
20. 3. 16 第18回教育講座シリーズ・アジアージュ「国宝島津家文書の世界」
20. 3. 18 第6回陳列品鑑査会議
第5回買取協議会、買取評価会
20. 3. 20 フォーラム「3Dデジタルアーカイブと超高精細映像」
20. 3. 24 マサチューセッツ大学長一行来館

（東京文化財研究所）

年	月	日	記　　事
19.	4.	20	在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会（第1回）
19.	6.	1	在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会（第2回）
19.	7.	9	博物館・美術館等保存担当学芸員研修（～7月20日）
19.	7.	21	共催展「近代日本洋画の巨匠　黒田清輝展」（平塚市美術館）（～9月2日）
19.	9.	10	国際研修「漆の保存と修復」研修効果の評価セミナー（～9月14日）
19.	10.	29	保存担当学芸員フォローアップ研修
19.	10.	30	黒田記念館特別公開（～11月4日）
19.	11.	2	第41回オープンレクチャー「人とモノの力学」（～11月3日）
19.	11.	19	保存修復科学センター研究会「文化財の生物劣化対策の研究」
19.	12.	6	第21回国際文化財保存修復研究会「保存処置後のモニタリング」
19.	12.	7	第2回無形民俗文化財研究協議会
19.	12.	12	無形文化遺産部公開学術講座（国立文楽劇場）
19.	12.	21	在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会（第3回）
20.	1.	9	文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「リビング・ヘリテージの国際協力」
20.	1.	20	バーミヤーン遺跡保存事業に関する第6回専門家作業グループ国際会議・公開シンポジウム「バーミヤーン遺跡保存の現在」（～1月22日）
20.	1.	25	第21回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「航空機の保存と活用」
20.	2.	5	第31回文化財の保存・修復に関する国際研究集会「文化財を取り巻く環境の調査と対策」（～2月7日）
20.	2.	18	文化遺産国際協力コンソーシアム総会・シンポジウム「文化遺産の国際協力と人材育成」
20.	2.	27	第1回伝統的修復材料および合成樹脂に関する研究会「漆芸品に用いられた金属の劣化」
20.	3.	3	保存修復科学センター研究会「文化財の保存環境の研究」
20.	3.	12	第1回アジア無形文化遺産保護研究会（～3月13日）
20.	3.	12	アジア文化遺産国際会議（ウズベキスタン）（～3月14日）

（奈良文化財研究所）

年	月	日	記事
19.	4.	20	特別展「キトラ古墳壁画四神玄武」（飛鳥資料館）（会期4月20日～6月24日）
19.	5.	10	キトラ古墳壁画「玄武」特別公開内覧会（飛鳥資料館）（会期5月11日～5月27日）
19.	5.	20	記念講演会「キトラ古墳壁画四神玄武」（飛鳥資料館）
19.	5.	20	講演会「平城京寺院の造営－木簡からの考察」（平城宮跡資料館講堂）
19.	6.	1	速報展「奈良時代の霞ヶ関か－平城宮東方官衙の調査」（平城宮跡資料館） （会期6月1日～7月1日）
19.	6.	4	埋蔵文化財担当者研修「遺物観察調査課程」（～6月29日）
19.	6.	16	公開講演会（第100回）（平城宮跡資料館講堂） 「阿倍山田道と古代の道路」「年輪年代学とデジタル画像技術」「西大寺伽藍に迫る－最新の発掘調査成果から－」
19.	7.	9	埋蔵文化財担当者研修「文化財写真Ⅰ（基礎）課程」（～7月25日）
19.	7.	25	埋蔵文化財担当者研修「文化財写真Ⅱ（応用）課程」（～8月8日）
19.	8.	1	企画展「『とき』を撮す－発掘調査と写真－」（飛鳥資料館） （会期8月1日～9月2日）
19.	8.	7	速報展「西大寺薬師金堂の調査」（平城宮跡資料館）（会期8月7日～9月14日）
19.	8.	15	無料観覧日（飛鳥資料館）
19.	8.	18	ギャラリートーク（飛鳥資料館）
19.	9.	1	現地説明会「平城第421次（平城宮東院地区）発掘調査」
19.	9.	6	埋蔵文化財担当者研修「古代・中近世瓦調査課程」（～9月13日）
19.	9.	8	現地説明会「飛鳥藤原第148次（藤原宮大極殿院南門）発掘調査」
19.	9.	23	平城宮跡歴史文化講座（第3回）「長屋王家の木簡と貴族」（平城宮跡資料館講堂）
19.	10.	1	埋蔵文化財担当者研修「地方官衙遺跡調査課程」（～10月5日）
19.	10.	16	埋蔵文化財担当者研修「保存科学Ⅰ（無機質遺物）課程」（～10月24日）
19.	10.	19	特別展「奇偉荘厳　山田寺」（飛鳥資料館） （会期10月19日～11月25日）
19.	10.	20	公開講演会（第101回）（平城宮跡資料館講堂） 「版築の話」「キトラ古墳壁画の保存」「文化遺産としての風景の保存」
19.	10.	23	特別企画展「地下の正倉院展－平城宮木簡の世界」（平城宮跡資料館） （会期10月23日～12月16日）

19.　10.　24　埋蔵文化財担当者研修「保存科学Ⅱ（有機質遺物）課程」（～11月1日）

19.　10.　28　特別講演会「山田寺の発掘調査と重要文化財指定」（飛鳥資料館）

19.　11.　3　特別講演会「山田寺の建築を再考する」（飛鳥資料館）

19.　11.　3　無料観覧日（飛鳥資料館）

19.　11.　7　埋蔵文化財担当者研修「報告書作成課程」（～11月16日）

19.　11.　13　速報展「平城宮跡東院地区中枢部の調査」（平城宮跡資料館）
（会期11月13日～12月16日）

19.　11.　23　公開シンポジウム「出土文字資料研究の最前線－地下の正倉院文書を読む－」
（平城宮跡資料館講堂）

19.　11.　27　埋蔵文化財担当者研修「遺跡地図情報課程」（～11月30日）

19.　12.　10　埋蔵文化財担当者研修「測量外注課程」（～12月14日）

19.　12.　15　現地説明会「飛鳥藤原第150次（石神遺跡第20次）発掘調査」

20.　1.　4　企画展「飛鳥の考古学2007」（飛鳥資料館）（会期1月4日～2月3日）

20.　1.　15　埋蔵文化財担当者研修「遺跡整備活用課程」（～1月25日）

20.　1.　19　現地説明会「平城第423次（東院地区中枢部）発掘調査」

20.　1.　26　高松塚古墳シンポジウム（橿原文化会館大ホール）
「石室解体レポート」「パネルディスカッション」

20.　1.　27　平城宮跡歴史文化講座（第4回）「木簡からみた文字文化」（平城宮跡資料館講堂）

20.　1.　29　消防訓練及び救命講習

20.　2.　3　無料観覧日（飛鳥資料館）

20.　2.　4　埋蔵文化財担当者研修「竪穴建物遺構調査課程」（～2月8日）

20.　2.　9　巡回展示「絵でみる考古学－早川和子原画展」（飛鳥資料館）
（会期2月9日～3月2日）

20.　2.　21　埋蔵文化財担当者研修「地質環境調査課程」（～2月28日）

20.　2.　23　ギャラリートーク（飛鳥資料館）

20.　3.　18　速報展「藤原宮大極殿院南門出土地鎮具」（藤原宮跡資料室）
（会期3月18日～4月18日）

20.　3.　29　現地説明会「飛鳥藤原第151次（甘樫丘東麓遺跡）発掘調査」

20.　3.　30　現地説明会「平城第429次（東方官衙地区）発掘調査」

Ⅵ　運営委員・評議員・外部評価委員名簿及び組織図、役職員名簿

独立行政法人国立文化財機構運営委員会委員名簿

（平成20年3月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　　考
福　原　義　春	株式会社資生堂名誉会長	委員長
大　沼　　淳	学校法人文化学園理事長	副委員長
阿　部　充　夫	財団法人放送大学教育振興会会長	
石　澤　良　昭	上智大学長	
上　野　尚　一	朝日新聞社社主	
小　倉　和　夫	独立行政法人国際交流基金理事長	
佐　藤　宗　諄	長浜バイオ大学教授	
白　石　太一郎	奈良大学教授	
田　中　浩　二	九州旅客鉄道株式会社取締役会長	
千　野　忠　男	株式会社野村総合研究所顧問	
辻　　惟　雄	東京大学名誉教授	
辻　村　泰　善	財団法人元興寺文化財研究所理事長	
辻　村　哲　夫	独立行政法人国立美術館理事長	
中　島　史　子	フリーライター	
羽毛田　信　吾	宮内庁長官	
林　田　ス　マ	大野城市まどかぴあ男女平等推進センター所長	
福　田　正　己	アラスカ大学教授	
マリ・クリスティーヌ	異文化コミュニケーター	
冷　泉　為　人	財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長	

・各館の評議員会評議員名簿

東京国立博物館評議員会評議員名簿

（平成20年3月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　　考
大　沼　　淳	学校法人文化学園理事長	会長
辻　　惟　雄	東京大学名誉教授	副会長
青　柳　正　規	独立行政法人国立美術館国立西洋美術館長	
阿　部　充　夫	財団法人放送大学教育振興会会長	
浦　井　正　明	台東区文化財保護審議会委員	
大　橋　久　芳	台東区立忍岡中学校長	
齋　藤　順　治	東日本旅客鉄道株式会社上野駅長	
境　田　和　男	台東区立根岸小学校長	
城　　善　範	東京都立上野高等学校長	
千　野　忠　男	株式会社野村総合研究所顧問	
二　木　忠　男	上野観光連盟会長	
福　原　義　春	株式会社資生堂名誉会長	
牧　　美也子	漫画家	
マリ・クリスティーヌ	異文化コミュニケーター	
宮　田　亮　平	東京芸術大学長	
吉　住　　弘	台東区長	
林　原　行　雄	日興コーディアルグループ取締役	

京都国立博物館評議員会評議員名簿

（平成20年3月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　　考
興　膳　　宏	京都大学名誉教授	会長
嶋　崎　　丞	石川県立美術館長	副会長
荒　巻　禎　一	京都文化博物館長	
池　坊　由　紀	華道家元池坊次期家元	
岩　城　見　一	京都国立近代美術館長	
上　野　尚　一	朝日新聞社社主	
肥　塚　　隆	大阪人間科学大学及び大阪薫英女子短期大学学長	
佐　藤　茂　雄	京阪電気鉄道株式会社最高経営責任者	
竹　下　景　子	女優	
仲　田　順　和	総本山醍醐寺執行長	
藤　井　譲　治	京都大学大学院文学研究科教授	
星　川　茂　一	京都市副市長	
矢　嶋　英　敏	株式会社島津製作所代表取締役会長	
湯　山　賢　一	奈良国立博物館長	
冷　泉　為　人	財団法人冷泉家時雨亭文庫理事長	

奈良国立博物館評議員会評議員名簿

（平成20年3月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　　考
木　村　重　信	大阪大学名誉教授	会長
金　関　　恕	天理大学名誉教授	副会長
大　野　玄　妙	聖徳宗管長・法隆寺住職	
北　　啓　太	宮内庁正倉院事務所長	
佐々木　丞　平	京都国立博物館長	
田　辺　征　夫	奈良文化財研究所長	
辻　井　昭　雄	近畿日本鉄道株式会社取締役会長	
辻　村　泰　善	財団法人元興寺文化財研究所理事長	
中　島　史　子	フリーライター	
西　口　廣　宗	株式会社南都銀行取締役頭取	
丹　羽　雅　子	奈良女子大学名誉教授	
葉　室　頼　昭	春日大社宮司	
水　野　正　好	大阪府文化財センター理事長	
森　本　公　誠	東大寺長老	
山　崎　しげ子	随筆家	
矢和多　忠　一	奈良県教育委員会教育長	

九州国立博物館評議員会評議員名簿

（平成20年3月31日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　　考
田　中　浩　二	九州旅客鉄道株式会社取締役会長	会長
高　倉　洋　彰	西南学院大学教授	副会長
阿　川　佐和子	エッセイスト	
石　田　研　一	ＮＨＫ福岡放送局長	
井　上　保　廣	太宰府市長	
衛　藤　卓　也	福岡大学長	
海老井　悦　子	福岡県副知事	
王　　貞　治	福岡ソフトバンクホークス監督	
酒井田柿右衛門	陶芸作家	
坂　下　政　子	国際ソロプチミストアメリカ日本南リジョンガバナー	
高　良　倉　吉	琉球大学法文学部教授	
多　田　昭　重	株式会社西日本新聞社代表取締役社長	
西高辻　信　良	太宰府天満宮宮司	
林　田　ス　マ	大野城市まどかぴあ男女平等推進センター所長	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会委員名簿

（平成20年5月19日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　　考
清　水　眞　澄	成城大学学長	委員長
横　里　幸　一	ＮＨＫプロモーション代表取締役社長	副委員長
稲　田　孝　司	岡山大学名誉教授	
岡　本　健　一	毎日新聞社客員編集委員	
小　林　　忠	学習院大学文学部教授	
酒　井　忠　康	世田谷美術館長	
佐　藤　　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授	
園　田　直　子	国立民族学博物館文化資源研究センター教授	
竹　本　幹　夫	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長	
玉　蟲　敏　子	武蔵野美術大学造形学部教授	
野　口　　昇	日本ユネスコ協会連盟理事長	
藤　田　治　彦	大阪大学大学院教授	
藤　好　優　臣	公認会計士	
森　　弘　子	福岡県文化財保護審議会専門委員	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

博物館調査研究等部会委員名簿

（平成20年5月19日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
小　林　　忠	学習院大学文学部教授	部会長
酒　井　忠　康	世田谷美術館長	
藤　田　治　彦	大阪大学大学院教授	
森　　弘　子	福岡県文化財保護審議会専門委員	

独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会

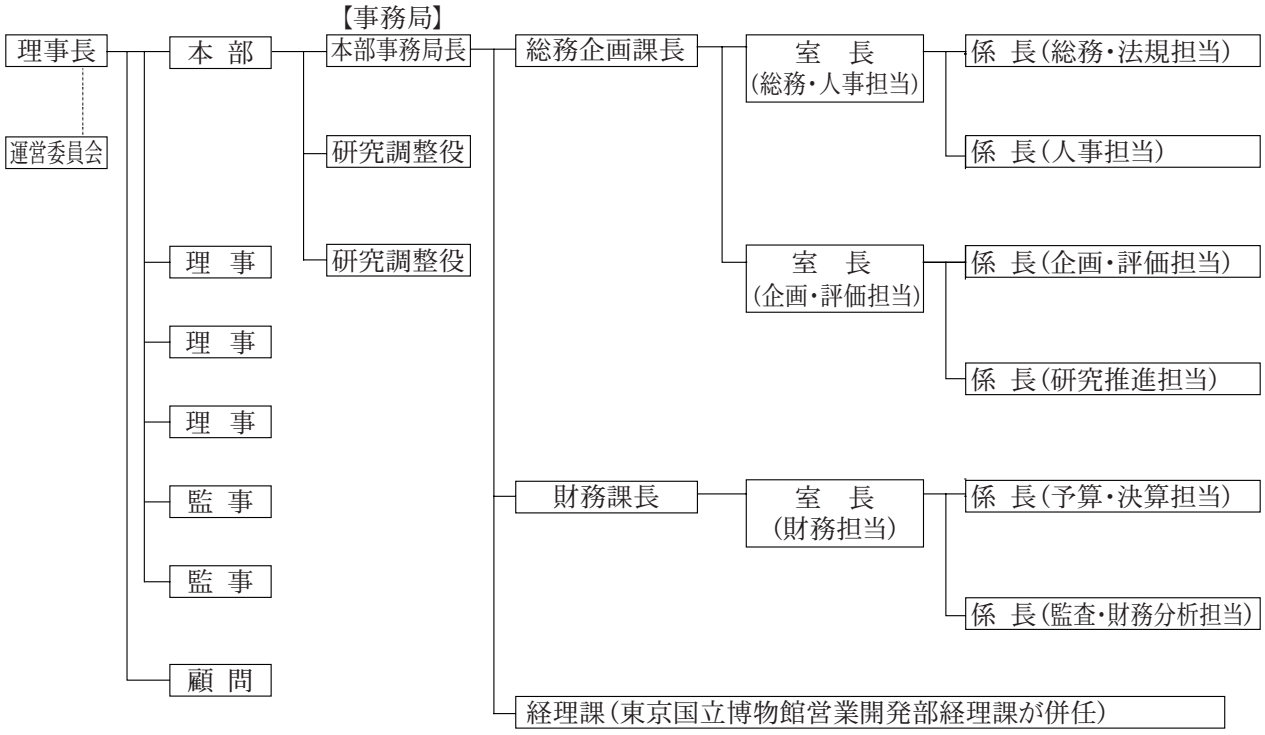
研究所調査研究等部会名簿

（平成20年5月19日現在、敬称略）

氏　　名	現　　職	備　考
佐　藤　　信	東京大学大学院人文社会系研究科教授	部会長
稲　田　孝　司	岡山大学名誉教授	
岡　本　健　一	毎日新聞社客員編集委員	
園　田　直　子	国立民族学博物館文化資源研究センター教授	
竹　本　幹　夫	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館長	
玉　蟲　敏　子	武蔵野美術大学造形学部教授	
野　口　　昇	日本ユネスコ協会連盟理事長	

◇組織

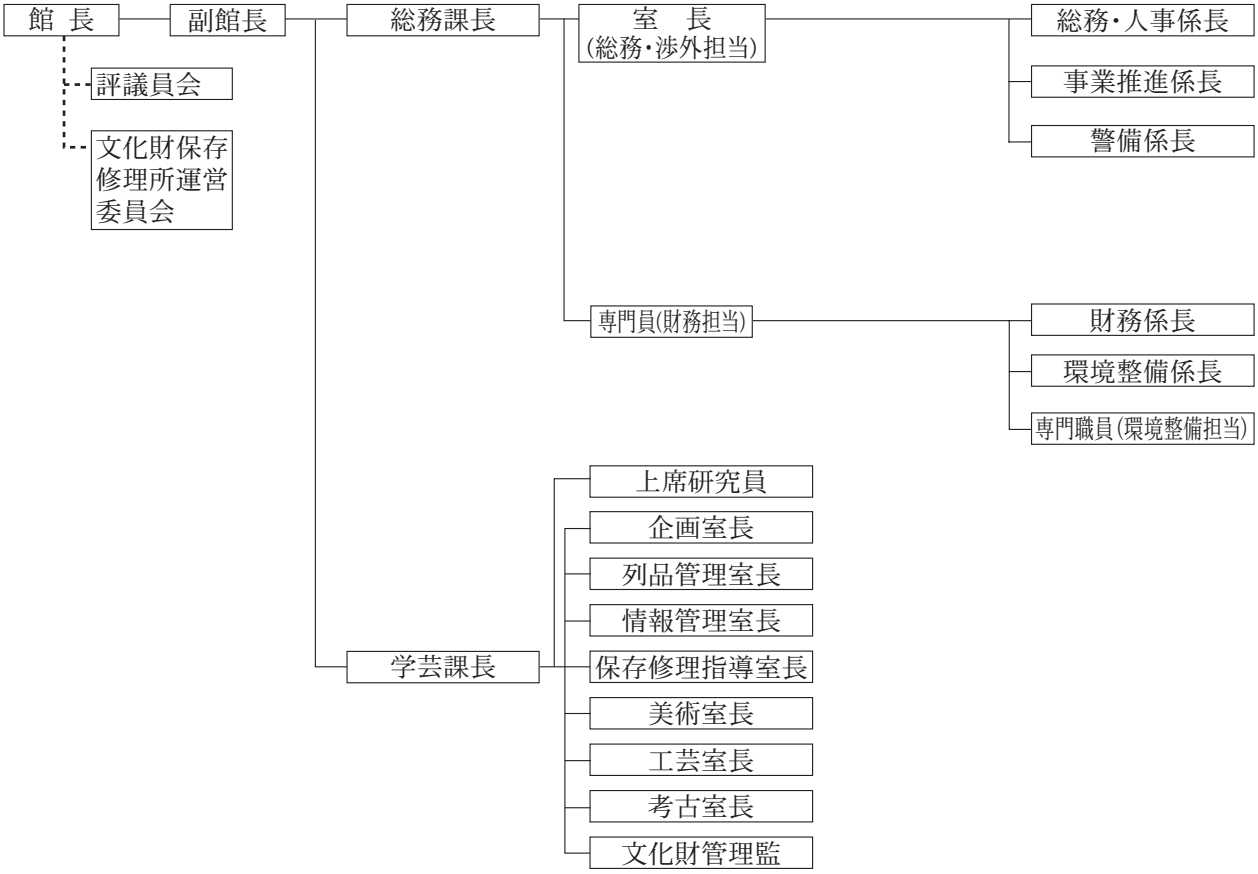
【独立行政法人国立文化財機構】



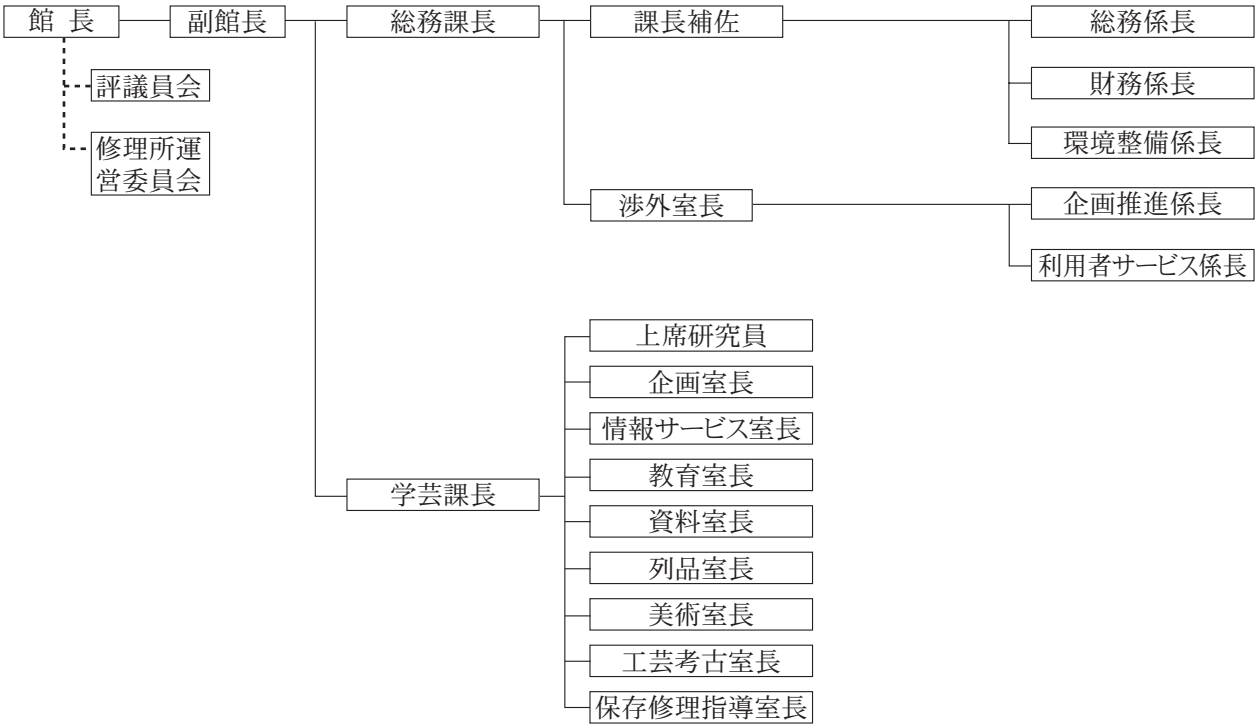
【東京国立博物館】

館　長
副館長
評議員会
営業開発部長
涉外課長
室　長
(涉外担当)
係　長(庶務担当)
係　長(涉外開発担当)
係　長(お客様担当)
お客様サービスセンター
専門職員(涉外担当)
経理課長
室　長
(経理・契約担当)
係　長(経理担当)
係　長(契約担当)
専門職員(共済担当)
環境整備室長
(環境整備担当)
係　長(環境整備担当)
係　長(設備担当)
事業部長
事業企画課長
特別展室長
デザイン室長
出版企画室長
国際交流室長
教育普及課長
教育普及室長
教育講座室長
ボランティア室長
情報課長
情報管理室長
図書・映像サービス室長
広報室長
文化財部長
展示課長
平常展室長
映像作製室長
列品課長
登録室長
列品室長
保存修復課長
環境保存室長
保存修復室長
上席研究員
研究員

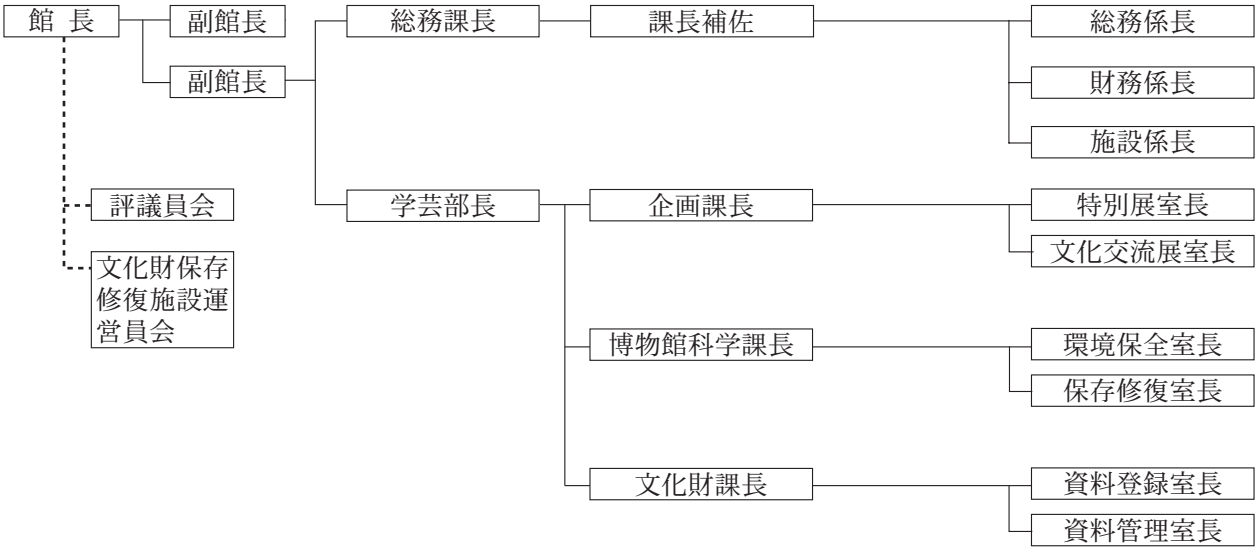
【京都国立博物館】


館　長
副館長
評議員会
文化財保存修理所運営委員会
総務課長
室　長
(総務・渉外担当)
総務・人事係長
事業推進係長
警備係長
専門員(財務担当)
財務係長
環境整備係長
専門職員(環境整備担当)
学芸課長
上席研究員
企画室長
列品管理室長
情報管理室長
保存修理指導室長
美術室長
工芸室長
考古室長
文化財管理監

【奈良国立博物館】



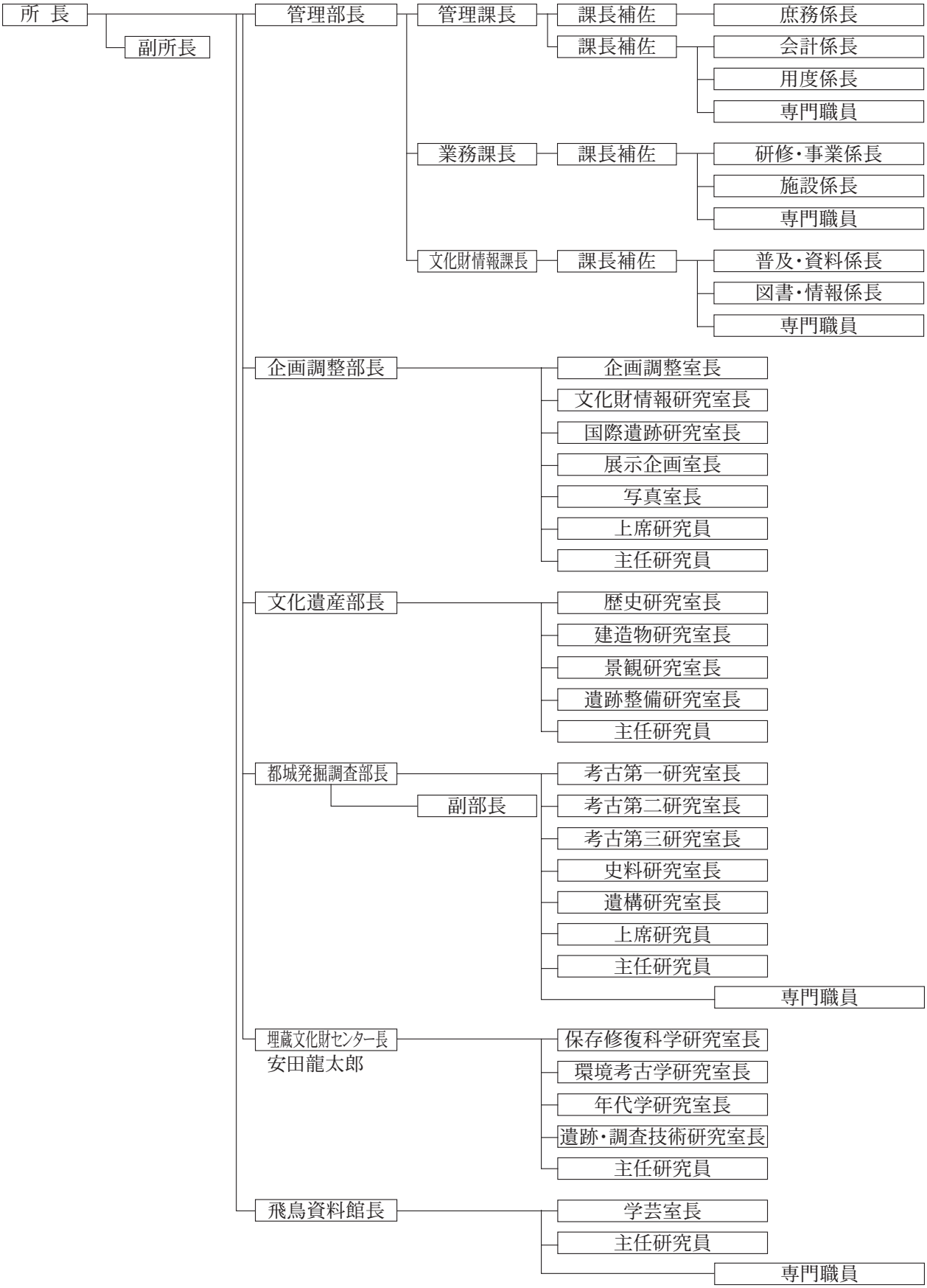
【九州国立博物館】



【東京文化財研究所】

所　長
副所長
管理部長
管理室長
庶務係長
企画渉外係長
会計係長
企画情報部長
情報システム研究室長
文化財アーカイブズ研究室長
文化形成研究室長
近・現代視覚芸術研究室長
広領域研究室長
主任研究員
無形文化遺産部長
無形文化財研究室長
無形民俗文化財研究室長
音声・映像記録研究室長
主任研究員
保存修復科学センター長
副センター長
保存科学研究室長
分析科学研究室長
生物科学研究室長
修復材料研究室長
伝統技術研究室長
近代文化遺産研究室長
主任研究員
文化遺産国際協力センター長
国際企画情報研究室長
保存計画研究室長
地域環境研究室長
主任研究員
国際遺跡研究室長

【奈良文化財研究所】


所 長
副所長
管理部長
管理課長
課長補佐
庶務係長
課長補佐
会計係長
用度係長
専門職員
業務課長
課長補佐
研修・事業係長
施設係長
専門職員
文化財情報課長
課長補佐
普及・資料係長
図書・情報係長
専門職員
企画調整部長
企画調整室長
文化財情報研究室長
国際遺跡研究室長
展示企画室長
写真室長
上席研究員
主任研究員
文化遺産部長
歴史研究室長
建造物研究室長
景観研究室長
遺跡整備研究室長
主任研究員
都城発掘調査部長
副部長
考古第一研究室長
考古第二研究室長
考古第三研究室長
史料研究室長
遺構研究室長
上席研究員
主任研究員
専門職員
埋蔵文化財センター長
安田龍太郎
保存修復科学研究室長
環境考古学研究室長
年代学研究室長
遺跡・調査技術研究室長
主任研究員
飛鳥資料館長
学芸室長
主任研究員
専門職員

附属資料

事　業　実　績　統　計　表

独立行政法人国立文化財機構

平成19年度事業実績統計表（抜粋版）

１．歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

⑴　収蔵品

①　平成19年度新収品一覧表…… 1

②　収蔵品一覧表…… 2

⑵　寄託品

①　寄託品増減表…… 5

②　寄託品一覧表…… 6

③　登録美術品一覧表…… 7

⑶　修理

①　修理件数…… 8

２．文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

⑴　展示の充実

①　入館者数　（P200◎共通資料ｄ①）

②　入館者数（過去５ヵ年）　（P201◎共通資料ｄ②）

③　入場料収入　（P203◎共通資料ｄ③）

④　平常展・特別展　（P204◎共通資料ｄ④）

⑵　歴史・伝統文化の理解促進

①　学習機会の提供（過去５ヵ年実績）…… 10

②　児童生徒を対象とした教育普及事業…… 12

③　大学等との連携…… 19

④　講座・講演会等の開催実績…… 27

⑤　ギャラリートーク実施状況…… 37

⑥　ボランティア受入れ実績　（P195◎共通資料ｂ）

⑦　友の会…… 43

⑧　賛助会…… 44

⑨　渉外活動…… 45

３．我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

⑴　収蔵品等に関する調査研究成果の発信

①　研究交流実績一覧　（P81◎共通資料a①）

②　学会等発表実績一覧　（P141◎共通資料a③）

③　論文等発表実績一覧　（P157◎共通資料a④）

④　調査研究刊行物一覧　（P181◎共通資料a⑤）

⑵　公私立博物館等への貸与の推進

①　公私立博物館等への収蔵品貸与件数…… 66

②　海外への列品貸与…… 67

③　考古の相互貸借実績…… 70

⑶　公私立博物館等に対する援助・助言の推進

①　公私立博物館等に対する援助・助言…… 70

４．文化財に関する調査及び研究の推進
⑴　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進
①　調査研究テーマ一覧　（P133◎共通資料ａ②）
②　論文等発表実績一覧　（P157◎共通資料ａ④）
③　学会、研究会等発表実績一覧　（P141◎共通資料ａ③）
⑵　文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進
①　調査研究テーマ一覧　（P133◎共通資料ａ②）
②　論文等発表実績一覧　（P157◎共通資料ａ④）
③　学会、研究会等発表実績一覧　（P141◎共通資料ａ③）
⑶　文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進
①　調査研究テーマ一覧　（P133◎共通資料ａ②）
②　論文等発表実績一覧　（P157◎共通資料ａ④）
③　学会、研究会等発表実績一覧　（P141◎共通資料ａ③）
⑷　国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施
①　調査研究テーマ一覧　（P133◎共通資料ａ②）
②　論文等発表実績一覧　（P157◎共通資料ａ④）
③　学会、研究会等発表実績一覧　（P141◎共通資料ａ③）
⑸　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究
①　調査研究テーマ一覧　（P133◎共通資料ａ②）
②　科学研究費補助金による調査研究　（P185◎共通資料ａ⑥）
③　客員研究員一覧　（P190◎共通資料ａ⑦）

５．文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
⑴　文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究
①　調査研究テーマ一覧　（P133◎共通資料ａ②）
②　国際ワークショップ開催実績一覧…… 72
③　論文等発表実績一覧　（P157◎共通資料ａ④）
④　学会、研究会等発表実績一覧　（P141◎共通資料ａ③）
⑵　諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転とアジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業及び人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発
①　調査研究テーマ一覧　（P133◎共通資料ａ②）
②　アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況…… 73

６．情報発信機能の強化
⑴　ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備・充実と文化財情報の計画的収集・整理・保管及び文化財に関する専門的アーカイブの拡充
①　文化財関係資料及び図書の受入件数…… 73
⑵　文化財に関する調査・研究の成果について、定期刊行物の発行及び公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等の開催と広報のためのホームページの充実
①　調査研究刊行物一覧　（P181◎共通資料ａ⑤）
②　公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催実績一覧…… 74
③　ホームページアクセス件数　（P199◎共通資料ｃ）

⑶　黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示公開
①　入館者数　(P200◎共通資料ｄ①)
②　入館者数（過去５ヵ年）　(P201◎共通資料ｄ②)
③　入場料収入　(P203◎共通資料ｄ③)
④　平常展・特別展　(P204◎共通資料ｄ④)
⑷　文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力・事業の運営と各種ボランティア支援
①　ボランティア受入れ実績　(P195◎共通資料ｂ)
⑸　文化財情報・研究成果の促進
①　ウェブサイトのアクセス件数　(P199◎共通資料ｃ)
②　情報資料の収集…… 78

７．地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上
①　国・地方公共団体の協力等に対する専門的・技術的な協力・助言…… 79
②　専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果…… 79

◎共通資料
ａ．調査研究
①　研究交流実績一覧…… 81
②　調査研究テーマ一覧…… 133
③　学会、研究会等発表実績一覧…… 141
④　論文等発表実績一覧…… 157
⑤　調査研究刊行物一覧…… 181
⑥　科学研究費補助金による調査研究…… 185
⑦　客員研究員一覧…… 190

ｂ．ボランティア受入れ実績…… 195

ｃ．ウェブサイト（ホームページ）のアクセス件数…… 199

ｄ．展示
①　入館者数…… 200
②　入館者数（過去５ヵ年）…… 201
③　入場料収入…… 203
④　平常展・特別展
【東京国立博物館】…… 204
【京都国立博物館】…… 227
【奈良国立博物館】…… 229
【九州国立博物館】…… 231
（参考）
【平城宮跡資料館】…… 233
【藤原宮跡資料室】…… 233
【飛鳥資料館】…… 233

１．歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

⑴　収蔵品

①　平成19年度新収品一覧表

平成20年３月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計		972			850			66			4			52		
計		93	68	811	13	26	811	36	30	0	2	2	0	42	10	0
絵画		21	16	0	6	1	0	7	15	0	1	0	0	7	0	0
書跡		5	2	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	2	0	0
彫刻		2	8	0	0	6	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0
建築		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
金工		3	11	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	2	1	0
刀剣		1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
陶磁		14	1	0	1	0	0	3	1	0	0	0	0	10	0	0
漆工		20	1	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	15	0	0
染織		20	4	0	2	1	0	17	2	0	0	0	0	1	1	0
考古		6	2	1	1	0	1	2	0	0	0	1	0	3	1	0
民族資料		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
歴史資料		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	0	0	0	0	0	0									
	書跡	0	0	0	0	0	0									
	彫刻	0	0	0	0	0	0									
	金工	0	1	0	0	1	0									
	陶磁	0	12	0	0	12	0									
	漆工	0	1	0	0	1	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	1	3	1	1	3	1									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品		0	0	809	0	0	809									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
＊16年度より15年度以降の「歴史資料」と分類していたものを「和書」と「歴史資料」に分け表示している。
＊平成19年４月１日付けで黒田記念館収蔵品が東京文化財研究所から東京国立博物館に移管となった。

② 収蔵品一覧表

平成20年３月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合　計	120,952	129	919	112,439	87	619	6,386	27	177	1,794	12	99	333	3	24
絵　画	13,283	34	191	11,081	20	97	1,868	9	54	282	4	36	52	1	4
書　跡	3,131	34	163	1,690	14	57	1,292	15	77	127	4	25	22	1	4
彫　刻	1,384	1	43	1,098	0	20	131	0	1	140	1	16	15	0	6
建　築	77	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	2	0	1
金　工	16,357	3	53	15,828	1	17	360	2	23	157	0	11	12	0	2
刀　剣	3,413	20	56	3,392	19	56				16	0	0	5	1	0
陶　磁	3,727	0	16	2,931	0	11	694	0	2	81	0	0	21	0	3
漆　工	4,116	6	26	3,727	4	18	176	0	2	65	2	4	148	0	2
染　織	4,593	2	24	3,612	0	17	885	1	6	92	1	1	4	0	0
考　古	29,902	4	72	28,496	4	55	651	0	10	728	0	6	27	0	1
民族資料	1,298	0	0	1,189	0	0	0	0	0	101	0	0	8	0	0
歴史資料	2,951	0	3	2,657	0	1	280	0	1	0	0	0	14	0	1
和　書	17,562	0	1	17,562	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋 絵　画	649	4	31	649	4	31									
東洋 書　跡	1,644	10	12	1,644	10	12									
東洋 彫　刻	797	0	20	797	0	20									
東洋 金　工	986	0	0	986	0	0									
東洋 陶　磁	3,001	0	10	3,001	0	10									
東洋 漆　工	524	0	4	524	0	4									
東洋 染　織	585	0	1	585	0	1									
東洋 考　古	5,806	0	3	5,806	0	3									
東洋 民　族	3,458	0	0	3,458	0	0									
法隆寺献納宝物	321	11	181	321	11	181									
黒田記念館収蔵品	809	0	2	809	0	2									
準歴史資料(含和書)	575	0	5	575	0	5									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

＊列品に編入されていない資料については「準歴史資料（含和書)」の項目に記し、列品化整理中の資料とを分けて表示。

＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせることとした（このほか東京国立博物館には建造物の重要文化財が５件ある)。

（参考）

【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）　　平成20年３月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
［文化遺産部］	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,000枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,000枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	1,195点
棚田嘉十郎関係資料	20点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎資料関係	7箱
［都城発掘調査部（平城地区）］	
平城宮跡大膳職推定地出土木簡（重要文化財）	39点
平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡（重要文化財）	1,785点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	28,840箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	29,664点
平城宮・京出土瓦類	482,216点
平城宮・京出土木簡	171,000点
［都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）］	
軒丸瓦・軒平瓦	33,715点
丸瓦・平瓦　　土嚢袋	167,035袋
丸瓦・平瓦　　整理箱	36,185箱
土器　　整理箱	15,140箱
土製品	13,190点
木器・木製品	32,400点
木簡	35,092点
建築部材	2,905点
金属製品	19,559点
石器・石製品	13,726点
漏刻復原模型	1点
山田寺金堂軒先復原模型	1点
古代飛鳥の模型（台付き）	1点
著墓の戦いの模型（台付き）	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
山田寺灯籠復原模型	1点
七世紀の武人復原模型	一式
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
［飛鳥資料館］	
高松塚古墳出土品（海獣葡萄鏡　銀製太刀金具　棺金具　ガラス小玉漆塗り木棺）	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（飛鳥藤原宮跡発掘調査部所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点

水落遺跡水時計復元模型	1点
猿石模刻	1点
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂1/10模型	1点
飛鳥藤原京1/1000模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
［埋蔵文化財センター］	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	
東貝塚	
室浜貝塚	
福浦島貝塚	
里浜貝塚	
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式

⑵ 寄託品

① 寄託品増減表

平成20年３月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	18年度	19年度	増減	18年度	19年度	増減	18年度	19年度	増減	18年度	19年度	増減	18年度	19年度	増減
合計	12,415	12,045	△ 370	2,773	2,743	△ 30	6,179	6,154	△ 25	1,957	2,057	100	1,506	1,091	△ 415
絵画	3,295	3,296	1	432	426	△ 6	2,057	2,070	13	577	578	1	229	222	△ 7
書跡	1,927	1,980	53	490	481	△ 9	961	959	△ 2	312	415	103	164	125	△ 39
彫刻	814	761	△ 53	142	140	△ 2	250	250	0	368	365	△ 3	54	6	△ 48
建築	4	4	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0
金工	933	927	△ 6	167	167	0	497	493	△ 4	249	249	0	20	18	△ 2
刀剣	260	259	△ 1	226	224	△ 2			0	34	34	0	0	1	1
陶磁	1,306	1,363	57	143	139	△ 4	852	813	△ 39	11	11	0	300	400	100
漆工	843	788	△ 55	143	144	1	482	481	△ 1	107	105	△ 2	111	58	△ 53
染織	937	710	△ 227	74	74	0	544	542	△ 2	47	47	0	272	47	△ 225
考古	1,050	948	△ 102	156	157	1	488	498	10	217	218	1	189	75	△ 114
民族資料	120	121	1	5	5	0	0	0	0	6	6	0	109	110	1
歴史資料	130	102	△ 28	0	0	0	44	44	0	29	29	0	57	29	△ 28
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	0	△ 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	△ 1
東洋 絵画	144	140	△ 4	144	140	△ 4									
東洋 書跡	28	28	0	28	28	0									
東洋 彫刻	17	18	1	17	18	1									
東洋 金工	1	1	0	1	1	0									
東洋 陶磁	76	75	△ 1	76	75	△ 1									
東洋 漆工	26	26	0	26	26	0									
東洋 染織	8	8	0	8	8	0									
東洋 考古	495	490	△ 5	495	490	△ 5									
東洋 民族	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

②　寄託品一覧表

平成20年３月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合　計	12,045	191	1,190	2,743	53	264	6,154	83	605	2,057	55	319	1,091	0	2
絵　画	3,296	54	398	426	12	72	2,070	28	224	578	14	102	222	0	0
書　跡	1,980	63	278	481	12	30	959	39	211	415	12	36	125	0	1
彫　刻	761	15	218	140	1	41	250	2	72	365	12	105	6	0	0
建　築	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
金　工	927	13	89	167	5	17	493	1	41	249	7	31	18	0	0
刀　剣	259	10	70	224	8	57				34	2	13	1	0	0
陶　磁	1,363	0	4	139	0	2	813	0	1	11	0	0	400	0	1
漆　工	788	12	47	144	5	16	481	4	9	105	3	22	58	0	0
染　織	710	7	29	74	2	4	542	3	24	47	2	1	47	0	0
考　古	948	13	35	157	4	12	498	6	14	218	3	9	75	0	0
民族資料	121	0	0	5	0	0	0	0	0	6	0	0	110	0	0
歴史資料	102	0	9	0	0	0	44	0	9	29	0	0	29	0	0
和　書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋 絵　画	140	2	9	140	2	9									
東洋 書　跡	28	1	1	28	1	1									
東洋 彫　刻	18	0	0	18	0	0									
東洋 金　工	1	0	1	1	0	1									
東洋 陶　磁	75	1	0	75	1	0									
東洋 漆　工	26	0	2	26	0	2									
東洋 染　織	8	0	0	8	0	0									
東洋 考　古	490	0	0	490	0	0									
東洋 民　族	0	0	0	0	0	0									

＊京都国立博物館・奈良国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。

＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせることとした。

③　登録美術品一覧表

平成20年３月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合　　計	6	0	3	3	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0
絵　　画	2	0	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書　　跡	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
彫　　刻	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
染　　織	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

⑶　修理

①　修理件数

		東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
計		101(0/36)	15	10	22
絵画		12	7	2	3
書跡		7	5	2	1
彫刻		1	1	1	1
建築		0	0	0	1
金工		1	0	1	0
刀剣		3	0	0	8
陶磁		1	1	0	0
漆工		2	0	0	3
染織		4	1	0	0
考古		51(0/36)	0	4	2
歴史資料		4	0	0	3
和書		1	0	0	0
民族資料		1	0	0	0
東洋	絵画	0			
	書跡	2			
	彫刻	0			
	金工	0			
	陶磁	1			
	漆工	1			
	染織	2			
	考古	6			
	民族	0			
法隆寺献納宝物		0			
黒田記念館収蔵品		0			
館史資料(収蔵品外)		1			

※東京国立博物館（　）内は九州国立博物館経費 / 考古相互貸借経費

２．文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

⑴　展示の充実

①　入館者数

（後述の資料に記載）◎共通資料ｄ①

②　入館者数（過去５ヵ年）

（後述の資料に記載）◎共通資料ｄ②

③　入場料収入

（後述の資料に記載）◎共通資料ｄ③

④　平常展・特別展

（後述の資料に記載）◎共通資料ｄ④

⑵　歴史・伝統文化の理解促進

①　学習機会の提供（過去５ヵ年実績）

	15年度	16年度	17年度	前中期目標期間（13～17年度）の平均値	18年度	19年度
○情報及び資料の収集 東京国立博物館 公開件数（利用者数）	8,515件（写真原版） 4,374人	7,162件（写真原版） 4,288人	5,432件（写真原版） 3,769人	7,423件（写真原板） 4,135人	4,472件（写真原版） 2,920人	3,640件（写真原版） 3,134人
○ホームページのアクセス件数						
東京国立博物館	2,001,279件	2,209,800件	2,923,564件	1,928,966件	3,680,028件	5,504,468件
京都国立博物館	680,652件	499,248件	572,936件	521,965件	757,812件	733,885件
奈良国立博物館	721,878件	783,487件	986,133件	670,948件	1,249,608件	1,402,834件
九州国立博物館	－	－	5,017,378件	5,017,378件	7,118,540件	5,943,616件
○デジタル化件数						
東京国立博物館						
画像	20,000枚	9,589枚※	20,556枚	18,829枚	4,472枚	124,996枚
文字	3,847,179字	0字※	6,957,789字	4,276,549字	500,000字	553,000字
京都国立博物館	8,498件	7,239件	5,568件	4,359件	6,169件	8,047件
奈良国立博物館	9,638件	9,810件	3,755件	8,471件	3,830件	4,584件
九州国立博物館	－	－	1,890件	1,890件	1,986件	3,295件
○講演会等の回数						
東京国立博物館						
①講演会				30回 7,339人	30回 6,542人 78.37%	24回 4,770人 79%
（内訳）						
・月例講演会等	21回	12回	13回	14回	12回	12回
	3,988人	2,157人	3,092人	2,602人	1,612人	1,304人
アンケート結果	83%	83%	80%	81%	73%	82%
・記念講演会	12回	15回	10回	12回	11回	6回
	4,379人	4,051人	3,136人	3,891人	3,519人	1,869人
アンケート結果	78%	82%	86%	80%	81%	81%
・テーマ別講演会	－	4回	4回	4回	4回	4回
	－	731人	960人	846人	958人	908人
アンケート結果	－	84%	86%	85%	87%	69%
・特別講演会	－	－	－	－	3回	2回
	－	－	－	－	453人	689人
アンケート結果	－	－	－	－	80%	－
②連続講座（17年度までは夏期講座）	2日	2日	3日	2日	3日	3日
	211人	206人	354人	248人	325人	288人
アンケート結果	73%	92%	84%	82%	83%	77%
③公開講座	12回	10回	10回	12回	26回	16回
	－	－	－	－	1,113人	2,369人
アンケート結果	92%	94%	87%	90%	85%	72%
④列品解説（ギャラリートーク等）	43回	41回	41回	43回	41回	101回
	3,581人	3,088人	3,286人	3,328人	3,055人	3,934人
⑤教育的イベント	－	－	－	－	5回	56回
	－	－	－	－	6,525人	1,501人
京都国立博物館						
①土曜講座	46回	46回	44回	46回	47回	45回
	4,975人	5,074人	4,975人	4,989人	4,827人	4,329人
アンケート結果	85%	86%	87%	84%	84%	81%
②夏期講座	3日	3日	3日	3日	3日	3日
	374人	185人	184人	192人	153人	160人
アンケート結果	80%	94%	91%	86%	94%	88%
奈良国立博物館						
①特別展等講座	12回	20回	19回	16回	12回	15回
	1,816人	2,867人	2,947人	2,263人	1,586人	1,943人
アンケート結果	78%	－	82%	85%	86.3%	87.0%
②夏期講座	3日	3日	3日	3日	3日	3日
	374人	331人	434人	328人	486人	358人
アンケート結果	80%	－	82.5%	81%	93%	84%
③ギャラリートーク	15回	16回	16回	16回	12回	12回
	695人	893人	692人	951人	671人	648人
九州国立博物館						
①開館記念講演及びシンポジウム	－	－	4回	4回	6回	1回
	－	－	1,350人	1,350人	1,280人	316人
アンケート結果	－	－	－%	－%	－%	－%

	15年度	16年度	17年度	前中期目標期間（13～17年度）の平均値	18年度	19年度
②特別展記念講演会	－	－	２回	２回	12回	７回
	－	－	550人	550人	2,153人	1,892人
アンケート結果	－	－	－％	－％	－％	－％
③特別展連続講座	－	－	４回	４回	０回	０回
	－	－	595人	595人	－人	－人
アンケート結果	－	－	第４回 81.3％	81.3％	－％	－％
④ミュージアム講座	－	－	３回	３回	11回	11回
（教育講座アジアージュ）	－	－	349人	349人	1,255人	640人
アンケート結果	－	－	第３回 86.9％	86.9％	－％	－％
⑤ミュージアムトーク	－	－	66回	66回	47回	42回
	－	－	2,411人	2,411人	1,806人	1,320人
○友の会会員を中心とした講演会						
東京国立博物館	２回	３回	６回	３回	１回	１回
奈良国立博物館	１回	１回	１回	１回	１回	１回
○大学生等の受入件数						
奈良国立博物館						
①放送大学の面接授業	６回 各150名	６回 各150名	４回 各170名	４回 154人	２回 160人	２回 150人
②奈良女子大学との連携講座	大学院生３人	大学院生７人	大学院生１人	大学院生３人	大学院生２人	216人
③神戸大学との連携講座	－	－	大学院生６人	大学院生６人	大学院生２人	10人
九州国立博物館						
①放送大学の面接授業	－	－	－	－	２回 50人	２回 34人
○公私立博物館・美術館等への援助・助言回数						
東京国立博物館	47件	51件	45件	40件	56件	124件
京都国立博物館	５件	９件	32件	12件	28件	81件
奈良国立博物館	２件	２件	３件	５件	７件	５件
九州国立博物館	－	16件	46件	12件	57件	38件

※平成16年度東京国立博物館実績の文字データについてはデジタル化する形式を見直し、既存のSGMLデータすべてについて、現行通用するXMLデータに変換する作業を行ったため、文字のデジタル化は行わなかった。

② 児童生徒を対象とした教育普及事業

【東京国立博物館】

1）みどりのライオンプロジェクト

「博物館のおもちゃ箱」	
開催期間	４月17日～
開催場所	表慶館「出会いの間」「体験の間」「対話の間」「創作の間」「探求の間」
入場者数	130,490人
担当研究員数	７人
事業内容	みんなで楽しむ教育普及スペース・表慶館「みどりのライオン」を開設。パネル展示により館全体のガイダンス機能をもたせるとともに、各種レクチャーや体験型プログラム、製作工程模型展示などを児童生徒から一般まで幅広い層に向けて展開。博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育普及活動を実施した。

2）「親と子のギャラリー」

「博物館のおもちゃ箱」		
開催期間	７月３日～９月24日（75日間）	
開催場所	本館14室	
入場者数	90,350人（本館入館者数）	
担当研究員数	３人	
事業内容	夏休み恒例の「親と子のギャラリー」として､収蔵品の中から「おもちゃ」や「ゲーム」など遊びに関連する作品を展示し、遊びながら博物館構内を回れる「オリジナル東博すごろく」（裏面は絵双六甲冑着用備双六の複製）を配布し､平常展示に親しみをもって接することのできる鑑賞方法を提案した。	
ワークショップ及び関連事業	ハンズ・オン体験コーナー「昔のゲームを楽しもう！」（申込不要）	
	期　　間	７月３日～９月24日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	8,363人
	担当研究員数	３人
ワークショップ及び関連事業	ハンズ・オン体験コーナー「東博かるたコンクール」（申込不要）	
	期　　間	７月３日～９月24日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	8,363人
	担当研究員数	３人
ワークショップ及び関連事業	イブニング・ワークショップ「オリジナル貝合せを作ってみよう」（申込不要）	
	期　　間	８月10日、８月17日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	320人
	担当研究員数	３人
ワークショップ及び関連事業	ワークショップ「動くおもちゃ自在エビを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	８月11日、８月12日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「創作の間」
	参加者数	46人（18組）
	担当研究員数	３人

「版でつくる」		
開催期間	11月27日～12月24日（20日間）	
開催場所	本館特別２室	
入場者数	38,830人（本館入館者数）	
担当研究員数	３人	
事業内容	平安時代の印仏や南北朝時代の木版刷りの曼荼羅、古筆や料紙装飾、江戸時代の浮世絵など、版で表現された作品を集め、その多様な展開を概観できるようにした。展示にあわせたハンズオン体験コーナーを設け、版でつくる楽しさを体験し、版画についての理解を深めるワークショップやアクティビティも実施した。	
ワークショップ及び関連事業	ハンズ・オン体験コーナー「版で遊ぶ」（申込不要）	
	期　　間	11月27日～12月24日（20日間）
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	3,678人
ワークショップ及び関連事業	浮世絵版画制作実演「北斎の富士ができるまで」	
	期　　間	12月１日、12月２日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「対話の間」
	参加者数	130人
ワークショップ及び関連事業	ファミリーワークショップ「北斎の富士ができるまで」（申込制）	
	期　　間	12月１日、12月２日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「創作の間」
	参加者数	51人（16組）

３）体験型プログラムの実施

①　平常展示関連体験型プログラム

ハンズオン体験型プログラム	特集陳列「屏風」（本館７室・８室）関連「屏風ってなに？」	
	期　　間	４月24日～６月３日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	5,156人
ハンズオン体験型プログラム	平常陳列「弥生時代の金属器」（平成館考古展示室）・「日本美術のあけぼの―縄文・弥生・古墳」（本館１室）関連「銅鐸を鳴らしてみよう」	
	期　　間	４月17日～７月１日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	17,666人
ハンズオン体験型プログラム	特集陳列「拓本の世界」（東洋館８室）関連「コピーの元祖『拓本』体験」	
	期　　間	４月17日～７月１日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	8,863人

ハンズオン体験型プログラム	特集陳列「漢時代の明器―ミニチュア模型にみる2000年前の暮らし」（東洋館５室）関連「ミニミニ模型」	
	期　　間	９月４日～12月２日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	12,527人
ハンズオン体験型プログラム	「魔鏡の不思議」	
	期　　間	10月２日～20年６月１日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	20,914人
ハンズオン体験型プログラム	平常陳列「暮らしの調度」（本館８室）関連「わたしの鏡」	
	期　　間	20年１月16日～４月20日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	7,788人

② 制作工程模型展示

ハンズオン体験型プログラム	「仏頭はどうやってつくられたのか？」	
	期　　間	４月17日～９月30日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	17,666人
ハンズオン体験型プログラム	「盧舎那仏のひみつ」	
	期　　間	10月２日～20年２月24日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	14,544人
ハンズオン体験型プログラム	「押出仏ができるまで」	
	期　　間	20年２月26日～６月１日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「体験の間」
	参加者数	2,991人

③ ワークショップ

ハンズオン体験型プログラム	特集陳列「拓本の世界」（東洋館８室）関連「親子で拓本に挑戦！」	
	期　　間	５月19日、６月10日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「創作の間」
	参加者数	28人（12組）
ハンズオン体験型プログラム	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館８室）関連「イブニングワークショップ・オリジナル貝合せをつくってみよう」	
	期　　間	10月19日、10月26日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「創作の間」
	参加者数	36人

ハンズオン体験型プログラム	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館８室）関連「ファミリーワークショップ・貝合せをつくって貝合せに挑戦！」	
	期　　間	10月27日、10月28日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「創作の間」
	参加者数	32人（13組）

④　特別展関連体験型プログラム

ハンズオン体験型プログラム	特別展「宮廷のみやび―近衞家1000年の名宝」関連「ファミリーワークショップ・唐紙を摺って散らし書きに挑戦！オリジナルカレンダーを作ってみよう」	
	期　　間	20年１月５日、１月20日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「創作の間」
	参加者数	40人（13組）
ハンズオン体験型プログラム	特別展「宮廷のみやび―近衞家1000年の名宝」関連「一般向けワークショップ・古筆の魅力を体験！唐紙摺りと散らし書き」	
	期　　間	20年１月５日、１月20日
	開催場所	表慶館みどりのライオン「創作の間」
	参加者数	39人
ハンズオン体験型プログラム	特別展「宮廷のみやび―近衞家1000年の名宝」関連「小学校キャラバン・唐紙を摺って散らし書きに挑戦！オリジナルカレンダーを作ってみよう」	
	期　　間	20年１月24日
	開催場所	豊島区立豊成小学校
	参加者数	36人

３）東博スクールプログラム

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	小学校14校、712人／中学校77校、2,636人／高校31校、1,377人／ 中高一貫３校115人　計4,840人
担当研究員数	２人
事業内容	総合的な学習などで児童生徒学生を受け入れる。伝統文化理解のための鑑賞教育や就業体験を実施した。プログラム内容を説明した教員向けのパンフレットも近隣県の学校へ配布した。

４）高等学校との連携教育実施

期　　間	６月23日、７月14日、９月15日
開催場所	全館対象
参加者数	９人
担当研究員数	２人
事業内容	学校ではなく実際に博物館を訪れ体験する単位制のプログラム。鑑賞、取り扱い体験、ボランティア活動体験、保存修復をテーマとした展示鑑賞、博物館の裏側探険、まとめ。

【京都国立博物館】

1）少年少女博物館くらぶ

事業名：雛まつり再発見！	
実施日	20年３月２日
対象	小学生から中学生
参加者数	46人（うち子ども20人）

2）博物館Dictionaryの発行　　12回

・発行部数　60,000部（１月5,000部）

・配 布 先　京都市内小中学校、館内観覧者等

【奈良国立博物館】

1）小中学生を対象に特別展の入場料金無料

・特別展「神仏習合ーかみとほとけが織りなす信仰と美」、特別展「美麗　院政期の絵画」

2）修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成と解説

・期間、場所　　開館中随時、展示会場・講堂

・団体申込数　　67件

・担当研究員数　３人

・事業内容　　解説ボランティアによる展示作品の解説及び課題学習等への対応

3）子ども向け音声ガイドの制作

・特別展「第59回正倉院展」で制作、761台の利用があった

【九州国立博物館】

1）博物館における体験型事業の充実

① 体験型展示室「あじっぱ」で活用する様々な教育キットの開発

体験型キットの開発・展開	
内容	「あじっぱ」の展示に関する理解を促進するための体験型キットの開発。 ①ＢＯＸキット「太宰府はどんなところ？～パズルであそぼう～」「日本の着物」 ②あじ庵「ポジャギぬりえ・はりえ」「バンコクの街をつくろう」
対象	子どもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	開館時は常時開放

②　幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供

○福岡教育大学との連携によるワークショップ「つくってみよう☆わたしの掛け軸」実施。（８月４日・５日）

○劇団道化との連携によるワークショップ（６月17日）

③　博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

なりきり学芸員体験	
内容	「あじっぱ」において、学芸員の仕事の一部を40～50分で体験するワークショップ。収蔵棚から文化財に見立てた資料を選び、実際に手にとって観察し、調査カードを作成し、展示ケースに展示する。
対象	小学校中学年以上
人数	１回につき最大８名
実施	ボランティアによる司会進行が可能になり、ほぼ毎週末実施することができた。

④　アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発

体験型展示室「あじっぱ」の運営	
内容	日本と古くから交流のあるアジア・ヨーロッパ７ヵ国の文物を屋台風に展示、資料を実際に使用する・制作する等の体験をとおして素材やデザイン、用途などにおける国相互の類似性や相違性を体感する。
対象	子どもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	最大収容可能人数約80人
実施	開館時は常時開放
「アートワゴン」の展開	
内容	展示資料に関連のある内容のペーパークラフト材料を可動式ワゴンに搭載してエントランスホールに出向き、来館者に制作の機会と場を提供する。
対象	子どもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	１回につき約20名
実施	絵本カーニバルの１プログラムとして、夏休みに「ハーリー船をつくろう」を２日間実施

２）家族向けに平常展を利用したＰＤＡ（携帯情報端末）によるプログラムの開発

文化交流展示室におけるＰＤＡ機器の開発	
ＰＤＡ機器導入の目的・方針	・最新のメディア機器を用いて、より豊かな博物館体験を提供する。 ・ＰＤＡの映像を通して研究員による解説と作品の背景がわかる動画を楽しめる。 ・操作性が簡易であること、展示替えに応じてコンテンツを館内で更新できる機種を採用する予定。
制作および運営方法調査	林原自然科学博物館、国立科学博物館、東京都現代美術館を視察
導入機種の検討	現在２機種を候補としている。コンテンツに関するヒヤリングを進める。

３）学校教育との連携事業の実施

①　ジュニア学芸員（高校生）による教育プログラムの開発

ジュニア学芸員活動	
内容	博物館に関心のある高校生が、学芸員による講話や演習を体験することで、博物館の活動を理解するとともに、自らの進路や職業を考える機会を提供する。
人数	７校21名
実施	11月～20年２月の日曜日を中心に全８回

○筑紫中央高校太宰府臨場研修（11月７日）
○筑紫高校１年生総合学習（11月22日）
○筑陽学園中学・高校自主選択特別講座（７月４日）

※中学生の職場体験学習（片江中学校、学業院中学校、太宰府西中学校、大野中学校、二日市中学校、筑紫野中学校、大利中学校）

②　教員との交流の場を設け、活動の情報を発信できるようにする
○「日本のやきもの」教員対象内覧会の実施（７月９日）
○福岡県内の高等学校の教員を対象とした、特別展「東大史料編纂所展（仮称）」に出品予定の資料の一部を学芸員が解説（20年３月16日）
○博物館利用の促進を図るため、教員研修の場の設置
・福岡県立高等学校普通教科担当教員長期社会体験派遣研修（７月１日～９月30日）
・福岡県教育センター専門研修（６月19日）
・福岡県高等学校歴史研究会研修（６月29日）
・福岡県高等学校日本史研究会研修（10月５日）
・熊本県私学教育研修会地歴・公民部会（８月10日）
・福岡県高等学校芸術・文化連盟学校担当者研修会（10月24日）
・福岡県高等学校10年経験者社会貢献活動体験研修（３校７名）

③　学校貸出キット「きゅうぱっく」の完成・運用
○太宰府市小・中学校教員対象説明会（12月25日）
○福岡フレンド少年少女合唱団による館内での体験学習（20年１月19日）

③　大学等との連携

1）インターンシップ

【東京国立博物館】

受入期間	８月１日～20年３月31日
開催場所	全館
参加者数	20人（12大学）
担当研究員数	10人
事業内容	特別展室・平常展室・教育普及室・教育講座室・デザイン室・情報課・広報室・保存修復課・上席研究員を対象に12大学からインターンの受け入れを行った。

【京都国立博物館】

受入期間	８月20日～９月14日
開催場所	文化財保存修理所
参加者数	１人（１大学）
担当者数	１人

【奈良国立博物館】

受入期間	６月11日～20年３月31日（期間中、週１回）
受入部門	学芸課
参加者数	１人
担当研究員数	13人

受入期間	20年３月10日～３月27日（期間中　５日間）
受入部門	総務課
参加者数	１人
担当職員数	11人

【九州国立博物館】

受入期間	20年３月４日～３月９日の６日間
受入部門	あじっぱ　ほか
参加者数	３人（３大学）
担当研究員数	２人

○博物館実習（８月６日～17日、８月20日～31日、各10日　計24名）

2）放送大学の面接授業の実施

【奈良国立博物館】

実施期間	20年２月９日･10日（２日）
開催場所	講堂

参加者数	150人

【九州国立博物館】

実施期間	12月８日・９日
開催場所	研修室
参加者数	34人

３）大学生及び教育関連機関等の見学対応

【東京国立博物館】

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	22件（大学15件、461人／教育関連機関等７件、251人　計712人）
担当研究員数	３人
事業内容	博物館リテラシーも含めた東京国立博物館の紹介スライドショーや古美術品の展示解説など

４）東京芸術大学学生ボランティア

【東京国立博物館】

期　　間	ギャラリートーク班 前期：９月５日～10月21日(30回)　後期：20年１月13日～20年３月９日（24回） 制作工程模型作成班ギャラリートーク 20年３月６・８・11・13・15日（５回）
開催場所	当館展示室内ほか
参加者数	ギャラリートーク班 ボランティア６人、聴講者　前期：658人 後期：636人 制作工程模型作成班ギャラリートーク ボランティア３人　聴講者109人
担当研究員数	３人
事業内容	東京芸術大学大学院生ギャラリートーク班により入館者に対するギャラリートークを実施。また工程模型作成班により、法隆寺献納宝物押出仏「阿弥陀如来及び僧形像」の６工程の制作工程模型の制作、それに係るギャラリートークを実施。

５）教員鑑賞会の実施

【東京国立博物館】

期　　間	①５月12日（みどりのライオン）、②10月12日（大徳川展）、③20年３月28日（薬師寺展）
開催場所	①表慶館１階「みどりのライオン」及び平常展 ②平成館２階特別展会場及び平成館１階ガイダンスルーム ③平成館２階特別展会場及び平成館１階ガイダンスルーム
参加者数	①60人、②348人、③412人
担当研究員数	３人

事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム。特別展の観覧、解説を実施し、指導要領と関連した授業案を配布した。

【九州国立博物館】

期　　間	①７月９日、②20年３月16日
開催場所	①ミュージアムホール及び特別展会場 ②研修室
参加者数	①43人、②21人
担当研究員数	３人
事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム。特別展の観覧、解説を実施した。平成20年度の「島津の国宝と篤姫の時代」に向けて社会科教員向けの事前展覧会解説も実施。

６）全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施（共催：東京藝術大学）

【東京国立博物館】

期　　間	７月25日～27日
開催場所	本館展示室、会議室／東京藝術大学
参加者数	38人
担当研究員数	３人
事業内容	全国の高等学校で美術、工芸の授業を担当している教員を対象。研修を通じて伝統美術や工芸に対する理解を深めてもらう。第４回目として「日本の絵画」をテーマに博物館では歴史と鑑賞を、大学では彩色などの実技を実施した。

７）大学等との連携講座

【京都国立博物館】

京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座の実施

実 施 日	通年
開催場所	当館
受入人数	５人
担当研究員数	６人

【奈良国立博物館】

大 学 名	奈良女子大学
実施期間	通年
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
参加者数	216人
担当研究員数	２人

大 学 名	神戸大学(大学院文化学研究科)
実施期間	通年

開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
参加者数	10人
担当研究員数	２人

【九州国立博物館】

実施期間	４月13日、４月20日、４月27日、５月11日、５月18日、６月１日、６月８日、６月15日、７月６日、７月20日、８月10日、８月17日、８月31日、９月14日、９月28日、10月12日、10月19日、11月９日、11月30日、12月14日、12月21日、20年１月11日、20年１月25日、20年２月８日、20年２月15日、20年３月28日
開催場所	九州国立博物館１階エントランスホール　オープンカフェ
参加者数	毎回３名程度
内　　容	カフェコンサート。福岡女子短期大学の学生によるピアノ演奏

８）京都橘大学との教育提携・学術交流

【京都国立博物館】

実施期間	通年
開催場所	京都国立博物館
参加者数	18人
担当研究員数	１人

９）福岡教育大学との連携による教育普及キットの開発・ワークショップの開催

【九州国立博物館】

実 施 日	８月４日（土）、５日（日）
開催場所	九州国立博物館・研修室
参加者数	４日：24名　５日：46名　合計70名
内　　容	福岡教育大学の美術教育講座の講師と学生の指導で、「つくってみよう☆わたしの掛け軸」を実施。小・中学生を対象に、九州国立博物館の収蔵品である「針聞書」に出てくる虫たちを塗り絵にした、ミニ掛け軸を作成。その後、本物の掛け軸を鑑賞し実際に手にとって巻き方などを体験した。

10）筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップの定期的な開催

【九州国立博物館】

実 施 日	６月９日（土）、７月７日（土）、10月27日（土）、11月10日（土）、12月８日（土）、20年１月12日（土）、20年２月16日（土）
開催場所	九州国立博物館・ミュージアムホールもしくはエントランスホール
参加者数	毎回約20名程度
内　　容	筑紫女学園大学のガムラン部の准教授と学生の指導で、ジャワの伝統的な楽器であるガムランの演奏を体験するワークショップ。事前申込の一般市民ほか当日の参加も可能。７月７日（月）には、当館のボランティア・職員対象のワークショップも実施。

11）教育センター専門講座

【九州国立博物館】

実 施 日	６月19日（火）
開催場所	研修室・文化交流展示室・体験型展示室「あじっぱ」
参加者数	小学校教員20名・中学校教員15名
内　　容	福岡県教育センターとの共同で、小・中学校の教員を対象に「キャリアアップ講座」を実施。教育普及部のボランティアの協力の下、体験型展示室「あじっぱ」の資料をとおして九州国立博物館の特色を理解する。その後、文化交流展示室・「あじっぱ」を見学し、「博物館をつかった授業づくり」という社会科の学習指導案を作成。

12）キャンパスメンバーズ

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
22校	21校（※）	20校（※）	21校

※うち京都・奈良共通加入16 校

【東京国立博物館】

①　加入校数（22校）

	学　　校　　名	学　生　数	備考（入会日）
1	桜美林大学	7,571 人	2006/4/1
2	武蔵野美術大学	7,600 人	2006/4/1
3	文化学園	10,426 人	2006/4/1
4	東京学芸大学	4,987 人	2006/4/1
5	東京芸術大学	3,300 人	2006/4/1
6	東京大学	27,954 人	2006/4/1
7	お茶の水女子大学	3,460 人	2006/4/1
8	杉野学園	3,000 人	2006/4/1
9	武蔵野大学	9,567 人	2006/4/28
10	大正大学	4,822 人	2006/4/27
11	東海大学	29,259 人	2006/5/26
12	東京歯科大学	1,190 人	2006/6/27
13	青山学院大学	20,176 人	2006/7/21
14	ハリウッド美容専門学校	1,130 人	2006/7/20
15	成蹊大学	1,625 人	2006/12/1
16	多摩美術大学	5,349 人	2007/4/1
17	立教大学	17,822 人	2007/4/1
18	東京工業大学	12,038 人	2007/4/1
19	首都大学東京	9,402 人	2007/4/1
20	女子美術大学	4,302 人	2008/2/15
21	東京造形大学	1,970 人	2008/3/27
22	法政大学	46,865 人	2008/3/28

② キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズ博物館セミナー	
期　　間	９月７・18・21日（各日１回、計３回実施）
開催場所	平成館大講堂
参加者数	58人
担当研究員数	６人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。
事業名：キャンパスメンバーズ教育連携事業	
期　　間	９月11～14・19～20日（６日間）
開催場所	全館
参加者数	７人
担当研究員数	10人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習の形式により体験的講座を実施。

【京都国立博物館】

① 加入校数（21校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備　　考
1	佛教大学	24,265人	４月１日	奈良博との２館併用	京博	通信教育課程含む
2	奈良教育大学	1,453人	４月１日	奈良博との２館併用	奈良博	
3	奈良大学	4,491人	５月２日	奈良博との２館併用	奈良博	通信教育部含む
4	帝塚山大学	6,585人	５月８日	奈良博との２館併用	奈良博	高等学校含む
5	奈良女子大学	2,896人	５月15日	奈良博との２館併用	奈良博	
6	京都造形芸術大学	8,817人	５月24日	京博のみ	京博	通信教育部含む
7	京都工芸繊維大学	4,537人	６月１日	奈良博との２館併用	京博	
8	同志社大学	842人	６月１日	奈良博との２館併用	京博	文化情報学部及び同研究科
9	大阪成蹊大学	829人	６月１日	奈良博との２館併用	奈良博	芸術学部のみ
10	種智院大学	543人	６月12日	奈良博との２館併用	京博	
11	京都嵯峨芸術大学	1,196人	６月12日	奈良博との２館併用	京博	短期大学含む
12	京都精華大学	4,176人	７月１日	奈良博との２館併用	京博	正規生のみ
13	龍谷大学	19,306人	７月１日	奈良博との２館併用	京博	正規生のみ
14	京都橘大学	2,561人	７月１日	奈良博との２館併用	京博	正規生のみ
15	京都女子大学	7,616人	７月１日	京博のみ	京博	高校含む
16	成安造形大学	1,285人	７月20日	京博のみ	京博	
17	京都大学	23,265人	８月22日	奈良博との２館併用	京博	京都アメリカ大学コンソーシアムより受入の学生含む
18	近畿大学	2,276人	８月24日	奈良博との２館併用	奈良博	文芸学部のみ
19	花園大学	2,552人	10月２日	京博のみ	京博	

20	奈良先端科学技術大学院大学	1,068人	11月７日	奈良博との２館併用	奈良博	正規生及び研究生等
21	大谷大学	4,230人	11月８日	京博のみ	京博	短期大学含む

【奈良国立博物館】

①　加入校数（20校）

	学校名	学生数	備考
1	奈良産業大学 （奈良文化女子短期大学附属高等学校、奈良学園高等学校）	2,486人	当館の１館利用
2	奈良佐保短期大学	440人	〃
3	大阪教育大学	4,946人	〃
4	大阪大谷大学	3,178人	〃
5	大阪成蹊大学芸術学部	801人	京都国立博物館との２館利用
6	京都嵯峨芸術大学	1,196人	〃
7	奈良教育大学	1,455人	〃
8	京都精華大学	4,176人	〃
9	京都橘大学	2,561人	〃
10	龍谷大学	19,306人	〃
11	京都大学	23,265人	〃
12	近畿大学文芸学部	2,276人	〃
13	帝塚山大学（帝塚山高校を含む）	6,585人	〃
14	佛教大学	22,698人	〃
15	奈良大学	4,442人	〃
16	京都工芸繊維大学	4,537人	〃
17	同志社大学文化情報部	842人	〃
18	奈良女子大学	2,896人	〃
19	種智院大学	543人	〃
20	奈良先端科学技術大学院大学	1,068人	〃

【九州国立博物館】

①　加入校数（21校）

	学校名	学生数	備考
1	九州産業大学	12,592人	
2	久留米大学	7,756人	
3	佐賀大学	7,455人	
4	西南学院大学	7,965人	
5	筑紫女学園大学	2,770人	
6	福岡大学	20,704人	
7	福岡教育大学	469人	

8	福岡国際大学	550人	
9	放送大学福岡学習センター	2,348人	
10	九州造形短期大学	336人	
11	筑紫女学園短期大学部	492人	
12	福岡女子短期大学	639人	
13	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	138人	
14	福岡大学附属看護専門学校	137人	
15	久留米大学附設高等学校	614人	
16	佐賀大学文化教育学部附属養護学校高等部	22人	
17	西南学院高等学校	1,366人	
18	筑紫女学園高等学校	1,859人	
19	筑紫台高等学校	1,512人	
20	東福岡高等学校	2,303人	
21	福岡大学附属大濠高等学校	1,938人	

④　講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
回数・人数	200回・12,862人 （講演会24回・4,770人、連続講座３日・288人、公開講座16回・2,369人、列品解説（ギャラリートーク等）101回・3,934人、その他教育的イベント等56回・1,501人）	48回・4,489人 （土曜講座45回・4,329人、夏期講座３日・160人）	30回・2,949人 （公開講座15回・1,943人、夏季講座３日・358人、サンデートーク12回・648人）	61回・4,168人 （特別展記念講演会７回・1,892人、教育講座アジアージュ11回・640人、ミュージアムトーク42回・1,320人、開館記念講演及びシンポジウム１回・316人）

【東京国立博物館】

１）講演会24回　参加者総数4,770人

①　月例講演会　12回　参加者数1,304人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当 研究員数	“良い”の 割合
４月７日	東京国立博物館と桜 講師：国立民族学博物館教授　佐々木利和氏	109人	４人	65.85%
５月19日	世界の文化遺産：その保存と活用 講師：筑波大学大学院教授　斎藤英俊氏	58人	１人	83.72%
６月２日	拓本入門―中国碑帖の魅力― 講師：列品室長　富田淳	109人	３人	91.07%
７月21日	敦煌出土裂と日本の古代染織 講師：上席研究員　澤田むつ代	105人	３人	79.66%
８月11日	「《悲母観音》の生命誌」 講師：東京文化財研究所主任研究員　塩谷純氏	111人	２人	69.84%
９月29日	美麗なる仏画―虚空蔵菩薩像― 講師：東北大学大学院教授　泉武夫氏	157人	２人	82.43%
10月27日	日本原始・古代の鉄と国家 講師：保存修復室長　古谷毅	73人	３人	74.54%
11月10日	黒田清輝の生涯と芸術 講師：東京文化財研究所近・現代視覚芸術研究室長 田中淳氏	57人	２人	90.63%
12月15日	神護寺の肖像画をめぐるいくつかの問題 講師：上智大学国際教養学部教授　米倉迪夫氏	185人	２人	90.10%
20年 １月19日	韓国と日本の架け橋―韓国における日本美術の展示― 講師：韓国国立中央博物館学芸研究士　宣承慧氏	92人	２人	78.26%
20年 ２月９日	ときめきをもたらすもの 講師：東京芸術大学学長　宮田亮平氏	155人	２人	92%
20年 ３月１日	明治初期美術界への外来の風―フォンタネージ、ラグーザとその周辺― 講師：東京文化財研究所 文化財アーカイブズ研究室長　山梨絵美子氏	93人	２人	90.47%

② テーマ講演会「京都五山の文化」全４回　参加者数908人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当 研究員数	“良い”の 割合
６月９日	五山派の彫刻 講師：出版企画室長　浅見龍介	186人	３人	71.73%
６月30日	京都五山の絵画 講師：特別展室長　救仁郷秀明	300人	３人	50.43%
７月14日	室町幕府外交と京都五山 講師：北海道大学大学院准教授　橋本雄氏	182人	２人	84.69%
７月28日	五山僧と学芸 講師：情報管理室長　田良島哲	240人	３人	70.47%

③ 記念講演会　６回　参加者数1,869人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当 研究員数	“良い”の 割合
４月21日	レオナルドで知るルネサンス―波乱の生涯と、激動の時代の魅力 講師：恵泉女学園大学助教授　池上英洋氏	322人	２人	93.78%
８月４日	京都五山の歴史と文化 講師：出版企画室長　浅見龍介	344人	３人	63.27%
８月25日	禅の山河 講師：臨済宗相国寺派管長　有馬頼底氏	366人	２人	79.56%
10月20日	江戸の遺伝子 講師：財団法人徳川記念財団理事長　徳川恒孝氏	337人	２人	87.27%
20年 ２月２日	近衛家・陽明文庫について 講師：陽明文庫理事・文庫長　名和修氏	370人	２人	83.96%
20年 ２月16日	文化財を運ぶ（座談会） 講師：日本通運美術品事業部技術顧問　海老名和明氏 保存修復課長　神庭信幸	130人	２人	77.77%

④ 特別講演会　２回　参加者数689人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当 研究員数
20年 ３月29日	薬師寺展のみどころ 大唐西域壁画と薬師寺の魅力 講師：日本画家　平山郁夫氏、 薬師寺管主　安田暎胤氏	333人	３人
20年 ３月30日	慈のこころ　悲のこころ 講師：作家　五木寛之氏	356人	２人

２）連続講座「近衛家と陽明文庫―公家文化一千年をひもとく―」　３日　参加者総数288人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当 研究員数	“良い”の 割合

20年 １月12日	近衛家熙について 講師：陽明文庫理事・文庫長　名和修氏 陽明文庫の近世絵画－公家の絵と武家の絵 講師：展示課平常展室研究員　松嶋雅人	288人	３人	77.43%
20年 １月13日	戦国時代の近衛家 講師：情報課長　高橋裕二 人形と雛道具と家熙表具 講師：展示課平常展室研究員　小山弓弦葉		４人	
20年 １月14日	公家の教養と信仰　古筆・日記 講師：文化財部長　島谷弘幸		３人	

３）公開講座　16回　参加者総数2,369人

①「博物館交流セミナー」　２回　参加者数98人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当 研究員数
10月10日	リニューアルしたスイス・リートベルク美術館 講師：スイス・リートベルク美術館館長 アルベルト・ルツ博士	37人	３人
11月20日	展示デザインのボキャブラリー　アメリカで日本美術を語る 講師：インディアナポリス美術館主任研究員 ジョン・Ｔ・テラモト氏、 デザイン室長　木下史青	61人	５人

②　イブニングレクチャー　５回　参加者数419人

開催日	題目・講師等	参加者数	担当 研究員数	“良い”の 割合
５月11日	拓本の世界 講師：三井記念美術館学芸員　樋口一貴氏、 台東区立書道博物館研究員　鍋島稲子氏、 列品室長　富田淳	80人	３人	66.15%
８月31日	板碑の流通－考古学と岩石学で探る－ 講師：松戸市教育委員会　倉田恵津子氏、 東海大学非常勤講師　柴田　徹氏	89人	２人	57.14%
11月２日	運慶研究最前線 講師：清泉女子大学教授　山本　勉氏、 清泉女子大学大学院生　木村祥子氏	83人	３人	78.57%
20年 ３月21日	王羲之と蘭亭序 講師：台東区立書道博物館研究員　鍋島稲子氏、 列品室長　富田淳	84人	３人	74.5%
20年 ３月28日	美術の中の桜たち 講師：あしかがフラワーパーク園長　塚本こなみ氏、 上席研究員　松原茂	83人	３人	82.69%

③　その他解説等　９回　参加者数1,852人

開催日	題目・講師等	実施回数	参加者数	担当研究員数
10月13日	唐と奈良時代の墓誌―死者の名札と生者からの弔辞― 講師：滋賀県立大学教授　菅谷文則氏	１回	27人	２人
11月17日	留学生の日 東京国立博物館へようこそ 講師：教育講座室研究員　神辺知加	２回	60人	２人
20年 3月25・26日	薬師寺展ガイダンス 講師：薬師寺副住職　山田法胤師	６回	1,765人	２人

４）列品解説（ギャラリートーク等）　101回　参加者総数3,934人

①　列品解説　42回

・参加者総数　2,531人

・担当研究員数　延べ42人

・事業内容　各展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。
（原則として毎週火曜日の午後２時より約30分間）

②　東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク　59回　参加者総数 1,403人

５）その他教育的イベント　56回　参加者総数1,501人

開催日	題目・講師等	実施回数	参加者数	担当研究員数
４月15日	レオナルド・ダ・ヴィンチ誕生日記念コンサート 出演：N響メンバー	２回	222人	２人
５月10日	上野の山でライオンめぐり 講師：ボランティア室長　鷲塚麻季	１回	17人	２人
8月3･10･17日、 9月7日	座禅会 講師：相国寺	12回	390人	２人
8月7･8･26日、 9月4･5･6日	お茶会 講師：宗徧流、表千家、武者小路千家、裏千家、 薮内家、遠州流	36回	399人	２人
10月６・12日	板碑三昧～トーク＆ツアー 講師：台東区文化財保護調査員　伊藤宏之氏、 上席研究員　望月幹夫	２回	106人	５人
20年 １月26日	天平楽府コンサート 出演：天平楽府	１回	261人	２人
20年 ２月20・21日	保存修復ツアー 講師：保存修復課長　神庭信幸、上席研究員　澤田むつ代、環境保存室長　塚田全彦、環境保存室研究員　和田浩、保存修復室長　古谷毅 保存修復室主任研究員　土屋裕子	２回	106人	８人

【京都国立博物館】

①　土曜講座　45回　参加者総数4,329人

※特別展覧会関連講座　◆特集陳列関連講座

月日	テーマ	講師	聴講者数
4月7日	天台の教説と鏡像	久保智康	62人
4月14日	狩野探幽と狩野山雪	山下善也	102人
4月21日	－修理完成報告を兼ねて－束熨斗文様振袖と野村正治郎	山川曉	92人
4月28日	※道長の時代の仏像－仏師康尚の作風を中心に－	淺湫毅	174人
5月5日	※藤原道長－金峯山への道－	宮川禎一	176人
5月12日	※末法と作善－写経を中心に－	赤尾栄慶	125人
5月19日	※「この世」はわが世だったのか－藤原道長－	永井路子	246人
5月26日	※道長時代の仏教絵画	大原嘉豊	174人
6月2日	三田焼の始まりとその戦略	尾野善裕	49人
6月9日	こうして人は仏を作った―仏教美術の心―	中村康	78人
6月16日	羅什三蔵絵伝をめぐって	若杉準治	77人
6月23日	◆明代宮廷絵画と浙派（せっぱ）	西上実	70人
6月30日	◆古文書の貼られた手鑑	羽田聡	61人
7月7日	東洋絵画の思想Ⅲ－「写生」と「写実」－	佐々木丞平	62人
7月14日	◆衣（きぬ）かつぎ風俗ときもの	山川曉	48人
7月21日	◆かたちの伝承－新収の刀剣と仏具を通して－	久保智康	75人
7月25日	呉彬（ごひん）の奇石図	西上実	62人
7月28日	◆お姫さまをさがせ！蒔絵婚礼調度の持ち主はだれ？	永島明子	95人
9月1日	◆後宇多天皇－その人と書－	赤尾栄慶	83人
9月8日	◆明円作の五大明王像	淺湫毅	131人
9月15日	◆狩野山楽による大覚寺の障壁画	山下善也	114人
9月22日	京都周辺の経塚について	宮川禎一	64人
9月29日	近畿式銅鐸の成立とその意義	難波洋三	52人
10月6日	青磁から白磁へ―10・11世紀の輸入中国陶磁と日本のやきもの―	尾野善裕	70人
10月10日	※天下人の造形－永徳と大画－	川本桂子	176人
10月13日	◆新出の加賀前田家伝来の能装束について	山川曉	74人
10月17日	中世仏教美術序論	大原嘉豊	51人
10月20日	※元信から永徳へ－国宝・聚光院障壁画を中心に－	山本英男	176人
10月24日	絵巻の中の子どもたち	若杉準治	54人
10月27日	※新発見の永徳筆洛外名所遊楽図屏風	狩野博幸	176人
12月1日	◆明治政府の文化財保護施策	森田稔	44人
12月8日	◆京都博物館の旧蔵品	羽田聡	55人
12月12日	中国の追儺図	西上実	67人
12月15日	法隆寺の建築・彫刻と飛鳥時代の天文学	中村康	69人
12月19日	※万国博覧会とヨーロッパ陶磁	伊藤嘉章	82人
12月26日	◆清水隆慶とその時代	田邉三郎助	71人
20年2月2日	※オランダ渡りの西洋陶器とその影響－江戸時代後期を中心に－	岡泰正	91人

20年２月９日	※岩倉使節団の見たヨーロッパ陶磁－ミントン・セーヴル・ベルリン・ジノリー	大平雅巳	82人
20年２月16日	※マイセン磁器の動物彫刻	櫻庭美咲	106人
20年２月23日	※近代日本が見た西洋陶磁－旧・国立陶磁試験所コレクションを中心に－	佐藤一信	127人
20年３月１日	※京と伝来の阿蘭陀焼	尾野善裕	159人
20年３月８日	あこがれの東洋漆器－マイセン焼を作らせた王さまの漆器コレクション－	永島明子	100人
20年３月15日	金戒光明寺の文殊菩薩騎獅像	淺湫毅	69人
20年３月22日	百済観音と救世観音が表現する彼岸世界	中村康	86人
20年３月29日	仏を映す鏡－南都寺院の鏡と華厳経－	久保智康	72人

②　夏期講座　３日

開講日	テーマ	講師名	参加者数
８月１日	第１講「門の文化－法隆寺金堂から東大寺南大門へ－」	中村康（文化財管理監）	160人
	第２講「東アジアにおける陶質土器の系譜」	宮川禎一（考古室）	
	第３講「聖母像の変容と波及」	宮下規久朗 （神戸大学大学院人文学研究科准教授）	
８月２日	第１講「閑院宮邸跡の変遷」	鈴木久男（京都産業大学文化学部教授）	
	見学「閑院宮邸跡庭園ほか見学」		
８月３日	第１講「名物裂の素性」	山川暁（研究員）	
	第２講「天台常行阿弥陀五尊の原型と変容－円仁が見た憧れの中国浄土信仰の謎－」	大原嘉豊（研究員）	
	第３講「室町水墨画を中世東国から見る」	相澤正彦（成城大学文芸学部芸術学科教授）	

【奈良国立博物館】

①　公開講座　15回　　参加者総数　1,943人

開 催 日	テ　ー　マ	講　　師	参加者数
４月21日	「神仏習合の論理と造像－インド・中国から日本へ」	企画室長　稲本泰生	230人
４月28日	「本地垂迹の美術」	研究員　谷口耕生	165人
５月12日	「黎明期の神像」	伊東史郎 氏	195人
５月19日	「中世神道と神道灌頂」	伊藤聡 氏	187人
６月30日	「密教法具入門」	工芸考古室長　内藤榮	73人
８月４日	「座談　文化財修理40年－絵画・書跡－」	田畦徳一 氏	80人
９月１日	「院政期、その美意識」	濱田陸 氏	112人
９月15日	「院政期の絵画－色とかたち」	学芸課長　梶谷亮治	126人
９月29日	「院政期の料紙装飾と文字の荘厳」	松原茂 氏	125人

10月27日	「正倉院の文房四宝」	角井博 氏	106人
11月３日	「正倉院事務所の仕事－受け継いできたもの、そして今－」	杉本一樹 氏	167人
11月10日	「シルクロードを駆け抜けた動物たち－正倉院宝物の動物文様－」	資料室長　吉澤悟	112人
20年１月12日	「社伝神楽と冨田光美」	岡本彰夫 氏	63人
20年３月２日	「修二会について」	上野道善 氏	123人
20年３月15日	「座談　文化財修理40年－彫刻－」	松永忠興 氏	79人

②　夏季講座　3日

開講日	テ　ー　マ	講　師　名	参加者数
９月19日	「院政期の絵画」	学芸課長 梶谷亮治	358人
９月20日	「院政期　その時代と特質」	立命館大学教授 元木泰雄 氏	
	「院政期の仏教」	大阪大学大学院教授 平雅行 氏	
	「院政期の文学－往生の表現－」	奈良女子大学教授 千本英史 氏	
	「院政期の美術－過差と奇巧－」	学習院大学教授 佐野みどり 氏	
９月21日	「信西一門という真俗ネットワークと院政期絵画制作」	京都大学非常勤講師 マイケル　ジャメンツ 氏	
	「院政期仏画における賦彩と文様表現について」	東北大学名誉教授 有賀祥隆 氏	
	「「伴大納言絵巻」を味わう」	出光美術館学芸課長 黒田泰三 氏	
	「「応徳涅槃図」の醍醐味」	東北大学大学院教授 泉武夫 氏	

③　ギャラリートーク・サンデートーク　12回

・参加者総数　　648人

・担当研究員数　　12人

・外部講師　　0人

・事業内容　文化財への理解を深めるために、平常展・特別展・特別陳列作品について解説を行った。

【九州国立博物館】

1）特別展記念講演会　7回　　参加者総数1,892人

開催日	テーマ	講師	参加者数
5月12日	安道壹（あんどういつ）と摩崖（まがい）石刻経	立正大学大学院講師・本納寺住職 桐谷征一 氏	80人
7月22日	桃山の茶陶	東京国立博物館名誉館員 林屋晴三 氏	230人
8月4日	華やかな江戸の陶磁	当館企画課長 伊藤嘉章	150人
10月5日	親鸞の悲しみ	作家 五木寛之 氏	580人
10月21日	シルクロードー共存の道～大谷探検隊からのメッセージ～ ①シルクロードと仏教文化 ②大谷探検隊の現代的意義 ③パネルディスカッション	①京都大学名誉教授・泉屋博古館館長 樋口隆康 氏 ②浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター所長 上山大峻 氏 ③龍谷大学教授　入澤崇 氏 筑紫女学園大学教授 大津忠彦 氏 大谷記念館副館長 掬月誓成 氏 当館文化財課長 臺信祐爾	300人
20年1月20日	京都五山と禅宗文化	臨済宗相国寺派管長 有馬頼底 氏	285人
20年2月3日	対談　禅の文化と京都を語る	女優 真野響子 氏 ×当館館長　三輪嘉六	267人

2）教育講座シリーズ・アジアージュ　11回　参加者総数640人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当 研究員数
4月1日	「文化交流展示室の歩き方」 講師：当館展示課長 赤司善彦	100人	1人
6月3日	「西と東の縄文文化」 講師：当館展示課研究員 宮地聡一郎	40人	1人
7月8日	「旧石器時代のくらし」 講師：当館博物館科学課研究員 志賀智史	20人	1人
8月11日	「弥生と古墳時代の対外交流」 講師：当館文化財課研究員 市元塁	50人	1人
9月16日	「王塚装飾古墳の謎」 講師：当館企画課文化交流展室長 河野一隆	80人	1人
10月27日	「北部九州地域における経塚と経筒」 講師：当館展示課研究員 森井啓次	30人	1人

11月11日	「発掘調査からみた古代の大宰府」 講師：九州歴史資料館 技術主査 杉原敏之 氏	30人	1人
12月９日	「朝鮮白磁の美と技」 講師：当館交流課研究員 遠藤啓介	50人	1人
20年１月13日	「日本に伝来した朝鮮鐘」 講師：当館文化財課資料管理室長 伊藤信二	40人	1人
20年２月10日	「九州陶磁の精華～田中丸コレクション～」 講師：当館交流課研究員 遠藤啓介	100人	1人
20年３月16日	「国宝島津家文書の世界～朝鮮出兵の虎狩から篤姫まで～」 講師：当館文化財課研究員 東 昇	100人	1人

３）ミュージアムトーク　42回

・参加者総数　　1,320人

・担当研究員数　研究員22人

・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。
（週１回の午後３時より約15分間）

４）開館記念講演及びシンポジウム　１回　参加者数316人

開催日	テーマ	講師	参加者数
９月７日・８日	九州国立博物館開館２周年記念 「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウムー文化をつたえる紙の路ー」		316人
	【第１部】 ①古代中国と日本の手漉き紙の比較と趨勢 ②朝鮮時代の製紙手工業と製紙技術 ③日本における紙文化の変遷	【第１部】 ①潘吉星（中国科学院自然科学史研究所研究員） ②金三基（韓国国立文化財研究所芸能民俗研究室長） ③湯山 賢一（奈良国立博物館長）	
	【第２部】 ④敦煌文書の修理について ⑤「朝鮮王朝実録」の抄紙技術分析および劣化の評価 ⑥掛軸装紙本絵画の修理について（重要文化財維摩居士図の修理事例）	【第２部】 （座長） 赤尾栄慶（京都国立博物館学芸課企画室長）、坂田雅之（国宝修理装潢師連盟） ④杜偉生（中国国家図書館善本特蔵部副研究館員） ⑤趙炳黙（江原大学校山林科学大学製紙工学科教授） ⑥竹上幸宏（国宝修理装潢師連盟）	

	【第２部（続）】	【第２部（続）】 （座長） 藤田励夫（保存修復室長）、藤岡　春樹（国宝修理装潢師連盟）	
	⑦中国紙文化財における保存修理理念の発展	⑦王　珊（中国文物研究所助理研究員）	
	⑧紙類遺物の保存処理と状態調査	⑧鄭小英（韓国国立文化財研究所保存科学研究室研究員）	
	⑨劣化した宋版本の修理について	⑨森香代子（国宝修理装潢師連盟）	
	【第３部】 ⑩パネルディスカッション 「製紙技術と修復技術の各国の現状について」	【第３部】 ⑩コーディネーター： 三輪　嘉六（九州国立博物館長） パネラー： 講演者・事例報告者、杜暁帆（ユネスコ北京事務所文化部文化遺産保存委員）、朴智善（靖齊文化財保存研究所長、龍仁大学校文化財保存学科教授）、岡岩太郎（国宝修理装潢師連盟理事長）	

⑤　ギャラリートーク実施状況

	東京国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
件数	101	12	42

【東京国立博物館】

○列品解説　42回　参加者総数2,531人

実施日	テーマ	解　説　者	参加者
４月３日	加耶最強国の面影	教育講座室長 白井克也	52人
４月10日	古墳時代の海外交流	列品室主任研究員 日高慎	90人
４月17日	水滴について	上席研究員 原田一敏	66人
４月24日	日本出土の中国陶磁	平常展室長 今井敦	63人
５月15日	屏風	上席研究員 松原茂	64人
５月22日	所蔵品の情報を管理する	情報管理室研究員 村田良二	35人
５月29日	ライオン、東博の銅像に迫る	ボランティア室長 鷲塚麻季	52人
６月５日	神護寺山水屏風	広報室研究員 遠藤楽子	95人
６月12日	古写真―記録と記憶―	保存修復室主任研究員 冨坂賢	49人
６月19日	豊臣秀吉の“唐御陣”後陽成天皇宸翰女房奉書の分析から	列品室研究員 高梨真行	80人
６月27日	海外での展覧会協力―フィラデルフィア美術館主催「池大雅・徳山玉瀾」展―	特別展室研究員 丸山猶計	53人
７月３日	修法記録に見る密教絵画制作の舞台裏―安鎮曼荼羅の場合―	出版企画室主任研究員 沖松健次郎	73人
７月10日	東京国立博物館の板碑	上席研究員 望月幹夫	60人
７月24日	彫刻の名品	列品室主任研究員 丸山士郎	73人
７月31日	銅鐸の響き	事業企画課長 井上洋一	90人
８月３日	古代中国の貨幣	展示課長・列品課長 谷豊信	34人
８月７日	博物館のおもちゃ箱	教育普及課長 加島勝	47人
８月14日	敦煌出土の幡	上席研究員 澤田むつ代	51人

８月21日	不動明王八大童子像	出版企画室主任研究員 沖松健次郎	73人
８月28日	本館特別５室　展示の変遷　復興本館建設から仏像の道まで	デザイン室長 木下史青	50人
９月11日	漢時代の明器―ミニチュア模型にみる2000年前の暮らし―	列品室研究員 川村佳男	50人
10月２日	描くやきもの―奔放なる鉄絵の世界　唐時代以前の鉄絵について―	列品室研究員 三笠景子	57人
10月16日	良全の如意輪観音図	特別展室長 救仁郷秀明	45人
10月23日	梁楷の李白吟行図	副館長 湊信幸	60人
10月30日	描くやきもの―奔放なる鉄絵の世界　宋元と高麗の鉄絵	平常展室長 今井敦	46人
11月６日	康円作文殊菩薩および侍者像	出版企画室長 浅見龍介	80人
11月13日	描くやきもの―奔放なる鉄絵の世界　日本の鉄絵	九州国立博物館企画課長 伊藤嘉章氏	64人
11月20日	古代ペルシャの首飾り	上席研究員 後藤健	63人
11月27日	洛中洛外図（舟木本）	列品室主任研究員 田沢裕賀	118人
12月４日	私撰集の古筆	文化財部長 島谷弘幸	60人
12月11日	刀装具の素材と技術について	平常展室研究員 酒井元樹	52人
12月18日	甲信地域の縄文土器	平常展室主任研究員 日高慎	73人
20年１月８日	久国と粟田口派	広報室長 立道恵子	65人
20年１月22日	甦る天平の宝―正倉院宝物模造	特別展室主任研究員 竹内奈美子	100人
20年１月29日	資料目録が語ること	情報管理室長 田良島哲	30人
20年２月13日	臨床保存学のすすめ	保存修復課長 神庭信幸	42人
20年２月19日	山本達郎氏寄贈の東南アジア彫刻コレクション	平常展室主任研究員 小泉惠英	60人
20年２月26日	光と展示・保存・調査	環境保存室長 塚田全彦	41人
20年３月４日	臨床保存における修理の位置付け	保存修復室主任研究員 土屋裕子	37人
20年３月11日	埴輪・土器の解体修理と調査	保存修復室長 古谷毅	55人

20年３月18日	博物館の環境を調べる	環境保存室研究員 和田浩	23人
20年３月25日	東京帝室博物館歴史部の変遷	情報課長 高橋祐次	60人

○東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク　59回　参加者総数1,403人

・平常展示作品ギャラリートーク　54回　参加者総数1,294人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者
９月７・14・21・28日, 10月13日	5	東南アジアの彫刻	河内田絵美	90人
９月５・12・19・26・30日	5	京都・禅林寺所蔵、国宝「金銅蓮華唐草文磬」	長久智子	103人
９月20・27日, 10月３・６・10日	5	前田青邨筆「切支丹と仏徒」について	永松左知	94人
９月17・24日, 10月４・８・18日	5	江戸時代のファッション・モード	中村京子	149人
９月６・13・16・22・29日	5	黒田清輝の作品について	野澤広紀	100人
10月７・11・14・17・21日	5	憧憬の中国絵画	和田千春	122人
20年１月13・20日, ２月17・24日, ３月９日	5	近代工芸美術	河内田絵美	85人
20年２月６・15・20・22・27日	5	国宝・興福寺金堂鎮壇具	長久智子	138人
20年１月31日, ２月７・10・14日	4	浅井忠「春畝」	永松左知	101人
20年１月25日, ２月１・８・９・11日	5	津田信夫「白熊置物」	野澤広紀	116人
20年１月17・19・23・24・27日	5	雪舟筆「秋冬山水図」	和田千春	196人

・制作工程模型ギャラリートーク　５回　参加者総数109人

日時	回数	テーマ	氏名	参加者
20年３月６・８・11・13・15日	5	押出仏ができるまで	瀬田愛子、佐々木あすか、志田理子	109人

【奈良国立博物館】

○サンデートーク　12回　参加者総数　648人

実施日	テーマ	解　説　者	参加者
４月15日	奈良時代の神仏習合	研究員　野尻忠	159人
５月20日	聖地に宿る神仏	研究員　清水健	119人
６月17日	瓦経－土に刻まれたお経	研究員　永井洋之	30人
７月15日	近づいてみる色とりどりの世界	研究員　宮崎幹子	34人
８月19日	モンゴルの月を仰いで－異文化交流の体験	資料室長　吉澤悟	20人
９月16日	院政期絵画・入門編	研究員　北澤菜月	59人
10月21日	仏像調査からわかること	美術室長　岩田茂樹	15人
11月18日	法隆寺金堂西の間天蓋について	工芸考古室長　内藤榮	23人

12月16日	おん祭参観記	研究員　清水健	33人
20年１月20日	縄文との出会い	研究員　岩戸晶子	13人
20年２月17日	お水取り　存続の危機を越えて	教育室長　西山厚	63人
20年３月16日	仏教の説話絵	学芸課長　梶谷亮治	80人

【九州国立博物館】

○ミュージアムトーク　42回　参加者総数1,320人

実施日	テーマ	解　説　者	場　所	参加者
４月10日	縄文時代の石の道具	展示課研究員 宮地聡一郎	文化交流展室 第１室前	27人
４月17日	朱をめぐる品々	博物館科学課長 本田光子	文化交流展室 第３室前	31人
４月24日	水墨画の楽しみ	企画課特別展室研究員 畑靖紀	文化交流展室 第９室前	33人
５月８日	対馬宗家の花押と図書	文化財課資料管理室研究員 東　昇	文化交流展室 第11室前	22人
５月15日	仏像の体内をのぞいてみよう	展示課主任研究員 楠井隆志	文化交流展室 第６室内	34人
５月22日	蒙古襲来	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫	文化交流展室 第８室前	32人
５月29日	琉球・円覚寺の美術	企画課特別展室研究員 原田あゆみ	文化交流展室 第11室前	28人
６月５日	ガラスの器の持ち主	文化財課資料登録室研究員 市元塁	文化交流展室 第８室内	17人
６月12日	漢籍の受容	展示課研究員 松川博一	文化交流展室 第７室前	23人
６月19日	お金の話　～出土古銭から～	博物館科学課環境保全室 研究員 鳥越俊行	文化交流展室 第９室前	32人
６月26日	扇絵－手元で楽しむ絵画	企画課文化交流展室研究員 金井裕子	文化交流展室 第11室内	25人
７月３日	アジアの赤	文化財課資料登録室長 小林公治	文化交流展室 第４室前	15人
７月10日	朝鮮白磁の美	交流課研究員 遠藤啓介	文化交流展室 第10室内	31人
７月24日	石器をつくる	博物館科学課保存修復室 研究員 志賀智史	文化交流展室 第１室内	26人
７月31日	日本人が愛したアジアの陶磁 (「爆発…桃山の茶陶」を支えた海外のやきもの)	企画課長 伊藤嘉章	文化交流展室 第９室内	52人
８月７日	「麻布山水図」について	文化財課長 臺信祐爾	文化交流展室 第８室内	30人

８月21日	埴輪の内側をのぞいてみよう	博物館科学課環境保全室長 今津節生	文化交流展室 第４室内	41人
８月28日	古墳時代の青銅鏡の作り方について	企画課文化交流展室長 河野一隆	文化交流展室 第３室内	25人
９月４日	「ベトナムの螺鈿について」	文化財課資料登録室長 小林公治	文化交流展室 第９室内	23人
９月11日	「碇石」について	展示課長 赤司善彦	文化交流展室 第８室前	32人
10月２日	「針聞書」について	文化財課資料管理室研究員 東　昇	あじぎゃら	15人
10月16日	「特別史跡　王塚古墳」について	展示課研究員 森井啓次	文化交流展室 第３室内	22人
10月16日	「観世音寺絵図」について	展示課研究員 松川博一	文化交流展室 第７室前	31人
10月23日	釈迦誕生図の修理について	博物館科学課保存修復室長 藤田励夫	文化交流展室 第11室内	40人
10月30日	釈迦誕生図－美しい朝鮮の仏画－	企画課特別展室研究員 畑靖紀	文化交流展室 第11室内	50人
11月６日	隋使　裴世清がみた日本	文化財課資料登録室研究員 市元塁	文化交流展室 第３室前	33人
11月13日	弥生時代の赤	博物館科学課長 本田光子	文化交流展室 第３室前	31人
11月20日	さまざまな縄文土器	展示課研究員 宮地聡一郎	文化交流展室 第１室前	26人
11月27日	釈奠器（せきてんき）について	企画課特別展室研究員 川畑憲子	文化交流展室 中央展示付近	30人
12月４日	重要文化財の金銅孔雀文磬	文化財課資料管理室長 伊藤信二	文化交流展室 第６室前	24人
12月11日	朝鮮白磁の美	交流課研究員 遠藤啓介	文化交流展室 第10室内	31人
12月18日	琉球の風俗	企画課特別展室研究員 原田あゆみ	文化交流展室 第11室前	22人
20年１月８日	唐招提寺宝蔵模型について	文化財課長 臺信祐爾	文化交流展室 第８室内	31人
20年１月22日	菅原道真と漢詩	展示課研究員 松川博一	文化交流展室 第７室前	30人
20年１月29日	文化財を科学する	博物館科学課環境保全室 研究員 鳥越俊行	文化交流展室 第６室前	33人
20年２月５日	禅僧の肖像彫刻	展示課主任研究員 楠井隆志	文化交流展室 第９室内	61人
20年２月19日	九州の考古学と邪馬台国	企画課文化交流展室長 河野一隆	文化交流展室 第３室内	73人
20年２月26日	石器造りの地域性	博物館科学課保存修復室 研究員 志賀智史	文化交流展室 第１室前	22人

20年３月４日	高麗時代の銅鋺	文化財課資料管理室長 伊藤信二	文化交流展室 第７室前	21人
20年３月11日	好太王碑文の意義	展示課長 赤司善彦	文化交流展室 第３室内	32人
20年３月18日	見るだけじゃない、触れて感じる古代の技術	博物館科学課環境保全室長 今津節生	文化交流展室 第３室内	30人
20年３月25日	物語と絵巻	企画課文化交流展室研究員 金井裕子	文化交流展室 第11室内	53人

⑥　ボランティア受入れ実績

（後述の資料に記載）◎共通資料ｂ

⑦　友の会

1）会員数

区分／館名	友の会会員（年会費　1万円）	友の会会員（年会費　4千円）	友の会会員（年会費　3千円）	友の会会員（学生）（年会費　2千5百円）	友の会会員（学生）（年会費　2千円）	友の会会員（家族）（年会費　6千円）
東京国立博物館	1,341人	※15,232人	－	※803人	－	－
京都国立博物館	－	－	3,033人	－	191人	－
奈良国立博物館	－	－	2,215人	－	206人	18人
九州国立博物館	167人	－	※1,500人	－	※1,752人	－

※東京国立博物館、九州国立博物館では「パスポート会員」としている。

2）友の会を対象とした事業

【東京国立博物館】

①　講演会の実施

10月30日「東大寺の伝統法要について」

講師：東大寺長老 狭川宗玄

参加者数：327人

②　東京国立博物館友の会対象旅行会の実施

11月７日～９日

・旅行会　　奈良国立博物館「第59回正倉院展」と奈良の歴史を辿る旅

・旅行先　　奈良国立博物館、薬師寺、法隆寺、大安寺、西大寺

・参加者数　19人

③　その他

博物館ニュース送付、イベントの鑑賞割引等

【京都国立博物館】

①　年１回（４月）、年間催事案内を送付

②　京都国立近代美術館、国立国際美術館の平常展、特別展を団体料金に割引

③　当館ミュージアムショップの商品の10％割引

【奈良国立博物館】

第36回夏季講座「院政期の絵画」

・実施期間　９月19日～21日

・事業内容　奈良女子大学講堂において９講座、博物館において展覧会概説及び見学を実施した。

・参加者数　402人

【九州国立博物館】

季刊情報誌「アジアージュ」、特別展ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付

⑧　賛助会

1）会員数

館名	東京国立博物館	京都国立博物館 （社団法人清風会）	奈良国立博物館
件数	163件	390件	45件
内訳	特別会員：16件 維持会員（個人）：123件 維持会員（団体）：24件	賛助会員：34件 特別会員：67件 普通会員：289件	特別賛助会員：１件 特別会員：６件 一般会員（個人）：25件 一般会員（団体）：13件

2）賛助会を対象とした事業

【東京国立博物館】

①　感謝会の実施　20年３月19日
　　当館の事業報告、弦楽四重奏の演奏つき軽食パーティー、
　　特集陳列「仏像の道」特別内覧会およびギャラリートーク
②　各特別展開会式へのご招待
③　各特別展につき１回の内覧会へのご招待

【京都国立博物館】

①　「京都国立博物館だより」（年４回）の配布
②　当館平常展、特別展の無料観覧
③　清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④　当館ミュージアムショップの商品の一部割引

【奈良国立博物館】

○当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
４月14日（土）特別展「神仏習合　ーかみとほとけが織りなす信仰と美ー」
　　特別鑑賞会　参加人数34名
９月８日（土）特別展「美麗 院政期の絵画」
　　特別鑑賞会　参加人数48名
11月２日（金）特別展「第59回正倉院展」
　　特別鑑賞会　参加人数57名

⑨　渉外活動

【東京国立博物館】

1）会場提供（26件　共催展に関連するものは3）展示に関連する事業参照）

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
4月5日	懇談会	LCFエドモン・ドゥ・ロスチャイルド・日興コーディアル主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約50人	
4月9日	懇談会	伝承の饗宴主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約150人	
4月12日	懇談会	東京国立近代美術館フィルムセンター主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約200人	
4月26日	懇談会	アムジェン株式会社主催による展示鑑賞およびレセプション	平成館	約300人	
5月7日	懇談会	文化庁主催による説明会およびレセプション	平成館	約200人	
5月15日	懇談会	日本ベーリンガーインゲルハイム主催による展示鑑賞及びレセプション	法隆寺宝物館	約100人	
5月28日	懇談会	SRAホールディングス主催による展示鑑賞およびレセプション	本館・平成館	約300人	
5月30日	懇談会	EUVA主催による展示鑑賞・講演会およびレセプション	平成館・法隆寺宝物館	約200人	
6月12日	懇談会	日伊ビジネスグループによる展示鑑賞およびレセプション	本館・平成館	約100人	
8月2日	懇談会	丹青モールマネジメント主催による展示鑑賞およびレセプション	平成館	約250人	
9月8日	懇談会	文化庁伝統文化課主催による展示鑑賞およびレセプション	本館・法隆寺宝物館	約100人	
9月13日	懇談会	東京大学大学院工学部専攻主催による展示鑑賞およびレセプション	平成館	約200人	
9月29日 9月30日	音楽会	台東区主催によるイベント	九条館・応挙館	約320人	
10月1日	懇談会	ワイリージャパン主催による展示鑑賞及びレセプション	法隆寺宝物館	約200人	
10月15日	懇談会	ルイナール　ジャパン主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約100人	
10月16日	懇談会	Max Mara主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約80人	
11月5日	懇談会	ロシアと日本の円卓会議主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館 応挙館・九条館	約100人	

11月12日	懇談会	CLD主催による展示鑑賞および新製品発表会、レセプション	法隆寺宝物館	約200人	
11月27日 ～12月２日	展示会	新日本様式協議会主催による選定作品展示およびレセプション	表慶館・法隆寺宝物館	―	
12月５日	懇談会	本田技研工業主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約100人	
20年１月24日	懇談会	アウディ　ジャパン主催による社員向け研修会およびレセプション	平成館・法隆寺宝物館	約150人	
20年２月８日	音楽会	子どものための友情の架け橋コンサート2008実行委員会主催による展示鑑賞およびコンサート、レセプション	平成館	約300人	
20年３月７日	懇談会	P.G.Japan主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館・本館・平成館	約300人	
４月13日 ５月11日 ７月13日 ８月10日 ８月31日 ９月30日 10月28日 11月23日 12月16日 20年１月27日 20年３月１日 20年３月23日	ガイドツアー	リレ・アカデミー ガイドツアー	本館等	約40人 (24回)	株式会社スタイルカフェ・ドット・ネット
４月25日 ５月23日 ７月25日 10月24日 11月28日 12月22日	講演会	リレ・アカデミー スクーリング	平成館・本館等	約20人 （６回）	株式会社スタイルカフェ・ドット・ネット
12月23日 20年１月20日 20年２月24日	講演会	リレ・アカデミー会員募集キャンペーン 大人の休日クラブ会員対象講演会	平成館	約790人 （３回）	株式会社スタイルカフェ・ドット・ネット

２）館主催・協力イベント(27件)

期間	種類	タイトル	会場	出席者数	備考
４月22日	講演会	「美と知の時代」を支えるミュージアム	平成館大講堂	約110人	乃村工藝社後援
６月６日	鑑賞会	JET特別鑑賞会	平成館ほか	約50人	日本英語交流連盟共催

6月23日	音楽会	ローナン・マギル　ピアノコンサート	平成館	234人	サロン・ド・ソネット共同主催
6月24日	音楽会	ハーバード大学　男声ア・カペラコーラスグループ「クロコディロス」公演	本館	約680人（2回）	東芝国際交流財団共催 上野のれん会協力
7月22日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館大講堂	約500人（2回）	東京クラリネット・クワイヤー共催 上野のれん会協力
8月3日	音楽会	夏休み子ども音楽会	東京文化会館ほか	192人	平常展無料入館の協力
8月18日	音楽会	日本フルートコンベンション ジャズ&ラテンLIVE	平成館大講堂	約430人	日本フルート協会主催
9月24日	音楽会	ジェラールプーレ　ヴァイオリンリサイタル	平成館	189人	東京藝術大学協力
9月30日	音楽会	エレーナ・イオーノワ&ワレーリー・イスリャイキン　オペレッタアリア コンサート	平成館	221人	サロン・ド・ソネット共同主催
10月3日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会「日本の文化による国際貢献」 平山郁夫	平成館大講堂	約240人	会場提供
10月27日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会「日本原始・古代の鉄と国家」古谷毅	平成館大講堂	約80人	
10月27日 11月23日 20年3月20日	観光紹介	外国人向観光体験コース	九条館・応挙館・本館	各日約10名	無料入館の協力 ボランティアツアーの協力
10月30日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	約330人	東大寺共催 上野のれん会協力
11月10日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会「黒田清輝の生涯と芸術ー画家のいる『場所』から」 田中淳	平成館大講堂	約60人	
11月17日	普及イベント	留学生の日	本館ほか	約1,020人	㈱東京美術協賛
12月8日	音楽会	藤原真理チェロコンサート	平成館	208人	サロン・ド・ソネット共同主催
12月13日 ～16日	実演展示	台東ファッションザッカ展	平成館	約670人	会場提供
20年1月6日	音楽会	新春東博寄席～上野の山で初笑い～	平成館大講堂	351人	
20年1月26日	音楽会	ニューイヤーコンサート2008 綾乃ひびき	平成館	157人	サロン・ド・ソネット共同主催
20年2月5日 ～2月11日	実演展示	台東区の伝統工芸職人展	表慶館	約6,120人	台東区共催

20年２月29日	音楽会	高田泰治フォルテピアノリサイタル	法隆寺宝物館	79人	日本テレマン協会
20年３月８日	講演会	東京のオペラの森2008 トークイベント「チャイコフスキー　その生涯」	平成館大講堂	約140人	東京のオペラの森共催
20年３月16日	音楽会	東京のオペラの森2008 木管の調べ	本館	約250人	東京のオペラの森共催
20年３月20日	音楽会	ロマン・ギュイオ＆中島由紀 クラリネットとピアノのデュオコンサート	平成館	192人	サロン・ド・ソネット共同主催
20年３月21日	音楽会	東京のオペラの森2008 佐藤美枝子ソプラノリサイタル	平成館	138人	東京のオペラの森共催
20年３月22日	音楽会	東京のオペラの森2008 秋場敬浩ピアノリサイタル	平成館	約160人	東京のオペラの森共催
20年３月23日	音楽会	東京のオペラの森2008 江口玲ピアノリサイタル	平成館	200人	東京のオペラの森共催

３）展示に関連する事業（計９件）

展覧会名	期間	イベント種類	会場	回数	参加者数
レオナルド・ダ・ヴィンチ　－天才の実像	４月15日	レオナルド・ダ・ヴィンチ誕生日記念コンサート 出演：Ｎ響メンバー	平成館大講堂	２回	222人
京都五山　禅の文化	８月３・10・17日、９月７日	座禅会 講師：相国寺	平成館小講堂	12回	390人
	８月７・８・26日、９月４・５・６日	お茶会 講師：宗徧流、表千家、武者小路千家、裏千家、藪内家、遠州流	平成館小講堂	36回	399人
博物館に初もうで	20年 １月２日、３日	和太鼓演奏	前庭	４回	約2,120人
	20年 １月２日、３日	獅子舞	前庭	４回	約1,800人
	20年１月２日	江戸の遊芸	前庭	２回	約940人
	20年１月３日	クラリネットコンサート	本館	２回	約550人
	20年 １月２日～14日	いけばな	本館　他	―	―
宮廷のみやび―近衛家1000年の名宝	20年１月26日	天平楽府コンサート 出演：天平楽府	平成館大講堂	１回	261人

４）撮影件数（計120件）

【京都国立博物館】

1）会場提供　17件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
4月27日	講演会	建築物に関する学習	講堂	120人	古社寺会
4月29日	講演会	「道長展」関連講座	講堂	170人	第14回京阪・文化フォーラム
5月7日	講演会	「道長展」鑑賞会	講堂	60人	清風会
5月12日	講演会	「道長展」鑑賞前解説	講堂	70人	リビング京都
8月23日	講演会	「大覚寺の名宝展」鑑賞会	講堂	60人	清風会
9月15日	講演会	「大覚寺の名宝展」に伴う講演	講堂	80人	京都仏教各宗派連合会
9月19日	講演会	ボランティア研修会	講堂	40人	虹の会
10月19日	講演会	セミナー	講堂	27人	リビング京都
10月29日	講演会	「狩野永徳展」鑑賞会	講堂	150人	清風会
10月26日	講演会	セミナー	講堂	36人	リビング京都
11月9日	講演会	セミナー	講堂	20人	静岡カルチャーセンター
11月4日	講演会	狩野永徳関連講座	講堂	170人	JR東海
20年1月21日	講演会	「ヨーロッパ陶磁展」解説	講堂	80人	清風会
20年2月20日	説明会	ミュージアムタウン構想の推進	講堂	150人	文化庁美術学芸課
20年2月22日	講演会	「ヨーロッパ陶磁展」解説	講堂	80人	清風会
20年2月22日	講演会	「ヨーロッパ陶磁展」解説	講堂	40人	読売新聞社
20年2月24日	講演会	「ヨーロッパ陶磁展」解説	講堂	40人	BONブーケ企画

2）館主催イベント　9件

期間	種類	タイトル	会場	出席者数	備考
4月27日	落語	京都・らくご博物館（春） ～春宵寄席～	講堂	191人	米朝事務所共催
8月17日	落語	京都・らくご博物館（夏） ～納涼寄席～	講堂	178人	米朝事務所共催
9月15日	音楽会	バロック　コンサート	特別展示館	224人	日本テレマン協会
10月26日	落語	京都・らくご博物館（秋） ～栗名月の会～	講堂	167人	米朝事務所共催
20年1月11日 ～3月7日	音楽会	チェンバロ　ミニコンサート	特別展示館	―	日本テレマン協会・読売新聞・テレビ
20年1月25日	落語	京都・らくご博物館（冬） ～新春寄席～	講堂	167人	米朝事務所共催
20年2月13日	音楽会	バレンタイン　コンサート	講堂	112人	日本テレマン協会・読売新聞・テレビ

20年３月21日	音楽会	スプリングオペラコンサート	特別展示館	186人	京阪電鉄共催、新国立劇場協力
20年３月21日	音楽会	スプリングオペラコンサート	特別展示館	180人	京阪電鉄共催、新国立劇場協力

３）撮影　８件

【奈良国立博物館】

１）会場提供　28件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
４月１日	献血	奈良県赤十字血液センターによる移動採血車での献血業務	新館前敷地	―	
５月３日	献血	奈良県赤十字血液センターによる移動採血車での献血業務	新館前敷地	―	
５月13日	イベント	株式会社ツーアンドフォー主催による「ニッポンクラシックカーラリー2007　大和路・奈良」開催	講堂 敷地 地下回廊	180人	特別協力： 奈良国立博物館
７月21日	イベント	東京藝術大学ミュージカルエクスプレス主催によるミュージカルコンサート「Pieces」開催	地下回廊	―	
８月１日	研修	奈良市学校教育課による奈良市教職員研修講座	講堂	120人	
８月５日 ～14日	イベント	なら燈花会の会主催による「なら燈花会」	新館前敷地	―	
８月７日、 ９日～12日	雅楽公演	雅楽コンサート実行委員会主催による「なら燈花会」に協賛して、奈良の伝統雅楽を鑑賞していただく会	講堂	8/7…147名 8/9…139名 8/10…76名 8/11…97名 8/12…99名	共催： 奈良テレビ放送
８月８日	セミナー	能楽学会による世阿弥忌セミナーの開催及び懇親会	講堂 会議室 地下回廊	講堂123人 会議室10人 地下回廊61人	協力： 談山神社、関西大学、神戸女子大学古典芸能研究センター
９月８日	研修	奈良県企画部観光交流局文化国際課による外国語観光ボランティアガイド養成研修	講堂	180人	
９月19日 ～24日	イベント	奈良テレビ放送株式会社、株式会社龍村光峯主催による「龍村光峯の織物美術展」及び一部販売	地下回廊	―	協力： 奈良国立博物館 日本伝統織物保存研究会 協賛： 三笠コカ・コーラボトリング㈱

10月27日 ～11月12日	普及キャンペーン	奈良県農林部農政課による「奈良のうまいもの」紹介パネル展示及び試食販売	地下回廊	―	
10月27日 ～11月12日	普及キャンペーン	奈良県農林部農業水産振興課による奈良県特産品パネル展示	地下回廊	―	
10月26日 ～11月12日	観光PR	大和郡山市商工観光課による観光ガイドの配布	地下回廊	―	
10月27日 ～11月12日	販売	株式会社ワールドヘリテージによる季節の土産物販売	新館西側敷地	―	
10月27日 ～11月12日	休憩所設置	株式会社　鶴屋吉信による休憩所設置のため	新館西側敷地	―	
10月27日 ～11月12日	休憩所設置	有限会社日本クリーンシステムズによる休憩所及び喫茶の販売のため	新館西側敷地	―	
10月27日 ～11月12日	スタンプラリー	はじまりは正倉院展実行委員会によるスタンプラリーのスタートブース及び冊子の配布、PRのため	新館西側敷地	―	
10月27日 ～11月12日	販売	校倉な会による正倉院「御物」の文様・色などの特徴を取り上げ「奈良にしかないモノづくり」運動を広めていくための商品販売	新館西側敷地	―	
10月31日	会議	奈良県警察本部による奈良県文化財保安連絡会	会議室	約20人	
11月７日	講演	奈良県警察本部によるサイバー犯罪捜査・生活安全実務専科	会議室	15人	
11月９日、10日	イベント	なら燈花会の会によるなら「燈花会　in　正倉院展　2007秋」	新館前敷地	―	協力： 奈良国立博物館
11月17日	講話	長浜市長浜城歴史博物館による「平成19年度　友の会臨時見学会(当館学芸員による講話)」	講堂	45人	長浜城歴史博物館友の会事務局
11月17日	挙式	オーシャンフロントによる模擬挙式のため	仏教美術資料研究センター	40人	
12月17日	イベント	株式会社　フリーフェイス主催による「木塲孝志アコースティックグループ公演」	新館前敷地	―	
20年２月 ９日、10日	講義	放送大学奈良学習センターによる平成19年度第２学期　面接授業（集中型）開講のため	講堂	約150人	
20年3月8日	フォーラム	奈良県家庭教育推進協議会による「お父さん出番です！」ミニフォーラムの開催	講堂 応接室	150人	共催： 奈良県教育委員会

20年3月8日	挙式	オーシャンフロントによる挙式	仏教美術資料研究センター	20人	
20年３月 14日、15日	イベント	燈火のあるカフェテラス実行委員会主催による「燈火のあるカフェテラスLIVE」開催のため	西新館 南側ピロティ	3/14 1st75人 2nd80人 3/15 1st147人 2nd126人	後援： 奈良国立博物館 協力： 奈良交通株式会社 企画制作： 寧屋工房 プロデュース： 武田高明

２）特別展等に関連する事業　10件

展覧会名	期間	イベント種類	会場	参加者数	備考
美麗 院政期の絵画	９月24日	「特別講座 香文化と粥の会」 ○当館学芸課長による「美麗院政期の絵画」展解説 ○（株）香十 社長・(株）日本香堂 顧問 稲坂良弘による日本の香文化についての講演及香木の香り鑑賞	講堂	１回目 84人 ２回目 84人	共催：日本香道
第59回 正倉院展	10月28日	「再現！！これがベートーヴェンの聞いた音」 テレマン協会によるコンサート フォルテピアノ：高田泰治、お話：延原武治、ヴァイオリン:姜　隆光、ヴァイオリン:大谷史子、チェロ：曽田　健	仏教美術資料研究センター	69人	主催： 奈良国立博物館 日本テレマン協会 共催： 奈良テレビ放送 後援： 読売新聞大阪本社
	11月1日	「着物で正倉院展を見よう」 留学生の日にあわせ留学生を対象に着物の貸出・着付けを行い、着物で正倉院展を観覧する行事	展示室	41人	協力： 着物着付ボランティア「松乃」
	11月９日	「雅楽の夕べ　管絃と舞楽」 南都楽所による雅楽演奏 管絃の部：角調音取、傾盃酔郷楽 舞楽の部：北庭楽、林歌	講堂	189人	
	10月27日 ～11月12日	「野点のお茶会」 正倉院展会期中の入館者を対象とした呈茶席	西新館 ピロティ	20,659人	主催：結の会

第59回 正倉院展	10月27日 ～11月12日	●読売新聞社が制作した「正倉院展」ポスターのパネル展示 ●読売新聞社が制作した「正倉院展」DVD映像の放映 ●「第59回正倉院展」に関するクイズの実施 ●来場者に抽選くじによる記念品贈呈	新館西側敷地	―	読売新聞大阪本社
	10月27日 ～11月12日	●読売新聞による「第59回正倉院展」関連紙面、読売新聞社が写真取材したシルクロードの風景のパネル展示	地下回廊	―	読売新聞大阪本社
特別陳列 「おん祭と春日信仰の美術」	20年1月19日	「春日若宮おん祭の舞楽」 南都楽所による舞楽公演	講堂	71人	
特別陳列 「お水取り」	20年2月16日	『お水取り「講話」と「粥」の会』 東大寺　守屋弘斎長老による講話、当館西山教育室長による特別陳列「お水取り」の解説及び見学、茶粥試食、お水取り準備作業見学	講堂・特別陳列会場・茶室控室・東大寺	29人	
	20年3月4日	「お水取り展鑑賞とお松明」 当館西山研究員による特別陳列「お水取り」展の解説及び鑑賞、「お水取り」ビデオ鑑賞、東大寺二月堂にておたいまつ見学	講堂・特別陳列会場・東大寺二月堂	133人	主催：結の会 後援：奈良国立博物館

3）その他イベント等　7件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
7月14日 ～8月19日	販売	「昔なつかし駄菓子屋さん」 地下回廊葉風泰夢で駄菓子を販売	地下回廊	―	
8月4日 8月5日	イベント	「博物館で金魚すくい」 親と子のギャラリー「仏さまの彩り」観覧者を対象に金魚すくいを実施	新館前	8/4：　90人 8/5：151人	
8月12日	イベント	「和太鼓演奏会」 奈良工業高校・奈良朱雀高校和太鼓部「秋篠」による和太鼓演奏	新館前	10時～ ：151人 13時30分～ ：305人	

12月22日	イベント	「高橋成典フルートコンサート～クリスマスに響く美しき音色～」 フルート　高橋成典、チェンバロ　高橋曜子によるクリスマスコンサート	講堂	117人	後援：奈良テレビ放送 奈良市
12月23日 ～20年1月10日	絵画展示	奈良女子大学附属小学校２年生により描かれた奈良国立博物館のスケッチを展示	地下回廊	―	
１月４日	イベント	「奈良国立博物館で初笑い」 桂小春團治らによる新春寄席	講堂	104人	制作：奈良テレビ放送
１月13日	イベント	「和太鼓演奏会」 奈良工業高校・奈良朱雀高校和太鼓部「秋篠」による和太鼓演奏	新館前	―	無料

【九州国立博物館】

１）会場提供　計40件　（共催展に関連するものは３）展示に関連する事業参照）

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
３月27日 ～４月８日	展示	第10回福岡県景観文化展	エントランスホール	20,406人	美・まちづくり会議　福岡県
４月10日 ～22日	展示	第14回九州・山口女流代表書作家展	ミュージアムホール	4,424人	読売新聞社西部本社事業部
４月14日	研修会	つくしの歴史を学ぶ会 九州国立博物館における勉強会	研修室	―	つくしの歴史を学ぶ会
４月25日 ～27日	展示	2007韓流文化フェスティバルin福岡「韓国文化展示会」	ミュージアムホール・エントランスホール・天満宮アクセス	8,840人	韓国観光公社・㈲クラッチ
４月29日	茶会	西日本新聞創刊130周年記念 第20回大宰府茶会	研修室	300人	太宰府茶会実行委員会・西日本新聞社
５月２日 ～27日	展示	博多おきあげ（押絵）展示	天満宮アクセス	―	博多手職人連盟
６月10日	音楽会	印度仏教音楽の調べ ～こころが よろこぶ おと～	ミュージアムホール	100人	Meloghobia （メロゴビア）
６月16日 ～７月29日	展示	カンボジアPPSの子ども達の絵画展	天満宮アクセス	―	NPO法人国際サーカス村協会
６月20日	会議 研修会	社団法人筑紫法人会女性部会 第13回定時総会及び講話	研修室	―	社団法人筑紫法人会女性部会
６月29日	会議	福岡県高等学校歴史研究会 県総会	研修室	―	福岡県高等学校歴史研究会

6月30日	研修会	福岡教育大学新入生歓迎合宿 博物館見学及び研修室における研修	研修室	―	福岡教育大学
7月4日	研修会	筑陽学園高等学校 自主選択特別講座（講話）	研修室	―	筑陽学園高等学校
7月16日	芸能	筑紫樂所　雅楽公演	ミュージアムホール・研修室	300人	筑紫樂所
7月27日 8月3日 8月7日 8月10日	研修会	学童保育　大野城キートスクラブ　バスハイク 博物館を探検しよう	研修室	―	キートスクラブ事務局
7月31日	演劇	カンボジアサーカス学校日本ツアー太宰府公演	エントランスホール	100人	NPO法人国際サーカス村協会・カンボジアサーカス学校太宰府公演実行委員会
7月31日	講演	釜山高校生との美術文化交流	研修室	50人	釜山高校生との美術文化交流実行委員会
8月3日	研修会	全国聾学校校長会総会・研究協議会研修	ミュージアムホール	―	福岡県立福岡高等聾学校
8月5日	講演	第4回日本の次世代リーダー養成塾	ミュージアムホール	300人	福岡県青少年アンビシャス運動推進室
8月10日	研修会	熊本県私学教育研修会　地歴・公民部会 熊本私学地歴・公民部会一斉研修	ミュージアムホール	―	熊本県私学教育研修会　地歴・公民部会
8月21日 ～30日	イベント	太宰府発見フェスティバル 「第1回太宰府発見コンクール」	ミュージアムホール・エントランスホール	33,543人	福岡県教育委員会
8月22日	音楽会	ミュージアムカフェジャズライブ	エントランスホール	140人	松宮敬・川上俊彦
9月6日	懇親会	国際歯学学会パーティ	エントランスホール	300人	国際歯学学会
9月16日	イベント	九博からはじまるこころの交流	研修室・あじっぱ・文化交流展示室	―	つくし青年会議所
10月2日	研修会	太宰府川柳倶楽部例会	研修室	―	太宰府川柳倶楽部
10月5日	研修会	福岡県高等学校歴史研究会 第2回日本史研究会	研修室	―	福岡県高等学校歴史研究会
10月13日	研修会	第54回日本家政学会九州支部大会 特別講演会及び博物館研修	研修室	―	日本家政学会 九州支部

10月23日 ～28日	イベント	開館２周年記念　福岡県観光温泉地協会イベント“日替わり”足湯「温泉（ゆ）に浸り　悠久の歴史に浸る」	エントランスホール・屋外	48,903人	福岡県観光温泉地協会
10月23日 ～28日	観光紹介	佐賀市バルーンフェスタPR展	エントランスホール	48,903人	佐賀市観光・文化課
10月24日	会議	福岡県高等学校芸術文化連盟加盟校担当者会議	研修室	－	福岡県高等学校芸術文化連盟
10月27日	研修会	福岡県共栄会福岡支部 本願寺展講演及び観覧	研修室	－	福岡県共栄会 福岡支部
11月２日	展示	第11回國華清和会特別鑑賞会	研修室	－	
11月20日	研修会	小郡市立三国中学校 総合学習	研修室	－	小郡市立三国中学校
12月４日 ～９日	展示	第24回九州地区伝統的工芸品まつり	エントランスホール・研修室	14,806人	伝統的工芸品月間推進九州協議会 他２団体
12月８日 ～９日	講義	放送大学面接授業 （19年度第２学期）	研修室	34人	放送大学福岡学習センター
12月20日	講演	第15回ふくおか県民文化祭2007in太宰府「芸術の祭典講演会」	ミュージアムホール	130人	福岡県民文化祭実行委員会
20年２月13日	研修会	浄土宗青年会福岡教区研修会	研修室	－	浄土宗青年会 福岡教区
20年２月17日	講演	松永耳庵展（九州・山口の茶文化展）講演会	ミュージアムホール	300人	表千家同門会 福岡県支部
20年２月19日	会議	福岡県市町村教育委員会女性教育委員研修会・役員会	研修室	－	福岡県市町村教育委員会女性教育委員研修会
20年２月26日	研修会	福岡市こども総合相談センター適応指導教室はまかぜ学級 学習会	研修室	－	福岡市こども総合相談センター
20年３月８日	イベント	三条子ども会お別れ会 科学実験、ゲーム	研修室	－	三条子ども会

2）館主催・協力イベント　計97件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
4月13日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	70人	福岡女子短期大学
4月15日	音楽会	第34回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	300人	ＫＥＮＧ、浦上眞紀、緒方公治
4月20日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	50人	福岡女子短期大学
4月27日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	80人	福岡女子短期大学
4月29日～5月5日	イベント	九博ボランティア企画イベント「昭和からの贈りもの」	ミュージアムホール・エントランスホール・研修室	44,936人	九博ボランティアイベント部会
5月3日	音楽会	第35回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	260人	川谷和也、内田浩誠、うしじまあおい
5月11日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	60人	福岡女子短期大学
5月13日	落語	第６回九博朝日寄席「志ん生を語り継ぐ～高弟圓菊と孫弟子たち～」	ミュージアムホール	250人	古今亭圓菊、金原亭馬の助、古今亭菊可、五街道雲助
5月18日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	100人	福岡女子短期大学
5月26日～27日	学会	第60回美術史学会全国大会	ミュージアムホール	350人	美術史学会
6月1日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	60人	福岡女子短期大学
6月1日～7月7日	イベント	九博ボランティア企画イベント「親子で七夕まつり」	エントランスホール	99,415人	九博ボランティアイベント部会
6月8日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	100人	福岡女子短期大学
6月9日	ワークショップ	第１回ガムランワークショップ	ミュージアムホール	60人	九州国立博物館
6月15日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	80人	福岡女子短期大学
6月16日	演劇	劇団道化　日中合作「しょうぼうじどうしゃ じぷた」帰国報告公演	ミュージアムホール	500人	劇団道化・中国国立児童芸術劇院
6月17日	ワークショップ	劇団道化　中国演劇のワークショップ	研修室・エントランスホール	60人	劇団道化・中国国立児童芸術劇院

6月24日	音楽会	第36回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	250人	田代佳代子、八谷和歌子、塚崎美子
6月30日	音楽会	第37回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	180人	宮崎たかし、塚本美樹、間村清
7月1日	音楽会	福岡女子短期大学音楽科演奏会～優優コンサートinきゅうはく～	ミュージアムホール	300人	福岡女子短期大学
7月6日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	60人	福岡女子短期大学
7月7日	ワークショップ	第2回ガムランワークショップ	ミュージアムホール	50人	九州国立博物館
7月14日～15日	講演	日韓新石器時代研究会	ミュージアムホール	150人	九州縄文研究会・韓国新石器研究会
7月20日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	60人	福岡女子短期大学
7月21日	音楽会	第38回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	500人	高崎裕士、佐藤金之助、山崎箜山
7月28日	観光紹介	山鹿の観光と物産展	エントランスホール・屋外	300人	熊本県山鹿市
7月29日	音楽会	太宰府市民吹奏楽団「まほろばコンサート」	ミュージアムホール	400人	ボランティア太宰府市民吹奏楽団
8月4日～19日	展示	西日本陶芸30人選抜展	エントランスホール	61,429人	西日本新聞社
8月4日～5日	ワークショップ	つくってみよう☆わたしの掛け軸	研修室	120人	福岡教育大学美術教育講座
8月10日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	160人	福岡女子短期大学
8月17日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	160人	福岡女子短期大学
8月18日	講演	文化庁海外展記念「日本のやきもの」特別講演会	研修室	―	
8月18日	音楽会	第39回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	250人	宮村将広、橋口武史
8月19日	ワークショップ	エレキット夏休み工作教室in太宰府	研修室	60人	株式会社イーケイジャパン
8月24日～25日	学会	アジア民族造形学会創立10周年記念九州国際大会ーアジアの民族造形から九州を考えるー	ミュージアムホール	100人	アジア民族造形学会韓国・亜細亜民族造形学会

8月26日	講演	NTT西日本スペシャル 絵本カーニバルin Fukuoka2007 きゅーはくの絵本であそぼう！ 座談会 「展示品が絵本になった!?」	ミュージアムホール	100人	西日本新聞社・九州大学ユーザーサイエンス機構子どもプロジェクト・テレビ西日本・ＮＰＯ子ども文化コミュニティ
8月30日	音楽会	小林正枝＆中島萌デュオコンサート	オープンカフェ前	140人	九州産業大学 美術館
8月31日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	120人	福岡女子短期大学
9月１日	講演	やさしい能楽講座 「能の世界へようこそ！」	ミュージアムホール	300人	(社)観世皐風会
9月１日 ～16日	展示	福岡県江蘇省友好提携15周年記念展覧会 「徐湖平（じょこへい）中国画展」	特別展示室第３室	38,452人	九州国立博物館
9月２日	音楽会	第40回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	300人	筑紫寿楽、筑紫祥楽、岩崎大輔
9月７日 ～９日	シンポジウム	開館２周年記念 「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム －文化をつたえる紙の路－」	ミュージアムホール・エントランスホール	10,846人	国宝修理装こう師連盟
9月14日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	120人	福岡女子短期大学
9月15日	落語	第７回九博朝日寄席 「艶やか！女流噺家三人衆」	ミュージアムホール	200人	露の都、桂右團治、三遊亭歌る多、三遊亭歌る美
9月22日 ～30日	イベント	福岡県・デリー州友好提携記念事業「インド・フェア」	ミュージアムホール・エントランスホール	40,675人	福岡県
9月28日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	120人	福岡女子短期大学
10月２日 ～20日	展示 イベント	九州国立博物館開館２周年記念 「迫真のアンコールワット遺跡　尊顔とバイヨン寺院展」	ミュージアムホール	100,552人	凸版印刷・朝日新聞社・九州朝日放送
10月７日	音楽会	第41回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	300人	深沢功、藤本史子
10月12日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	120人	福岡女子短期大学
10月19日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	120人	福岡女子短期大学
10月27日	ワークショップ	第３回ガムランワークショップ	エントランスホール	100人	九州国立博物館

10月31日	式典	開館２周年記念式典	ミュージアムホール	150人	九州国立博物館
11月３日	イベント	「留学生の日」イベント	ミュージアムホール・エントランスホール	12,000人	
11月４日	音楽会	第42回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	300人	于波、佐久間大和、河本絵理
11月９日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	120人	福岡女子短期大学
11月10日	ワークショップ	第4回ガムランワークショップ	エントランスホール	100人	九州国立博物館
11月16日	シンポジウム	福岡国際大学開学10周年記念国際シンポジウム	ミュージアムホール	250人	九州学園福岡国際大学
11月18日	シンポジウム	日・中・韓学術文化交流協定締結記念国際シンポジウム「百済と古代東アジアの国際交流」	ミュージアムホール	270人	九州国立博物館
11月20日～29日	展示	平成19年度筑紫地区文化財パネル展ちくし歴史散歩「ちくしの文化遺産を歩く」	エントランスホール	36,846人	筑紫地区社会教育振興協議会
11月23日～25日	舞踊	朝鮮通信使シンポ記念関連イベント「舞踊」	屋外	300人	朝鮮通信使400年記念フェア実行委員会
11月24日～25日	学会	日本遺跡学会2007年度大会「遺跡コンソーシアムー地域連携ー」	ミュージアムホール・研修室	250人	日本遺跡学会
11月30日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	70人	福岡女子短期大学
12月１日	能楽	開館２周年記念「九博夜能」	ミュージアムホール	260人	九州国立博物館
12月２日	シンポジウム	国際シンポジウム「宗像・沖ノ島と関連遺跡群」	ミュージアムホール	300人	福岡県教育委員会・宗像市・福津市
12月７日	音楽会	太宰府市小学校音楽会	ミュージアムホール	300人	太宰府市教育委員会・太宰府市小学校音楽会実行委員会
12月８日	ワークショップ	第５回ガムランワークショップ	ミュージアムホール	50人	九州国立博物館
12月11日	音楽会	American Winter Music Concert	ミュージアムホール	160人	福岡アメリカン・センター（在福岡米国領事館広報部）
12月11日～20日	展示	朝鮮通信使写真展	エントランスホール	15,999人	九州国立博物館

12月14日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	70人	福岡女子短期大学
12月15日～16日	シンポジウム	朝鮮通信使400年記念国際シンポジウム「アジアのなかの日朝関係史」	ミュージアムホール	130人	朝鮮王朝実録講読会
12月21日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	70人	福岡女子短期大学
12月22日～23日	観光紹介	吉野ヶ里Days in 九博	エントランスホール	5,227人	佐賀県教育委員会文化課　吉野ヶ里歴史公園事務所 公園緑地管理財団吉野ヶ里公園管理センター
12月24日	音楽会	第43回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	200人	内田浩誠、森山由美子、小車洋行
20年1月3日～7日	イベント	九博ボランティア企画イベント「お正月あそびを楽しもう『九博のお正月』」	エントランスホール・研修室・屋外	32,858人	九博ボランティアイベント部会
20年1月6日	落語	第８回九博朝日寄席「初笑い！南喬・さん喬二人会」	ミュージアムホール	220人	柳家さん喬、桂南喬、林家二楽
20年1月10日～14日	観光紹介	長崎の観光と物産展	エントランスホール・屋外	30,542人	長崎市・長崎ブランド振興会
20年1月11日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	70人	福岡女子短期大学
20年1月12日	ワークショップ	第６回ガムランワークショップ	ミュージアムホール	30人	九州国立博物館
20年1月14日	音楽会	第44回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	300人	于微、中村由輝子
20年1月18日	展示	時空を翔るシルクロード・壱岐観光ＰＲ展	ミュージアムホール・エントランスホール	3,725人	壱岐市・壱岐観光協会
20年1月22日～2月3日	展示	ひなの国九州フェスタ2008	エントランスホール	59,259人	九州のひなまつり広域振興協議会
20年1月25日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	70人	福岡女子短期大学
20年2月8日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	100人	福岡女子短期大学
20年2月11日	音楽会	第45回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	300人	岩崎大輔、山崎箜山
20年2月15日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	120人	福岡女子短期大学
20年2月16日	ワークショップ	第７回ガムランワークショップ	ミュージアムホール	70人	九州国立博物館
20年2月19日	講演	山西省太原市文物考古研究所所長　講演会	研修室	30人	九州国立博物館

20年２月19日～24日	展示	日韓大学生『書』交流展	エントランスホール	56,299人	福岡県国際交流センター・九州大学韓国研究センター
20年２月23日	芸能	九博で博多にわかば楽しみまっしょう	ミュージアムホール	600人	博多仁和加振興会
20年３月１日～２日	展示	第２回福岡県景観大会	ミュージアムホール・エントランスホール	10,646人	福岡県、実行委員会、福岡県都市計画協会
20年３月４日～９日	展示 イベント	大川建具･彫刻･創作家具「伝統と匠の技展」in九州国立博物館	エントランスホール	23,560人	大川建具事業協同組合・大川ランマ彫刻振興会・大川特注家具協議会
20年３月９日	音楽会	第３回まほろばコンサート 太宰府市民吹奏楽団	ミュージアムホール	300人	九博ボランティア・太宰府市民吹奏楽団
20年３月14日～16日	イベント	第２回九州地域ブランドフォーラム	ミュージアムホール・エントランスホール・屋外	13,642人	日本イベントプロデュース協会九州本部
20年３月16日	音楽会	第46回きゅーはくミュージアムコンサート	エントランスホール	250人	金城安紀
20年３月20日	講演	第83回研究会『3Dデジタルアーカイブと超高精細映像』	ミュージアムホール	70人	三次元映像のフォーラム
20年３月28日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	オープンカフェ前	－	福岡女子短期大学
20年３月29日	講演	第12回九博デー 「文化を未来に伝えるために…」	ミュージアムホール	－	九州国立博物館を愛する会

３）展示に関連する事業　計29件

展覧会名	期間	イベント種類	会場	参加者数
文化交流展	４月１日	教育講座シリーズ・アジアージュ 「文化交流展示室の歩き方」	ミュージアムホール	100人
	６月３日	教育講座シリーズ・アジアージュ 「西と東の縄文文化」	ミュージアムホール	40人
	７月８日	教育講座シリーズ・アジアージュ 「旧石器時代のくらし」	ミュージアムホール	20人
	８月11日	教育講座シリーズ・アジアージュ 「弥生と古墳時代の対外交流」	ミュージアムホール	50人
	９月16日	教育講座シリーズ・アジアージュ 「王塚装飾古墳の謎」	ミュージアムホール	80人

	10月27日	教育講座シリーズ・アジアージュ 「北部九州地域における経塚と経筒」	ミュージアムホール	30人
	11月11日	教育講座シリーズ・アジアージュ 「発掘調査からみた古代の大宰府」	ミュージアムホール	30人
	12月９日	教育講座シリーズ・アジアージュ 「朝鮮白磁の美と技」	ミュージアムホール	50人
	20年１月13日	教育講座シリーズ・アジアージュ 「日本に伝来した朝鮮鐘」	ミュージアムホール	40人
	20年２月10日	教育講座シリーズ・アジアージュ 「九州陶磁の精華～田中丸コレクション～」	ミュージアムホール	100人
	20年３月16日	教育講座シリーズ・アジアージュ 「国宝島津家文書の世界～朝鮮出兵の虎狩から篤姫まで～」	ミュージアムホール	100人
未来への贈りもの	４月28日	手嶌葵ミニライブ	ミュージアムホール	480人
	５月12日	記念講演会 「安道壹(あんどういつ)と摩崖(まがい)石刻経」	ミュージアムホール	80人
	５月19日	天台宗開宗1200年記念　天台声明公演	ミュージアムホール	300人
	６月２日	伎楽公演 「三蔵法師　求法（ぐほう）の旅」	ミュージアムホール	300人
日本のやきもの	７月22日	記念講演会 「桃山の茶陶」	ミュージアムホール	230人
	８月４日	記念講演会 「華やかな江戸の陶磁」	ミュージアムホール	150人
本願寺展	10月５日	開催記念講演会 「親鸞の悲しみ」	エルガーラホール　大ホール	580人
	10月21日	開催記念シンポジウム 「シルクロード　－　共存の道～大谷探検隊からのメッセージ～」	ミュージアムホール	300人
	10月28日	落語のルーツは浄土真宗のお説教？	ミュージアムホール	300人
	11月10日	こころに響く浄土の調べ	ミュージアムホール	300人
京都五山	20年１月14日	記念講演会 「五山文化と香道」	ミュージアムホール・研修室	50人
	20年１月19日	禅と茶の講演会 「つくしの茶ばなし」と呈茶会	ミュージアムホール	70人
	20年１月19日～20日	京都五山展開催記念 博多うどんと禅	屋外	－
	20年１月20日	記念講演会 「京都五山と禅宗文化」	ミュージアムホール	285人
	20年２月３日	記念講演会 「対談 禅の文化と京都を語る」	ミュージアムホール	267人

	20年２月９日	禅と茶の講演会「茶道とは」と呈茶会	ミュージアムホール・エントランスホール	―
	20年２月10日～11日	体験座禅会	研修室	180人
	20年２月13日～17日	京都物産展	エントランスホール	40,580人

３．我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

⑴　収蔵品等に関する調査研究成果の発信

①　研究交流実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ①

②　学会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ③

③　論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ④

④　調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ⑤

⑵　公私立博物館等への貸与の推進

①　公私立博物館等への収蔵品貸与件数

平成20年３月31日現在

	国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数	279	259	20	149	137	12	60	59	1	37	35	2	33	28	5
合　計	1,737	1,528	209	1,302	1,118	184	171	168	3	137	133	4	127	109	18
絵　画	449	399	50	306	266	40	83	83	0	47	46	1	13	4	9
書　跡	114	92	22	65	49	16	37	34	3	11	8	3	1	1	0
彫　刻	127	111	16	114	98	16	0	0	0	12	12	0	1	1	0
建　築	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
金　工	113	96	17	99	82	17	5	5	0	5	5	0	4	4	0
刀　剣	18	17	1	18	17	1				0	0	0	0	0	0
陶　磁	206	173	33	152	123	29	19	19	0	0	0	0	35	31	4
漆　工	52	43	9	49	41	8	0	0	0	1	1	0	2	1	1
染　織	92	66	26	80	54	26	8	8	0	4	4	0	0	0	0
考　古	275	246	29	139	110	29	14	14	0	57	57	0	65	65	0
民族資料	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4
歴史資料	13	13	0	7	7	0	5	5	0	0	0	0	1	1	0
和　書	15	15	0	15	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋　絵　画	18	17	1	18	17	1									
東洋　書　跡	23	23	0	23	23	0									
東洋　彫　刻	50	49	1	50	49	1									
東洋　金　工	0	0	0	0	0	0									
東洋　陶　磁	141	141	0	141	141	0									
東洋　漆　工	0	0	0	0	0	0									
東洋　染　織	0	0	0	0	0	0									
東洋　考　古	22	22	0	22	22	0									
東洋　民　族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物	3	3	0	3	3	0									

※東京国立博物館は、上記のほかに古写真20件を貸与。

② 海外への列品貸与

【東京国立博物館】

展覧会名称	申請者【 会場 】	貸与期間	種別	員数
韓国国立中央博物館「日本室常設展示」	韓国国立中央博物館長　李健茂 【国立中央博物館(大韓民国)】	17年９月５日 ～19年10月下旬	絵画、書跡、彫刻、金工、陶磁、漆工、考古	絵画22件（２巻、６曲１双・３、17枚、１幅、２曲１隻・１、４面、８曲１隻・１）、書跡10件（７幅、１巻、１葉）、彫刻３件（３躯）、金工17件（10口、２躯、３面、１頭、１柄）、陶磁９件（９口、１枚、３本）、漆工６件（５合、１基）、考古28件(28個)
「KATAGAMI― 日本の型紙とジャポニズム」展	独立行政法人国際交流基金理事長 小倉和夫 【国際交流基金パリ日本文化会館(フランス)】	18年７月18日 ～19年４月20日	刀剣 染織	刀剣１件 染織５件
「観音菩薩展」	奈良国立博物館長　湯山賢一 【リートベルク美術館(スイス)】	19年１月中旬 ～４月下旬	絵画	絵画１件
「悟りの世界：中世日本における禅宗の人物および説話画」展	文化庁長官　近藤信司 【ジャパン・ソサエティー・ギャラリー(アメリカ合衆国ニューヨーク市)】	19年２月７日 ～7月31日	絵画 東洋絵画	絵画５件 東洋絵画１件
「池大雅・徳山玉瀾」展	フィラデルフィア美術館長 アン・ダノンコート 【フィラデルフィア美術館(アメリカ合衆国)】	19年３月１日 ～８月30日	絵画 書跡	絵画10件 書跡５件
「韓国仏教1700年三宝特別展Ⅰ－仏」	大韓仏教曹溪宗総務院長　智冠 【仏教中央博物館(大韓民国)】	19年３月17日 ～５月31日	東洋彫刻	東洋彫刻１件
「世界を取り巻く：16,17世紀のポルトガルと世界」展	アーサー・M. サックラー美術館(スミソニアン協会) 館長　ジュリアン・ラビー 【アーサー・M. サックラー美術館】	５月23日 ～10月16日	彫刻 漆工	彫刻13件 漆工１件
企画特別展「手で書き、描いた高麗の仏国土、写経変相図」	韓国国立中央博物館館長 金紅男 【韓国国立中央博物館】	６月１日 ～９月28日	書跡	書跡１件

「パリに学んだ日本の洋画家」展	東京芸術大学大学美術館館長 増村紀一郎 【パリ日本文化会館(フランス共和国)】	９月17日 ～20年２月16日	絵画	絵画２件
文化庁主催「日本陶磁の名宝」展	文化庁長官 青木 保 【ソアレス・ドス・レイス国立美術館(ポルトガル共和国)】	９月８日 ～12月28日	陶磁 考古	陶磁５件 考古１件
「薩摩焼パリ伝統美展」	薩摩焼パリ伝統美展実行委員会委員長 大野芳雄 【フランス国立陶磁器美術館】	10月15日 ～20年３月15日	陶磁	陶磁10件
「江戸の工芸」展	文化庁長官 青木 保 【サンパウロ州立美術館(ブラジル連邦共和国サンパウロ市)】	20年３月18日 ～７月22日	陶磁 漆工 染織	陶磁５件 漆工１件 染織21件

【京都国立博物館】

展覧会名称	申請者【 会場 】	貸与期間	種別・員数
夏季特別展「手で書き、描いた高麗の仏国土、写経変相図」	韓国国立中央博物館長 金紅男 【国立中央博物館(大韓民国)】	７月６日 ～９月20日	書跡３件（１件）

※(　)は寄託品で外数

【奈良国立博物館】

展覧会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数
「修業と功徳の世界 －写経変相図」展	韓国国立中央博物館	７月２日 ～９月21日	書跡３件（１件）

※(　)は寄託品

【九州国立博物館】

展覧会名称	申請者【 会場 】	貸与期間	種別・員数
フィラデルフィア美術館 「池大雅・徳山玉瀾」展	フィラデルフィア美術館長 アン・ダノンコート 【フィラデルフィア美術館】	19年３月 ～９月上旬	絵画１件
「世界を取り巻く：16、17世紀のポルトガルと世界展」	フリーア/サックラー美術館長 ジム ユーラック 【フリーア/サックラー美術館】	５月～10月	絵画２件
ソアレス・ドス・レイス国立美術　海外交流展「日本のやきもの」	文化庁長官 青木　保 【ソアレス・ドス・レイス国立美術館】	６月中旬 ～12月初旬	陶磁３件
国立済州博物館 海洋文物交流特別展Ⅱ「琉球王国展」	国立済州博物館長 具一會 【国立済州博物館】	７月上旬 ～９月上旬	絵画６件 民族資料４件 漆工１件

フランス・セーブル美術館 パリ万国博覧会140年記念 「薩摩焼パリ伝統美展」	薩摩焼パリ伝統美展実行委員会委員長 大野芳雄 【フランス・セーブル美術館】	10月～20年４月	陶磁１件
フィラデルフィア美術館 「池大雅・徳山玉瀾」展	フィラデルフィア美術館長 アン・ダノンコート 【フィラデルフィア美術館】	19年3月5日 ～9月上旬	絵画１件（１巻）

③　考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

貸与先名	貸与件数	借用件数
山梨県立考古博物館	18	20
長野県立歴史館	18	20

【奈良国立博物館】

浜松市博物館（静岡県）：貸与件数　１件、借用件数　２件

桜井市立埋蔵文化財センター（奈良県）：貸与件数　１件、借用件数　１件

⑶　公私立博物館等に対する援助・助言の推進

①　公私立博物館等に対する援助・助言

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
248件	124件	81件	５件	38件

４．文化財に関する調査及び研究の推進

⑴　文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

①　調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ②

②　論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ④

③　学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ③

⑵　文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

①　調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ②

②　論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ④

③　学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ③

⑶　文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進

①　調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ②

②　論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ④

③　学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ③

⑷　国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

①　調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ②

②　論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ④

③　学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ③

⑸　有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

①　調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ②

②　科学研究費補助金による調査研究

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ⑥

③　客員研究員一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ⑦

５．文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

⑴　文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究

①　調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ②

②　国際ワークショップ開催実績一覧

【東京文化財研究所】

開催件数：２件　参加者総数：153人

開催日	テ　ー　マ	講　　師	参加者数
20年 3月12日～16日	中央アジアの文化遺産と日本の貢献	前田耕作（客員研究員）、山内和也（地域環境研究室長）、Sh.ムスタファイェフ（中央アジア国際研究所長）、加藤九祚（国立民族学博物館名誉教授）、B.カリムシャコヴァ（キルギス）、M.アジゾフ（タジキスタン）、M.マメドフ（トルクメニスタン）、R.マンスロフ（ウズベキスタン）、西村康（ACCU奈良）、稲葉信子（国際企画情報研究室長）、K.バイパコフ（カザフスタン）、B.アマンバエヴァ（キルギス）、N.ビャシモヴァ（トルクメニスタン）、Sh.ピダエフ（ウズベキスタン）、清水真一（文化遺産国際協力センター長）	60人
12月16日	保存処置後のモニタリング	西浦忠輝（国士舘大学） ナハール・チャヤンダル（ボロブドゥール遺産保存研究所） 金思憙（韓国国立文化財研究所）	93人

③　論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ④

④　学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ③

⑵　諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転とアジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業及び人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発

①　調査研究テーマー覧

（後述の資料に記載）◎共通資料ａ②

②　アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況

【奈良文化財研究所】　３件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数
1	木造文化財の保存と修復に係わるさまざまな技術や考え方	９月18日 ～10月19日	４日	アジア・太平洋地域諸国の若い世代の専門家	「文化遺産の保護に関する研修2007 ―木造建造物の保存と修復」	14人
2	ベトナム国ハタイ省ドンラム村の伝統的村落保存事業に関わる現地の専門家を育成するため	８月28日 ～９月27日	６日	ハタイ省及びドゥオンラム村遺産管理事務所職員	「ベトナム　ドンラム村保存事業に伴う専門家育成研修」	３人
3	博物館における資料保管法、収蔵システム、管理システム、展示方法などの諸課題につき、必要な知識・技術を習得することによって、今後モルジブ国の博物館運営や文化遺産に寄与すること	11月26日 ～12月21日	５日	モルジブ国立言語・歴史研究センター所属職員	「文化遺産の保護に資する研修2007」	２人

６．情報発信機能の強化

⑴　ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備・充実と文化財情報の計画的収集・整理・保管及び文化財に関する専門的アーカイブの拡充

①　文化財関係資料及び図書の受入件数

	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	19年度受入件数	総件数	19年度受入件数	総件数
図　　書	2,054冊	216,004冊	14,148冊	280,130冊

⑵　文化財に関する調査・研究の成果について、定期刊行物の発行及び公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等の開催と広報のためのホームページの充実

①　調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a⑤

②　公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催実績一覧

【東京文化財研究所】

公開講演会　２件

○公開講演会「平成19年度オープンレクチャー」

・開 催 日：11月２日
・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
・参加人数：276人（11月２日、３日の２日間延べ数）
・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
「光琳の目と手」
「矢代幸雄の琳派観」

○公開講演会「平成19年度オープンレクチャー」

・開 催 日：11月３日
・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
・参加人数：276人（11月２日、３日の２日間延べ数）
・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
「矢代幸雄と美術研究所」
「黒田清輝のフランス体験―芸術家村グレーから黒田記念館へ」

国際シンポジウム　１件

○国際シンポジウム「第31回文化財の保存および修復に関する国際研究集会」

・開 催 日：20年２月５～７日
・開催場所：東京文化財研究所地下セミナー室
・主　　催：東京文化財研究所
・参加人数：74人
・事業内容：「文化財を取り巻く環境の調査と対策」

【奈良文化財研究所】

公開講演会　４件

○公開講演会「第100回公開講演会」

・開 催 日：６月16日
・開催場所：奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂
・主　　催：奈良文化財研究所

・参加人数：230人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「阿倍山田道と古代の道路」
「西大寺伽藍に迫る－最新の発掘調査成果から－」
「年輪年代学とデジタル画像技術」

○公開講演会「第101回公開講演会」
・開 催 日：10月20日
・開催場所：奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：220人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「版築の話」
「キトラ古墳壁画の保存」
「文化遺産としての風景の保存」

○公開講演会「飛鳥資料館特別講演会」
・開 催 日：10月28日
・開催場所：飛鳥資料館講堂
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：60人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「山田寺の発掘調査と重要文化財指定」

○公開講演会「飛鳥資料館特別講演会」
・開 催 日：11月３日
・開催場所：飛鳥資料館講堂
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：74人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「山田寺の建築を再考する」

現地説明会　６件
○現地説明会「平城第421次（東院地区中枢部）発掘調査」
・開 催 日：９月１日
・開催場所：東院地区中枢部
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：750人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「飛鳥藤原第148次（藤原宮大極殿院南門）発掘調査」
・開 催 日：９月８日

・開催場所：藤原宮大極殿院南門
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1,073人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
　　発掘調査

○現地説明会「飛鳥藤原第150次（石神遺跡第20次）発掘調査」
・開 催 日：12月15日
・開催場所：石神遺跡第20次
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：867人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
　　発掘調査

○現地説明会「平城第423次(東院地区中枢部)発掘調査」
・開 催 日：20年１月19日
・開催場所：東院地区中枢部
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：819人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
　　発掘調査

○現地説明会「飛鳥藤原第151次（甘樫丘東麓遺跡）発掘調査」
・開 催 日：20年３月29日
・開催場所：甘樫丘東麓遺跡
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：2,100人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
　　発掘調査

○現地説明会「平城第429次（東院朝堂院東方官衙地区）発掘調査」
・開 催 日：20年３月30日
・開催場所：東院朝堂院東方官衙地区
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：453人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
　　発掘調査

③　ホームページアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料ｃ

⑶　黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示公開

①　入館者数

（後述の資料に記載）◎共通資料ｄ①

②　入館者数（過去５ヵ年）

（後述の資料に記載）◎共通資料ｄ②

③　入場料収入

（後述の資料に記載）◎共通資料ｄ③

④　平常展・特別展

（後述の資料に記載）◎共通資料ｄ④

⑷　文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力・事業の運営と各種ボランティア支援

①　ボランティア受入れ実績

（後述の資料に記載）◎共通資料ｂ

⑸　文化財情報・研究成果の促進

①　ウェブサイトのアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料ｃ

②　情報資料の収集

		東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
写真原板		304,325枚	237,227枚	347,128枚	14,002枚
資料	模造	0	0	0	0
	模写	0	0	0	0
	その他	0	0	0	24件
	計	0	0	0	24件
図書	和書	153,569冊	46,465冊	57,757冊	46,307冊
	漢書	37,170冊	18,908冊	4,524冊	0
	洋書	11,237冊	1,328冊	1,449冊	1,359冊
	計	201,976冊	66,701冊	63,730冊	47,666冊
映画フィルム		0	24巻	30巻	0
スライド		0	26本2,779コマ	21本2,192コマ	0
マイクロフィルム		3,615巻	0	0	480巻

東京国立博物館資料館の利用者数（過去５年間）

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
利用者数	4,374人	4,228人	3,769人	2,920人	3,134人
閉架図書（閲覧）	2,773件	2,776件	2,758件	2,770件	3,321件
古文献資料（閲覧）	——	——	——	——	——
マイクロフィルム（閲覧）	366件	133件	817件	1,093件	650件
レファレンスサービス	——	——	3,063件	3,632件	3,299件
コピーサービス	——	——	——	22,530枚	23,287枚

７．地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

①　国・地方公共団体への協力等に対する専門的・技術的な協力・助言

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
534件	101件	433件

②　専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

【東京文化財研究所】　１件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	博物館・美術館等保存担当学芸員研修	７月９日 ～24日	16日	博物館・美術館等の保存担当学芸員	保存環境や生物被害対策に関する講義と実習、文化財の種類ごとの劣化と修復に関する講義	32人	100％

【奈良文化財研究所】　13件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	遺物観察調査課程	６月４日 ～29日	26日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺物観察調査	６人	100％
2	文化財写真Ⅰ(基礎)課程	７月９日 ～25日	17日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財写真Ⅰ(基礎)	６人	100％
3	文化財写真Ⅱ(応用)課程	７月25日 ～８月８日	15日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財写真Ⅱ(応用)	６人	100％
4	古代・中近世瓦調査課程	９月６日 ～13日	８日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	古代・中近世瓦調査	20人	100％
5	地方官衙遺跡調査課程	10月１日 ～５日	５日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	地方官衙遺跡調査	14人	100％
6	保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程	10月16日 ～24日	９日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	保存科学Ⅰ(無機質遺物)	８人	100％
7	保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程	10月24日 ～11月1日	９日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	保存科学Ⅱ(有機質遺物)	８人	100％

8	報告書作成課程	11月７日 ～16日	10日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	報告書作成	18人	100％
9	遺跡地図情報課程	11月27日 ～30日	４日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡地図情報	15人	100％
10	測量外注課程	12月10日 ～14日	５日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	測量外注	14人	100％
11	遺跡整備活用課程	20年 1月15日 ～25日	11日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡整備活用	14人	100％
12	竪穴建物遺構調査課程	20年 2月4日 ～8日	５日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	竪穴建物遺構調査	10人	100％
13	地質環境調査課程	20年 2月21日 ～28日	８日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	地質環境調査	16人	100％

◎共通資料

ａ．調査研究

①　研究交流実績一覧

１）海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
204人	10人	７人	９人	38人	76人	64人

【東京国立博物館】 10人

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
董　理	中国	陝西歴史博物館陳列部主任(部長代理)	陝西歴史博物館展示リニューアルについての発表および、作品展示について館研究員との意見交換	20年３月16日～25日
姜炯台	韓国	中央博物館保存科学室長	日韓国際学術交流協定事業館蔵の漆作品および高麗漆器の保存・修復について共同調査・意見交換	５月14日～21日
李容喜		同室		
宣承慧	韓国	中央博物館アジア部学芸研究士	月例講演会講師	20年１月18日～20日
ルイーズ･ポティエ	カナダ	モントリオール歴史考古博物館展示部マネージャー	国際展事業と文化交流展について事例報告および意見交換	６月16日～25日
ジョン・テラモト	アメリカ	インディアナポリス美術館東洋美術担当主任学芸員	インディアナポリス美術館のアジアギャラリーのリニューアルについてセミナー開催および、当館研究員らとアジア美術品展示について共同調査、意見交換(文化庁外国人芸術家・文化財専門家招へい事業により招へい)	11月11日～21日
アルベルト・ルツ	スイス	リートベルク美術館館長	リートベルク美術館リニューアルについてのレクチャーおよび今後の国際交流事業についての意見交換	10月５日～19日
エリス・アロワン	フランス	アルザス　レナン埋蔵文化財センター保存修復研究課長	館蔵の考古遺物修復(立体物)についての意見交換	11月11日～22日
ゼルフィラ・トレグローヴァ	ロシア	クレムリン博物館副館長	今年５月より開催のクレムリン博物館200周年記念「サムライ―日本の武家の宝物」展準備のため	20年３月23日～29日、30日
アイヌラ・ユスポワ	ロシア	クレムリン博物館学芸員		

【京都国立博物館】延べ７人

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
陳　鶯	中国	香港中文大学 文学部芸術系 中国芸術史博士課程	「中国近現代の洋画家　符羅飛の芸術と思想」 (香港洽蕙基金会)	８月10日 ～９月７日
韋　荃	中国	四川省文物考古研究院 副研究員	東アジア紙文化財の保存と修復の技術交流 (アジア諸国博物館・美術館研究協力事業)	９月６日 ～15日
アンドリュー・ワツキー	アメリカ	バーサー大学 准教授	国際シンポジウム「狩野永徳研究の現状と課題」研究発表及びパネリスト	10月29日 ～11月６日
グレゴリー・レヴィン	アメリカ	カリフォルニア大学バークレー校 准教授	国際シンポジウム「狩野永徳研究の現状と課題」研究発表及びパネリスト	10月31日 ～11月９日
イリナ・ポポヴァ	ロシア	ロシア科学アカデミー東洋学研究所 所長	ロシア探検隊収集「西域出土文献と壁画」展(仮称)開催のため詳細打合せ	20年２月３日 ～８日
ロジーナ・ブックランド	英国	大英博物館 クーリエ	暁斎展作品輸送等	20年３月25日 ～４月13日
コーネル・バレット	オランダ	ライデン国立民俗学博物館 クーリエ	暁斎展作品輸送等	20年３月25日 ～４月１日

【奈良国立博物館】延べ９人

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
譚淑琴	中国	河南博物院 館員	当館との学術交流	５月７日 ～６月６日
甘　嵐	中国	河南博物院 館員	当館との学術交流	５月７日 ～６月６日
信立祥	中国	中国国家博物館 田野考古部主任研究館員	当館との学術交流	７月２日 ～８月１日
盛為人	中国	中国国家博物館 蔵品保管一部 副主任研究館員	当館との学術交流	７月２日 ～８月１日
金憲璟	韓国	韓国国立慶州博物館 学芸研究士	当館との学術交流	７月18日 ～８月17日
呉敏偉	中国	上海博物館 保衛処主任	当館との学術交流	９月５日 ～14日
陳　平	中国	上海博物館 地面文物管理部 副研究館員	当館との学術交流	９月５日 ～14日

許篠江	中国	上海博物館 弁公室館員	当館との学術交流	９月５日 ～14日
咸舜燮	韓国	韓国国立慶州博物館 学芸研究士	当館との学術交流	20年２月13日 ～３月13日

●その他招へい

マリー　アルバート	アメリカ	シカゴ美術館	「神仏習合展」出陳品作品に随行	19年３月30日 ～４月７日
エレノア　パールスティン	アメリカ	シカゴ美術館	「神仏習合展」出陳品作品撤収作業及び随行	５月23日 ～６月１日
ニコール　シンプソン	アメリカ	ニューヨークパブリックライブラリー	「院政期絵画展」出陳作品に随行	８月21日 ～９月１日
Jacki Elgar	アメリカ	ボストン美術館	「院政期絵画展」出陳作品に随行	８月26日 ～９月４日
マーガレット　グロバー	アメリカ	ニューヨークパブリックライブラリー 図書館員	「院政期絵画展」出陳作品返却に随行	９月27日 ～10月３日
アン　ニシムラモース	アメリカ	ボストン美術館 学芸員	「院政期絵画展」出陳作品返却に随行	９月26日 ～10月４日
李栄勲	韓国	韓国国立慶州博物館 館長	「正倉院展」開会式への出席及び当館職員との意見交換	10月25日 ～27日
楊柄福	韓国	韓国国立慶州博物館 企画運営課長	「正倉院展」開会式への出席及び当館職員との意見交換	10月25日 ～27日
成建正	中国	陝西歴史博物館 館長	文化交流に関する情報交換、特別展の開催に関する打合せ	11月９日 ～20日
郝建文	中国	河北省文物研究所	「天馬展」出陳作品に随行	20年３月30日 ～４月４日
倪麗燁	中国	西安碑林博物館	「天馬展」出陳作品に随行	20年３月30日 ～４月４日
許　嫈	中国	中国文物交流中心	「天馬展」出陳作品に随行	20年３月30日 ～４月４日

【九州国立博物館】延べ38人

氏名	国名	職名	用務	期間
ヴォ クアン チョン	ベトナム	国立ベトナム民族学博物館 館長	文化交流展示に関する指導・助言	８月25日 ～27日
グエン デュイ チウ	ベトナム	国立ベトナム民族学博物館 副館長	文化交流展示に関する指導・助言	８月25日 ～27日

ルオン ホン クアン	ベトナム	国立ベトナム民族学博物館文化情報機構副所長	文化交流展示に関する指導・助言	８月25日～27日
レ ゴック チュイ	ベトナム	国立ベトナム民族学博物館文化調査、支援、発展センター副所長	文化交流展示に関する指導・助言	８月25日～27日
ラ チ タイン チュイ	ベトナム	国立ベトナム民族学博物館国際関係担当官	文化交流展示に関する指導・助言	８月25日～27日
ルータイワン・マノーサ	タイ	博物館登録事務所研究員	JICA草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」による招へい	９月４日～20日
シリン・ユワンヤイディー	タイ	バンコク国立博物館研究員	JICA草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」による招へい	９月４日～20日
ワッチャリー・チョムプー	タイ	チェンマイ国立博物館研究員	JICA草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」による招へい	９月４日～20日
尹軫暎	韓国	韓国学中央研究院蔵書閣研究員	平成19年度アジア諸国博物館・美術館研究協力事業（文化庁）による招へい	９月６日～12日
杜偉生	中国	中国国家図書館善本特蔵部副研究館員	平成19年度アジア諸国博物館・美術館研究協力事業（文化庁）による招へい	９月６日～12日
呉来明	中国	上海博物館文物保護考古科学実験室副主任	平成19年度アジア諸国博物館・美術館研究協力事業（文化庁）による招へい	10月９日～18日
金三基	韓国	国立文化財研究所芸能民俗研究室長	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日～10日
趙炳黙	韓国	江原大学校山林科学大学製紙工学科教授	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日～10日
鄭小英	韓国	国立文化財研究所保存科学研究室研究員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日～10日
朴智善	韓国	靖齊文化財保存研究所長 龍仁大学校文化財保存学科教授	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日～10日
宋珉宣	韓国	文化財庁文化遺産局動産文化財科長	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日～10日

金貴培	韓国	ユネスコ韓国委員会 Team manager	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
潘吉星	中国	中国科学院自然科学史研究所 研究員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
王　珊	中国	中国文物研究所 助理研究員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
杜暁帆	中国	ユネスコ北京事務所文化部 文化遺産保存委員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
苏荣誉	中国	中國科學院傳統與工藝文物科技研究中心　主任 中国科学院自然科学史研究所 研究員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
詹长法	中国	中国文物研究所 研究員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
黄栄光	中国	中国科学院自然科学史研究所 副研究員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
高　峰	中国	中国文物研究所 文物科技中心副主任	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
解玉林	中国	中国上海博物館 研究員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
周志元	中国	中国湖南省博物館 副研究員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
汪自强	中国	中国絲綢博物館 技術部主任研究員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
陈　刚	中国	復旦大学文物与博物館系 助教授	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
郭桂香	中国	中国文物報社 編審（教授）	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
卢　叶	中国	ユネスコ北京事務所文化部 初級項目助理	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
张志红	中国	故宮博物院文保科技部 副研究員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日

马艺蓉	中国	陝西歴史博物館 館員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
龔徳才	中国	南京博物院文物保護科学技術研究所 副研究員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
玛尔亚木 依不拉音木	中国	トルファン学研究院技術保護室 助理館員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
徐文娟	中国	上海博物館 館員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
张晓梅	中国	北京大学考古文博学院文物保護系 助教授	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
李耀申	中国	中国国家文物局 博物館司 副司長	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日
曹明成	中国	中国国家文物局 博物館司 科員	国際シンポジウム「第２回東アジア紙文化財保存修理シンポジウム」における研究発表等	９月６日 ～10日

【東京文化財研究所】延べ76人

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
Zoltan ASZTALOS	ハンガリー	フレンツ・ホップ東洋美術館 木材と漆器の修復主任	漆器の修復（特に蒔絵の修復技術）の研究及び、英語版、ハンガリー語版の漆芸用語集の作成	５月８日 ～12日
Fabio Colombo	イタリア	絵画保存修復専門家	バーミヤーン遺跡保存事業の実施	６月23日 ～７月11日
楊剛亮	中国	龍門石窟研究院 技術保護センター 助理館員	龍門石窟の保護に関する研究（山西省、河北省の石窟寺院における地理情報システムGISの現場実習）	８月26日 ～９月２日
Mitra Etezadi	イラン	テヘランボンヤード博物館文化研究所 保存部長	国際研修「漆の修復と保存」参加	９月６日 ～17日
Francesco Civita	イタリア	スティッツベルト博物館 学芸員	国際研修「漆の修復と保存」参加	９月９日 ～15日
Julia Hutt	イギリス	ヴィクトリア・アルバート美術館 日本・アジア部門・学芸員	国際研修「漆の修復と保存」参加	９月９日 ～15日

Chenkyo Tshering Dorji	ブータン	フリーランス・国立ブータン博物館	国際研修「漆の修復と保存」参加	9月9日 ～15日
Balazs Lencz	ハンガリー	ハンガリー国立博物館 日本美術保管担当主任	国際研修「漆の修復と保存」参加	9月9日 ～15日
Margarita Kirchner	スペイン	バルセロナ市立装飾美術学校 修復企画官	国際研修「漆の修復と保存」参加	9月9日 ～15日
Ya Hui Liu Zhou	スペイン	カタルーニャ国立美術館 美術担当学芸員	国際研修「漆の修復と保存」参加	9月9日 ～15日
Jürgen Huber	ドイツ	ウォレスコレクション 家具保存担当主任	国際研修「漆の修復と保存」参加	9月9日 ～15日
Melissa Carr	アメリカ	個人修復家	国際研修「漆の修復と保存」参加	9月9日 ～15日
Sinan A. Younis	イラク	ニネヴェ古物遺産局保存修復室 考古学研究員	文化財の保存修復に関する専門知識および技術の習得	9月16日 ～12月14日
Faeza M. Jumaah	イラク	イラク国立博物館 中央修復研究室・保存修復技術者	文化財の保存修復に関する専門知識および技術の習得	9月17日 ～12月13日
Taghreed H.Khudhair	イラク	イラク国立博物館 中央修復研究室・保存修復技術者	文化財の保存修復に関する専門知識および技術の習得	9月17日 ～12月13日
Jamal A. A. H. Ismael	イラク	ナーシリーヤ博物館 考古学研究員	文化財の保存修復に関する専門知識および技術の習得	9月17日 ～12月13日
Anna Pusoska	ポーランド	クラコウ国立美術館（日本美術技術センター）	在外日本古美術品保存修復協力事業中間視察及び打ち合わせのため	10月8日 ～14日
Jennifer CaslerPrice	アメリカ	キンベル美術館 学芸員	在外日本古美術品保存修復協力事業19年度修理打合せ	10月14日 ～18日
Andrea Wise	オーストラリア	オーストラリア国立美術館 紙担当・主任修復師	在外修復中間視察	10月22日 ～27日
Wynne Phelan	アメリカ	ヒューストン美術館 保存部	ヒューストン美術館蔵「日吉山王祭礼図屏風」修復事業の打ち合わせ等	11月7日 ～14日
	アフガニスタン		出土文化財（仏典）の保存修復作業およびそれに関連する専門知識の研修	11月9日 ～12月20日

Thomas J. K.Strang	カナダ	カナダ保存研究所 上級保存科学者	文化財の生物劣化対策の研究	11月12日 ～25日
李建厚	中国	龍門石窟研究院 技術保護センター 助理館員	龍門石窟の保存修復に関する調査研究	11月18日 ～12月17日
高東亮	中国	龍門石窟研究院 技術保護センター 館員	龍門石窟の保存修復に関する調査研究	11月18日 ～12月17日
周偉強	中国	陝西省西安文物 保護修復センター 副研究員	中国陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する研究	11月19日 ～12月16日
甄　剛	中国	陝西省西安文物保護修復センター 工程部	中国陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する研究	11月19日 ～12月16日
NaharCahy-andaru	インドネシア	ル遺産保存研究所 保存室長	第21回国際文化財保存修復研究会への参加	12月３日 ～８日
金思憙	韓国	韓国国立文化財研究所 保存科学室・研究官	第21回国際文化財保存修復研究会への参加	12月４日 ～８日
島津美子	オランダ	オランダ文化遺産研究所（ICN） 研究員	イタリアの壁画の表面洗浄に関する調査（科研）	12月14日 ～21日
Roberta De Angelis	マルタ	絵画保存修復専門家	イタリアの壁画の表面洗浄に関する調査（科研）	12月15日 ～21日
Richard A. Engelhardt	アメリカ	ユネスコ・バンコク事務所 アジア太平洋地域文化担当アドバイザー	文化遺産国際協力コンソーシアム 第２回研究会「Living Heritageの国際協力」参加のため	20年１月８日 ～10日
陳芳妹	台湾	国立台湾大学芸術史研究所 教授	研究協力・講演	20年１月14日 ～18日
王小偉	中国	敦煌研究院保護研究所 館員	敦煌壁画の保護に関する共同研究	20年１月15日 ～３月８日
李燕飛	中国	敦煌研究院保護研究所 館員	敦煌壁画の保護に関する共同研究	20年１月15日 ～３月８日
Brendan Cassar	オーストラリア	ユネスコ・カーブル事務所 文化担当コンサルタント	バーミヤーン遺跡保存に関する第６回専門家作業グループ会議に出席	20年１月18日 ～23日
長岡正哲	オーストラリア	ユネスコ・カーブル事務所 文化担当専門家	バーミヤーン遺跡保存に関する第６回専門家作業グループ会議に出席	20年１月18日 ～23日

	アフガニスタン		バーミヤーン遺跡保存に関する第６回専門家作業グループ会議に出席	20年１月19日～23日
Michael Petzet	ドイツ	世界イコモス会長	バーミヤーン遺跡保存に関する第６回専門家作業グループ会議に出席	20年１月19日～23日
Roland Lin	フランス	ユネスコ世界遺産センター職員	バーミヤーン遺跡保存に関する第６回専門家作業グループ会議に出席	20年１月19日～23日
Claudio Margottini	イタリア	モデナ大学教授	バーミヤーン遺跡保存に関する第６回専門家作業グループ会議に出席	20年１月19日～23日
Georgios Toubekis	ドイツ	アーヘン工科大学保存建築家	バーミヤーン遺跡保存に関する第６回専門家作業グループ会議に出席	20年１月19日～23日
Michael Jansen	ドイツ	アーヘン工科大学教授	バーミヤーン遺跡保存に関する第６回専門家作業グループ会議に出席	20年１月19日～23日
Dave Morris	イギリス	イギリス海軍航空隊兵器博物館航空機部門・学芸員兼主任技術者	屋外展示航空機の防錆に関する調査及び屋外保存の航空機に関する調査	20年１月21日～26日
Saneh Mahapol	タイ	タイ国立博物館保存科学部門・保存担当官	日タイ共同研究に関わる協議及び研修	20年１月21日～27日
Ruth Shervington	オーストラリア	ヴィクトリア国立美術館上級紙修復家	在外日本古美術品保存修復協力事業にかかる現地協議	20年１月28日～２月１日
徐萬哲	韓国	国立公州大学教授	第31回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会	20年２月１日～６日
Vinod Daniel	オーストラリア	オーストラリア博物館保存科学研究室長	第31回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会	20年２月２日～10日
Genevieve Orial	フランス	フランス歴史記念物研究所研究員	第31回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会	20年２月２日～10日
Isabelle Pallot-Frossard	フランス	フランス歴史記念物研究所所長	第31回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会	20年２月２日～10日
Delphin Lacanette	フランス	ボルドー大学研究員	第31回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会	20年２月２日～10日
Mauro Bacci	イタリア	イタリア電磁気学研究所部長	第31回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会	20年２月２日～12日

Rudolf Plagge	ドイツ	ドレスデン工科大学 研究員	第31回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会	20年２月２日 ～16日
Beatrice Kaldun	ドイツ	ユネスコ・北京事務所・文化プログラム専門家	文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「文化遺産国際協力と人材育成」基調講演	20年２月17日 ～19日
Rolf Hohmann	ドイツ	産業考古学事務所 所長	長崎端島（軍艦島）の保存に関する現地調査、広島原爆ドーム及び被爆電車に関する現地調査、鉄道博物館における鉄道保存に関する現地調査	20年２月25日 ～３月５日
Alfred Gottwaldt	ドイツ	ドイツ技術博物館・鉄道部門 上級学芸員	長崎端島（軍艦島）の保存に関する現地調査、広島原爆ドーム及び被爆電車に関する現地調査、鉄道博物館における鉄道保存に関する現地調査、京都・便利堂でのコロタイプ印刷の現地調査、京丹後市役所における青図の現地調査	20年２月25日 ～３月８日
Dinu Bumbaru	カナダ	国際記念物遺跡会議（イコモス） 事務局長	科研「文化と景観およびその保護手法の研究－信仰に関わる文化的景観の調査・分析」に伴う海外調査	20年２月28日 ～３月６日
Poonam Thakur	インド	文化遺産専門家	科研「文化と景観およびその保護手法の研究－信仰に関わる文化的景観の調査・分析」に伴う海外調査	20年３月１日 ～５日
Volker Koesling	ドイツ	ドイツ技術博物館 修復部門責任者	青図の再発色に関する東文研との打ち合わせ、コロタイプ印刷に関する現地調査及び京丹後市行政文章内の青図に関する現地調査	20年３月３日 ～９日
苑　利	中国	中国芸術研究院 教授	第１回アジア無形文化遺産保護研究会参加	20年３月11日 ～14日
Bui Hoai Son	ベトナム	ベトナム文化情報研究所 国際文化情報部・部長	第１回アジア無形文化遺産保護研究会参加	20年３月11日 ～14日
Karl Baipakov	カザフスタン	カザフスタン考古学研究所 所長	「文化遺産専門家会議：日本と中央アジア」出席	20年３月11日 ～14日
Yuri Peshkov	カザフスタン	ユネスコ・アルマトイ事務局 職員	「文化遺産専門家会議：日本と中央アジア」出席、サマルカンドにおける文化財保存の現状調査	20年３月11日 ～15日
Shahin　Mustafayev	ウズベキスタン	中央アジア国際研究所 所長	「文化遺産専門家会議：日本と中央アジア」出席、サマルカンドにおける文化財保存の現状調査	20年３月11日 ～15日

Muzaff ar D.Azizov	タジキスタン	タジキスタン文化歴史記念物保護局 局長	「文化遺産専門家会議：日本と中央アジア」出席、サマルカンドにおける文化財保存の現状調査	20年３月11日 ～17日
Barahan Karymsha-kova	キルギス	キルギス文化遺産保護修復局 局長	「文化遺産専門家会議：日本と中央アジア」出席、サマルカンドにおける文化財保存の現状調査	20年３月11日 ～17日
Bakyt Amanbaeva	キルギス	キルギスタン科学アカデミー歴史研究所 考古局・研究員	「文化遺産専門家会議：日本と中央アジア」出席、サマルカンドにおける文化財保存の現状調査	20年３月11日 ～17日
Nurgozel Saryyevna	トルクメニスタン	トルクメニスタン歴史研究所 考古局長	「文化遺産専門家会議：日本と中央アジア」出席、サマルカンドにおける文化財保存の現状調査	20年３月11日 ～17日
Muhametdurdy A Mamedow	トルクメニスタン	トルクメニスタン記念物保護修復局 局長	「文化遺産専門家会議：日本と中央アジア」出席、サマルカンドにおける文化財保存の現状調査	20年３月11日 ～17日
Ravshanbek Mansurov	ウズベキスタン	ウズベキスタン文化遺産保護局 局長	「文化遺産専門家会議：日本と中央アジア」出席、サマルカンドにおける文化財保存の現状調査	20年３月12日 ～16日
Shokirjon Pidaev	ウズベキスタン	ウズベキスタン考古学研究所 所長	「文化遺産専門家会議：日本と中央アジア」出席、サマルカンドにおける文化財保存の現状調査	20年３月12日 ～16日
Sanjar Allayarov	ウズベキスタン	ユネスコタシケント事務所	「文化遺産専門家会議：日本と中央アジア」出席、サマルカンドにおける文化財保存の現状調査	20年３月12日 ～16日
Alisher Ikramov	ウズベキスタン	ウズベキスタン・ユネスコ国内委員会	「文化遺産専門家会議：日本と中央アジア」出席、サマルカンドにおける文化財保存の現状調査	20年３月12日 ～16日
Katri Lisitzin	スウェーデン	スウェーデン農業大学 都市,地域開発学科・上級研究員・助教授	諸外国の文化財保護制度に関する研究の一環としてスウェーデンの研究者を招聘し、当該国の文化遺産保護制度について情報を収集し、日本人専門家との意見交換の機会を設ける	20年３月23日 ～30日
Anu Laurila	フィンランド	フィンランド政府文化遺産局 ハーメ地域事務所・保存建築家	諸外国の文化財保護制度に関する研究の一環としてフィンランドの研究者を招聘し、当該国の文化遺産保護制度について情報を収集し、日本人専門家との意見交換の機会を設ける	20年３月24日 ～27日
Emilie Checroun	フランス	絵画保存修復専門家	拠点交流事業（専門家間の意見交換、修復材料や手法に関する方針の策定）	20年３月24日 ～30日

Dag Myklebust	ノルウェー	ノルウェー政府 文化遺産局 国際シニアアドバイザー	諸外国の文化財保護制度に関する研究の一環としてノルウェーの研究者を招聘し、当該国の文化遺産保護制度について情報を収集し、日本人専門家との意見交換の機会を設ける	20年３月24日 ～31日

【奈良文化財研究所】延べ64人

氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
宋玉彬　外４人	中国	中国吉林省文物考古研究所 副所長	渤海西古城遺跡研究報告会、平城京出土渤海関係遺物見学、平城京視察	４月19日
Le Liem　外２名	ベトナム	ハタイ省文化遺産管理事務所 管理専門官	文化遺産保護に資する研修2007(ACCU個人研修・ベトナム)(講義名(講師名):文化財修理技法概説(窪寺)、町並･集落保存概説(島田)、町並保存の実務Ⅰ(清水)、町並保存の実務Ⅱ(大林)、町並保存の実務Ⅲ(島田)、レポート作成(島田))受講	８月28日 ～31日 ９月６･７･26日
姜　賢	韓国	韓国国立文化財研究所 建造物研究室 研究員	日韓中三国古建築模型展第二回準備会議のため	９月２日 ～６日
李容準	韓国	韓国国立文化財研究所 建造物研究室 研究員	日韓中三国古建築模型展第二回準備会議のため	９月２日 ～６日
沈　陽	中国	中国文物研究所 古代建築与古跡保護中心高級工程師	日韓中三国古建築模型展第二回準備会議のため	９月２日 ～６日
丁　燕	中国	中国文物研究所 古代建築与古跡保護中心高級工程師	日韓中三国古建築模型展第二回準備会議のため	９月２日 ～６日
陳　青	中国	中国文物研究所 文物保護科技中心副研究員	日韓中三国古建築模型展第二回準備会議のため	９月２日 ～６日
裵秉宣	韓国	韓国国立文化財研究所 建造物研究室長	日韓中三国古建築模型展第二回準備会議のため	９月５日 ～７日
グゥエンコクフン 外１名	ベトナム	ベトナム文化情報省文化遺産局 副局長	所長表敬訪問	９月26日

司治平	中国	河南省文物管理局文物処処長	共同研究「鞏義市唐三彩窯とその産品に関する共同研究」推進のため	10月21日～31日
賈連敏	中国	河南省文物考古研究所副所長	共同研究「鞏義市唐三彩窯とその産品に関する共同研究」推進のため	10月21日～31日
丁清旭	中国	河南省政府办公庁四処副主任科員	共同研究「鞏義市唐三彩窯とその産品に関する共同研究」推進のため	10月21日～31日
趙志文	中国	河南省文物考古研究所副所長	共同研究「鞏義市唐三彩窯とその産品に関する共同研究」推進のため	10月21日～31日
李秀萍	中国	河南省文物考古研究所研究館員	共同研究「鞏義市唐三彩窯とその産品に関する共同研究」推進のため	10月21日～31日
焦南峰	中国	陝西省考古研究院院長	壁画保存法などの研究交流を行うため	11月１日～10日
華玉冰	中国	遼寧省文物考古研究所副所長	共同研究「朝陽地区隋唐墓の整理と研究」推進のため	11月６日～17日
方殿春	中国	遼寧省文物考古研究所研究員	共同研究「朝陽地区隋唐墓の整理と研究」推進のため	11月６日～17日
白宝玉	中国	遼寧省文物考古研究所考古隊員	共同研究「朝陽地区隋唐墓の整理と研究」推進のため	11月６日～17日
徐韶鋼	中国	遼寧省文物考古研究所考古隊員	共同研究「朝陽地区隋唐墓の整理と研究」推進のため	11月６日～17日
熊増瓏	中国	遼寧省文物考古研究所考古隊員	共同研究「朝陽地区隋唐墓の整理と研究」推進のため	11月６日～17日
呉炎亮	中国	遼寧省文化庁文物処処長	共同研究「朝陽地区隋唐墓の整理と研究」推進のため	11月６日～17日
HOU Jian	中国	中国ユネスコ国内委員会プログラム担当官	見学及び意見交換等	11月16日
HWANG Tae-hak	韓国	韓国ユネスコ国内委員会財政課長	見学及び意見交換等	11月16日
YAMOLANAN Komutee	タイ	タイユネスコ国内委員会対外関係官	見学及び意見交換等	11月16日

Stefan RENNICKE	ドイツ	ドイツユネスコ国内委員会 パブリック・プライベートパートナーシップ長	見学及び意見交換等	11月16日
Emmy Anne B.YANGA	フィリピン	フィリピンユネスコ国内委員会 開発マネジメント担当官	見学及び意見交換等	11月16日
Faeza.M.Junaah 外３名	イラク	イラク国立博物館 中央修復研究室 保存修復技術者	イラク人保存科学研修（ユネスコ・イラク／西アジア）（内容：木製品の保存修復）	11月19日 ～12月２日
曺美順　外２名	韓国	羅周国立文化財研究所 研究者	平城宮跡視察	11月23日
安家瑶	中国	中国社会科学院 考古研究所 西安研究室主任	日中の造瓦技術の比較検討ならびに意見交換のため	11月27日 ～12月４日
楊　勇	中国	中国社会科学院 考古研究所 助理研究員	日中の造瓦技術の比較検討ならびに意見交換のため	11月27日 ～12月４日
何歳利	中国	中国社会科学院 考古研究所 助理研究員	日中の造瓦技術の比較検討ならびに意見交換のため	11月27日 ～12月４日
チョン タジン	韓国	慶南考古学研究所	金海貝塚出土の動物骨の同定の研修受講	12月１日 ～２月29日
HAFIZ ALI　外１名	モルディヴ	国立言語・歴史研究センター 研究員	文化遺産に資する研修2007(ACCU個人研修)(博物館実務研修の一部を担当：飛鳥資料館(杉山外)講義名：遺物収蔵・借用の実務Ⅰ・Ⅱ、展覧会準備の実際、臨地講義Ⅰ）受講	12月３日 ～７日
邱敏勇	中国	中央研究院歴史語言研究所 考古学問　助理研究員	動物考古学の研修受講	12月３日 ～13日
鄭雨陽　外２名	韓国	韓国国立全南大学 教授	施設見学・意見交換	12月17日 ～19日
李柱憲	韓国	慶州文化財研究所 学芸研究官	共同研究推進のため	20年１月21日 ～２月10日
Lam Sopheak	カンボジア	奈良文化財研究所 カンボジア事業現地事務所長	アンコール文化遺産保護に携わるカンボジアの研究者と協力して、保存修復及び環境整備等を中心とする共同研究を実施するため	20年１月28日 ～2月３日

Loeung Ravattey	カンボジア	奈良文化財研究所 カンボジア事業 現地事務所総括 担当	アンコール文化遺産保護に携わるカンボジアの研究者と協力して、保存修復及び環境整備等を中心とする共同研究を実施するため	20年１月28日 ～2月３日
ミヒャエル･グラブナー	オーストリア	ウィーン天然資源・応用生命科学大学　材料科学・処理工学科 木材科学技術研究所 博士	「青銅器時代および鉄器時代のオーストリーハルシュタットの木器の年輪年代測定」に関する共同研究	20年２月５日 ～23日
兪洪植	韓国	慶州文化財研究所 研究員	共同研究推進のため	20年２月11日 ～３月９日
李　非　外１名	中国	太原市文物考古研究所 所長	高松塚壁画保存研究状況など視察	20年２月22日
王　巍	中国	中国社会科学院考古研究所 所長	共同研究「洛陽市漢魏洛陽故城址の共同発掘調査研究」推進のため	20年３月12日 ～17日
朱岩石	中国	中国社会科学院考古研究所漢唐研究室 主任	共同研究「洛陽市漢魏洛陽故城址の共同発掘調査研究」推進のため	20年３月12日 ～18日
銭国祥	中国	中国社会科学院考古研究所 研究員	共同研究「洛陽市漢魏洛陽故城址の共同発掘調査研究」推進のため	20年３月12日 ～18日
ジョージ・アブング	ケニア	世界遺産委員会ケニア代表団 団長	平城宮跡視察	20年３月21日
Heang Sophal	カンボジア	プノンペン王立芸術大学卒業生	アンコール文化遺産保護に携わるカンボジアの研究者と協力して、保存修復及び環境整備等を中心とする共同研究を実施するため	20年３月22日 ～28日
Huot Nora	カンボジア	プノンペン王立芸術大学卒業生	アンコール文化遺産保護に携わるカンボジアの研究者と協力して、保存修復及び環境整備等を中心とする共同研究を実施するため	20年３月22日 ～28日
安泰旭	韓国	韓国文化財保護財団 文化事業室長	宮中儀礼の復興による文化遺産の活用に関する研究会に出席・講演	20年３月26日 ～30日

２）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費補助金の研究分担者等として参画（延べ人数）

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
63人	17人	８人	５人	１人	７人	25人

【東京国立博物館】延べ17人

機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
日本学術会議	博物館・美術館等の組織運営に関する分科会	東京大学名誉教授 樺山紘一	事業部事業企画課長 井上洋一
株式会社三菱総合研究所	博物館における施設管理・リスクマネージメントに関する調査研究（文部科学省委託事業）	常磐大学教授 水嶋英治	事業部事業企画課長 井上洋一
徳川美術館	国宝「初音の調度」の総合的研究（科学研究費補助金〔基盤研究C〕）	財団法人徳川黎明会徳川美術館 学芸員 小池富雄	事業部事業企画課特別展室 主任研究員 竹内奈美子
東京工業大学大学院	博物館における鑑賞者の視線方向変化を考慮した照明計画　東京国立博物館を実例として	東京工業大学大学院 鈴野徳之	事業部事業企画課デザイン室長 木下史青
東京文化財研究所	日本古代金銅仏の荘厳に関する調査研究（科学研究費補助金〔基盤研究B〕）	東京文化財研究所研究員 津田徹英	事業部教育普及課長 加島勝
国立歴史民俗博物館	人間文化研究機構連携研究「武士関係資料の総合化－比較史および異文化表象の素材として－」	国立歴史民俗博物館 研究部教授 小島道裕	事業部情報課長 高橋裕次
国立歴史民俗博物館	共同研究「デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究」	国立歴史民俗博物館 研究部教授 安達文夫	事業部情報課情報管理室 室長 田良島哲
国立歴史民俗博物館	共同研究「デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究」	国立歴史民俗博物館 研究部教授 安達文夫	事業部情報課情報管理室 研究員 村田良二
国立歴史民俗博物館	歴史資料の材質・製作技法と生産地に関する調査研究	宇田川武久	文化財部上席研究員 原田一敏
富山大学	韓国鍮器調査を基点とした亜細亜地域の青銅器熱処理技術研究の展開（科学研究費補助金〔基盤研究B・一般〕）	三船温尚	文化財部上席研究員 原田一敏
奈良県立橿原考古学研究所	古墳時代におけるコウヤマキ材の利用実態に関する総合的研究	岡林孝作	文化財部列品課列品室 主任研究員 日高慎
神奈川県立金沢文庫	金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究（科学研究補助金〔基盤研究C〕）	神奈川県立金沢文庫 主任学芸員 永井晋	文化財部列品課列品室 研究員 髙梨真行
天理大学	初期ヤマト王権の対外交渉と地域間交流の考古学的研究（科学研究費補助金〔基盤研究B〕）	天理大学名誉教授 金関恕	上席研究員 望月幹夫
奈良県立橿原考古学研究所	鏡笵の調査による東アジアの銅鏡製作技術と流通に関する研究（科学研究費補助金〔基盤研究B〕）	奈良県立橿原考古学研究所　研究員 清水康二	文化財部列品課列品室 研究員 川村佳男

奈良県立橿原考古学研究所	考古資料における三次元デジタル・アーカイブの活用と展開（科学研究費補助金［基盤研究A］）	所長 樋口隆康	文化財部保存修復課 保存修復室主任研究員 古谷毅
国立歴史民俗博物館	マロ塚古墳出土品を中心とした古墳時代中期武器武具の研究 ［国立歴史民俗博物館 共同研究］	国立歴史民俗博物館 客員教員 熊本大学助教授 杉井健	文化財部保存修復課 保存修復室主任研究員 古谷毅
天理大学	初期ヤマト王権の対外交渉と地域間交流の考古学的研究（科学研究費補助金［基盤研究B］）	名誉教授 金関恕	文化財部保存修復課 保存修復室主任研究員 古谷毅

【京都国立博物館】　延べ８人

機関名	研究課題	代表者名	分担者名
奈良文化財研究所	霊廟建築に於ける荘厳手法の総合的比較研究	文化遺産部・建造物研究室長 窪寺茂	学芸課工芸室長 久保智康
大阪人間科学大学	環タイ湾地域におけるインド系文化の変容に関する基礎的研究	学長 肥塚隆	学芸課保存修理指導室 主任研究員 淺湫毅
東京大学	荘園絵図の史料学とデジタル画像解析の発展的研究	史料編纂所教授 林　譲	学芸課企画室研究員 羽田聡
東京国立博物館	法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究	文化財部上席研究員 松原茂	学芸課列品管理室長 若杉準治
財団法人大阪市文化財協会	関西陶磁技術の成立をめぐる膳所焼を中心とした美術工芸史・考古学の総合的研究	文化財研究部係長 佐藤隆	学芸課企画室主任研究員 尾野善裕
京都橘大学	中世における東アジアの鋳物生産と流通に関する研究	文学部教授 五十川伸矢	学芸課工芸室長 久保智康
東京大学	美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究－全アジアから全世界へ	東洋文化研究所教授 小川裕充	学芸課上席研究員 西上実
成城大学	真言密教寺院に伝わる典籍の学際的調査・研究―金剛寺蔵本を中心に―	文芸学部教授 後藤昭雄	学芸課企画室長 赤尾栄慶

【奈良国立博物館】　延べ５人

機関名	研究課題	代表者名	分担者名
富山大学	紙素材文化財（文書・典籍・聖教・絵図）の年代測定に関する基礎的研究	教授 富田正弘	館長 湯山賢一
種智院大学	中インド新発掘仏教遺跡の総合的研究	学長 頼富本宏	学芸課工芸考古室長 内藤榮
東京国立博物館	法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究	文化財部上席研究員 松原茂	学芸課保存修理指導室 研究員 谷口耕生

九州大学大学院 人文科学研究院	寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク	教授 井手誠之輔	学芸課保存修理指導室 研究員 谷口耕生
札幌学院大学	北東アジア中世遺跡の考古学的研究	教授 臼杵勲	学芸課資料室長 吉澤悟

【九州国立博物館】　延べ１人

機関名	研究課題	代表者名	分担者名
福岡県立アジア文化交流センター	文化財用大型X線CTによる九州所在木彫像の内部構造解析	楠井隆志	博物館科学課環境保全室 研究員 鳥越俊行

【東京文化財研究所】　延べ７人

機関名	研究課題	代表者名	分担者名
東京大学大学院 農学生命科学研究科	文理融合型文化財修復科学の確立を目指した紙文化財修復法の妥当性評価	助教授 江前敏晴	修復技術部　研究員 加藤雅人
神奈川大学経営学部 国際経営学科	モーションキャプチャ技術を応用した無形文化遺産保護の有効性、伝習及比較研究の展開	教授 廣田律子	無形文化遺産部部長 宮田繁幸
早稲田大学ユネスコ 世界遺産研究所	エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から観た遺跡整備計画の学術的研究	客員教授 吉村作治	文化遺産国際協力センター長 青木繁夫
大阪府立大学大学院工学研究科	重要文化財をカビ被害から守る環境調和型光触媒の適用条件の確立	教授 安保正一	保存科学部生物化学研究室室長 佐野千絵
千葉大学文学部	地域社会における「総合的な学習の時間」と年中行事の連携に関する基礎的研究	教授 橋本裕之	無形文化遺産部　主任研究員 俵木悟
京都大学霊長類研究所	アジア・インド洋圏の家畜化と狩猟誌に関する標本資料の恒久的安定化とその学際的解析	教授 遠藤秀紀	保存科学部　主任研究員 木川りか
京都大学文学研究科	模倣の意味と機能をめぐる研究―写す・抜き出す・変容させる	教授 根立研介	企画情報部　研究員 皿井舞

【奈良文化財研究所】　延べ25人

機関名	研究課題	代表者名	分担者名
岐阜大学	インドネシアが分子進化上の起源地と推測される東アジアのイノシシ属の遺伝子調査	石黒直隆	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長 松井章
京都大学	北魏時代の平城と雲岡の歴史考古学的研究	岡村秀典	都城発掘調査部考古第三研究室研究員 今井晃樹
東京大学	木造建造物文化財の為の木材及び植物性資材確保に関する研究	山本博一	文化遺産部建造物研究室長 窪寺茂

㈶元興寺文化財研究所	海底遺跡出土遺物の調査・分析・保存に関する基礎的研究－鷹島海底遺跡出土武具類を中心に－	植田直見	埋蔵文化財センター主任研究員 高妻洋成
京都大学	木材の材料寿命－歴史的木造古建築および木彫文化財由来の試料を用いた検討－	川井秀一	文化遺産部建造物研究室長 窪寺茂
京都大学	木材の材料寿命－歴史的木造古建築および木彫文化財由来の試料を用いた検討－	川井秀一	文化遺産部建造物研究室研究員 清水重敦
京都大学	木材の材料寿命－歴史的木造古建築および木彫文化財由来の試料を用いた検討－	川井秀一	埋蔵文化財センター客員研究員 伊藤隆夫
中央大学	中世考古学の総合的研究	前川要	企画調整部展示企画室長 杉山洋
奈良女子大学	東アジアの古代都城の苑地に関する総合的研究	金子裕之	文化遺産部景観研究室長 内田和伸
奈良女子大学	東アジアの古代都城の苑地に関する総合的研究	金子裕之	都城発掘調査部遺構研究室研究員 箱崎和久
奈良女子大学	東アジアの古代都城の苑地に関する総合的研究	金子裕之	都城発掘調査部史料研究室研究員 市大樹
奈良女子大学	東アジアの古代都城の苑地に関する総合的研究	金子裕之	文化遺産部長 高瀬要一
金沢大学	河姆渡文化研究の再構築－余姚田螺山遺跡の学術的総合調査－	中村慎一	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長 松井章
東京大学	画像史料解析による全近代日本の儀式構造の空間構成と時間的遷移に関する研究	加藤友康	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉晃宏
早稲田大学	日本における仏教美術の受容と特定受種木材の流通に関する研究	大橋一章	埋蔵文化財センター年代学研究室長 光谷拓実
総合研究大学院大学	西アジア先史時代から都市文明社会への生業基盤の変化に関する動物・植物考古学的研究	本郷一美	埋蔵文化財センター客員研究員 茂原信夫
大阪市立大学	今和次郎『日本の民家』(1922)再訪を通した日本の居住生活空間・景観の変容調査	中谷礼仁	文化遺産部建造物研究室研究員 清水重敦
日本女子大学	蝋管等の録音資料からの音声復元と内容情報の分析に関する横断的研究	清水康行	都城発掘調査部上席研究員 村上隆
国立歴史民俗博物館	弥生農耕の起源と東アジア－炭素年代測定による高精度編年体系の構築－	西本豊弘	埋蔵文化財センター年代学研究室長 光谷拓実

明治大学	全国墨書土器データベースの構築と在地社会の研究	吉村武彦	都城発掘調査部史料研究室 研究員 市大樹
東京大学	目録学の構築と古典学の再生－天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明－	田島公	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉晃宏
神戸大学	第四紀黎明期の磁場気擾乱－気候とのリンク	兵頭政幸	埋蔵文化財センター 客員研究員 松下まり子
東京大学	絵画における建築の表現方法に関する史料論的研究	藤井恵介	文化遺産部建造物研究室 研究員 清水重敦
東京文化財研究所	古墳壁画の保存環境に関する研究	三浦定俊	埋蔵文化財センター 保存修復科学研究室長 肥塚隆保
神戸女子大学	仮面データベース構築に基づく能・狂言面の総合的研究	大谷節子	埋蔵文化財センター 主任研究員 高妻洋成

３）研究者海外派遣実績（延べ人数）

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
389人	22人	21人	６人	43人	151人	146人

【東京国立博物館】延べ22人

氏　名	用務先	期　間	用　務	備　考
鬼頭智美	イタリア	４月15日～23日	国際展覧会マネージャー、コーディネーター会議出席およびイタリア国内各館の事情視察と交流事業についての意見交換 （ローマ国立近代美術館ほか）	職員旅費
原田一敏 鬼頭智美	ロシア	５月27日～６月２日	クレムリン博物館200周年記念「サムライ―日本の武家の宝物」展に関する協議、会場調査、展示指導および作品調査 （クレムリン博物館、エルミタージュ美術館）	モスクワ・クレムリン博物館 職員旅費
三笠景子	韓国	10月３日～13日	韓国博物館学芸員セミナー参加 （国立博物館等）	コリア・ファンデーション 職員旅費
松本伸之 鬼頭智美	韓国	10月24日～27日	アジア国立博物館協会理事会および設立総会出席 （国立博物館等）	職員旅費

矢野賀一 酒井元樹	韓国	10月30日～５日	日韓国際学術交流協定事業 展示デザインおよび金工品についての調査研究 （国立中央博物館、国立慶州博物館等）	韓国国立中央博物館 職員旅費
加島勝 小泉惠英	インド	11月25日～12月10日	2008年開催「スリランカ文化遺産展」（仮称）に関する事前作品調査 （アーンドラプラデーシュ州考古局、サラール・ジャング博物館、チェンナイ州立博物館等）	職員旅費
原田一敏 鬼頭智美	アメリカ （バウワーズ博物館、ロサンゼルスカウンティ美術館等）	11月27日～12月１日	2009年共同開催展覧会に関する基本協議、作品・会場調査 （バウワーズ博物館、ロサンゼルスカウンティ美術館等）	バウワーズ美術館
井上洋一 田沢裕賀	スペイン、 フランス	20年１月28日 ～２月８日	プラド美術館等の国際展事業についての情報収集ならびにパリ文化会館で開催検討中の「サムライ」展の会議およびギメ美術館も含め今後の事業についての意見交換 （プラド美術館、グッゲンハイム美術館ビルバオ分館、ギメ美術館、パリ文化会館等）	職員旅費
川村佳男	中国	20年２月19日～25日	河南省の文物展についての事前調査および担当研究員との交流 （広州博物館等）	職員旅費
木下史青 矢野賀一 鬼頭智美	アメリカ	20年２月24日 ～３月２日	サックラー美術館開催中の「プライス・コレクション」展展示・事業について現地調査・展示デザイン／技術についての調査研究、および来年度以降の共同研究事業についての意見交換、協議 （スミソニアン研究所アーサー・M.サックラー美術館、メトロポリタン美術館、フィラデルフィア美術館等）	職員旅費
湊信幸 富田淳 楊　鋭	中国	20年３月６日～11日	来年度以降の学術交流・展覧会開催についての協議・意見交換 （上海博物館等）	職員旅費
高橋裕次	オランダ	20年３月16日～24日	調査先収蔵の日本美術・歴史文献等の調査研究 （国立アムステルダム博物館、ライデン民俗学博物館、ライデン大学、マウリッツハイス王立美術館等）	職員旅費

●その他調査等のための海外渡航実績

氏　名	用務先	期　間	用　務	備　考
小泉惠英	フランス	４月10日～15日	ギメ東洋美術館、グランパレ開催中の特別展、平常展の作品調査のため (ギメ美術館等)	研修
丸山猶計	アメリカ	４月10日～23日	「池大雅・徳山玉瀾」展出品作品輸送ならびに展示指導のため (フィラデルフィア美術館)	フィラデルフィア美術館
島谷弘幸	アメリカ	４月24日～30日	フィラデルフィア美術館「池大雅・徳山玉瀾」展レセプション出席のため (フィラデルフィア美術館等)	フィラデルフィア美術館
鈴木みどり	アメリカ	５月13日～20日	科学研究費補助金「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化」に関する調査研究ならびにアメリカ博物館協会会議出席のため (マコーミック・プレース等)	科学研究費補助金
藤田千織	アメリカ	５月13日～20日	科学研究費補助金「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化」に関する調査研究ならびにアメリカ博物館協会会議出席のため (マコーミック・プレース等)	科学研究費補助金
丸山士郎	韓国	５月24日～28日	仏教中央博物館「仏－The Buddha」展作品撤収のため (仏教中央博物館)	仏教中央博物館
加島勝	スリランカ	５月26日～６月９日	「スリランカ文化遺産展」(仮称)の出品交渉・調査のため (スリランカ国立博物館等)	読売新聞社
小泉惠英	スリランカ	５月26日～６月９日	「スリランカ文化遺産展」(仮称)の出品交渉・調査のため (スリランカ国立博物館等)	読売新聞社
丸山猶計	アメリカ	６月７日～14日	「池大雅・徳山玉瀾」展展示替えのため (フィラデルフィア美術館)	フィラデルフィア美術館
松原茂	アメリカ	６月７日～14日	「池大雅・徳山玉瀾」展シンポジウム基調講演のため (フィラデルフィア美術館)	フィラデルフィア美術館
三笠景子	アメリカ	６月８日～15日	アーサー・M・サックラー美術館「世界を取り巻く：16、17世紀のポルトガルと世界」への列品貸与にかかる輸送のため (フリーア美術館／アーサー・M・サックラー美術館)	アーサー･M･サックラー美術館

田沢裕賀	アメリカ	６月10日～16日	「大写楽展」（仮称）出品作品調査、依頼のため （シカゴ美術館等）	東京新聞
白井克也	ポーランド	６月19日～26日	科学研究費補助金「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化」に関する調査研究のため （チェルトリスキ美術館等）	科学研究費補助金
小泉惠英	スイス	６月20日～24日	「レオナルド・ダ・ヴィンチー天才の実像」展作品返却のため （幼子のキリスト作品保管先）	朝日新聞社
井上洋一	イタリア	６月20日～29日	「レオナルド・ダ・ヴィンチー天才の実像」展作品返却ならびに出品御礼のため （ウフィッツィ美術館等）	朝日新聞社
田沢裕賀	アメリカ	６月21日～30日	「プライスコレクション　若冲と江戸絵画展」返却輸送および作品点検のため （フリーア美術館）	日本経済新聞社
松本伸之	フランス	７月８日～11日	オルセー美術館での協議ならびに作品調査 （オルセー美術館）	日本経済新聞社
谷豊信	中国	７月10日～13日	館長中国訪問随行のため （故宮博物館等）	職員旅費
竹内奈美子	イギリス、オーストリア	７月10日～24日	在外日本古美術品（工芸）調査のため （V&A美術館等）	東京文化財研究所
猪熊兼樹	イギリス、オーストリア	７月10日～24日	在外日本古美術品（工芸）調査のため （V&A美術館等）	東京文化財研究所
井上洋一	アメリカ	７月15日～20日	ボストン美術館での予備的調査のため （ボストン美術館）	ＮＨＫプロモーション
丸山猶計	アメリカ	７月19日～２日	「池大雅・徳山玉瀾」展作品撤収および点検、梱包立会いのため （フィラデルフィア美術館）	フィラデルフィア美術館
富田淳	中国	８月２日～５日	科学研究費補助金「中国書画コレクション」に関する調査研究のため （香港芸術館）	科学研究費補助金
白井克也	オーストリア	８月18日～24日	科学研究費補助金「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化」に関する調査研究ならびに国際会議出席のため （ウィーン大学等）	科学研究費補助金

藤田千織	オーストリア	８月19日～25日	科学研究費補助金「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化」に関する調査研究ならびに国際会議出席のため（ウィーン大学等）	科学研究費補助金
小泉惠英	タイ、シンガポール、マレーシア	８月29日～９月９日	東南アジア彫刻調査のため（バンコク国立博物館等）	科学研究費補助金
猪熊兼樹	ベトナム、タイ	９月７日～17日	ベトナム螺鈿の調査研究のため（ハノイ国立歴史博物館等）	研修
松原茂	韓国	９月15日～20日	韓国国立中央博物館への長期貸与文化財の返却作業のため（韓国国立中央博物館）	韓国国立中央博物館
原田一敏	韓国	９月15日～20日	韓国国立中央博物館への長期貸与文化財の返却作業のため（韓国国立中央博物館）	韓国国立中央博物館
高梨真行	アメリカ	９月15日～22日	アーサー・Ｍ・サックラー美術館「世界を取り巻く：16、17世紀のポルトガルと世界」の返却にかかる撤収・輸送のため（アーサー・Ｍ・サックラー美術館／フリーア美術館）	アーサー･M･サックラー美術館
川村佳男	アメリカ	９月26日～10月８日	フリーア美術館での国際シンポジウムでの発表ならびに東アジア陶器に関する調査・意見交換のため（フリーア美術館等）	研修
土屋裕子	フランス	10月14日～18日	「黒田清輝から藤田嗣治まで～パリに学んだ日本の洋画家たち～」展開催に伴う当館収蔵品の輸送随伴、開梱、点検および展示立会いのため（パリ日本文化会館）	東京藝術大学大学美術館
日高慎	韓国	10月15日～20日	韓国国立中央博物館への長期貸与文化財の返却作業のため（韓国国立中央博物館）	韓国国立中央博物館
鬼頭智美	韓国	10月24日～27日	第二回日中韓国立博物館館長会議ならびにＡＮＭＡ会議に出席のため（韓国国立中央博物館）	職員旅費
神庭信幸	韓国	10月29日～31日	韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器保存修理に関する専門家会議に出席のため（韓国国立中央博物館）	韓国国立中央博物館

和田浩	韓国	10月29日～11月３日	科学研究費「東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究」にかかる国立中央博物館での予備調査、国際シンポジウム参加、韓国料紙に関する情報収集のため （靖齋文化財保存研究所）	科学研究費補助金
救仁郷秀明	アメリカ	10月29日～11月４日	特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」展（仮称）開催に伴うボストン美術館での作品調査のため （ボストン美術館）	ＮＨＫプロモーション
田沢裕賀	アメリカ	10月29日～11月４日	特別展「ボストン美術館　日本美術の至宝」展（仮称）開催に伴うボストン美術館での作品調査のため （ボストン美術館）	ＮＨＫプロモーション
神庭信幸	韓国	11月１日～３日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウムでの発表のため （韓国国立中央博物館）	研修
猪熊兼樹	ポルトガル	11月９日～12月11日	文化庁海外展「日本陶磁の名宝」展にかかる監督、撤収、輸送随伴のため （ソレアス・ドス・レイス国立美術館）	文化庁
日高慎	中国	11月16日～28日	平成19年度科学研究費補助金「古墳時代におけるコウヤマキ材の利用実態に関する総合的研究」にかかる調査のため （中国社会科学院考古学研究所等）	科学研究費補助金
白井克也	フランス	11月21日～30日	科学研究費補助金「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化」に関する調査研究のため （ケ・ブランリ博物館等）	科学研究費補助金
遠藤楽子	フランス	11月21日～30日	科学研究費補助金「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化」に関する調査研究のため （ケ・ブランリ博物館等）	科学研究費補助金
古谷毅	韓国	11月22日～25日	釜山大学で開催される国際研究集会「韓日における三国・古墳時代の年代観（２）」への参加のため （釜山大学）	国立歴史民俗博物館
松本伸之	中国	11月29日～25日	「中国文物精華展～文明之発祥・河南～」（仮称）に係る調査、協議のため （河南省文物局等）	職員旅費

金子啓明	韓国	12月２日～５日	大韓民国忠清北道博物館美術館協会ワークショップ「忠清北道の博物館・美術館」での講演のため (韓国国立清州博物館)	韓国国立清州博物館
後藤健	バーレーン	12月８日～13日	考古学国際会議「バーレーン考古学の20年」に出席のため (バーレーン国立博物館)	バーレーン国立博物館
神辺知加	スイス	12月16日～23日	科学研究費補助金「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化」に関する海外事例調査のため (スイスナショナルミュージアム等)	科学研究費補助金
藤田千織	スイス	12月16日～23日	科学研究費補助金「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化」に関する海外事例調査のため (スイスナショナルミュージアム等)	科学研究費補助金
猪熊兼樹	ベトナム	12月29日～１月３日	ベトナム螺鈿の調査研究のため (ホーチミン市内収集家等)	研修
神庭信幸	韓国	20年１月９日～11日	韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器保存修理に関する専門家会議に出席のため (韓国国立中央博物館)	韓国国立中央博物館
鬼頭智美	ギリシャ	20年１月14日～22日	科学研究費補助金「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化」に関する海外事例調査のため (ギリシャ民芸博物館等)	科学研究費補助金
鈴木みどり	ギリシャ	20年１月14日～22日	科学研究費補助金「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化」に関する海外事例調査のため (ギリシャ民芸博物館等)	科学研究費補助金
土屋裕子	フランス	20年１月20日～26日	保存修復にかかる調査のため (ルーブル美術館等)	東京国立博物館運営協力会助成金
神庭信幸	フランス	20年１月20日～27日	保存修復にかかる調査のため (ルーブル美術館等)	東京国立博物館運営協力会助成金
塚田全彦	フランス	20年１月20日～27日	保存修復にかかる調査のため (ルーブル美術館等)	東京国立博物館運営協力会助成金
土屋裕子	フランス	20年１月27日 ～2月１日	「黒田清輝から藤田嗣治まで～パリに学んだ日本の洋画家たち～」展開催に伴う当館収蔵品の貸与作品の点検・梱包確認のため (パリ日本文化会館)	東京藝術大学大学美術館

小林牧	スペイン、フランス	20年１月28日～2月６日	科学研究費補助金「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化」に関する海外事例調査のため（プラド美術館等）	科学研究費補助金
今井敦	中国	20年２月15日～22日	宋代官窯青磁に関する研究のため（浙江省博物館等）	研修
三笠景子	中国	20年２月15日～22日	宋代官窯青磁に関する研究のため（浙江省博物館等）	研修
谷豊信	中国	20年２月19日～25日	「中国文明の源展（仮称）」にかかる出品交渉、作品調査のため（広東省博物館等）	読売新聞社
楊　鋭	中国	20年３月６日～11日	上海博物館との展覧会に関する打ち合わせ、調査のため（上海博物館等）	職員旅費
松本伸之	中国	20年３月６日～11日	中国歴代文物・遺跡等の調査のため（浙江省博物館等）	研修
小泉惠英	スリランカ	20年３月８日～22日	「スリランカ文化遺産展」（仮称）にかかる打ち合わせ、作品撮影のため（コロンボ国立博物館等）	読売新聞社
藤瀬雄輔	スリランカ	20年３月８日～22日	「スリランカ文化遺産展」（仮称）にかかる打ち合わせ、作品撮影のため（コロンボ国立博物館等）	読売新聞社
神庭信幸	韓国	20年３月25日～27日	韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器保存修理に関する専門調査のため（韓国国立中央博物館）	韓国国立中央博物館

【京都国立博物館】延べ21人

氏　名	用務先	期　間	用　務	備　考
山川曉	アメリカ	４月12日～17日	プリンストン大学で開催の国際シンポジウム「Re-presenting Emptiness: Zen and Art in Medieval Japan」のパネリストとして発表	旅費先方負担
山本英男	アメリカ	５月14日～23日	特別展覧会「狩野永徳」作品調査及び出品交渉	メトロポリタン美術館、フランクロイドライト財団・フェニックス美術館、ホノルル美術館

赤尾栄慶	イギリス、フランス	５月14日～25日	A hundred years of Dunghuang 国際会議出席及び仏敦煌写本調査	大英図書館、フランス国立図書館（旅費：国際仏教学大学院大学　学術フロンティア事業）
西上実	中国	５月21日～27日	中国近代絵画の調査「美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究－全アジアから全世界へ」（平成19年度科学研究費補助金）	広東省博物館、広州芸術博物院、広東美術館、陳樹人記念館 研究代表者：小川裕充（東京大学）
山下善也	アメリカ	６月１日～26日	文化庁海外展「悟りの世界」出品作品撤収・輸送随伴	ニューヨーク ジャパンソサエティーギャラリー（旅費先方負担）
赤尾栄慶	韓国	７月16日～23日	韓国国立中央博物館「修行と功徳の世界－写経変相図」展出品作品輸送随伴	旅費先方負担
佐々木丞平	韓国	７月22日～24日	韓国国立中央博物館「写経変相図の世界」展オープニングに出席	旅費先方負担
淺湫毅	タイ、カンボジア	８月８日～16日	彫刻作品の調査「環タイ湾地域におけるインド系文化の変容に関する基礎的研究」（平成19年度科学研究費補助金）	バンコク国立博物館、アンコール遺跡、サンボール遺跡、プノンペン国立博物館 研究代表者：肥塚隆（大阪人間科学大学）
羽田聡	韓国	８月19日～22日	韓国国立中央博物館「修行と功徳の世界－写経変相図」展出品作品展示替え	旅費先方負担
久保智康	中国	９月14日～21日	国際シンポジウム「東アジア文化交流の源流」に参加及び蘇州博物館等見学	浙江工商大学日本文化研究所、蘇州博物館、松江区博物館、金山区博物館（海外研修旅行）
羽田聡	韓国	９月15日～18日	韓国国立中央博物館「修行と功徳の世界－写経変相図」展出品作品撤収・輸送随伴	旅費先方負担
西上実	中国	９月26日～10月１日	中国美術学院主催「書画為寄－趙孟頫国際学術検討会」に参加・口頭発表及び湖州市博物館見学・作品調査	中国美術学院、湖州市博物館（旅費先方負担）
赤尾栄慶	ロシア	10月17日～24日	敦煌出土文物の調査研究「日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察」（平成19年度科学研究費補助金）	ロシア科学アカデミー東洋学研究所 研究代表者：佐々木丞平

山下善也	韓国	10月26日～28日	韓国美術史学会主催の国際シンポジウム「18世紀東アジア山水画の様相と関係性」に参加・発表・討論	韓国国立中央博物館（旅費先方負担）
西上実	アメリカ	11月３日～25日	在米美術館が所有する中国絵画作品の調査・撮影 「美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究―全アジアから全世界へ」（平成19年度科学研究費補助金）	プリンストン大学、シンシナティ美術館、デートレ美術館、クリーヴランド美術館、シアトル美術館、サンディエゴ美術館 研究代表者： 小川裕充 （東京大学）
久保智康	韓国	11月19日～25日	国立海洋遺物展示館「新安海底遺物シンポジウム」発表及び作品調査	国立海洋遺物展示館、国立中央博物館（旅費先方負担）
西上実	中国	12月22日～25日	広東美術館開館10周年記念シンポジウム「浮遊するモダニズム―20世紀前半の広州・上海・東京における美術運動と都市文化」に参加・口頭発表	旅費先方負担
淺湫毅	インド	12月28日～20年１月11日	彫刻作品及び仏教遺跡の調査 「環タイ湾地域におけるインド系文化の変容に関する基礎的研究」（平成19年度科学研究費補助金）	国立博物館、考古局、仏教遺跡、マトゥラー博物館 研究代表者： 肥塚隆 （大阪人間科学大学）
久保智康	中国	20年２月４日～10日	博物館所蔵の金工品調査 「日本中世における銅鉄の金属生産とその流通に関する研究」（平成19年度科学研究費補助金）	広東省博物館、広州市博物館、深せん市博物館、珠海市博物館、荔湾博物館 研究代表者： 五十川伸矢 （京都橘大学）
赤尾栄慶	韓国	20年２月18日～22日	韓日国際ワークショップ「古代韓日の言語文化比較研究」に参加・発表	ソウル大学校（旅費先方負担）
西上実	中国	20年３月12日～18日	上海博物館：中国古代人物画国際学術研究会に出席・発表および上海大学芸術研究院で講演	上海博物館、上海大学 （滞在費先方負担）

【奈良国立博物館】延べ６人

氏名	用務先	期間	用務	備考
最所親志	中国	６月24日～７月３日	上海博物館との学術交流に伴う視察及び調査研究のため	上海博物館

梶谷亮治	中国	６月24日～７月３日	上海博物館との学術交流に伴う視察及び調査研究のため	上海博物館
清水健	中国	６月24日～７月３日	上海博物館との学術交流に伴う視察及び調査研究のため	上海博物館
鈴木喜博	中国	12月３日～30日	河南博物院との学術交流協定に基づく調査研究及び視察	河南博物院
永井洋之	中国	12月３日～30日	河南博物院との学術交流協定に基づく調査研究及び視察	河南博物院
谷口耕生	韓国	11月29日～12月19日	韓国国立慶州博物館との学術交流協定に基づく調査研究及び視察	国立慶州博物館

●その他調査等のための海外渡航実績

氏名	用務先	期間	用務	備考
北澤菜月	スイス	４月８日～21日	「観音菩薩展」撤収作業	リートベルク美術館
中島博	アメリカ	４月24日～５月17日	文化庁海外展「悟りの世界」作品随行、展示監督	文化庁
湯山賢一	中国	７月７日～15日	科学研究費補助金「紙素材文化財（文書・典籍・聖教・絵図）の年代推定に関する基礎的研究」調査	科学研究費補助金
吉澤悟	イギリス、イタリア、ギリシア	７月15日～24日	「天馬展」調査及び出陳交渉	職員旅費
永井洋之	中国	７月22日～28日	「天馬展」調査及び出陳交渉	職員旅費
梶谷亮治	韓国	７月30日～８月１日	ソウル国立中央博物館シンポジウム出席	ソウル国立中央博物館
吉澤悟	モンゴル	８月３日～14日	契丹窯址遺跡の物理探査	科学研究費補助金
内藤榮	アメリカ	８月８日～13日	「天馬展」調査及び出陳交渉	職員旅費
吉澤悟	ウズベキスタン	８月22日～９月14日	「正倉院展」に関する取材に同行	読売新聞社
岩戸晶子	韓国	11月１日～８日	科学研究費補助金調査	科学研究費補助金
谷口耕生	中国	20年２月16日～25日	科学研究費補助金「寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク」に伴う調査研究	科学研究費補助金
梶谷亮治	中国	20年２月16日～24日	科学研究費補助金「寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク」に伴う調査研究	科学研究費補助金
北澤菜月	中国	20年２月16日～24日	科学研究費補助金「寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク」に伴う調査研究	科学研究費補助金
内藤榮	インド	20年２月21日～３月５日	科学研究費補助金「中インド新発掘仏教遺跡の総合的研究」に係る海外学術調査	科学研究費補助金
稲本泰生	中国	20年２月24日～３月４日	「遣唐使展」事前調査及び交渉	職員旅費

岩戸晶子	韓国	20年２月29日 ～３月23日	科学研究費補助金「統一新羅期の道具瓦集成」に係る調査研究のため	職員旅費

【九州国立博物館】延べ43人

氏名	用務先	期間	用務	備考
小松大秀	韓国	４月16日～22日	西本願寺展出品交渉、文化交流展示品作品調査、工芸品調査、在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会出席のため	展覧特別展業務費
小林公治	韓国	４月16日～18日	文化交流展示次期韓国借用品協議、西本願寺展借用協議のため	展覧平常展業務費
伊藤信二	韓国	４月16日～18日	文化交流展示次期韓国借用品協議、西本願寺展借用協議のため	展覧平常展業務費
小林公治	ベトナム	４月21日～30日	「ベトナム漆器に関する基礎的研究（平成19年度ポーラ美術振興財団調査研究助成）」に係る調査のため	ポーラ美術振興財団
猪熊兼樹	ベトナム	４月21日～30日	「ベトナム漆器に関する基礎的研究（平成19年度ポーラ美術振興財団調査研究助成）」に係る調査のため	ポーラ美術振興財団
畑靖紀	アメリカ	５月13日～６月６日	文化庁主催海外展「悟りの世界:中世日本における禅宗の人物および説話画」にかかる管理・監督、文化庁への報告のため	ジャパン・ソサエティー、文化庁
臺信祐爾	ドイツ、フランス	５月17日～24日	東アジア美術館チベット美術展見学、ベルリンプロイセン文化財団博物館群視察、日本文化会館懇談、博物館・美術館見学のため	調査研究業務費
臺信祐爾	中国	５月26日～６月１日	チベット展出品候補作品調査、紫壇博物館・五塔寺・大沼寺・遺跡見学のため	調査研究業務費
金井裕子	アメリカ	６月７日～15日	アメリカ合衆国ワシントンD.C サックラー美術館への作品貸与に伴う輸送および展示作業のため	サックラー美術館
三輪嘉六	中国	６月８日～12日	保存修復事業に関わる調査と協議のため	一般管理費
今津節生	中国	６月８日～12日	保存修復事業に関わる調査と協議のため	科学研究費補助金
市元塁	中国	６月８日～12日	保存修復事業に関わる調査と協議のため	調査研究業務費
小林公治	韓国	６月10日～16日	文化交流展示次期韓国借用品協議、百済シンポジウム協議、九州国立博物館での特別観覧に関する協議のため	展覧平常展業務費

市元塁	中国	６月25日～29日	寄託品関連調査及び展示予備調査のため	調査研究業務費
今津節生	台湾	６月26日～30日	台湾国立雲林科技大学開催国際シンポジウム発表のため	台湾国立雲林科技大学
藤田励夫	イタリア、英国、スイス	７月２日～15日	在外日本古美術保存修復協力事業の候補作品調査のため	東京文化財研究所
臺信祐爾	アメリカ	７月17日～21日	フリーア美術館、アーサー･M･サックラー美術館開催中の展覧会において、九博が長期貸与を受けている文化庁保管の点検展示のため	サックラー美術館
原田あゆみ	タイ	７月23日～21日	JICA草の根技術協力事業に係るセミナー事前準備および開催・研修受け入れ打ち合わせ・遺跡保存および活用例見学のため	JICA草の根技術協力事業費
小林公治	韓国	８月５日～９日	文化交流展示次期韓国借用品点検・梱包・韓国搬出クーリエ・九博搬入クーリエのため、韓国内博物館美術館調査のため	展覧平常展業務費
原田あゆみ	タイ、ミャンマー	８月５日～19日	調査研究「古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－」のため	科学研究費補助金
畑靖紀	韓国	８月10日～12日	科学研究費補助金若手研究(B)「室町時代の中国文物の受容に関する調査研究」による東洋絵画の調査研究のため	科学研究費補助金
金井裕子	韓国	８月10日～12日	科学研究費補助金若手研究(B)「室町時代の中国文物の受容に関する調査研究」による東洋絵画の調査研究協力のため	科学研究費補助金
小林公治	韓国	８月21日～23日	文化交流展示次期第１次韓国借用品返却クーリエ・返却に伴う挨拶・開梱・点検のため	展覧平常展業務費
三輪嘉六	中国	８月26日～９月１日	保存修復事業に関わる調印式及び協議、展覧会予備調査及び協議のため	一般管理費
市元塁	中国	８月26日～９月１日	保存修復事業に関わる調印式及び協議、展覧会予備調査及び協議のため	調査研究費
志賀智史	韓国	８月26日～31日	科学研究費補助金による調査のため	科学研究費補助金
小林公治	ベトナム、タイ、ラオス	９月７日～20日	ベトナム螺鈿・漆器調査、バンコク国立博物館漆セミナー参加、タイ螺鈿・漆器調査、バンチェン文化遺跡・遺物調査、ラオス漆器・螺鈿調査のため	ポーラ美術振興財団

今津節生	オランダ、デンマーク	９月９日～20日	アムステルダム（王立科学芸術アカデミー）にて開催の国際学会研究発表および関連研究調査のため	科学研究費補助金
本田光子	アメリカ、東京	９月13日～23日	貸与文化財の返却にともなう点検・輸送、修理・保存施設、美術館、博物館の視察のため	調査研究業務費
臺信祐爾	中国	９月22日～10月２日	刻下文物局との打ち合わせ、チベット自治区文物局との打ち合わせ、チベット自治区博物館・ポタラ宮などにおける作品調査、調査内容の整理・検討などのため	調査研究業務費
今津節生	中国	９月27日～10月２日	科学研究費補助金関連調査のため	科学研究費補助金
志賀智史	ポルトガル	10月10日～11月12日	文化庁海外展記念『日本のやきもの』の展示会場における監督用務のため	文化庁
今津節生	韓国	10月31日～11月３日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウム、展示環境調査のため	科学研究費補助金
鳥越俊行	韓国	10月31日～11月４日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウム、展示環境調査のため	科学研究費補助金
藤田励夫	中国	10月31日～11月５日	「日中共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」中の「紙文化財」保存修復研修コースの講師のため	東京文化財研究所
伊藤嘉章	ポルトガル	11月29日～12月12日	文化庁主催「日本のやきもの」展　ポルトガル　ソアレス・ドス・レイス国立美術館開催撤収、輸送のため	文化庁
藤田励夫	韓国	12月１日～６日	「第２回紙文化財保存修理国際会議」にて発表のため	国民大学、国立江原大学、国立文化財研究所
河野一隆	韓国	12月17日～21日	韓国国立公州博物館からの招聘による研修のため	韓国国立公州博物館
小林公治	ベトナム	12月23日～20年１月６日	ベトナム螺鈿、漆器調査のため	ポーラ美術振興財団
藤田励夫	タイ	20年１月10日～18日	調査研究「古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－」、文化庁海外展に係る打合せのため	科学研究費補助金
原田あゆみ	タイ	20年１月10日～18日	調査研究「古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－」、文化庁海外展に係る打合せのため	科学研究費補助金

小林公治	韓国、中国	20年２月24日 ～３月１日	韓国国立扶餘博物館との友好交流協議・施設見学等、韓国国立公州博物館との友好交流協議・施設見学等、韓国国立中央博物館への表敬・施設見学、中国南京博物院との友好交流協議・施設見学等のため	一般管理費
臺信祐爾	中国	20年３月16日～19日	国家文物局・文物交流中心チベット自治区文物局との打ち合わせ、作品調査のため	調査研究業務費

●その他調査等のための海外渡航実績

氏名	用務先	期間	用務	備考
浅井浩文	ドイツ、フランス	５月17日～24日	展示品調査、人事交流、共同研究等に関する打ち合わせのため	調査研究業務費
永野間一成	中国	８月26日～９月１日	保存修復事業に関わる調印式及び協議、展覧会予備調査及び協議のため	一般管理費
平中英二	韓国、中国	20年２月24日 ～３月１日	韓国国立扶餘博物館との友好交流協議・施設見学等、韓国国立公州博物館との友好交流協議・施設見学等、韓国国立中央博物館への表敬・施設見学、中国南京博物院との友好交流協議・施設見学等のため	一般管理費

【東京文化財研究所】 延べ151人

氏名	用務先	期間	用務	備考
宮田繁幸	インド	４月１日～５日	無形文化遺産保護条約に関する専門家会合にオブザーバー出席し、情報収集を行う	調査研究事業費
岩井俊平	タジキスタン	４月12日～18日	ユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるアジナ・テパ遺跡保存事業	受託（ユネスコ・タジキスタン）
山内和也	カザフスタン、タジキスタン	４月12日～27日	ユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるアジナ・テパ仏教寺院保存修復事業の実施（タジキスタン）、文化遺産国際フォーラムの開催に関する打ち合わせ（カザフスタン、タジキスタン）、世界遺産「シルクロード」登録のための準備会議への出席	国際研究協力事業費
岡田健	中国	４月15日～21日	日中共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営及び講師	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）

宇野朋子	タイ	４月22日～25日	スコータイ遺跡におけるタイ芸術局との共同研究	国際研究協力事業費
朽津信明	タイ	４月22日～25日	スコータイ遺跡におけるタイ芸術局との共同研究	国際研究協力事業費
二神葉子	タイ	４月22日～25日	スコータイ遺跡におけるタイ芸術局との共同研究	国際研究協力事業費
岡田健	中国	４月23日～26日	「陝西省唐代陵墓石彫像保護修復事業」専門家会議	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・陝西唐代陵墓）、西安文物保護修復センター
宮田繁幸	韓国	５月５日～９日	「宗廟祭礼」に関する国際文化行事参加	韓国文化財庁
岡田健	中国	５月６日～19日	「日中共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営、「敦煌研究院における壁画保存に関する研修」派遣事業	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）、助成金（文化財保護・藝術研究助成財団･敦煌）
谷口陽子	中国	５月13日～24日	敦煌莫高窟共同学術調査第5期実施のため	国際研究協力事業費
朽津信明	中国	５月14日～17日	「日中共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営及び講師担当	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）
宮田繁幸	中国	５月21日～29日	「無形文化遺産保護条約」臨時政府間委員会参加	調査研究事業費
稲葉信子	中国	５月24日～28日	ユネスコ･中国国家文物局主催「北京市内世界遺産の歴史的建造物の保存と修復の概念と方法に関する国際シンポジウム」出席	中国国家文物局
清水真一	中国	５月24日～28日	ユネスコ・中国国家文物局主催「北京市内世界遺産の歴史的建造物の保存と修復の概念と方法に関する国際シンポジウム」出席、中国文物研究所との「日中共同によるシルクロード沿線の文化財保護修復技術人員の育成プログラム」の実施に関する協議	国際研究協力事業費、中国国家文物局
岡田健	中国	５月30日～６月14日	龍門石窟撮影・調査	助成金（文化財保護・藝術研究助成財団・龍門）
城野誠治	中国	５月30日～６月14日	龍門石窟撮影・調査	助成金（文化財保護・藝術研究助成財団・龍門）
有村誠	フランス	６月８日～16日	科学研究費補助金（若手研究(B)：研究代表者　有村誠）による研究遂行のため	科学研究費補助金

稲葉信子	スペイン	６月９日～17日	スペイン政府がASEM（アジア欧州会合）の枠組みで行う文化遺産と雇用対策に関する会議出席（外務省の要請によるもの）	外務省
岩井俊平	アフガニスタン、インド	６月９日～７月15日	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業及びユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業の実施とインドアジャンタ石窟保存修復事業の打ち合わせのため	国際研究協力事業費
山内和也	アフガニスタン、インド	６月９日～７月15日	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業及びユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業の実施とインドアジャンタ石窟保存修復事業の打ち合わせのため	国際研究協力事業費
稲葉信子	ニュージーランド	６月21日～７月６日	第31回ユネスコ世界遺産委員会出席	国際研究協力事業費
谷口陽子	アフガニスタン、インド	６月23日～７月15日	ユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業の実施およびインド考古局とバーミヤーン遺跡保存事業に関する情報収集と意見交換	受託（ユネスコ・バーミヤーン）
鈴木規夫	アフガニスタン	６月24日～７月７日	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業及びユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業の実施	国際研究協力事業費
有村誠	アフガニスタン	６月24日～７月14日	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業及びユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業の実施	国際研究協力事業費
清水真一	インドネシア	６月28日～７月２日	ユネスコ・インドネシア政府主催「世界遺産プラバナン遺跡群およびジョグジャカルタ周辺地域文化遺産復興のための修復技術会議」への出席	受託(文化庁･ジャワ)
宇野朋子	カンボジア、タイ	７月３日～10日	カンボジア・アンコール遺跡群での現地調査、アンコール遺跡の救済と発展に関する国際調整委員会出席、およびタイ芸術総局との共同研究に関する協議	国際研究協力事業費
二神葉子	カンボジア、タイ	７月３日～10日	カンボジア・アンコール遺跡群での現地調査、アンコール遺跡の救済と発展に関する国際調整委員会出席、およびタイ芸術総局との共同研究に関する協議	国際研究協力事業費
加藤雅人	イタリア、イギリス、スイス	７月３日～15日	在外日本古美術品保存修復協力事業のための日本絵画作品調査（工芸班）	国際協力研究事業費

江村知子	イタリア、イギリス、スイス	7月5日～15日	在外日本古美術品保存修復協力事業のための日本絵画作品調査（絵画班）	国際協力研究事業費
塩谷純	イタリア、イギリス、スイス	7月5日～15日	在外日本古美術品保存修復協力事業のための日本絵画作品調査（絵画班）	国際協力研究事業費
津田徹英	イタリア、イギリス、スイス	7月5日～15日	在外日本古美術品保存修復協力事業のための日本絵画作品調査（絵画班）	国際協力研究事業費
早川典子	イタリア、イギリス、スイス	7月5日～15日	在外日本古美術品保存修復協力事業のための日本絵画作品調査（工芸班）	国際協力研究事業費
岡田健	中国	7月10日～19日	「日中共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営、「敦煌研究院における壁画保存に関する研修」派遣事業	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）、助成金（文化財保護・藝術研究助成財団助成・敦煌）
中山俊介	イギリス、チェコ	7月10日～24日	在外日本古美術品保存修復協力事業のための工芸作品調査（工芸班）	国際協力研究事業費
清水真一	ベトナム	7月11日～17日	ユネスコおよびベトナム政府側とのタンロン皇城遺跡の保護の係る支援協議	受託（文化庁・タンロン）
早川泰弘	アメリカ	7月29日～8月3日	X線分析に関する調査と研究発表	調査研究事業費
稲葉信子	ベトナム	8月13日～18日	タンロン遺跡保存事業のためのユネスコ専門家会議出席	ユネスコ
清水真一	ベトナム	8月13日～18日	タンロン遺跡保存事業のためのユネスコ専門家会議出席	ユネスコ
飯島満	イラン	8月20日～27日	伝統的・儀礼的演劇に関する国際セミナー	イラン演劇芸術センター
俵木悟	イラン	8月20日～27日	伝統的・儀礼的演劇に関する国際セミナー	イラン演劇芸術センター
有村誠	タジキスタン	8月22日～31日	タジキスタン文化遺産の調査	国際研究協力事業費
谷口陽子	タジキスタン	8月22日～31日	タジキスタン文化遺産の調査	国際研究協力事業費
山内和也	タジキスタン	8月22日～31日	ユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるアジナ・テパ遺跡保護事業に関する国際運営委員会への出席	ユネスコ
中野照男	インド	8月25日～9月4日	平成19年度科学研究費補助金・基盤研究B（「アジアの無形文化における仮頭の研究－仮面との比較から－」のための実地調査・資料収集）	科学研究費補助金（立教大学）
岡田健	中国	8月28日～9月3日	中国山西省石窟寺院の保護に関する調査研究	科学研究費補助金

田代亜紀子	カンボジア	８月29日～９月６日	上智大学「文化遺産教育戦略に資する国際連帯の推進」文化遺産研究Ⅰの講義	上智大学
中山俊介	ドイツ、イギリス	９月８日～10月４日	国際会議出席（ボーチャム）、近代文化遺産調査（ケルン、ベルリン、ドイツ北部）、調査打合せ（V&A、アシュモリアン）	調査研究事業費、ドイツ鉱業博物館
岡田健	中国	９月８日～13日	「敦煌研究院における壁画保存に関する研修」派遣事業	助成金（文化財保護・藝術研究助成財団助成・敦煌）
稲葉信子	ウズベキスタン、カザフスタン	９月９日～16日	アジア文化遺産国際会議の準備のための現地政府との打ち合わせおよび中央アジアにおける文化財保存施策に関する現状調査	国際研究協力事業費
岩出まゆ	ウズベキスタン、カザフスタン	９月９日～16日	アジア文化遺産国際会議の準備のための現地政府との打ち合わせおよび中央アジアにおける文化財保存施策に関する現状調査	国際研究協力事業費
朽津信明	タイ、カンボジア	９月９日～17日	タイ芸術局との共同研究カンボジア政府アンコール・シェリムアップ地域保護管理機構との共同研究	国際研究協力事業費
二神葉子	タイ、カンボジア	９月９日～18日	タイ・スコータイ遺跡、アユタヤ遺跡およびカンボジア・アンコール遺跡群での現地調査	国際研究協力事業費
勝木言一郎	アメリカ	９月10日～16日	在外日本古美術品保存修復協力事業（絵画班）	国際協力研究事業費
皿井舞	アメリカ	９月10日～16日	在外日本古美術品保存修復協力事業（絵画班）	国際協力研究事業費
綿田稔	アメリカ	９月10日～16日	在外日本古美術品保存修復協力事業（絵画班）	国際協力研究事業費
加藤雅人	アメリカ	９月10日～19日	在外日本古美術品保存修復協力事業（工芸班）	国際協力研究事業費
川野邊渉	ドイツ	９月18日～22日	在外日本古美術品保存修復協力事業および近代の文化遺産に関する調査	国際協力研究事業費、調査研究事業費
北野信彦	ドイツ、イギリス	９月23日～28日	在外修復作品の確認及び調査のため	国際協力研究事業費
佐野智典	イギリス、ドイツ	９月23日～29日	在外日本古美術品保存修復協力事業に係る事務打ち合わせのため	一般管理費
横山隆史	イギリス、ドイツ	９月23日～29日	在外日本古美術品保存修復協力事業に係る事務打ち合わせのため	一般管理費
宮田繁幸	タイ、バングラデシュ	９月23日～10月１日	無形文化遺産保護パートナーシッププログラムに基づくタイ国関係機関調査及びバングラデシュ関係機関調査	受託（文化庁・無形）

清水真一	インド	９月25日～10月３日	インドにおける「文化遺産国際拠点交流事業」のための予備調査	受託（文化庁・アジャンター）
谷口陽子	インド	９月25日～10月３日	インドにおける「文化遺産国際拠点交流事業」のための予備調査	受託（文化庁・アジャンター）
山内和也	インド	９月25日～10月３日	インドにおける「文化遺産国際拠点交流事業」のための予備調査	受託（文化庁・アジャンター）
二神葉子	モンゴル	９月26日～10月１日	第３回日本モンゴル文化フォーラムへの参加および講演	モンゴル教育文化科学省
稲葉信子	ドイツ	９月29日～10月６日	科研「保存を前提とした歴史的建造物の活用に関する研究」に伴う海外調査	科学研究費補助金（筑波大学）
清水真一	中国	10月７日～11日	「日中共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）
岡田健	中国	10月７日～14日	「日中共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営陝西省唐代陵墓石彫像保存修理事業	国際研究協力事業費、受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）
犬塚将英	アメリカ	10月10日～14日	IEEE国際シンポジウム	科学研究費補助金
岩出まゆ	中国	10月10日～14日	東京文化財研究所と西安文物保護修復センターが共同で開催する「石造文化財の保存処理技術に関する研究会」に出席のため	国際研究協力事業費
二神葉子	中国	10月10日～14日	陝西省唐代陵墓石彫像保存修理事業	国際研究協力事業費
岡田健	中国	10月21日～24日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード）
稲葉信子	インドネシア	10月21日～28日	平成18年度５月に発生した中部ジャワ地震により被災した世界遺産プランバナン遺跡群の復興修理計画作成調査	受託（文化庁・プランバナン）
田代亜紀子	インドネシア	10月21日～11月４日	平成18年度５月に発生した中部ジャワ地震により被災した世界遺産プランバナン遺跡群の復興修理計画作成調査	受託（文化庁・プランバナン）
岩出まゆ	インドネシア	10月22日～11月４日	平成18年度５月に発生した中部ジャワ地震により被災した世界遺産プランバナン遺跡群の復興修理計画作成調査	受託（文化庁・プランバナン）
山内和也	中国	10月29日～11月２日	「シルクロードの世界遺産登録のための国際シンポジウム」への参加	国際研究協力事業費
石崎武志	韓国	10月30日～11月３日	東アジア文化遺産保存シンポジウムでの研究発表および、国立文化財研究所での研究打ち合わせ	科学研究費補助金

森井順之	韓国	10月30日～11月３日	日韓共同研究打ち合わせ、2007東アジア文化遺産保存シンポジウム参加・発表	調査研究事業費
鈴木規夫	韓国	10月31日～11月３日	東アジア文化遺産保存シンポジウム参加	東アジア文化遺産保存シンポジウム
三浦定俊	韓国	10月31日～11月３日	東アジア文化遺産保存シンポジウム参加	科学研究費補助金
稲葉信子	中国	11月１日～５日	北京大学・北京市教育庁他主催「北京フォーラム」パネリスト(セッション「文明の発展における人類の遺産」)	北京大学、フォーラム主催者
岡田健	韓国、中国	11月１日～11日	2007東アジア文化遺産保存シンポジウム出席（韓国)、「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」（中国)、韓国中央アジア学会国際シンポジウム出席(韓国)	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード)、韓国中央アジア学会
吉田直人	中国	11月５日～13日	文化財保存・修復を専門とする若手のための敦煌派遣研修、陝西省唐代陵墓石彫像保護修復事業	助成（敦煌)、受託（陝西)、西安文物保護修復センター
谷口陽子	アメリカ	11月５日～27日	壁画の彩色試料に含まれる有機物質の分析	ゲティ保存研究所
加藤雅人	中国	11月６日～10日	「日中共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」において講演を行うため	受託(文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード
中山俊介	イギリス、ドイツ、イタリア	11月６日～21日	在外修復に関するワークショップ開催と近代化遺産の保存修復のための材料技法の開発に関する調査及び打ち合わせ	国際協力研究事業費、調査研究事業費
山内和也	アフガニスタン	11月７日～９日	バーミヤーン出土仏典の保存修復に関する打ち合わせ及び仏典の移送	国際研究協力事業費
山内和也	エジプト	11月12日～19日	「大エジプト博物館」保存修復センターへの協力事業	JICA
川野邊渉	ドイツ、イギリス、イタリア	11月12日～21日	在外修復に関するワークショップ開催と近代化遺産の保存修復のための材料技法の開発に関する調査及び打ち合わせのため	国際協力研究事業費、調査研究事業費
後藤嘉信	ドイツ、イギリス、イタリア	11月12日～21日	在外修復に関するワークショップ事務補助及び修復作品の完了検査、近代化遺産にかかる共同研究についての事務打ち合わせ及びローマ中央修復研究所における日本美術品修復研修に関する事務打ち合わせのため	間接経費
清水真一	エジプト	11月12日～21日	「大エジプト博物館」保存修復センターへの協力事業	JICA

松本康男	ドイツ、イギリス、イタリア	11月12日～21日	在外修復に関するワークショップ事務補助及び修復作品の完了検査、近代化遺産にかかる共同研究についての事務打ち合わせ及びローマ中央修復研究所における日本美術品修復研修に関する事務打ち合わせのため	間接経費
宮田繁幸	韓国	11月13日～16日	国際シンポジウム「無形文化遺産アーカイビングーその現在と未来」参加	韓国国立文化財研究所
石崎武志	ドイツ、デンマーク	11月14日～24日	文化財施設の環境解析に関する研究打ち合わせおよび博物館の微気象に関する国際シンポジウム	調査研究事業費
犬塚将英	デンマーク	11月18日～25日	博物館の微気象に関する国際シンポジウム	科学研究費補助金
森井順之	韓国	11月20日～24日	石造文化財の保存修復に関する日韓共同調査	韓国国立文化財研究所
岡田健	中国	11月25日～28日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード
二神葉子	カンボジア	11月26日～12月１日	カンボジア・アンコール遺跡群での現地調査、アンコール遺跡の救済と発展に関する国際調整委員会出席	国際研究協力事業費
谷口陽子	インド	12月２日～６日	インドにおける「文化遺産国際拠点交流事業」合意書締結のための打合せ	受託（文化庁・アジャンター）
山内和也	インド	12月２日～６日	インドにおける「文化遺産国際拠点交流事業」合意書締結のための打合せ	受託（文化庁・アジャンター）
宮田繁幸	台湾	12月７日～９日	文化資源シンポジウム「地方文化からの観点」基調講演	国立台北芸術大学文化資源学院
岡田健	中国	12月９日～14日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード
二神葉子	ベトナム	12月９日～14日	タンロン皇城遺跡の保存に関する専門家派遣と研修事業	受託（文化庁・タンロン）
谷口陽子	エジプト、イタリア	12月10日～22日	大エジプト博物館保存修復センター支援調査イタリアの壁画の表面洗浄に関する調査	国際研究協力事業費、科学研究費補助金
中山俊介	韓国	12月18日～20日	非武装地帯に放置されていた蒸気機関車の保存修復を韓国で実施しているが、それに関する調査、打ち合わせのため	調査研究事業費
山内和也	アフガニスタン	12月19日～23日	バーミヤーン出土仏典の保存修復に関する打ち合わせ及び仏典の移送	国際研究協力事業費

岡田健	中国	12月24日～27日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」の運営	受託（文化財保護・藝術研究助成財団・シルクロード
谷口陽子	中国	20年１月５日～12日	中国新疆ウイグル自治区および中国西域の仏教ロード沿いに分布する仏教壁画を有する石窟の現状調査	受託（NHK）
清水真一	カンボジア	20年１月10日～15日	文化遺産国際協力に関する相手国調査およびユネスコ・カンボジア政府主催「プリア・ヴィヒア遺跡に関する技術会議」参加	外務省
二神葉子	カンボジア	20年１月10日～15日	文化遺産国際協力に関する相手国調査およびユネスコ・カンボジア政府主催「プリア・ヴィヒア遺跡に関する技術会議」参加	受託（文化庁・コンソーシアム）
山梨絵美子	フランス	20年１月20日～24日	フランス国立美術館保存修復研究所における油彩画の技法・材料調査法の調査	東京国立博物館
宮田繁幸	フランス	20年１月26日～2月１日	ユネスコ無形文化遺産保護条約政府間委員会の補助組織会合出席	受託(文化庁･無形)
岡田健	中国	20年１月27日～2月１日	UNESCO／日本信託基金龍門石窟保存修復事業	受託（ユネスコ・龍門）
清水真一	中国	20年１月27日～２月１日	UNESCO／日本信託基金龍門石窟保存修復事業	受託（ユネスコ・龍門）
城野誠治	台湾	20年１月28日～２月１日	国立故宮博物院との共同研究による作品調査・撮影および研究成果についての協議	調査研究事業費
山梨絵美子	台湾	20年１月28日～２月１日	国立故宮博物院との共同研究による作品調査・撮影および研究成果についての協議	調査研究事業費
有村誠	アルメニア	20年２月３日～23日	科学研究費補助金（若手研究（B）:研究代表者　有村誠）と西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業による研究遂行のため(トランスコーカサスの初期農耕遺跡に関する考古学調査とアルメニアにおける壁画の状態調査)	国際研究協力事業費、科学研究費補助金
宮田繁幸	ブルガリア	20年２月17日～24日	ユネスコ無形文化遺産保護条約第２回臨時政府間委員会出席	受託(文化庁･無形)
清水真一	ラオス	20年２月19日～26日	文化遺産国際協力コンソーシアム業務　協力相手国調査のため	受託（文化庁・コンソーシアム）
田代亜紀子	ラオス	20年２月19日～26日	文化遺産国際協力コンソーシアム業務　協力相手国調査のため	受託（文化庁・コンソーシアム）
谷口陽子	エジプト	20年２月20日～３月１日	大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト形成調査	JICA
飯島満	モンゴル	20年２月26日～３月４日	モンゴル国における無形文化遺産保護部局調査・他	受託(文化庁･無形)

豊島久乃	モンゴル	20年２月26日 ～３月４日	文化遺産国際協力コンソーシアムの協力相手国調査	受託（文化庁・コンソーシアム）
二神葉子	モンゴル	20年２月26日 ～３月４日	文化遺産国際協力コンソーシアムの協力相手国調査	受託（文化庁・コンソーシアム）
稲葉信子	インド	20年２月29日 ～３月６日	「文化と景観およびその保護手法の研究－信仰に関わる文化的景観の調査・分析」（科学研究費補助金）に伴う海外調査	科学研究費補助金
俵木悟	インド	20年２月29日 ～３月６日	「文化と景観およびその保護手法の研究－信仰に関わる文化的景観の調査・分析」（科学研究費補助金）に伴う海外調査	科学研究費補助金
江村知子	イギリス	20年３月３日～８日	美術史資料のアーカイブ構築のための調査	科学研究費補助金
中村節子	イギリス	20年３月３日～８日	美術史資料アーカイブ構築にかかる事務作業および事務的協議	調査研究事業費
山梨絵美子	イギリス	20年３月３日～８日	美術史資料のアーカイブ構築のための調査	調査研究事業費
田代亜紀子	タイ	20年３月７日～14日	科学研究費補助金「東南アジアにおける文化の継承と記憶の創出に関する研究」（代表：上智大学・丸井雅子）調査	上智大学
山内和也	ウズベキスタン、タジキスタン	20年３月７日～15日	東京文化財研究所主催、ウズベキスタン政府ユネスコ国内委員会・ユスコタシケント事務所共催「文化遺産専門家会議：中央アジアと日本」参加、タジキスタン共和国科学アカデミー歴史・考古・民族研究所と東京文化財研究所の間の文化遺産保護のための協力に関する合意書の署名	国際研究協力事業費
皿井舞	アメリカ	20年３月９日～14日	サンフランシスコ東洋美術館における日本彫刻作品に関するアーカイブズ現状視察と館蔵作品の調査	調査研究事業費
津田徹英	アメリカ	20年３月９日～14日	サンフランシスコ東洋美術館における日本彫刻作品に関するアーカイブズ現状視察と館蔵作品の調査	調査研究事業費
稲葉信子	ウズベキスタン	20年３月９日～15日	東京文化財研究所主催、ウズベキスタン政府ユネスコ国内委員会・ユネスコタシケント事務所共催「文化遺産専門家会議：中央アジアと日本」参加	国際研究協力事業費

影山悦子	ウズベキスタン	20年３月９日～18日	東京文化財研究所主催、ウズベキスタン政府ユネスコ国内委員会・ユネスコタシケント事務所共催「文化遺産専門家会議：中央アジアと日本」参加	国際研究協力事業費
岡田健	ウズベキスタン	20年３月10日～18日	東京文化財研究所主催、ウズベキスタン政府ユネスコ国内委員会・ユスコタシケント事務所共催「文化遺産専門家会議：中央アジアと日本」参加、サマルカンドにおける文化財保存の現状調査	国際研究協力事業費
朽津信明	ウズベキスタン	20年３月11日～15日	東京文化財研究所主催、ウズベキスタン政府ユネスコ国内委員会・ユネスコタシケント事務所共催「文化遺産専門家会議：中央アジアと日本」参加	国際研究協力事業費
清水真一	ウズベキスタン	20年３月11日～15日	東京文化財研究所主催、ウズベキスタン政府ユネスコ国内委員会・ユネスコタシケント事務所共催「文化遺産専門家会議：中央アジアと日本」参加	国際研究協力事業費
二神葉子	アメリカ	20年３月15日～20日	文化財防災、特に地震への対策の現状に関する現地調査	科学研究費補助金
俵木悟	韓国	20年３月17日～19日	韓国国立文化財研究所との研究交流計画打ち合わせ	受託(文化庁・無形)
佐野智典	ドイツ	20年３月23日～27日	在外日本古美術品保存修復協力事業によるドイツ技術博物館における修復作業に係る事務打ち合わせのため	間接経費
川野邊渉	ドイツ	20年３月23日～28日	ベルリンにおける在外作品修復に関する準備作業及び打ち合わせのため	国際協力研究事業費
中山俊介	ドイツ	20年３月23日～28日	ベルリンにおける在外作品修復に関する準備作業及び打ち合わせのため	国際協力研究事業費
綿田稔	ドイツ	20年３月23日～28日	ベルリンにおける在外作品修復に関する準備作業及び打ち合わせのため	国際協力研究事業費
宮田繁幸	タイ	20年３月24日～30日	無形文化遺産に関するサブリージョナルワークショップ出席	受託(文化庁・無形)
田代亜紀子	インドネシア	20年３月26日～29日	世界遺産プランバナン遺跡群復興修理計画供与	国際研究協力事業費
二神葉子	インドネシア	20年３月26日～29日	世界遺産プランバナン遺跡群復興修理計画供与	国際研究協力事業費
飯島満	インドネシア	20年３月26日～30日	インドネシア国における無形文化遺産保護部局調査	受託(文化庁・無形)

上野智子	インドネシア	20年３月26日～30日	インドネシア国における無形文化遺産保護部局調査	受託(文化庁･無形)
山内和也	エジプト	20年３月31日 ～４月４日	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」への協力	JICA

【奈良文化財研究所】延べ146人

氏名	用務先	期間	用務	備考
金田明大	ドイツ	４月２日～８日	国際学会ＣＡＡ（Computer Applications and Quantitative methods in Archaeology)での発表及び参加	職員旅費
松井章	韓国	４月15日～18日	金海貝塚出土動物遺存体の研究指導	先方負担
窪寺茂	中国	４月18日～22日	中日韓古建築模型学術交流活動準備会議への出席(中国文物研究所からの招聘)、建造物研究室特別研究「古代建築の構法」研究に関する現地視察	渡航費：職員旅費 滞在費：先方負担
箱崎和久	中国	４月18日～22日	中日韓古建築模型学術交流活動準備会議への出席(中国文物研究所からの招聘)、建造物研究室特別研究「古代建築の構法」研究に関する現地視察	渡航費：職員旅費 滞在費：先方負担
加藤真二	中国	４月22日～27日	平成20年度秋期特別展開催に関する調整・調査	職員旅費
西田紀子	中国	４月22日～27日	平成20年度秋期特別展開催に関する調整・調査	職員旅費
島田敏男	ベトナム	４月29日～５月５日	文化庁が行っているベトナムへの集落保存協力の一環としての現地協議	他機関負担
西口壽生	中国	５月17日～27日	河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
玉田芳英	中国	５月17日～27日	河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
森川実	中国	５月17日～27日	河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
小田裕樹	中国	５月17日～27日	河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
川越俊一	中国	５月22日～27日	河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
巽淳一郎	中国	５月22日～27日	河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
内田和伸	中国	５月24日～30日	大極殿院の思想と文化に関する研究のため（儒教建築の構成と活用に関する調査研究）	科学研究費補助金

森本晋	ロシア	５月27日～６月５日	電子文化地図学会に出席・発表	職員旅費
松井章	韓国	５月28日～６月１日	慶南考古学研究所において金海貝塚出土動物遺存体の研究指導	科学研究費補助金
石村智	アフガニスタン	６月８日～７月14日	バーミヤーン遺跡の調査	職員旅費
森本晋	アフガニスタン	６月９日～20日	バーミヤーン遺跡の調査	職員旅費
関広尚世	エジプト	６月12日～20日	ヌビア文化の研究に関する遺跡・博物館の見学	私費(研修)
杉山洋	カンボジア	６月18日～22日	西トップ寺院の調査研究	職員旅費
森本晋	ニュージーランド	６月21日～７月３日	第31回世界遺産委員会出席	他機関負担
岡村道雄	カンボジア	７月３日～７日	西トップ寺院の調査研究	職員旅費
安田龍太郎	カンボジア	７月３日～７日	西トップ寺院の調査研究	職員旅費
杉山洋	カンボジア	７月３日～７日	西トップ寺院の調査研究	職員旅費
森本晋	カンボジア	７月４日～７日	アンコール遺跡保存国際調整委員会出席	職員旅費
松井章	中国	７月12日～17日	動物考古学会「Chinese perspectives and global developments」に出席、発表、研究討議。遺跡出土骨の観察及び記録、中国研究者との研究討議	科学研究費補助金
金井健	アメリカ	７月12日～11月16日	フルブライト交流プログラム海外研究歴史的建造物保存の方策と実践に関する研究	フルブライト交流プログラム
石村智	カンボジア	７月17日～27日	西トップ寺院の調査研究	職員旅費
豊島直博	カンボジア	７月17日～27日	西トップ寺院の調査研究	職員旅費
杉山洋	カンボジア	７月17日～27日	「カンボジアにおける中世遺跡と日本人町の研究」現地調査	科学研究費補助金
加藤真二	韓国	７月18日～23日	古墳壁画（獣頭人身十二支像）の調査・研究	職員旅費
山中敏史	韓国	７月24日～26日	大韓民国国立文化財研究所が主催する研修教育で講演	先方負担
山崎信二	中国	７月26日～28日	中国社会科学院考古研究所との共同研究	職員旅費
小池伸彦	中国	７月26日～28日	中国社会科学院考古研究所との共同研究	職員旅費
今井晃樹	中国	７月26日～28日	中国社会科学院考古研究所との共同研究	職員旅費
石村智	サモア	８月４日～13日	サモア独立国における考古学調査・ワークショップの開催	福武学術文化振興財団助成金
杉山洋	カンボジア、タイ	８月15日～22日	西トップ寺院の調査研究、タイ国内クメール遺跡の視察	職員旅費
丹羽崇史	中国	８月18日～28日	青銅器および鋳造関連遺物の調査	高梨学術奨励基金

石村智	スウェーデン	８月19日～27日	スウェーデン・ゴットランド大学における国際学会「VII International conference : Easter Island and the Pacific」で研究発表	科学研究費補助金
平澤毅	ベトナム、中国	８月21日～31日	ベトナム・ハロン湾の文化的景観に関する現地調査､ベトナム･中国国境地帯少数民族居住地の文化的景観の現地調査	他機関科学研究費補助金
橋本裕子	ヨルダン	８月21日～９月25日	発掘調査	科学研究費補助金
山崎信二	中国	８月25日～31日	中国の南朝および隋唐代の瓦調査	職員旅費
石田由紀子	中国	８月25日～９月５日	中国の南朝および隋唐代の瓦調査	職員旅費
小澤毅	中国	８月25日～９月５日	古代東アジアの造瓦技法の比較検討	科学研究費補助金
黒坂貴裕	韓国	９月２日～７日	第4回日韓文化財建造物保存協力協議会	文化庁
森本晋	チェコ	９月３日～10日	ヨーロッパコンピュータグラフィクス学会文化遺産分科会出席	職員旅費
高瀬要一	フィリピン	９月５日～10日	世界遺産フィリピンコルディラ棚田の保存管理の現状と課題調査	職員旅費
松井章	インドネシア	９月６日～11日	イノシシの調査	他機関科学研究費補助金
大河内隆之	タイ	９月８日～17日	国際学会(The First Asian Dendrochronology Conference and Workshop))に出席、及び発表のため	職員旅費
金田明大	スロバキア	９月10日～17日	国際遺跡探査学会発表のため	職員旅費
西村康	スロバキア	９月10日～17日	国際遺跡探査学会発表のため	職員旅費
高瀬要一	韓国	９月12日～15日	大韓民国国立文化財研究所主催「第16回文化財研究学術大会」に参加・発表	先方負担
松井章	アメリカ	９月14日～28日	北西海岸先史文化のオレゴン州サンケン・ビレッジ遺跡の発掘に参加し、縄文文化に関する情報の供与と、発掘技術の指導を行う	科学研究費補助金
吉川聡	中国	９月17日～21日	中国雲南省イ族土地関係文書料紙調査	他機関科学研究費補助金
和田一之輔	中国	９月17日～28日	太液池出土遺物の調査	職員旅費
今井晃樹	中国	９月17日～28日	太液池出土遺物の調査	職員旅費
廣瀬覚	中国	９月17日～28日	太液池出土遺物の調査	職員旅費
牛嶋茂	中国	９月17日～28日	太液池出土遺物の調査	職員旅費
中川あや	韓国	９月18日～11月15日	慶州国立文化財研究所との研究交流	渡航費:職員旅費、滞在費：先方負担

杉山洋	アメリカ	９月21日～27日	アメリカ所在のクメール陶器の調査研究及びスミソニアン研究機構においてクメール陶器に関する意見交換を行うため	研修
降幡順子	アメリカ	９月22日～10月１日	第4回フォーブスシンポジウム参加・発表	科学研究費補助金
児島大輔	中国	９月25日～10月３日	河南省龍門石窟における調査のため	科学研究費補助金
金田明大	ギリシャ	10月１日～８日	CIPA国際シンポジウム出席	職員旅費
肥塚隆保	中国	10月３日～５日	石造文化財の劣化状態調査法に関する研究会	科学研究費補助金
高妻洋成	中国	10月３日～５日	石造文化財の劣化状態調査法に関する研究会	科学研究費補助金
村上隆	ドイツ	10月３日～12日	国際会議における招待講演、科学研究費補助金による調査・研究	先方負担（内10.8～12滞在費：他機関科学研究費補助金）
松井章	韓国	10月10日～13日	韓国慶南考古学研究所において金海貝塚出土動物遺存体の研究指導	科学研究費補助金
小林謙一	中国	10月10日～13日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
金田明大	中国	10月10日～17日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
小池伸彦	中国	10月10日～20日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
牛嶋茂	中国	10月10日～20日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
豊島直博	中国	10月10日～20日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
小澤毅	韓国	10月13日～17日	新羅の都城と寺院の立地に関する資料収集	科学研究費補助金
加藤真二	韓国	10月22日～26日	慶州における獣頭人身十二支像の調査と写真撮影	職員旅費
井上直夫	韓国	10月22日～26日	平成20年度飛鳥資料館特別展「キトラ古墳壁画異貌の一二支神像」展における展示、及び図録用写真撮影	職員旅費
岡田愛	韓国	10月22日～26日	平成20年度飛鳥資料館特別展「キトラ古墳壁画異貌の一二支神像」展における展示、及び図録用写真撮影	職員旅費
松井章	中国	10月28日～11月４日	遺物調査、田螺山遺跡関連資料の収集、余姚田螺山遺跡出土品の調査	他機関科学研究費補助金
田辺征夫	韓国	10月31日～11月２日	2007年東アジア文化遺産保存シンポジウムへ出席	先方負担
森本晋	カンボジア	10月31日～11月３日	西トップ寺院関係資料の調査	科学研究費補助金
杉山洋	カンボジア、中国	10月31日～11月18日	ソサイ窯跡出土土器の調査、東南アジア陶磁器の視察	科学研究費補助金

清水重敦	韓国	11月１日～４日	大韓民国における文化遺産のオーセンティシティに関する現地調査	科学研究費補助金
肥塚隆保	韓国	11月１日～５日	東アジア文化遺産保存シンポジウムへの出席(研究発表)ならびに石造文化財の劣化状態調査法に関する資料収集	先方負担
高妻洋成	韓国	11月１日～５日	東アジア文化遺産保存シンポジウムへの出席(研究発表)ならびに石造文化財の劣化状態調査法に関する資料収集	科学研究費補助金
降幡順子	韓国	11月１日～５日	東アジア文化遺産保存シンポジウムへの出席(研究発表)ならびに石造文化財の劣化状態調査法に関する資料収集	科学研究費補助金
脇谷草一郎	韓国	11月１日～５日	東アジア文化遺産保存シンポジウムへの出席(研究発表)ならびに石造文化財の劣化状態調査法に関する資料収集	科学研究費補助金
小澤毅	韓国	11月１日～10日	古代東アジアの造瓦技法の比較検討	科学研究費補助金
高田貫太	韓国	11月１日～10日	古代東アジアの造瓦技法の比較検討	科学研究費補助金
林正憲	韓国	11月１日～10日	古代東アジアの造瓦技法の比較検討	科学研究費補助金
箱崎和久	中国	11月７日～16日	河北省における塔婆建築を中心とした古建築の構造と意匠に関する調査	科学研究費補助金
今井晃樹	中国	11月20日～23日	洛陽との共同研究のための事前調査	職員旅費
杉山洋	カンボジア	11月26日～30日	国際会議出席と西トップ寺院の調査成果発表	職員旅費
石村智	フィジー	11月29日～12月12日	フィジー諸島共和国､ボウレワ・ラピタ遺跡の発掘調査	科学研究費補助金
玉田芳英	中国	12月５日～11日	河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
森川実	中国	12月５日～11日	河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
降幡順子	中国	12月５日～11日	河南省文物考古研究所との共同研究	職員旅費
加藤真二	中国	12月５日～19日	河南省鄭州･洛陽における唐三彩･十二支俑の写真撮影、山西省太原における十二支壁画の調査	職員旅費
牛嶋茂	中国	12月５日～19日	河南省鄭州･洛陽における唐三彩･十二支俑の写真撮影、山西省太原における十二支壁画の調査	職員旅費

森本晋	フランス	12月５日～13日	フランス極東学院所蔵、西トップ寺院関連資料の調査	職員旅費
肥塚隆保	ベトナム	12月９日～14日	ベトナム・タンロン遺跡の保存に関する調査	他機関負担
高妻洋成	ベトナム	12月９日～14日	ベトナム・タンロン遺跡の保存に関する調査	他機関負担
豊島直博	韓国	12月12日～14日	「弥生・古墳時代における日韓墳墓出土鉄製武器の比較研究」に関する資料調査	科学研究費補助金
田辺征夫	韓国	12月16日～19日	古代都城遺跡発掘現場交流の状況および今後の推進の仕方についての協議	先方負担
安田龍太郎	韓国	12月16日～19日	古代都城遺跡発掘現場交流の状況および今後の推進の仕方についての協議	先方負担
松村恵司	韓国	12月16日～19日	古代都城遺跡発掘現場交流の状況および今後の推進の仕方についての協議	先方負担
吉川聡	カンボジア	12月17日～21日	アンコールワット遺跡所在日本人墨書銘の調査	科学研究費補助金
杉山洋	カンボジア	12月17日～27日	ソサイ窯跡の調査研究	科学研究費補助金
井上直夫	カンボジア	12月17日～27日	ソサイ窯跡より出土した遺物及び窯跡の空撮のため	科学研究費補助金
林正憲	カンボジア	12月17日～27日	西トップ寺院の調査	職員旅費
石村智	カンボジア	12月17日～27日	西トップ寺院の調査	職員旅費
島田敏男	カンボジア	20年１月21日～26日	西トップ寺院の調査	職員旅費
杉山洋	カンボジア	20年１月21日～26日	アンコール遺跡群共同研究西トップ寺院調査	職員旅費
清水重敦	カンボジア	20年１月21日～26日	アンコール西トップ寺院遺跡の建造物調査	職員旅費
窪寺茂	韓国	20年１月22日～24日	韓国国立全南大学校主催のシンポジウムで発表（招聘）	先方負担
杉山洋	カンボジア	20年２月７日～16日	アンコール文化遺産保護共同研究現地調査のため	職員旅費
森本晋	アルメニア	20年２月９日～17日	壁画遺構の保全状況調査	職員旅費
馬場基	韓国	20年２月12日～14日	国際シンポジウム「古代東亜細亜世界の物流と木簡」報告のため	先方負担
小澤毅	ベトナム	20年２月19日～25日	タンロン皇城遺跡発掘調査支援	他機関負担
井上和人	ベトナム	20年２月19日～３月１日	タンロン皇城遺跡発掘調査支援	他機関負担
小田裕樹	韓国	20年２月25日～29日	扶余・慶州地域における火葬墓関連資料、遺跡の調査	科学研究費補助金
次山淳	韓国	20年３月７日～９日	日韓共同研究の一環として、国立加耶文化財研究所における咸安城山山城出土木簡の見学ならびに研究交流をおこなうため	職員旅費

高田貫太	韓国	20年３月７日～９日	日韓共同研究の一環として、国立加耶文化財研究所における咸安城山山城出土木簡の見学ならびに研究交流をおこなうため	職員旅費
竹本晃	韓国	20年３月７日～９日	日韓共同研究の一環として、国立加耶文化財研究所における咸安城山山城出土木簡の見学ならびに研究交流をおこなうため	職員旅費
馬場基	韓国	20年３月７日～９日	日韓共同研究の一環として、国立加耶文化財研究所における咸安城山山城出土木簡の見学ならびに研究交流をおこなうため	職員旅費
浅野啓介	韓国	20年３月７日～９日	日韓共同研究の一環として、国立加耶文化財研究所における咸安城山山城出土木簡の見学ならびに研究交流をおこなうため	職員旅費
杉山洋	カンボジア	20年３月７日～12日	飛鳥資料館企画展示出陳交渉	職員旅費
田辺征夫	中国	20年３月８日～12日	朝陽地区隋唐墓の整理と研究	職員旅費
小林謙一	中国	20年３月８日～15日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
加藤真二	中国	20年３月８日～15日	朝陽地区隋唐墓の整理と研究	職員旅費
森本晋	タジキスタン、ウズベキスタン	20年３月８日～17日	アジナタバ関連資料調査、文化遺産専門家会議「日本と中央アジア」出席と関連資料の調査	職員旅費
児島大輔	中国	20年３月10日～22日	中国四川省における唐代仏教摩崖造像の写真撮影および関連資料収集	他機関負担
降幡順子	中国	20年３月12日～15日	朝陽地区隋唐墓の整理と研究	職員旅費
脇谷草一郎	中国	20年３月12日～15日	朝陽地区隋唐墓の整理と研究	職員旅費
牛嶋茂	中国	20年３月12日～19日	朝陽地区隋唐墓の整理と研究	職員旅費
中川あや	中国	20年３月12日～19日	朝陽地区隋唐墓の整理と研究	職員旅費
和田一之輔	中国	20年３月12日～19日	墳墓副葬品の調査	科学研究費補助金
金田明大	中国	20年３月12日～19日	日中古代墳墓副葬品の比較研究	科学研究費補助金
島田敏男	ベトナム	20年３月13日～17日	ベトナム国ハテイ省ドゥオンラム村におけるワークショップ参加	職員旅費
黒坂貴裕	ベトナム	20年３月13日～17日	ベトナム国ハテイ省ドゥオンラム村におけるワークショップ参加	職員旅費
巽淳一郎	韓国	20年３月19日～23日	2008年度以降の共同研究の計画、具体的な研究課題の選定、研究員の派遣日程などについての協議をおこなうため	職員旅費
次山淳	韓国	20年３月19日～23日	2008年度以降の共同研究の計画、具体的な研究課題の選定、研究員の派遣日程などについての協議をおこなうため	職員旅費

小田裕樹	韓国	20年３月19日～23日	2008年度以降の共同研究の計画、具体的な研究課題の選定、研究員の派遣日程などについての協議をおこなうため	職員旅費
高田貫太	韓国	20年３月19日～23日	2008年度以降の共同研究の計画、具体的な研究課題の選定、研究員の派遣日程などについての協議をおこなうため	職員旅費
馬場基	韓国	20年３月19日～23日	2008年度以降の共同研究の計画、具体的な研究課題の選定、研究員の派遣日程などについての協議をおこなうため	職員旅費
松井章	アメリカ、カナダ	20年３月20日～30日	カルフォルニア大学バークレー校のシンポジウムで発表、ワシントン州オリンピア市ピュージェット・サウンドコミュニティー・カレッジでデール・クロース教授とサンケン・ビレッジ遺跡の共同研究の打ち合わせ、バンクーバー市で開催されるアメリカ考古学会で研究発表	先方負担(内、23～30の滞在費は科学研究費補助金)
小澤毅	中国	20年３月25日～28日	中国の造瓦技法の変遷に関する国際シンポジウム	科学研究費補助金
山崎信二	中国	20年３月25日～28日	日中都城の比較研究	職員旅費

②　調査研究テーマ一覧

国立文化財機構	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
126件	76件	22件	25件	13件	16件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	50件	20件	28件	２件	

【東京国立博物館】　22件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	特別調査法隆寺献納宝物（第27次)、「聖徳太子絵伝」第２回	文化財部	上席研究員　松原茂
2	特別調査「書跡」第４回	文化財部	文化財部長　島谷弘幸
3	特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神屏風を中心に	文化財部	上席研究員　松原茂
4	応挙館障壁画の復元に関する調査研究	文化財部	上席研究員　松原茂
5	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	事業部情報課	情報課長　高橋裕次
6	館蔵博物図譜の調査研究（研究成果公開促進費補助金）	東京国立博物館所蔵博物図譜データベース作成委員会	情報課長　高橋裕次
7	日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金）	文化財部	特任研究員　金子啓明
8	江戸幕府旧蔵資料の総合的研究（科学研究費補助金）	事業部情報課	情報課長　高橋裕次
9	日本古代手工業史における埴輪工人編制の変遷と技術移転から見た古墳時代政治史の研究（科学研究費補助金）	文化財部保存修復課	保存修復課保存修復室長 古谷毅
10	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	文化財部	文化財部長　島谷弘幸
11	ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究	文化財部展示課	展示課主任研究員 小泉惠英
12	文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築（科学研究費補助金）	文化財部保存修復課	保存修復課長　神庭信幸
13	環境保存に関する研究	文化財部保存修復課	保存修復課長　神庭信幸
14	耐震性の高い展示手法に関する研究	文化財部保存修復課	保存修復課長　神庭信幸
15	大型油彩画のロール状保存と木枠に張り込まない展示手法の開発に関する調査研究	文化財部保存修復課	保存修復課長　神庭信幸
16	国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究　－館史資料の分析を中心に－（科学研究費補助金）	文化財部列品課	列品課主任研究員 丸山士郎
17	東京国立博物館所蔵写真資料の調査研究（研究成果公開促進費補助金）	文化財部列品課	列品課列品室長　富田淳

18	東京国立博物館所蔵古地図の調査研究（研究成果公開促進費補助金）	事業部情報課	情報課情報管理室長 田良島哲
19	特別展の事前調査	事業部事業企画課	事業企画課長 井上洋一
20	博物館環境デザインに関する調査研究	事業部事業企画課	事業企画課デザイン室長 木下史青
21	博物館美術教育に関する調査研究	事業部教育普及課	教育普及課長　加島勝
22	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金）	事業部事業企画課	事業企画課長 井上洋一

【京都国立博物館】 25件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究	学芸課	学芸課長　森田稔
2	平安仏教とその造形に関する研究	学芸課	美術室長　西上実
3	江戸時代京焼の技術基盤に関する研究	学芸課	工芸室長　久保智康
4	日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金）	学芸課	館長　佐々木丞平
5	建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍書類の調査研究（科学研究費補助金）	学芸課	企画室長　赤尾栄慶
6	仏教における衣服の寄進と再利用に関する基礎的研究－袈裟、打敷、幡－（科学研究費補助金）	学芸課	企画室主任研究員　山川暁
7	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸課	保存修理指導室長 山本英男
8	永徳に関する調査研究（客員研究員）	学芸課	美術室長　西上実
9	近世絵画に関する調査研究（客員研究員）	学芸課	美術室長　西上実
10	文化財情報に関する調査研究（客員研究員）	学芸課	情報管理室長　難波洋三
11	訓点資料としての典籍に関する調査研究(客員研究員)	学芸課	美術室長　西上実
12	彫刻に関する調査研究	学芸課	美術室長　西上実
13	建仁寺本坊所蔵典籍の調査・研究	学芸課	美術室長　西上実
14	古写経の書誌学的研究	学芸課	美術室長　西上実
15	日本の漆芸品にかかる調査研究	学芸課	工芸室長　久保智康
16	中近世の金属工芸品の製作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究（トヨタ財団研究助成）	学芸課	工芸室長　久保智康
17	古代中世山林寺院の調査・研究	学芸課	工芸室長　久保智康
18	仏教工芸の調査・研究	学芸課	工芸室長　久保智康
19	特別展の事前調査	学芸課	美術室長　西上実
20	宸翰（天皇の書）の歴史学的見地からみた調査・研究	学芸課	美術室長　西上実
21	特別展覧会開催に向けての在日ヨーロッパ陶磁の調査研究	学芸課	工芸室長　久保智康

22	敦煌写本の保存と修理	学芸課	美術室長　西上実
23	妙心寺本坊、塔頭（麟祥院及び衡梅院）に所蔵されている文化財の調査研究	学芸課	学芸課長　森田稔
24	輸出漆器に関する調査研究	学芸課	工芸室長　久保智康
25	本満寺境内蓮乗院廟の発掘調査に伴う出土品の整理	学芸課	学芸課長　森田稔

【奈良国立博物館】 13件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	南部諸諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施	学芸課	学芸課長　梶谷亮治
2	大和古代寺院出土遺物の研究を帝塚山大学考古学研究所との共同研究として実施	学芸課	学芸課資料室長　吉澤悟
3	仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究）	学芸課	学芸課長　梶谷亮治
4	仏教美術写真集及びその調査研究	学芸課	学芸課資料室長　吉澤悟
5	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	学芸課	学芸課長　梶谷亮治
6	当館所蔵品についての調査研究（客員研究員）	学芸課	学芸課長　梶谷亮治
7	統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金）	学芸課	学芸課教育室研究員 岩戸晶子
8	古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程（科学研究費補助金）	学芸課	学芸課資料室長　吉澤悟
9	特別展の事前調査	学芸課	学芸課資料室長　吉澤悟
10	平安仏教とその造形に関する調査研究成果の「院政期の絵画」展への反映	学芸課	学芸課長　梶谷亮治
11	南都諸社寺に関する計画的な調査研究成果の「神仏習合」展並びに特集陳列「おん祭と春日信仰の美術」への反映	学芸課	学芸課長　梶谷亮治
12	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の平常展への反映	学芸課	学芸課長　梶谷亮治
13	仏教美術の光学的調査研究成果の親と子のギャラリー「仏さまの彩り」への反映	学芸課	学芸課長　梶谷亮治

【九州国立博物館】 16件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課	企画課長　伊藤嘉章
2	文化財の材質･構造等に関する共同研究（客員研究員）	博物館科学課	環境保全室長　今津節生
3	博物館における文化財保存修復に関する研究（客員研究員）	博物館科学課	保存修復室研究員 志賀智史

4	彩色水浸文物の保存科学的研究―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存―（科学研究費補助金）	博物館科学課	環境保全室長　今津節生
5	弥生時代後期～古墳時代の墳墓大量出土ベンガラについての基礎的研究（科学研究費補助金）	博物館科学課	保存修復室研究員 志賀智史
6	室町時代の中国文物の受容に関する調査研究（科学研究費補助金）	企画課	特別展室研究員　畑靖紀
7	日本近世宗門改制度に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	文化財課	資料管理室研究員　東　昇
8	ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金）	企画課	文化交流展室長 河野一隆
9	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）	博物館科学課	博物館科学課長 本田光子
10	博物館におけるＸ線ＣＴスキャンデータの活用（科学研究費補助金）	博物館科学課	環境保全室研究員 鳥越俊行
11	古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－（科学研究費補助金）	企画課	特別展室研究員 原田あゆみ
12	超高精細大容量画像の安全・ダイナミック表示総合システムの開発（科学技術振興機構）	博物館科学課	環境保全室長　今津節生
13	近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）	企画課	企画課長　伊藤嘉章
14	特別展の事前調査	企画課	文化交流展室長 河野一隆
15	高齢者・障害者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改修方策についての調査研究	企画課	企画課長　伊藤嘉章
16	高齢者・障害者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改修方策についての調査研究	展示課	展示課長　赤司善彦

【東京文化財研究所】　計20件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（５件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	民俗技術に関する調査・資料収集　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 （Ⅰ４（１）④と一体で実施）	無形文化遺産部	無形民俗文化財研究室長 宮田繁幸
2	東アジアの美術に関する資料学的研究	企画情報部	文化形成研究室長　塩谷純
3	近現代美術に関する総合的研究	企画情報部	近現代視覚芸術研究室長 田中淳
4	美術の技法・材料に関する広領域的研究	企画情報部	広領域研究室長 津田徹英
5	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	部長　宮田繁幸

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（２件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	企画情報部	文化財アーカイブズ研究室長 山梨絵美子
2	文化財の非破壊調査法の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長 石﨑武志

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（８件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	文化財の生物劣化対策の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長 石﨑武志
2	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長 石﨑武志
3	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター	副センター長 川野邊渉
4	文化財の防災計画に関する調査研究	保存修復科学センター	副センター長 川野邊渉
5	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	保存修復科学センター	副センター長 川野邊渉
6	国際研修「漆の保存と修復」	保存修復科学センター	副センター長 川野邊渉
7	在外日本古美術品保存修復協力事業	保存修復科学センター	副センター長 川野邊渉
8	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター	近代文化遺産研究室長 中山俊介

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（４件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	文化財保存施策の国際的研究	文化遺産国際協力センター	国際企画情報研究室長 稲葉信子
2	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	文化遺産国際協力センター	主任研究員　朽津信明
3	龍門石窟及び陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長 岡田健
4	敦煌壁画の保護に関する共同研究	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長 岡田健

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転とアジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業及び人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発（１件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	諸外国の文化財保存修復専門家養成	文化遺産国際協力センター	センター長　清水真一

【奈良文化財研究所】　計28件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（19件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	文化的景観に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長　内田和伸
2	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	主任研究員　吉川聡
3	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長　窪寺茂
4	平城宮跡東院地区（第421次）の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副部長　山崎信二
5	平城宮跡東院地区（第423次）の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副部長　山崎信二
6	平城宮跡東方官衙地区（第429次）の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副部長　山崎信二
7	旧大乗院庭園（第424次）の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副部長　山崎信二
8	藤原宮跡大極殿院南門発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥藤原地区	部長　巽淳一郎
9	石神遺跡（第20次）発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥藤原地区	部長　巽淳一郎
10	甘樫丘東麓遺跡発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥藤原地区	部長　巽淳一郎
11	平城京跡出土遺物の調査研究	都城発掘調査部 平城地区	副部長　山崎信二
12	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部 飛鳥藤原地区	部長　巽淳一郎
13	古代瓦に関する研究集会の開催	都城発掘調査部 飛鳥藤原地区	副部長　山崎信二
14	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	都城発掘調査部	所長　田辺征夫
15	庭園に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長　内田和伸
16	飛鳥地域の歴史に関する調査研究	飛鳥資料館	学芸室長　杉山洋
17	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	文化遺産部	遺跡整備研究室長 山中敏史
18	遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長 肥塚隆保
19	第一次大極殿復原整備研究	都城発掘調査部 平城地区	副部長　山崎信二

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（５件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター	文化遺産部遺跡整備研究室長 山中敏史
2	古代官衙・集落に関する研究集会の開催	埋蔵文化財センター	文化遺産部遺跡整備研究室長 山中敏史
3	遺跡の測量・探査技術の有効利用法の研究	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長 小澤毅
4	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長 光谷拓実
5	動物遺存体による環境考古学研究	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長 松井章

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（１件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長 肥塚隆保

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（１件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	外部機関の要請に基づく文化財の保存修復に関する実践的研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長 肥塚隆保

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（１件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	アンコールワット遺跡群西トップ寺院の調査	飛鳥資料館	学芸室長　杉山洋

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転とアジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業及び人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発（１件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力	企画調整部・文化遺産部・都城発掘調査部	企画調整部長　岡村道雄

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計２件

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（１件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	副所長・保存修復科学センター（東文研） 都城発掘調査部（飛鳥藤原地区）埋蔵文化財センター、文化遺産部（奈文研）	副所長 三浦定俊（東文研） 副所長 巽淳一郎（奈文研）

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（１件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	センター長　清水真一

③　学会、研究会等発表実績一覧

国立文化財機構	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
144件	62件	18件	15件	4件	25件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	82件	37件	44件	1件	

【東京国立博物館】　18件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	日本古代手工業史における埴輪工人編制の変遷と技術移転から見た古墳時代政治史の研究	古墳時代中期における埴輪群の構成と生産	保存修復課保存修復室長 古谷毅	12月9日	東広島市教育委員会主催 第12回　安芸の国まほろば フォーラム
2	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	文化財の保存と活用―料紙を中心として―	文化財部長 島谷弘幸	11月9日	国宝修理装潢師連盟定期研修会
3	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	爛熟期のかなの展開	文化財部長 島谷弘幸	11月11日	現代書道研究所於オリンピック記念青少年センター
4	文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築	博物館環境のマネージメント	文化財部保存修復課長 神庭信幸	10月28日	公開シンポジウム「博物館の役割と未来」
5	文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築	臨床保存の意味と意義 －予防保存の最先端－	文化財部保存修復課長 神庭信幸 文化財部保存修復課環境保存室研究員 和田浩 文化財部保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子 文化財部保存修復課環境保存室長 塚田全彦	11月2日	2007東アジア文化遺産保存シンポジウム
6	文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築	An approach to Preventive Conservation at the Tokyo National Museum	文化財部保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子 文化財部保存修復課長 神庭信幸	11月1日	2007東アジア文化遺産保存シンポジウム

7	環境保存に関する研究	相対湿度の安定化とポータブル除加湿器の効果	文化財部保存修復課 環境保存室研究員 和田浩 文化財部保存修復課 環境保存室長 塚田全彦 文化財部保存修復課長 神庭信幸	6月16日	文化財保存修復学会第29回大会
8	環境保存に関する研究	文化財の海外輸送時に計測された各行程別の振動・加速度特性	文化財部保存修復課長 神庭信幸 文化財部保存修復課 環境保存室研究員 和田浩 文化財部保存修復課環境保存室長 塚田全彦	6月17日	文化財保存修復学会第29回大会
9	環境保存に関する研究	A long-term measurement of a museum environment	文化財部保存修復課 環境保存室長 塚田全彦 文化財部保存修復課 環境保存室研究員 和田浩 文化財部保存修復課長 神庭信幸	11月１日	2007東アジア文化遺産保存シンポジウム
10	博物館環境デザインに関する調査研究	『手の表情－東京国立博物館における展示から－』	事業部事業企画課 デザイン室長 木下史青	7月14日	美術解剖学会
11	博物館環境デザインに関する調査研究	『東京国立博物館の展示デザイン－見やすい展示・居心地のよい展示室のために』	事業部事業企画課 デザイン室長 木下史青	11月２日	社団法人 日本写真学会 画像保存セミナー
12	博物館美術教育に関する調査研究	表慶館「みどりのライオン」における教育普及事業について	事業部教育普及課長 加島勝	9月22日	美術史学会 東支部例会
13	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	旭山動物園の教育普及事業について	事業部教育普及課長 加島勝 教育普及室長 小林牧 文化財部列品課 列品室研究員 高梨真行	8月28日	東京国立博物館
14	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	「鑑賞事始」について	事業部教育普及課 教育普及室長 小林牧	9月26日	東京国立博物館

15	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	シカゴ国際会議（AAM）報告	事業部教育普及課 教育普及室主任研究員 鈴木みどり ボランティア室研究員 藤田千織	10月11日	東京国立博物館
16	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	フランスにおける教育普及事業について	事業部教育普及課 教育講座室長 白井克也 広報室研究員 遠藤楽子	12月12日	東京国立博物館
17	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	スイスにおける教育普及事業について	事業部教育普及課 ボランティア室研究員 藤田千織 教育講座室研究員 神辺知加	20年 １月23日	東京国立博物館
18	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	ギリシャにおける教育普及事業について	事業部事業企画課 国際交流室長 鬼頭智美 教育普及課教育普及室主任研究員 鈴木みどり	20年 ３月12日	東京国立博物館

【京都国立博物館】 15件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	江戸時代京焼の技術基盤に関する研究	仁清と仁和寺	主任研究員 尾野善裕	５月27日	清風会総会講演会
2	江戸時代京焼の技術基盤に関する研究	京焼に見る食の器	主任研究員 尾野善裕	10月12日	野村美術館講演会
3	江戸時代京焼の技術基盤に関する研究	京焼・清水焼の歴史と技	主任研究員 尾野善裕	10月14日	和座季楽2007セミナー
4	古写経の書誌学的研究	Prinate Dunhuang-related collections in Japan	企画室長 赤尾栄慶	５月17日	A Hundred Years of Dunhuang, 1907-2007 The British Academy, British Museum and British Library
5	古写経の書誌学的研究	日本の古写経の調査・研究について	企画室長 赤尾栄慶	20年 ２月21日	古代韓日言語比較研究 韓国・ソウル大学

6	中・近世の金属工芸品の制作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究	14世紀日本の金属工芸と新安船遺物	工芸室長 久保智康	11月24日	『国際学術大会　新安船出土金属遺物と14世紀東アジア金属工芸』韓国・国立海洋遺物展示館
7	古代中世山林寺院の調査・研究	地方古代寺院の成立と展開	工芸室長 久保智康	10月14日	福井県鯖江市講演会
8	古代中世山林寺院の調査・研究	地方古代寺院の成立と展開	工芸室長 久保智康	10月24日	静岡県袋井市講演会
9	仏教工芸の調査・研究	東アジアにおける〈唐鏡〉の存在形態とその意味	工芸室長 久保智康	９月15日	『遣隋使・遣唐使1400周年記念国際シンポジウム「東アジア文化交流の源流」』中国・浙江工商大学日本文化研究所
10	仏教工芸の調査・研究	モノに込めた神仏への祈り	工芸室長 久保智康	20年 １月25日	富山市日本海文化研究所講演会
11	宸翰（天皇の書）の歴史学的見地からみた調査研究	法華経要文和歌懐紙の伝来と復元 －立命館本を中心に－	研究員 羽田聡	７月３日	日本文化史研究会
12	輸出漆器に関する調査研究	ヨーロッパにおける日本美術史の成立と発展 －フランス及びイギリスの主要な日本美術コレクションの果たした役割－	研究員 永島明子	７月７日	お茶の水女子大学比較日本学研究センター主催・女性リーダー育成プログラム共催　第９回国際日本学シンポジウム
13	彫刻に関する調査研究	金戒光明寺の文殊菩薩騎獅像について	主任研究員 淺湫毅	６月24日	『戒律文化研究会第６回学術大会』

14	近世絵画に関する調査研究	「日本の場合－実景主題の絵画を中心に－」	主任研究員 山下善也	10月27日	シンポジウム「18世紀東アジアにおける山水画の性格と関係性」韓国美術史学会主催　ソウル・国立中央博物館
15	近世絵画に関する調査研究	「江戸狩野派の魅力」	主任研究員 山下善也	11月11日	「特別展　大倉集古館所蔵　江戸の狩野派－武家の典雅－」特別講演 大和文華館

【奈良国立博物館】　４件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名･名前）	実施日	学会等名
1	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	今年の正倉院展の見どころ ～宝物調査の最前線～	館長 湯山賢一	９月	正　倉　院フォーラム2007
2	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	飛鳥仏教について	学芸課長 梶谷亮治	11月18日	日・中・韓学術文化交流協定締結記念国際シンポジウム「百済と古代東アジアの国際交流」
3	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	東アジアの仏教と金石文	学芸課企画室長 稲本泰生	12月11日	国際シンポジウム「漢字文化三千年－中国と日本」
4	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	シルクロードにおける東西交流の軌跡	学芸課工芸考古室長 内藤榮	10月６日	国際フォーラム「世界遺産と文化交流」

【九州国立博物館】 25件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	彩色水浸文物の保存科学的研究－中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存－（科学研究費補助金）	中国江蘇省・泗水王陵発見水浸出土遺物の保存	博物館科学課環境保全室長 今津節生	６月16日	文化財保存修復学会第29回大会
2	彩色水浸文物の保存科学的研究－中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存－（科学研究費補助金）	中国江蘇省・泗水王陵発見水浸出土木材の保存４	博物館科学課環境保全室長 今津節生	６月17日	文化財保存修復学会第29回大会
3	彩色水浸文物の保存科学的研究－中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存－（科学研究費補助金）	古代エジプトの壁画の剥ぎ取りによる保存 －サッカラ地域のイドゥートでの試み－	博物館科学課環境保全室長 今津節生	６月16日	文化財保存修復学会第29回大会
4	彩色水浸文物の保存科学的研究－中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存－（科学研究費補助金）	出土繊維製品の保存と再分析における前処理	博物館科学課環境保全室長 今津節生	６月16日	文化財保存修復学会第29回大会
5	彩色水侵文物の保存科学的研究－中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存－（科学研究費補助金）	“Lactitol Conservation of the 1st c. BC Water-logged Archaeological Wooden Figures and Objects Excavated at the Grave of King Sishui in China”	博物館科学課環境保全室長 今津節生	９月12日	国際博物館学会文化財保存会議、水浸考古遺物保存部会
6	日本近世宗門改制度に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	「キリシタン資料」の比較 －文化２年と現在－	文化財課資料管理室研究員 東　昇	７月27日	九州文化史研究会
7	VR画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金）	古墳研究と新技術の活用	企画課文化交流展室長 河野一隆	10月20日	進化する博物館－デジタル・アーカイブの可能性を探る～迫真のアンコール遺跡尊顔とバイヨン寺院展シンポジウム
8	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）	博物館における環境ボランティアの取り組み　その２ －九州国立博物館のIPM活動４－	博物館科学課長 本田光子	６月17日	文化財保存修復学会第29回大会研究発表
9	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）	九州国立博物館の環境マネジメント　その４－博物館におけIPM活動の展開－	博物館科学課長 本田光子	６月17日	文化財保存修復学会第29回大会研究発表

10	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）	博物館における木質系収蔵庫のメンテナンス　その２－九州国立博物館のIPM活動５－	博物館科学課長 本田光子	６月17日	文化財保存修復学会第29回大会研究発表
11	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）	熊本城天守閣内における資料展示環境の整備－IPM活動に向けた取り組み－	博物館科学課長 本田光子	６月17日	文化財保存修復学会第29回大会研究発表
12	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）	九州国立博物館のIPMハザードマップ　その１ －ヒメマルカツオブシムシの出現とその対応①－	博物館科学課長 本田光子	６月２日	市民協同型IPM活動に関する研究会（第２回）
13	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎的研究（科学研究費補助金）	山笠と虫	博物館科学課長 本田光子	10月６日	市民協同型IPM活動に関する研究会（第３回）
14	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究（科学研究費補助金）	九州国立博物館のIPM事情 このごろ （歴史資料文化財用燻蒸庫第１号機）	博物館科学課長 本田光子	12月１日	市民協同型IPM活動に関する研究会（第４回）
15	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎的研究（科学研究費補助金）	IPM導入の背景と九州国立博物館 －構想・設計段階や建設中のエピソード－	博物館科学課長 本田光子	20年 ２月24日	市民協同型IPM活動に関する研究会（第５回）
16	博物館におけるＸ線CTスキャンデータの活用（科学研究費補助金）	大型Ｘ線CTスキャンを用いた陶磁器製作技術の解明	博物館科学課環境保全室研究員 鳥越俊行	６月２日	日本文化財科学会第24回大会
17	博物館におけるＸ線CTスキャンデータの活用（科学研究費補助金）	Ｘ線CTスキャナによる考古資料の調査	博物館科学課環境保全室研究員 鳥越俊行	６月２日	日本文化財科学会第24回大会
18	博物館におけるＸ線CTスキャンデータの活用（科学研究費補助金）	文化財用Ｘ線CTスキャナを用いた木彫像の調査	博物館科学課環境保全室研究員 鳥越俊行	６月16日	文化財保存修復学会第29回大会
19	博物館におけるＸ線CTスキャンデータの活用（科学研究費補助金）	文化財用Ｘ線CTスキャナを用いた陶磁器資料の調査	博物館科学課環境保全室研究員 鳥越俊行	６月16日	文化財保存修復学会第29回大会
20	博物館におけるＸ線CTスキャンデータの活用（科学研究費補助金）	文化財用大型Ｘ線CTスキャナによる非破壊調査	博物館科学課環境保全室研究員 鳥越俊行	11月２日	2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
21	古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－（科学研究費補助金）	交流する東南アジア世界	企画課特別展室研究員 原田あゆみ	10月20日	進化する博物館－デジタル･アーカイブの可能性を探る～迫真のアンコール遺跡尊顔とバイヨン寺院展シンポジウム

22	古代東南アジアにおける三尊図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－(科学研究費補助金)	今夏のミャンマーのモンとピューの遺跡の調査報告	企画課特別展室 研究員 原田あゆみ	10月21日	東南アジア彫刻史研究会
23	超高精細大容量画像の安全・ダイナミック表示総合システムの開発（科学研究費補助金）	出土文化財保存における3次元デジタルアーカイブの活用	博物館科学課 環境保全室長 今津節生	６月16日	文化財保存修復学会第29回大会
24	近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）	第一回・第二回内国勧業博覧会写真帖・授賞記録に関する報告	企画課長 伊藤嘉章	８月11日	第1回研究会
25	近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）	第一回・第二回内国勧業博覧会出品作品の古写真と現存作品について	企画課長 伊藤嘉章	12月14日	第2回研究会

【東京文化財研究所】 計37件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（16件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名･名前）	実施日	学会等名
1	民俗技術に関する調査・資料収集・無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	日本における無形民俗文化財の保護－その現状と課題－	無形民俗文化財研究室長 宮田繁幸	12月８日	文化資源シンポジウム
2	東アジアの美術に関する資料学的研究	宗湛の研究	主任研究員 綿田稔	７月10日	総合研究会
3	東アジアの美術に関する資料学的研究	《悲母観音》の生命誌	文化形成研究室長 塩谷純	８月11日	東京国立博物館月例講演会
4	東アジアの美術に関する資料学的研究	敦煌文書の真贋をめぐって	企画情報部長 中野照男	９月26日	企画情報部研究会
5	東アジアの美術に関する資料学的研究	光琳の目と手	研究員 江村知子	11月２日	第41回オープンレクチャー
6	東アジアの美術に関する資料学的研究	矢代幸雄と美術研究所	文化財アーカイブズ研究室長 山梨絵美子	11月３日	第41回オープンレクチャー
7	東アジアの美術に関する資料学的研究	訶梨帝母（鬼子母神）の図像をめぐる“オリジン”・“オリジナル”・“オリジナリティ”	情報システム研究室長 勝木言一郎	20年 １月８日	総合研究会
8	東アジアの美術に関する資料学的研究	聚光院問題を考える	主任研究員 綿田稔	20年 ２月27日	企画情報部研究会

9	近現代美術に関する総合的研究	アジアのモダニズムの一側面－「仁丹」広告が伝えること	近現代視覚芸術研究室長 田中淳	５月25日	第60回美術史学会全国大会
10	近現代美術に関する総合的研究	黒田清輝の生涯と芸術－画家がいる『場所』から	近現代視覚芸術研究室長 田中淳	11月10日	上野の山文化ゾーンフェスティバル　講演会シリーズ(10)月例講演会
11	近現代美術に関する総合的研究	「日展100年」を見るために－「洋画」の変遷を中心に	近現代視覚芸術研究室長 田中淳	20年 ２月24日	広島県立美術館講演会
12	美術の技法・材料に関する広領域的研究	近江の仏像 五大明王	広領域研究室長 津田徹英	12月１日	大津市歴史博物館第383回歴史講座
13	美術の技法・材料に関する広領域的研究	平安末期の在地造像をめぐる小考	広領域研究室長 津田徹英	12月26日	企画情報部研究会
14	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	安国寺納入品・龍笛の歴史的位置づけ	音声・映像記録研究室長 高桑いづみ	６月23日	公開講演会
15	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	文楽－音の記録－	主任研究員 飯島満	12月１日	藝能史研究会第31回東京例会
16	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化財『上方寄席下座音楽』の位置	主任研究員 飯島満	12月12日	第２回無形文化遺産部公開学術講座

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（４件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名･名前）	実施日	学会等名
1	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	高精細画像で見た彦根屏風	専門職員 城野誠治	10月20日	シンポジウム「よみがえった国宝・彦根屏風」
2	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	桂ゆきを中心に～絵画概念を超えて～	文化財アーカイブズ研究室長 山梨絵美子	12月１日	江東区男女共同参画推進センター
3	文化財の非破壊調査法の研究	伊藤若冲「動植綵絵」の彩色材料調査	分析科学研究室長 早川泰弘 保存科学研究室長 佐野千絵 副所長 三浦定俊	６月２日 ～３日	日本文化財科学会第24回大会

4	文化財の非破壊調査法の研究	顕微反射スペクトル測定による微小試料の染料分析	主任研究員 吉田直人	6月2日 ～3日	日本文化財科学会第24回大会

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（14件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の生物劣化対策の研究	キトラ古墳保存覆屋内の環境について(2)－土壌水分量推移と環境管理	保存科学研究室長 佐野千絵 研究員 犬塚将英 研究補佐員 間渕創 生物科学研究室長 木川りか 主任研究員 吉田直人 研究員 森井順之 研究員 加藤雅人 研究員 降幡順子 保存修復科学センター長 石﨑武志 副所長 三浦定俊	6月2日 ～3日	日本文化財科学会第24回大会
2	文化財の生物劣化対策の研究	キトラ古墳のバイオフィルムから分離されたバクテリア・菌類に対するケーソンCG相当品（抗菌剤）の効果	生物科学研究室長 木川りか 保存科学研究室長 佐野千絵	6月16日 ～17日	文化財保存修復学会第29回大会
3	文化財の保存環境の研究	静岡県立美術館における温熱環境の測定とシミュレーション解析	研究員 犬塚将英 客員研究員 白石靖幸 保存修復科学センター長 石﨑武志	6月16日 ～17日	文化財保存修復学会第29回大会
4	文化財の保存環境の研究	コンピューターシミュレーションによる展示・収蔵施設の温湿度解析	研究員 犬塚将英 保存修復科学センター長 石﨑武志	6月16日 ～17日	文化財保存修復学会第29回大会
5	文化財の保存環境の研究	コンクリート補強された煉瓦造建造物に見られる白華現象の低減方法の提案とその効果の検証	保存修復科学センター長 石﨑武志	8月29日 ～31日	日本建築学会大会

6	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	臼杵磨崖仏における凍結破砕防止策の検討(2)－冷風浸入制御のための実験－	研究員 森井順之	６月２日 ～３日	日本文化財科学会第24回大会
7	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	磨崖仏の凍結防止策の検討	研究員 森井順之	11月１日 ～２日	2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
8	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	臼杵磨崖仏における表面処置について	研究員 早川典子 保存修復科学センター副センター長 川野邊渉	10月18日	「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告会2007
9	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	“Conservation Project of Usuki Stone Buddha in Japan”	研究員 森井順之	11月23日 ～24日	International Symposium on Conservation of Stone Cultural Properties, Kongju University
10	文化財の防災計画に関する調査研究	文化財ハザードマップについて－海外の事例を中心に	主任研究員 二神葉子	20年 １月28日	ミュージアム21研究会
11	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	絵画表面に用いる修復材料の基礎的研究－壁画修復を中心に－	研究員 早川典子 客員研究員 中右恵理子 生物科学研究室長 木川りか 研究補佐員 沖本明子 保存修復科学センター副センター長 川野邊渉	６月17日	文化財保存修復学会第29回大会
12	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	出土資料である漆芸品に用いられた金属の劣化と保存処理	伝統技術研究室長 北野信彦	20年 ２月27日	第1回伝統的修復材料および合成樹脂に関する研究会『漆芸品に用いられた金属の劣化』
13	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	航空機の保存と活用	近代文化遺産研究室長 中山俊介	20年 １月25日	近代の文化遺産の保存修復に関する研究会

14	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	Country Report －Japan－	近代文化遺産研究室長 中山俊介	９月12日	BIG STUFF '07 Beyond Conserva-tion － Industrial Heritage Management Deutsches Bergbau Museum

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（３件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	石造五輪塔表面の生物繁茂と環境条件との関係について	主任研究員 朽津信明 特別研究員 宇野朋子	６月３日	日本文化財科学会第24回大会
2	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	風化に伴う岩石表面の凹凸状態の計測	主任研究員 朽津信明 主任研究員 二神葉子	10月11日	日本応用地質学会平成19年度研究発表会
3	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	スコータイ遺跡における仏像の保存に関する研究　その２含水率変動の影響を考慮した藻類の成長モデルの作成	客員研究員 鉾井修一 特別研究員 宇野朋子 客員研究員 小椋大輔	８月29日	日本建築学会大会

【奈良文化財研究所】　計44件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（18件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化的景観に関する調査研究	文化遺産としての遺跡・庭園・公園の概念に関する比較考察	主任研究員 平澤毅	５月20日	日本造園学会大会
2	文化的景観に関する調査研究	農村地域における景観形成に関わる住民の意識と行動の構造化	特別研究員 惠谷浩子	５月20日	日本造園学会大会
3	文化的景観に関する調査研究	文化遺産としての風景の保存	主任研究員 平澤毅	10月20日	第101回 奈良文化財研究所公開講演会
4	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	中世の奈良と大乗院	主任研究員 吉川聡	７月11日	文化講演会
5	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	山田寺金堂復元案批判	研究員 清水重敦	８月29日	日本建築学会大会学術講演梗概集

6	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	バーミヤーン石窟寺院遺構の保存に向けた調査報告(2)	建造物研究室長 窪寺茂	８月31日	日本建築学会大会学術講演梗概集
7	石神遺跡（第20次）発掘調査	石神遺跡	研究員 黒坂貴裕	20年 ２月22日	飛鳥京観光協会
8	庭園に関する調査研究	平城宮の復元と宮中儀礼の復興について	景観研究室長 内田和伸	７月４日	奈良市国際交流協会総会講演
9	庭園に関する調査研究	「宇宙をかたどる宮殿～大極殿院の設計思想」朝日カルチャー奈良「大極殿とは何かⅡ」	景観研究室長 内田和伸	７月14日	朝日カルチャー奈良「大極殿とは何かⅡ」
10	庭園に関する調査研究	奈良時代の庭園文化	景観研究室長 内田和伸	11月17日	奈良女子大学市民講座
11	庭園に関する調査研究	平城宮の復元と宮中儀礼の復興について	景観研究室長 内田和伸	20年 ３月29日	宮中儀礼の復興と文化遺産の活用講演会
12	庭園に関する調査研究	文化遺産としての風景の保存	主任研究員 平澤毅	７月10日	第101回奈良文化財研究所公開講演会
13	庭園に関する調査研究	縄文･弥生時代における“場としての庭”	研究員 栗野隆	20年 ２月17日	日本庭園学会
14	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	遺跡の保存管理・公開活用と指定管理者制度	文化遺産部長 高瀬要一	20年 １月25 ～26日	遺跡整備・活用研究集会(第２回)
15	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	平城宮の復元と宮中儀礼の復興について	景観研究室長 内田和伸	20年 ３月29日	『宮中儀礼の復興による文化遺産の活用』講演会
16	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	平城宮第一次大極殿および朝堂院の設計思想について	景観研究室長 内田和伸	５月19日	日本造園学会平成19年度全国大会
17	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	平城宮の復元と宮中儀礼の復興について	景観研究室長 内田和伸	７月４日	奈良市国際交流協会総会講演
18	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	遺跡の個性の理解と応用	主任研究員 平澤毅	11月８日	第32回全国遺跡環境整備会議

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（11件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	年輪年代学研究	マイクロフォーカスX線CTによる木造彫刻の非破壊年輪年代測定	研究員 大河内隆之	６月３日	日本文化財科学会第24回大会
2	年輪年代学研究	近世民家の用材とその樹種 －大和・国中地方の一事例から－	客員研究員 藤井裕之	６月２日	日本文化財科学会第24回大会
3	年輪年代学研究	“Nondestructive dendrochronological study using micro-focus X-ray computed tomography for the analysis of a wooden sculpture of a seated monk housed in Kokugakuin University Shinto Museum”	研究員 大河内隆之 年代学研究室長 光谷拓実	９月10日	The First Asia Dendrochronology Conference and Workshop
4	年輪年代学研究	中尊寺金色堂、経蔵、および古文化財の年輪年代調査	年代学研究室長 光谷拓実	９月15日	文化財の解析と保存への新しいアプローチ国際シンポジウム
5	動物遺存体による環境考古学研究	A New Method to Identify Modification of Bones	環境考古学研究室長 松井章	７月14日	International Conference of Zooarchaeology
6	動物遺存体による環境考古学研究	太平洋沿岸の海人集団 －骨角器から追う、文字なき人々の躍動の痕跡－	環境考古学研究室長 松井章	９月２日	第56回埋蔵文化財研究集会
7	動物遺存体による環境考古学研究	古代都城の廃棄物処理	環境考古学研究室長 松井章	12月15日	東北文化研究室シンポジウム
8	動物遺存体による環境考古学研究	遺跡土壌に秘められた情報 －内陸部の縄文集落における試みから－	環境考古学研究室長 松井章	20年 １月19日	岩手県埋蔵文化財公開講座
9	動物遺存体による環境考古学研究	「東アジアの中の縄文－日本・韓国・中国の貝塚遺跡を中心として－」『縄文と環太平洋文化圏の考古学』	環境考古学研究室長 松井章	20年 ３月21日	カリフォルニア大学バークリー校公開シンポジウム
10	動物遺存体による環境考古学研究	‘Jomon Ecological Style, Agricultural origins, and the Delayed Appearance of Agriculture in Japan’	環境考古学研究室長 松井章	20年 ３月27日	*Society For American Archaeology*

11	動物遺存体による環境考古学研究	Higashimyo Site, Saga City: Excavation and Findings’	環境考古学研究室長 松井章	20年 ３月28日	*Society For American Archaeology*

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（13件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名･名前）	実施日	学会等名
1	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	静岡県長泉町（ながいずみちょう）原分（はらぶん）古墳出土金属製遺物の保存に関する調査研究	上席研究員 村上隆	６月16日	文化財保存修復学会大会
2	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	出土繊維製品の保存と再分析における前処理	客員研究員 佐藤昌憲	６月16日	文化財保存修復学会大会
3	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	顕微赤外分析法による出土植物繊維の材質同定	客員研究員 佐藤昌憲	６月16日	文化財保存修復学会大会
4	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	イースター島モアイ像の保存科学的研究２－溶出実験による石造文化財保存処理法の評価－	特別研究員 脇谷草一郎 主任研究員 高妻洋成 研究員 降幡順子 保存修復科学研究室長 肥塚隆保	６月２日	日本文化財科学会大会
5	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	ナノファイバー薄膜を用いる微量天然染料の分光学的測定	客員研究員 佐藤昌憲	６月３日	日本文化財科学会大会
6	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	出土絹製遺物の顕微赤外分析による研究	客員研究員 佐藤昌憲	６月３日	日本文化財科学会大会
7	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	元興寺における創建期の外観塗装材料に関する調査（Ⅰ）	建造物研究室長 窪寺茂	６月３日	日本文化財科学会大会
8	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	近世の銀精錬技術､｢灰吹法｣に関する材料科学的検証 …石見銀山遺跡出土遺物を中心に…	上席研究員 村上隆 客員研究員 横山精士	６月３日	日本文化財科学会大会
9	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	石造文化財へのアコースティックエミッション法の応用	主任研究員 高妻洋成 研究員 降幡順子 特別研究員 脇谷草一郎 保存修復科学研究室長 肥塚隆保	６月３日	日本文化財科学会大会

10	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	重要文化財島根県加茂岩倉遺跡出土銅鐸の保存修理 －保存科学調査から－	保存修復科学研究室長 肥塚隆保 主任研究員 高妻洋成 研究員 降幡順子 山崎修（雲南市教育委員会） 松本岩雄（島根県立古代出雲歴史博物館）	６月３日	日本文化財科学会大会
11	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	国宝高松塚古墳壁画保存修理のための石室解体	保存修復科学研究室長 肥塚隆保 主任研究員 高妻洋成 研究員 降幡順子 所長 田辺征夫	11月２日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
12	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	イメージングプレートを用いた日本出土ガラス小玉の調査	研究員 降幡順子 保存修復科学研究室長 肥塚隆保	11月１ ～２日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
13	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	鷹島海底遺跡出土大刀の構造復元－「蒙古襲来」の考古学的検討へむけて－	主任研究員 高妻洋成 研究員 大河内隆之	11月１日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウム

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（２件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名･名前）	実施日	学会等名
1	アンコールワット遺跡群西トップ寺院の調査	当研究所の活動を紙上報告	文化財情報研究室長 森本晋	６月18日 ～21日	第16回国際調整委員会技術委員会
2	アンコールワット遺跡群西トップ寺院の調査	当研究所の活動を紙上報告	展示企画室長 杉山洋	11月26日 ～28日	第17回国際調整委員会

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】 計１件

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名･名前）	実施日	学会等名
1	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	アフガニスタン、バーミヤーン遺跡保存事業－2007年度の成果－『平成19年度考古学が語る古代オリエント　第15回西アジア発掘調査報告会報告集』	東京文化財研究所 地域環境研究室長 山内和也 東京文化財研究所 特別研究員 有村誠	20年 ３月16日	日本西アジア考古学会

④　論文等発表実績一覧

国立文化財機構	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
207件	78件	20件	31件	21件	6件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	129件	40件	86件	3件	

【東京国立博物館】　20件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者(氏名・職名)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	江戸幕府旧蔵資料の総合的研究	高橋裕次（事業部情報課長）	「帝室博物館蔵書の変遷と、森鴎外の『発見』について」	MUSEUM　610号	東京国立博物館	10月15日	有
2	日本古代手工業史における埴輪生産構造の変遷と技術移転から見た古墳時代政治史の研究	古谷毅（文化財部保存修復課保存修復室室長）	弥生･古墳時代における手工業生産の展開と特質	平成19年度國學院大學文学部共同研究シンポジウム『生産と権力、職掌と身分－社会階層形成の歴史学研究－』発表要旨	國學院大學文学部	20年 ２月９ ～10日	無
3	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	島谷弘幸（文化財部長）	宮廷貴族の生活と文化－近衛家伝世の品々を中心に－	特別展「宮廷のみやび」展覧会図録	東京国立博物館	20年 １月20日	無
4	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	島谷弘幸（文化財部長）	予楽院と書	特別展「宮廷のみやび」展覧会図録	東京国立博物館	20年 １月20日	無
5	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	高橋裕次（事業部情報課長）	近世の近衛家	特別展「宮廷のみやび」展覧会図録	東京国立博物館	20年 １月２日	無
6	ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究	小泉惠英(文化財部展示課平常展室主任研究員)	ガンダーラの仏伝美術と転輪聖王	ガンダーラ美術とバーミヤン遺跡	静岡新聞社	12月27日	無

7	文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築	神庭信幸(文化財部保存修復課長)、和田浩(文化財部保存修復課環境保存室研究員)、土屋裕子（文化財部保存修復課保存修復室主任研究員)、塚田全彦(文化財部保存修復課環境保存室長)	臨床保存の意味と意義－予防保存の最先端－	2007東アジア文化遺産保存シンポジウム要旨集	東アジア文化遺産保存学会	11月２日	有
8	文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する博物館トータルケアシステムの構築	土屋裕子（文化財部保存修復課保存修復室主任研究員)、神庭信幸(文化財部保存修復課長)	An approach to Preventive Conservation at the Tokyo National Museum	2007東アジア文化遺産保存シンポジウム要旨集	東アジア文化遺産保存学会	11月１日	有
9	環境保存に関する研究	和田浩(文化財部保存修復課環境保存室研究員)、塚田全彦(文化財部保存修復課環境保存室長)、神庭信幸(文化財部保存修復課長)	相対湿度の安定化とポータブル除加湿器の効果	文化財保存修復学会第29回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会第29回大会実行委員会	６月16日	有
10	環境保存に関する研究	神庭信幸(文化財部保存修復課長)、和田浩(文化財部保存修復課環境保存室研究員)、塚田全彦（文化財部保存修復課環境保存室長)	文化財の海外輸送時に計測された各行程別の振動・加速度特性	文化財保存修復学会第29回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会第29回大会実行委員会	６月17日	有
11	環境保存に関する研究	塚田全彦(文化財部保存修復課環境保存室長)、和田浩(文化財部保存修復課環境保存室研究員)、神庭信幸(文化財部保存修復課長)	A long-term measurement of a museum environment	2007東アジア文化遺産保存シンポジウム要旨集	東アジア文化遺産保存学会	11月１日	有
12	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青(事業部事業企画課デザイン室長)	『復興本館の照明計画』	「東京博物館と東京帝室博物館昭和初期の博物館建築」(146～161頁)	東海大学出版会	４月30日	無
13	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青(事業部事業企画課デザイン室長)	『博物館へ行こう』	岩波ジュニア新書571	岩波書店	７月20日	無
14	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青(事業部事業企画課デザイン室長)	『展示デザインと文化の再発見－メディアとしての博物館』	「表現 Human Contact」No.２	京都精華大学表現研究機構	20年３月31日	無

15	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青(事業部事業企画課デザイン室長)	『東京帝室博物館・復興本館の昼光照明計画』	東京国立博物館紀要43号	東京国立博物館	20年 ３月31日	無
16	博物館美術教育に関する調査研究／博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	加島勝（事業部教育普及課長）	表慶館「みどりのライオン　みんなで楽しむ教育スペース」	MUSEUM　611号	東京国立博物館	12月15日	有
17	博物館美術教育に関する調査研究／博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	小林牧（事業部教育普及課教育普及室長）	みどりのライオン　教育普及活動について	MUSEUM　611号	東京国立博物館	12月15日	有
18	博物館美術教育に関する調査研究／博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	鈴木みどり（事業部教育普及課教育普及室主任研究員）	デンバー美術館の教育普及事業－ミュージアム・エデュケーションからビジターズ・エクスペリエンスへ－	MUSEUM　611号	東京国立博物館	12月15日	有
19	博物館美術教育に関する調査研究／博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	藤田千織（事業部教育普及課ボランティア室研究員）	博物館における鑑賞補助ツールの役割－「親と子のギャラリー」を例に」	MUSEUM　611号	東京国立博物館	12月15日	有
20	博物館美術教育に関する調査研究／博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	神辺知加（事業部教育普及課教育講座室研究員）	「子供のための文化史展」について－東京国立博物館の教育普及事業史研究　敗戦直後－	MUSEUM　611号	東京国立博物館	12月15日	有

【京都国立博物館】 31件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者(氏名・職名)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	近畿地区（特に京都）社寺文化財の研究	尾野善裕(主任研究員)	本満寺境内所在蓮乗院廟発掘調査報告書	『学叢』第29号	京都国立博物館	５月19日	無
2	江戸時代京焼の技術基盤に関する研究	尾野善裕(主任研究員)	三田焼三輪明神窯の開窯とその戦略	『学叢』第29号	京都国立博物館	５月19日	無
3	江戸時代京焼の技術基盤に関する研究	尾野善裕(主任研究員)	京焼の「本質」と「定義」	『淡交』№756	淡交社	９月10日	無
4	江戸時代京焼の技術基盤に関する研究	尾野善裕(主任研究員)	「ぼんぼん」育ちの尾形乾山	『茶道雑誌』第72巻第２号	河原書店	20年２月５日	無
5	江戸時代京焼の技術基盤に関する研究	尾野善裕(主任研究員)	『陶工必用』にみる尾形乾山の育ち	『茶道雑誌』第72巻第３号	河原書店	20年３月５日	無
6	近世絵画に関する調査研究	山下善也(主任研究員)	「探幽絵画にみる叙情―林鵞峰『富士石記』を起点に」	美術フォーラム21第16号	醍醐書房	10月	無
7	近世絵画に関する調査研究	山下善也(主任研究員)	「日本の場合―実景主題の絵画を中心に―」	『シンポジウム「18世紀東アジアにおける山水画の性格と関係性」討議録』	韓国美術史学会	10月	無
8	古写経の書誌学的研究	赤尾栄慶(企画室長)	「中・韓・日の古写経にみる見返し絵（扉絵）について」	特別展「写経変相図」	韓国国立中央博物館	７月	無
9	古写経の書誌学的研究	赤尾栄慶(企画室長)	「京都国立博物館蔵大谷探検隊帯来写本介紹」	『転型期的敦煌学』	上海古籍出版社	11月	無
10	日本の漆芸品にかかる調査研究	永島明子（研究員）	「日野椀」	『近江日野の歴史』第五巻文化財編	日野町史編さん委員会編	20年３月	有
11	日本の漆芸品にかかる調査研究	永島明子（研究員）	「漆絵椀から蒔絵椀へ－小倉本就寺蔵「太閤膳」の調査報告および高台寺蒔絵様式の成立と流行に関する一考察－」	『学叢』第29号	京都国立博物館	５月	無

12	中・近世の金属工芸品の制作と受用にみる江南、嶺・湖南、瀬戸内の地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究	久保智康(工芸室長)	作品解説	『木村定三コレクション名作選』	愛知県美術館	20年 ２月１日	無
13	仏教工芸の調査・研究＋古代中世山林寺院の調査・研究	久保智康(工芸室長)	延暦寺の文化財＋文化財解説	『古寺巡礼　京都12延暦寺』	淡交社	８月６日	無
14	仏教工芸の調査・研究＋古代中世山林寺院の調査・研究	久保智康(工芸室長)	山林密教寺院・神護寺の文化財＋文化財解説	『古寺巡礼　京都15神護寺』	淡交社	11月６日	無
15	仏教工芸の調査・研究	久保智康(工芸室長)	作品解説	『乱世を生きる－真盛上人展』	越前市武生公会堂記念館	11月６日	無
16	仏教工芸の調査・研究	久保智康(工芸室長)	妙法院・三十三間堂の宝物＋文化財解説	『古寺巡礼　京都18妙法院・三十三間堂』	淡交社	20年 ２月６日	無
17	宸翰（天皇の書）の歴史学的見地からみた調査研究	羽田聡（研究員）	法華経要文和歌懐紙の伝来と復元－立命館本を中心に－	『アート・リサーチ』第８号	立命館アート・リサーチセンター	20年３月	有
18	特別展覧会開催に向けての在日ヨーロッパ陶磁の調査研究	尾野善裕(主任研究員)	ヨーロッパ陶磁と日本	特別展覧会『憧れのヨーロッパ陶磁－マイセン・セーヴル・ミントンとの出会い』図録	読売新聞大阪本社	20年 １月５日	無
19	特別展覧会開催に向けての在日ヨーロッパ陶磁の調査研究	尾野善裕(主任研究員)	扉解説・作品解説	特別展覧会『憧れのヨーロッパ陶磁－マイセン・セーヴル・ミントンとの出会い』図録	読売新聞大阪本社	20年 １月５日	無
20	敦煌写本の保存と修理	赤尾栄慶(企画室長)	「古文書修復－以李柏文書的修復為中心－」	『融摂与創新：国際敦煌項目第六次会議論文集』	中国国家図書館善本特蔵部・英国図書館敦煌項目編　中国・北京図書館出版社	５月	無

21	妙心寺本坊、塔頭に所蔵されている文化財の調査研究	羽田聡（研究員）	京都国立博物館所蔵「花園天皇宸翰消息」について	『学叢』第30号	京都国立博物館	５月	無
22	輸出漆器に関する調査研究	永島明子（研究員）	「英仏の主要な蒔絵コレクションの成立と日本美術史上の役割についてーマリー・アントワネットのコレクションを中心にー」	『比較日本学研究センター研究年報』第４号	お茶の水女子大学比較日本学研究センター	20年３月	無
23	仏教工芸の調査研究	淺湫毅(主任研究員)	「道長時代の大仏師康尚」	特別展覧会『藤原道長　極めた栄華・願った浄土』図録	京都国立博物館	４月24日	無
24	仏教工芸の調査研究／古代中世山林寺院の調査・研究	久保智康(工芸室長)	道長の時代における在地仏教ー山林寺院と工芸にみるー	特別展覧会『藤原道長　極めた栄華・願った浄土』図録	京都国立博物館	４月24日	無
25	永徳に関する調査研究	山本英男（保存修理指導室長）	「狩野永徳の生涯」	特別展覧会『狩野永徳』図録	京都国立博物館	10月16日	無
26	永徳に関する調査研究	山本英男（保存修理指導室長）	作品解説・扉解説・印章解説・史料・年表	特別展覧会『狩野永徳』図録	京都国立博物館	10月16日	無
27	永徳に関する調査研究	山本英男（保存修理指導室長）	「大徳寺に伝来する織田信長像」	『紫野』31	大徳寺	７月	無
28	彫刻に関する調査研究	淺湫毅(主任研究員)	「木造不空羂索観音坐像・木造十一面観音坐像　京都・金戒光明寺蔵」	『学叢』29	京都国立博物館	５月	有
29	彫刻に関する調査研究	淺湫毅(主任研究員)	「木造地蔵菩薩立像」	『國華』1340	國華社	６月	無
30	彫刻に関する調査研究	淺湫毅(主任研究員)	「講座文化財修復仏像の修復」	『歴史と地理』610（日本史の研究223)	山川出版社	12月	有
31	彫刻に関する調査研究	淺湫毅(主任研究員)	「金戒光明寺の文殊菩薩騎獅像および眷属像について」	『戒律文化』6	戒律文化研究会	20年３月	無

【奈良国立博物館】 21件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者(氏名・職名)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	当館所蔵品についての調査研究	内藤榮（工芸室長）	密教法具の象徴表現	古玩逍遥	奈良国立博物館	6月1日	無
2	当館所蔵品についての調査研究	稲本泰生(企画室長)、鈴木喜博（上席研究員)、清水健(研究員)、吉澤悟（資料室長)、永井洋之（研究員）	図版解説	古玩逍遥	奈良国立博物館	6月1日	無
3	平安仏教とその造形に関する調査研究成果の「院政期の絵画」展への反映	梶谷亮治(学芸課長)	総説　美麗　院政期の絵画	美麗　院政期の絵画	奈良国立博物館	9月1日	無
4	平安仏教とその造形に関する調査研究成果の「院政期の絵画」展への反映	稲本泰生(企画室長)、岩田茂樹(美術室長)、梶谷亮治(学芸課長)、北澤菜月（研究員)、清水健（研究員)、鈴木喜博(上席研究員)、谷口耕生（研究員)、内藤榮（工芸考古室長)、中島博(情報サービス室長)、西山厚(教育室長)、野尻忠（研究員)、吉澤悟（資料室長）	作品解説	美麗　院政期の絵画	奈良国立博物館	9月1日	無
5	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の「神仏習合展」並びに特集陳列「おん祭りと春日信仰の美術」への反映	清水健（研究員）	総論　おん祭と春日信仰の美術	おん祭と春日信仰の美術	仏教美術協会	12月7日	無
6	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の「神仏習合展」並びに特集陳列「おん祭りと春日信仰の美術」への反映	北澤菜月（研究員)、清水健（研究員)、鈴木喜博（上席研究員)、谷口耕生（研究員)、内藤榮（工芸考古室長)、永井洋之（研究員)、中島博（情報サービス室長)、西山厚（教育室長)、野尻忠（研究員）	作品解説	おん祭と春日信仰の美術	仏教美術協会	12月7日	無

7	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	谷口耕生（研究員）	総説　神仏習合美術に関する覚書	神仏習合	奈良国立博物館	４月７日	無
8	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	稲本泰生（企画室長）、岩田茂樹（美術室長）、北澤菜月（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（研究員）、内藤榮（工芸考古室長）、永井洋之（研究員）、中島博（情報サービス室長）、西山厚（教育室長）、野尻忠（研究員）、吉澤悟（資料室長）	作品解説	神仏習合	奈良国立博物館	４月７日	無
9	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	稲本泰生（企画室長）	神仏習合の論理と造像	神仏習合	奈良国立博物館	４月７日	無
10	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	中島博（情報サービス室長）	宮曼荼羅の性格	神仏習合	奈良国立博物館	４月７日	無
11	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	岩田茂樹（美術室長）	神仏習合のサインと彫像	神仏習合	奈良国立博物館	４月７日	無
12	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	鈴木喜博（上席研究員）	彫刻史からみた神仏習合の宗教空間	神仏習合	奈良国立博物館	４月７日	無
13	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	内藤榮（工芸考古室長）	懸仏について	神仏習合	奈良国立博物館	４月７日	無

14	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	西山厚（教育室長）	社に参る僧尼	神仏習合	奈良国立博物館	４月７日	無
15	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	清水健（研究員）	熊野からみた神仏習合	神仏習合	奈良国立博物館	４月７日	無
16	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	北澤菜月（研究員）	現世に姿をあらわす仏	神仏習合	奈良国立博物館	４月７日	無
17	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	梶谷亮治(学芸課長)	正倉院と宝物	第五十九回正倉院展	仏教美術協会	10月26日	無
18	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	鈴木喜博(上席研究員)	刻彫桐金銀花形合子の宝相華文について	第五十九回正倉院展	仏教美術協会	10月26日	無
19	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の反映	稲本泰生（企画室長）、岩田茂樹（美術室長）、北澤菜月(研究員)、清水健(研究員)、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（研究員）、内藤榮（工芸考古室長）、永井洋之（研究員）、中島博（情報サービス室長）、西山厚（教育室長）、野尻忠（研究員）、吉澤悟（資料室長）	作品解説	第五十九回正倉院展	仏教美術協会	10月26日	無
20	仏教美術の光学的調査研究成果の親と子のギャラリー「仏さまの彩り」への反映	宮崎幹子（研究員）	仏さまの彩り	仏さまの彩り	奈良国立博物館	７月14日	無

21	仏教美術の光学的調査研究成果の親と子のギャラリー「仏さまの彩り」への反映	稲本泰生（企画室長）、岩田茂樹（美術室長）、北澤菜月（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（研究員）、内藤榮（工芸考古室長）、中島博（情報サービス室長）、西山厚（教育室長）、野尻忠（研究員）、吉澤悟（資料室長）	作品解説	仏さまの彩り	奈良国立博物館	７月14日	無

【九州国立博物館】　６件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者(氏名・職名)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	弥生時代後期～古墳時代の墳墓大量出土ベンガラについての基礎的研究(科学研究費補助金)	志賀智史（博物館科学課保存修復室研究員）	中島笹塚古墳群出土赤色顔料とその関連資料の微視的・科学的調査	『東谷・中島地区遺跡群９　中島笹塚古墳群・中島笹塚遺跡（１－８区)』	財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター	20年３月31日	無
2	弥生時代後期～古墳時代の墳墓大量出土ベンガラについての基礎的研究(科学研究費補助金)	志賀智史（博物館科学課保存修復室研究員）	塩田北山東古墳出土赤色顔料の微視的・科学的調査	塩田北山東古墳発掘調査報告書	神戸市教育委員会	20年３月31日	無
3	室町時代の中国文物の受容に関する調査研究（科学研究費補助金）	畑靖紀（企画課特別展室研究員）	文明十八年の大内氏と雪舟	雪舟等楊－「雪舟への旅」展研究図録	山口県立美術館	11月１日	無
4	室町時代の中国文物の受容に関する調査研究（科学研究費補助金）	畑靖紀（企画課特別展室研究員）	京都五山の水墨画	『足利義満六百年御忌記念「京都五山　禅の文化」展 』展覧会カタログ	東京国立博物館および九州国立博物館	７月31日	無
5	室町時代の中国文物の受容に関する調査研究（科学研究費補助金）	畑靖紀（企画課特別展室研究員）	鏡堂覚円賛白衣観音図	『国華』第1347号	国華社	20年１月20日	有
6	古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－（科学研究費補助金）	原田あゆみ（企画課特別展室研究員）	九州国立博物館所蔵　モン・クメールの青銅製仏像について	『東風西声』九州国立博物館紀要第３号	九州国立博物館	10月15日	無

【東京文化財研究所】 計40件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（16件）

	研究テーマ	発表者(氏名・職名)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	民俗技術に関する調査・資料収集	俵木悟(主任研究員)	無形の民俗文化財の映像記録作成への提言	民俗文化財 －保護行政の現場から－	岩田書院	10月	無
2	東アジアの美術に関する資料学的研究	皿井舞（研究員）	醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（上）	美術研究392号	東京文化財研究所	９月28日	無
3	東アジアの美術に関する資料学的研究	皿井舞（研究員）	醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（中）	美術研究393号	東京文化財研究所	20年 １月28日	無
4	東アジアの美術に関する資料学的研究	綿田稔(主任研究員)	自牧宗湛（上）	美術研究393号	東京文化財研究所	20年 １月28日	無
5	東アジアの美術に関する資料学的研究	綿田稔(主任研究員)	自牧宗湛（中）	美術研究394号	東京文化財研究所	20年 ３月28日	無
6	東アジアの美術に関する資料学的研究	江村知子（研究員）	研究資料　曽我物語図屏風について	美術研究394号	東京文化財研究所	20年 ３月28日	無
7	東アジアの美術に関する資料学的研究	田中淳（近・現代視覚芸術研究室長）	序論　黒田清輝《湖畔》を語るために	美術研究作品資料5 黒田清輝《湖畔》	中央公論美術出版	20年 ３月25日	無
8	東アジアの美術に関する資料学的研究	山梨絵美子(文化財アーカイブズ研究室長)	黒田清輝《湖畔》のモデルをめぐって	美術研究作品資料5 黒田清輝《湖畔》	中央公論美術出版	20年 ３月25日	無
9	近現代美術に関する総合的研究	田中淳（近・現代視覚芸術研究室長）	展覧会評　昭和前期をめぐる三人の画家たち	美術研究393号	東京文化財研究所	20年 １月28日	無
10	近現代美術に関する総合的研究	山梨絵美子(文化財アーカイブズ研究室長)	日本近代絵画にみる農耕主題とその背景	田園讃歌展図録	埼玉県立近代美術館等	10月	無
11	近現代美術に関する総合的研究	塩谷純（文化形成研究室長）	川端玉章の研究（一）	美術研究392号	東京文化財研究所	９月28日	無
12	美術の技法・材料に関する広領域的研究	津田徹英（広領域研究室長）	“Nondestructive Investigation of the Polychromy of Japanese Sculptures (Yasuhiro Hayakawa, Tetsuei Tsuda, and Sadatoshi Miura)”	Procedings of Third Forbes Symposium at the Freer Gallery of Art	Scientific Research on the Sculptural Arts of Asia	７月	無
13	美術の技法・材料に関する広領域的研究	津田徹英（広領域研究室長）	Ｘ線透過撮影による仏像の調査	文化財と科学技術 －東京文化財研究所のしごと (日本の美術492)	至文堂	５月15日	無

14	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	高桑いづみ（音声・映像記録研究室長）	『過渡期の鼓胴その後』再び	銕仙560号	銕仙会	９月14日	無
15	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	高桑いづみ（音声・映像記録研究室長）	世阿弥自筆本の節付を考える－「難波梅」から「盛久」「江口」まで	無形文化遺産研究報告２	東京文化財研究所	20年３月31日	無
16	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	鎌倉惠子（無形文化財研究室長）	〔聞書き〕人形浄瑠璃文楽の裏方－囃子の世界を中心に－　吉田簑助師　藤舎秀左久師　望月太明吉氏に聞く	無形文化遺産研究報告２	東京文化財研究所	20年３月31日	無

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（７件）

	研究テーマ	発表者(氏名・職名)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	城野誠治(専門職員)	光学的手法による国宝・彦根屏風の調査	国宝　彦根屏風	東京文化財研究所	20年３月31日	無
2	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	江村知子（研究員）	彦根屏風の表現について	国宝　彦根屏風	東京文化財研究所	20年３月31日	無
3	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	城野誠治(専門職員)	光学的手法による国宝・吉祥天像の調査	薬師寺所蔵　国宝麻布著色吉祥天像	東京文化財研究所	20年３月31日	無
4	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	早川泰弘（分析科学研究室長）、城野誠治（専門職員）	吉祥天像のX線透過画像について	薬師寺所蔵　国宝麻布著色吉祥天像	東京文化財研究所	20年３月31日	無
5	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	城野誠治(専門職員)	2006年の写真の進歩　文化財	日本写真学会誌2007年70巻３号	日本写真学会	７月	無
6	文化財の非破壊調査法の研究	早川泰弘（分析科学研究室長）	蛍光X線分析による国宝吉祥天像の彩色材料調査	保存科学 47	東京文化財研究所	20年３月31日	無
7	文化財の非破壊調査法の研究	吉田直人(主任研究員)	ファイバー送受光型分光光度計による平面文化財資料の反射スペクトル測定における誤差に関する考察	保存科学 47	東京文化財研究所	20年３月31日	無

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（15件）

	研究テーマ	発表者(氏名・職名)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化財の生物劣化対策の研究	木川りか（生物科学研究室長)、間渕創(研究補佐員)、高妻洋成（奈文研・主任研究員)、降幡順子(奈文研・研究員)、肥塚隆保（奈文研・保存修復科学研究室長)	高松塚古墳発掘/石室解体作業に伴う取合部・断熱覆屋使用木材等の防カビ対策：ＤＤＡＣの検討	保存科学47	東京文化財研究所	20年３月31日	無
2	文化財の生物劣化対策の研究	間渕創（研究補佐員)、佐野千絵（保存科学研究室長)	コンクリート壁面における付着真菌の累積挙動	保存科学47	東京文化財研究所	20年３月31日	無
3	文化財の保存環境の研究	犬塚将英（研究員)、石﨑武志（保存修復科学センター長)	石水博物館千歳文庫内の温湿度解析	保存科学47	東京文化財研究所	20年３月31日	無
4	文化財の保存環境の研究	犬塚将英（研究員)、石﨑武志（保存修復科学センター長)	静岡県立美術館における温熱環境の測定Ⅱ	保存科学47	東京文化財研究所	20年３月31日	無
5	文化財の保存環境の研究	Magdi Khalil（客員研究員)、石﨑武志(保存修復科学センター長)	Moisture Characteristic Curve of Tuff Bressia Stone	保存科学47	東京文化財研究所	20年３月31日	無
6	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	朽津信明(主任研究員)	文化財石材の硬さに関する研究	日韓共同研究報告書2007	東京文化財研究所	20年３月28日	無
7	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	森井順之（研究員)	臼杵磨崖仏における凍結破砕防止策について	日韓共同研究報告書2007	東京文化財研究所	20年３月28日	無
8	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	早川典子（研究員)、川野邊渉（保存修復科学センター副センター長)	臼杵磨崖仏における表面処置について	日韓共同研究報告書2007	東京文化財研究所	20年３月28日	無
9	文化財の防災計画に関する調査研究	森井順之（研究員)、青木繁夫(客員研究員)	6.6 文化財の強風被害（「６章強風災害」より）	風工学ハンドブック－構造・防災・環境・エネルギー（日本風工学会編)	朝倉書店	４月30日	無

10	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	早川典子（研究員）、木川りか（生物科学研究室長）、川野邊渉（保存修復科学センター副センター長）	“Characterization of furunori (aged paste) and preparation of a saccharide similar to furunori”	Studies in Conservation 52 (3)	THE JOURNAL OF THE INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CONSERVATION OF HISTORIC AND ARTISTIC WORKS	10月	無
11	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	早川典子（研究員）、中右恵理子（客員研究員）、木川りか（生物科学研究室長）、川野邊渉（保存修復科学センター副センター長）	絵画表面に用いる修復材料の基礎的研究－壁画修復を中心に－	文化財修復学会誌 53	文化財保存修復学会	20年 ３月31日	無
12	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	中山俊介（近代文化遺産研究室長）	日本における鋼船の保存に関する問題点	近代化遺産の修復のための諸問題	東京文化財研究所	20年 ３月31日	無
13	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	中山俊介（近代文化遺産研究室長）	鉄道文化財の利活用について	鉄道遺産の活用	東京文化財研究所	20年 ３月31日	無
14	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	中山俊介（近代文化遺産研究室長）	路面電車の運用と文化財の保存	鉄道遺産の活用	東京文化財研究所	20年 ３月31日	無
15	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	中山俊介（近代文化遺産研究室長）	初代南極観測船“宗谷”の文化財的価値及び保存修復に係る調査研究	初代南極観測船“宗谷”の文化財的価値及び保存修復に係る調査研究　報告書	東京文化財研究所	20年 ３月31日	無

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（２件）

	研究テーマ	発表者(氏名・職名)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	朽津信明(主任研究員)	茨城県つくば市周辺の石造美術の硬さについて	考古学と自然科学56	日本文化財科学会	12月10日	無
2	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	朽津信明(主任研究員)	カンボジア・タ・ネイ遺跡における蘚苔類の繁茂と砂岩の風化	保存科学47	東京文化財研究所	20年 ３月31日	無

【奈良文化財研究所】 計86件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（54件）

	研究テーマ	発表者(氏名・職名)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化的景観に関する調査研究	内田和伸（景観研究室長）	四万十川流域の文化的景観	奈良文化財研究所紀要2007	奈良文化財研究所	６月	無
2	文化的景観に関する調査研究	平澤毅(主任研究員)	文化遺産としての遺跡・庭園・公園の概念に関する比較考察	『遺跡学研究』第４号	日本遺跡学会	11月	無
3	文化的景観に関する調査研究	惠谷浩子(特別研究員)	農村地域における景観形成に関わる住民の意識と行動の構造化	『ランドスケープ研究』vol.70No.5	日本造園学会	20年３月	無
4	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	吉川聡(主任研究員)	文書の挟み板	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	６月	無
5	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	吉川聡(主任研究員)	日本人墨書の研究	カンボジアにおける中世遺跡と日本人町の研究	文部科学省科学研究費補助金成果報告書	20年３月	無
6	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	窪寺茂（建造物研究室長)、清水重敦（研究員)、渡邉晃宏（史料研究室長）	扁額の意匠と構造－平城宮第一次大極殿正殿扁額の復原考察－	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	６月	無
7	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	清水重敦（研究員）	古代寺院建築における特異な基壇・平面とその構造	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	６月	無
8	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	窪寺茂（建造物研究室長）	日中韓文化財研究所による建築遺産に関する共同研究の動向	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	６月	無
9	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	大林潤（研究員）	境外社の造替と建築形式－出雲大社境外社の調査より－	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	６月	無
10	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	島田敏男（遺構研究室長）	西トップ寺院の建築調査	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	６月	無
11	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	西田紀子（研究員）	高知県中芸地区の森林鉄道遺産	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	６月	無
12	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	清水重敦（研究員)、西田紀子（研究員）	出土部材から見た山田寺建築	奇偉荘厳　山田寺	奈良文化財研究所飛鳥資料館	10月19日	無

13	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	清水重敦（研究員）	山田寺金堂復元案批判	日本建築学会大会学術講演梗概集	日本建築学会	9月	無
14	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	窪寺茂（建造物研究室長）	バーミヤーン石窟寺院遺構の保存に向けた調査報告(2)	日本建築学会大会学術講演梗概集	日本建築学会	9月	無
15	平城宮跡　東院地区（第421次）の発掘調査	金井健（研究員）、山本崇（研究員）、森川実（研究員）、林正憲（研究員）、浅野啓介（研究員）、西口壽生（考古第二研究室長）	東院地区中枢部の調査－平城第421次・423次	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月	無
16	平城宮跡　東院地区（第423次）の発掘調査	西口壽生（考古第二研究室長）、栗野隆（研究員）、和田一之輔（研究員）、浅野啓介（研究員）	東院地区中枢部の調査　平城第423次	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月	無
17	平城宮跡　東方官衙地区（第429次）の発掘調査	渡辺晃宏（史料研究室長）、今井晃樹（研究員）、大林潤（研究員）、城倉正祥（研究員）、加藤雅士（主任研究員）、石村智（研究員）、中村一郎（一般職員・主任）	平城第429次東方官衙地区の調査	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月	無
18	旧大乗院庭園（第424次）の発掘調査	城倉正祥（研究員）	旧大乗院庭園（424次）の調査	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月	無
19	藤原宮跡大極殿院南門発掘調査	高田貫太（研究員）、青木敬（特別研究員）、箱崎和久（研究員）、豊島直博（研究員）、松村恵司（考古第一研究室長）	大極殿院南門の調査－第148次	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月	無
20	石神遺跡（第20次）発掘調査	黒坂貴裕（研究員）、関広尚世（特別研究員）	石神遺跡の調査－第150次	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月	無
21	甘樫丘東麓遺跡発掘調査	豊島直博（研究員）	甘樫丘東麓遺跡の調査－第151次	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	6月	無
22	平城京跡出土遺物の調査研究	大林潤（研究員）、渡辺晃宏（史料研究室長）、今井晃樹（研究員）、神野恵（研究員）、小池伸彦（上席研究員）	西大寺食堂院跡の発掘調査	日本考古学協会『日本考古学』24	発売所：吉川弘文館	10月20日	無
23	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	長谷川透（研究補佐員）	石神遺跡出土の鋸	奈文研ニュース25	奈良文化財研究所	6月	無

24	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	中川あや（研究員）	日本一の巨大瓦	奈文研ニュース26	奈良文化財研究所	９月	無
25	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	今井晃樹（研究員）	太液池遺跡の遺物調査	奈文研ニュース27	奈良文化財研究所	12月	無
26	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	内田和伸（景観研究室長）、粟野隆（研究員）、千田剛道（上席研究員）、山崎信二（都城発掘調査部副部長）、市大樹（研究員）、箱崎和久（研究員）、清水重敦（研究員）	日本の古代都城並びに韓国古代王京の形成発展に関する共同研究	『日韓文化財論集Ⅰ』奈良文化財研究所学報第77冊	奈良文化財研究所	20年３月	無
27	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	内田和伸（景観研究室長）、粟野隆（研究員）、千田剛道（上席研究員）、山崎信二（都城発掘調査部副部長）、市大樹（研究員）、箱崎和久（研究員）、清水重敦（研究員）	日本の古代都城並びに韓国古代王京の形成発展に関する共同研究	『韓日文化財論集Ⅰ』	韓国国立文化財研究所	12月	無
28	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	中川あや（研究員）	日韓発掘調査交流の成果	奈良文化財研究所第18回総合研究会資料	奈良文化財研究所	20年１月	無
29	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	中川あや（研究員）	日韓発掘調査交流の成果	奈文研ニュース28	奈良文化財研究所	20年３月	無
30	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	中川あや（研究員）	日韓発掘調査交流の成果	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	６月	無
31	庭園に関する調査研究	高瀬要一（文化遺産部長）	平安時代庭園の現状	平安時代庭園に関する研究１	奈良文化財研究所	10月	無
32	庭園に関する調査研究	内田和伸（景観研究室長）	平安時代庭園発掘調査の概要	平安時代庭園に関する研究１	奈良文化財研究所	10月	無

33	庭園に関する調査研究	内田和伸（景観研究室長）	平城宮第一次大極殿および朝堂院の設計思想について	ランドスケープ研究vol.70No.5	日本造園学会	７月	無
34	庭園に関する調査研究	内田和伸（景観研究室長）	平城宮第一次大極殿院の設計思想	遺跡学研究第４号	日本遺跡学会	11月	無
35	庭園に関する調査研究	内田和伸（景観研究室長）	日韓宮殿の設計思想について	韓日文化財論集	韓国国立文化財研究所	12月	無
36	庭園に関する調査研究	内田和伸（景観研究室長）	平城宮第一次大極殿院と高御座の設計思想	古代日本の構造と原理	青木書店	20年１月	無
37	庭園に関する調査研究	内田和伸（景観研究室長）	平城宮の復元と年中行事の復興について～古代の思想と整備活用のあり方～	埋文ニュース第130号	奈良文化財研究所	20年３月	無
38	庭園に関する調査研究	平澤毅(主任研究員)	名勝庭園の歴史と展望	日本庭園学会誌第17号	日本庭園学会	８月	無
39	庭園に関する調査研究	平澤毅(主任研究員)	文化的資産としての近代の庭園及び公園の保護	日本庭園学会誌第18号	日本庭園学会	10月	無
40	庭園に関する調査研究	平澤毅(主任研究員)	文化遺産としての遺跡・庭園・公園の概念に関する比較考察	遺跡学研究第４号	日本遺跡学会	11月	無
41	庭園に関する調査研究	栗野隆（研究員）	庭園スタイルの模倣と創造－苑池の空間デザインと古代日韓	韓日文化財論集１	韓国文化財研究所	12月	無
42	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	内田和伸（景観研究室長）	高松塚古墳の仮整備	文化庁月報№466	文化庁	７月25日	無
43	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	平澤毅(主任研究員)	文化遺産としての遺跡・庭園・公園の概念に関する比較考察	遺跡学研究第４号	日本遺跡学会	11月	無
44	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	内田和伸（景観研究室長）	日韓宮殿の設計思想について	韓日文化財論集Ⅰ	韓国国立文化財研究所	12月	無
45	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	内田和伸（景観研究室長）	平城宮の復元と年中行事の復興について～古代の思想と整備活用のあり方～	埋蔵文化財ニュース	奈良文化財研究所	20年３月	無

46	遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究	脇谷草一郎（特別研究員)、高妻洋成（主任研究員)、降幡順子（研究員)、肥塚隆保（保存修復科学研究室長）	イースター島モアイ像の保存科学的研究２－溶出実験による石造文化財保存処理法の評価－	日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	６月	無
47	遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究	脇谷草一郎（特別研究員)、高妻洋成（主任研究員)、降幡順子（研究員)、肥塚隆保（保存修復科学研究室長）	妻木晩田遺跡における保存科学的研究－土質遺構の露出展示にむけた環境調査－	日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	６月	無
48	遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究	高妻洋成（主任研究員)、降幡順子（研究員)、脇谷草一郎(特別研究員)、肥塚隆保（保存修復科学研究室長）	石造文化財へのアコースティックエミッション法の応用	日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	６月	無
49	遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究	高妻洋成(主任研究員)	音波による石造文化財の劣化評価	第31回文化財の保存および修復に関する国際研究集会	東京文化財研究所	20年２月	無
50	遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究	高妻洋成(主任研究員)	高松塚古墳石室石材の運搬	文化庁月報 №466	文化庁	７月25日	無
51	遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究	肥塚隆保（保存修復科学研究室長）	高松塚古墳の石室解体の実施	文化庁月報 №467	文化庁	８月25日	無
52	遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究	肥塚隆保（保存修復科学研究室長)、高妻洋成（主任研究員)、降幡順子（研究員)、田辺征夫（所長）	国宝高松塚古墳壁画保存修理のための石室解体	2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム	2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム準備委員会	11月	無
53	遺跡の保存・整備・活用に関する技術開発研究	肥塚隆保（保存修復科学研究室長)、高妻洋成（主任研究員)、降幡順子（研究員）	石室解体と輸送	月刊文化財532号	文化庁	20年１月	無
54	第一次大極殿復原整備研究	渡邊晃宏（史料研究室長)、窪寺茂（建造物研究室長)、清水重敦（研究員）	扁額の構造と意匠－平城宮第一次大極殿扁額の復原考察－	奈良文化財研究所紀要2008	奈良文化財研究所	６月	無

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（10件）

	研究テーマ	発表者(氏名・職名)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	遺跡データベースの作成と公開	山中敏史（遺跡整備研究室長）	地方豪族居宅の建物構造と空間的構成	古代豪族居宅の構造と機能	奈良文化財研究所	12月	無
2	遺跡の測量・探査技術の有効利用法の研究	西村康（客員研究員）、金田明大（研究員）	“Geophysical Survey at Tokushima Castle in Japan”	ISAP2007	ISAP	９月	無
3	遺跡の測量・探査技術の有効利用法の研究	金田明大（研究員）	瓦礫に花を咲かせましょう	第１回文化遺産のデジタルドキュメンテーションと利活用に関するワークショップ	動体計測研究会	９月７日	無
4	遺跡の測量・探査技術の有効利用法の研究	西村康（客員研究員）、金田明大（研究員）	徳島城本丸地区の探査	日本文化財探査学会研究発表要旨集	日本文化財探査学会	６月	無
5	年輪年代学研究	光谷拓実（年代学研究室長）、大河内隆之（研究員）	年輪年代法による興福寺国宝板彫十二神将像の年代調査	奈良文化財研究所紀要2007	奈良文化財研究所	６月	無
6	年輪年代学研究	大河内隆之(研究員)	年輪年代学におけるデジタル画像技術の活用	埋文写真研究2007　Vol.18	埋蔵文化財写真研究会	７月	無
7	年輪年代学研究	大河内隆之(研究員)	國學院大學神道資料館蔵木造僧形坐像の非破壊年輪年代測定	館報Vol.8	國學院大學神道資料館	20年１月	無
8	年輪年代学研究	光谷拓実（年代学研究室長）	“Discriminating the Indistinguishable Sapwood from Heartwood in Discolored Ancient Wood by Direct Molecular Mapping of Specific Extractives Using Time-of-Flight Secondary Ion Mass Spectrometry”	Analytical Chemistry, Volume 80	American Chemical Society	20年３月	有
9	動物遺存体による環境考古学研究	松井章（環境考古学研究室長）	縄文人の食物利用	季刊考古学100	雄山閣	８月	
10	動物遺存体による環境考古学研究	松井章（環境考古学研究室長）	アメリカオレゴン州サンケン・ビレッジ遺跡	考古学研究216	考古学研究会	20年３月	無

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（22件）

	研究テーマ	発表者(氏名・職名)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	肥塚隆保（保存修復科学研究室長）	日本の古代ガラス	ガラスの百科事典	朝倉書房	10月20日	無
2	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	肥塚隆保（保存修復科学研究室長）	鉛バリウムガラスから発見された青色顔料	ガラスの百科事典	朝倉書房	10月20日	無
3	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	肥塚隆保（保存修復科学研究室長）	飛鳥時代に始まった鉛ガラスの製造	ガラスの百科事典	朝倉書房	10月20日	無
4	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	肥塚隆保（保存修復科学研究室長）	イメージングプレートを利用した古代ガラスの識別	ガラスの百科事典	朝倉書房	10月20日	無
5	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	降幡順子（研究員）、肥塚隆保（保存修復科学研究室長）	イメージングプレートを用いた日本出土ガラス小玉の調査	2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム	2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム準備委員会	11月	無
6	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成(主任研究員)、大河内隆之(研究員)	鷹島海底遺跡出土大刀の構造復元－「蒙古襲来」の考古学的検討へ向けて	2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム	2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム準備委員会	11月	無
7	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成（主任研究員）	リグノフェノールおよびセルロース誘導体を用いた出土木材の保存処理法の開発	2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム	2007東アジア文化遺産保存国際シンポジウム準備委員会	11月	無
8	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成（主任研究員）	セルロース誘導体を用いた出土木材の保存処理	日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	６月	無
9	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成（主任研究員）	リグノフェノールを用いた出土木材の保存処理Ⅲ－材内における存在状態－	日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	６月	無
10	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成（主任研究員）	出土スギ材リグニンの化学構造の解析	日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	６月	無

11	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成(主任研究員)、肥塚隆保（保存修復科学研究室長)、降幡順子(研究員)、脇谷草一郎(特別研究員)	クスノキ製刳り抜き井戸の真空凍結乾燥法による保存処理	奈良文化財研究所紀要2007	奈良文化財研究所	６月	無
12	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲（客員研究員）	ナノファイバー薄膜を用いる微量天然染料の分光学的測定	日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	６月	無
13	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲（客員研究員）	出土絹製遺物の顕微赤外分析による研究	日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	６月	無
14	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲（客員研究員）	出土有機質遺物に対するシンクロトロン顕微赤外分光法の応用～繊維資料を中心に～	日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	６月	無
15	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲（客員研究員）	出土繊維製品の保存と再分析における前処理	文化財保存修復学会第29回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	６月	無
16	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲（客員研究員）	顕微赤外分析法による出土植物繊維の材質同定	文化財保存修復学会第29回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	６月	無
17	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲（客員研究員）	顕微赤外分析による出土繊維や漆などの材質同定	奈良文化財研究所紀要2007	奈良文化財研究所	６月	無
18	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	降幡順子（研究員)、肥塚隆保（保存修復科学研究室長）	兵庫津遺跡出土青花（染付）磁器の自然科学的調査	文化財保存修復学会第29回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	６月	無
19	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	肥塚隆保（保存修復科学研究室長)、高妻洋成（主任研究員)、降幡順子（研究員）	重要文化財島根県加茂岩倉遺跡出土銅鐸の保存修理－保存科学調査から－	日本文化財科学会第24回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	６月	無
20	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成（主任研究員)、肥塚隆保（保存修復科学研究室長)、降幡順子（研究員）	小郡市寺福童遺跡４より出土した銅戈の保存修理	奈良文化財研究所紀要2007	奈良文化財研究所	６月	無

21	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	肥塚隆保（保存修復科学研究室長）、高妻洋成（主任研究員）、降幡順子（研究員）	重要文化財加茂岩倉遺跡出土銅鐸の保存修理	奈良文化財研究所紀要2007	奈良文化財研究所	６月	無
22	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	降幡順子（研究員）、脇谷草一郎（特別研究員）、高妻洋成（主任研究員）、肥塚隆保（保存修復科学研究室長）	国宝唐招提寺金堂顔料分析調査	奈良文化財研究所紀要2007	奈良文化財研究所	６月	無

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】 計３件

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

	研究テーマ	発表者(氏名・職名)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	佐野千絵（保存科学研究室長）、犬塚将英（研究員）、間渕創（研究補佐員）、木川りか（生物科学研究室長）、吉田直人（主任研究員）、森井順之（研究員）、加藤雅人（研究員）、降幡順子（研究員）、石﨑武志（保存修復科学センター長）、三浦定俊（副所長）	キトラ古墳保護覆屋内の環境について(3)－カビ点検報告記録の解析－	保存科学47号	東京文化財研究所	２月	無
2	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	松村恵司（考古第一研究室長）	石室解体修理事業に伴う発掘調査	月刊文化財532号	第一法規	１月	無
3	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	犬塚将英（研究員）、石﨑武志（保存修復科学センター長）	高松塚古墳石室解体時の壁画保存のための温湿度環境の制御	保存科学47号	東京文化財研究所	２月	無

⑤　調査研究刊行物一覧

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
ＭＵＳＥＵＭ 607 ～612号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,742件（各457件）
東京国立博物館紀要43号	700	美術館・博物館・大学等　329件
東京国立博物館文化財修理報告Ⅷ	500	美術館・博物館・大学等　90件
法隆寺献納宝物特別調査概報ＸＸⅧ　聖徳太子絵伝１	600	美術館・博物館・大学等　186件
重要考古資料学術調査報告書『東大寺山古墳の在銘大刀』	600	美術館・博物館・大学等　186件

○展覧会目録

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展	足利義満600年御忌記念「京都五山　禅の文化」展	―	美術館・博物館・大学等　112件
	大徳川展	―	美術館・博物館・大学等　112件
	陽明文庫創立70周年記念 「宮廷のみやび―近衛家1000年の名宝」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	平成遷都1300年記念　国宝　薬師寺展	―	美術館・博物館・大学等　112件
寄贈品図録	東京国立博物館　広田不狐斎コレクション 鑑賞陶器編	2,500	美術館・博物館・大学等　112件
	山本達郎氏寄贈品目録　アジアの石彫・絵画	1,000	美術館・博物館・大学等　112件

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
研究紀要「学叢」第29号	1,150	美術館・博物館・大学等
文化財保存修理所　修理報告書３	500	大学・図書館・研究機関等
助成研究会報告書35冊	1,000	美術館・博物館・大学等
図像蒐成ＸＩ	800	美術館・博物館・大学等

○展覧会目録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
特別展覧会　金峯山埋経一千年記念藤原道長 －極めた栄華・願った浄土－	6,000	美術館・博物館・大学等
特別展覧会　狩野永徳	―	美術館・博物館・大学等
特別展覧会　修好通商条約締結150周年 憧れのヨーロッパ陶磁－マイセン・セーヴル・ミントンとの出会い－	―	美術館・博物館・大学等

特別展覧会　京都御所障壁画－御常御殿と御学問所－	―	美術館・博物館・大学等

【奈良国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
奈良国立博物館だより （年４回）	春・夏・冬号　各20,000 秋号　40,000	美術館・博物館・大学・研究所等 約120件
奈良国立博物館リーフレット	日本語版　100,000 英語版　10,000 中国語版　5,000 韓国語版　8,000 ドイツ語版　2,000 フランス語版　2,000 スペイン語版　2,000	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	105,000	館内で来館者に配布
研究紀要「鹿園雑集」９号	―	美術館・博物館・大学・研究所等 へ配布

○展覧会目録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
神仏習合―かみとほとけが織りなす信仰と美	―	美術館・博物館・研究機関等へ配布し、一部ミュージアムショップで販売
古玩逍遥－服部和彦氏寄贈仏教工芸	―	美術館・博物館・研究機関等へ配布し、一部ミュージアムショップで販売
仏さまの彩り	―	美術館・博物館・研究機関等へ配布し、一部ミュージアムショップで販売
美麗　院政期の絵画	―	美術館・博物館・研究機関等へ配布し、一部ミュージアムショップで販売
第59回正倉院展	―	美術館・博物館・研究機関等へ配布し、一部ミュージアムショップで販売
おん祭と春日信仰の美術	―	美術館・博物館・研究機関等へ配布し、一部ミュージアムショップで販売

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
東風西声第３号	2,000	美術館・博物館・研究機関等へ配布し、一部ミュージアムショップで販売
修理完成記念特集陳列 釈迦誕生図－受け継がれる朝鮮仏画の名品－	3,000	美術館・博物館・研究機関等へ配布し、一部ミュージアムショップで販売
朝鮮白磁－純白・乳白・青白の器－	2,000	美術館・博物館・研究機関等へ配布し、一部ミュージアムショップで販売

○展覧会目録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
未来への贈りもの－中国泰山石経と浄土教美術－	800	美術館・博物館・大学等
未来への贈りもの－中国泰山石経と浄土教美術－ こどもガイド	30,000	館内観覧者
日本のやきもの－選び抜かれた名宝120点－	―	美術館・博物館・大学等
日本のやきもの－選び抜かれた名宝120点－ やきもの占い	10,000	館内観覧者
本願寺展　－親鸞と仏教伝来の道－	―	美術館・博物館・大学等
京都五山　禅の文化展	―	美術館・博物館・大学等

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
東京文化財研究所年報	1,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東京文化財研究所概要	4,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東文研ニュース 第29～32号	各3,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東京文化財研究所所蔵目録７　外国語雑誌編	1,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
平成18年版　日本美術年鑑	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
美術研究 392～394号	各400	博物館・美術館・大学・研究機関等
無形文化遺産研究報告	650	博物館・美術館・大学・研究機関等
第２回無形民俗文化財研究協議会報告書	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
保存科学 47号	700	博物館・美術館・大学・研究機関等
無形文化遺産の保護―国際的協力と日本の役割―	800	博物館・美術館・大学・研究機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
奈良文化財研究所紀要2007	3,000	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所概要	4,500	大学、研究機関、図書館等
奈文研ニュースNo.25 ～28号	各3,000	大学、研究機関、教育委員会等
埋蔵文化財ニュース130号	3,200	教育委員会、図書館、博物館等
埋蔵文化財ニュース131 ～133号	各3,500	教育委員会、図書館、博物館等
平安時代庭園に関する研究１	300	大学、研究機関等
古代豪族居宅の構造と機能	1,000	大学、研究機関等
遺跡の教育面に関する活用－平成18年度遺跡整備・活用研究集会（第１回）報告書－	600	大学、研究機関等
高知県中芸地区森林鉄道遺産調査報告書	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
遺跡整備調査報告－管理運営体制および整備活用手法に関する類例調査－	1,000	大学、研究機関等
日韓文化財論集Ⅰ	600	大学、研究機関、図書館等
重要文化財建造物現状変更説明1968－1970(本文編)	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
重要文化財建造物現状変更説明1968－1970(図版編)	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
重要文化財建造物現状変更説明　1965－1967(本文編)	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
重要文化財建造物現状変更説明　1965－1967(編)図版	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
飛鳥藤原宮発掘調査出土木簡概報(二十一)	1,200	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
平城宮発掘調査出土木簡概報(三十八)	1,000	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
キトラ古墳壁画四神玄武	4,000	大学、研究機関、教育委員会、博物館等
重要文化財指定記念　奇偉荘厳　山田寺	4,000	大学、研究機関、教育委員会、博物館等
地下の正倉院展－平城宮木簡の世界－	10,000	館内観覧者
「とき」を撮す－発掘調査と写真－	2,000	大学、研究機関、教育委員会、博物館等
飛鳥の考古学2007	2,000	大学、研究機関、教育委員会、博物館等
平城宮跡東院地区中枢部の調査　平城第421次調査	2,000	現地説明会見学者等
平城宮跡東院地区中枢部の調査　平城第423次調査	2,000	現地説明会見学者等
藤原宮大極殿院南門の調査(飛鳥藤原148次)調査現地説明会資料	7,000	現地説明会見学者等
石神遺跡の調査　石神遺跡第20次調査現地説明会資料	3,000	現地説明会見学者等
甘樫丘東麓遺跡　(飛鳥藤原第151次)現地説明会資料	7,000	現地説明会見学者等

⑥　科学研究費補助金による調査研究

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
78件	10件	3件	2件	9件	18件	36件

【東京国立博物館】　10件

研究テーマ	名　前	役　職	区　分	予算（千円）
博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	井上洋一	事業部事業企画課長	基盤研究（A）	9,750
法隆寺献納宝物聖徳太子絵伝の調査研究	松原茂	上席研究員	基盤研究（A）	6,630
江戸幕府旧蔵資料の総合的研究	高橋裕次	事業部情報課長	基盤研究（B）	3,640
日本古代手工業史における埴輪生産構造の変遷と技術移転から見た古墳時代政治史の研究	古谷毅	文化財部保存修復課保存修復室長	基盤研究（B）	3,640
東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	島谷弘幸	文化財部長	基盤研究（B）	4,940
日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	金子啓明	特任研究員	基盤研究（B）	3,770
国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究－館史資料の分析を中心に－	丸山士郎	文化財部列品課列品室主任研究員	基盤研究（C）	1,430
東京国立博物館所蔵写真資料データベース	富田淳	文化財部列品課列品室長	研究成果公開促進費（データベース）	2,500
東京国立博物館所蔵博物図譜データベース	高橋裕次	事業部情報課長	研究成果公開促進費（データベース）	5,400
東京国立博物館古地図データベース	田良島哲	事業部情報課情報管理室長	研究成果公開促進費（データベース）	1,400

【京都国立博物館】　3件

研究テーマ	名　前	役　職	区　分	予算（千円）
日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察	佐々木丞平	館長	基盤研究（A）	13,650
建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究	赤尾栄慶	学芸課企画室長	基盤研究（B）	5,070
仏教における衣服の寄進と再利用に関する基礎的研究　　－袈裟、打敷、幡－	山川曉	学芸課企画室研究員	若手研究（B）	1,100

【奈良国立博物館】 ２件

研究テーマ	名前	役職	区分	予算（千円）
古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程	吉澤悟	学芸課資料室長	若手研究（B）	1,560
統一新羅期の道具瓦集成	岩戸晶子	学芸課教育室研究員	若手研究（B）	1,300

【九州国立博物館】 ９件

研究テーマ	名前	役職	区分	予算（千円）
ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築	河野一隆	学芸部企画課 文化交流展室長	基盤研究（A）	10,660
彩色水浸文物の保存科学的研究 －中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存－	今津節生	学芸部博物館科学課 環境保全室長	基盤研究（B）	3,510
近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究	伊藤嘉章	学芸部 企画課長	基盤研究（C）	1,560
博物館危機管理としての市民協同型ＩＰＭシステム構築に向けての基礎研究	本田光子	学芸部 博物館科学課長	基盤研究（C）	2,470
博物館におけるＸ線ＣＴスキャンデータの活用	鳥越俊行	学芸部博物館科学課 環境保全室研究員	基盤研究（C）	2,470
室町時代の中国文物の受容に関する調査研究	畑靖紀	学芸部企画課 特別展室研究員	若手研究（B）	700
弥生時代後期～古墳時代の墳墓大量出土ベンガラについての基礎的研究	志賀智史	学芸部博物館科学課 保存修復室研究員	若手研究（B）	1,000
日本近世宗門改制度に関する基礎的研究	東　昇	学芸部文化財課 資料管理室研究員	若手研究（B）	1,800
古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－	原田あゆみ	学芸部企画課 特別展室研究員	若手研究（B）	2,000

【東京文化財研究所】 18 件

研究テーマ	名　前	役　職	区　分	予算（千円）
文化財の透過撮影および材質調査を目的とした新しいＸ線検出器の開発	犬塚将英	保存修復科学センター 保存科学研究室研究員	若手研究（A）	3,900
日本に所在する宋代彫刻の基礎的調査研究	皿井舞	企画情報部文化財アーカイブズ研究室 研究員	若手研究（B）	500

大規模イベントにおける民俗芸能・祭礼の利用の実態とその影響の調査研究	俵木悟	無形文化遺産部 主任研究員	若手研究（B）	700
ジェルクリーニング剤を用いたセッコ壁画表面の保存処理法に関する研究	谷口陽子	特別研究員	若手研究（B）	500
新しい展示照明光源－白色ＬＥＤに対する染料耐光性の検証	吉田直人	保存修復科学センター 主任研究員	若手研究（B）	2,100
文化的景観における人と水環境の関係の研究－白川郷・五箇山の景観形成とその保存－	豊島久乃	特別研究員	若手研究（B）	1,800
江戸前期町絵師の活動状況についての研究－尾形光琳を中心に－	江村知子	企画情報部文化財アーカイブズ研究室 研究員	若手研究（B）	2,200
西アジア・トランスコーカサスにおける初期農耕経済の受容課程に関する考古学研究	有村誠	特別研究員	若手研究（B）	1,000
古墳壁画の保存環境に関する研究	三浦定俊	副所長	基盤研究（A）	11,570
高松塚古墳壁画劣化要因微生物の遺伝・表現形成等基礎データの総合的構築	佐野千絵	保存修復科学センター 保存科学研究室長	基盤研究（A）	20,930
太行山脈一帯に点在する仏教石窟群の包括的保護計画策定に関する日中共同研究	岡田健	文化遺産国際協力センター 保存計画研究室長	基盤研究（B）	4,940
日本古代中世金銅仏の荘厳に関する調査研究	津田徹英	企画情報部広領域研究室長	基盤研究（B）	2,860
文化と景観およびその保護手法の研究－信仰に関わる文化的景観の調査・分析－	稲葉信子	文化遺産国際協力センター 国際企画情報研究室長	基盤研究（B）	5,720
効率的な防災施策提言のための地震動予測地図と文化財データベースの融合手法の構築	二神葉子	文化遺産国際協力センター 主任研究員	基盤研究（C）	1,300
民俗芸能保護における「記録選択」の意義に関する調査研究	宮田繁幸	無形文化遺産部長	基盤研究（C）	780
燻蒸剤等各種殺虫・殺菌処理が文化財のタンパク質材質へ及ぼす影響の科学的検討	木川りか	保存修復科学センター 生物科学研究室長	基盤研究（C）	1,820
日本絵画の彩色材料に関する分析化学的調査研究	早川泰弘	保存修復科学センター 分析科学研究室長	基盤研究（C）	2,470
建築文化財における外観塗料材料の変遷と新塗料開発に関する研究	北野信彦	保存修復科学センター 伝統技術研究室長	基盤研究（C）	2,340

【奈良文化財研究所】 36 件

研究テーマ	名　前	役　職	区　分	予算 (千円)
カンボディアにおける中世遺跡と日本人町の研究	杉山洋	企画調整部展示企画室長	特別研究促進費	5,800
文化的資産としての名勝地の概念とその適用に関する基礎的研究	平澤毅	文化遺産部主任研究員	特別研究促進費	1,200
推論機能を有する木簡など出土文字資料の文字自動認識システムの開発	渡邉晃宏	都城発掘調査部史料研究室長	基盤研究（S）	21,060
日中古代墳墓副葬品の比較研究	金田明大	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員	基盤研究（A）	7,020
古代東アジアにおける造瓦技術の変遷と伝播に関する研究	山崎信二	都城発掘調査部副部長	基盤研究（A）	8,450
遺跡出土の建築部材に関する総合的研究	島田敏男	都城発掘調査部遺構研究室長	基盤研究（A）	11,440
東アジアにおける家畜の伝播とその展開に関する動物考古学的研究	松井章	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長	基盤研究（A）	19,500
富本銭と和同開珎の系譜をめぐる比較研究	松村恵司	都城発掘調査部考古第一研究室長	基盤研究（B）	4,420
霊廟建築における荘厳手法の総合的比較研究	窪寺茂	文化遺産部建造物研究室長	基盤研究（B）	3,380
「灰吹法」の実証的検証に基づくわが国における金・銀の製錬技術の技術史的研究	村上隆	都城発掘調査部上席研究員	基盤研究（B）	7,800
打音試験法及びアコースティックエミッション法による石造文化財の劣化診断技術の開発	高妻洋成	埋蔵文化財センター主任研究員	基盤研究（B）	3,640
南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究	吉川聡	文化遺産部主任研究員	基盤研究（B）	4,680
大極殿院の思想と文化に関する研究	内田和伸	文化遺産部景観研究室長	基盤研究（B）	1,300
マイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた非破壊年輪年代法による木彫神像の研究	大河内隆	埋蔵文化財センター年代学研究室研究員	基盤研究（B）	5,980
古代の宮殿および官衙の占地に関する復元的研究	小澤毅	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	基盤研究（C）	1,300
古代冶金工房の基礎的構造に関する考古学的研究	小池伸彦	都城発掘調査部上席研究員	基盤研究（C）	780
東アジアにおける武器･武具の比較研究	小林謙一	企画調整部企画調整室長	基盤研究（C）	1,300
日韓出土土器による３・４世紀国際交流の研究	次山淳	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（C）	650

蓄積型自然放射線量とX線分析による古代ガラス・セラミックス材質の考古科学的研究	降幡順子	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室研究員	基盤研究(C)	1,560
律令国家の国郡成立過程に関する考古学的研究	山中敏史	文化遺産部遺跡整備研究室長	基盤研究(C)	2,340
東アジアの鉛釉陶器－考古資料にみる鉛釉陶器生産と唐三彩の影響	神野恵	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究(B)	800
弥生・古墳時代における日韓墳墓出土鉄製武器の比較研究	豊島直博	都城発掘調査部考古第一研究室研究員	若手研究(B)	700
古代東アジアにおける木造塔の構造と意匠に関する研究	箱崎和久	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究(B)	900
古代中世の建築用語とその規格 －造営史料と建築部材の検討を通して－	西田紀子	企画調整部展示企画室研究員	若手研究(B)	600
飛鳥藤原出土木簡の資料的検討と官司運営の復元	市大樹	都城発掘調査部史料研究室研究員	若手研究(B)	700
古代東アジアにおける火葬習俗の伝播に関する基礎的研究	小田裕樹	都城発掘調査部考古第二研究室研究員	若手研究(B)	500
東アジアにおける文化遺産のオーセンティシティに関する比較研究	清水重敦	文化遺産部建造物研究室研究員	若手研究(B)	800
倉の立地から見た集落構造とその景観文化：群倉型集落を事例として	黒坂貴裕	都城発掘調査部遺構研究室研究員	若手研究(B)	800
古代都城儀式の歴史的変遷に関する研究	山本崇	都城発掘調査部史料研究室研究員	若手研究(B)	1,000
定住民と遊牧民における埋葬体系の比較研究－ヨルダン南部を例として－	橋本裕子	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究(B)	2,100
銅鏡にみる古代東アジアの文化交流	中川あや	都城発掘調査部考古第三研究室研究員	若手研究(B)	800
縄文時代における、縄文原体からみた社会構造変化	石田由紀子	特別研究員	若手研究(B)	500
石造文化財と水に関する研究 －溶出実験から捉えた化学的風化－	脇谷草一郎	特別研究員	若手研究(スタートアップ)	1,200
島嶼環境におけるラピタ人の拡散・適応戦略を探る考古学的研究	石村智	企画調整部国際遺跡研究室研究員	若手研究(スタートアップ)	1,300
加飾壺の成立・展開からみた古墳祭祀の創出過程	廣瀬覚	特別研究員	若手研究(スタートアップ)	610
動物考古学 Fundamentals of Zooarchaeology of Japan	松井章	埋蔵文化財センター環境考古学研究室長	研究成果公開促進費(学術図書)	4,100

⑦　客員研究員一覧

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
79人	15人	５人	６人	２人	32人	19人

【東京国立博物館】　15人

氏　名（所　属）	研　究　課　題
田辺龍太 （財団法人切手の博物館学芸員）	当室所蔵の切手に関する調査研究
水上嘉代子 （財団法人遠山記念館学芸員）	当館所蔵近世日本染織に関する研究
大脇潔 （近畿大学文芸学部教授）	飛鳥から奈良時代の都城・寺院の調査研究、飛鳥から奈良時代の造瓦技術の研究
金子浩昌 （元早稲田大学講師）	当館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究
安藤廣道 （慶應義塾大学文学部助教授）	当館所蔵の日本考古資料に関する研究
東野治之 （奈良大学文学部教授）	法隆寺献納宝物「古今目録抄」に関する研究
針谷武志 （別府大学文学部助教授）	法隆寺献納宝物「聖徳太子絵伝下貼文書」に関する研究
小笠原小枝 （日本女子大学家政学部教授）	当館所蔵のインド更紗に関する研究
松田清 （京都大学大学院人間・環境学研究科教授）	当館所蔵の洋書及び関連資料の調査研究
宮下佐江子 （古代オリエント博物館）	西アジア古代ガラスの研究
沢田正昭 （国士舘大学21世紀アジア学部教授）	金銅製考古遺物の保存と修理の研究
小野博 （美術刀剣研磨技師）	刀剣コレクションに関する保存状態の評価と保存修理の対策
長谷高史 （愛知県立芸術大学美術学部教授）	当館の環境デザインに関する研究
棟尾聡 （棟尾建築設計工房主宰）	建築空間等の活用方法に関する研究
新井哲夫 （群馬大学教育学部教授）	博物館における美術教育に関する研究

【京都国立博物館】　５人

氏　名（所　属）	研　究　課　題
奥平俊六 （大阪大学大学院文学研究科教授）	永徳に関する調査研究
山田奨治 （国際日本文化研究センター研究部助教授）	文化財情報に関する調査研究

宇都宮啓吾 （大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
狩野博幸 （同志社大学文化情報学部教授）	近世絵画に関する調査研究
井上一稔 （同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究

【奈良国立博物館】　６人

氏　名（所　属）	研　究　課　題
井出誠之輔 （九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
木村法光 （元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
森郁夫 （帝塚山大学人文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
根立研介 （京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
板倉聖哲 （東京大学東洋文化研究所准教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
米倉迪夫 （上智大学国際教養学部教授）	肖像画及び仏教説話画の研究

【九州国立博物館】　２人

氏　名（所　属）	研　究　課　題
篠﨑悠美子 （別府大学文学部教授）	文化財の保存修復に関する研究
井手誠之輔 （九州大学大学院人文科学研究院教授）	アジア仏教美術に関する研究

【東京文化財研究所】　32人

氏　名（所　属）	研　究　課　題
伊與田光宏 （千葉工業大学教授）	文化財資料データベースの構築に関する研究
相澤正彦 （成城大学文芸学部芸術学科教授）	「東アジアの美術に関する資料学的研究」（美01）の調査研究と研究助言
青木茂 （文星芸術大学教授）	「近現代美術に関する総合的な研究」（美02）遂行のため、日本近代美術研究に関する専門的な知識により、助言、協力を仰ぐ
大島暁雄 （元文化庁文化財保護部伝統文化課主任文化財調査官）	「民族技術」及び民俗芸能以外の「風俗・慣習」に関する調査研究

深津（福岡）裕子 （女子美術大学・多摩美術大学非常勤講師）	工芸技術（主として染織関係）の伝承実態の調査
森下愛子	工芸技術（主として陶芸）の伝承実態の調査
服部比呂美 （国立国会図書館国際子ども図書館非常勤調査員）	無形民俗文化財における風俗・慣習及び民俗技術分野の調査
山野勝次 （文化財虫害研究所常務理事）	文化財の虫害とその防除の研究
白石靖幸 （北九州市立大学国際環境工学部環境空間デザイン学科准教授）	環境のシミュレーション手法の研究
小椋大輔 （京都大学大学院工学研究科建築学専攻助教）	環境のシミュレーション手法の研究
三村衛 （京都大学防災研究所准教授）	古墳墳丘部の地盤工学的調査・研究
小宮山健二 （斎藤株式会社）	漆の保存に関する調査・研究
中右恵理子	キトラ古墳壁画修復に関する調査・研究
安部倫子	高松塚古墳壁画修復に関する調査・研究
板垣義郎 （明和産業株式会社）	修復材料に関する調査・研究
横山晋太郎 （かかみがはら航空宇宙科学博物館参事）	近代の文化遺産の保存修復に関する研究
舘川修	伝統材料に関する調査研究
長島宏行 （日本航空協会）	近代の文化遺産の保存修復、特に航空機保存に関する調査・研究
小堀信幸 （日本海事科学振興財団）	近代の文化遺産の保存修復に関する調査・研究
前田耕作	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
鉾井修一 （京都大学大学院工学研究科建築学専攻教授）	タイ・スコータイ遺跡スリチュム寺院において、大仏の表面に生物を発生しにくくさせる環境条件に関する研究
大竹秀実	文化財保護施策の国際的研究にかかる調査研究のうち、特に動産文化財の保護施策に関する調査研究
津村宏臣 （同志社大学文化情報学部准教授）	文化財保存修復国際情報のデータベース化に関する研究
大和智 （筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）	文化財保護施策の国際的研究にかかる調査研究のうち、特に各国また国際機関の文化財施策に関する調査研究
高林（津村）弘実	壁画に見られる「劣化」現象に焦点をあて、莫高窟壁画の材料と技法の調査研究

ウーゴ・ミズコ （国際基督教大学アジア文化研究所研究員）	文化財保護施策の国際的研究にかかる調査研究のうち、欧米各国の文化財施策に関する調査研究および専門機関・専門家ネットワーク構築業務
青木繁夫 （サイバー大学教授）	文化財国際コンソーシアムに関連する研究
西山伸一 （サイバー大学助教授）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
カリル・マグディ （エジプト治水・水利省､国際水利研究センター）	環境のシミュレーション手法の研究
岩井俊平 （龍谷大学図書館事務部嘱託職員）	西アジア諸国等文化遺産保存修復事業に参加し、当該地域の遺跡保存に対して考古学的・美術史学的な研究を行う
上野智子 （文化女子大学非常勤講師）	「文化遺産保護国際貢献事業（無形文化遺産保護パートナーシッププログラム）」における海外諸機関との研究交流
星野紘 （成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻非常勤講師）	「文化遺産保護国際貢献事業（無形文化遺産保護パートナーシッププログラム）」における海外諸機関との研究交流

【奈良文化財研究所】 19人

氏　名（所　属）	研　究　課　題
綾村宏 （京都女子大学文学部教授）	日本中世史・古文書学
増井正哉 （奈良女子大学生活環境学部教授）	建築史・保存修景計・地域計画
宮城俊作 （奈良女子大学生活環境学部教授）	ランドスケープデザイン・都市デザイン
黒崎直 （富山大学人文学部教授）	日本考古学（弥生時代～古代・中世）
川越俊一 （元奈良文化財研究所都城発掘調査部長）	古代陶硯の集成的研究 ７・８世紀の土器編年大綱の整備
寺崎保広 （奈良大学文学部教授）	日本古代史
高橋克壽 （花園大学文学部准教授）	日本考古学及び東アジア考古学
西村康 （㈶ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所研修指導部長）	遺跡探査及び測量
百橋明穂 （神戸大学大学院人文学研究科）	日本美術史
渡邉淳子 （元善通寺市職員）	古墳時代～歴史時代の土器・土製品の生産と流通
横山精士 （元岡山大学非常勤職員研究員）	生産遺跡を中心とする考古遺物の材料科学的調査・研究 機器分析を用いた無機材料解析
加藤雅士 （元奈良文化財研究所都城発掘調査部研究補佐員）	縄文時代墓制の動態・歴史時代土器の研究

佐藤昌憲 （元京都工芸繊維大学繊維学部教授）	有機質遺物の材質分析
茂原信生 （元京都大学霊長類研究所教授）	自然人類学、動物考古学
藤田正勝 （元ダーラム大学考古学部調査研究員）	動物考古学、第四紀哺乳類化石（東アジア）
松下まり子 （元神戸大学大学教育センター教務職員）	花粉分析
橋本裕子 （元京都大学大学院理学研究科研修員）	埴輪研究・骨考古学（古人骨）
伊東隆夫 （元京都大学生存圏研究所教授）	木材組織学
藤井裕之 （元京都大学大学院生）	年輪年代学

b．ボランティア受入れ実績

1　受入人数

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
705人	162人	23人	96人	293人	131人

2　活動内容

【東京国立博物館】

種別（登録人数）	概要
生涯学習ボランティア （153人）	1）来館者参加型ガイドツアーの実施 ・樹木ツアー　64回　919人参加 ・浮世絵展示解説　74回　1,462人 ・本館ハイライトツアー　98回　2,639人 ・法隆寺宝物館ガイドツアー　73回　1,162人 ・考古展示室ガイド　44回　731人 ・陶磁室エリアガイド　17回　308人 ・庭園茶室ツアー　16回　318人 ・お茶会　11回　311人 ・彫刻ガイド　23回　592人 ・外国人来館者に対する外国語（英語）ガイド　22回　306人 ・子供たちのアートスタジオ　6回　80人 ・ガイドツアー「博物館で桜めぐり」（「博物館でお花見を」内のプログラム 20年３月20日～４月６日　計16日間　会期中毎日２～６回実施） 全日程　実施回数と人数　60回　1,093人 平成19年度内　実施回数と人数　28回　686人 ２）各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【総合的学習の時間対応】 ・スクールプログラム実施活動補助　（内容：就業体験） ボランティア対応学校数50校　生徒数149人 【教育普及事業の補助】 ・親と子のギャラリー「昔のゲームを楽しもう」ハンズオン体験コーナー補助 （特集陳列「博物館のおもちゃ箱」関連プログラム ７月４日～８月27日） ・親と子のギャラリー「版で遊ぶ」ハンズオン体験コーナー補助 （特集陳列「版でつくる」関連プログラム　11月27日～12月24日） ・「コピーの元祖　拓本体験」ハンズオン体験コーナー補助 （特集陳列「拓本の世界」関連プログラム　４月17日～７月１日） ・「制作工程模型展示　仏頭はどうやって作られたのか？」鑑賞補助 （４月17日～９月30日） ・「銅鐸の響き」ハンズオン体験コーナー補助 （４月17日～９月30日） ・「屏風って何？」ハンズオン体験コーナー補助 （特集陳列「屏風」関連プログラム　４月24日～６月３日） ・「ミニミニ模型」ハンズオン体験コーナー補助 （特集陳列「漢時代の明器」関連プログラム　９月４日～12月２日）

・「制作工程模型展示　盧舎那仏のひみつ」鑑賞補助
（10月２日～20年２月24日）
・「魔鏡の不思議」ハンズオン体験コーナー鑑賞補助
（10月２日～20年６月１日）
・「わたしの鏡」ハンズオン体験コーナー補助
（平常展示「暮らしの調度」（本館８室）関連プログラム
９月４日～12月２日）
・「制作工程模型展示　押出仏のできるまで」鑑賞補助
（20年2月26日～６月１日）
・特別展「宮廷のみやび」関連ワークショップ補助
・特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」関連
「見学ツアー保存と修理の現場へ行こう」ツアー補助
（20年２月20日・21日）
・「文化財を守る　－保存・修理－」（17室・通年）お客様対応
・列品解説(42回)・各種講演会の実施補助（通年）
・教育普及事業の告知補助（「本日の博物館」シール貼替え・通年）

３）ボランティア自身による自主的な企画立案による活動の充実を図る
・ボランティア広報誌の作成（季刊発行）

４）その他
【館内案内】
・表慶館　（エントランス、体験の間、探求の間、出会いの間
４月17日～通年）
・本館　　（エントランス、２階、17室　　通年実施）
・「博物館でお花見を」期間の庭園開放中、庭園内のお客様案内
（20年３月20日～４月６日）

【資料印刷・作成】
・配布パンフレット「日本美術の流れ」／４ヶ国語　96,762部
・「たんけんマップ」（小・中学生以上を対象とした館内鑑賞用手引きの作成・配布）　13,350部
・特集陳列出品目録印刷
・法隆寺宝物館出品目録印刷
・ハンズオン体験コーナーリーフレットの印刷
【各種連携事業】
・日本英語交流連盟事業（ＪＥＴ）での茶会（60名）、英語ガイドの実施、館内案内（６月７日）
・「留学生の日」内プログラム　ボランティアによる応挙館茶会（250名）、英語ガイドの実施、館内案内（11月18日）
・台東区事業「外国人向け観光体験コース」における本館ハイライトガイド・英語ガイドの実施（10月27日、11月23日、20年３月22日　合計３回）
・「博物館でお花見を」内のプログラム　ボランティアによる応挙館茶会「花見で一服」（60名　20年３月28日）

【障害者対応】
・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版　配布
・三菱商事連携事業におけるアートスタジオ（根付作成）実施
（７月７日　21人参加）
・東京都北区王子養護学校「版で遊ぶ」ワークショップ補助（11月29日）

	【研修の実施】 ・表慶館「みどりのライオン」通年開館にともなう研修 ・「子どもたちのアートスタジオ」（根付作成）（６月24日） ・「車椅子」（７月27日） ・「東博桜めぐり」 計３回（20年２月12日、２月25日、３月10日） ・平成20年度 生涯学習ボランティア　新規登録研修 （20年３月19、21、22、23日） 【解説会の実施】（以下の展示につき、各１回ずつ実施） ・特集陳列「博物館のおもちゃ箱」 ・特集陳列「版でつくる」 ・特集陳列「拓本の世界」 ・特集陳列「仏像の道」 ・「制作工程模型展示　仏頭はどうやって作られたのか？」 ・特集陳列「屏風」 ・特集陳列「漢時代の明器」 ・「制作工程模型展示　盧舎那仏のひみつ」 ・「魔鏡の不思議」 ・平常展示「暮らしの調度」 ・「制作工程模型展示　押出仏のできるまで」 ・博物館の「展示照明」について ・特別展「京都五山　禅の文化展」 ・特別展「大徳川展」 ・特別展「宮廷のみやび」 ・ミュージアムシアター「国宝　聖徳太子絵伝」 【博物館実施イベント事業の補助】 博物館実施のイベントに際し、チラシなどの配布物の準備・入場受付・お客様の誘導および会場整理などの補助 ・イブニングレクチャー「板碑の流通」 ・夜桜セミナー「美術の中の桜たち」 ・藤原真理　チェロコンサート ・ニューイヤーコンサート ・高田泰治　フォルテピアノリサイタル ・ロマン・ギュイオ＆中島由紀クラリネットとピアノデュオコンサート ・「宮廷のみやび展」関連イベント（連続講演会） ・「薬師寺展」関連イベント（記念対談、特別講演会、ガイダンス）
東京芸術大学学生 ボランティア（９人）	【ギャラリートーク班】６名 各自テーマに基づき６名が５回ずつ（前・後期10回）実施 〈前期テーマ〉　９～11月　計30回　658人参加 ・東南アジアの彫刻 ―カンボジア、さまざまな神々のすがた― ・京都・禅林寺所蔵、国宝「金銅蓮華唐草文磬」―蓮華文にみる平安貴族の美意識― ・前田青邨筆「切支丹と仏徒」について　―大正期歴史画にみるロマンティシズム― ・江戸時代のファッション・モード　―小袖の意匠を読み解く― ・黒田清輝の作品について　―日本近代初期の洋画が目指したもの― ・憧憬の中国絵画　―名品の神髄に迫る― 〈後期テーマ〉　20年１～３月　計24回　636人参加 ・雪舟筆「秋冬山水図」―伝統からの逸脱―

	・近代工芸美術 ―鋳金家たちの『生き方革命』― ・津田信夫「白熊置物」―『置物』に対する眼差し― ・浅井忠「春畝」―浅井忠と近代洋画の春 ― ・国宝・興福寺金堂鎮壇具　―史上最高の土地鎮めの宝物― 【制作班】３名　「制作工程模型展示　押出仏のできるまで」 法隆寺宝物館において展示している阿弥陀三尊および僧形像の模型の作成およびギャラリートークを実施。 展示期間　20年２月26日～６月１日 ギャラリートーク　20年３月６、８、11、13、15日　計５回　109名参加

【京都国立博物館】

・京都橘大学学生による平常展解説（10月18日～11月９日の木・金（13時～、14時半～、16時～））（18人）

・調査研究補助ボランティア（５人）

種　別（登録人数）	概　　要
京都橘大学学生による平常展解説ボランティア（18人）	京都橘大学との学術協定に基づき、当館研究員が事前講習を行い、10月18日から11月９日までの毎木・金曜日の午後１時、２時半、４時からの３回、平常展示館１階展示室にて、展示作品の解説を実施
調査研究支援ボランティア（５人）	当館研究員が行う収蔵品調査・社寺調査等の調査・研究業務を支援

【奈良国立博物館】

解説ボランティア（85人）

・展示会場での作品解説（平常展･特別展･特別陳列等）　延べ316日
・学校団体グループ案内　（事前予約制）　16件
・その他団体グループ案内（事前予約制）　19件
・講堂での作品解説（正倉院展期間中）　96回
・講座、文化財教室等の支援　27回
・世界遺産学習の対応　32回

イベントボランティア（11人）

・イベント開催時の支援　６回

【九州国立博物館】

種　別（登録人数）	概　　要
展示解説ボランティア（54人）	文化交流展室で解説
教育普及ボランティア（72人）	「あじっぱ」で来館者への対応
館内案内ボランティア（34人）	館内案内およびバックヤードの案内
外国語通訳ボランティア（48人）	英語・韓国語・中国語で、館内およびバックヤードの案内
環境ボランティア（28人）	ＩＰＭ（総合的有害生物管理）活動に関する支援
イベントボランティア（14人）	正月、昭和の日、七夕関連イベントの企画・立案・実施
学生ボランティア（43人）	春・夏休みのイベントの企画・立案・実施

（研修）全体研修17回、班別（部会別）研修105回、グループ研修54回

（対応来館者数）展示解説(6,332人)、館内案内(6,684人)、バックヤードツアー(3,443人)

【奈良文化財研究所】

種　別（登録人数）	概　　要
解説ボランティア（131人）	平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等

専門研修	6日間／年
平城宮跡クリーンフェスティバル	1日間／年
『続日本紀』読書会　1日間／月
清掃活動	11日間／年
NPO通歴史文化講演会	3日間／年
万葉集勉強会	1日間／月
拓本づくり教室・出前教室	10日間／年

ｃ．ウェブサイト（ホームページ）のアクセス件数

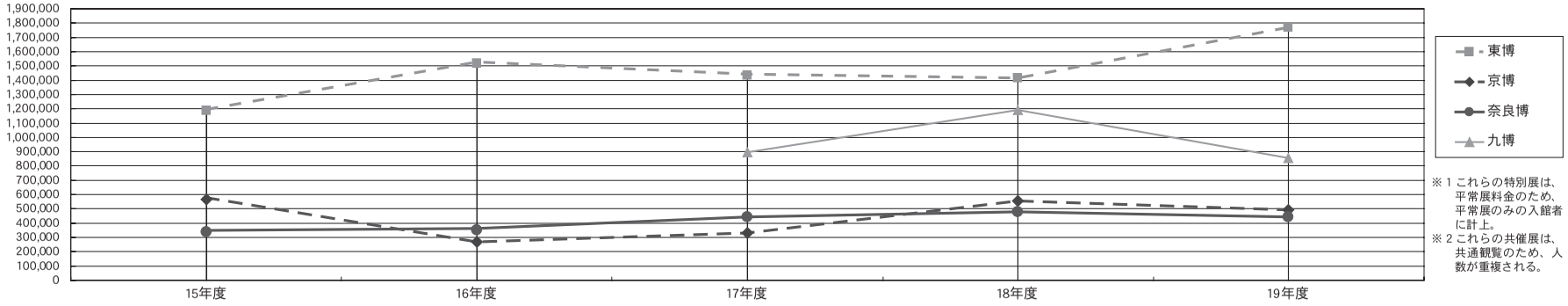
東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
5,504,468件	733,885件	1,402,834件	5,943,616件	1,526,409件	923,466件

d．展示

①　入館者数

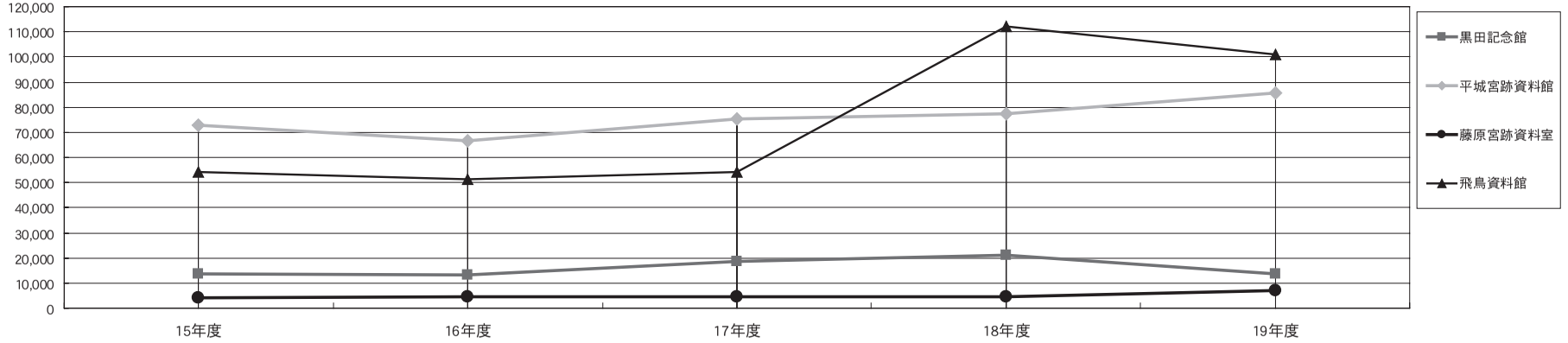
年度					15	16	17	18	19
国立文化財機構	**総入館者数**				**2,126,449**	**2,161,818**	**3,115,134**	**3,645,023**	**3,764,567**
	平常展	計			589,946	543,976	820,033	1,147,804	1,095,925
		有料	一般		272,178	250,359	421,836	634,662	506,568
			高校生		64,072	57,819	73,556	102,470	99,428
			大学生						
			小・中生		—	—	—	—	—
			友の会		43,098	41,875	60,524	68,557	70,641
		無料	一般		—	—	—	—	106,078
			小・中生		83,605	67,030	114,371	189,496	175,712
			高校生		12,591	12,591	11,234	13,828	15,270
		招待者等			114,402	112,768	138,512	138,791	122,228
	特別展	計			1,536,503	1,617,842	2,295,101	2,497,219	2,668,642
		有料	一般		954,464	1,024,415	1,450,830	1,674,220	1,769,987
			高・大生		92,467	84,706	110,305	124,212	131,777
			小・中生		60,061	17,546	52,863	55,681	27,172
			友の会		54,020	68,958	72,202	91,580	86,194
		無料	小・中生		—	31,331	24,944	21,681	65,033
		招待者等			375,491	390,886	583,957	529,845	588,479
東京国立博物館	**総入館者数**				**1,196,408**	**1,527,677**	**1,443,719**	**1,417,195**	**1,768,198**
	平常展	計			328,617	309,884	340,989	361,773	334,297
		有料	一般		154,014	148,737	158,662	179,924	165,190
			高校生		—	—	—	—	—
			大学生		33,010	32,906	34,908	32,734	28,514
			小・中生		—	—	—	—	—
			友の会等		36,039	34,942	49,451	55,649	52,862
		無料	小・中生		33,396	27,470	31,844	31,540	26,471
			高校生		12,591	14,125	11,234	13,828	15,270
		招待者等			59,567	51,704	54,890	48,098	45,990
	特別展	計			867,791	1,217,793	1,102,730	1,055,422	1,433,901
		有料	一般		497,290	791,838	634,606	685,137	946,113
			高・大生		45,384	59,416	56,744	59,466	80,862
			小・中生		18,168	—	314	3,177	—
			友の会		35,684	51,145	50,598	60,958	52,662
		無料	小・中生		—	31,331	24,944	19,729	50,499
		招待者等			271,265	284,063	335,524	226,955	303,765
京都国立博物館	**総入館者数**				**578,553**	**269,111**	**331,605**	**556,770**	**492,414**
	平常展	計			143,454	147,935	153,174	146,752	165,080
		有料	一般		64,805	63,378	62,974	57,283	67,586
			高・大生		20,018	17,655	16,628	15,821	21,182
			小・中生		—	—	—	—	—
			友の会		2,631	4,938	4,814	4,460	5,968
		無料	小・中生		14,780	12,466	13,635	21,988	15,325
		招待者等			41,220	49,498	55,123	47,200	55,019
	特別展	計			435,099	121,176	178,431	410,018	327,334
		有料	一般		304,919	67,568	102,393	249,037	197,198
			高・大生		31,161	8,184	13,656	26,903	17,763
			小・中生		29,852	1,785	3,676	6,749	4,279
			友の会		9,538	6,167	7,476	15,133	12,092
		無料	小・中生		—	—	—	1,952	—
		招待者等			59,629	37,472	51,230	110,244	96,002
奈良国立博物館	**総入館者数**				**351,488**	**365,030**	**444,712**	**477,638**	**442,914**
	平常展	計			117,875	86,157	113,983	137,739	131,336
		有料	一般		53,359	38,244	45,569	59,868	58,914
			高・大生		11,044	7,258	9,452	10,569	9,919
			小・中生		—	—	—	—	—
			友の会		4,428	1,995	3,056	4,888	4,188
		無料	小・中生		35,429	27,094	36,134	39,852	48,069
		招待者等			13,615	11,566	19,772	22,562	10,246
	特別展	計			233,613	278,873	330,729	339,899	311,578
		有料	一般		152,255	165,009	172,986	264,119	235,865
			高・大生		15,922	17,106	16,467	13,786	13,430
			小・中生		12,041	15,761	11,172	19,682	6,463
			友の会		8,798	11,646	10,545	8,423	9,790
		招待者等			44,597	69,351	119,559	33,889	46,030
九州国立博物館	**総入館者数**						**895,098**	**1,193,420**	**854,138**
	平常展	計					211,887	501,540	341,282
		有料	一般				154,631	337,587	207,350
			高・大生				12,568	43,346	37,835
			小・中生				—	—	—
			友の会				3,203	3,560	7,623
		無料	小・中生				32,758	96,116	81,707
		招待者等					8,727	20,931	6,767
	特別展	計					683,211	691,880	512,856
		有料	一般				540,845	475,927	356,430
			高・大生				23,438	24,057	16,981
			小・中生				37,701	26,073	16,430
			友の会				3,583	7,066	11,650
		招待者等					77,644	158,757	111,365
黒田記念館	**総入館者数**								**13,707**
	平常展	計							13,707
		無料	一般						13,707
平城宮跡資料館	**総入館者数**								**85,486**
	平常展	計							85,486
		無料	一般						85,486
藤原宮跡資料室	**総入館者数**								**6,885**
	平常展	計							6,885
		無料	一般						6,885
飛鳥資料館	**総入館者数**								**100,825**
	平常展	計							17,852
		有料	一般						7,528
			高・大生						1,978
		無料	小・中生						4,140
		招待者等							4,206
	特別展	計							82,973
		有料	一般						34,381
			高・大生						2,741
		無料	小・中生						14,534
		招待者等							31,317

②　入館者数（過去５ヵ年）



※１ これらの特別展は、平常展料金のため、平常展のみの入館者に計上。
※２ これらの共催展は、共通観覧のため、人数が重複される。

	15年度（国立博物館）		16年度（国立博物館）		17年度（国立博物館）		18年度（国立博物館）		19年度（国立文化財機構）	
計	総　合　計	2,126,449	総　合　計	2,161,818	総　合　計	3,115,134	総　合　計	3,645,023	総　合　計	3,764,567
	平常展のみの入館者	589,946	平常展のみの入館者	543,976	平常展のみの入館者	820,033	平常展のみの入館者	1,147,804	平常展のみの入館者	1,095,925
	特別（共催）展計	1,536,503	特別（共催）展計	1,617,842	特別（共催）展計	2,295,101	特別（共催）展計	2,497,219	特別（共催）展計	2,668,642
東博	総　計	1,196,408	総　計	1,527,677	総　計	1,443,719	総　計	1,417,195	総　計	1,768,198
	平常展のみの入館者	328,617	平常展のみの入館者	309,884	平常展のみの入館者	340,989	平常展のみの入館者	361,773	平常展のみの入館者	334,297
	特別（共催）展計	867,791	特別（共催）展計	1,217,793	特別（共催）展計	1,102,730	特別（共催）展計	1,055,422	特別（共催）展計	1,433,901
	特別展「伊能忠敬と日本図」	※1(132,743)	特別展「空海と高野山」	270,878	特別公開　中宮寺　国宝・菩薩半跏像	36,835	特別展「最澄と天台の国宝」	197,859	特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ 天才の実像」	689,775
	特別展　帰国展「日本の美　日本の心」	※1(99,899)	特別展「万国博覧会の美術」	150,672	特別展「世界遺産　博物館島ベルリンの至宝展」	337,475	特別展「プライスコレクション　若冲と江戸絵画展」	317,712	特別展「京都五山　禅の文化」展	108,917
	特別展「西本願寺展」(4/1～)	142,802	特別展「中国国宝展」	272,754	特別展　「模写・模造と日本の美術」	※1（104786）	特別展「仏像　一木にこめられた祈り」	335,489	特別展「大徳川展」	425,492
	特別展「鎌倉－禅の源流」	101,613	特別展「国宝 鑑真和上像と盧舎那仏展」	402,921	特別展　「遣唐使と唐の美術」	99,812	特別展「悠久の美　中国国家博物館名品展」	98,133	特別展「宮廷のみやび－近衛家1000年の名宝」	157,718
	特別展「アレクサンドロス大王と東西文明の交流展」	234,645	特別展「踊るサテュロス」	73,914	特別展「華麗なる伊万里・雅の京焼」	95,090	特別展「マーオリ　楽園の神々」	※1(72,720)	特別展「平城遷都1300年記念 国宝 薬師寺展」	51,999
	特別展「煌きのダイヤモンド展」	121,989	特別公開「中宮寺　国宝・菩薩半跏像」(～3/31)	46,654	特別展「北斎展」	332,939	特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ 天才の実像」	106,229		
	特別展「国宝　大徳寺聚光院の襖絵」	145,936			特別展「書の至宝」	185,334				
	特別展「南禅寺」	120,806			特別公開「国宝・天寿国繍帳と聖徳太子」	※1（4,414）				
					特別展「最澄と天台の国宝展」	15,245				
京博	総　計	578,553	総　計	269,111	総　計	331,605	総　計	556,770	総　計	492,414
	平常展のみの入館者	143,454	平常展のみの入館者	147,935	平常展のみの入館者	153,174	平常展のみの入館者	146,752	平常展のみの入館者	165,080
	特別（共催）展計	435,099	特別（共催）展計	121,176	特別（共催）展計	178,431	特別（共催）展計	410,018	特別（共催）展計	327,334
	特別展「空海と高野山」	237,684	特別展「南禅寺」	62,665	特別展「曽我簫白展－無頼という愉悦－」	45,964	特別展「大絵巻展」	186,772	特別展「金峯山埋経1000年記念特別展覧会　藤原道長－極めた栄華・願った浄土－」	37,411
	特別展「アート オブ スターウォーズ」	120,682	特別展「神々の美の世界」	41,731	特別展「龍馬の翔けた時代」	49,830	特別展「開館記念110周年記念　美のかけはし」	59,280	特別展「狩野永徳」	230,656
	特別展「金色のかざり－金属工芸にみる日本美」	27,279	特別展「古写経－聖なる文字の世界－」	16,780	特別展「最澄と天台の国宝展」	82,637	特別展「京焼－みやこの意匠と技－」	25,283	特別展「修好通商条約締結150周年　憧れのヨーロッパ陶磁－マイセン・セーヴル・ミントンとの出会い－」	59,267
	特別展「アート オブ スターウォーズ 2」	49,454					特別展「京都御所障壁画－御常御殿と御学問所－」	138,683		
奈良博	総　計	351,488	総　計	365,030	総　計	444,712	総　計	477,638	総　計	442,914
	平常展のみの入館者	117,875	平常展のみの入館者	86,157	平常展のみの入館者	113,983	平常展のみの入館者	137,739	平常展のみの入館者	131,336
	特別（共催）展計	233,613	特別（共催）展計	278,873	特別（共催）展計	330,729	特別（共催）展計	339,899	特別（共催）展計	311,578
	特別展「女性と仏教　いのりとほほえみ」	26,905	特別展「法隆寺－日本仏教美術の黎明－」	73,716	特別展「曙光の時代-ドイツで開催した日本考古展-」	26,688	特別展「大勧進　重源」	41,813	特別展「神仏習合－〈かみ〉と〈ほとけ〉が織りなす信仰と美－」	40,493
	特別展「インド・マトゥラー彫刻展」※2	62,804	特別展「黄金の国・新羅－王陵の至宝－」	26,407	特別展「古密教－日本密教の胎動」	32,250	特別展「北村昭斎―漆の技―」	14,571	特別展「美麗　院政期の絵画」	22,696
	特別展「パキスタン・ガンダーラ彫刻展」※2	62,804	特別展「第56回正倉院展」	131,978	特別展「遣唐使と唐の美術」	21,196	特別展「第58回正倉院展」	283,515	特別展「第59回正倉院展」	248,389
	特別展「第55回正倉院展」	143,904	特別展「厳島神社国宝展」	43,380	特別展「第57回正倉院展」	234,391				
			特別展「曙光の時代－ドイツで開催した日本考古展－」	3,392	特別展「金沢文庫の名宝－鎌倉武家文化の精華－」	16,204				
					特別展「公慶上人－江戸時代の大仏復興と奈良－」					
九博					総　計	895,098	総　計	1,193,420	総　計	854,138
					平常展のみの入館者	211,887	平常展のみの入館者	501,540	平常展のみの入館者	341,282
					特別（共催）展計	683,211	特別（共催）展計	691,880	特別（共催）展計	512,856
					開館記念特別展「美の国 日本」	441,938	特別展「中国　美の十字路」	10,690	特別展「未来への贈りもの－中国泰山石経と浄土教美術－」	77,380
					特別展「中国　美の十字路」	241,273	特別展「うるま　ちゅら島　琉球」	177,478	特別展「日本のやきもの－選び抜かれた名宝120点」	50,986
							特別展「南の貝のものがたり」	63,560	特別展「本願寺展－親鸞と仏教伝来の道」	197,697
							特別展「発掘された日本列島2006－新発見考古速報展－」		特別展「京都五山　禅の文化」展	171,336
							特別展「海の神々－捧げられた宝物」	139,981	特別展「国宝　大絵巻展　京都国立博物館所蔵・寄託の名宝一挙大公開」	15,457
							特別展「プライスコレクション　若冲と江戸絵画展」	300,171		



	15年度（文化財研究所）		16年度（文化財研究所）		17年度（文化財研究所）		18年度（文化財研究所）		19年度（国立文化財機構）	
計	**総合計**	**145,015**	**総合計**	**135,638**	**総合計**	**152,731**	**総合計**	**215,120**		
	平常展のみの入館者	**115,206**	**平常展のみの入館者**	**107,554**	**平常展のみの入館者**	**119,175**	**平常展のみの入館者**	**119,223**		
	特別（共催）展計	29,809	特別（共催）展計	28,084	特別（共催）展計	33,556	特別（共催）展計	95,897		
黒田記念館	総計	13,768	総計	13,083	総計	18,596	総計	20,975	総計	13,707
	平常展のみの入館者	13,768	平常展のみの入館者	13,083	平常展のみの入館者	18,596	平常展のみの入館者	20,975	平常展のみの入館者	13,707
	特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計	
平城宮跡資料館	総計	73,007	総計	66,802	総計	75,267	総計	77,560	総計	85,486
	平常展のみの入館者	73,007	平常展のみの入館者	66,802	平常展のみの入館者	75,267	平常展のみの入館者	77,560	平常展のみの入館者	85,486
	特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計	
藤原宮跡資料室	総計	4,091	総計	4,560	総計	4,707	総計	4,457	総計	6,885
	平常展のみの入館者	4,091	平常展のみの入館者	4,560	平常展のみの入館者	4,707	平常展のみの入館者	4,457	平常展のみの入館者	6,885
	特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計	
飛鳥資料館	総計	54,149	総計	51,193	総計	54,161	総計	112,128	総計	100,825
	平常展のみの入館者	24,340	平常展のみの入館者	23,109	平常展のみの入館者	20,605	平常展のみの入館者	16,231	平常展のみの入館者	17,852
	特別（共催）展計	29,809	特別（共催）展計	28,084	特別（共催）展計	33,556	特別（共催）展計	95,897	特別（共催）展計	82,973
	特別展「ASUKA 1/500」	12,752	特別展「飛鳥の湯屋」	12,381	特別展「飛鳥の奥津城」	17,512	特別展「キトラ古墳と発掘された壁画たち」	76,738	特別展「キトラ古墳壁画四神玄武」	67,007
	特別展「古年輪」	15,446	特別展「古代の梵鐘」	13,131	企画展「古墳を飾る」	3,214	特別展「飛鳥の金工」	12,029	企画展「「とき」を撮す－発掘調査と写真－」	3,344
	企画展「重文指定記念」	1,611	企画展「豊山長谷寺本堂」	2,572	特別展「東アジアの古代苑池」	10,867	企画展「東アジアの十二支像」	3,816	特別展「重要文化財指定記念　奇偉荘厳　山田寺」	9,342
					特別展「うずもれた古文書」	1,963	企画展「発掘調査速報展」	3,314	企画展「飛鳥の考古学2007」	1,589
									企画展「絵で見る考古学－早川和子原画展」	1,691

③　入場料収入

（単位：円）

	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
国立文化財機構	606,129,050	645,640,470	818,092,976	1,034,937,495	1,081,304,872
東京国立博物館	284,455,445	407,855,470	339,699,448	391,263,820	514,039,330
京都国立博物館	168,992,520	58,892,260	89,638,610	144,399,600	130,218,030
奈良国立博物館	152,681,085	178,892,740	195,659,750	246,395,770	228,342,700
九州国立博物館			193,095,168	252,878,305	182,000,762
飛鳥資料館					24,975,310
東京文化財研究所 黒田作品共催展					1,728,740

④　平常展・特別展

【東京国立博物館】

⑴　平常展

１）開館期間　４月１日～20年３月31日(310日間)

平常展のみの開館日数　101日間

２）会　　場

①　本　館　　１階、２階

②　東洋館　　１階、２階、３階

③　法隆寺宝物館　　１階、２階

④　平成館　　１階

（参考）黒田記念館　２階

３）陳列品総件数　　10,223件（うち国宝　321件、重要文化財　784件）

①　本館・平成館企画展示室　　4,536件（うち国宝　258件、重要文化財　293件）

②　東洋館　　3,410件（うち国宝　20件、重要文化財　89件）

③　法隆寺宝物館　　474件（うち国宝　17件、重要文化財　217件）

④　平成館考古展示室　　1,803件（うち国宝　26件、重要文化財　185件）

（参考）黒田記念館　43件（うち国宝０件、重要文化財２件）

４）陳列替回数　　延べ319回

５）入場料金　　一般600円、大学生400円

６）特集陳列　　全84件

①　本館・平成館

◉国宝　◎重要文化財　○重要美術品

場所	テーマ	開催期間	陳列件数 (国宝・重文)
本館２階 特別１・２室	下絵―悩める絵師たちの軌跡	19年２月20日(火)～４月１日(日)	20(0.0)
	＜主な作品＞坪内老大人像画稿、江戸城障壁画下絵(西の丸表 大広間法眼溜・上段の間)、石山寺縁起稿本		
	「下絵(下画)」は工芸品の下図や、書の料紙を装飾する絵を指すこともあるが、絵を描くための下描き・画稿・稿本という意味もある。絵師たちは実際の画面に描く前に、別の紙に下絵を描いて構図や配色を練った。一図のために何枚も描かれた下絵や、部分図を貼り合わせて作られた下絵を見ると、構想の変化の過程や絵師の苦心・工夫のあとがよくわかる。また、生き生きとした自由な筆遣いで描かれた下絵には、完成画にはない迫力を発揮するものもあって、その絵師の力量をあらためて見直すことがある。 現代のわれわれはすべての改変が絵師本人の意思で行われていると思いがちだが、実際は依頼者の注文による変更が少なくない。とりわけお抱え絵師の場合、将軍や藩主の“お好み”は絶対であった。意にそぐわない命令でも従わなくてはならなかった絵師たちには、相当なストレスがたまったにちがいない。この展示は、そうした悩める絵師たちの心の軌跡を下絵から読みとってもらうべく企画した展示である。		
本館２階 ９室	歌舞伎衣裳「道成寺と桜」	19年２月20日(火)～４月22日(日)	12(0.0)
	＜主な作品＞振袖 紅縮緬地桜流水模様（歌舞伎衣裳)、襦袢 淡紅繻子地立雛貝桶模様（歌舞伎衣裳)		
	歌舞伎の道成寺に用いられる衣装の特集。特に桜をあしらったものを加えた。道成寺を演じた役者絵の浮世絵も合わせて展示した。		

本館１階 14室	お雛様と人形	19年２月27日(火)～４月８日(日)	52(0.0)
	＜主な作品＞紫檀象牙細工蒔絵雛道具、内裏雛		
	三月三日の桃の節句にちなむ、毎年恒例の雛飾りの特集。今回は、江戸時代中期以降主流となった内裏雛を中心に江戸時代、京都の伝統工芸である御所人形を特集して展示した。		
本館１階 16室	日本の博物学　「船の世界」	19年２月27日(火)～４月22日(日)	33(0.1)
	＜主な作品＞将軍乗船図、阿蘭陀船図		
	四方を海に囲まれた日本は､昔から海と船から多くの恩恵を受けてきた。古い時代の船は、出土品を除いてほとんど現存していないが、絵画資料などを手がかりとして、当時の船の姿を知ることができる。鎌倉時代の海船から、江戸幕府の御座船、商船、漁船、漂着船にいたるまで、船の歴史を伝える資料を展示した。		
本館１階 15室	アイヌの暮らし	19年３月６日(火)～５月27日(日)	46(0.0)
	＜主な作品＞船模型、アットゥシ、帯織機、イクパスイ、マキリ		
	「アイヌの暮らし」をテーマとして展示した。アイヌ民族の主要な生業である紡織および狩猟・漁撈にちなんだ道具を中心に、船や家の模型もあわせて紹介した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫した。		
平成館 企画展示室	桜	19年３月24日(土)～４月８日(日)	16(0.0)
	＜主な作品＞名所江戸百景・上野清水堂不忍池、色絵桜樹図皿、『櫻品』		
	平安時代より現在に至るまで、日本人の心の琴線に触れる花として愛される桜。絵画や工芸作品においても桜を扱った作品が数多く作られてきた。更に、江戸時代中期以降には、博物学的な視点も加わり、桜の種別を詳細に描き分けた図譜類も登場するようになる。 本展示は、上野公園のお花見の季節に合わせ、浮世絵や工芸作品、図譜類に描かれた桜を通し、イメージの中のお花見を楽しんでいただこうとして企画した。		
平成館 企画展示室	黒田記念館　黒田清輝の作品Ⅰ	４月10日(火) ～５月６日(日)	22(0.1)
	＜主な作品＞◎湖畔、自画像、栗拾い		
	この特集陳列は、独立行政法人博物館と独立行政法人文化財研究所の統合を記念して行う陳列である。 文化財研究所は、美術に関する学術的調査研究と研究資料の収集を目的として、昭和５年(1930)、黒田記念館内に開設された帝国美術院附属美術研究所を前身とする。黒田記念館は、黒田清輝(1866～1924)の美術奨励の遺志にもとづき、彼の作品と遺産の一部が国に寄贈されたことを受けて昭和３年(1928)に竣工された施設である。当初より、彼の画業を顕彰するための「黒田記念室」が施設の２階に設けられ、寄贈作品が陳列されてきた。 現在、記念館では毎週木曜・土曜の午後１時から４時まで作品を公開している。今回の特集陳列では、これまで以上により多くの方々にご覧頂く機会をもってもらうことを主眼として、黒田の代表作である「湖畔」(重文)を始めとして、フランス留学時代から晩年までに制作された作品から油彩画14件と素描８件を選び、黒田芸術のエッセンスを紹介した。		

本館１階 14室	水滴－動物や野菜をかたどった水入れ－	４月10日(火)～７月１日(日)	85(3.0)
	＜主な作品＞◉水滴（水盂）、自然釉水滴、金銅花鳥文水滴、牛水滴、駱駝水滴、白鳥水滴、桃水滴、李白水滴、盆栽水滴		
	水滴は毛筆で文字を書こうとするとき、硯に注ぐ水を蓄えておく容器である。平城宮跡からは、丸形や長方形、ラグビーボール状などの陶製の水滴が出土しており、奈良時代には使われていたことが知られ、法隆寺献納宝物には、聖徳太子所用と伝える水滴（水盂）が伝世している。日本で水滴といえば、硯、筆、墨とともに、これらをセットとして収納する硯箱の中に入れられているものを思いうかべる。硯箱に入っている水滴は、平安時代から明治時代まで、概して箱の高さが低いため、小形で、平らなものが多いが、江戸時代になると、銅の鋳造によって牛や兎、犬、桃、瓜、胡瓜、布袋、李白、蛙、亀といった動物や植物、人物など、硯箱に収められていたものとは異なり、造形的にみても優れたものが作られた。この特集陳列では、奈良から江戸時代までの水滴の歴史を概観し、江戸時代の形象水滴を紹介した。		
本館２階 ７・８室	屏風	４月24日(火)～６月３日(日)	23(0.3)
	＜主な作品＞正倉院鳥毛篆書屏風(模本)		
	普段、屏風の展示は、そこに描かれた絵や書そのものの鑑賞を中心としているが、この展示では､空間を仕切って特定の場を作り出すという調度品としての屏風自体の形式や機能、歴史の変遷という意識をもって、屏風を全体として眺めてみようとする。１枚１枚をつなげた形式から紙の蝶番による形式へという構造の変化、それにともなう１枚１枚独立した画面から連続画面へという画面形式の変化、屏風自体に大きさや６曲・８曲・２曲という規模の違いなどの観点から選んだ屏風、あるいは絵巻の中に描かれた屏風の使用場面を通して、変化に富んだ屏風の世界の一端を示した。		
本館１階 16室	歴史を伝える　「雛形に学ぶ」	４月24日(火)～６月３日(日)	22(0.0)
	＜主な作品＞模造　逆沢瀉威鎧雛形、京都大仏雛形		
	雛形には、実物を小さくかたどって作ったもの、模型、形式・様式を示す見本、書式などの意味がある。流行のきっかけとなったデザインや、伝統的な技法などを今日に伝える、多彩で楽しい雛形の世界をご覧いただいた。		
本館２階 ９室	能「杜若」の面・装束	４月24日(火)～６月17日(日)	10(0.0)
	＜主な作品＞長絹 紫地扇牡丹菊模様、縫箔 紅白緑紫段籠目杜若模様		
	江戸時代の能面・能装束、あるいは舞楽衣裳、歌舞伎衣裳など江戸の芸能に使用された衣裳を中心に、年６回の陳列を行う。能面・能装束の展示では、謡曲にあわせて能面と装束を組み合わせて展示した。		
平成館 企画展示室	海外の日本美術品の修復	５月15日(火)～５月27日(日)	6(0.0)
	＜主な作品＞見立反魂香図、源平合戦図屏風		
	博物館と文化財研究所の統合記念の一環として、文化財研究所が行ってきた海外所在の日本美術の保存修復事業を紹介するための特集陳列である。 1991年、文化庁、外務省、国際交流基金、東京文化財研究所が共同で始めた在外日本古美術品保存修復事業は、当初アメリカ合衆国内の機関が所蔵する日本絵画の修復への協力として始まった。その後、範囲をヨーロッパ諸国へ拡大し、絵画だけでなく漆芸品や武器・武具なども対象に加えた。現在までに44館、323点の実績を上げている。 海外所在の日本の古美術品は、国内所在のものと比較して損傷が激しいものが多いにもかかわらず、現地で修復することが難しいため、本事業の重要性は高いといえる。 今回の展示では、2006年度に修復の完了した作品を展示した。事業の紹介とともに、普段日本国内では見られない、海外所在の日本の古美術作品を陳列した。		

本館１階 15室	琉球の工芸	５月29日(火)～９月17日(月・祝)	47(0.0)
	＜主な作品＞菊堆錦食籠、龍螺鈿盆、単衣　紺芭蕉地花織、紅型衣装　薄藍色地水に菊芦に雁模様、女釵、男釵、金製指輪、カラカラ、厨子甕、樹下人物螺鈿沈金食籠、水瓶		
	第二尚氏時代を中心とした琉球の工芸作品を陳列した。これまでの琉球民族資料陳列と同様、『琉球国奇観』等の写真パネルを多く用いて、作品の使い方等を具体的にイメージできるよう工夫した。		
本館１階 16室	歴史を伝える「古写真－記録と記憶－」	６月５日(火)～７月１日(日)	49(0.1)
	＜主な作品＞聖堂博覧会関係者記念写真、父島大村、◎旧江戸城写真帖、樫野崎燈台、第一回遣欧使節一行		
	写真は19世紀前半にヨーロッパで発明されるや、日本には早くも幕末にもたらされた。これは西欧の科学技術との出会いで、苦心の末、日本人の手による撮影に成功したものが「島津斉彬像」(銀板写真)である。これは近代化を急ぐ鹿児島藩ならではの出来事であったが、「写真術」は以降国内に普及していった。当館でも幕末・明治期の古写真を数多く所蔵しており、それらは失われた記憶の記録であると同時に優れて芸術表現の手段でもある。これまでその一部を公開してきたが、今回の特集では博覧会、景観、人物などのまとまりで紹介した。		
本館１階 13室	根来塗－朱漆の美	６月12日(火)～９月17日(月・祝)	27(0.2)
	＜主な作品＞◎朱漆折敷・擎子、◎朱漆三脚盤		
	中世の寺院で日常に用いられた器や調度で、黒漆の上に朱漆を塗り重ねたものを根来塗と称する。永年の使用で中塗の黒漆が表面にあらわれて朱漆と調和し、巧まざる味わいをみせるものが多い。瓶子・高杯・折敷など様々な器種をとりあげ、時を経た朱漆塗の魅力を示した。		
本館２階 特別２室	平成18年度新収品	６月19日(火)～７月16日(月・祝)	39(0.0)
	＜主な作品＞相州名勝図帖、如来頭部、色絵花卉図壺		
	昨年新たに収蔵品に加わった文化財より39件を選び、陳列した。新収品を通じ、文化財の収集という当館の事業の一端を示す展示とした。		
本館２階 特別１室	天皇の書―宸翰からみる書風の変遷―	６月19日(火)～８月19日(日)	18(1.1)
	＜主な作品＞○女房奉書、◎書状、◉東寺興隆条々事書御添書		
	奈良時代から江戸時代にかけて能書として知られる歴代天皇の作品を宸翰を中心に伝承作品も含めて展示した。天皇の書が時代の影響を受けてどのように変化していったのかを、来館者に、それらの個性的な作品をたどりながら、確認し、理解してもらうことを目的とした。		
本館２階 ９室	能「加茂」の面・装束	６月19日(火)～８月19日(日)	13(0.0)
	＜主な作品＞厚板 紅緑段雲矢襖鱗模様、長絹　紫地花熨斗桐模様		
	江戸時代の能面・能装束、あるいは舞楽衣裳、歌舞伎衣裳など江戸の芸能に使用された衣裳を中心に、年６回の陳列を行う。能面・能装束の展示では、謡曲にあわせて能面と装束を組み合わせて展示した。		

本館１階 16室	歴史を伝える「博物図譜―ものの真の姿を探る―」	７月３日(火)～８月26日(日)	25(0.1)
	＜主な作品＞◎青花魚藻文壺、鳥類図譜、博物館獣譜		
	東京国立博物館が所蔵する博物図譜の多くは、明治初年に博物局の田中芳男を中心とする天産部によって､収集あるいは作成・編集されたものである。田中らは江戸時代の図譜に、博物局の画家たちの図を加えて、博物館図譜を編集し、その成果は出版されて、西洋の学問の普及に役立てられた。その後、天産部は廃止され、博物図譜などの資料は帝室博物館歴史部に引継がれている。今回は、図譜を編集した堀田正敦、木村蒹葭堂や、画家の高橋由一、関根雲停、中島仰山、服部雪斎らにスポットをあて、動植物などの真の姿が生き生きと描かれた博物図譜を示し、また、田中芳男が博物館に寄贈した蝙蝠の玩具などの作品を展示した。		
本館１階 14室	親と子のギャラリー「博物館のおもちゃ箱」	７月３日(火)～９月24日(月・祝)	33(0.3)
	＜主な作品＞◎火取水取玉、◎石名取玉、自在龍置物、蘆蒔絵貝桶、武芸立身館双六、紙製玩具		
	夏休み恒例の「親と子のギャラリー」として､本年は当館所蔵の「おもちゃ」や「ゲーム」を集めて展示した。聖徳太子が子どもの頃に遊んだと伝えられる「火取水取玉」や「石名取玉」（ともに奈良時代、重要文化財）や江戸時代の双六盤、かるた、貝合せなど、今のおもちゃやゲームとはずいぶん違ったものに見えるが、遊ぶ楽しさは今のおもちゃに通じると思われる。表慶館「みどりのライオン」体験の間では､展示されたおもちゃの体験コーナーを設置し、その場で遊べる　オリジナル東博すごろく（裏面は展示作品から甲冑着用備双六）を制作し配布した。そのほか、関連ワークショップも行なった。		
平成館 企画展示室	板碑―中世の供養塔―	７月10日(火)～10月28日(日)	45(0.0)
	＜主な作品＞板碑（阿弥陀種子)､板碑（阿弥陀三尊種子)､板碑（阿弥陀三尊像)､板碑残欠、台石		
	板碑は、五輪塔・宝篋印塔とともに中世に供養塔として盛んに作られたが、近世には廃れてしまう。板碑は北海道から九州まで分布するが、特に埼玉を中心とした関東に多くみられ、中世の歴史や社会を研究する上で重要な資料の一つである。東京国立博物館には、178件の板碑が収蔵されているが、表慶館の入口脇に展示されている１個をのぞいて、ほとんど展示されたことがない。今回は､『東京国立博物館所蔵　板碑集成』の刊行をうけて、関東出土の板碑を中心に45件を展示した。		
本館１階 特別５室	仏像の道―インドから日本へ	７月27日(金)～20年４月６日(日)	21(0.4)
	＜主な作品＞如来坐像、◎如来坐像、◎如来三尊仏龕		
	これまで東洋館、本館、法隆寺宝物館に展示されていた仏像を一堂に会し、紀元２世紀のガンダーラから、中央アジア、中国、朝鮮半島をへて８世紀の奈良に至るまで、600年にわたる仏像の流れを概観する。仏像の誕生、中国への伝来、唐と奈良などのテーマを設け、それぞれの時代・地域で､どのような仏像が造られ､人々の信仰を集めていたかを紹介した。		
本館２階 特別２室	キリシタン－信仰とその証－	８月21日(火)～９月30日(日)	70(0.39)
	＜主な作品＞◎聖母像（親指のマリア)、◎キリスト像（エッケ・ホモ）		
	天文18年（1549）８月に日本に伝わったキリスト教は、天下を統一した織田信長のもとで興隆期を迎えたが、豊臣秀吉、徳川家康の禁教政策によってその信仰は困難を極めた。一定の信仰の自由が認められたのは、明治６年(1873)新政府が欧米の圧力でキリシタン禁制の高札を撤廃したときである。今回は、日本におけるキリスト教の布教とその受容の歴史を､キリシタン関係遺品などによって紹介する。シドッチ将来の聖母像(親指のマリア)や、『天正　遣欧使節記』、踏絵をはじめ、長崎奉行所による没収品であるロザリオ、十字架などの遺品を展示した。		

本館２階 ９室	「山姥」の面・装束	８月21日(火)～10月21日(日)	9(0.0)
	＜主な作品＞厚板 浅葱地三崩鳳凰菱模様、唐織 紅白段竹菊模様		
	江戸時代の能面・能装束、あるいは舞楽衣裳、歌舞伎衣裳など江戸の芸能に使用された衣裳を中心に、年６回の陳列を行う。能面・能装束の展示では、謡曲にあわせて能面と装束を組み合わせて展示した。		
本館１階 16室	歴史を伝える 「江戸の災害」	８月28日(火)～10月８日(月・祝)	30(0.0)
	＜主な作品＞安政二年江戸大地震附類焼場所図、鯰		
	９月１日の「防災の日」にちなみ、天明三年の浅間山噴火、安政二年江戸大地震など、江戸時代の災害に関する資料をとりあげる。また、日頃の備えとして行われていた防災の様子が知られる絵図や、消防のあり方を伝える大名火消行列図、龍吐水(消防ポンプ)などを展示した。		
本館２階 特別１室	東洋の名品―唐物	９月11日(火)～10月８日(月・祝)	16(5.4)
	＜主な作品＞◉夏景山水図、◉雪景山水図、◎出山釈迦図、◎雪景山水図、◉青磁下蕪瓶		
	鎌倉時代以降、日本には中国から禅宗とともに多くの書画器物が舶載された。それらの作品はやがて日本人固有の美意識に基づいて鑑賞されるようになり、新たに唐物としての意味づけをされ、書院の座敷飾や茶の湯の道具として用いられてきた。特に足利義満の蔵品を中心とする足利将軍家伝来のものは、東山御物として珍重された。近年、長い年月の間、分蔵されていた梁楷の出山釈迦図(重要文化財)と雪景山水図(国宝)、伝梁楷の雪景山水図(重要文化財)が、三幅対として再び揃うことになり、今春、梁楷の三幅対は、東山御物の最高の品格をもつ作品として、三幅三件の指定を統合して三幅一件の国宝として新たに指定されることになった。これを記念して、特集陳列「東洋の名品―唐物」を開催し、唐物の名品を一堂に集めて展示する。		
本館１階 15室	アイヌの祈り	９月19日(水)～12月16日(日)	52(0.0)
	＜主な作品＞首飾、アイヌ鍬形		
	「アイヌの祈り」をテーマとして展示した。アイヌ民族が祈りの場で使用した祭具や衣服、装身具などとともに、熊送りに関する作品を多く展示した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫した。		
本館１階 14室	描くやきもの－奔放なる鉄絵の世界	９月26日(水)～12月16日 (日)	29(0.2)
	＜主な作品＞粉青鉄絵魚文瓶、鉄砂草花文壺、志野茶碗 銘 振袖、◎鼠志野鶺鴒文鉢、◎錆絵観鴎図角皿／「大日本国陶者雍州乾山陶隠深省製于所屋尚古斎」銹絵銘、白釉鉄絵牡丹文瓶、青磁鉄絵花弁魚文鉢		
	鉄絵とは、鉄分を含む顔料で文様をあらわす技法をいう。入手しやすい身近な材料を用いることから、中国では青磁の完成とともに始まり、最も普遍的な絵付け技法として広く行われた。コバルトを呈色剤とする染付(青花)がさかんになってからも、民衆の日用の器の装飾技法として存続した。鉄絵は日本、朝鮮、東南アジアにも伝わり、日本では錆絵、朝鮮では鉄砂ともよばれる。陶磁史の底流に脈々と受け継がれ、大胆で生気に富んだ表現に特色がある鉄絵の魅力を、時代・地域の枠を超えて概観した。		
本館１階 16室	歴史を伝える「江戸をみる－徳川将軍家と江戸城－」	10月10日(火)～11月11日(日)	19(0.0)
	＜主な作品＞上棟式道具、御本丸城園中菊之御茶屋起絵図		
	江戸幕府の260年に及ぶ長期政権は、徳川家康、秀忠、家光の三代によってその基礎が確立された。家康はすぐれた組織者として今日でも高く評価されており、秀忠は五女和子の入内と二条城行幸を中心とする対朝廷政策や貿易の統制によって将軍権力の強化に大きな役割を果たした。また家光は、武家諸法度を改定して諸大名に参勤交代を義務付け、大名の財力を削減させる数々の措置を講じた他、朝廷とも安定した関係を築いたことで知られている。このような幕府権力の象徴が天下に威容を誇った江戸城である。長禄年間に太田道灌が築城に着手し、家康入封後拡張・整備されていった江戸城は、幕末・維新期の火災や取り壊しでほとんど失われたが、残された資料から往時の姿を再現し、また将軍権力の確立過程にかかわる文書等もあわせて紹介した。		

本館２階 特別２室	寛永の三筆とその書流	10月10日(水)～11月18日(日)	18(0.0)
	＜主な作品＞和歌屏風、長恨歌、和歌巻		
	近衛信尹・本阿弥光悦・松花堂昭乗の書は、日本書道史における近世の嚆矢と位置づけられ、後世「寛永の三筆」と呼ばれる。型の習得と秘事口伝を重視した中世の流儀書道を母胎とする彼らの書は、その源流となる平安以来の古筆・古典籍に学んでその書法を根本から革新し、同時に、桃山時代特有の活気ある空気に大胆に洗練され、時代の好みに叶うものとなった。記録と表現という観点から日本の書を概観するとき、中世では色濃い記録的な性格を、近世では表現性への顕著な志向が一つの特質として理解される。つまり、中世から近世へと脱皮した書の姿を､端的に「寛永の三筆」に看てとることができるのである。この特集陳列では三名それぞれに展開した書風だけでなく、それぞれの書流の追随者の作品をあわせて展示し、継承の様相についてもわかりやすい展示とした。		
本館２階 ９室	歌舞伎衣裳	10月23日(火)～12月24日(月・祝)	10(0.0)
	＜主な作品＞羽織 萌黄繻子地的矢模様、着付 萌黄繻子地 （茗荷紋付）		
	江戸時代の能面・能装束、あるいは舞楽衣裳、歌舞伎衣裳など江戸の芸能に使用された衣裳を中心に、年６回の陳列を行う。能面・能装束の展示では、謡曲にあわせて能面と装束を組み合わせて展示した。		
平成館 企画展示室	黒田記念館　黒田清輝の作品Ⅱ	11月６日(火)～12月２日(日)	22(0.0)
	＜主な作品＞自画像（トルコ帽)、編物、赤髪の少女		
	平成19年４月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所とが統合され、独立行政法人国立文化財機構が発足したことを記念して行う特集陳列である。 東京文化財研究所は、美術に関する学術的調査研究と研究資料の収集を目的として、昭和５年(1930)、黒田記念館内に開設された帝国美術院附属美術研究所を前身としている。黒田記念館は、黒田清輝(1866～1924)の美術奨励の遺志にもとづき、彼の作品と遺産の一部が国に寄贈されたことを受けて昭和３年(1928)に竣工された施設である。当初より、彼の画業を顕彰するための「黒田記念室」が施設の２階に設けられ、寄贈作品が陳列されてきた。現在、記念館では毎週木曜・土曜の午後１時から４時まで作品を公開している。 今回の特集陳列では、「編物」を始めとするフランス留学時代の作品を中心とする油彩画14件と、今回が初公開となるフランスで出版された『フィガロ・イリュストレイ』に掲載された挿絵の原画「日本風俗絵（人力車)」や「日本風俗絵（芸妓)」といった水彩画など８件を陳列し、黒田が日本の近代絵画にもたらした新たな造形表現を紹介した。		
本館１階 16室	歴史を伝える「日本を歩く－蝦夷・北海道編－」	11月13日(火)～12月16日(日)	34(0.1)
	＜主な作品＞蝦夷闔境輿地全図、幸大夫日記、奥尻島測量製図		
	現在の「北海道」という名称は、明治２年(1869) ８月15日に決定されたものである。中世頃には、「蝦夷地」や「蝦夷ヶ島」などと呼ばれ、江戸時代においては、「蝦夷」と呼ばれた北方地域を構成する一地域として認識されていた。18世紀末頃からの幕府による調査隊派遣や、個人の踏査を通じ、当時の人々は「蝦夷地」の様子を知ることとなっていく。また北海道の歴史は、アイヌの歴史にも重なる部分を多く持っている。今回の展示では、幕藩体制化における松前藩とアイヌの関係もふまえながら、江戸期の人々による「蝦夷地」認識をはじめとして、幕末期に松前藩士今井八九郎が作成した地図や、探検家松浦武四郎による紀行文のほか、アイヌによって大陸からもたらされた交易品などを通じ、「蝦夷」と呼ばれた北方地域の広がりを示した。。		

本館２階 特別２室	親と子のギャラリー「版でつくる」	11月27日(火)～12月24日(月・祝)	16(0.1)
	＜主な作品＞◎毘沙門天像印仏（毘沙門天立像像内納入品）		
	日本美術の中で、版による表現といえば一般的な江戸時代の浮世絵が思い浮かべられる。しかし、実は、もっと古くから版によって多様な作品が作られてきた。 この展示では、そうした版で作られた作品の多様な世界の一端に触れていただきたい。仏菩薩等の姿をスタンプにして沢山押し表した印仏、大量の需要に応える為作られた仏教版画、流麗な書を引きたたせる多様な文様を摺り出した装飾料紙、また多色木版の工程見本といえる順序摺りや、版木などを展示する。併せて、親と子のギャラリーとして、表慶館体験の間で、職人による摺りの実演や、簡単な装飾料紙制作の体験といった活動を行う。この機会に、版の世界の楽しさに触れていただいた。		
平成館 企画展示室	甲信地域の縄文土器	12月11日(火)～20年２月３日(日)	42(0.9)
	＜主な作品＞深鉢形土器(長野市松原遺跡出土)、深鉢形土器(長野県小諸市郷土遺跡出土)、◎深鉢形土器(山梨県甲州市塩山殿林遺跡出土)、◎有孔鍔付土器(山梨県笛吹市一の沢遺跡出土)、深鉢形土器(東京都あきる野市草花前出土)、顔面把手(東京都八王子市楢原町出土)		
	山梨県および長野県は縄文文化が隆盛を極めた地域の一つである。特に縄文時代中期は、広域に情報伝達がなされているが、そのことは勝坂式、曽利式、加曽利Ｅ式といった土器が、それぞれに共通の文様をもって広範囲に分布していることからもうかがうことができる。今回の特集陳列では、平成19年度考古資料相互貸借事業による長野県立歴史館・山梨県立考古博物館からの借用資料を中心にして、当館で所蔵している東京都多摩地域出土の土器を比較展示し、地域間交流の一端を示した。		
本館２階 ９室	舞楽装束	12月26日(水)～20年２月17日(日)	5(0.0)
	＜主な作品＞舞楽装束　貴徳　　萌黄唐草紋紗地窠紋散模様、舞楽装束　陪臚　　赤紗地紋散模様		
	江戸時代の能面・能装束、あるいは舞楽衣裳、歌舞伎衣裳など江戸の芸能に使用された衣裳を中心に、年６回の陳列を行う。能面・能装束の展示では、謡曲にあわせて能面と装束を組み合わせて展示した。		
本館２階 特別１・２室	博物館に初もうで「子年に長寿を祝う」	20年１月２日(水)～１月27日(日)	70(0.0)
	＜主な作品＞鼠草紙、十二神将立像（子神)、染付鼠に大根図菊形皿、篆書百福寿(七歳書)、叢梨地花鳥山水蒔絵脇差		
	かつて我々日本人の年齢の数え方は、誕生日を迎えて１歳ずつ年をとるという「満年齢」ではなく、正月１日で一緒に年をとる「数え年」が一般的であった。そのため、宮廷の貴族たちは正月の節会などで延年＝天下泰平を願った。また現代においてもこうした風俗が残されてきている。そこで、新年の干支である「ねずみ」をモチーフにした作品や資料とともに、「長寿・延命」の意味をこめた作品を紹介し、われわれ日本人がどのように新年を迎え、そして長寿を祈ったのかを跡付ける展示とした。		
本館１階 16室	歴史を伝える 「文化財－調査と保護－」	20年１月２日(水)～２月17日(日)	61 (0.26)
	＜主な作品＞◎古器物目録、◎壬申検査社寺宝物図集		
	今日文化財の調査は、博物館にとって欠かせない活動のひとつである。草創期の東京国立博物館にとっても古社寺や華族の所蔵品調査は、陳列品収集のためにも重要な事業であった。明治５年(1872)、このような文化財調査が初めて全国的な規模で行われました。これは当時の干支から「壬申検査」と呼ばれ、同年開催の文部省博覧会の出品に備えるものであったが、正倉院の開封をはじめ精力的に古社寺の調査が行われた。今回の特集では、当館に伝来する当時の資料を紹介し初期文化財調査の様子を紹介するとともに、あわせて文化財の保護について考える契機とした。		

本館１階 14室	甦る天平の宝－正倉院宝物模造	20年１月２日(水)～２月24日(日)	25(0.0)
	＜主な作品＞模造 金銀平文琴、模造　螺鈿紫檀阮咸、模造　螺鈿紫檀五絃琵琶		
	世界的至宝とも称えられる正倉院宝物は、年１回の正倉院展以外ではほとんど公開されることがない。当館にはその正倉院宝物を代表する華やかな作品の模造がまとまって保管されており、これを一堂に展示することにより、天平文化の精髄に触れていただく展示とした。		
本館１階 15室	アイヌの文様	20年１月２日(火)～３月30日(日)	56(0.0)
	＜主な作品＞上着、樺皮箱、匙、煙草入、木鉢		
	「アイヌの文様」をテーマとして展示した。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれる渦巻き文を中心に、祭具や衣服、工具や木工品などに施された多彩な飾りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、樺太ニブヒや樺太ウィルタの人びとがつくりだした文様についても紹介した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫した。		
本館１階 18室	高野コレクション－浅井忠の油彩画－	20年１月22日(火)～３月２日(日)	5 (0.0)
	＜主な作品＞読書		
	明治・大正・昭和の絵画・彫刻を中心に陳列した。明治５年(1872)の文部省博覧会を創立・開館のときとする当館は、万国博覧会への出品作や帝室技芸員の作品、岡倉天心が在籍していた関係から日本美術院の作家の代表作など、日本美術の近代化を考える上で重要な意味を持つ作品を数多く所蔵している。これらによって明治、大正、そして昭和の戦前にかけての日本近代の絵画と彫刻を概観した。		
本館２階 特別１室	館蔵能面名品撰	20年２月５日(火)～３月２日(日)	35(0.0)
	＜主な作品＞能面　父尉、能面　大天神、能面　若曲見、能面　平太、能面　十六		
	能面の陳列は能装束とあわせて本館９室で行なわれているが、ここでは安土桃山時代以前の作とみられる名品を中心に展示する。能面は室町時代から安土桃山時代にかけて新たな種類の面が造られ、また創意工夫が凝らされたが、江戸時代以降は世襲の面打ちが古い面を模作するようになった。ここで展示する金春座伝来の面は本面だった可能性のあるもので、創造の時代の所産であり、造形的に魅力に富む。また、あわせて豊臣秀吉から天下一の称号を与えられた是閑、近世初期の名工として名高い河内の作も展示とした。		
本館２階 特別２室	OYATOI―フォンタネージとラグーザ―	20年２月５日(火)～３月16日(日)	11(0.0)
	＜主な作品＞風景（不忍池)、デッサン(工部美術学校鉛筆画手本)、ラグーザ氏半身肖像、果実図、処女図		
	幕末・明治の日本は近代国家としての富国強兵をめざして西洋人を顧問、教師、技師などとして雇い入れた。いわゆる「お雇い外国人」と呼ばれる人々である。 その中で､日本の本格的な近代美術の基礎を築いた人物として､洋画家のアントニオ・フォンタネージと彫刻家のビンセンゾ・ラグーザが挙げられる。彼らは1876年に、日本で初めて官設の本格的西欧風美術教育機関として開設された工部美術学校の美術教師としてイタリアより招聘された。政府が求めたものはあくまで欧風建築の装飾技術としての西洋絵画・彫刻であり、学校自体は政府の財政悪化や国粋主義の高まりを背景として７年で閉校されてしまう。しかし、フォンタネージらの教育は政府の思惑を超え、その後の本近代美術の発展に大きな影響を与えるものとなった。今回の展示では、教材としてイタリアから持参したと見られる銅版画類、フォンタネージ自作の油彩画やデッサン、そして生徒たちの習作といった、当時の教育の現場を彷彿とさせる作品を展示した。		
平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	20年２月13日(水)～３月23日(日)	18(0.0)
	＜主な作品＞神扇、雪景、菩薩立像、壺形土器		
	毎年行われる当館所蔵文化財の保存修理100件余りの中から、代表的な例を選び写真解説などを添えて展示・紹介するもので、今年で８回目となる。今年は分野・形態・技法の点から18件の作品を陳列し、文化財の修理についての実例を紹介した。なお、同期間には、座談会、修理現場の見学ツアーも実施した。		

本館１階 16室	歴史を伝える　「東京帝室博物館歴史部の変遷」	20年２月19日(火)～３月30日(日)	48（0.2）
	＜主な作品＞◎聖母子像(ロザリオの聖母)、板踏絵、歴史服装人形(生人形)　天平時代貴紳女子盛装体		
	明治六年に博物局（東博の前身）が設置した考証課は、史伝課を経て、明治二十二年の帝国博物館の開館により歴史部となった。史伝課は「史伝上ノ疑ヲ解ク可キモノ又一日シテ了解シ難キモノノ図説ヲ作ル事」を行い、歴史部は、「時世ノ沿革ヲ徴スヘキ古今ノ物品ヲ蒐集陳列保管シ及ヒ之ニ関スル編著ノ事ヲ掌ル」ものだった。しかし昭和十二年の帝室博物館の大改正は、歴史課を廃止し、その列品を分解して、古美術の中に編入した。当時の研究員は「資料の文化史的価値を無視した分類」と書いている。過去の資料をみると、作品の収集、分類、展示が、どのような方針で行われていたかが知られる。今回、歴史部の変遷を紹介した。		
本館２階 ９室	能「箙」の面・装束	20年２月19日(火)～４月６日(日)	13(0.0)
	＜主な作品＞法被　金地蜀江模様、厚板唐織　緑白段檜垣梶葉模様		
	江戸時代の能面・能装束、あるいは舞楽衣裳、歌舞伎衣裳など江戸の芸能に使用された衣裳を中心に、年６回の陳列を行う。能面・能装束の展示では、謡曲にあわせて能面と装束を組み合わせて展示した。		
本館１階 14室	お雛様と人形	20年２月26日(火)～４月６日(日)	35(0.0)
	＜主な作品＞享保雛、衣裳人形　鶴亀		
	三月三日のひなまつりにちなんで、恒例の雛檀飾りのほか、嵯峨人形、衣裳人形、地方の雛人形などを特集陳列した。江戸時代を中心とする日本の伝統的な人形を展覧し、現代に息づく人形文化の源流をたどる機会とした。		
本館２階 特別１室	絵巻－模本が伝える失われた姿	20年３月11日(火)～４月６日(日)	9(0.0)
	＜主な作品＞天狗草紙　興福寺巻(模本)、大山寺縁起絵巻（模本）　巻１		
	王朝文学や寺社の縁起、高僧の生涯、著名な合戦、朝廷行事の記録など、さまざまな主題内容を、内容説明の詞書とそれに対応する絵で構成した絵巻物。平安時代以降、やまと絵の発展とともに多様な展開を遂げ、無数の作品が制作されてきた。それらの中には、現在に至るまでの間に行方のわからなくなったものや災害等で消失したものも多い。今回の展示は、そうした失われた絵巻たちを模本を通じて見ていただくものである。同時に、日本美術における模本制作という行為がもつ意味の一端も知っていただく展示とした。		

②　東洋館

◉国宝　◎重要文化財　○重要美術品

場所	テーマ	会期	陳列件数 (国宝・重文)
第８室	尺牘とその臨書	19年２月27日(火)～４月15日(日)	30(0.0)
	＜主な作品＞草書尺牘巻、都尉節使あて尺牘、草書尺牘巻、呂内機学士あて尺牘、草書尺牘冊、草書尺牘冊、臨柳公権尺牘軸、臨王羲之書軸、臨王羲之思想帖軸		
	意匠を凝らした美しい料紙に作者平生の書風を伝える宋・元・明・清時代の尺牘とともに、古法帖の尺牘を臨書した王鐸、傅山、包世臣ら、明・清時代の書軸の作例をあわせて展示した。		

第８室	中国近代絵画	19年３月６日(火)～４月８日(日)	28(0.0)
	＜主な作品＞富貴図、春静柳煙図、紫藤金魚図、富貴図、山水図、夜景山水図		
	乾隆年間(1736～95)に揚州八怪を中心とする揚州派が活躍したのち、中国絵画はしばらく低迷を続けたが、アヘン戦争(1840～42)後、経済的に急速に発展した上海を中心に、趙之謙や海上派と呼ばれる画家たちが、伝統的な画風を離れた新しい表現を創始し、中国近代絵画への道をひらいた。その後、清朝が滅んで中華民国が成立すると、上海、北京などには美術学校が設立され、学校派といわれる西洋画や日本画を学んだ画家たちが、清新で多様な画風を試みた。19世紀後半から20世紀前半までの約百年間、伝統的文人画と訣別した新しい中国絵画の流れを特集陳列した。		
第３室	インドの染織	19年３月６日(火)～５月27日(日)	15(0.0)
	＜主な作品＞ミラー刺繍婚礼儀式用具台、刺繍壁掛　赤紫地タージ・マハール花卉文様		
	インドやインドネシアなど、東南アジアの国や小さな島々で伝統的に製作されてきた更紗、アフガニスタンの遊牧民族によって製作されたハンドメイドの毛織物、イラン以前にペルシャで製作された歴史ある錦や日常生活の中で活用された毛織物などを、年４回に分けて特集陳列した。多様に展開するアジア各国の染織を通して、気候や生活スタイルに沿ったそれぞれの国と地域における染織文化を展覧した。		
第５室	清朝の服飾	19年３月６日(火)～５月27日(日)	5(0.0)
	＜主な作品＞羽状文地山字文鏡、紅地花卉文様刺繍袍		
	日本だけではなく、世界中に影響を与え続けた中国の絹織物を３回に分けて特集陳列した。今年度は、当館の名品の１つに数えられる元の緙絲を中心とする遼・元の染織、日本の茶人の間で特に珍重された、明～清時代の金襴、間道を展覧。また、４回目の陳列で、清朝の宮廷服飾を通して、華やかな中国刺繍の粋を紹介した。		
第３室	15・16世紀インドシナ半島のやきもの	19年３月６日(火)～５月27日(日)	13(0.0)
	＜主な作品＞青磁蓮花文台鉢、青磁蓮花文稜花平鉢、白濁釉三耳壺、〇青花魚藻文大皿、〇五彩草花文皿		
	15･16世紀のインドシナ半島における活発な陶磁器生産のなかでも、中国陶磁の影響の色濃い、輸出向けと思われるタイとベトナムのやきものを取り上げた。		
第４・５室	中国の鏡	19年３月６日(火)～６月３日(日)	18(0.0)
	＜主な作品＞「黄初四年」対置式神獣鏡、羽状文地山字文鏡		
	中国の青銅鏡の歴史のなかで、工芸的に優れ、歴史や思想史の研究材料としても重視されている戦国時代（前５～前３世紀）から西晋時代（265～316年）までの時期に作られた鏡17面および鏡の鋳型１個を展示した。研究資料として重要な紀年銘鏡は館蔵の５面すべてを展示するほか、鏡の文様の変遷がたどれるよう、代表的な形式のものを展示した。すべての鏡に、文様・銘文について詳しい解説を付した。		
第８室	拓本の世界－３館所蔵善本碑帖展－槐安居中国碑帖コレクション	４月17日(火)～７月１日(日)	35(0.0)
	＜主な作品＞漢婁寿碑(宋拓)、晋唐小楷冊(宋拓)、真草千字文(宋拓)、集王聖教序(宋拓)、群玉堂米帖(宋拓)		
	本展は、国内でも有数の碑帖を所蔵する東京国立博物館、三井記念美術館、台東区立書道博物館の同時連携企画である。 東京国立博物館の高島菊次郎コレクション、三井記念美術館の三井高堅コレクション、台東区立書道博物館の中村不折コレクションをあわせると、国内に所蔵される優品の大多数をカバーすることになる。各コレクターに焦点をあて、各々のコレクションの特質を明らかにするとともに、３館を巡ることで単館では見つくせない大拓本展を実施した。		

第10室	朝鮮王朝の生活の美	５月22日(火)～７月16日(月・祝)	20(0.0)
	＜主な作品＞蓮葉一柱盤、真鍮パンサンギ(飯床器) 飯鋺		
	ヤンバン(両班)とよばれる支配階層が文化面でも指導的役割を果たした朝鮮王朝時代には、簡素で洗練された独特の美意識が生活の隅々にまで浸透した。朝鮮王朝時代に生活の場を飾った食器、文房具、装身具などを展示した。		
第３室	バティックーインドネシアの更紗ー	５月29日(火)～８月26日(日)	11(0.0)
	＜主な作品＞ジャワ更紗製作工程見本		
	インドやインドネシアなど､東南アジアの国や小さな島々で伝統的に製作されてきた更紗、アフガニスタンの遊牧民族によって製作されたハンドメイドの毛織物、イラン以前にペルシャで製作された歴史ある錦や日常生活の中で活用された毛織物などを、年４回に分けて特集陳列、多様に展開するアジア各国の染織を通して、気候や生活スタイルに沿ったそれぞれの国と地域における染織文化を展覧した。		
第３室	クメール王国のやきものと金属器	５月29日(火)～８月26日(日)	18(0.0)
	＜主な作品＞灰釉蓮弁文合子、灰釉軒先瓦、黒褐釉象形容器、合子・匙、唾壺		
	クメール王国時代に生産されたやきものと金属器を概観する。特に10世紀から11、12世紀にかけて最盛期を迎える黒釉陶と白釉陶や、同時期に位置づけられる金属器など、それらの器形や装飾に表れた独特の魅力を紹介した。		
第５室	敦煌出土裂Ⅰ　幡と夾纈平絹	５月29日(火)～８月26日(日)	12(0.0)
	＜主な作品＞淡赤地花文夾纈平絹幡頭、淡茶地花文夾纈平絹・淡茶地平絹縫い合わせ幡		
	中国甘粛省敦煌出土の染織品を、各回テーマに沿って陳列した。これらの染織品は、一部の作品を除いて、これまでほとんど陳列されることがなかった。大部分残欠になっているが、なかには当初の姿を推測できる作品も含まれている。現状はガラスやアクリルに挟まれており、枠部分が無いものなど、状態は決して良好とはいえないが、作品は法隆寺や正倉院の染織品と比較する上に重要な資料といえる。Ⅰでは「幡と夾纈平絹」について展示した。		
第５室	古代中国の貨幣	６月５日(火)～９月２日(日)	164(0.0)
	＜主な作品＞空首聳肩尖足布、五銖銭陶范		
	春秋時代から漢時代にかけての多彩な貨幣およびその移り変わりを時代ごとに展示した。		
第８室	高島菊次郎氏寄贈中国書画―槐安居コレクション―	７月３日(火)～９月２日(日)	98(0.0)
	＜主な作品＞花卉図、〇夢筠図巻、墨竹図屏風、包世臣像、江山縦覧図巻、草書前後赤壁賦巻		
	高島氏は実業家として活躍されるかたわら、自らも書画篆刻をよくし、中国書画の収集に心を砕かれた。東洋館が開館を間近に控えた昭和40年(1965)春、槐安居コレクションとして内外に知られていたその収蔵品の中から、高島氏は愛玩の中国書画・碑拓法帖等277件を当館に寄贈された。さらに高島氏の没後、昭和44年には光子夫人が47件、昭和59年にはご令息の泰二氏が14件、平成10年には泰二氏が７件の中国書画を寄贈され、その総数は338件に及んでいる。この特集陳列は、中国の書画をこよなく愛した槐安翁高島菊次郎氏を偲び、その高邁なご遺志を広く顕彰するため、高島コレクションの中から優品や資料的価値の高い作品を一堂に集めて展示した。		
第10室	朝鮮のうちわと扇子	７月21日(土)～９月２日(日)	8(0.0)
	＜主な作品＞羅州国旗扇、慶州鷲尾扇、彩画華角貼扇子		
	季節に合わせて、朝鮮時代のうちわと扇子を展示した。うちわは主に女性によって用いられ、骨の作り方や全体の形状、文様などに由来するさまざまな名前で呼ばれている。扇子は男性によって用いられることが多く、芸能などでも用いられ、華角貼などの技法で飾られた。		

第３室	イカット	８月28日(火)～11月18日(日)	50(8.19)
	＜主な作品＞肩掛(ヒンギ・コンブ)藍地草木動物文様経絣、肩掛(スレンダン)ワヤン人形文様経緯絣		
	インドやインドネシアなど､東南アジアの国や小さな島々で伝統的に製作されてきた更紗、アフガニスタンの遊牧民族によって製作されたハンドメイドの毛織物、イラン以前にペルシャで製作された歴史ある錦や日常生活の中で活用された毛織物などを、年４回に分けて特集陳列した。多様に展開するアジア各国の染織を通して、気候や生活スタイルに沿ったそれぞれの国と地域における染織文化を展覧した。		
第３室	インドの細密画	８月28日(火)～11月18日(日)	40(0.0)
	＜主な作品＞話し合うユディシュトラとビーシュマ（ラズムナーマ） ファトゥー筆、藩王ビーム・シン坐像、ヴァスデーヴァとヤショーダの前に跪くクリシュナとバララーマ		
	会期を前後期に分け、各々20点ずつ、計40点を展示した。ムガル時代の細密画の各派を概観できるような構成とした。		
第５室	敦煌出土裂Ⅱ　描絵平絹・綾	８月28日(火)～11月18日(日)	13(0.0)
	＜主な作品＞淡縹地草花文描絵平絹、淡縹地唐草文描絵綾		
	中国甘粛省敦煌出土の染織品を、各回テーマに沿って陳列した。これらの染織品は、一部の作品を除いて、これまでほとんど陳列されることがなかった。大部分残欠になっているが、なかには当初の姿を推測できる作品も含まれている。現状はガラスやアクリルに挟まれており、枠部分が無いものなど、状態は決して良好とはいえないが、作品は法隆寺や正倉院の染織品と比較する上に重要な資料といえる。Ⅱでは「描絵平絹・綾」について展示した。		
第５室	錦	８月28日(火)～11月18日(日)	12(0.0)
	＜主な作品＞藍地梅鶯文様錦（清水裂)、名物裂帖		
	中国の伝統ある織技の中で、最も複雑な技法の歴史と、華麗な文様世界を持つ錦を展示する。今回は、中世日本にさかんに輸入され、特に茶人の間で珍重された明代の錦を中心に展覧した。		
第８室	中国書画精華	９月４日(火)～10月28日(日)	50(8.19)
	＜主な作品＞◎二祖調心図、◉十六羅漢図(第三尊者)、◎寒山拾得図、◉紅白芙蓉図、◉十六羅漢図(第五尊者)、◎山水図、◎四万山水図		
	毎年秋恒例の唐・宋・元・明・清の歴代にわたる書と絵画の名品を一堂に集めて展示する特集陳列。絵画の前期は宋元画の精品を展示した。後期は宋画の最優品のほか、明画の精品を展示した。書跡は、唐時代の楽譜や唐時代の鈔本、宋時代の名品を陳列した。		
第５室	漢時代の明器－ミニチュア模型にみる2000年前のくらし－	９月４日(火)～12月２日(日)	20(0.0)
	＜主な作品＞灰陶カマド、褐釉カマド		
	土器・青銅器・玉器・漆器など、新石器時代から漢時代にかけての中国考古資料の優品を陳列した。「漢時代の明器－ミニチュア模型にみる2000年前の暮らし－」（９月４日～12月２日）では、模型明器の陳列を通して、その形や装飾に反映された当時の人々の暮らしぶりや思想に迫った。		
第10室	高麗翡色青磁の誕生	９月４日(火)～12月２日(日)	29(0.0)
	＜主な作品＞青磁碗、青磁透彫唐草文箱		
	朝鮮半島では、10世紀頃に中国の浙江省地方からの技術移転で青磁の生産が始まったと考えられる。高麗青磁はやがて中国の青磁の影響を離れ、12世紀前半には｢翡色青磁｣とよばれる高い水準に到達した。高麗青磁の誕生から成熟へといたる過程の作品を中心に、高麗青磁の展開をたどった。		

第８室	明清画精選	10月30日(火)～12月27日(木)	36(0.4)
	＜主な作品＞○秋林隠居図、◎四季花鳥図、◎漁夫図、◎秋山行旅図巻、◎離合山水図、○売貨郎図、○山水図、山水図巻		
	宋・元時代の作品を中心とした特集陳列「中国書画精華」の続編として、明清時代の精品を集めて、２期に分けて展示した。前期は、明の画院画家呂紀の代表作である四季花鳥図(春・夏・秋・冬)４幅のほか、呂紀に対して写意派といわれた林良、浙派を代表する画家である張路、明末清初の個性的画家として注目されている梅清、蕭雲従などの作品を展示し、後期は、米法山水図の優品として知られる離合山水図のほか、明の画院画家呂文英、蘇州の文人盛茂燁、清初の金陵派の徐枋、張風や、清時代の風俗画家の費丹旭、葛尊などの作品を展示した。		
第８室	墨跡―流れ圜悟を中心に―	10月30日(火)～12月27日(木)	21(6.6)
	＜主な作品＞◉法語(流れ圜悟)、◉大慧禅師墨蹟、◉無準禅師墨蹟、◉法語(破れ虚堂)、◉南堂禅師墨蹟		
	墨跡とは、筆で書かれた書跡一般を指すが、狭義には、宋元時代の禅宗僧侶の書跡と、鎌倉時代から江戸時代にかけての禅宗僧侶の書跡を指す。とりわけわが国におけるわび茶の世界においては、茶室の床飾りには墨跡を第一に位置づけ、書としての巧拙を超えて、著者の人間性をも含めて鑑賞されてきた。最古の墨跡として珍重される圜悟克勤の法語は、15世紀に薩摩坊の津に流れ着いたとの伝承から、流れ圜悟の別称で知られ、多くの資料が付属している。この特集陳列では、流れ圜悟およびその付属品をすべて陳列しその伝来を概観するとともに、館蔵の大慧宗杲、無準師範、虚堂智愚らの墨跡をあわせて展示した。		
第３室	カシミヤ・ショール	11月20日(水)～20年１月27日(日)	11(0.0)
	＜主な作品＞カシミア裂　赤ペーズリー文様刺繍		
	インドやインドネシアなど､東南アジアの国や小さな島々で伝統的に製作されてきた更紗、アフガニスタンの遊牧民族によって製作されたハンドメイドの毛織物、イラン以前にペルシャで製作された歴史ある錦や日常生活の中で活用された毛織物などを、年４回に分けて特集陳列する。多様に展開するアジア各国の染織を通して、気候や生活スタイルに沿ったそれぞれの国と地域における染織文化を展覧する。		
第３室	古代の輝き　西アジアのガラス器	11月20日(火)～20年１月27日(日)	35(0.0)
	＜主な作品＞ミルフィオリ皿、スキュフォス、金帯装飾ピュクシス、金帯装飾瓶、多重吊手付四連瓶、円形切子皿、円形切子碗、円形切子台付杯		
	寄託・出品中の古代ガラスコレクションから、西アジアを中心とする容器類の代表作品を展示した。色鮮やかな宝石としてのペースト・ガラス、「吹き」技法の開発により普及した透明ガラス、「切子」技法の開発により国際商品としての新たな価値が加わった切子ガラスなどの優品から、古代ガラスの魅力を紹介する。		
第４・５室	古代中国の鏡	12月４日(火)～20年３月２日(日)	21(0.0)
	＜主な作品＞神仙車馬画像鏡		
	当館が所蔵する中国鏡のうち、戦国時代から唐時代にかけての代表的な作品を一堂に公開した。		
第８室	吉祥―歳寒三友を中心に―	20年１月２日(水)～１月27日(日)	20(0.1)
	＜主な作品＞◎梅花双雀図､鹿鶴図屏風､五松図､花卉図､馬猿猴図(唐絵手鑑「筆耕園」の内)		
	冬の厳しい寒さの中でも、松と竹は常緑を保ち、梅は百花に先駆けて必ず開花し清香を放つことから、中国において、松、竹、梅は、節度を守り不変の志と豊かな心をもつものとされ「歳寒三友」と称えられた。また、松は不老長寿、竹は平安、子孫繁栄、梅は子孫繁栄(子授け)などを象徴するものとされてきた。さまざまな自然を描いた花鳥画の多くも、例えば、蓮、水鳥、魚は豊かさ、牡丹は富貴、桃は長寿、葡萄、瓢箪、石榴などは子孫繁栄、鳳凰は天下泰平、蝙蝠は福を象徴するものとされ、そこには人々の様々な願いがこめられている。それらは、明時代以降、吉祥図として人々に定着して親しまれてきた。新年にあたり、歳寒 三友(松・竹・梅)を中心に中国の吉祥図を特集して展示した。		

第８室	董其昌とその時代	20年１月２日(水)～３月２日(日)	21(0.0)
	＜主な作品＞草書尺牘冊、行草書羅漢賛等書巻、臨懐素自叙帖巻、行書項墨林墓誌銘巻、草書七言絶句軸		
	形骸化した伝統書法を排斥し、精神の自由な発露を標榜した明末の董其昌は、優れた作品を残すだけでなく、『容台集』『画禅室随筆』などに見られるように、理論家としても卓越した業績を残し､後世にきわめて大きな影響を与えた。当館所蔵の董其昌の書跡を中心に、同時代およびその影響を受けた後世の作例を加えて、董其昌の書業を概観した。		
第８室	梅花	20年２月13日(水)～３月９日(日)	25(0.1)
	＜主な作品＞◎雪梅図、梅花水仙図、墨梅図、月梅図 、紅梅図、羅浮香夢図		
	厳寒の中で梅は百花に先駆けて開花し清香を放つことから、中国では、松、竹ともに「歳寒三友」と称えられ、また、蘭、菊、竹とともに「四君子」と称えられた。梅花は古くから詩文に詠われ、文人の好む画題として親しまれてきた。画梅は宋時代以降は着色画のみならず、禅僧の花光仲仁が創始したといわれる墨梅も興った。花光仲仁は月夜に窓に映る梅影をみて墨梅を創めたといわれるが、その後、梅の蕾から落花までの姿を百図にあらわし五言絶句を付した宋伯仁『梅花喜神譜』(南宋・1238自序)のような墨梅家による梅譜も編纂されるようになり、また、梅花は美人の譬えにも用いられるなど、画梅は文人を中心にいよいよ盛んになった。墨梅家として知られる呉太素の雪梅図をはじめとする元時代から近代に至る中国の画梅の多様な世界を通観した。		
第３室	西アジア　遊牧民の染織	20年２月13日(水)～５月６日(水)	14(0.0)
	＜主な作品＞ソウマク・パイル織袋裂　段花鳥幾何学文様、綴織祈祷用敷物　橙藍地ミフラーブ幾何学形文様		
	インドやインドネシアなど､東南アジアの国や小さな島々で伝統的に製作されてきた更紗、アフガニスタンの遊牧民族によって製作されたハンドメイドの毛織物、イラン以前にペルシャで製作された歴史ある錦や日常生活の中で活用された毛織物などを、年４回に分けて特集陳列する。多様に展開するアジア各国の染織を通して、気候や生活スタイルに沿ったそれぞれの国と地域における染織文化を展覧する。		
第３室	山本達郎氏寄贈の東南アジア彫刻コレクション	20年２月13日(水)～５月６日(火)	20(0.0)
	＜主な作品＞女神像、如来頭部、男女像・満瓶浮彫セーマー石		
	平成18年度に寄贈された故山本達郎氏旧蔵品21件を展示した。山本氏は東南アジア史、南アジア史、中国史などの研究者で、寄贈品もこれらの地域の作品で構成される。		
第５室	端物切本帳	20年２月13日(水) ～５月６日(火・祝)	2(0.0)
	＜主な作品＞男羽織　古渡唐桟縞、端物切本帳		
	中国やインドより渡来した唐桟縞を接ぎ合わせて作られた男羽織を中心に、端物切本帳136冊の中から、中国に由来する裂地を展示した。		
第８室	蘭亭序	20年３月４日(火)～５月６日(水)	22(0.0)
	＜主な作品＞褚模蘭亭序(宋拓)、呉炳本蘭亭叙、宋拓定武蘭亭帖、独孤本蘭亭叙、國学本蘭亭序		
	王羲之が永和９年(353)に揮毫した蘭亭序を入手した唐の太宗は、名家に命じて各種の臨摸本を作らせた。これ以降、蘭亭序は重摸に重摸を重ねて、宋時代には蘭亭八百本と称されるほどであった。王羲之の最高傑作とされる蘭亭序は、唐時代以降、蘭亭信仰ともいえる状況の中で、新の姿が失われ、各種の摸本にその残影を留めるにすぎない。この特集陳列では、蘭亭序の各種拓本を陳列するとともに、明清時代に王羲之の影響を受けた作や、蘭亭偽作説を唱えた李文田らの作を取り上げ、蘭亭序の多様な世界を紹介した。		

第４・５室	封泥	20年３月４日(火)～６月１日(日)	203(0.0)
	＜主な作品＞「皇帝信璽」封泥		
	戦国時代から漢時代にかけての制度を知る上で重要な歴史資料であり、同時にすぐれた篆刻作品でもある封泥を展示した。		
第８室	中国の近代絵画	20年３月11日(火)～４月６日(日)	24(0.0)
	＜主な作品＞富貴図、九老図、驢図、風鳶図巻、瀟湘夜月図扇面		
	乾隆年間(1736～95)の揚州八怪を中心とする揚州派の活躍を最後に、中国画壇はしばらく低迷を続けたが、アヘン戦争(1840～42)後、経済的に急速に発展した上海を中心に、趙之謙をはじめとする海上派と呼ばれる画家たちが､伝統的な画風を離れた画風を創始し、中国近代絵画への道をひらいた。その後、清朝が滅んで中華民国が成立すると、上海、北京などには美術学校が設立され、学校派といわれる西洋画や日本画を学んだ画家たちが、清新で多様な画風を試みた。19世紀後半から20世紀前半までの約百年間、伝統的な文人画と訣別した新しい中国絵画の流れを特集した。		

③　法隆寺宝物館

なし

(参考) 黒田記念館

場所	テーマ	開催期間	陳列件数 (国宝・重文)
黒田記念館	写された黒田清輝	11月15日(木)～20年５月17日(土)	23(0.0)
	＜主な作品＞大礼服の黒田清輝、黒田清輝ポートレート		
	平成18年度に、黒田清輝夫人照子のご遺族にあたられる金子光雄氏より、同氏が永らく保管してきた黒田清輝関係の写真等、208件が東京文化財研究所に寄贈された。大半は、黒田清輝の暮らしぶりを知る貴重なポートレート写真などだが、黒田夫妻が使用していた生活具も含まれる。未公開の写真もあり、黒田清輝という画家をより深く理解するための貴重な資料である。当研究所企画情報部は、それぞれの写真の撮影時期、由来等の特定のための調査をする一方、整理作業をすすめてきた。今回は、その成果として、比較的大判の写真23点を選び公開した。寄贈写真はすでに原板が失われており、いずれもオリジナルな焼付写真であるため、公開にあたりオリジナル写真の風合いを保ちつつ、原寸大に再現した画像を展示した。これは、写真資料の保存公開という目的のもとにすすめられたデジタル画像形成技術の開発研究の成果の一部でもある。		

7）広報

・新企画

「仏像の道」

会　　期：19年７月27日～

広　　報：

ターゲット：仏教美術の愛好家、広く一般の美術愛好家。

重点項目：広く一般の美術展愛好家にプロモート。

特記事項：夏休みの平常展とあわせてプロモート。

①　広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1,600件（全国博物館・美術館､都内学校・ホール・大使館・ギャラリー、図書館等）
交通広告	駅貼り広告（JR、東京メトロ、都営地下鉄、京成）

新聞・雑誌広告	毎日新聞　１回
テレビ広告	なし
新聞掲載	朝日新聞展覧会ガイド欄など
テレビなど	台東ケーブルテレビ
雑誌掲載	「週刊新潮」「一個人」など
博物館ニュース	告知１回、特集１回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

②　パブリシティー情報掲載・放映

新聞　３件、雑誌　17件、テレビ／ラジオ　１件、インターネット　１件

・特別企画

「博物館に初もうで」

会　　期：20年１月２日～１月27日

広　　報：

ターゲット：広く一般の美術愛好家。

重点項目：家族づれ。外国人観光客。

特記事項：イベント広報を通じて、家族づれや外国人観光客の来館を促進する。

「松林図屏風」の正月特別公開（１月２日～１月14日）のポスターを製作し、「博物館に初もうで」とあわせてプロモートすることで周知効果を高めた。

①　広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,780件（全国博物館・美術館・学校・ホール・大使館・ギャラリー・ホテル等）
交通広告	駅貼り広告（JR、東京メトロ、都営地下鉄、京王、京成）
新聞・雑誌広告	朝日新聞　１回　ジャパンタイムズ　１回　デイリーヨミウリ　１回
テレビ広告	なし
新聞掲載	朝日新聞、東京新聞、ヘラルド朝日　など
テレビなど	TBSラジオ　１回
雑誌掲載	「サライ」「ぴあ」など
博物館ニュース	特集１回
インターネット	当館ウェブサイト（ホームページ）での紹介、メールマガジンでの情報配信

②　パブリシティー情報掲載・放映

新聞　７件、雑誌　８件、テレビ／ラジオ　１件、インターネット　６件

⑵　特別展・共催展等（海外展・巡回展を含む）

展覧会名：「レオナルド・ダ・ヴィンチー天才の実像」（共催展）

開会期間：19年３月20日（火）～６月17日（日）（79日間）

会　　場：本館特別５室、平成館２階特別展示室

主　　催：「イタリアの春　2007」実行委員会、東京国立博物館、朝日新聞社、NHK、NHKプロモーション

特別後援：イタリア共和国大統領

後　　援：外務省、文化庁、イタリア外務省、イタリア文化財・文化活動省
特別協賛：日立グループ
協　　力：アリタリア航空、JR東日本、三井住友海上
陳列品総件数：101件
入館者数：79万6,004人（目標50万人・達成率159.2％）
入場料金：一般1,500円 大学生1,200円 高校生900円 中学生以下無料
担当研究員数：2人
展覧会の内容：
ルネサンスの巨匠、レオナルド・ダ・ヴィンチの傑作「受胎告知」（フィレンツェ・ウフィッツィ美術館蔵）を日本で初公開し、あわせてレオナルド・ダ・ヴィンチの手稿の写しやそれらをもとに制作されたさまざまな模型や映像などを展示することにより、レオナルド・ダ・ヴィンチの芸術と科学に関する広範な試みを紹介した。
講演会等：
記念講演会
① 「レオナルドの精神　画家の空間－時間／時空間から光の生み出す陰影へ」
平成館 大講堂　19年３月21日
講師：本展企画監修者・フィレンツェ科学史博物館館長　パオロ・ガルッツィ氏（イタリア語・日本語逐次通訳つき）
② 「レオナルドで知るルネサンス―波乱の生涯と、激動の時代の魅力」
平成館 大講堂　４月21日
講師：日本側監修者・恵泉女学園大学准教授　池上英洋氏
広報：
ターゲット：広く一般。10代～20代の若年層から70代以降まで幅広い層に訴求。普段は美術館・博物館に足を運ばない人もターゲットとする。
重点項目：マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供。
キリスト協会関係への周知。
特記事項：レオナルド・ダ・ヴィンチの知名度の高さに注目し、タイトルの文字を大きく打ち出し、いっぽうで意外に知られていない「受胎告知」の絵そのもののイメージを植えつけるために全図を使った宣伝ビジュアルを大量に露出させ、広く一般への周知を図った。
主催朝日新聞紙上で大型特集記事を複数回掲載。
主催NHKで特集番組を放映。
作品搬送および展示設営時に特例として取材・撮影に応じた。
イタリアプローディ首相夫妻・安倍首相夫妻観覧に伴う報道。
① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約13,000件（全国博物館・美術館・学校・ホール・ギャラリー等）
交通広告	車内広告（JR、京王、東急、東武、小田急、京急、京成、西武、新京成） 駅貼り広告（JR、東京メトロ、京王、東急、東武、小田急、京急、京成、西武、新京成） 駅横断幕（上野駅公園口）
新聞・雑誌広告	朝日新聞　多数回
テレビ広告	NHKスポット　多数回

新聞掲載	朝日新聞（特集記事５回、展覧会開催・イベントなどの告知記事、集荷などの取材記事　多数）
テレビ放映	NHK　６時間スペシャル番組、特集番組、迷宮美術館ダ・ヴィンチ特集､新日曜美術館（本編）､５分間ミニ番組随時､ニュース放映（複数回）など
雑誌掲載	「ブルータス」､「ユリイカ」､「芸術新潮」特集など
博物館ニュース	予告１回、特集２回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者（朝日新聞・NHK）ウェブサイトでの紹介

② パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　53件、雑誌　247件、テレビ/ラジオ 12件、インターネット　45件
③ 記者発表会　12月４日（東京国立博物館大講堂にて　164人出席）
④ 「受胎告知」搬送　特別取材（７媒体）
⑤ 「受胎告知」展示作業　特別取材（９媒体）
⑥ 報道内見会　３月19日（158媒体　295人出席）
⑦ 教員内見会　４月３日（613人出席）
⑧ 上野ロータリークラブ「卓話」にて井上ワーキングチーフによる講演を実施

展覧会名：「足利義満六百年遠忌記念「京都五山　禅の文化」展（共催展）」

開会期間：７月31日～９月９日(37日間)
会　　場：平成館２階　特別展示室第１室～第４室
主　　催：東京国立博物館、日本経済新聞社
特別協力：大本山相国寺
協　　賛：NEC、JR東海、シティグループ、日興コーディアルグループ
陳列品総件数：232件（うち国宝８件、重文109件）
入館者数：10万8,917人（目標10万人・達成率108.9%）
入場料金：一般1,500円 高校・大学生900円 中学生以下無料
担当研究員数：4人
展覧会の内容：

鎌倉時代から室町時代にかけて、朝廷や幕府の庇護を受けて繁栄をきわめ、中国風の禅文化が興隆した京都五山（南禅寺、天龍寺、相国寺、建仁寺、東福寺、万寿寺）ゆかりの作品を展示し、京都五山の禅の文化の精華を示す。京都五山をまとめてとりあげる初めての試みである。

南禅寺、天龍寺、相国寺、建仁寺、東福寺の本山ならびに諸塔頭、各地の美術館・博物館、大徳寺や円覚寺といった他派寺院の協力も得て、禅僧の肖像画・肖像彫刻、袈裟、墨蹟、水墨画、仏画、仏像など、ふだん拝観できない宝物、各地に散在する京都五山ゆかりの名宝を一堂に展示した。その結果、出品総件数232件に占める国宝・重要文化財の数は半数を超える117件となり、たいへん充実した内容となった。

講演会等：
① テーマ講演会「京都五山の文化」　全４回
　第１回 「五山派の彫刻」　平成館 大講堂　６月９日
　　講師：出版企画室長　浅見龍介
　第２回 「京都五山の絵画」 平成館 大講堂　６月30日
　　講師：特別展室長　救仁郷秀明
　第３回 「室町幕府外交と京都五山」平成館 大講堂　７月14日

講師：北海道大学大学院文学研究科准教授　橋本雄氏

第４回 「五山僧と学芸」　平成館 大講堂　７月28日

講師：情報管理室長　田良島哲

② 記念講演会

「京都五山の歴史と文化」平成館 大講堂　８月４日

講師：出版企画室長　浅見龍介

「禅の山河」平成館 大講堂　８月25日

講師：臨済宗相国寺派管長　有馬賴底師

広報：

ターゲット：美術愛好家、日本史愛好家。宗教に関心をもつ層、ならびに若年層。

重点項目：マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供。

寺院関係への周知。

特記事項：難解なものと考えられている中世の禅文化をとりあげた展覧会にあえて「Let's zen」というキャッチコピーをつけた。簡明な表現で親しみやすく、また「禅」を「クール」な「zen」ととらえる若者層の来館のきっかけつくりや話題つくりには有効であった。

周知印刷物のメインビジュアルである頂相彫刻は、一般の認知度が高いとはいえない作品であったが、像主の気迫を伝える迫真の描写が強い印象をあたえるものとなった。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約8,820件 （全国博物館・美術館・学校・ホール・ギャラリー、寺院等）
交通広告	車内広告（JR、東京メトロ、都営地下鉄、東急、東武、京王） 駅貼り広告（JR、東京メトロ、江ノ電、京成） 駅横断幕（上野駅公園口） など
新聞・雑誌広告	朝日新聞２回、日本経済新聞４回
テレビ広告	なし
新聞掲載	日本経済新聞（特集記事２回、コラム連載５回、展覧会開催・イベントなどの告知記事多数）
テレビ放映	NHK新日曜美術館（アートシーン）など
雑誌掲載	「家庭画報」特集など
博物館ニュース	予告１回、特集２回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、ブログ、共催者ウェブサイトでの紹介

② パブリシティー情報掲載・放映

新聞　71件、雑誌　164件、テレビ/ラジオ　６件、インターネット　33件

③ 記者発表会　４月23日（日本外国特派員協会にて　52媒体　70人出席）

④ 報道内見会　７月30日（66媒体　100人出席）

展覧会名：「大徳川展」（共催展）

開会期間：10月10日～12月２日(47日間)

会　　場：平成館２階　特別展示室第１室～第４室

主　　催：東京国立博物館、徳川記念財団、徳川黎明会、水府明徳会、テレビ朝日、朝日新聞社、博報堂DYメディアパートナーズ

協　　賛　トヨタ自動車、キヤノン
陳列品総件数：308件（うち国宝23件、重要文化財61件）
入館者数：42万5,492人（目標25万人・達成率170.1%）
入場料金：一般1,500円 大学生1,200円 高校生900円 中学生以下無料
担当研究員数：２人
展覧会の内容：
　将軍家・御三家や東照宮などに伝わる徳川家ゆかりの宝物を初めて一堂に集め、江戸の武家文化を形成した徳川家の全貌を紹介する。
　徳川家康からはじまる江戸時代の徳川家の歴史を、歴代将軍の肖像画や所用の武器・武具あるいは遺愛の品々によってたどるとともに、将軍家・御三家や東照宮などに伝わるゆかりの宝物を一堂に集めて展示し、江戸の武家文化を形成した徳川家の全貌を紹介した。将軍家・尾張・紀伊・水戸の各徳川家に伝えられた名宝が揃って展示される、初めての機会となった。
講演会等：
　記念講演会 「江戸の遺伝子」 平成館 大講堂　10月20日
　　講師：財団法人徳川記念財団理事長 徳川恒孝氏
広報
　ターゲット：広く一般の美術愛好家、日本史愛好家。時代劇、時代小説愛好家。
　重点項目：徳川将軍家と徳川御三家に伝わる伝世の文化財を一堂に集め、徳川家の全貌を紹介する二度とない機会であることをポイントにしたプロモート。美術愛好家に加えて、由緒ある武器武具類など男性歴史ファンに向けた切り口、衣装や婚礼調度など女性層に向けた切り口も設定した。
　　また「徳川」はたいへんよく知られた名前であるため、教科書で知った児童、学生にも周知を図った。
　特記事項：徳川吉宗を主人公としたテレビドラマ(テレビ朝日)の放映時間帯にスポット広告を集中して流すなどテレビならではのプロモートを行なった。
　　５種類の交通広告を制作、展開することで広く一般への周知を図った。
　①　広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約5,500件（全国博物館・美術館・学校・ホール・ギャラリー等）
交通広告	車内広告（JR、東京メトロ、東急、東武）、 駅貼り広告（JR、東京メトロ）、連合ボード（東急メトロ）
新聞・雑誌広告	朝日新聞９回、おかずのクッキング２回、週刊ポスト１回など
テレビ広告	なし
新聞掲載	朝日新聞（特集）、茨城新聞（特集）、中日新聞（特集）、少年写真新聞社（特集）、ジャパンタイムズ（特集）など
テレビ放映	NHK新日曜美術館（アートシーン）
雑誌掲載	婦人画報　特集など
博物館ニュース	予告１回、特集１回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者ウェブサイトでの紹介

　②　パブリシティー情報掲載・放映
　　新聞　512件、雑誌　196件、テレビ/ラジオ　10件

③　記者発表会　６月１日（六本木ヒルズ多目的スペースumuにて　66媒体　81人出席）
④　報道内見会　10月９日（63媒体　79人出席）
⑤　教員鑑賞会　10月12日（348人出席）
⑥　「ぴあ」編集部と共同で、ぴあ読者約250名を招待した特別内覧会を行なった。

展覧会名：「陽明文庫創立70周年記念特別展「宮廷のみやび―近衛家1000年の名宝」」（共催展）

開会期間：20年１月２日～2月24日(46日間)
会　　場：平成館２階　特別展示室第１室～４室
主　　催：東京国立博物館、財団法人陽明文庫、NHK、NHKプロモーション
後　　援：文化庁
協　　賛：日本写真印刷、三井住友海上火災保険
陳列品総件数：214件（うち国宝12件、重文40件）
入館者数：15万7,718人（目標12万人・達成率131.4％）
入場料金：一般1,400円 大学生・高校生900円 中学生以下無料
担当研究員数：５人
展覧会の内容：

藤原北家の流れを汲み、五摂家の筆頭で公卿第一の名門、近衛家の当主で、内閣総理大臣であった近衛文麿が設立した陽明文庫のコレクションを中心に、明治の初年に宮廷に献上された宝物などを含めた近世までの近衛家の名宝を一挙に公開する。

藤原道長自筆の日記などにうかがわれる宮廷貴族の生活、近衛信尹・信尋・家熙ら、近世の近衛家の文化的営為、近衛家収集の書跡・絵画・茶道具・刀剣・人形など、多方面にわたる近衛家の活動、近衛家伝来の品々により、みやびな公家文化の粋を紹介した。

講演会等：(①開催期間　②場所　③参加者数　④講師等)
①　連続講座「近衛家と陽明文庫－公家文化一千年をひもとく－」会場　平成館大講堂
■第１日目 20年１月12日
「近衛家熙について」 講師　陽明文庫 理事　文庫長　名和修氏
「陽明文庫の近世絵画－公家の絵と武家の絵」 講師　平常展室主任研究員　松嶋雅人
■第２日目 20年１月13日
「戦国時代の近衛家」 講師　情報課長　高橋裕次
「人形と雛道具と家熙表具」 講師　平常展室研究員　小山弓弦葉
■第３日目 20年１月14日
「公家の教養と信仰　古筆・日記」 講師　文化財部長　島谷弘幸
②　記念講演会「近衛家・陽明文庫について」
平成館　大講堂　20年２月２日(土)
講師：財団法人陽明文庫 理事 文庫長 名和修氏

広報：
ターゲット：書の愛好家、一般の美術愛好家。日本史ファン。女性層。
重点項目：書道団体、書の愛好家に着実に周知を図るとともに、女性層に向けて貴族文化の優雅さをプロモートした。
特記事項：京都の陽明文庫へのプレスツアーなど、展覧会前に作品を実見する機会をもうけた。
女性誌で大型特集を掲載。主催NHKで特集番組を放映。
ワークショップの素材を兼ねた子ども向けリーフレットを制作し、学校関係にも周知を図った。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約6,000件（全国博物館・美術館・学校・ホール・ギャラリー・書道団体等）
交通広告	車内広告（JR、東京メトロ、東急、東武、京王） 駅貼り広告（JR、東京メトロ、都営地下鉄、京王） 駅横断幕（上野駅公園口）など
新聞・雑誌広告	朝日新聞10回
テレビ広告	NHKスポット広告　多数
新聞掲載	京都新聞、ジャパンタイムズ　など
テレビ放映	NHK「名宝探訪　近衞家が生んだ日本の美」「探訪　日本美のルーツ」「新日曜美術館（本編）」NHK国際放送「平安貴族のスタイル」など
雑誌掲載	「皇室」、「家庭画報」、「書21」、「サライ」、「和楽」、「書」、「クロワッサンPremium」特集　など
博物館ニュース	予告１回、特集２回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信、 共催者ウェブサイトでの紹介

② パブリシティー情報掲載・放映
新聞348件、雑誌130件、テレビ/ラジオ7件（ほか紹介NHKミニ番組　多数回）、
インターネット11件

③ 記者発表会　９月13日（日本外国特派員協会にて　35媒体　36人出席）

④ 報道内見会　20年１月７日（54媒体　88人出席）

展覧会名：フィラデルフィア美術館「池大雅・徳山玉瀾展」

開会期間：５月１日～７月22日(66日間)

会　　場：フィラデルフィア美術館（米国）
Dorrance Special Exhibition Galleries, first floor

主　　催：フィラデルフィア美術館

当館特別協力

陳列品総件数：209件（うち国宝２件、重要文化財10件）

入館者数：65,995人

入場料金：一般　15ドル

担当研究員数：２人

展覧会の内容：

江戸時代、わが国の文人画（南画）の大成者として名高い池大雅とその妻玉瀾の書画作品を大規模かつ集約的に紹介した展覧会。出品件数209件、内訳は、米国内84件、日本国内125件。日本国内125件のうち、国宝２件（大雅作品の国宝は全部で３件）、重要文化財10件（同11件）を含み、規模と内容において過去に例を見ないものとなった。

広報：東京国立博物館ニュース　告知１回

【京都国立博物館】

⑴　平常展

①　開館日数：308日　平常展のみの開館日数：191日　陳列件数：1,611件　陳列替回数：53回

②　特集陳列　７件

	名称	会期	陳列件数 （うち指定品件数）
特集陳列	「新収品展」	６月20日～７月29日	49件（３件）
	「後宇多法皇入山700年記念　大覚寺の名宝」	８月８日～９月17日	31件（23件）
	「能楽と美術」	10月11日～11月11日	16件
	「館蔵品のはじまり－京都博物館からの贈りものー」	11月21日～12月24日	36件（３件）
	「社寺伝来の名刀」	20年１月２日～２月11日	24件（11件）
	「仏師　清水隆慶－老いらくのてんごうー」	20年１月２日～３月30日	11件
	「雛まつりとお人形」	20年２月23日～３月30日	68件

⑵　特別展等・共催展等

展覧会名：「金峯山埋経一千年記念　藤原道長－極めた栄華・願った浄土－」

会　　期：４月24日～５月27日

入場者数：３万7,411人（目標入場者数２万人・達成率187.05％）

陳列件数（うち指定品数）：146件（98件）

主催者：京都国立博物館

講演会：５回　　参加者数合計　895人

・関連土曜講座

４月28日　道長の時代の仏像－仏師康尚の作風を中心に－
　　淺湫毅（学芸課主任研究員）
　　174人参加

５月 5日　藤原道長－金峯山への道－
　　宮川禎一（学芸課考古室長）
　　176人参加

５月12日　末法と作善－写経を中心に－
　　赤尾栄慶（学芸課企画室長）
　　125人参加

５月19日　「この世」はわが世だったのか－藤原道長－※
　　永井路子氏（作家）
　　246人参加

５月26日　道長時代の仏教絵画
　　大原嘉豊（学芸課研究員）
　　174人参加

※土曜講座1600回記念・特別展覧会関連特別講座（会場：智積院会館）

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名：「狩野永徳」

会　　期：10月16日～11月18日
入場者数：23万656人（目標入場者数７万人・達成率329.5％）
陳列件数（うち指定品数）：71件（17件）
主 催 者：京都国立博物館、毎日新聞社、NHK京都放送局、NHKきんきメディアプラン
講 演 会：３回　参加者数合計　528人
・関連土曜講座
　10月20日　元信から永徳へ－国宝・聚光院障壁画を中心に－
　　山本英男（学芸課保存修理指導室長）
　　176人参加
　10月27日　新発見の永徳筆洛外名所遊楽図屏風
　　狩野博幸氏（同志社大学教授）
　　176人参加
　11月10日　天下人の造形－永徳と大画－
　　川本桂子氏（美術史家）
　　176人参加
・国際シンポジウム
　11月３日　狩野永徳研究の現状と課題
　　国立京都国際会館
　　285人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名：「修好通商条約締結150周年　憧れのヨーロッパ陶磁－マイセン・セーヴル・ミントンとの出会い」

会　　期：20年１月５日～３月９日
入場者数：59,267人（目標入場者数３万人・達成率197.6%）
陳列件数：175件
主 催 者：京都国立博物館、読売新聞大阪本社、読売テレビ
講 演 会：６回　　参加者数合計　647人
・関連土曜講座
　１月19日　万国博覧会とヨーロッパ陶磁
　　伊藤嘉章氏（九州国立博物館企画課長）
　　82人参加
　２月２日　オランダ渡りの西洋陶器とその影響－江戸時代後期を中心に－
　　岡秦正氏（神戸市立博物館主幹・学芸員）
　　91人参加
　２月９日　岩倉使節団の見たヨーロッパ陶磁－ミントン・セーヴル・ベルリン・ジノリ－
　　大平雅巳氏（西洋陶磁史家）
　　82人参加
　２月16日　マイセン磁器の動物彫刻
　　櫻庭美咲氏（九州産業大学COE研究員）
　　106人参加
　２月23日　近代日本が見た西洋陶磁－旧・国立陶磁試験所コレクションを中心に－
　　佐藤一信（愛知県陶磁資料館学芸員）
　　127人参加

３月１日　京都伝来の阿蘭陀焼
尾野善裕（学芸課企画室主任研究員）
159人参加

広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

【奈良国立博物館】

⑴　平常展

①　開館日数：315日（平常展のみの開館日数：230日）陳列件数：928件

②　陳列替回数：21回（本館４回、西新館13回、東新館４回）

	名称	会期	陳列件数 （うち指定品件数）
特別陳列	「古玩逍遥」	６月９日～７月８日	49件（０件）
	「新たな国民のたから」	７月14日～８月19日	9件（７件）
	「平城宮の木簡」	７月14日～８月19日	25件（25件）
	「おん祭と春日信仰の美術」	12月８日～20年１月20日	58件（10件）
	「お水取り」	20年２月２日～３月16日	69件（17件）
親と子のギャラリー	「仏さまの彩り」	７月14日～８月19日	23件（14件）
特集展示	「塑像と塼仏」	４月17日	13件（１件）
	「僧侶の道具」	６月９日～７月８日	34件（10件）
	「奈良で甦る縄文の世界－小野忠正コレクション」	12月８日～20年２月11日	12件（０件）
	「古代の祭祀遺物」	20年１月16日～３月16日	３件（０件）
	「涅槃」	20年２月14日～３月16日	13件（８件）

⑵　特別展・共催展等

展覧会名：特別展「神仏習合－〈かみ〉と〈ほとけ〉が織りなす信仰と美－」

会　　期：４月７日～５月27日

入場者数：４万493人（目標入場者数３万人・達成率134.9％）

陳列件数（うち指定品数）：205件（109件）

講 演 会：４回　　参加者数合計　777人

公開講座

期日	講座名	講師（所属）	参加者数
４月21日	「神仏習合の論理と造像－インド・中国から日本へ」	稲本泰生（学芸課企画室長）	230人
４月28日	「本地垂迹の美術」	谷口耕生（学芸課研究員）	165人
５月12日	「黎明期の神像」	伊東史朗 （元文化庁主任文化財研調査官）	195人
５月19日	「中世神道と神道灌頂」	伊藤聡（茨城大学教授）	187人

サンデートーク

期日	テーマ	講師（所属）	参加者数
４月15日	「奈良時代の神仏習合」	野尻忠（学芸課研究員）	159人
５月20日	「聖地に宿る神仏」	清水健（学芸課研究員）	119人

広報媒体：テレビ、ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告等

展覧会名：特別展「美麗－院政期の絵画」

会　　期：９月１日～９月30日

入場者数：２万2,696人（目標入場者数１万人・達成率226.9％）

陳列件数（うち指定品数）：125件（106件）

講 演 会：３回　　参加者数合計　363人

公開講座

期日	講座名	講師（所属）	参加者数
９月１日	「院政期､その美意識」	濱田隆（元奈良国立博物館館長）	112人
９月15日	「院政期の絵画 －色とかたち」	梶谷亮治（学芸課長）	126人
９月29日	「院政期の料紙装飾と文字の荘厳」	松原茂（東京国立博物館上席研究員）	125人

サンデートーク

期日	テーマ	講師（所属）	参加者数
９月16日	「院政期の絵画入門」	北澤菜月（学芸課研究員）	59人

広報媒体：テレビ、ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより等

展覧会名：特別展「第59回正倉院展」

会　　期：10月27日～11月12日

入場者数：24万8,389人（目標入場者数18万人・達成率137.9％）

陳列件数：70件

講 演 会：３回　　参加者数合計　385人

公開講座

期日	講座名	講師（所属）	参加者数
10月27日	「正倉院の文房四宝」	角井博（渋谷区立松濤美術館館長）	106人
11月３日	「正倉院事務所の仕事－受け継いできたもの、そして今」	杉本一樹 （宮内庁正倉院事務所保存課長）	167人
11月10日	「シルクロードを駆け抜けた動物たち －正倉院宝物の動物文様」	吉澤悟（学芸課資料室長）	112人

広報媒体：ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

⑴　平常展

①　開館日数：314日　平常展のみの開館日数：104日
　　陳列件数：2,012件（うち国宝10件、重要文化財49件）

②　陳列替回数：375回

	名称	会期	陳列件数 （うち指定品件数）
特別陳列	王塚古墳と北部九州の王たち	６月20日～20年３月31日	12件（５件）
	新指定重要文化財　笹塚古墳出土品と双六古墳出土品	７月２日～10月９日	12件（６件）
	第２回　東アジア紙文化財保存修理シンポジウム記念－文化をつたえる紙の路－	８月20日～10月８日	17件（９件）
	釈迦誕生図―受け継がれる朝鮮仏画の名品―	10月10日～11月８日	18件
	朝鮮通信使―江戸時代の平和外交―	11月20日～20年１月６日	14件（２件）

⑵　特別展・共催展等

展覧会名：特別展「未来への贈り物 中国泰山石経と浄土教美術」

会　　期：４月10日～６月10日

入場者数：7万7,380人（目標入場者数10万人・達成率77.4％）

陳列件数（うち指定品数）：118件（65件）

講 演 会：１回　　参加者数合計　80人

記念講演会等

期日	講座名	講師（所属）	参加者数
５月12日	記念講演会「安道壹（あんどういつ）と摩崖（まがい）石刻経」	立正大学大学院講師・本納寺住職 桐谷征一氏	80人
５月19日	天台宗開宗1200年記念 天台声明公演	天台宗務庁教学部長　水尾寂芳氏 比叡山延暦寺法儀音律研究部 九州西教区聲明研究会	300人
６月２日	伎楽公演「三蔵法師求法の旅」	天理大学教授　佐藤浩司氏 天理大学雅楽部　拓本家　井上拓歩氏	300人
５月12日	観覧ツアー 「井上拓歩が語る中国石経の旅」	九州国立博物館研究員 松川博一	

広報媒体：ポスター、ちらし、新聞広告、テレビ、ラジオ等

展覧会名：特別展「日本のやきもの 選び抜かれた名宝120点」

会　　期：７月７日～８月26日

入場者数：５万986人（目標入場者数５万人・達成率102％）

陳列件数：138件（25件）

講 演 会：２回　　参加者数合計　　380人

記念講演会

期日	講座名	講師（所属）	参加者数
７月22日	桃山の茶陶	東京国立博物館名誉館員 林屋晴三	230人
８月４日	華やかな江戸の陶磁	九州国立博物館企画課長 伊藤嘉章	150人

広報媒体：ポスター、ちらし、新聞広告、テレビ、ラジオ等

展覧会名：特別展「親鸞聖人750回大遠忌記念 本願寺展－親鸞と仏教伝来の道」

会　　期：９月22日～11月18日

入場者数：19万7,697人（目標入場者数15万人・達成率131.8％）

陳列件数：132件（うち国宝４件、重要文化財24件）

講 演 会：２回　　参加者数合計　880人

記念講演会

期日	講座名	講師（所属）	参加者数
10月５日	親鸞の悲しみ	五木寛之（作家）	580人
10月21日	開催記念シンポジウム「シルクロード―共存の道～大谷探検隊からのメッセージ～」	樋口隆康（京都大学名誉教授・泉屋博古館館長）、上山大峻（浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター所長）、入澤崇（龍谷大学教授）、 大津忠彦（筑紫女学園大学教授）、 掬月誓成（大谷記念館副館長）、 臺信祐爾（九州国立博物館文化財課長）	300人

広報媒体：ポスター、ちらし、新聞広告、テレビ、ラジオ等

展覧会名：特別展「足利義満六〇〇年御忌記念 京都五山 禅の文化」

会　　期：20年１月１日～２月24日

入場者数：17万1,336人（目標入場者数８万人・達成率214.2％）

陳列件数（うち指定品数）：205件（119件）

講 演 会：２回　　参加者合計　552人

記念講演会

期日	講座名	講師（所属）	参加者数
１月20日	京都五山と禅宗文化	有馬頼底（臨済宗相国寺派管長）	285人
２月３日	対談　禅文化と京都を語る	真野響子（女優）、 三輪嘉六（九州国立博物館長）	267人

広報媒体：ポスター、ちらし、新聞広告、テレビ、ラジオ等

（参考）

【平城宮跡資料館】

⑴　平常展

①　開館日数：306日　陳列件数：908件　陳列替回数：０回

②　特集陳列等　４件

	名称	会期	陳列件数 （うち指定品件数）
特別企画展	地下の正倉院展－平城宮木簡の世界	10月23日～12月16日	79件（79件）
速報展	平城宮東方官衙の調査	６月１日～７月１日	９件（０件）
	平城宮跡東院地区中枢部の調査	11月13日～12月16日	10件（０件）
速報パネル展	西大寺薬師金堂の調査	８月７日～９月14日	８件（０件）

【藤原宮跡資料室】

⑴　平常展

①　開館日数：272日　陳列件数：658件　陳列替回数：０回

②　特集陳列等　６件

	名称	会期	陳列件数 （うち指定品件数）
特別企画展	藤原京ルネッサンスの共催展	９月７日～11月25日 （会期中無休）	658件（０件）
発掘調査の速報展	甘樫丘東麓遺跡（第146次）、石神遺跡（第19次）、藤原宮大極殿院南門（第149次）の発掘調査成果、および保存処理の終了した石神遺跡（第18次）出土鋸およびレプリカの展示、藤原宮大極殿院南門出土地鎮具の速報展示	20年３月18日～４月18日	76件（０件）
特別公開	高松塚古墳壁画フルハイビジョンによる映像公開	11月１日～12月27日	－件（－件）

【飛鳥資料館】

⑴　平常展

①　開館日数：318日　陳列件数：346件　陳列替回数：０回

②　特集陳列等　０件

⑵　特別展等・共催展等

展覧会名：「キトラ古墳壁画四神玄武」

会　　期：４月20日～６月24日

入場者数：67,007人

陳列件数（うち指定品数）：20件（０件）

主 催 者：文化庁、奈良文化財研究所

講 演 会：１回

期日	講座名	講師（所属）	参加者数
５月20日	「キトラ古墳壁画四神玄武」記念講演会	白石太一郎氏（奈良大学教授） 川野邊渉氏（東京文化財研究所修復材料研究室長）	－

展覧会名：「ときを撮す　－発掘調査と写真－」

会　期：８月１日～９月２日

入場者数：3,344人

陳列件数（うち指定品数）：－件（－件）写真パネルのみ

主催者：奈良文化財研究所

展覧会名：「奇偉荘厳　山田寺」

会　期：10月19日～11月25日

入場者数：9,342人

陳列件数（うち指定品数）：50件（50件）

主催者：奈良文化財研究所

講演会：2回　　参加者数合計134人

期日	講座名	講師（所属）	参加者数
10月28日	「山田寺の発掘調査と重要文化財指定」	土肥孝氏 （文化庁主任文化財調査官）	60人
11月３日	「山田寺の建築を再考する」	鈴木嘉吉氏 （元奈良文化財研究所所長）	74人

展覧会名：「飛鳥の考古学2007」

会　　期：20年１月４日～２月３日

入場者数：1,589人

陳列件数（うち指定品数）：40件（０件）

主 催 者：奈良文化財研究所

展覧会名：「絵で見る考古学」

会　　期：20年２月９日～３月２日

入場者数：1,691人

陳列件数（うち指定品数）：30件（０件）

主 催 者：奈良文化財研究所飛鳥資料館、早川和子原画展実行委員会、大阪府立近つ飛鳥博物館、綾部市資料館、明石市立文化博物館、宮崎県立西都原考古博物館、高槻市立しろあと歴史館、横浜市歴史博物館、島根県立古代出雲歴史博物館、九州国立博物館

平成19年度　独立行政法人国立文化財機構年報
平成21年３月31日発行
編集・発行　独立行政法人国立文化財機構
〒110-8712　東京都台東区上野公園13番９号
電話（03)3822-1111（代表）
Fax　(03)3822-1113
印刷　よしみ工産株式会社
©2008.　National Institutes for Cultural Heritage,
printed in Japan